14. 環境保全対策書

東立テクノクラシー
管理型最終処分場（仮称）
整備事業に係る環境保全対策書

令和５年１月

株式会社　東立テクノクラシー

目　　次

第 1 章　産業廃棄物等関連施設の計画

1.1　施設の設置者の氏名及び住所等　1.1-1
1.2　施設特性　1.2-1
1.3　地域特性　1.3-1
1.4　調査範囲の選定　1.4-1

第 2 章　関係地域環境影響調査項目の設定

2.1　調査対象とした項目及びその理由　2-1
2.2　調査対象としなかった項目及びその理由　2-3

第 3 章　関係地域環境影響調査の結果等

3.1　大気質　3.1-1
3.2　水質
3.2.1　表流水　3.2-1
3.2.2　地下水　3.2-19
3.3　騒音　3.3-1
3.4　振動　3.4-1
3.5　悪臭　3.5-1
3.6　自然環境
3.6.1　植物　3.6-1
3.6.2　動物　3.6-25
3.6.3　生態系　3.6-104
3.7　廃棄物・発生土　3.7-1
3.8　景観　3.8-1
3.9　防災　3.9-1
3.10　交通安全　3.10-1

第 4 章　環境影響の総合的な分析

4.1　現況把握、予測、影響の分析の結果の整理　4-1
4.2　環境保全措置の整理　4-8
4.3　施設の設置に関する計画に反映した事項及びその内容　4-17
4.4　維持管理に関する計画に反映した事項及びその内容　4-19
4.5　災害防止のための計画に反映した事項及びその内容　4-20

資料編

データ集
写真集

第１章　産業廃棄物等関連施設の計画

1.1 施設の設置者の氏名及び住所等

(1)　施設の設置者の氏名及び住所等

事　　業　　者　：　株式会社　東立テクノクラシー
代　　表　　者　：　代表取締役　犬飼　健人
所　　在　　地　：　名古屋市中区千代田5-7-5
電　話　番　号　：　052-253-5356

(2)　対象事業の名称

東立テクノクラシー管理型最終処分場（仮称）

(3)　事業の種類

管理型最終処分場

1.2 施設特性

(1) 施設の目的

資源循環型社会の時代、焼却や破砕、資源化など中間処理によって、可能な限り減量化、再資源化されるが、再資源化が困難なものや不燃残渣が発生するため、埋立処分せざるをえない廃棄物はゼロにはならないことから、廃棄物を適切に埋立処分する最終処分場が必要となっている。その一端を担うべく本計画は、現在稼働している「土石の採取場」（株式会社アンドウ興業）の跡地を利用し、産業廃棄物最終処分場施設の新規設置を行うものである。施設設置位置については県中心部から東に20km、国道475号東海環状自動車道（せと赤津IC）に隣接し交通ルートの確保も容易となっている。また、地元雇用も積極的に行うことにより地域経済の発展に貢献し、地域と共に成長していくことを目的に本事業を計画するものである。

(2) 施設が設置される事業用地の位置

場　　所：愛知県瀬戸市山路町49番地2外

事業実施面積：A＝13.29ha

埋 立 面 積 ：A＝6.43ha

受入れ廃棄物：［産業廃棄物］

燃え殻，汚泥，廃プラスチック類，紙くず，木くず，繊維くず，動植物性残さ，ゴムくず，金属くず，ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず，鉱さい，がれき類，ばいじん，政令第２条第１３号廃棄物（これらの内、自動車等破砕物，石綿含有産業廃棄物，水銀使用製品産業廃棄物，水銀含有ばいじん等を含む）　以上１４種類

［特別管理産業廃棄物］

廃石綿等　以上１種類

処理能力（埋立容量）：V＝1,463,400m^3

施設の稼働時間：8時間

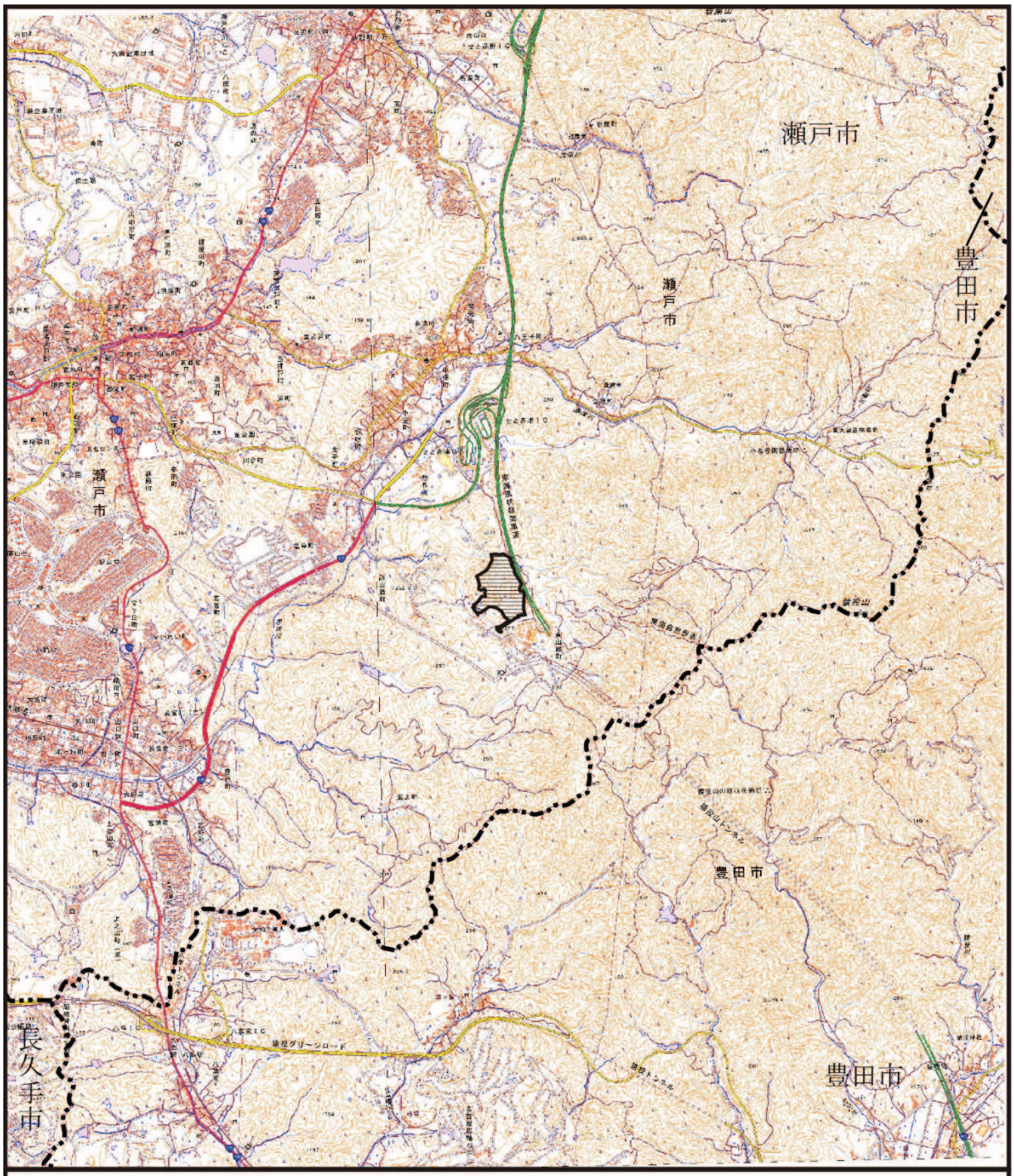
建設工事（予定）：令和6年1月

埋立開始（予定）：令和8年1月

埋立期間（予定）：15年

表 1.2-1　土地利用面積

区分	面積(ha)	割合(%)
処分場	6.43	48.38
建物・道路・裸地等	1.18	8.88
造成緑地	2.30	17.31
残置森林	2.98	22.42
浸出液調整施設・管理棟	0.22	1.66
防災調整池	0.18	1.35
計	13.29	100.00



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

図1.2-1　対象事業実施区域の位置

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

現況（開発前）



凡　例

記号	区　分
	事業実施区域
	残置森林
	造成緑地

図 1.2-2（１）　土地利用計画図（現況）

地　名	愛知県瀬戸市山路町　地内
件　名	最終処分場基本設計業務
図面名称	土地利用計画平面図（開発前）
作成年月日	令和　年　月　日
図面番号	
縮　尺	1：1000
株式会社　東立テクノクラシー	

計画（開発後）

浸出水処理施設

浸出水調整槽

防災調整池

処分場

凡　例

記号	区　分
	事業実施区域
	開発区域
	処分場
	浸出水処理施設
	浸出水調整槽
	防災調整池
	残置森林
	造成緑地
	道路・裸地等

地　名	愛知県瀬戸市山路町　地内
件　名	最終処分場基本設計業務
図面名称	土地利用計画平面図（開発後）
作成年月日	令和　年　月　日
図面番号	
縮　尺	1：1000
株式会社　東立テクノクラシー	

図 1.2-2（2）　土地利用計画図（計画）

(4) 施設設計の基本方針

廃棄物最終処分場の建設にあたっては、周囲の土地利用や自然環境との調和を図り、公害・災害対策などに万全を期すことを基本とする。

以下に設計上の基本方針を示す。

① 新規処分場の構造は、管理型処分場の準好気性埋立構造。

② 埋立地は、オープン構造とし、遮水工敷設型式。

③ 埋立地の造成～遮水工工事は、一括工事とする。ただし、埋立作業時には区画埋立を行う計画とする。

④ 造成時の掘削土は、盛土材として使用する。その他の掘削土残土は、場外残土処分を行う。それに伴い埋立時に使用する覆土等の購入も発生する。

⑤ 切土工の法勾配については「道路土工 切土工・斜面安定工指針」平成21年度版（社団法人日本道路協会）より一番緩い勾配の「1：1.5」を採用する。埋立処分場内部は、切土・盛土供に「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」2010改訂版（社団法人 全国都市清掃会議）より、埋立面の法面勾配は「1：2.0」とし貯留堰堤外部は農林水産省 フィルダムの設計基準に準拠して、次ページ寸法表の後法勾配の摘要にて 1：1.5 ～ 1：2.5 となっていることから、平均値の「1：2.0」を採用する。

⑥ 処分場形式は、谷沢型とし、貯留構造物タイプは堰止めタイプの盛土形式に準拠して設計を行っている。

⑦ 法面安定計算は、縦断方向(堤体・下流側埋立法面)、縦断方向(上流側埋立法面)、埋立法面最大断面の３断面について検討を行い、安全を確認した。

⑧ 地下水集排水管は、遮水シート下に設置する。

⑨ 遮水工は、表面遮水工を採用し、二重構造として計画している。遮水材は、合成ゴム系または合成樹脂系シートを採用する。

⑩ 雨水排水計画は、「林地開発許可申請にあたって」（愛知県森林保全課）に従って設計を行っている。

⑪ 浸出水集排水管は、「分枝形」の配置計画とする。幹線口径は、1/2 水深となるように計画し枝線の配置間隔は 20ｍピッチとする。
竪型配管及び法面配管は、2000m^2当り 1 箇所以上とする。

⑫ 浸出水処理施設は、処理水量 250m^3/日、調整水槽必要容量は V=8,100m^3とする。

⑬ ガス処理施設は、浸出水集排水管を兼用する。

⑭ 地下水観測井戸（モニタリング）については上流 1 箇、下流 1 箇所の設置を行なっている。

⑮ 車両洗車は、搬入車両、重機が埋立地から出る場合、埋立地内の洗車施設（可搬式高圧洗浄）において洗車を行う。洗車スペースから搬入路までは敷鉄板等を設置し廃棄物の付着を防止する。

⑯ 関連施設計画は、次の通りとする。

・搬入道路の道路幅員は、対面通行を前提とし全幅 B=7.0ｍとして計画する。場内の走行速度は、徐行（20km/h 以下）とし最大縦断勾配を i=10％以下として計画する。

・飛散防止施設は、埋立地外周に H=1.8ｍのネットフェンスを設置する。

・立札は、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術的基準定め

る省令」(環境省)の維持管理基準に従って設置する。

・門扉工は、現況施設の門扉工を兼用する計画とする。

・囲障設備は、特に設けない計画とする。埋立地については飛散防止工兼用とする。

・防火設備の防火水槽については、今回計画する防災調整池を利用する。

・搬入管理施設(トラックスケール)は新設とする。

・防災調整池は、「林地開発許可申請にあたって」(愛知県森林保全課)に従って設置する。

⑰ 敷地境界・既設道路から敷地への進入路計画は一部既存施設管理道路を利用し搬入を行う。

(5) 埋立方法の概要

埋立作業は、2区画に分ける計画とする。

搬入車両台数は、55台/日を予定している。搬入車両の走行ルートは図1.2-3に示すとおりである。

1) 埋立順序

埋立順序は、2区画を下流側（北側）より順番に埋立を行う。各区画の押え盛土を1段施工し、押え盛土の高さまで廃棄物埋立を行う。埋立完了後、搬入道路を構築しながら次の押え盛土の施工を行い、廃棄物埋立を行う。これを区画ごとに天端まで埋立を行い1区画埋立が完了後、埋立完了面にキャッピングを行い、2区画の埋立を行う。

2区画全ての埋立が完了後にキャッピングを撤去する。

2) 埋立方式

埋立方式は、埋立地面積が比較的狭いので、サンドイッチ方式を前提とする。

3) 覆　土

覆土は、廃棄物の飛散や流出防止、悪臭の発生防止などの目的から実施する。

覆土には、その目的から下記の３種に分類される。

① 即日覆土：一日の埋立作業が終了したときに実施する。

② 中間覆土：運搬車両の走路確保や長期間放置される埋立部分の雨水排除を目的として実施する。（厚さ50cm、概ね3.0m間隔とする）

③ 最終覆土：廃棄物の埋立が完了した時点で、浸出水量の削減、跡地利用、景観の向上等を目的として最上層に実施する。（厚さ50cm）

埋立用重機は表1.2-2に示すとおりである。

表 1.2-2　埋立用重機の種類及び台数

重機	定格出力 (kW)	排出ガス対策型の基準	稼働台数 (台/日)
バックホウ0.2m^{3}級	41	第2次基準値	1
バックホウ0.60m^{3}級	104	第2次基準値	3
トラッシュコンパクタ (ブルドーザ21t級相当)	152	第2次基準値	1

備考　定格出力は、「令和3年度版　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）に基づき設定した。


瀬戸市
主要地方道瀬戸設楽線
バス停（万徳寺前）
国道248号
せと赤津ＩＣ
東海環状自動車道
東海自然歩道
豊田市
凡　例
：市町村界
：対象事業実施区域
：高架（走行ルートは高架下の道路である。）
：工事車両及び廃棄物運搬車両
の主要走行ルート
N
1:25,000
0　250　500　1,000 m

図1.2-3　走行ルート

(6) 水処理計画

浸出水処理水については、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和52年総理府・厚生省令第1号)の排水基準のほか、表1.2-3に示すとおり、より厳しい自主規制基準値とする。

表 1.2-3　水処理計画

項目	自主規制基準値(mg/L)
BOD	20 mg/L
COD	25 mg/L
SS	30 mg/L
T-N	15 mg/L
ダイオキシン類	8pg-TEQ/L

(7) 工事計画の概要

工事の工程表は表1.2-4に示すとおりである。

工事用車両台数は、場内造成工時の「場外搬出日最大のべ300往復」より、11tダンプ150台/日が日最大となる。工事車両の走行ルートは図1.2-3に示すとおりである。

表 1.2-4　工事工程表

	工　種	令和6年												令和7年												備　考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
処分場建設工事	仮設道路																									
	防災調整池設置工																									
	場内造成工（切土・盛土・法面整形）																									
	残土搬出工																									場外搬出
	地下水処理工																									地山及び遮水工下面排水
	遮水工																									
	雨水排水工																									外周水路工
	場内搬入道路工																									場内造成と同時に施工
	浸出水集水工																									集水ピット含む
	発生ガス対策工																									浸出水集水工に接続設置
	付帯設備工（飛散防止、囲障）																									
	浸出水調整槽																									
	浸出水処理施設（土木水槽工事）																									
	浸出水処理施設（建築工事）																									
	浸出水処理施設（機械工事）																									試運転含む
	浸出水処理施設（電気工事）																									試運転含む
	モニタリング工																									上下流モニタリング井戸の設置
建設機械	濁水処理設備																									
	0.35㎥バックホウ																									3台
	0.6㎥バックホウ																									5台
	21tブルドーザー																									2台
	15tブルドーザー																									2台
	11tダンプ																									場内6台：場外搬出日最大のべ300往復
	4.9tトラッククレーン																									1台
	コンクリートミキサー																									最大50台／日

1.3 地域特性

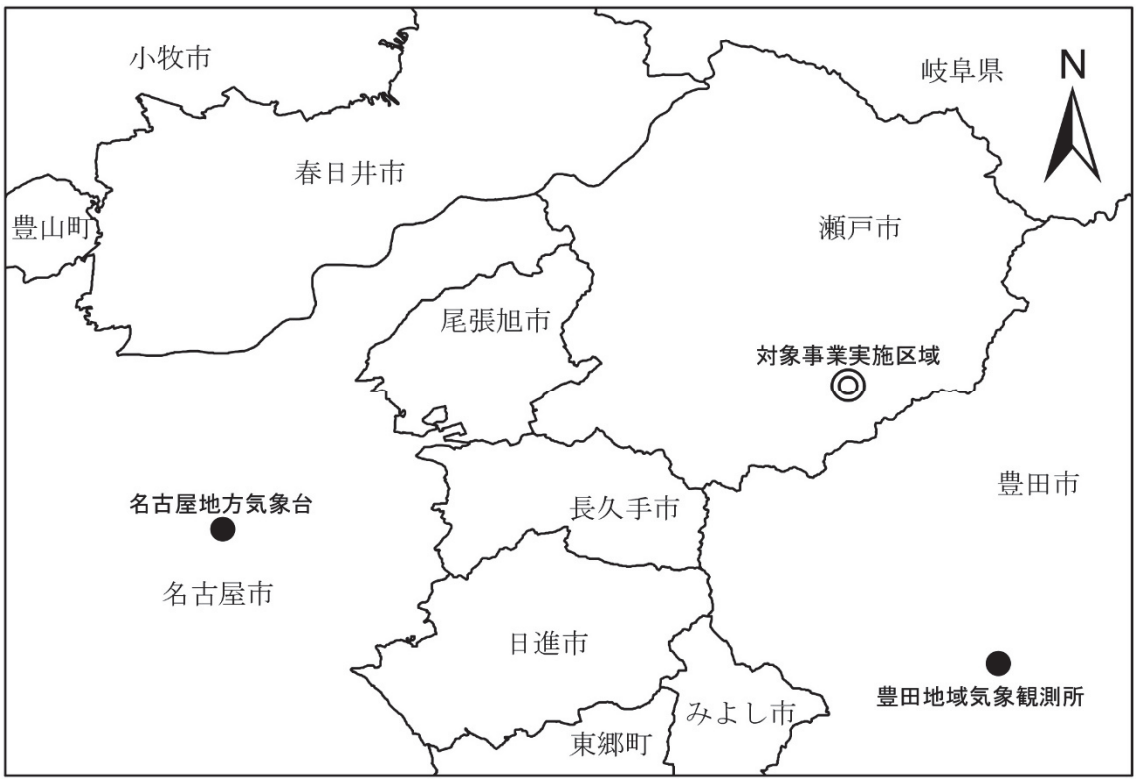
1.3.1 自然的状況

1.3.1.1 気象・大気質その他の大気に係る環境の状況

1.3.1.1.1 気象

「市の紹介」（令和3年4月閲覧、瀬戸市ホームページ）によると、事業実施区域が位置する瀬戸市は、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約20kmに位置し、周囲を標高100m～300mの小高い山々に囲まれ気候も温暖である。

事業実施区域周辺の気象観測所として、「名古屋地方気象台」と「豊田地域気象観測所」を選定した。位置は図1.3.1-1に、気象の概況は、表1.3.1-1及び表1.3.1-2に示すとおりである。



出典：「地域気象観測所一覧」（令和3年10月5日現在、気象庁）

図1.3.1-1　気象観測地点

表1.3.1-1　気象の概況(平成23年～令和2年)

名古屋地方気象台(名古屋市千草区日和町)							
項目 / 月	気温 平均			降水量 (mm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/秒)	最多風向 (16方位)
	平均	最高	最低				
1月	4.8	9.4	1.1	44.1	185.1	3.2	北北西
2月	5.7	10.6	1.7	70.0	173.9	3.4	北北西
3月	9.6	15.1	5.0	115.4	210.3	3.5	北北西
4月	14.6	20.1	9.9	146.3	203.9	3.4	北北西
5月	20.0	25.5	15.3	144.6	232.7	3.2	北北西
6月	23.2	27.9	19.6	173.5	160.4	2.9	南南東
7月	27.2	31.7	23.9	228.3	167.3	2.9	南南東
8月	28.7	33.7	25.2	155.7	207.7	2.9	南南東
9月	24.7	29.3	21.2	240.0	162.5	2.9	北北西
10月	19.0	23.6	15.3	201.5	172.2	2.9	北北西
11月	13.0	17.6	9.0	66.9	171.7	2.7	北北西
12月	7.1	11.5	3.5	61.5	168.9	3.0	北北西
年間※	16.5	21.3	12.6	1,647.5	2,216.6	3.1	北北西

豊田地域気象観測所(豊田市高町東山)							
項目 / 月	気温 平均			降水量 (mm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/秒)	最多風向 (16方位)
	平均	最高	最低				
1月	3.6	9.0	-1.2	45.2	181.3	1.4	北東
2月	4.8	10.4	-0.4	71.1	170.7	1.5	北東
3月	8.8	14.7	3.0	119.7	206.3	1.6	北東
4月	13.8	19.9	7.8	134.4	200.2	1.7	北東
5月	19.1	25.7	13.1	133.2	227.2	1.6	北東
6月	22.5	28.0	18.0	157.9	153.2	1.4	北東
7月	26.6	31.8	22.6	199.0	171.3	1.4	北東
8月	27.9	33.8	23.6	150.7	209.1	1.5	北東
9月	23.9	29.4	19.6	205.0	160.9	1.4	北東
10月	18.1	23.7	13.4	177.6	169.2	1.3	北東
11月	11.8	17.5	6.8	70.6	170.2	1.3	北東
12月	6.0	11.4	1.3	55.1	166.5	1.3	北東
年間※	15.6	21.3	10.6	1,519.2	2,185.9	1.4	北東

※年間における各項目は以下のとおり。
気温：月平均気温、月平均最高(低)気温の10年間における平均値
降水量：年間降水量の10年間平均値　日照時間:年間日照時間の10年間平均値
平均風速：月平均風速の10年間における平均値　最多風向:風向(毎時)の10年間における最多風向
出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

表1.3.1-2　気象の概況(令和2年)

名古屋地方気象台(名古屋市千草区日和町)							
項目 / 月	気温 平均			降水量 (mm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/秒)	最多風向 (16方位)
	平均	最高	最低				
1月	7.6	11.8	4.1	55.5	146.6	3.1	北西
2月	7.1	11.8	3.1	53.5	184.2	3.2	北北西
3月	10.7	15.9	6.4	149.5	201.1	3.3	北北西
4月	13.4	19.0	8.6	111.0	254.9	3.8	北西
5月	20.6	25.7	16.1	135.0	213.6	2.9	北北西
6月	24.6	29.3	21.1	230.0	164.2	2.8	南南東
7月	25.4	29.1	22.9	405.5	78.2	3.0	南南東
8月	30.3	35.9	26.5	13.0	265.5	2.9	南南東
9月	25.4	30.0	22.2	230.5	148.5	2.9	北北西
10月	18.0	22.5	14.5	269.0	178.2	2.8	北北西
11月	14.0	18.9	9.8	36.5	202.5	2.8	北北西
12月	7.4	12.0	3.6	22.0	178.3	2.8	西北西
年間	17.0	21.8	13.2	1,711.0	2,215.8	3.0	北北西

豊田地域気象観測所(豊田市高町東山)							
項目 / 月	気温 平均			降水量 (mm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/秒)	最多風向 (16 方位)
	平均	最高	最低				
1月	6.4	11.6	1.8	54.0	139.4	1.2	北東
2月	6.0	11.7	0.7	62.0	174.8	1.4	北東
3月	9.8	15.6	4.2	162.5	201.3	1.5	北東
4月	12.4	18.8	6.0	121.5	255.2	1.7	北東
5月	19.6	26.1	13.9	97.5	208.7	1.5	北東
6月	23.9	29.5	19.4	217.5	161.2	1.3	北東
7月	25.1	29.5	22.1	414.5	73.1	1.2	北東
8月	29.2	36.1	24.1	41.5	268.5	1.4	北東
9月	24.6	30.2	20.8	202.5	145.2	1.4	北東
10月	16.8	22.6	12.2	253.5	174.5	1.2	北東
11月	12.7	19.0	7.0	53.5	207.0	1.3	北東
12月	5.8	11.8	1.0	15.5	173.6	1.3	北東
年間	16.0	21.9	11.1	1,696.0	2,182.5	1.4	北東

出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

(1) 気温

平成23年～令和2年の10年間及び令和2年における月別平均気温は、図1.3.1-2に示すとおりである。

平成23年～令和2年の10年間における名古屋地方気象台の年間平均気温は16.5℃であり、月別平均気温は、8月が28.7℃で最も高く、1月が4.8℃で最も低い。また、豊田地域気象観測所の年間平均気温は15.6℃であり、月別平均気温は、8月が27.9℃で最も高く、1月が3.6℃で最も低い。

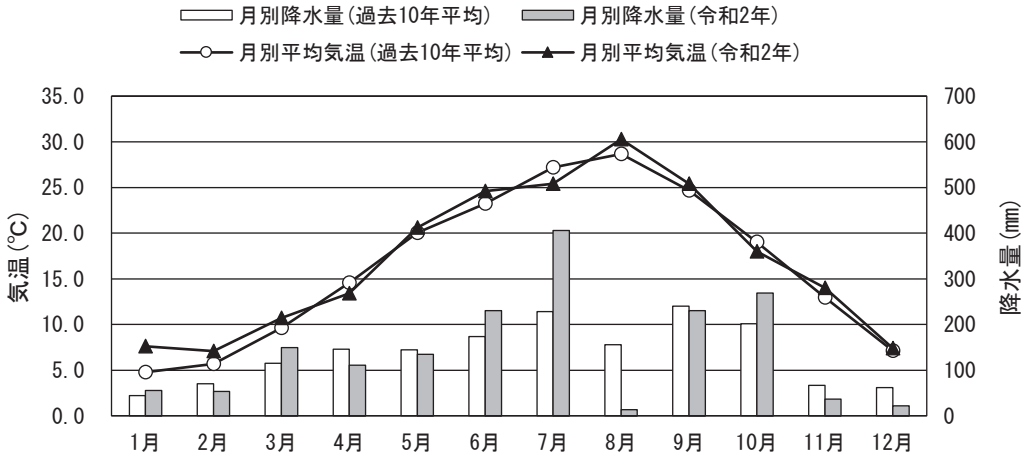
令和2年における名古屋地方気象台の年間平均気温は17.0℃であり、月別平均気温は、8月が30.3℃で最も高く、2月が7.1℃で最も低い。また、豊田地域気象観測所の年間平均気温は16.0℃であり、月別平均気温は、8月が29.2℃で最も高く、12月が5.8℃で最も低い。

(2) 降水量

平成23年～令和2年の10年間及び令和2年における月別降水量は、図1.3.1-2に示すとおりである。

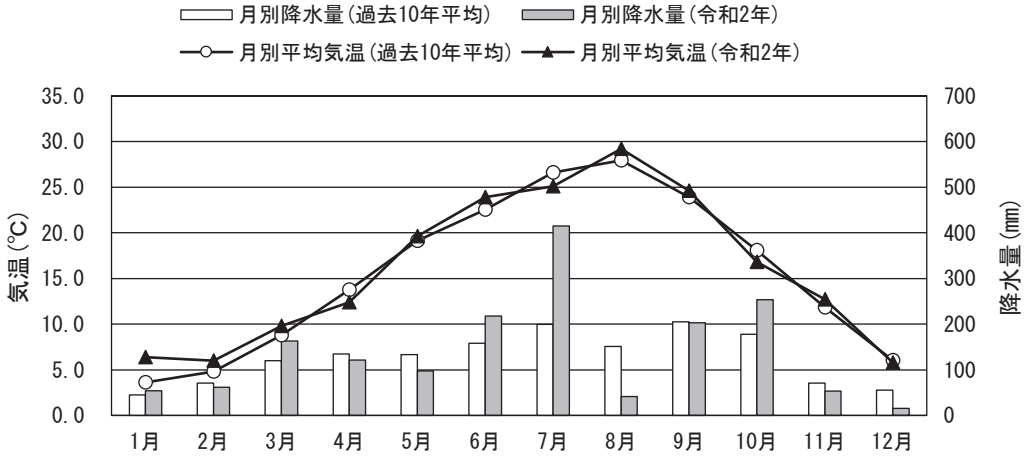
平成23年～令和2年の10年間における名古屋地方気象台の年間平均降水量は1,647.5㎜であり、月別降水量は、9月が240.0㎜で最も多く、1月が44.1㎜で最も少ない。また、豊田地域気象観測所の年間平均降水量は1,519.2㎜であり、月別降水量は、9月が205.0㎜で最も多く、1月が45.2㎜で最も少ない。

令和2年における名古屋地方気象台の年間降水量は1,711.0㎜であり、月別降水量は、7月が405.5㎜で最も多く、12月が22.0㎜で最も少ない。また、豊田地域気象観測所の年間降水量は1,696.0㎜であり、月別降水量は、7月が414.5㎜で最も多く、12月が15.5㎜で最も少ない。



出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

図1.3.1-2(1)　名古屋地方気象台における月別平均気温及び降水量



出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

図1.3.1-2(2)　豊田地域気象観測所における月別平均気温及び降水量

(3) 風向・風速

平成23年～令和2年の10年間及び令和2年における名古屋地方気象台及び豊田地域気象観測所の風向別出現頻度及び平均風速は、表1.3.1-3及び図1.3.1-3に示すとおりである。

平成23年～令和2年の10年間における卓越風向は、名古屋地方気象台が北北西（NNW）、豊田地域気象観測所が北東（NE）であり、10年間の平均風速は、名古屋地方気象台が3.1m/s、豊田地域気象観測所が1.4m/sである。

令和2年における卓越風向は、名古屋地方気象台が北北西（NNW）、豊田地域気象観測所が北東（NE）であり、年間の平均風速は、名古屋地方気象台が3.0m/s、豊田地域気象観測所が1.4m/sである。

表1.3.1-3(1)　風向・風速及び出現頻度(平成23年～令和2年の10年間)

風向	名古屋地方気象台		豊田地域気象観測所	
	出現頻度(%)	平均風速(m/s)	出現頻度(%)	平均風速(m/s)
N	12.2	2.4	3.6	0.8
NNE	4.7	1.8	8.9	1.0
NE	2.9	1.5	22.9	1.5
ENE	2.7	1.6	7.0	1.3
E	1.6	1.4	2.5	1.3
ESE	2.2	1.8	2.2	1.6
SE	6.5	3.0	1.5	1.4
SSE	8.5	3.6	1.9	1.4
S	5.0	3.3	2.8	1.6
SSW	2.9	2.9	5.5	1.8
SW	2.1	2.7	5.2	1.8
WSW	1.6	2.4	5.6	1.8
W	2.3	3.0	6.4	1.9
WNW	10.1	4.3	9.2	1.7
NW	15.1	4.0	6.9	1.6
NNW	19.4	3.1	3.8	1.3
Calm	0.2	-	4.0	-
年間	-	3.1	-	1.4

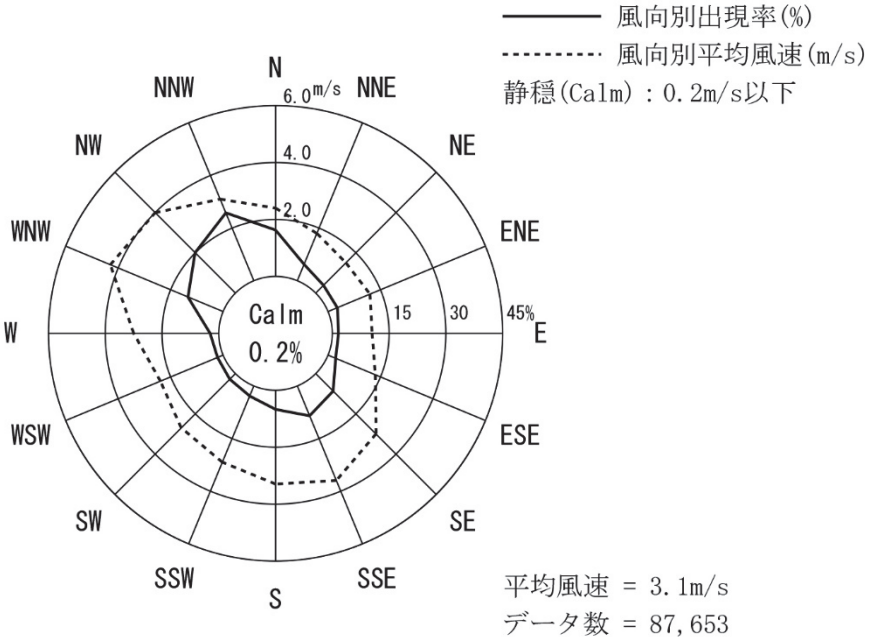
注)「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）を基に作成。

表1.3.1-3(2)　風向・風速及び出現頻度(令和2年)

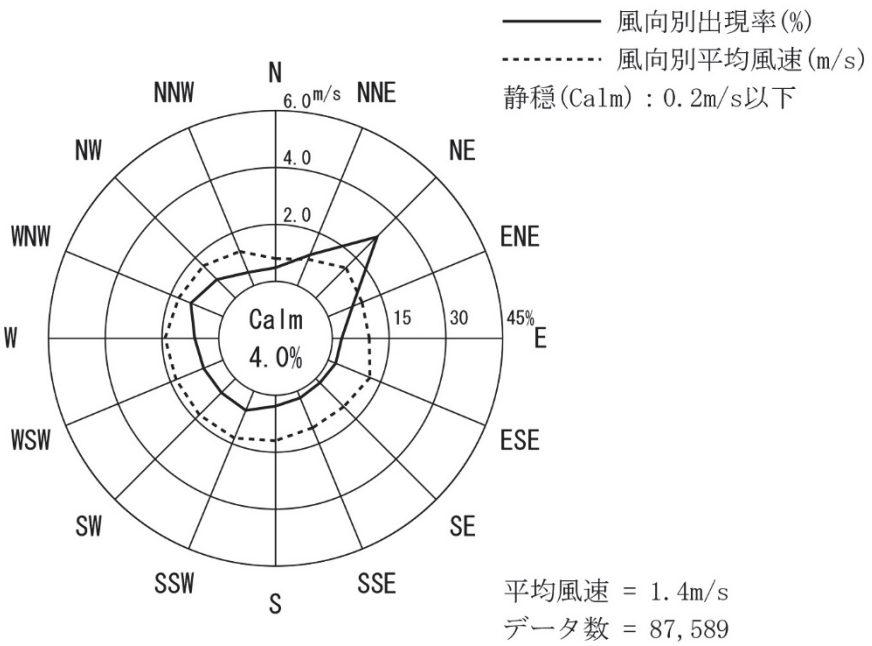
風向	名古屋地方気象台		豊田地域気象観測所	
	出現頻度(%)	平均風速(m/s)	出現頻度(%)	平均風速(m/s)
N	12.7	2.3	3.3	0.7
NNE	4.7	1.7	8.4	0.9
NE	2.7	1.6	23.5	1.4
ENE	2.9	1.6	7.5	1.3
E	1.6	1.3	2.5	1.2
ESE	2.0	1.9	2.2	1.4
SE	6.2	2.8	1.5	1.3
SSE	8.8	3.5	2.2	1.3
S	4.4	3.3	2.7	1.5
SSW	2.4	2.8	4.9	1.8
SW	2.5	2.8	4.9	1.8
WSW	1.8	2.5	5.4	1.8
W	2.0	3.1	5.9	1.9
WNW	9.8	4.1	9.0	1.6
NW	15.4	3.9	7.1	1.6
NNW	19.9	3.1	4.0	1.2
Calm	0.2	-	5.0	-
年間	-	3.0	-	1.4

注)「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）を基に作成。

名古屋地方気象台



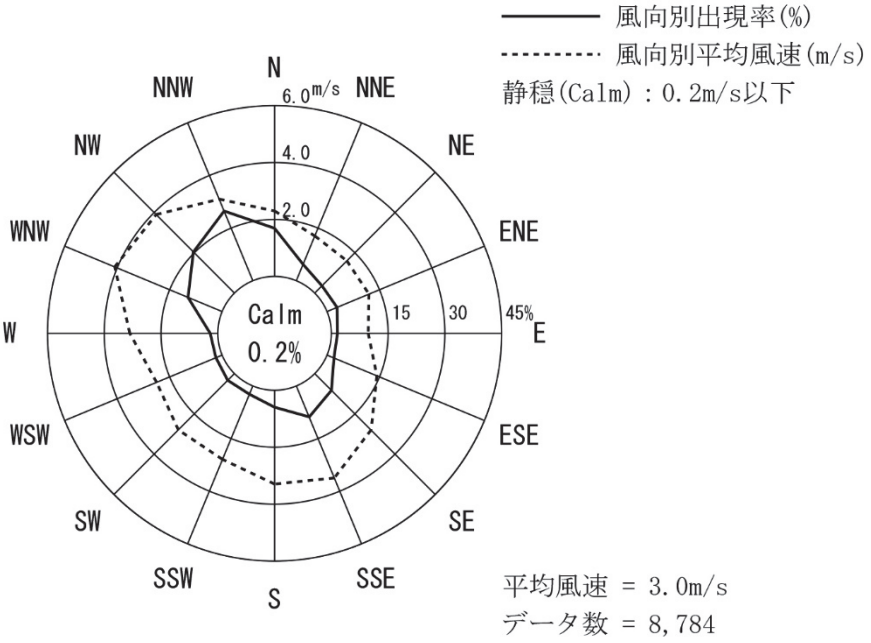
豊田地域気象観測所



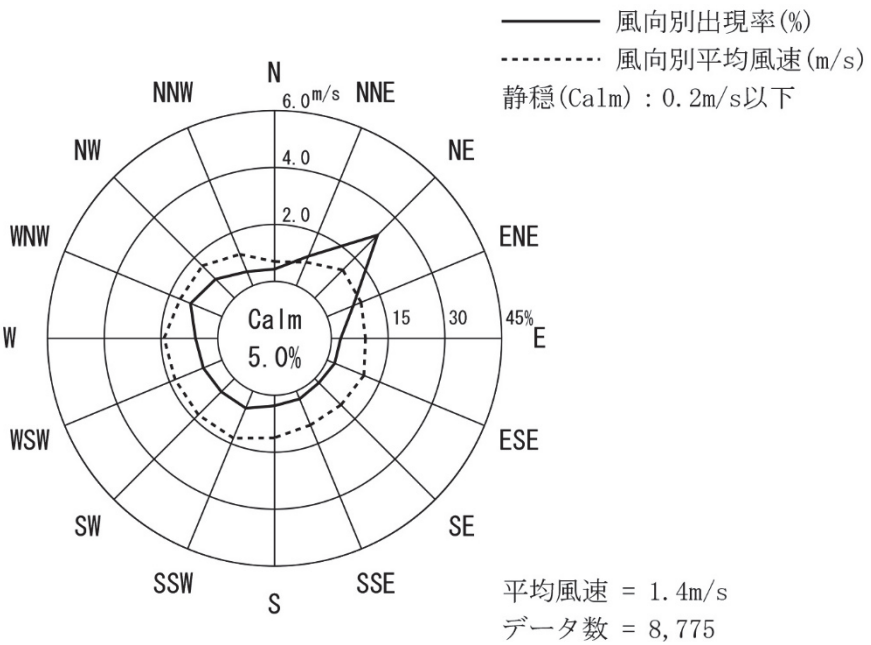
注）「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）を基に作成。

図1.3.1-3(1)　風向・風速及び出現頻度(平成23年～令和2年の10年間)

名古屋地方気象台



豊田地域気象観測所



注）「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）を基に作成。

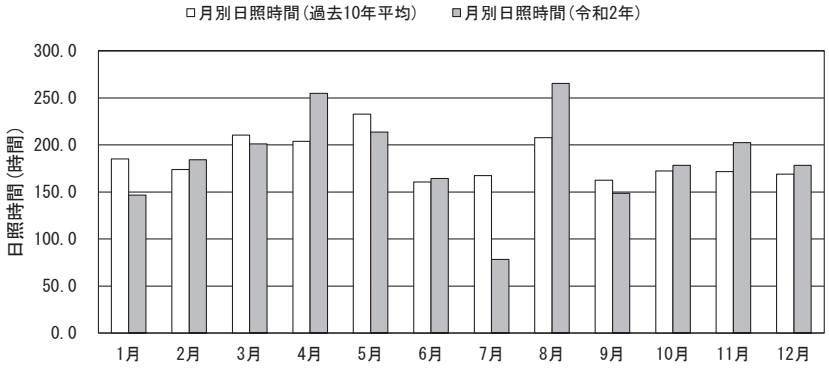
図1.3.1-3(2)　風向・風速及び出現頻度(令和2年)

(4) 日照時間

平成23年～令和2年の10年間及び令和2年における月別日照時間は、図1.3.1-4に示すとおりである。

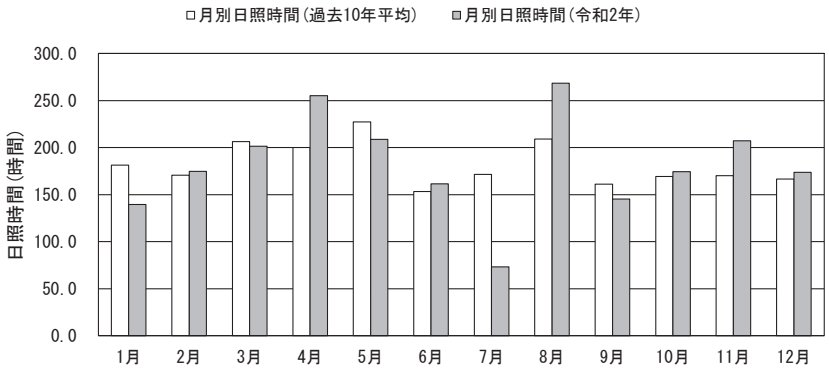
平成23年～令和2年の10年間における名古屋地方気象台の年間平均日照時間は2,216.6時間であり、月別平均日照時間は、5月が232.7時間で最も長く、6月が160.4時間で最も短い。また、豊田地域気象観測所の年間平均日照時間は2,185.9時間であり、月別平均日照時間は、5月が227.2時間で最も長く、6月が153.2時間で最も短い。

令和2年における名古屋地方気象台の年間日照時間は2,215.8時間であり、月別日照時間は、8月が265.5時間で最も長く、7月が78.2時間で最も短い。また、豊田地域気象観測所の年間日照時間は2,182.5時間であり、月別日照時間は、8月が268.5時間で最も長く、7月が73.1時間で最も短い。



出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

図1.3.1-4(1)　名古屋地方気象台における月別日照時間



出典：「過去の気象データ検索」（令和3年4月閲覧、気象庁ホームページ）

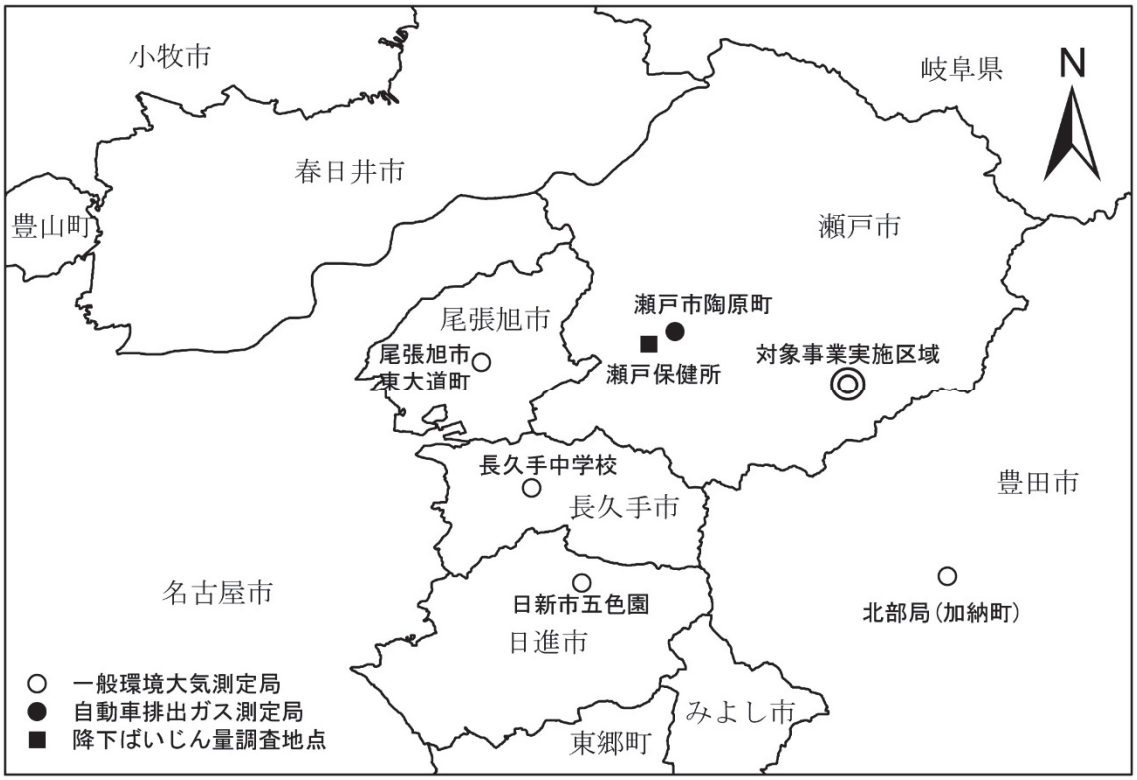
図1.3.1-4(2)　豊田地域気象観測所における月別日照時間

1.3.1.1.2 大気質

事業実施区域周辺の一般環境大気測定局として「北部局(加納町)」、「尾張旭市東大道町」、「日進市五色園」及び「長久手中学校」、自動車排出ガス測定局として「瀬戸市陶原町」、降下ばいじん量調査地点として「瀬戸保健所」を選定した。位置は図1.3.1-5に示すとおりである。

令和2年度における、各測定局の測定項目等は、表1.3.1-4に示すとおりである。

なお、調査範囲においてダイオキシン類調査は実施されていない。



出典：「2019年（令和元年度）　大気汚染調査報告　第58報」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-5　大気汚染常時監視測定局の位置

表1.3.1-4　各測定局における測定項目(令和2年度)

No.	局種別	測定局名称	市町村名	用途地域※	測定項目						
					二酸化硫黄	窒素酸化物	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	微小粒子状物質	炭化水素
1	一般環境大気測定局	北部局(加納町)	豊田市	指定なし		○		○	○	○	○
2		尾張旭市東大道町	尾張旭市	第一種中高層住居専用地域	○	○		○	○	○	
3		日進市五色園	日進市	指定なし	○	○		○	○		
4		長久手中学校	長久手市	第一種住居地域		○		○	○	○	
5	自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	瀬戸市	商業地域		○		○	○	○	○

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

※　用途地域は、以下を参照した。
「-豊田市地図情報サービス-」（令和3年4月閲覧、とよたiマップホームページ）
「尾張旭市都市計画図」（令和3年12月閲覧、尾張旭市ホームページ）
「用途地域図」（令和3年12月閲覧、日進市ホームページ）
「長久手市都市計画情報」（令和3年12月閲覧、長久手市ホームページ）
「瀬戸市都市計画情報」（令和3年4月閲覧、瀬戸市ホームページ）

(1) 二酸化硫黄（SO_2）

令和2年度における測定結果は、表1.3.1-5に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）の経年変化は、表1.3.1-6及び図1.3.1-6に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、環境基準（短期的評価及び長期的評価）を達成している。

また、年平均値及び日平均値の2%除外値の経年変化は、いずれも横ばいで推移している。

表1.3.1-5　二酸化硫黄測定結果（令和2年度）

局種別	測定局名称	年平均値	短期的評価		長期的評価		環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数
			1時間値が0.1ppmを越えた時間数とその割合	日平均値が0.04ppmを越えた日数とその割合	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	
		ppm	時間(%)	日(%)	ppm	有×・無○	日
一般環境大気測定局	尾張旭市東大道町	0.001	0(0.0)	0(0.0)	0.001	○	0
	日進市五色園	0.001	0(0.0)	0(0.0)	0.001	○	0

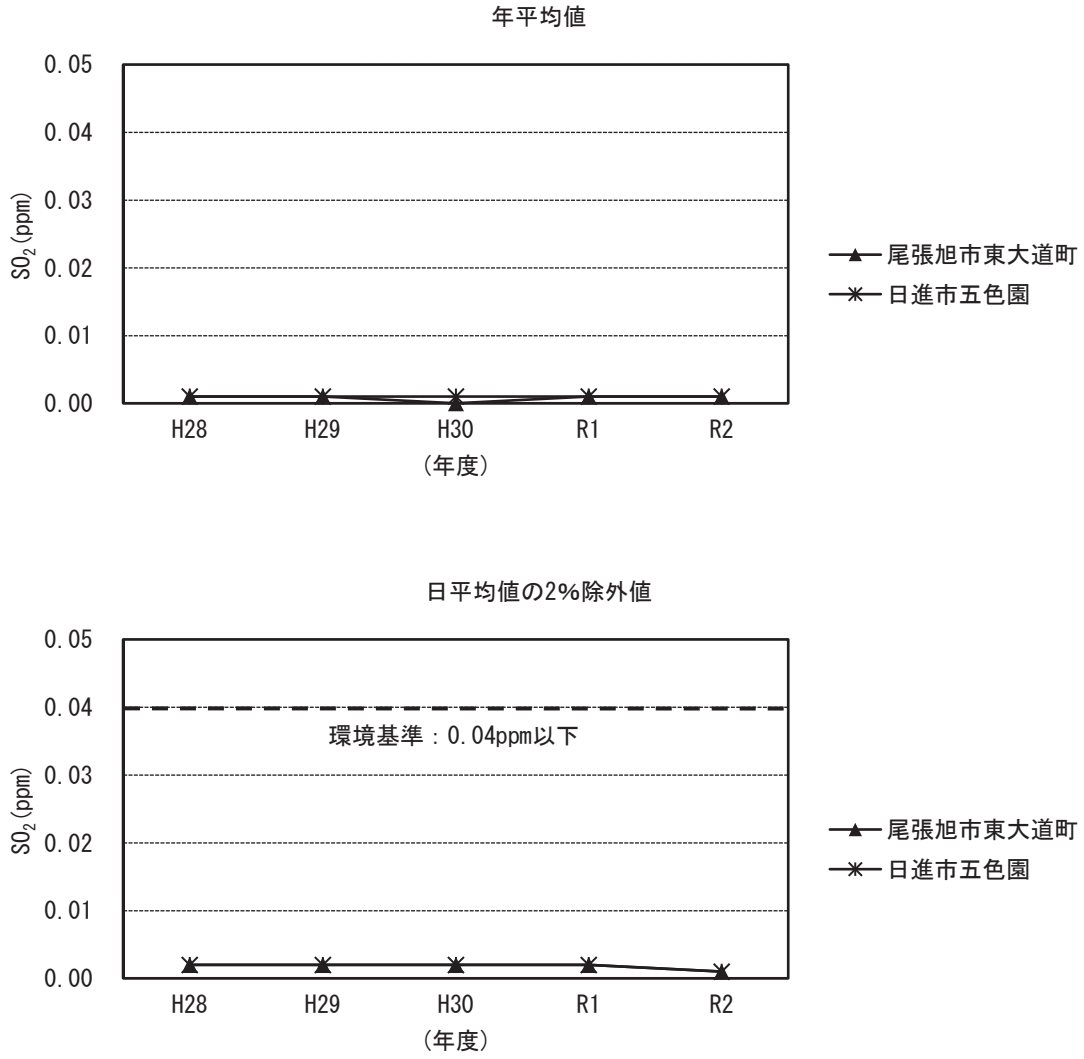
注）環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
・長期的評価：1日平均値の年間2%除外値を環境基準と比較して評価する。
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-6　二酸化硫黄経年変化（平成28年度～令和2年度）

単位：ppm

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	尾張旭市東大道町	年平均値	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001
		日平均値の2%除外値	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001
一般環境大気測定局	日進市五色園	年平均値	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001
		日平均値の2%除外値	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-6　二酸化硫黄経年変化(平成28年度～令和2年度)

(2) 二酸化窒素（NO_2）

令和2年度における測定結果は、表1.3.1-7に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）の経年変化は、表1.3.1-8及び図1.3.1-7に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、すべての測定局で環境基準を達成している。

また、年平均値及び日平均値の年間98%値の経年変化は、各測定局でいずれも横ばいで推移している。

表1.3.1-7　二酸化窒素測定結果（令和2年度）

局種別	測定局名称	年平均値	環境基準との比較		1時間値の最高値	長期的評価	
			日平均値が0.06ppmを越えた日数とその割合	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを越えた日数
		ppm	日(%)	日(%)	ppm	ppm	日
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	0.006	0(0.0)	0(0.0)	0.040	0.012	0
	尾張旭市東大道町	0.009	0(0.0)	0(0.0)	0.049	0.020	0
	日進市五色園	0.006	0(0.0)	0(0.0)	0.039	0.015	0
	長久手中学校	0.007	0(0.0)	0(0.0)	0.044	0.018	0
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	0.008	0(0.0)	0(0.0)	0.043	0.018	0

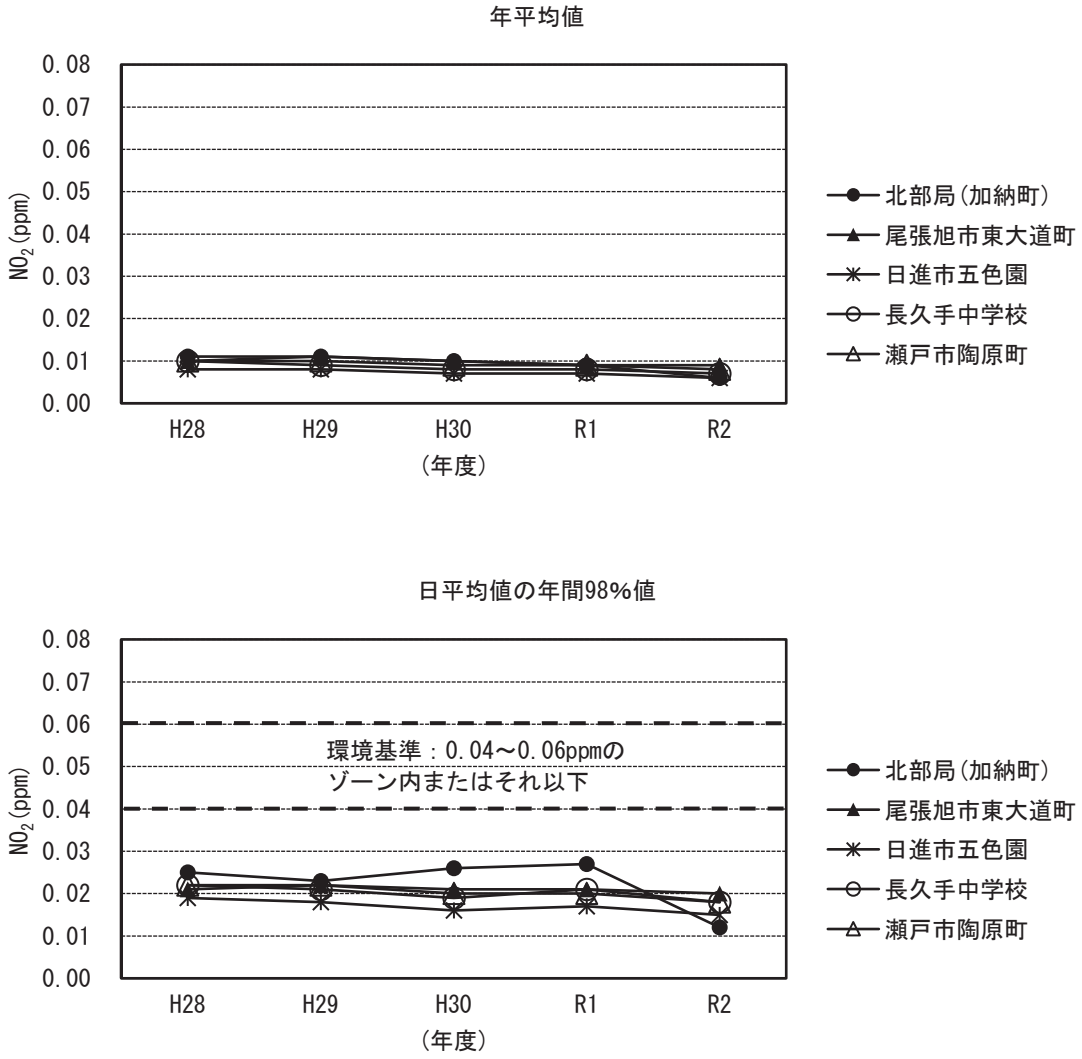
注）環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
・長期的評価：1日平均値の年間98%値を環境基準と比較して評価する。
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-8　二酸化窒素経年変化(平成28年度～令和2年度)

単位：ppm

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.009	0.006
		日平均値の年間98%値	0.025	0.023	0.026	0.027	0.012
	尾張旭市東大道町	年平均値	0.010	0.011	0.010	0.009	0.009
		日平均値の年間98%値	0.021	0.022	0.021	0.021	0.020
	日進市五色園	年平均値	0.008	0.008	0.007	0.007	0.006
		日平均値の年間98%値	0.019	0.018	0.016	0.017	0.015
	長久手中学校	年平均値	0.010	0.009	0.008	0.008	0.007
		日平均値の年間98%値	0.022	0.021	0.019	0.021	0.018
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	年平均値	0.010	0.010	0.009	0.009	0.008
		日平均値の年間98%値	0.022	0.022	0.020	0.020	0.018

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-7　二酸化窒素経年変化(平成28年度～令和2年度)

(3) 一酸化炭素（CO）

事業実施区域周辺において、一酸化炭素を測定している測定局はない。

(4) 浮遊粒子状物質（SPM）

令和2年度における測定結果は表1.3.1-9に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）における経年変化は、表1.3.1-10及び図1.3.1-8に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、すべての測定局で環境基準を達成している。

また、年平均値及び日平均値の年間2%除外値の経年変化は、各測定局でいずれもほぼ横ばいで推移している。

表1.3.1-9　浮遊粒子状物質測定結果(令和2年度)

局種別	測定局名称	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価			長期的評価		
					1時間値が0.20mg/m³を越えた時間数とその割合	日平均値が0.10mg/m³を越えた日数とその割合	1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m³を越えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m³を越えた日数
		日	時間	mg/m³	時間(%)	日(%)	mg/m³	mg/m³	有×・無○	日
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	362	8,715	0.014	0(0.0)	0(0.0)	0.149	0.041	○	0
	尾張旭市東大道町	362	8,675	0.011	1(0.0)	0(0.0)	0.210	0.029	○	0
	日進市五色園	361	8,680	0.012	0(0.0)	0(0.0)	0.167	0.030	○	0
	長久手中学校	361	8,673	0.011	0(0.0)	0(0.0)	0.108	0.033	○	0
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	362	8,686	0.010	0(0.0)	0(0.0)	0.104	0.028	○	0

注）環境基準：１時間値の１日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
・短期的評価：1時間値の日平均値または各1時間値を環境基準と比較して評価する。
・長期的評価：日平均値の年間2%除外値を環境基準と比較して評価する。ただし、人の健康の保護を徹底する趣旨から、日平均値につき環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、このような取扱いは行わない。

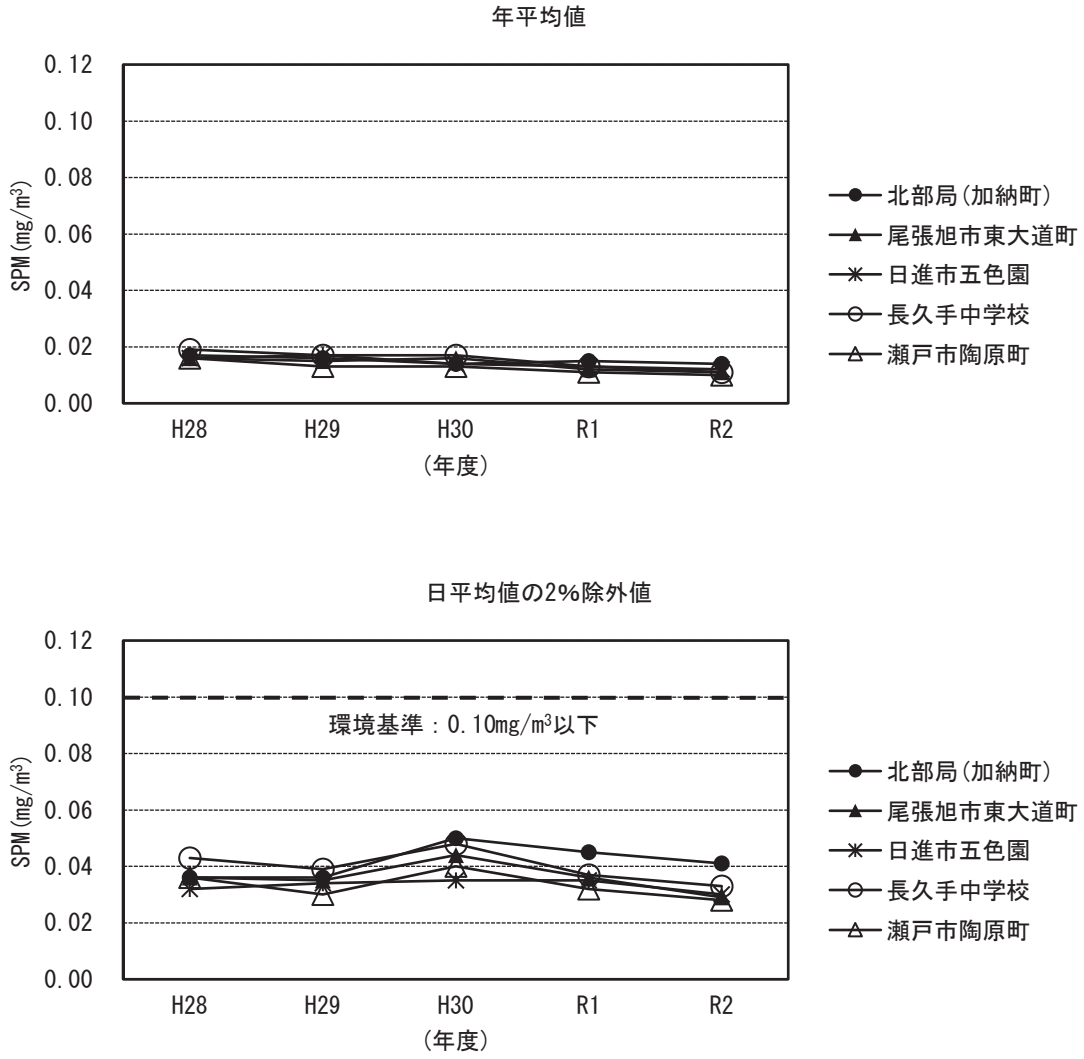
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-10　浮遊粒子状物質経年変化(平成28年度～令和2年度)

単位：mg/m^3

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	年平均値	0.017	0.016	0.014	0.015	0.014
		日平均値の2%除外値	0.036	0.036	0.050	0.045	0.041
	尾張旭市東大道町	年平均値	0.016	0.015	0.016	0.012	0.011
		日平均値の2%除外値	0.036	0.035	0.044	0.036	0.029
	日進市五色園	年平均値	0.016	0.017	0.014	0.013	0.012
		日平均値の2%除外値	0.032	0.034	0.035	0.035	0.030
	長久手中学校	年平均値	0.019	0.017	0.017	0.013	0.011
		日平均値の2%除外値	0.043	0.039	0.048	0.037	0.033
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	年平均値	0.016	0.013	0.013	0.011	0.010
		日平均値の2%除外値	0.036	0.030	0.040	0.032	0.028

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-8　浮遊粒子状物質経年変化(平成28年度～令和2年度)

(5) 光化学オキシダント（O_X）

令和2年度における測定結果は表1.3.1-11に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）の経年変化は、表1.3.1-12及び図1.3.1-9に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、すべての測定局で環境基準を達成しておらず、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数が69日～89日である。

昼間1時間値の年平均値の経年変化は、各測定局でいずれもほぼ横ばいで推移している。

表1.3.1-11　光化学オキシダント測定結果（令和2年度）

局種別	測定局名称	昼間1時間値の年平均値	短期的評価 昼間の1時間値が0.06ppmを越えた日数と時間数	昼間の1時間値の最高値
		ppm	日（時間）	ppm
一般環境大気測定局	北部局（加納町）	0.032	77（353）	0.117
	尾張旭市東大道町	0.034	84（429）	0.115
	日進市五色園	0.031	69（319）	0.112
	長久手中学校	0.032	76（378）	0.120
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	0.035	89（459）	0.126

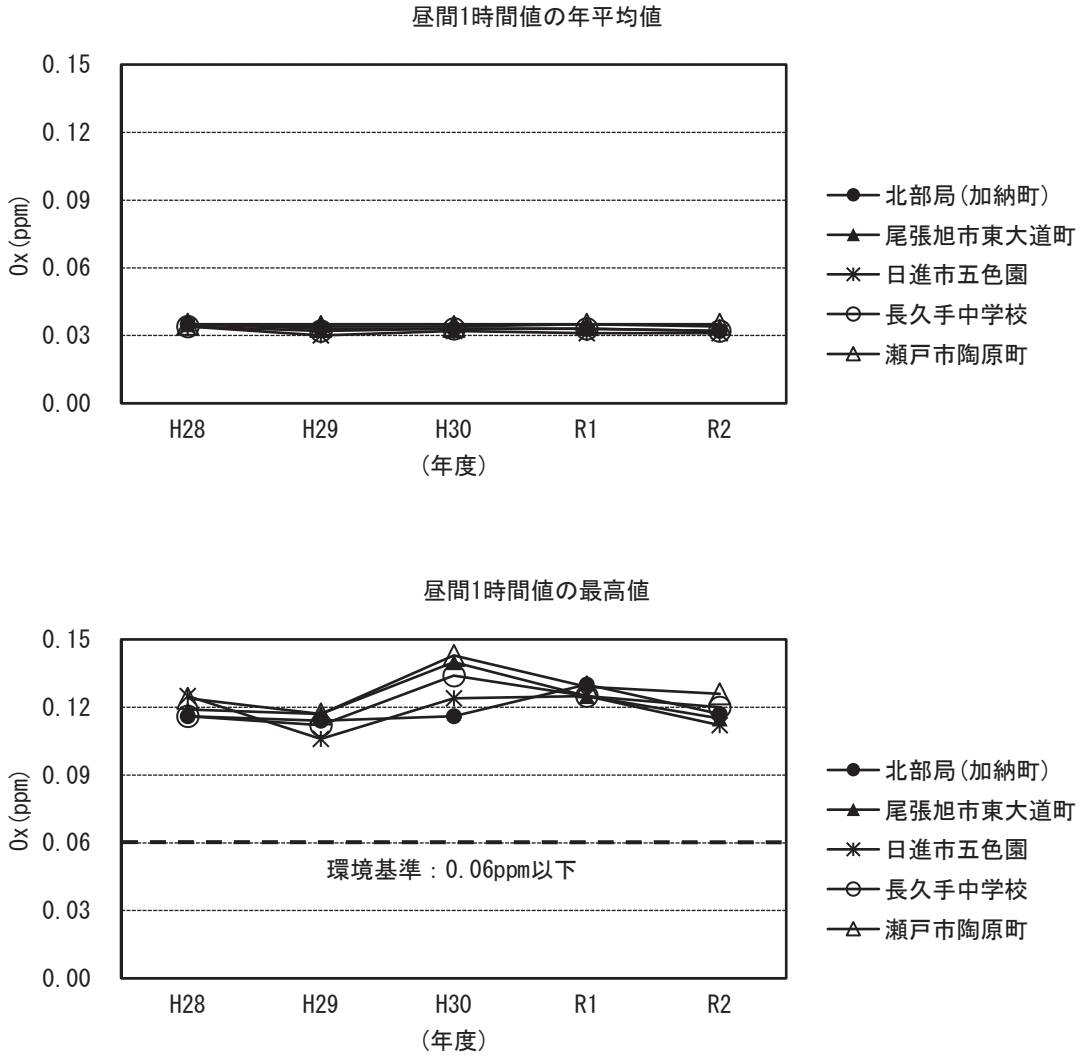
注1）昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。
注2）環境基準：1時間値が0.06ppm以下であること。
・短期的評価：各1時間値を環境基準と比較して評価する。
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-12　光化学オキシダント経年変化(平成28年度～令和2年度)

単位：ppm

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	昼間1時間値の年平均値	0.035	0.033	0.033	0.033	0.032
		昼間の1時間値の最高値	0.116	0.114	0.116	0.130	0.117
	尾張旭市東大道町	昼間1時間値の年平均値	0.035	0.035	0.035	0.035	0.034
		昼間の1時間値の最高値	0.119	0.117	0.140	0.125	0.115
	日進市五色園	昼間1時間値の年平均値	0.034	0.030	0.032	0.031	0.031
		昼間の1時間値の最高値	0.125	0.106	0.124	0.125	0.112
	長久手中学校	昼間1時間値の年平均値	0.034	0.032	0.033	0.033	0.032
		昼間の1時間値の最高値	0.116	0.112	0.134	0.125	0.120
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	昼間1時間値の年平均値	0.035	0.034	0.034	0.035	0.035
		昼間の1時間値の最高値	0.124	0.117	0.143	0.129	0.126

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-9　光化学オキシダント経年変化(平成28年度～令和2年度)

(6) 微小粒子状物質（$PM_{2.5}$）

令和2年度における測定結果は表1.3.1-13に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）の経年変化は、表1.3.1-14及び図1.3.1-10に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、すべての測定局で環境基準を達成している。

年平均値及び日平均値の年間98%値の経年変化は、各測定局でいずれもほぼ横ばいで推移している。

表1.3.1-13　微小粒子状物質測定結果（令和2年度）

局種別	測定局名称	短期的評価	長期的評価	
		日平均値が35μg/m³を越えた日数とその割合	年平均値	日平均値の年間98%値
		日（%）	μg/m³	μg/m³
一般環境大気測定局	北部局（加納町）	3（0.8）	9.3	26.7
	尾張旭市東大道町	1（0.3）	10.0	22.0
	長久手中学校	1（0.3）	7.7	20.0
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	1（0.3）	7.4	22.5

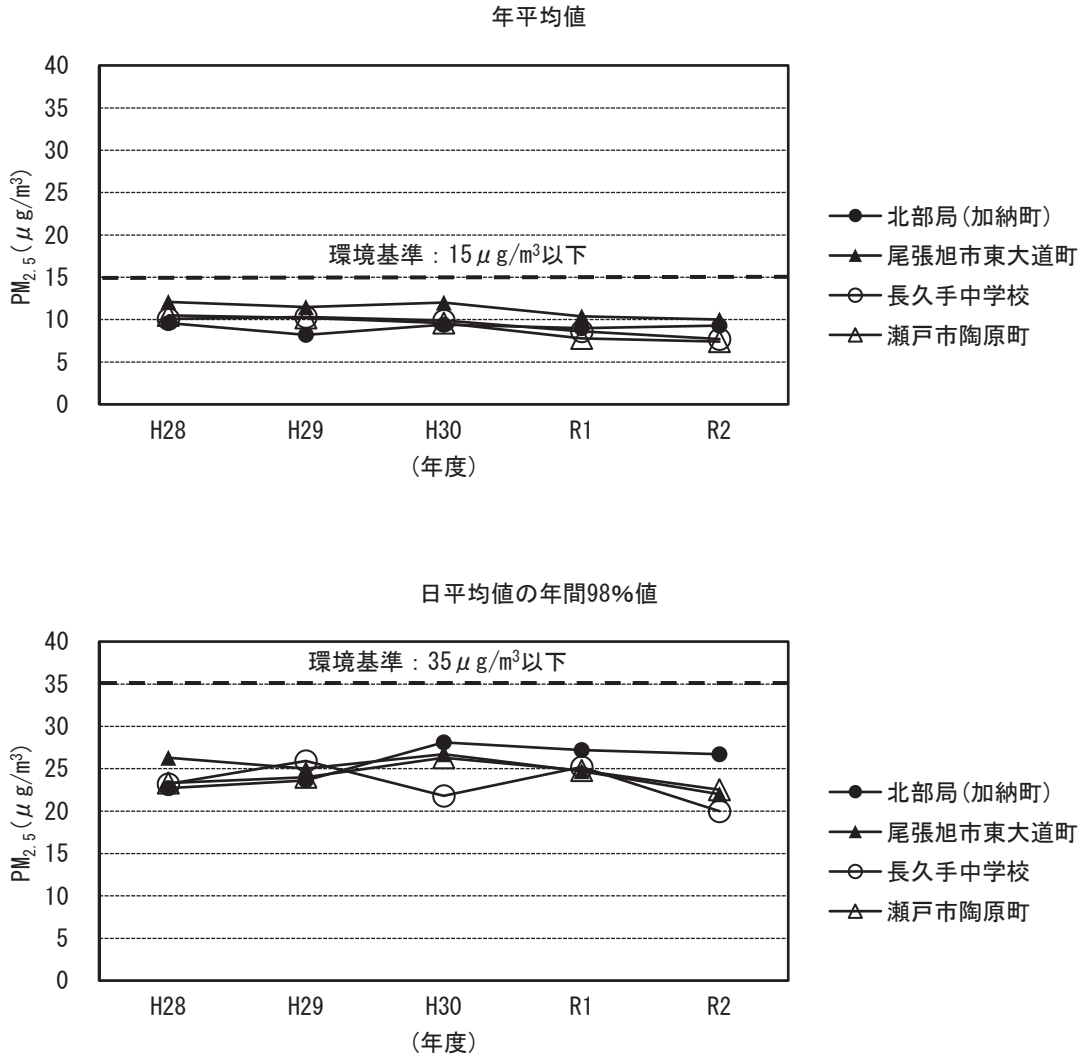
注）環境基準：年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、１日平均値が35μg/m³であること。
・長期的評価：年平均値及び日平均値の年間98%値をそれぞれ環境基準と比較して評価する。
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-14　微小粒子状物質経年変化（平成28年度～令和2年度）

単位：μg/m³

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	北部局（加納町）	年平均値	9.6	8.2	9.4	9.0	9.3
		日平均値の年間98%値	22.7	23.6	28.1	27.2	26.7
	尾張旭市東大道町	年平均値	12.1	11.5	12.0	10.4	10.0
		日平均値の年間98%値	26.3	25.0	26.7	24.7	22.0
	長久手中学校	年平均値	10.1	10.3	9.9	8.6	7.7
		日平均値の年間98%値	23.2	25.9	21.8	25.2	20.0
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	年平均値	10.5	10.2	9.6	7.8	7.4
		日平均値の年間98%値	23.3	24.0	26.3	24.8	22.5

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-10　微小粒子状物質経年変化（平成28年度～令和2年度）

(7) 非メタン炭化水素（NMHC）

令和2年度における測定結果は表1.3.1-15に示すとおりである。過去5年間（平成28年度～令和2年度）平均値の経年変化は表1.3.1-16及び図1.3.1-11に示すとおりである。

令和2年度の測定結果は、すべての測定局で指針値を達成している。

6時～9時における平均値の経年変化は、各測定局でいずれも横ばいで推移している。

表1.3.1-15　非メタン炭化水素測定結果(令和2年度)

局種別	測定局名称	6～9時測定日数	6～9時における平均値	6～9時3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数とその割合	6～9時3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数とその割合
		日	ppmC	日(%)	日(%)
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	339	0.06	0(0.0)	0(0.0)
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町	353	0.11	15(4.2)	0(0.0)

注）指針：光化学オキシダントの日最高1時間値0.06ppmに対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmCから0.31ppmCの範囲にある。

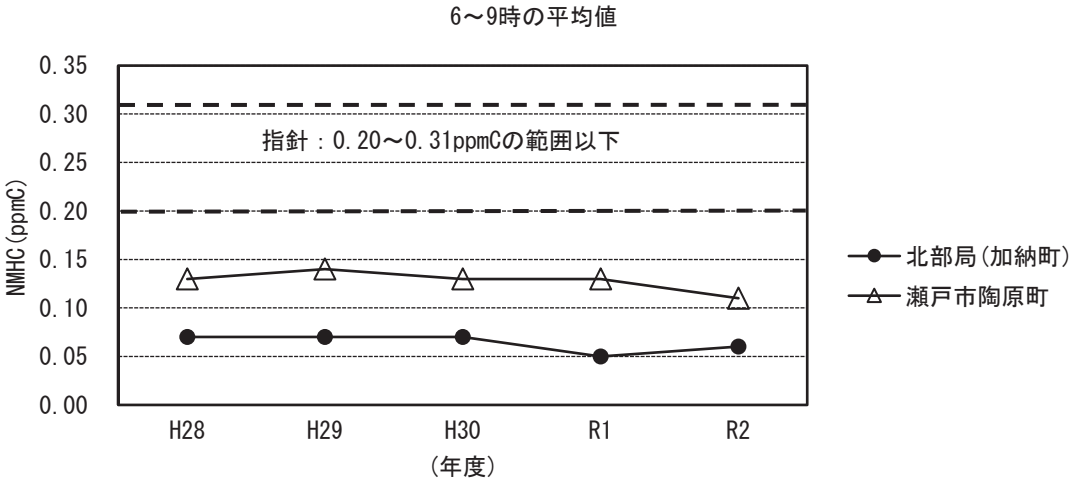
出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-16　非メタン炭化水素経年変化(平成28年度～令和2年度)

単位：ppmC

局種別	測定局名称	項目	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
一般環境大気測定局	北部局(加納町)	6～9時における平均値	0.07	0.07	0.07	0.05	0.06
自動車排出ガス測定局	瀬戸市陶原町		0.13	0.14	0.13	0.13	0.11

出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「愛知県大気環境情報　環境測定結果　測定値のダウンロード（2016年度～2020年度）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図1.3.1-11　非メタン炭化水素経年変化(平成28年度～令和2年度)

(8) 降下ばいじん量

過去5年間（平成28年度～令和2年度）における月間値の年間平均の経年変化は、表1.3.1-17に示すとおりである。

降下ばいじんについては環境基準が定められていないが、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」によれば、降下ばいじん量の値が比較的高い地域の値は、10t/km^2・月であるとされる。測定結果は、すべてこの値を下回っている。

表1.3.1-17　降下ばいじん量経年変化（平成28年度～令和2年度）

単位：t/km^2・月

区域名	市町名	測定地点	測定年度				
			平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
内陸	瀬戸市	瀬戸保健所	1.11	1.42	1.22	1.97	1.25

注）測定結果は月間値の年間平均である。
出典：「降下ばいじん調査結果ダウンロード（平成28年度～令和2年度）」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

(9) ダイオキシン類

「2020年度のダイオキシン類に係る環境調査結果について」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）によれば、調査範囲においてダイオキシン類調査は実施されていない。

1.3.1.2 騒音に係る環境の状況

1.3.1.2.1 環境騒音

調査範囲において、環境騒音調査は実施されていない。

1.3.1.2.2 道路交通騒音

調査範囲において、表1.3.1-18及び図1.3.1-12に示す区間で道路交通騒音が測定されている。

道路交通騒音調査は、一般国道が3路線で実施され、環境基準の達成状況は76%～100%である。

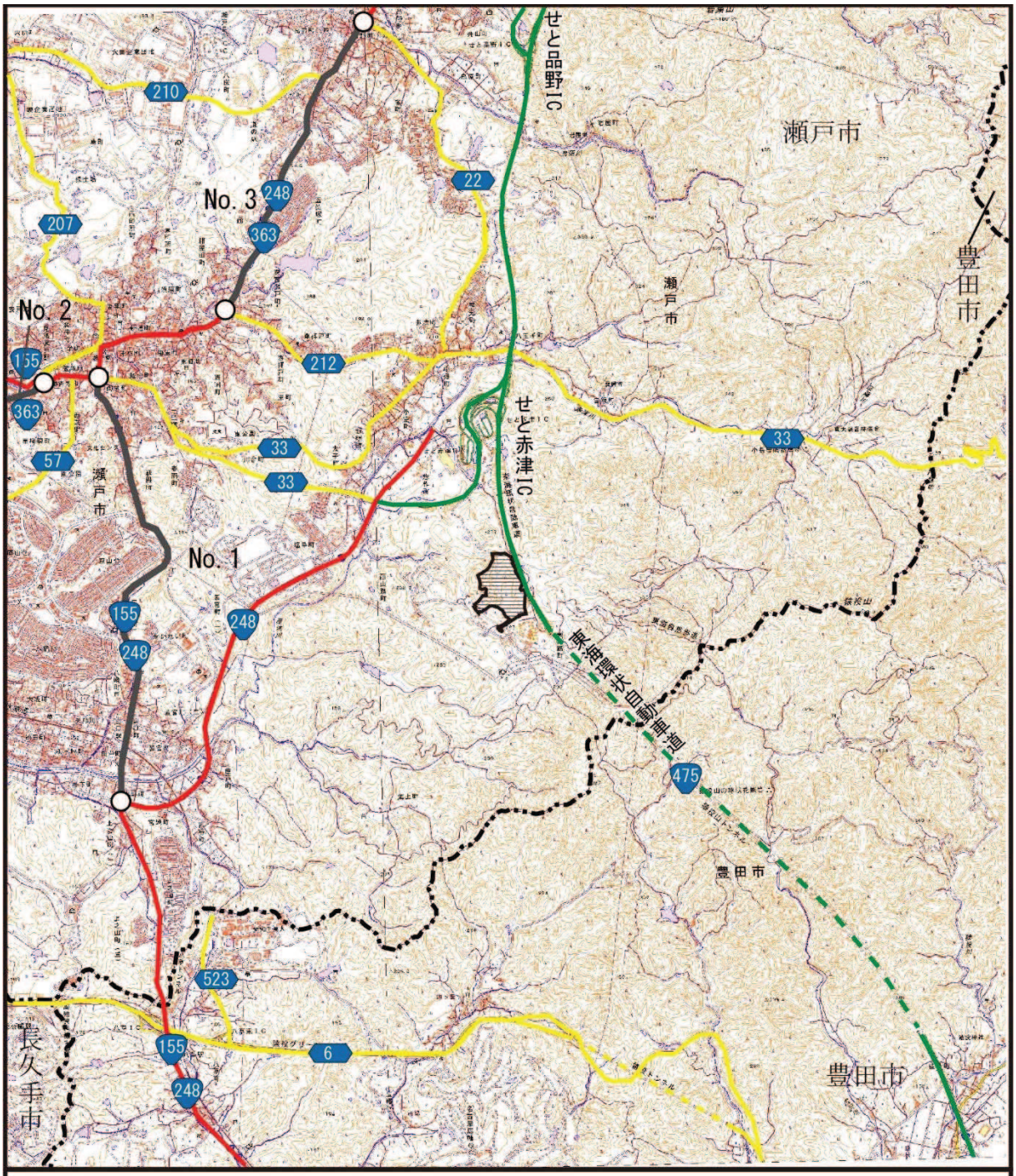
表1.3.1-18　道路交通騒音測定結果(令和2年度)

No.	道路名	評価区間		区間延長(km)	等価騒音レベル(dB)		評価対象戸数(戸)	環境基準達成状況(昼夜の達成率(%))
		起点	終点		昼間	夜間		
1	一般国道155号	瀬戸市上之山町	瀬戸市西本町	5.5	70	67	907	76.0
2	一般国道363号	瀬戸市小坂町	瀬戸市幸町	5.2	69	65	705	100.0
3	一般国道248号	瀬戸市西古瀬戸町	瀬戸市品野町	2.0	71	68	206	86.9

注）昼間：6～22時、夜間：22～6時
出典：「あいちの環境（2020年度の調査結果）」（令和3年12月閲覧、愛知県環境局ホームページ）

1.3.1.2.3 鉄道騒音

調査範囲において、鉄道騒音調査は実施されていない。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：自動車騒音評価区間

出典：「あいちの環境（2020年度の調査結果）」（令和3年12月閲覧、愛知県環境局ホームページ）

図 1.3.1-12　騒音に係る調査地点

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.3 振動に係る環境の状況

1.3.1.3.1 環境振動

調査範囲において環境振動調査は実施されていない。

1.3.1.3.2 道路交通振動

調査範囲において、表1.3.1-19及び図1.3.1-13に示す路線で道路交通振動調査が実施されている。

調査は一般国道155号及び一般国道248号の2路線で実施され、いずれも要請限度を下回っている。

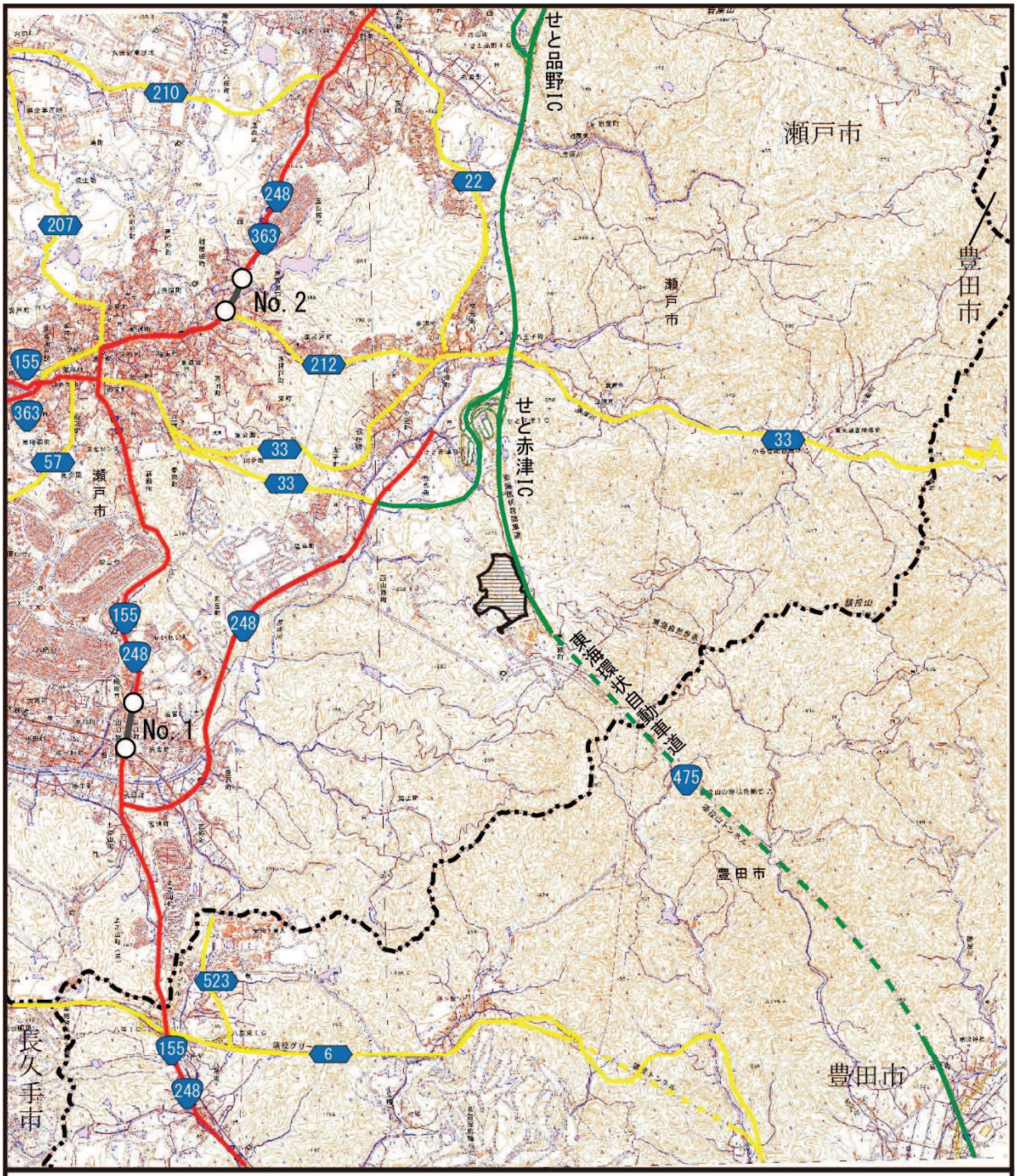
表1.3.1-19　道路交通振動測定結果(令和元年度)

単位：dB

No.	道路名	市町名	振動レベル		評価(要請限度)	
			昼間	夜間	昼間	夜間
1	一般国道155号	瀬戸市山口町	45	38	65	60
2	一般国道248号	瀬戸市西古瀬戸町	47	42		

注）昼間：7～20時、夜間：20～7時

出典：「環境基本計画の年次報告書（令和元年度版）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：道路交通振動測定区間

出典：「環境基本計画の年次報告書（令和元年度版）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）

図 1.3.1-13　道路交通振動測定地点

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.4 悪臭に係る環境の状況

調査範囲において悪臭に係る調査は実施されていない。

1.3.1.5 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

1.3.1.5.1 水象

調査範囲における主要な河川の分布状況は、図1.3.1-14に示すとおりである。

事業実施区域の北端を東山路川が西方向に流れ、山路川と合流後、赤津川に流入している。赤津川は庄内川水系である一級河川の矢田川へとつながっている。

1.3.1.5.2 水質

調査範囲における調査結果及び調査地点は、表1.3.1-20、表1.3.1-21及び図1.3.1-15に示すとおりである。

愛知県は、水域類型において矢田川（上流）をD類型、瀬戸川を未類型指定としているが、瀬戸市の環境基本計画においては、それぞれC類型、D類型を目標に設定している。矢田川（上流）及び瀬戸川（上流端）は、いずれの項目も環境基準を満足している。

なお、「2020年度のダイオキシン類に係る環境調査結果について」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）によれば、調査範囲においてダイオキシン類調査は実施されていない。

矢田川及び赤津川の調査地点である地点1及び地点10のBOD経年変化は表1.3.1-22に示すとおりである。いずれの地点も環境基準を満足している。

1.3.1.5.3 水底の底質

調査範囲において、底質に係る調査は実施されていない。

また、調査範囲においてダイオキシン類調査は実施されていない。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：河川

図 1.3.1-14　主要な河川

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

表1.3.1-20(1)　河川の水質測定結果(瀬戸市：平成30年度)

水域区分			庄内川等水域				環境基準等	
河川名			矢田川(上流)※通称山口川	瀬戸川(上流端)	瀬戸川一次支川			
					東茨川	一里塚川		
地点番号			1	2	3	4		
調査地点			屋戸橋(屋戸町地内)	まんじ橋(古瀬戸町地内)	瀬戸川合流点前(東茨町地内)	瀬戸川合流点前(末広町1丁目地内)		
環境基準類型			C	D	－	－	C	D
生活環境項目	pH	－	7.9	7.4	7.7	9.0	6.5以上8.5以下	6.0以上8.5以下
	溶存酸素量	mg/L	10	10	9.7	13	5以上	2以上
	BOD	mg/L	2.0	3.4	2.3	3.0	5以下	8以下
	COD	mg/L	1.9	3.3	4.2	2.6	－	－
	SS	mg/L	1	3	2	1	50以下	100以下
	大腸菌群数	MPN/dL	450	2,000	4,500	1,700	－	－
	全窒素	mg/L	0.88	1.7	5.8	2.3	－	－
	全燐	mg/L	0.040	0.16	0.45	0.25	－	－

水域区分			庄内川等水域			
河川名			瀬戸川一次支川			
			印所川	拝戸川	紺屋田川	古瀬戸川
地点番号			5	6	7	8
調査地点			瀬戸川合流点前(深川町地内)	瀬戸川合流点前(古瀬戸町地内)	瀬戸川合流点前(紺屋田町地内)	瀬戸川合流点前(西古瀬戸町地内)
環境基準類型			－	－	－	－
生活環境項目	pH	－	7.8	8.2	7.6	7.2
	溶存酸素量	mg/L	9.8	12	10	10
	BOD	mg/L	4.6	3.5	6.9	1.7
	COD	mg/L	5.1	3.5	5.2	2.5
	SS	mg/L	8	14	3	2
	大腸菌群数	MPN/dL	14,000	2,100	680	680
	全窒素	mg/L	4.6	2.7	4.8	0.44
	全燐	mg/L	0.50	0.19	0.40	0.028

注1) 愛知県の水域類型において矢田川（上流）はD類型、瀬戸川は未類型指定としているが、瀬戸市の環境基本計画においては、それぞれC類型、D類型を目標に設定している。
注2) 値は平均値である。ただし、BODは年75%値を掲載。
出典：「水質環境基準と水域類型の指定状況」（令和3年4月閲覧、愛知県ホームページ）
「環境基本計画年次報告書（令和元年度）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）

表1.3.1-20(2)　河川の水質測定結果(瀬戸市：平成30年度)

水域区分			矢田川水系						
調査地点			赤津川		山路川	薬師川	今林川	八幡川	吉田川
			雲興寺前	不老橋					
地点番号			9	10	11	12	13	14	15
生活環境項目	pH	－	7.5	7.7	8.4	7.6	7.7	8.7	7.9
	溶存酸素量	mg/L	13	12	13	11	7.7	14	12
	BOD	mg/L	2.4	3.1	2.5	3.4	21	3.6	2.0
	COD	mg/L	1.0	3.0	1.8	4.6	13	5.0	1.6
	SS	mg/L	<1	7	<1	2	6	2	<1
	大腸菌群数	MPN/dL	450	780	1,100	450	9,400	14,000	3,400
	全窒素	mg/L	0.20	1.9	0.55	5.3	15	5.5	0.39
	全燐	mg/L	0.015	0.12	0.019	0.34	2.0	0.45	0.060

水域区分			矢田川水系		水野川水系		
調査地点			若宮川	海上川	鳥原川	数成川	八床川
地点番号			16	17	18	19	20
生活環境項目	pH	－	8.6	7.6	7.6	8.2	7.8
	溶存酸素量	mg/L	11	12	12	14	13
	BOD	mg/L	7.9	1.6	3.4	2.8	2.4
	COD	mg/L	7.4	1.1	2.8	4.2	2.4
	SS	mg/L	16	<1	2	1	2
	大腸菌群数	MPN/dL	17,000	780	22,000	2,200	450
	全窒素	mg/L	2.1	0.17	2.2	7.1	3.6
	全燐	mg/L	0.38	0.022	0.22	0.18	0.082

注）値は平均値である。ただし、BODは年75%値を掲載。
出典：「環境基本計画年次報告書（令和元年度）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）

表1.3.1-21　河川の水質測定結果(豊田市：令和元年度)

河川名			加納川	広見川
調査地点			学園橋	伊保川合流前
地点番号			21	22
生活環境項目	pH	－	7.4	7.4
	溶存酸素	mg/L	9.0	9.2
	BOD	mg/L	1.0	0.9
	COD	mg/L	2.9	2.8
	SS	mg/L	3	4
	大腸菌群数	MPN/dL	－	－
	n-ヘキサン抽出物	mg/L	<0.5	<0.5
	全窒素	mg/L	1.1	0.53
	全燐	mg/L	0.066	0.050
	全亜鉛	mg/L	<0.001	<0.001
	ノニルフェノール	mg/L	<0.00006	<0.00006
	LAS	mg/L	<0.0030	0.0025

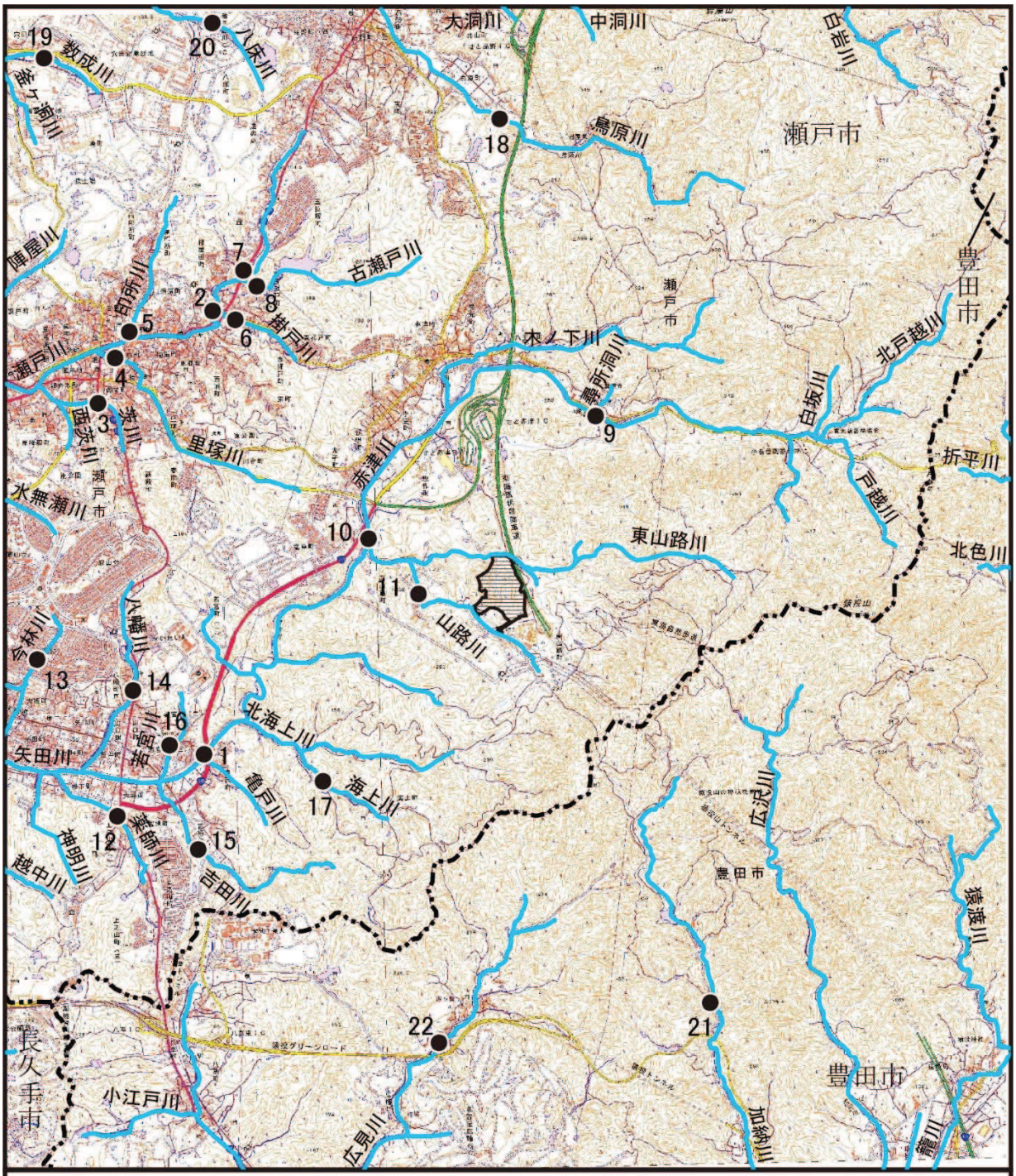
注）値は平均値である。ただし、BODは年75%値を掲載。
出典：「環境調査報告書（令和2年版）」（令和3年12月閲覧、豊田市ホームページ）

表1.3.1-22　地点1及び地点10のBOD(年75%値)の経年変化(平成26年度～平成30年度)

単位：mg/L

水域区分	庄内川等水域	矢田川水系	環境基準等	
河川名	矢田川(上流)※通称山口川	赤津川		
地点番号	1	10		
調査地点	屋戸橋(屋戸町地内)	不老橋		
環境基準類型	C	－	C	D
平成26年度	2.9	2.8	5以下	8以下
平成27年度	1.6	1.9		
平成28年度	1.3	2.0		
平成29年度	1.5	4.8		
平成30年度	2.0	3.1		

注1）愛知県の水域類型において矢田川（上流）はD類型指定としているが、瀬戸市の環境基本計画においては、C類型を目標に設定している。
出典：「水質環境基準と水域類型の指定状況」（令和3年4月閲覧、愛知県ホームページ）
「環境基本計画年次報告書（平成27年度～令和元年度）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）



凡　例

：市町村界　　：河川

：対象事業実施区域　　：水質調査地点

注）図中の番号は表 1.3.1-20 及び表 1.3.1-21 に対応する。

注）地点11～地点22は調査位置が不明なため、調査対象となる河川上に配置した。

出典：「環境基本計画年次報告書（令和元年度）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）
「環境調査報告書（令和2年版）」（令和3年12月閲覧、豊田市ホームページ）

図 1.3.1-15　水質調査地点

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.6 地形及び地質の状況

1.3.1.6.1 地形

事業実施区域周辺の地形分類図は、図1.3.1-16に示すとおりである。

事業実施区域周辺は、小起伏山地や大起伏丘陵地等の山地及び丘陵地が広く分布する。事業実施区域は小起伏山地に位置する。

1.3.1.6.2 地質

事業実施区域周辺の表層地質図は、図1.3.1-17に示すとおりである。

事業実施区域周辺は、花崗岩質岩石が広く分布し、事業実施区域の南側は礫層及び砂・粘土が点在する。

1.3.1.6.3 重要な地形・地質

事業実施区域周辺の重要な地形・地質は、表1.3.1-23及び図1.3.1-18に示すとおりである。

事業実施区域は「三河高原」に位置し、事業実施区域の南東には「猿投境川断層崖」が存在する。

表1.3.1-23　重要な地形及び地質

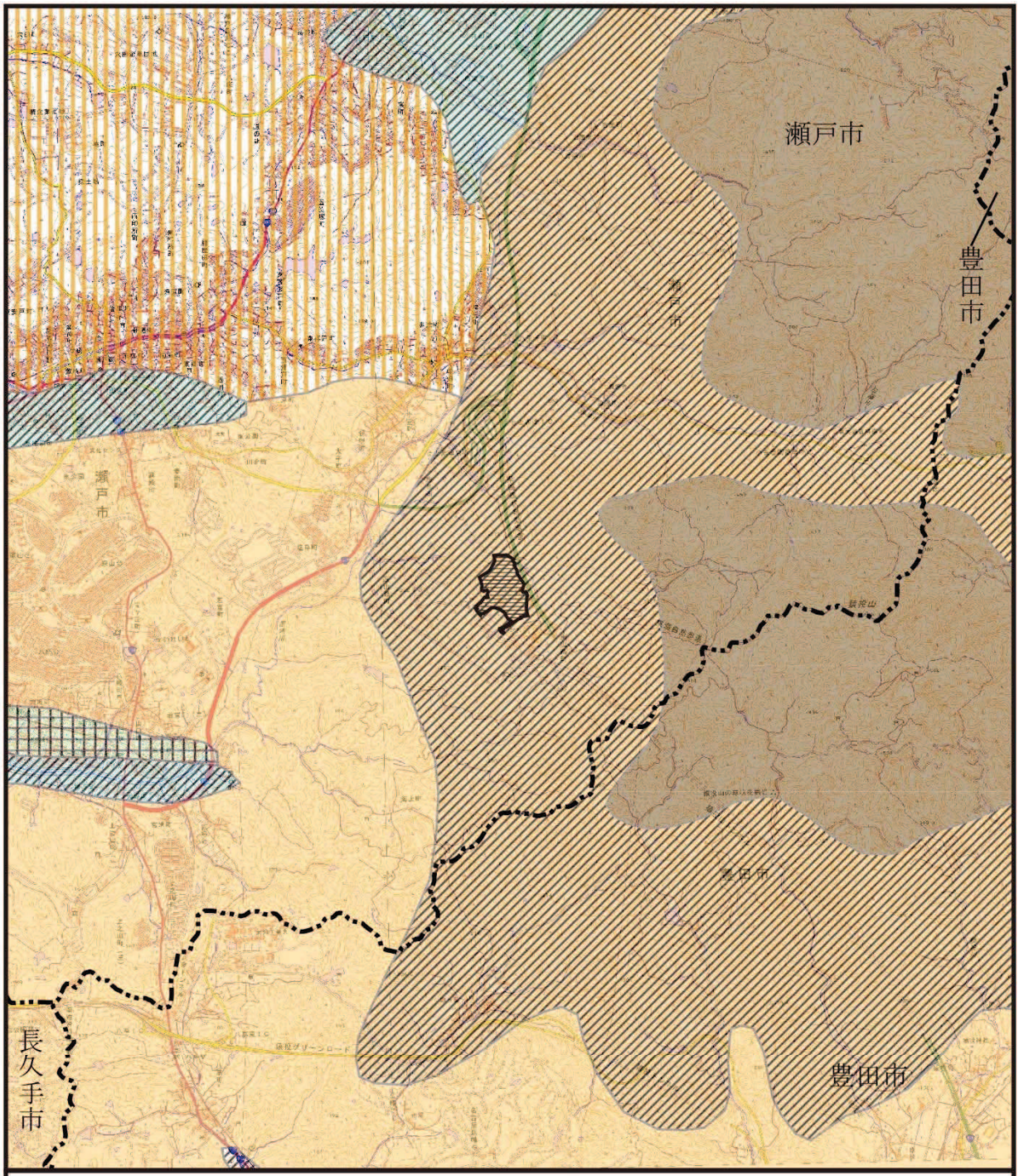
名称	地形の種類	地形項目
三河高原	その他の地形	隆起準平原
猿投境川断層崖	近くの変動による地形	活断層崖（横ずれ含む）

出典：「日本の典型地形に関する調査（平成7年度～平成11年度）」（令和3年4月閲覧、国土地理院ホームページ）

1.3.1.6.4 断層

調査範囲における断層は、図1.3.1-19に示すとおりである。

事業実施区域の南東側に、活断層である「猿投山北断層」が存在する。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

山地および丘陵地

：中起伏山地

：小起伏山地

：大起伏丘陵地

：小起伏丘陵地

台地

：砂礫台地（下位）

低地

：扇状地性低地
（氾濫原性低地）

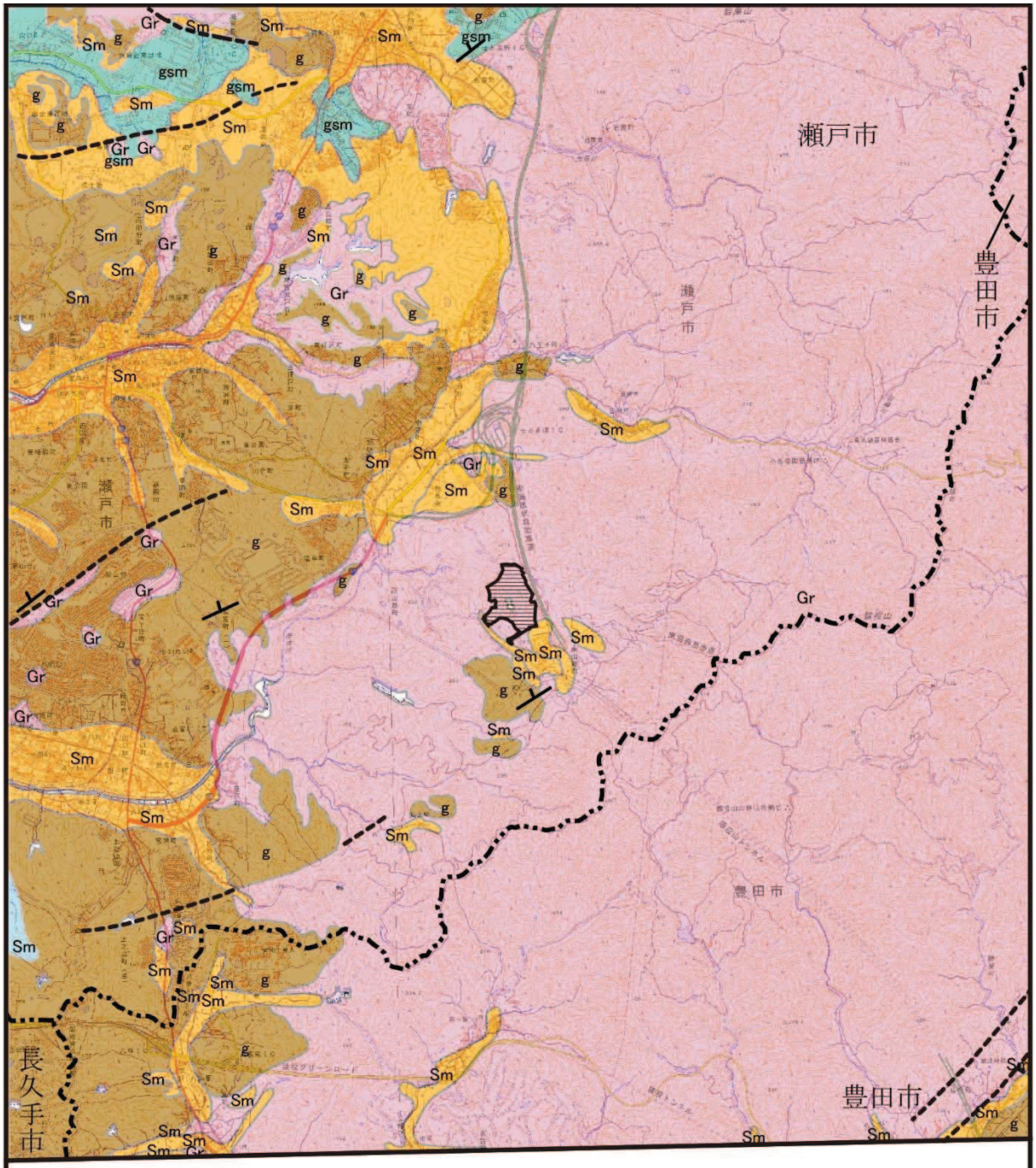
出典：「20万分の1土地分類基本調査」（令和3年4月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）

図 1.3.1-16　地形分類図

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m



凡　例

- ：市町村界
- ：対象事業実施区域
- ：断層
- ：走向及び傾斜

未固結堆積物	Sm	：	砂・泥
半固結堆積物	g	：	礫層
	Sm	：	砂・粘土
固結堆積物	gsm	：	礫岩・砂岩・泥岩
深成岩	Gr	：	花崗岩質岩石

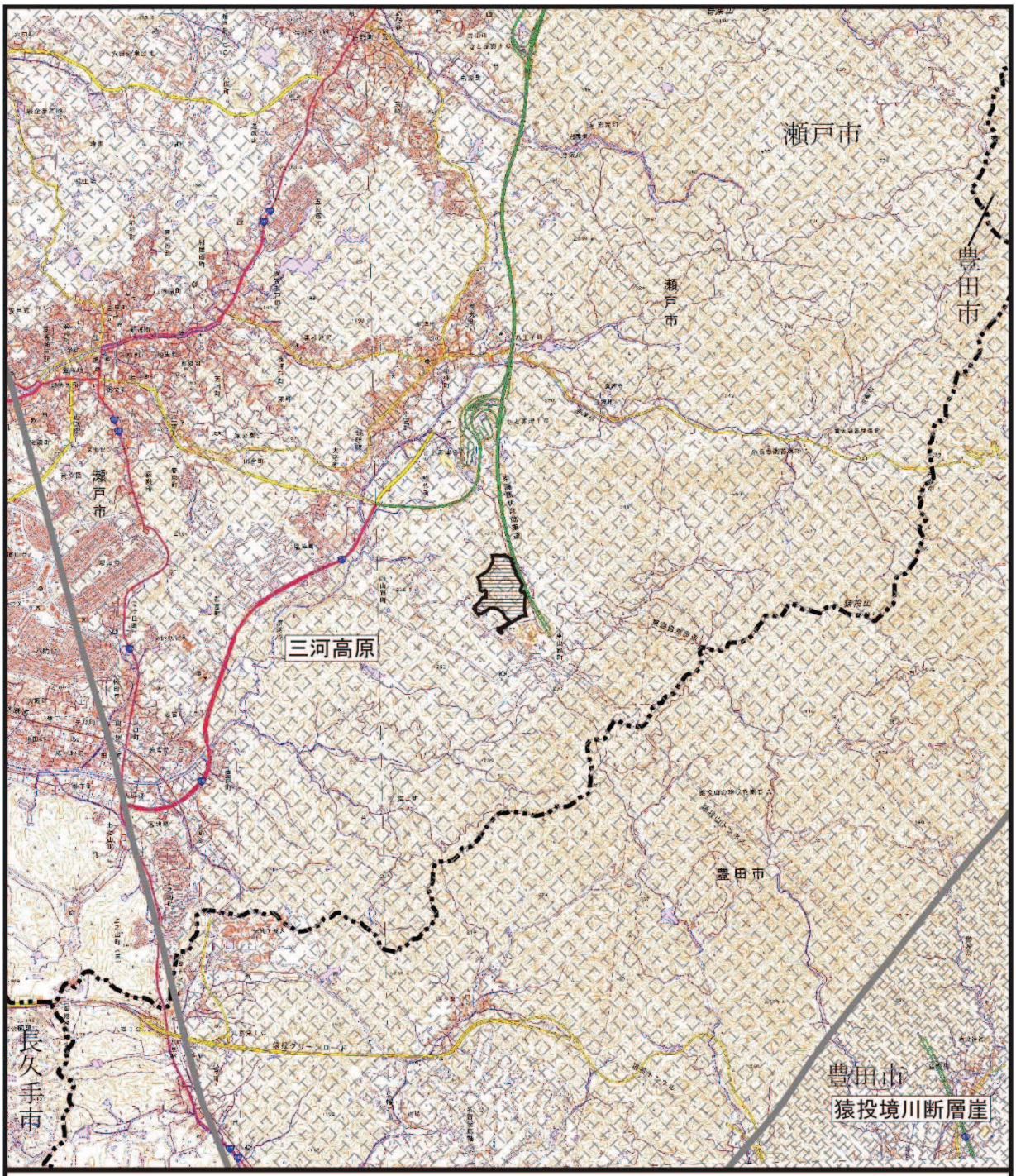
出典：「5万分の1土地分類基本調査」（令和3年4月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）

図 1.3.1-17　表層地質図

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：重要な地形・地質

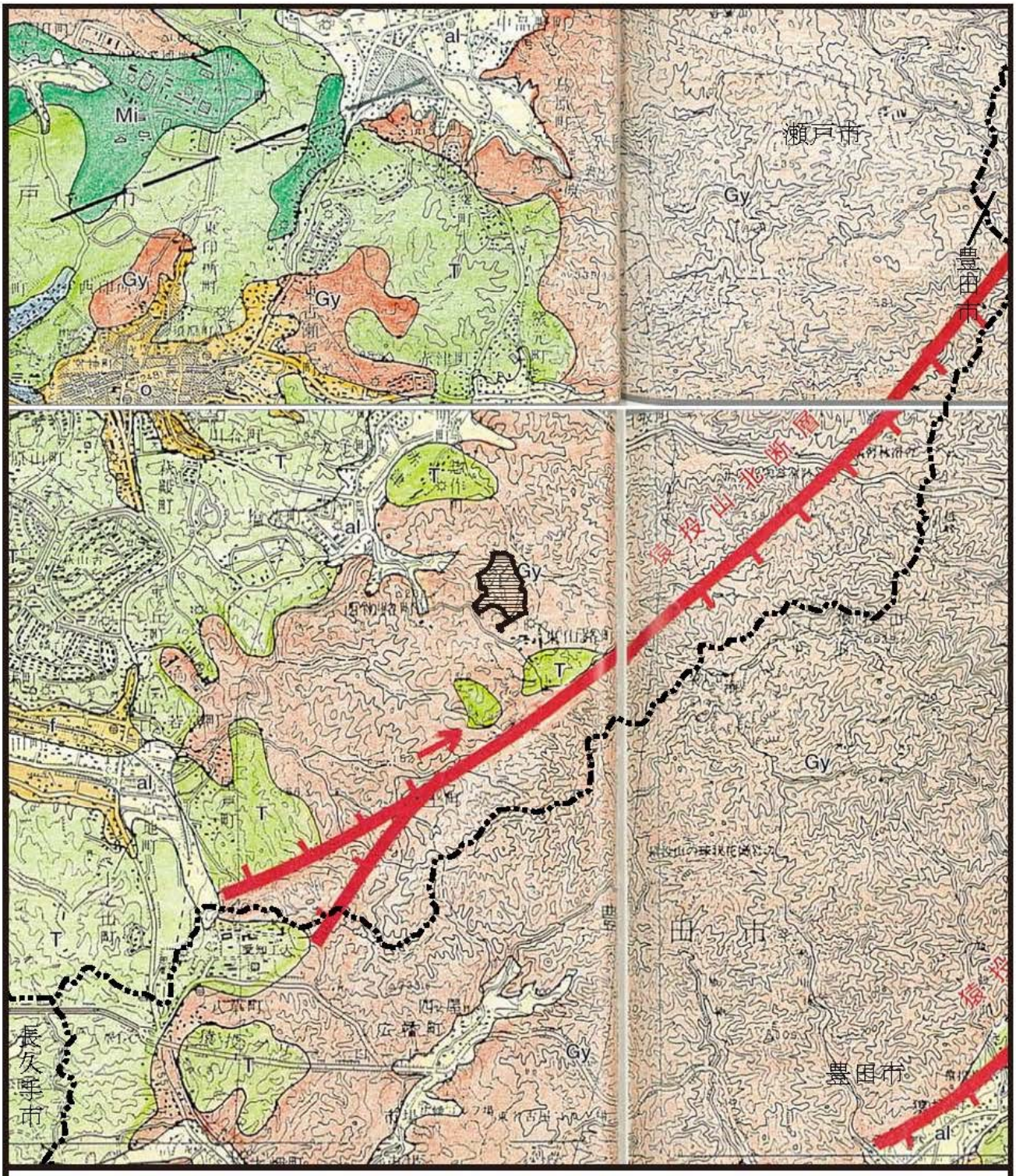
出典：「日本の典型地形に関する調査（平成7年度～平成11年度）」
（令和3年4月閲覧、国土地理院ホームページ）

図 1.3.1-18　重要な地形・地質

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m


瀬戸市
豊田市
猿投山北断層
長久手市
豊田市
Mi
Gy
T
al
凡　例
：市町村界
：対象事業実施区域
出典：「愛知県活断層アトラス」（平成9年9月、愛知県）
N
1:50,000
0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.7 地盤、地下水及び土壌の状況

1.3.1.7.1 地盤沈下

調査範囲において水準測量調査及び地下水位調査は実施されていない。

1.3.1.7.2 地下水

調査範囲に含まれる市町村で実施された地下水質調査結果は、表1.3.1-24に示すとおりである。

地下水質の概況調査は、地下水質の概況を把握するため実施されており、調査地点は瀬戸市が2地点、豊田市が3地点である。地下水質の定期モニタリング調査は、過去に地下水汚染が判明した地域の継続的な監視を行うため実施されており、調査地点は瀬戸市が3つの井戸、豊田市が2つの井戸である。

地下水質の概況調査及び定期モニタリング調査の調査結果は、すべての項目で環境基準に適合している。

調査範囲に含まれる市町村で実施されたダイオキシン類地下水質調査結果は、表1.3.1-25に示すとおりであり、調査結果は環境基準値を満足している。

表1.3.1-24(1)　地下水質調査結果（令和元年度、概況調査）

単位：mg/L(電気伝導率、pH 以外)、mS/m(電気伝導率)

市町村名	瀬戸市		豊田市			環境基準
調査地点	西山路町	針原町	西中山町	八草町	猿投町	
採水年月日	R1.9.24	R1.9.24	R1.11.26	R1.10.21	R1.10.21	
カドミウム	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003以下
全シアン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと。
鉛	<0.005	<0.005	0.001	<0.001	0.001	0.01以下
六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.05以下
砒素	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	-	-	-	-	-	検出されないこと。
ＰＣＢ	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
クロロエチレン別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.04以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01以下
セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	3.1	<0.1	1.6	1.0	1.4	10以下
ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	0.08	<0.08	0.8以下
ほう素	<0.02	0.11	<0.02	<0.02	<0.02	1以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05以下
ｐＨ	6.2	6.7	5.3	6.7	6.0	-
電気伝導率	11	99	6.6	10	11	-

注1）表中の「<」は、定量下限値未満であることを示す。
注2）表中の「-」は、調査を行っていない項目であることを示す。
出典：「あいちの環境（地下水の水質調査結果検索　2019（令和元）年度調査結果）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-24(2)　地下水質調査結果（令和元年度、定期モニタリング調査）

単位：mg/L(電気伝導率、pH 以外)、mS/m(電気伝導率)

市町村名	瀬戸市			豊田市		環境基準
井戸場所	南山口町	東山路町	五位塚町	猿投町		
採水年月日	R2.1.14	R2.1.14	R2.1.23	R1.11.6	R1.11.6	
カドミウム	－	－	－	－	－	0.003以下
全シアン	－	－	－	－	－	検出されないこと。
鉛	－	－	－	－	－	0.01以下
六価クロム	－	－	－	－	－	0.05以下
砒素	－	－	－	－	－	0.01以下
総水銀	0.0005	－	－	<0.0005	－	0.0005以下
アルキル水銀	－	－	－	－	－	検出されないこと。
ＰＣＢ	－	－	－	－	－	検出されないこと。
ジクロロメタン	－	－	－	－	－	0.02以下
四塩化炭素	－	－	－	－	－	0.002以下
クロロエチレン別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー	－	－	－	－	－	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	－	－	－	－	－	0.04以下
1,1-ジクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	－	－	－	－	－	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	－	－	－	－	－	0.006以下
トリクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.01以下
テトラクロロエチレン	－	－	－	－	－	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	－	－	－	－	－	0.002以下
チウラム	－	－	－	－	－	0.006以下
シマジン	－	－	－	－	－	0.003以下
チオベンカルブ	－	－	－	－	－	0.02以下
ベンゼン	－	－	－	－	－	0.01以下
セレン	－	－	－	－	－	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	－	－	－	－	6.9	10以下
ふっ素	－	1.6	－	－	－	0.8以下
ほう素	－	－	0.07	－	－	1以下
1,4-ジオキサン	－	－	－	－	－	0.05以下
ｐＨ	5.5	7.4	10.9	5.0	5.9	－
電気伝導率	27	29	38	9.5	18	－

注1）表中の「<」は、定量下限値未満であることを示す。
注2）表中の「-」は、調査を行っていない項目であることを示す。
出典：「あいちの環境（地下水の水質調査結果検索　2019（令和元）年度調査結果）」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.1-25　ダイオキシン類地下水質調査結果

（環境基準：年間平均値 1pg-TEQ/L 以下）

調査地点（調査井戸）		調査結果 (pg-TEQ/L)	調査年月日	調査機関
所在地	井戸の区分			
豊田市猿投町	浅井戸	0.059	平成30年10月23日	豊田市
瀬戸市窯元町	浅井戸	0.51	平成29年8月1日	愛知県
豊田市八草町	浅井戸	0.016	平成28年9月21日	豊田市

出典：「あいちの環境（ダイオキシン類環境調査結果（2016年度～2020年度））」

（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

1.3.1.7.3 土壌

(1) 土壌

事業実施区域周辺の土壌図は、図1.3.1-20に示すとおりである。

事業実施区域周辺は、乾性褐色森林土壌が広く分布している。事業実施区域は、西側に乾性褐色森林土壌が分布する。

(2) 土壌汚染

事業実施区域周辺の、土壌汚染対策法に基づく区域の指定状況は、表1.3.1-26及び図1.3.1-21に示すとおりである。

事業実施区域周辺は、形質変更時要届出区域が１か所存在する。事業実施区域に要措置区域及び形質変更時要届出区域はない。

表1.3.1-26　土壌汚染対策法に基づく区域の指定状況

形質変更時要届出区域					
指定番号	指定年月日	区域が存在する場所	区域の面積	基準に適合しない特定有害物質	所管する県民事務所等
形-10	平成25年2月5日	瀬戸市五位塚町11番35、11番36、11番57、11番130、11番234及び11番235の各一部並びに11番56	2,487.73㎡	鉛及びその化合物（溶出・含有） ほう素及びその化合物（溶出）	尾張県民事務所

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域の指定状況」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）
「土壌環境・地盤環境」（令和3年12月閲覧、豊田市ホームページ）

(3) 土地利用の履歴

「地図・空中写真閲覧サービス」（国土交通省国土地理院ホームページ）によると、事業実施区域の土地利用は、1949年の時点においては森林となっており、1965年までには事業実施区域の南側が土取場として利用されており、現在に至っている。

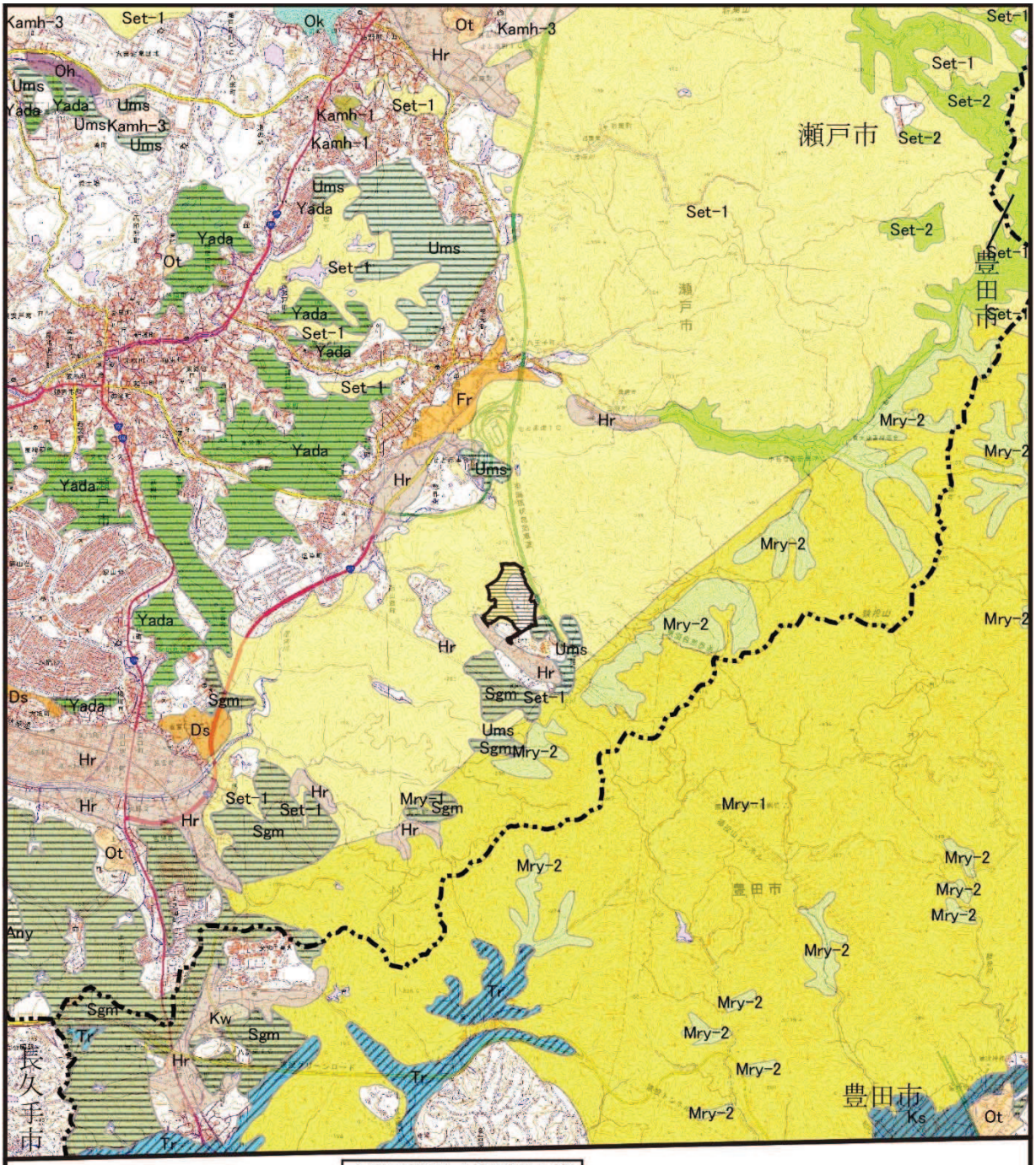
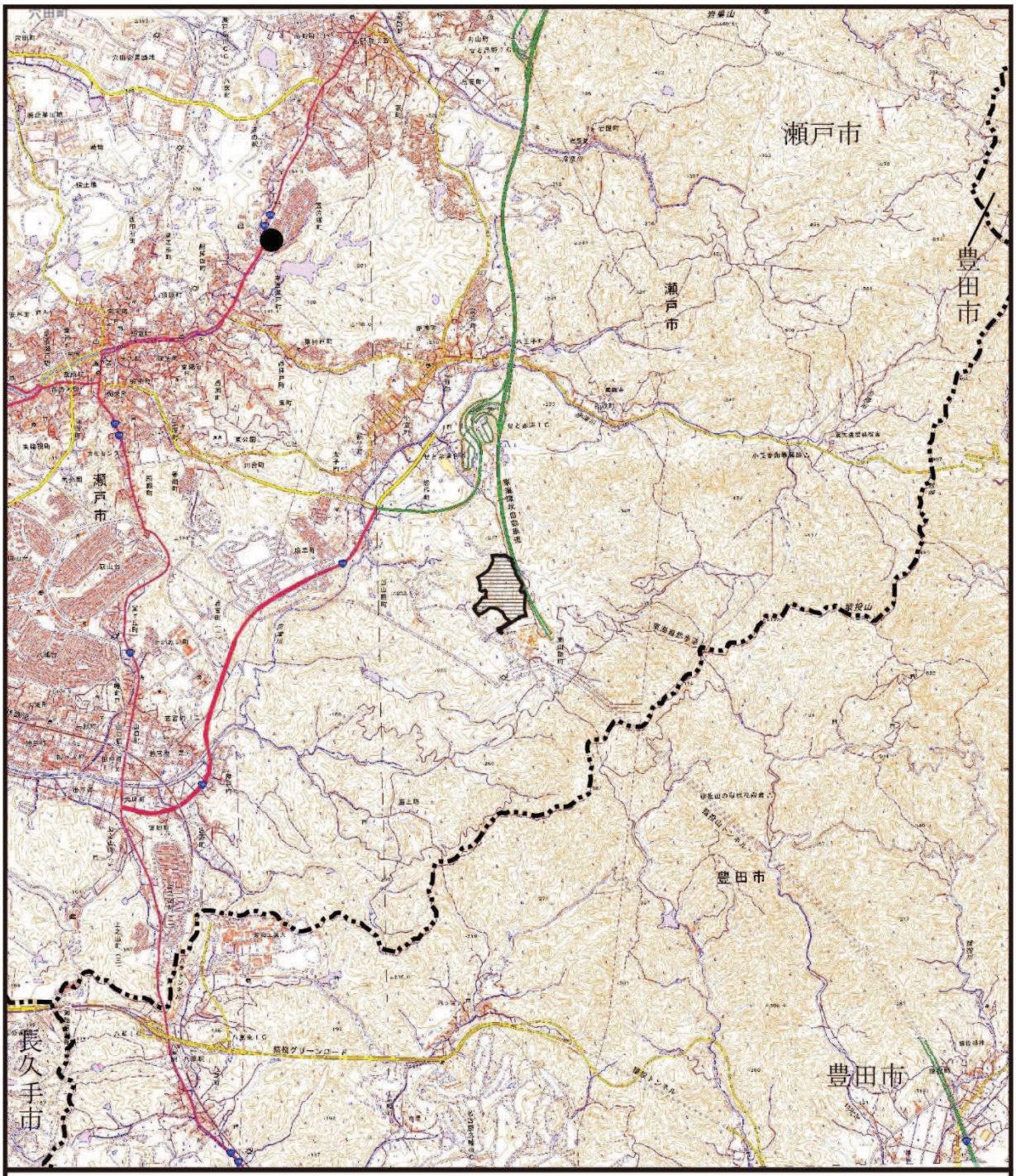

瀬戸市
豊田市
長久手市
豊田市
凡　例
：市町村界
：対象事業実施区域
台地及び低地土壌（農地土壌）
グライ台地土壌
Ok 岡田統
グライ土壌
Tr 寺津統
Ks 開正統
灰色低地土壌
Kw 桑ヶ谷統
Hr 針曽根統
細粒灰色低地土壌
Oh 大治統
黄色土壌
Ot 乙部統
Fr 古屋統
Ds 大泉寺統
山地及び丘陵地の土壌（林地土壌）
乾性褐色森林土壌
Kamh-1 上半田川1統
乾性褐色森林土壌（黄褐系）
Mry-1 村積山1統
Set-1 瀬戸1統
乾性褐色森林土壌（赤褐系）
Kamh-3 上半田川3統
褐色森林土壌（黄褐系）
Mry-2 村積山2統
褐色森林土壌（黄褐系）
Set-2 瀬戸2統
乾性褐色森林土壌（未熟土系）
Sgm 三ヶ峰統
Any 相野山統
Yada 矢田川統
Ums 馬ヶ城統
出典：「5万分の1土地分類基本調査」（令和3年4月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）
N
1:50,000
0 500 1,000 2,000 m

図 1.3.1-20　土壌図



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：形質変更時要届出区域

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域の指定状況」
（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

図 1.3.1-21　土壌汚染対策法に基づく区域の指定状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.8 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1.3.1.8.1 動物

(1) 動物相の概要

事業実施区域周辺の動物の状況については、表1.3.1-27に示す既存資料により整理した。

表1.3.1-27　確認文献一覧

番号	文献	分布想定種
①	「自然環境保全基礎調査第2回～第6回」（昭和53年～平成17年、環境省）	調査対象とした（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、陸産貝類、底生動物）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種
②	「レッドデータブックあいち 2020」（令和2年3月、愛知県）	調査対象とした（哺乳類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、陸産貝類、底生動物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種または瀬戸市で分布が確認された種
③	「海上の森 確認種リスト」（令和2年11月閲覧、愛知県）	調査対象とした（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、陸産貝類、底生動物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）のうち、文献に記載されている種
④	「第２次瀬戸市環境基本計画 年次報告書」（平成27年度～令和元年度、瀬戸市）	調査対象とした（底生動物）のうち、調査範囲で確認されている種
⑤	「愛知の野鳥 1995」（平成8年3月、愛知県）	調査対象とした（鳥類）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種

ア. 哺乳類

事業実施区域周辺でみられる哺乳類は、表1.3.1-28に示すとおり、7目18科38種である。

表1.3.1-28　確認種一覧（哺乳類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	モグラ目（食虫目）	トガリネズミ科	ジネズミ	*Crocidura dsinezumi*	●		●
2		モグラ科	ヒミズ	*Urotrichus talpoides*	●		●
3			アズマモグラ	*Mogera imaizumii*	●	●	●
4			コウベモグラ	*Mogera wogura*	●		●
－			モグラ属	*Mogera* sp.			●
5	コウモリ目（翼手目）	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	*Rhinolophus cornutus*		●	●
6			キクガシラコウモリ	*Rhinolophus ferrumequinum*		●	●
7		ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	*Pipistrellus abramus*	●		●
8			ヤマコウモリ	*Nyctalus aviator*		●	
9			コテングコウモリ	*Murina ussuriensis*		●	
10			テングコウモリ	*Murina leucogaster*		●	
－		－	コウモリ目（翼手目）	*Chiroptera* sp.			●
11	サル目（霊長目）	オナガザル科	ニホンザル	*Macaca fuscata*	●		●
12	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	*Lepus brachyurus*	●	●	●
13	ネズミ目（齧歯目）	リス科	クリハラリス	*Callosciurus erythraeus*	●		
14			ニホンリス	*Sciurus lis*	●	●	●
15			ムササビ	*Petaurista leucogenys*	●	●	●
16		ネズミ科	スミスネズミ	*Eothenomys smithii*	●	●	●
17			ハタネズミ	*Microtus montebelli*	●		
18			アカネズミ	*Apodemus speciosus*	●		●
19			ヒメネズミ	*Apodemus argenteus*	●		●
20			カヤネズミ	*Micromys minutus*	●	●	●
21			ハツカネズミ	*Mus musculus*	●		
22			クマネズミ	*Rattus rattus*	●		
23			ドブネズミ	*Rattus norvegicus*	●		
－			ネズミ科	*Muridae* sp.			●
24		ヌートリア科	ヌートリア	*Myocastor coypus*	●		●
25	ネコ目（食肉目）	クマ科	ツキノワグマ	*Ursus thibetanus japonicus*	●	●	●
26		アライグマ科	アライグマ	*Procyon lotor*			●
27		イヌ科	タヌキ	*Nyctereutes procyonoides*	●		●
28			キツネ	*Vulpes vulpes*	●		●
29			ノイヌ	*Canis familiaris*	●		●
30		イタチ科	テン	*Martes melampus*	●	●	●
31			チョウセンイタチ	*Mustela sibirica coreana*	●		
32			イタチ	*Mustela itatsi*	●		●
－			イタチ属	*Mustela* sp.			●
33			ニホンアナグマ	*Meles meles anakuma*	●		●
34		ジャコウネコ科	ハクビシン	*Paguma larvata*			●
35		ネコ科	ノネコ	*Felis catus*			●
36	ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	ニホンイノシシ	*Sus scrofa leucomystax*	●		●
37		シカ科	ニホンジカ	*Cervus nippon*	●		●
38		ウシ科	カモシカ	*Capricornis crispus*	●		●
	7	18	38		30	13	33

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

イ．鳥類

事業実施区域周辺でみられる鳥類は、表1.3.1-29に示すとおり、19目54科176種である。

表1.3.1-29(1)　確認種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	③	⑤
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	*Bambusicola thoracicus thoracicus*	●	●	●
2			ヤマドリ	*Syrmaticus soemmerringii scintillans*	●	●	●
3			キジ	*Phasianus colchicus robustipes*	●	●	●
－			キジ科	*Phasianidae* sp.		●	
4	カモ目	カモ科	オシドリ	*Aix galericulata*	●	●	
5			ヨシガモ	*Anas falcata*	●	●	
6			ヒドリガモ	*Anas penelope*		●	
7			マガモ	*Anas platyrhynchos platyrhynchos*	●	●	
8			カルガモ	*Anas zonorhyncha*	●	●	●
9			ハシビロガモ	*Anas clypeata*	●	●	
10			オナガガモ	*Anas acuta*	●	●	
11			コガモ	*Anas crecca crecca*	●	●	●
12			ホシハジロ	*Aythya ferina*	●	●	
13			キンクロハジロ	*Aythya fuligula*		●	
14			スズガモ	*Aythya marila marila*		●	
15			ミコアイサ	*Mergellus albellus*	●	●	
16	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	*Tachybaptus ruficollis poggei*	●	●	●
17	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	*Columba livia*	●	●	●
18			キジバト	*Streptopelia orientalis orientalis*	●	●	●
19			アオバト	*Treron sieboldii sieboldii*		●	●
20	カツオドリ目	ウ科	カワウ	*Phalacrocorax carbo hanedae*	●	●	●
21	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	*Ixobrychus sinensis sinensis*		●	
22			ミゾゴイ	*Gorsachius goisagi*	●	●	
23			ゴイサギ	*Nycticorax nycticorax nycticorax*	●	●	
24			ササゴイ	*Butorides striata amurensis*		●	
25			アマサギ	*Bubulcus ibis coromandus*	●	●	●
26			アオサギ	*Ardea cinerea jouyi*	●	●	●
27			ダイサギ	*Ardea alba alba*	●	●	●
28			チュウダイサギ	*Ardea alba modesta*			
29			チュウサギ	*Egretta intermedia intermedia*	●	●	●
30			コサギ	*Egretta garzetta garzetta*	●	●	●
－			サギ科	*Ardeidae* sp.		●	
31	ツル目	クイナ科	クイナ	*Rallus aquaticus indicus*	●	●	●
32			ヒクイナ	*Porzana fusca erythrothorax*	●	●	●
33			バン	*Gallinula chloropus chloropus*	●	●	
34			オオバン	*Fulica atra atra*		●	
35	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	*Hierococcyx hyperythrus*		●	
36			ホトトギス	*Cuculus poliocephalus*	●	●	●
37			ツツドリ	*Cuculus optatus*		●	●
38			カッコウ	*Cuculus canorus telephonus*	●	●	●
39	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	*Caprimulgus indicus jotaka*	●	●	●
40	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	*Hirundapus caudacutus caudacutus*		●	●

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

表1.3.1-29(2)　確認種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	③	⑤
41	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ	*Apus pacificus kurodae*		●	●
42			ヒメアマツバメ	*Apus nipalensis kuntzi*		●	
43	チドリ目	チドリ科	タゲリ	*Vanellus vanellus*	●		
44			ケリ	*Vanellus cinereus*	●	●	
45			イカルチドリ	*Charadrius placidus*	●	●	
46			コチドリ	*Charadrius dubius curonicus*	●	●	
47			シロチドリ	*Charadrius alexandrinus dealbatus*		●	
48		シギ科	ヤマシギ	*Scolopax rusticola*		●	●
49			アオシギ	*Gallinago solitaria japonica*		●	
50			タシギ	*Gallinago gallinago gallinago*	●	●	
51			チュウシャクシギ	*Numenius phaeopus variegatus*		●	
52			アオアシシギ	*Tringa nebularia*		●	
53			クサシギ	*Tringa ochropus*	●	●	
54			タカブシギ	*Tringa glareola*		●	
55			キアシシギ	*Heteroscelus brevipes*		●	
56			イソシギ	*Actitis hypoleucos*	●	●	●
57			トウネン	*Calidris ruficollis*		●	
58			ハマシギ	*Calidris alpina sakhalina*	●	●	
－			タシギ属	*Gallinago* sp.		●	
59		タマシギ科	タマシギ	*Rostratula benghalensis benghalensis*	●	●	
60		カモメ科	ユリカモメ	*Larus ridibundus*	●	●	
61			コアジサシ	*Sterna albifrons sinensis*	●	●	
62	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	*Pandion haliaetus haliaetus*		●	
63		タカ科	ハチクマ	*Pernis ptilorhynchus orientalis*		●	●
64			トビ	*Milvus migrans lineatus*	●	●	
65			ツミ	*Accipiter gularis gularis*		●	●
66			ハイタカ	*Accipiter nisus nisosimilis*	●	●	●
67			オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*	●	●	
68			サシバ	*Butastur indicus*	●	●	●
69			ノスリ	*Buteo buteo japonicus*	●	●	●
－			ハイタカ属	*Accipiter* sp.		●	
70	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	*Otus lempiji semitorques*		●	
71			コノハズク	*Otus sunia japonicus*			●
72			フクロウ	*Strix uralensis hondoensis*	●	●	●
73			アオバズク	*Ninox scutulata japonica*	●	●	
74			トラフズク	*Asio otus otus*		●	
75	サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ	*Upupa epops saturata*			●
76	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	*Halcyon coromanda major*		●	
77			カワセミ	*Alcedo atthis bengalensis*	●	●	●
78			ヤマセミ	*Megaceryle lugubris lugubris*	●	●	●
79		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	*Eurystomus orientalis calonyx*		●	
80	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	*Jynx torquilla japonica*	●	●	

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

表1.3.1-29(3)　確認種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	③	⑤
81	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	*Dendrocopos kizuki nippon*	●	●	●
82			オオアカゲラ	*Dendrocopos leucotos stejnegeri*		●	
83			アカゲラ	*Dendrocopos major hondoensis*	●	●	●
84			アオゲラ	*Picus awokera awokera*	●	●	●
85	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	*Falco tinnunculus interstinctus*	●	●	●
86			チゴハヤブサ	*Falco subbuteo subbuteo*		●	
87			ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*		●	
－			ハヤブサ属	*Falco　sp.*		●	
88	インコ目	インコ科	セキセイインコ	*Melopsittacus undulatus*	●		
89		オウム科	オカメインコ	*Nymphicus hollandicus*		●	
90	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	*Pitta nympha*		●	
91		サンショウクイ科	サンショウクイ	*Pericrocotus divaricatus divaricatus*	●	●	●
92		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	*Terpsiphone atrocaudata atrocaudata*	●	●	●
93		モズ科	モズ	*Lanius bucephalus bucephalus*	●	●	●
94			アカモズ	*Lanius cristatus superciliosus*		●	
95		カラス科	カケス	*Garrulus glandarius japonicus*	●	●	●
96			ハシボソガラス	*Corvus corone orientalis*	●	●	●
97			ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos japonensis*	●	●	●
98		キクイタダキ科	キクイタダキ	*Regulus regulus japonensis*	●	●	●
99		シジュウカラ科	コガラ	*Poecile montanus restrictus*	●	●	●
100			ヤマガラ	*Poecile varius varius*	●	●	●
101			ヒガラ	*Periparus ater insularis*	●	●	●
102			シジュウカラ	*Parus minor minor*	●	●	●
103		ヒバリ科	ヒバリ	*Alauda arvensis japonica*	●	●	●
104		ツバメ科	ショウドウツバメ	*Riparia riparia ijimae*		●	●
105			ツバメ	*Hirundo rustica gutturalis*	●	●	●
106			コシアカツバメ	*Hirundo daurica japonica*	●	●	●
107			イワツバメ	*Delichon dasypus dasypus*	●	●	●
108		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	*Hypsipetes amaurotis amaurotis*	●	●	●
109		ウグイス科	ウグイス	*Cettia diphone cantans*	●	●	●
110			ヤブサメ	*Urosphena squameiceps*	●	●	●
111		エナガ科	エナガ	*Aegithalos caudatus trivirgatus*	●	●	●
112		ムシクイ科	エゾムシクイ	*Phylloscopus borealoides*		●	●
113			センダイムシクイ	*Phylloscopus coronatus*	●	●	●
114			メボソムシクイ	*Phylloscopus xanthodryas*			●
－			メボソムシクイ上種	*Phylloscopus borealis　s. l.*		●	
115		メジロ科	メジロ	*Zosterops japonicus japonicus*	●	●	●
116		ヨシキリ科	オオヨシキリ	*Acrocephalus orientalis*	●	●	●
117			コヨシキリ	*Acrocephalus bistrigiceps bistrigiceps*		●	
118		セッカ科	セッカ	*Cisticola juncidis brunniceps*	●	●	●
119		レンジャク科	ヒレンジャク	*Bombycilla japonica*		●	●
120		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	*Sitta europaea amurensis*		●	

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

表1.3.1-29(4)　確認種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	③	⑤
121	スズメ目	キバシリ科	キバシリ	*Certhia familiaris japonica*		●	
122		ミソサザイ科	ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes fumigatus*	●	●	●
123		チメドリ科	ソウシチョウ	*Leiothrix lutea*		●	
124		ムクドリ科	ムクドリ	*Spodiopsar cineraceus*	●	●	●
125			コムクドリ	*Agropsar philippensis*		●	
126		カワガラス科	カワガラス	*Cinclus pallasii pallasii*	●	●	●
127		ヒタキ科	マミジロ	*Zoothera sibirica davisoni*		●	
128			トラツグミ	*Zoothera dauma aurea*		●	●
129			クロツグミ	*Turdus cardis*		●	●
130			マミチャジナイ	*Turdus obscurus*		●	
131			シロハラ	*Turdus pallidus*	●	●	●
132			アカハラ	*Turdus chrysolaus chrysolaus*		●	●
133			ツグミ	*Turdus naumanni eunomus*	●	●	●
134			ハチジョウツグミ	*Turdus naumanni naumanni*		●	
135			コマドリ	*Luscinia akahige akahige*		●	
136			ノゴマ	*Luscinia calliope*		●	
137			コルリ	*Luscinia cyane bochaiensis*		●	●
138			ルリビタキ	*Tarsiger cyanurus cyanurus*	●	●	●
139			ジョウビタキ	*Phoenicurus auroreus auroreus*	●	●	●
140			ノビタキ	*Saxicola torquatus stejnegeri*	●	●	●
141			イソヒヨドリ	*Monticola solitarius philippensis*		●	
142			エゾビタキ	*Muscicapa griseisticta*		●	
143			サメビタキ	*Muscicapa sibirica sibirica*		●	
144			コサメビタキ	*Muscicapa dauurica dauurica*	●	●	●
145			キビタキ	*Ficedula narcissina narcissina*	●	●	●
146			ムギマキ	*Ficedula mugimaki*		●	
147			オオルリ	*Cyanoptila cyanomelana cyanomelana*	●	●	●
148		イワヒバリ科	カヤクグリ	*Prunella rubida*	●	●	●
149		スズメ科	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans rutilans*		●	
150			スズメ	*Passer montanus saturatus*	●	●	●
151		セキレイ科	キセキレイ	*Motacilla cinerea cinerea*	●	●	●
152			ハクセキレイ	*Motacilla alba lugens*	●	●	●
153			セグロセキレイ	*Motacilla grandis*	●	●	●
154			ビンズイ	*Anthus hodgsoni hodgsoni*	●	●	●
155			タヒバリ	*Anthus rubescens japonicus*	●	●	●
156		アトリ科	アトリ	*Fringilla montifringilla*		●	●
157			カワラヒワ	*Chloris sinica minor*	●	●	●
158			マヒワ	*Carduelis spinus*	●	●	●
159			ベニヒワ	*Carduelis flammea flammea*		●	
160			ベニマシコ	*Uragus sibiricus sanguinolentus*	●	●	●
161			オオマシコ	*Carpodacus roseus*		●	
162			イスカ	*Loxia curvirostra japonica*		●	

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

表1.3.1-29(5)　確認種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	③	⑤
163	スズメ目	アトリ科	アカウソ	*Pyrrhula pyrrhula rosacea*		●	
164			ウソ	*Pyrrhula pyrrhula griseiventris*		●	●
165			シメ	*Coccothraustes coccothraustes japonicus*	●	●	●
166			コイカル	*Eophona migratoria migratoria*		●	●
167			イカル	*Eophona personata personata*	●	●	●
168		カエデチョウ科	ギンパラ	*Lonchura malacca*	●		
169		ホオジロ科	ホオジロ	*Emberiza cioides ciopsis*	●	●	●
170			ホオアカ	*Emberiza fucata fucata*		●	
171			カシラダカ	*Emberiza rustica latifascia*	●	●	●
172			ミヤマホオジロ	*Emberiza elegans elegans*	●	●	●
173			ノジコ	*Emberiza sulphurata*		●	●
174			アオジ	*Emberiza spodocephala personata*	●	●	●
175			クロジ	*Emberiza variabilis*		●	●
176			オオジュリン	*Emberiza schoeniclus pyrrhulina*	●	●	●
	19	54	176		107	175	103

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

ウ. 爬虫類

事業実施区域周辺でみられる爬虫類は、表1.3.1-30に示すとおり、2目9科15種である。

表1.3.1-30　確認種一覧（爬虫類）

号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	*Mauremys japonica*		●	●
2			クサガメ	*Mauremys reevesii*	●		●
3		ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	*Trachemys scripta elegans*	●		
4		スッポン科	ニホンスッポン	*Pelodiscus sinensis*		●	
5	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	*Gekko japonicus*			●
6		トカゲ科	ニホントカゲ	*Plestiodon japonicus*	●		●
7		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	*Takydromus tachydromoides*	●		●
8		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	*Achalinus spinalis*		●	●
9		ナミヘビ科	シマヘビ	*Elaphe quadrivirgata*	●		●
10			アオダイショウ	*Elaphe climacophora*			●
11			ジムグリ	*Euprepiophis conspicillatus*	●		●
12			シロマダラ	*Dinodon orientale*	●		●
13			ヒバカリ	*Hebius vibakari vibakari*	●		●
14			ヤマカガシ	*Rhabdophis tigrinus*	●	●	●
15		クサリヘビ科	ニホンマムシ	*Gloydius blomhoffii*			●
	2	9	15		9	4	13

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

エ．両生類

事業実施区域周辺でみられる爬虫類は、表1.3.1-31に示すとおり、2目8科15種である。

表1.3.1-31　確認種一覧（両生類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	有尾目	サンショウウオ科	ヤマトサンショウウオ	*Hynobius vandenburghi*	●	●	
2		オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	*Andrias japonicus*		●	
3		イモリ科	アカハライモリ	*Cynops pyrrhogaster*	●	●	●
4	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	*Bufo japonicus formosus*	●		●
5		アマガエル科	ニホンアマガエル	*Hyla japonica*	●		●
6		アカガエル科	タゴガエル	*Rana tagoi tagoi*	●		●
7			ニホンアカガエル	*Rana japonica*	●		●
8			ヤマアカガエル	*Rana ornativentris*			●
9			トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*	●		●
10			ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*	●	●	●
11			ウシガエル	*Lithobates catesbeianus*	●		●
12			ツチガエル	*Glandirana rugosa*	●		●
13		ヌマガエル科	ヌマガエル	*Fejervarya kawamurai*	●		●
14		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	*Zhangixalus schlegelii*	●		●
15			カジカガエル	*Buergeria buergeri*		●	
	2	8	15		12	5	12

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

オ. 魚類

事業実施区域周辺でみられる魚類は、表1.3.1-32に示すとおり、8目16科37種である。

表1.3.1-32　確認種一覧（魚類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類	*Lethenteron* sp.N and/or sp.S		●	
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	*Anguilla japonica*	●	●	
3	コイ目	コイ科	コイ(飼育型)	*Cyprinus carpio*	●		●
4			フナ類	*Carassius buergeri*			
5			ギンブナ	*Carassius* sp.	●		●
－			フナ属	*Carassius* spp.	●		●
6			タイリクバラタナゴ	*Rhodeus ocellatus ocellatus*	●		
7			カワバタモロコ	*Hemigrammocypris neglectus*		●	●
8			オイカワ	*Opsariichthys platypus*	●		●
9			カワムツ	*Candidia temminckii*	●		●
10			カワムツ属	*Zacco* spp.	●		
11			アブラハヤ	*Rhynchocypris lagowskii steindachneri*			●
12			ウグイ	*Pseudaspius hakonensis*	●		
13			モツゴ	*Pseudorasbora parva*	●		●
14			ウシモツゴ	*Pseudorasbora pugnax*	●		
15			カワヒガイ	*Sarcocheilichthys variegatus variegatus*		●	
16			タモロコ	*Gnathopogon elongatus elongatus*	●		●
17			ゼゼラ	*Biwia zezera*		●	
18			カマツカ	*Pseudogobio esocinus*	●		●
19			イトモロコ	*Squalidus gracilis gracilis*		●	
20		ドジョウ科	ドジョウ	*Misgurnus anguillicaudatus*	●	●	●
21			ニシシマドジョウ	*Cobitis* sp. BIWAE type B	●	●	
22			アジメドジョウ	*Niwaella delicata*	●		
23		フクドジョウ科	ホトケドジョウ	*Lefua echigonia*		●	●
24	ナマズ目	ギギ科	ネコギギ	*Tachysurus ichikawai*		●	
25		ナマズ科	ナマズ	*Silurus asotus*	●		●
26		アカザ科	アカザ	*Liobagrus reinii*		●	
27	サケ目	アユ科	アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*	●		
28	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	*Gambusia affinis*			●
29	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	*Oryzias latipes*		●	●
30	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	*Lepomis macrochirus macrochirus*	●		●
31			オオクチバス	*Micropterus salmoides*	●		●
32		カジカ科	カマキリ	*Rheopresbe kazika*		●	
33		ドンコ科	ドンコ	*Odontobutis obscura*		●	●
34		カワアナゴ科	カワアナゴ	*Eleotris oxycephala*		●	
35		ハゼ科	カワヨシノボリ	*Rhinogobius flumineus*	●		●
36			オオヨシノボリ	*Rhinogobius fluviatilis*		●	
37			トウヨシノボリ類	*Rhinogobius* sp.OR unidentified	●		
－			ヨシノボリ属	*Rhinogobius* spp.	●		●
	8	16	37		23	16	20

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

カ．昆虫類

事業実施区域周辺でみられる昆虫類は、表1.3.1-33に示すとおり、22目2,902種である。なお、確認種の詳細は資料編に示す。

表1.3.1-33　確認種一覧（昆虫類）

目名	主な確認種	種数
トビムシ目	ミズトビムシ	6
イシノミ目	イシノミ	1
カゲロウ目	ナミトビイロカゲロウ、トゲトビイロカゲロウ	21
トンボ目	ホソミオツネントンボ、コバネアオイトトンボ	83
ゴキブリ目	オオゴキブリ、ヤマトゴキブリ	4
カマキリ目	ヒメカマキリ、ハラビロカマキリ	6
シロアリ目	ヤマトシロアリ	1
ハサミムシ目	ヒゲジロハサミムシ、ハマベハサミムシ	5
カワゲラ目	セスジミドリカワゲラ、クロヒゲカワゲラ	11
バッタ目	ハネナシコロギス、コロギス	81
ガロアムシ目	ガロアムシ目の一種	1
ナナフシ目	ニホントビナナフシ、トゲナナフシ	4
チャタテムシ目	ウスベニチャタテ、オオチャタテ	5
カメムシ目	ウチワコガシラウンカ、ナワコガシラウンカ	292
ヘビトンボ目	ヤマトクロスジヘビトンボ、ヘビトンボ	4
アミメカゲロウ目	オガタヒロバカゲロウ、スカシヒロバカゲロウ	16
シリアゲムシ目	オオハサミシリアゲ、キシタトゲシリアゲ	6
トビケラ目	コガタシマトビケラ、ナミコガタシマトビケラ	47
チョウ目	コウモリガ、キマダラコウモリ	886
ハエ目	マダラオトヒメガガンボ、ホソバネヒメガガンボ	248
コウチュウ目	オオホソクビゴミムシ、ミイデラゴミムシ	945
ハチ目	ニホンアカズヒラタハバチ、ツヤヒラタハバチ	229
22		2,902

キ. クモ類

事業実施区域周辺でみられる昆虫類は、表1.3.1-34に示すとおり、35科203種である。なお、確認種の詳細は資料編に示す。

表1.3.1-34　確認種一覧（クモ類）

科名	種数	科名	種数
ジグモ科	2	ササグモ科	2
カネコトタテグモ科	1	シボグモ科	1
トタテグモ科	2	タナグモ科	2
マシラグモ科	1	ナミハグモ科	1
ユウレイグモ科	1	ハグモ科	1
エンマグモ科	1	ガケジグモ科	6
タマゴグモ科	2	イヅツグモ科	1
センショウグモ科	3	ウエムラグモ科	3
ウズグモ科	4	フクログモ科	8
ヒメグモ科	30	ネコグモ科	1
カラカラグモ科	1	ワシグモ科	5
ヨリメグモ科	1	アワセグモ科	1
コツブグモ科	1	アシダカグモ科	1
サラグモ科	23	エビグモ科	4
アシナガグモ科	9	カニグモ科	13
コガネグモ科	38	ハエトリグモ科	14
コモリグモ科	15	チリグモ科	1
キシダグモ科	3		
総計	総計		
35	203		

ク．陸産貝類

事業実施区域周辺でみられる陸産貝類は、表1.3.1-35に示すとおり、2目14科54種である。

表1.3.1-35(1)　確認種一覧（陸産貝類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	ニナ目	ヤマタニシ科	ヤマタニシ	*Cyclophorus herklotsi*	●		●
2			ミジンヤマタニシ	*Nakadaella micron*	●		●
3		ゴマガイ科	ウゼンゴマガイ	*Diplommatina uzenensis*			●
4			ヒダリマキゴマガイ	*Palaina pusilla pusilla*	●		●
5			オジマヒダリマキゴマガイ	*Palaina pusilla paucicostata*	●		
6	マイマイ目	オカモノアラガイ科	リュウキュウヒメオカモノアラガイ	*Neosuccinea lyrata*	●		
7			ヒメオカモノアラガイ	*Neosuccinea horticola*	●		●
8		キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ	*Mirus reinianus*	●		
9		キセルガイ科	ナミコギセル	*Euphaedusa tau tau*	●		●
10			オオギセル	*Megalophaedusa martensi*	●		
11			コンボウギセル	*Mesophaedusa hickonis*	●		
12			ミカワギセル	*Mesophaedusa hickonis mikawa*	●		
13			チビギセル	*Pinguiphaedusa expansilabris*	●		●
14			キイツムガタギセル	*Pinguiphaedusa pinguis*	●		
15			ツムガタギセル	*Pinguiphaedusa pinguis platydera*	●		
16			ナミギセル	*Stereophaedusa japonica japonica*			●
17			ウスベニギセル	*Tyrannophaedusa aurantiaca aurantiaca*	●		●
18			エルベリギセル	*Tyrannophaedusa aurantiaca erberi*			●
19			ホソヒメギセル	*Tyrannophaedusa gracilispira*	●		
20		オカチョウジガイ科	マルオカチョウジガイ	*Allopeas brevispirum*			●
21			オカチョウジガイ	*Allopeas clavulinum kyotoense*	●		●
22			トクサオカチョウジガイ	*Allopeas javanicum*	●		●
23			ホソオカオカチョウジガイ	*Allopeas pyrgula*	●		
24		ナタネガイ科	ナタネガイ	*Punctum amblygonum*	●		●
25		コハクガイ科	ヒメコハクガイ	*Hawaiia minuscula*			●
26			コハクガイ	*Zonitoides arboreus*	●		●
27		ナメクジ科	ナメクジ	*Meghimatium bilineatum*	●		●
28			ヤマナメクジ	*Meghimatium fruhstorferi*	●		●
29		コウラナメクジ科	キイロナメクジ	*Limax flavus*	●		
－			コウラナメクジ科	*Limacoidae* sp.			●
30		ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウガイ	*Bekkochlamys micrograpta*	●		
31			キビガイ	*Gastrodontella multivolvis*	●		●
32			エナクリイロベッコウ	*Japanochlamys shinanoensis*	●		
33			カサキビ	*Trochochlamys crenulata crenulata*	●		●
34			オオウエキビ	*Trochochlamys fraterna*	●		●
35			ヒメカサキビ	*Trochochlamys subcrenulata subcrenulata*	●		●
36			ウラジロベッコウ	*Urazirochlamys doenitzii*	●		●
37			ナミヒメベッコウ	*Yamatochlamys vaga vaga*			●

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

表1.3.1-35(2)　確認種一覧（陸産貝類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
38	マイマイ目	ニッポンマイマイ科	ニッポンマイマイ	*Satsuma japonica japonica*	●		●
39			カドバリニッポンマイマイ	*Satsuma japonica carinata*	●		
40			コベソマイマイ	*Satsuma myomphala myomphala*	●		●
41			ヤマタカマイマイ	*Satsuma papilliformis*	●		
42		オナジマイマイ科	オキナワウスカワマイマイ	*Acusta despecta*	●		
43			ウスカワマイマイ	*Acusta despecta sieboldiana*	●		●
44			アラハダヒロベソマイマイ	*Aegista proba*	●		
45			オオケマイマイ	*Aegista vulgivaga vulgivaga*	●		●
46			オナジマイマイ	*Bradybaena similaris*	●		●
47			ヒラマイマイ	*Euhadra eoa eoa*	●		●
48			ギューリキマイマイ	*Euhadra eoa gulickii*	●		
49			イセノナミマイマイ	*Euhadra eoa communisiformis*			●
50			ミヤマヒダリマキマイマイ	*Euhadra scaevola*	●		
51			マメマイマイ	*Trishoplita commoda*	●		
52			エンドウマイマイ	*Trishoplita commoda endo*	●		
53			エンスイマイマイ	*Trishoplita conospira*			●
54		タワラガイ科	タワラガイ	*Sinoennea iwakawa*	●		
	2	14	54		46	0	33

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

ケ. 底生動物

事業実施区域周辺でみられる底生動物は、表1.3.1-36に示すとおり、19目66科109種である。なお、確認種の詳細は資料編に示す。

表1.3.1-36　確認種一覧（底生動物）

分類		目数	科数	種数	文献			
					①	②	③	④
軟体動物門		5	7	14	12	0	10	0
環形動物門		3	3	3	0	0	4	0
節足動物門	軟甲綱	3	6	7	0	0	8	0
	昆虫綱	8	50	85	0	41	47	1
計		19	66	109	12	41	69	1

注）文献番号は、表1.3.1-27の番号と対応する。

(2) 重要な動物種

確認された種のうち、重要な動物種を抽出した。重要な動物種の選定根拠は表1.3.1-37に、選定基準は表1.3.1-38に示すとおりである。

表1.3.1-37　重要な動物の選定根拠

番号	法令・文献等	選定基準
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和25年5月30日、法律第214号）	・特別天然記念物（特天） ・天然記念物（国天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」（平成4年6月5日、法律第75号）	・国内希少野生動植物（国内） ・国際希少野生動植物（国際）
Ⅲ	「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日環境省報道発表資料、環境省）	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ・絶滅危惧ⅠB類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅳ	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち2020」（令和2年3月、愛知県）	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・地域個体群（LP） ・国リスト（国）
Ⅴ	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年3月30日条例第3号、愛知県)	・指定希少野生動植物種（●）

注）「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち2020」（令和2年3月、愛知県)における鳥類の重要種選定では、評価の対象を「繁殖」と非繁殖期の「通過」又は「越冬」の個体群として、2通りの評価を行っており、繁殖していない種についても「通過」又は「越冬」の個体群としての評価を実施している。

表1.3.1-38　重要な動物の選定基準

番号	選定基準	評価基準
Ⅰ	特別天然記念物（特天）	天然記念物のうち世界的にまた国家的に価値が特に高いもの
	天然記念物（国天）	動物植物及び地質鉱物のうち学術上重要で、我が国の自然を記念するもの
Ⅱ	国内希少野生動植物（国内）	国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（または亜種・変種）
	国際希少野生動植物（国際）	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）
Ⅲ	絶滅（EX）	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧（NT）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
	情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
Ⅳ	絶滅（EX）	愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅（EW）	野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危機が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
	準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
	情報不足（DD）	「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種
	地域個体群（LP）	その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。
	国リスト（国）	環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県において選定基準に該当しない種
Ⅴ	指定希少野生動植物種（●）	愛知県内に生息し、又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種のうち、特に保護を図る必要があると認めるもの

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

ア．哺乳類

事業実施区域周辺でみられる哺乳類の重要種は、表1.3.1-39に示すとおり、6目9科16種である。

表1.3.1-39　重要種一覧（哺乳類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	モグラ目（食虫目）	モグラ科	アズマモグラ	*Mogera imaizumii*				VU	
2	コウモリ目（翼手目）	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	*Rhinolophus cornutus*				NT	
3			キクガシラコウモリ	*Rhinolophus ferrumequinum*				NT	
4		ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	*Nyctalus aviator*			VU	CR	
5			コテングコウモリ	*Murina ussuriensis*				CR	
6			テングコウモリ	*Murina leucogaster*				EN	
7	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	*Lepus brachyurus*				NT	
8	ネズミ目（齧歯目）	リス科	ニホンリス	*Sciurus lis*				NT	
9			ムササビ	*Petaurista leucogenys*				NT	
10		ネズミ科	スミスネズミ	*Eothenomys smithii*				NT	
11			ハタネズミ	*Microtus montebelli*				NT	
12			カヤネズミ	*Micromys minutus*				VU	
13	ネコ目（食肉目）	クマ科	ツキノワグマ	*Ursus thibetanus japonicus*				CR	
14		イタチ科	テン	*Martes melampus*				NT	
15			ニホンアナグマ	*Meles meles anakuma*				DD	
16	ウシ目（偶蹄目）	ウシ科	カモシカ	*Capricornis crispus*	特天				
	6	9	16		1	0	1	15	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

イ．鳥類

事業実施区域周辺でみられる鳥類の重要種は、表1.3.1-40に示すとおり、12目25科49種である。

表1.3.1-40(1)　重要種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等						
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ※1	Ⅳ※2	Ⅳ※3	Ⅴ
1	カモ目	カモ科	オシドリ	*Aix galericulata*			DD	NT			
2	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	*Ixobrychus sinensis sinensis*			NT	CR		CR	
3			ミゾゴイ	*Gorsachius goisagi*			VU	EN		VU	
4			チュウサギ	*Egretta intermedia intermedia*			NT	国		国	
5	ツル目	クイナ科	クイナ	*Rallus aquaticus indicus*					NT		
6			ヒクイナ	*Porzana fusca erythrothorax*			NT	NT		NT	
7			バン	*Gallinula chloropus chloropus*				VU	NT		
8	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	*Hierococcyx hyperythrus*				VU		NT	
9			ツツドリ	*Cuculus optatus*				VU		NT	
10			カッコウ	*Cuculus canorus telephonus*				VU		NT	
11	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	*Caprimulgus indicus jotaka*			NT	EN		VU	
12	チドリ目	チドリ科	ケリ	*Vanellus cinereus*			DD	国	国		
13			イカルチドリ	*Charadrius placidus*				VU	NT		
14			シロチドリ	*Charadrius alexandrinus dealbatus*			VU	VU	VU		
15		シギ科	ヤマシギ	*Scolopax rusticola*					NT		
16			アオシギ	*Gallinago solitaria japonica*					VU		
17			タカブシギ	*Tringa glareola*			VU			EN	
18			ハマシギ	*Calidris alpina sakhalina*			NT		VU		
19		タマシギ科	タマシギ	*Rostratula benghalensis benghalensis*			VU	EN	EN		
20		カモメ科	コアジサシ	*Sterna albifrons sinensis*			VU	EN		VU	
21	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	*Pandion haliaetus haliaetus*			NT	NT			
22		タカ科	ハチクマ	*Pernis ptilorhynchus orientalis*			NT	VU		NT	
23			ツミ	*Accipiter gularis gularis*				NT			
24			ハイタカ	*Accipiter nisus nisosimilis*			NT		国		
25			オオタカ	*Accipiter gentilis fujiyamae*			NT	NT	NT		
26			サシバ	*Butastur indicus*			VU	EN		NT	
27	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	*Otus lempiji semitorques*				VU	NT		
28			コノハズク	*Otus sunia japonicus*				CR		VU	●
29			フクロウ	*Strix uralensis hondoensis*				NT	NT		
30			アオバズク	*Ninox scutulata japonica*				EN		VU	
31	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	*Halcyon coromanda major*				VU		NT	
32			ヤマセミ	*Megaceryle lugubris lugubris*				CR	EN		
33		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	*Eurystomus orientalis calonyx*			EN	EN		VU	
34	キツツキ目	キツツキ科	オオアカゲラ	*Dendrocopos leucotos stejnegeri*				VU	NT		
35	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	*Falco peregrinus japonensis*		国内	VU	VU	NT		

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。
※1）繁殖における評価
※2）越冬における評価
※3）通過における評価

表1.3.1-40(2)　重要種一覧（鳥類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等						
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ※1	Ⅳ※2	Ⅳ※3	Ⅴ
36	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	*Pitta nympha*		国内	EN	CR		VU	
37		サンショウクイ科	サンショウクイ	*Pericrocotus divaricatus divaricatus*			VU	国		国	
38		モズ科	アカモズ	*Lanius cristatus superciliosus*		国内	EN				
39		キバシリ科	キバシリ	*Certhia familiaris japonica*				VU	NT		
40		ミソサザイ科	ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes fumigatus*				NT			
41		カワガラス科	カワガラス	*Cinclus pallasii pallasii*				VU	VU		
42		ヒタキ科	マミジロ	*Zoothera sibirica davisoni*				EX		NT	
43			アカハラ	*Turdus chrysolaus chrysolaus*				CR			
44			コマドリ	*Luscinia akahige akahige*				CR		NT	
45			コルリ	*Luscinia cyane bochaiensis*				NT			
46			コサメビタキ	*Muscicapa dauurica dauurica*				NT			
47		セキレイ科	ビンズイ	*Anthus hodgsoni hodgsoni*				EX			
48		ホオジロ科	ホオアカ	*Emberiza fucata fucata*				CR			
49			ノジコ	*Emberiza sulphurata*			NT	EX		VU	
	12	25	49		0	3	23	42	18	21	1

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。
※1）繁殖における評価
※2）越冬における評価
※3）通過における評価

ウ. 爬虫類

事業実施区域周辺でみられる爬虫類の重要種は、表1.3.1-41に示すとおり、2目4科5種である。

表1.3.1-41　重要種一覧（爬虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	*Mauremys japonica*			NT	NT	
2		スッポン科	ニホンスッポン	*Pelodiscus sinensis*			DD	DD	
3	有鱗目	タカチホヘビ科	タカチホヘビ	*Achalinus spinalis*				DD	
4		ナミヘビ科	シロマダラ	*Dinodon orientale*				DD	
5			ヤマカガシ	*Rhabdophis tigrinus*				DD	
	2	4	5		0	0	2	5	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

エ. 両生類

事業実施区域周辺でみられる両生類の重要種は、表1.3.1-42に示すとおり、2目5科6種である。

表1.3.1-42　重要種一覧（両生類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	有尾目	サンショウウオ科	ヤマトサンショウウオ	*Hynobius vandenburghi*			VU	EN	
2		オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	*Andrias japonicus*	国天		VU	EN	
3		イモリ科	アカハライモリ	*Cynops pyrrhogaster*			NT	NT	
4	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	*Pelophylax nigromaculatus*			NT	国	
5			ナゴヤダルマガエル	*Pelophylax porosus brevipodus*			EN	VU	
6		アオガエル科	カジカガエル	*Buergeria buergeri*				NT	
	2	5	6		1	0	5	6	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

オ. 魚類

事業実施区域周辺でみられる魚類の重要種は、表1.3.1-43に示すとおり、6目12科18種である。

表1.3.1-43　重要種一覧（魚類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類	*Lethenteron* sp.N and/or sp.S				EN	
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	*Anguilla japonica*			EN	EN	
3	コイ目	コイ科	カワバタモロコ	*Hemigrammocypris neglectus*		国内	EN	EN	
4			ウシモツゴ	*Pseudorasbora pugnax*			CR	CR	●
5			カワヒガイ	*Sarcocheilichthys variegatus variegatus*			NT	CR	
6			ゼゼラ	*Biwia zezera*			VU	NT	
7			イトモロコ	*Squalidus gracilis gracilis*				NT	
8		ドジョウ科	ドジョウ	*Misgurnus anguillicaudatus*			NT	VU	
9			ニシシマドジョウ	*Cobitis* sp. BIWAE type B				VU	
10			アジメドジョウ	*Niwaella delicata*			VU		
11		フクドジョウ科	ホトケドジョウ	*Lefua echigonia*			EN	EN	
12	ナマズ目	ギギ科	ネコギギ	*Tachysurus ichikawai*	国天		EN	CR	
13		アカザ科	アカザ	*Liobagrus reinii*			VU	NT	
14	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	*Oryzias latipes*			VU	VU	
15	スズキ目	カジカ科	カマキリ	*Rheopresbe kazika*				EN	
16		ドンコ科	ドンコ	*Odontobutis obscura*				EN	
17		カワアナゴ科	カワアナゴ	*Eleotris oxycephala*				NT	
18		ハゼ科	オオヨシノボリ	*Rhinogobius fluviatilis*				NT	
	6	12	18		1	1	11	17	1

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

カ．昆虫類

事業実施区域周辺でみられる昆虫類の重要種は、表1.3.1-44に示すとおり、11目55科112種である。

表1.3.1-44(1)　重要種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	トンボ目	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	*Lestes japonicus*			EN	CR	
2		イトトンボ科	ベニイトトンボ	*Ceriagrion nipponicum*			NT	VU	
3			モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*			NT	NT	
4			オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*				EN	
5		モノサシトンボ科	グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*			NT	EN	
6		カワトンボ科	アオハダトンボ	*Calopteryx japonica*			NT	国	
7		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*			NT	NT	
8		サナエトンボ科	キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*			NT	NT	
9			ナゴヤサナエ	*Stylurus nagoyanus*			VU	NT	
10			メガネサナエ	*Stylurus oculatus*			VU	EN	
11			タベサナエ	*Trigomphus citimus tabei*			NT	国	
12			フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*			NT	VU	
13			オグマサナエ	*Trigomphus ogumai*			NT	VU	
14		エゾトンボ科	トラフトンボ	*Epitheca marginata*				NT	
15			キイロヤマトンボ	*Macromia daimoji*			NT	NT	
16			ハネビロエゾトンボ	*Somatochlora clavata*			VU	VU	
17			エゾトンボ	*Somatochlora viridiaenea*				VU	
18		トンボ科	キトンボ	*Sympetrum croceolum*				EN	
19			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*				NT	
20			マダラナニワトンボ	*Sympetrum maculatum*			EN	CR	
21	ゴキブリ目	オオゴキブリ科	オオゴキブリ	*Panesthia angustipennis spadica*				NT	
22	バッタ目	マツムシ科	クチキコオロギ	*Duolandrevus ivani*				NT	
23		ヒシバッタ科	ギフヒシバッタ	*Tetrix gifuensis*				DD	
24	ナナフシ目	ナナフシ科	エダナナフシ	*Phraortes elongatus*				DD	
25	カメムシ目	アカジマウンカ科	ニホンアカジマウンカ	*Ommatidiotus japonicus　Y.Hori*				NT	
26		サシガメ科	ハリサシガメ	*Acanthaspis cincticrus*			NT		
27		ツノヘリカメムシ科	ブチヒゲツノヘリカメムシ	*Dicranocephalus medius*			VU		
28		アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*				NT	
29		イトアメンボ科	イトアメンボ	*Hydrometra albolineata*			VU	VU	
30		ミズムシ科	ミゾナシミズムシ	*Cymatia apparens*			NT		
31		コオイムシ科	コオイムシ	*Appasus japonicus*			NT	国	
32			タガメ	*Kirkaldyia deyrolli*		国内	VU	EN	
33		タイコウチ科	タイコウチ	*Laccotrephes japonensis*				DD	
34			ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*				NT	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

表1.3.1-44(2)　重要種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
35	カメムシ目	タイコウチ科	ミズカマキリ	*Ranatra chinensis*				DD	
36		ナベブタムシ科	ナベブタムシ	*Aphelocheirus vittatus*				NT	
37		コバンムシ科	コバンムシ	*Ilyocoris cimicoides exclamationis*			EN	CR	
38	ヘビトンボ目	センブリ科	ヤマトセンブリ	*Sialis yamatoensis*			DD		
39	トビケラ目	ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ	*Molannodes itoae*				NT	
40		フトヒゲトビケラ科	ヒトスジキソトビケラ	*Psilotreta japonica*				VU	
41	チョウ目	ボクトウガ科	ハイイロボクトウ	*Phragmataecia castaneae*			NT	国	
42		セセリチョウ科	ホソバセセリ	*Isoteinon lamprospilus lamprospilus*				NT	
43			ミヤマチャバネセセリ	*Pelopidas jansonis*				EN	
44			チャマダラセセリ	*Pyrgus maculatus maculatus*			EN	CR	
45		シジミチョウ科	オオミドリシジミ	*Favonius orientalis*				NT	
46			ウラクロシジミ	*Iratsume orsedice orsedice*				VU	
47			ゴマシジミ本州中部亜種	*Phengaris teleius kazamoto*		国内	CR	CR	
48			ヒメシジミ本州・九州亜種	*Plebejus argus micrargus*			NT	CR	
49		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	*Argyronome laodice japonica*			VU	VU	
50			オオウラギンスジヒョウモン	*Argyronome ruslana*				NT	
51			ヒメヒカゲ本州中部亜種	*Coenonympha oedippus*　ssp.			EN	EN	●
52			オオヒカゲ	*Ninguta schrenckii schrenckii*				NT	
53			オオムラサキ	*Sasakia charonda charonda*			NT	NT	
54			ウラナミジャノメ本土亜種	*Ypthima multistriata　Butler*			VU	VU	
55		アゲハチョウ科	ギフチョウ	*Luehdorfia japonica*			VU	VU	
56		シロチョウ科	ツマグロキチョウ	*Eurema laeta betheseba*			EN	NT	
57			スジボソヤマキチョウ	*Gonepteryx aspasia niphonica*				CR	
58		ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種	*Actias gnoma gnoma*			NT	国	
59		ヤガ科	キスジウスキヨトウ	*Capsula sparganii*			VU	NT	
60			コシロシタバ	*Catocala actaea*			NT		
61			カバフキシタバ	*Catocala mirifica*				NT	
62			エゾスジヨトウ	*Doerriesa striata*			VU	NT	
63			ウスミミモンキリガ	*Eupsilia contracta*			NT	国	
64	ハエ目	ハルカ科	ハマダラハルカ	*Haruka elegans*			DD		
65	コウチュウ目	オサムシ科	セアカオサムシ	*Carabus tuberculosus*			NT	EN	
66			ヒトツメアオゴミムシ	*Chlaenius deliciolus*			NT	VU	
67			クビナガキベリアオゴミムシ	*Chlaenius prostenus*			DD	VU	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

表1.3.1-44(3)　重要種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
68	コウチュウ目	オサムシ科	コハンミョウモドキ	*Elaphrus punctatus*			EN	EN	
69			キベリマルクビゴミムシ	*Nebria livida angulata*			EN	CR	
70			オオトックリゴミムシ	*Oodes vicarius*			NT	NT	
71		ハンミョウ科	ホソハンミョウ	*Cylindera gracilis*			VU	EN	
72		ゲンゴロウ科	トダセスジゲンゴロウ	*Copelatus nakamurai*			VU	NT	
73			クロゲンゴロウ	*Cybister brevis*			NT	VU	
74			ゲンゴロウ	*Cybister chinensis*			VU	EN	
75			コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus lateralis*			VU	EX	
76			シャープゲンゴロウモドキ	*Dytiscus sharpi*		国内	CR	EX	
77			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*			VU	EX	
78			シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*			NT	NT	
79			スジゲンゴロウ	*Hydaticus satoi*			EX	EX	
80			マダラシマゲンゴロウ	*Hydaticus thermonectoides*		国内	CR	EX	
81			コウベツブゲンゴロウ	*Laccophilus kobensis*			NT		
82			シャープツブゲンゴロウ	*Laccophilus sharpi*			NT		
83			マルチビゲンゴロウ	*Leiodytes frontalis*			NT	NT	
84		ミズスマシ科	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*			NT	NT	
85			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*			EN	EN	
86			ヒメミズスマシ	*Gyrinus gestroi*			EN		
87			ミズスマシ	*Gyrinus japonicus*			VU	EN	
88			コオナガミズスマシ	*Orectochilus punctipennis*			VU	NT	
89		コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	*Canthydrus politus*			VU	NT	
90		カワラゴミムシ科	カワラゴミムシ	*Omophron aequalis*				NT	
91		ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	*Hydrochus japonicus*			NT	NT	
92		ガムシ科	スジヒラタガムシ	*Helochares nipponicus*			NT		
93			コガムシ	*Hydrochara affinis*			DD		
94			ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*			NT		
95			シジミガムシ	*Laccobius bedeli*			EN		
96		エンマムシ科	エンマムシ	*Merohister jekeli*				DD	
97			アラメエンマムシ	*Zabromorphus salebrosus subsolanus*				NT	
98		シデムシ科	ヤマトモンシデムシ	*Nicrophorus japonicus*			NT	VU	
99		クワガタムシ科	オオクワガタ	*Dorcus hopei binodulosus*			VU	CR	
100		コガネムシ科	アカマダラハナムグリ	*Anthracophora rusticola*			DD	NT	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

表1.3.1-44(4)　重要種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
101	コウチュウ目	コガネムシ科	マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus*				EX	
102			クロカナブン	*Rhomborhina polita*				NT	
103		ヒメドロムシ科	クロサワドロムシ	*Neoriohelmis kurosawai*				VU	
104		コメツキムシ科	ツヤヒラタコメツキ	*Aganohypoganus mirabilis*				VU	
105		カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	*Stenygrinum quadrinotatum*			EN	EN	
106	ハチ目	コマユバチ科	ウマノオバチ	*Euurobracon yokahamae*			NT	NT	
107		セイボウ科	オオセイボウ	*Stilbum cyanurum*			DD	国	
108		スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	*Polistes japonicus*			DD	国	
109			モンスズメバチ	*Vespa crabro*			DD	国	
110		クモバチ科	アオスジクモバチ	*Paracyphononyx alienus*			DD	国	
111		ギングチバチ科	ササキリギングチ	*Ectemnius furuichii*			NT	NT	
112		ミツバチ科	クロマルハナバチ	*Bombus ignitus*			NT		
	11	55	112		0	4	80	98	1

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

カ．クモ類

事業実施区域周辺でみられるクモ類の重要種は、表1.3.1-45に示すとおり、1目7科17種である。

表1.3.1-45　重要種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	クモ目	ジグモ科	ワスレナグモ	*Calommata signata*				VU	
2		カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	*Antrodiaetus roretzi*			NT	VU	
3		トタテグモ科	キノボリトタテグモ	*Conothele fragaria*			NT	VU	
4			キシノウエトタテグモ	*Latouchia typica*			NT	VU	
5		コガネグモ科	キジロオヒキグモ	*Arachnura logio*				EN	
6			コガネグモ	*Argiope amoena*				NT	
7			トリノフンダマシ	*Cyrtarachne bufo*				NT	
8			オオトリノフンダマシ	*Cyrtarachne inaequalis*				NT	
9			シロオビトリノフンダマシ	*Cyrtarachne nagasakiensis*				NT	
10			アカイロトリノフンダマシ	*Cyrtarachne yunoharuensis*				NT	
11			ムツトゲイセキグモ	*Ordgarius sexspinosus*				EN	
12			ゲホウグモ	*Poltys illepidus*				NT	
13		コモリグモ科	テジロハリゲコモリグモ	*Pardosa yamanoi*				EN	
14			ミナミコモリグモ	*Pirata meridionalis*				NT	
15		アワセグモ科	アワセグモ	*Selenops bursarius*				EN	
16		カニグモ科	カトウツケオグモ	*Phrynarachne katoi*				EN	
17			オビボソカニグモ	*Xysticus trizonatus*				VU	
	1	7	17		0	0	3	17	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

キ. 陸産貝類

事業実施区域周辺でみられる陸産貝類の重要種は、表1.3.1-46に示すとおり、1目5科11種である。

表1.3.1-46　重要種一覧（陸産貝類）

番号	目和名	科和名	種和名	*学名*	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	マイマイ目	キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ	*Mirus reinianus*				NT	
2		キセルガイ科	オオギセル	*Megalophaedusa martensi*			NT		
3			ミカワギセル	*Mesophaedusa hickonis mikawa*			NT	NT	
4			キイツムガタギセル	*Pinguiphaedusa pinguis*			NT		
5			エルベリギセル	*Tyrannophaedusa aurantiaca erberi*			DD		
6			ホソヒメギセル	*Tyrannophaedusa gracilispira*			VU	VU	
7		ベッコウマイマイ科	エナクリイロベッコウ	*Japanochlamys shinanoensis*			DD		
8			オオウエキビ	*Trochochlamys fraterna*			DD		
9			ヒメカサキビ	*Trochochlamys subcrenulata subcrenulata*			NT	NT	
10		ニッポンマイマイ科	ヤマタカマイマイ	*Satsuma papilliformis*			NT	CR	
11		オナジマイマイ科	ミヤマヒダリマキマイマイ	*Euhadra scaevola*			VU		
	1	5	11		0	0	10	5	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

ク．底生動物

事業実施区域周辺でみられる底生動物の重要種は、表1.3.1-47に示すとおり、9目27科50種である。

表1.3.1-47(1)　重要種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	原始紐舌目	タニシ科	マルタニシ	*Cipangopaludina chinensis laeta*			VU	NT	
2			オオタニシ	*Cipangopaludina japonica*			NT	国	
3	盤足目	カワニナ科	クロダカワニナ	*Semisulcospira kurodai*			NT	NT	
4	基眼目	モノアラガイ科	モノアラガイ	*Radix auricularia japonica*			NT	DD	
5			イグチモノアラガイ	*Radix auricularia*			DD		
6		ヒラマキガイ科	ヒラマキガイモドキ	*Polypylis hemisphaerula*			NT	NT	
7	イシガイ目	イシガイ科	イシガイ	*Nodularia douglasiae nipponensis*				CR	
8			ドブガイ	*Anodonta woodiana*				NT	
9	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	*Corbicula leana*			VU	DD	
10	トンボ目	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	*Lestes japonicus*			EN	CR	
11		イトトンボ科	ベニイトトンボ	*Ceriagrion nipponicum*			NT	VU	
12			モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*			NT	NT	
13			オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*				EN	
14		モノサシトンボ科	グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*			NT	EN	
15		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*			NT	NT	
16		サナエトンボ科	キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*			NT	NT	
17			ナゴヤサナエ	*Stylurus nagoyanus*			VU	NT	
18			メガネサナエ	*Stylurus oculatus*			VU	EN	
19			フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*			NT	VU	
20			オグマサナエ	*Trigomphus ogumai*			NT	VU	
21		エゾトンボ科	トラフトンボ	*Epitheca marginata*				NT	
22			ハネビロエゾトンボ	*Somatochlora clavata*			VU	VU	
23			エゾトンボ	*Somatochlora viridiaenea*				VU	
24		トンボ科	キトンボ	*Sympetrum croceolum*				EN	
25			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*				NT	
26			マダラナニワトンボ	*Sympetrum maculatum*			EN	CR	
27	カメムシ目	アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*				NT	
28		イトアメンボ科	イトアメンボ	*Hydrometra albolineata*			VU	VU	
29		コオイムシ科	タガメ	*Kirkaldyia deyrolli*		国内	VU	EN	
30		タイコウチ科	ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*				NT	
31		コバンムシ科	コバンムシ	*Ilyocoris cimicoides exclamationis*			EN	CR	
32		アカジマウンカ科	ニホンアカジマウンカ	*Ommatidiotus japonicus　Y.Hori*				NT	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

表1.3.1-47(2)　重要種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
33	トビケラ目	ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ	*Molannodes itoae*				NT	
34		フトヒゲトビケラ科	ヒトスジキソトビケラ	*Psilotreta japonica*				VU	
35	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	トダセスジゲンゴロウ	*Copelatus nakamurai*			VU	NT	
36			ゲンゴロウ	*Cybister chinensis*			VU	EN	
37			コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus lateralis*			VU	EX	
38			シャープゲンゴロウモドキ	*Dytiscus sharpi*		国内	CR	EX	
39			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*			VU	EX	
40			シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*			NT	NT	
41			スジゲンゴロウ	*Hydaticus satoi*			EX	EX	
42			マダラシマゲンゴロウ	*Hydaticus thermonectoides*		国内	CR	EX	
43			マルチビゲンゴロウ	*Leiodytes frontalis*			NT	NT	
44		ミズスマシ科	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*			NT	NT	
45			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*			EN	EN	
46			コオナガミズスマシ	*Orectochilus punctipennis*			VU	NT	
47		コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	*Canthydrus politus*			VU	NT	
48		ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	*Hydrochus japonicus*			NT	NT	
49		ガムシ科	ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*			NT	VU	
50		ヒメドロムシ科	クロサワドロムシ	*Neoriohelmis kurosawai*				VU	
	9	27	50		0	3	37	49	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-37の番号と対応する。

1.3.1.8.2 植物等

(1) 植物相及び蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類の概要

「令和2年版　環境白書」（令和2年12月、愛知県）によると、愛知県の気候は、太平洋を流れる黒潮の影響により一般に温暖で、夏季多雨、冬季少雨型となっている。このような気候の影響を受け、気候区分は奥三河山地の一部が温帯に属するほかは大部分が暖帯に属している。

事業実施区域周辺の植物及び蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類の状況については、表1.3.1-48に示す既存文献により整理した。

事業実施区域周辺でみられる植物は、表1.3.1-49に示すとおり、167科633属1,443種である。なお、確認種の詳細は資料編に示す。

また、事業実施区域周辺でみられる蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類は、表1.3.1-50に示すとおり、49目143科811種である。なお、確認種の詳細は資料編に示す。

表1.3.1-48　確認文献一覧

番号	文献	分布想定種
①	「レッドデータブックあいち 2020」（令和2年3月、愛知県）	調査対象とした（植物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種
②	「海上の森 確認種リスト」（令和2年11月閲覧、愛知県HP）	文献に記載されている種

表1.3.1-49　植物確認種数

分類群名			科数	属数	種数	文献	
						①	②
シダ植物門			24	49	156	21	141
種子植物門	裸子植物亜門		4	11	13	0	13
	被子植物亜門	基部被子植物	8	18	34	4	31
		単子葉類	28	154	407	72	359
		真正双子葉類	103	401	833	89	771
計			167	633	1,443	186	1,315

注）文献番号は、表1.3.1-48の番号と対応する。

表1.3.1-50　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

分類	目数	科数	種数	文献	
				①	②
蘚苔類	20	53	175	12	166
地衣類	1	3	6	0	6
キノコ類	23	77	545	0	545
変形菌類	6	10	85	0	85
計	49	143	811	12	802

注）文献番号は、表1.3.1-48の番号と対応する。

(2) 重要な植物種及び蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類

確認された種のうち、重要な植物種及び蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類を抽出した。重要種の選定根拠は表1.3.1-51に、選定基準は表1.3.1-52に示すとおりである。

事業実施区域周辺でみられる植物の重要種は、表1.3.1-53に示すとおり、73科196種である。

また、事業実施区域周辺でみられる蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類の重要種は、表1.3.1-54に示すとおり、2分類11目14科22種である。

表1.3.1-51　重要な植物の選定根拠

番号	法令・文献等	選定基準
Ⅰ	「文化財保護法」（昭和25年5月30日、法律第214号）	・特別天然記念物（特天） ・天然記念物（国天）
Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」（平成4年6月5日、法律第75号）	・国内希少野生動植物（国内） ・国際希少野生動植物（国際）
Ⅲ	「環境省レッドリスト2020の公表について」（令和2年3月27日環境省報道発表資料、環境省）	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧ⅠA類（CR） ・絶滅危惧ⅠB類（EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・絶滅のおそれのある地域個体群（LP）
Ⅳ	「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物　レッドデータブックあいち2020」（令和2年3月、愛知県）	・絶滅（EX） ・野生絶滅（EW） ・絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN） ・絶滅危惧Ⅱ類（VU） ・準絶滅危惧（NT） ・情報不足（DD） ・地域個体群（LP） ・国リスト（国）
Ⅴ	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年3月30日条例第3号、愛知県)	・指定希少野生動植物種（●）

表1.3.1-52　重要な植物の選定基準

番号	選定基準	評価基準
Ⅰ	特別天然記念物（特天）	天然記念物のうち世界的にまた国家的に価値が特に高いもの
	天然記念物（国天）	動物植物及び地質鉱物のうち学術上重要で、我が国の自然を記念するもの
Ⅱ	国内希少野生動植物（国内）	国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（または亜種・変種）
	国際希少野生動植物（国際）	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）
Ⅲ	絶滅（EX）	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧（NT）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
	情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
Ⅳ	絶滅（EX）	愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅（EW）	野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危機が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
	準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
	情報不足（DD）	「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種
	地域個体群（LP）	その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。
	国リスト（国）	環境省レッドリストに掲載されているが、愛知県において選定基準に該当しない種
Ⅴ	指定希少野生動植物種（●）	愛知県内に生息し、又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種のうち、特に保護を図る必要があると認めるもの

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-53(1)　重要種一覧（植物）

番号	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	ヒカゲノカズラ科	ヤチスギラン	*Lycopodiella inundata*				EN	
2		アスヒカズラ	*Lycopodium complanatum*				VU	
3	ミズニラ科	ミズニラ	*Isoetes japonica*			NT	NT	
4	ハナヤスリ科	シチトウハナワラビ	*Botrychium atrovirens*				EN	
5		ヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum vulgatum*				VU	
6	マツバラン科	マツバラン	*Psilotum nudum*			NT	VU	
7	デンジソウ科	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia*			VU	CR	
8	サンショウモ科	オオアカウキクサ	*Azolla japonica*			EN	CR	
9	キジノオシダ科	ヤマソテツ	*Plagiogyria matsumureana*				VU	
10	チャセンシダ科	オクタマシダ	*Asplenium pseudowilfordii*			VU	VU	
11	ヒメシダ科	ツクシヤワラシダ	*Thelypteris hattorii* var.*nemoralis*				VU	
12	メシダ科	ウスバシケシダ	*Deparia longipes*			VU	VU	
13		アサマシケシダ	*Deparia magufukui*				VU	
14		コヒロハシケシダ	*Deparia pseudo-conilii* var.*subdeltoidofrons*				VU	
15		ミヤマシケシダ	*Deparia pycnosora*				NT	
16		ウスバミヤマノコギリシダ	*Diplazium deciduum*				VU	
17	オシダ科	ツクシイワヘゴ	*Dryopteris commixta*				NT	
18		ワカナシダ	*Dryopteris kuratae*				EN	
19		オワセベニシダ	*Dryopteris ryo-itoana*				VU	
20	ウラボシ科	オオクボシダ	*Micropolypodium okuboi*				NT	
21		イワオモダカ	*Pyrrosia hastata*				EN	
22	スイレン科	オニバス	*Euryale ferox*			VU	CR	
23		ヒメコウホネ	*Nuphar subintegerrima*			VU	CR	
24		ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* var.*angusia*			VU		
25	モクレン科	シデコブシ	*Magnolia stellata*			NT	VU	
26	クスノキ科	ニッケイ	*Cinnamomum sieboldii*			NT	国	
27	サトイモ科	ムロウマムシグサ	*Arisaema kishidae*				VU	
28	チシマゼキショウ科	イワショウブ	*Triantha japonica*				VU	
29	オモダカ科	マルバオモダカ	*Caldesia parnassiifolia*			VU	EN	
30		アギナシ	*Sagittaria aginashi*			NT	国	
31	トチカガミ科	マルミスブタ	*Blyxa aubertii*			VU	VU	
32		セトヤナギスブタ	*Blyxa alternifolia*			EN	CR	
33		スブタ	*Blyxa echinosperma*			VU	CR	
34		ヤナギスブタ	*Blyxa japonica*				NT	
35		トチカガミ	*Hydrocharis dubia*			NT	EN	
36		ヒロハトリゲモ	*Najas chinensis*			VU	VU	
37		イトトリゲモ	*Najas gracillima*			NT	NT	
38		トリゲモ	*Najas minor*			VU		
39		オオトリゲモ	*Najas oguraensis*				NT	
40		ミズオオバコ	*Ottelia alismoides*			VU	国	
41	ヒルムシロ科	イトモ	*Potamogeton berchtoldii*			NT	NT	
42		ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus*				NT	
43		オヒルムシロ	*Potamogeton natans*				VU	
44		ツツイトモ	*Potamogeton pusillus*			VU	国	
45	ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii*				NT	
46	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	*Sciaphila nana*			VU	国	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-53(2)　重要種一覧（植物）

番号	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
47	シュロソウ科	ミカワバイケイソウ	*Veratrum stamineum* var.*micranthum*			VU	EN	
48	ラン科	ヒナラン	*Amitostigma gracile*			EN	EX	
49		イワチドリ	*Amitostigma keiskei*			EN	EX	
50		シラン	*Bletilla striata*			NT		
51		マメヅタラン	*Bulbophyllum drymoglossum*			NT	国	
52		ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum*			NT	国	
53		エビネ	*Calanthe discolor*			NT	NT	
54		ナツエビネ	*Calanthe puberula*			VU	VU	
55		ユウシュンラン	*Cephalanthera erecta* var.*subaphylla*			VU	VU	
56		キンラン	*Cephalanthera falcata*			VU	NT	
57		クマガイソウ	*Cypripedium japonicum*			VU	VU	
58		アキザキヤツシロラン	*Gastrodia confusa*				VU	
59		シロテンマ	*Gastrodia elata* var.*pallens*			CR		
60		オオミヤマウズラ	*Goodyera tsukamotoi*				EN	
61		シュスラン	*Goodyera velutina*				VU	
62		ミズトンボ	*Habenaria sagittifera*			VU	VU	
63		ホクリクムヨウラン	*Lecanorchis japonica* var.*hokurikuensis*				VU	
64		ウスギムヨウラン	*Lecanorchis kiusiana*			NT	VU	
65		サギソウ	*Pecteilis radiata*			NT	VU	
66		トキソウ	*Pogonia japonica*			NT	EN	
67		ヤマトキソウ	*Pogonia minor*				VU	
68	ガマ科	ミクリ	*Sparganium erectum*			NT	EN	
69		ヤマトミクリ	*Sparganium fallax*			NT	VU	
70		ナガエミクリ	*Sparganium japonicum*			NT	国	
71	ホシクサ科	オオホシクサ	*Eriocaulon buergerianum*				CR	
72		ツクシクロイヌノヒゲ	*Eriocaulon kiusianum*			VU	NT	
73		ミカワイヌノヒゲ	*Eriocaulon mikawanum*			VU		
74		シラタマホシクサ	*Eriocaulon nudicuspe*			VU	VU	
75		クロホシクサ	*Eriocaulon parvum*			VU	EN	
76	カヤツリグサ科	イトテンツキ	*Bulbostylis densa* var.*capitata*			NT	NT	
77		ミノボロスゲ	*Carex albata*				VU	
78		オオタマツリスゲ	*Carex filipes*var.*rouyana*				EN	
79		タカネマスクサ	*Carex planata*				EN	
80		ジングウスゲ	*Carex sacrosancta*			NT	NT	
81		センダイスゲ	*Carex sendaica*				VU	
82		ニシノホンモンジスゲ	*Carex stenostachys*				VU	
83		ヒメアオガヤツリ	*Cyperus extremiorientalis*				CR	
84		ヌマガヤツリ	*Cyperus glomeratus*				NT	
85		オオシロガヤツリ	*Cyperus nipponicus* var.*spiralis*				VU	
86		ヒメガヤツリ	*Cyperus tenuispica*				VU	
87		セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata*				VU	
88		トネテンツキ	*Fimbristylis stauntonii* var.*tonensis*			VU	VU	
89		トラノハナヒゲ	*Rhynchospora brownii*				EN	
90		オオイヌノハナヒゲ	*Rhynchospora fauriei*				VU	
91		シズイ	*Schoenoplectus nipponicus*				EN	
92		コシンジュガヤ	*Scleria parvula*				VU	
93		ミカワシンジュガヤ	*Scleria mikawana*			VU	VU	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-53(3)　重要種一覧（植物）

番号	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
94	イネ科	ハネガヤ	*Achnatherum pekinense*				EN	
95		ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata*			NT	国	
96		ヒナザサ	*Coelachne japonica*			NT	VU	
97		ウンヌケモドキ	*Eulalia quadrinervis*			NT	VU	
98		ウンヌケ	*Eulalia speciosa*			VU	NT	
99		トウササクサ	*Lophatherum sinense*				NT	
100		ウキシバ	*Pseudoraphis sordida*				NT	
101		シダミコザサ	*Sasa samanian* var.*yoshino* f.*hidejiroana*				VU	
102		ナリヒラダケ	*Semiarundinaria fastuosa*				VU	
103	メギ科	ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii*				NT	
104	キンポウゲ科	カザグルマ	*Clematis patens*			NT	EN	
105		スハマソウ	*Hepatica nobilis* var.*japonica* f.*variegata*				NT	
106	スグリ科	ヤブサンザシ	*Ribes fasciculatum*				VU	
107	ユキノシタ科	ミカワショウマ	*Astilbe thunbergii* var.*okuyamae*			NT	VU	
108		ナメラダイモンジソウ	*Saxifraga fortunei* var.*suwoensis*				NT	
109	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	*Orostachys japonica*			NT	NT	
110	タコノアシ科	タコノアシ	*Penthorum chinense*			NT	NT	
111	アリノトウグサ科	タチモ	*Myriophyllum ussuriense*			NT	NT	
112	マメ科	イヌハギ	*Lespedeza tomentosa*			VU	VU	
113		ミソナオシ	*Ohwia caudata*				VU	
114		ビワコエビラフジ	*Vicia venosa* ssp.*stolonifera*				EN	
115	グミ科	アリマグミ	*Elaeagnus murakamiana*				VU	
116	イラクサ科	ミヤコミズ	*Pilea kiotensis*				CR	
117	バラ科	カワラサイコ	*Potentilla chinensis*				VU	
118		マメナシ	*Pyrus calleryana*			EN	CR	
119		ミヤマワレモコウ	*Sanguisorba longifolia*				EN	
120	ブナ科	フモトミズナラ	*Quercus serrata* ssp.*mongolicoides*				NT	
121	カバノキ科	サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa*			NT	国	
122	ニシキギ科	シラヒゲソウ	*Parnassia foliosa* var.*foliosa*				EN	
123	カタバミ科	ミヤマカタバミ	*Oxalis griffithii* var.*griffithii*				NT	
124	ヤナギ科	キヌヤナギ	*Salix schwerinii* ‘*Kinuyanagi*’				NT	
125	スミレ科	コタチツボスミレ	*Viola grypoceras* var.*exilis*				VU	
126		オオタチツボスミレ	*Viola kusanoana*				EN	
127		スミレサイシン	*Viola vaginata*				EN	
128	オトギリソウ科	アゼオトギリ	*Hypericum oliganthum*			EN		
129		トサオトギリ	*Hypericum tosaense*			CR	EX	
130	ミソハギ科	ヒメミソハギ	*Ammannia multiflora*				NT	
131		ミズマツバ	*Rotala mexicana*			VU	国	
132		ミズキカシグサ	*Rotala rosea*			VU	VU	
133		ヒメビシ	*Trapa incisa*			VU	EN	
134		オニビシ	*Trapa natans* var.*quadrispinosa*				NT	
135	アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	*Ludwigia epilobioides* ssp.*greatrexii*			NT	国	
136	ムクロジ科	ハナノキ	*Acer pycnanthum*			VU		
137		カラコギカエデ	*Acer tataricum* ssp.*aidzuense*				VU	
138	ジンチョウゲ科	サクラガンピ	*Diplomorpha pauciflora*			VU	国	
139	アブラナ科	ミズタガラシ	*Cardamine lyrata*				NT	
140		コイヌガラシ	*Rorippa cantoniensis*			NT	国	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-53(4)　重要種一覧（植物）

番号	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
141	タデ科	サトヤマタデ	*Persicaria clivorum*				NT	
142		サイコクヌカボ	*Persicaria foliosa* var.*nikaii*			VU	NT	
143		ナガバノウナギツカミ	*Persicaria hastatosagittata*			NT	NT	
144		コミゾソバ	*Persicaria mikawana*				NT	
145		ヌカボタデ	*Persicaria taquetii*			VU	VU	
146	モウセンゴケ科	イシモチソウ	*Drosera peltata* var.*nipponica*			NT	EN	
147	アジサイ科	コガクウツギ	*Hortensia luteovenosa* var.*luteovenosa*				EN	
148	サクラソウ科	ノジトラノオ	*Lysimachia barystachys*			VU	CR	
149	イワウメ科	オオイワカガミ	*Schizocodon soldanelloides* var.*magnus*				VU	
150	ツツジ科	イワナシ	*Epigaea asiatica*				CR	
151		シャクジョウソウ	*Hypopitys monotropa*				NT	
152	アカネ科	ナガバジュズネノキ	*Damnacanthus giganteus*				EN	
153		キクムグラ	*Galium kikumugura*				NT	
154	リンドウ科	コケリンドウ	*Gentiana squarrosa*				VU	
155		イヌセンブリ	*Swertia tosaensis*			VU	NT	
156	キョウチクトウ科	クサナギオゴケ	*Vincetoxicum katoi*			VU	NT	
157		スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma*			NT	国	
158	ヒルガオ科	マメダオシ	*Cuscuta australis*			CR		
159	ナス科	ヤマホオズキ	*Archiphysalis chamaesarachoides*			EN	VU	
160	ムラサキ科	ハイルリソウ	*Nihon proliferum*			CR	EX	
161	モクセイ科	ヒトツバタゴ	*Chionanthus retusus*			VU	EN	
162	オオバコ科	オオアブノメ	*Gratiola japonica*			VU	VU	
163		イヌノフグリ	*Veronica polita*			VU	国	
164		カワヂシャ	*Veronica undulata*			NT	NT	
165	シソ科	タチキランソウ	*Ajuga makinoi*			NT	国	
166		ケブカツルカコソウ	*Ajuga shikotanensis* f.*hirsuta*				EN	
167		ジャコウソウ	*Chelonopsis moschata*				VU	
168		ミズネコノオ	*Pogostemon stellatus*			NT	VU	
169		ミズトラノオ	*Pogostemon yatabeanus*			VU	VU	
170		シマジタムラソウ	*Salvia isensis*			VU	NT	
171		ミゾコウジュ	*Salvia plebeia*			NT	国	
172	ハエドクソウ科	スズメノハコベ	*Microcarpaea minima*				NT	
173	ハマウツボ科	ゴマクサ	*Centranthera cochinchinensis* var.*lutea*			VU	VU	
174		ミカワシオガマ	*Pedicularis resupinata* ssp.*oppositifolia* var.*microphylla*			VU	EN	
175		キヨスミウツボ	*Phacellanthus tubiflorus*				VU	
176		オオヒキヨモギ	*Siphonostegia laeta*			VU	国	
177	タヌキモ科	ノタヌキモ	*Utricularia aurea*			VU	VU	
178		イヌタヌキモ	*Utricularia australis*			NT	国	
179		フサタヌキモ	*Utricularia dimorphantha*			EN	EX	
180		ミカワタヌキモ	*Utricularia exoleta*			VU	EN	

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-53(5)　重要種一覧（植物）

番号	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
181	タヌキモ科	コタヌキモ	*Utricularia intermedia*				EX	
182		ヒメタヌキモ	*Utricularia minor*			NT	EN	
183		ムラサキミミカキグサ	*Utricularia uliginosa*			NT	NT	
184		ヒメミミカキグサ	*Utricularia minutissima*			EN	EN	
185	モチノキ科	ミヤマウメモドキ	*Ilex nipponica*				VU	
186	キキョウ科	キキョウ	*Platycodon grandiflorus*			VU	VU	
187	ミツガシワ科	ミツガシワ	*Menyanthes trifoliata*				EX	
188		ヒメシロアサザ	*Nymphoides coreana*			VU	EN	
189		ガガブタ	*Nymphoides indica*			NT	NT	
190	キク科	ムラサキトキンソウ	*Centipeda* sp.				NT	
191		シロバナタカアザミ	*Cirsium pendulum* var.*albiflorum*				EN	
192		ヒダアザミ	*Cirsium tashiroi* var.*hidaense*			VU	国	
193		ミズギク	*Inula ciliaris* var.*ciliaris*				NT	
194		カセンソウ	*Inula salicina* var.*asiatica*				EN	
195		ミヤコアザミ	*Saussurea maximowiczii*				VU	
196		オナモミ	*Xanthium strumarium* ssp.*sibiricum*			VU		
	73	196		0	0	107	187	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

表1.3.1-54　重要種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	法令・文献等				
						Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	蘚苔類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	ハリミズゴケ	*Sphagnum cuspidatum　Ehrh. ex Hoffin.*				VU	
2				オオミズゴケ	*Sphagnum palustre*			NT	NT	
3				イボミズゴケ	*Sphagnum papillosum　Lindb.*				NT	
4		キセルゴケ目	キセルゴケ科	クマノゴケ	*Diphyscium lorifolium　(Cardot) Magonbo (Syn.Theriotia lorifolia Cardot)*			NT	VU	
5		タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	キブネゴケ	*Rachithecium nipponicum　(Toyama) Wijk et Margad.*			CR+EN	CR	
6		イヌマゴケ目	カワゴケ科	コシノヤバネゴケ	*Dichelyma japonicum*			CR+EN		
7			ハイヒモゴケ科	イトゴケ	*Barbella pendula*				CR	
8				ヒロハシノブイトゴケ	*Floribundaria aurea　ssp. nipponica*			NT		
9		アブラゴケ目	クジャクゴケ科	コキジノオゴケ	*Cyathophorum hookerianum　(Griff.) Mitt. (Syn. Cyathophorella hookeriana (Griff.) M.Fleisch.*			NT	VU	
10		ゼニゴケ目	ムチゴケ科	ヤワラゼニゴケ	*Lepidozia vitrea*			VU		
11			ウキゴケ科	ウキゴケ	*Riccia fluitans　L.*				VU	
12				イチョウウキゴケ	*Nardia assamica*			NT	国	
13		ウロコゼニゴケ目	ミヤマミズゼニゴケ科	ミヤマミズゼニゴケ	*Bazzania tridens*			VU		
14		ツボミゴケ目	ヤスデゴケ科	サカワヤスデゴケ	*Frullania sackawana　Steph.*			VU	EX	
15			クサリゴケ科	マルバヒメクサリゴケ	*Myriocoleopsis minutissima　(Sm.) R.L. Zhu, Y.Yu et Pócs*				VU	
16				ウニバヨウジョウゴケ	*Cololejeunea spinosa　(Horik.) Pande et Misra*				EN	
17				ヨウジョウゴケ	*Cololejeunea trichomanis*			NT	EN	
18				カビゴケ	*Leptolejeunea elliptica*			NT	VU	
19	キノコ類	ハラタケ目	キシメジ科	シモコシ	*Tricholoma auratum*			NT		
20				マツタケ	*Tricholoma matsutake*			NT		
21		イグチ目	イグチ科	ヤマドリタケ	*Boletus edulis*			DD		
22		ビョウタケ目	ビョウタケ科	クロムラサキハナビラタケ	*Ionomidotis irregularis*			NT		
	2	11	14	22		0	0	16	14	0

注）表中のⅠ～Ⅴは表1.3.1-51の番号と対応する。

(3) 植生及び植生自然度

植生の状況は図1.3.1-22に示すとおりである。

事業実施区域周辺の植生は、「ケネザサ－コナラ群集」、「スギ・ヒノキ・サワラ植林」が広範囲を占め、北西部に「市街地」、「造成地」が分布する。事業実施区域は「ケネザサ－コナラ群集」が広範囲を占め、「モチツツジ－アカマツ群集」、「スギ・ヒノキ・サワラ植林」、「市街地」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布する。

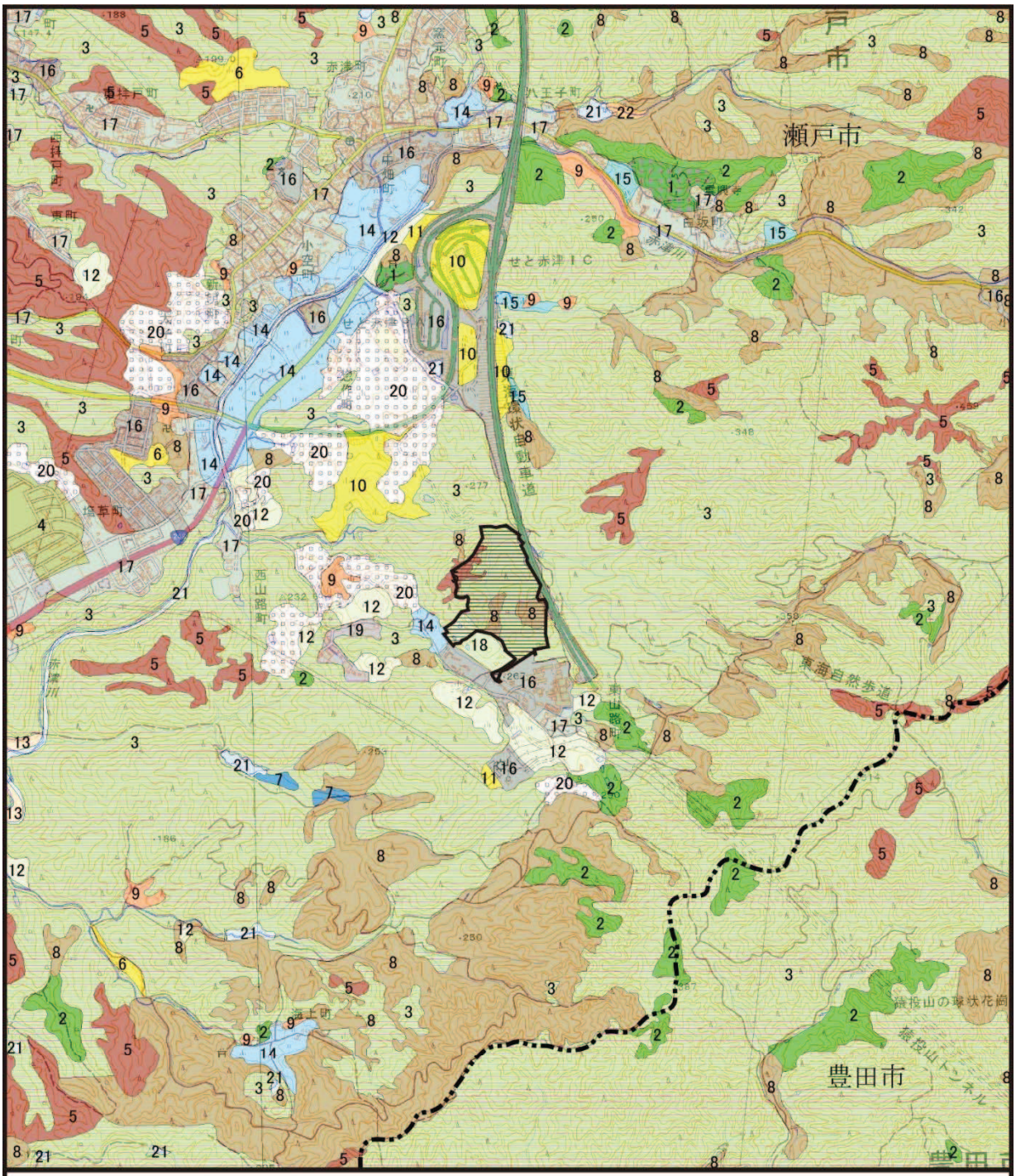
植生自然度は、表1.3.1-55及び図1.3.1-23に示すとおりである。

事業実施区域周辺は、主に植生自然度6,7が分布する。事業実施区域の植生自然度は、7が広い範囲を占め、1,2,3,6が分布している。

表1.3.1-55　植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツ－トドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区
8	ブナ－ミズナラ群落、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区
7	クリ－ミズナラ群集、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落
3	竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「統一凡例（1/2.5万植生図）の植生自然度区分」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

出典：「第6-7回自然環境保全基礎調査」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）

図 1.3.1-22(1)　現存植生図

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

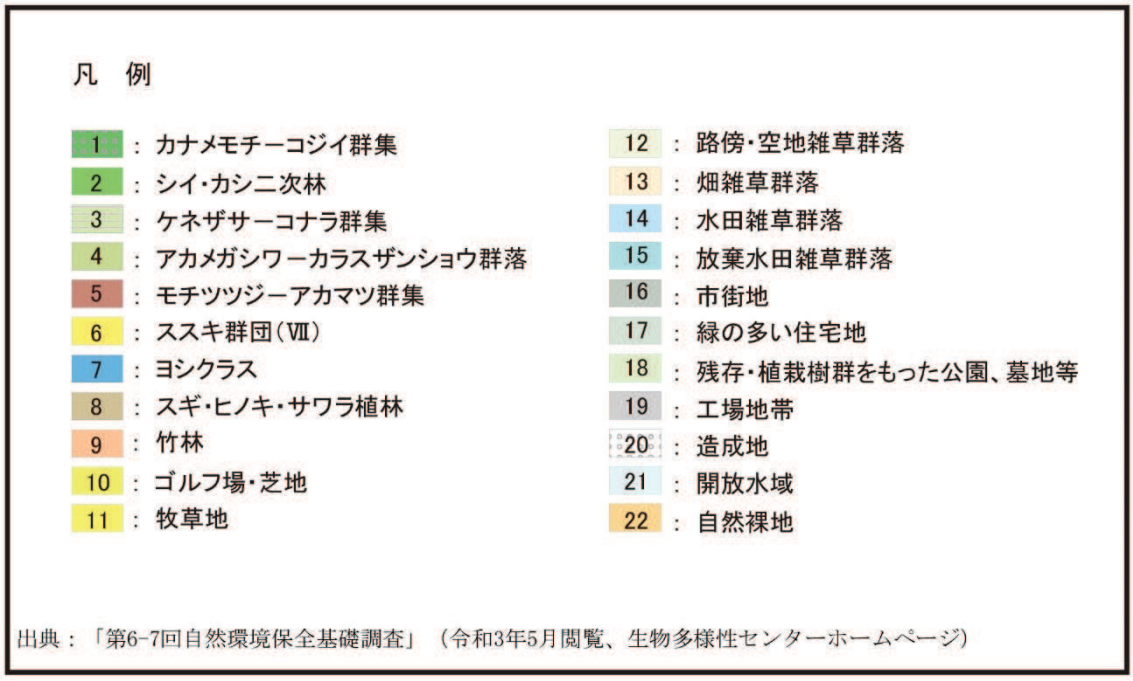
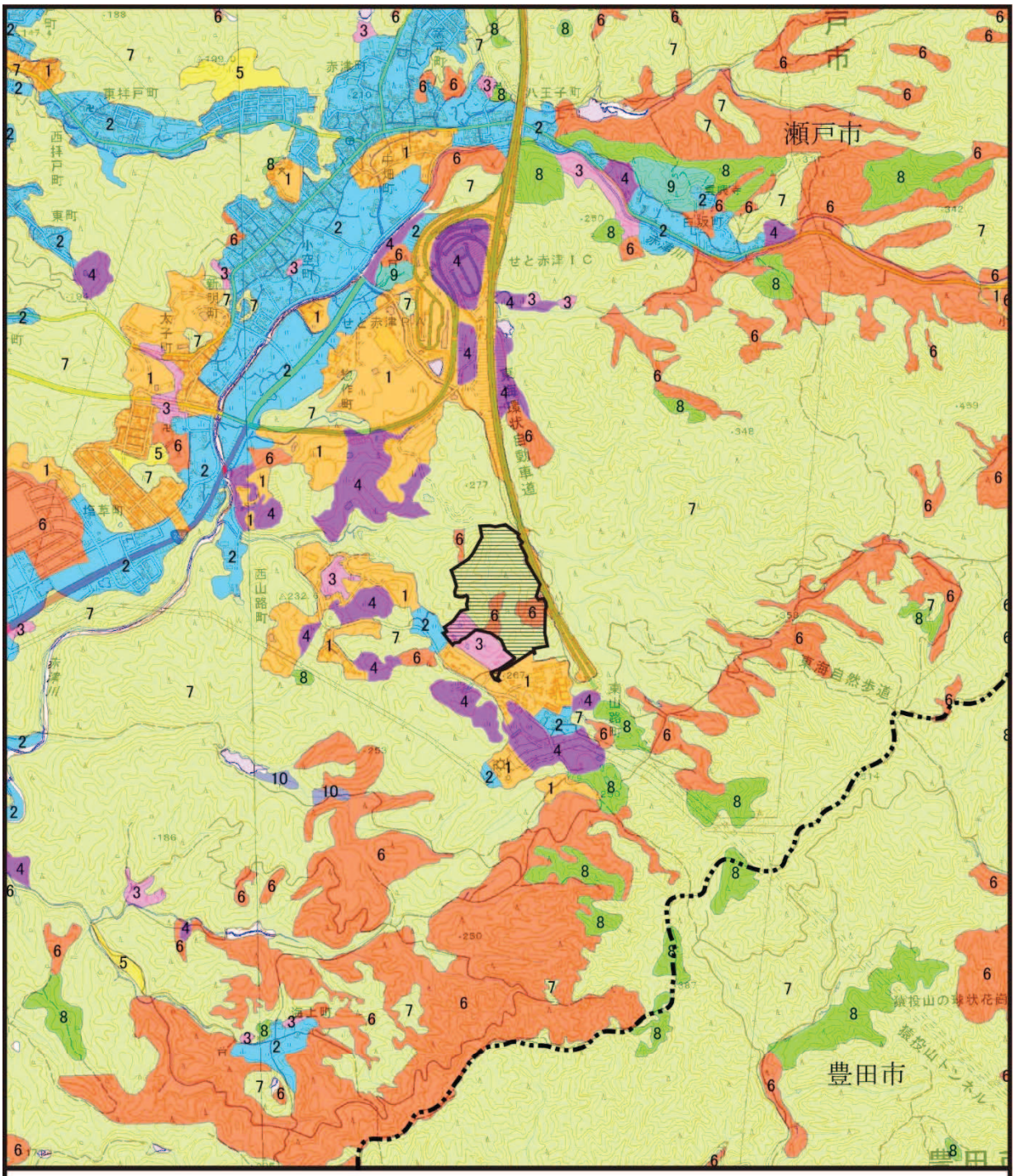


図1.3.1-22(2)　現存植生図（凡例）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

1	：植生自然度1	6	：植生自然度6
2	：植生自然度2	7	：植生自然度7
3	：植生自然度3	8	：植生自然度8
4	：植生自然度4	9	：植生自然度9
5	：植生自然度5	10	：植生自然度10

出典：「第6-7回自然環境保全基礎調査」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）

図 1.3.1-23　植生自然度

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

(4) 重要な植物

事業実施区域周辺の指定文化財となっている植物及び巨樹・巨木林の分布状況は、表1.3.1-56及び図1.3.1-24に示すとおりである。

重要な植物として、豊田市猿投町内のカツラ等があげられるが、事業実施区域内に指定文化財となっている植物や巨樹・巨木林は分布していない。

表1.3.1-56　重要な植物の分布状況

番号	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)	樹齢		所在地	備考
1	ツブラジイ	375	16	200～299年	瀬戸市	中品野町八剱社	
2	ツブラジイ	200	22	不明		鳥原町708八幡神社	
3	スギ	325	30	不明		岩屋町27浄源寺	
4	スギ	300	30	不明			
5	クロマツ	300	5	不明		赤津町22	
6	アベマキ	220	19	不明		東洞町66白龍大明神	
7	スギ	320	25	100～199年		白坂町雲興寺	
8	スギ	300	33	不明			
9	スギ	300	31	不明			
10	ヒノキ	300	28	不明			
11	ツブラジイ	240	17	不明		巡間町大目神社	
12	ヤマザクラ	355	18	不明	豊田市	猿投町鷹ヶ峯東宮登山道	
13	スギ	510	35	不明		猿投町鷹ヶ峯猿投神社	
14	スギ	360	30	300年以上		猿投町大城猿投神社	
15	スギ	356	30	300年以上			
16	スギ	570	33	不明			
17	スギ	327	30	300年以上			
18	スギ	355	30	300年以上			
19	スギ	440	40	不明			
20	カツラ	350(南側) 300(北側)	約30	約300年		猿投町茂吉ケ峯3番地	天然記念物(市)

注）表中の番号は、図1.3.1-24の番号に対応する。
出典：「巨樹・巨木林調査（第6回）愛知県」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）
「豊田市の文化財（指定・登録・選定）」（令和3年5月閲覧、豊田市ホームページ）

(5) 重要な植物群落

事業実施区域周辺の重要な植物群落の分布状況は、表1.3.1-57、表1.3.1-58及び図1.3.1-24に示すとおりである。

事業実施区域周辺には特定植物群落として、「雲興寺のツブラジイ林」及び「猿投山の常緑針葉樹林」が分布している。植生自然度9の植生は主に北東部から南東部にかけて点在し、植生自然度10の植生は西部に狭い範囲で点在している。事業実施区域には、特定植物群落及び植生自然度9及び10の植生は分布していない。

表1.3.1-57　重要な植物群落の分布状況

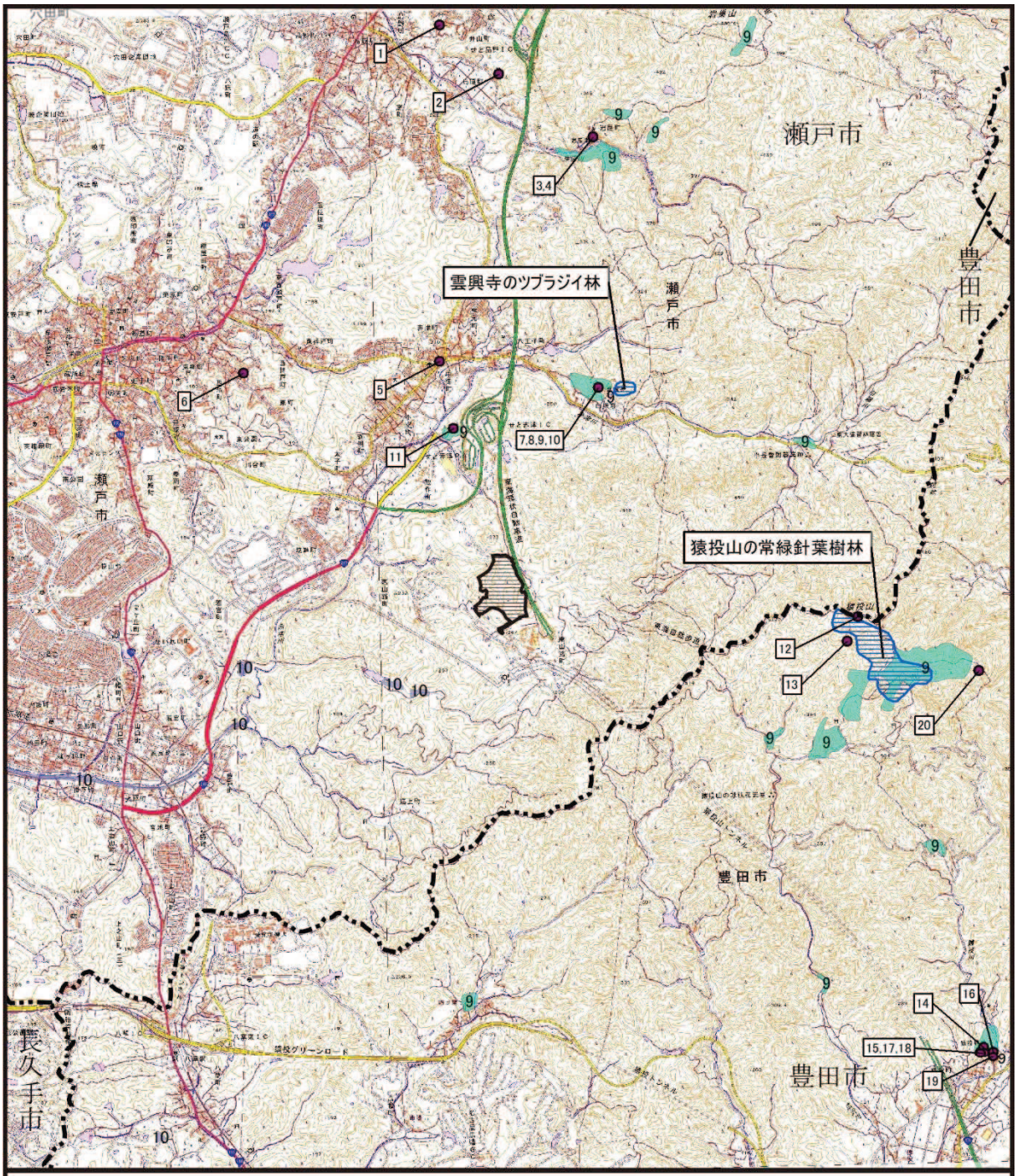
相観コード名称	特定植物群落	所在地	選定基準	面積（ha）
暖温帯常緑広葉高木林	雲興寺のツブラジイ林	瀬戸市	E	2
暖温帯常緑針葉高木林	猿投山の常緑針葉樹林	豊田市	A	15

※選定基準
A：原生林もしくはそれに近い自然林
E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
出典：「特定植物群落調査（第2,3回）愛知県」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）

表1.3.1-58　植生自然度9及び10の植生の分布状況

植生自然度	植生図　凡例
10 （自然草原）	ヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集
9 （自然林）	シラカシ群集、アラカシ群集、カナメモチ－コジイ群集、シキミ－モミ群集

出典：「統一凡例（1/2.5万植生図）の植生自然度区分」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）



注）図中の番号は表 1.3.1-56 に対応する。

出典：「巨樹・巨木林調査（第6回）愛知県」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）
「豊田市の文化財（指定・登録・選定）」（令和3年5月閲覧、豊田市ホームページ）
「特定植物群落調査（第2, 3回）愛知県」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）
「第6-7回自然環境保全基礎調査」（令和3年5月閲覧、生物多様性センターホームページ）

図 1.3.1-24　重要な植物及び重要な植物群落等の分布状況

(6) 生物多様性ポテンシャルマップ

愛知県では、平成22年10月に生物多様性ポテンシャルマップを作成し、マップの活用方法に示された手順や考え方に基づき検討を行うことによって、事業や活動を生態系ネットワークの形成に役立てることができるようにしている。生物多様性ポテンシャルマップでは、県域全体の10万分の1の地図に、実際に指標種の生息が確認されている場所のほか、森や草地、水辺などの分布や広さといった環境条件から、指標種のすみかとして適している場所（生態系ネットワークの形成において大切と考えられる場所）を予測して示している。

対象事業実施区域及びその周辺における生物多様性ポテンシャルマップは、表1.3.1-59に示すとおりである。

表1.3.1-59　生物多様性ポテンシャルマップ

マップの種類	指標種	対象事業実施区域及び その周辺における指標種
大拠点ポテンシャルマップ 食物となる生物が多い質の高い自然と広い生息空間が必要とされる「指標種」の生息適地	ツキノワグマ テン オオタカ サシバ クマタカ	ツキノワグマ生息適地 テン生息適地 オオタカ生息適地 サシバ生息適地
樹林ポテンシャルマップ 主に「森林」を生息場所とする「指標種」の生息適地	シュウジュウカラ オオムラサキ	シジュウカラ(安定的な生息地)
草地ポテンシャルマップ 主に「草地」「畑」「乾いた水田」を生息する場所とする「指標種」の生息適地と生息場所	カヤネズミ カモ類（マガモ属）	なし
水辺ポテンシャルマップ 主に「池沼」「河川」「湿地」「水田」「砂浜」「干潟」などの水辺を生息する場所とする「指標種」の生息適地と生息場所	サギ類 ヨシゴイ シギ・チドリ類 アカウミガメ アカガエル類 アユ・ウナギ 止水性イトトンボ類	アカガエル(産卵適地（池沼)、成体の生息適地) アユ・ウナギ(矢田川:遡上できない区間)
植物拠点図 愛知県の生物多様性の保全において重要な場所のうち特に植物にとって重要な場所	特定植物群落 東海丘陵要素植物群生育地 自然度の高い植物群落 天然記念物（植物） 湿地・湿原 自然海岸 藻場	東海丘陵要素植物群生生育地 落葉広葉樹林、一部が人工林・竹林・常緑広葉樹林 瀬戸Ｈ湿地 篠田池湿地
動物拠点図 愛知県の生物多様性の保全において重要な場所のうち特に動物にとって重要な場所	5キロメッシュごとの希少動物の確認数	希少種種数（脊椎動物）：9-12 希少種種数（無脊椎動物）：27-32

出典：「あいちの生物多様性ポテンシャル　気づく・まもる・つなげるマップ」（愛知県、平成22年10月）

1.3.1.8.3 生態系

事業実施区域周辺の地形は小起伏山地に分類され、自然植生度6～7の樹林環境が多く、南側には自然度植生2～3の耕作地（水田）や残存・植栽樹群をもった公園・墓地などによる耕作地及び草地環境のほか、自然度植生1の工場地帯が分布する。起伏は北側を流れる東山路川から南側へ向かって高くなっている。

事業実施区域周辺の環境は、樹林、耕作地および草地、河川、工場地帯に大別でき、下記に示すような生態系が成立していると考えられる。

(1) 二次林

事業実施区域周辺の二次林は、コナラやアカマツのほか、スギ植林により構成されており、アカネズミやニホンリスなどの小型哺乳類、キビタキやシジュウカラなどの小型鳥類といった、樹林を生息環境とする種の生息が予想される。生態系上位種としては、猿投山山麓の一部としての連続性があることから、広い行動域を持った動物の生息が予想され、タヌキ、イノシシおよびカモシカといった中型から大型の哺乳類や、オオタカなど中型の猛禽類といった鳥類が生息する可能性がある。

(2) 耕作地（水田）および草地

事業実施区域周辺の南側には水田が存在するほか、残存・植栽樹群をもった公園・墓地などの草地が存在する。特に水田ではカエル類の生息が予想され、生態系上位種としてはカエル類を捕食するヘビ類といった爬虫類や、サギ類といった鳥類が生息する可能性がある。また、明るい草地環境を好むホオジロやキジといった鳥類のほか、カヤネズミなど特殊性のある種が生息する可能性がある。

(3) 河川

事業実施区域周辺の北側には、赤津川へ流入する東山路川が存在する。二次林内を流れており、流水域を生息環境とするカワムツなどの魚類、サワガニなどの甲殻類、トンボ目、トビケラ目およびカワゲラ目といった水生昆虫類の生息が予想され、生態系上位種としてイタチ類などの中型哺乳類や、サギ類などの鳥類が生息する可能性がある。

(4) 工場地帯

事業実施区域周辺の南側に存在する工場地帯は植生をほとんど伴わないため、利用できる生物は少ないものと予想される。ハシブトガラスやハクセキレイなどの鳥類や、夜間に照明に集まる昆虫類を食べるため、一時的に飛来するアブラコウモリなどの哺乳類など、市街地に適応した種が生息する可能性がある。

1.3.1.9 景観、人と自然との触れ合いの活動の場の状況及び地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況

1.3.1.9.1 景観

(1) 景観資源

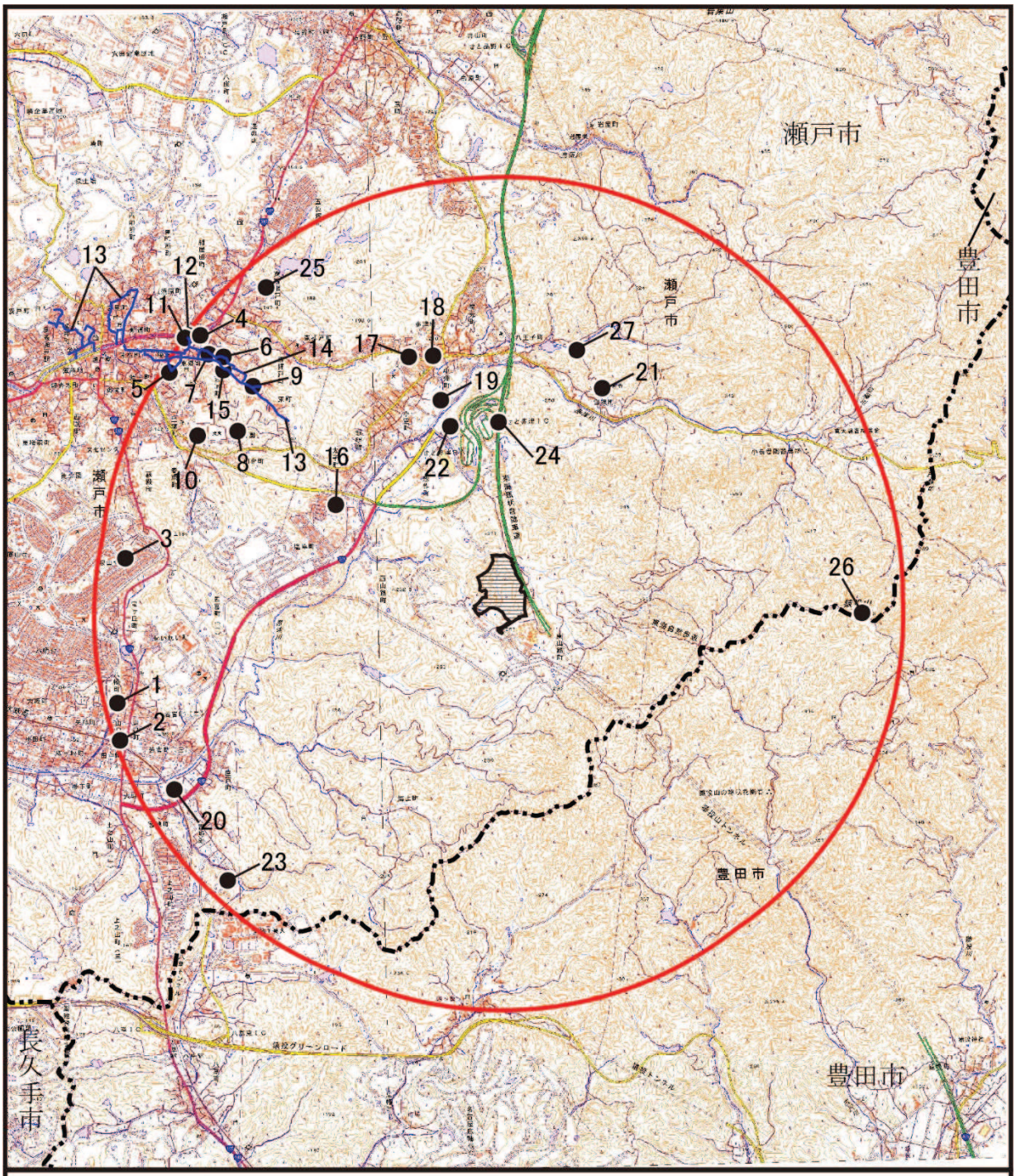
景観調査範囲の主要な景観資源の状況は、表1.3.1-60及び図1.3.1-25に示すとおりである。

景観調査範囲には景観資源が27か所存在する。事業実施区域は「瀬戸市景観計画」の森林里山景観ゾーンに位置する。事業実施区域内に景観資源は存在しない。

表1.3.1-60　景観資源の状況

番号	景観資源	ゾーン名
1	山口八幡社	せと・街なか景観ゾーン
2	山口駅	
3	菱野団地	
4	宝泉寺	せと・やきもの文化景観ゾーン
5	マルチメディア伝承工芸館	
6	窯垣の小径資料館	
7	窯垣の小径ギャラリー	
8	東公園	
9	洞本業窯	
10	一里塚本業窯	
11	東橋	
12	公園橋	
13	陶の路（暮らしっくストリート、洞街道、小迫間坂、炎護路）	
14	窯垣の小径	
15	洞地区の街並み	
16	万徳寺	
17	赤津焼会館	
18	赤津地区の街並み	
19	赤津川沿いの田園	
20	矢田川沿いの田園	田園景観ゾーン
21	雲興寺	森林里山景観ゾーン
22	大目神社	
23	海上の森センター	
24	せと赤津I.C	
25	馬ヶ城浄水場	
26	猿投山	
27	ねむの森	

注）表中の番号は図1.3.1-25の番号に対応する。
出典：「瀬戸市景観計画　～豊かな自然とやきものの魅力を活かしたまち～」（平成22年10月、瀬戸市）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：景観調査範囲

：景観資源

注）図中の番号は表 1.3.1-59 に対応する。

出典：「瀬戸市景観計画　～豊かな自然とやきものの魅力を活かしたまち～」（平成22年10月、瀬戸市）

図 1.3.1-25　景観資源の分布状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

(2) 主要な眺望点等

事業実施区域周辺の主要な眺望点の概要は、表1.3.1-61及び図1.3.1-26に示すとおりである。

事業実施区域周辺の主要な眺望点は、「陶祖公園」等の4か所が分布する。事業実施区域内に主要な眺望点は存在しない。

表1.3.1-61　主要な眺望点の状況

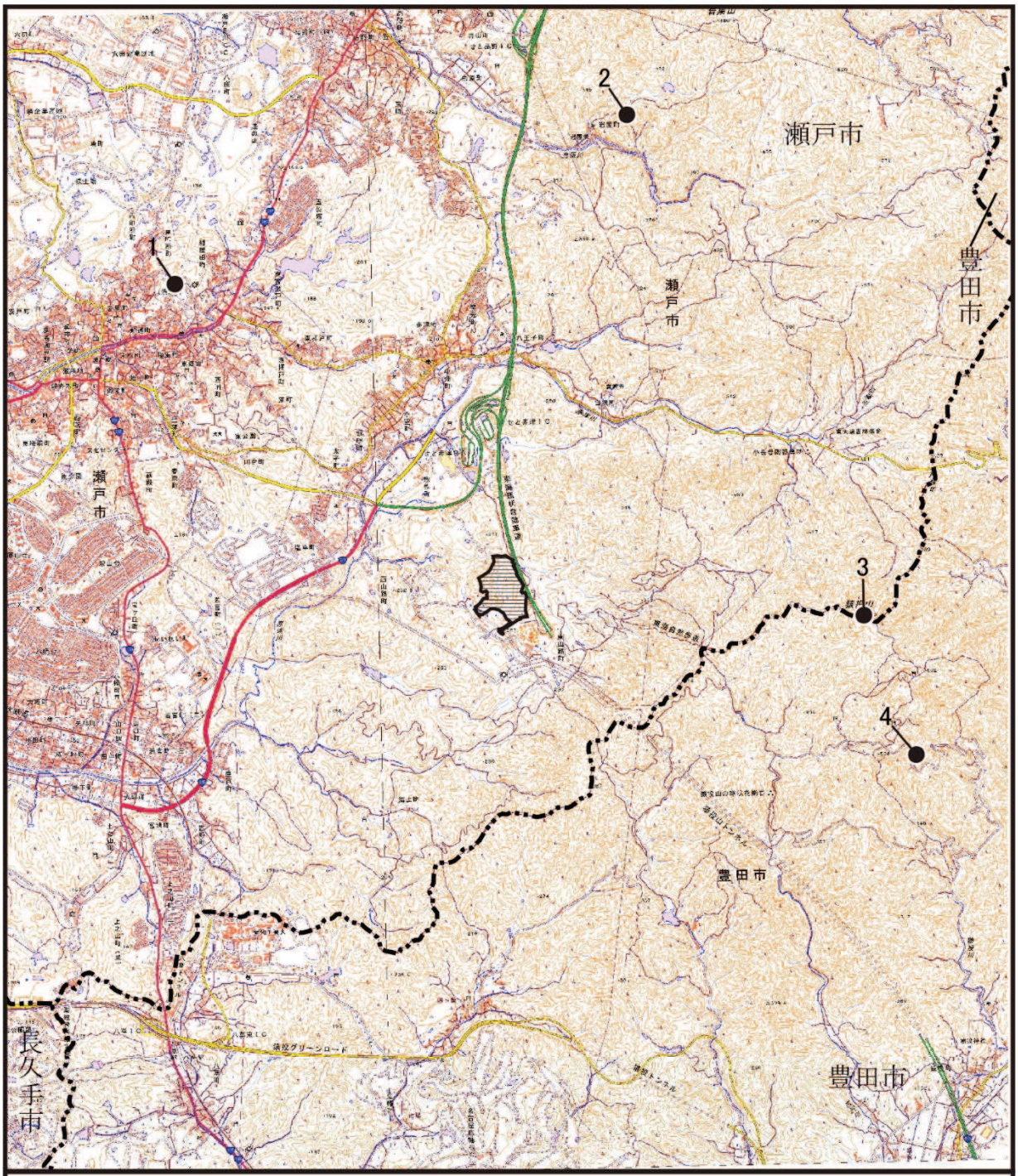
番号	眺望点	概要	出典
1	陶祖公園	瀬戸の中心部を一望できる。	1
2	岩巣山展望台 （岩屋堂公園周辺）	平成19年に新しくなった展望台からの眺望は格別で、雨上がりの好天時には、名古屋の高層ビル群や名古屋ドーム、さらに鈴鹿の山並みも楽しむこともできる。	2
3	猿投山	豊田市と瀬戸市にまたがる標高629ｍの山。	3
4	猿投山展望台	標高500ｍのところにある木製の展望台。展望台からは、名古屋市、豊田市が一望できる。	3

注）表中の番号は図1.3.1-26の番号に対応する。

出典1）「せと・まるっとミュージアム」（令和3年6月閲覧、瀬戸市観光情報公式サイト）

2）「AichiNow」（令和3年6月閲覧、愛知県公式観光ガイド）

3）「ツーリズムとよた」（令和3年6月閲覧、豊田市公式観光サイト）



注）図中の番号は表 1.3.1-60 に対応する。

出典1）「せと・まるっとミュージアム」（令和3年6月閲覧、瀬戸市観光情報公式サイト）
2）「AichiNow」（令和3年6月閲覧、愛知県公式観光ガイド）
3）「ツーリズムとよた」（令和3年6月閲覧、豊田市公式観光サイト）

図 1.3.1-26　主要な眺望点の分布状況

1.3.1.9.2 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の概要は表1.3.1-62及び図1.3.1-27に示すとおりである。

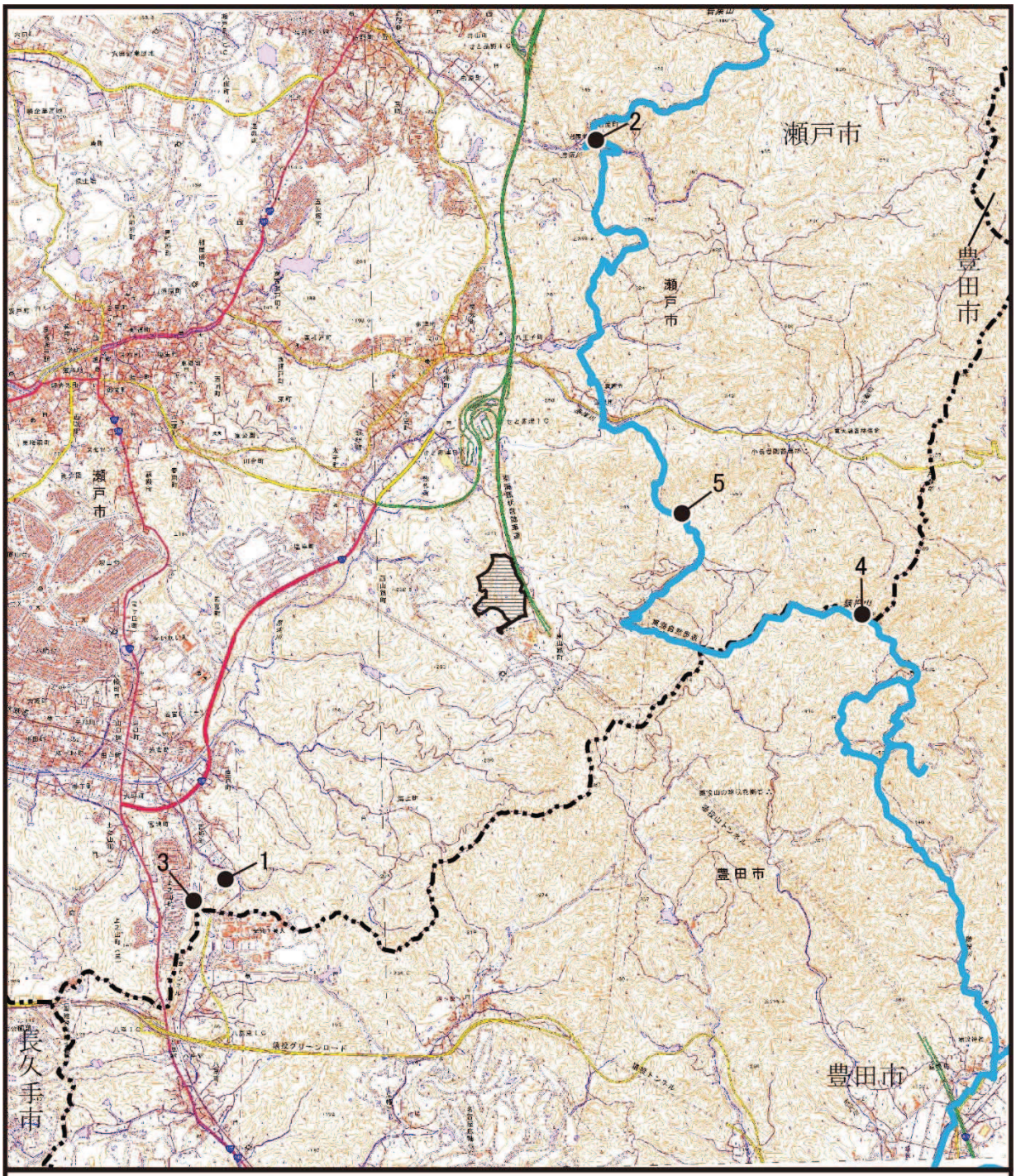
事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場は、「あいち海上の森センター（愛称：ムーアカデミー）」等の5か所が分布するが、事業実施区域内に自然との触れ合いの活動の場は存在しない。

表1.3.1-62　人と自然との触れ合いの活動の場の概要

番号	名称	概要	出典
1	あいち海上の森センター（愛称：ムーアカデミー）	森林や里山に関する学習と交流の拠点施設。2005年に開かれた愛・地球博の原点の海上の森を「愛知万博記念の森」として保全するとともに、人と自然の関わりを探求する場として活用されている。	1,3
2	岩屋堂公園	新緑、ホタル、天然プール、紅葉、瀬戸大滝など、四季を通じてダイナミックな自然にふれあえる瀬戸の奥座敷。東海自然歩道のルート上でもあるこの地方有数の観光スポット。	1,4,5
3	瀬戸万博記念公園「愛・パーク」	愛・地球博瀬戸会場の一部を利用した公園。「市民参加」「交流」そして「自然との共生」への想いを未来へ繋げて行くための新たな交流拠点。また、世界のやきものの交流ネットワークのシンボルでもある、3万枚のお皿と54万枚のモザイクタイルでできた、直径30m巨大モニュメント「天水皿(てんすいざら)」もある。	1
4	猿投山	豊田市と瀬戸市にまたがる標高629mの山。麓にある猿投神社の本社、山中の東の宮と西の宮は「猿投三社大明神」と呼ばれ、古くから霊山として崇められている。 白山や御嶽山を遠望できる猿投山山頂、御舟石などの巨岩巨石、トロミル水車など、多くのみどころがある。 東海自然歩道として登山道や駐車場も整備され、登山初心者やファミリーも気軽にハイキングを楽しめる人気スポットである。	2,4
5	東海自然歩道	東京「明治の森高尾国定公園」から大阪「明治の森箕面国定公園」まで1都2府8県にまたがり緑豊かな自然と貴重な文化財をたずねる全長1,697kmの歩道であり、愛知県内は、天竜奥三河、愛知高原及び飛騨木曽川の3つの国定公園を通過する延べ211kmのコースとなっている。	6,7

注）表中の番号は図1.3.1-27の番号に対応する。

出典1）「せと・まるっとミュージアム」（令和3年6月閲覧、瀬戸市観光情報公式サイト）
2）「ツーリズムとよた」（令和3年6月閲覧、愛知県豊田市公式観光サイト）
3）「あいち海上の森センター」（令和3年6月閲覧、愛知県）
4）「AichiNow」（令和3年6月閲覧、愛知県公式観光ガイド）
5）「岩屋堂公園」（令和3年6月閲覧、岩屋堂公園）
6）「あいちの環境　東海自然歩道」（令和3年7月閲覧、愛知県）
7）「マップあいち　東海自然歩道」（令和3年7月閲覧、愛知県）



凡　例

：市町村界

：主要な人と自然との触れ合いの活動の場

：対象事業実施区域

注）図中の番号は表 1.3.1-61 に対応する。

出典1)　「せと・まるっとミュージアム」（令和3年6月閲覧、瀬戸市観光情報公式サイト）
2)　「ツーリズムとよた」（令和3年6月閲覧、愛知県豊田市公式観光サイト）
3)　「あいち海上の森センター」（令和3年6月閲覧、愛知県）
4)　「AichiNow」（令和3年6月閲覧、愛知県公式観光ガイド）
5)　「岩屋堂公園」（令和3年6月閲覧、岩屋堂公園）
6)　「あいちの環境　東海自然歩道」（令和3年7月閲覧、愛知県）
7)　「マップあいち　東海自然歩道」（令和3年7月閲覧、愛知県）

図 1.3.1-27　主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.1.9.3 地域の歴史的文化的特性を生かした環境

(1) 指定文化財等

事業実施区域周辺における指定文化財等の状況は、表1.3.1-63及び図1.3.1-28に示すとおりである。

事業実施区域周辺における指定文化財等は、瀬戸市に40か所、豊田市に2か所分布するが、事業実施区域内に指定文化財は存在しない。

表1.3.1-63(1)　指定文化財等の状況

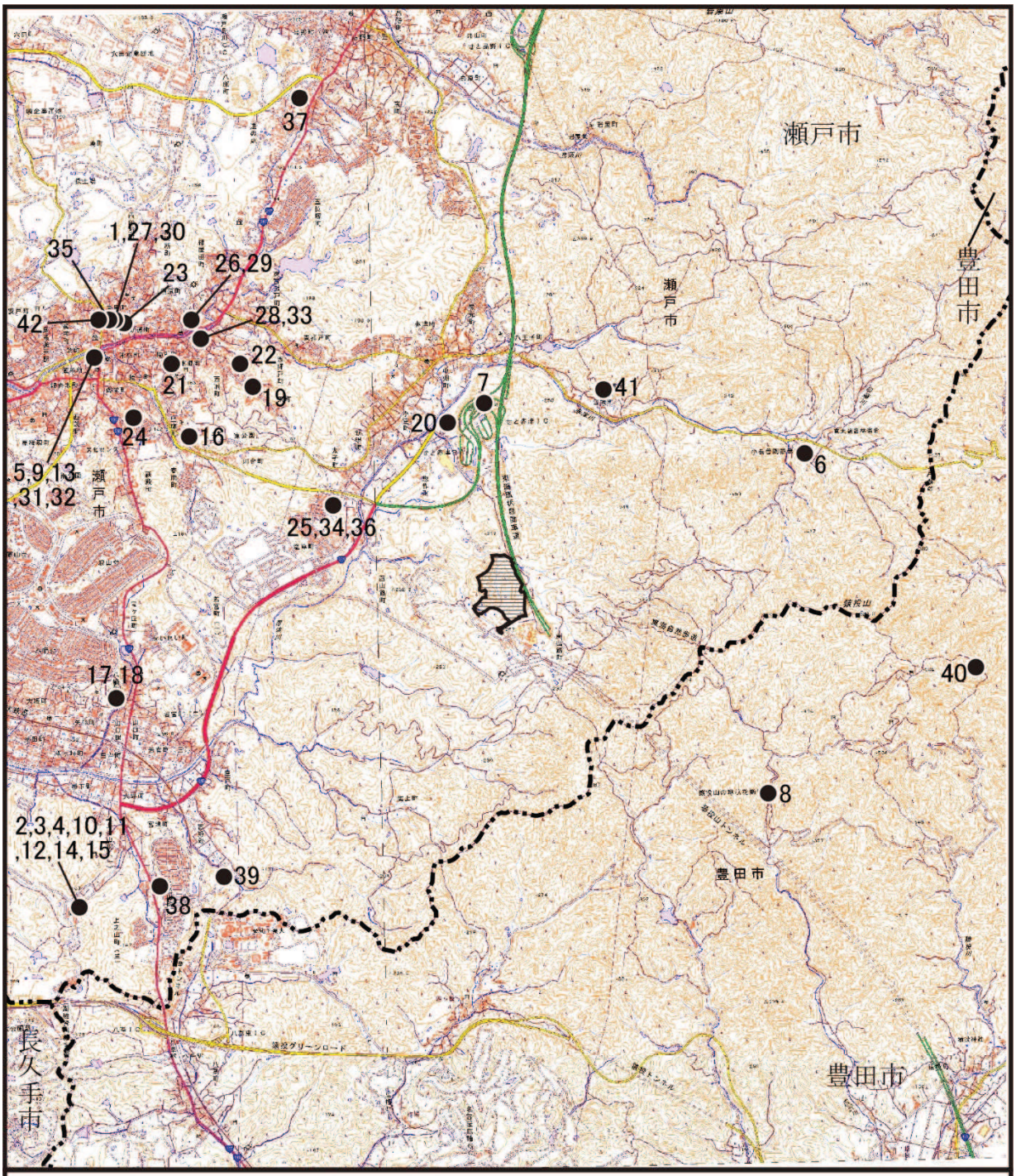
分類	市	種別	番号	名称	所在地
国指定文化財	瀬戸市	工芸品	1	陶製狛犬	深川町11深川神社
			2	灰釉多口瓶	愛知県陶磁美術館
			3	渥美灰釉芦鷺文三耳壺	愛知県陶磁美術館
			4	陶製五輪塔	愛知県陶磁美術館
		有形民俗	5	瀬戸の陶磁器の生産用具及び製品	瀬戸蔵ミュージアム
		史跡	6	瀬戸窯跡（小長曽陶器窯跡）	東白坂町1-1
			7	瀬戸窯跡（瓶子陶器窯跡）	凧山町31番24ほか
	豊田市	天然記念物	8	猿投山の球状花崗岩	豊田市加納町広沢　ほか
県指定文化財	瀬戸市	工芸品	9	御深井釉木瓜形水盤	瀬戸蔵ミュージアム
			10	陶製牡丹文経筒外容器	愛知県陶磁美術館
			11	猿投灰釉短頸壺	愛知県陶磁美術館
			12	鉄釉巴文瓶子	愛知県陶磁美術館
			13	御深井釉唐草文双耳水甕	瀬戸蔵ミュージアム
		考古資料	14	猿投灰釉短頸壺及び平瓶	愛知県陶磁美術館
		有形民俗	15	陶製狛犬コレクション	愛知県陶磁美術館
市指定文化財	瀬戸市	建造物	16	一里塚本業窯	一里塚町27
			17	石燈籠	八幡町3八幡社
			18	石造鳥居	八幡町3八幡社
			19	洞本業窯	東洞町45他
			20	石造鳥居	巡間町1大目神社
			21	古窯（こがま）	瀬戸染付工芸館
			22	王子窯モロ	東洞町63
			23	陶彦社（本殿・幣殿・拝殿・築地塀）	深川町11
			24	常夜燈	秋葉町100の2秋葉神社
		絵画	25	聖徳太子絵伝	塩草町93万徳寺

注1）表中の番号は図1.3.1-28の番号に対応する。
注2）無形（工芸・民族）及び個人蔵の文化財は、記載の対象外とした。
出典1）「指定・登録文化財一覧」（瀬戸市ホームページ）
2）「豊田市の文化財（指定・登録・選定）」（豊田市ホームページ）
3）「文化・文化財」（瀬戸ペディアホームページ）
4）「文化財オンライン」（文化財オンラインホームページ）
5）「愛知県埋蔵文化センター調査報告書　第135集」（全国遺跡報告書総覧ホームページ）
6）「せと・まるっとミュージアム」（瀬戸市観光情報公式サイト）
※いずれの出典も令和3年4月閲覧

表1.3.1-63(2)　指定文化財等の状況

分類	市	種別	番号	名称	所在地
市指定文化財	瀬戸市	工芸品	26	六角陶碑	藤四郎町1陶祖公園
			27	永享年銘梵鐘	深川町11深川神社
			28	陶質十六羅漢塑像	寺本町30宝泉寺
			29	志野焼燈籠	藤四郎町1
			30	織部燈籠	深川町11深川神社
			31	染付花唐草文大燈籠	瀬戸蔵ミュージアム
			32	染付花鳥図蓋付大飾壺	瀬戸蔵ミュージアム
			33	古瀬戸瓶子	寺本町30宝泉寺
		典籍	34	聖徳太子伝	塩草町93万徳寺
		歴史資料	35	陶製梵鐘	深川町30法雲寺
			36	松原広長寄進状	塩草町93万徳寺
		有形民俗	37	品野祇園祭の神武天皇像および従者像	品野町2丁目40(全宝寺祇園堂)
		史跡	38	宮地古墳群	上之山町2-171-15
			39	広久手第３０号窯跡	愛知海上の森センター
	豊田市	天然記念物	40	猿投山のカツラ	猿投町茂吉ケ峯3
国登録文化財	瀬戸市	建造物	41	鐘楼	白坂町131雲興寺
			42	旧山繁商店(離れ・事務所・旧事務所・土蔵・新小屋・前倉庫・中倉庫・奥倉庫・塀)	仲切町23・深川町41ほか

注1）表中の番号は図1.3.1-28の番号に対応する。
注2）無形（工芸・民族）及び個人蔵の文化財は、記載の対象外とした。
出典1）「指定・登録文化財一覧」（瀬戸市ホームページ）
2）「豊田市の文化財（指定・登録・選定）」（豊田市ホームページ）
3）「文化・文化財」（瀬戸ペディアホームページ）
4）「文化財オンライン」（文化財オンラインホームページ）
5）「愛知県埋蔵文化センター調査報告書　第135集」（全国遺跡報告書総覧ホームページ）
6）「せと・まるっとミュージアム」（瀬戸市観光情報公式サイト）
※いずれの出典も令和3年4月閲覧



凡　例

▬▬▬ ：市町村界　　● ：文化財

▭ ：対象事業実施区域

注）図中の番号は表 1.3.1-62 に対応する。

注）　無形（工芸・民俗）及び個人蔵の文化財は、記載の対象外とした。

出典：「指定・登録文化財一覧」（瀬戸市ホームページ）　「文化・文化財」（瀬戸ペディアホームページ）
「豊田市の文化財（指定・登録・選定）」（豊田市ホームページ）
「文化財オンライン」（文化財オンラインホームページ）
「愛知県埋蔵文化センター調査報告書　第135集」（全国遺跡報告書総覧ホームページ）
「せと・まるっとミュージアム」（瀬戸市観光情報公式サイト）　※いずれの出典も令和3年4月閲覧

図 1.3.1-28　指定文化財等の分布状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

(2) 埋蔵文化財法蔵地

事業実施区域周辺における埋蔵文化財包蔵地の状況は、表1.3.1-64及び図1.3.1-29に示すとおりである。

埋蔵文化財包蔵地は、事業実施区域周辺に59か所分布し、このうち2か所（「穴山窯跡」及び「扶桑北窯跡」）は事業実施区域内に存在する。「穴山窯跡」及び「扶桑北窯跡」、「山路F窯跡」は、平成26年11月に分布調査が行われ、「穴山窯跡」及び「扶桑北窯跡」において窯業関連遺跡が確認された。

表1.3.1-64(1)　指定文化財等の状況

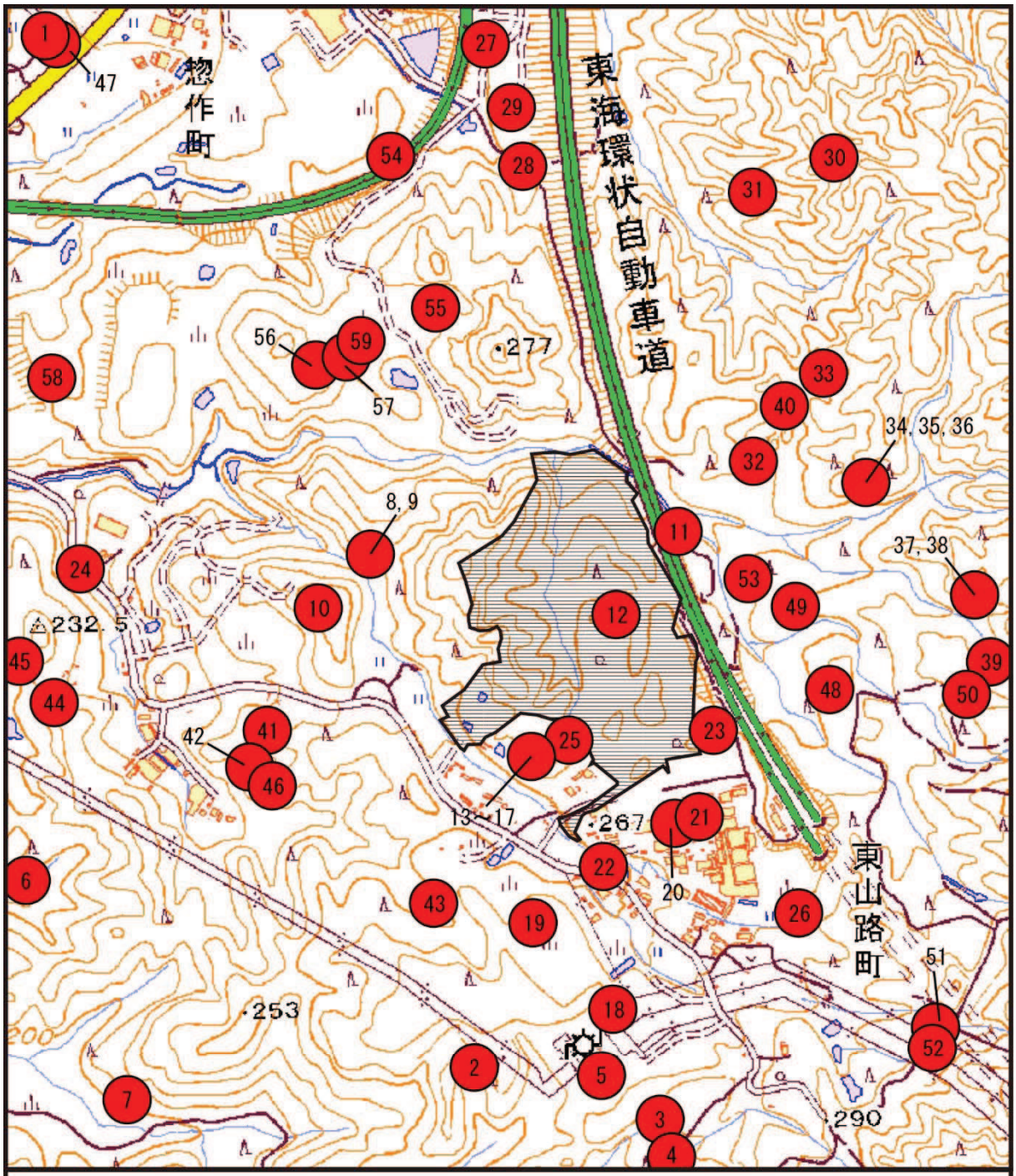
番号	名称	所在地	種別	時代
1	太子縄文遺跡	太子町	遺物散布地	縄文
2	山路西山窯跡	海上町	窯業遺跡	中世
3	大平窯跡	海上町	窯業遺跡	中世
4	大平縄文遺跡	海上町	遺物散布地	縄文
5	海上遺跡	海上町	遺物散布地	中世
6	海上D窯跡	海上町	窯業遺跡	中世
7	海上G窯跡	海上町	窯業遺跡	中世
8	田尻東窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
9	田尻窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
10	石坂窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
11	山路遺跡	山路町	遺物散布地	旧石器
12	穴山窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
13	扶桑1号窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
14	扶桑2号窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
15	扶桑3号窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
16	扶桑4号窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
17	扶桑5号窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
18	山路A窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
19	山路B窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
20	山路C窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
21	山路D窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
22	山路E窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
23	山路F窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
24	山路G窯跡（旧山路A窯）	山路町	窯業遺跡	中世
25	扶桑北窯跡	山路町	窯業遺跡	中世
26	東山路遺跡	山路町85	遺物散布地	中世
27	巡間A窯跡	巡間町	窯業遺跡	中世
28	巡間B窯跡	巡間町	窯業遺跡	中世

注）表中の番号は図1.3.1-29の番号に対応する。
出典：「埋蔵文化財・記念物」（令和3年7月閲覧、マップあいちホームページ）

表1.3.1-64(2)　指定文化財等の状況

番号	名称	所在地	種別	時代
29	巡間C窯跡	巡間町	窯業遺跡	中世
30	城狭間上窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
31	城狭間下窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
32	孫右衛門窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
33	上山路A窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
34	横根1号窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
35	横根2号窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
36	横根3号窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
37	北平1号窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
38	北平2号窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
39	平林窯跡関連遺跡	上山路町	遺物散布地	中世
40	上山路E窯跡	上山路町	窯業遺跡	中世
41	清水北窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
42	清水窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
43	大松窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
44	西山路I窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
45	西山路A窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
46	清水南窯跡	西山路町	窯業遺跡	中世
47	惣作・鐘場遺跡	惣作町	遺物散布地	古墳・奈良・平安・中世
48	上山路B窯跡	東山路町	窯業遺跡	中世
49	平西窯跡	東山路町	窯業遺跡	中世
50	平窯跡	東山路町	窯業遺跡	中世
51	山路八幡窯跡	東山路町	窯業遺跡	中世
52	山路縄文遺跡	東山路町	遺物散布地	縄文
53	東山路A遺跡	東山路町	遺物散布地	中世
54	門前A窯跡	門前町	窯業遺跡	中世
55	門前B窯跡	門前町	窯業遺跡	中世
56	音玄窯跡	門前町	窯業遺跡	中世
57	音玄東南山窯跡	門前町	窯業遺跡	中世
58	門前C窯跡	門前町	窯業遺跡	中世
59	門前D窯跡	門前町	窯業遺跡	中世

注）表中の番号は図1.3.1-29の番号に対応する。
出典：「埋蔵文化財・記念物」（令和3年7月閲覧、マップあいちホームページ）



凡　例

：対象事業実施区域

：周知の埋蔵文化財包蔵地

注）図中の番号は表 1.3.1-63 に対応する。

出典：「埋蔵文化財・記念物」（令和3年7月閲覧、マップあいちホームページ）

図 1.3.1-29　周知の埋蔵文化財包蔵地の分布状況

N

1:10,000

0　125　250　500 m

1.3.2 社会的状況

1.3.2.1 人口及び産業の状況

1.3.2.1.1 人口の状況

瀬戸市及び豊田市における人口及び世帯数の状況は表1.3.2-1に、人口及び世帯数の推移グラフは図1.3.2-1に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市の令和3年の人口は129,096人、世帯数は57,163戸である。豊田市は人口が421,280人、世帯数が183,167戸である。

瀬戸市及び豊田市の人口及び世帯数の推移は、概ね横ばいである。

対象事業実施区域が位置する山路町は、人口が0人である。

表1.3.2-1　人口及び世帯数の状況

各年4月1日現在

項目	人口(人)		世帯数(世帯)	
市 / 年	瀬戸市	豊田市	瀬戸市	豊田市
平成29年	130,298	423,916	54,916	176,123
平成30年	129,900	424,500	55,388	178,410
令和元年	129,550	425,340	55,942	181,418
令和2年	129,410	424,053	56,666	182,485
令和3年	129,096	421,280	57,163	183,167

出典：「人口と世帯」（令和3年4月閲覧、瀬戸市ホームページ）
「豊田市の人口」（令和3年4月閲覧、豊田市ホームページ）

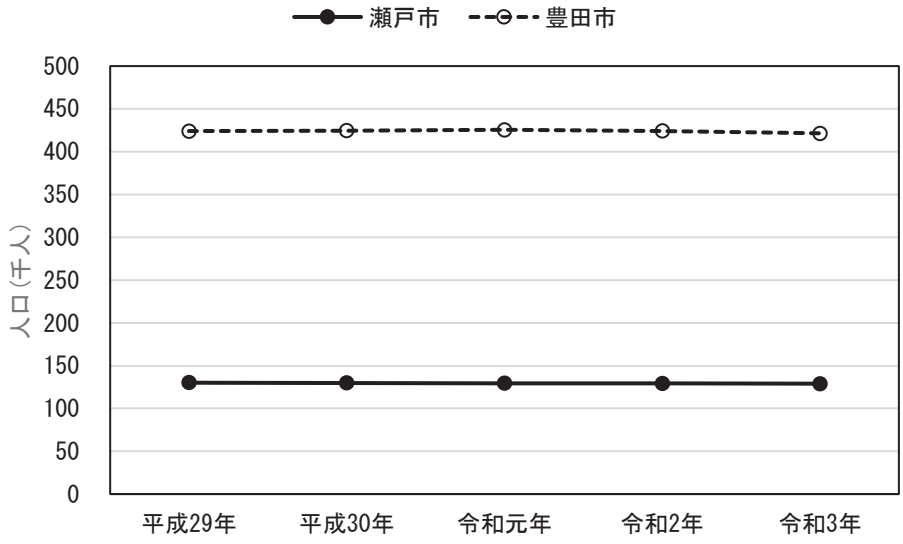


図1.3.2-1(1)　人口の推移の状況

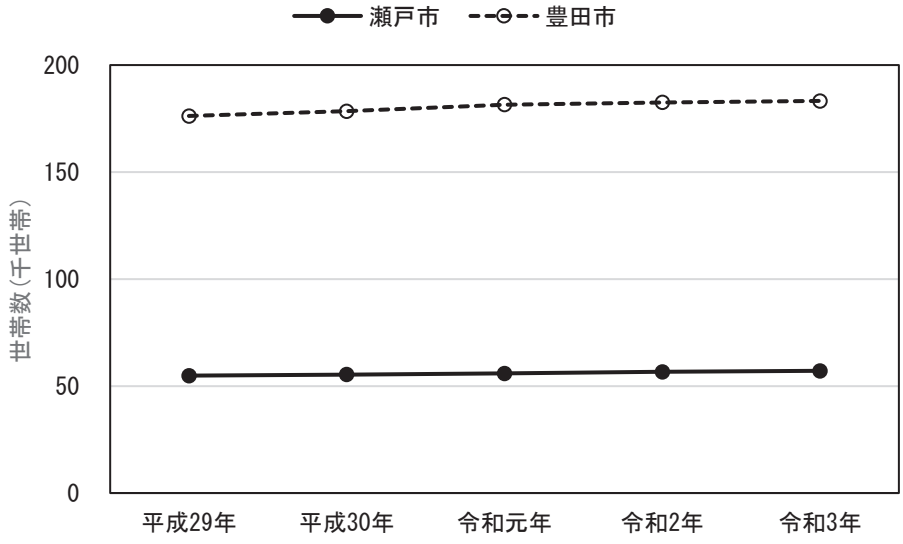


図1.3.2-1(2)　世帯数の推移の状況

1.3.2.1.2 産業の状況

瀬戸市及び豊田市における産業分類別事業所数及び従業者数の状況は表1.3.2-2に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市は、事業所数が4,791事業所、従業者数が46,118人である。豊田市は事業所数が13,507事業所、従業者数が248,872人である。産業分類別の構成比について、瀬戸市は事業所数及び従業者数のいずれも第三次産業が最も高く、豊田市は、事業所数は第三次産業が、従業者数は第二次産業が最も高い。

表1.3.2-2　産業分類別事業所数及び従業者数の状況

平成 28 年 6 月 1 日現在

区分 / 市 / 産業分類		事業所数（事業所）		従業者数（人）	
		瀬戸市	豊田市	瀬戸市	豊田市
第一次産業	農業,林業	8	66	86	953
	漁業	－	2	－	15
	農業，林業，漁業 間格付不能	－	－	－	－
	総数	8	68	86	968
	構成比(%)	0.2	0.5	0.2	0.4
第二次産業	鉱業，採石業，砂利採取業	14	11	105	127
	建設業	411	1,400	2,148	12,420
	製造業	1,069	1,486	14,576	114,916
	総数	1,494	2,897	16,829	127,463
	構成比(%)	31.2	21.4	36.5	51.2
第三次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	2	10	27	358
	情報通信業	23	101	101	2,695
	運輸業，郵便業	107	322	2,319	10,033
	卸売業，小売業	1,166	2,992	8,811	29,456
	金融業，保険業	56	162	966	2,633
	不動産業，物品賃貸業	203	775	572	2,816
	学術研究，専門・技術サービス業	159	512	653	5,729
	宿泊業，飲食サービス業	461	1,945	3,124	17,379
	生活関連サービス業，娯楽業	341	1,252	3,191	7,400
	教育，学習支援業	153	545	1,300	5,614
	医療，福祉	360	871	5,734	17,648
	複合サービス事業	24	86	415	1,354
	サービス業(他に分類されないもの)	234	969	1,990	17,326
	総数	3,289	10,542	29,203	120,441
	構成比(%)	68.6	78.0	63.3	48.4
計		4,791	13,507	46,118	248,872

注）構成比は小数点第2位以下を四捨五入してあるため、合計数と内訳の計が一致しない場合がある。
出典：「令和2年度刊愛知県統計年鑑」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

1.3.2.2 土地利用の状況

瀬戸市及び豊田市における人口及び土地利用の状況は、表1.3.2-3に示すとおりである。土地利用現況図及び対象事業実施区域周辺の空中写真は図1.3.2-2に示すとおりである。

瀬戸市は「森林・原野等」が6,329haで最も面積が大きく、次いで「その他」が1,910haである。豊田市は「森林・原野等」が62,541haで最も面積が大きく、次いで「その他」が9,402haである。

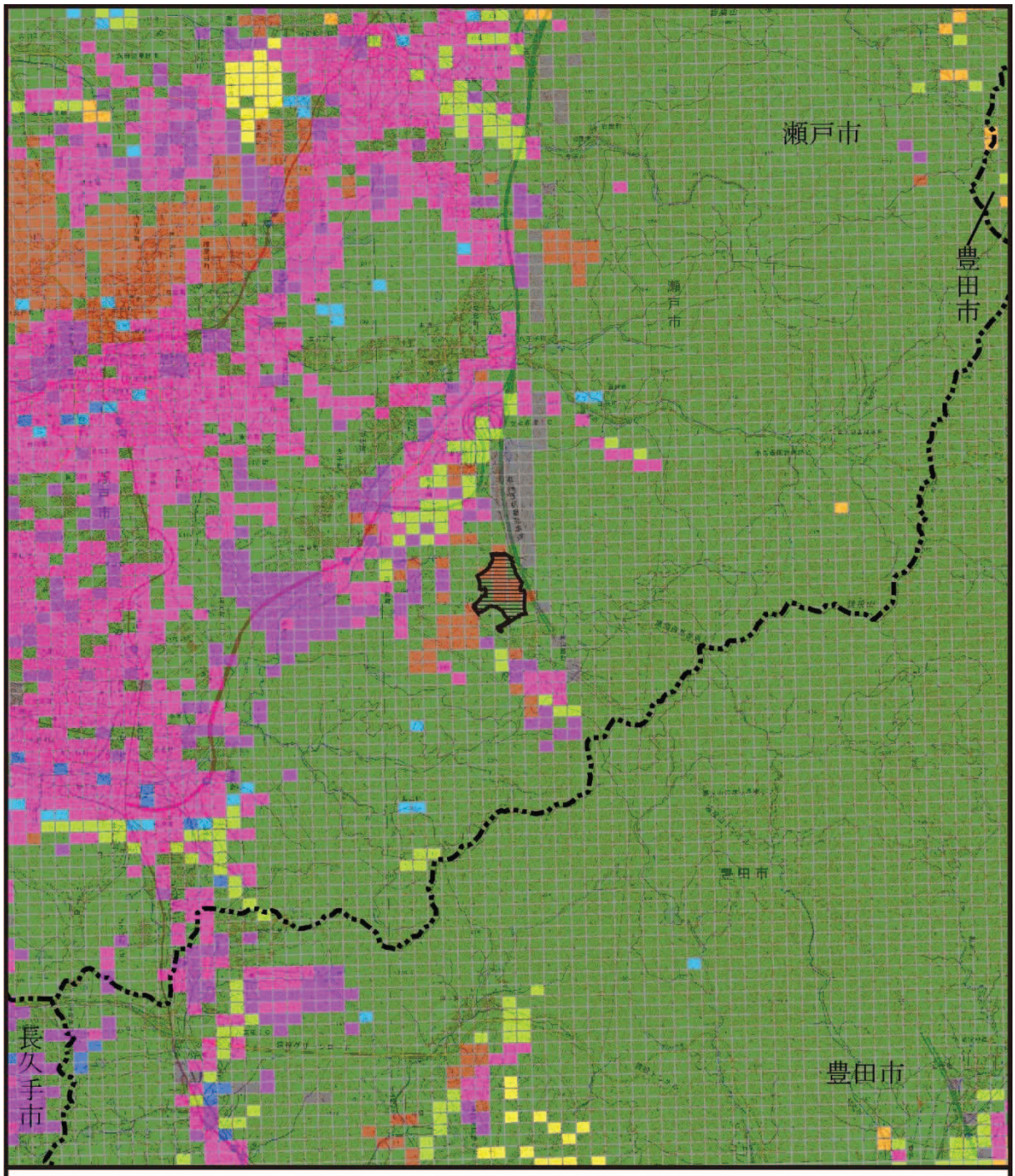
対象事業実施区域周辺の土地利用状況は、東側及び南側が主に森林であり、北側及び西側が主に建物用地である。対象事業実施区域は森林及び荒地である。

表1.3.2-3　土地利用の状況

平成29年4月1日現在

項目		面積(ha)	
		瀬戸市	豊田市
行政面積		11,140	91,832
宅地	住宅地	1,115	3,966
	その他[注1)]	685	2,742
農地	田	201	5,060
	畑	96	1,500
森林・原野等		6,329	62,541
道路		647	3,714
水面・河川・水路		157	2,832
その他[注2)]		1,910	9,402

注1）「宅地」から「住宅地」を除いた工業用地等である。
注2）行政面積から「宅地」，「農地（農用地）」，「森林，原野等（森林，原野）」，「道路」及び「水面・河川・水路」の各面積を差し引いたものである。なお，その数値が0又はマイナスとなる箇所は空欄にしてある。
出典：「令和2年度刊愛知県統計年鑑」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

田	道路
その他の農用地	鉄道
森林	その他の用地
荒地	河川地及び湖沼
建物用地	ゴルフ場

出典：「土地利用細分メッシュ（平成28年度）」（令和3年4月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）

図 1.3.2-2(1)　土地利用現況図

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m



出典：「瀬戸市都市計画情報　航空写真（令和2年1月撮影）」（令和3年6月閲覧、瀬戸市ホームページ）

図1.3.2-2(2)　空中写真（対象事業実施区域周辺）

1.3.2.3 都市計画の状況

瀬戸市及び豊田市における都市計画（用途地域）の指定状況は、表1.3.2-4及び図1.3.2-3に示すとおりである。

対象事業実施区域は市街化調整区域に位置する。

表1.3.2-4　都市計画（用途地域）の指定状況

令和元年4月1日現在

項目＼市		瀬戸市		豊田市	
		面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
都市計画区域		11,140	100.0	35,569	100.0
市街化区域	第１種低層住居専用地域	515	4.6	1,134	3.2
	第２種低層住居専用地域	7	0.1	32	0.1
	第１種中高層住居専用地域	433	3.9	951	2.7
	第２種中高層住居専用地域	－	－	86	0.2
	第１種住居地域	567	5.1	1,163	3.3
	第２種住居地域	4	0.0	101	0.3
	準住居地域	30	0.3	52	0.1
	近隣商業地域	47	0.4	160	0.4
	商業地域	107	1.0	108	0.3
	準工業地域	656	5.9	370	1.0
	工業地域	129	1.2	197	0.6
	工業専用地域	114	1.0	934	2.6
	計	2,610	23.4	5,288	14.9
市街化調整区域		8,530	76.6	30,281	85.1

注）構成比は小数点第2位以下を四捨五入している。
出典：「令和2年度刊愛知県統計年鑑」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

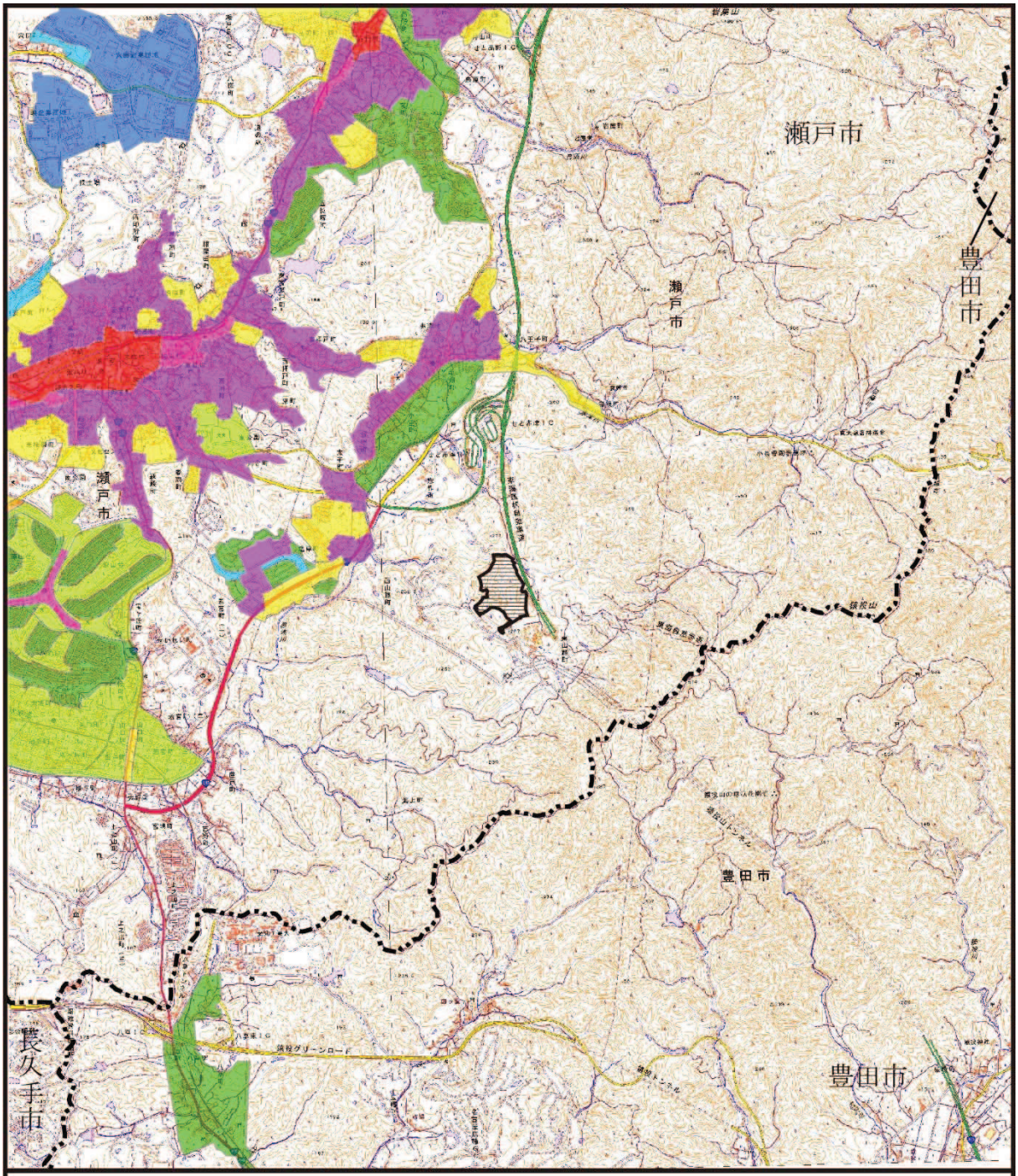

瀬戸市
豊田市
瀬戸市
瀬戸市
豊田市
豊田市
長久手市
凡　例
：市町村界
：対象事業実施区域
：商業地域
：工業地域
：工業専用地域
：準住居地域
：準工業地域
：第1種中高層住居専用地域
：第1種低層住居専用地域
：第1種住居地域
：近隣商業地域
出典：「都市計画総括図（平成28年度）」（令和3年4月閲覧、マップあいちホームページ）
N
1:50,000
0　500　1,000　2,000 m

図 1.3.2-3　都市計画図

1.3.2.4 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況

1.3.2.4.1 漁業権の状況

対象事業実施区域及びその周囲において、漁業権が設定されている地域はない。

1.3.2.4.2 上水道の普及状況

瀬戸市及び豊田市における上水道の普及状況は、表1.3.2-5に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市の水道普及率は99.7%である。豊田市の水道普及率は100.0%である。なお、瀬戸市及び豊田市において、簡易水道は設けられていない。

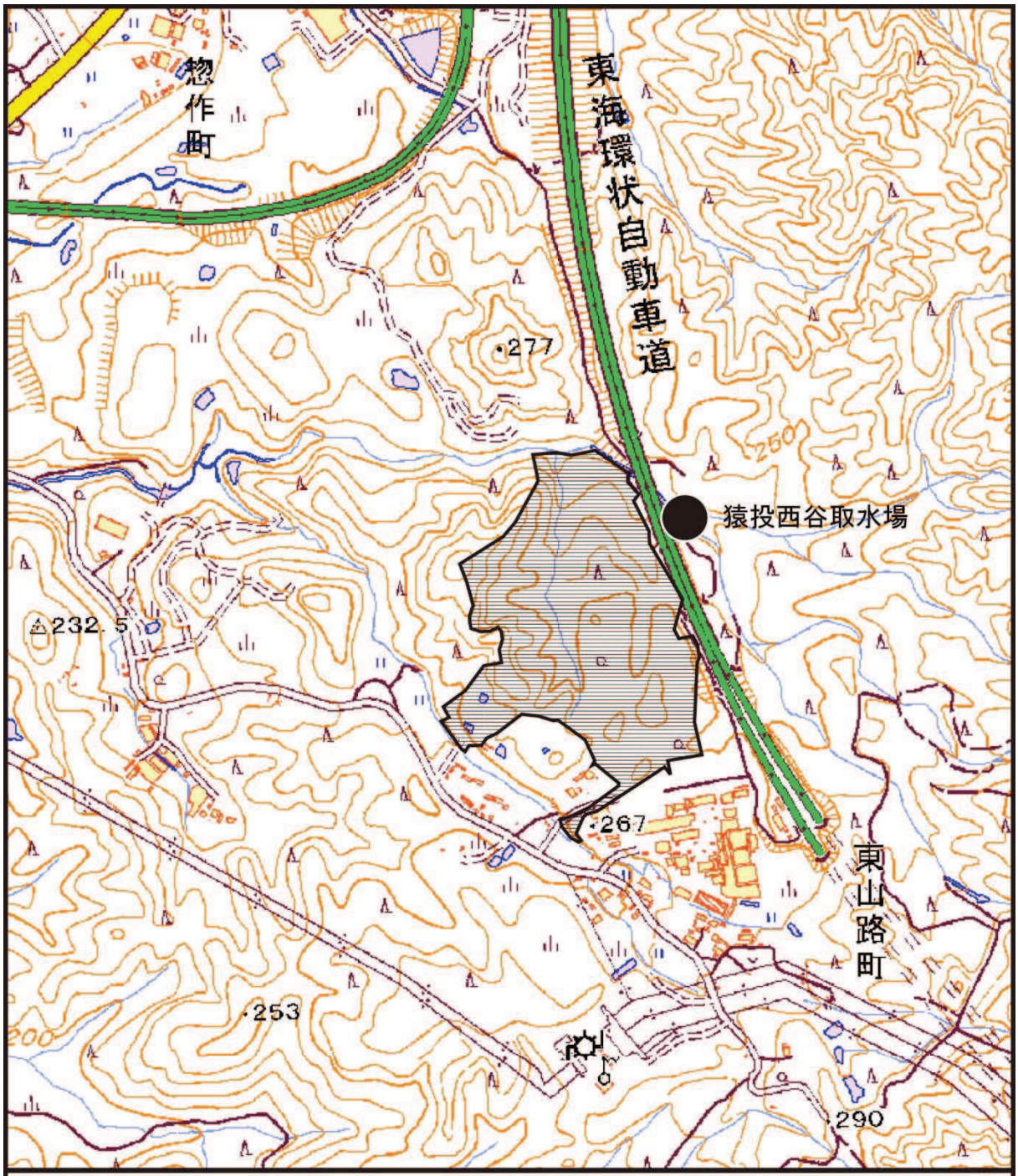
対象事業実施区域周辺の配水施設は図1.3.2-4に示すとおりである。対象事業実施区域の東側には、猿投西谷取水場が存在する。

表1.3.2-5　水道の普及状況

令和元年6月1日現在

項目 / 市	①行政区域内総人口(人)	現在給水人口(人)				普及率(%) ②/①×100
		②総数	上水道	簡易水道	専用水道	
瀬戸市	127,573	127,243	127,243	－	(－) 251	99.7
豊田市	424,073	423,903	418,998	－	(4,905) 6,991	100.0

注1) 普及率欄の100.0%は、小数点第2位以下の四捨五入によるものであるため、一部未普及がある。
注2) 専用水道欄の（　　）の値は、上水道から受水している施設を除いた自己水源でのみで供給している施設の数値であり、総数の算出には同値を用いている。
出典：「令和元年度　愛知県の水道＜水道年報＞」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）



出典：「瀬戸市水道ビジョン」（平成24年3月、瀬戸市都市整備部水道課）

図 1.3.2-4　配水施設

N

1:10,000

0　125　250　500 m

1.3.2.4.3 地下水の利用状況

瀬戸市及び豊田市における工業用水としての利用状況は、表1.3.2-6に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市の工業用水として利用されている井戸水の割合は38.3%である。豊田市の工業用水として利用されている井戸水の割合は16.5%である。

なお、対象事業実施区域及びその周囲は「工業用水法」（昭和31年　法律第146号）及び「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年　愛知県条例第7号）による地下水の採取規制対象地域を含まない。

表1.3.2-6　地下水の利用状況

令和２年６月１日現在

項目／市	工業用水		
	一日最大給水量(m^3)		井戸水の割合(%)
		内井戸水(m^3)	
瀬戸市	3,026	1,158	38.3
豊田市	54,152	8,958	16.5

出典：「令和2年工業統計調査結果（確報）」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

1.3.2.5 交通の状況

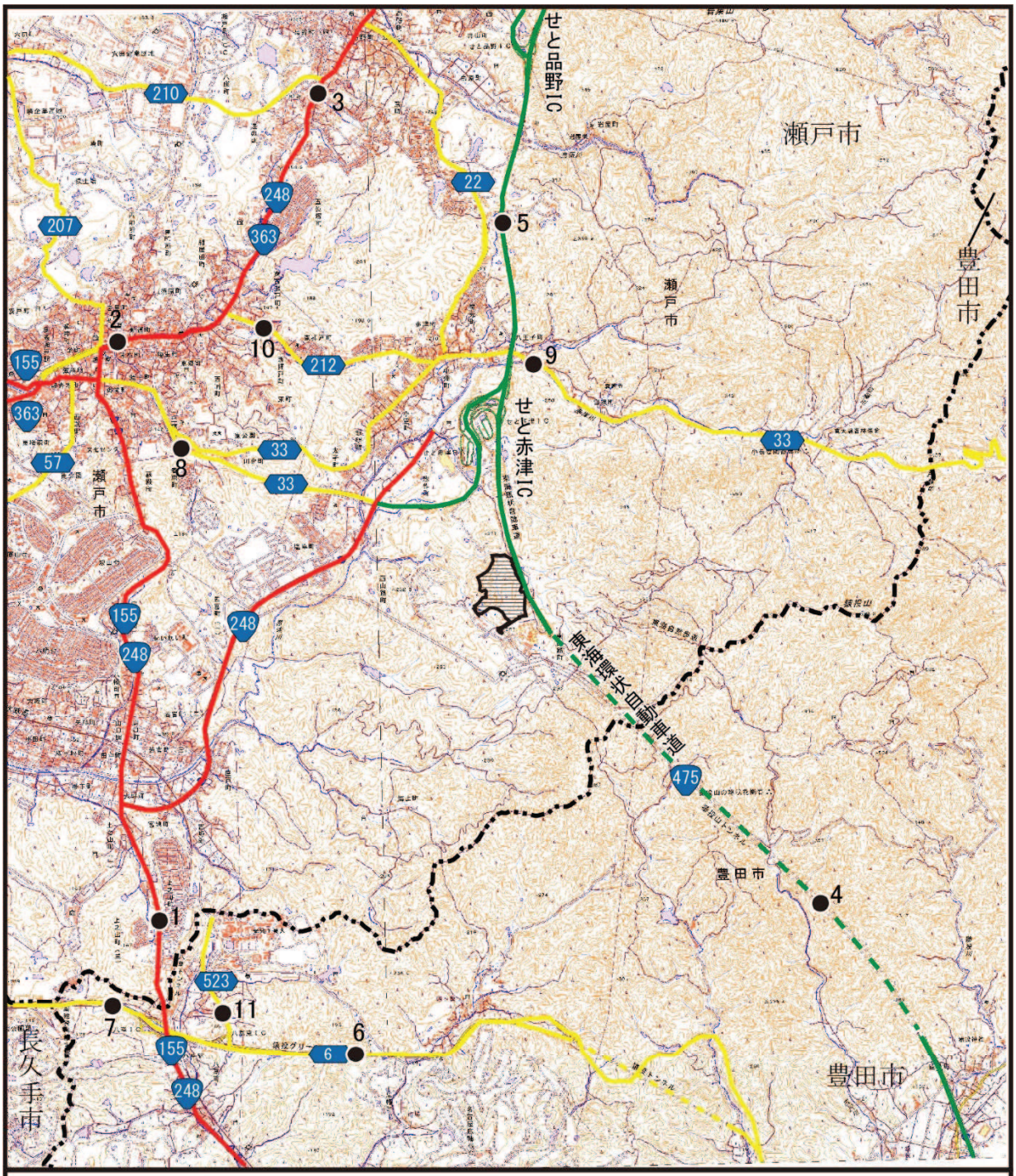
1.3.2.5.1 道路交通の状況

対象事業実施区域周辺の主要な道路の状況は、図1.3.2-5に示すとおりである。対象事業実施区域周辺の平成27年度における交通量調査結果は、表1.3.2-7に示すとおりである。

表1.3.2-7　対象事業実施区域周辺の主要道路の交通量（平日）

番号	路線名		交通量観測地点名	24時間自動車類交通量(台)			大型車混入率(%)
				小型車	大型車	合計	
1	一般国道	155号	瀬戸市上之山町２丁目	9,520	2,262	11,782	20.6
2		248号	瀬戸市新道町	17,568	3,034	20,602	13.0
3			瀬戸市広之田町	9,776	2,670	12,446	20.6
4		475号(東海環状自動車道)	豊田多治見線豊田藤岡IC～一般国道２４８号せと赤津IC	12,457	5,514	17,971	26.7
5			一般国道２４８号せと赤津IC～一般国道３６３号せと品野IC	13,425	5,581	19,006	25.3
6	主要地方道(県道)	力石名古屋線	八草料金所	12,486	1,731	14,217	10.4
7			豊田市八草町秋合	23,384	4,215	27,599	13.1
8		瀬戸設楽線	瀬戸市川合町	6,432	1,081	7,513	13.5
9			瀬戸市白坂町	3,489	581	4,070	13.3
10	県道	窯元東古瀬戸線	瀬戸市西拝戸町	3,844	463	4,307	9.0
11		広久手八草線	豊田市八草町立田川	1,974	216	2,190	9.6

注）表中の番号は図1.3.2-5の番号に対応する。
　　大型車混入率は、昼間12時間の交通量から算出している。
出典：「平成27年度全国道路・街路交通情勢調査　一般交通量調査　箇所別基本表」
　　（令和3年12月閲覧、国土交通省ホームページ）



注）図中の番号は表 1.3.2-7 に対応する。

出典：「平成27年度全国道路交通情勢調査　愛知県一般交通量観測図」（平成31年3月、愛知県）

図 1.3.2-5　主要な道路の状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

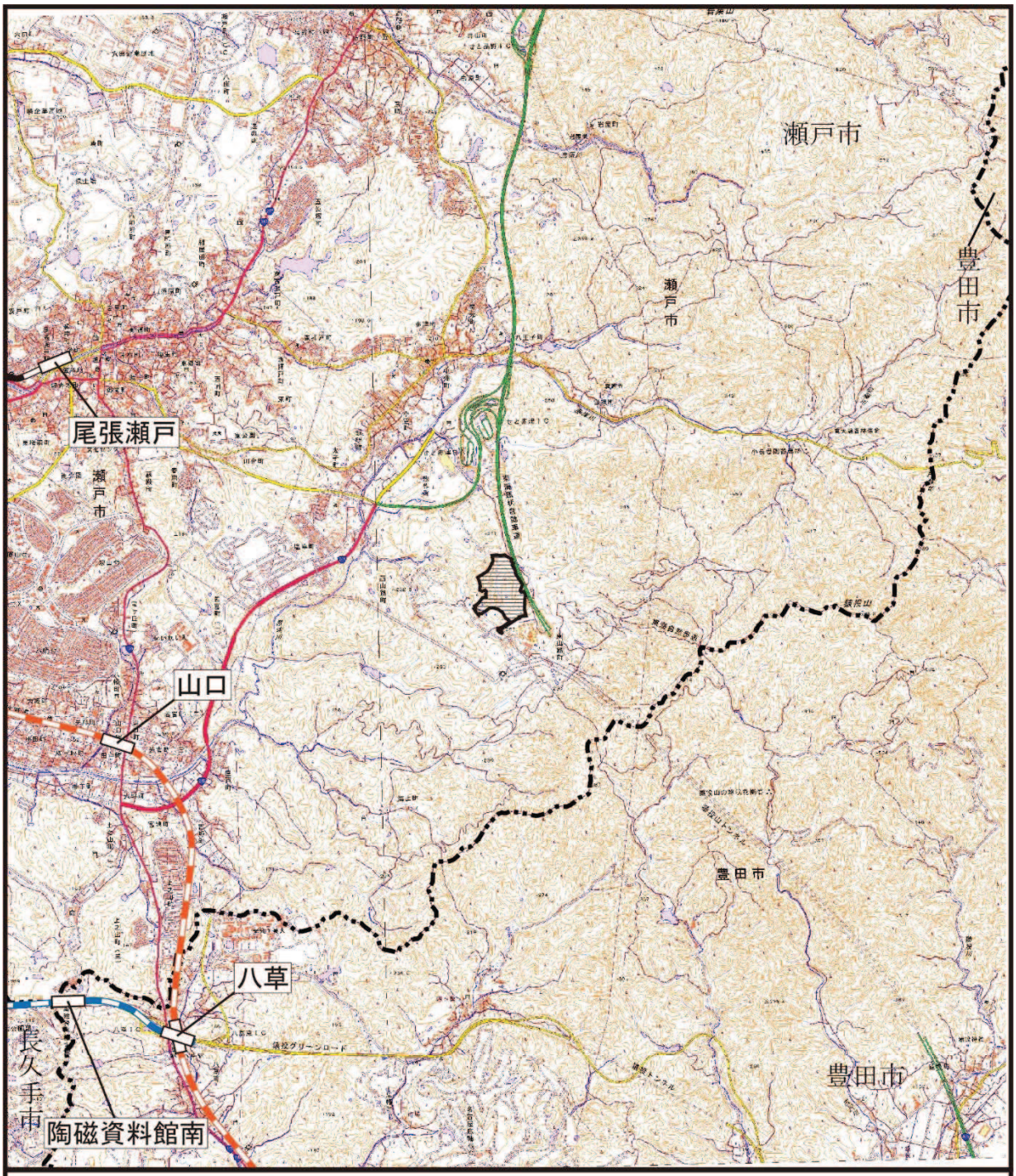
1.3.2.5.2 鉄道の状況

対象事業実施区域周辺の鉄道の状況は、図1.3.2-6に示すとおりである。対象事業実施区域周辺の主な駅別利用者数は、表1.3.2-8に示すとおりである。

表1.3.2-8　対象事業実施区域周辺の主な駅別利用者数

路線名	駅名	乗車人員(人)	年度
名鉄瀬戸線	尾張瀬戸	1,608,623	令和1年度
愛知環状鉄道線	八草	1,118,745	平成30年度
	山口	352,541	
愛知高速交通東部丘陵線	陶磁資料館南	52,982	
	八草	1,323,260	

出典：「令和2年度刊愛知県統計年鑑」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）
「瀬戸市統計書（令和3年刊）」（令和3年12月閲覧、瀬戸市ホームページ）



凡　例

- ：市町村界
- ：対象事業実施区域
- ：名鉄瀬戸線（駅名：尾張瀬戸）
- ：愛知環状鉄道線（駅名：八草、山口）
- ：愛知高速交通東部丘陵線（駅名：陶磁資料館南、八草）

図 1.3.2-6　鉄道の状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.2.6 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況

対象事業実施区域周辺の学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設は、表1.3.2-9に示すとおりである。学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況は、図1.3.2-7に示すとおりである。

また、住居等の配置の状況は図1.3.2-7に示すとおりである。対象事業実施区域近傍には住居が5件存在し、西側には塩草町等の集落が存在する。「人口と世帯」（令和3年4月閲覧、瀬戸市ホームページ）によると、令和3年1月1日現在、対象対象事業実施区域が存在する瀬戸市山路町の人口は0人であり、南東に位置する東山路町が人口14人（世帯数6）、西に位置する西山路町が人口4人（世帯数2）である。

表1.3.2-9(1)　環境保全への配慮を要する施設（教育施設）

区分	番号	施設名	住所
小学校	1	市立萩山小学校 及び瀬戸特別支援学校萩山校舎	瀬戸市 萩山台2-22
	2	市立八幡小学校	瀬戸市 八幡台3-1
	3	市立幡山東小学校	瀬戸市 八幡町455
	4	私立瀬戸SOLAN小学校	瀬戸市道泉町76-1
中学校	5	市立水無瀬中学校	瀬戸市 原山町1
	6	市立光陵中学校	瀬戸市 萩山台9-244
小中一貫校	7	市立にじの丘学園	瀬戸市 中山町1-57
高等学校	8	県立瀬戸工科高等学校 （旧瀬戸窯業高等学校）	瀬戸市 東権現町22-1
中高一貫校	9	私立南山学園	瀬戸市 せいれい町2
大学	10	愛知工業大学	豊田市 八草町八千草1247
幼稚園	11	瀬戸ひなご幼稚園	瀬戸市 紺屋田町93-1
	12	菱野幼稚園	瀬戸市 萩山台7-13-1
	13	真貴幼稚園	瀬戸市 原山台2-23-2
	14	はちまん幼稚園	瀬戸市 八幡台4-14-1

注）表中の番号は図1.3.2-7(1)の番号に対応する。
出典：「暮らしの便利地図」（令和5年9月閲覧、瀬戸市ホームページ）
「豊田市くらしの便利帳」（令和5年6月、豊田市）

表1.3.2-9(2)　環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設）

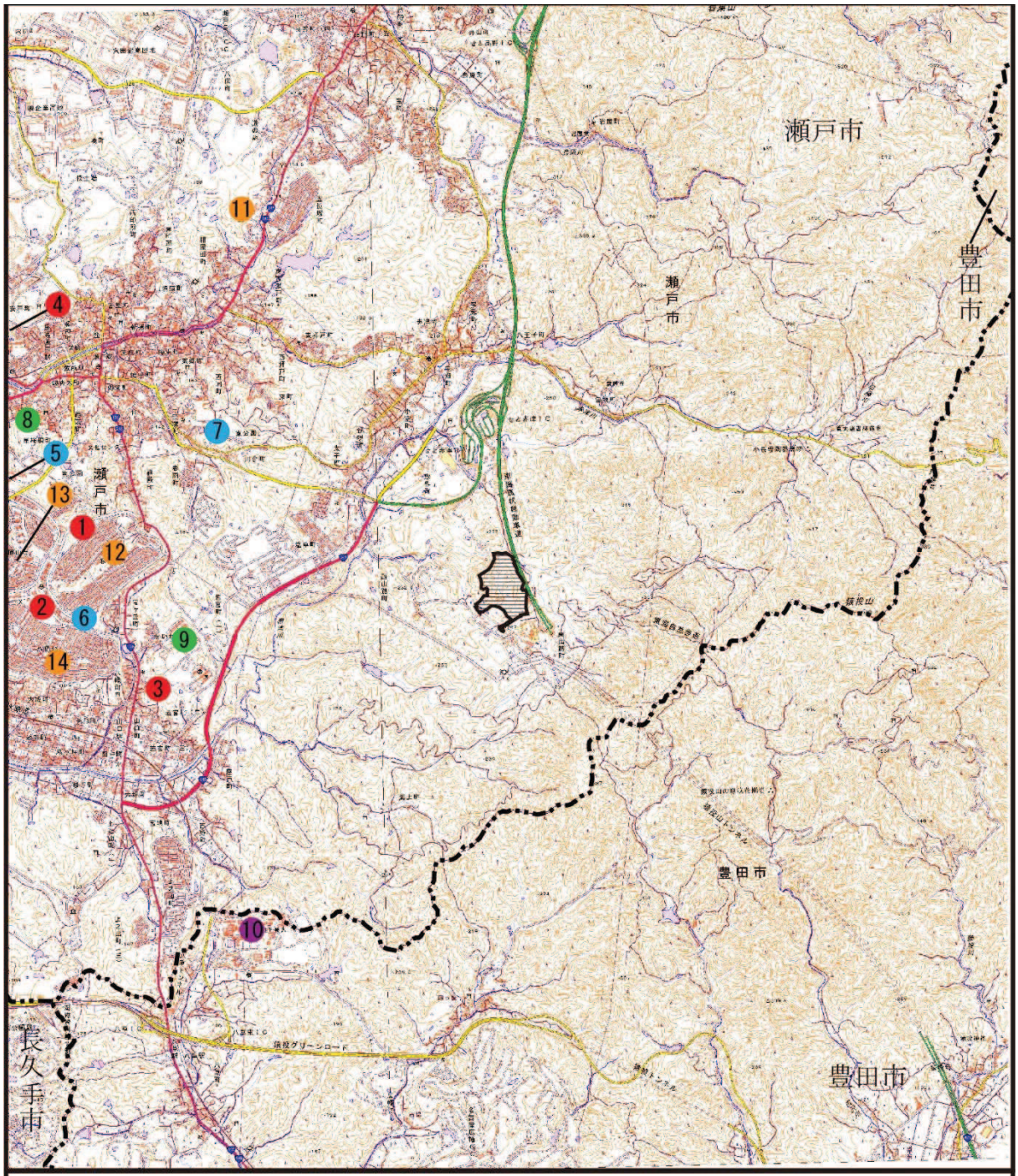
区分	番号	施設名	住所
病院・診療所	1	服部共生医院	瀬戸市品野町5-128
	2	加藤医院	瀬戸市品野町5-334
	3	藤本クリニック	瀬戸市窯神町4
	4	伊藤医院	瀬戸市深川町36
	5	加藤整形外科	瀬戸市須原町10
	6	水野皮膚科	瀬戸市栄町26
	7	加藤内科医院	瀬戸市須原町17
	8	ませき医院	瀬戸市刎田町31
	9	長江内科小児科医院	瀬戸市前田町11
	10	加藤皮フ科クリニック	瀬戸市薬師町20
	11	三沢医院	瀬戸市薬師町15-2
	12	松本眼科	瀬戸市末広町2-30
	13	高阪内科	瀬戸市南仲之切町111
	14	坂田内科	瀬戸市西本町1-11
	15	平松クリニック	瀬戸市西蔵所町52-3
	16	あさいクリニック	瀬戸市東権現町3
	17	野田内科小児科医院	瀬戸市菱野台2-29
	18	鈴木耳鼻科医院	瀬戸市菱野台3-57
	19	馬場医院	瀬戸市菱野台3-58
	20	佐々木外科	瀬戸市菱野台3-60
	21	やまぐち病院	瀬戸市矢形町151
	22	あさい病院	瀬戸市矢形町178-1
	23	浅野内科	瀬戸市上之山町3-45-2
	24	仁大病院	豊田市猿投町入道3-5
老人福祉施設	25	樹の里	瀬戸市紺屋田町93-106
	26	ケアハウス聚楽	瀬戸市深川町48
老人憩いの家	27	瀬戸市老人憩いの家	瀬戸市須原町100
有料老人ホーム	28	しなのの里	瀬戸市品野町3-138
	29	こくすい	瀬戸市泉町88-1
児童福祉施設	30	山の神児童遊園	瀬戸市品野町3丁目408
	31	東古瀬戸児童遊園	瀬戸市馬ヶ城町1-11
	32	八王子児童遊園	瀬戸市八王子町3
	33	自然児童遊園	瀬戸市長谷口町69-4
	34	窯神児童遊園	瀬戸市道泉町1番地11
	35	深川児童遊園	瀬戸市前田町23-2
	36	陶本児童遊園	瀬戸市陶本町6丁目10
	37	南児童遊園	瀬戸市東権現町51
	38	のぞみ学園	瀬戸市原山町1の14
	39	秋葉台児童遊園	瀬戸市萩殿町2丁目128、130
	40	祖母懐児童遊園	瀬戸市上ノ切町43番地
	41	万徳児童遊園	瀬戸市塩草町93
	42	幡山東児童遊園	瀬戸市矢形町170
	43	南山口児童遊園	瀬戸市上之山町2丁目51、52

注）表中の番号は図1.3.2-7(2)の番号に対応する。
出典：「マップあいち（学校・幼稚園・保育所）」（令和3年7月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.2-9(3)　環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設）

区分	番号	施設名	住所
保育所	44	北保育園	瀬戸市西谷町84
	45	ひかり保育園	瀬戸市湯之根町1
	46	古瀬戸保育園	瀬戸市西拝戸町16-2
	47	南保育園	瀬戸市原山町1-13
	48	東保育園	瀬戸市春雨町4
	49	萩山保育園	瀬戸市萩山台3丁目69
	50	ぽっぽ保育園	瀬戸市八幡台3丁目10
	51	幡山東保育園	瀬戸市田中町103

注）表中の番号は図1.3.2-7(2)の番号に対応する。
出典：「マップあいち（学校・幼稚園・保育所）」（令和3年7月閲覧、愛知県ホームページ）



凡　例

- ：市町村界
- ：対象事業実施区域
- ：小学校(1～4)
- ：中学校(5～7)
- ：高等学校(8,9)
- ：大学(10)
- ：幼稚園(11～14)

注）図中の番号は表 1.3.2-9(1)に対応する。

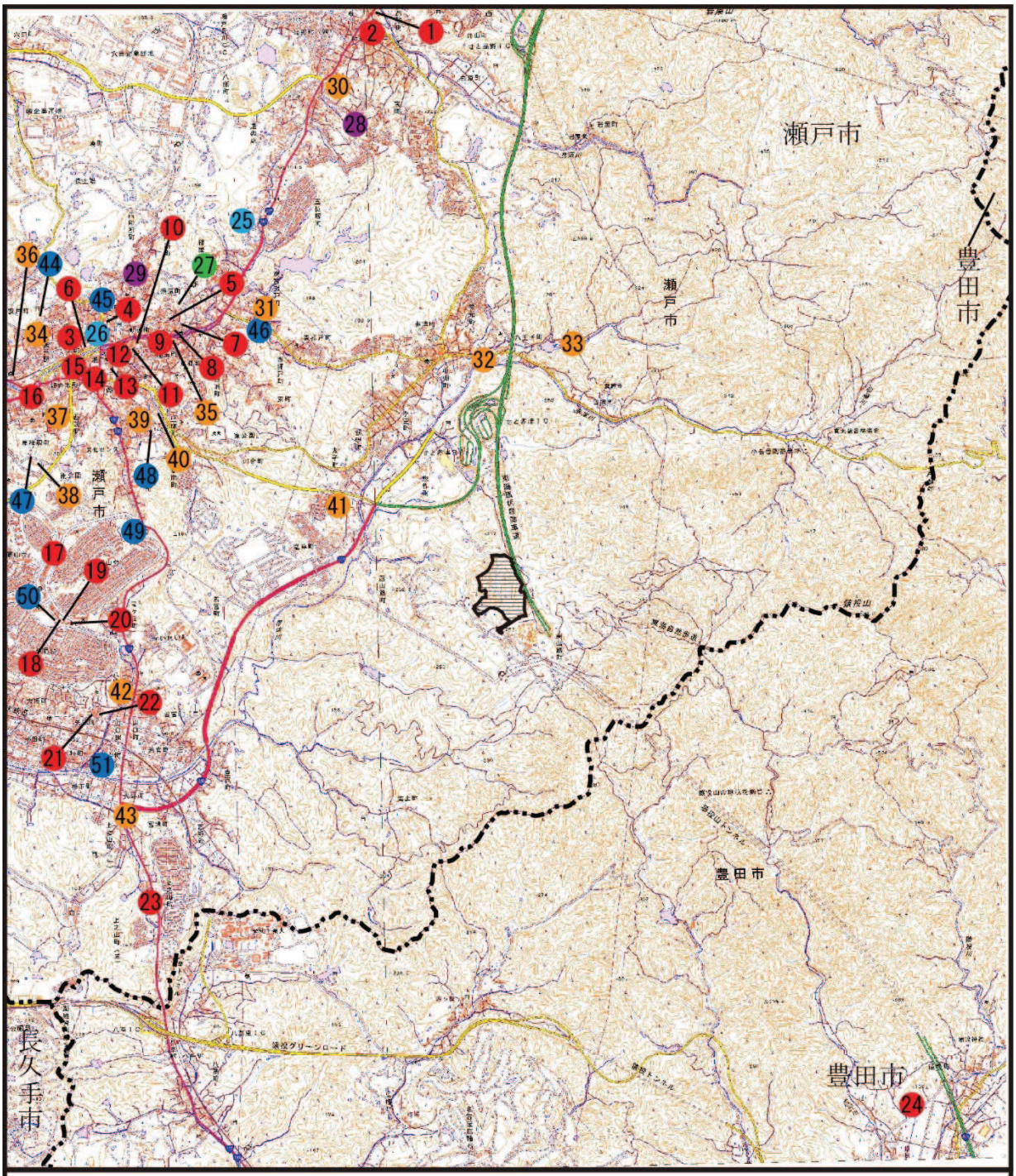
出典：「暮らしの便利帳」（令和5年9月閲覧、瀬戸市ホームページ）
「豊田市くらしの便利帳」（令和5年6月、豊田市）

図 1.3.2-7(1)　環境保全への配慮を要する施設（教育施設）

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m



注）図中の番号は表 1.3.2-9(2)及び(3)に対応する。

出典：「マップあいち（社会福祉施設）」（令和3年7月閲覧、愛知県ホームページ）

図 1.3.2-7(2)　環境保全への配慮を要する施設（医療・福祉施設）



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：住居

：集落

注）住居は現地踏査により確認した。

図 1.3.2-7(3)　環境保全への配慮を要する施設（住居等の配置）

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

1.3.2.7 下水道の整備の状況

対象事業実施区域周辺の公共下水道の普及状況は、表1.3.2-10に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市の下水道処理人口普及率は66.1%となっている。また、豊田市の下水道処理人口普及率は74.7%となっている。

表1.3.2-10　公共下水道普及状況（令和元年度）

項目／市	住民基本台帳人口（人）	汚水処理人口（人）	汚水処理人口普及率（%）	下水道	
				下水道処理人口（人）	下水道処理人口普及率（%）
瀬戸市	129,410	109,017	84.2	85,493	66.1
豊田市	424,053	380,809	89.8	316,881	74.7

出典：「令和2年度刊愛知県統計年鑑」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

1.3.2.8 環境の保全を目的とする法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の環境の保全に関する施策の内容

1.3.2.8.1 大気質

(1) 大気汚染に係る環境基準等

「環境基本法」（平成5年 法律第91号）に基づく大気汚染に係る環境基準及び有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準、「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年 法律第105号）に基づく環境基準は、表1.3.2-11に示すとおりである。なお、環境基準は工業専用地域、車道その他一般公衆が生活していない地域または場所については適用しない。

表1.3.2-11(1)　大気汚染に係る環境基準

物質名 / 項目	二酸化硫黄 (SO2)	二酸化窒素 (NO2)	一酸化炭素 (CO)	浮遊粒子状物質 (SPM)	光化学オキシダント (Ox)
環境基準	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	1時間値の1日平均値が0.10mg/ｍ3以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/ｍ3以下であること。	1時間値が0.06ppm以下であること。
長期的評価方法	年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値が、0.06ppm以下であること。	年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、10ppm以下であること。ただし、1日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	年間にわたる1日平均値である測定値につき、測定値の高い方から2%の範囲内にあるものを除外した値が、0.10mg/ｍ3以下であること。ただし、1日平均値が0.10mg/ｍ3を超えた日が2日以上連続しないこと。	年間を通じて、1時間値が0.06ppm以下であること。

出典：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年、環境庁告示第25号）
「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年、環境庁告示第38号）

表1.3.2-11(2)　有害大気汚染物質に係る環境基準

物質名 / 項目	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
環境基準	年平均値が0.003mg/m^{3}以下であること。	年平均値が0.13mg/m^{3}以下であること。	年平均値が0.2mg/m^{3}以下であること。	年平均値が0.15mg/m^{3}以下であること。
評価方法	同一地点における年平均値と認められる値との比較によって評価を行う。			

出典：「ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準について」（平成9年、環境庁告示第4号）

表1.3.2-11(3)　微小粒子状物質に係る環境基準

物質名 / 項目	微小粒子状物質
環境基準	1年平均値が15μg/m^{3}以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m^{3}以下であること。
評価方法	1年平均値が15μg/m^{3}以下であり、かつ、1日平均値の年間98%値が35μg/m^{3}以下であること。

出典：「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」（平成21年、環境省告示第33号）
「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について（通知）」（平成21年、環水大総発第090909001号）

表1.3.2-11(4)　ダイオキシン類に係る環境基準

物質名 / 項目	ダイオキシン類
環境基準	年間平均値が0.6pg-TEQ/m^{3}以下であること。
評価方法	同一地点における1年間のすべての検体の測定値の算術平均値により評価する。

出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境基準について」
（平成11年 環境庁告示第68号）

(2) 自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法等

対象事業実施区域が位置する瀬戸市及び豊田市は、「自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法」（平成4年法律第70号）及び「貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制等に関する要綱」（平成22年8月 愛知県）に基づく対策地域となっている。

対策地域で適用される窒素酸化物（NOx）及び粒子状物質（PM）の排出基準は、表1.3.2-12に示すとおりである。また、「貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制等に関する要綱」では、対象自動車に対し、要請事項等が表1.3.2-13に示すとおり定められている。

表1.3.2-12　窒素酸化物及び粒子状物質の排出基準

車種			排出基準
ディーゼル乗用車			NOx：0.48g/km（昭和53年規制ガソリン車並） PM　：0.055g/km
バス・トラック等（ディーゼル車・ガソリン車・ＬＰＧ車）	車両総重量区分	1.7t以下	NOx：0.48g/km（昭和63年規制ガソリン車並） PM　：0.055g/km
		1.7t超 2.5t以下	NOx：0.63g/km（平成6年規制ガソリン車並） PM　：0.06g/km
		2.5t超 3.5t以下	NOx：5.9g/kWh（平成7年規制ガソリン車並） PM　：0.175g/kWh
		3.5t超	NOx：5.9g/kWh（平成10年、平成11年規制ディーゼル車並） PM　：0.49g/kWh（平成10年、平成11年規制ディーゼル車並）

出典：「自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法施規則」（平成4年、総理府令第53号）

表1.3.2-13　対象自動車に対する取組内容等

対象自動車	対象者	取組
・貨物自動車 （トラック、バン等） ・乗合自動車 （バス、マイクロバス） ・特種自動車 （人の輸送の用に供する乗車定員11人未満のものを除く）	対象自動車を運行する者	・車種規制非適合車の不使用 ・適合車ステッカーの表示 ・エコドライブの実践、推進
	荷主等・旅行業者	・貨物等の運送の委託や物品の購入等に際して、相手方に非適合車の不使用、エコドライブの実施を要請するとともに、非適合車不使用の確認 ・特定荷主等※1及び特定旅行業者※2は非適合車不使用の要請状況・非適合車の確認状況を愛知県知事へ毎年報告
	中継施設管理者※3、対象自動車の販売・賃貸・整備業者	・非適合車の不使用についての周知 ・適合車ステッカーの表示についての周知

※1　荷主等のうち、継続的に又は反復して、貨物等（廃棄物を含む）を他の者に委託して運送させ、又は購入等をする物品を運送させる者であって、資本金の額等が3億円を超え、かつ、対策地域内に建物の延べ面積が1万m^2を超える事業所又は敷地面積が3万m^2を超える事業所を有するもの。
※2　対策地域内に営業所を有する第一種旅行業者であって、他の者に委託して対策地域内で対象自動車を利用するもの。
※3　対策地域内に存する中継施設（重要港湾、空港、鉄道の貨物駅、中央卸売市場）の管理者。
出典：「貨物自動車等の車種規制非適合車の使用抑制等に関する要綱」（平成22年、愛知県）

1.3.2.8.2 騒音

(1) 騒音に係る環境基準

「環境基本法」（平成5年 法律第91号）に基づく騒音に係る環境基準は、表1.3.2-14に示すとおり定められている。

対象事業実施区域は市街化調整区域に指定されており、B類型に該当する。

表1.3.2-14(1)　騒音に係る環境基準

時間の区分 / 地域の類型		基準値	
		昼間 午前6時～午後10時	夜間 午後10時～午前6時
AA	該当なし	50デシベル以下	40デシベル以下
A	第１種低層住居専用地域 第２種低層住居専用地域 第１種中高層住居専用地域 第２種中高層住居専用地域 田園住居地域	55デシベル以下	45デシベル以下
B	第１種住居地域 第２種住居地域 準住居地域 都市計画区域で用途地域の定めのない地域（市街化調整区域）	55デシベル以下	45デシベル以下
C	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	60デシベル以下	50デシベル以下

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成10年、環境庁告示第64号）
「騒音に係る環境基準（道路に面する地域以外の地域に係る環境基準）」（平成11年、愛知県告示第261号））
「騒音に係る環境基準の地域の類型」（平成24年、豊田市告示第121号））

表1.3.2-14(2)　道路に面する地域の騒音に係る環境基準

時間の区分 地域の類型	基準値	
	昼間 午前6時～午後10時	夜間 午後10時～午前6時
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60デシベル以下	55デシベル以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65デシベル以下	60デシベル以下

備考：車線とは1縦列の自動車が安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。幹線交通を担う道路に近接する空間は、特例として表3-2.22(3)の基準による。

※）地域の類型　A：第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、田園住居地域
B：第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域、都市計画区域で用途地域の定めのない地域（市街化調整区域）
C：近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成10年、環境庁告示第64号）
「騒音に係る環境基準（道路に面する地域に係る環境基準）」（平成11年、愛知県告示第261号））
「騒音に係る環境基準の地域の類型」（平成24年、豊田市告示第121号））

表1.3.2-14(3)　幹線交通を担う道路に近接する空間の騒音に係る環境基準（特例）

基準値	
昼間　午前6時～午後10時	夜間　午後10時～午前6時
70デシベル以下	65デシベル以下

備考：「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道、4車線以上の市町村道及び自動車専用道路を指す。また「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、道路端から2車線は15m、3車線以上は20mの範囲を指す。

出典：「騒音に係る環境基準について」（平成10年、環境庁告示第64号）
「騒音に係る環境基準（道路に面する地域に係る環境基準）」（平成11年、愛知県告示第261号））
「騒音に係る環境基準の地域の類型」（平成24年、豊田市告示第121号））

(2) 騒音に係る規制基準

① 特定工場等に係る騒音の規制基準

「騒音規制法」（昭和43年 法律第98号）及び「県条例」等に基づく特定工場等に係る規制基準は、表1.3.2-15に示すとおりである。

対象事業実施区域は市街化調整区域に指定されており、第３種区域(都市計画区域で用途地域の定めのない地域)に該当する。

表1.3.2-15　特定工場等に係る騒音規制基準

単位：デシベル

時間の区分 / 地域の類型		昼間 8時～19時	朝・夕 6時～8時 19時～22時	夜間 22時～翌日6時
第１種区域	第１種低層住居専用地域 第２種低層住居専用地域 第１種中高層住居専用地域 第２種中高層住居専用地域 田園住居地域	45	40	40
第２種区域	第１種住居地域 第２種住居地域 準住居地域	50	45	40
第３種区域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域	65	60	50
	都市計画区域で用途地域の定めのない地域 （市街化調整区域）	60	55	50
第４種区域	工業地域	70	65	60
	工業専用地域	75	75	70
	都市計画区域以外の地域	60	55	50

注1）近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、工業専用地域、都市計画区域で用途地域の定められていない地域（市街化調整区域）、都市計画区域以外の地域について、当該地域内の学校、保育所、病院、診療所（患者の入院施設を有するもの）、図書館、特別養護老人ホーム及び幼保連携型認定こども園の敷地の周囲50ｍの区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする。

注2）第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域又は田園住居地域に接する工業地域又は工業専用地域の境界線から工業地域又は工業専用地域内へ50ｍの範囲内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする（備考1.の適用を受ける区域は除く）。

出典：「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」
（昭和43年、厚生省・農林省・通商産業省・運輸省告示第1号）
「特定工場等において発生する騒音の規制基準」（昭和46年、愛知県告示第800号）
「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年、愛知県規則第87号）
「騒音規制法に基づく騒音の規制地域等の指定及び規制基準の設定」（平成10年、豊田市告示第62号）

② 特定建設作業に係る騒音の規制基準

「騒音規制法」及び「県条例」に基づき、特定建設作業に係る騒音の基準が定められている。

特定建設作業に係る規制基準は、表1.3.2-16に示すとおりである。

対象事業実施区域は市街化調整区域に指定されており、①地域の基準が適用される。

表1.3.2-16　特定建設作業に係る騒音の規制基準

規制の種別	地域の区分	基準等
基準値	①②③	85デシベルを超えないこと
作業時間	①	午後7時～午前7時の時間内でないこと
	②	午後10時～翌日の午前6時の時間内でないこと
*1日あたりの作業時間	①	10時間を超えないこと
	②	14時間を超えないこと
作業期間	①②③	連続6日を超えないこと
作業日	①②③	日曜日その他の休日でないこと

注1）基準値は、騒音特定建設作業の場所の敷地の境界線での値。

注2）基準値を超えている場合、騒音の防止の方法の改善のみならず1日の作業時間を4時間以上*欄に定める時間未満の間において短縮させることを勧告・命令することができる。

注3）地域の区分

①地域：ア 第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、都市計画区域で用途地域の定めのない地域（市街化調整区域）及び都市計画区域以外の地域

イ 工業地域及び工業専用地域のうち学校、保育所、病院・診療所、図書館、特別養護老人ホーム、幼保連携型認定こども園の敷地の周囲80ｍの区域

②地域：工業地域（①地域のイの区域を除く。）

③地域：工業専用地域（①地域のイの区域を除く。）

出典：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年 厚生省・建設省告示第1号）

「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準により指定する区域」（昭和46年 愛知県告示第801号）

「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年 愛知県規則第87号）

③ 自動車騒音に係る要請限度

「騒音規制法」に基づく自動車騒音に係る要請限度は表1.3.2-17に示すとおりである。

対象事業実施区域は、市街化調整区域に指定されており、b地域に該当する。

表1.3.2-17　自動車騒音に係る要請限度

単位：デシベル

区域区分		時間区分		道路に面する地域		幹線交通を担う道路に近接する空間
				1車線	2車線以上	
a	第１種低層住居専用地域 第２種低層住居専用地域 第１種中高層住居専用地域 第２種中高層住居専用地域 田園住居地域	昼間	6時～22時	65	70	昼間　75 夜間　70
		夜間	22時～翌日6時	55	65	
b	第１種住居地域 第２種住居地域 準住居地域 都市計画区域で用途地域の定めのない地域（市街化調整区域）	昼間	6時～22時	65	75	
		夜間	22時～翌日6時	55	70	
c	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	昼間	6時～22時	75		
		夜間	22時～翌日6時	70		

注1）要請限度とは、自動車騒音がその限度を超えていることにより、道路の周辺の生活環境が著しく損なわれていると認められるときに、市町村長が県公安委員会に道路交通法の規定による措置を執るよう要請する際の限度をいう。

注2）「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道、4車線以上の市町村道及び自動車専用道路を指す。また「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、道路端から2車線は15m、3車線以上は20mの範囲を指す。

出典：「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」
（平成12年、総理府令第15号）
「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令による区域の区分」
（平成12年、愛知県告示第312号）
「騒音規制法に基づく騒音の規制地域等の指定及び規制基準の設定」（平成10年、豊田市告示第62号）

1.3.2.8.3 振動

(1) 振動に係る規制基準

① 特定工場等に係る振動の規制基準

「振動規制法」（昭和51年 法律第64号）及び「県条例」等に基づき、著しい振動を発生する施設を設置する工場等に係る規制基準が表1.3.2-18に示すとおり定められている。

対象事業実施区域は市街化調整区域であり、第2種区域に該当する。

表1.3.2-18　特定工場等に係る振動規制基準

単位：デシベル

地域区分＼時間区分		昼　間 7時～20時	夜　間 20時～翌日7時
第1種区域	第１種低層住居専用地域 第２種低層住居専用地域 第１種中高層住居専用地域 第２種中高層住居専用地域 田園住居地域	60	55
	第１種住居地域 第２種住居地域 準住居地域	65	55
第2種区域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域	65	60
	都市計画区域で用途地域の定められていない地域（市街化調整区域）		
	工業地域	70	65
	工業専用地域	75	70
	その他の地域	65	60

注1）工業地域又は工業専用地域内のうち、学校、保育所、病院、診療所（患者の入院施設を有するもの）、図書館、特別養護老人ホーム及び幼保連携型認定こども園の敷地の周囲50mの区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする。

注2）第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域又は田園住居地域に接する工業地域又は工業専用地域の当該接する境界線から当該工業地域又は工業専用地域内へ50mの範囲内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの値から5デシベルを減じた値とする（備考1.の適用を受ける区域は除く）。

出典：「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」（昭和51年、環境庁告示第90号）
「特定工場等において発生する振動の規制基準」（昭和52年、愛知県告示第1047号）
「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年、規則第87号）

② 特定建設作業に係る振動の規制基準

「振動規制法」及び「県条例」に基づき、建設工事として行われる作業のうち著しい振動を発生する作業及び振動の規制基準が、表1.3.2-19に示すとおり定められている。

対象事業実施区域は、市街化調整区域であり、①地域に該当する。

表1.3.2-19　特定建設作業に係る振動の規制基準

規制の種別	地域の区分	基準等
基準値	①②③	75dBを超えないこと
作業時間	①	午後7時～午前7時の時間内でないこと
	②	午後10時～翌日の午前6時の時間内でないこと
＊1日あたりの作業時間	①	10時間を超えないこと
	②	14時間を超えないこと
作業期間	①②③	連続6日を超えないこと
作業日	①②③	日曜日その他の休日でないこと

注1）基準値は、振動特定建設作業の場所の敷地の境界線での値。
注2）基準値を超えている場合、騒音の防止の方法の改善のみならず1日の作業時間を4時間以上*欄に定める時間未満の間において短縮させることを勧告・命令することができる。
注3）地域の区分
①地域：ア 第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域、田園住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、都市計画区域で用途地域の定めのない地域（市街化調整区域）及び都市計画区域以外の地域
イ 工業地域及び工業専用地域のうち学校、保育所、病院・診療所、図書館、特別養護老人ホーム、幼保連携型認定こども園の敷地の周囲80ｍの区域
②地域：工業地域（①地域のイの区域を除く。）
③地域：工業専用地域（①地域のイの区域を除く。）
出典：「振動規制法施行規則」（昭和51年、総理府令第58号）
「振動規制法施行規則別表第1付表第1号の規定に基づく区域の指定」（昭和52年、愛知県告示第1048号）
「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年、規則第87号）

③ 道路交通振動に係る要請限度

「振動規制法」に基づく道路交通振動に係る要請限度は、表1.3.2-20に示すとおりである。

対象事業実施区域は、市街化調整区域であり、第2種地域に該当する。

表1.3.2-20　道路交通振動に係る要請限度

地域区分		要請限度	
		昼間 7時～20時	夜間 20時～翌日7時
第1種	第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、田園住居地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域	65	60
第2種	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、都市計画区域で用途地域の定めのない地域	70	65

注）要請限度とは、道路交通振動がその限度を超えていることにより、道路の周辺の生活環境が著しく損われていると認められるときに、市町村長が道路管理者に振動防止のための道路の修繕等の措置を要請し、又は県公安委員会に道路交通法の規定による措置を執るよう要請する際の限度をいう。

出典：「振動規制法施行規則」（昭和51年、総理府令第58号）
「振動規制法施行規則別表第2備考1の規定に基づく区域の区分及び同表備考2の規定に基づく時間の区分の指定」（昭和52年、愛知県告示第1049号）

1.3.2.8.4 悪臭

愛知県は県内全域が「悪臭防止法」（昭和46年 法律第91号）の規制地域であり、対象事業実施区域が位置する瀬戸市及び豊田市においても臭気指数による規制が行われている。「悪臭防止法」に基づく臭気指数による規制基準は、表1.3.2-21に示すとおりである。

対象事業実施区域は市街化調整区域であり、第2種地域に該当する。

表1.3.2-21　悪臭防止法に基づく臭気指数による規制基準

規制区分		敷地境界 (1号基準)	気体排出口 (2号基準)	排出水 (3号基準)
第1種 地域	第１種低層住居専用地域、第２種低層住居専用地域、第１種中高層住居専用地域、第２種中高層住居専用地域、第１種住居地域、第２種住居地域、準住居地域	臭気指数12	規制基準は、気体排出口からの悪臭の着地点での値が敷地境界線における規制基準の値と同等となるよう、「悪臭防止法施行規則」（昭和47年、総理府令第39号）第6条の2に定める方法により算出した値	臭気指数28
第2種 地域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域、都市計画区域で用途地域の定められていない地域	臭気指数15		臭気指数31
第3種 地域	工業専用地域	臭気指数18		臭気指数34

注1）臭気指数は、試料を人間の嗅覚で臭気を感じられなくなるまで無臭の空気（試料が水の場合は無臭の水）で希釈したときの希釈倍率（臭気濃度）から次式により算定される。
（臭気指数）＝ 10×log10（臭気濃度）
（参考）臭気指数10：ほとんどの人が気にならない臭気
臭気指数12～15：気をつければ分かる臭気（希釈倍率16～32 倍）
臭気指数18～21：らくに感知できる臭気（希釈倍率63～126 倍）

注2）「悪臭防止法施行規則」において気体排出口の高さが15m以上と15m未満の施設に分けて設定方法が定められている。
・15m未満 指標：臭気指数
大気拡散式：流量を測定しない簡易な方法
・15m以上 指標：臭気排出強度
大気拡散式：建物の影響による拡散場の乱れを考慮した大気拡散式

出典：「悪臭防止法施行規則」（昭和47年、総理府令第39号）
「悪臭防止法による規制地域の指定及び規制基準の設定」（平成18年、愛知県告示第378号）
「市が定める悪臭の規制基準について」（令和3年7月閲覧、瀬戸市ホームページ）

1.3.2.8.5 水質

(1) 水質汚濁に係る環境基準

① 人の健康の保護に関する環境基準

「環境基本法」（平成5年 法律第91号）に基づく人の健康の保護に関する環境基準を表1.3.2-22に示すとおりである。人の健康の保護に関する環境基準は全公共用水域について定められている。

表1.3.2-22　人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
全シアン	検出されないこと。	トリクロロエチレン	0.01mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
六価クロム	0.02mg/L以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	シマジン	0.003mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
PCB	検出されないこと。	ベンゼン	0.01mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	ほう素	1mg/L以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下		

注1）基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
注2）「検出されないこと」とは、測定方法の定量限界を下回ることをいう。
注3）硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、日本工業規格K0102 43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと、日本工業規格K0102 43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年 環境庁告示59号）

② 生活環境の保全に関する環境基準

生活環境の保全に関する環境基準は、河川、湖沼、海域について利用目的に応じて水域類型を設定してそれぞれの基準が定められている。河川に適用される環境基準は表1.3.2-23に示すとおりである。

愛知県の水域類型において、対象事業実施区域の下流域となる矢田川（上流）はD類型、瀬戸川は未類型指定であるが、瀬戸市の環境基本計画においては、それぞれC類型、D類型を目標に設定している。なお、愛知県は、水生生物の保全に係る水質環境基準の水域類型指定として、矢田川水域の全域を生物Bとしている

表1.3.2-23(1)　生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（河川））

ア

項目／類型	利用目的の適応性	水素イオン濃度（pH）	生物化学的酸素要求量（BOD）	浮遊物質量（SS）	溶存酸素量（DO）	大腸菌数
AA	水道1級 自然環境保全 及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/ 100mL以下
A	水道2級 水産1級 水浴 及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL以下
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	1,000CFU/ 100mL以下
C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	-
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	-
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと。	2mg/L 以上	-

注1）基準値は、日間平均値とする。
注2）農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする。
注3）「利用目的の適応性」の詳細は、以下に示すとおりである。
　　自然環境保全：自然探勝等の環境保全
　　水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
　　水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
　　水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
　　水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
　　水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
　　水産3級：コイ、フナ等、β－中腐水性水域の水産生物用
　　工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
　　工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
　　工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの
　　環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度
出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年、環境庁告示59号）
　　「水質環境基準と水域類型の指定状況」（令和3年7月閲覧、愛知県ホームページ）

表1.3.2-23(2)　生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目（河川））

イ

項目／類型	水生生物の生息状況の適応性	全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下

注）基準値は、年間平均値とする。
出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年、環境庁告示59号）
「水質環境基準と水域類型の指定状況」（令和3年7月閲覧、愛知県ホームページ）

③ ダイオキシン類に係る環境基準

「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年 法律第105号）に基づくダイオキシン類の環境基準は、表1.3.2-24に示すとおりである。ダイオキシン類の環境基準は公共用水域及び底質について定められている。

表1.3.2-24　ダイオキシン類に係る環境基準（水質及び水底の底質）

項目	基準値
水質（水底の底質を除く。）	1pg-TEQ/L以下
水底の底質	150pg-TEQ/g以下

注1）基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。
注2）基準値（水底の底質を除く。）は、年間平均値とする。
出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について」（平成11年 環境庁告示68号）

(2) 水質汚濁に係る規制基準

① 一律排水基準

「水質汚濁防止法」（昭和45年 法律第138号）に定める特定施設から排水がある場合には特定事業場となり、排水量に関わらず有害物質に係る排水基準が適用される。有害物質に係る排水基準は、表1.3.2-25に示すとおりである。

また、特定事業場からの排水が50m^3/日を超える場合には、表1.3.2-26に示すとおり、生活環境項目の排水基準が適用される。

「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年 法律第105号）に基づく排出水の排出基準は、表1.3.2-27に示すとおりである。

表1.3.2-25　排水基準（有害物質）

有害物質の種類	許容限度
カドミウム及びその化合物	0.03mg/L
シアン化合物	1mg/L
有機燐化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNに限る）	1mg/L
鉛及びその化合物	0.1mg/L
六価クロム化合物	0.5mg/L
砒素及びその化合物	0.1mg/L
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	0.005mg/L
アルキル水銀化合物	検出されないこと。
ポリ塩化ビフェニル	0.003mg/L
トリクロロエチレン	0.1mg/L
テトラクロロエチレン	0.1mg/L
ジクロロメタン	0.2mg/L
四塩化炭素	0.02mg/L
1,2-ジクロロエタン	0.04mg/L
1,1-ジクロロエチレン	1mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4mg/L
1,1,1-トリクロロエタン	3mg/L
1,1,2-トリクロロエタン	0.06mg/L
1,3-ジクロロプロペン	0.02mg/L
チウラム	0.06mg/L
シマジン	0.03mg/L
チオベンカルブ	0.2mg/L
ベンゼン	0.1mg/L
セレン及びその化合物	0.1mg/L
ほう素及びその化合物	海域以外10mg/L 海域230mg/L
ふっ素及びその化合物	海域以外8mg/L 海域15mg/L
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	100mg/L（アンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量）
1,4-ジオキサン	0.5mg/L

注）「検出されないこと。」とは、排水基準を定める省令第2条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排出水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。
出典：「排水基準を定める省令」（昭和46年、総理府令第35号）

表1.3.2-26　排水基準（生活環境項目）

項目		許容限度
水素イオン濃度		海域以外 5.8以上8.6以下 海域5.0以上9.0以下
生物化学的酸素要求量		160mg/L（日間平均120mg/L）
化学的酸素要求量		160mg/L（日間平均120mg/L）
浮遊物質量		200mg/L（日間平均150mg/L）
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	鉱油類	5mg/L
	動植物油脂類	30mg/L
フェノール類含有量		5mg/L
銅含有量		3mg/L
亜鉛含有量		2mg/L
溶解性鉄含有量		10mg/L
溶解性マンガン含有量		10mg/L
クロム含有量		2mg/L
大腸菌群数		日間平均3,000個/cm^3
窒素含有量		120mg/L（日間平均60mg/L）
燐含有量		16mg/L（日間平均8mg/L）

注1）「日間平均」による許容限度は、１日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。
注2）生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排出水に限って適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排出水に限って適用する。
注3）窒素含有量、燐含有量についての排水基準は、窒素又は燐が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用される。（愛知県はほぼ全域が適用地域となっている。）
出典：「排水基準を定める省令」（昭和46年、総理府令第35号）
「水質汚濁防止法のあらまし」（令和3年5月改正、愛知県）

表1.3.2-27　ダイオキシン類の排出基準（排出水）

	排出基準（pg-TEQ/L）
廃棄物の最終処分場の放流水に係る基準	10

注）基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。
出典：「ダイオキシン類対策特別措置法施行令」（平成11年 政令第433号）
「ダイオキシン類対策特別措置法施行規則」（平成11年 総理府令第67号）

② 総量規制基準

対象事業実施区域は「水質汚濁防止法」に基づく総量規制の指定地域内にあり、排水が50m^3/日以上の場合は、COD（化学的酸素要求量）、窒素含有量、りん含有量について、以下に示すとおり、総量規制基準が適用される。なお、総量規制基準値の算出に用いる定数は、表1.3.2-28に示すとおりである。

○COD（化学的酸素要求量）に係る総量規制基準

$Lc=（Ccj・Qcj+Cci・Qci+Cco・Qco）\times10^{-3}$

Lc ：排出が許容される汚濁負荷量（単位：1日につきキログラム）
Ccj：表 1.3.2-28 に掲げる化学的酸素要求量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Cci：表 1.3.2-28 に掲げる化学的酸素要求量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Cco：表 1.3.2-28 に掲げる化学的酸素要求量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Qcj：平成 3 年 7 月 1 日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位：1日につき立方メートル）
Qci：昭和 55 年 7 月 1 日から平成 3 年 6 月 30 日までの間に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量。（単位：1日につき立方メートル）
Qco：特定排出水の量（Qcj 及び Qci を除く。）（単位：1日につき立方メートル）

○窒素含有量に係る総量規制基準

$Ln=（Cni・Qni+Cno・Qno）\times10^{-3}$

Ln ：排出が許容される汚濁負荷量（単位：1日につきキログラム）
Cni：表 1.3.2-28 中に掲げる窒素含有量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Cno：表 1.3.2-28 中に掲げる窒素含有量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Qni：平成 14 年 10 月 1 日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位：1日につき立方メートル）
Qn ： 特定排出水の量（Qni を除く。）（単位：1日につき立方メートル）

○りん含有量に係る総量規制基準

$Lp=（Cpi・Qpi+Cpo・Qpo）\times10^{-3}$

Lp ：排出が許容される汚濁負荷量（単位：1日につきキログラム）
Cpi：表 1.3.2-28 中に掲げるりん含有量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Cpo：表 1.3.2-28 中に掲げるりん含有量（単位：1リットルにつきミリグラム）
Qpi：平成 14 年 10 月 1 日以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位：1日につき立方メートル）
Qpo：特定排出水の量（Qpi を除く。）（単位：1日につき立方メートル）

表1.3.2-28　総量規制基準の定数

区分		化学的酸素要求量 (mg/L)			窒素含有量 (mg/L)		りん含有量 (mg/L)	
		Ccj	Cci	Cco	Cni	Cno	Cpi	Cpo
ごみ処理業	日平均排水量 400m³以上	30	30	30	20	25	1	1
	日平均排水量 400m³未満						1.5	2.5
し尿浄化槽[注)]		40	40	60	30	40	3	4

注）し尿浄化槽（処理対象人員が200人以下のもの）、社員食堂のちゅう房施設等生活に伴う施設に係るもの。
出典：「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づく化学的酸素要求量に係る総量規制基準」（平成29年、愛知県告示第286号）
「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づく窒素含有量に係る総量規制基準」（平成29年、愛知県告示第287号）
「水質汚濁防止法第4条の5第1項及び第2項の規定に基づくりん含有量に係る総量規制基準」（平成29年、愛知県告示第288号）

③ 上乗せ基準

愛知県では「水質汚濁防止法第3条第3項に基づく排水基準を定める条例」（昭和47年 愛知県条例第4号）に基づき、県内全体を7水域に分け、業種や排水量の規模等に応じて上乗せ排水基準を定めている。

対象事業実施区域周辺は名古屋港・庄内川等水域及び矢作川水域に分類される。上乗せ排水基準は表1.3.2-29に示すとおりである。

表1.3.2-29　上乗せ排水基準（新設の工場又は事業場）

項目		許容限度	
		名古屋港・庄内川等水域	矢作川水域
生物化学的酸素要求量		25mg/L（日間平均20mg/L）	25mg/L（日間平均20mg/L）
化学的酸素要求量		25mg/L（日間平均20mg/L）	25mg/L（日間平均20mg/L）
浮遊物質量		30mg/L（日間平均20mg/L）	30mg/L（日間平均20mg/L）
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	鉱油類	2mg/L	2mg/L
	動植物油脂類	10mg/L	10mg/L
フェノール類含有量		0.5mg/L	0.5mg/L
銅含有量		1mg/L	1mg/L

注1）「日間平均」による許容限度は、1日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。
注2）生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排出水に限って適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排出水に限って適用する。
注3）窒素含有量、燐含有量についての排水基準は、窒素又は燐が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼及び海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがあるとして環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用される。（愛知県はほぼ全域が適用地域となっている。）
出典：「排水基準を定める省令」（昭和46年 総理府令第35号）
「水質汚濁防止法第3条第3項に基づく排水基準を定める条例（昭和47年、愛知県条例4号）

1.3.2.8.6 地盤、地下水及び土壌

(1) 地盤

対象事業実施区域周辺に位置する瀬戸市及び豊田市は、「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年　愛知県条例第7号）による水量測定器設置義務区域に該当しており、揚水機の吐出口の断面積が19平方センチメートル（ふたつ以上ある場合はその断面積の合計）を超える揚水設備を設置している場合は、水量測定器を設置しなければならない。また、工業用水法で許可された井戸については量水器（条例でいう水量測定器）等の設置が必要となる。

(2) 地下水及び土壌

① 地下水及び土壌に係る環境基準

「環境基本法」（平成5年 法律第91号）及び「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成11年 法律第105号）に基づく地下水の水質汚濁並びに土壌の汚染に係る環境基準は、表1.3.2-30及び表1.3.2-31に示すとおりである。

表1.3.2-30　地下水の水質汚濁に係る環境基準

項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg/L以下
六価クロム	0.02mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと。
PCB	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下
クロロエチレン （別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	１mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	0.01mg/L以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下
チウラム	0.006mg/L以下
シマジン	0.003mg/L以下
チオベンカルブ	0.02mg/L以下
ベンゼン	0.01mg/L以下
セレン	0.01mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
ふっ素	0.8mg/L以下
ほう素	1mg/L以下
1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
ダイオキシン類	1pg-TEQ/L以下

注1）基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

注2）「検出されないこと。」とは、測定結果が平成9年環境庁告示第10号別表に定められた方法の定量限界を下回ることをいう。

注3）硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、日本工業規格K0102 43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと、日本工業規格K0102 43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。

注4）1,2-ジクロロエチレンの濃度は、日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と日本工業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。

注5）ダイオキシン類の基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

出典：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年 環境庁告示第10号）
「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」（平成11年 環境庁告示第68号）

表1.3.2-31　土壌の汚染に係る環境基準

項　目	環境上の条件
カドミウム	検液1Lにつき0.003mg以下であり、かつ、農用地においては、米1kgにつき0.4mg以下であること。
全シアン	検液中に検出されないこと。
有機燐	検液中に検出されないこと。
鉛	検液1Lにつき0.01mg以下であること。
六価クロム	検液1Lにつき0.05mg以下であること。
砒素	検液1Lにつき0.01mg以下であり、かつ、農用地（田に限る。）においては、土壌1kgにつき15mg未満であること。
総水銀	検液1Lにつき0.0005mg以下であること。
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。
PCB	検液中に検出されないこと。
銅	農用地（田に限る。）において、土壌1kgにつき125mg未満であること。
ジクロロメタン	検液1Lにつき0.02mg以下であること。
四塩化炭素	検液1Lにつき0.002mg以下であること。
クロロエチレン	検液1Lにつき0.002mg以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液1Lにつき0.004mg以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液1Lにつき0.1mg以下であること。
1,2-ジクロロエチレン	検液1Lにつき0.04mg以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液1Lにつき1mg以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液1Lにつき0.006mg以下であること。
トリクロロエチレン	検液1Lにつき0.01mg以下であること。
テトラクロロエチレン	検液1Lにつき0.01mg以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液1Lにつき0.002mg以下であること。
チウラム	検液1Lにつき0.006mg以下であること。
シマジン	検液1Lにつき0.003mg以下であること。
チオベンカルブ	検液1Lにつき0.02mg以下であること。
ベンゼン	検液1Lにつき0.01mg以下であること。
セレン	検液1Lにつき0.01mg以下であること。
ふっ素	検液1Lにつき0.8mg以下であること。
ほう素	検液1Lにつき1mg以下であること。
1,4-ジオキサン	検液1Lにつき0.05mg以下であること。
ダイオキシン類	1,000pg-TEQ/g以下であること。

注 1）環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあっては、平成 3 年環境庁告示第 46 号付表に定められた方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。

注 2）カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあっては、汚染土壌が地下水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1L につき 0.01mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg 及び 1mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1L につき 0.03mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg 及び 3mg とする。

注 3）「検液中に検出されないこと。」とは、測定結果が平成 3 年環境庁告示第 46 号別表に定められた方法の定量限界を下回ることをいう。

注 4）有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN をいう。

注 5）ダイオキシン類の基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。

注 6）土壌汚染対策法施行令の改正により、平成 31 年 4 月 1 日より「1,2-ジクロロエチレン（シス体とトランス体の和）」として規制される。

出典：「土壌汚染に係る環境基準について」（平成 3 年 環境庁告示第 46 号）
「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」（平成 11 年 環境庁告示第 68 号）

② 土壌汚染対策法及び農用地の土壌の汚染防止等に関する法律

「土壌汚染対策法」(平成14年　法律第53号)においては、使用が廃止された有害物質使用特定施設に係る工場又は事業場の敷地であった土地、一定規模（3,000m^2）以上の形質の変更が行われる土地、土壌汚染による健康被害が生ずるおそれがある土地について、表1.3.2-32(1)に示す特定有害物質による汚染の可能性のある場合に、土壌汚染状況調査、区域の指定及び健康被害防止のための措置を行うことが定められている。

また、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」（昭和45年　法律第139号）においては、表1.3.2-32(2)に示す特定有害物質による農用地の汚染がある場合、農用地土壌汚染対策地域として指定し、農用地土壌汚染対策計画を策定することが定められている。

対象事業実施区域周辺は、「土壌汚染対策法」に基づく形質変更時要届出区域及び要措置区域、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」に基づく農用地土壌汚染対策地域のいずれにも指定されていない。

表1.3.2-32(1)「土壌汚染対策法」で定める特定有害物質

特定有害物質の種類	
カドミウム及びその化合物	セレン及びその化合物
六価クロム化合物	テトラクロロエチレン
クロロエチレン	チウラム
シマジン	1,1,1-トリクロロエタン
シアン化合物	1,1,2-トリクロロエタン
チオベンカルブ	トリクロロエチレン
四塩化炭素	鉛及びその化合物
1,2-ジクロロエタン	砒素及びその化合物
1,1-ジクロロエチレン	ふっ素及びその化合物
シス-1,2-ジクロロエチレン注)	ベンゼン
1,3-ジクロロプロペン	ほう素及びその化合物
ジクロロメタン	PCB
水銀及びその化合物	有機リン化合物（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、EPN）

注）土壌汚染対策法施行令の改正により、平成31年4月1日より「1,2-ジクロロエチレン（シス体とトランス体の和）」として規制される。

表1.3.2-32(2)「農用地の土壌の汚染防止に関する法律」で定める特定有害物質

特定有害物質の種類
カドミウム及びその化合物
銅及びその化合物
砒素及びその化合物

③ 土壌汚染等対策基準

「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年　愛知県条例第7号）において、特定有害物質による土壌汚染等の有無を判断する基準である土壌汚染等対策基準は、表1.3.2-33に示すとおりである。

表1.3.2-33　土壌汚染等対策基準

特定有害物質の種類	土壌溶出量基準	土壌含有量基準	地下水基準
カドミウム及びその化合物	0.003mg/L以下	45mg/kg以下	0.003mg/L以下
六価クロム化合物	0.05mg/L以下	250mg/kg以下	0.05mg/L以下
クロロエチレン	0.002mg/L以下	－	0.002mg/L以下
シマジン	0.003mg/L以下	－	0.003mg/L以下
シアン化合物	検出されないこと	50mg/kg以下 （遊離シアンとして）	検出されないこと
チオベンカルブ	0.02mg/L以下	－	0.02mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	－	0.002mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	－	0.004mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	－	0.1mg/L以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	－	0.04mg/L以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下	－	0.002mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	－	0.02mg/L以下
水銀及びその化合物	水銀が0.0005mg/L以下、かつアルキル水銀が検出されないこと	15mg/kg以下	水銀が0.0005mg/L以下、かつアルキル水銀が検出されないこと
セレン及びその化合物	0.01mg/L以下	150mg/kg以下	0.01mg/L以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	－	0.01mg/L以下
チウラム	0.006mg/L以下	－	0.006mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下	－	1mg/L以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	－	0.006mg/L以下
トリクロロエチレン	0.01mg/L以下	－	0.01mg/L以下
鉛及びその化合物	0.01mg/L以下	150mg/kg以下	0.01mg/L以下
砒素及びその化合物	0.01mg/L以下	150mg/kg以下	0.01mg/L以下
ふっ素及びその化合物	0.8mg/L以下	4,000mg/kg以下	0.8mg/L以下
ベンゼン	0.01mg/L以下	－	0.01mg/L以下
ほう素及びその化合物	1mg/L以下	4,000mg/kg以下	1mg/L以下
ＰＣＢ	検出されないこと	－	検出されないこと
有機りん化合物	検出されないこと	－	検出されないこと

出典：「県民の生活環境の保全等に関する条例」（平成15年、条例第7号）
「県民の生活環境の保全等に関する条例施行規則」（平成15年、規則第87号）

1.3.2.8.7 日照阻害

「建築基準法」（昭和25年 法律201号）及び「愛知県建築基準条例」（昭和39年 愛知県条例第49号）では、表1.3.2-34に示すとおり、「都市計画法」の用途地域に応じた日影規制が設定されている。

対象事業実施区域は市街化調整区域であり、「建築基準法」及び「愛知県建築基準条例」の適用を受ける。

表1.3.2-34　建築基準法に基づく日影規制

地域又は区域	制限を受ける建築物	測定面高さ	容積率	日影時間	
				敷地境界線からの水平距離が10m以内の範囲	敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲
第１種低層住居専用地域 第２種低層住居専用地域 田園住居地域	軒の高さが7m を超える建築物又は地階を除く階数が3以上の建築物	1.5m	80%以下	3時間	2時間
			100%以上	4時間	2.5時間
第１種中高層住居専用地域 第２種中高層住居専用地域	高さが10mを超える建築物	4m	150%以下	3時間	2時間
			200%以上	4時間	2.5時間
第１種住居地域 第２種住居地域 準住居地域	高さが10mを超える建築物	4m	200%以下	4時間	2.5時間
			300%以上	5時間	3時間
近隣商業地域 準工業地域	高さが10mを超える建築物	4m	200%以下	5時間	3時間
用途地域の指定のない区域（市街化調整区域）	高さが10mを超える建築物	4m	200%以下	4時間	2.5時間

出典：「建築基準法」（昭和25年、法律第201号）
「愛知県建築基準条例」（昭和39年、愛知県条例第49号）

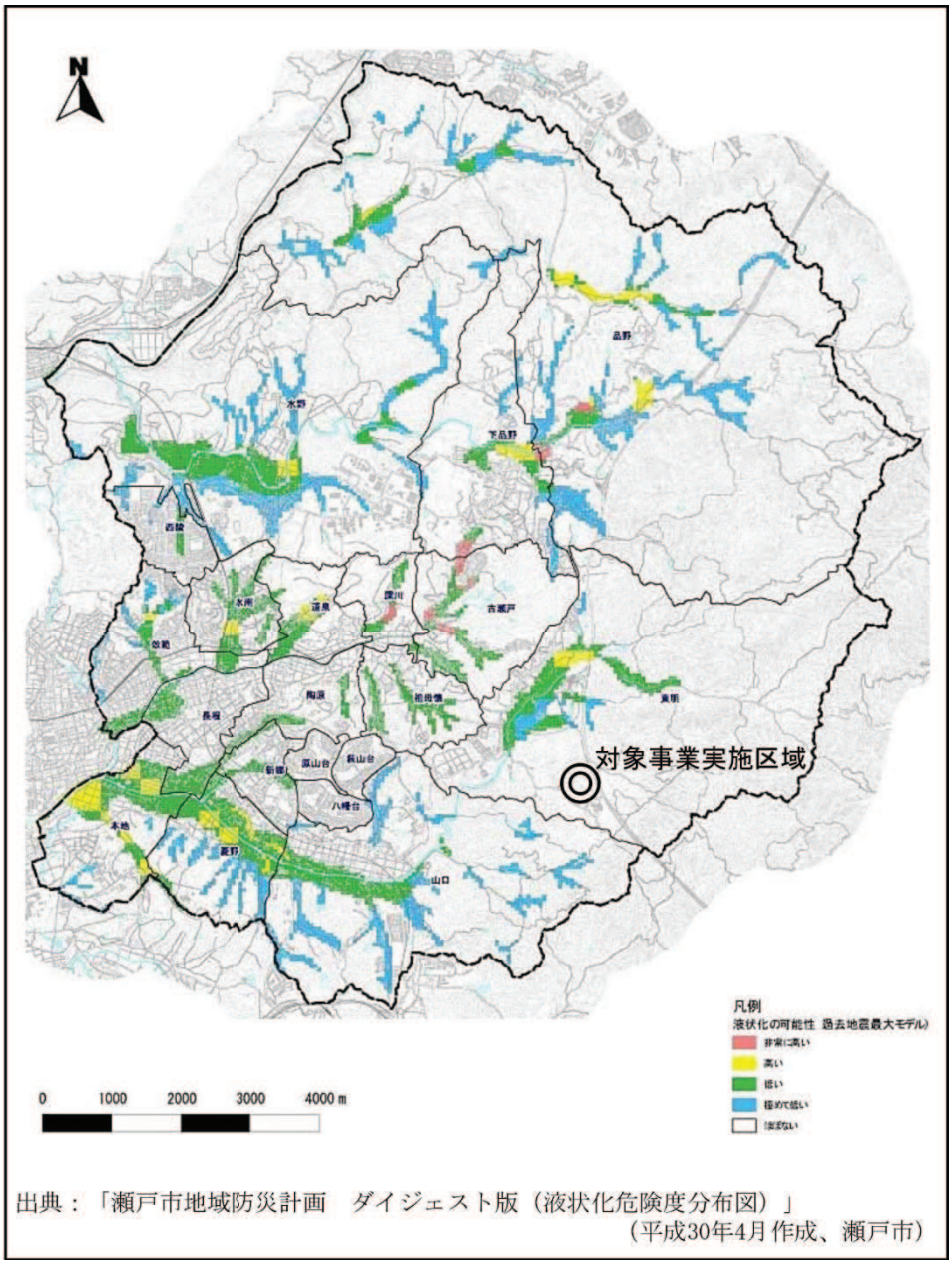
1.3.2.8.8 防災

(1) 瀬戸市地域防災計画

瀬戸市は、災害対策基本法第42条に基づき「瀬戸市地域防災計画」（令和3年1月改正）を策定している。この計画は、市民生活の各分野にわたり重大な影響を及ぼすおそれのある風水害や大規模な地震災害等に対処するため、県、市町村、指定地方行政機関、自衛隊、指定公共機関等の防災関係機関が実施すべき事務及び業務の大綱を中心として定め、市民のかけがえのない生命、身体及び財産を災害から保護することを目的としている。

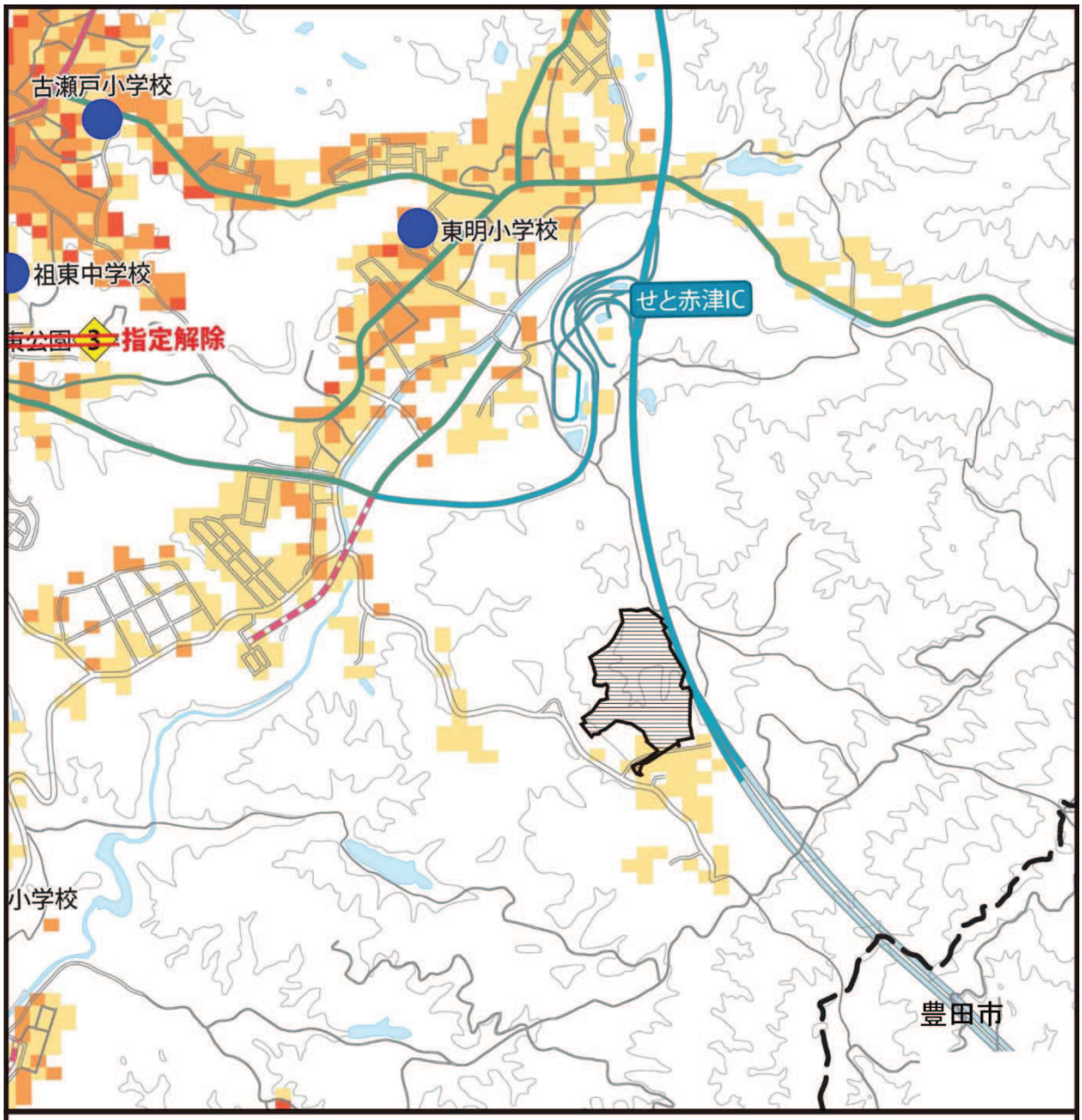
南海トラフを震源とした巨大地震を想定した地震災害の分析では、対象対象事業実施区域がある山路町周辺は、液状化危険度が“ほぼない”、建物崩壊危険度が“低い～ほぼない”とされている。緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されているが、距離が離れており、また、土砂災害による道路閉塞の可能性もあるとされている。

対象対象事業実施区域がある山路町周辺は、浸水想定区域は設定されていないが、対象対象事業実施区域の南に位置する東山路町では東海豪雨時（2000年9月11～12日）に浸水被害が発生している。また、対象対象事業実施区域周辺には、土砂災害の危険が高い地域である土砂災害特別警戒区域等があり、対象対象事業実施区域の一部（北側出入口付近）が急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されているが、距離が離れているため、早めの非難を促すなど、風水害時の避難体制の検討が必要であるとされている。



出典：「瀬戸市地域防災計画　ダイジェスト版（液状化危険度分布図）」
（平成30年4月作成、瀬戸市）

図1.3.2-8(1)　液状化危険度分布図



凡　例

：対象事業実施区域

：避難所 兼 緊急避難場所

耐震性の低い建物が倒壊する割合

- 高い
- やや高い
- 低い
- ほぼない

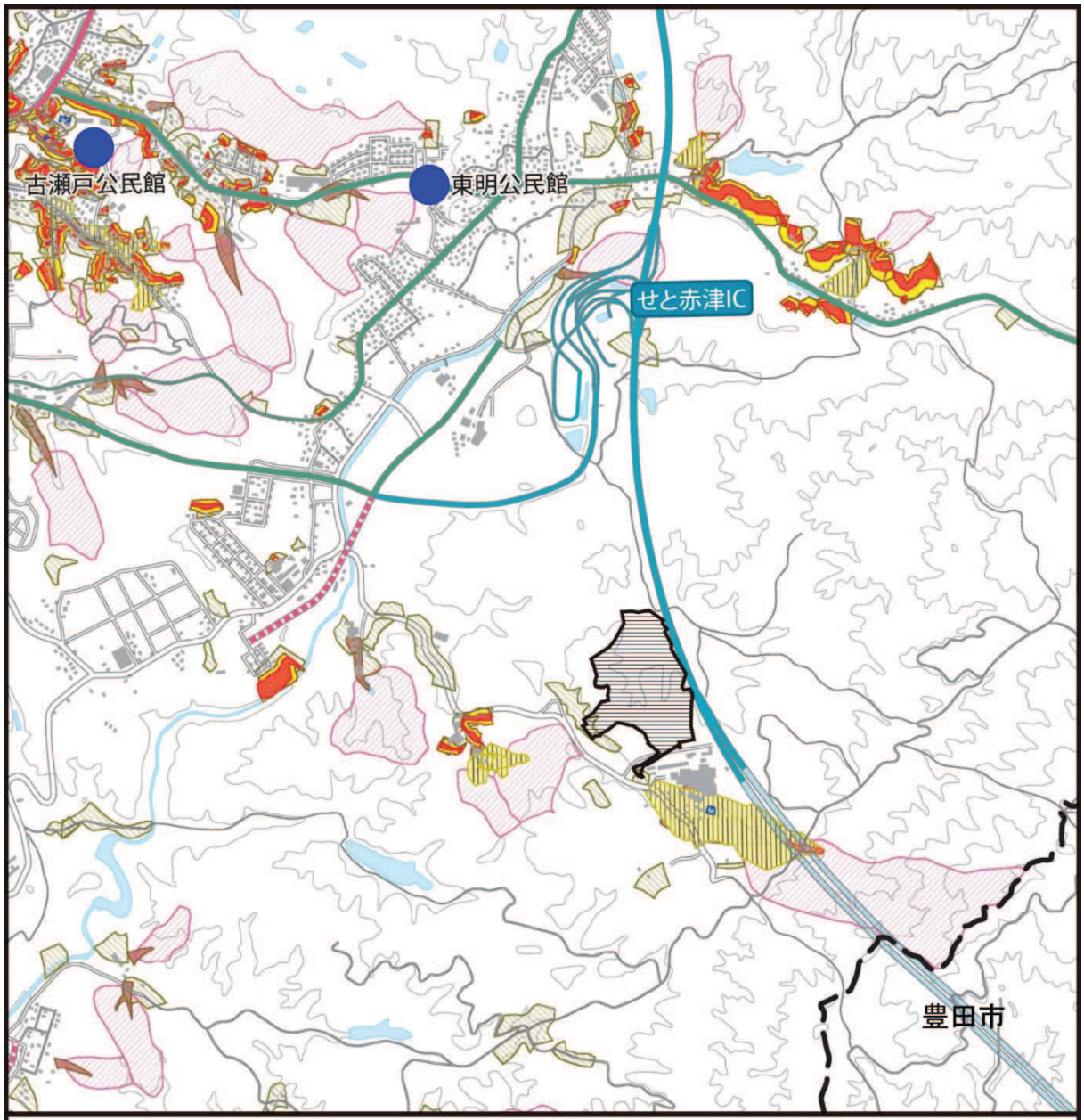
出典：「瀬戸市防災ガイドマップ（地震による建物倒壊危険度図）」
（令和３年9月閲覧、瀬戸市ホームページ）

図 1.3.2-8(2)　地震による建物倒壊危険度図

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m



凡　例

：対象事業実施区域

：避難所 兼 緊急避難場所

＜土砂災害の危険が高い地域＞

土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域のうち建築物に破損が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

- 土砂災害特別警戒区域（急傾斜地）
- 土砂災害特別警戒区域（土石流）

土砂災害警戒区域
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危険が生じるおそれがある地域

- 土砂災害警戒区域（急傾斜地）
- 土砂災害警戒区域（土石流）

土石流危険渓流
土石流の発生の危険性があり、1戸以上の人家等に被害が生じるおそれがある渓流

- 土石流危険流域
- 土石流危険渓流による危険区域

急傾斜地崩壊危険箇所
傾斜度 30 度以上、高さ 5m以上の急傾斜で被害想定区域内に人家等が 1戸以上ある場所

＜水害の危険が高い地域＞

- 東海豪雨（2000 年 9 月）で浸水した地域

※1 土砂災害警戒・特別警戒区域および土砂災害危険箇所は、愛知県建設部砂防課にて提供しているものです。

※2 土砂災害警戒・特別警戒区域は平成 26 年 5 月 30 日までに告示されたものです。最新の情報はマップあいち（愛知県ホームページの土砂災害情報）をご覧ください。

※3 浸水想定区域は水防法の規定により指定されたものです。

出典：「瀬戸市防災ガイドマップ（水害・土砂災害危険度図）」（令和３年9月閲覧、瀬戸市ホームページ）

図 1.3.2-8(3)　水害・土砂災害危険度図

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

1.3.2.8.9 その他の関係法令に基づく指定状況

対象事業実施区域周辺におけるその他の関係法令に基づく指定状況は、表1.3.2-35に示すとおりである。

表1.3.2-35　その他の関係法令に基づく指定状況

区分	関係法令等	地域地区等の名称	指定等の有無	
			対象事業実施区域	対象事業実施区域周辺
土地利用関連	都市計画法	風致地区	該当なし	該当なし
	都市緑地保全法	特別緑地保全地区	該当なし	該当なし
	生産緑地法	生産緑地地区	該当なし	該当あり
	農地法	農地	該当なし	該当あり
	農業振興地域の整備に関する法律	農業振興地域・農用地区域	該当なし	該当あり
	森林法	国有林、民有林、保安林	該当あり	該当あり
	道路法	認定道路	該当あり	該当あり
	都市再開発法	市街地再開発事業の施工地区	該当なし	該当なし
	都市区画整理法	土地区画整理事業の施行地区	該当なし	該当あり
	航空法	制限表面	該当なし	該当なし
	港湾法	港湾区域及び港湾隣接地域	該当なし	該当なし
自然環境保全関連	自然公園法	国立公園及び国定公園の特別保護地区、第１～３種特別地域、普通地域	該当なし	該当あり
	都市公園法	都市公園	該当なし	該当あり
	自然環境保全法	原生自然環境保全地域及び自然環境保全地域	該当なし	該当なし
	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律	鳥獣保護区のうち、特別保護地区及び特別保護指定区域	該当なし	該当なし
	都市の美観風致を維持するための樹林の保存に関する法律	保存樹及び保存樹林	該当なし	該当なし
	瀬戸市自然環境の保護及び保全に関する条例	特定地区	該当なし	該当なし
	景観法	景観計画区域、景観地区、準景観地区	該当あり	該当あり
防災関連	河川法	河川区域	該当なし	該当あり
		河川保全区域	該当なし	該当なし
	地すべり等防止法	地すべり防止区域	該当なし	該当なし
	砂防法	砂防指定地	該当あり	該当あり
	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律	急傾斜地崩壊危険区域	該当なし	該当あり
	土砂災害防止法	土砂災害警戒区域等	該当あり	該当あり
	宅地造成等規制法	宅地造成工事規制区域	該当なし	該当あり

(1) 森林法

国有林とは、国が森林所有者である森林及び国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年 法律第246号）第10条第1号に規定する分収林である森林をいい、民有林とは、国有林以外の森林をいう。また、保安林とは、水源の涵養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事により指定される森林である。

対象事業実施区域には民有林が存在する。

(2) 道路法

認定道路とは、「道路法」（昭和27年 法律第180号）第1章第2条に規定するトンネル、橋、渡船施設、道路用エレベーター等道路と一体となってその効用を全うする施設又は工作物及び道路の付属物で当該道路に付属して設けられているものを含む。

(3) 景観法

景観計画区域とは、「景観法」（平成16年 法律第110号）第8条に規定する都市、農山漁村その他市街地又は集落を形成している地域及びこれと一体となって景観を形成している地域に該当する土地の区域をいう。

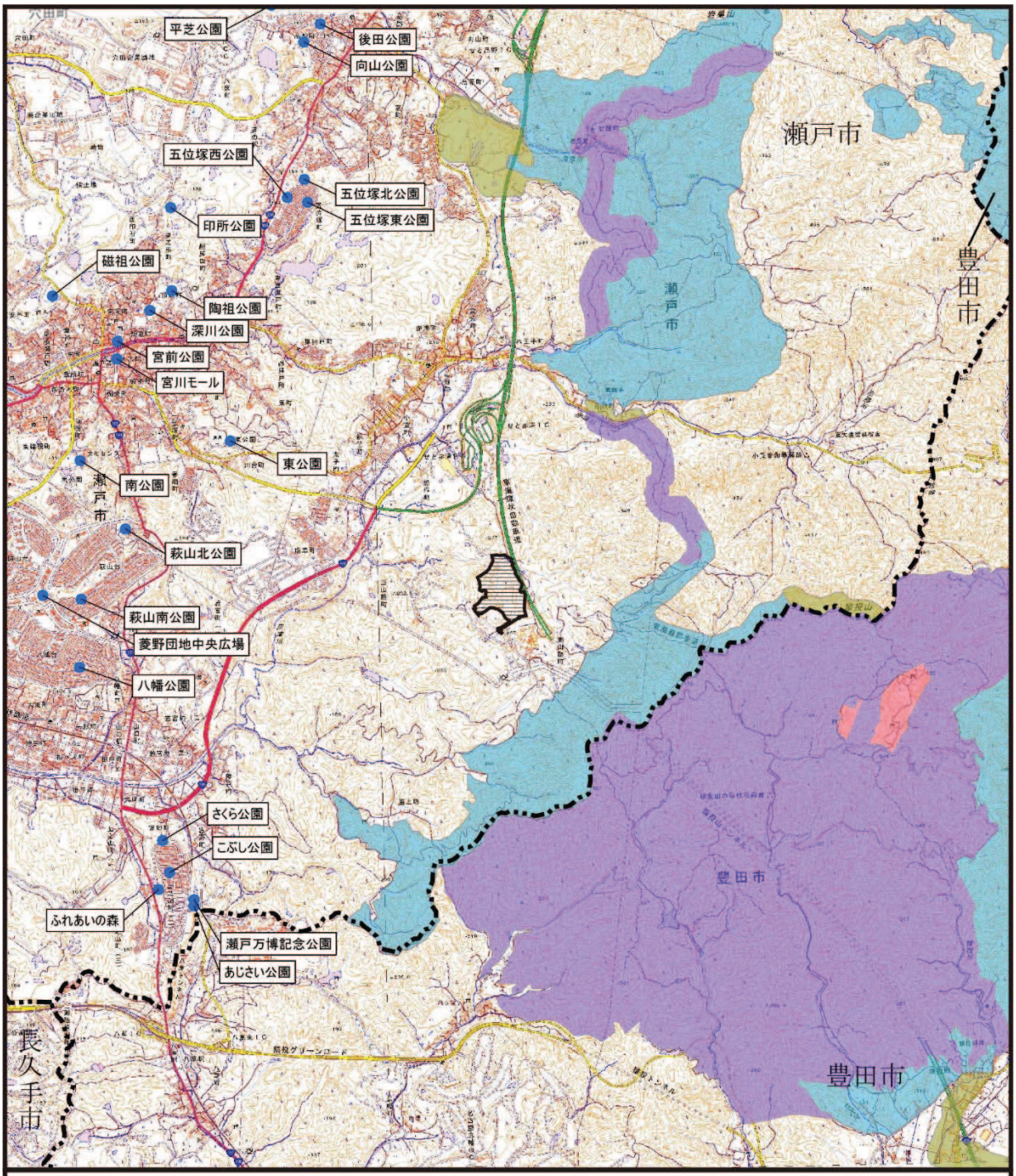
対象事業実施区域は瀬戸市の景観計画区域である森林里山景観ゾーンに位置する。そのため、当該ゾーンの景観形成方針に留意し事業を実施する必要がある。

景観形成方針（森林里山景観ゾーン）
○美しい里山や森林、自然豊かな河川景観を保全する ○地域の歴史的資源を活用し、自然景観と調和した趣のある景観を形成する ○周囲の自然景観と調和した緑を復元する ○緑の輪郭線としての山並み景観を保全する ○工業系土地利用においては、敷地内緑化や自然景観との調和を図る

(4) 砂防法

砂防指定地とは、「砂防法」（明治30年 法律第29号）第2条に基づき、砂防設備を要する土地又は治水上砂防のために一定の行為を禁止し若しくは制限するべき土地として国土交通大臣が指定して土地の区域である。

尾張建設事務所管内図（平成23年6月改訂）によれば、対象事業実施区域は砂防指定地として面指定されている。東山路川は砂防流路河川となっている。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：都市公園

自然公園地域

：普通地域

：第1種特別地域

：第2種特別地域

：第3種特別地域

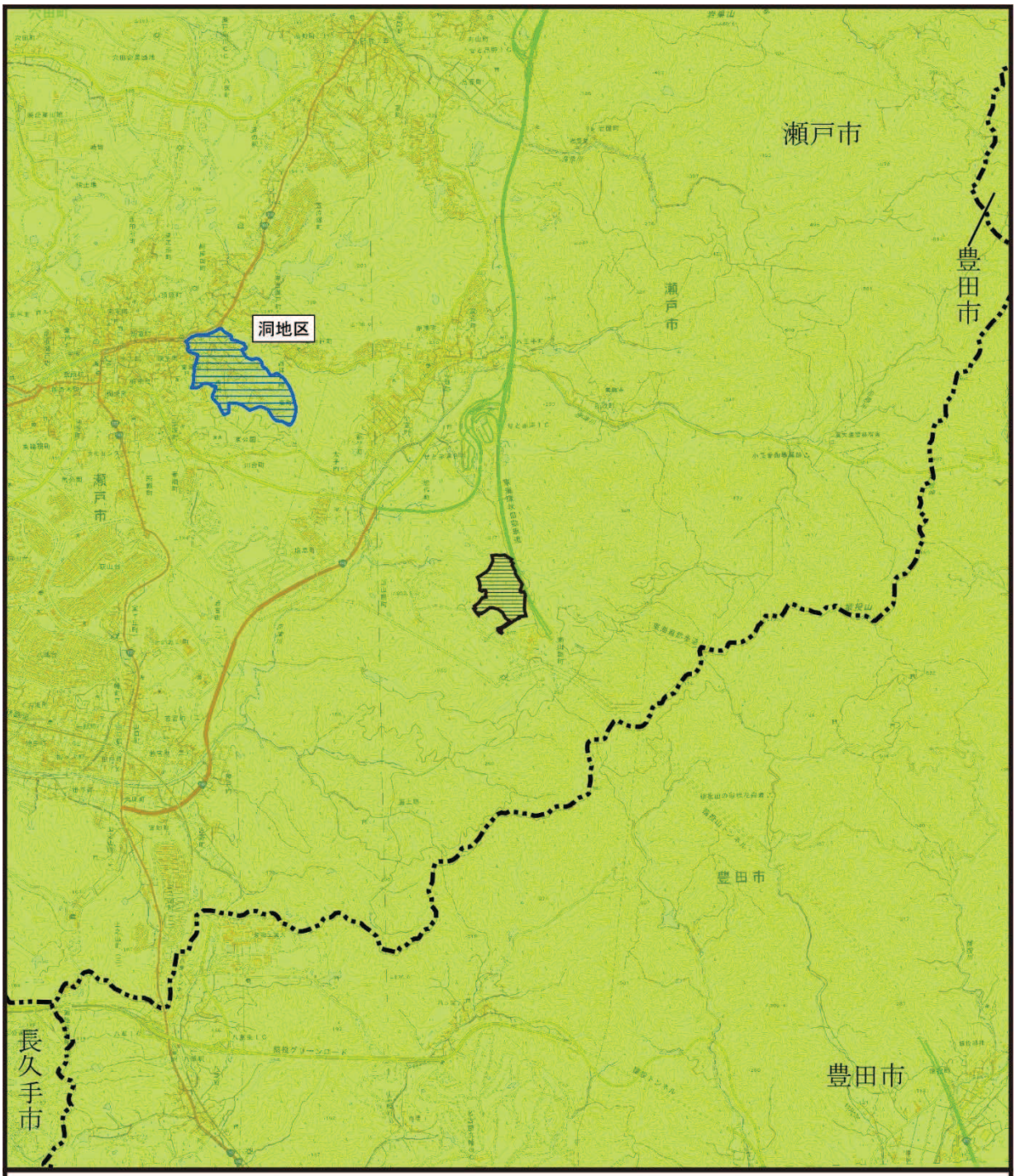
出典：「都市公園データ」（令和3年9月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）
「愛知県自然公園情報マップ」（令和3年9月閲覧、マップあいちホームページ）

図 1.3.2-9(1)　自然環境保全関連法令に基づく指定状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：景観計画区域

：景観重点地区

出典：「景観計画区域データ」（令和3年9月閲覧、国土数値情報ダウンロードサービス）

図 1.3.2-9(2)　自然環境保全関連法令に基づく指定状況

N

1:50,000

0　500　1,000　2,000 m

1.3.2.8.10 環境基本計画等

(1) 第5次愛知県環境基本計画

愛知県では、「愛知県環境基本条例」（平成7年 愛知県条例第1号）に基づき、施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成9年8月に第１次の「愛知県環境基本計画」が策定された。その後、環境政策の更なる展開を図るため、5年を目安に見直しが行われ、社会経済情勢や環境を取り巻く状況の変化を踏まえて、令和3年2月に「第5次愛知県環境基本計画」が策定されている。

＜計画の位置付け及び計画の期間＞
・愛知県環境基本条例第9条に基づき、環境の保全に関する長期的な目標及び施策の方向を示すもので、本県の環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するものである。 ・本県では、リニア中央新幹線が全線開業（東京-大阪）し、スーパー・メガリージョンの形成が期待される2040年頃を展望し、2030年度までに重点的に取り組むべき政策の方向性を示す、「あいちビジョン2030」を、2020年11月に策定した。本計画はあいちビジョン2030に沿った環境分野での政策の方向性を示す計画として、本県の環境関係の個別計画の上位計画として策定するものである。 ・環境の視点を盛り込んだ県政の様々な分野における計画とも連携し、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図るものである。 ・あいちビジョン2030では、2040年頃の社会経済を展望し、2030年度を目標とする。 ・持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGsの目標年は2030年となっている。 ・こうした状況を受け、本計画も2040年頃までの長期を展望した上で、2030年度までの間に取り組むべき施策の方向を示す。なお、社会経済情勢や環境を取り巻く変化を踏まえ、必要に応じて見直す。

「第5次愛知県環境基本計画」における計画の目標は、「SDGs達成に向け、環境を原動力に経済・社会が総合的に向上する『環境首都あいち』」としている。

また、「環境の各分野の総合的向上」、「環境と経済の総合的向上」及び「環境と社会の総合的向上」を目指すべき姿としている。

＜目指すべき姿＞

○環境の各分野の総合的向上

安全・安心はもとより、地球温暖化対策、自然との共生、資源循環の各分野が連携しながら、総合的な向上が図られており、全ての県民がいつまでも暮らしていたいと思える、日本一環境にやさしいあいち。

○環境の各分野の総合的向上

安全・安心はもとより、地球温暖化対策、自然との共生、資源循環の各分野が連携しながら、総合的な向上が図られており、全ての県民がいつまでも暮らしていたいと思える、日本一環境にやさしいあいち。

○環境の各分野の総合的向上

安全・安心はもとより、地球温暖化対策、自然との共生、資源循環の各分野が連携しながら、総合的な向上が図られており、全ての県民がいつまでも暮らしていたいと思える、日本一環境にやさしいあいち。

さらに、目標の実現に向けた環境施策展開の考え方として、次の取り組みを示している。

＜目標の実現に向けた環境施策展開の考え方＞

○複数の課題の統合的解決

SDGsは、17のゴール及び169のターゲットが相互に関係しており、複数の課題を統合的に解決する重要性が示されている。本計画ではこの考え方を活用し、一見すると両立が困難であり、トレードオフの関係にあると思われる課題を「どちらか」ではなく、Win-Winの発想で「どちらも」を追求することで、特定の施策が複数の異なる課題（経済・社会分野を含む）を統合的に解決するよう施策を展開する。

○新たな課題への的確・迅速な対応

気候変動への適応やプラスチックごみ問題、新型コロナウィルス対策など新たな課題に対して、上記「複数の課題の統合的解決」も踏まえ、的確かつ迅速に対応する。

○「行動する人づくり」の推進

環境問題は人間の社会経済活動に起因していることから、環境問題を自分事として捉え、県民や事業者が日常生活や事業活動において、意識しなくても環境に配慮した行動ができるよう「人づくり」を進める。

○連携・協働による施策の転回

SDGsを掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、あらゆるステークホルダーが参画する「全員参加型」のパートナーシップの促進を宣言している。このため、本計画においても、県民、事業者、NPO、行政など多様な主体や世代間が連携・協働した取組や、隣接県との広域連携、国際的な環境協力を進める。

(2) 第３次瀬戸市環境基本計画

瀬戸市では、平成12年に『環境創造都市』の実現に向けて「瀬戸市環境基本計画」を策定された。近年、環境行政を取り巻く状況は刻々と変化しており、国際的な温室効果ガス排出量の削減、資源循環や生物多様性の保全など広域的な環境問題に対して更に取り組むとともに、「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念や目標を意識しながら、日々変化する社会情勢や多様化する価値観などをしっかりと捉えることも求められている。こうしたことを踏まえ、今後の環境施策を市民、事業者、市が一体となって更に進めていくため、令和3年3月に「第３次瀬戸市環境基本計画」が策定されている。

＜計画の位置付け及び計画の期間＞
本計画は、本市の施策を環境面から横断的に捉えた行政計画であり、瀬戸市環境基本条例を根拠として、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定するものである。 また、「第６次瀬戸市総合計画」をはじめとする本市の関連計画を、環境の側面から効果的に推進する役割を果たすと同時に、市民・事業者・市が環境の保全と創造に取り組むための目標や方針、連携・協働のあり方についての方向性を示している。 本計画の対象とする期間は、施策やプロジェクトの推進によって中長期的な目標が達成されるよう令和3年度からの10年間とし、目標年次を令和12年度とする。 また、環境の保全と創造に向けた持続的な取り組みが計画的に実施されるよう、必要に応じて計画の見直しを行うこととする。

瀬戸市基本計画では、平成12年に策定した第１次計画から、「瀬戸市環境基本条例」（平成13年 瀬戸市条例第10号）の理念に掲げられている『環境創造都市』の実現を目指して、各種取組を推進してきた。第３次計画となる本計画においても、『環境創造都市』という本市が目指す環境像を実現し、さらなる進化を目指して、計画理念を「豊かな自然と、安全で快適な暮らしのある『環境創造都市』を次代につなぐ」としている。

本計画では、本誌の環境課題を解決し、計画理念を達成するために、以下の３つの基本方針を設定している。

＜計画理念＞
豊かな自然と、安全で快適な暮らしのある『環境創造都市』を次代につなぐ

＜基本方針＞
○瀬戸の“しぜん” 緑豊かな瀬戸市の自然にふれながら、大切に守り、後世に伝えていくために貴重な自然環境の保護・保全や、身近にふれ合うことのことのできる自然の保全・活用などの取組を進める。 **○瀬戸の“くらし”** 日々の暮らしの中で瀬戸市の生活環境や地球環境の向上に寄与するために、資源循環型まちづくりや低酸素社会の実現を目指し、市民や事業者が安心して日常生活や事業活動を営むことができるよう取組を進める。 **○瀬戸の“ひとびと”** 持続可能な街を実現するために、市民、事業者、学術・研究機関、市などの多様な主体の連携・協働や、地域資源を活かしたグリーンな経済システムの構築、市民・事業者の環境意識の向上などにつながる取組を進める。

また、本計画では、計画理念及び基本方針を踏まえた、以下のとおり施策の基本的方向と展開を示している。

基本方針	施策の基本的方向	施策の展開
瀬戸の“しぜん”	自然環境の保護・保全	○貴重な自然環境の保護・保全 ○森林の適切な保全 ○河川などの水辺環境の保全
	生物多様性の保全	○生物の多様な生息生育環境の保全 ○外来生物対策の推進 ○生物多様性に対する理解の促進
	自然とのふれあいの推進	○ふれあいの場・機会の創出 ○里山の適切な維持管理と活用 ○農地の保全と活用 ○エコツーリズムの展開
瀬戸の“くらし”	公害対策の推進	○大気汚染防止対策の推進 ○水質汚濁・土壌汚染防止対策の推進 ○感覚公害の未然防止の推進
	資源循環型まちづくりの推進	○３Ｒの推進 ○ごみの適正処理の推進 ○産業廃棄物、不法投棄対策の推進
	まちの環境の保全・創出	○まちの環境美化の推進 ○まちなみ環境の保全・創出
	低炭素社会の実現に向けた取組の推進	○賢い選択（COOL CHOICE）の展開 ○温室効果ガスの排出削減 ○気候変動の影響に対する適応策の推進 ○再生可能エネルギーの活用促進 ○省エネルギーの促進
瀬戸の“ひとびと”	多様な主体の連携・協働	○多様な主体の連携・協働の強化 ○地域の自発的な取組の支援
	グリーンな経済システムの構築	○地域資源を活用した環境ビジネスの支援 ○事業者の環境情報の発信の促進
	市民・事業者の環境意識の向上	○環境教育・環境学習の推進 ○環境情報の共有、発信 ○環境イベントの開催

瀬戸市では、計画の推進に向けて、市民、事業者と市の連携・協働の取組を推進しいる。市民や事業者の自主的・自発的な取組を、瀬戸市がパートナーとして支援することで、重点環境施策を含む各種施策の推進力としての役割を担うこととしている。

(3) 豊田市環境基本計画

豊田市環境基本計画は、本市の環境分野のマスタープランとして「豊田市環境基本条例」に基づき策定している。平成7年3月に初めて策定されて以降、平成14年3月、平成20年12月に改訂しており、平成30年3月に新たな環境基本計画を策定した。「WE LOVE とよた」を合言葉に、一人ひとりの環境行動の促進、共働による相乗効果の創出、環境行動を下支えする仕組みづくりを進めることで、持続可能な社会を目指している。

＜環境基本計画の役割・計画期間＞
本計画は、市政経営の基本である「豊田市総合計画」における環境分野のマスタープランとして位置付けられ、環境分野に関連する各種計画及び施策を立案する上で基本となる計画である。 本計画の計画期間は、第８次豊田市総合計画の計画期間を踏まえ、平成30年度から平成37年度（令和7年度）までの8年間とし、計画期間は前期4年、後期4年に分け、前期4年の経過時点で中間見直しを行い、社会経済情勢の変化にも機動的かつ柔軟に対応できる計画としている。

本市の環境に関する状況・課題を幅広くかつ的確に把握し、長期的な視野に立って環境政策の方向性を提示するため、本計画を「低炭素社会」、「自然共生社会」、「循環型社会」、「安全・安心社会」の４つの社会と、それらの社会を横断的につなぐ「市民の環境行動力の向上と共働の分野」で構成している。

<table>
<tr><th colspan="3">＜基本理念＞</th></tr>
<tr><td colspan="3">私たちは、「WE LOVE とよた」を合言葉に、“豊かな自然の恵み”と“先進的な技術”を活かして、将来にわたって環境にやさしく、多様で豊かな豊田市をつくります。
１．市民一人ひとりが高い意識を持ち、行動します。
２．市民・事業者・行政が共働して、更に大きな行動につなげます。
３．意識せずとも、環境にやさしい行動が選択される仕組みづくりを進めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">〈社会・分野別の施策展開〉</td><td>低炭素社会</td><td>化石燃料の消費等に伴う温室効果ガスの排出を大幅に削減し、世界全体の排出量を自然界の吸収量と同等のレベルとしていくことにより、気候に悪影響を及ぼさない水準で大気中の温室効果ガス濃度を安定化させる社会</td></tr>
<tr><td>自然共生社会</td><td>農林水産業を含む社会経済活動が自然に調和し、生物多様性が適切に保たれ、様々な自然とのふれあいの場や機会が確保された、自然の恵みを将来にわたって享受できる社会</td></tr>
<tr><td>循環型社会</td><td>資源採取、生産、流通、消費、廃棄などの社会経済活動の全段階を通じて、廃棄物の発生抑制や再使用の推進などの取組により、新たに消費する資源をできるだけ少なくし、生産から廃棄までの段階で環境への負荷をできる限り少なくする社会</td></tr>
<tr><td>安全・安心社会</td><td>社会・経済活動による環境破壊や身体への影響などの公害の発生を防止して、基盤となる生活環境を確保するとともに、日常の生活における快適な環境を創造・維持し、さらに気候変動や災害に対する強靭性や柔軟性を備えた社会</td></tr>
<tr><td>市民の環境行動力の向上と共働の分野</td><td>４つの社会を実現するために、市民一人ひとりが環境に対する関心や自覚を高め、環境への正しい理解を深めていくとともに、日常の生活や事業活動の中で環境に配慮した選択ができる支援や仕組みを整えていく、社会横断的な分野</td></tr>
</table>

(4) あいちのみどり2025（愛知県緑化基本計画）

愛知県は、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例（昭和48 年（1973 年）３ 月30 日条例第３号）」に基づき、市街地及びその周辺の土地の緑化を推進するため、2021 年度から2025 年度までの５年間を計画期間とした「あいちのみどり２０２５（愛知県緑化基本計画）」を策定している。

「あいちのみどり２０２５（愛知県緑化基本計画）」では、3つの基本的な柱のもと、12の基本施策を具体的な取り組みを示している。

緑化推進の柱	基本施策
Ⅰ　緑豊かなまちづくり	①都市の緑化（公園・緑地、道路等）
	②河川・ため池・海岸等の緑化
	③公共施設の緑化
	④民有地の緑化
Ⅱ　既存の緑の保全活用	⑤都市の緑の保全・維持管理・活用
	⑥森林・里山の保全・維持管理・活用
	⑦農地の保全・維持管理・活用
	⑧生物多様性の保全
Ⅲ　緑を支える人づくり・仕組づくり	⑨県民への緑化の普及啓発・緑の環境学習の推進
	⑩県民参加による緑づくり
	⑪緑化木等生産支援・緑化技術の向上
	⑫緑化関係団体との連携

出典：「あいちのみどり 2025（愛知県緑化基本計画）」（愛知県、2021 年 3 月）

(5) 瀬戸市緑の基本計画

瀬戸市は、上位関連計画と整合・連携をしながら社会情勢の変化に対応した緑地の保全及び緑化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実行していくため、「瀬戸市緑の基本計画」（令和2年）の改定を行っている。対象区域は瀬戸市全域、目標年次を2029年（令和11年度）である。

「瀬戸市緑の基本計画」（令和2年）では、「自然・文化・人の魅力を次代につなぐみどり豊かなまち・せと」という基本理念のもと、4つの基本方針による施策を展開している。

基本方針
・市民の暮らしと共生して受け継がれてきた緑を「まもる」（緑地保全の方針）
・誰もが身近に感じられる緑・地域やニーズに応じた緑を「つくる」（緑化推進の方針）
・せとの魅力・市民の活力を生み出す緑を「いかす」（管理・活用の方針）
・せとの緑に携わる人を「はぐくむ」（育成の方針）

出典：「瀬戸市緑の基本計画」（瀬戸市、令和２年３月）

また、土地利用構想図において、対象事業実施区域は「森林環境ゾーン」に区分されている。「森林環境ゾーン」は、「農業共生ゾーン」、森林環境ゾーンの「緑の拠点」をまとめて『緑の骨格軸』として位置付けられ、これらの緑の一体的な保全・活用を図ることとされている。

(6) あいち生物多様性戦略 2030

愛知県では、「あいち生物多様性戦略2020」（2013年3月策定）の計画期間が終了することから、2030年度までに取り組む生物多様性保全の施策の方向性を示す「あいち生物多様性戦略2030」を策定している。

新たな戦略では、2050年に向けた長期目標「人と自然が共生するあいち」の実現に向け、「生態系ネットワークの形成」と「生物多様性主流化の加速」を両輪とする「あいち方式2030」を推進していくこととしている。

長期目標（2050 年ビジョン）として、「人と自然が共生するあいち　様々な立場の人々が生物多様性への意識を高め、そのコラボレーション（協働）によって生きものがすむ場所が確保され、本来、その場所にいるべき野生の生きものと人が共に生きていけるあいち」を愛知県が目指しいく将来の姿として、計画年次である2030年度まで成果を上げていく目標は、「人と自然の共生に向けて、生物多様性を主流化し、あらゆる立場の人々が連携して最大限の行動をとることにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を社会実装し、その回復に転じる。」としている。

あいち方式2030として、すべての主体がコレボレーション（協働）により生物多様性の保全を進めることにより取組を進めていくものとしている。

特に注力して実施する事業を「重点プロジェクト」として定め、愛知県の生物多様性に関わるあらゆる主体と連携して推進していくこととしている。

地域ごとの特徴と各地域で生物多様性の保全に効果的と考えられる取組として、尾張地域については、表に示す3つの取り組みが整理されている。

尾張地域の取組展開イメージ	
(1) 水辺の外来生物駆除とビオトープづくり	ユース世代の参加を進め、外来生物の駆除活動や在来種を増やすためのビオトープづくりにセットで取り組む。
(2) 竹林の拡大防止と里山林の育成	知多半島を中心に竹林の拡大が顕著であることから、竹の伐採と里山林の育成をセットで取り組む。
(3) 教育・研究機関と連携した生物多様性保全	大学等の教育・研究機関と連携し、人材の育成や効果的な保全活動とモニタリングや広報、情報発信を進める。

出典：「あいち生物多様性戦略 2030」（愛知県、2021 年 2 月）

(7) 豊田市の生物多様性に関わる行動目標

豊田市は、生物多様性の恵みを将来にわたり基本となる考え方や望ましい行動を掲げた「豊田市の生物多様性に関わる行動目標～生物多様性とよた戦略～」（豊田市、平成26年1月）を策定している。これは、生物多様性基本法第13条に基づく生物多様性地域戦略として位置付けるものであり、豊田市全体を対象とし、豊田市のめざす将来像を示し、市民、事業者、行政、主体間の連携についてそれぞれ行動目標を設定している。目標年次は、緊急度の高い対策を短期（2017年）、普及啓発と主流化のためのしくみづくりを中期（2025年）、生物多様性の将来像実現のための取組を長期（2050年）と設定している。

1.3.2.8.11 地球温暖化防止に関する取組状況

(1) あいち地球温暖化防止戦略2030

「あいち地球温暖化防止戦略2030」（平成30年2月）では、目指すべき低炭素社会を実現するために、2030年度における県内からの温室効果ガス削減量を、2013年度比で26%削減という目標を掲げている。

温室効果ガス削減に向け「県民、事業者、市町村などすべての主体による積極的な取組」、「強みや地域資源を最大限に生かしたあいちらしい取組」、「関係部局と連携しあらゆる施策の実施」という３つの視点に基づいた取組（緩和策）により、「徹底した省エネルギー」と「創エネルギーの導入拡大」の推進を図ることとしている。

緩和策の施策体制は、表1.3.2-36に示すとおりである。

表1.3.2-36(1)　「あいち地球温暖化防止戦略2030」における緩和策の施策体制

取組分野	施策の方向性と具体的取組
「暮らし」における低炭素化 【家庭部門対策】	◆低炭素型のライフスタイルへの点検を促進する ・「COOL CHOICE」と連動した県民運動の展開 ・家庭向け省エネ診断などによる「見える化」と「気づき」を通した実践行動の促進 ・企業や市町村等と連携したクールシェアなどの取組の推進 ◆家庭のエネルギー消費を削減する ・店舗による家電等の省エネ情報提供の促進 ◆環境に配慮した住宅を普及する ・省エネ・創エネ・畜エネ設備の導入による「スマートハウス化」の促進 ・既設住宅の高断熱化の促進
「事業活動」における低炭素化 【産業・業務部門対策】	◆大規模事業者による低炭素型の事業活動を促進する ・事業者の自主取組促進に向けた「地球温暖化対策計画書制度」の充実 ◆中小規模事業者による低炭素型の事業活動を促進する ・中小企業を対象とした総合的な支援 ・環境負荷低減設備の導入に対する低利融資 ◆環境に配慮した建築物を普及する ・「愛知県建築物環境配慮制度」の効果的運用 ◆低炭素型の技術・製品・サービスの供給を促進する ・共同研究や事業化支援などによる次世代自動車産業や環境・エネルギー産業の振興 ・顕彰制度による優れた製品等の発掘・普及 ◆農林水産業の省エネ化を促進する ◆行政による率先取組を促進する ・県有施設の照明のLED化などの率先行動

出典：「『あいち地球温暖化防止戦略2030』の概要」（令和3年7月、愛知県ホームページ）

表1.3.2-36(2)　「あいち地球温暖化防止戦略2030」における緩和策の施策体制

取組分野		施策の方向性と具体的取組
地域環境の低炭素化	「自動車利用」における低炭素化【運輸部門対策】	◆環境負荷の低い交通・運輸への転換を促進する ◆自動車使用に伴う環境負荷を低減する ・導入補助や課税免除などによる次世代自動車の普及拡大 ・関連団体などと連携したエコドライブの普及
	「地域」における低炭素化	◆環境負荷の小さな都市づくりを推進する ・市町村による都市づくりに対する支援
	「再生可能エネルギー等」の利活用の推進	◆太陽エネルギーの恵みを有効活用する ・太陽光発電・太陽熱利用施設の普及拡大 ◆未利用資源・エネルギーなど地域の資源を活用する ・小水力やバイオマスなど地域資源の活用 ・未利用資源を活用した地域循環圏の形成 ◆水素社会の実現に向けた取組を推進する ・再エネを活用して低炭素水素を製造・供給する「低炭素水素サプライチェーン」の構築・拡大 ◆環境・新エネ分野の産業振興を推進する
その他の温室効果ガスの削減対策	廃棄物由来の二酸化炭素対策	◆廃棄物の排出量や処分量を抑制する ◆廃棄物を資源として活用する ・環境に配慮した循環ビジネスの事業化支援
	代替フロン等の対策	◆フロン類の排出を抑制する
温室効果ガスの吸収源対策		◆森林の持つ多面的機能を発揮させる ・植栽や間伐など適切な森林整備・保全の推進 ◆吸収したCO_2を長期間貯蔵する ・認証制度などによる県産木材の利用拡大 ◆身近な吸収源を確保する ・都市の緑化の推進
低炭素社会の形成に向けた「人づくり（環境学習・教育）」		◆低炭素型の価値観を形成する ・発達段階に応じた教育・学習機会の提供

出典：「『あいち地球温暖化防止戦略2030』の概要」（令和3年7月、愛知県ホームページ）

(2) 第３次エコオフィスプランせと（瀬戸市地球温暖化防止実行計画）

第３次エコオフィスプランせと（瀬戸市地球温暖化防止実行計画）の概要は、表1.3.2-37に示すとおりである。

本計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年 法律第10号）第20条の3に規定する「地方公共団体実行計画」として、平成20年度に「瀬戸市地球温暖化防止実行計画（エコオフィスプランせと）」が策定され、その成果を踏まえて平成25年度に策定された計画である「第２次瀬戸市地球温暖化防止実行計画（エコオフィスプランせと）」の第３次計画であり、瀬戸市が行う事務及び事業における環境配慮行動の推進を図り、事務及び事業から排出される温室効果ガスの量の抑制及び削減を目的として策定されている。

表1.3.2-37　第３次エコオフィスプランせと（瀬戸市地球温暖化防止実行計画）の概要

計画の期間・計画の基準年度	
期間	平成30年度から令和4年度までの5年間
基準年度	２次計画の最終年度である平成29年度
対象とする温室効果ガスの種類	
温室効果ガス名	**主な発生源**
二酸化炭素（CO_2）	産業、民生、運輸部門における化石燃料の燃焼
メタン（CH_4）	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門 廃棄物の埋立地
一酸化窒素（N_2O）	農林業における窒素肥料 ガソリンの燃焼
温室効果ガスの削減目標	
平成29年度を基準として令和4年度における温室効果ガスの総排出量を7.4%以上削減することを目標とする。	
目標達成のための具体的な取組	
取組の基本方針	本市では、これまでクールビズの実施や中部電力浜岡原子力発電所の停止に伴い、逼迫した電力需要を想定し、「節電！ピークカット！アクションプラン」「瀬戸市節電対策の取組方針」を定め、徹底した節電に取り組んできた。その経験を生かし、根付き始めた個々の取組を、本計画の取組内容に組み入れ、温室効果ガス排出量の削減につなげていく
具体的な取組（市の事務及び事業から排出される温室効果ガスを直接的に削減させる効果をもつ取組）	・施設におけるエネルギー使用量の削減を目的とした取組 ・公用車燃料の削減を目的とした取組
具体的な取組（社会全体から排出される温室効果ガスの削減を間接的に貢献することができる取組）	・紙使用量の削減を目的とした取組 ・ごみの減量化、リサイクルの推進を目的とした取組 ・グリーン購入の推進を目的とした取組 ・職員への環境保全に関する啓発

出典：「第３次エコオフィスプランせと（瀬戸市地球温暖化防止実行計画）～職員一人一人の率先行動から組織全体へ～」（平成30年、瀬戸市）

(3) 豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025

豊田市は、「地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年 法律第10号）に基づく地方公共団体実行計画かつ、「豊田市環境基本計画」における低炭素分野に関する具体的行動計画として、「豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025」を平成30年に策定している。計画の概要は表1.3.2-38に示すとおりである。

表1.3.2-38　豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025の概要

<table>
<tr><th colspan="3">計画の期間と対象</th></tr>
<tr><td colspan="2">期間</td><td>平成30年度から令和7年度までの8年間</td></tr>
<tr><td colspan="2">対象</td><td>・温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」
・現在および将来の気候変動の影響に対処する「適応策」</td></tr>
<tr><th colspan="3">温室効果ガス排出量の削減目標</th></tr>
<tr><td colspan="3">中長期の温室効果ガスの削減目標として、2030年度に1990年度比で30%減、2050年度で50%減を目標とする。
本計画の最終年次である令和7年度における温室効果ガス排出削減量は25%を目安とする。</td></tr>
<tr><th colspan="3">対象とする温室効果ガスの種類</th></tr>
<tr><th colspan="2">温室効果ガス名</th><th>主な発生源</th></tr>
<tr><td colspan="2">二酸化炭素（CO_2）</td><td>化石燃料の燃焼など</td></tr>
<tr><td colspan="2">メタン（CH_4）</td><td>稲作、廃棄物の埋立など</td></tr>
<tr><td colspan="2">一酸化窒素（N_2O）</td><td>燃焼施設、工業プロセスなど</td></tr>
<tr><td rowspan="4">代替フロン類</td><td>ハイドロフルオロカーボン類（HFC_S）</td><td>エアコンや冷蔵庫の触媒など</td></tr>
<tr><td>パーフルオロカーボン類（PFC_S）</td><td>半導体の製造プロセスなど</td></tr>
<tr><td>六フッ化硫黄（SF_6）</td><td>電気の絶縁体など</td></tr>
<tr><td>三フッ化硫黄（SF_3）</td><td>半導体の製造プロセスなど</td></tr>
<tr><th colspan="3">8年後の目指す姿・施策の柱</th></tr>
<tr><th colspan="2">目指す姿</th><th>施策の柱</th></tr>
<tr><td rowspan="2">緩和策</td><td>・再生可能エネルギーの普及化が進み、まち全体としてエネルギー利用の効率化が進んでいる</td><td>・エネルギーの地産地消の推進</td></tr>
<tr><td>・低炭素型の暮らしが定着し、低炭素型の交通システムやモノづくりの基盤が確立している
・人工林の間伐が進み、森林によるCO_2吸収量が増加する</td><td>・民主・交通の低酸素化の促進
・産業の低炭素化の促進
・森林吸収対策の促進</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適応策等</td><td>・気候変動への適応の認知度が高まり、取り組みが進んでいる</td><td>・気候変動適応策の推進</td></tr>
<tr><td>・環境モデルとしてモビリティなどの先進技術やインフラが普及し、取り組みが浸透している</td><td>・連携や情報発信による取り組みの推進</td></tr>
</table>

注）長期目標（2050年）の温室効果ガス排出量は、CO_2のみの排出量
出典：「豊田市地球温暖化防止行動計画2018-2025」（平成30年、豊田市）

1.3.2.8.12 景観計画等

(1) 美しい愛知づくり基本計画

愛知県では、平成18年3月に定めた「美しい愛知づくり条例」に基づき、美しい愛知づくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成19年3月に「美しい愛知づくり基本計画」が策定された。その計画における目標は表1.3.2-39に示すとおりである。

さらに、公共事業の景観に対する影響や効果、責務を十分認識し、県民が望む良好な景観を形成するための基礎知識や指針、配慮事項を示すものとして、平成21年3月に「愛知県公共事業景観整備指針（案）」が策定された。

表1.3.2-39　「美しい愛知づくり基本計画」の目標

基本目標	分野別の目標
未来につなぐ緑豊かな“美しいあいち”	多様な生物が共存する『自然景観』
	武家文化や近代化遺産が伝える『歴史景観』
	心の豊かさを映し出す『生活景観』
	「モノづくり」の活力が創り出す『産業景観』

出典：「美しい愛知づくり基本計画」（平成19年、愛知県）

(2) 瀬戸市景観計画

瀬戸市では、豊かな自然に恵まれた歴史あるやきもののまちとしての特色を活かし、市民・事業者・行政の協働により、魅力的な景観の形成に取り組んでいくため、「景観法」（平成16年 法律第110号）に基づき、平成22年10月に「瀬戸市景観計画」が策定された。計画における目標は表1.3.2-40に示すとおりである。

景観計画区域を構成するゾーンでは、対象事業実施区域は「森林里山景観ゾーン」に区分されいる。

表1.3.2-40　「瀬戸市景観計画」の目標

目標景観像	景観形成の基本目標
豊かな自然と やきものの 魅力を活かしたまち	河川を軸とした　潤いのある景観づくり
	やきものの伝統とシンボルを活かした　にぎわいのある景観づくり
	森林や里山、田園などと調和した　緑豊かで美しい景観づくり

出典：「瀬戸市景観計画」（平成22年、瀬戸市）

(3) 豊田市景観計画

豊田市では、良好な景観の形成に関する計画として、平成20年3月に「豊田市景観計画」が策定された。豊田市が目指す景観像と基本目標は表1.3.2-41に示すとおりである。

表1.3.2-41　豊田市が目指す景観像と基本目標

目指すべき景観像	基本目標
いちばん美しいまち・豊田 人と自然と産業が響きあう	生命を育み環境を守る自然景観づくり
	豊かな心を育む生活景観づくり
	活力を生み出す産業景観づくり
	文化を培う歴史景観づくり

出典：「豊田市景観計画」（平成20年、豊田市）

1.3.2.9 その他都市計画配慮書対象事業に関し必要な事項

1.3.2.9.1 公害苦情の状況

瀬戸市及び豊田市における公害苦情の状況は、表1.3.2-42及び図1.3.2-10に示すとおりである。

対象事業実施区域が位置する瀬戸市の公害苦情の総数は148件であり、悪臭が69件で最も多い。

表1.3.2-42　公害苦情の状況（令和元年度）

単位：件

区分＼市	瀬戸市	豊田市
大気汚染	18	150
水質汚染	21	12
土壌汚染	－	－
騒音	31	62
振動	1	8
地盤沈下	－	－
悪臭	69	18
その他	8	10
総数	148	260

出典：「愛知県統計年鑑（令和2年度）」（令和3年12月閲覧、愛知県ホームページ）

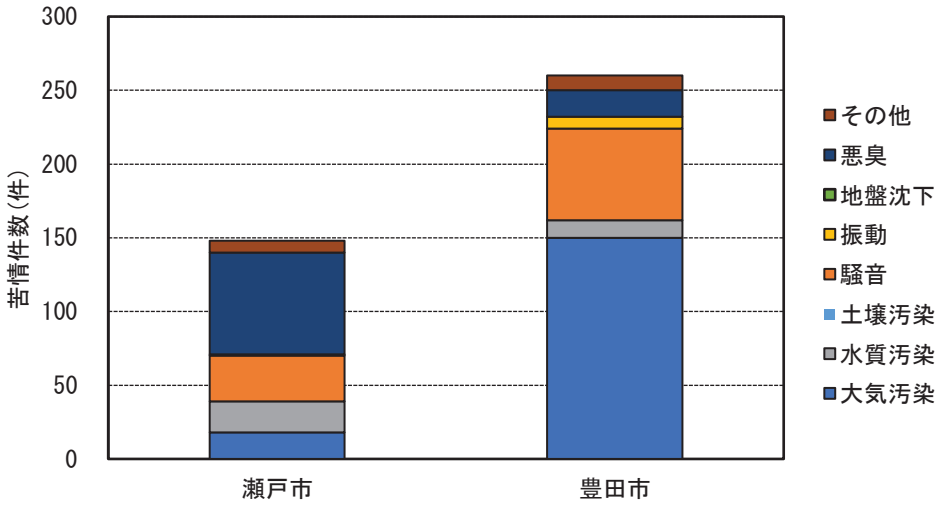


図1.3.2-10　公害苦情の状況（令和元年度）

1.4　調査範囲の設定

各選定項目の調査・予測範囲は表1.4-1に示すとおりである。

なお、交通量については、騒音・振動の調査時において実施した。

表1.4-1　調査範囲・予測範囲等の考え方

項目	調査・予測範囲等の考え方
大気質	本事業による大気質への影響が想定される地域とし、工事中の建設機械の稼働、土工及び工事用車両の走行、供用後の埋立作業及び廃棄物運搬車両の走行による排出ガスの影響が考えられる範囲とする。 調査範囲は、対象事業実施区域周辺の一般環境(バックグランド濃度等)の状況が把握できる範囲とする。
水質	本事業における盛土・掘削等及び浸出液処理設備の処理水の放流により、放流先河川の水質への影響が考えられる。 表流水の調査地域は、対象事業実施区域周辺の状況が把握できる範囲とする。現地調査地点は、処理水が流入する東山路川及び矢田川とする。 地下水の調査地点は対象事業実施区域内及びその周辺とする。
騒音・振動	本事業による騒音・振動への影響が想定される地域とし、工事中の建設機械の稼働及び工事用車両の走行、供用後の施設の稼働、埋立作業及び廃棄物運搬車両の走行による排出ガスの影響が考えられる範囲とする。 調査地域は、対象事業実施区域周辺の状況が把握できる範囲とする。現地調査地点は、対象事業実施区域に近接した民家及び対象事業実施区域境界(工事中の建設機械の稼働、埋立作業、施設稼働)、工事車両及び廃棄物運搬車両が集中する道路沿道の集落及び配慮を要する施設がある地点（道路交通騒音・振動）とする。
悪臭	本事業による悪臭への影響が想定される地域とし、埋立地からの悪臭の発生の影響が考えられる範囲とする。 現地調査地点は、対象事業実施区域に近接した集落及び対象事業実施区域境界とする。
自然環境	本事業による植物の生育環境、動物の生息環境への影響が考えられる範囲（敷地境界から約200m）とする。
廃棄物・発生土	本事業により対象事業実施区域からの廃棄物・残土の発生が考えられる。調査範囲は、対象事業実施区域内とする。
景観	供用後において、改変後の地形・樹木伐採後の状態により、眺望点からの眺望景観の変化が予想される。中景域（500m～3km程度の場合）として、「視対象の形態がとれえやすく、対象が景観の主体となりえる領域であるため、構造物及びのり面等の全体を周辺景観と調和させるような対策を検討する必要がある。」ことから、調査範囲は地域特性を把握すべき範囲 とした3km程度を目安とする。
防災	本事業における盛土・掘削工事及び施設の設置による影響が考えれる範囲とする。
交通安全	本事業による交通安全への影響が想定される地域とし、工事用車両の走行、廃棄物運搬車両の走行による影響が考えられる範囲とする。

第 2 章　関係地域環境影響調査項目の設定

2.1 調査対象とした項目及びその理由

環境影響要素		選定	環境影響要因		選定する理由・選定しない理由
大気質	粉じん	○	工事	盛土・掘削等の土工	盛土・掘削工事において、一時的に強風による粉じんの発生が考えられる。
	二酸化窒素	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出に用いる工事車両の走行、建設機械の稼働により二酸化窒素の発生が考えられる。
		○	供用	埋立作業 廃棄物運搬車両の走行	埋立作業のための重機の稼働及び廃棄物運搬車両の走行により二酸化窒素の発生が考えられる。
	浮遊粒子状物質	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出に用いる工事車両の走行、建設機械の稼働により浮遊粒子状物質の発生が考えられる。
		○	供用	埋立作業 廃棄物運搬車両の走行	埋立作業のための重機の稼働及び廃棄物運搬車両の走行により浮遊粒子状物質の発生が考えられる。
水質	浮遊物質量(SS)	○	工事	盛土・掘削等の土工	盛土・掘削等の土工による裸地の出現に伴い、降雨による排水路への濁水の流入による影響が考えられる。
	生物化学的酸素要求量(BOD) 化学的酸素要求量(COD) 全りん(T-P) 全窒素(T-N) ダイオキシン類 浮遊物質量(SS) その他必要な項目（健康項目等)	○	供用	浸出水処理施設からの処理水の放流	水処理施設からの処理水の放流により、放流先河川の水質への影響が考えられる。
地下水	地下水質 地下水の流れ	○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、地下水の流れに影響が考えられることから選定した。 また、施設からの浸透水の流出により、地下水への影響が考えられることから水質について調査する。 本事業では、遮水工を実施することから、有害物質の地下浸透はない。対象事業実施区域内では、明らかな帯水層は確認されず、表層地形の変化に従い表層水及び地下水は北方向（東山路川）に向かい流下しているものと考えれる。事業実施後は、埋立地面（遮水工下部）には、周辺地下水を集め、速やかに下流域へ排出するため地下水集水管を設置することから、地下水の流れを遮断・阻害することは想定されず、西谷取水口に流れ込みことはないと考えられる。
騒音	騒音	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出に用いる工事車両の走行、建設機械の稼働による騒音の影響が考えられる。
		○	供用	施設の稼働・埋立作業 廃棄物運搬車両の走行	埋立作業のための重機の稼働及び廃棄物運搬車両の走行による騒音の影響が考えられる。

注　「選定」欄の記号は以下のとおりである。
　　○：選定項目　×：非選定項目

環境影響要素		選定	環境影響要因		選定する理由・選定しない理由
振動	振動	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等	資材等の搬入及び搬出に用いる工事車両の走行、建設機械の稼働による振動の影響が考えられる。
		○	供用	施設の稼働・埋立作業 廃棄物運搬車両の走行	埋立作業のための重機の稼働及び廃棄物運搬車両の走行による振動の影響が考えられる。
悪臭	臭気指数	○	供用	施設(埋立地)からの悪臭の発生	埋立地からの悪臭の影響が考えられる。
自然環境	植物	○	工事	盛土・掘削等の土工	盛土・掘削等の土工により、植生及び注目すべき群落への影響が考えられる。
		○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、植生及び注目すべき群落への影響が考えられる。
	動物	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等 盛土・掘削等の土工	資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働及び盛土・掘削等の土工により、動物相及び注目すべき種への影響が考えられる。
		○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、動物相及び注目すべき種への影響が考えられる。
	生態系	○	工事	資材等の搬入及び搬出 建設機械の稼働等 盛土・掘削等の土工	資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働及び盛土・掘削等の土工により、地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
		○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、地域を特徴づける生態系への影響が考えられる。
廃棄物及び発生土	廃棄物及び発生土	○	工事	盛土・掘削等の土工	造成工時により、伐採木 の発生及び残土の発生が考えられる。
景観	景観	○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、周辺からの眺望の変化が生じると考えられる。
防災	防災	○	工事	盛土・掘削等の土工	盛土・掘削等の土工により、土地の安定性が損なわれる可能性がある。
		○	供用	最終処分場の存在	最終処分場の存在により、新たな法面が発生し、土地の安定性が損なわれる可能性がある。
交通安全	交通安全	○	工事	資材等の搬入及び搬出	資材等の運搬に用いる工事車両の走行により、交通安全への影響が考えられる。
		○	供用	廃棄物運搬車両の走行	廃棄物運搬車両の走行により、交通安全への影響が考えられる。

注　「選定」欄の記号は以下のとおりである。
　　○：選定項目　×：非選定項目

2.2 調査対象としなかった項目及びその理由

環境影響要素		選定	環境影響要因		選定する理由・選定しない理由
大気質	粉じん	×	供用	埋立作業	埋立作業による粉じんの影響が考えられるが、即日覆土、場内及び場内道路の清掃・散水等を実施することから、周辺への影響はほとんどないものと考えられる。
土壌汚染	土壌汚染	×	工事	盛土・掘削等の土工	対象事業実施区域は、土石の採取事業まで山林であり、登記簿上もそれまで開発の記録はなく、昭和 32 年、平成 17 年の航空写真でも山林であったことから、土壌汚染は確認されておらず、影響はないと考えられる。
地盤沈下	地盤沈下	×	工事	盛土・掘削等の土工	対象事業実施区域の地層は地表面から5.0m程度までの地層が真砂土（風化した花崗岩）、その下層は花崗岩（N 値 50 以上岩盤）となっており、沈下は見込まれない。また、事業計画から真砂土層はほぼ残らないことからも地盤沈下は発生しないと考えられる。 なお、埋立地底面の基盤は、遮水シート敷設前に平板載荷試験を行い地耐力の確認を行う。
		×	供用	最終処分場の存在	
文化財	文化財	×	工事	盛土・掘削等の土工	対象事業実施区域の既知の埋蔵文化財である穴山窯跡及び扶桑北窯跡がある。それぞれ平成30 年度（発掘調査）及び令和4年度（発掘調査）に調査済みである。また、対象事業実施区域近傍には指定文化財は存在せず、影響はないと考えられる。
		×	供用	最終処分場の存在	

注　「選定」欄の記号は以下のとおりである。
　　○：選定項目　×：非選定項目

第 3 章　関係地域環境影響調査の結果等

3.1 大気質

(1)　調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査地点は、一般環境としての窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び気象については、対象事業実施区域周辺の一般環境(バックグラウンド濃度)が把握できる地点とした。

粉じん(降下ばいじん)の調査地点は、盛土・掘削等の土工、埋立作業に伴い発生する粉じん等の影響が考えられる対象事業実施区域に近接した民家及び対象事業実施区域境界付近で実施した。道路沿道地点は苦情があるため、現況を把握するため調査を実施した。

(2)　現況把握

1)　現況把握項目

調査内容は、表3.1-1に示すとおりである。

なお、交通量については、騒音・振動の調査時において実施した。

表3.1-1　調査内容

項　目	調査すべき情報
大気質	粉じん（降下ばいじん）
	窒素酸化物
	浮遊粒子状物質
気象	地上気象(風向・風速)
土地利用	土地利用の状況
大規模発生源	大規模発生源の状況

2)　現況把握方法

ア　調査地点

調査地点は、図3.1-1に示すとおり、一般環境としての窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び気象については、対象事業実施区域の1地点（No.1）とした。降下ばいじんについては、対象事業実施区域に近い民家（No.2）及び敷地境界（No.1)、類似施設（No.3）及び道路沿道（No.4）の4地点とした。

土地利用の状況及び大規模発生源の状況の調査範囲は対象事業実施区域周辺とした。

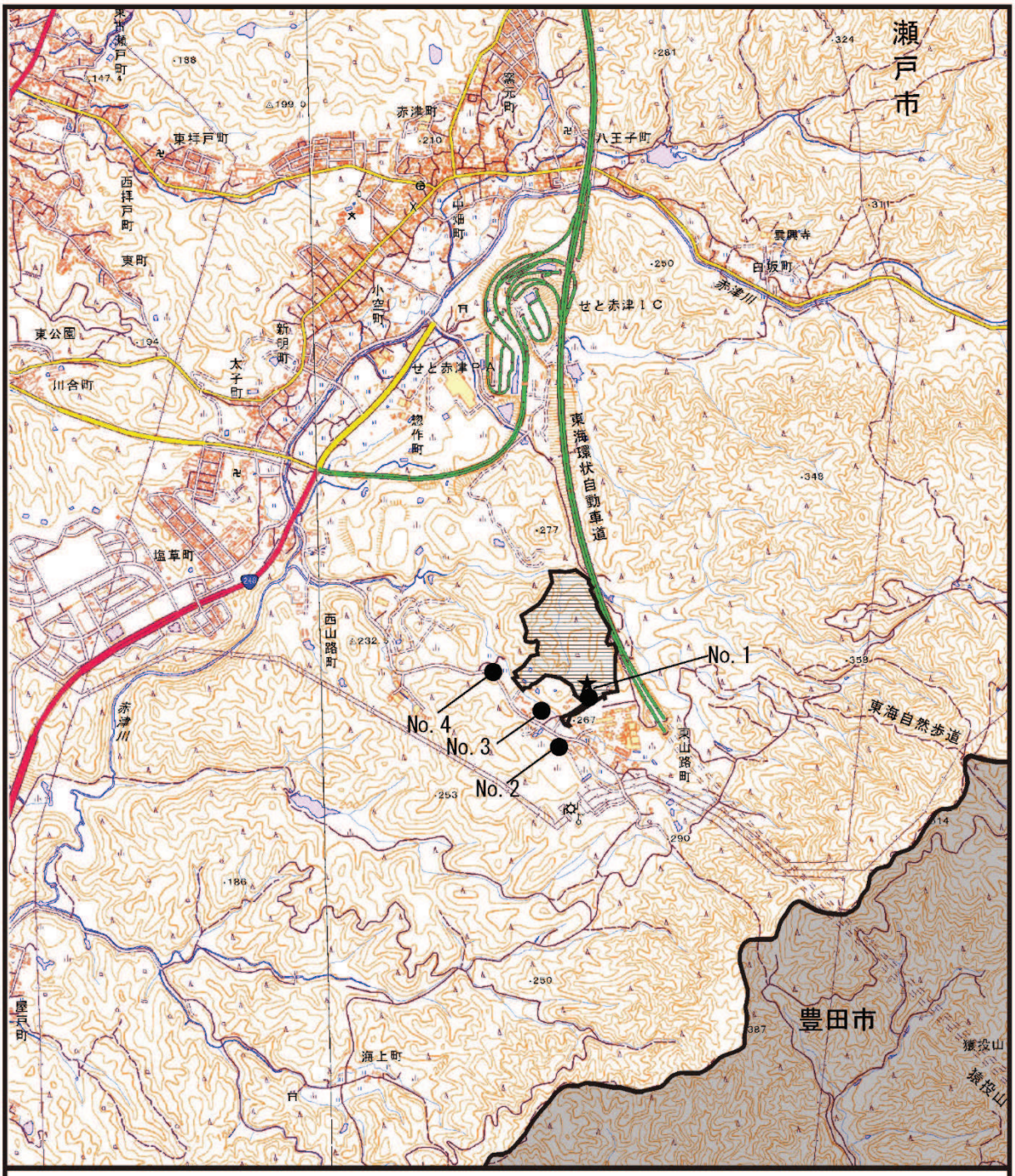


図3. 1-1　大気質調査地点

イ　調査時期

現地調査期間は、表3.1-2に示すとおりである。

表3.1-2　調査期間等

項　目	細項目	調査期間等
大気質	粉じん（降下ばいじん）	冬季：2021 年 1 月 16 日～2 月 15 日 春季：2021 年 4 月 26 日～5 月 26 日 夏季：2021 年 7 月 31 日～8 月 30 日 秋季：2021 年 10 月 5 日～11 月 4 日
	窒素酸化物	冬季：2021 年 1 月 17 日(日)～1 月 23 日(土) 夏季：2021 年 8 月 21 日(土)～8 月 27 日(金)
	浮遊粒子状物質	
気象	地上気象(風向・風速)	
土地利用	土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。
大規模発生源	大規模発生源の状況	

ウ　調査方法

調査方法は、表3.1-3に示すとおりである。

表3.1-3　調査方法

調査項目	調査方法	調査方法の概要
二酸化窒素	「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年環境庁告示第38号）に定める測定方法に準拠	オゾンによる化学発光法に基づく自動計測器（JIS B 7953）による連続測定
浮遊粒子状物質	「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年環境庁告示第25号）に定める測定方法に準拠	ベータ線吸収法に基づく自動計測器（JIS B 7954）による連続測定
降下ばいじん	「衛生試験法・注解」(2010年日本薬学会編)に定める測定方法に準拠	ダストジャー法により30日間連続で捕集し、降下ばいじん量を測定
風向・風速	「地上気象観測指針」（平成14年気象庁）に定める方法に準拠	風車型微風向風速計による連続測定
土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。	
大規模発生源の状況		

3)　調査結果

ア　二酸化窒素（公定法）

対象事業実施区域における二酸化窒素濃度の調査結果は、表3.1-4に示すとおりである。

二酸化窒素濃度の期間平均値は、冬季が0.013ppm、夏季が0.009ppmであり、日平均値の最高値が0.023ppm（冬季）であり、環境基準値を下回っていた。

なお、1時間値の最高値は0.051ppm（冬季）であった。

表3.1-4　現地調査結果（二酸化窒素）

調査地点	調査時期	有効測定日数（日）	測定時間（時間）	期間平均値（ppm）	1時間値の最高値（ppm）	日平均値の最高値（ppm）	環境基準等
No.1	冬季	7	168	0.013	0.048	0.023	【環境基準】 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。 【短期の指針※1】 1時間値が0.1から0.2ppm以下であること。
	夏季	7	166※2	0.009	0.051	0.015	

※1 中央公害対策審議会の短期暴露指針

※2 2021 年 8 月 27 日(金)14 時～15 時に電圧降下により 2 時間の欠測となった。

イ　浮遊粒子状物質

対象事業実施区域における浮遊粒子状物質濃度の調査結果は、表3.1-5に示すとおりである。

浮遊粒子状物質濃度の期間平均値は、冬季が0.014mg/m^3、夏季が0.022 mg/ m^{3}である。日平均値の最高値が0.033 mg/ m^3（夏季)、1時間値の最高値が0.054mg/ m^3（夏季）であり、環境基準値を下回っていた。

表3.1-5　現地調査結果（浮遊粒子状物質）

調査地点	調査時期	有効測定日数（日）	測定時間（時間）	期間平均値（mg/m^3）	1時間値の最高値（mg/ m^3）	日平均値の最高値（mg/m^3）	環境基準
No.1	冬季	7	168	0.014	0.043	0.025	1時間値の1日平均値が0.10mg/m^{3}以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m^{3}以下であること。
	夏季	7	166※	0.022	0.054	0.033	

※ 2021 年 8 月 27 日(金)14 時～15 時に電圧降下により 2 時間の欠測となった。

ウ　粉じん

対象事業実施区域における降下ばいじんの調査結果は表3.1-6に示すとおりである。

測定結果は参考値10t/km^2/月※と比較するといずれもこの値を下回っている。

※環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考とした 20t/㎢/月が目安と考えられる。一方、降下ばいじん量の比較的高い地域の値は，10t/km^2/月である。参考値は，建設機械の稼働による寄与を対象とするところから、これらの差である 10t/km^2/月とした。

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版)」
（平成 25 年，国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

表3.1-6　現地調査結果（降下ばいじん）

単位：t/km²/月

調査時期 / 調査地点	冬季	春季	夏季	秋季
No. 1	5. 5	8. 3	3. 9	3. 4
No. 2	1. 6	3. 5	2. 4	2. 1
No. 3	7. 9	5. 0	4. 7	5. 8
No. 4	7. 1	5. 5	3. 9	6. 2

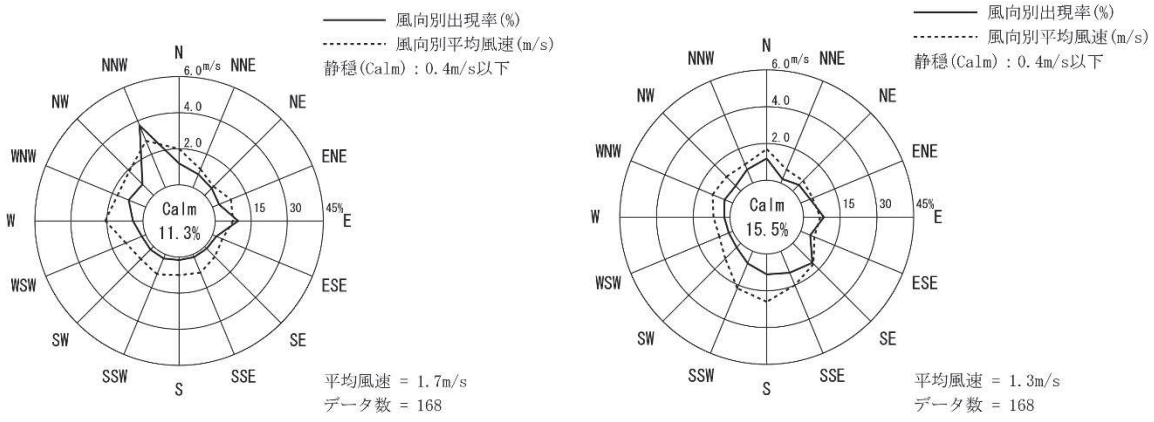
エ　気象

対象事業実施区域における風向・風速の調査結果は、表3.1-7及び図3.1-2に示すとおりである。

冬季は北北西の風が卓越し、平均風速が1.7m/sであった。夏季は南東の風が卓越し、平均風速が1.3m/sであった。

表3.1-7　現地調査結果（風向・風速）

調査地点	調査時期	有効測定日数（日）	測定時間（時間）	平均風速（m/s）	最大風速（m/s）	最多風向		静穏率（%）
						16方位	出現率（%）	
No.1	冬季	7	168	1.7	7.0	北北西	28.0	11.3
	夏季	7	168	1.3	4.2	南東	11.3	15.5



冬季　　夏季

図3.1-2　現地調査結果（風配図）

オ　土地利用の状況

対象事業実施区域及びその周辺は市街化調整区域である。

対象事業実施区域周辺には、伊藤忠セラテック（株）山路工場、(株）東立テクノラシー（汚染土壌浄化等処理施設熱処理焼成炉)、採石・山砂採取場、リサイクルプラント中間処理施設及び瀬戸市クリーンセンター(し尿処理施設）等がある。

令和3年1月1日現在、対象事業実施区域が存する瀬戸市山路町の人口は0人であり、南東に位置する東山路町が人口14人（世帯数6)、西に位置する西山路町が人口4人（世帯数2）である。

カ　大規模発生源の状況

対象事業実施区域は、（株）アンドウ興業による砂利・山砂採取が行われている。対象事業実施区域に隣接して、伊藤忠セラテック（株）山路工場（炉は24時間稼働）及び（株）東立テクノラシー（汚染土壌浄化等処理施設熱処理焼成炉）がある。また、対象事業実施区域周辺には、採石・山砂採取場、リサイクルプラント中間処理施設及び瀬戸市クリーンセンター(し尿処理施設）等がある。

(3) 環境保全措置

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。
・工事用車両の点検・整備を十分に行う。
・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。
・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。
・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。
・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。
・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 盛土・掘削等の土工事

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。
・強風による粉じんの発生を防止するために、晴天が続き乾燥した際には、必要に応じて散水を実施する。
・現場内の車両制限速度を低速に制限し、車両走行による粉塵飛散を抑制する。
・洗車ピットを設置し、場外に出る工事車両の洗車を励行する。
・雨季は大規模な土工事を回避する。

4) 埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。
・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。
・即日覆土、場内及び場内道路の清掃・散水等を実施する。

5) 廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。
・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。
・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(4) 予測

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 予測対象時期

予測対象時期は、工事用車両台数が最大となる時期とし、事業計画より、残土搬出による「場外搬出日最大のべ300往復」のピーク日の工事車両の走行が1年間続くものとした。

イ 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行により発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度とした。

ウ 予測方法

a 予測地点

住居等の保全対象を考慮して工事用車両が走行するルートより想定した。予測地点は、表3.1-8及び図3.1-3に示すとおり、工事用車両が走行するルート上のうち、工事用車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点とした。

表3.1-8 予測地点

予測地点	
No.3	太子町(市道塩塚線)

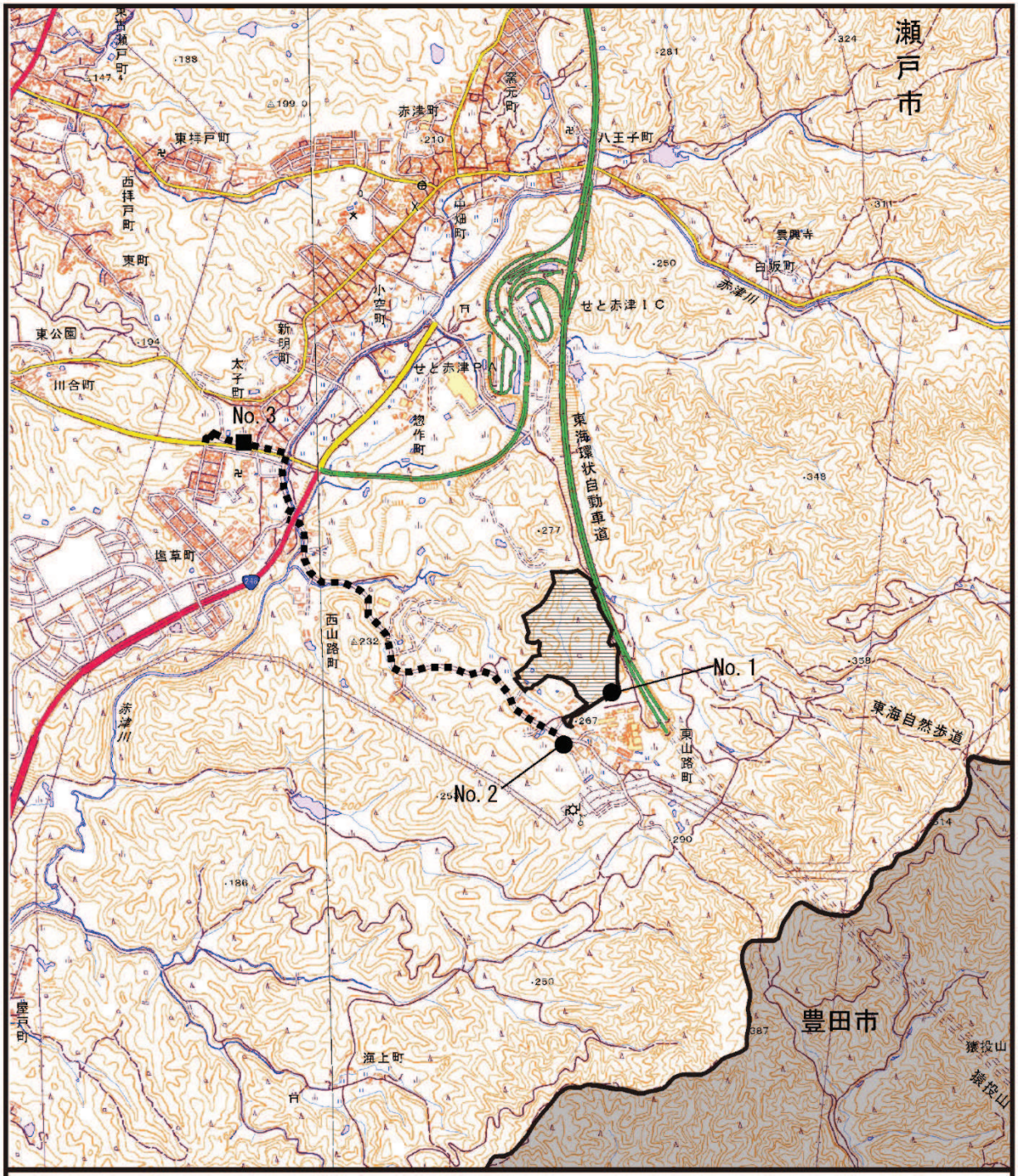


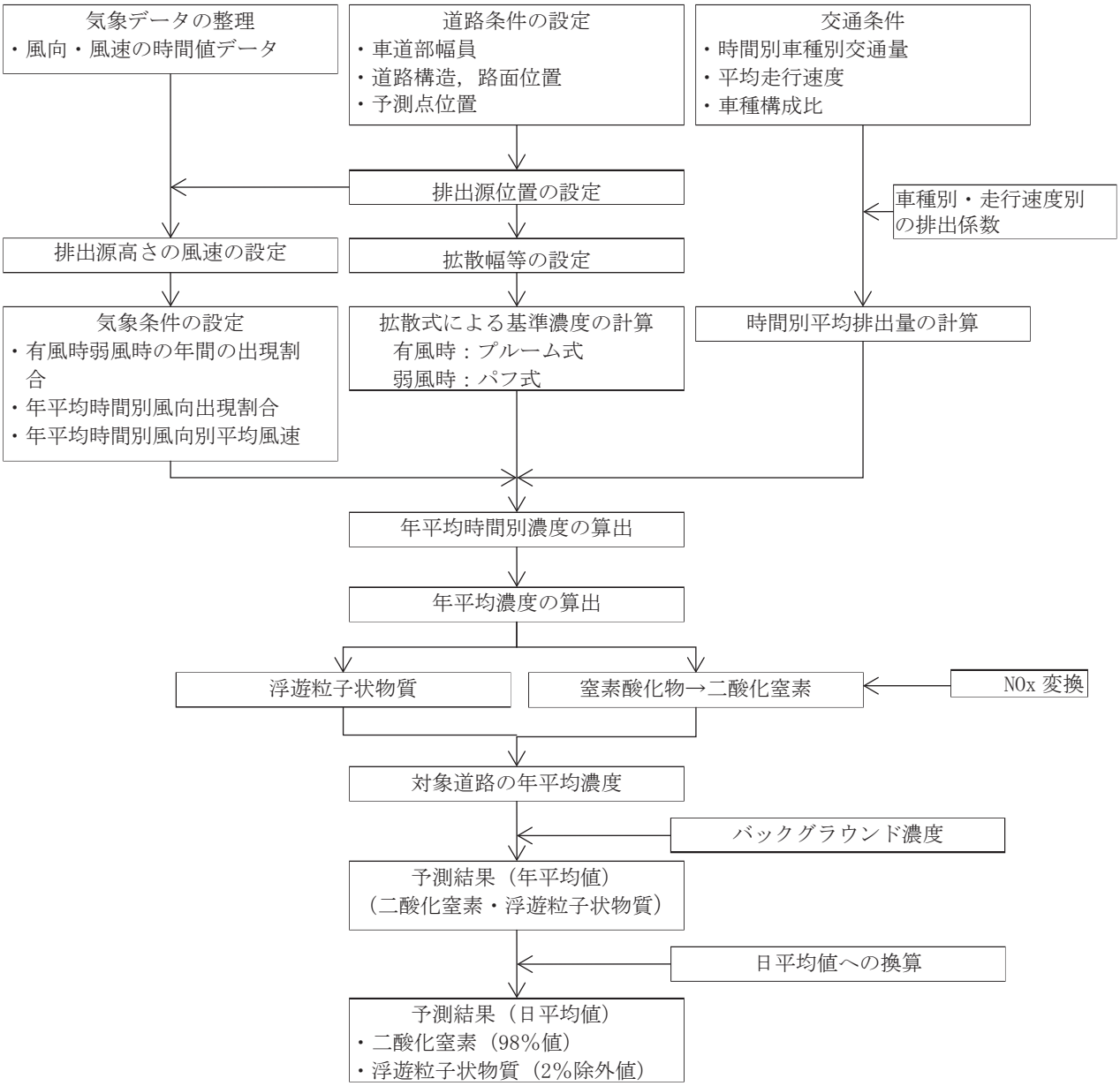
図3.1-3　大気質予測地点

b　予測方法

予測方法は、プルーム式及びパフ式を基本とした拡散モデルにより予測した。

①予測手順

予測手順は、図3.1-4に示すとおり、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に基づき実施した。



出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

図3.1-4　予測手順

②予測式

予測式は以下のとおりである。

有風時（プルーム式）（風速1m/sを超える場合）

●拡散式

$$C(x,y,z)=\frac{Q}{2\pi\cdot u\cdot\sigma_y\cdot\sigma_z}\exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right)\left[exp\left\{-\frac{(z+H)^2}{2\sigma_z^2}\right\}+exp\left\{-\frac{(z-H)^2}{2\sigma_z^2}\right\}\right]$$

$C(x,y,z)$：(x,y,z)地点における窒素酸化物濃度(ppm)

（又は、浮遊粒子状物質濃度(mg/m³)）

Q：点煙源の窒素酸化物の排出量(ml/s)

（又は、浮遊粒子状物質の排出量(mg/s)）

u：平均風速(m/s)

H：排出源の高さ(m)

σ_y , σ_z :水平(y)、鉛直(z)方向の拡散幅(m)

x：風向に沿った風下距離(m)

y：x軸に直角な水平距離(m)

z：x軸に直角な鉛直距離(m)

●拡散幅

・水平方向の拡散幅(σ_y)

$$\sigma_y=\frac{W}{2}+0.46L^{0.81}$$

なお、$x<W/2$の場合は$\sigma_y=W/2$とする。

・鉛直方向の拡散幅(σ_z)

$$\sigma_z=\sigma_{z0}+0.31L^{0.83}$$

σ_{z0}: 鉛直方向の初期拡散幅(m)

σ_{z0}=1.5

L: 車道部端からの距離（$L=x-W/2$）(m)

W: 車道部幅員(m)

なお、$x<W/2$の場合は$\sigma_z=\sigma_{z0}$とする。

弱風時（パフ式）（風速1m/s以下の場合）

●拡散式

$$C(x,y,z) = \frac{Q}{(2\pi)^{3/2} \cdot \alpha^2 \cdot \gamma}\left[\frac{1-exp\left(-\frac{l}{t_0^2}\right)}{2l} + \frac{1-exp\left(-\frac{m}{t_0^2}\right)}{2m}\right]$$

$$l = \frac{1}{2}\left[\frac{x^2+y^2}{\alpha^2} + \frac{(z-H)^2}{\gamma^2}\right]$$

$$m = \frac{1}{2}\left[\frac{x^2+y^2}{\alpha^2} + \frac{(z+H)^2}{\gamma^2}\right]$$

t_0：初期拡散幅に相当する時間(s)

α, γ ：拡散幅に関する係数

x ：風向に沿った風下距離(m)

y ：x軸に直角な水平距離(m)

z ：x軸に直角な鉛直距離(m)

●拡散幅

・初期拡散幅に相当する時間(t_0)は、

$$t_0 = W/2\alpha$$

W:車道部幅員(m)

α:以下に示す拡散幅に関する係数(m/s)

・拡散幅に関する係数(α, γ)

$$\alpha = 0.3$$

$$\gamma = \begin{cases} 0.18 \text{（昼間：午前7時～午後7時）} \\ 0.09 \text{（夜間：午後7時～午前7時）} \end{cases}$$

c　予測条件

①工事用車両台数

予測対象時点における工事用車両台数は、残土搬出による「場外搬出日最大のべ300往復」のピーク日の工事車両より、表3.1-9に示すとおり設定した。

表3.1-9　工事用車両台数(発生集中交通量)

予測地点		車種分類	工事車両台数 (台/日)
No.3	太子町(市道塩塚線)	大型車	300

②工事中の基礎交通量

工事中の基礎交通量は、騒音・振動の現地調査に併せて実施した平日の交通量現地調査結果（表3.3-6参照。）を使用した。

③工事中の交通量

工事中の交通量は、表3.1-10に示すとおり、基礎交通量に本事業による工事用車両台数を加えたものとした。

表3.1-10　工事中の交通量

単位：台/日

予測地点		車種分類	現況交通量 ①	工事用 車両台数②	工事中の交通量 ①+②
No.3	太子町(市道塩塚線)	大型車	423	300	723
		小型車	1,510	―	1,510
		自動二輪車	26	―	26

④走行速度及び排出係数

走行速度は、現地調査結果から40km/hとした。

走行車両の汚染物質の排出係数は、表3.1-11に示すとおり、平成30年度を想定した「道路環境影響評価の技術手法（2007改訂版）」（2007年、財団法人 道路環境研究所）に示される窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の値を用いた。自動二輪車は小型車類の排出係数をあてはめた。

表3.1-11　排出係数

単位：g/km・台

項目		窒素酸化物(NOx)		浮遊粒子状物質(SPM)	
車種		小型車類	大型車類	小型車類	大型車類
平均走行速度 (km/h)	40	0.077	1.35	0.004	0.071

注）「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」における排出係数は平成42年度を想定しているため、平成30年度を想定した「道路環境影響評価の技術手法（2007改訂版）」による排出係数を採用した。

出典：「道路環境影響評価の技術手法（2007改定版）」（2007年、財団法人 道路環境研究所）

⑤気象条件

気象条件（風向・風速）は、名古屋地方気象台の令和2年(2020年)測定データを用いた。

気象条件の設定にあたり、令和2年(2020年)の風向・風速データを過去10年間のデータを用いて、異常年検定を行った結果は、表3.1-12に示すとおりである。風向出現回数及び風速出現回数については特異ではないことを確認した。

表 3.1-12　異常年検定結果

地点：名古屋地方気象台
統計年：2010年1月～2019年12月
検定年：2020年1月～2020年12月

風向出現回数の異常年棄却検定

風向	統計年												検定年	F0	判定(1%) ○採択 ×棄却	棄却限界（1%）	
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均値	不偏標準偏差	2020			上限	下限
北	934	967	1027	1005	1093	1128	1051	1141	1080	1101	1052.7	68.8	1113	0.63	○	1300	806
北北東	422	398	408	392	410	410	406	416	429	446	413.7	15.6	410	0.05	○	470	358
北東	229	317	297	278	239	224	267	240	218	246	255.5	33.1	241	0.16	○	374	137
東北東	255	243	226	264	241	224	221	257	243	224	239.8	15.6	251	0.42	○	296	184
東	177	140	141	172	112	138	133	138	121	135	140.7	20.0	142	0.00	○	213	69
東南東	278	237	234	206	188	155	187	209	172	168	203.4	37.6	179	0.34	○	338	68
南東	688	698	633	503	527	536	537	515	589	575	580.1	70.9	546	0.19	○	835	325
南南東	769	758	831	717	797	723	698	533	888	756	747.0	94.2	777	0.08	○	1085	409
南	349	473	513	426	434	436	495	361	406	449	434.2	52.8	389	0.60	○	624	245
南南西	221	289	257	254	237	275	280	235	217	256	252.1	24.6	213	2.07	○	340	164
南西	175	160	114	181	174	233	232	178	177	182	180.6	33.9	216	0.89	○	302	59
西南西	142	130	122	152	174	167	137	144	133	128	142.9	17.0	156	0.49	○	204	82
西	198	198	173	228	218	207	201	214	195	170	200.2	18.3	179	1.10	○	266	134
西北西	897	859	872	995	890	814	837	970	972	743	884.9	78.5	860	0.08	○	1167	603
北西	1333	1312	1288	1343	1265	1330	1306	1412	1313	1358	1326.0	40.4	1352	0.34	○	1471	1181
北北西	1667	1561	1630	1628	1727	1744	1785	1774	1587	1805	1690.8	87.4	1745	0.31	○	2005	1377
静穏	26	13	12	16	34	16	8	23	20	15	18.3	7.6	15	0.15	○	46	0

注）静穏は風速0.3m/s未満である。

風速出現回数の異常年棄却検定

風速 (m/s)	統計年												検定年	F0	判定(1%) ○採択 ×棄却	棄却限界（1%）	
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	平均値	不偏標準偏差	2020			上限	下限
1未満	604	537	452	482	534	564	492	520	534	575	529.4	45.5	544	0.08	○	693	366
1以上2未満	2375	2251	2145	2170	2151	2366	2390	2331	2202	2265	2264.6	96.0	2214	0.23	○	2505	1920
2以上3未満	2177	2206	2218	2192	2232	2178	2212	2241	2185	2134	2197.5	31.3	2191	0.04	○	2276	2085
3以上4未満	1539	1506	1590	1477	1502	1487	1453	1463	1431	1446	1489.4	47.7	1552	1.41	○	1609	1318
4以上5未満	1021	982	1092	1020	1012	922	993	929	999	980	995.0	48.4	1084	2.77	○	1116	821
5以上6未満	554	568	598	624	585	606	604	567	677	630	601.3	36.4	633	0.62	○	692	471
6以上	490	703	683	795	744	637	637	709	732	727	685.7	83.7	566	1.67	○	895	385

計算に際しては、排出源高さを考慮して、次式より風速を補正した。

なお、予測地点における「べき指数（P)」は、土地利用の状況に合わせて1/5（郊外）を採用した。

$$U = U_0 (H / H_0)^P$$

ここで、U ：高さH(m)の推定風速(m/s)

U_0：基準高さH_0の風速(m/s)

H ：排出源の高さ(m)

H_0：基準とする高さ(m)（=17.8m：名古屋地方気象台）

P ：べき指数

（市街地：1/3　郊外：1/5　障害物のない平坦地：1/7）

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

⑥道路条件

予測地点の道路条件は、表3.1-13及び図3.1-5に示すとおりである。

予測高さは保全対象である民家を考慮し、1.5mとした。

表 3.1-13　予測地点の道路条件

予測地点		道路構造
No.3	太子町(市道塩塚線)	平面

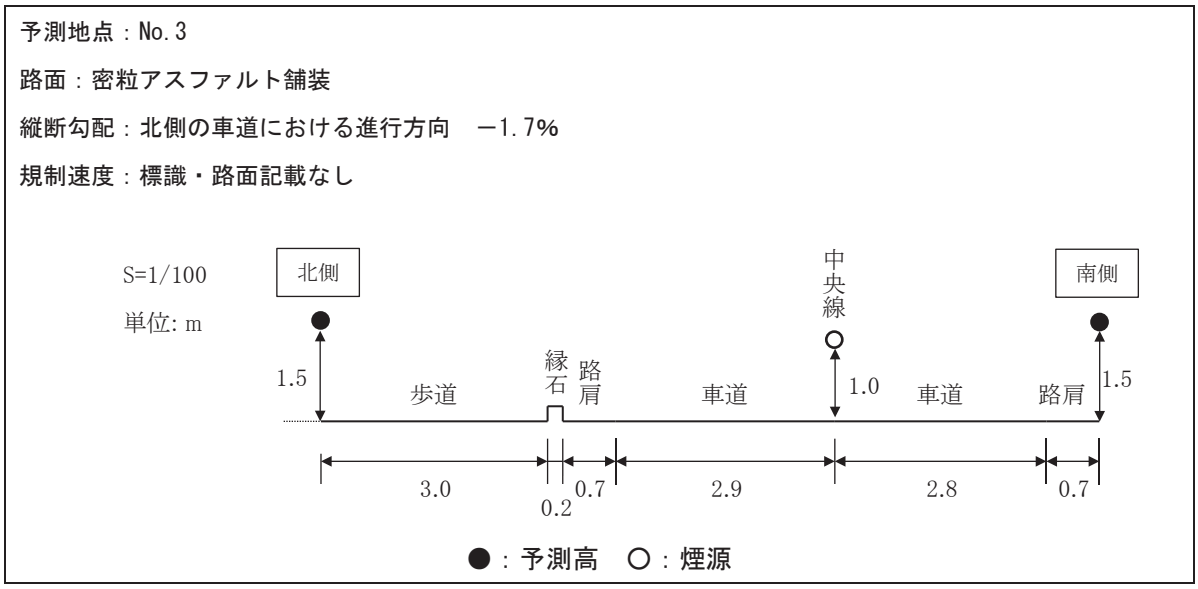
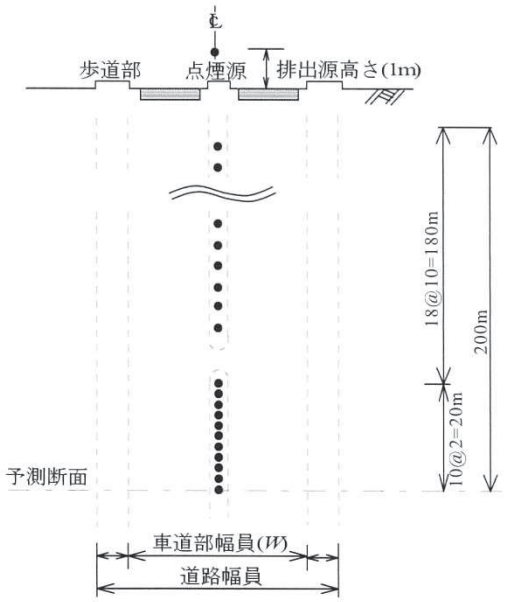


図3.1-5　道路構造と大気質予測地点及び煙源位置

⑦排出源の位置

点煙源は、図3.1-6に示すとおり、車道部の中央に、予測断面を中心に前後合わせて400mの区間に配置した。点煙源の間隔は、予測断面の前後20m区間で2m間隔、その両側180m区間で10m間隔とした。平面道路における排出源高さは1.0mとした。



出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

図3.1-6　道路構造と大気質予測地点及び煙源位置

⑧バックグランンド濃度

対象事業実施区域近傍の一般環境大気測定局である北部局(加納町)等の過去5年間の年平均値は、表3.1-14に示すとおりである。

二酸化窒素、窒素酸化物及び浮遊粒子状物質濃度はいずれも概ね横ばい傾向を示していることから、バックグラウンド濃度は各測定局の年平均値の5年間（平成28年度～令和2年度）のうち、安全側を考慮して最も大きい平均値を用いた。

表 3.1-14　一般環境大気測定局の過去 5 年間の年平均値とバックグラウンド濃度

項目	測定局	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均値	バックグラウンド濃度
二酸化窒素(ppm)	北部局(加納町)	0.011	0.011	0.010	0.009	0.006	0.009	0.010
	尾張旭市東大道町	0.010	0.011	0.010	0.009	0.009	0.010	
	日進市五色園	0.008	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	
	長久手中学校	0.010	0.009	0.008	0.008	0.007	0.008	
窒素酸化物(ppm)	北部局(加納町)	0.014	0.014	0.012	0.012	0.007	0.012	0.012
	尾張旭市東大道町	0.012	0.013	0.012	0.011	0.010	0.012	
	日進市五色園	0.009	0.009	0.008	0.008	0.007	0.008	
	長久手中学校	0.011	0.011	0.010	0.009	0.008	0.010	
浮遊粒子状物質(mg/m^3)	北部局(加納町)	0.017	0.016	0.014	0.015	0.014	0.015	0.015
	尾張旭市東大道町	0.016	0.015	0.016	0.012	0.011	0.014	
	日進市五色園	0.016	0.017	0.014	0.013	0.012	0.014	
	長久手中学校	0.019	0.017	0.017	0.013	0.011	0.015	

⑨窒素酸化物変換式

自動車から排出された窒素酸化物濃度から二酸化窒素濃度への変換は、全国の一般環境大気測定局及び自動車排出ガス測定局の測定結果（年平均値）を基に作成された次式を用いた。

$$[NO_2] = 0.0714[NO_X]^{0.438}\,(1 - [NO_X]_{BG}/[NO_X]_T)^{0.801}$$

ここで、$[NO_2]$：二酸化窒素濃度の対象道路の寄与濃度(ppm)

$[NO_X]$：窒素酸化物濃度の対象道路の寄与濃度(ppm)

$[NO_X]_{BG}$：窒素酸化物(NO_X)のバックグラウンド濃度(ppm)

$[NO_X]_T$：窒素酸化物(NO_X)のバックグラウンド濃度と対象道路の寄与濃度の合計値(ppm)

$([NO_X]_T = [NO_X] + [NO_X]_{BG})$

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

⑩日平均値変換式

予測値である年平均値から、評価値である二酸化窒素の日平均値の年間98%値及び浮遊粒子状物質の日平均値の年間2%除外値への換算は、表3.1-15に示す式を用いた。

表 3.1-15　年平均値と日平均値の年間 98%値及び 2%除外値との関係

項目	換算式
二酸化窒素 (NO_2)	[年間98%値]= a([NO_2]$_{BG}$+[NO_2]$_R$)+ b a = 1.34 + 0.11・exp(-[NO_2]$_R$/[NO_2]$_{BG}$) b = 0.0070 + 0.0012・exp(－[NO_2]$_R$/[NO_2]$_{BG}$)
浮遊粒子状物質 (SPM)	[年間2%除外値]= a([SPM]$_{BG}$+[SPM]$_R$)+ b a = 1.71 + 0.37・exp(－[SPM]$_R$/[SPM]$_{BG}$) b = 0.0063 + 0.0014・exp(-[SPM]$_R$/[SPM]$_{BG}$)

注）[NO_2]$_R$　：道路からの二酸化窒素年平均値（ppm）
　　[NO_2]$_{BG}$　：バックグラウンドの二酸化窒素年平均値（ppm）
　　[SPM]$_R$　：道路からの浮遊粒子状物質年平均値（mg/㎥）
　　[SPM]$_{BG}$　：バックグラウンドの浮遊粒子状物質年平均値（mg/㎥）
出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
　　（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

エ　予測結果

a　年平均値

二酸化窒素の年平均値の予測結果は、表3.1-16に示すとおり0.0104～0.0107ppmであり、本事業の工事用車両による寄与は1.3～2.5%と予測した。

浮遊粒子状物質の年平均値の予測結果は、表3.1-17に示すとおり0.0151mg/m³であり、本事業の工事用車両による寄与は0.1～0.3%と予測した。

表 3.1-16　二酸化窒素の予測結果（年平均値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	現況交通量による寄与濃度①（ppm）	工事車両による寄与濃度②（ppm）	バックグラウンド濃度③（ppm）	予測結果④＝①+②+③（ppm）	工事車両による寄与率②／④（%）
No.3	太子町	北側	1.5	0.00022	0.00014	0.010	0.0104	1.3
		南側	1.5	0.00041	0.00027	0.010	0.0107	2.5

表 3.1-17　浮遊粒子状物質の予測結果（年平均値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	現況交通量による寄与濃度①（mg/m³）	工事車両による寄与濃度②（mg/m³）	バックグラウンド濃度③（mg/m³）	予測結果④＝①+②+③（mg/m³）	工事車両による寄与率②／④（%）
No.3	太子町	北側	1.5	0.00005	0.00002	0.015	0.0151	0.1
		南側	1.5	0.00008	0.00004	0.015	0.0151	0.3

b　日平均値の年間98%値等

二酸化窒素の日平均値の年間98%値の予測結果は、表3.1-18に示すとおり0.023～0.024ppmであり、環境基準値を下回ると予測した。

浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の予測結果は、表3.1-19に示すとおり0.039mg/m³であり、環境基準値を下回ると予測した。

表 3.1-18　二酸化窒素の予測結果（日平均値の年間 98%値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	日平均値の年間98%値（ppm）	環境基準
No.3	太子町	北側	1.5	0.023	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
		南側	1.5	0.024	

表 3.1-19　浮遊粒子状物質の予測結果（日平均値の 2%除外値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	日平均値の2%除外値（mg/m³）	環境基準
No.3	太子町	北側	1.5	0.039	1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
		南側	1.5	0.039	

2)　建設機械の稼働

ア　予測対象時期

工事計画より、重機の稼働台数が大きい「場内造成工(切土・盛土・法面整形)」を対象とした。

工事日数は年間300日(25日／月)とした。工事の作業時間は午前8時から午後5時まで(昼休み1時間、10時及び15時に各30分間の休憩を含む。)であることから、重機の稼働時間は7時間／日とした。

予測にあたっては、「場内造成工(切土・盛土・法面整形)」のすべての重機が1年間稼働するものとした。

イ　予測項目

予測項目は、工事中の重機の稼働により発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、最大着地濃度が出現する地点とその濃度を予測した。また、図3.1-3に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、民家を考慮して、1.5m（1階高）とした。

b　予測方法

予測方法は、プルーム式及びパフ式を基本とした拡散モデルにより予測した。

①予測手順

予測手順は図3.1-7に示すとおりである。

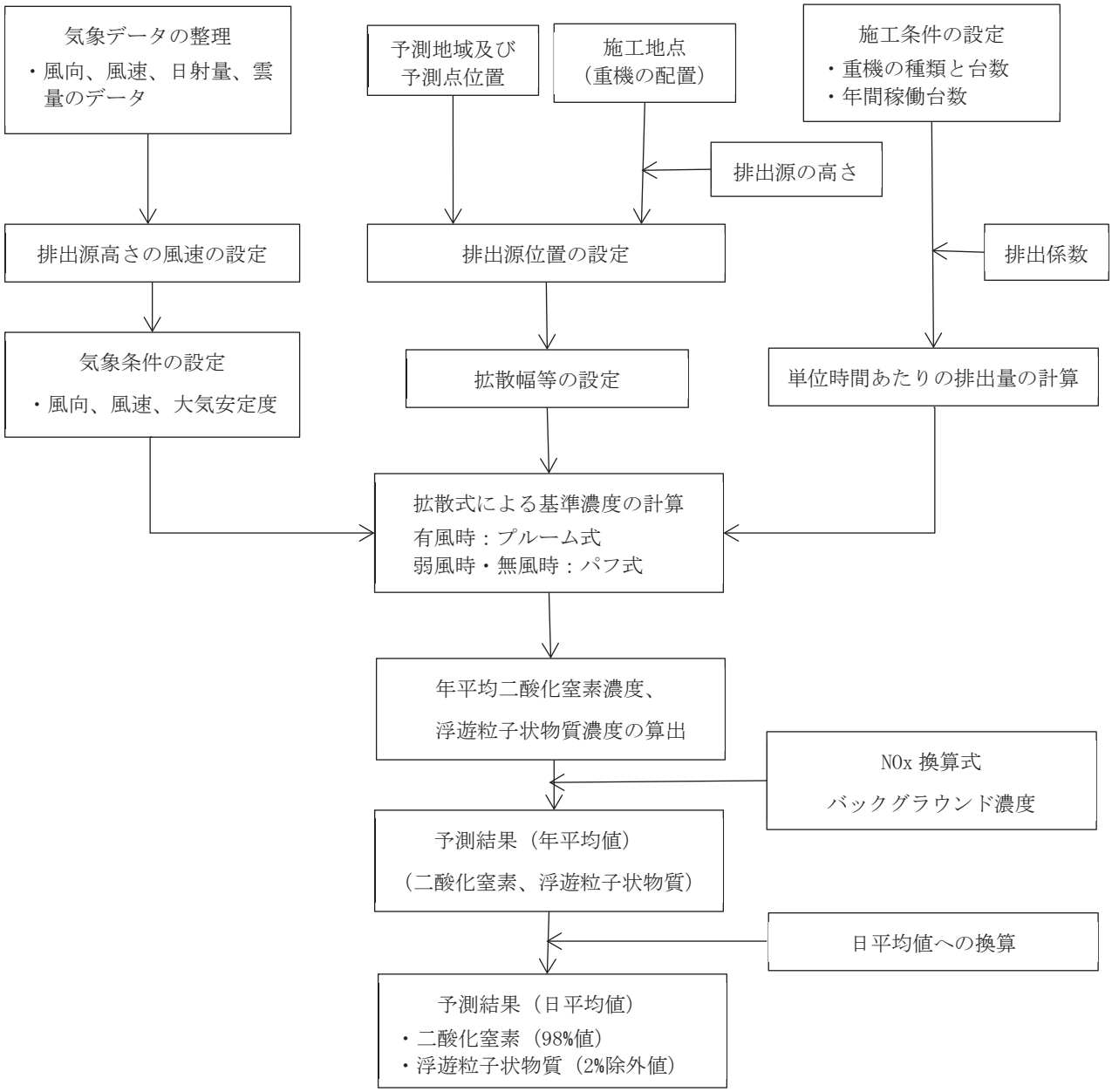


図 3.1-7　予測手順

②予測式

予測式は、「窒素酸化物総量規制マニュアル」（平成12年12月、公害対策研究センター）に基づき、有風時（風速1m/s以上）にはプルーム式を、弱風時（0.5～0.9m/s）及び無風時（0.4m/s以下）にはパフ式を用いた。

有風時（プルーム式）（風速1m/s以上の場合）

●拡散式

$$C(x,y,z)=\frac{Q}{2\pi\cdot u\cdot\sigma_y\cdot\sigma_z}\exp\left(-\frac{y^2}{2\sigma_y^2}\right)\left[exp\left\{-\frac{(z+H)^2}{2\sigma_z^2}\right\}+exp\left\{-\frac{(z-H)^2}{2\sigma_z^2}\right\}\right]$$

$C(x,y,z)$：(x,y,z)地点における窒素酸化物濃度(ppm)

（又は、浮遊粒子状物質濃度(mg/m³)）

Q：点煙源の窒素酸化物の排出量(ml/s)

（又は、浮遊粒子状物質の排出量(mg/s)）

u：平均風速(m/s)

H：排出源の高さ(m)

σ_y ,σ_z :水平(y)、鉛直(z)方向の拡散幅(m)

x：風向に沿った風下距離(m)

y：x軸に直角な水平距離(m)

z：x軸に直角な鉛直距離(m)

●拡散幅

有風時の拡散パラメータ(Psquill-Gifforden の近似関係)

拡散式	$\sigma_y(x)=\gamma_y\cdot x^{\sigma y}$			$\sigma_z(x)=\gamma_z\cdot x^{\sigma z}$		
Pasquill 安定度	αy	γy	風下距離 x(m)	αz	γz	風下距離 x(m)
A	0.901 0.851	0.426 0.602	0～1,000 1,000～	1.122 1.514 2.109	0.0800 0.00855 0.000212	0～300 300～500 500～
B	0.914 0.865	0.282 0.396	0～1,000 1,000～	0.964 1.094	0.1272 0.0570	0～500 500～
C	0.924 0.885	0.1772 0.232	0～1,000 1,000～	0.918	0.1068	0～
D	0.929 0.889	0.1107 0.1467	0～1,000 1,000～	0.826 0.632 0.555	0.1046 0.400 0.811	0～1,000 1,000～10,000 10.000～
E	0.921 0.897	0.0864 0.1019	0～1,000 1,000～	0.788 0.565 0.415	0.0928 0.433 1.732	0～1,000 1,000～10,000 10.000～
F	0.929 0.889	0.0554 0.0733	0～1,000 1,000～	0.784 0.526 0.323	0.0621 0.370 2.41	0～1,000 1,000～10,000 10,000～
G	0.921 0.896	0.0380 0.0452	0～1,000 1,000～	0.797 0.637 0.431 0.222	0.0373 0.1105 0.529 3.62	0～1,000 1,000～2,000 2,000～10,000 10,000～

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル[新版]」（平成 12 年 12 月 公害研究対策センター）

弱風時（パフ式）（風速1m/s未満の場合）

●拡散式（弱風時：0.5～0.9m/s）

$$C(x,y,z)=\frac{1}{\sqrt{2\pi}}\frac{Q}{\frac{\pi}{8}\gamma}\left[\frac{1}{\eta_{-}^{2}}\exp\left(-\frac{u^{2}(z-H)^{2}}{2\gamma^{2}\eta_{-}^{2}}\right)+\frac{1}{\eta_{+}^{2}}\exp\left(-\frac{u^{2}(z+H)^{2}}{2\gamma^{2}\eta_{-}^{2}}\right)\right]$$

●拡散式（0.4m/s以下）

$$C(x,y,z)=\frac{1}{(2\pi)^{3/2}}\frac{Q}{\gamma}\left[\frac{1}{\eta_{-}^{2}}+\frac{1}{\eta_{+}^{2}}\right]$$

$$\eta_{-}^{2}=x^{2}+y^{2}+\frac{\alpha^{2}}{\gamma^{2}}(z-H)^{2}$$

$$\eta_{+}^{2}=x^{2}+y^{2}+\frac{\alpha^{2}}{\gamma^{2}}(z+H)^{2}$$

α,γ：拡散幅に関する係数

他の記号は有風時（プルーム式）と同じである。

●拡散幅

弱風時、無風時にかかる拡散パラメータ

Pasquill 安定度	弱風時(0.5～0.9m/s) 拡散パラメータ		無風時(≦0.4m/s) 拡散パラメータ	
	α	γ	α	γ
A	0.748	1.569	0.948	1.569
A～B	0.659	0.862	0.859	0.862
B	0.581	0.474	0.781	0.474
B～C	0.502	0.314	0.702	0.314
C	0.435	0.208	0.635	0.208
C～D	0.342	0.153	0.542	0.153
D	0.270	0.113	0.470	0.113
E	0.239	0.067	0.439	0.067
F	0.239	0.048	0.439	0.048
G	0.239	0.029	0.439	0.029

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル[新版]」（平成 12 年 12 月 公害研究対策センター）

c　予測条件

①重機の稼働台数

予測対象時期の重機の種類及び台数は、表3.1-20に示すとおりである。

表 3.1-20　重機の種類及び台数

重機	定格出力 (kW)	排出ガス対策型の基準	最大稼働台数 (台/日)
バックホウ0.35㎥級	60	第2次基準値	3
バックホウ0.60㎥級	104	第2次基準値	5
ブルドーザ21t級	152	第2次基準値	2
ブルドーザ15t級	100	第2次基準値	2
ダンプトラック11t級	190	第2次基準値	6

備考　定格出力は、「令和3年度版　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会に基づき設定した。

②排出係数

重機の単位排出量は、表3.1-21に示すとおりである。

表3.1-21　重機の単位排出量

〈NOx〉

重機	定格出力 (kW) ①	排出ガス対策型の基準	排出係数原単位 (g/kW-h) ②	燃料消費率 (L/kW-h) ③	平均燃料消費率 (g/kW-h) ④	1日あたり稼働時間 (h) ⑤	NOx単位排出量 (g/台) ⑥	稼働率 (%)
バックホウ0.35㎥級	60	2次	6.1	0.153	238	7	1,367	100
バックホウ0.60㎥級	104	2次	5.4	0.153	234	7	2,133	100
ブルドーザ21t級	152	2次	5.3	0.153	229	7	3,127	100
ブルドーザ15t級	100	2次	5.4	0.153	234	7	2,051	100
ダンプトラック11t級	190	2次	5.3	0.134	239	7	3,424	100

〈SPM〉

重機	定格出力 (kW) ①	排出ガス対策型の基準	排出係数原単位 (g/kW-h) ②	燃料消費率 (L/kW-h) ③	平均燃料消費率 (g/kW-h) ④	1日あたり稼働時間 (h) ⑤	SPM単位排出量 (g/台) ⑥	稼働率 (%)
バックホウ0.35㎥級	60	2次	0.27	0.153	238	7	60.5	100
バックホウ0.60㎥級	104	2次	0.22	0.153	234	7	86.9	100
ブルドーザ21t級	152	2次	0.15	0.153	229	7	88.5	100
ブルドーザ15t級	100	2次	0.22	0.153	234	7	88.6	100
ダンプトラック11t級	190	2次	0.15	0.134	239	7	96.9	100

注1)「定格出力」及び「燃料消費率」は、「令和2年度版　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）に基づき設定した。

注2)「排出係数原単位」及び「平均燃料消費率」は、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に基づき設定した。。

注3) 単位排出量の算出は以下の式によった。燃料比重（軽油）は0.83kg/Lとした。

⑥＝①×②×(③×0.83×1000)/④×⑤

③排出係数

重機の汚染物質排出量は、表3.1-22に示すとおりである。

表3.1-22　重機からの汚染物質排出量（年間）

重機	窒素酸化物 （m^3/年）	浮遊粒子状物質 （kg/年）
バックホウ0.35m^3級	643	54.5
バックホウ0.60m^3級	1,673	130.4
ブルドーザ21t級	981	53.1
ブルドーザ15t級	643	150.2
ダンプトラック11t級	3,223	174.4
計	7,163	562.6

注）窒素酸化物の体積換算は523mL/gとした。
窒素酸化物排出量＝日稼働台数×300日×NOx単位排出量×稼働率×523/1,000,000
浮遊粒子状物質排出量=日稼働台数×300日×SPM単位排出量×稼働率/1,000

④排出源位置

排出源の位置は、予測対象時期の重機の稼働範囲を想定し、対象事業実施区域地内に均等に配置し、図3.1-8に示すとおりとした。

排出源の高さは、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）におけるユニットの排気管高さの掘削工(土砂掘削)3.1m等を参考に地上3.1mとした。

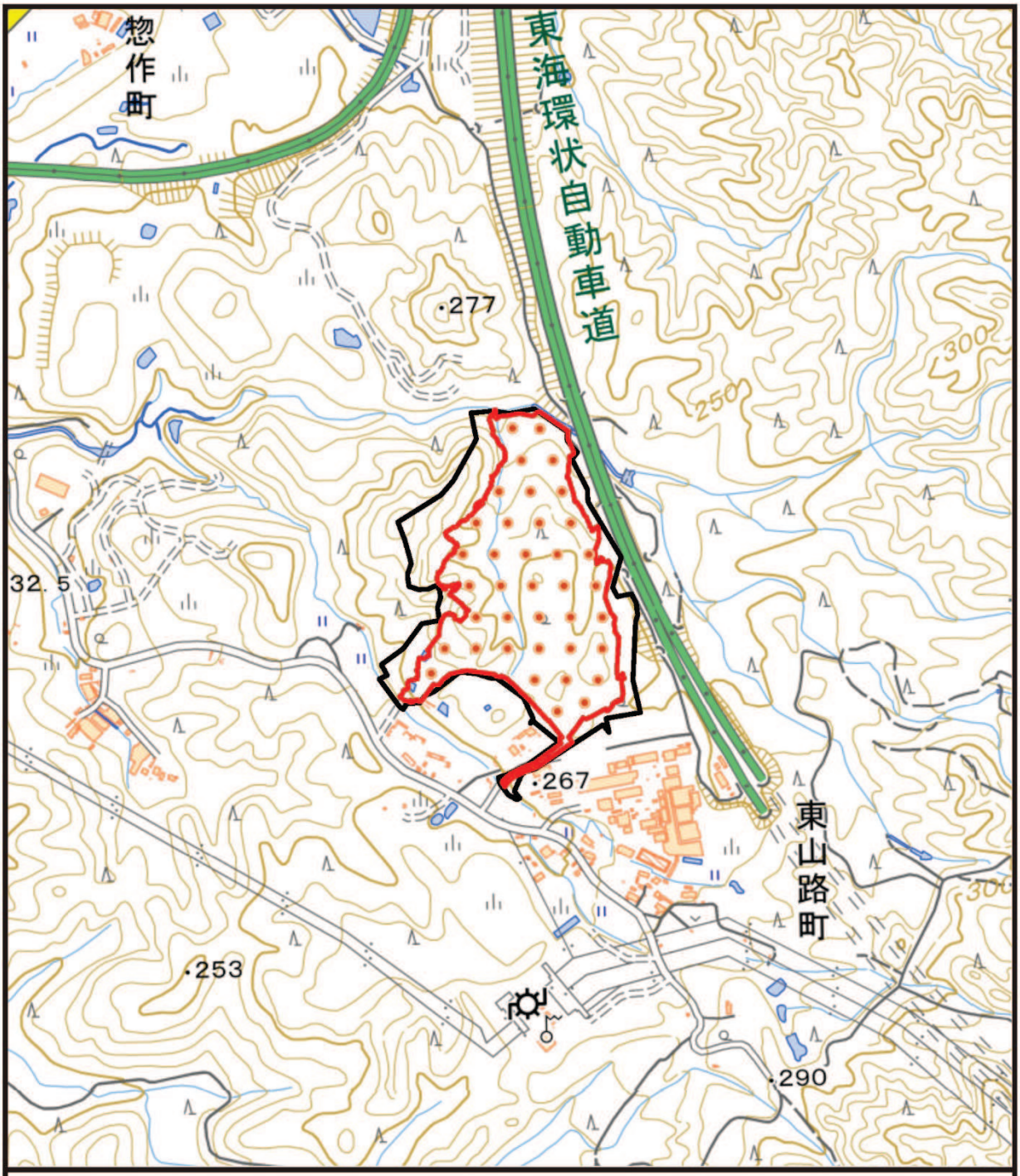

惣作町
東海環状自動車道
277
250
300
32.5
267
東山路町
253
290
凡　例
：対象事業実施区域
：改変区域
：煙源
N
1:10,000
0　100　200　400m

図3.1-8　排出源位置

⑤気象条件

風向・風速は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

風速の計算に際しては、排出源の高さを考慮して、次式により風速を補正した。

$U = U_0 (H / H_0)^P$

ここで、U ：高さH(m)の推定風速(m/s)

U_0：基準高さH_0の風速(m/s)

H ：排出源の高さ(m)

H_0：基準とする高さ(m)（=17.8m：名古屋地方気象台）

P ：べき指数（大気安定度別に設定）

大気安定度	A	B	C	D	E	F,G
P	0.1	0.15	0.20	0.25	0.25	0.30

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル[新版]」（平成12年12月　公害研究対策センター）

大気安定度は、表3.1-23に示す日本式に修正したパスキル大気安定度階級に基づき区分した。

表 3.1-23　パスキル大気安定度階級分類表（日本式，1959）

風速 (地上 10m) (m/s)	日射量 (cal/cm²・h)			本曇 (8～10) (日中・夜間)	夜間	
	≧50	49～25	≦24		上層雲(5～10) 中・下層雲(5～7)	雲量 (0～4)
＜2	A	A-B	B	D	(G)	(G)
2～3	A-B	B	C	D	E	F
3～4	B	B-C	C	D	D	E
4～6	C	C-D	D	D	D	D
6＜	C	D	D	D	D	D

注 1) 夜間は日の入り前 1 時間から日の出後 1 時間の間を指す。夜間の前後 1 時間は雲の状態いかんにかかわらず中立状態 D とする。

注 2) 日中、夜間とも本曇（8～10）のときは風速のいかんにかかわらず中立状態 D とする。

出典：「窒素酸化物総量規制マニュアル（新版）」（平成 12 年 12 月、公害研究対策センター）

⑥バックグランド濃度

バックグランド濃度は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

⑦窒素酸化物変換式

窒素酸化物変換式は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

⑧日平均換算式

日平均換算式は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

エ　予測結果

a　年平均値

二酸化窒素の予測結果は、表3.1-24及び図3.1-9に示すとおりである。最大着地寄与濃度は、対象事業実施区域境界(南側)で0.00947ppmとなり、重機の稼働による寄与率は48.7%と予測した。保全対象の着地寄与濃度は0.00248ppmとなり、重機の稼働による寄与率は19.8%と予測した。

浮遊粒子状物質の予測結果は、表3.1-25及び図3.1-10に示すとおりである。最大着地寄与濃度は、対象事業実施区域境界(南側)で0.00142mg/m^{3}となり、重機の稼働による寄与率は8.6%と予測した。保全対象の着地寄与濃度は0.00030mg/m^{3}となり、重機の稼働による寄与率は2.0%と予測した。

表3.1-24　二酸化窒素予測結果（年平均値）

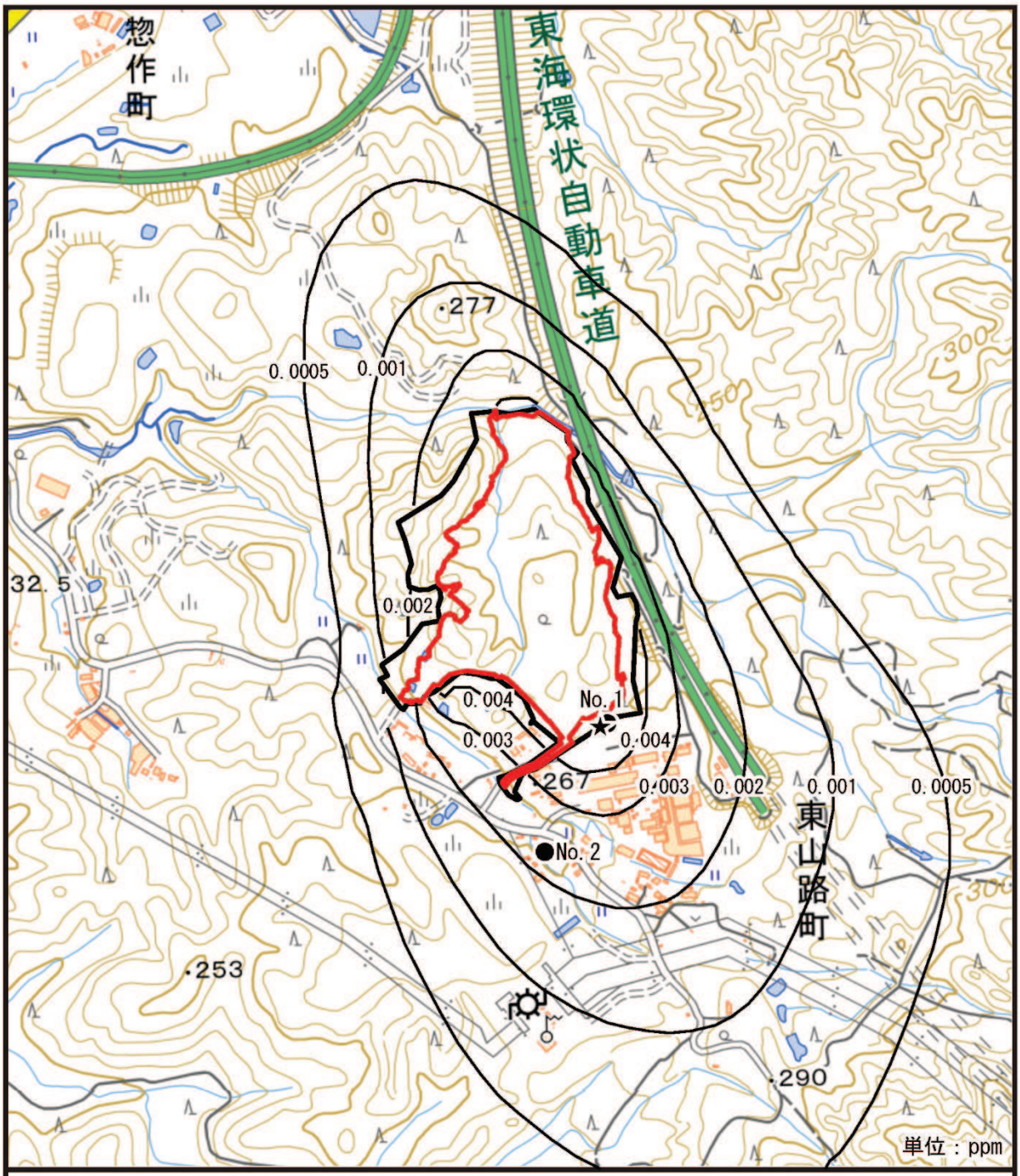
予測地点	予測高さ(m)	重機の稼働に伴う寄与濃度①(ppm)	バックグラウンド濃度②(ppm)	工事中の将来濃度③=①＋②(ppm)	重機の稼働による寄与率①/③(%)
No.1 最大着地濃度出現地点	1.5	0.00947	0.010	0.01947	48.7
No.2 民家	1.5	0.00248	0.010	0.01248	19.8

備考　予測地点No.1と最大着地濃度出現地点は同じ地点である。

表3.1-25　浮遊粒子状物質予測結果（年平均値）

予測地点	予測高さ(m)	重機の稼働に伴う寄与濃度①(mg/m^3)	バックグラウンド濃度②(mg/m^3)	工事中の将来濃度③=①＋②(mg/m^3)	重機の稼働による寄与率①/③(%)
No.1 最大着地濃度出現地点	1.5	0.00142	0.015	0.01642	8.6
No.2 民家	1.5	0.00030	0.015	0.01530	2.0

備考　予測地点No.1と最大着地濃度出現地点は同じ地点である。



凡　例

：対象事業実施区域

：改変区域

★　：最大着地濃度出現地点

●　：予測地点（No.1, No.2）

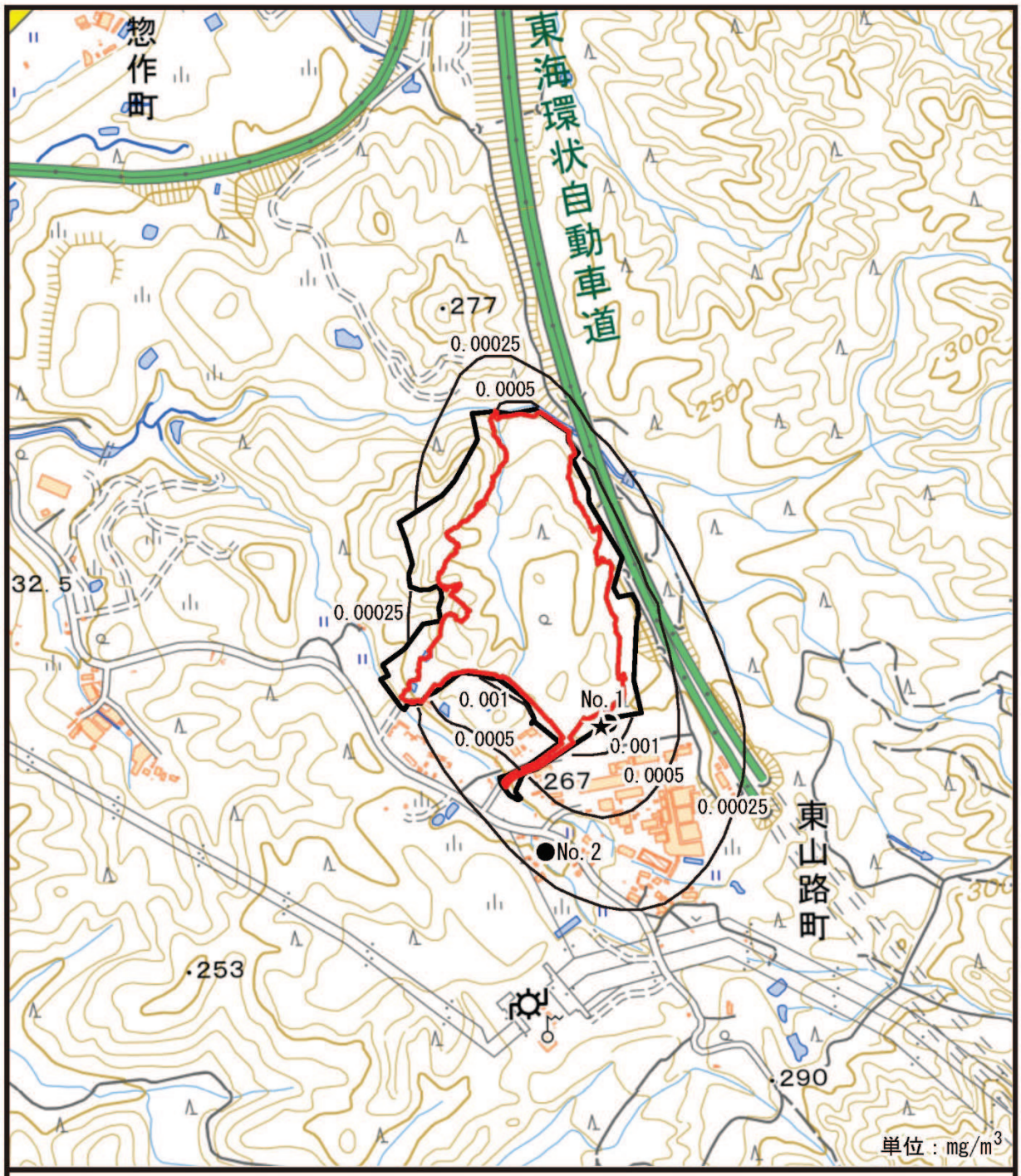
——　：等濃度線

N

1:10,000

0　100　200　400m

図3.1-9　二酸化窒素寄与濃度



凡　例

□ ：対象事業実施区域

□ ：改変区域

★ ：最大着地濃度出現地点

● ：予測地点(No.1, No.2)

―― ：等濃度線

図3.1-10　浮遊粒子状物質寄与濃度

N

1:10,000

0　100　200　400m

b　日平均値の年間98%値等

重機の稼働に伴う二酸化窒素の日平均値の年間98%値は、表3.1-26に示すとおりである。最大着地濃度地点（対象事業実施区域境界南側）における予測値は0.034ppmであり、また、保全対象となる民家では0.026ppmであり、環境基準値を下回ると予測した。

重機の稼働に伴う浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、表3.1-27に示すとおりである。最大着地濃度地点（対象事業実施区域境界南側）における予測値は0.042mg/m³であり、また、保全対象となる民家は0.039mg/m³であり、環境基準値を下回ると予測した。

表 3.1-26　二酸化窒素の予測結果（日平均値の年間 98%値）

予測地点	予測高さ（m）	日平均値の年間98%値（ppm）	環境基準
No.1 最大着地濃度出現地点	1.5	0.034	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
No.2 民家	1.5	0.026	

備考　予測地点No.1と最大着地濃度出現地点は同じ地点である。

表 3.1-27　浮遊粒子状物質の予測結果（日平均値の 2%除外値）

予測地点	予測高さ（m）	日平均値の2%除外値（mg/m³）	環境基準
No.1 最大着地濃度出現地点	1.5	0.042	1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
No.2 民家	1.5	0.039	

備考　予測地点No.1と最大着地濃度出現地点は同じ地点である。

3)　盛土・掘削等の土工事

ア　予測対象時期

工事計画より、「場内造成工(切土・盛土・法面整形)」を対象とした。工事日数は年間300日(25日／月)とした。工事の作業時間は午前8時から午後5時まで(昼休み1時間、10時及び15時に各30分間の休憩を含む。)であることから、重機の稼働時間は7時間／日とした。

イ　予測項目

予測項目は、盛土・掘削等により発生する粉じん(降下ばいじん)とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、最大着地濃度が出現する地点とその濃度を予測した。また、図3.1-3に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、1.5m（1階高）とした。

b　予測方法

予測方法は、事例の引用又は解析により、季節別降下ばいじん量を求めた。

①予測手順

予測手順は、図3.1-11に示すとおりである。

②予測式

予測式は、以下のとおりである。

1日当たりの降下ばいじん量

$$C_d(x) = \mathrm{a} \cdot (u/u_0)^{-b} \cdot (x/x_0)^{-c}$$

$C_d(x)$：1ユニットから発生し拡散する粉じん等のうち発生源からの距離x mの地上1.5mに堆積する1日当たりの降下ばいじん量(t/km^2/日/ユニット)

a：基準降下ばいじん量(t/km^2/日/ユニット)

u：平均風速(m/s)

u_0：基準風速(u_0=1m/s)

b：風速の影響を表す係数(b=1)

x：風向に沿った風下距離(m)

x_0：基準距離(x_0=1m)

c：降下ばいじんの拡散を表す係数

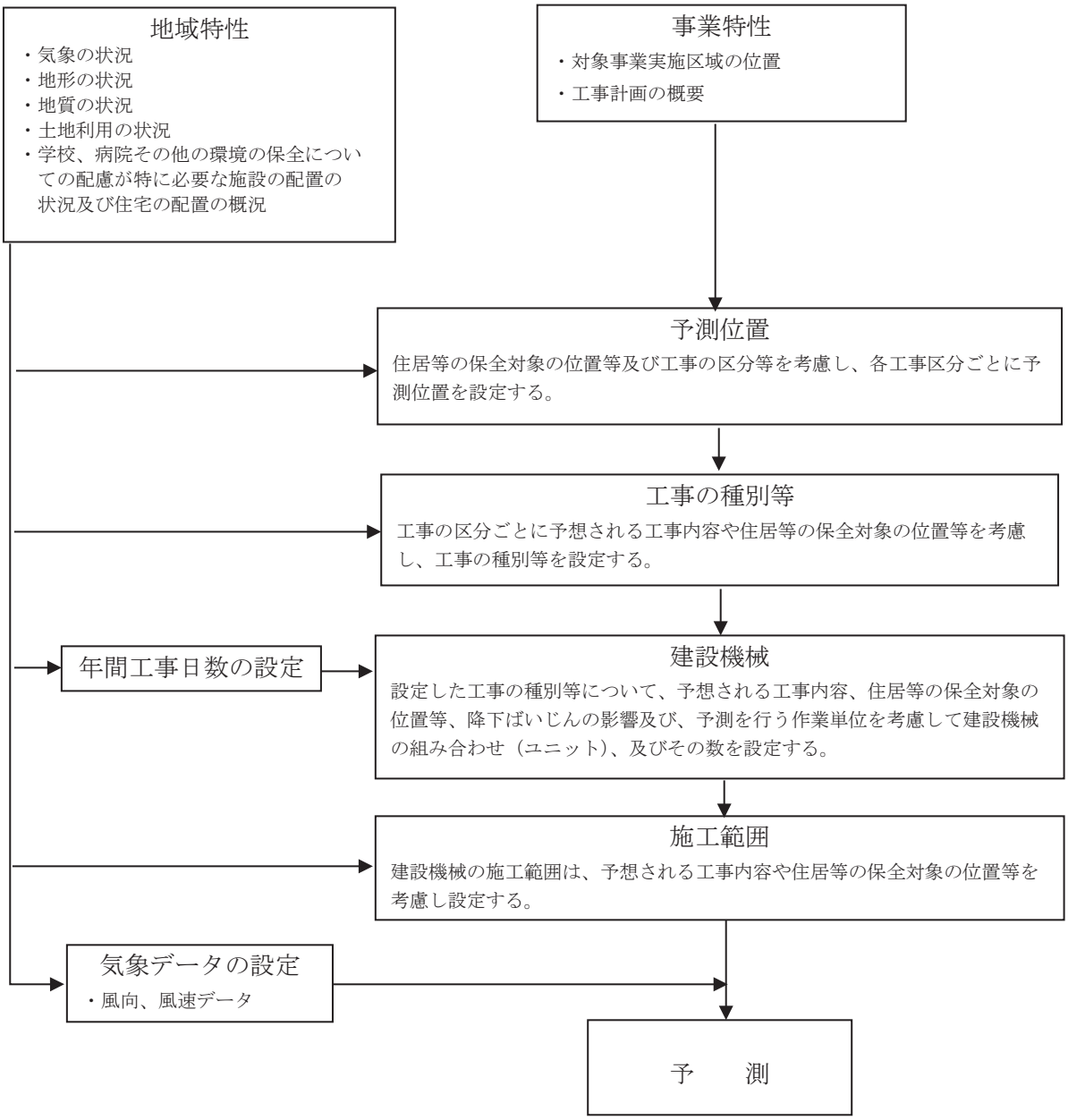

地域特性
・気象の状況
・地形の状況
・地質の状況
・土地利用の状況
・学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況
事業特性
・対象事業実施区域の位置
・工事計画の概要
予測位置
住居等の保全対象の位置等及び工事の区分等を考慮し、各工事区分ごとに予測位置を設定する。
工事の種別等
工事の区分ごとに予想される工事内容や住居等の保全対象の位置等を考慮し、工事の種別等を設定する。
年間工事日数の設定
建設機械
設定した工事の種別等について、予想される工事内容、住居等の保全対象の位置等、降下ばいじんの影響及び、予測を行う作業単位を考慮して建設機械の組み合わせ（ユニット）、及びその数を設定する。
施工範囲
建設機械の施工範囲は、予想される工事内容や住居等の保全対象の位置等を考慮し設定する。
気象データの設定
・風向、風速データ
予　　測

図 3.1-11　予測手順

風向別降下ばいじん量

$$R_{ds} = N_u \cdot N_d \int_{-\pi/16}^{\pi/16} \int_{x_1}^{x_2} a \cdot (u_s/u_0)^{-b} \cdot (x/x_0)^{-c} x dx d\theta / A$$

R_{ds}：風向別降下ばいじん量(t/km^2/日/月)

添字sは風向（16 方位）を示す。

N_u：ユニット数

N_d：季節別の平均月間工事日数（日/月）

u_s：季節別風向別平均風速(m/s)(u_s<1m/s の場合は、u_s＝1m/s とする。）

x_1：予測地点から季節別の施工範囲の手前側の敷地境界線までの距離(m)

x_2：予測地点から季節別の施工範囲の奥側の敷地境界線までの距離(m)

（x_1, x_2<1mの場合は、x_1, x_2=1mとする。）

A：季節別の施工範囲(m^2)

季節別降下ばいじん量

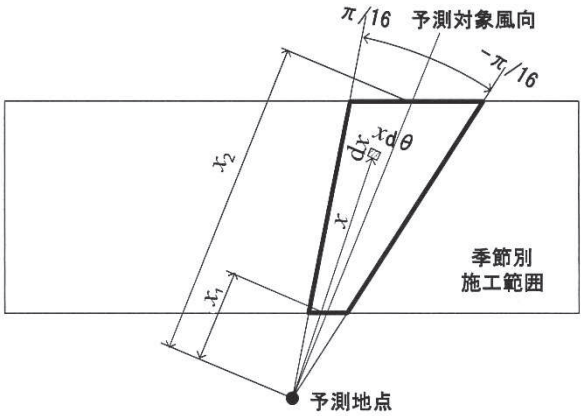
$$C_d = \sum_{s=1}^{n} R_{ds} \cdot f_{Ws}$$

C_d：季節別降下ばいじん量(t/km^2/月)

n：方位(=16)

f_{Ws}：季節別風向出現割合。なお、sは風向(16 方位)を示す。

風向、発生源及び予測地点の距離等の考え方は下図に示すとおりである。



出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」
（国土交通省　国土技術政策総合研究所・独立行政法人　土木研究所、平成 25 年 3 月）

c　予測条件

①月間工事日数

月間工事日数は、25日/月とした。

②工種及びユニット

工種は、工事計画より最も粉じんの影響が大きくなると想定される土工とした。また、ユニットの設定は、図3.1-8に示す対象事業実施区域内の改変区域範囲内ですべて同時に稼働するものとした。

ユニット数は、場内の11tダンプが最大6台/日であることから、6ユニット/日とした。

③基準降下ばいじん量及びばいじんの拡散を表す係数

予測に用いる基準降下ばいじん量及びばいじんの拡散を表す係数は、表3.1-28に示すとおりとした。最も工事量が多いと考えられる切土工に掘削工（土砂掘削）を当てはめた。

表 3.1-28　基準降下ばいじん量及びばいじんの拡散を表す係数

工種	ユニット	基準降下ばいじん量 a	降下ばいじんの拡散を表す係数 c
掘削工	土砂掘削	17,000	2.0

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）」
（国土交通省　国土技術政策総合研究所・独立行政法人　土木研究所、平成25年3月）

④気象条件

気象条件（風向・風速）は、対象事業実施区域近傍の名古屋地方気象台の2020年(令和2年)測定データを用いて、建設機械の稼働時間帯(8:00～17:00(12時台を除く))の季節別風向出現頻度及び平均風速とした。

エ　予測結果

粉じん（降下ばいじん）の予測結果は、表3.1-29及び図3.1-12～図3.1-15に示すとおりである。

予測地点における寄与濃度の最大値は、冬季の7.9t/k㎡/月と予測した。

表3.1-29　建設機械の稼働による粉じん（降下ばいじん）の予測結果

予測地点	降下ばいじん量(t/km²/月)			
	春季	夏季	秋季	冬季
最大着地濃度出現地点	5.9	6.6	7.4	7.9
No.1 敷地境界	5.4	4.1	6.4	7.9
No.2 民家	0.7	0.5	1.0	0.9

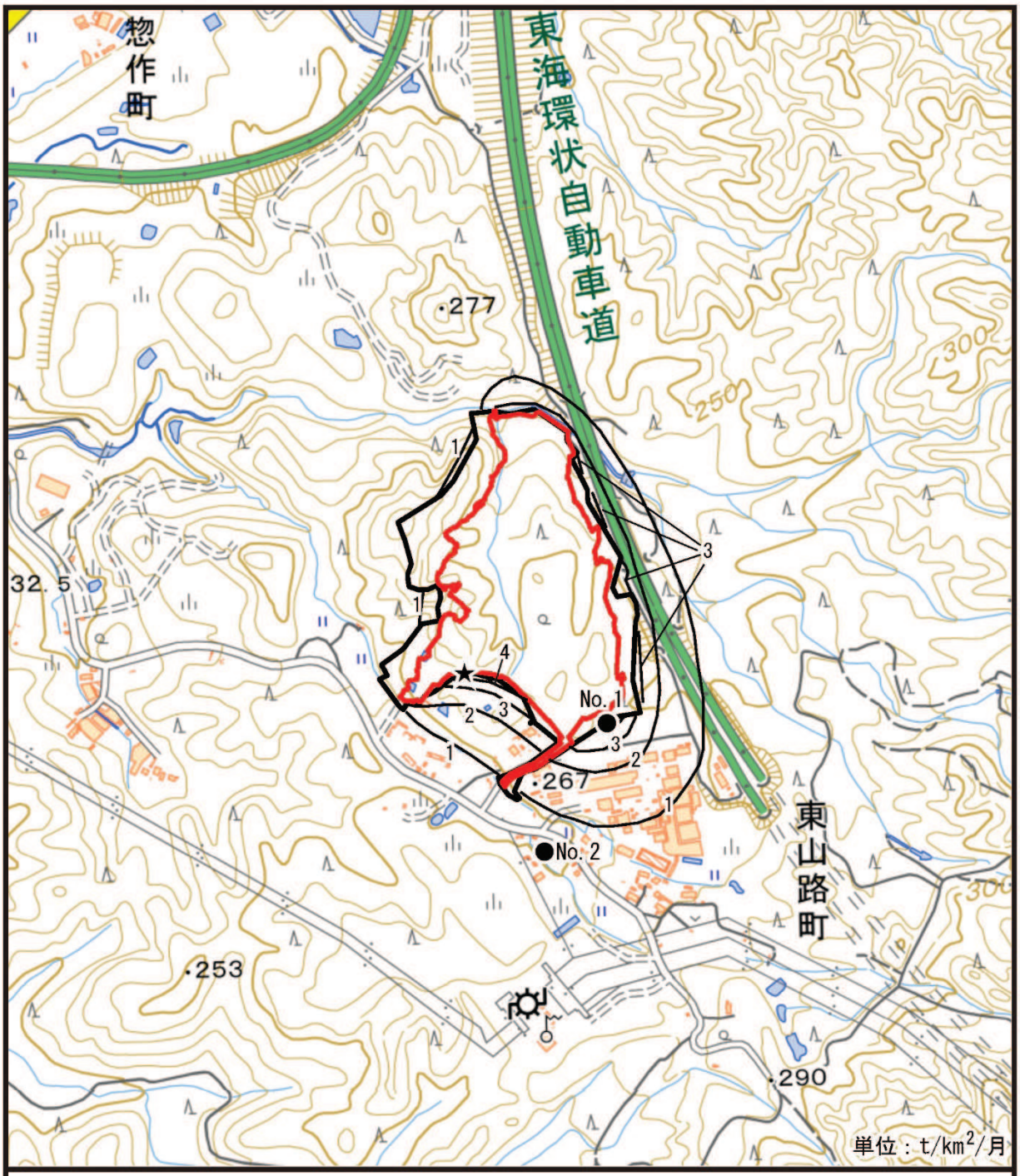
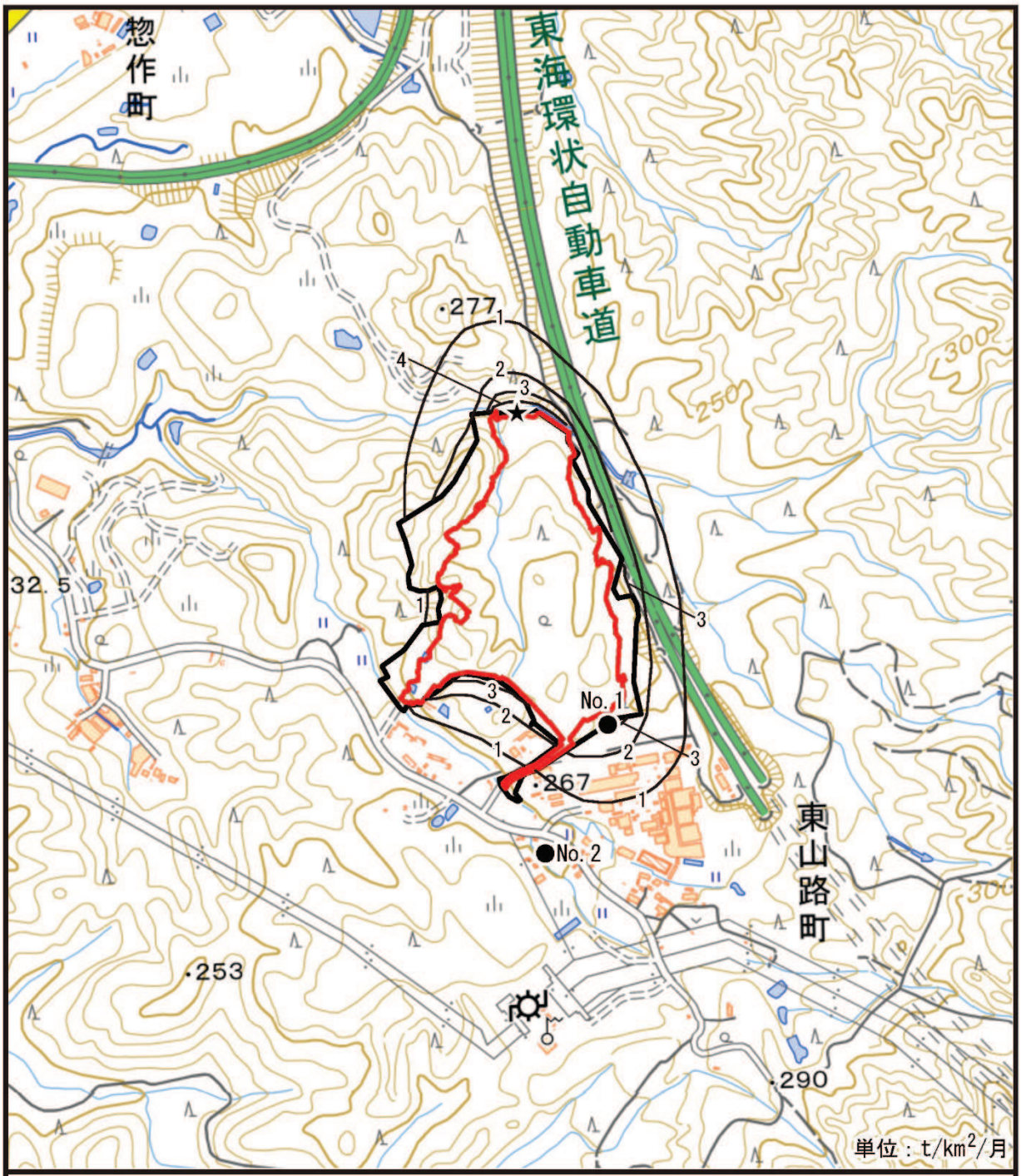


図 3.1-12　降下ばいじん寄与濃度（春季）



凡　例

□ ：対象事業実施区域

□ ：改変区域

★ ：最大着地濃度出現地点

● ：予測地点（No.1, No.2）

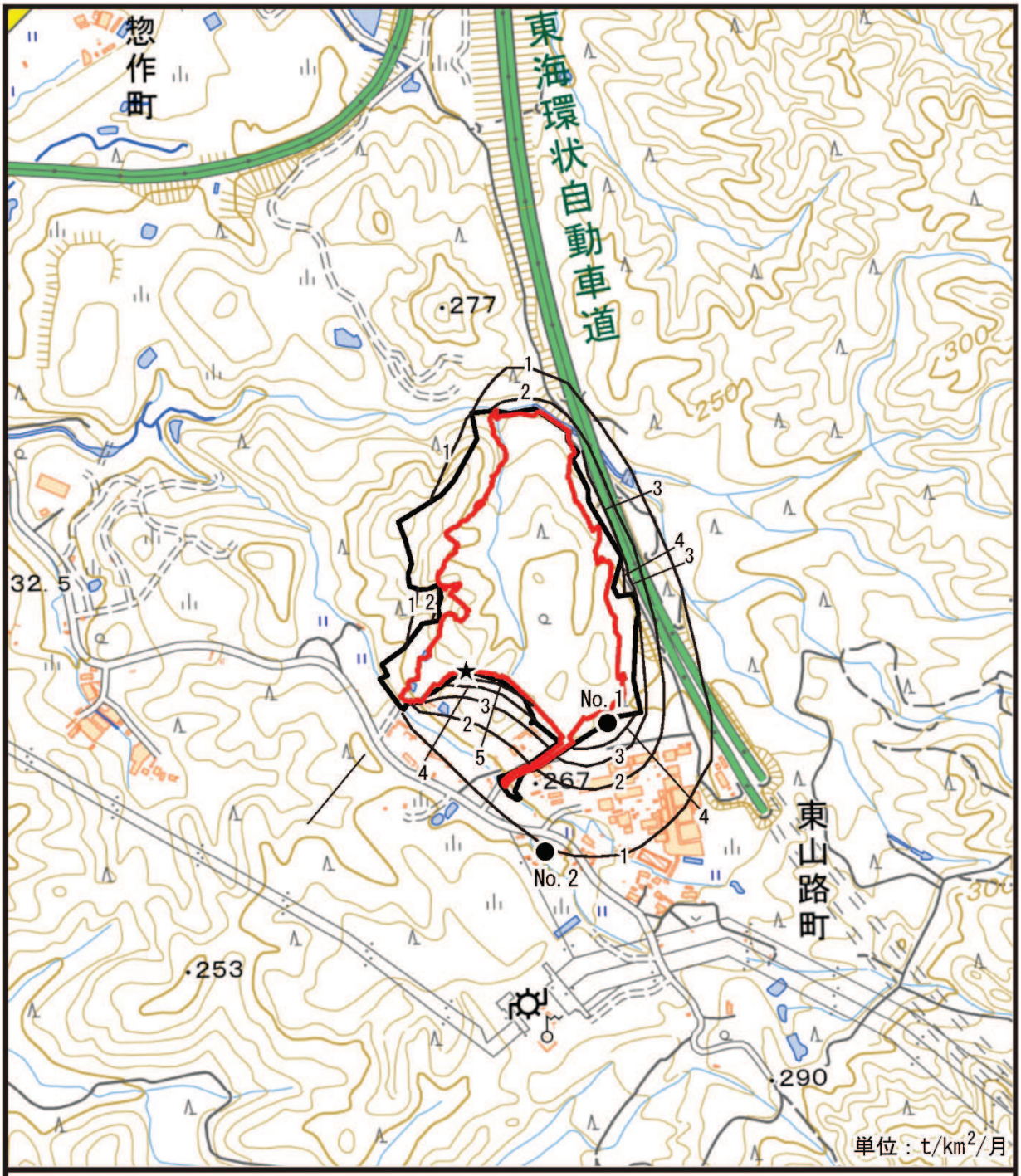
—— ：等濃度線

図 3.1-13　降下ばいじん寄与濃度（夏季）

N

1:10,000

0　100　200　400m



凡　例

：対象事業実施区域

：改変区域

★　：最大着地濃度出現地点

●　：予測地点（No. 1, No. 2）

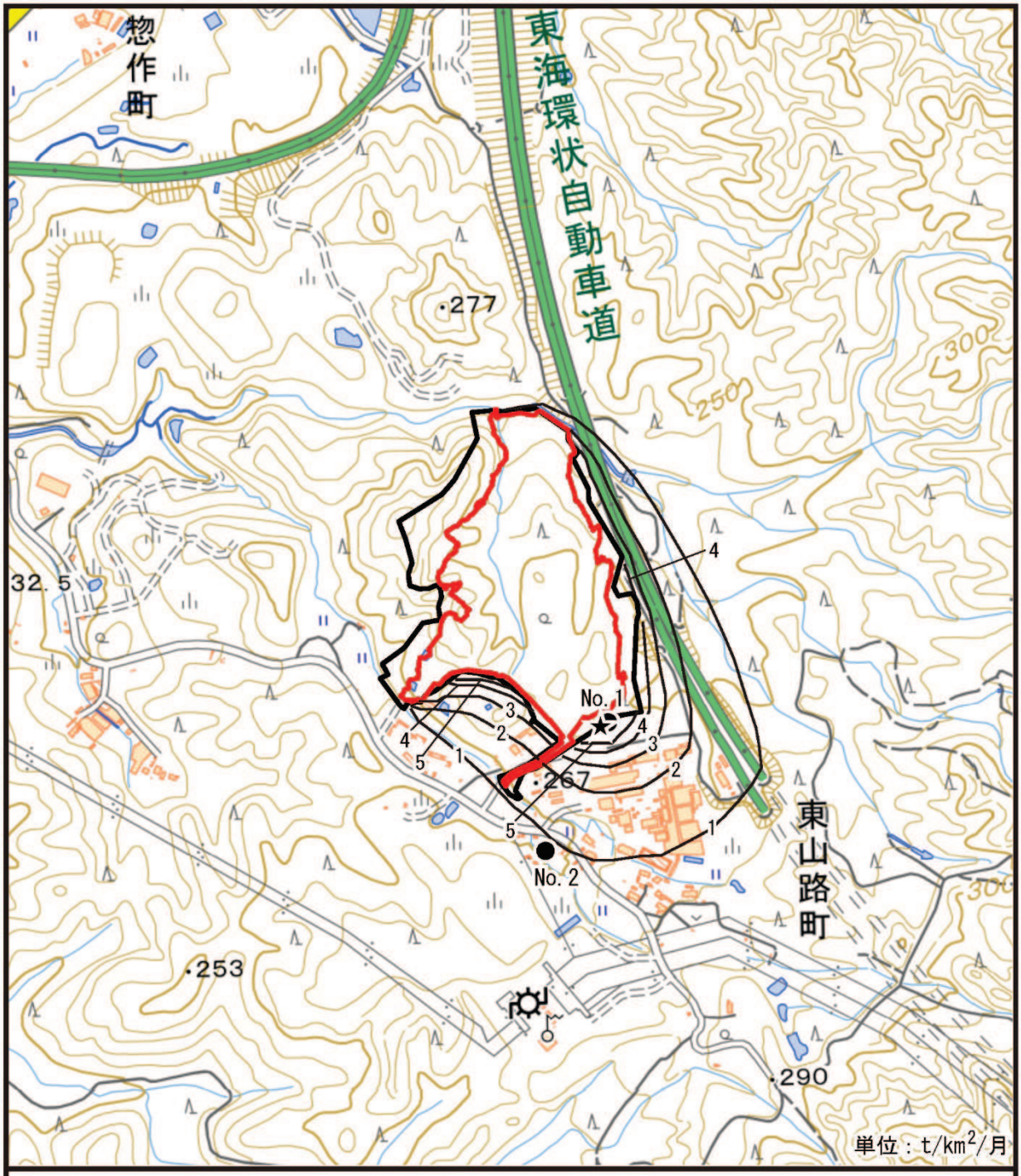
——　：等濃度線

図 3.1-14　降下ばいじん寄与濃度（秋季）

N

1:10,000

0　100　200　400m



凡　例

□ ：対象事業実施区域

□ ：改変区域

★ ：最大着地濃度出現地点

● ：予測地点（No. 1, No. 2）

—— ：等濃度線

図 3.1-15　降下ばいじん寄与濃度（冬季）

N

1:10,000

0　100　200　400m

4)　埋立作業

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

埋立用重機の稼働日数は年間300日(25日／月)とした。作業時間は午前8時から午後5時まで(昼休み1時間、10時及び15時に各30分間の休憩を含む。)であることから、重機の稼働時間は7時間／日とした。

イ　予測項目

予測項目は、埋立用重機の稼働により発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、最大着地濃度が出現する地点とその濃度を予測した。また、図3.1-3に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、民家を考慮して、1.5m（1階高）とした。

b　予測方法

予測方法は、「2) 建設機械の稼働」と同様とした。

c　予測条件

①重機の稼働台数

予測対象時期の重機の種類及び台数は、表3.1-30に示すとおりである。

表 3.1-30　重機の種類及び台数

重機	定格出力 (kW)	排出ガス対策型の基準	稼働台数 (台/日)
バックホウ0.2m³級	41	第2次基準値	1
バックホウ0.60m³級	104	第2次基準値	3
トラッシュコンパクタ (ブルドーザ21t級相当)	152	第2次基準値	1

備考　定格出力は、「令和3年度版　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会)に基づき設定した。

②排出係数

重機の単位排出量は、表3.1-31に示すとおりである。

表3.1-31　重機の単位排出量

<NOx>

重機	定格出力(kW) ①	排出ガス対策型の基準	排出係数原単位(g/kW-h) ②	燃料消費率(L/kW-h) ③	平均燃料消費率(g/kW-h) ④	1日あたり稼働時間(h) ⑤	NOx単位排出量(g/台) ⑥	稼働率(%)
バックホウ0.2m³級	41	2次	6.1	0.153	238	7	934	100
バックホウ0.60m³級	104	2次	5.4	0.153	234	7	2,133	100
トラッシュコンパクタ(ブルドーザ21t級相当)	152	2次	5.3	0.153	229	7	3,127	100

<SPM>

重機	定格出力(kW) ①	排出ガス対策型の基準	排出係数原単位(g/kW-h) ②	燃料消費率(L/kW-h) ③	平均燃料消費率(g/kW-h) ④	1日あたり稼働時間(h) ⑤	SPM単位排出量(g/台) ⑥	稼働率(%)
バックホウ0.2m³級	41	2次	0.27	0.153	238	7	41.3	100
バックホウ0.60m³級	104	2次	0.22	0.153	234	7	86.9	100
トラッシュコンパクタ(ブルドーザ21t級相当)	152	2次	0.15	0.153	229	7	88.5	100

注1) 「定格出力」及び「燃料消費率」は、「令和2年度版　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）に基づき設定した。

注2) 「排出係数原単位」及び「平均燃料消費率」は、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に基づき設定した。。

注3) 単位排出量の算出は以下の式によった。燃料比重（軽油）は0.83kg/Lとした。

⑥＝①×②×(③×0.83×1000)/④×⑤

③排出係数

重機の汚染物質排出量は、表3.1-32に示すとおりである。

表3.1-32　重機からの汚染物質排出量（年間）

重機	窒素酸化物(m³/年)	浮遊粒子状物質(kg/年)
バックホウ0.2m³級	146	12.4
バックホウ0.60m³級	1,005	78.0
トラッシュコンパクタ(ブルドーザ21t級相当)	491	26.5
計	1,642	116.9

注) 窒素酸化物の体積換算は523mL/gとした。

窒素酸化物排出量＝日稼働台数×300日×NOx単位排出量×稼働率×523/1,000,000

浮遊粒子状物質排出量=日稼働台数×300日×SPM単位排出量×稼働率/1,000

④排出源位置

排出源の位置は、保全対象である民家に近い付近を想定し、図3.1-16に示すとおりとした。

排出源の高さは、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）におけるユニットの排気管高さの法面整形工2.4mを参考に地上2.4mとした。

⑤気象条件

風向・風速は、「2）建設機械の稼働」と同じとした。

⑥バックグランド濃度

バックグランド濃度は、「2）建設機械の稼働」と同じとした。

⑦窒素酸化物変換式

窒素酸化物変換式は、「2）建設機械の稼働」と同じとした。

⑧日平均換算式

日平均換算式は、「2）建設機械の稼働」と同じとした。

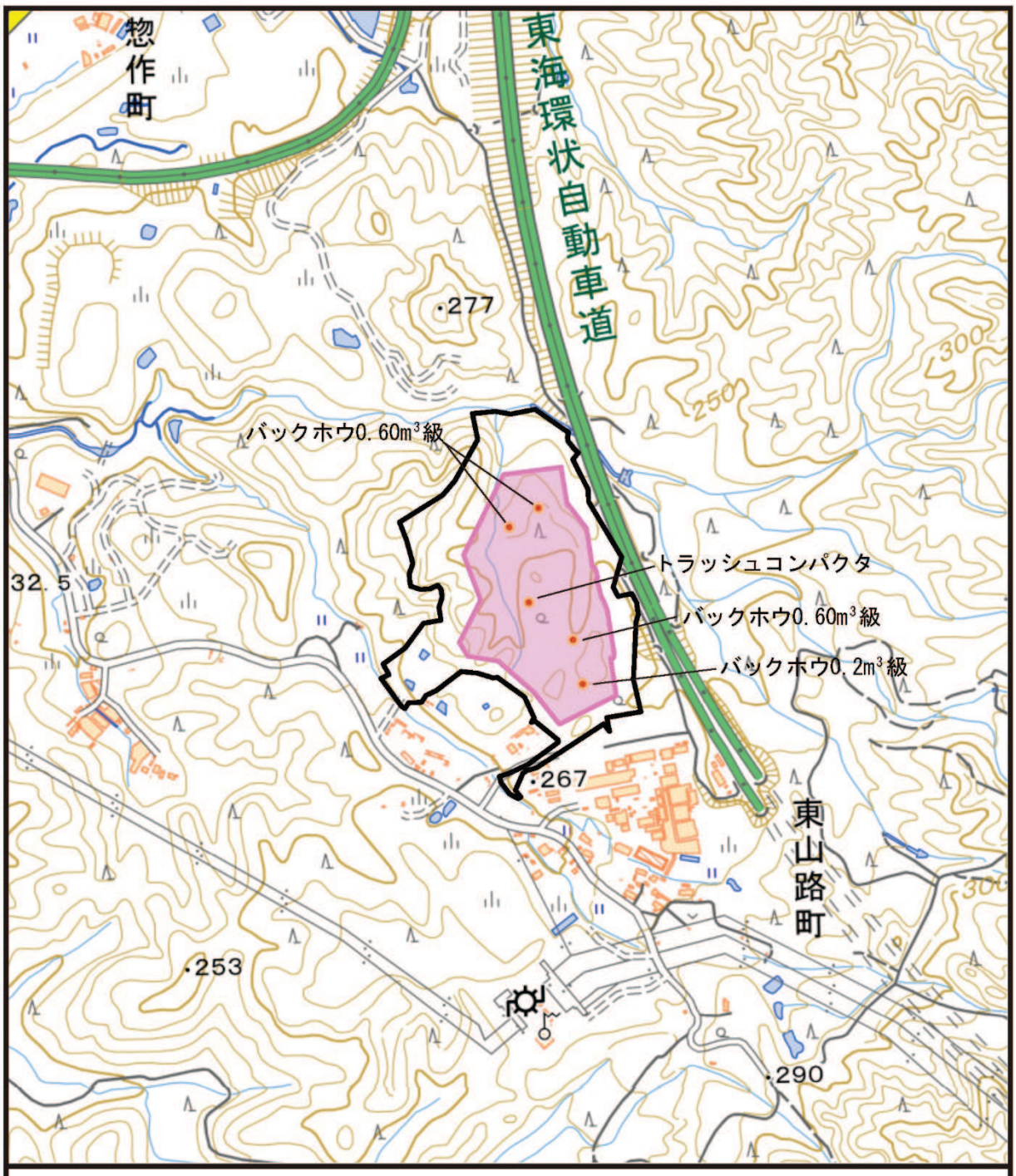


図3.1-16　埋立重機の位置

エ　予測結果

a　年平均値

二酸化窒素の予測結果は、表3.1-33及び図3.1-17に示すとおりである。最大着地寄与濃度は、対象事業実施区域境界(南側)で0.00427ppmとなり、重機の稼働による寄与率は29.9%と予測した。保全対象の着地寄与濃度は0.00054ppmとなり、重機の稼働による寄与率は5.1%と予測した。

浮遊粒子状物質の予測結果は、表3.1-34及び図3.1-18に示すとおりである。最大着地寄与濃度は、対象事業実施区域境界(南側)で0.00063mg/m^{3}となり、重機の稼働による寄与率は4.0%と予測した。保全対象の着地寄与濃度は0.00008mg/m^{3}となり、重機の稼働による寄与率は0.5%と予測した。

表3.1-33　二酸化窒素予測結果（年平均値）

予測地点	予測高さ (m)	重機の稼働に伴う寄与濃度① (ppm)	バックグラウンド濃度② (ppm)	工事中の将来濃度 ③=①＋② (ppm)	重機の稼働による寄与率 ①/③ (%)
最大着地濃度出現地点	1.5	0.00427	0.010	0.01427	29.9
No.1 敷地境界	1.5	0.00424	0.010	0.01424	29.8
No.2 民家	1.5	0.00054	0.010	0.01054	5.1

表3.1-34　浮遊粒子状物質予測結果（年平均値）

予測地点	予測高さ (m)	重機の稼働に伴う寄与濃度① (mg/m^3)	バックグラウンド濃度② (mg/m^3)	工事中の将来濃度 ③=①＋② (mg/m^3)	重機の稼働による寄与率 ①/③ (%)
最大着地濃度出現地点	1.5	0.00063	0.015	0.01563	4.0
No.1 敷地境界	1.5	0.00063	0.015	0.01563	4.0
No.2 民家	1.5	0.00008	0.015	0.01508	0.5

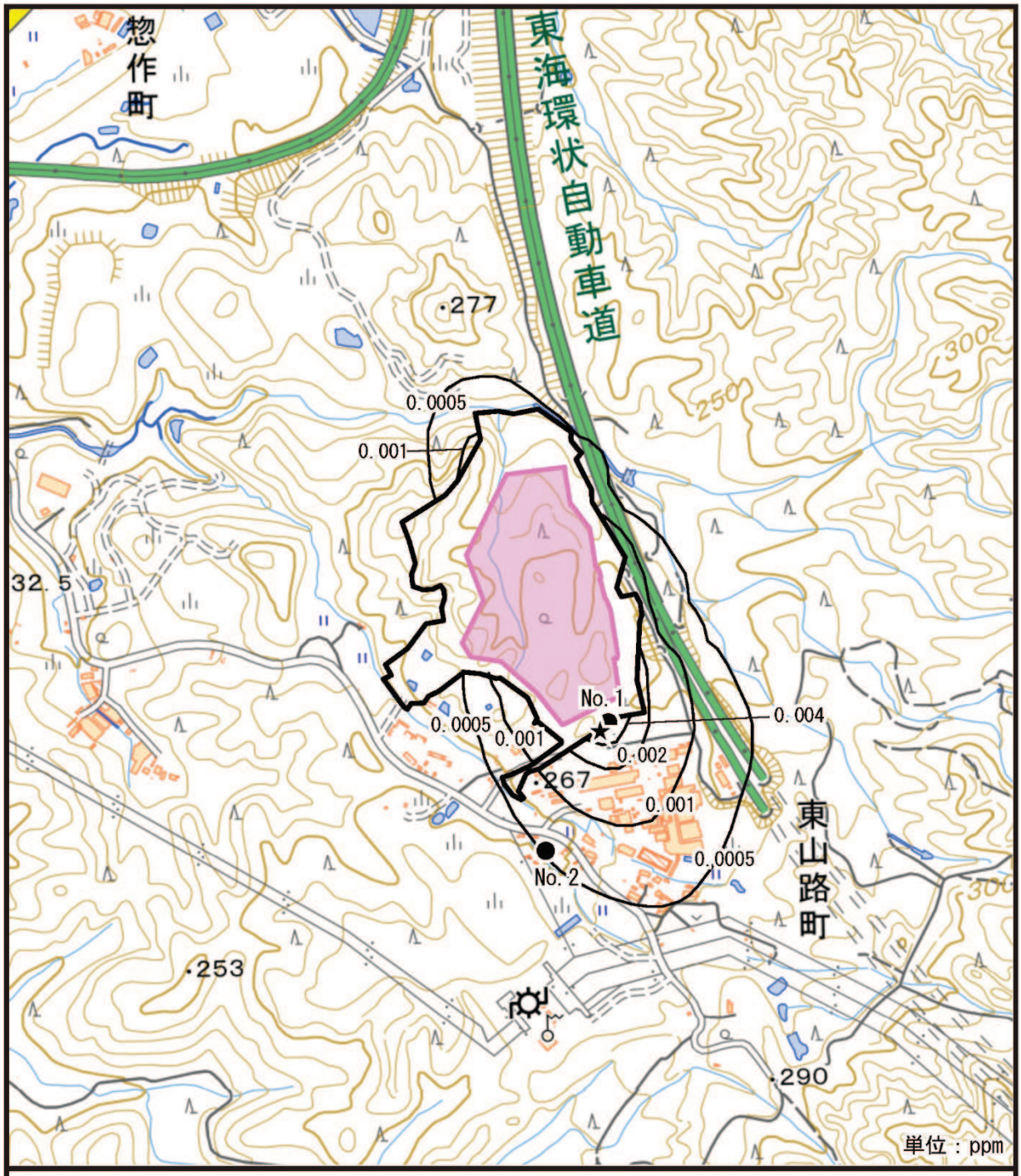


図3.1-17　二酸化窒素寄与濃度

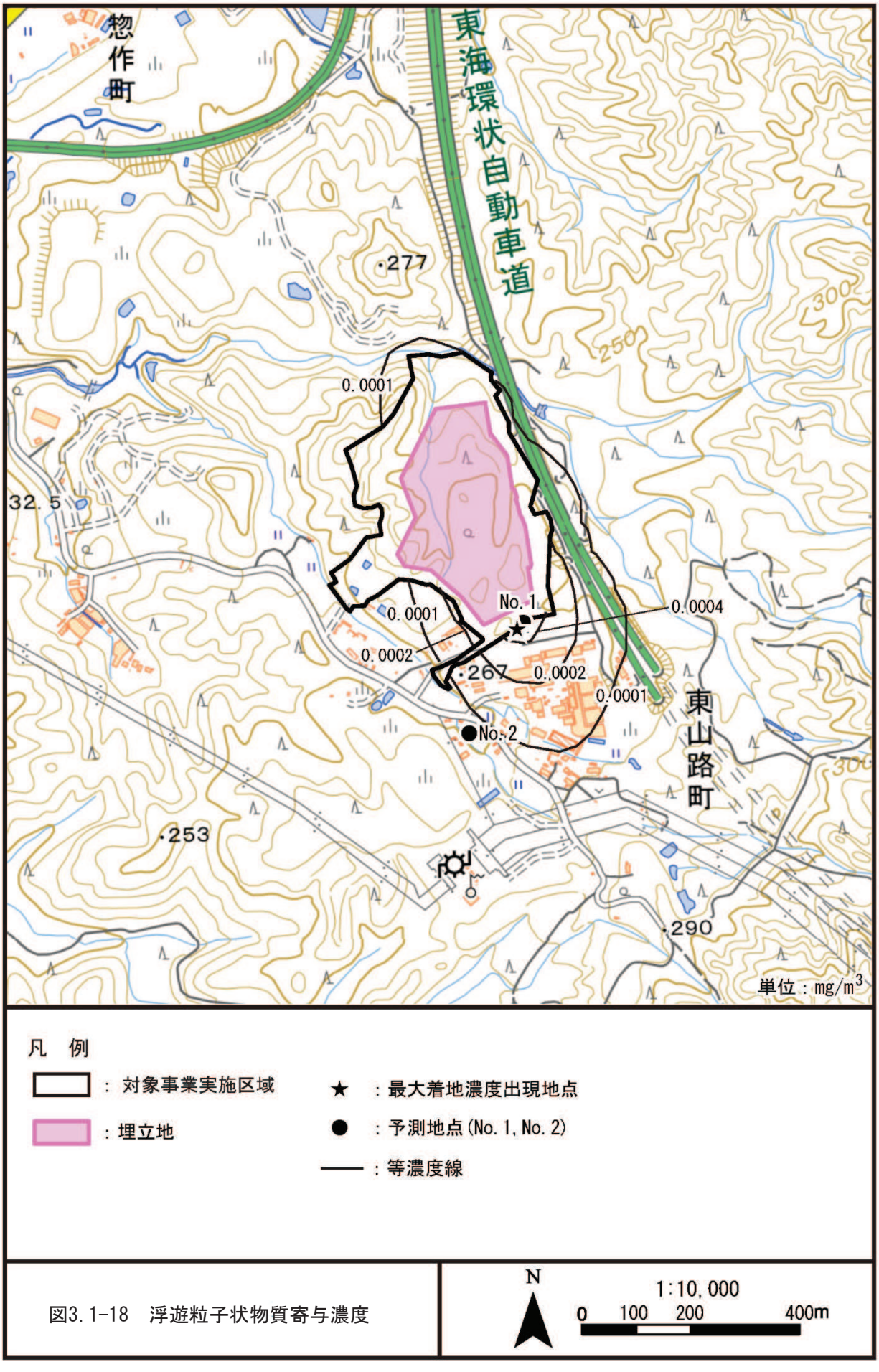


図3.1-18　浮遊粒子状物質寄与濃度

b　日平均値の年間98%値等

重機の稼働に伴う二酸化窒素の日平均値の年間98%値は、表3.1-35に示すとおりである。最大着地濃度地点（対象事業実施区域境界南側）における予測値は0.028ppmであり、また、保全対象となる民家では0.023ppmであり、環境基準値を下回ると予測した。

重機の稼働に伴う浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、表3.1-36に示すとおりである。最大着地濃度地点（対象事業実施区域境界南側）における予測値は0.040mg/㎥であり、また、保全対象となる民家は0.039mg/㎥であり、環境基準値を下回ると予測した。

表 3.1-35　二酸化窒素の予測結果（日平均値の年間 98%値）

予測地点	予測高さ（m）	日平均値の年間98%値（ppm）	環境基準
最大着地濃度出現地点	1.5	0.028	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
No.1 敷地境界	1.5	0.028	
No.2 民家	1.5	0.023	

表 3.1-36　浮遊粒子状物質の予測結果（日平均値の 2%除外値）

予測地点	予測高さ（m）	日平均値の2%除外値（mg/㎥）	環境基準
最大着地濃度出現地点	1.5	0.040	1時間値の1日平均値が0.10mg/㎥以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/㎥以下であること。
No.1 敷地境界	1.5	0.040	
No.2 民家	1.5	0.039	

5)　廃棄物運搬車両の走行

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、廃棄物運搬車両の走行により発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

住居等の保全対象を考慮して廃棄物運搬車両が走行するルートより想定した。予測地点は、表3.1-8(既出)及び図3.1-3(既出)に示すとおり廃棄物運搬車両が走行するルート上のうち、廃棄物運搬車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点とした。

b　予測方法

予測方法は、「1) 資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

c　予測条件

①廃棄物運搬車両台数

廃棄物運搬車両台数は、事業計画より、表3.1-37に示すとおり設定した。

表3.1-37　廃棄物運搬車両台数(発生集中交通量)

予測地点		車種分類	車両台数 (台/日)
No.3	太子町(市道塩塚線)	大型車	110

②基礎交通量

基礎交通量は、騒音・振動の現地調査に併せて実施した平日の交通量現地調査結果（表3.3-6参照。）を使用した。

③交通量

交通量は、表3.1-38に示すとおり、基礎交通量に本事業による廃棄物運搬車両台数を加えたものとした。

表3.1-38　交通量

単位：台/日

予測地点		車種分類	現況交通量 ①	廃棄物運搬 車両台数②	交通量 ①+②
No.3	太子町(市道塩塚線)	大型車	423	110	533
		小型車	1,510	―	1,510
		自動二輪車	26	―	26

④走行速度及び排出係数

走行速度は、現地調査結果から40km/hとした。

走行車両の汚染物質の排出係数は、表3.1-39に示すとおり、平成42年度を想定した「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に示される窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の値を用いた。自動二輪車は小型車類の排出係数をあてはめた。

表3.1-39　排出係数

単位：g/km・台

項目		窒素酸化物(NOx)		浮遊粒子状物質(SPM)	
車種		小型車類	大型車類	小型車類	大型車類
平均走行速度 (km/h)	40	0.048	0.353	0.000540	0.006663

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

⑤気象条件

気象条件（風向・風速）は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

⑥道路条件

道路条件は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

⑦排出源の位置

排出源の位置は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

⑧バックグランド濃度

バックグランド濃度は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

⑨窒素酸化物変換式

窒素酸化物変換式は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

⑩日平均値変換式

日平均値変換式は、「1）資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

エ　予測結果

a　年平均値

二酸化窒素の年平均値の予測結果は、表3.1-40に示すとおり0.0101ppmであり、本事業の廃棄物運搬車両による寄与は0.1～0.2%と予測した。

浮遊粒子状物質の年平均値の予測結果は、表3.1-41に示すとおり0.0150mg/m³であり、本事業の廃棄物運搬車両による寄与は0.0%と予測した。

表 3.1-40　二酸化窒素の予測結果（年平均値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	現況交通量による寄与濃度①（ppm）	廃棄物運搬車両による寄与濃度②（ppm）	バックグラウンド濃度③（ppm）	予測結果④＝①+②+③（ppm）	廃棄物運搬車両による寄与率②／④（%）
No. 3	太子町	北側	1.5	0.00006	0.00001	0.010	0.0101	0.1
		南側	1.5	0.00011	0.00002	0.010	0.0101	0.2

表 3.1-41　浮遊粒子状物質の予測結果（年平均値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	現況交通量による寄与濃度①（mg/m³）	廃棄物運搬車両による寄与濃度②（mg/m³）	バックグラウンド濃度③（mg/m³）	予測結果④＝①+②+③（mg/m³）	廃棄物運搬車両による寄与率②／④（%）
No. 3	太子町	北側	1.5	0.00001	0.00000	0.015	0.0150	0.0
		南側	1.5	0.00001	0.00000	0.015	0.0150	0.0

b　日平均値の年間98%値等

二酸化窒素の日平均値の年間98%値の予測結果は、表3.1-42に示すとおり0.023ppmであり、環境基準値を下回ると予測した。

浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値の予測結果は、表3.1-43に示すとおり0.039mg/m³であり、環境基準値を下回ると予測した。

表 3.1-42　二酸化窒素の予測結果（日平均値の年間 98%値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	日平均値の年間98%値（ppm）	環境基準
No.3	太子町	北側	1.5	0.023	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
		南側	1.5	0.023	

表 3.1-43　浮遊粒子状物質の予測結果（日平均値の 2%除外値）

予測地点		予測地点（道路境界）	予測高さ（m）	日平均値の2%除外値（mg/m³）	環境基準
No.3	太子町	北側	1.5	0.039	1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
		南側	1.5	0.039	

(5) 影響の分析

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、工事用車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の排出量が、表3.1-44に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.1-44 整合を図る基準（資材等の運搬及び搬出）

・「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日 環境庁告示第38号） ・「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日 環境庁告示第25号）

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、工事用車両の点検・整備、工事の平準化、車両等のアイドリングストップ等の指導等により、排出ガスの抑制が図られていることから、工事用車両の走行に伴う大気質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、工事用車両の走行に伴う周辺沿道の二酸化窒素濃度の日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、環境基準値を下回っていることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

2) 建設機械の稼働

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の排出量が、表3.1-45に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.1-45 整合を図る基準（建設機械の稼働）

・「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日 環境庁告示第38号） ・「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日 環境庁告示第25号）

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、重機の十分な点検・整備の実施、排出ガス対策型建設機械の使用、工事の平準化、重機のアイドリングストップ等の指導・教育等により、排出ガスの抑制が図られていることから、建設機械の稼働に伴う大気質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、建設機械の稼働に伴う二酸化窒素濃度の日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、環境基準値を下回っていることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

3)　盛土・掘削等の土工事

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、盛土・掘削等の土工事に伴う粉じんの影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、予測結果が表3.1-46に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.1-46　整合を図る基準　（盛土・掘削等の土工事）

・降下ばいじん量　10t/km^2/月（参考値） 「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」 平成25年、国土交通省国土政策総合研究所・独立法人土木研究所

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、造成法面の早期緑化、強風時の散水、洗車ピットの設置等により、粉じん発生の抑制が図られていることから、盛土・掘削等の土工事に伴う粉じんの影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、建設機械の稼働による粉じん（降下ばいじん）の予測結果は、寄与濃度の最大値が7.9t/k㎡/月と予測した。予測結果は、「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」（平成25年、国土交通省国土政策総合研究所・独立法人土木研究所)による参考値を下回っていることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

4)　埋立作業

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、埋立重機の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の排出量が、表3.1-47に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.1-47　整合を図る基準（埋立作業）

・「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日　環境庁告示第38号） ・「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日　環境庁告示第25号）

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、埋立重機な点検・整備の実施、重機のアイドリングストップ、排出ガス対策型建設機械の使用等により、排出ガスの抑制が図られていることから、建設機械の稼働に伴う大気質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、埋立重機の稼働に伴う二酸化窒素濃度の日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、環境基準値を下回っていることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

5)　廃棄物運搬車両の走行

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、廃棄物運搬車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の排出量が、表3.1-48に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.1-48　整合を図る基準（廃棄物運搬車両の走行）

・「二酸化窒素に係る環境基準について」（昭和53年7月11日　環境庁告示第38号） ・「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和48年5月8日　環境庁告示第25号）

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、廃棄物搬入車両が集中しないよう配慮し、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の指導により、排出ガスの抑制が図られていることから、廃棄物運搬車両の走行に伴う大気質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、廃棄物運搬車両の走行に伴う周辺沿道の二酸化窒素濃度の日平均値の年間98%値、浮遊粒子状物質の日平均値の2%除外値は、環境基準値を下回っていることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

3.2 水質

3.2.1 表流水

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査地点は、処理水合流点の東山路川、公共用水域の水質を代表する地点として、矢田川・屋戸橋の2地点とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.2.1-1に示すとおりである。

平常時の調査項目は、環境基準が定められた生活環境項目、健康項目及びダイオキシン類を基本とし、放流口付近における水質の現況把握のため、水質汚濁防止法における排水基準の項目についても調査を行った。

降雨時に、濁水の濁りの状態（浮遊物質量）について調査を実施した。また、対象事業実施区域内から土壌を採取し、沈降特性を調査した。

表3.2.1-1 調査内容

項目	調査すべき情報	
水質の状況 （平常時）	①一般項目	水温、透視度、外観
	②生活環境項目等	水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊物質量、溶存酸素量、大腸菌群数※、全窒素、全燐、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、電気伝導率、塩化物イオン
	③健康項目等	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1、2-ジクロロエタン、1、1-ジクロロエチレン、シス-1、2-ジクロロエチレン、1、1、1-トリクロロエタン、1、1、2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1、3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1、4-ジオキサン
	④排水基準項目 （②③以外）	有機燐化合物、フェノール類含有量、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、銅含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、アンモニア、アンモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物
	⑤ダイオキシン類	ダイオキシン類
水質の状況 （濁水時）	①一般項目	水温、透視度、外観
	②生活環境項目等	浮遊物質量
	③土壌	土砂の沈降特性
水象の状況	流量、流速、水系	
水の利用の状況 大規模発生源の状況	上水道、農業用水等の水利用の状況 工場等主要な発生源の分布状況	

※公共用水域の環境基準は、2022年4月から大腸菌群数から大腸菌数に変更になったが、処分場排水の基準は、大腸菌群数のままであることから、調査は“大腸菌群数”について実施した。

2)　現況把握方法

ア　調査地点

調査地点は、図3.2.1-1に示すとおり、処理水合流点の東山路川(No.1)、公共用水域の水質を代表する地点として、矢田川・屋戸橋(No.2)の2地点とした。

土砂の沈降特性のサンプルは対象事業実施区域内(1地点)で採取した。

土地利用の状況及び大規模発生源の状況の調査範囲は対象事業実施区域周辺とした。

イ　調査時期

現地調査期間は、表3.2.1-2に示すとおりである。

表3.2.1-2　調査期間等

項　目	細項目	調査期間等
水質の状況(平常時)	①一般項目 ②生活環境項目等※	夏季：2021 年 8 月 31 日 秋季：2021 年 10 月 6 日 冬季：2021 年 12 月 16 日 春季：2022 年 4 月 20 日
	③健康項目等 ④排水基準項目(②③以外) ⑤ダイオキシン類	夏季：2021 年 8 月 31 日 冬季：2021 年 12 月 16 日
水質の状況(濁水時)	①一般項目 ②生活環境項目等	2021 年 6 月 4 日
	③土壌	2021 年 8 月 23 日（採取日）
土地利用	土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。
大規模発生源	大規模発生源の状況	

※全亜鉛、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は冬季及び夏季のみ調査した。

備考　水象の状況は、水質の状況（平常時、濁水時）の調査時に毎回実施した。

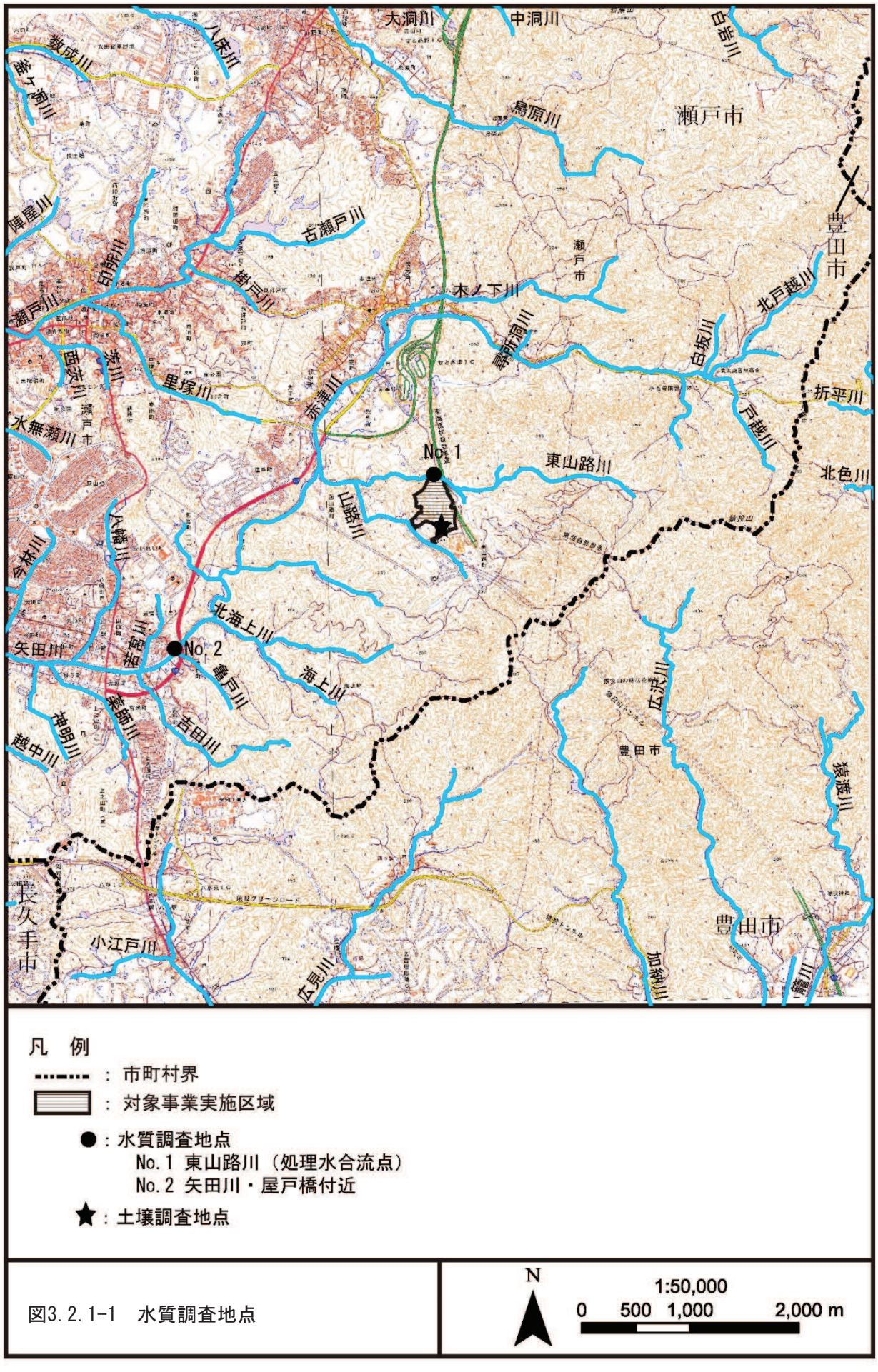


図3.2.1-1　水質調査地点

ウ　調査方法

調査方法は、表3.2.1-3に示すとおりである。

表3.2.1-3　調査方法

項目		細項目	調査手法
水質	①一般項目	気温、水温、透視度、外観	JIS K 0102 7～9
	②生活環境項目等	水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊物質量、溶存酸素量、全窒素、全燐、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年環境庁告示第 59 号)
		大腸菌群数※	BGLB 培地による MPN 法
		電気伝導率	JIS K0102 13
		塩化物イオン	JIS K0101 32
	③健康項目	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1、2-ジクロロエタン、1、1-ジクロロエチレン、シス-1、2-ジクロロエチレン、1、1、1-トリクロロエタン、1、1、2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1、3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1、4-ジオキサン	水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年環境庁告示第 59 号)
	④排水基準項目(②③以外)	有機燐化合物、フェノール類含有量、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、銅含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、アンモニア、アンモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	「排水基準を定める省令の規定に基づく環境大臣が定める排水基準に係る検定方法」(昭和 49 年 環境庁告示第 64 号)
	⑤ダイオキシン類	ダイオキシン類	「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について」(平成 11 年環境庁告示第 68 号)
	水象の状況	流量、流速	「水質調査方法」(昭和 46 年環水管第 30 号)
		水系	現地踏査
	土壌	土砂の沈降特性	濁水沈降試験”(「土質試験の方法と解析(第 1 回改訂版) 」(平成 12 年 3 月)(社)地盤工学会)に準拠したピペット法による手法
水の利用の状況 大規模発生源の状況		上水道、農業用水等の水利用の状況 工場等主要な発生源の分布状況	現地踏査

※公共用水域の環境基準は、2022年4月から大腸菌群数から大腸菌に変更になったが、処分場排水の基準は、大腸菌群数のままであることから、調査は“大腸菌群数”について実施した。

3)　調査結果

ア　水質の状況（平常時）

水質（平常時）の調査結果は、表3.2.1-4～表3.2.1-7に示すとおりである。

瀬戸市の環境基本計画では、矢田川(上流)の目標をC類型に設定していることから、環境基準のC類型と比較すると、環境基準のあるすべての項目で基準を満足している。

表3.2.1-4　水質（平常時）現地調査結果(生活環境項目等)

項目	地点名	No.1 東山路川				環境基準(C類型)
	単位	2021年8月	2021年10月	2021年12月	2022年4月	
気温	℃	25.1	20.1	7.3	20.4	—
水温	℃	21.5	17.2	7.5	15.0	—
透視度	度	50以上	50以上	50以上	50以上	—
外観	－	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	—
水素イオン濃度	－	8.1	7.1	7.1	7.2	6.5以上 8.5以下
生物化学的酸素要求量	mg/L	0.2	0.2	0.2	0.1	5以下
化学的酸素要求量	mg/L	2.1	1.5	1.1	2.1	—
浮遊物質量	mg/L	2	1	1未満	2	50以下
溶存酸素量	mg/L	9.2	9.3	11.5	10.1	5以上
大腸菌群数※2	MPN/100mL	4,900	1,300	79	130	—
全窒素	mg/L	0.30	0.26	0.20	0.19	—
全りん	mg/L	0.003未満	0.003未満	0.003未満	0.003未満	—
全亜鉛	mg/L	0.004	－	0.001	－	0.03以下※1
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	－	0.00006未満	－	0.002以下※1
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	mg/L	0.0001	－	0.0001未満	－	0.05以下※1
電気伝導率	mS/m	5	5	6	5	—
塩化物イオン	mg/L	3.3	3.5	3.3	4.3	—
平均流速	m/s	0.25	0.17	0.10	0.25	—
流量	m^3/h	222	196	84.4	163	—

※1　全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩の環境基準は「生物B」である。

※2　公共用水域の環境基準は、2022年4月から大腸菌群数から大腸菌に変更になったが、処分場排水の基準は、大腸菌群数のままであることから、調査は“大腸菌群数”について実施した。

表3.2.1-5　水質（平常時）現地調査結果(健康項目等)

項目	地点名	No.1 東山路川		環境基準
	単位	2021年8月	2021年12月	
カドミウム	mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
全シアン	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
鉛	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
六価クロム	mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.02 以下
砒素	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
総水銀	mg/L	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
PCB	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01 未満	0.01 未満	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
チウラム	mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
シマジン	mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
セレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.2	0.1	10 以下
ふっ素	mg/L	0.08 未満	0.08 未満	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.05 以下
有機燐化合物	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	—
フェノール類含有量	mg/L	0.5 未満	0.5 未満	—
ノルマルヘキサン抽出物含有量(鉱油類)	mg/L	3 未満	3 未満	—
ノルマルヘキサン抽出物含有量(動植物油脂類)	mg/L	3 未満	3 未満	—
銅含有量	mg/L	0.3 未満	0.3 未満	—
溶解性鉄含有量	mg/L	1 未満	1 未満	—
溶解性マンガン含有量	mg/L	1 未満	1 未満	—
クロム含有量	mg/L	0.2 未満	0.2 未満	—
アンモニア、アンモニウム化合物亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg/L	0.5 未満	0.5 未満	—
ダイキシン類	pg-TEQ/L	0.039	0.039	1 以下

表3.2.1-6　水質（平常時）現地調査結果(生活環境項目等)

項目	地点名	No.2 矢田川・屋戸橋				環境基準(C類型)
	単位	2021年8月	2021年10月	2021年12月	2022年4月	
気温	℃	28.0	25.8	9.8	22.7	—
水温	℃	23.8	19.0	7.5	17.0	—
透視度	度	50 以上	50 以上	50 以上	50 以上	—
外観	－	無色透明	無色透明	無色透明	無色透明	—
水素イオン濃度	－	7.4	6.9	7.1	7.1	6.5 以上 8.5 以下
生物化学的酸素要求量	mg/L	0.3	0.1	0.3	1.0	5 以下
化学的酸素要求量	mg/L	2.7	2.6	1.8	3.1	—
浮遊物質量	mg/L	3	2	1 未満	8	50 以下
溶存酸素量	mg/L	9.0	9.4	12.0	9.8	5 以上
大腸菌群数※2	MPN/100mL	13,000	1,300	220	2,800	—
全窒素	mg/L	0.60	0.54	0.63	0.81	—
全りん	mg/L	0.036	0.022	0.018	0.068	—
全亜鉛	mg/L	0.006	－	0.003	－	0.03 以下※1
ノニルフェノール	mg/L	0.00006 未満	－	0.00006 未満	－	0.002 以下※1
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	mg/L	0.0085	－	0.0014	－	0.05 以下※1
電気伝導率	mS/m	13	12	16	18	—
塩化物イオン	mg/L	8.0	7.7	9.4	20	—
平均流速	m/s	0.17	0.35	0.20	0.23	—
流量	m^3/h	1,540	2,020	736	1,010	—

※1　全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩の環境基準は「生物B」である。

※2　公共用水域の環境基準は、2022年4月から大腸菌群数から大腸菌に変更になったが、処分場排水の基準は、大腸菌群数のままであることから、調査は“大腸菌群数”について実施した。

表3.2.1-7　水質（平常時）現地調査結果(健康項目等)

項目	地点名	No.2 矢田川・屋戸橋		環境基準
	単位	2021年8月	2021年12月	
カドミウム	mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
全シアン	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
鉛	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
六価クロム	mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.02 以下
砒素	mg/L	0.001	0.001	0.01 以下
総水銀	mg/L	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
PCB	mg/L	不検出	不検出	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01 未満	0.01 未満	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
チウラム	mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
シマジン	mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
セレン	mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.4	0.5	10 以下
ふっ素	mg/L	0.10	0.10	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.05 以下
有機燐化合物	mg/L	0.1 未満	0.1 未満	—
フェノール類含有量	mg/L	0.5 未満	0.5 未満	—
ノルマルヘキサン抽出物含有量(鉱油類)	mg/L	3 未満	3 未満	—
ノルマルヘキサン抽出物含有量(動植物油脂類)	mg/L	3 未満	3 未満	—
銅含有量	mg/L	0.3 未満	0.3 未満	—
溶解性鉄含有量	mg/L	1 未満	1 未満	—
溶解性マンガン含有量	mg/L	1 未満	1 未満	—
クロム含有量	mg/L	0.2 未満	0.2 未満	—
アンモニア､アンモニウム化合物亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg/L	0.5	0.5	—
ダイキシン類	pg-TEQ/L	0.074	0.037	1 以下

イ　水質の状況（濁水時）

濁水時の水質の状況は、表3.2.1-8に示すとおりである。

調査日(令和3年6月4日アメダス名古屋)の降水量は23.0mm/日（時間最大降水量5.5mm/時間）であった。

表3.2.1-8　水質（濁水時）現地調査結果

項目	単位＼地点名	No.1 東山路川	No.2 矢田川・屋戸橋	環境基準(C類型)
気温	℃	19.6	20.5	
水温	℃	17.0	18.0	—
透視度	度	33	6	—
外観	—	濁水	濁水	—
浮遊物質量	mg/L	35	100	50 以下
平均流速	m/s	0.22	0.52	—
流量	m^3/h	806	9,820	—

土壌の沈降試験の測定結果は、表3.2.1-9に示すとおりである。

表3.2.1-9　土壌の沈降試験の測定結果

経過時間(分)	懸濁物質(mg/L)	残留率	沈降速度(cm/分)
0	2,100	1.000	—
1	1,100	0.524	10.0
2	900	0.429	5.0
5	560	0.267	2.0
10	380	0.181	1.0
30	250	0.119	0.33
60	160	0.076	0.17
120	130	0.062	0.083
240	90	0.043	0.042
480	60	0.029	0.021
1,440	50	0.024	0.0069
2,880	26	0.012	0.0035

ウ　水利用の状況

東山路川の調査地点No.1の上流の約250mに猿投西谷取水場がある。また、矢田川・屋戸橋の上流約200ｍに農業用取水堰がある。

エ　大規模発生源の状況

大規模発生源の状況は、「3.1　大気質　(2)　現況把握　3)　調査結果」に示したとおりである。

(3) 環境保全措置

1) 盛土・掘削等の土工事

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。

・濁水防止の環境保全措置として、濁水処理装置を検討する。

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。

・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。

・雨季は大規模な土工事を回避する。

・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流する。

2) 浸出水処理施設からの処理水の放流

・浸出水処理水、河川水、地下水のモニタリングを行う。浸出水処理水については、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和52年総理府・厚生省令第1号)の排水基準のほか、その基準より厳しい自主規制基準値とする。

項目	自主規制基準値(mg/L)
生物化学的酸素要求量	20 mg/L
化学的酸素要求量	25 mg/L
浮遊物質量	30 mg/L
全窒素	15 mg/L
ダイオキシン類	8pg-TEQ/L

(4) 予測

1) 盛土・掘削等の土工事

ア 予測対象時期

予測対象時期は、盛土・掘削等の工事による土工量が多くなる時期とした。

イ 予測項目

予測項目は、盛土・掘削等の工事により発生する公共用水域における浮遊物質量（SS）とした。

ウ 予測方法

a 予測地点

工事中の排水は、防災調整池を経て、東山路川に放流する計画であるため、予測地点は防災調整池出口及び流出地点の東山路川(No.1)(図3.2.1-1)とする。

b 予測方法

予測方法は、工事計画及び類似事例の引用・解析等により、濁水が流出する下流排水路の浮遊物質量（SS）濃度を定量的に予測した。

①予測フロー

工事中に発生する濁水は、防災調整池を設け、土粒子を十分に沈降させた後に対象事業実施区域外に放流する計画である。工事中の降雨により発生する濁水の影響予測は、濁水防止対策（防災調整池の設置）の効果を踏まえて定量的に行った。

予測フローは、図3.2.1-2に示すとおりである。

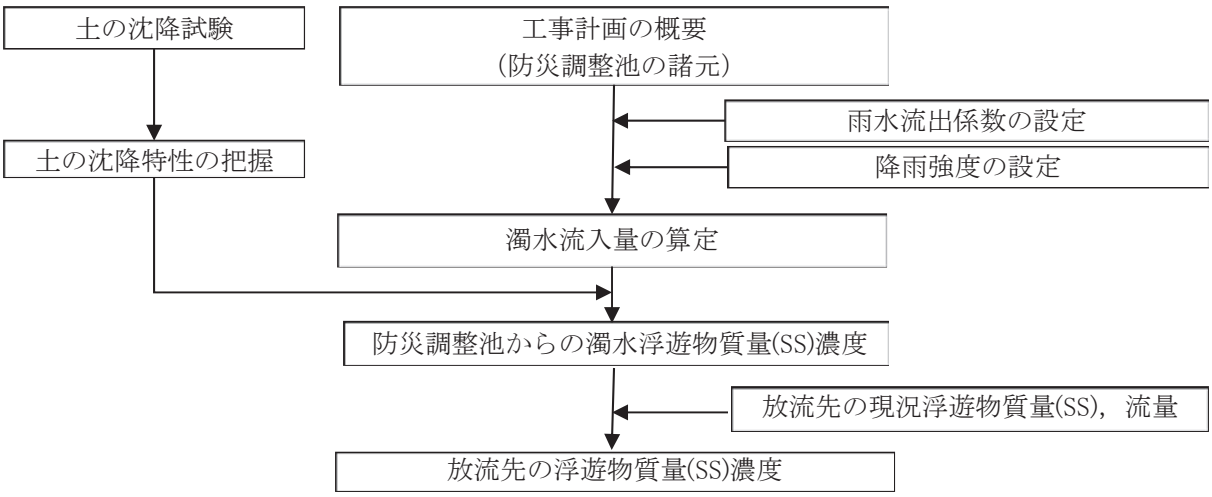


図3.2.1-2 盛土・掘削等による水質の予測フロー

②予測式

工事中の降雨による防災調整池への濁水流入量の算定は「面整備事業環境影響評価技術マニュアル[Ⅱ]」(1999年、面整備事業環境影響評価研究会）に基づき、以下に示す合理式を用いた。

$$Q = f_1 \cdot \frac{I \cdot A_1}{1000} + f_2 \cdot \frac{I \cdot A_2}{1000}$$

Q ：濁水流入量（m^3/h）

I ：降雨強度（mm/h）

f_1 ：開発区域の雨水流出係数

f_2 ：非開発区域の雨水流出係数

A_1 ：流域内の開発区域面積（m^2）

A_2 ：流域内の非開発区域面積（m^2）

表面積負荷は「面整備事業環境影響評価技術マニュアル[Ⅱ]」(1999年、面整備事業環境影響評価研究会）に基づき、防災調整池面積及び濁水流入量を用いて、以下に示すように算出した。

$$\text{表面積負荷(m/h)} = \frac{\text{防災調整池への濁水流入量（}m^3/h\text{）}}{\text{防災調整池面積（}m^2\text{）}}$$

防災調整池放流口からの浮遊物質量（SS）濃度は、流入する濁水の浮遊物質量（SS）濃度に土の沈降特性から算出される残留率を乗じる方法により算出するものとした。

残留率は土壌の沈降特性による沈降速度（表面積負荷）から算出される。

浮遊物質量（SS）濃度(mg/L)= 流入する濁水の浮遊物質量（SS）濃度(mg/L)
×残留率(%)

濁水混合による浮遊物質量（SS）濃度は、以下に示す完全混合式を用いて予測するものとした。

$$C = \frac{C_0Q_0 + C_1Q_1 + C_2Q_2 + \cdots + C_nQ_n}{Q_0 + Q_1 + Q_2 + \cdots + Q_n}$$

C ：混合した濁水の浮遊物質量(SS)予測濃度（mg/L）

C_0 ：混合先の浮遊物質量(SS)濃度（mg/L）

Q_0 ：混合先の流量（m^3/h）

C_n ：混合先へ流入する濁水の浮遊物質量(SS)濃度（mg/L）（ただし，N≧1）

Q_n ：混合先へ流入する濁水の流量（m^3/h）（ただし，N≧1）

c　予測条件

①工事中の流域区分

対象事業実施区域では、対象事業実施区域に降った雨を防災調整池に流入後、上澄み水を対象事業実施区域外に放流する。

②防災調整池の諸元

防災調整池の諸元は、表3.2.1-10に示すとおりである。

表3.2.1-10　防災調整池の諸元

流域名称	造成面積(ha)	流域面積(ha)	防災調整池面積※ (m^2)
防災調整池	9.83	13.47	1,596

※防災調整池面積は、防災調整池水張面積とした。

③雨水流出係数

雨水流出係数は、「面整備事業環境影響評価技術マニュアル[Ⅱ]」（1999年、面整備事業環境影響評価研究会）より、開発区域（造成区域）の場合0.5、非開発区域の場合0.3と設定した。

④降雨強度

降雨強度は、以下の2通りとした。

・「面整備事業環境影響評価技術マニュアル[Ⅱ]」（1999年、面整備事業環境影響評価研究会）に示される日常的な降雨量として3.0mm/h

・降雨時調査時の日最大1時間雨量のうち最大値5.5mm/h

⑤流入する濁水の浮遊物資量(SS)濃度

造成地から発生する濁水濃度は、「土質工学における化学の基礎と応用」（1985年 土質工学会）に示される、市街地近郊の造成工事に伴って発生する濁水濃度200～2,000mg/Lを参考に、安全側を考慮して2,000mg/Lとした。

⑥土砂沈降特性

土の沈降特性は、現地調査における土の沈降測定結果（表3.2.1-9）から、図3.2.1-3に示すとおり、次に示す残留率と沈降速度の近似式を算出した。

浮遊物質量(SS)残留率=0.1893×沈降速度 $^{0.4633}$

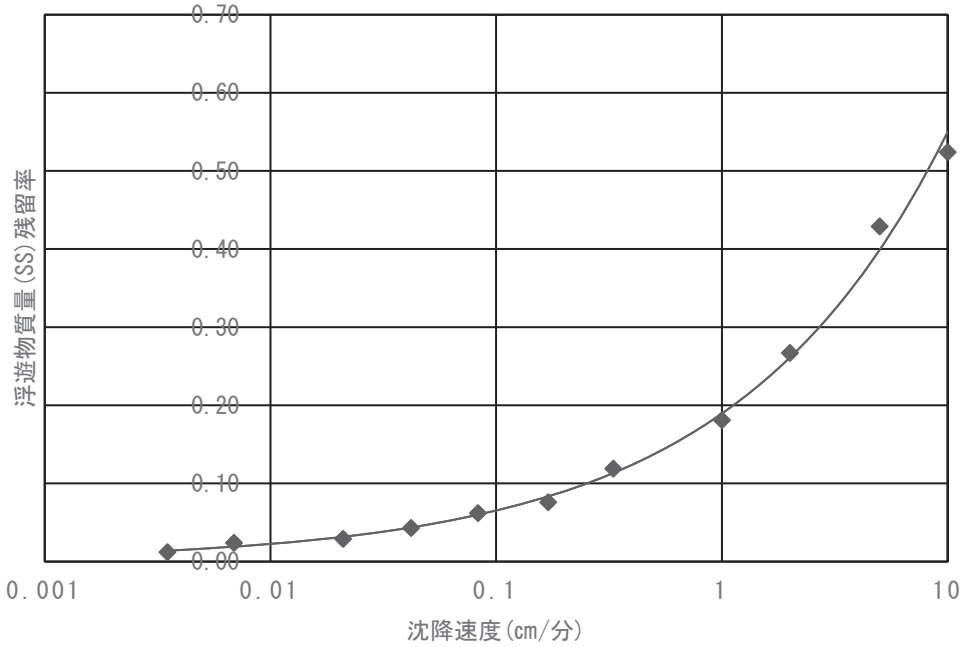


図3.2.1-3　浮遊物質量（SS）残留率-沈降速度

エ　予測結果

防災調整池から放流する水の浮遊物質量（SS）濃度の予測結果は、表3.2.1-11に示すとおりである。

防災調整池から放流する水の浮遊物質量（SS）濃度の予測結果は、180～240mg/Lとなり、降雨条件5.5mm/hで水質汚濁防止法の排水基準（浮遊物質量（SS）濃度200mg/L以下）を上回るものと予測した。

表3.2.1-11　防災調整池から放流する水の浮遊物質量（SS）濃度予測結果

降雨条件 (mm/h)	濁水流入量 (m^3/h)	浮遊物質量(SS) 残留率	防災調整池から 放流する水の 浮遊物質量(SS)濃度 (mg/L)	水質汚濁防止法 排水基準 (mg/L)
3.0	180.2	0.09	180	200
5.5	330.4	0.12	240	

東山路川(No.1)の水の濁りの予測結果は、表3.2.1-12に示すとおりである。

放流先の浮遊物質量（SS）濃度は、61～95mg/Lとなり、東山路川(No.1)では現況の降雨時における浮遊物質量（SS）濃度より高くなり、矢田川・屋戸橋付近(No.2)では現況の降雨時における浮遊物質量（SS）濃度と同程度となると予測した。

表3.2.1-12　東山路川の浮遊物質量（SS）濃度予測結果

降雨条件 (mm/h)	東山路川(現況)		防災調整池からの放流水		合流後の 浮遊物質量 (SS)濃度 (mg/L)
	浮遊物質量(SS) 濃度(mg/L)	流量 (m^3/h)	浮遊物質量 (SS)濃度 (mg/L)	流量 (m^3/h)	
3.0	35	806	180	180.2	61
5.5	35	806	240	330.4	95

2)　浸出液処理施設からの処理水の放流

ア　予測対象時期

予測対象時期は、四季とし、処分場の活動が定常に達した後、水質への影響が最大となるように浸出水量を最大に設定した。

イ　予測項目

予測項目は、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、全窒素、全りん、浮遊物質量、健康項目及びダイオキシン類とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は、浸出水処理施設からの処理水合流点の東山路川下流地点(No.1)、公共用水域の水質を代表する地点として、矢田川・屋戸橋(No.2)の2地点(図3.2.1-1)とする。

b　予測方法

生活環境項目等の浸出水処理施設からの処理水の影響を完全混合式により予測した。予測式は以下に示すとおりである。

$$c = \frac{c_0 q_0 + c_1 q_1}{q_0 + q_1}$$

ここで、

c　:混合後の河川濃度(mg/L)

c_0 :放流河川濃度(mg/L)

c_1 :処理水の排出濃度(mg/L)

q_0 :放流河川流量(m^3/日)

q_1 :処理水の排出量(m^3/日)

c　予測条件

処理水の排出量等は表3.2.1-13に示すとおり、事業計画より設定した。他の項目は廃掃法上の基準値とする。

河川の水質及び流量は各季節の測定値とした。

予測計算にあたり、定量下限値未満は定量下限値として算出する。

表 3.2.1-13　処理水の排出量及び排出濃度

項目	処理水
流量(m^3/日)	250
生物化学的酸素要求量(mg/L)	20
化学的酸素要求量(mg/L)	25
浮遊物質量(mg/L)	30
全窒素(mg/L)	15
全りん(mg/L)	1.5
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	8

エ　予測結果

予測結果は、表3.2.1-14及び表3.2.1-15に示すとおり、すべて環境基準を下回った。

他の項目についても、廃掃法上の基準値を守り、浸出水処理施設により適正に処理されると考えられることから、環境基準を下回るものと考えられる。

表 3.2.1-14　東山路川(No.1)予測結果

季節／項目	夏季	秋季	冬季	春季	環境基準(C類型)
生物化学的酸素要求量(mg/L)	1.1	1.2	2.4	1.3	5以下
化学的酸素要求量(mg/L)	3.1	2.7	3.7	3.5	—
浮遊物質量(mg/L)	3	2	4	4	50以下
全窒素(mg/L)	0.96	1.0	1.8	1.1	—
全りん(mg/L)	0.07	0.08	0.17	0.09	—
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.40	—	0.91	—	1以下

表 3.2.1-15　矢田川・屋戸橋(No.2)予測結果

季節／項目	夏季	秋季	冬季	春季	環境基準(C類型)
生物化学的酸素要求量(mg/L)	0.4	0.2	0.6	1.2	5以下
化学的酸素要求量(mg/L)	2.8	2.7	2.1	3.3	—
浮遊物質量(mg/L)	3	2	1	8	50以下
全窒素(mg/L)	0.70	0.61	0.83	0.95	—
全りん(mg/L)	0.05	0.03	0.20	0.08	—
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	0.13	—	0.15	—	1以下

(5) 影響の分析

1) 盛土・掘削等の土工事

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、盛土・掘削等の土工事による濁水への影響が、環境保全措置により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、予測結果が、表3.2.1-16に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.2.1-16 整合を図る基準（工事による影響（盛土・掘削等））

・「水質汚濁に係る環境基準」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）に基づく生活環境の保全に関する環境基準(河川)C類型（浮遊物質量（SS）50mg/L以下）

イ 影響の分析結果

予測結果を踏まえ、本事業では、環境保全措置として、沈砂池としての防災調整池の整備及び土砂流出抑制対策の実施により濁水発生の抑制が図られていることから、盛土・掘削等の土工事に伴い発生する濁水による放流先への水質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

盛土・掘削等の土工事による水質への影響を予測した結果、対象事業実施区域からの浮遊物質量（SS）濃度は、矢田川・屋戸橋付近(No.2)では現況の降雨時における浮遊物質量（SS）濃度と同程度となることから、大きな影響はないと考えられる。また、必要に応じて、濁水処理装置を検討することから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

2) 浸出水処理施設からの処理水の放流

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、浸出水処理施設からの処理水の放流の影響が、環境保全措置により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、予測結果が、表3.2.1-17に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.2.1-17 整合を図る基準（供用時による影響（浸出水処理施設からの処理水の放流））

・「水質汚濁に係る環境基準」（昭和46年12月28日 環境庁告示第59号）に基づく生活環境の保全に関する環境基準(河川)C類型

イ 影響の分析結果

予測結果を踏まえ、本事業では、環境保全措置として、浸出水について既存処理施設により排出基準に適合する水質に処理すること、ガス抜管による効率的に集水、処理施設の運転管理を徹底等の実施により、浸出水処理施設からの処理水の放流による放流先への水質への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、予測結果は、生物化学的酸素要求量、浮遊物質量及びダイオキシン類で環境基準を下回った。他の項目についても、廃掃法上の基準値を守り、浸出水処理施設により適正に処理されると考えられることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.2.2 地下水

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

地下水の水質の調査地点は、供用時に監視用井戸となる地点のボーリング孔を利用した。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.2.2-1に示すとおりである。

地形・地質等は、「第三処分場地質調査報告書」（平成16年10月・平成18年3月、株式会社江土地質）より整理した。

表3.2.2-1 調査内容

項目	調査すべき情報
地形・地質等	地形分類、地質分布、地下水の流動状況等
地下水の水質	水素イオン濃度、電気伝導率、塩化物イオン、カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、クロロエチレン、1、2-ジクロロエタン、1、1-ジクロロエチレン、1、2-ジクロロエチレン、1、1、1-トリクロロエタン、1、1、2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1、3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1、4-ジオキサン、ダイオキシン類
地下水水の利用	井戸の分布及び地下水利用状況

2) 現況把握方法

ア 調査地点

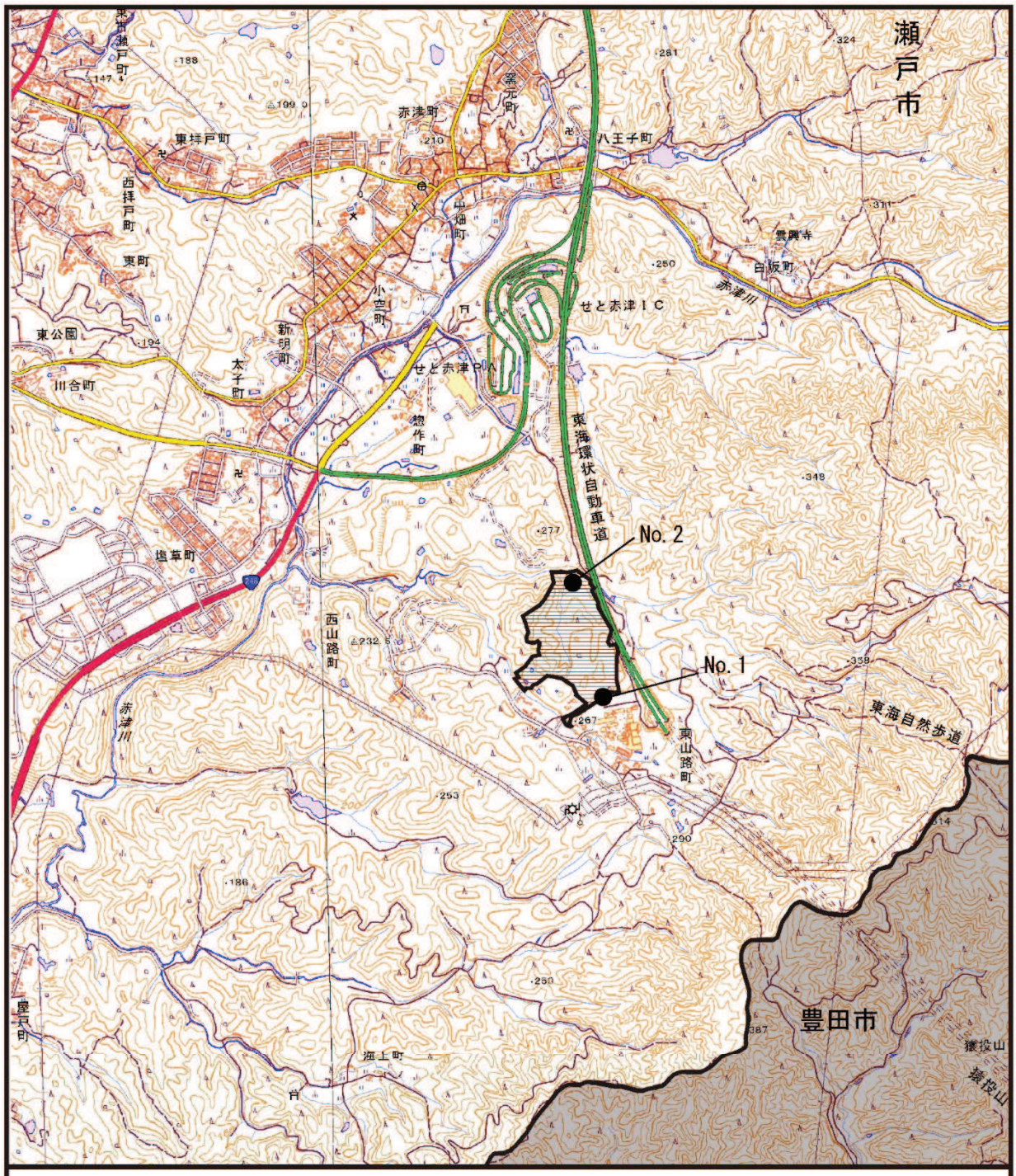
地下水の水質調査地点は、図3.2.2-1に示すとおり、対象事業実施区域内のボーリング孔を利用して実施した。

イ 調査時期

現地調査期間は、表3.2.1-2に示すとおりである。

表3.2.2-2 調査期間等

項 目	調査期間等
地形・地質等	現地踏査及び既存資料の整理とした。
地下水の水質	冬季：2021 年 1 月 16 日 夏季：2021 年 8 月 20 日
地下水水の利用	現地踏査、聞き取り及び既存資料の整理とした。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

●：No. 1～2 地下水調査地点
No. 1 上流地点
No. 2 下流地点

図3. 2. 2-1　地下水の水質調査地点

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

ウ　調査方法

調査方法は、表3.2.2-3に示すとおりである。

表3.2.2-3　調査方法

項目	細項目	調査方法
地形・地質等	地形分類、地質分布、地下水の流動状況等	現地踏査及び既存資料の整理
地下水の水質	水素イオン濃度	JIS K0102 12
	電気伝導率	JIS K0102 13
	塩化物イオン	JIS K0101 32
	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、クロロエチレン、1、2-ジクロロエタン、1、1-ジクロロエチレン、1、2-ジクロロエチレン、1、1、1-トリクロロエタン、1、1、2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1、3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1、4-ジオキサン	「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」(平成 9 年環境庁告示第 10 号)
	ダイオキシン類	「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁(水底の底質の汚染を含む。)及び土壌の汚染に係る環境基準について」(平成11年環境庁告示第68号)
地下水の利用	井戸の分布及び地下水利用状況	現地踏査、聞き取り及び既存資料の整理

3)　調査結果

ア　地形・地質等

地形・地質等は、「第三処分場地質調査報告書」（平成16年10月・平成18年3月、株式会社江土地質）により整理した。

a　地形

対象事業実施区域は、瀬戸市の南東にあたる猿投山塊の西部に位置している。猿投山塊は標高500m～600m程度の山頂が連なった山地である。猿投山頂(標高629m)の西側には北東方向に延びる猿投北断層がある。この断層の西側は相対的に落ちており、標高200m～300m程度の山地となっている。この山地の西部には矢田川の上流である赤津川が南西方向に流れている。

瀬戸市の山路町から海上町にかけては、赤津川より東側に延びた数本の支流によって山地が侵食され、樹枝状の谷地形が形成されている。対象事業実施区域の西側を流れる山路川に沿って谷底に狭隘な沖積低地が形成されている。

対象事業実施区域は赤津川の支流である東山路川と山路川との間にある標高250m程度の山地である。対象事業実施区域の北端は東山路川が造る東西方向の谷に当たっている。対象事業実施区域の東側に沿って、東海環状自動車道が通っている。

b　地質

猿投山塊を形成する地質は領家帯※1の花崗岩類である。猿投北断層を境に、東側は伊那川花崗岩、西側は苗木・上松花崗岩と呼ばれている。西方の瀬戸市市街地に近づくと、基盤岩である花崗岩類を覆って瀬戸層群※2が分布し、丘陵地形を形成している。

対象事業実施区域の山地を形成する花崗岩類は方丈節理(岩を立方体に切るような割れ目)が発達し、割れ目に沿った深層風化が著しく、深部まで真砂化が進行していることが多い。

対象事業実施区域の山地は白亜紀に生成した領家帯の花崗岩類より構成されている。また、対象事業実施区域にある南北の谷部には第四紀沖積世に生成した谷底堆積物(沖積層)が存在する。山地を構成する花崗岩は、上部より風化が進行しており、風化の程度により真砂、風化花崗岩、花崗岩の3層に区分される。

※1　九州から関東地方まで東西方向に延びた地質帯であり、白亜紀に生成した花崗岩類や変成岩類よりなる。日本列島を構成する代表的な地質帯のひとつである。
※2　第三紀鮮新世に生成した堆積層で瀬戸市を中心に分布する。礫・砂・粘土層よりなり、陶土層を含む。

c　地下水の流動状況等

対象事業実施区域の地下水の流動状況は、表層地形の変化に従い北方向に流れていると推定される。標高の高い尾根部においても比較的高い水位が維持されている。

対象事業実施区域内で湧水は確認されなかった。

イ　地下水の水質

地下水の水質の調査結果は、表3.2.2-4に示すとおり、すべての項目で環境基準を満足している。

表3.2.2-4　地下水の水質調査結果

項目	地点名	No.1		No.2		環境基準
	単位	2021年 1月	2021年 8月	2021年 1月	2021年 8月	
水素イオン濃度	－	6.4	4.8	6.9	5.9	—
電気伝導率	mS/m	6.3	3.9	8.4	5.2	—
塩化物イオン	mg/L	3.9	2.4	2.5	2.6	—
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下
全シアン	mg/L	不検出	不検出	不検出	不検出	検出 されないこと
鉛	mg/L	0.001未満	0.002	0.001未満	0.001未満	0.01以下
六価クロム	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.02以下
砒素	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01以下
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	不検出	不検出	検出 されないこと
PCB	mg/L	不検出	不検出	不検出	不検出	検出 されないこと
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.02以下
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	0.0004未満	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.0006未満	0.006以下
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.02以下
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01以下
セレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.1	0.7	0.1	0.1未満	10以下
ふっ素	mg/L	0.09	0.15	0.08	0.08未満	0.8以下
ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.1未満	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.05以下
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.035	0.037	0.035	0.037	1以下

ウ　地下水の利用

聞き取りでは、対象事業実施区域の南東側に位置する事業所で深層井戸3ヶ所、民家で生活雑用水として浅層井戸1ヶ所が利用されている。

(3)　環境保全措置

1)　最終処分場の存在

・廃棄物の受入にあたっては、厳正な審査を行い、受入基準に適合した廃棄物のみを処分する。

・浸出水処理水、河川水、地下水のモニタリングを行う。

・漏水検知システムを導入し、遮水工の健全性を確認する。

・万一、モニタリング井戸の水質に漏水が疑われる測定値が検出された場合は、即時に廃棄物の搬入を停止し、関係機関に連絡するとともに、地下水集水管により集水された地下水は浸出水処理施設に送水して処理を行うとともに、遮水工の損傷位置の特定と補修を行う。

(4) 予測

1) 最終処分場の存在

ア 予測対象時期

予測対象時期は、処分場の活動が定常に達した後、地下水への影響が最大となる時期とした。

イ 予測項目

予測項目は、地下水の水位、流動状況とした。

ウ 予測方法

a 予測地点

予測は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

b 予測方法

地域特性と事業計画の重ね合わせにより定性的に予測した。

c 予測条件

事業実施区域の切盛土の範囲は図3.2.2-2に示すとおりである。

対象事業実施区域内では、明らかな帯水層は確認されていない。

エ 予測結果

対象事業実施区域内では、明らかな帯水層は確認されず、表層地形の変化に従い表層水及び地下水は北方向に流れ、東山路川に向かい流下しているものと考えられる。

最終処分場の建設により、鉛直方向及び平面方向の地下水流動が阻害されることが考えられる。鉛直方向については、埋立底部にシート等を敷設し、浸出水の地下への浸透が遮断されることになる。

雨水については、雨水を浸出水と分離し速やかに下流河川である東山路川に排水する計画である。浸出水は、浸出水集排水設備により集水し、浸出水処理施設により処理した後に、東山路川に排水する計画である。

地下水の流れは、埋立地内の不透水層上部の流れ及びそこからの鉛直方向の浸透は阻害されるものの、埋立地底面（遮水工下部）には、周辺地下水を効率良く集め、速やかに下流域へ排出するため地下水集水管を設置することから、地下水の流れを遮断・阻害することは想定されない。

対象事業実施区域の南東側に位置する民家で生活雑用水として浅層井戸1ヶ所が利用されているが、標高の高い尾根部においても比較的高い水位が維持されている。

以上のことから、対象事業実施区域における地下水の流動に対する影響は小さく、周辺の地下水水位の大きな変化はないと考えられる。

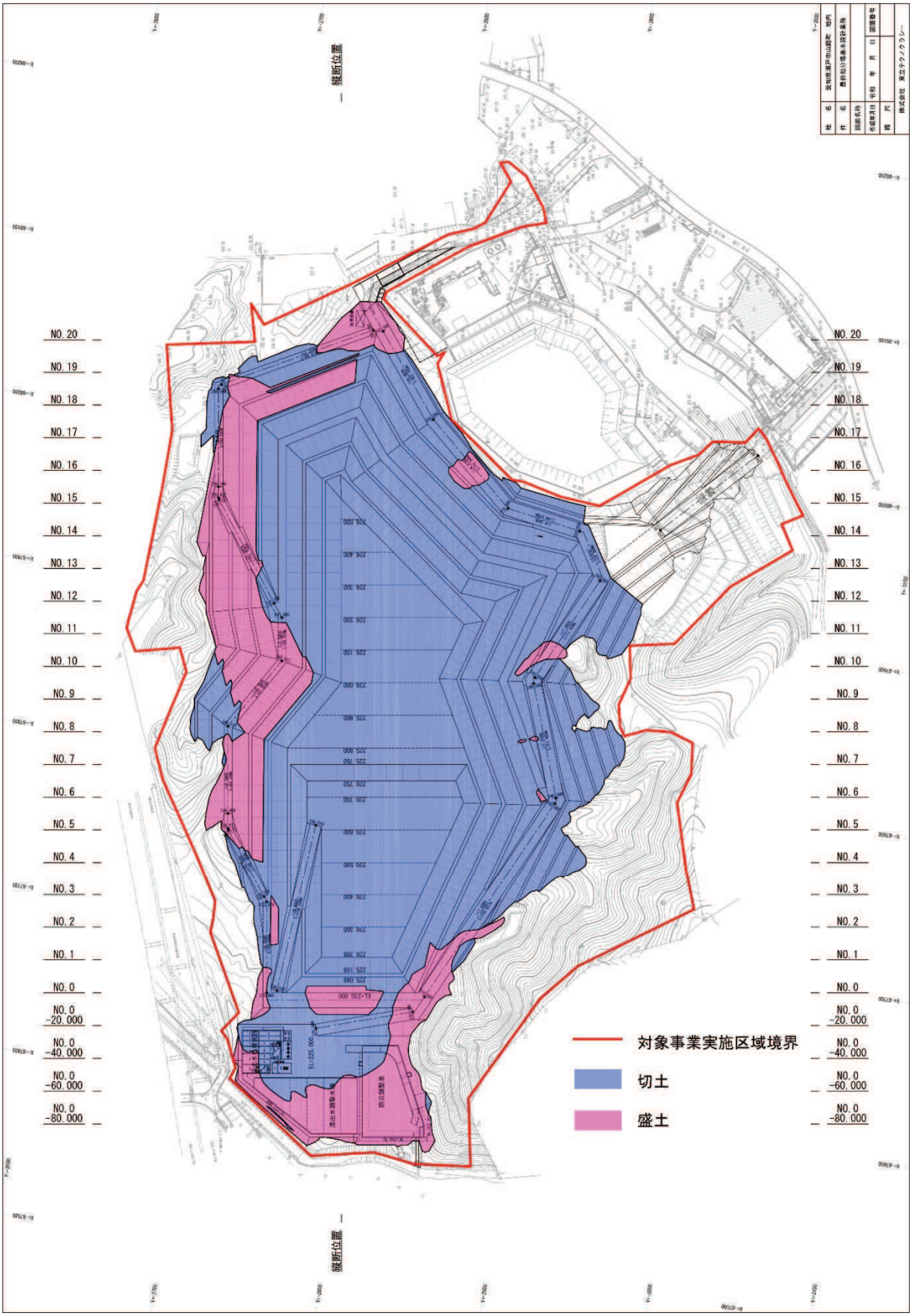

NO.20
NO.19
NO.18
NO.17
NO.16
NO.15
NO.14
NO.13
NO.12
NO.11
NO.10
NO.9
NO.8
NO.7
NO.6
NO.5
NO.4
NO.3
NO.2
NO.1
NO.0
NO.0 -20.000
NO.0 -40.000
NO.0 -60.000
NO.0 -80.000
対象事業実施区域境界
切土
盛土

図 3.2.2-2　切盛土図

(5) 影響の分析

1) 最終処分場の存在

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による地下水への影響が、環境保全措置により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

予測結果は、対象事業実施区域における地下水の流動に対する影響は小さく、周辺の地下水水位の大きな変化はないと考えられる。また、上下モニタンリグ井戸等の地下水の水質測定により、水質及び浸出水漏水監視を行い、万一、漏水が疑われる測定値が検出された場合は適切な処理を行うことにより、最終処分場の存在による地下水への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

3.3 騒音

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査地点は、工事による重機の稼働、埋立作業及び施設稼働の影響が考えられる対象事業実施区域に近接した民家及び対象事業実施区域境界(環境騒音)、工事車両及び廃棄物運搬車両が集中する道路沿道の集落及び配慮を要する施設がある道路沿道（道路交通騒音）とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.3-1に示すとおりである。

表 3.3-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
騒音レベル	環境騒音
	道路交通騒音
地表面の状況等	地表面の状況 道路構造
	時間別交通量
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査地点は、図3.3-1に示すとおり、環境騒音が敷地境界（No.1）及び対象事業実施区域に近い民家（No.2)、類似施設（No.3)、道路交通騒音2地点（No.4及びNo.5）とした。

土地利用の状況の調査範囲は対象事業実施区域周辺とした。

地表面の状況等は道路交通騒音地点（No.4及びNo.5）で実施した。

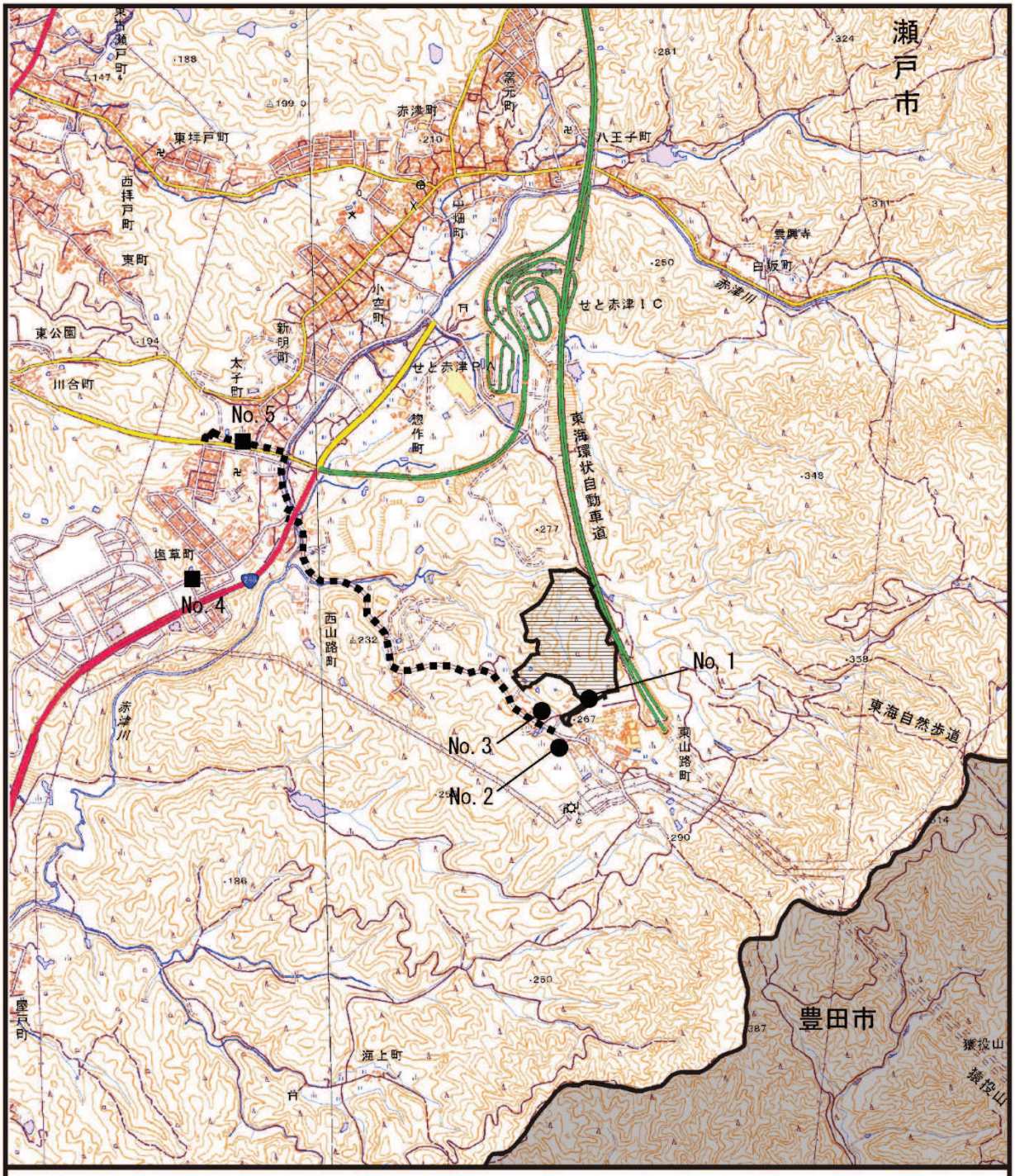


図3. 3-1　騒音・振動調査地点

イ　調査時期

現地調査期間は、表3.3-2に示すとおり、平日の1日間（24時間）とした。

表 3.3-2　調査期間等（現地調査）

調査項目		調査期間等
騒音レベル	環境騒音 道路交通騒音	2020年12月1日(火)12時～2日(水)12時
地表面の状況等	地表面の状況 道路構造 時間別交通量	
土地利用	土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。

※環境騒音のNo.3地点のみ“2021年1月20日(水)12時～21日(木)12時”に実施した。

ウ　調査方法

調査方法は、表3.3-3に示すとおりである。

表 3.3-3　調査方法

調査項目		調査方法	調査方法の概要
騒音レベル	環境騒音 道路交通騒音	「騒音に係る環境基準について」（平成10年環境庁告示第64号）	測定高さは地上1.2mとし、周波数重み特性がA特性、時間重み特性がFastで24時間連続測定した。
地表面の状況等	走行速度	あらかじめ設定した区間において、ストップウォッチを用いて、目視により車両が通過する時間を計測した。	
	道路構造等	調査地点の道路断面を巻尺により計測した。	
	時間別交通量	ハンドカウンターを用いて、時間帯別・車種別・方向別の自動車台数を計測した。	
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布	現地踏査及び既存資料の整理とした。	

3)　調査結果

ア　環境騒音

環境騒音の調査結果は、表3.3-4に示すとおりである。

昼間の騒音レベルL_{A5}は、No.1(敷地境界)54dB、No.2(民家)53dB、No.3(類似施設)61dBであった。No.3(類似施設)は、既存施設に出入りする車両及び隣接する道路を通過する車両の影響を受け、騒音レベルが大きくなった。夜間は、各地点とも対象事業実施区域に隣接する工場騒音（24時間稼働）の影響を受け、騒音レベルが大きくなった。

特定工場等において発生する騒音の規制に関する規制基準(第3種区域)との比較では、No.1及びNo.2では夜間に規制基準値を上回った。No.3では夕以外で規制基準値を上回った。

等価騒音レベルL_{Aeq}と環境基準(B類型)との比較では、No.1及びNo.2では夜間に基準値を上回り、No.3では昼間、夜間とも基準値を上回った。

表 3.3-4　環境騒音調査結果

単位:dB(A)

区分＼時間帯	騒音レベル L_{A5}（各時間帯の平均値）			
	朝 (6 時～8 時)	昼間 (8 時～19 時)	夕 (19 時～22 時)	夜間 (22 時～6 時)
No. 1	55	54	51	51
No. 2	53	53	52	51
No. 3	60	61	49	53
特定工場等において発生する騒音の規制に関する規制基準（第 3 種区域）	55	60	55	50

備考　対象事業実施区域は市街化調整区域であり、第 3 種区域の規制基準と比較した。

単位:dB(A)

区分＼時間帯	等価騒音レベル L_{Aeq}	
	昼間 (6 時～22 時)	夜間 (22 時～6 時)
No. 1	51	50
No. 2	51	51
No. 3	57	52
環境基準 (B 類型)	55	45

備考　対象事業実施区域は市街化調整区域であり、環境基準 B 類型と比較した。

イ　道路交通騒音

道路交通騒音の調査結果は、表3.3-5に示すとおりである。

調査結果は、昼間が63～65dB、夜間が53～54dBであった。

環境基準及び要請限度との比較では、いずれの地点も基準値を下回った。

表 3.3-5　道路交通騒音調査結果

調査地点		用途地域	地域類型	時間区分	騒音レベル L_{Aeq}(dB)	環境基準(dB)	要請限度(dB)
No.4	塩草町（市道赤津山口線）	第1種住居地域	B	昼間 6時～22時	65	65	75
				夜間 22時～6時	54	60	70
No.5	太子町（市道塩塚線）	準工業地域	C	昼間 6時～22時	63	65	75
				夜間 22時～6時	53	60	70

ウ．地表面の状況等

自動車交通量及び車速の調査結果は、表3.3-6に示すとおりである。

自動車類台数は、No.4が2,481台／日、No.5が1,933台／日であり、いずれの地点も大型車混入率が約20%であった。

道路断面は、図3.3-2に示すとおりである。

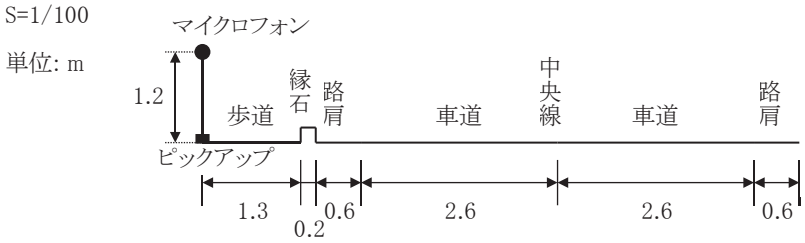
表 3.3-6　交通量等調査結果

調査地点		大型車（台/日）	小型車（台/日）	自動車類合計（台/日）	大型車混入率（%）	二輪車（台/日）	平均車速（km/h）
No. 4	塩草町（市道赤津山口線）	518	1,963	2,481	20.9	41	43.1
No. 5	太子町（市道塩塚線）	423	1,510	1,933	21.9	26	42.8

エ．土地利用の状況

土地利用の状況は、「3.1　大気質　(2)　現況把握　3)　調査結果」に示したとおりである。

測定地点：No.4
路面：密粒アスファルト舗装
縦断勾配：マイクロフォン側(北側)の車道における進行方向　＋2.1%
規制速度：40Km/h



測定地点：No.5
路面：密粒アスファルト舗装
縦断勾配：マイクロフォン側(北側)の車道における進行方向　－1.7%
規制速度：標識・路面記載なし

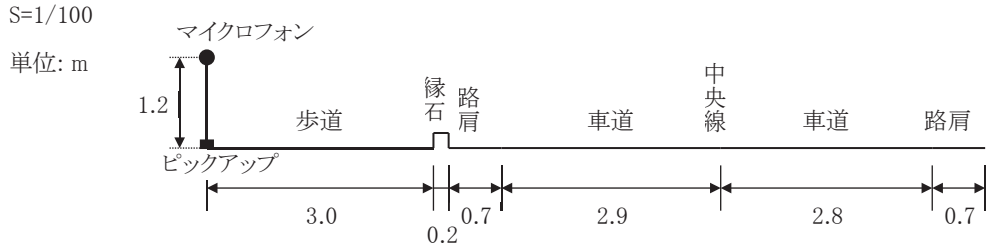


図 3.3-2　道路交通騒音調査地点断面図

(3) 環境保全措置

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。
・工事用車両の点検・整備を十分に行う。
・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。
・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。
・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。
・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。
・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 施設の稼働、埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。また、重機が、原則、複数同時に稼働しないように配慮する。
・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。
・埋立作業時には、流出防止のため、あらかじめ各段の外周に高さ2.5mの盛土の小段を設ける。高速道路側については、常に1.0m以上の土堰堤を設置し作業を行う。

4) 廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。
・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。
・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(4) 予測

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 予測対象時期

予測対象時期は、工事用車両台数が最大となる時期とし、事業計画より、残土搬出による「場外搬出日最大のべ300往復」のピーク日とした。

イ 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行により発生する道路交通騒音レベル（L_{Aeq}）とした。

ウ 予測方法

a 予測地点

住居等の保全対象を考慮して工事用車両が走行するルートより想定した。予測地点は、表3.3-7に示すとおり、工事用車両が走行するルート上のうち、工事用車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点（図3.3-1）とした。

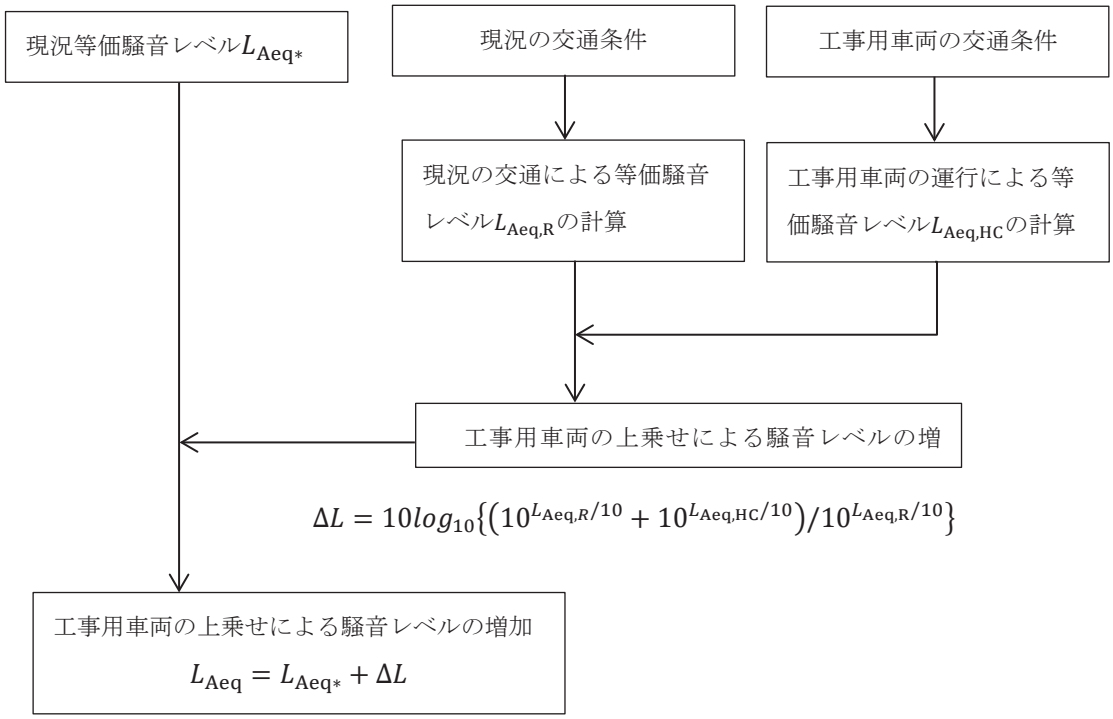
表3.3-7 予測地点

予測地点	
No.5	太子町(市道塩塚線)

b 予測方法

①予測手順

予測手順は、図3.3-3に示すとおり、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に基づき実施した。



注）$L_{Aeq,R}$、$L_{Aeq,HC}$は、日本音響学会のASJ RTN-Modelを用いて計算。
出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

図3.3-3　予測手順

②予測式

予測は、既存道路の現況の等価騒音レベルに、工事用車両の影響を加味した次式を用いて行った。

$$L_{Aeq} = L_{Aeq*} + \Delta L$$
$$\Delta L = log_{10}\{(10^{L_{Aeq,R}/10} + 10^{L_{Aeq,HC}/10})/10^{L_{Aeq,R}/10}\}$$

L_{Aeq*}:現況の等価騒音レベル(dB)
$L_{Aeq,R}$:現況の交通量から、日本音響学会のASJ RTN-Modelを用いて求められる等価騒音レベル(dB)
$L_{Aeq,HC}$:工事用車両の交通量から、日本音響学会のASJ RTN-Modelを用いて求められる等価騒音レベル(dB)

日本音響学会のASJ RTN-Model による計算は、「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2018”（日本音響学会誌75巻4号)」（平成31年4月、日本音響学会）に基づき以下に示す式を用いた。

伝搬計算の基本式

$$L_{A,i} = L_{WA} - 8 - 20log_{10}r_i + \Delta L_{d,i} + \Delta L_{g,i}$$

$L_{A,i}$：A特性音圧レベル（dB）

L_{WA}：自動車走行騒音のA特性パワーレベル（dB）

r_i：音源(i)と予測地点の距離（m）

$\Delta L_{d,i}$: 回折に伴う減衰に関する補正量（dB）

$\Delta L_{g,i}$: 地表面効果による減衰に関する補正量（dB）

なお，地表面効果による減衰に関する補正量は$\Delta L_{g,i}$=0とした。

自動車走行騒音のＡ特性パワーレベル（非定常走行　走行速度：10km/h～60km/h）

大型車類　$L_{wA} = 88.8 + 10log_{10}V$

小型車類　$L_{wA} = 82.3 + 10log_{10}V$

二輪車　　$L_{wA} = 85.2 + 10log_{10}V$

V：走行速度（km/h）

単発騒音暴露レベル計算

$$L_{\mathrm{AE}} = 10log_{10}\frac{1}{T_0}\sum_i 10^{L_{PA,i}/10}\cdot\Delta t_i$$

L_{AE}:単発騒音暴露レベル（dB）

$L_{\mathrm{PA},i}$:A特性音圧レベル（dB）

T_0:基準時間(=1s)

Δt_i:区間iの走行時間(s)

等価騒音レベル計算

$$L_{\mathrm{Aeq}} = 10log_{10}\left(10^{L_{AE}/10}\frac{N_t}{T}\right)$$

L_{Aeq}:等価騒音レベル（dB）

L_{AE}:単発騒音暴露レベル（dB）

N_t:1時間交通量（台/h）

T:基準時間（S）（平均化時間1時間の等価騒音レベルの算出であるため3600秒）

等価騒音レベルの合成計算

$$L_{\mathrm{Aeq},合成} = 10log_{10}\left[\sum 10^{\frac{L_{\mathrm{Aeq}}}{10}}\right]$$

c　予測条件

①交通量

予測対象時点における本事業による工事用車両台数、工事中の基礎交通量は、表3.3-8に示すとおりである。

工事中の基礎交通量は、「3.1 大気質 (4) 予測 1) 資材等の搬入及び搬出」と同様に、騒音の現地調査に併せて実施した平日の交通量現地調査結果を使用した。

②走行速度

走行速度は、「3.1 大気質 (4) 予測 1) 資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

③道路条件

道路条件は、「3.1 大気質 (4) 予測 1) 資材等の搬入及び搬出」と同じとした。音源位置は、各車線の中央部に設定した。予測位置は、図3.3-4に示すとおり、現地調査を行った道路境界とし、高さは1.2m（1階高）とした。

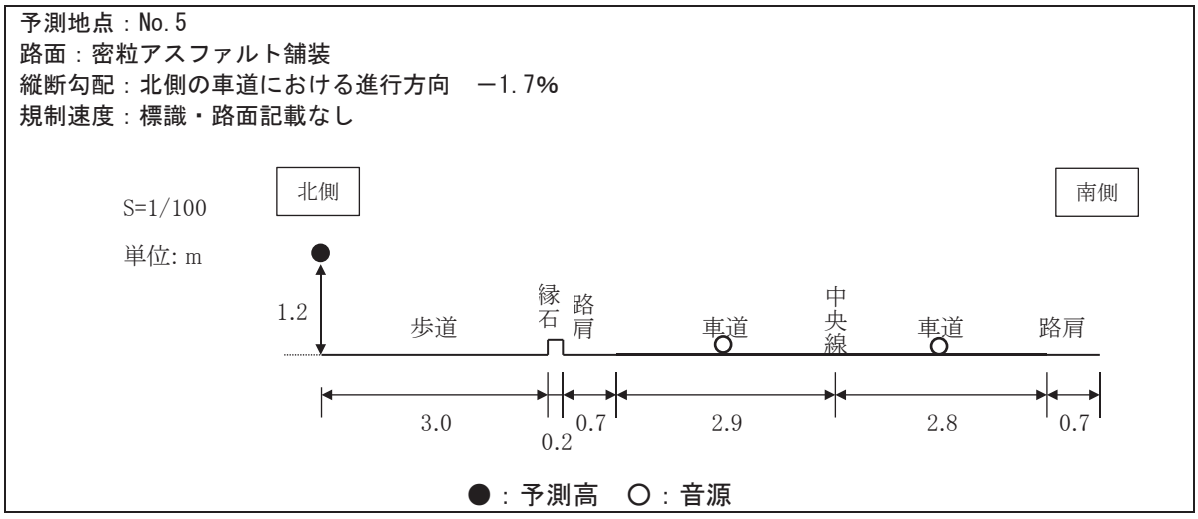


図3.3-4　道路構造と騒音予測地点及び音源位置

表3.3-8　工事中の交通量（No.5）

時間帯	基礎交通量（台）			工事用車両（台）	計（台）		
	大型車	小型車	二輪車	大型車	大型車	小型車	二輪車
6時	13	48	1	—	13	48	1
7時	21	158	2	—	21	158	2
8時	31	114	3	38	69	114	3
9時	39	79	1	38	77	79	1
10時	43	97	0	37	80	97	0
11時	34	83	3	37	71	83	3
12時	34	74	1	—	34	74	1
13時	52	99	1	37	89	99	1
14時	43	99	0	37	80	99	0
15時	44	117	2	38	82	117	2
16時	28	118	1	38	66	118	1
17時	9	140	2	—	9	140	2
18時	7	89	6	—	7	89	6
19時	2	73	1	—	2	73	1
20時	5	25	0	—	5	25	0
21時	2	26	0	—	2	26	0
計	407	1,413	24	300	707	1,413	24

エ　予測結果

予測結果は、表3.3-9に示すとおりである。

工事中の等価騒音レベルは64.3dBと予測した。要請限度、環境基準値を下回る。

本事業の工事用車両の走行による騒音レベルの増加分は1.3dBであった。

表3.3-9　予測結果（工事車両の走行による等価騒音レベル）

予測地点		時間の区分	予測高さ（m）	現況の等価騒音レベル L_{Aeq}①（dB）	工事車両の走行に伴う騒音レベルの増加分②（dB）	工事中の等価騒音レベル L_{Aeq} ①+②（dB）	環境基準（dB）	要請限度（dB）
No.5	太子町(市道塩塚線)	昼間	1.2	63	1.3	64.3	65	75

2)　建設機械の稼働

ア　予測対象時期

工事計画より、重機の稼働台数が大きい「場内造成工(切土・盛土・法面整形)」を対象とした。

イ　予測項目

予測項目は、工事中の重機の稼働により発生する建設作業騒音レベル（L_{A5}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、騒音の最大値出現地点が出現する地点とその騒音レベルを予測した。また、図3.3-1に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、民家を考慮して、1.2m（1階高）とした。

b　予測方法

重機の稼働に伴う騒音の予測は、音の伝播理論に基づく予測式を用いて、予測地点における騒音レベルを算出する方法とした。

①予測手順

予測手順は、図3.3-5に示すとおりである。

②予測式

予測式は、「建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”（日本音響学会誌64巻4号)」（平成21年4月　日本音響学会）に準拠し以下に示す式を用いた。

伝搬計算の基本式

$$L_{AX,X1} = L_{A,emission} - 8 - 20log_{10}r_i + \Delta L_{dif,trns}$$

$L_{AX,X1}$：予測点における騒音評価量（dB）

$L_{A,emission}$：音源の騒音発生量（dB）

r_i：音源iと予測地点の距離（m）

$\Delta L_{dif,trns}$：透過音を考慮した回折による補正量（dB）

透過音を考慮した回折による補正($\Delta L_{dif,trns}$)

$$\Delta L_{dif,trns} = 10log_{10}\left(10^{\Delta L_d/10} + 10^{-R/10}\right)$$

ΔL_d：回折減衰量（dB）

R：遮音材の音響透過損失（dB）＝10dB

回折による補正量（ΔL_d）

・予測地点から音源が見えない場合

$$\Delta L_d = \begin{cases} -10log_{10}\delta - a & \delta \geq 1 \\ -5 - bsinh^{-1}(\delta^c) & 0 \leq \delta < 1 \end{cases}$$

・予測地点から音源が見える場合

$$\Delta L_d = \begin{cases} -5 + bsinh^{-1}(\delta^c) & 0 < \delta \leq d \\ 0 & d < \delta \end{cases}$$

δ：行路差（m）

定数	ユニット・建設機械	建設工事用運搬車両
a	18.4	20.0
b	15.2	17.0
c	0.42	0.414
d	0.073	0.053

建設作業騒音レベル（L_{A5}）

$$L_{A5} = 10log_{10}\sum_{i=1}^{n} 10^{L_{AX,X_1}/10}$$

L_{A5}：建設作業騒音レベル（dB）

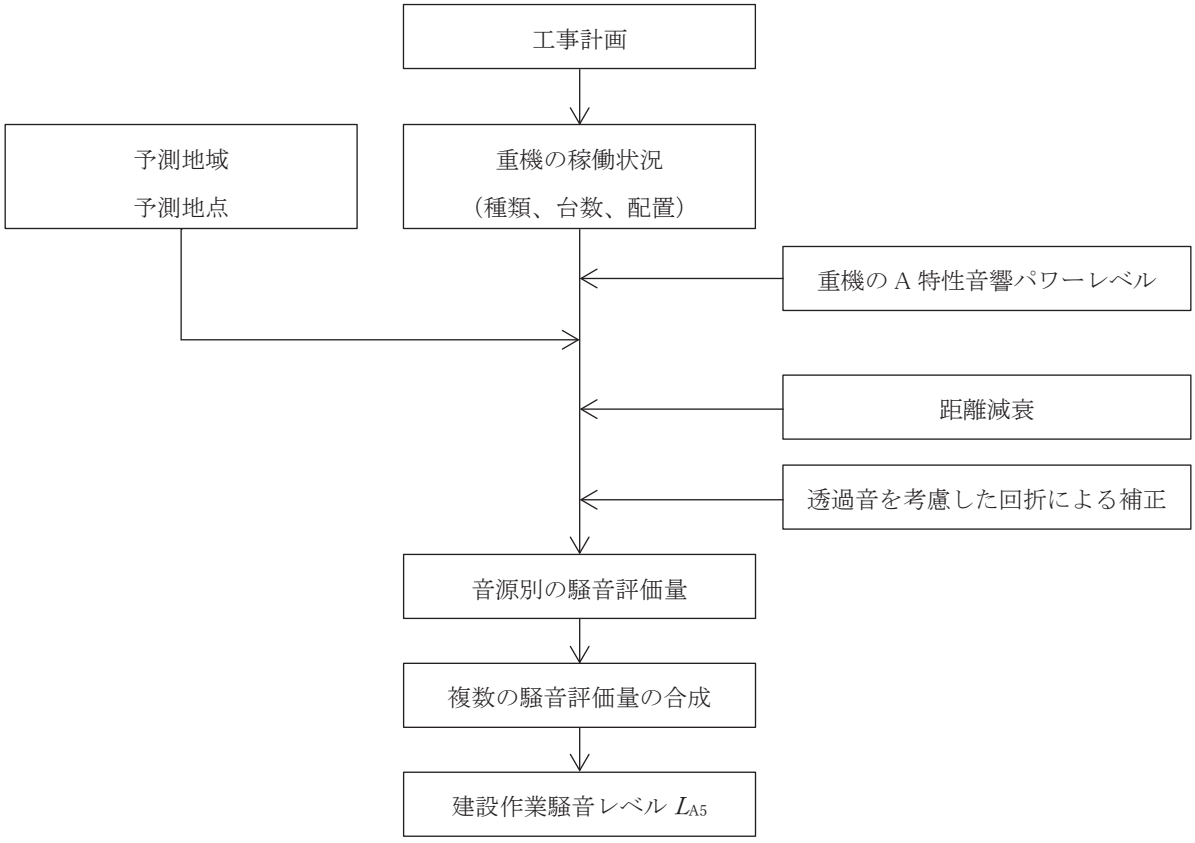


図3.3-5　予測手順

c　予測条件

①重機の稼働台数、騒音レベル等

予測対象時期の重機の種類、稼働台数及び騒音レベルは、表3.3-10に示すとおりである。

表3.3-10　重機の種類及び台数等

重機	定格出力 (kW)	稼働台数 (台/日)	騒音レベル (dB)	備考
バックホウ 0.35m^{3}級	60	3	104	
バックホウ 0.60m^{3}級	104	5	106	
ブルドーザ 21t級	152	2	105	
ブルドーザ 15t級	100	2	105	
ダンプトラック 11t	190	6	102	建設工事用運搬車両

注1) 「定格出力」は、「令和3年度　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）より設定した。

注2) 騒音レベルは「低騒音型・低振動型機械の指定に関する規定」（平成9年7月　建設省告示1536号）より設定した。

注3) 音源高さは、「建設工事騒音の予測モデル ”ASJ CN-Model 2007”（日本音響学会誌64巻4号)」（平成20年4月、日本音響学会）により地上1.5mとした。

②音源の位置

音源の位置は予測時期の重機の稼働範囲を想定し、図3.3-6に示すとおりとした。

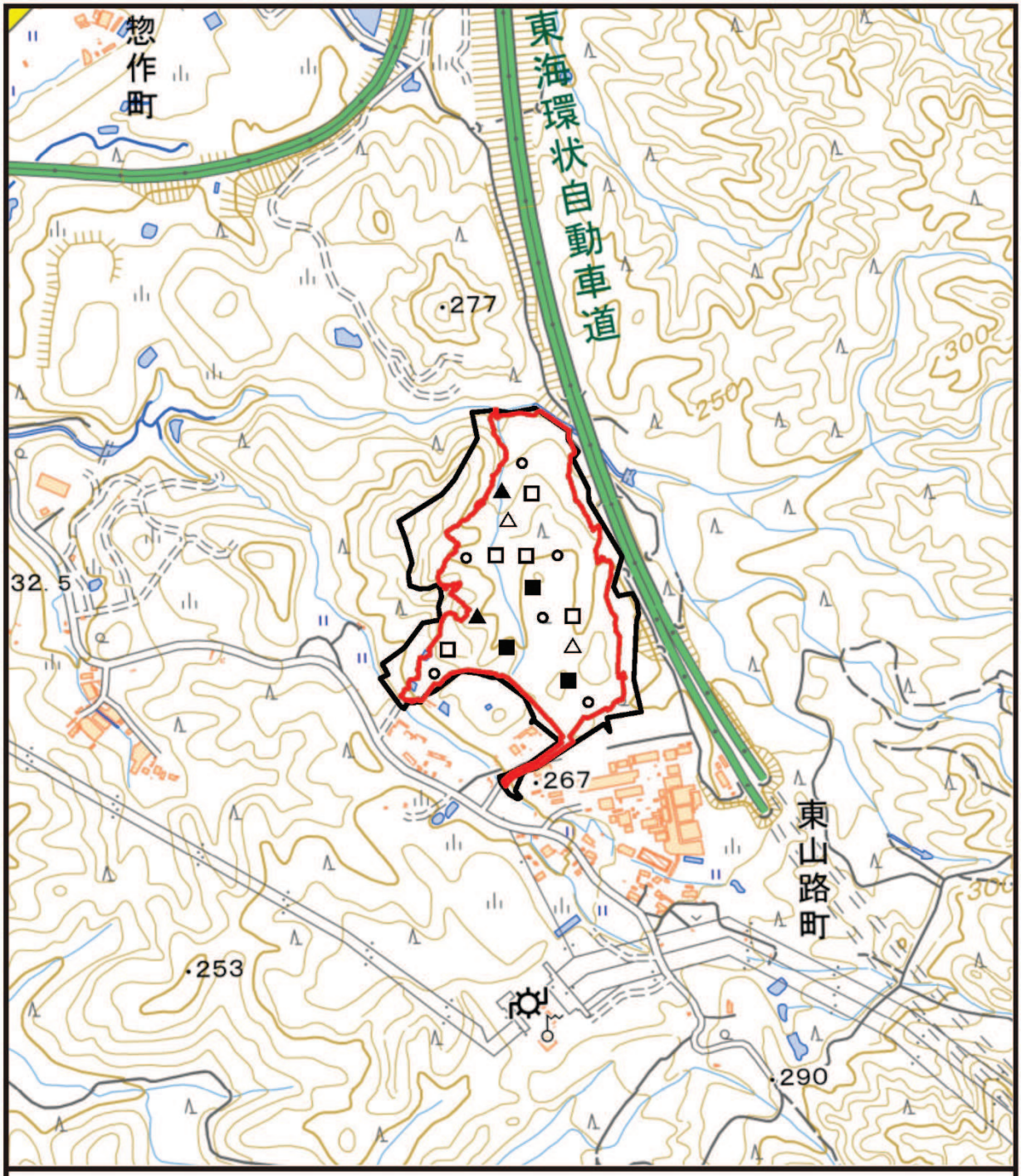

惣作町
東海環状自動車道
277
250
300
32.5
267
東山路町
253
290
凡　例
：対象事業実施区域
：改変区域
■：バックホウ0.35m 級　3台
□：バックホウ0.60m 級　5台
▲：ブルトーザ21t級　2台
△：ブルトーザ15t級　2台
o：ダンプトラック11t級　6台
N
1:10,000
0　100　200　400m

図 3.3-6　重機の位置

エ　予測結果

重機の稼働に伴う建設作業騒音レベルの予測結果は、表3.3-11及び図3.3-7に示すとおりである。

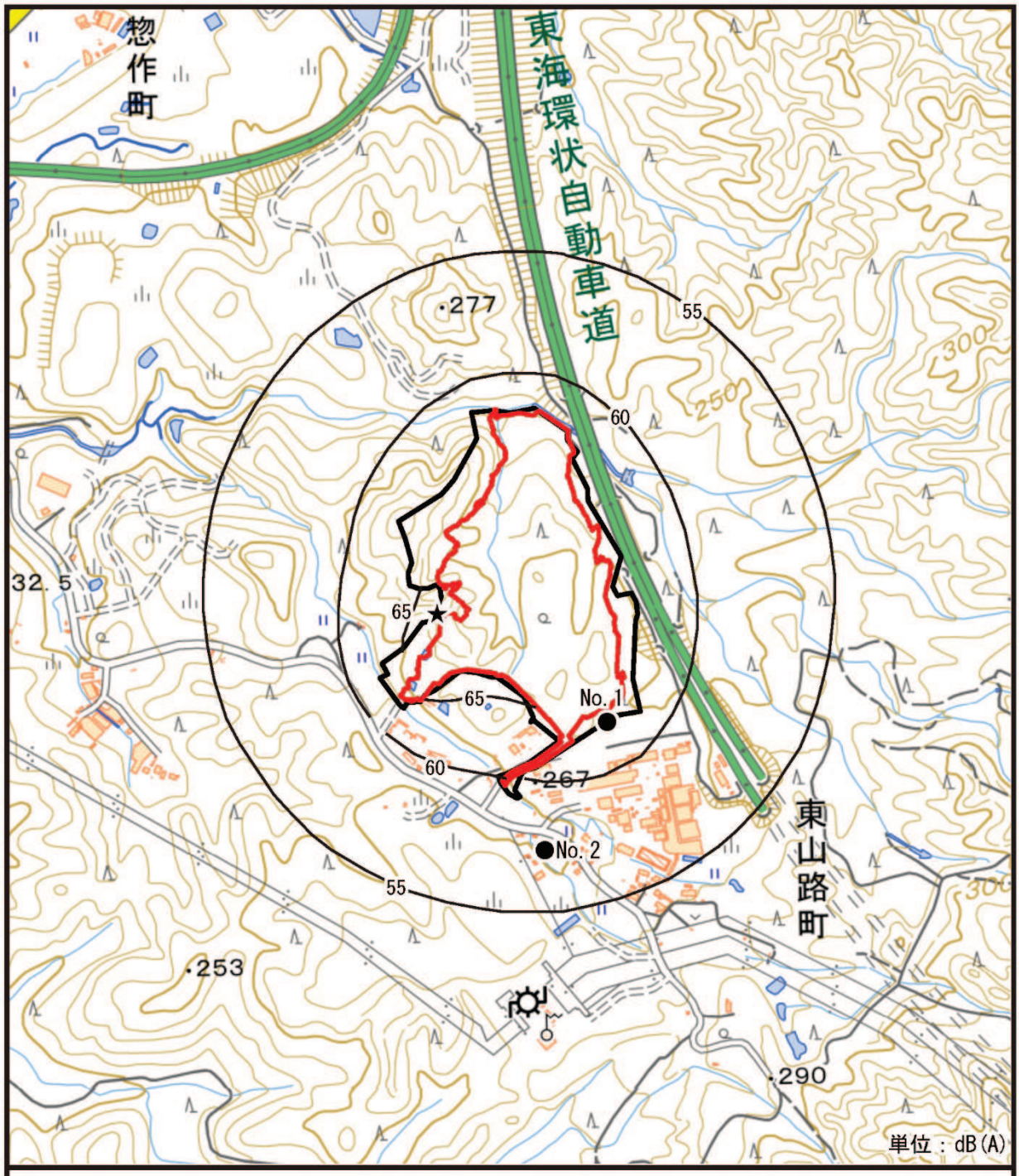
重機の稼働に伴う建設作業騒音レベルの最大値は、敷地境界で68.5dB（西側）となり、騒音規制法の特定建設作業騒音に係る規制基準値を下回ると予測した。

なお、保全対象であるNo.2地点の建設作業騒音レベルは、57.0dBと予測した。

表3.3-11　重機の稼働に伴う建設作業騒音レベルの予測結果

予測地点	予測高さ (m)	建設作業騒音レベル L_{A5}(dB)	騒音規制法特定建設作業騒音に係る基準 (dB)	建設作業による等価騒音レベル (dB)
最大値出現地点	1.2	68.5	85	—
No.1 敷地境界	1.2	64.8		
No.2 民家	1.2	57.0	—	53.4

注) 騒音規制法の特定建設作業騒音に係る規制基準は工事区域の敷地境界上での基準であるため、保全対象地点へは適用しない。等価騒音レベルの算出に当たり、重機等の稼働時間は昼間(16 時間)のうち、7 時間とした。



凡　例

□：対象事業実施区域

□：改変区域

★：最大騒音レベル地点

●：予測地点(No.1, No.2)

——：等騒音レベル線

図3.3-7　重機の稼働に伴う騒音レベル

N

1:10,000

0　100　200　400m

3)　施設の稼働、埋立作業

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、埋立重機の稼働により発生する建設作業騒音レベル（L_{A5}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、騒音の最大値出現地点が出現する地点とその騒音レベルを予測した。また、図3.3-1に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、民家を考慮して、1.2m（1階高）とした。

b　予測方法

予測方法は、「2)　建設機械の稼働」と同様とした。

埋立作業時には、流出防止のため、あらかじめ各段の外周に高さ2.5mの盛土の小段を設けることから、計算にあたり、埋立区域外周に高さ2.5mの遮音壁を設定 した。

c　予測条件

①埋立重機台数、騒音レベル等

埋立作業の重機の種類、稼働台数及び騒音レベルは、表3.3-12に示すとおりである。

表 3.3-12　重機の種類及び台数等

重機	定格出力 (kW)	稼働台数 (台/日)	騒音レベル (dB)	備考
バックホウ 0.2m^{3}級	41	1	99	
バックホウ 0.60m^{3}級	104	3	106	
トラッシュコンパクタ	152	1	105	ブルドーザ 21t級相当

注1)「定格出力」は、「令和3年度　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）より設定した。
注2) 騒音レベルは「低騒音型・低振動型機械の指定に関する規定」（平成9年7月　建設省告示1536号）より設定した。
注3) 音源高さは、「建設工事騒音の予測モデル ”ASJ CN-Model 2007”（日本音響学会誌64巻4号)」（平成20年4月、日本音響学会）により地上1.5mとした。

②音源の位置

音源の位置は図3.3-8に示すとおりとした。

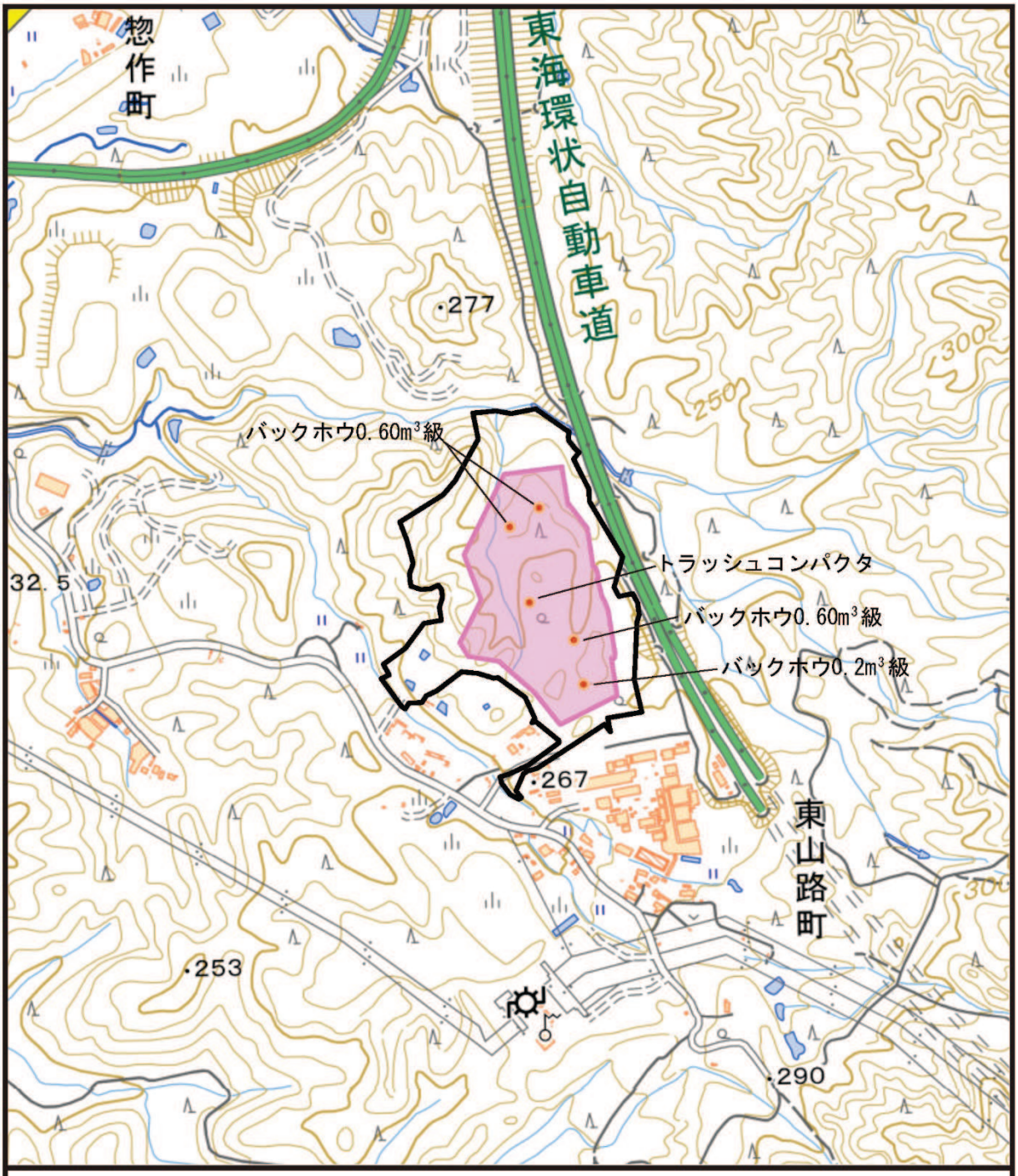


図 3.3-8　埋立重機の位置

エ　予測結果

埋立作業に伴う騒音レベルの予測結果は、表3.3-13及び図3.3-9に示すとおりである。

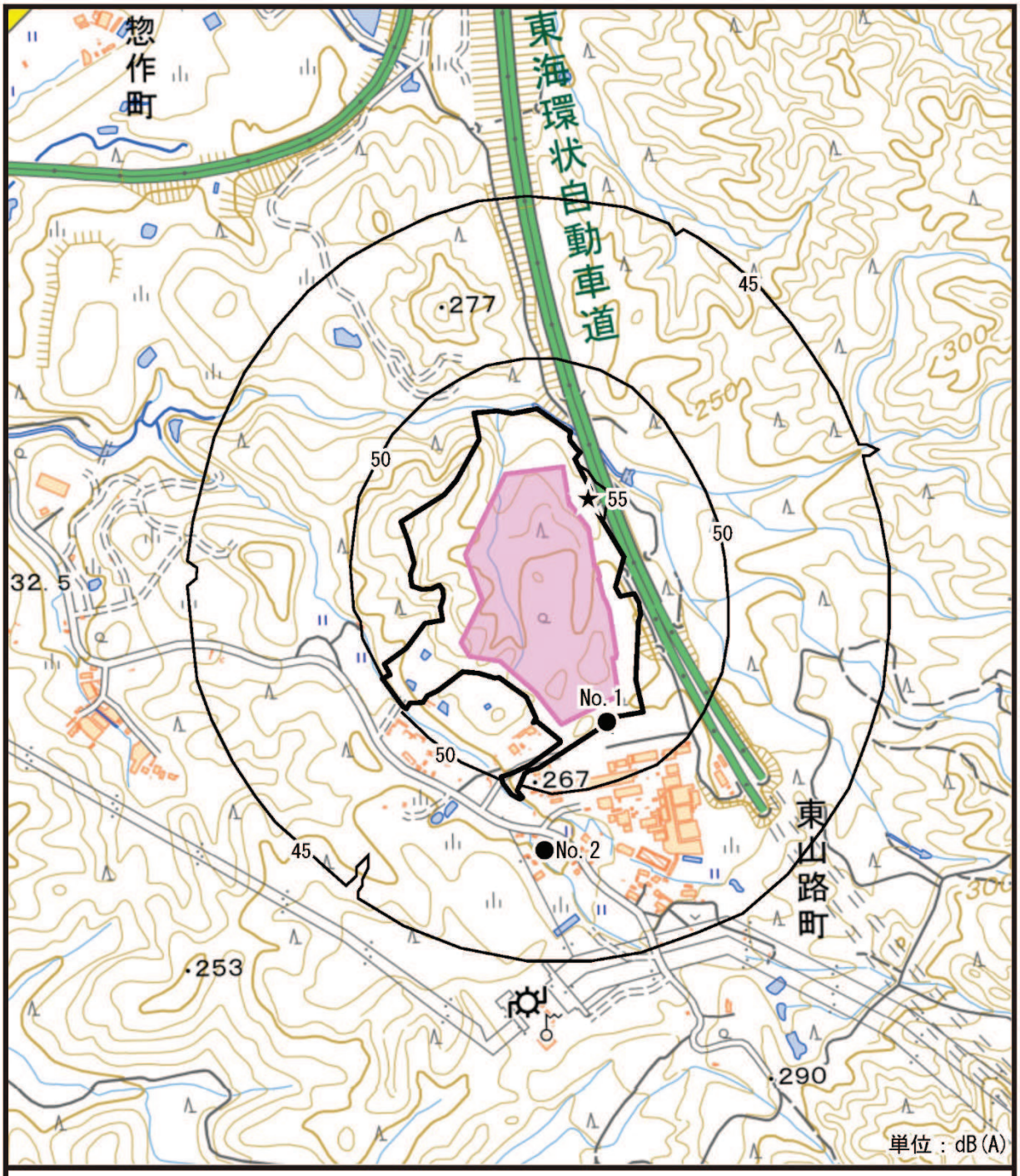
埋立作業に伴う騒音レベルの最大値は、敷地境界で55.9dB（東側）となり、騒音規制法の特定工場等において発生する騒音の規制に関する規制基準値(第3種区域・昼間)を下回ると予測した。

なお、保全対象であるNo.2地点の埋立作業に伴う騒音レベルは、48.0dBと予測した。

表3.3-13　埋立作業に伴う騒音レベルの予測結果

予測地点	予測高さ(m)	騒音レベル L_{A5}(dB)	騒音規制法 特定工場等において発生する騒音の規制に関する規制基準 (第3種区域・昼間) (dB)	等価騒音レベル (dB)
最大値出現地点	1.2	55.9	60	—
No.1 敷地境界	1.2	53.1	60	
No.2 民家	1.2	48.0	60	44.4

注) 等価騒音レベルの算出に当たり、重機等の稼働時間は昼間(16 時間)のうち、7 時間とした。



凡　例

□ ：対象事業実施区域

■ ：埋立地

★ ：最大騒音レベル地点

● ：予測地点(No.1, No.2)

—— ：等騒音レベル線

図3.3-9　埋立作業に伴う騒音レベル

N

1:10,000

0　100　200　400m

4)　廃棄物運搬車両の走行

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、廃棄物運搬車両の走行により発生する道路交通騒音レベル（L_{Aeq}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

住居等の保全対象を考慮して廃棄物運搬車両が走行するルートより想定した。予測地点は、表3.3-14に示すとおり、廃棄物運搬車両が走行するルート上のうち、廃棄物運搬車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点（図3.3-1）とした。

表3.3-14　予測地点

予測地点	
No.5	太子町(市道塩塚線)

b　予測方法

予測方法は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

c　予測条件

①交通量

予測対象時点における本事業による廃棄物運搬車両台数、基礎交通量は、表3.3-15に示すとおりである。

基礎交通量は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同様に、騒音の現地調査に併せて実施した平日の交通量現地調査結果を使用した。

②走行速度

走行速度は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

③道路条件

道路条件は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。音源位置は、各車線の中央部に設定した。予測位置は、図3.3-4（既出）に示すとおり、現地調査を行った道路境界とし、高さは1.2m（1階高）とした。

表3.3-15　供用時の交通量（No.5）

時間帯	基礎交通量（台）			廃棄物搬入車両（台）	計（台）		
	大型車	小型車	二輪車	大型車	大型車	小型車	二輪車
6時	13	48	1	—	13	48	1
7時	21	158	2	—	21	158	2
8時	31	114	3	14	38	114	3
9時	39	79	1	14	46	79	1
10時	43	97	0	14	49	97	0
11時	34	83	3	13	40	83	3
12時	34	74	1	—	34	74	1
13時	52	99	1	13	58	99	1
14時	43	99	0	14	49	99	0
15時	44	117	2	14	50	117	2
16時	28	118	1	14	34	118	1
17時	9	140	2	—	9	140	2
18時	7	89	6	—	7	89	6
19時	2	73	1	—	2	73	1
20時	5	25	0	—	5	25	0
21時	2	26	0	—	2	26	0
計	407	1,413	24	110	457	1,413	24

エ　予測結果

予測結果は、表3.3-16に示すとおりである。

供用時の等価騒音レベルは63.6dBと予測した。

いずれの地点も要請限度、環境基準値を下回る。

本事業の廃棄物運搬車両の走行による騒音レベルの増加分は0.6dBであった。

表3.3-16　予測結果（廃棄物運搬車両の走行による等価騒音レベル）

予測地点		時間の区分	予測高さ（m）	現況の等価騒音レベル L_{Aeq}①（dB）	廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音レベルの増加分②（dB）	供用時の等価騒音レベル L_{Aeq} ①+②（dB）	環境基準（dB）	要請限度（dB）
No.5	太子町(市道塩塚線)	昼間	1.2	63	0.6	63.6	65	75

(5) 影響の分析

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、工事用車両の走行に伴う騒音レベルの影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、道路交通騒音レベルが、表3.3-17に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.3-17 整合を図る基準（資材等の運搬及び搬出）

・「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日 環境庁告示第64号） ・「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」（平成12年3月2日総理府令第15号）

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、工事用車両の点検・整備、車両等のアイドリングストップ等の指導により、工事用車両の走行に伴う騒音への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、工事用車両の走行に伴う工事中の道路交通騒音レベルは環境基準値及び「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」に基づく基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

2) 建設機械の稼働

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、重機の稼働に伴う騒音の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、重機の稼働による騒音レベルが、表3.3-18に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.3-18 整合を図る基準（建設機械の稼働）

・「特定建設作業に伴つて発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年11月27日 厚生省・建設省告示1号）

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、重機の十分な点検・整備の実施、低騒音型建設機械の使用、工事の平準化、重機のアイドリングストップ等の指導・教育等により、重機の稼働に伴う騒音への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、重機の稼働に伴う騒音レベルは、「特定建設作業に伴つて発生する騒音の規制に関する基準」の規制基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3)　施設の稼働、埋立作業

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、埋立重機の稼働に伴う騒音の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、埋立重機の稼働に伴う騒音レベルが、表3.3-19に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.3-19　整合を図る基準（施設の稼働、埋立作業）

・「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年11月27日 厚生省・建設省告示1号）

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、埋立重機の点検・整備の実施、重機のアイドリングストップ、低騒音型建設機械の使用等により、埋立重機に伴う騒音への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、埋立重機の稼働に伴う騒音レベルは、「特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準」の規制基準値を下回ることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

4)　廃棄物運搬車両の走行

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音レベルの影響が、環境保全対策等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、道路交通騒音レベルが、表3.3-20に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.3-20　整合を図る基準（廃棄物運搬車両の走行）

・「騒音に係る環境基準について」（平成10年9月30日 環境庁告示第64号） ・「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」（平成12年3月2日総理府令第15号）

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、廃棄物運搬車両の点検・整備、車両等のアイドリングストップ等の指導により、廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、廃棄物運搬車両の走行に伴う工事中の道路交通騒音レベルは環境基準値及び「騒音規制法第17条第1項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める省令」に基づく基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.4 振動

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査地点は、工事による重機の稼働、埋立作業及び施設稼働の影響が考えられる対象事業実施区域に近接した民家及び対象事業実施区域境界(環境振動)、工事車両及び廃棄物運搬車両が集中する道路沿道の集落及び配慮を要する施設がある道路沿道（道路交通振動）とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.4-1に示すとおりである。

表 3.4-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
振動レベル	環境振動
	道路交通振動
地盤の状況等	地盤の状況 道路構造
	時間別交通量
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査地点は、図3.3-1（既出）に示すとおり、騒音調査と同じとした。

土地利用の状況の調査範囲は対象事業実施区域周辺とした。

地盤の状況等は道路交通振動地点（No.4及びNo.5）で実施した。

イ 調査時期

現地調査期間は、表3.4-2に示すとおり、平日の1日間（24時間）とした。

表 3.4-2 調査期間等（現地調査）

調査項目		調査期間等
振動レベル	環境振動 道路交通振動	2020年12月1日(火)12時～2日(水)12時
地盤の状況等	地盤の状況 道路構造 時間別交通量	
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布	現地踏査及び既存資料の整理とした。

※環境振動のNo.3地点のみ“2021年1月20日(水)12時～21日(木)12時”に実施した。

ウ　調査方法

調査方法は、表3.4-3に示すとおりである。

表 3.4-3　調査方法

調査項目		調査方法	調査方法の概要
振動レベル	環境振動	「特定工場等において発生する振動に関する基準」（昭和51年環境庁告示第90号）に準じた。	測定高は地表面とし、振動感覚補正が鉛直振動特性として、24時間連続測定した。
	道路交通振動	「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）	
地盤の状況等	地盤の状況	地盤卓越振動数を大型車の走行を対象に1/3オクターブバンド分析器により測定した。	
	走行速度	あらかじめ設定した区間において、ストップウォッチを用いて、目視により車両が通過する時間を計測した。	
	道路構造等	調査地点の道路断面を巻尺により計測した。	
	時間別交通量	ハンドカウンターを用いて、時間帯別・車種別・方向別の自動車台数を計測した。	
土地利用	土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。	

3)　調査結果

ア　環境振動

環境振動の調査結果は、表3.4-4に示すとおりである。

振動レベルは、17～43dBであった。

特定工場等において発生する振動の規制に関する規制基準(第2種区域)との比較では、すべての地点で昼間、夜間ともに基準値を下回った。

表 3.4-4　環境振動調査結果

単位：dB

区分＼時間帯	振動レベル L_{10}（各時間帯の時間最大値）	
	昼間 （7 時～20 時）	夜間 （20 時～7 時）
No. 1	37	32
No. 2	27	17
No. 3	43	30
特定工場等において発生する振動の規制に関する規制基準（第 2 種区域）	65	60

備考　対象事業実施区域は市街化調整区域であり、第 2 種区域の規制基準と比較した。

イ　道路交通振動

道路交通振動の調査結果は、表3.4-5に示すとおりである。

調査結果は、21～32dBであった。

道路交通振動に係る要請限度との比較では、いずれの地点も基準値を下回った。

表 3.4-5　道路交通振動調査結果

調査地点		用途地域	地域区分	時間区分	振動レベル L_{10} (dB)	要請限度 (dB)
No.4	塩草町（市道赤津山口線）	第1種住居地域	第1種	昼間 7時～20時	27	65
				夜間 20時～7時	21	60
No.5	太子町（市道塩塚線）	準工業地域	第2種	昼間 7時～20時	32	70
				夜間 20時～7時	22	65

備考　振動レベルは、各時間帯の最大値である。

ウ．地盤の状況等

自動車交通量及び車速、道路断面は「3.3　騒音　(2)　現況把握　3)　調査結果」に示したとおりである。

地盤卓越振動数の調査結果は、表3.4-6に示すとおりである。

表 3.4-6 調査結果

調査地点		地盤卓越振動数 (Hz)
No. 4	塩草町（市道赤津山口線）	25.7
No. 5	太子町（市道塩塚線）	22.3

エ．土地利用の状況

土地利用の状況は、「3.1　大気質　(2)　現況把握　3)　調査結果」に示したとおりである。

(3) 環境保全措置

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。

・工事用車両の点検・整備を十分に行う。

・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。

・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。

・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。

・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。

・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。

・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 施設の稼働、埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。

・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。また、重機が、原則、複数同時に稼働しないように配慮する。

・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。

4) 廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。

・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(4) 予測

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 予測対象時期

予測対象時期は、工事用車両台数が最大となる時期とし、事業計画より、残土搬出による「場外搬出日最大のべ300往復」のピーク日とした。

イ 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行により発生する道路交通振動レベル（L_{10}）とした。

ウ 予測方法

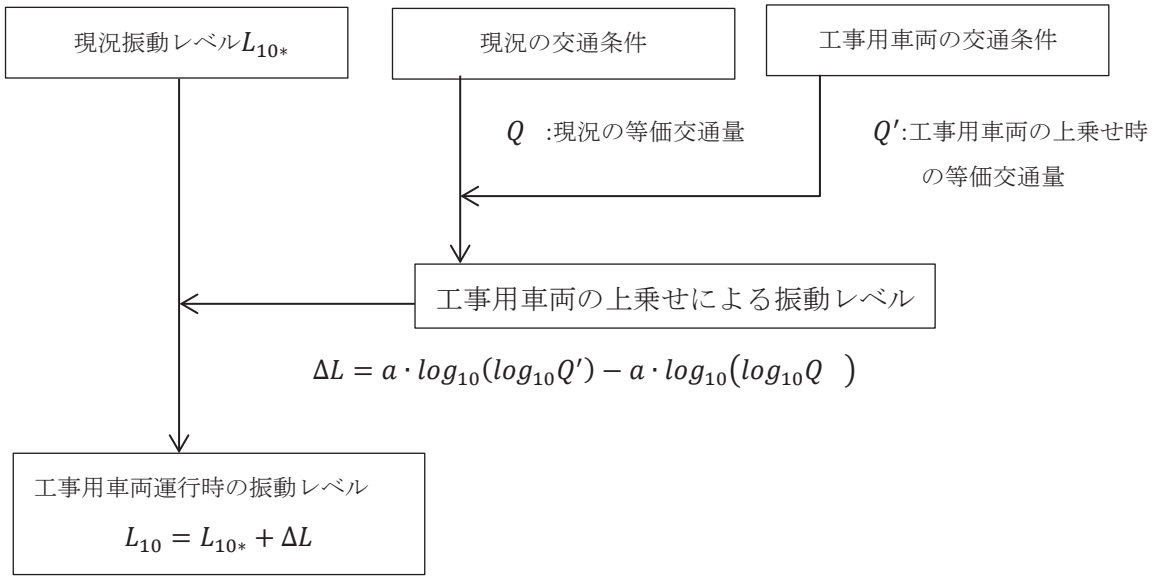
a 予測地点

住居等の保全対象を考慮して工事用車両が走行するルートより想定した。予測地点は、「3.3 騒音 (4) 予測 1) 資材等の搬入及び搬出」と同じ、工事用車両が走行するルート上のうち、工事用車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点（図3.3-1・No.5）とした。

b 予測方法

①予測手順

予測手順は、図3.4-1に示すとおり、「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）に基づき実施した。



出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」
（平成 25 年 3 月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

図3.4-1 予測手順

②予測式

予測は、既存道路の現況の振動レベルに、工事用車両の影響を加味した次式を用いて行った。

$$L_{10} = L_{10*} + \Delta L$$

$$\Delta L = a \cdot log_{10}(log_{10}Q') - a \cdot log_{10}(log_{10}Q \quad)$$

L_{10}：振動レベルの80%レンジの上端値の予測値（dB）

L_{10*}：現況の振動レベルの80%レンジの上端値（dB）

ΔL：工事用車両による振動レベルの増分（dB）

Q'：工事用車両の上乗せ時の500秒間の１車線あたり等価交通量（台/500秒間/車線）

$$Q' = \frac{500}{3600} \times \frac{1}{M} \times \{N_L + K(N_H + N_{HC})\}$$

N_L：現況の小型車類時間交通量（台/時）

N_H：現況の大型車時間交通量（台/時）

N_{HC}：工事用車両台数（台/時）

Q　：現況の500秒間の１車線あたり等価交通量（台/500秒間/車線）

K：大型車の小型車への換算係数（車速100km/h以下のとき13）

M：上下車線合計の車線数

a：定数（平面道路では47）

c　予測条件

①交通量

予測対象時点における本事業による工事用車両台数、工事中の基礎交通量は、「3.3 騒音 (4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

②走行速度

走行速度は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

③道路条件

道路条件は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。予測位置は、図3.4-2に示すとおり、現地調査を行った道路境界とし、高さは地表面とした。

予測地点：No.5

路面：密粒アスファルト舗装

縦断勾配：北側の車道における進行方向　－1.7%

規制速度：標識・路面記載なし

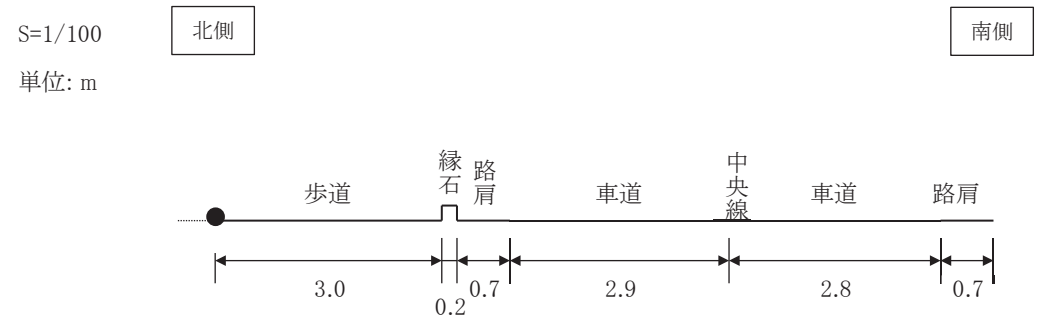


図3.4-2　道路構造と振動予測地点

エ　予測結果

予測結果は、表3.4-7に示すとおりである。

工事中の振動レベルは34.3dBであり、道路交通振動に係る要請限度を下回ると予測した。

本事業の工事用車両の走行による振動レベルの増加分は2.3dBであった。

表3.4-7　予測結果（工事用車両の走行による振動レベル）

予測地点		予測時間帯		現況の振動レベル L_{10}① (dB)	工事車両の走行に伴う振動レベルの増加分② (dB)	工事中の振動レベル L_{10} ①+② (dB)	要請限度 (dB)
No.5	太子町(市道塩塚線)	昼間	13時	32	2.3	34.3	70

注 1) 時間区分は、昼間 7 時から 20 時とした。

注2) 各地点において、工事車両の運行がある昼間の時間区分で工事中の振動レベルの1時間値が最大となる時間帯における予測結果を示す。

注3) 要請限度は道路交通振動に係る要請限度を示す。

2)　建設機械の稼働

ア　予測対象時期

工事計画より、重機の稼働台数が大きい「場内造成工(切土・盛土・法面整形)」を対象とした。

イ　予測項目

予測項目は、工事中の重機の稼働により発生する建設作業振動レベル（L_{10}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、振動の最大値出現地点が出現する地点とその振動レベルを予測した。また、図3.3-1に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、地表面とした。

b　予測方法

重機の稼働に伴う振動の予測は、振動の伝播理論に基づく予測式を用いて、予測地点における振動レベルを算出する方法とした。

①予測手順

予測手順は、図3.4-3に示すとおりである。

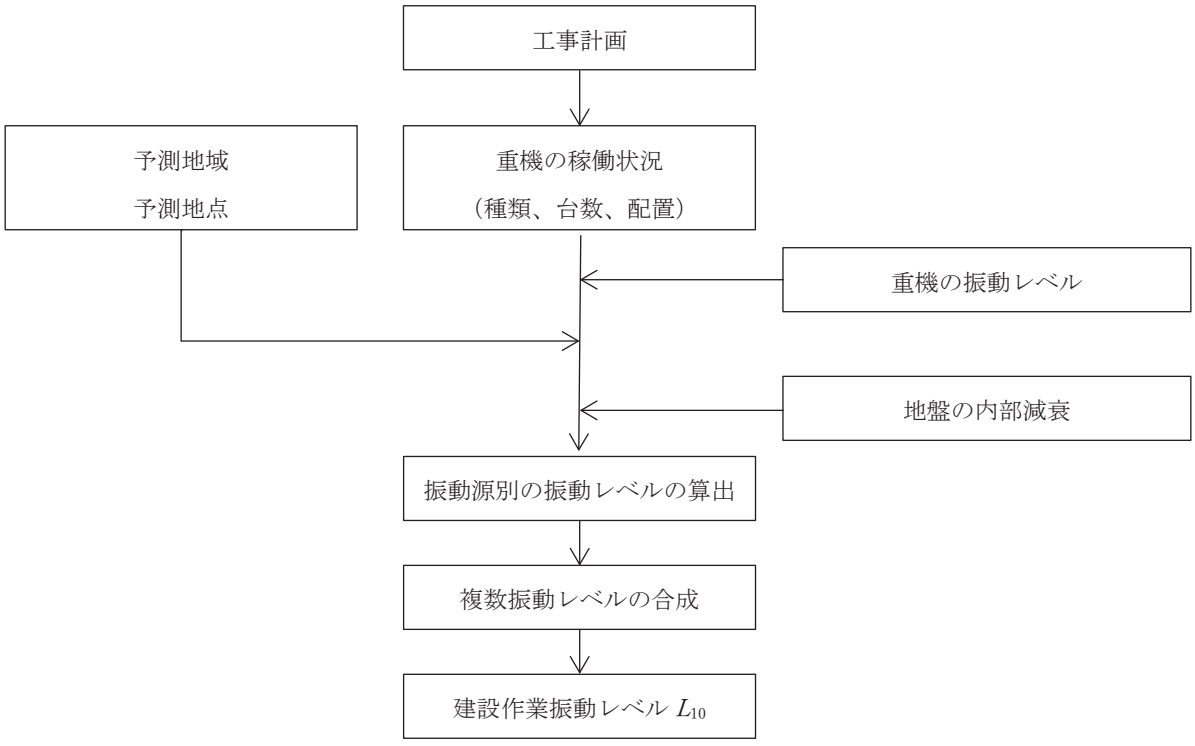


図3.4-3　予測手順

②予測式

予測式は振動の伝搬理論式を用いた。

$$L_r = L_{r_0} - 15log_{10}\frac{r}{r_0} - 8.68\alpha(r - r_0)$$

L_r: 重機の予測地点における振動レベル（dB）

L_{r_0}: 重機の基準点における振動レベル（dB）

r : 重機の稼働位置から予測点までの距離（m）

r_0 : 重機の稼働位置から基準点までの距離（m）

α : 内部減衰係数（固結地盤0.001とした。）

出典：「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」

（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

c　予測条件

①重機の稼働台数、振動レベル等

予測対象時期の重機の種類及び稼働台数は「3.3 騒音（4）予測　2）建設機械の稼働」と同じとした。重機の基準距離における振動レベルは、表3.4-8に示すとおりである。

表3.4-8　重機の種類及び台数等

重機	定格出力 (kW)	稼働台数 (台/日)	振動レベル (dB)	基準距離 (m)	出典	備考
バックホウ0.35m³級	60	3	55	15	①	
バックホウ0.60m³級	104	5	55	15	①	
ブルドーザ 21t級	152	2	64	5	②	40t 級足回り弾性支持あり、2 速前進
ブルドーザ 15t級	100	2	64	5	②	40t 級足回り弾性支持あり、2 速前進
ダンプトラック11t	190	6	57	5	③	現場内運搬(未舗装)

注 1)「定格出力」は、「令和 3 年度　建設機械等損料表」（一般社団法人　日本建設機械施工協会）より設定した。

注 2) 出典は以下のとおりである。

① 低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成 9 年 7 月 31 日建設省告示第 1536 号）

②「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック　第 3 版」（平成 13 年、（社）日本建設機械化協会）

③「道路環境影響評価の技術手法（平成 24 年度版）

（平成25年3月、国土交通省 国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所）

②振動源の位置

振動源の位置は「3.3 騒音（4）予測　2）建設機械の稼働」と同じとした。

エ　予測結果

重機の稼働に伴う建設作業振動レベルの予測結果は、表3.4-9及び図3.4-4に示すとおりである。

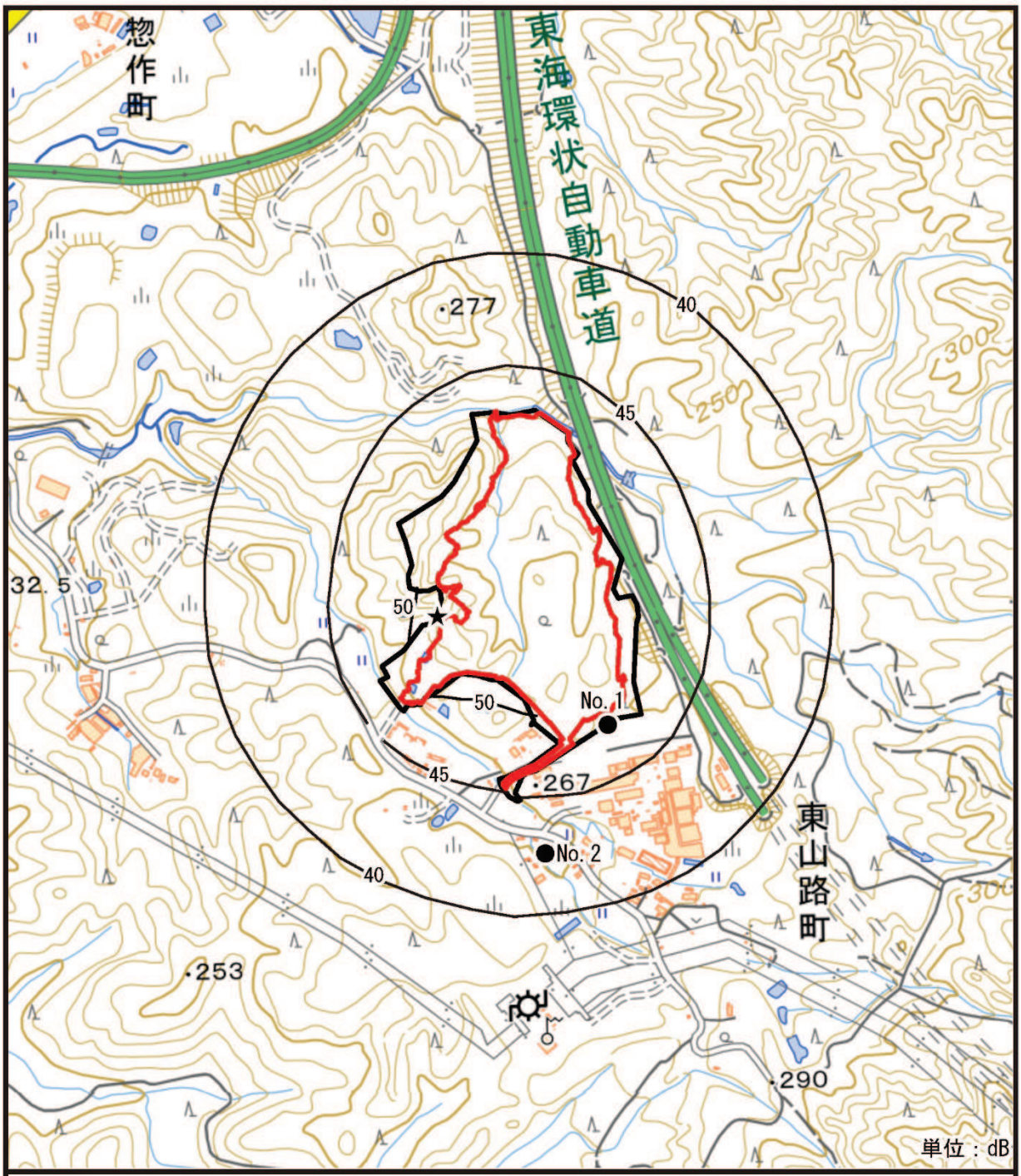
重機の稼働に伴う建設作業振動レベルの最大値は、対象事業実施区域境界（西側）で52.9dBとなり、振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準値を下回ると予測した。

なお、保全対象である民家の建設作業振動レベルは、42.3dBと予測した。

表3.4-9　重機の稼働に伴う建設作業振動レベルの予測結果

予測地点	建設作業振動レベル L_{10}(dB)	振動規制法 特定建設作業振動 に係る基準 (dB)
最大値出現地点	52.9	75
No.1 敷地境界	49.2	
No.2 近傍民家	42.3	―

注）振動規制法の特定建設作業振動に係る規制基準値は工事区域の敷地境界上での基準であるため、保全対象地点へは適用しない。



凡　例

□ ：対象事業実施区域

□ ：改変区域

★ ：最大騒音レベル地点

● ：予測地点（No. 1, No. 2）

—— ：等振動レベル線

図 3.4-4　重機の稼働に伴う振動レベル

N

1:10,000

0　100　200　400m

3)　施設の稼働、埋立作業

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、埋立重機の稼働により発生する建設作業振動レベル（L_{10}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測地点は設定せず、平面分布（平面コンター）を描いて、振動の最大値出現地点が出現する地点とその振動レベルを予測した。また、図3.3-1に示す敷地境界(No.1)、保全対象である対象事業実施区域近傍の民家等（No.2）についても予測した。予測高さは、地表面とした。

b　予測方法

予測方法は、「2)　建設機械の稼働」と同様とした。

c　予測条件

①重機の稼働台数、振動レベル等

予測対象時期の重機の種類及び稼働台数は「3.3 騒音（4）予測　3）施設の稼働、埋立作業」と同じとした。重機の基準距離における振動レベルは、表3.4-10に示すとおりである。

表3.4-10　重機の種類及び台数等

重機	定格出力 (kW)	稼働台数 (台/日)	振動レベル (dB)	基準距離 (m)	出典	備考
バックホウ0.2㎥級	41	1	55	15	①	
バックホウ0.60㎥級	104	3	55	15	①	
トラッシュコンパクタ	152	1	64	5	②	ブルドーザ 21t 級 ((40t 級足回り弾性支持あり、2 速前進)

注 1)「定格出力」は、「令和 3 年度　建設機械等損料表」(一般社団法人　日本建設機械施工協会）より設定した。
注 2) 出典は以下のとおりである。
① 低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（平成 9 年 7 月 31 日建設省告示第 1536 号）
②「建設工事に伴う騒音振動対策ハンドブック　第 3 版」(平成 13 年、(社) 日本建設機械化協会）

②振動源の位置

振動源の位置は「3.3 騒音（4）予測　3）施設の稼働、埋立作業」と同じとした。

エ　予測結果

埋立作業に伴う振動レベルの予測結果は、表3.4-11及び図3.4-5に示すとおりである。

埋立作業に伴う振動レベルの最大値は、対象事業実施区域境界（南側）で47.1dBとなり、振動規制法の特定工場等において発生する振動の規制に関する規制基準値(第2種区域)を下回ると予測した。

なお、保全対象である民家の振動レベルは、38.3dBと予測した。

表3.4-11　埋立作業に伴う建設作業振動レベルの予測結果

予測地点	建設作業振動レベル L_{10}(dB)	振動規制法 特定工場等において発生する振動の規制に関する規制基準 (第2種区域・昼間) (dB)
No.1 最大値出現地点	47.1	65
No.2 近傍民家	38.3	65

備考　予測地点No.1と最大値出現地点は同じ地点である。

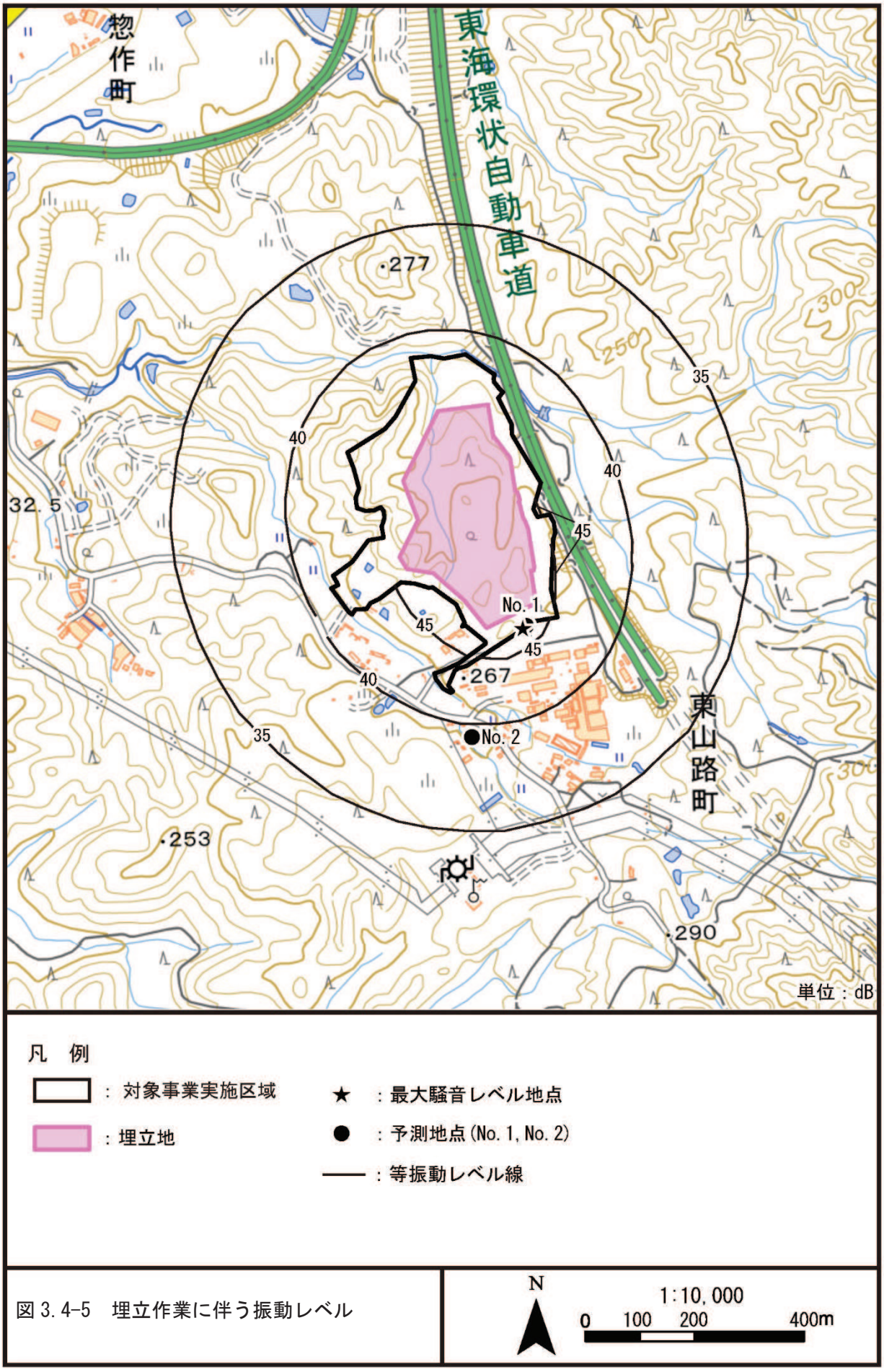


図 3.4-5　埋立作業に伴う振動レベル

4)　廃棄物運搬車両の走行

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、廃棄物運搬車両の走行により発生する道路交通振動レベル（L_{10}）とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

住居等の保全対象を考慮して廃棄物運搬車両が走行するルートより想定した。予測地点は、「3.3騒音　(4)　予測　4)　廃棄物運搬車両の走行」と同じ、廃棄物運搬車両が走行するルート上のうち、廃棄物運搬車両の走行車両台数が多くなると想定され、かつ、住居等の保全対象を考慮して設定した道路沿道上の1地点（図3.3-1・No.5）とした。

b　予測方法

予測方法は、「1)　資材等の搬入及び搬出」と同様とした。

c　予測条件

①交通量

予測対象時点における本事業による廃棄物運搬車両台数、基礎交通量は、「3.3 騒音　(4)　予測 4)　廃棄物運搬車両の走行　」と同じとした。

②走行速度

走行速度は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。

③道路条件

道路条件は、「3.1 大気質　(4)　予測　1)　資材等の搬入及び搬出」と同じとした。予測位置は、図3.4-2（既出）に示すとおり、現地調査を行った道路境界とし、高さは地表面とした。

エ　予測結果

予測結果は、表3.4-12に示すとおりである。

工事中の振動レベルは33.0dBであり、道路交通振動に係る要請限度を下回ると予測した。

本事業の廃棄物運搬車両の走行による振動レベルの増加分は1.0dBであった。

表3.4-12　予測結果（廃棄物運搬車両の走行による振動レベル）

予測地点		予測時間帯		現況の振動レベル L_{10}① (dB)	廃棄物運搬車両の走行に伴う振動レベルの増加分② (dB)	供用時の振動レベル L_{10} ①+② (dB)	要請限度 (dB)
No.5	太子町(市道塩塚線)	昼間	13時	32	1.0	33.0	70

注 1) 時間区分は、昼間 7 時から 20 時とした。

注2) 各地点において、廃棄物運搬車両の運行がある昼間の時間区分で供用時の振動レベルの1時間値が最大となる時間帯における予測結果を示す。

注3) 要請限度は道路交通振動に係る要請限度を示す。

(5) 影響の分析

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、工事用車両の走行に伴う振動レベルの影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、道路交通振動レベルが、表3.4-13に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.4-13 整合を図る基準（資材等の運搬及び搬出）

・「振動規制法」（昭和51年6月10日法律第64号）に基づく道路交通振動に係る要請限度

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、工事用車両の点検・整備、車両等のアイドリングストップ等の指導により、工事用車両の走行に伴う振動への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、工事用車両の走行に伴う工事中の道路交通振動レベルは「振動規制法」に基づく道路交通振動に係る要請限度に基づく基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

2) 建設機械の稼働

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、重機の稼働に伴う振動の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、重機の稼働による振動レベルが、表3.4-14に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.4-14 整合を図る基準（建設機械の稼働）

・「振動規制法」（昭和51年6月10日法律第64号）に基づく特定建設作業に伴う振動の規制基準

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、重機の十分な点検・整備の実施、低振動型建設機械の使用、工事の平準化、重機のアイドリングストップ等の指導・教育等により、重機の稼働に伴う振動への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、重機の振動に伴う騒音レベルは、「振動規制法」に基づく特定建設作業に伴う振動の規制基準の規制基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3)　施設の稼働、埋立作業

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、埋立重機の稼働に伴う振動の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、埋立重機の稼働に伴う振動レベルが、表3.4-15に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.4-15　整合を図る基準（施設の稼働、埋立作業）

・「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」（昭和51年11月10日 環境庁告示第90号）

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、埋立重機の点検・整備の実施、重機のアイドリングストップ、低振動型建設機械の使用等により、埋立重機に伴う振動への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、埋立重機の稼働に伴う振動レベルは、「特定工場等において発生する振動の規制に関する基準」の規制基準値を下回ることから、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

4)　廃棄物運搬車両の走行

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、廃棄物運搬車両の走行に伴う振動レベルの影響が、環境保全対策等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、道路交通振動レベルが、表3.4-16に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.4-16　整合を図る基準（廃棄物運搬車両の走行）

・「振動規制法」（昭和51年6月10日法律第64号）に基づく道路交通振動に係る要請限度

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、廃棄物運搬車両の点検・整備、車両等のアイドリングストップ等の指導により、廃棄物運搬車両の走行に伴う振動への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、廃棄物運搬車両の走行に伴う工事中の道路交通振動レベルは、「振動規制法」に基づく道路交通振動に係る要請限度に基づく基準値を下回ることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.5 悪臭

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査地点は、施設（埋立地）からの悪臭の発生の影響が考えられる対象事業実施区域に近接した民家及び対象事業実施区域境界とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.5-1に示すとおりである。

表 3.5-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
悪臭	臭気指数
微気象	風向、風速、気温、湿度
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査地点は、図3.5-1に示すとおり、対象事業実施区域に近接した民家(No.2)及び対象事業実施区域境界(No.1)及び類似施設(No.3)とした。

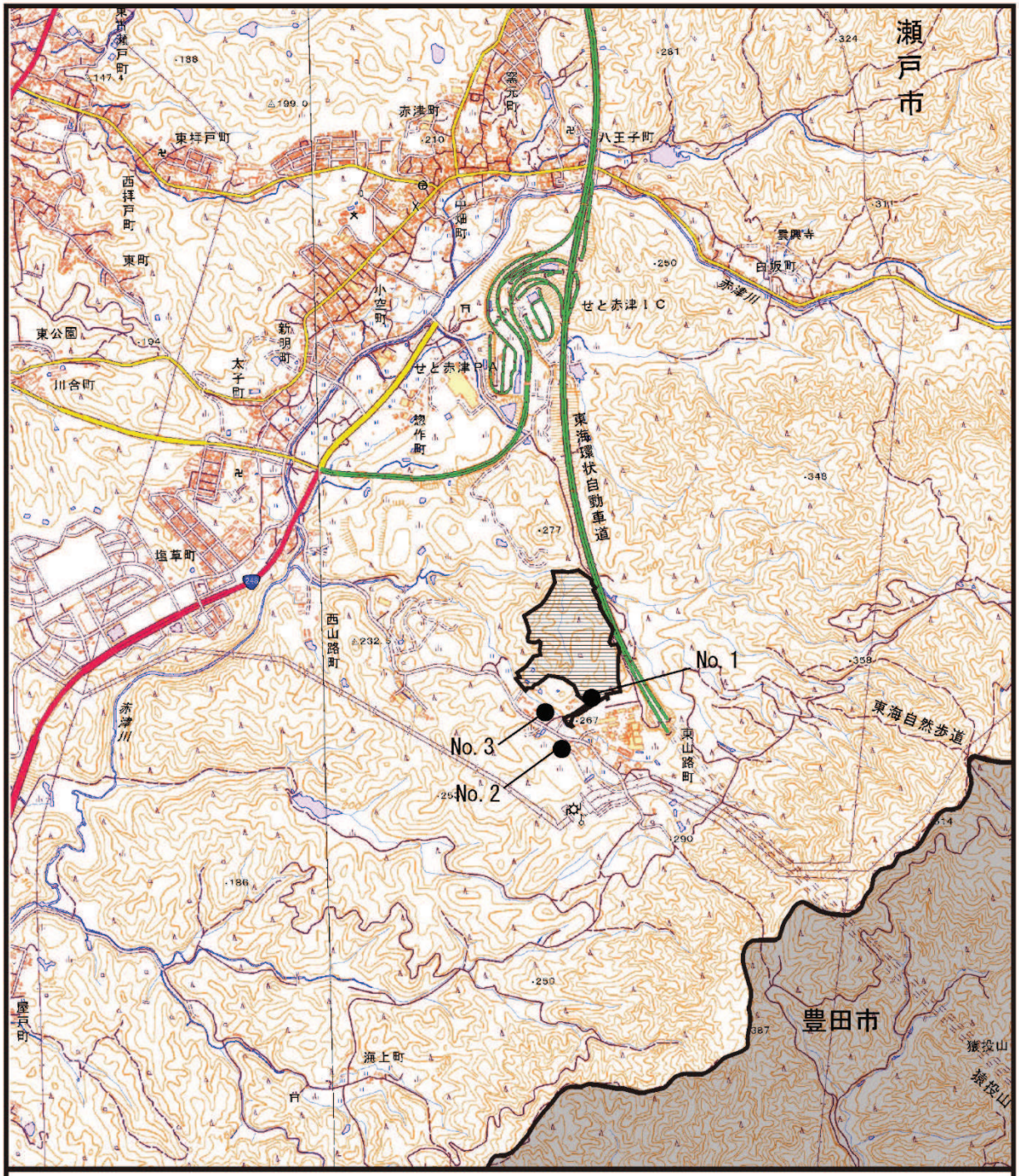
土地利用の状況の調査範囲は対象事業実施区域周辺とした。

イ 調査時期

現地調査期間は、表3.5-2に示すとおり、2回実施した。

表 3.5-2 調査期間等（現地調査）

調査項目		調査期間等
悪臭	臭気指数	2021年8月24日 2021年9月21日
微気象	風向、風速、気温、湿度	
土地利用	土地利用の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。



凡　例

- ▪▪▪▪▪▪ ： 市町村界
- ▤ ： 対象事業実施区域
- ● ： No. 1～3 悪臭調査地点
  - No. 1 敷地境界
  - No. 2 民家
  - No. 3 類似施設

図3.5-1　悪臭調査地点

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m

ウ　調査方法

調査方法は、表3.5-3に示すとおりである。

表 3.5-3　調査方法

調査項目		調査方法
悪臭	臭気指数	「臭気指数及び臭気排出強度の算定の方法」(平成7年環境庁告示63号) に準拠する方法
微気象	風向、風速、気温、湿度	簡易風向風速計、温湿度計による測定
土地利用	土地利用の状況 都市計画法に基づく用途地域指定状況 住居、学校、病院等の分布	現地踏査及び既存資料の整理とした。

3)　調査結果

臭気指数の調査結果は、表3.5-4に示すとおり、10未満～12であり、基準値を下回った。

調査時の気象の測定結果は表3.5-5に示すとおりである。

なお、土地利用の状況等は、「3.1　大気質　(2)　現況把握　3)　調査結果」に示したとおりである。

表 3.5-4　臭気指数調査結果

調査日	No. 1	No. 2	No. 3	基準値 (第 2 種地域)
2021 年 8 月 24 日	10 未満	10 未満	10 未満	15
2021 年 9 月 21 日	10 未満	12※	10 未満	

※草臭

表 3.5-5　臭気指数調査結果

調査日	項目	No. 1	No. 2	No. 3
2021 年 8 月 23 日	天候	曇	曇	曇
	気温(℃)	27.3	29.1	28.0
	湿度(%)	76	69	74
	風向	南	南	静穏
	風速(m/s)	1.5	1.2	1.0 以下
2021 年 9 月 21 日	天候	曇	曇	曇
	気温(℃)	24.6	27.4	25.3
	湿度(%)	69	55	64
	風向	北東	静穏	静穏
	風速(m/s)	1.2	1.0 以下	1.0 以下

(3) 環境保全措置

1) 施設(埋立地)からの悪臭の発生

・悪臭防止及び飛散防止のために即日覆土を実施する。必要により薬剤の散布を行う。

・浸出水処理施設の適切な維持管理運転管理を徹底する。

・廃棄物の受入にあたっては、厳正な審査を行い、受入基準に適合した廃棄物のみを処分する。

(4) 予測

1) 施設(埋立地)からの悪臭の発生

ア 予測対象時期

予測対象時期は、処分場の活動が定常に達した時期とする。

イ 予測項目

予測項目は、施設（埋立地）からの悪臭の発生（臭気指数）とする。

ウ 予測方法

予測は、現地調査結果、事業計画より定性的に予測する。

エ 予測結果

本処分場では、受入基準に適合した廃棄物のみを処分し、埋立終了後、即日覆土を施し、踏み固めを行う。また、浸出水処理施設の適切な維持管理を行うこととしていることから、悪臭の発生はほとんどないものと予測される。

(5) 影響の分析

1) 施設(埋立地)からの悪臭の発生

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、施設（埋立地）からの悪臭の発生の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、悪臭が、表3.5-6に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.5-6 整合を図る基準（資材等の運搬及び搬出）

・「悪臭防止法」（昭和46年6月1日法律第91号）に基づく臭気指数による規制基準

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、受入基準に適合した廃棄物のみを処分し、即日覆土、踏み固めを行うこと、また、浸出水処理施設の適切な維持管理を行うこととしていることから、施設（埋立地）からの悪臭の発生の影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、施設（埋立地）からの悪臭は、「悪臭防止法」に基づく臭気指数による規制基準に基づく基準値を下回ると予測されることから、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.6　自然環境

3.6.1　植物

(1)　調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

現地調査は、対象事業実施区域からおおよそ200mの範囲とした。

(2)　現況把握

1)　現況把握項目

調査内容は、表3.6.1-1に示すとおりである。

表 3.6.1-1　調査内容

項　目	調査すべき情報
植物相	・生育種及び分布状況 ・重要な種の分布及び生育の状況
植　生	・現存植生の種類、種組成、構造、分布状況及び遷移状況 ・植生自然度 ・重要な植物群落の分布及び生育の状況 ・緑被率

2)　現況把握方法

ア　調査地点

現地調査は、図3.6.1-1に示すとおり、対象事業実施区域からおおよそ200mの範囲とした。

調査は、図3.6.1-2に示す調査ルート等について実施した。

イ　調査時期

現地調査期間は、表3.6.1-2に示すとおりである。

表 3.6.1-2　調査期間等（現地調査）

調査項目	調査期間等
植物相	早春季：2021年3月26日 春季：2021年5月11日 夏季：2021年7月23日 秋季：2021年10月19日～20日
植　生	2021年10月19日～20日

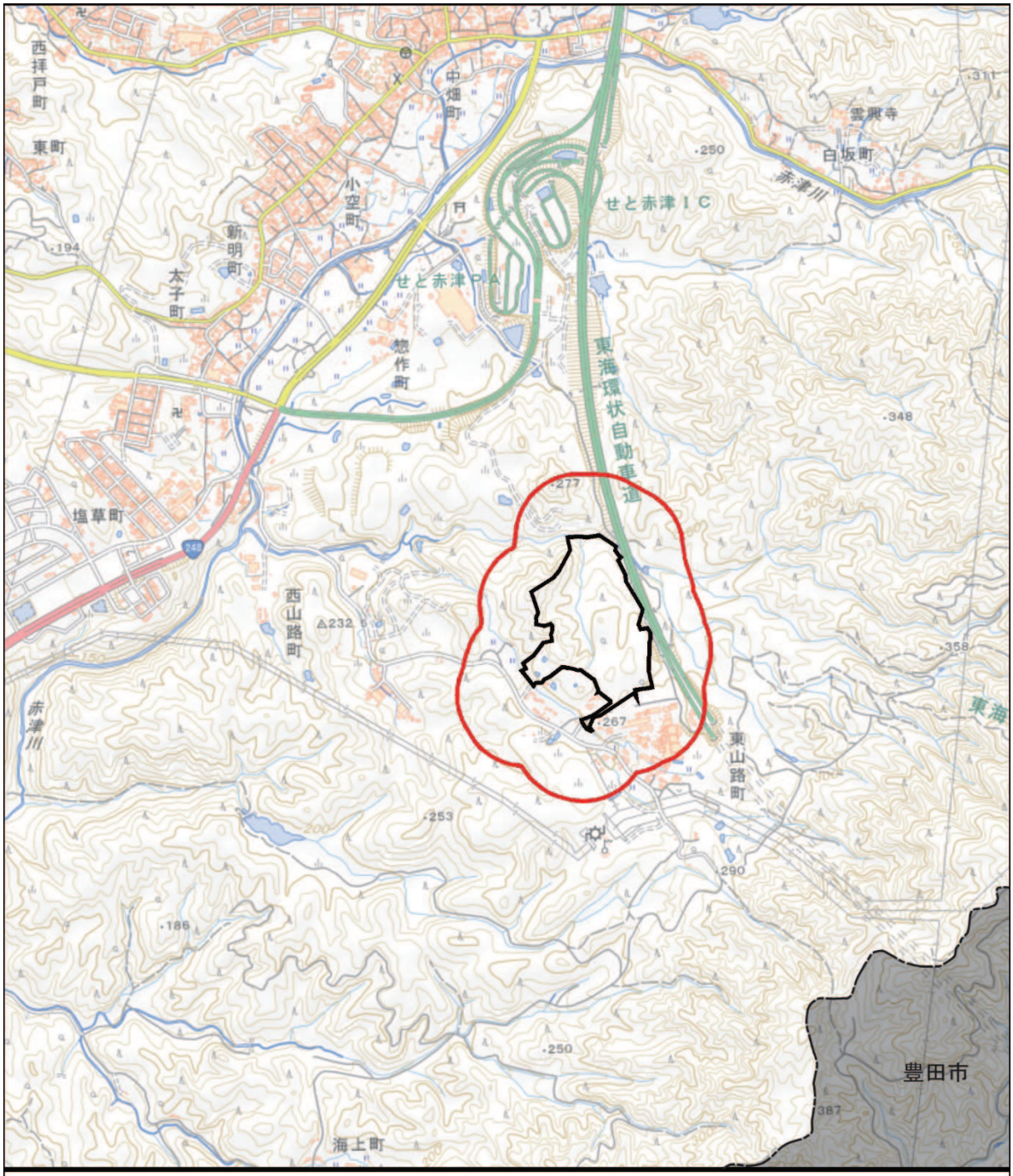
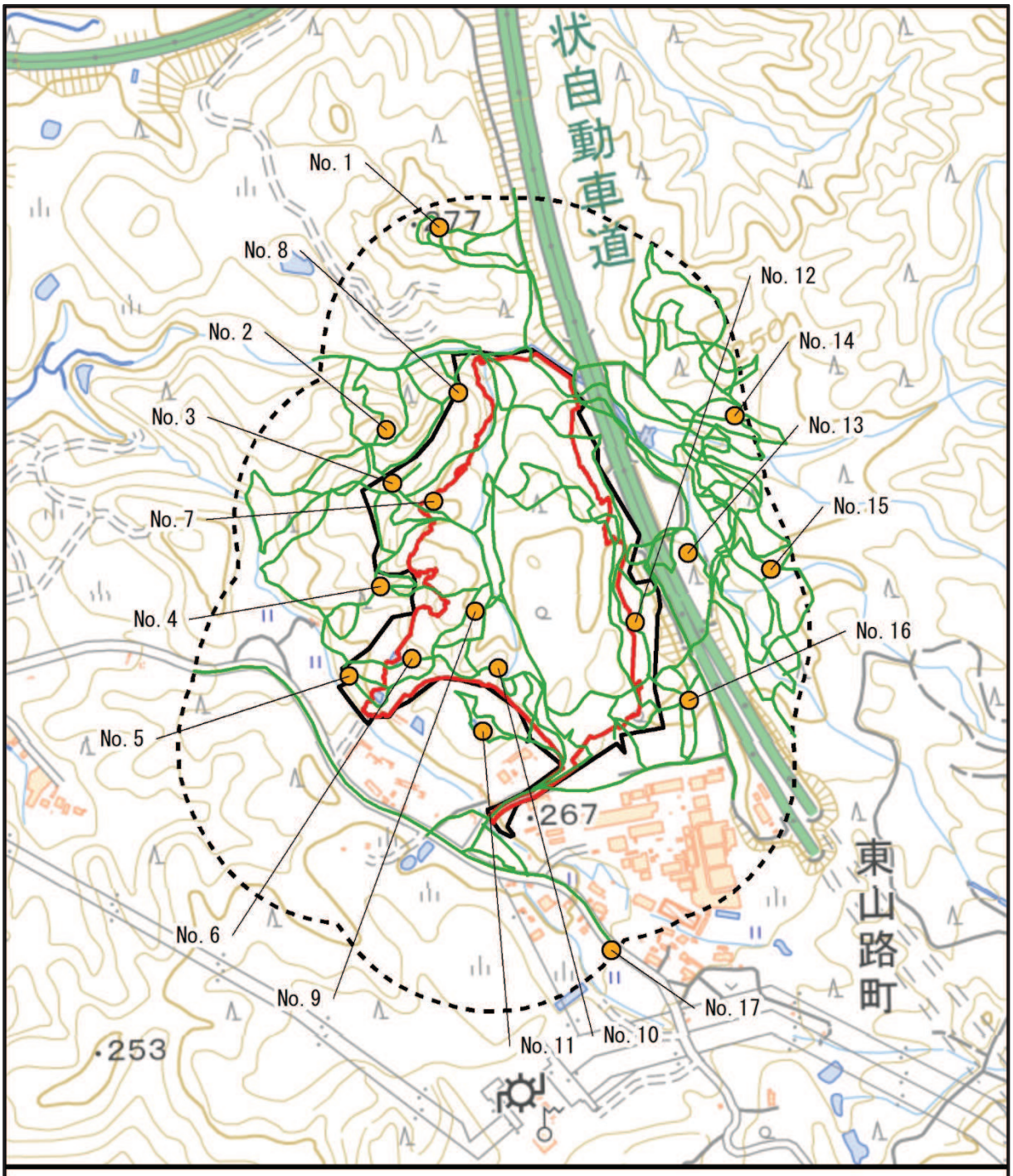


図3.6.1-1　植物調査地域図（現地調査）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 群落調査地点
- 調査ルート

N

1:8,000

0　100　200　400 m

図3.6.1-2　植物調査地点（現地調査）

ウ　調査方法

調査方法は、表3.6.1-3に示すとおりである。また、注目すべき種の選定基準は表3.6.1-4に示すとおりとした。

表 3.6.1-3　調査方法

調査項目	調査方法
植物相	シダ類以上の高等植物について現地での目視確認を行う。ただし、現地での同定が困難な種については、さく葉標本を作製し、後日、同定を行う。重要な種については生育位置、生息環境を記録し、写真撮影を行う。
植　生	現地での目視確認により植生図を作成する。また、各群落で任意に方形区を設定し、Braun-Blanquetの植物社会学的手法による群落組成調査を行う。
植生自然度	植生調査によって得られた現存植生図の凡例を環境省の植生自然度区分に従って区分し、図示する。
緑被率	植生調査によって得られた現存植生図で区分された群落のうち、市街地、造成地及び開放水域の面積を除いた割合を算出する。

表 3.6.1-4　重要な種の選定基準

番号	選定基準	カテゴリー
①	「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」 （平成 4 年、法律第 75 号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2020」 （令和 2 年、環境省報道発表資料）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「レッドデータブックあいち 2020」 （2020 年、愛知県）	EX：絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 国：国リスト
⑤	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 （愛知県、昭和 48 年 3 月 30 日条例第 3 号）	希少：指定希少野生動植物種

3)　調査結果

ア　植物相及び重要な種

a　確認種

現地調査で確認された植物種は、表3.6.1-5に示す48目120科554種であった。季別では、早春季に38目60科167種、春季に42目91科306種、夏季に44目98科322種、秋季に48目110科398種の植物が確認された。

確認種一覧は資料編に示すとおりである。

表 3.6.1-5　現地調査における確認種数（植物種）

分類群			早春季			春季			夏季			秋季			合計		
門	亜門	綱	目数	科数	種数	目数	科数	種数	目数	科数	種数	目数	科数	種数	目数	科数	種数
シダ植物			7	12	27	7	14	28	6	14	28	9	17	41	9	18	54
種子植物	裸子植物		2	2	7	2	2	5	2	2	5	2	2	4	2	2	7
	被子植物	基部被子植物群	4	4	10	4	5	12	4	5	12	4	5	13	4	5	15
		単子葉類	4	8	22	6	15	61	6	14	61	6	15	81	6	18	130
		真正双子葉類	21	34	101	23	55	200	26	63	216	27	71	259	27	77	348
合計			38目	60科	167種	42目	91科	306種	44目	98科	322種	48目	110科	398種	48目	120科	554種

b　重要な種

現地調査で確認された植物種のうち、表3.6.1-4示す基準に該当する重要な種は、表3.6.1-6に示す5目5科5種であった。

重要な種の確認位置は図3.6.1-3、重要な種の特性及び確認状況は表3.6.1-7に示すとおりである。

表 3.6.1-6　現地調査において確認した重要な種（植物種）

目名	科名	種名	調査時期				重要な種選定基準				
			早春季	春季	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
モクレン	モクレン	シデコブシ	●	●		●			NT	VU	
オモダカ	ヒルムシロ	イトモ			●				NT	NT	
キンポウゲ	メギ	ヘビノボラズ				●				NT	
ブナ	カバノキ	サクラバハンノキ				●			NT		
シソ	タヌキモ	ヒメタヌキモ			●	●			NT	EN	
5目	5科	5種	1種	1種	2種	4種	0種	0種	4種	4種	0種



シデコブシ



イトモ



ヘビノボラズ



サクラバハンノキ



ヒメタヌキモ

写真 3.6.1-1　重要な種（植物）



図3.6.1-3　重要な種確認位置図（植物種）

表3.6.1-7(1)　重要な種の特性及び確認状況

種名		シデコブシ			
注目すべき種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
		NT	VU		
種の特性	全国分布	本州中部（愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部）			
	愛知県内分布	豊橋南部、田原東部、田原西部、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、岡崎南部、幸田、瀬戸、尾張旭、犬山、小牧、春日井、名古屋北部、武豊			
	形態	緑性の小高木または低木。高さは 5m くらいのものが多いが、時には 10m に達する。葉は互生し、長さ 2～5mm の柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ 5～10cm、幅 1～3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は 3～4 月に葉が展開する前に咲き、直径 7～10cm、花被片は 12～18 枚あって萼と花弁の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ 3～7cm になり、種子は赤色である。			
	生育場所	丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	0	0	1	1	
	対象事業実施区域外のコナラ群落で早春季に開花を確認したほか、春季、秋季にも同一個体を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（2020 年 3 月、愛知県）

表3.6.1-7 (2)　重要な種の特性及び確認状況

種名		イトモ			
注目すべき種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
		NT	NT		
種の特性	全国分布	北海道、本州、九州（北部）			
	愛知県内分布	鳳来北東部、下山、小原、藤岡、豊田北西部、額田、瀬戸、長久手、犬山、豊橋北部、新城			
	形態	沈水性の多年生草本。水中茎は細く、よく分枝する。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は狭線形、長さ 2～5cm、幅 0.7～1.5mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、1～3 脈があり、基部は葉鞘とならない。花期は 6～8 月、花茎は長さ 1～2cm、花序は穂状で、長さ 3～5mm である。花は両性、4 個の心皮がある。果実は広卵形、長さ約 2～2.5mm である。殖芽は秋に枝の先端につき、長さ 1.5～2.5cm、ホソバミズヒキモやナガレミズヒキモのものに比べてかなり大きく、中軸はやや太くなる。			
	生育場所	池沼や水路に生育する。愛知県の生育地は、ほとんどが丘陵地のため池である。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	1	5×10m	0	0	
	対象事業実施区域内の窪地の水溜まりで夏季に 5×10m の範囲に生育を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（2020 年 3 月、愛知県）

表3.6.1-7(3)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ヘビノボラズ			
注目すべき種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			NT		
種の特性	全国分布	本州（東海地方西部、近畿地方）、九州（宮崎県）			
	愛知県内分布	田原東部、田原西部、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、藤岡南部、幸田、西尾北部、瀬戸、犬山、小牧、春日井、名古屋北部、作手、豊橋南部			
	形態	小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。葉裏は普通緑色であるが、帯白色のものもある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。			
	生育場所	湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	0	0	1	5	
	対象事業区域外の湿地で秋季に 5 株生育を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（2020 年 3 月、愛知県）

表3.6.1-7(4)　重要な種の特性及び確認状況

種名		サクラバハンノキ			
注目すべき種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
		NT			
種の特性	全国分布	本州（茨城県、新潟県以西）、九州（宮崎県）			
	愛知県内分布	作手、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎南部、幸田、西尾南部、瀬戸、尾張旭、長久手、日進、豊明、春日井、名古屋北部			
	形態	落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。枝は灰褐色で、皮目は小さく円形である。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。雌雄同株で、花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。			
	生育場所	湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものはあまり大きくならないことが多い。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	0	0	1	3	
	対象事業実施区域外の湿地で秋季に 3 株生育を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（2020 年 3 月、愛知県）

表3.6.1-7(5)　重要な種の特性及び確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">ヒメタヌキモ</td></tr>
<tr><td colspan="6">注目すべき種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>NT</td><td>EN</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td>全国分布</td><td colspan="4">北海道、本州</td></tr>
<tr><td>愛知県内分布</td><td colspan="4">瀬戸、春日井、刈谷、尾張旭</td></tr>
<tr><td>形態</td><td colspan="4">多年生の食虫性水草。茎は長さ 15～20cm、水中を浮遊するか泥上をはい、後者の場合は多数の捕虫嚢をつけた地中葉で固着する。水中葉はまばらに互生し、長さ 1cm 程度、3～4 回二叉状に分岐し、捕虫嚢は少なく、裂片は幅 0.2～0.4mm で先に刺状の突起がある。開花することは少ないが、開花する場合花期は 8～9 月、高さ 10cm 程度の花茎を水上に伸ばし、4～8 花をつける。花冠は黄緑色で直径約 8mm、距は短く円錐状で下を向く。がくは長さ約 2mm である。秋には茎の先端に直径 3～7mm の球状の殖芽を作り、越冬する。</td></tr>
<tr><td>生育場所</td><td colspan="4">浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも人里に近い丘陵地のため池である。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td></tr>
<tr><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>5×2m</td><td>1</td><td>1×2m</td></tr>
<tr><td colspan="4">対象事業実施区域内の窪地の水溜まりで夏季及び秋季に 5×10m の範囲に生育を確認した。また、対象事業実施区域外の湿地で夏季に 1×2m の範囲に生育を確認した。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(2020 年 3 月、愛知県)

イ　植生及び重要な植物群落

a　植生の状況

現地調査で確認された植生の概要は、表3.6.1-8、群落の面積は表3.6.1-9に示すとおりである。また、現存植生図は図3.6.1-4に示すとおりである。

現地調査で確認された植物群落及び土地利用は合計13群落であった。対象事業実施区域内の植生は中央部に広く造成地が分布し、その周辺を囲むようにコナラ群落が分布するほか、一部に、ソヨゴ群落、ススキ群落、伐採跡地群落、スギ・ヒノキ植林が分布する。

対象事業実施区域外は、コナラ群落、市街地及び造成地が広く分布するほか、路傍・空地雑草群落、アカマツ群落等が分布する。

表3.6.1-8(1)　植生の概要

群落区分番号	群落区分	群落番号	群落名称	コドラート調査地点	凡例説明
1	常緑広葉樹二次林	1	ソヨゴ群落	No.3	ヤブツバキクラス域の代償植生。ソヨゴが優占する高木林で、亜高木層及び低木層はソヨゴ、ヒイラギ、イヌツゲ等がわずかに生育するのみで貧弱である。草本層にはケネザサが高い被度・群度（5・5）で優占する。
2	落葉広葉樹二次林	2	コナラ群落	No.1,4,8,14,15	ヤブツバキクラス域の代償植生。コナラが優占する高木林。亜高木層はソヨゴ、リョウブ、マルバアオダモ、低木層はヒサカキ、アセビ、ヤブツバキを伴うことが多い。草本層はイヌツゲ、ツクバネウツギ、サルトリイバラの出現頻度が高いが、植被率は2～30%と低い。
3	常緑針葉樹二次林	3	アカマツ群落	No.16	ヤブツバキクラス域の代償植生。アカマツが優占する亜高木林。亜高木層の植被率は20%と低いが、低木層では低木層では40%となる。草本層はケネザサが高い被度・群度（5・5）で優占する。
4	二次草原	4	ススキ群落	No.6	ヤブツバキクラス域の二次草原。草本層に高い被度・群度（5・5）でススキが優占する。調査範囲内では盛土上に形成されている。
5	伐採跡地群落	5	伐採跡地群落	No.7,9	ヤブツバキクラス域の代償植生。高木層及び亜高木層を欠き、低木層の植被率は30%と低く、ソヨゴが優占する。草本層はケネザサ、ニガイチゴが優占するほか、アカメガシワ、カラスザンショウ等の先駆植物が生育する。

表3.6.1-8(2)　植生の概要

群落区分番号	群落区分	群落番号	群落名称	コドラート調査地点	凡例説明
6	植林地	6	スギ・ヒノキ植林	No.2,10,12,13	スギまたはヒノキの植林地。スギまたはヒノキが優占する高木林。亜高木層や低木層が形成されている林分ではサカキ、ヒサカキ、ヒイラギ等の出現頻度が比較的高い。草本層はヒノキ植林では植被率が低く2～5%程度である。
		7	ハリエンジュ群落	No.5	植林または逸出による二次的な群落。高木層にハリエンジュが優占し、草本層はススキ及びヒメジョオンが優占する。
7	耕作地	8	路傍・空地雑草群落	No.11,17	空地や造成地に成立する高さ概ね1.5m以下の草本群落。当該地域ではセイタカアワダチソウ、アキノエノコログサ、チガヤが優占する群落が該当する。
		9	畑雑草群落	－	畑地もしくは畑地雑草を含む畑地。
		10	水田雑草群落	－	水田もしくは水田雑草を含む水田。
8	市街地等	11	市街地	－	住宅地、構造物及び道路。
		12	造成地	－	造成裸地及び人工裸地。
		13	開放水域	－	－
8区分		13群落		17地点	－

表3.6.1-9　植生面積一覧

凡例番号	群落名	対象事業実施区域内						対象事業実施区域外		全体	
		改変区域		改変区域外							
		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
1	ソヨゴ群落	0.10	1.02	0.60	17.34	0.70	5.27	0.30	0.62	1.00	1.63
2	コナラ群落	3.20	32.55	2.04	58.96	5.24	39.43	24.46	50.76	29.70	48.31
3	アカマツ群落	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.33	2.76	1.33	2.16
4	ススキ群落	0.31	3.15	0.31	8.96	0.62	4.67	1.03	2.14	1.65	2.68
5	伐採跡地群落	0.70	7.12	0.10	2.89	0.80	6.02	0.12	0.25	0.92	1.50
6	スギ・ヒノキ植林	0.09	0.92	0.18	5.20	0.27	2.03	1.66	3.44	1.93	3.14
7	ハリエンジュ群落	0.01	0.10	0.04	1.16	0.05	0.38	0.00	0.00	0.05	0.08
8	路傍・空地雑草群落	0.02	0.20	0.04	1.16	0.06	0.45	2.39	4.96	2.45	3.99
9	畑雑草群落	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.52	0.25	0.41
10	水田雑草群落	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.48	1.00	0.48	0.78
11	市街地	0.04	0.41	0.04	1.16	0.08	0.60	9.92	20.59	10.00	16.27
12	造成地	4.97	50.56	0.10	2.89	5.07	38.15	6.23	12.93	11.30	18.38
13	開放水域	0.39	3.97	0.01	0.29	0.40	3.01	0.02	0.04	0.42	0.68
合計		9.83	100.0	3.46	100.0	13.29	100.0	48.19	100.0	61.48	100.0

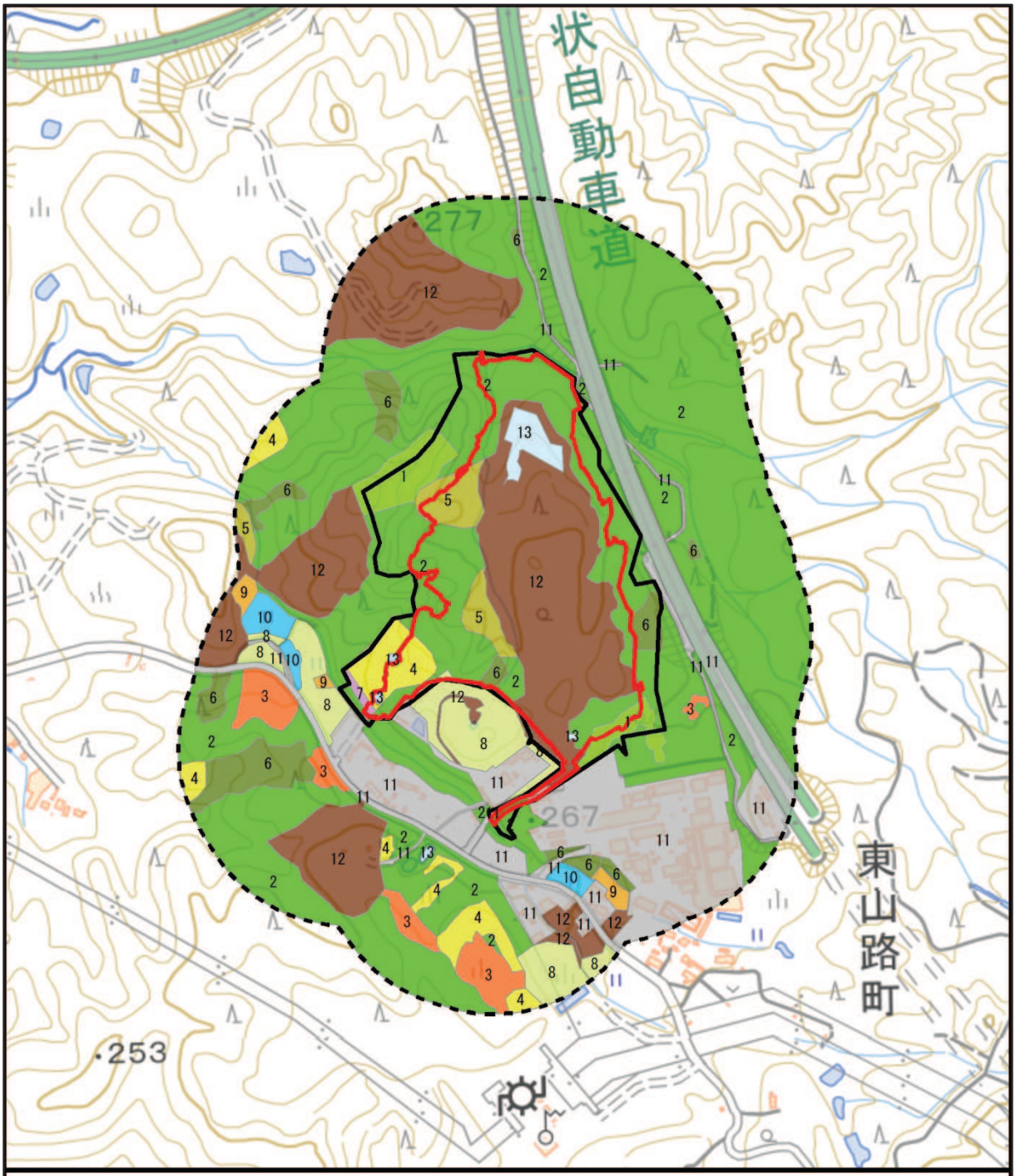

状自動車道
277
267
253
東山路町
凡例
対象事業実施区域
改変区域
対象事業実施区域から200m
1 ソヨゴ群落
2 コナラ群落
3 アカマツ群落
4 ススキ群落
5 伐採跡地群落
6 スギ・ヒノキ植林
7 ハリエンジュ群落
8 路傍・空地雑草群落
9 畑雑草群落
10 水田雑草群落
11 市街地
12 造成地
13 開放水域
N
1:8,000
0
100
200
400 m

図3.6.1-4　現存植生図

b　植生自然度

植生自然度別の占有面積は表3.6.1-10、植生自然度図は図3.6.1-5に示すとおりである。

植生自然度は、植生に対する人為の影響の程度により、10の類型に区分したものである。自然植生は植生自然度が最も高く、路傍植生や無植生地は植生自然度が低いと判定されており、一般的には植生自然度の低下に伴い自然植生への復元に長い年月が必要とされている。また、植生自然度の高い群落ほど多様な機能を有するとともに安定しており、保全・維持の価値は高いとされている。

植生自然度は、「緑の国勢調査-自然環境保全基礎調査-」(昭和51年、環境庁)の植生自然度区分基準に基づき、調査地域に出現した群落に対して区分した。

調査地域の植生自然度は、アカマツ群落、コナラ群落及びソヨゴ群落の自然度7が最も高く、全域で代償植生となっている。対象事業実施区域の植生自然度は、自然度7のコナラ群落が最も高いが、中央部には広く自然度1の造成地が分布する。

表3.6.1-10　植生自然度別占有面積

植生自然度	区分基準	群落名	面積 (ha)	割合 (%)
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区	-	-	-
9	エゾマツ―トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区	-	-	-
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区	-	-	-
7	クリ―ミズナラ群落、クヌギ―コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区	アカマツ群落	1.33	2.16
		コナラ群落	29.70	48.31
		ソヨゴ群落	1.00	1.63
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地	スギ・ヒノキ植林	1.93	3.14
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原	ススキ群落	1.65	2.68
4	シバ群落等の背丈の低い草原	伐採跡地群落	0.92	1.50
		路傍・空地雑草群落	2.45	3.99
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地	ハリエンジュ群落	0.05	0.08
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地	水田雑草群落	0.48	0.78
		畑雑草群落	0.25	0.41
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区	市街地	10.00	16.27
		造成地	11.30	18.38
-	-	開放水域	0.42	0.68
合　計			61.48	100.0

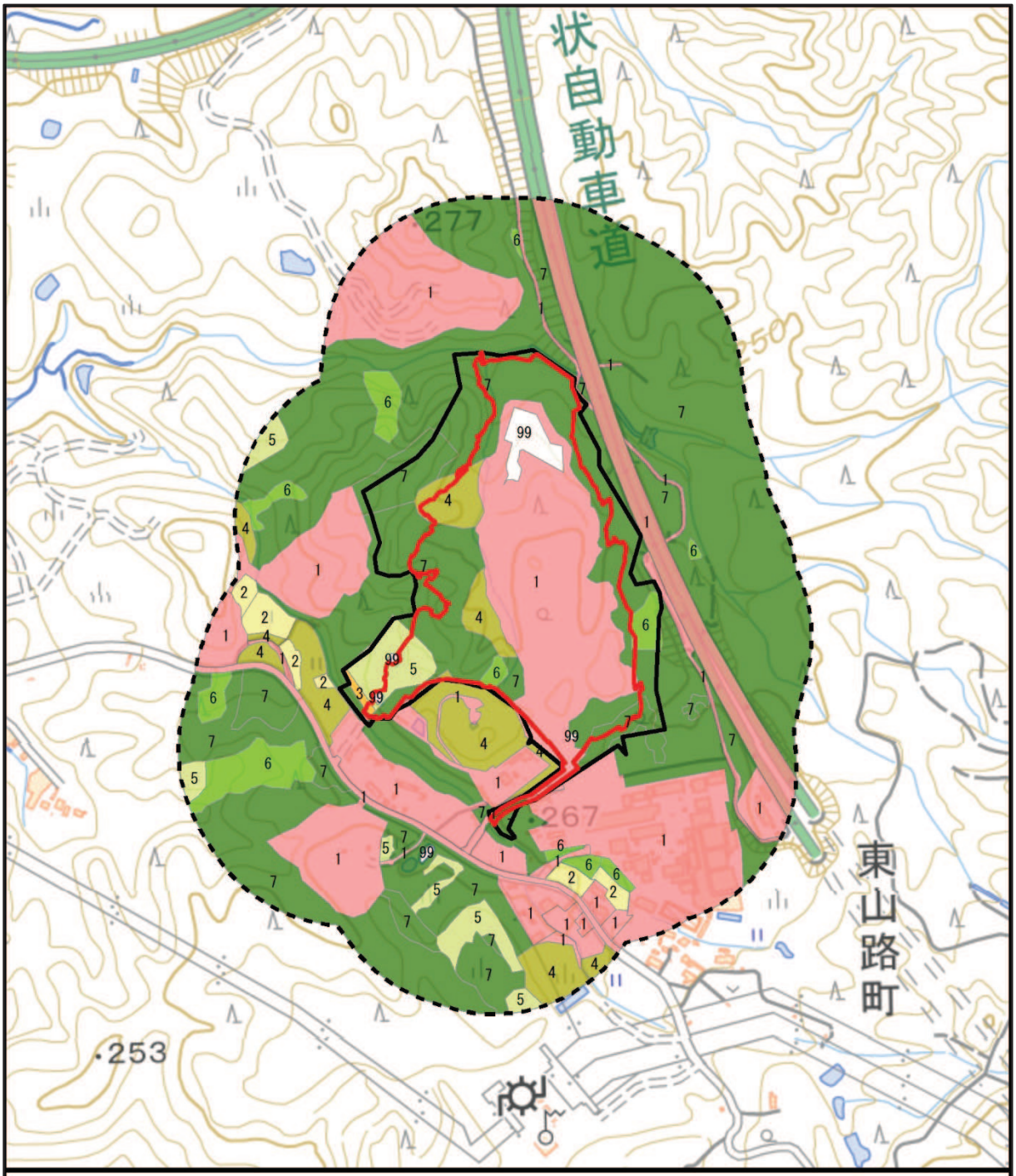


図3.6.1-5　植生自然度図

c　重要な植物群落

現地調査において、重要な植物群落は確認されなかった。

d　緑被率

調査地域の緑被率は表3.6.1-11に示すとおりである。

緑被率は特定地域に占める緑被地の割合で、樹林地・草地・水辺地及び公園・緑地など、植物の緑で被覆された土地の総称である。緑被率の算出は、現存植生図で区分された群落のうち市街地、造成地及び開放水域を除いた割合とした。

対象事業実施区域内では改変区域内で45.07%、改変区域外で95.66%、全体の緑被率は58.24%であった。対象事業実施区域外では66.45%、調査地域全体では64.67%であった。

表3.6.1-11　緑被率一覧

凡例番号	群落名	対象事業実施区域内						対象事業実施区域外		全体	
		改変区域内		改変区域外							
		面積(ha)	緑被率(%)	面積(ha)	緑被率(%)	面積(ha)	緑被率(%)	面積(ha)	緑被率(%)	面積(ha)	緑被率(%)
1	ソヨゴ群落	0.10	45.07	0.60	95.66	0.70	58.24	0.30	66.45	1.00	64.67
2	コナラ群落	3.20		2.04		5.24		24.46		29.70	
3	アカマツ群落	0.00		0.00		0.00		1.33		1.33	
4	ススキ群落	0.31		0.31		0.62		1.03		1.65	
5	伐採跡地群落	0.70		0.10		0.80		0.12		0.92	
6	スギ・ヒノキ植林	0.09		0.18		0.27		1.66		1.93	
7	ハリエンジュ群落	0.01		0.04		0.05		0.00		0.05	
8	路傍・空地雑草群落	0.02		0.04		0.06		2.39		2.45	
9	畑雑草群落	0.00		0.00		0.00		0.25		0.25	
10	水田雑草群落	0.00		0.00		0.00		0.48		0.48	
11	市街地	0.04	－	0.04	－	0.08	－	9.92	－	10.00	－
12	造成地	4.97		0.10		5.07		6.23		11.30	
13	開放水域	0.39		0.01		0.40		0.02		0.42	
合計		9.83	－	3.46	－	13.29	－	48.19	－	61.48	－

(3) 環境保全措置

本事業の実施にあたっては、盛土・掘削土等の土工及び最終処分場の存在に伴う植物への影響を可能な限り低減するため、以下に示す環境保全措置を講ずることとする。

1) 盛土・掘削土等の土工

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。
・改変区域内で確認された重要な植物については、可能な限り移植する。

2) 最終処分場の存在

・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。
・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。
・イトモ、ヒメタヌキモの生育環境である池が消失するため、代替地として人工池を設ける。

(4) 予測

1) 予測内容

予測内容は、工事(盛土・掘削等の土工事)及び最終処分場の存在に伴う植物相及び重要な種、植生及び重要な群落ならびに緑被率の変化の影響の程度とした。

2) 予測地域等

予測地域は、事業の実施による植物の生育環境への影響が想定される対象事業実施区域より200mの範囲とした。

予測地点は対象事業実施区域とした。

3) 予測対象時期

予測対象時期は、盛土・掘削工事の最盛期及び工事が完了した時点とした。

4) 予測方法

ア 予測地点

予測方法は、「植物相及び重要な種」及び「植生及び重要な群落」の調査結果と土地利用計画及び工事計画との重ね合わせならびに事例の引用、解析により予測する。

イ 予測対象種の選定

現地調査で確認された重要な種を予測対象種として選定した。

選定した予測対象種は表3.6.1-12に示すとおり、シデコブシ、イトモ、ヘビノボラズ、サクラバハンノキ、ヒメタヌキモの5種である。

表3.6.1-12 予測対象種の選定

目名	科名	種名	重要な種選定基準				
			①	②	③	④	⑤
モクレン	モクレン	シデコブシ			NT	VU	
オモダカ	ヒルムシロ	イトモ			NT	NT	
キンポウゲ	メギ	ヘビノボラズ				NT	
ブナ	カバノキ	サクラバハンノキ			NT		
シソ	タヌキモ	ヒメタヌキモ			NT	EN	
5目	5科	5種	0種	0種	4種	4種	0種

5)　予測結果

ア　植物相及び重要な種

植物相は、事業の実施により対象事業実施区域はほぼ全域にわたって改変され、市街地環境が出現することから、対象事業実施区域内に生育する植物種のほとんどが影響を受けると考えられる。

なお、対象事業実施区域及びその周辺に生育地が存在する植物の重要な種(予測対象種)についての予測結果は表3.6.1-13に示すとおりである。

イ　植生及び重要な植物群落

植生は、事業の実施により対象事業実施区域内はほぼ全域にわたって改変され、市街地環境が出現することから、植生への影響は大きいものと予測する。

なお、現地調査の結果、重要な植物群落は確認されなかったため、重要な植物群落に関する予測は行わなかった。

表 3.6.1-13(1)　重要な種（予測対象種）の予測結果（シデコブシ）

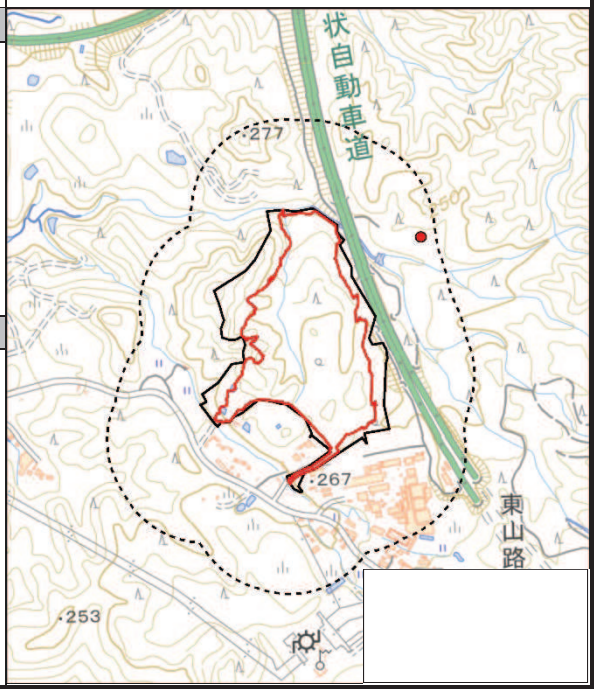
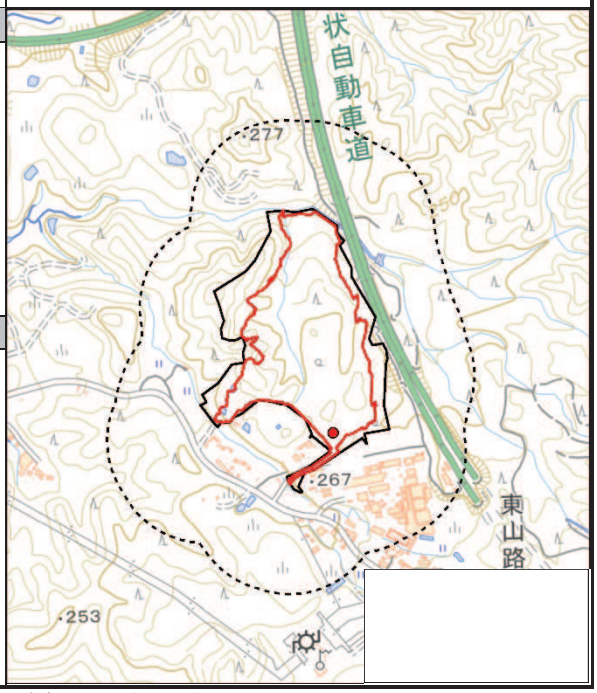
<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">シデコブシ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td colspan="2">環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">NT</td><td>VU</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">対象事業実施区域外のコナラ群落で早春季に開花を確認したほか、春季、秋季にも同一個体を確認した。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響（盛土・掘削等の土工事）</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域外のコナラ群落に生育しており、盛土・掘削等の土工事による生育環境への影響はないと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域外のコナラ群落に生育しており、事業による生育環境の改変がないことから、最終処分場の存在による生育環境への影響はないと予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表 3.6.1-13(2)　重要な種（予測対象種）の予測結果（イトモ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">イトモ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>NT</td><td>NT</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">改変区域内の窪地の水溜まりで夏季に 5×10m の範囲に生育を確認した。</td></tr>
<tr><td>1(1)</td><td>5×10m</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="3" rowspan="2"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響（盛土・掘削等の土工事）
本種は対象事業実施区域の改変区域内にある窪地の水溜まりに生育しており、直接改変を受け、盛土・掘削等の土工事による生育環境への影響は大きいと予測されることから、個体の移植や代替地の創出が必要である。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
本種は対象事業実施区域の改変区域内に生育しており、工事により消失すると予測されることから個体の移植や代替地の創出が必要である。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表 3.6.1-13(3)　重要な種（予測対象種）の予測結果（ヘビノボラズ）

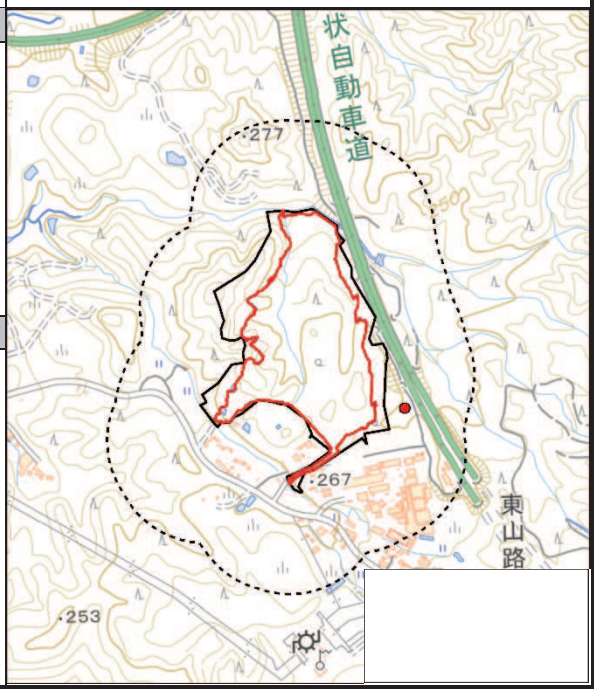
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ヘビノボラズ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td colspan="2">環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>NT</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">対象事業実施区域外の湿地で秋季に 5 株生育を確認した。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>5</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響（盛土・掘削等の土工事）
本種は対象事業実施区域外の湿地に生育しており、盛土・掘削等の土工事による生育環境への影響はないと予測される。</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
本種は対象事業実施区域外の湿地に生育しており、事業による生育環境の改変がないことから、最終処分場の存在による生育環境への影響はないと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表 3.6.1-13(4)　重要な種（予測対象種）の予測結果（サクラバハンノキ）

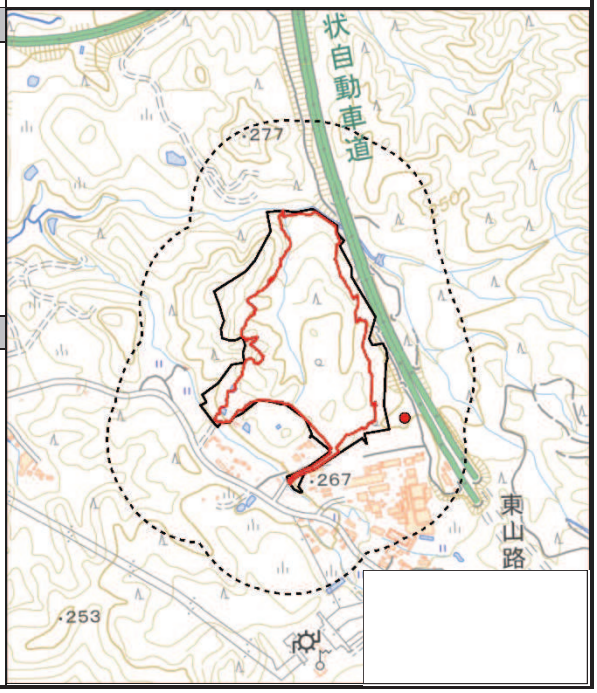
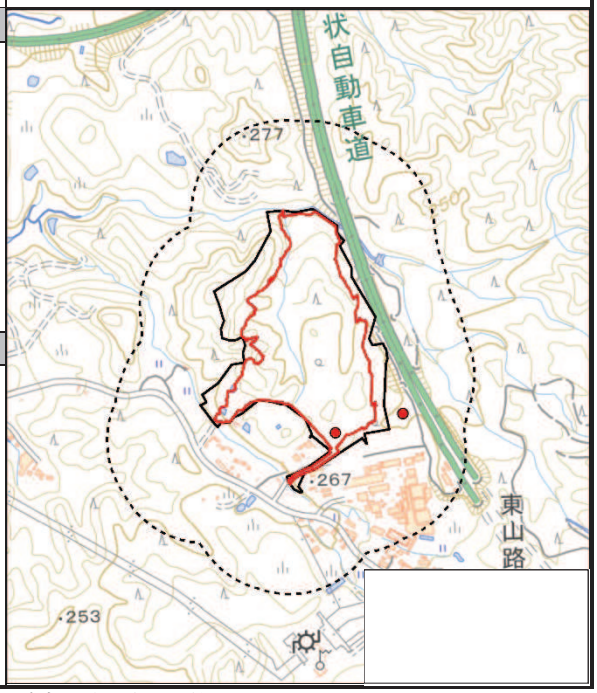
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">サクラバハンノキ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>NT</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">対象事業実施区域外の湿地で秋季に 3 株生育を確認した。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>3</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響（盛土・掘削等の土工事）
本種は対象事業実施区域外の湿地に生育しており、盛土・掘削等の土工事による生育環境への影響はないと予測される。</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
本種は対象事業実施区域外の湿地に生育しており、事業による生育環境の改変がないことから、最終処分場の存在による生育環境への影響はないと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表 3.6.1-13(5)　重要な種（予測対象種）の予測結果（ヒメタヌキモ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ヒメタヌキモ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td colspan="2">環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">NT</td><td>EN</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="4">改変区域内の窪地の水溜まりで夏季及び秋季に5×2m の範囲に生育を確認した。また、対象事業実施区域外の湿地で夏季に 1×2m の範囲に生育を確認した。</td></tr>
<tr><td>1(1)</td><td>5×2m</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1×2m</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響（盛土・掘削等の土工事）
本種は対象事業実施区域の改変区域内及び対象事業実施区域外の2地点で確認された。改変区域内に生育する個体群は窪地の水溜まりに生育しており、直接改変を受け、工事による生育環境への影響は大きいと予測されることから個体の移植や代替地の創出が必要である。対象事業実施区域外に生育する個体群は湿地に形成された水溜まりに生育しており、事業により生育環境を改変しないことから工事による生育環境への影響はないと予測される。</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
対象事業実施区域の改変区域内に生育している個体群は、工事により消失すると予測されることから個体の移植や代替地の創出が必要である。
対象事業実施区域外に生育している個体群は、事業による生育環境の改変がないことから、最終処分場の存在による生育環境への影響はないと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

ウ　緑被率の変化の程度

緑被率は現況で57.68%となっており、盛土・掘削土等の土工により一時的に大きく減少（58.24%→22.42%）するが、在来種等による植栽等を行い、供用時には新たに造成緑地が出現することにより緑被率は39.73%に回復する計画であることから最終処分場の存在による影響は小さいと予測される。

(5) 影響の分析

1) 盛土・掘削土等の土工

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、盛土・掘削等の土工事による植物相、重要な種及び植生への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、表3.6.1-14に示す文献に掲載される保全上重要な植物種に対し、生育の保全が図られているかを判断する。

表 3.6.1-14 整合を図る基準（植物種）

・「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省報道発表資料）掲載種 ・「レッドデータブックあいち 2020」（令和 2 年、愛知県）掲載種

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、樹木の伐採を最小限とし、工事関係者の周辺地域等の不要な立入の制限等により、植物相、重要な種及び植生への影響の低減が図られていることから、盛土・掘削土等による植物相及び重要な種への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

なお、盛土・掘削土等の土工による重要な種への予測結果は、イトモ及びヒメタヌキモについて影響が大きいと予測したが、環境保全措置として可能な限り移植することにより、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

2) 最終処分場の存在

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による植物相、重要な種及び植生ならびに緑被率への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、表3.6.1-15に示す文献に掲載される保全上重要な植物種に対し、生育の保全が図られているかを判断する。

表 3.6.1-15 整合を図る基準（植物種）

・「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省報道発表資料）掲載種 ・「レッドデータブックあいち 2020」（令和 2 年、愛知県）掲載種

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、施設関連者に対する周辺地域への立入の制限、在来種等による植栽等により、植物種、植生及び緑被率への影響の低減が図られていることから、最終処分場の存在による植物相及び重要な種、植生への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

3.6.2　動物

(1)　調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

現地調査は、対象事業実施区域からおおよそ200mの範囲とした。

(2)　現況把握

1)　現況把握項目

調査内容は、表3.6.2-1に示すとおりである。

表 3.6.2-1　調査内容

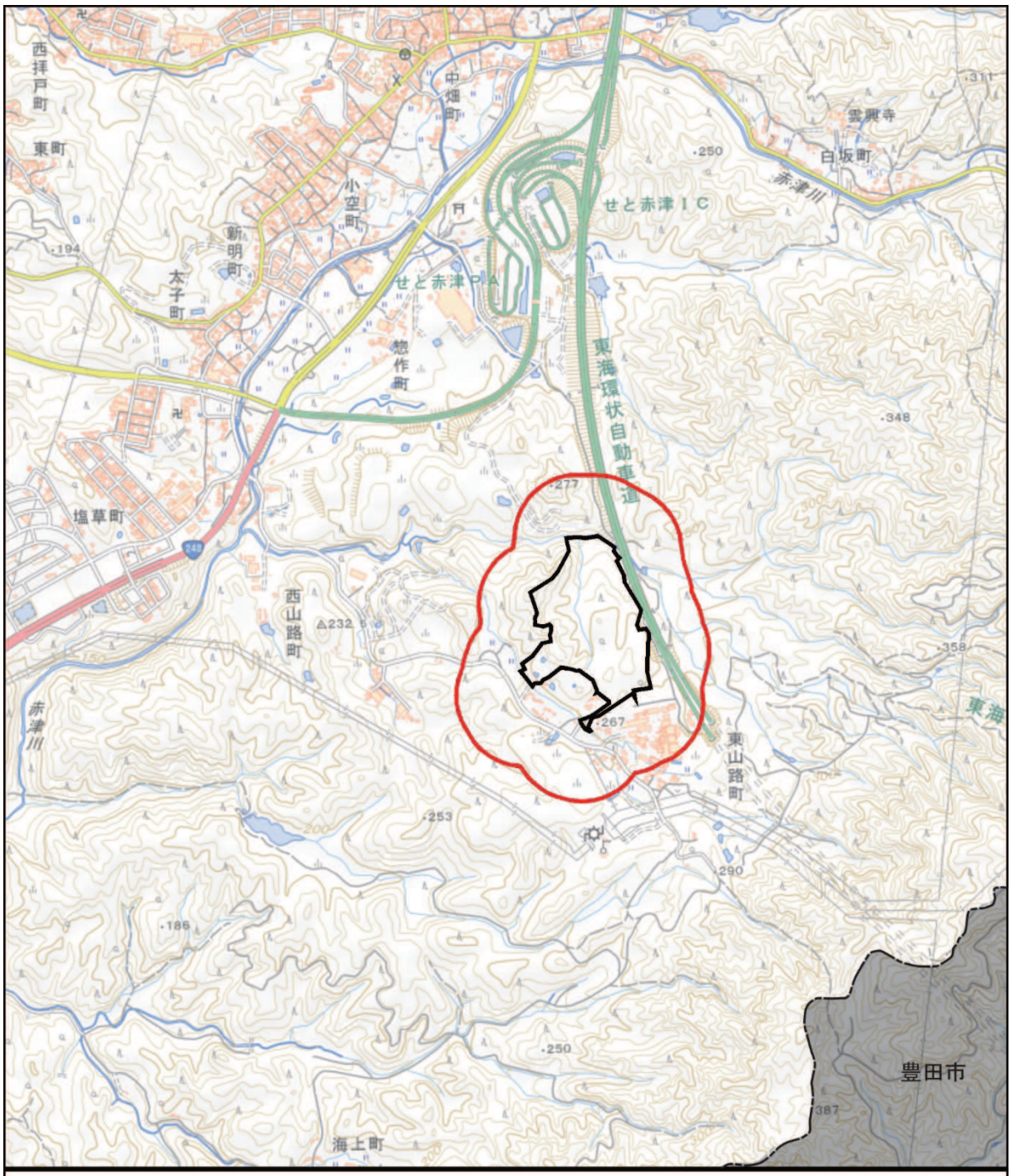
項　目	調査すべき情報
哺乳類	・生息種、分布状況及び個体数 ・重要な種の分布及び生息環境の状況並びに注目すべき生息地の分布状況
鳥類	
爬虫類、両生類	
昆虫類	
魚類	
底生動物	

2)　現況把握方法

ア　調査地点

現地調査は、対象事業実施区域からおおよそ200mの範囲とした。

調査地点は、図3.6.2-1に示すとおりである。



凡例

対象事業実施区域

対象事業実施区域から200m

図 3.6.2-1　動物調査地域図

N

1:20,000

0　250　500　1,000 m

イ　調査時期

現地調査期間は、表3.6.2-2に示すとおりである。

表 3.6.2-2　調査期間等（現地調査）

調査項目	調査期間等
哺乳類	冬季：2021年1月21日～22日 春季：2021年5月10日～11日 夏季：2021年7月23日～24日 秋季：2021年10月26日～27日
鳥類	冬季：2021年1月21日～22日 春季：2021年4月19日～20日 夏季：2021年8月26日～27日 秋季：2021年9月21日～22日
爬虫類	春季：2021年5月10日～11日 夏季：2021年7月23日～24日 秋季：2021年10月26日～27日
両生類	早春季：2021年4月1日～2日 春季：2021年5月10日～11日 夏季：2021年7月23日～24日 秋季：2021年10月26日～27日
昆虫類	早春季：2021年4月1日～2日 春季：2021年5月6日～7日 夏季：2021年7月8日～9日 秋季：2021年10月14日～15日
魚類	春季：2021年5月31日 夏季：2021年8月26日 秋季：2021年11月2日
底生動物	早春季：2021年3月26日 夏季：2021年8月26日 冬季：2021年12月6日

ウ　調査方法

調査方法は、表3.6.2-3に示すとおりである。また、重要な種の選定基準は表3.6.2-4に示すとおりとした。

表 3.6.2-3　調査方法

分類群	調査方法	調査方法の概要
哺乳類	フィールドサイン	調査対象範囲を踏査して、個体の目撃及び目視によりフィールドサイン(糞や足跡、食痕、巣、爪痕、モグラ塚等の生息痕跡)を確認し、種名、確認位置とともに、これらの確認環境について記録した。
	トラップによる捕獲	調査対象範囲の環境を代表する地点にシャーマントラップを設置し、翌日の回収時に捕獲されたネズミ等の小型哺乳類について、種名、体重、性別等を記録した。
	自動撮影装置	哺乳類が頻繁に往来していると考えられる調査対象範囲内のけもの道や林道等に自動撮影装置を設置し、カメラの前を横切った動物を記録した。
	バットディテクター	夜間、バットディテクターを用いてコウモリ類が飛翔時に発する超音波を受信し、その周波数等により種を推定した。
鳥類※	直接観察	調査対象範囲内を踏査し、目視または鳴き声等で確認された種について、種名、個体数及び確認状況を記録した。
	ラインセンサス	調査対象範囲に調査ルートを設定し、一定速度で歩きながら、ルートを中心とした幅 100m の範囲内において確認された鳥類の種名、個体数及び確認状況を記録した。
	定点調査	調査対象範囲に観察地点を設定し、その定点から確認される鳥類の種名、個体数及び確認状況を記録した。
両生類・爬虫類	直接観察	調査対象範囲内を踏査し、目視または鳴き声等により確認された種名、個体数及び確認状況を記録した。
昆虫類	直接観察及び採取	調査対象範囲内を踏査し、目視または捕虫網を使用したスウィーピング採集、ビーティング採集により採集した個体の種名を記録した。
	ライトトラップ	走光性のある昆虫類の確認を目的として、夜間に光源の下に大型ロート部と昆虫収納用ボックス部からなる捕虫器を設置し、翌日ボックス内の昆虫類を採集して種名を記録した。
	ベイトトラップ	主に地表徘徊性の昆虫類の確認を目的として、誘引餌（ベイト）を入れたトラップ（コップ等の容器）を口が地表面と同じ高さとなるように 1 地点あたり 20 個埋設し、翌日落ち込んだコウチュウ類、アリ類等の昆虫を採集して確認された種名を記録した。
魚類 底生動物	直接観察及び採取	調査対象範囲内の水域を踏査し、タモ網、サデ網、サーバーネットを用いて捕獲した個体の種名及び個体数を記録した。

※鳥類の現地調査においては、双眼鏡及びフィールドスコープを用いながら、調査範囲外の猛禽類の出現状況や行動についても
可能な限り把握した。また、各項目の調査時において、林内を踏査する際には猛禽類の営巣に留意して調査を実施した。

表 3.6.2-4　重要な種の選定基準

番号	選定基準	カテゴリー
①	「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」 (平成 4 年、法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2020」 （令和 2 年、環境省報道発表資料）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「レッドデータブックあいち 2020」 （2020 年、愛知県）	EX：絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 国：国リスト
⑤	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 （愛知県、昭和 48 年 3 月 30 日条例第 3 号）	希少：指定希少野生動植物種

エ　調査地域及び調査地点

調査地点は図3.6.2-2に示すとおり、事業の実施により動物の生息環境への影響が想定される対象事業実施区域より200mの範囲及び赤津川下流とした。調査項目及び調査方法ごとの調査地点・ルート等についての詳細を表3.6.2-5に示すとおりとした。

表3.6.2-5　調査方法（動物：現地調査-動物相及び注目すべき種）

分類群	調査方法	調査地点・ルート等
哺乳類	フィールドサイン・ 夜間調査	図 3.6.2-2(1)に示すルートを調査した。
	トラップによる捕獲	図 3.6.2-2(1)に示す 4 地点（St.1:樹林、St.2：乾性草地、St.3：湿地、St.4：河川周辺）にトラップおよび自動撮影カメラを設置した。
	自動撮影装置	
鳥類	直接観察	図 3.6.2-2(2)に示すルートを調査した。
	ラインセンサス	図 3.6.2-2(2)に示す 2 ルート（ライン 1、ライン 2）を調査した。
	定点調査	図 3.6.2-2(2)に示す定点において調査した。
爬虫類	直接観察	図 3.6.2-2(3)に示すルートを調査した。
両生類	直接観察	図 3.6.2-2(4)に示すルートを調査した。
昆虫類	直接観察及び採集	図 3.6.2-2(5)に示すルートを調査した。
	ライトトラップ	図 3.6.2-2(5)に示す 4 地点（St.1:樹林、St.2：乾性草地、St.3：湿地、St.4：河川周辺）にトラップおよび自動撮影カメラを設置した。
	ベイトトラップ	
魚類 底生動物※	直接観察及び採集	図 3.6.2-2(6)に示す 3 地点（St.1～St.3）を調査した。

※　底生動物調査においては、夏季に対象事業実施区域外にある湿地環境において補足調査を実施した。

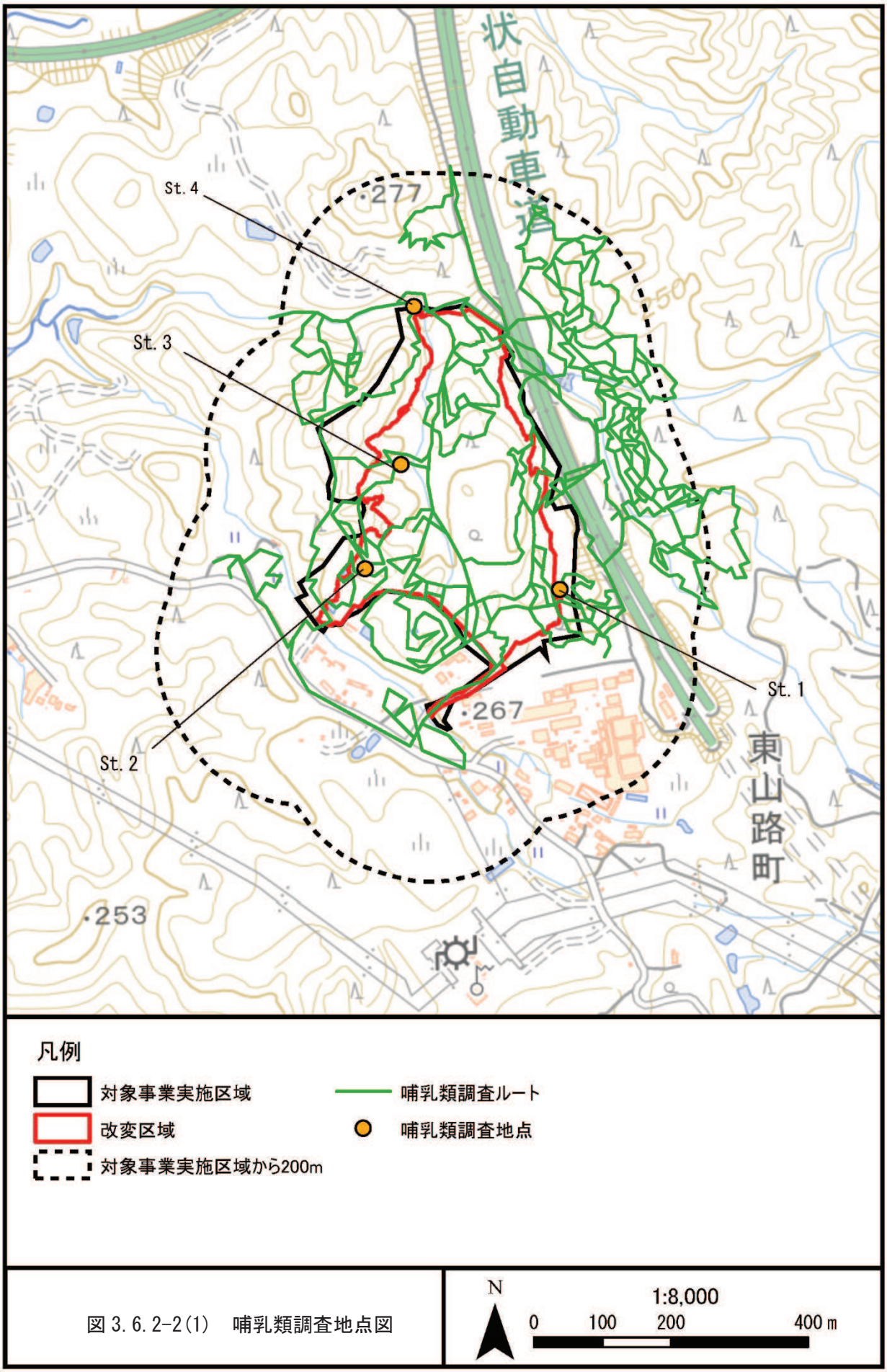
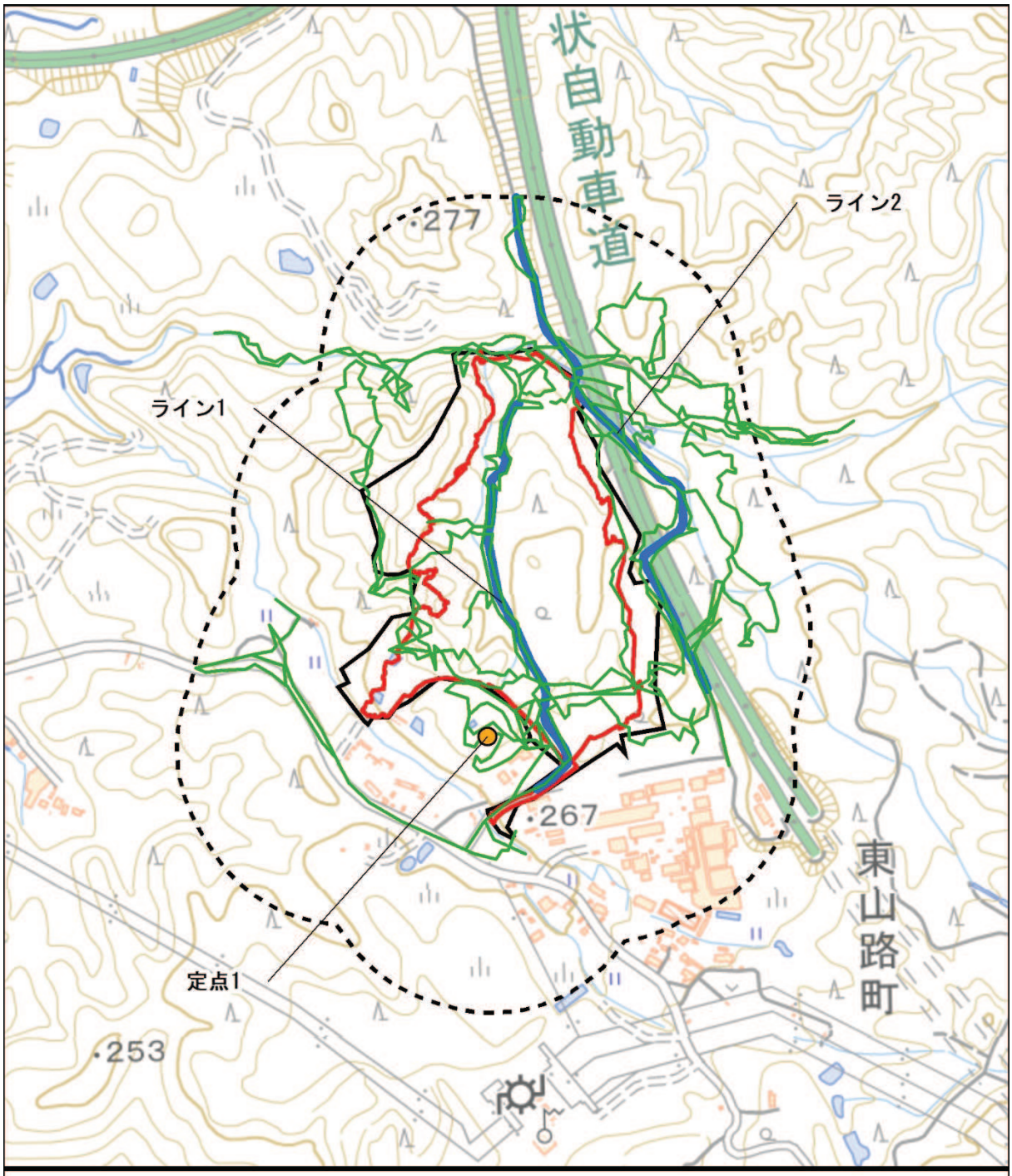


図 3.6.2-2(1)　哺乳類調査地点図



凡例

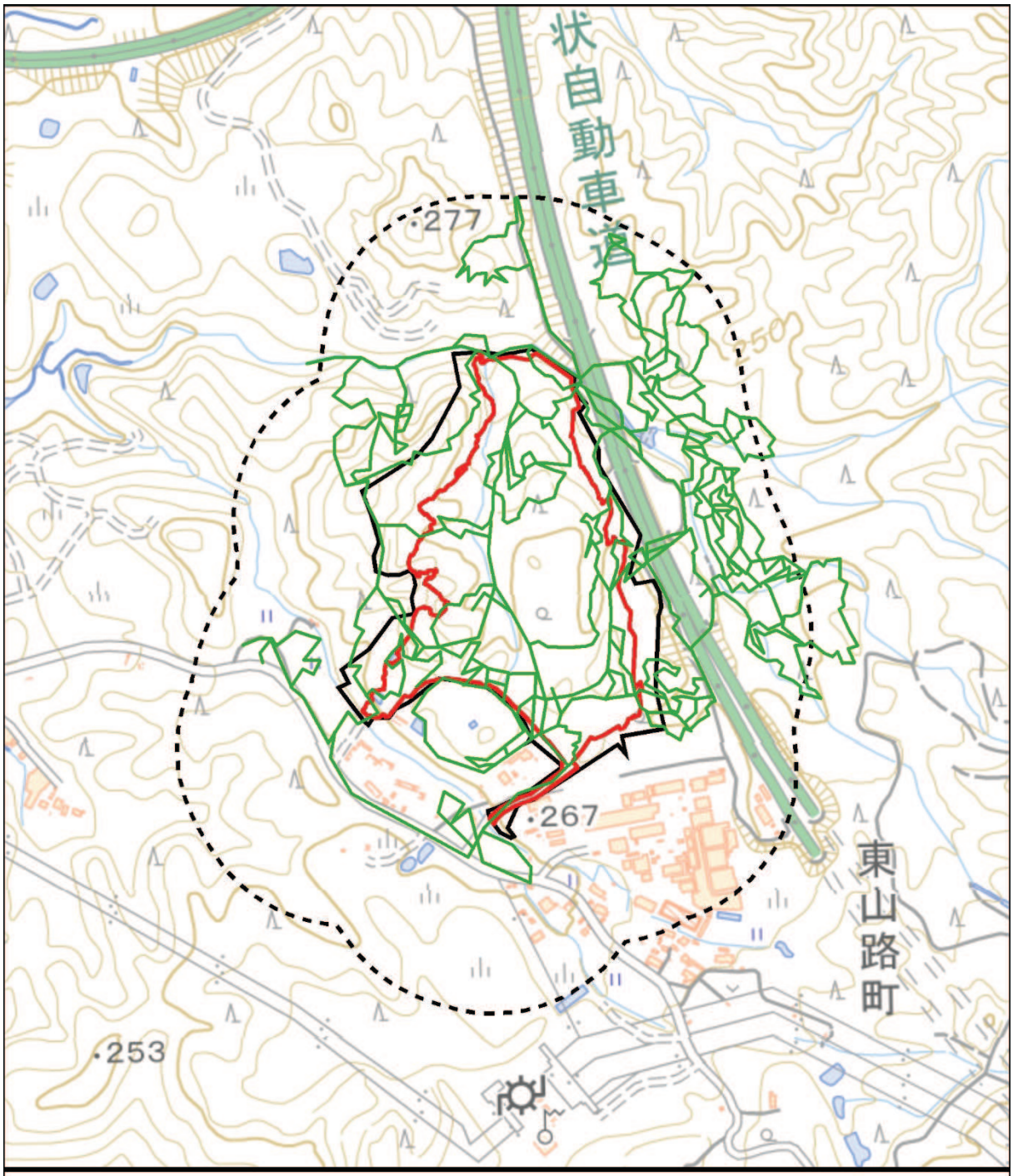
- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 鳥類調査ルート
- 鳥類定点調査地点
- ラインセンサスルート

図 3.6.2-2(2)　鳥類類調査地点図

N

1:8,000

0　100　200　400 m



凡例

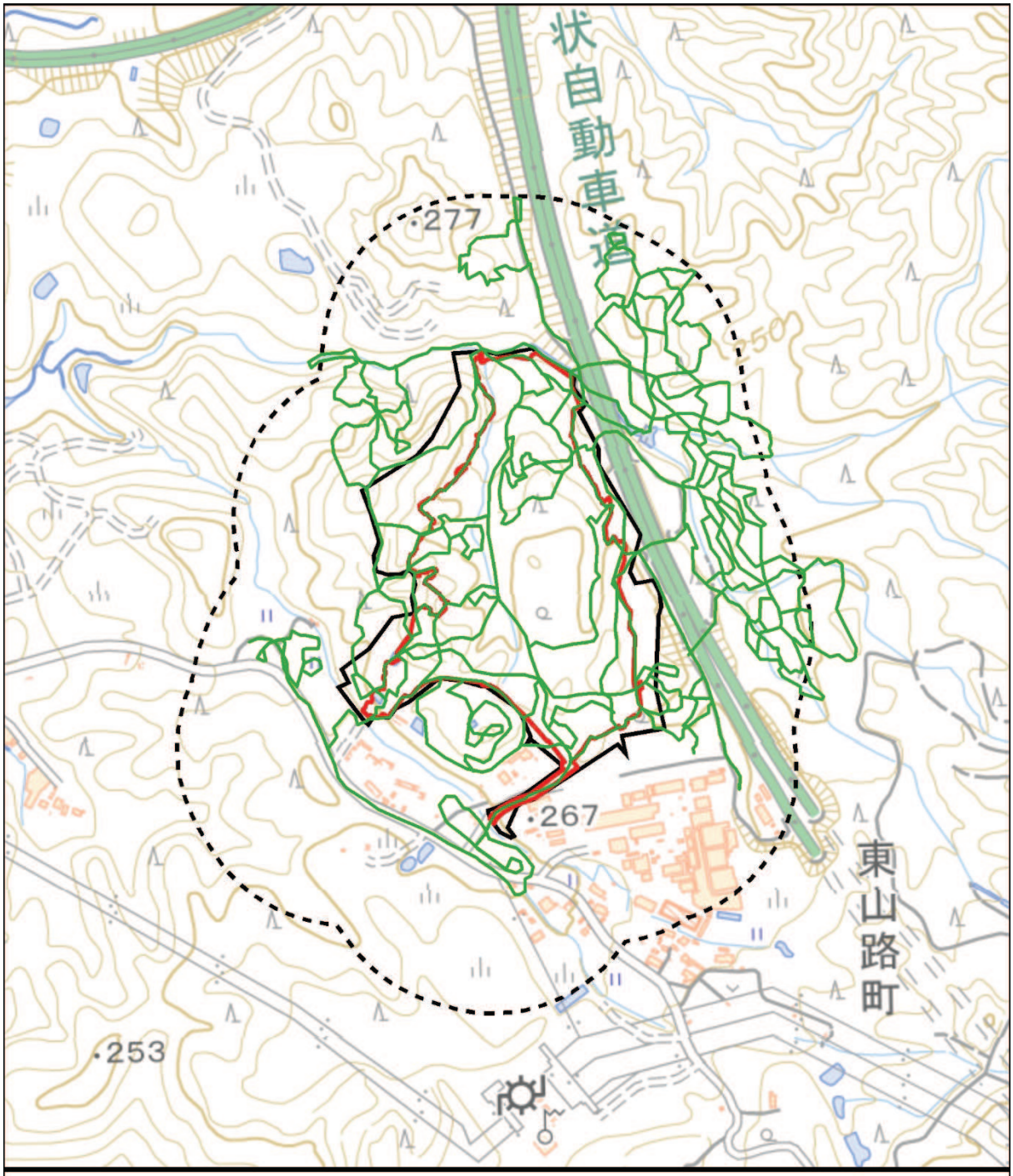
- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 爬虫類調査ルート

図 3.6.2-2(3)　爬虫類調査地点図

N

1:8,000

0　100　200　400 m



凡例

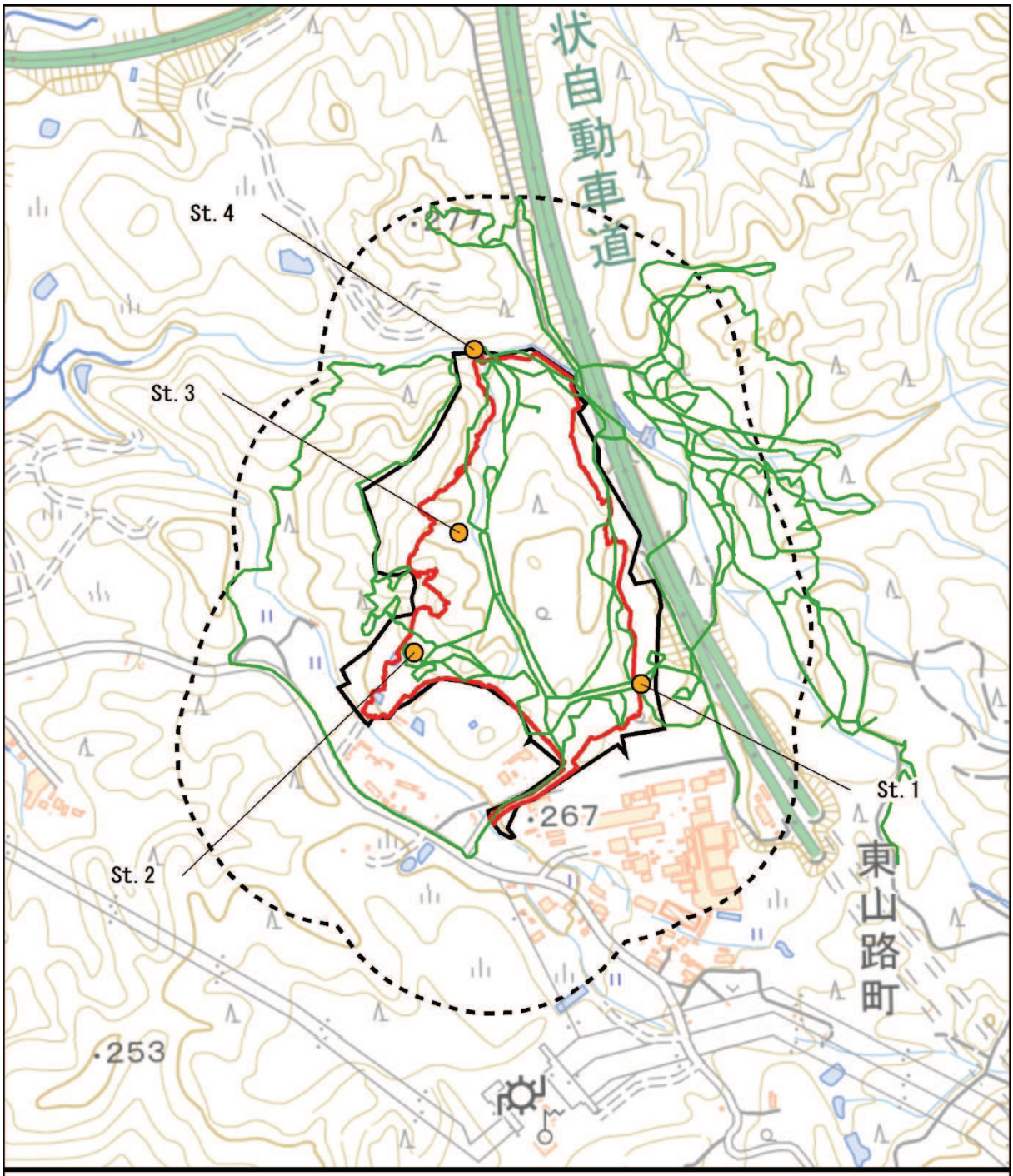
- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 両生類調査ルート

図 3.6.2-2(4)　両生類調査地点図

N

1:8,000

0　100　200　400 m



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 昆虫類調査ルート
- 昆虫類調査地点

図 3.6.2-2(5)　昆虫類調査地点図

N

1:8,000

0　100　200　400 m

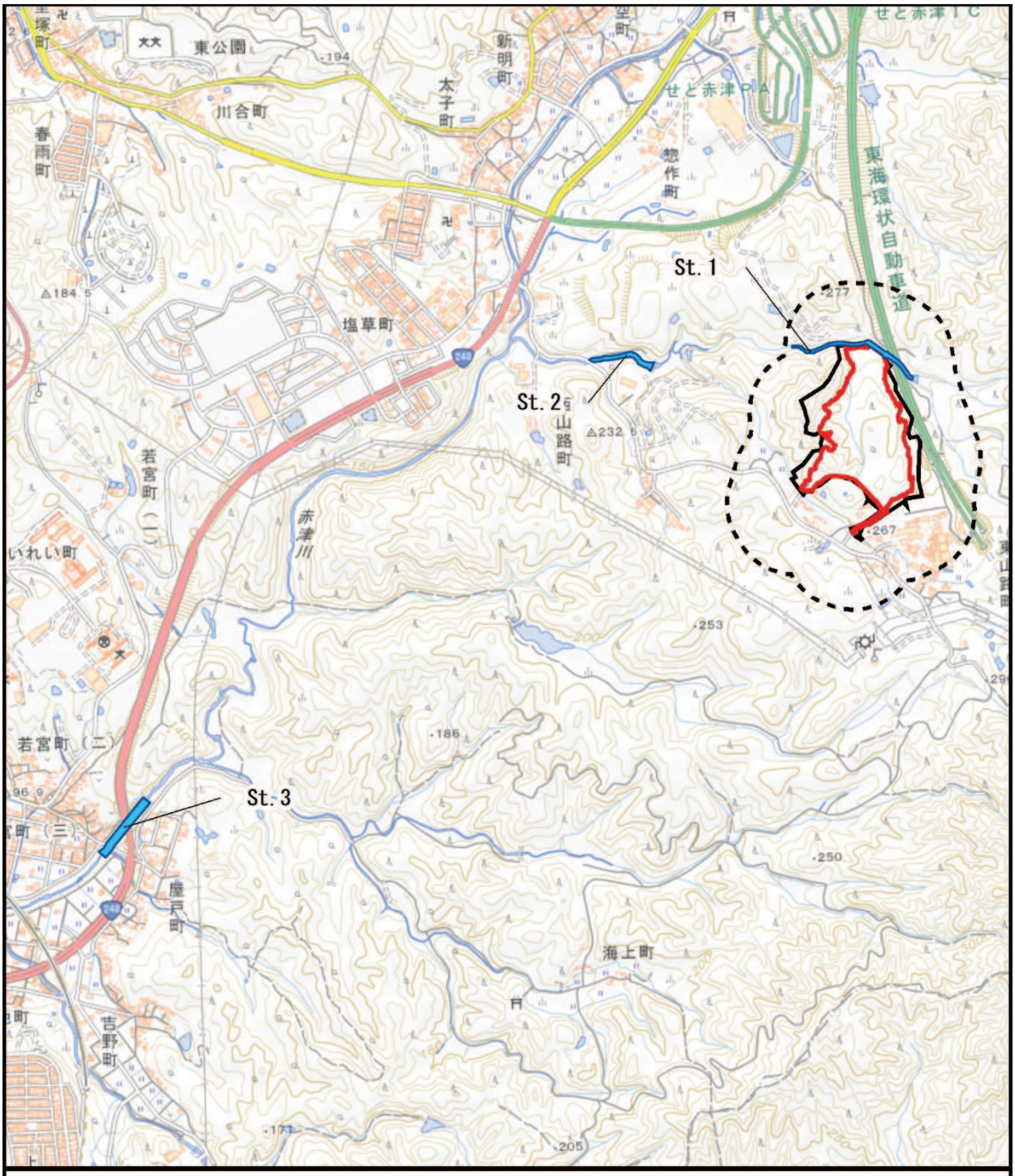


図 3.6.2-2(6)　魚類・底生動物調査地点図

3)　調査結果

ア　哺乳類

a　確認種

現地調査で確認された哺乳類は、表3.6.2-6に示す6目12科16種であった。季別では、冬季に4目6科5種、春季に4目7科8種、夏季に5目8科8種、秋季に6目10科13種が確認された。

フィールドサイン調査では、モグラ属の一種、ニホンリス、タヌキ、ニホンイノシシといった13種が、成体の目撃、足跡、糞等によって確認された。また、シャーマントラップによる捕獲調査ではアカネズミとヒメネズミの2種が、自動撮影カメラ調査ではタヌキ、ハクビシン、ニホンイノシシ、ニホンジカの4種が、それぞれ確認された。このほか、バットディテクターを用いた夜間調査では、ヒナコウモリ科の一種の鳴き声が確認された。確認した周波数のピークから種を推定することは困難であるが、バットディテクターの入感音、確認環境や分布情報等より、モモジロコウモリまたはアブラコウモリの可能性が考えられる。

表 3.6.2-6　現地調査における確認種(哺乳類)

目名	科名	種名	確認時期				確認方法		
			冬季	春季	夏季	秋季	任意	捕獲調査	自動撮影
モグラ	モグラ	ヒミズ				●	○		
		モグラ属の一種 ※2	●			●	○		
コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の一種 ※3		●	●	●	○		
ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●		●	●	○		
ネズミ	リス	ニホンリス				●	○		
	ネズミ	アカネズミ		●		●	○	○	
		ヒメネズミ		●				○	
		カヤネズミ			●	●	○		
ネコ	アライグマ	アライグマ		●	●		○		
	イヌ	タヌキ	●	●	●	●	○		○
		キツネ				●	○		
	イタチ	イタチ				●	○		
	ジャコウネコ	ハクビシン			●				○
ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ	●	●	●	●	○		○
	シカ	ニホンジカ	●	●	●	●	○		○
	ウシ	カモシカ	●	●		●	○		
	－	ウシ目の一種	●	●	●	●	○		
6 目	12 科	16 種	6 種	8 種	8 種	13 種	14 種	2 種	4 種

※1　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。

※2　モグラ属は、確認された塚や坑道の状況から、コウベモグラまたはアズマモグラである可能性が考えられる。

※3　ヒナコウモリ科は、確認された周波数のピーク45kHz前後であることから、アブラコウモリまたはモモジロコウモリである可能性が考えられる。なお、ヤマコウモリやヒナコウモリを除き、多くのヒナコウモリ科の周波数は「40～45kHz」を含むため種を推定することは困難である。

b 重要な種

現地調査で確認された哺乳類のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は、表3.6.2-7に示す5目6科6種であった。重要な種の季節別の確認位置は図3.6.2-3、種の特性及び確認状況は表3.6.2-8に示すとおりである。

表 3.6.2-7　現地調査において確認した重要な種(哺乳類)

目名	科名	種名	確認時期				重要な種選定基準 ※1				
			冬季	春季	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
モグラ	モグラ	モグラ属の一種 ※3 (アズマモグラの可能性)	●			●				VU ※3	
コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の一種 ※4 (モモジロコウモリの可能性)		●	●	●				VU ※4	
ウサギ	ウサギ	ノウサギ	●		●	●				NT	
ネズミ	リス	ニホンリス				●				NT	
	ネズミ	カヤネズミ			●	●				VU	
ウシ	ウシ	カモシカ	●	●		●	特				
5目	6科	6種	3種	2種	3種	6種	1種	0種	0種	5種	0種

※1 重要な種の選定基準の区分は、表 3.6.2-4 を参照。

※2 目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」(河川環境データベース 2021) に準拠した。

※3 モグラ属は、確認された塚や坑道の状況から、コウベモグラまたはアズマモグラである可能性が考えられる。このうちアズマモグラは、愛知県RDB2020においてVUに該当する。

※4 ヒナコウモリ科は、確認された周波数のピーク45kHz前後であることから、アブラコウモリまたはモモジロコウモリである可能性が考えられる。なお、ヤマコウモリやヒナコウモリを除き、多くのヒナコウモリ科の周波数は「40～45kHz」を含むため種を推定することは困難である。このうちモモジロコウモリは、愛知県RDB2020においてVUに該当する。



モグラ属の一種
（アズマモグラの可能性）



モモジロコウモリ
出典　「日本の哺乳類」
（東海大学出版会、1994）



ノウサギ糞



ニホンリス食痕

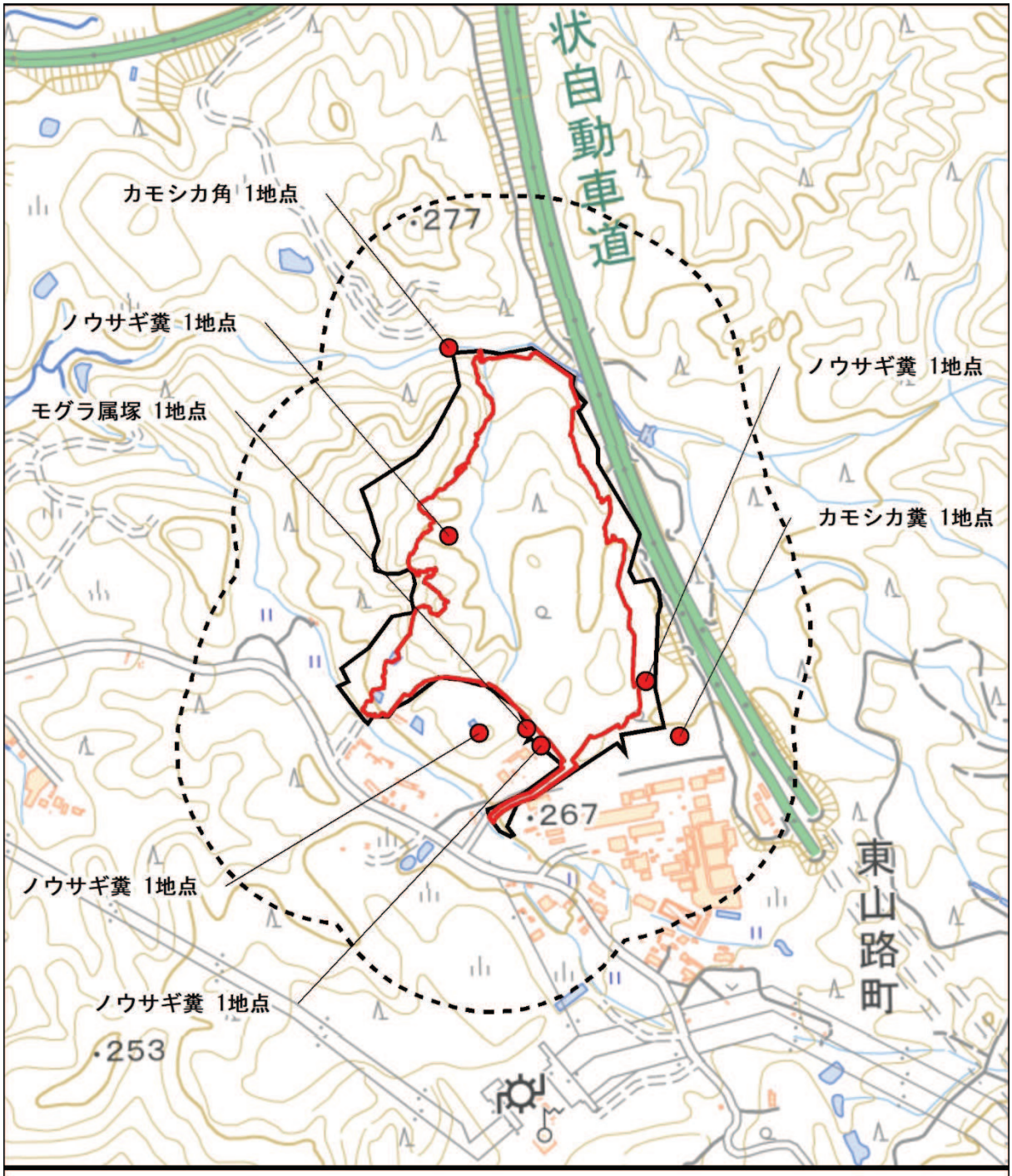


カヤネズミ巣



カモシカ糞

写真 3.6.2-1　重要な種（哺乳類）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

図 3.6.2-3(1)　哺乳類重要な種位置図
（冬季）

N

1:8,000

0　100　200　400 m

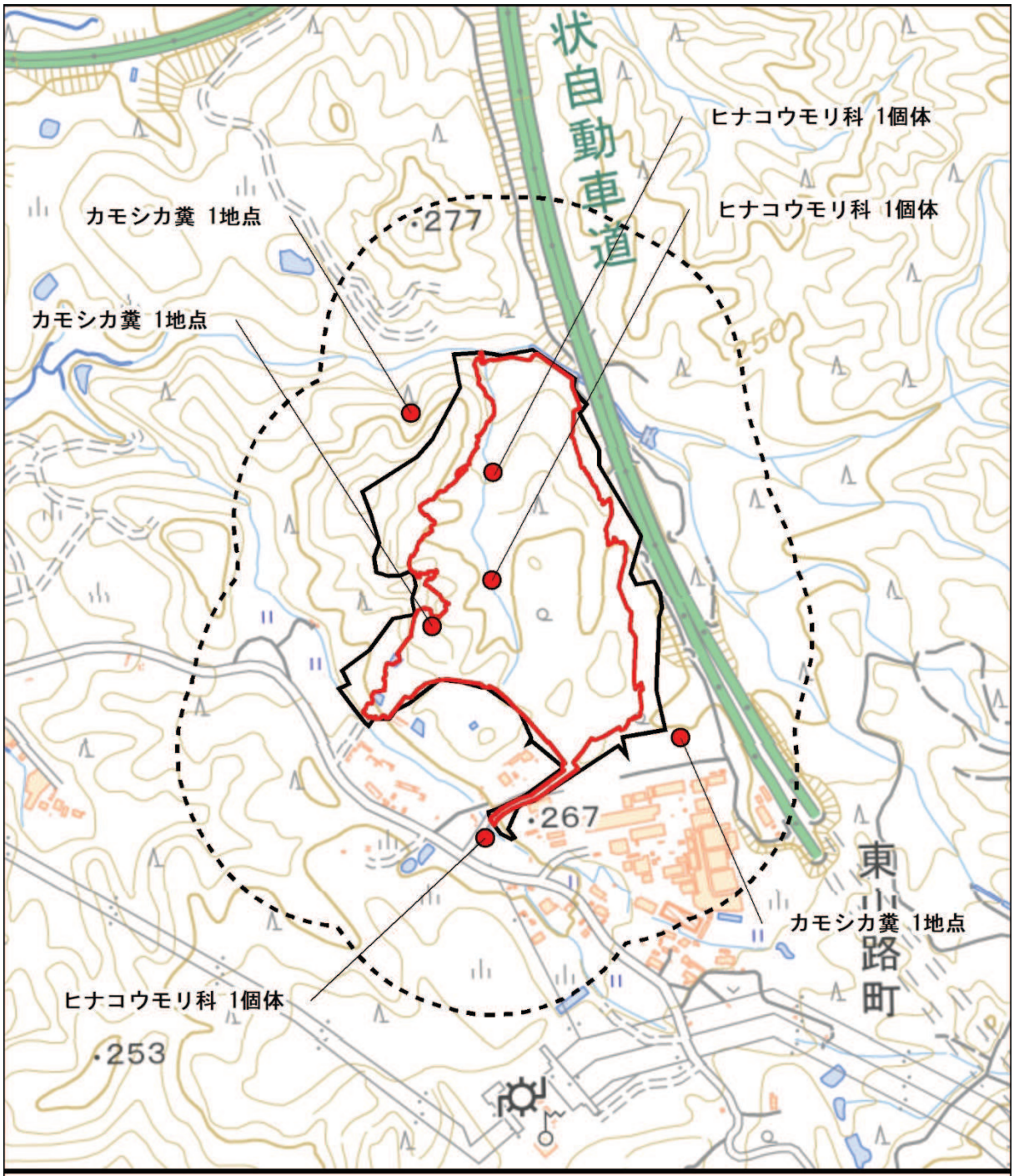
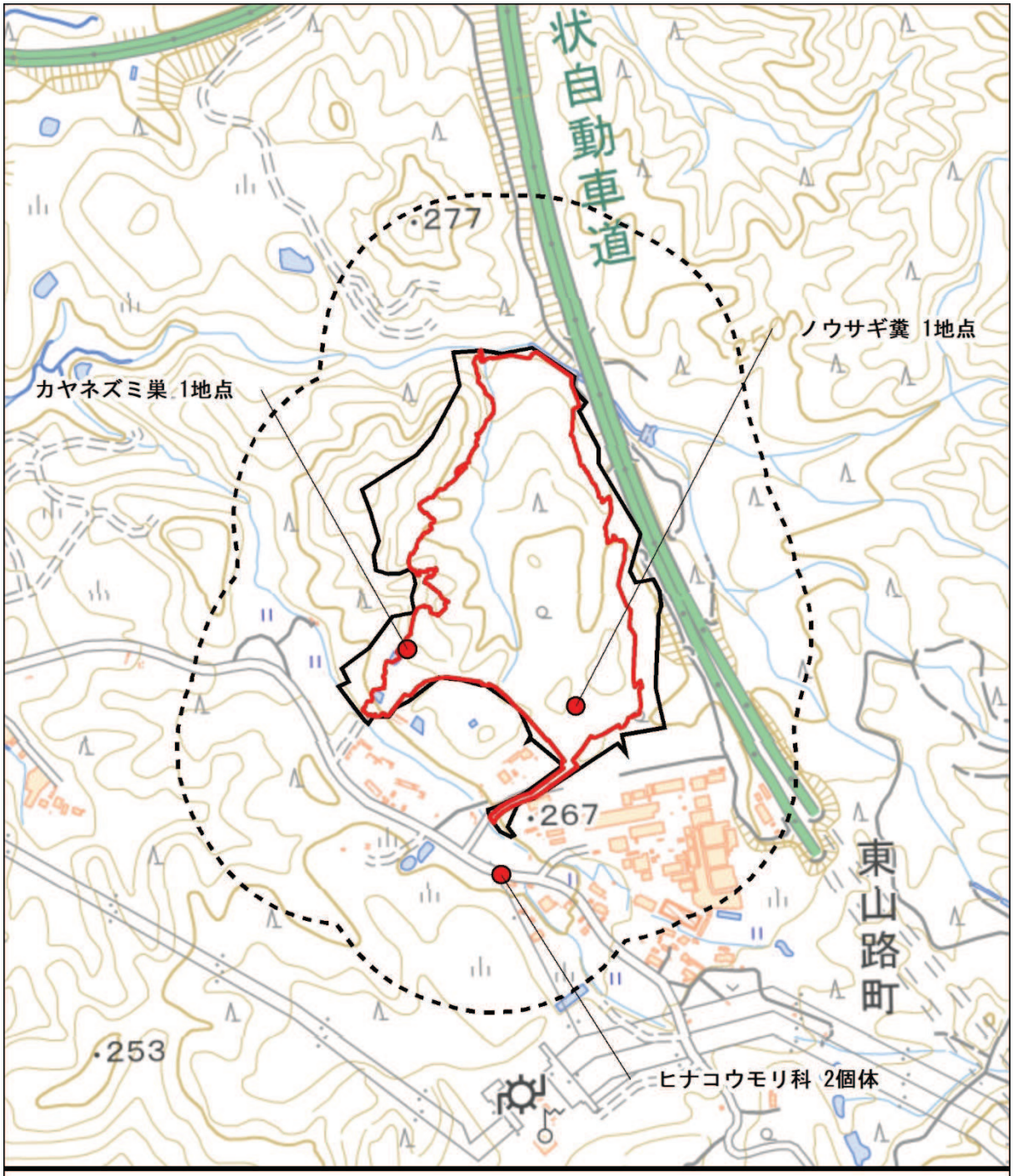


図 3.6.2-3(2)　哺乳類重要な種位置図
（春季）



凡例

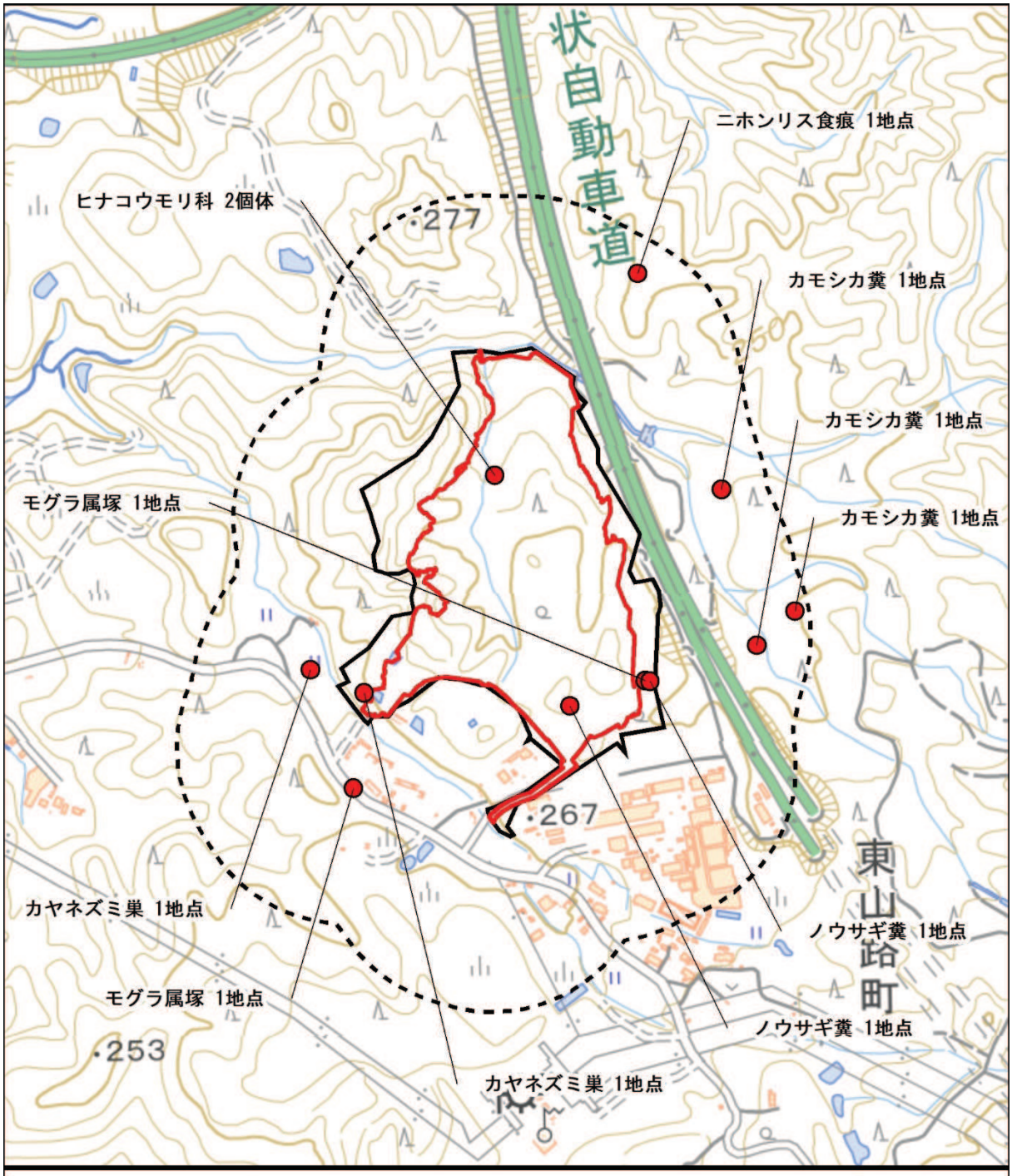
- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

N

1:8,000

0 100 200 400 m

図 3.6.2-3(3)　哺乳類重要な種位置図
（夏季）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

図 3.6.2-3(4)　哺乳類重要な種位置図
（秋季）

N

1:8,000

0　100　200　400 m

表3.6.2-8(1)　重要な種の特性及び確認状況

種名		モグラ属の一種（アズマモグラの可能性）			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			VU		
種の特性	全国分布	本州、四国、粟島、能登島、小豆島			
	愛知県内分布	犬山市、瀬戸市、美浜町、豊田市、設楽町、豊根村、新城市、豊川市			
	形態	体重 48.0～127.0g、頭胴長 121.0～159.0mm、尾長 14.0～22.0mm、後足長 15.5～22.5mm、頭骨最大長 31.5～38.5mm。小型～中型のモグラであるが、体の大きさの地理的変異が著しい。			
	生育場所	愛知県内では、山地ないし丘陵地の土壌の発達の悪い場所に生息している。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	1（0）	1（0）	2	11	
	対象事業実施区域内の改変区域外において、冬季に 1 地点が確認された。対象事業実施区域外において冬季に 1 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-8(2)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ヒナコウモリ科の一種（モモジロコウモリの可能性）			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			VU		
種の特性	全国分布	国後島、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、対馬、壱岐、福江島、種子島、奄美大島、徳之島			
	愛知県内分布	犬山市、設楽町、東栄町、新城市、豊田市			
	形態	体重 5.5～11.0g、頭胴長 44～63mm、前腕長 34～41mm、尾長 32～45mm、脛骨長 15.2～17.0mm、後足長（爪を含む）10.0～11.8mm、耳介長 14.0～16.8mm、耳珠長 4.5～6.0mm、頭骨最大長 14.2～15.6mm。中型のコウモリで、背面の毛色は黒褐色で肛門から足にかけて白い毛がある。			
	生育場所	天然洞穴や人工洞穴。昼間は洞穴で休息し、数頭から数十頭の群をつくる。森林やその周辺、河畔などで採餌する。森林では樹幹の間や樹冠部で採餌しているらしい。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	3（3）	4（4）	2	3	
	対象事業実施区域の改変区域内において、春季に 2 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、春季に 1 地点、夏季に 1 地点がそれぞれ確認された。いずれも夜間調査において 40～45kHz の周波数をピークとする鳴き声（入感音）が確認された。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-8(3)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ノウサギ			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			NT		
種の特性	全国分布	本州、四国、九州、その属島			
	愛知県内分布	春日井市、名古屋市（守山区）、瀬戸市、東海市、知多市、東浦町、美浜町、 南知多町、豊田市、岡崎市、安城市、西尾市、幸田町、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊川市、豊橋市、田原市			
	形態	体重 1,300～2,500g、頭胴長 430～540mm、尾長 20～50mm、後足長 130～150mm、耳介長 60～80mm、頭骨最大長 79.3～92.5mm			
	生育場所	平野部から山地にかけての森林・平原・河川敷などに生息。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	6 (3)	15 (12)	1	1	
	対象事業実施区域内の改変区域内において、冬季に 1 地点、夏季に 1 地点、秋季に 1 地点が、改変区域外において、冬季に 2 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、冬季に 1 地点が確認された。いずれも糞により確認された。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-8(4)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ニホンリス			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			NT		
種の特性	全国分布	本州、四国（九州と淡路島では近年の確実な記録がない）			
	愛知県内分布	犬山市、春日井市、名古屋市（守山区東谷山・森林公園・小幡緑地・八竜緑地）、瀬戸市、尾張旭市（森林公園）、知多市、常滑市、豊田市、みよし市、岡崎市、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊川市、蒲郡市（絶滅？）、田原市			
	形態	体重 250～310g、頭胴長 160～220mm、尾長 130～170mm、後足長 48～58mm、耳介長 22～31mm、頭骨最大長 46.3～55.5mm。背面は夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色で、腹面は純白。尾の先が白く、冬毛では耳の先にふさ毛が生じる。			
	生育場所	平野部から山地にかけての森林。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
			1	2	
	対象事業実施区域外において、秋季に食痕（アカマツ球果）が 1 地点確認された。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）

表3.6.2-8(5)　重要な種の特性及び確認状況

種名		カヤネズミ			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
			VU		
種の特性	全国分布	石川・福島県以南の本州、四国、九州とその属島に広く分布			
	愛知県内分布	春日井市、小牧市、北名古屋市、弥富市、名古屋市、瀬戸市、尾張旭市、長久手市、日進市、東郷町、東海市（絶滅？）、知多市、美浜町、南知多町、豊田市、みよし市、岡崎市、安城市、幸田町、設楽町、新城市、豊川市、豊橋市、田原市			
	形態	体重 5.3～14.0g、頭胴長 54.0～78.5mm、尾長 47～91mm、後足長 14～17mm、耳介長 7～12mm、頭骨最大長 13.7～16.9mm			
	生育場所	低地から標高 1,200m 付近までの山地に分布するが、低地の草地に多く、森林内にはみられない。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	2（1）	2（1）	1	1	
	対象事業実施区域内の改変区域内において、夏季に巣が 1 地点、改変区域外において、秋季に巣が 1 地点それぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、秋季に巣が 1 地点確認された。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-8(6)　重要な種の特性及び確認状況

種名		カモシカ			
重要な種の選定基準					
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例	
特					
種の特性	全国分布	本州・四国・九州に分布			
	愛知県内分布	－			
	形態	成体の角長は約 13cm で、性差はない。成体の体重は 30～45kg、胸囲は 75～85cm、肩高は 70～75cm、頭胴長 70～85cm、性的二型はほとんど示さない。			
	生育場所	低山帯から亜高山帯にかけてのブナ、ミズナラなどが優先する落葉広葉樹林、針広混交林に多く生息。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
	1（1）	1（1）	7	8	
	対象事業実施区域内の改変区域内において、春季に糞が 1 地点確認された。また、対象事業実施区域外において春季に糞が 2 地点、秋季に 3 地点、冬季に 1 地点確認されたほか、冬季に死骸の頭骨から脱落したとみられる角が 1 地点確認された。				

出典　「日本の哺乳類」（東海大学出版会、1994 年）
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

イ　鳥類

a　確認種

現地調査で確認された鳥類は、表3.6.2-9に示す9目24科43種であった。季別では、冬季に7目18科29種、春季に5目17科26種、繁殖期に5目18科21種、夏季に4目14科17種、秋季に4目12科14種が確認された。主な確認種としては、樹林環境ではシジュウカラやメジロ、草地環境ではホオジロやキジが確認されたほか、対象事業実施区域内の造成裸地ではコチドリやハクセキレイといった鳥類が、それぞれ確認された。また、渡り鳥としては、夏鳥としてホトトギス、ヤブサメ、キビタキ、オオルリ等が、冬鳥としてはシロハラ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ベニマシコ等が、それぞれ確認された。このほか、特定外来種のソウシチョウが確認された。

表 3.6.2-9　現地調査における確認種（鳥類）

目名	科名	和名	調査時期				
			冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季
キジ	キジ	コジュケイ		●		●	●
		キジ	●	●			
ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	●				
		キジバト		●		●	●
		アオバト	●				
カツオドリ	ウ	カワウ	●				
ペリカン	サギ	アオサギ	●		●		
カッコウ	カッコウ	ホトトギス			●		
チドリ	チドリ	コチドリ		●	●		
タカ	タカ	トビ	●				
キツツキ	キツツキ	コゲラ	●	●	●	●	●
		アカゲラ	●				
		アオゲラ		●			●
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			●	●	
	モズ	モズ	●				
	カラス	カケス	●				
		ハシボソガラス		●	●	●	
		ハシブトガラス	●	●	●	●	●
	シジュウカラ	ヤマガラ	●	●		●	●
		シジュウカラ	●	●	●	●	●
	ツバメ	ツバメ		●	●	●	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●
	ウグイス	ウグイス		●	●		●
		ヤブサメ		●	●		
	エナガ	エナガ	●	●	●		
	ムシクイ	センダイムシクイ		●	●		
	チメドリ	ソウシチョウ	●	●	●	●	●
	メジロ	メジロ	●	●	●	●	●
	ヒタキ	シロハラ	●				
		ルリビタキ	●				
		ジョウビタキ	●				
		キビタキ		●	●		
		オオルリ		●			●
	スズメ	スズメ	●		●	●	●
	セキレイ	キセキレイ	●	●	●	●	
		ハクセキレイ		●	●		●
		セグロセキレイ	●	●		●	
	アトリ	カワラヒワ	●	●		●	
		マヒワ	●				
		ベニマシコ	●				
	ホオジロ	ホオジロ	●	●	●	●	
		カシラダカ	●				
		アオジ	●	●			
9 目	24 科	43 種	29 種	26 種	21 種	17 種	14 種

※　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国勢調査生物リスト」（河川環境データベース、2021）に準拠した。

b　重要な種

現地調査で確認された鳥類のうち、表 3.6.2-4 に示す基準に該当する重要な種は、表 3.6.2-10 に示す 1 目 1 科 1 種であった。重要な種の確認位置は図 3.6.2-4、種の特性及び確認状況は表 3.6.2-11 示すとおりである。

表 3.6.2-10　現地調査において確認した重要な種(鳥類)

目名	科名	種名	確認時期					重要な種選定基準 ※1				
			冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			●	●				VU	国	
1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	0 種

※1　重要な種の選定基準の区分は、表3.6.2-4を参照。

※2　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。



サンショウクイ

出典　山渓カラー名鑑 日本の野鳥(山と渓谷社、1985)

写真3.6.2-2　重要な種（鳥類）

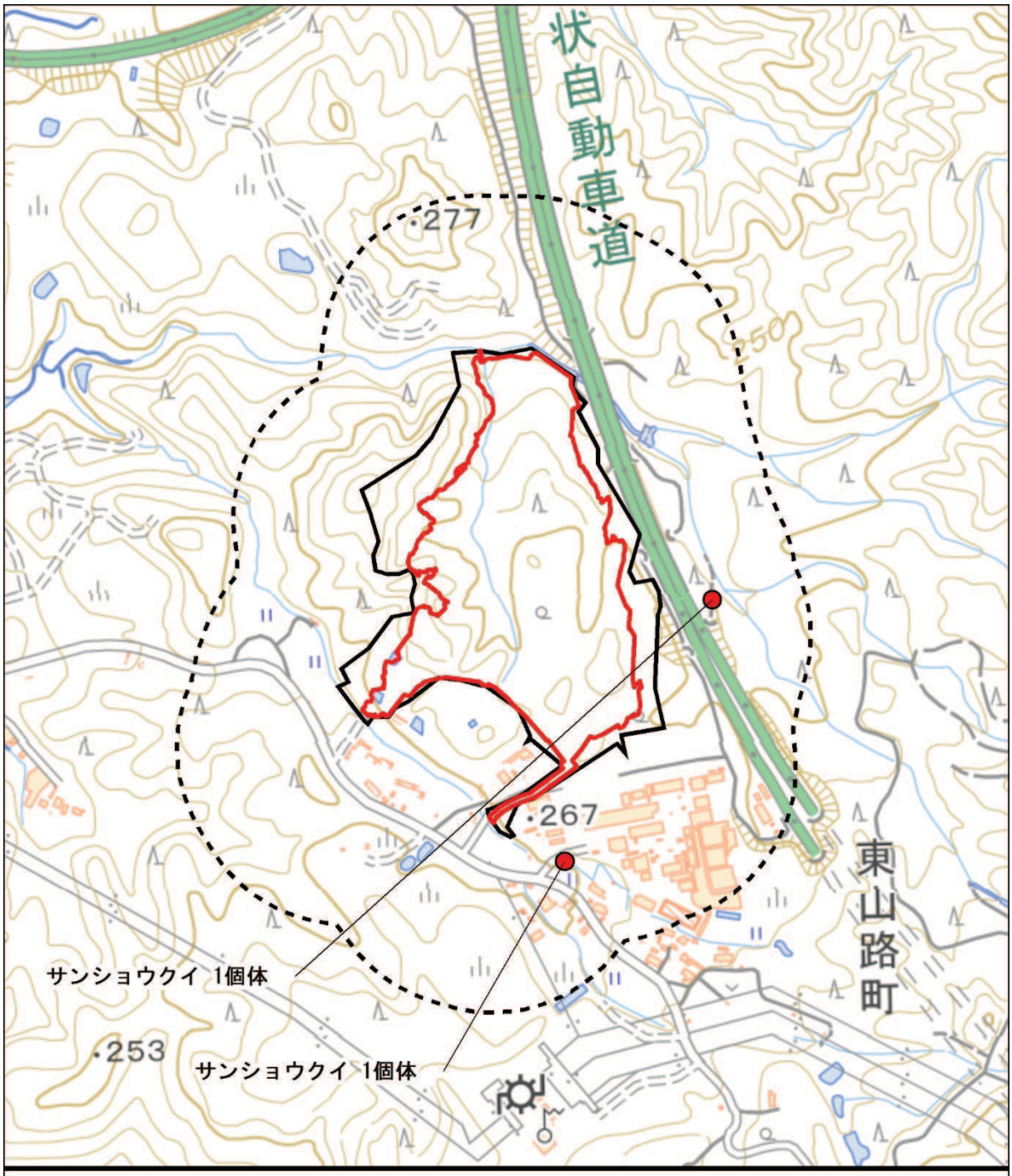
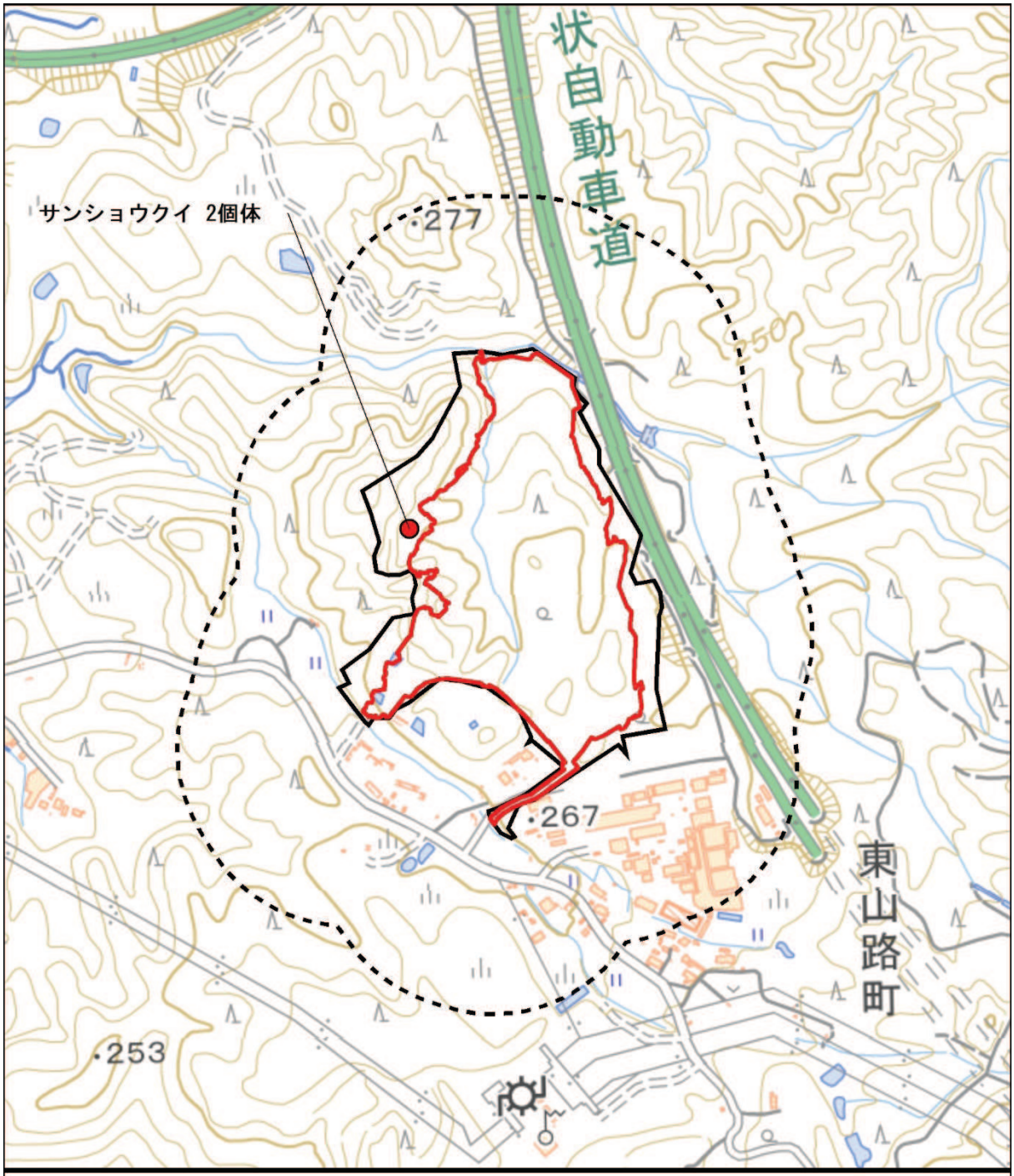


図 3.6.2-4(1)　鳥類重要な種位置図
（繁殖期）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

図 3.6.2-4(2)　鳥類重要な種位置図
（夏季）

N

1:8,000

0　100　200　400 m

表3.6.2-11　重要な種の特性及び確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">サンショウクイ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>VU</td><td>国リスト</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td>全国分布</td><td colspan="4">中国東北部、朝鮮半島、本州、四国、九州に夏鳥として渡来し、東南アジアで越冬する。</td></tr>
<tr><td>愛知県内分布</td><td colspan="4">不明（愛知県では 2001 年以降、生息数回復の傾向が見られる）</td></tr>
<tr><td>形態</td><td colspan="4">全長約 20cm、嘴峰長 12～13mm、翼長 92～100mm、ふ蹠長 13～15mm、尾長 88～98mm。</td></tr>
<tr><td>生育場所</td><td colspan="4">平地や山地の大きな落葉樹のある樹林にすむ。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td></tr>
<tr><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1（0）</td><td>2（0）</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="4">対象事業実施区域内の改変区域外において、夏季に 2 個体確認された。また、対象事業実施区域外において、繁殖期（春季両爬哺類調査時）に 2 地点合計 2 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブック 2014」（環境省、2014 年）

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

ウ　爬虫類

a　確認種

現地調査で確認された爬虫類は、表3.6.2-12に示す1目3科3種であった。季別では、春季に1目2科2種、夏季に1目3科3種、秋季に1目1科1種が確認された。ヒガシニホントカゲとニホンカナヘビは、主に乾性草地や林縁部のほか、道路法面などの明るく開けた環境で確認された。また、シマヘビは対象事業実施区域の南側にある乾性草地において抜け殻が1地点確認された。

表 3.6.2-12　現地調査における確認種(爬虫類)

目名	科名	種名	確認時期		
			春季	夏季	秋季
有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	●	●	
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●
	ナミヘビ	シマヘビ		●	
1 目	3 科	3 種	2 種	3 種	1 種

※　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。

b　重要な種

現地調査で確認された爬虫類のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は確認されなかった。

エ　両生類

a　確認種

現地調査で確認された両生類は、表3.6.2-13に示す1目5科7種であった。季別では、春季に1目2科2種、夏季に1目2科3種、秋季に1目4科5種が確認された。早春季には、主にサンショウウオ類を対象とした調査を行ったが、両生類は確認されなかった。

なお、確認種のうちトノサマガエル属の一種は、形態や分布情報等よりトノサマガエルまたはナゴヤダルマガエルである可能性が考えられる。

表 3.6.2-13　現地調査における確認種(両生類)

目名	科名	種名	確認時期			
			早春季	春季	夏季	秋季
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル			●	●
	アマガエル	ニホンアマガエル				●
	アカガエル	ヤマアカガエル			●	●
		トノサマガエル属の一種 ※2		●	●	
		ウシガエル				●
		アカガエル科の一種		●		
	ヌマガエル	ヌマガエル				●
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		●		
1 目	5 科	7 種	0 種	2 種	3 種	5 種

※1　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。

※2　トノサマガエル属は、トノサマガエルまたはナゴヤダルマガエルである可能性が考えられる。

b　重要な種

現地調査で確認された両生類のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は、表3.6.2-14に示すトノサマガエル属の一種のみであった。重要な種の確認位置は図3.6.2-5、種の特性及び確認状況は表3.6.2-15に示すとおりである。

表 3.6.2-14　現地調査において確認した重要な種(両生類)

目名	科名	種名	確認時期				重要な種選定基準 ※2				
			早春季	春季	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
無尾	アカガエル	トノサマガエル属の一種 ※3		●	●						
		トノサマガエル							NT	国	
		ナゴヤダルマガエル							EN	VU	
1目	1科	1種	0種	1種	1種	0種	0種	0種	1種	1種	0種

※1　重要な種の選定基準の区分は、表 3.6.2-4 を参照。

※2　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。

※3　トノサマガエル属は、トノサマガエルまたはナゴヤダルマガエルである可能性が考えられる。このうち、トノサマガエルは環境省RL2020においてNT、愛知県RDB2020において国リストに該当する。またナゴヤダルマガエルは環境省RL2020においてEN、愛知県RDB2020においてVUに該当する。

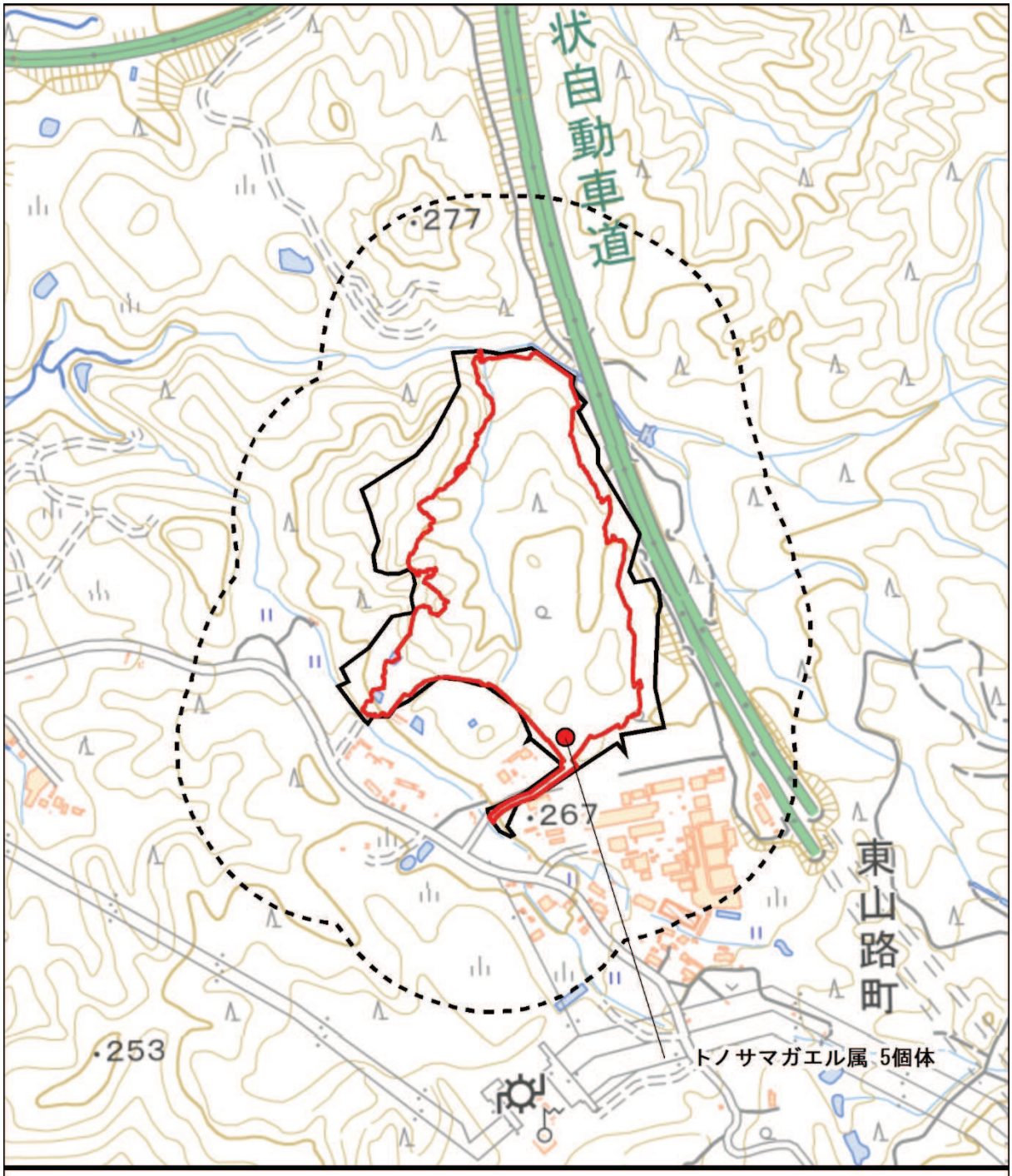


トノサマガエル属の一種

写真 3.6.2-3　重要な種（両生類）

※トノサマガエル属の一種について

トノサマガエルとナゴヤダルマガエルとの大きな違いは後肢の長さにあり、ナゴヤダルマガエルの脛長が雌雄とも体長の 43%程度であるのに対し、トノサマガエルは 48%程度である。トノサマガエル属の一種の種の特定のためには、個体の捕獲及び計測を行い、体長と後肢脛長との比率のほか、体表面の斑紋や色彩の特徴を確認する必要がある。夏季には 1 個体を捕獲し計測した結果、体長と後肢脛長との比率が 44%程度と、ナゴヤダルマガエルに近い数値であった。しかし、近年ではトノサマガエルとナゴヤダルマガエルの自然交雑が確認されている（レッドデータブック 2014(環境省、2014 年)）ことから、種の特定のためにはより多くの個体を捕獲及び計測し、個体群の形態特徴を把握に努める必要があると考える。



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

N

1:8,000

0 100 200 400 m

図 3.6.2-5(1)　両生類重要な種位置図
（春季）

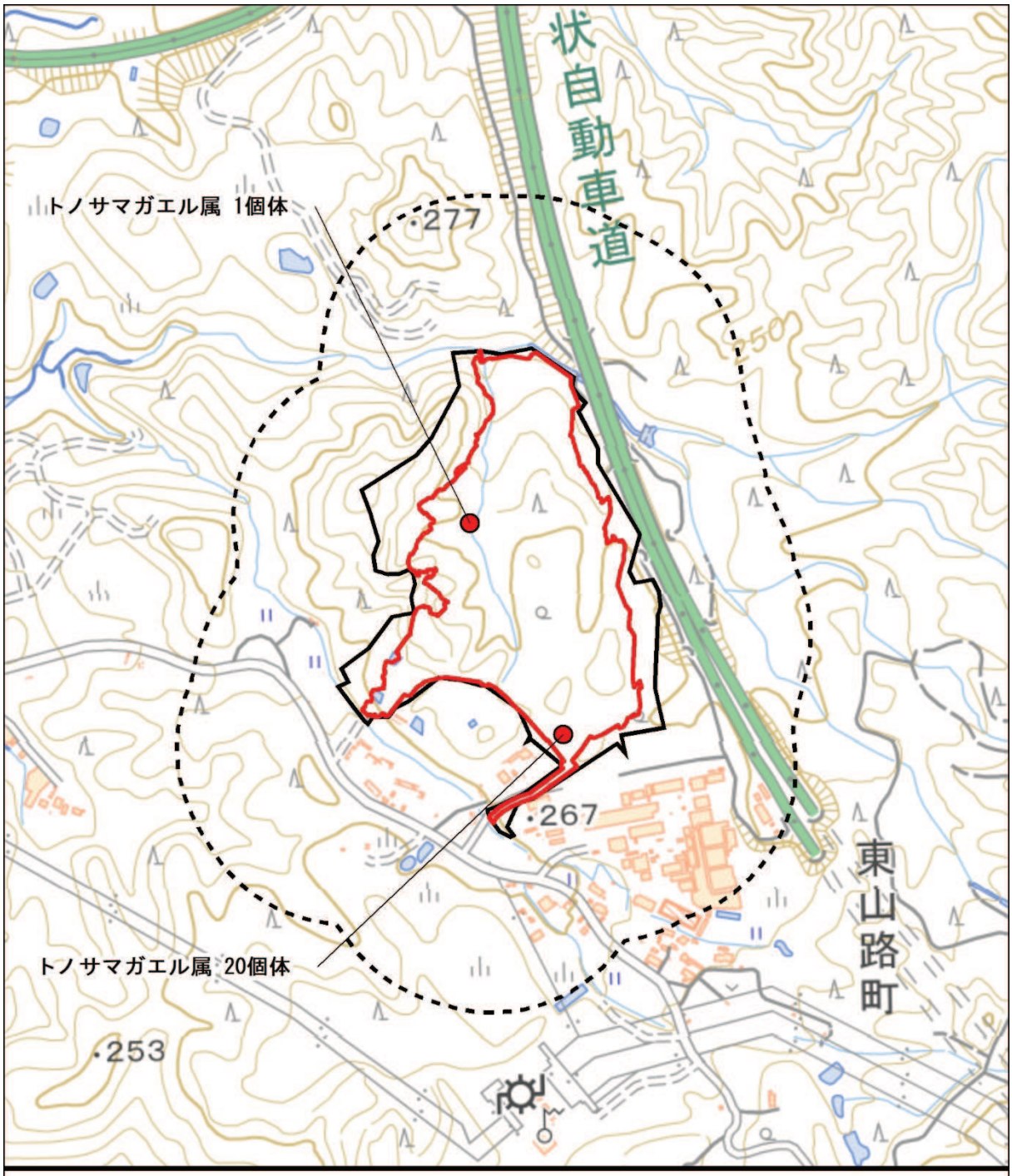


図 3.6.2-5(2)　両生類重要な種位置図
（夏季）

表3.6.2-15　重要な種の特性及び確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">トノサマガエル属の一種
（トノサマガエルまたはナゴヤダルマガエルの可能性）</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>トノサマガエル：NT
ナゴヤダルマガエル:VU</td><td>トノサマガエル：国
ナゴヤダルマガエル：EN</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td>全国分布</td><td colspan="4">トノサマガエル：本州から四国、九州にかけての広い範囲
ナゴヤダルマガエル：東海から近畿、中国地方に分布</td></tr>
<tr><td>愛知県内分布</td><td colspan="4">ナゴヤダルマガエル：県内では主に平野部に生息し、新城市、豊田市、瀬戸市を結ぶ線の西側に分布。トノサマガエルとは分布が重複する。</td></tr>
<tr><td>形態</td><td colspan="4">トノサマガエル：雌雄の体長は、それぞれ 55～80㎜、60～90㎜。日本のカエルでは珍しく雌雄で体色が異なる。
ナゴヤダルマガエル：体長は雄で 35～60㎜、雌で 40～70㎜ 程度。トノサマガエルよりずんぐりした体型。両種間の大きな違いは後肢の長さにあり、本種の脛長が雌雄とも体長の 43%程度であるが、トノサマガエルは 48%程度である。体表面の黒褐色の斑紋は孤立するが変異が多い。</td></tr>
<tr><td>生育場所</td><td colspan="4">水田を主な生息地とするが、湖沼や河川などにも見られる。水辺から離れない傾向が強く、一生を通じて低湿地で生活する。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td></tr>
<tr><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>3 (3)</td><td>26 (26)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">対象事業実施区域内の改変区域内において、春季に 5 個体、夏季に 21 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブック 2014」（環境省、2014 年）
「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

オ　昆虫類

a　確認種

現地調査で確認された昆虫類は、表3.6.2-16に示すとおり、21目249科786種であった。季別では、早春季に16目103科187種、春季に20目151科302種、夏季に16目159科340種、秋季に18目140科322種の昆虫類が確認された。なお、確認種のリストは資料編に記載した。

季節ごとの特徴的な確認種としては、早春季にはコツバメやスギタニルリシジミ本州亜種といった早春のみ出現する種や、オツネントンボやツチイナゴといった成虫で越冬する昆虫類があげられる。また、春季にはクロスジギンヤンマ、ヒラタハナムグリといった春から初夏に見られる種、夏季にはニイニイゼミ、カナブンなど夏季に発生する昆虫類、秋季には成虫となったヤマクダマキモドキやクマスズムシといったバッタ目や、発生する季節によって形態差が現れるクロコノマチョウやウラギンシジミといったチョウ類の秋型個体があげられる。

環境ごとの出現種としては、草地ではショウリョウバッタモドキ、ツノトンボ及びジャノメチョウといった草原性の種、樹林では主に樹上に生息するコロギス及びヤニサシガメ、樹液に集まるノコギリクワガタやルリタテハ本土亜種といった樹林性の種、湿地や沈砂池ではキイトトンボ、ショウジョウトンボ及びネキトンボといったトンボ類や、アメンボ、コマツモムシ及びハイイロゲンゴロウといった水生昆虫類があげられる。対象事業実施区域内の造成裸地では、ナミハンミョウやトノサマバッタといった開放的な環境を好む種が確認された。

このほか、近年中国から侵入したと考えられているムネアカハラビロカマキリ、東南アジアから侵入したと考えられているヘクソカズラグンバイといった外来種や、獣糞に集まるカドマルエンマコガネやセンチコガネ、ニホンジカなどに寄生するシカシラミバエなどが確認された。

表3.6.2-16　目別科種数表

目名	科数	種数	調査時季							
			早春季		春季		夏季		秋季	
			科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
トビムシ	7	9			5	7	7	8	5	5
イシノミ	1	1			1	1	1	1	1	1
カゲロウ	3	3	1	1			2	2		
トンボ	7	26	3	4	5	5	5	12	3	12
ゴキブリ	2	2	2	2	1	1			2	2
カマキリ	2	4			1	1	1	2	2	4
シロアリ	1	1	1	1	1	1			1	1
ハサミムシ	1	1			1	1			1	1
カワゲラ	4	7	2	4	3	4	1	1	1	1
バッタ	13	35	2	3	5	7	10	13	11	26
チャタテムシ	4	6	1	1	1	2	1	1	3	4
カメムシ	39	144	19	36	17	39	25	63	27	72
アザミウマ	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
ヘビトンボ	2	2	1	1	1	1				
アミメカゲロウ	7	12	2	4	2	5	5	5	1	1
シリアゲムシ	1	1			1	1				
トビケラ	11	15	4	4	7	8	7	8	5	5
チョウ	25	77	8	16	16	33	17	27	10	23
ハエ	42	109	19	28	30	48	31	45	27	49
コウチュウ	48	242	21	45	35	97	33	123	21	70
ハチ	27	87	16	36	17	39	12	28	18	44
21目	249科	786種	103科	187種	151科	302種	159科	340種	140科	322種
			16目103科187種		20目151科302種		16目159科340種		18目140科322種	

※目名及び配列は、主に「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した.

b　重要な種

現地調査で確認された昆虫類のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は、表3.6.2-17に示すとおり3目4科4種であった。

重要な種の確認位置は図3.6.2-6、種の特性及び確認状況は表3.6.2-18に示すとおりである。

表 3.6.2-17　現地調査において確認した重要な種(昆虫類)

目名	科名	種名	確認時期				重要な種選定基準 ※1				
			早春季	春季	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ	●			●				NT	
カメムシ	アメンボ	オオアメンボ	●							NT	
	タイコウチ	ヒメタイコウチ	●		●					NT	
チョウ	アゲハチョウ	ギフチョウ		●					VU	VU	
3 目	4 科	4 種	3種	1種	1種	1種	0種	0種	1種	4種	0種

※1　重要な種の選定基準の区分は、表 3.6.2-4 を参照。

※2　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。



オオゴキブリ



オオアメンボ

出典：「ネイチャーガイド日本の水生昆虫」
（文一総合出版、2020年）



ヒメタイコウチ



ギフチョウ

出典　「里山の昆虫ハンドブック」
（NHK出版、2010年）」

写真 3.6.2-4　重要な種（昆虫類）

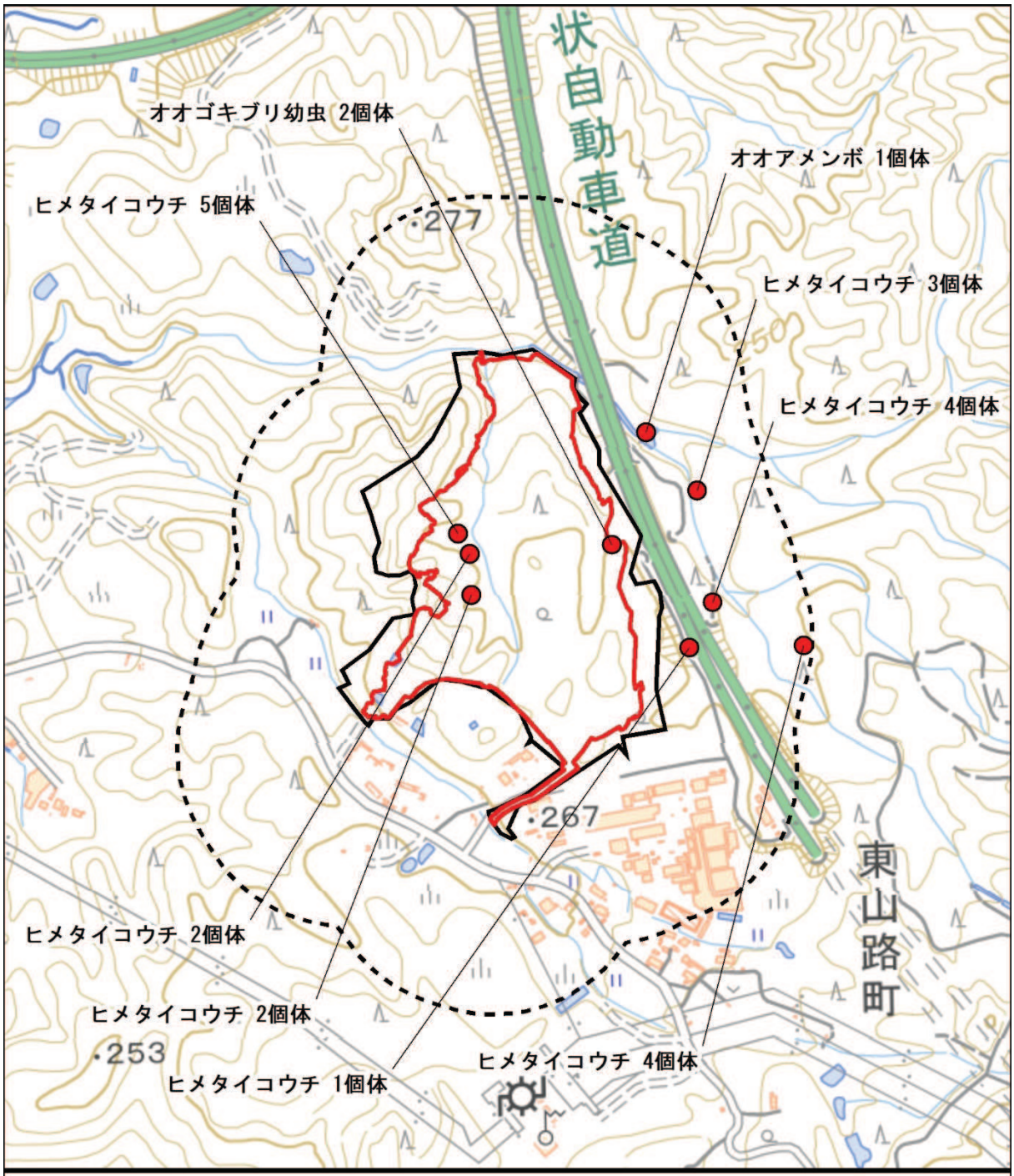
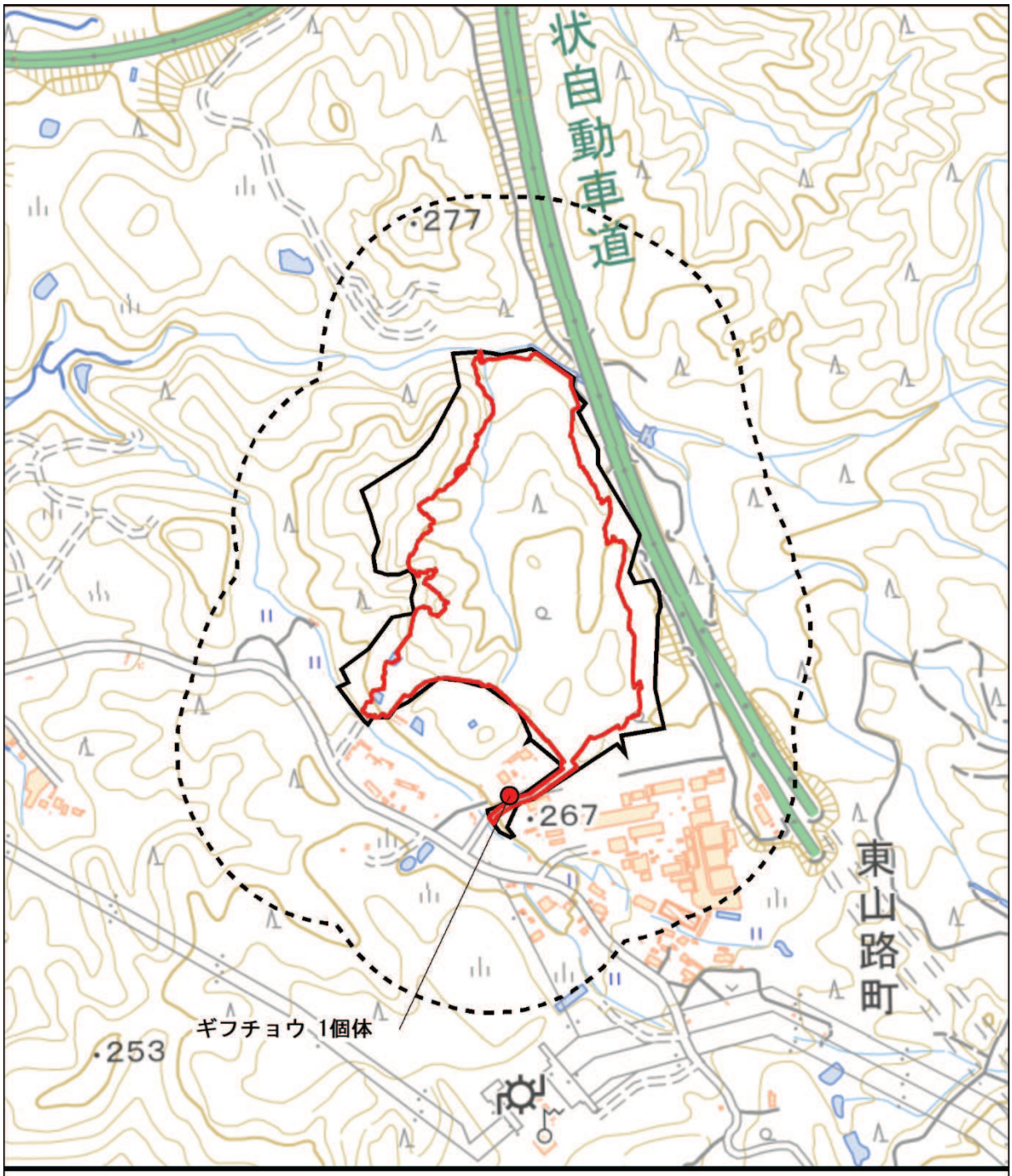


図 3.6.2-6(1)　昆虫類重要な種位置図
（早春季）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 重要な種確認位置

図 3.6.2-6(2)　昆虫類重要な種位置図
（春季）

N

1:8,000

0　100　200　400 m



図 3.6.2-6(3)　昆虫類重要な種位置図
（夏季）



図 3.6.2-6(4)　昆虫類重要な種位置図
（秋季）

表3.6.2-18(1)　重要な種の特性及び確認状況(昆虫類：オオゴキブリ)

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">オオゴキブリ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td>NT</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td colspan="2">全国分布</td><td colspan="3">本州、四国、九州。海岸線に沿った地域に多い。</td></tr>
<tr><td colspan="2">愛知県における分布</td><td colspan="3">比較的各地から記録されているが、河川に沿って内陸に分布を広げているようである。</td></tr>
<tr><td colspan="2">形態</td><td colspan="3">体長は 37～41㎜。体は太く、光沢のある漆黒色。前胸背は前部と中央に小突起を有する。枯朽木内など狭い空間に住んでいるため成虫の翅は擦り切れていることが多い。県内では主として海岸線に近い照葉樹林に生息しているが、環境適応性の幅も広く、落葉広葉樹林や針葉樹林にも生息している。生態については朽木内で坑道を掘って家族生活をしている以外ほとんど何も判っていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">生育場所</td><td colspan="3">落葉広葉樹林や針葉樹林の枯朽木内。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td colspan="2">1（1）</td><td>2（2）</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="5">対象事業実施区域内の改変区域内において、早春季調査に 1 地点 2 個体が確認された。また、対象事業実施区域外において、秋季に 1 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県、2020 年)

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-18(2)　重要な種の特性及び確認状況(昆虫類：オオアメンボ)

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">オオアメンボ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td>NT</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td colspan="2">全国分布</td><td colspan="3">本州、隠岐、四国、九州、対馬</td></tr>
<tr><td colspan="2">愛知県における分布</td><td colspan="3">豊根村、新城市、豊田市、岡崎市、瀬戸市、犬山市などで確認されている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">形態</td><td colspan="3">本州産アメンボ科では最大級で、体長は 19～27㎜、体肢は黒色で長い。♂の中脚は特に長く、腿節は体長よりも長い。一般に♂の方が♀よりも大型である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">生育場所</td><td colspan="3">丘陵地から山間部にかけて、周辺を樹林に囲まれた池沼などに生息する。砂防堰堤によってせき止められた湛水域でもよく見られる。樹木の葉などによって日陰となった水面を好む。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="5">対象事業実施区域外において、早春季に 1 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県、2020 年)

表3.6.2-18(3)　重要な種の特性及び確認状況(昆虫類：ヒメタイコウチ)

種名		ヒメタイコウチ		
重要な種の選定基準				
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
			NT	
種の特性	全国分布	本州（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県)、四国（香川県)。		
	愛知県における分布	豊橋市、豊田市、岡崎市、幸田町、西尾市（旧市域、旧吉良町、旧幡豆町)、知多市、美浜町、瀬戸市、長久手市、春日井市、名古屋市、犬山市など県内各地で確認されている。		
	形態	体長は 18～22㎜。体型は長卵形で光沢のない暗褐色を呈し、尾端の呼吸管は非常に短い。前脚は捕獲脚になっている。前胸背は幅広く、小楯板は正三角形を呈す。湿地、水田や用水路、溜め池の水辺などで常に水の流入が認められる環境に生息する。小石や植物の堆積物の下などに潜み、クモ類やゴミムシ類など徘徊性の小動物を捕食する。飛翔しないため移動性が乏しい。		
	生育場所	溜め池の水辺でも見つかる他に、道路脇や河川敷などの小規模な湿地でも確認されるため、湿地環境があれば生息している場合が多い。		
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数
	4 (4)	13 (13)	4	12
	対象事業実施区域内の改変区域内において、早春季に 3 地点合計 9 個体、夏季に 1 地点 4 個体が確認された。また、対象事業実施区域外において、早春季に 4 地点合計 12 個体確認された。			

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県、2020 年)

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-18(4)　重要な種の特性及び確認状況(昆虫類：ギフチョウ)

種名		ギフチョウ		
重要な種の選定基準				
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
		VU	VU	
種の特性	全国分布	本州。		
	愛知県における分布	犬山市、小牧市、春日井市、日進市、瀬戸市、長久手市など尾張東部丘陵から、豊田市にかけて産地が比較的多い。一方、東部群は岡崎市から蒲郡市、豊橋市、新城市にかけてやや局地的に産する。旧北設楽郡には設楽町（田内、清崎)、東栄町（本郷、奈根）にごく少数の採集記録がある。		
	形態	前翅長約 32～34㎜ の小型のアゲハチョウ。細長い尾状突起をもつ。翅表は黒と淡黄色の縞模様。後翅外縁に橙色紋、その内側の黒帯の中に藍色の小斑点、肛角に赤色の斑紋をもつ。近似種のヒメギフチョウ（愛知県には産しない）はやや小型、前翅の最外縁の黄色の線の最上端が内側にずれ非連続となる。また、後翅の外縁に沿う橙色紋が地色と同じ淡黄色である。産地により微妙な翅形、大きさ、斑紋、尾状突起の長さなどに差がみられる。成虫は年 1 回、多くの産地ではソメイヨシノの開花と一致して羽化し、スミレ、カタクリ、サクラなどを訪花する習性が強い。カンアオイ類も丁度その頃新芽を出し、この葉裏に産卵する。幼虫はその葉が硬くならないうちに食べ、ほぼ 1 か月で蛹化、そのまま冬を越す。		
	生育場所	主な生息地は、丘陵から低山にかけての人里で、春には林床に光が差し、幼虫の食草のカンアオイ類（愛知県ではヒメカンアオイが優位、愛知県西部では一部スズカカンアオイ）や成虫の吸蜜植物であるカタクリやスミレが咲く明るい林の周辺である。		
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数
			1	1
	対象事業実施区域外において 1 個体が確認された。			

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県、2020 年)

エ　魚類

a　確認種

現地調査で確認された魚類は、表3.6.2-19に示す3目4科6種であった。季別では、春季に2目3科5種、夏季に3目4科5種、秋季に2目3科4種が確認された。St.1及びSt.2では、3季の調査を通じで確認された魚類はカワムツとカワヨシノボリの2種のみであった。St.3では上記の2種に加え、アブラハヤ、ナガレカマツカ、ドジョウ、ミナミメダカの合計6種が確認された。St.1及びSt.2については、魚類相の豊富なSt.3からは落差のある堰により隔たれていることから、確認できる魚類が限られているものと考えられる。

表 3.6.2-19　現地調査における確認種(魚類)

目名	科名	和名	調査地点／調査時季								
			St.1			St.2			St.3		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
コイ	コイ	カワムツ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		アブラハヤ							●	●	●
		ナガレカマツカ							●		
	ドジョウ	ドジョウ							●	●	●
ダツ	メダカ	ミナミメダカ								●	
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	●	●	●	●	●	●		●	
3 目	4 科	6 種	2 種	2 種	2 種	2 種	2 種	2 種	4 種	5 種	3 種

※　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。

b　重要な種

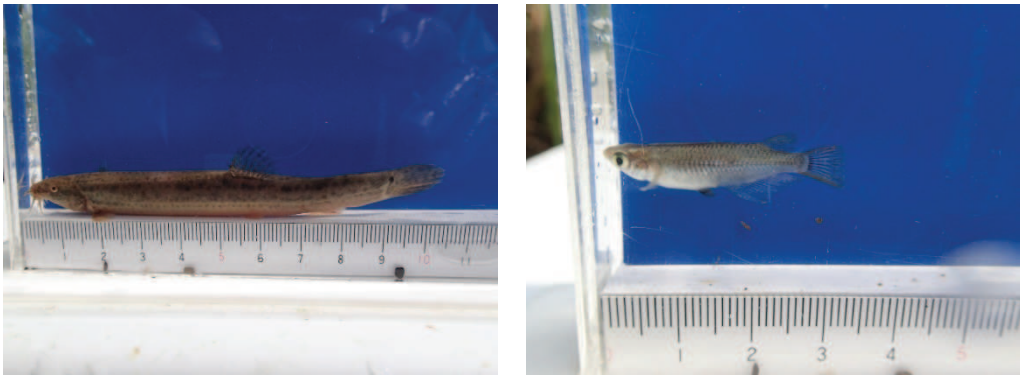
現地調査で確認された魚類のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は、表3.6.2-20に示す2目2科2種であった。重要な種の確認位置は図3.6.2-7、種の特性及び確認状況は表3.6.2-21に示すとおりである。

表 3.6.2-20　現地調査において確認した重要な種(魚類)

目名	科名	和名	調査時季			重要な種選定基準 ※1				
			春季	夏季	秋季	①	②	③	④	⑤
コイ	ドジョウ	ドジョウ	●	●	●			NT	VU	
ダツ	メダカ	ミナミメダカ		●				VU	VU	
2 目	2 科	2 種	1 種	2 種	1 種	0 種	0 種	2 種	2 種	0 種

※1　重要な種の選定基準の区分は、表 3.6.2-4 を参照。

※2　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。



ドジョウ　　ミナミメダカ

写真 3.6.2-5　重要な種（魚類）

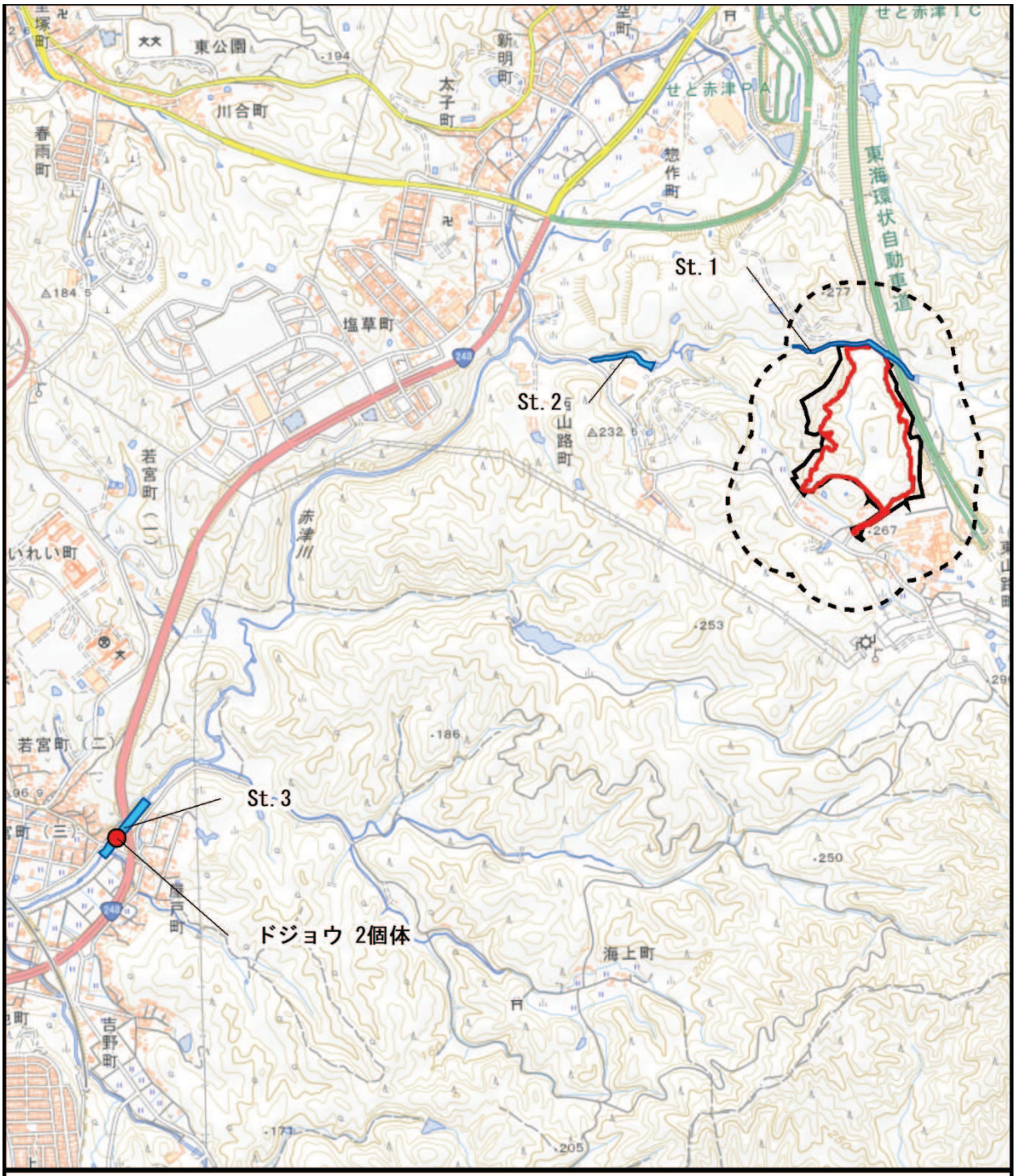


図 3.6.2-7(1)　魚類重要な種位置図
（春季）

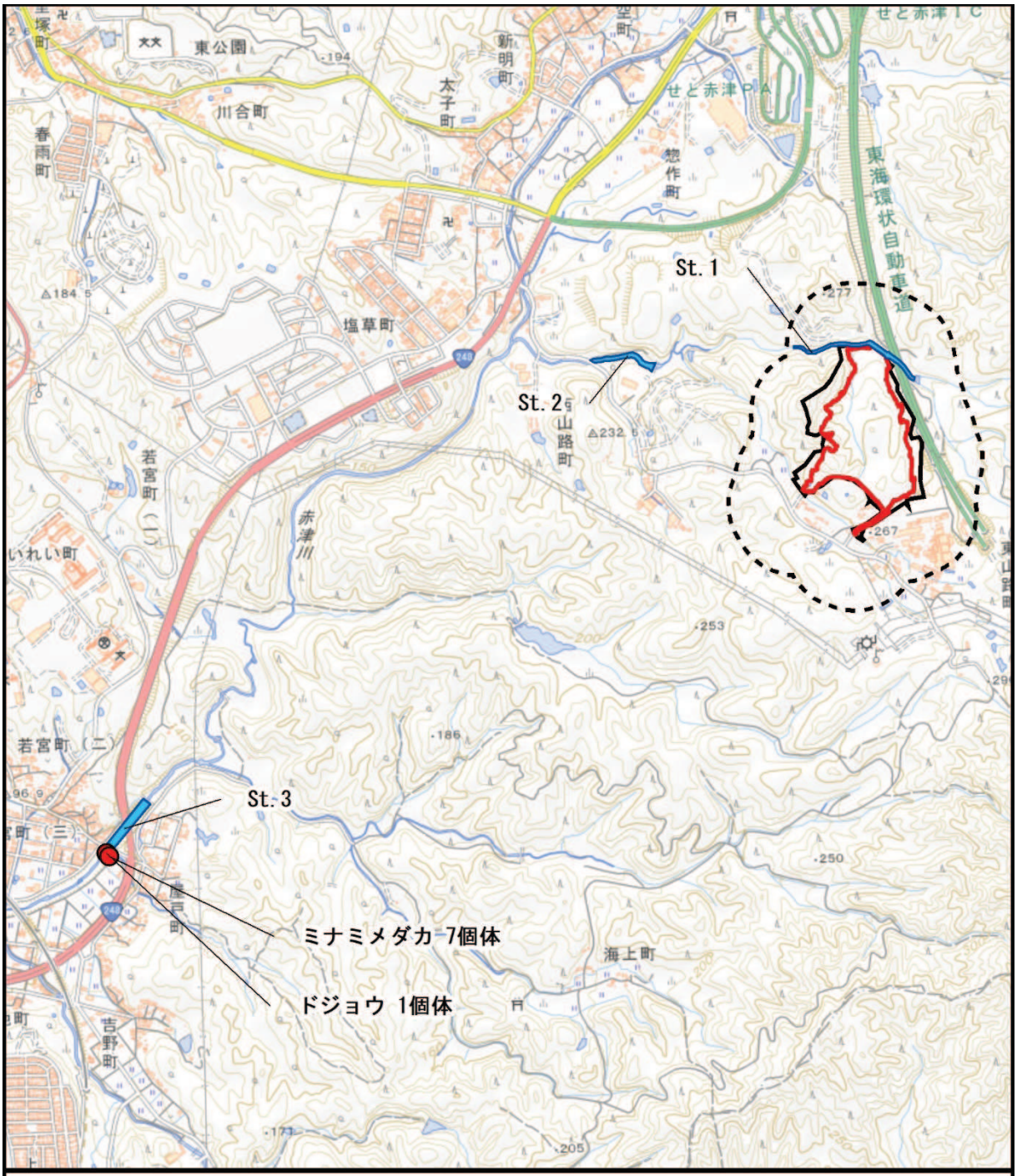


図 3.6.2-7(2)　魚類重要な種位置図
（夏季）

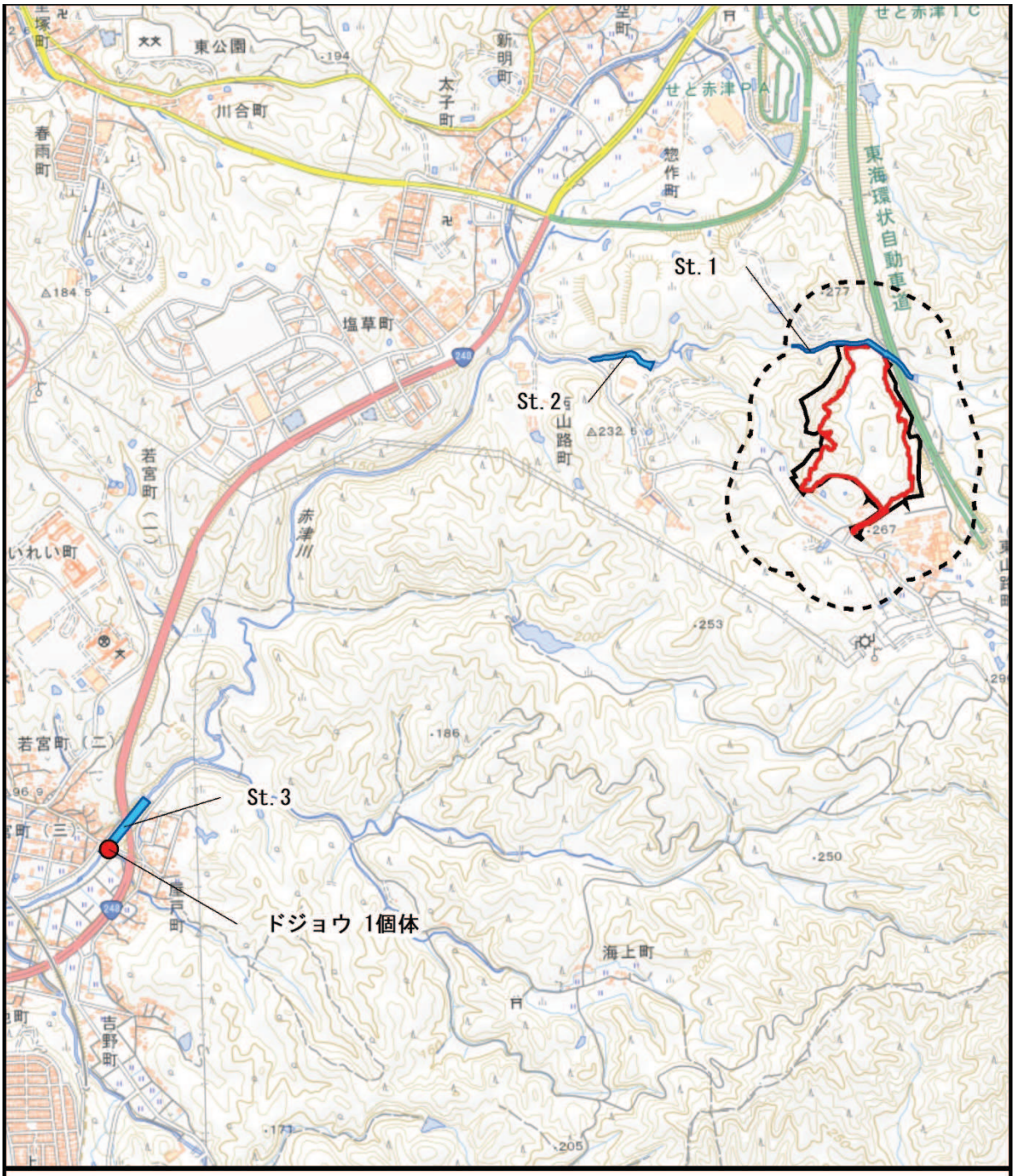


図 3.6.2-7(3)　魚類重要な種位置図
（秋季）

表3.6.2-21(1)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ドジョウ			
重要な種の選定基準					
文化財保護法		種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
			NT	VU	
種の特性	全国分布	北海道から沖縄県			
	愛知県内分布	県内各地			
	形態	体長約 15cm。雌の方が大きくなり、20cm に達する個体もある。体形は細長い円筒形。口には上顎に 3 対、下顎に 2 対の計 5 対 10 本のひげがある。			
	生育場所	平野部を中心に、河川緩流域やワンド、水路、浅い池沼の泥底または砂泥底、水田、湿地。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
			3	4	
	St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において、春季に 2 個体、夏季に 1 個体、秋季に 1 個体を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）

表3.6.2-21(2)　重要な種の特性及び確認状況

種名		ミナミメダカ			
重要な種の選定基準					
文化財保護法		種の保存法	環境省 RL	愛知県 RDB	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
			VU	VU	
種の特性	全国分布	京都府以西（日本海側）、岩手県以南（太平洋側）の本州、四国、九州、沖縄県			
	愛知県内分布	県内各地			
	形態	体長 3cm。頭部は縦扁し、その背面は平たい。口は小さく上向き。目は大きい。体色は淡い黄色を帯びる灰褐色で、背面には頭部より暗褐色の線が伸びる。背鰭は体の後ろにあり、雄には欠刻がある。臀鰭は幅広く、雄では平行四辺形、雌では三角形に近い形をしている。雄の臀鰭後端部には欠刻があるが、雌には無い。			
	生育場所	平野部から丘陵地の河川緩流域や水田、水路、ワンド、池沼、湿地。			
確認状況	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		
	地点数	個体(確認)数	地点数	個体(確認)数	
			1	7	
	St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において夏季に 7 個体を確認した。				

出典　「レッドデータブックあいち 2020」（愛知県、2020 年）

エ　底生動物

a　確認種

現地調査で確認された底生動物は、表3.6.2-22に示す7綱16目51科90種であった。季別では、早春季に6綱15目42科65種、夏季に5綱12目28科42種、冬季に7綱15目34科49種が確認された。このうち夏季調査では、対象事業実施区域の東側にある湿地環境において補足調査を行った。

表 3.6.2-22(1)　現地調査における確認種(底生動物)

綱名	目名	科名	和名	調査時期		
				早春季	夏季	冬季
有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	●	●	●
腹足	新生腹足	カワニナ	カワニナ	●		
			チリメンカワニナ	●	●	●
	汎有肺	サカマキガイ	サカマキガイ	●		●
二枚貝	マルスダレガイ	シジミ	タイワンシジミ	●	●	●
ミミズ	イトミミズ	ミズミミズ	イトミミズ	●	●	●
ヒル	吻無蛭	イシビル	シマイシビル			●
軟甲	ワラジムシ	ミズムシ（甲）	ミズムシ（甲）	●		●
	エビ	ヌマエビ	ミナミヌマエビ	●	●	●
		サワガニ	サワガニ	●	●	●
		モクズガニ	モクズガニ		●	
昆虫	カゲロウ	トビイロカゲロウ	トビイロカゲロウ属	●		
		モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	●	●	●
			モンカゲロウ	●		
		マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ	●		
			オオマダラカゲロウ	●		
			ヨシノマダラカゲロウ			●
			ホソバマダラカゲロウ	●		
			アカマダラカゲロウ	●	●	●
		ヒメフタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ	●		
		コカゲロウ	フタバコカゲロウ	●		
			シロハラコカゲロウ	●	●	●
		フタオカゲロウ	フタオカゲロウ属	●		
		ヒラタカゲロウ	シロタニガワカゲロウ	●	●	
			ウエノヒラタカゲロウ		●	
			エルモンヒラタカゲロウ			●
	トンボ	カワトンボ	ニホンカワトンボ			●
			アサヒナカワトンボ	●	●	
		ヤンマ	ギンヤンマ		●	
			コシボソヤンマ	●	●	●
		サナエトンボ	ヤマサナエ	●	●	●
			ダビドサナエ属	●		●
			ヒメクロサナエ		●	
			オナガサナエ	●	●	●
			コオニヤンマ	●	●	●
			オジロサナエ	●		
			タベサナエ		●	
		オニヤンマ	オニヤンマ	●		
		エゾトンボ	コヤマトンボ	●	●	●
		トンボ	シオカラトンボ		●	
			オオシオカラトンボ		●	
			マイコアカネ		●	

表 3.6.2-22(2)　現地調査における確認種(底生動物)

綱名	目名	科名	和名	調査時期		
				早春季	夏季	冬季
昆虫	カワゲラ	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	●		●
			オナシカワゲラ属	●		
		ヒロムネカワゲラ	ノギカワゲラ	●		
		ミドリカワゲラ	セスジミドリカワゲラ属	●		●
		カワゲラ	カミムラカワゲラ	●	●	●
			フタツメカワゲラ属	●	●	●
			ヤマトカワゲラ	●		
		アミメカワゲラ	クサカワゲラ属	●		
			ヒロバネアミメカワゲラ	●		
			コウノアミメカワゲラ属	●		
	カメムシ	アメンボ	アメンボ	●	●	
		ナベブタムシ	ナベブタムシ	●		
		マツモムシ	マツモムシ	●	●	
	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	●	●	●
	トビケラ	シマトビケラ	コガタシマトビケラ	●	●	●
			ウルマーシマトビケラ	●	●	●
		カワトビケラ	タニガワトビケラ属		●	
		クダトビケラ	キタクダトビケラ属			●
		ナガレトビケラ	タシタナガレトビケラ	●		●
			ムナグロナガレトビケラ	●	●	●
			ウルマーナガレトビケラ	●		
		カクスイトビケラ	ウエノマルツツトビケラ	●		
		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	●		●
		カクツツトビケラ	オオカクツツトビケラ			●
			コカクツツトビケラ			●
		マルバネトビケラ	マルバネトビケラ	●		
		ケトビケラ	グマガトビケラ属	●		
	ハエ	オビヒメガガンボ	ホソオビヒメガガンボ属			●
		ヒメガガンボ	ウスバガガンボ属			●
			ヒゲナガガガンボ属	●	●	●
			ホソヒメガガンボ属	●		
		ガガンボ	ガガンボ属	●	●	●
		ヌカカ	ヌカカ科			●
		ユスリカ	ハダカユスリカ属		●	●
			セスジユスリカ		●	●
			ツヤユスリカ属	●		●
			カマガタユスリカ属	●		●
			エリユスリカ属			●
			ニセケバネエリユスリカ属	●		
			ハモンユスリカ属	●	●	
			ヌカユスリカ属			●
			ハヤセヒメユスリカ属	●	●	●
			ニセテンマクエリユスリカ属		●	
		カ	カ科			●
		ブユ	アシマダラブユ	●	●	●
		ナガレアブ	コモンナガレアブ	●		
		アブ	キンメアブ	●		
	コウチュウ	ヒメドロムシ	ミゾツヤドロムシ	●		
			ヒメドロムシ科	●	●	●
7 綱	16 目	51 科	90 種	65 種	42 種	49 種

※　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」(河川環境データベース　2021) に準拠した。

b　重要な種

現地調査で確認された底生動物のうち、表3.6.2-4に示す基準に該当する重要な種は、表3.6.2-23に示す1綱2目2科2種であった。重要な種の確認位置は図3.6.2-8、種の特性及び確認状況は表3.6.2-24に示すとおりである。

表 3.6.2-23　現地調査において確認した重要な種(底生動物)

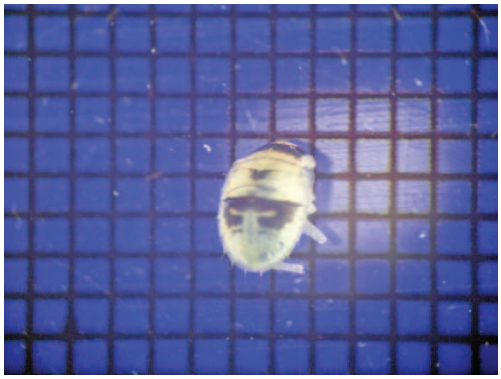
綱名	目名	科名	和名	調査時季			重要な種選定基準 ※1				
				早春季	夏季	冬季	①	②	③	④	⑤
昆虫	トンボ	サナエトンボ	タベサナエ		●				NT		
	カメムシ	ナベブタムシ	ナベブタムシ	●						NT	
1綱	2目	2科	2種	1種	1種	0種	0種	0種	1種	1種	0種

※1　重要な種の選定基準の区分は、表 3.6.2-4 を参照。

※2　目名、科名、種名、学名及び配列は、「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した。



タベサナエ幼虫



ナベブタムシ幼虫

写真 3.6.2-6　重要な種（底生動物）

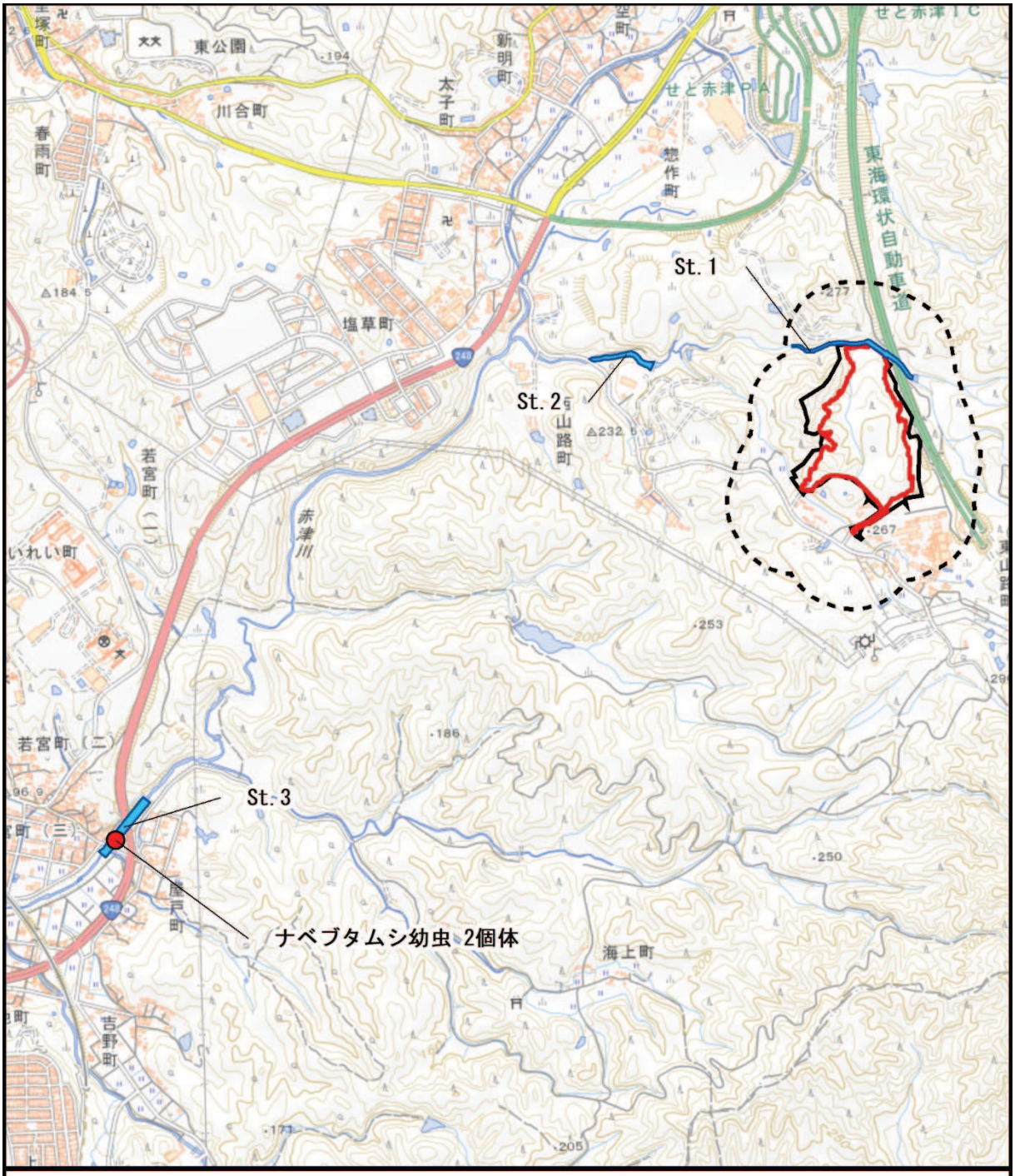
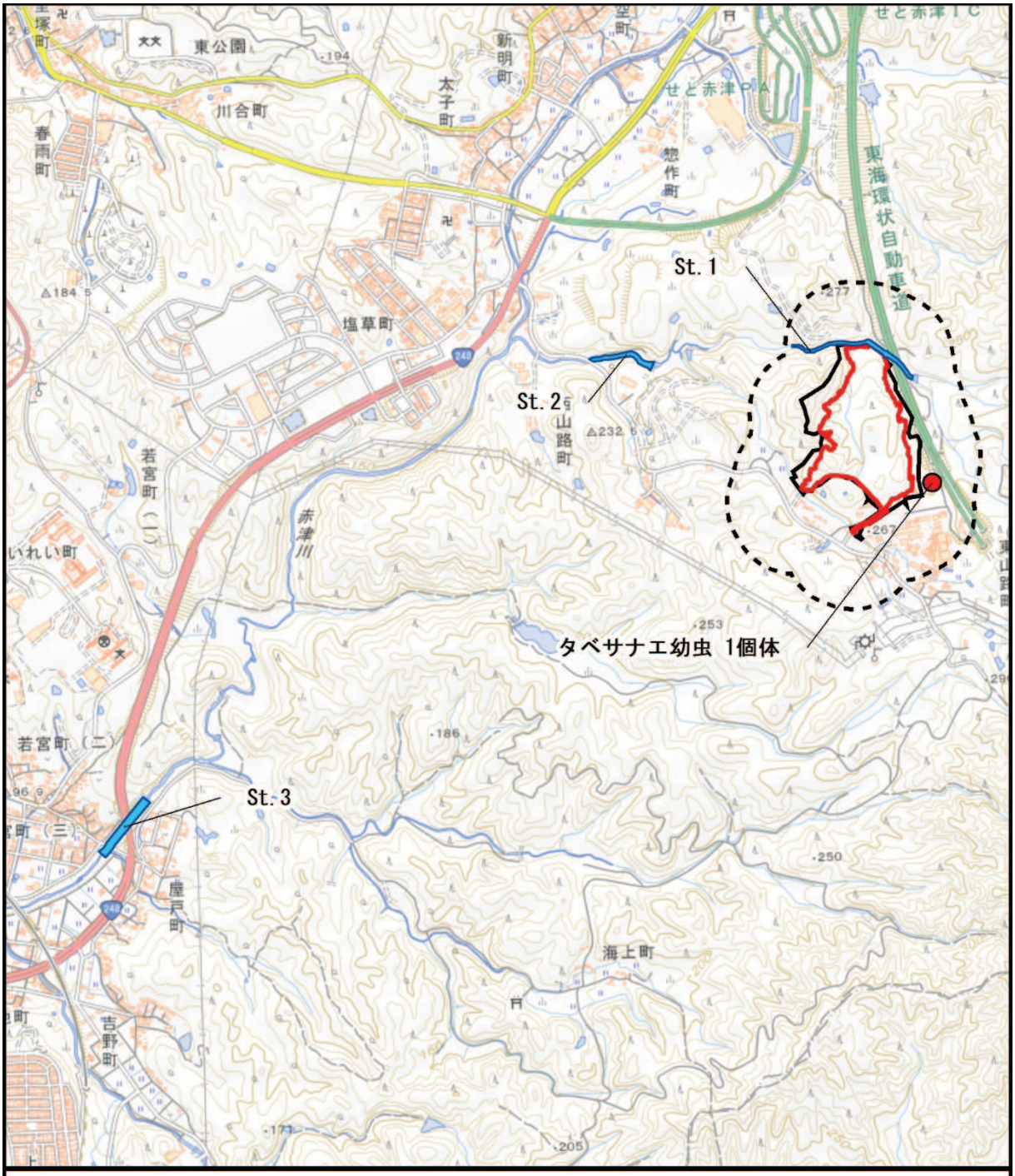


図 3.6.2-8(1)　底生動物重要な種位置図
（早春季）



凡例

- 対象事業実施区域
- 改変区域
- 対象事業実施区域から200m
- 魚類・底生動物調査地点
- 重要な種確認位置

図 3.6.2-8(2)　底生動物重要な種位置図
（夏季）

N

1:20,000

0　245　490　980 m

表3.6.2-24(1)　重要な種の特性及び確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">タベサナエ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td>NT</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td>全国分布</td><td colspan="4">静岡、岐阜、福井の各県より西の本州と四国、九州に生息。</td></tr>
<tr><td>愛知県内分布</td><td colspan="4">不明</td></tr>
<tr><td>形態</td><td colspan="4">腹長 30～34㎜、後翅 26～29㎜。雌雄ほぼ同大。幼虫は体長 23～26㎜、頭幅 5～6.5㎜。褐色あるいは黒褐色をした偏平なヤゴ。</td></tr>
<tr><td>生育場所</td><td colspan="4">おもに平地や丘陵地の流れのゆるやかな浅い小川に生息し、しばしば灌漑用のため池にも見られる。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td></tr>
<tr><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="4">対象事業実施区域外において、夏季に補足調査を行った湿地で幼虫 1 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」(東海大学出版会、1988 年)

表3.6.2-24(2)　重要な種の特性及び確認状況

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="4">ナベブタムシ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td colspan="2">文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RDB</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td>NT</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">種の特性</td><td>全国分布</td><td colspan="4">本州、四国、九州。</td></tr>
<tr><td>愛知県内分布</td><td colspan="4">設楽町、豊田市、岡崎市、西尾市、瀬戸市など</td></tr>
<tr><td>形態</td><td colspan="4">体長は 8.5～10㎜、体型はほぼ円形・扁平である。体色はやや変化が見られるが、一般に頭部は黄褐色、胸部・腹部背面は暗褐色の地色に黄褐色斑がある。前胸背の側角は円みを帯び、尖らない。</td></tr>
<tr><td>生育場所</td><td colspan="4">低山間地の清流に生息し、底質が細かい砂礫の早瀬でよく確認される。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">確認状況</td><td colspan="2">対象事業実施区域内</td><td colspan="2">対象事業実施区域外</td></tr>
<tr><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="4">St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において、早春季に幼虫 2 個体が確認された。</td></tr>
</table>

出典　「レッドデータブックあいち 2020」(愛知県、2020 年)

(3) 環境保全措置

本事業の実施にあたっては、工事(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)及び最終処分場の存在に伴う動物への影響を可能な限り低減するため、以下に示す環境保全措置を講ずることとする。

1) 工事による影響(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。
・改変区域内で確認された重要な動物のうち、生息環境の消失により影響が大きいと考えられるトノサマガエル属の一種について、可能な限り移殖する。
・対象事業実施区域周辺の動物の生息に配慮して、防災調整池を早期に整備し、周辺排水路への濁水の流出防止を図る。
・ロードキルを防止するため、動物注意の警告標識及び侵入防止柵等を工事区域に設置する。

2) 最終処分場の存在

・不要な照明の消灯、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置等により、夜行性動物及び走行性昆虫の行動、生態系の攪乱を防止する。
・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。
・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。
・トノサマガエル属などの生息環境である池が消失するため、代替地として湿生草地を伴う人工池を設ける。

(4) 予測

1) 予測内容

予測内容は、工事(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)及び最終処分場の存在に伴う動物相及び重要な種ならびに注目すべき生息地への影響の程度とした。

2) 予測地域等

予測地域は、事業の実施による動物の生息環境への影響が想定される対象事業実施区域より200mの範囲とした。

予測地点は対象事業実施区域及び東山路川下流とした。

3) 予測対象時期

ア 工事による影響(資材等の搬入及び搬出)

予測対象時期は、資材の運搬車両台数が最大となる時期とした。

イ 工事による影響(建設機械の稼働等)

予測対象時期は、重機の稼働台数が最大となる時期とした。

ウ 工事による影響(盛土・掘削等の土工事)

予測対象時期は、盛土・掘削工事の最盛期とした。

エ 最終処分場の存在

予測対象時期は、工事が完了した時点とした。

4) 予測方法

ア 予測地点

予測方法は、「動物相及び重要な種」及び「注目すべき生息地」の調査結果と土地利用計画及び工事計画との重ね合わせならびに事例の引用、解析により予測する。

イ 予測対象種の選定

現地調査で確認された重要な種を予測対象種として選定した。

選定した予測対象種は表3.6.2-25に示すとおり、哺乳類6種、鳥類1種、両生類1種、昆虫類4種、魚類2種、底生動物2種の合計16種である。

表3.6.2-25　予測対象種の選定

区分	No.	種名	重要な種の選定基準 ※1				
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
哺乳類	1	モグラ属の一種（アズマモグラ）				VU	
	2	ヒナコウモリ科の一種（モモジロコウモリ）				VU	
	3	ノウサギ				NT	
	4	ニホンリス				NT	
	5	カヤネズミ				VU	
	6	カモシカ	特				
鳥類	1	サンショウクイ			VU	国	
両生類	1	トノサマガエル属の一種（トノサマガエルまたはナゴヤダルマガエル）			NT/EN	国/VU	
昆虫類	1	オオゴキブリ				NT	
	2	オオアメンボ				NT	
	3	ヒメタイコウチ				NT	
	4	ギフチョウ			VU	VU	
魚類	1	ドジョウ			NT	VU	
	2	ミナミメダカ			VU	VU	
底生動物	1	タベサナエ			NT		
	2	ナベブタムシ				NT	
－	－	16 種	1 種	0 種	6 種	14 種	0 種

5)　予測結果

ア　動物相

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

工事の実施により、対象事業実施区域のほぼ全域が改変されることから、現況の樹林や草地等を生息環境とするほとんどの動物は影響を受けると考えられる。

資材等の運搬車両の走行により、動物の移動経路の分断やロードキル等の影響が考えられるほか、重機の稼働による騒音・振動により、移動能力のある動物は周辺地域に存在する樹林及び草地等へ逃避すると考えられる。

重機の稼働や盛土・掘削等により生じる土砂や濁水の影響は、防災調整池が設置されることから、魚類や底生動物等への水域に生息する動物への影響は低減されると考えられる。

なお、対象事業実施区域及びその周辺に生育地が存在する動物の重要な種(予測対象種)についての予測結果は表3.6.2-26に示すとおりである。

b　最終処分場の存在による影響

供用後は、廃棄物処理施設が建設される改変区域については、鳥類のハシブトガラスに代表されるような、都市的環境への適応能力の高い動物相に変化すると考えられる。また、工事の直接の影響を受けない残置部については、哺乳類のタヌキ、鳥類のムクドリ、爬虫類のニホンカナヘビ、両生類のニホンアマガエルといった、公園等の人為的な環境を生息環境の一部とする種が、生息場所の一部として利用する可能性が考えられる。

イ　哺乳類

現地調査では、6目12科16種の哺乳類が確認された。確認種は、行動圏の広いノウサギ、タヌキ、キツネ、ニホンジカ、対象事業実施区域及び周辺地域の草地のみで限定的に確認されたカヤネズミ、対象事業実施区域外の樹林部のみで限定的に確認されたニホンリス、夜間調査で確認されたヒナコウモリ科等であった。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

対象事業実施区域は土砂の採掘場であるため、既に重機の稼働や、土砂の搬出車両の往来が行われている。現地調査で確認された哺乳類は、現況の工事状況に対応しながら生息している種であると考えられる。しかしながら、工事の実施により対象事業実施区域の多くが改変されることから、現況の樹林や草地等を生息環境とするほとんどの哺乳類は影響を受けると考えられる。

資材等の運搬車両の走行により、哺乳類の移動経路の分断やロードキル等の影響が考えられるが、タヌキやニホンジカ等の移動能力の高い哺乳類は、既に周辺地域に逃避して生息するものと考えられるほか、ロードキルに関しては、工事用車両の走行は幹線道路のみであること、多くの哺乳類の主要な活動時間は夜間であり、昼間の工事時間帯と重複しないことから、工事の実施のためにロードキルが増加する可能性は低いと考えられる。

建設機械の稼働による騒音・振動により、地中・半地中生活をするアカネズミなどのネズミ類、ヒミズやモグラ属への影響が考えられる。ヒミズやモグラ属は移動能力に乏しいが、現在の生息状況は、現況の土砂の採掘工事のため周辺地域に忌避した状態であると考えられる。アカネズミなどのネズミ類は移動能力が高いため、造成工事の初期の段階において、周辺地域に逃避すると考えられる。

盛土・掘削等の土工により、哺乳類の採餌環境の減少等の影響が考えられる。しかしながら、減少する餌場である樹林が対象事業実施区域の周辺に分布していることに加え、タヌキ、キツネ等の雑食性の種は食性の幅が広く、様々な餌資源を利用可能なため、餌内容を変更させる等柔軟な対応が可能であると考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後は、廃棄物処理施設が建設され、都市型に近い環境に変化することから、ハクビシン等の都市的環境への適応能力の高い哺乳類相に変化すると考えられる。また、タヌキやキツネ等の行動圏の広い種は、事業計画により整備される緑地を移動経路として利用することも考えられるほか、夜行性で昆虫類を餌とする、モモジロコウモリ等の可能性のあるヒナコウモリ科の一種は、事業計画により整備された範囲の外灯を、餌場として利用する可能性も考えられる。

ウ　鳥類

現地調査では、9目24科43種の鳥類が確認された。主に確認された種は、コゲラ、ヤマガラ、カケス等の樹林に生息する種、キジ、ホオジロ、カワラヒワ等畑地や草地に生息する種、スズメ、ツバメ、ハシブトガラス等の人的環境下に生息する種であった。このほか、対象事業実施区域の裸地では河川敷など草のまばらな砂礫地等を好むハクセキレイやコチドリが確認された。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

資材等の運搬車両が走行している場所に鳥類が飛来する可能性があるが、飛来した場合でも回避行動をとると考えられることから、車両が衝突する可能性は低いと考えられる。

建設機械の稼働による騒音・振動は、対象事業実施区域周辺の鳥類の繁殖環境を悪化させる可能性がある。しかしながら、対象事業実施区域の周辺地域には樹林環境、草地環境および水辺環境が広く分布しており、鳥類の採餌環境や繁殖環境となりうる。現地調査で確認された種は、移動能力の高い分類群であることから、造成工事の初期の段階において、周辺地域に広がるこれらの環境に逃避して生息するものと考えられる。

盛土・掘削等の土工により、裸地を好むハクセキレイやコチドリ、樹林に生息するコゲラ、ヤマガラ等の採餌環境の減少が考えられるが、移動能力の高い分類群であることから、造成工事の初期の段階において、周辺地域に広がる環境に逃避して生息するものと考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後においては、スズメ、ツバメ、ハシブトガラス等の都市的環境を生息環境とする種や、モズ、ムクドリ、ハクセキレイ等の公園等、人為的な環境を生息環境の一部とする種については、事業計画により整備される緑地を新たな生息環境として利用すると考えられる。

エ　爬虫類

現地調査では、1目3科3種の爬虫類が確認された。ニホントカゲ及びニホンカナヘビは、対象事業実施区域内外の比較的広い範囲で確認された。シマヘビは、対象事業実施区域の南側境界の草地で脱皮殻が確認された。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

工事の実施により対象事業実施区域の多くが改変されることから、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ及びシマヘビの生息環境は消失し、個体数も減少すると考えられる。しかしながら、いずれの種も比較的移動能力があり、対象事業実施区域に隣接する樹林や草地に逃避し生息できると考えられるほか、人家や道路沿いのような環境にも対応しうる適応能力の高い種であることから、影響は小さいと考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後においては、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ及びシマヘビは人家や道路沿いのような人為的な環境においても生息可能であるため、事業計画により整備される緑地、防災調整池等の水域を生活の場の一部として利用可能であると考えられる。

オ　両生類

現地調査では、1目5科7種の両生類が確認された。アズマヒキガエルは、対象事業実施区域北側の林縁部及び調査地域南側の集水桝内で確認された。ニホンアマガエルは、調査範囲南側の草地で確認された。ヤマアカガエルは、対象事業実施区域北側の樹林や水路で確認された。トノサマガエル属及びシュレーゲルアオガエルは、対象事業実施区域内南側の池と、対象事業実施区域内西側の湿地で確認された。ウシガエルは対象事業実施区域内外の池で確認された。ヌマガエルは対象事業実施区域外西側の耕作放棄地で確認された。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

工事の実施により、トノサマガエル属及びシュレーゲルアオガエルの生息環境である対象事業実施区域の湿地環境が消失することから、影響は大きいと考えられる。また、樹林環境が消失することからアズマヒキガエルやヤマアカガエルなどの生息環境の減少が考えられるが、周辺にも同様の環境が広がっていることから、影響は小さいと考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後において、ニホンアマガエルは事業計画により整備される緑地、防災調整池等の水域を生活の場の一部として利用可能であると考えられる。

カ　昆虫類

現地調査では、21目249科786種の昆虫類が確認された。対象事業実施区域内及びその周辺の環境ごとの主な確認種として、草地ではショウリョウバッタモドキ、ツノトンボ及びジャノメチョウといった草原性の種、樹林では主に樹上に生息するコロギス及びヤニサシガメや、樹液に集まるノコギリクワガタやルリタテハ本土亜種といった樹林性の種、湿地や沈砂池ではキイトトンボ、ショウジョウトンボ及びネキトンボといったトンボ類や、ヒメタイコウチ、アメンボ、コマツモムシ及びハイイロゲンゴロウといった水生昆虫類が、それぞれあげられる。対象事業実施区域内の造成裸地では、ナミハンミョウやトノサマバッタといった開放的な環境を好む種が確認された。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

工事の実施により対象事業実施区域の多くが改変されることから、トンボ類や水生昆虫類等の生息環境である湿地環境は消失し、個体数も減少すると考えられる。しかしながら、周辺にも同様の湿地環境が確認されていることから、個体群に与える影響は小さいと考えられる。トンボ類やハチ類、ハエ類、チョウ類等の移動能力のある種については、周辺地域の樹林や草地環境へ逃避すると考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後においては、トノサマバッタ、ヒメオオメナガカメムシ、ベニシジミといった荒れ地や開放的な草地環境を好む種や、トサカグンバイ、ルリチュウレンジ及びキボシアシナガバチといった人家や道路沿いのような環境にも対応しうる種が、事業計画により整備される緑地や造成地等を生息場所の一部として利用する可能性が考えられる。

キ　魚類

現地調査では、3目4科6種の魚類が確認された。対象事業実施区域から離れた赤津川（St.3）では6種全ての魚類が確認され、このうちカワムツ、アブラハヤ及びドジョウは周年生息していると考えられるほか、春季にはナガレカマツカが、夏季にはミナミメダカとカワヨシノボリがそれぞれ確認された。一方、対象事業実施区域北側の東山路川（St.1）及びその下流（St.2）で確認された種は、カワムツとカワヨシノボリの2種のみであった。いずれの地点も下流の赤津川とは落差により隔てられていることから、生息する魚類が限られているものと考えられる。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

工事中においては、防災調整池を設置し、重機の稼働や盛土・掘削等により生じる土砂や濁水の流入・流出を低減する計画であることから、魚類に与える影響は小さいと考えられる。

b　最終処分場の存在による影響

供用後においては、東山路川の河川流域北側に位置する対象事業実施区域の一部は改変されるが、カワムツとカワヨシノボリは対象事業実施区域外にも生息することから、個体群への影響は小さいと考えられる。また、対象事業実施区域から離れた赤津川の魚類相への影響も小さいと考えられる。

ク　底生動物

現地調査では、7綱16目51科90種の底生動物が確認された。対象事業実施区域北側の東山路川（St.1）及びその下流（St.2）ではサワガニ、シロハラコカゲロウ、フタツメカワゲラ属、コガタシマトビケラ、ウルマーシマトビケラ、アシマダラブユといった、河川の上流部に多い種が確認された。また、対象事業実施区域から離れた赤津川（St.3）ではミナミヌマエビやモクズガニといった軟甲類、チリメンカワニナやタイワンシジミといった貝類が確認されたほか、ヤマサナエ、コヤマトンボ、コシボソヤンマといったトンボ類といった、河川中流域から上流域にかけて多い種が確認された。このほか、対象事業実施区域外の西側にある湿地では夏季に補足調査を行い、ギンヤンマ、タベサナエ、オオシオカラトンボ、マツモムシといった止水域に生息する種が確認された。

a　工事による影響（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工事）

工事中においては、防災調整池を設置し、重機の稼働や盛土・掘削等により生じる土砂や濁水の流入・流出を低減する計画であることから、底生動物に与える影響は小さいと考えられる。また、補足調査を行った湿地は対象事業実施区域外であることから、底生動物に与える影響は小さいと考えられる。

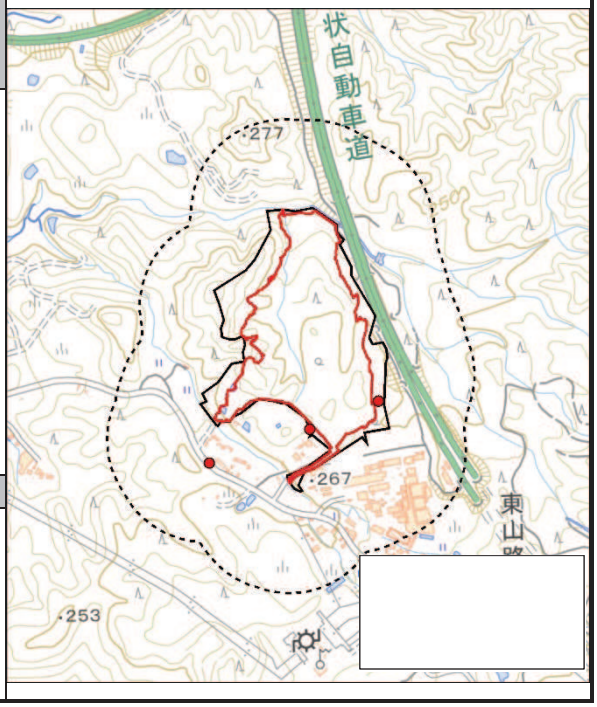
b　最終処分場の存在による影響

供用後においては、東山路川の河川流域北側に位置する対象事業実施区域の一部は改変されるが、河床の掘削等、河川そのものへの改変は行わないことから、底生動物への影響は小さいと考えられる。また、対象事業実施区域から離れた赤津川の底生動物相への影響も小さいと考えられる。このほか、補足調査を行った湿地は対象事業実施区域外であることから、底生動物に与える影響は小さいと考えられる。

ケ　重要な種

対象事業実施区域及びその周辺に生息地が存在すると考えられる動物の重要な種(予測対象種)についての予測結果は、表3.6.2-26に示すとおりである。

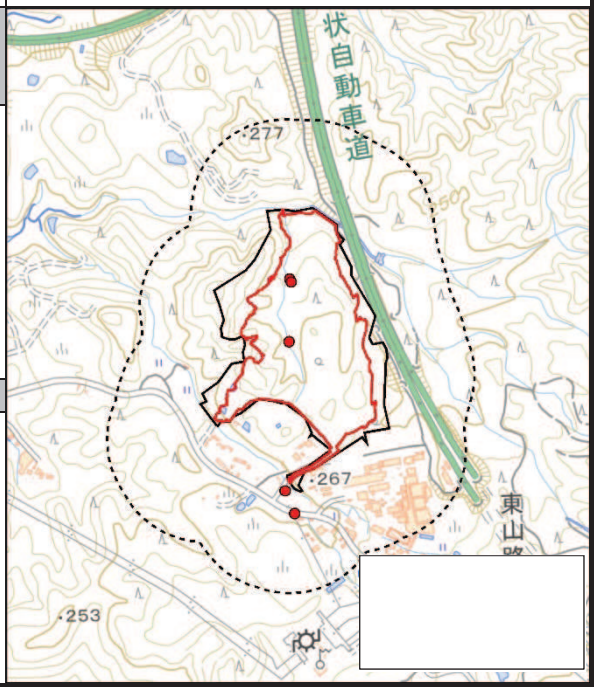
表3.6.2-26(1)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：モグラ属の一種）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">モグラ属の一種（アズマモグラの可能性）</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域外において、冬季に 1 地点が確認された。対象事業実施区域外において冬季に 1 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。</td></tr>
<tr><td>1 (0)</td><td>1 (0)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>2</td><td>11</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)
本種は対象事業実施区域及びその周辺を生息地として利用していると考えられる。重機の稼働については、振動の発生により、本種が周辺への忌避行動を行うと考えられる。本種は移動能力が高くないが、現況の確認地点は対象事業実施区域外に分布しており、これは改変区域内において土砂の採掘工事が継続して行われていることから、本種が既に周辺の樹林へ忌避して生息しているためと考えられる。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、生息環境が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

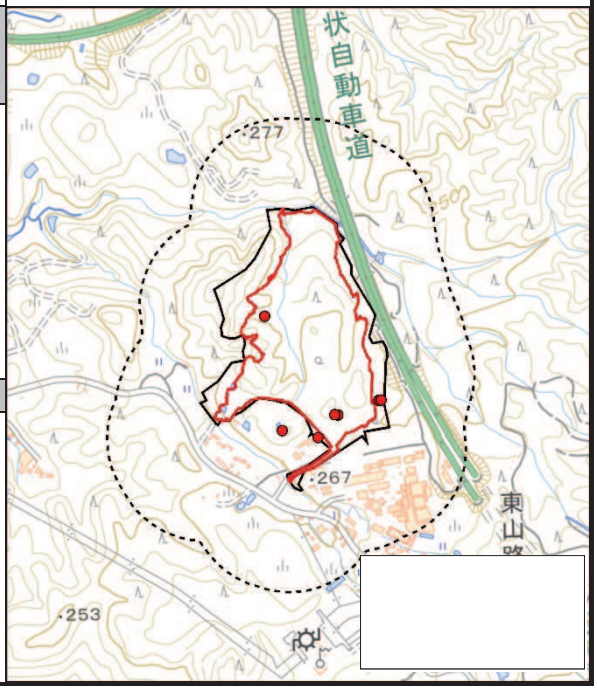
表3.6.2-26(2)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：ヒナコウモリ科の一種）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="4">ヒナコウモリ科の一種（モモジロコウモリの可能性）</td></tr>
<tr><td colspan="5">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">確認状況</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象事業実施区域内：地点数 3（3）、個体(確認)数 4（4）
対象事業実施区域外：地点数 2、個体(確認)数 3</td><td colspan="2">対象事業実施区域の改変区域内において、春季に 2 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、春季に 1 地点、夏季に 1 地点がそれぞれ確認された。いずれも夜間調査において 40～45kHz の周波数をピークとする鳴き声（入感音）が確認された。</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）
対象事業実施区域及びその周辺を餌場として利用していると考えられる。本種は夜行性であり、工事の時間帯と、本種の活動時間帯は重複しないと考えられ、影響は小さいと予測される。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の餌場の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="2"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(3)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：ノウサギ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ノウサギ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域内において、冬季に 1 地点、夏季に 1 地点、秋季に 1 地点が、改変区域外において、冬季に 2 地点、秋季に 1 地点がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、冬季に 1 地点が確認された。いずれも糞により確認された。</td></tr>
<tr><td>6 (3)</td><td>15 (12)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)
対象事業実施区域及びその周辺を生息地として利用していると考えられる。本種は夜行性であり、工事の時間帯と、本種の活動時間帯は重複しないと考えられ、影響は小さいと予測される。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。
最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(4)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：ニホンリス）

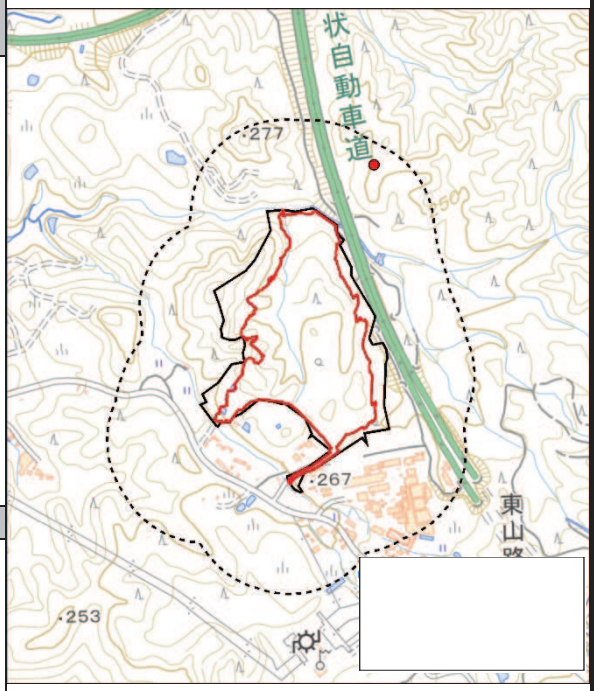
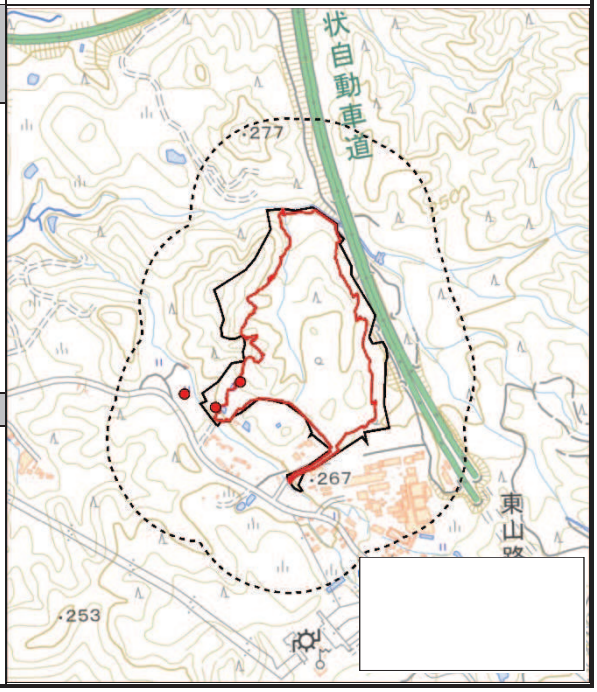
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ニホンリス</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">対象事業実施区域外において、秋季に食痕（アカマツ球果）が 1 地点確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>2</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事)</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺の樹林を生息地として利用していると考えられる。本種の確認地点は事業による直接的な改変は受けないが、重機の稼働により、本種の繁殖に影響を与える可能性が考えられる。しかしながら、本種は移動能力が高いため、工事初期の段階で周辺への忌避行動をとると考えられる。本種は樹上性だが忌避行動の際中に、資材運搬の車両が走行する場所を通過する可能性がある。しかしながら、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息環境及び餌場の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の樹林等が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、本種の確認地点が事業による直接的な改変は受けないことや、周辺に同様の樹林環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表3.6.2-26(5)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：カヤネズミ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">カヤネズミ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域内において、夏季に巣が 1 地点、改変区域外において、秋季に巣が 1 地点それぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、秋季に巣が 1 地点確認された。</td></tr>
<tr><td>2 (1)</td><td>2 (1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事)</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺の草地を生息地として利用していると考えられる。重機の稼働により、本種が周辺への忌避行動を行うと考えられるが、本種は移動能力が高くないため、忌避行動の際中に、資材運搬の車両によるロードキルや地域個体群の分断が予測されるほか、盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息及び繁殖環境の減少が考えられるが、周辺には同様な草地環境が存在することから、本種の地域個体群は維持されるものと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の草地が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

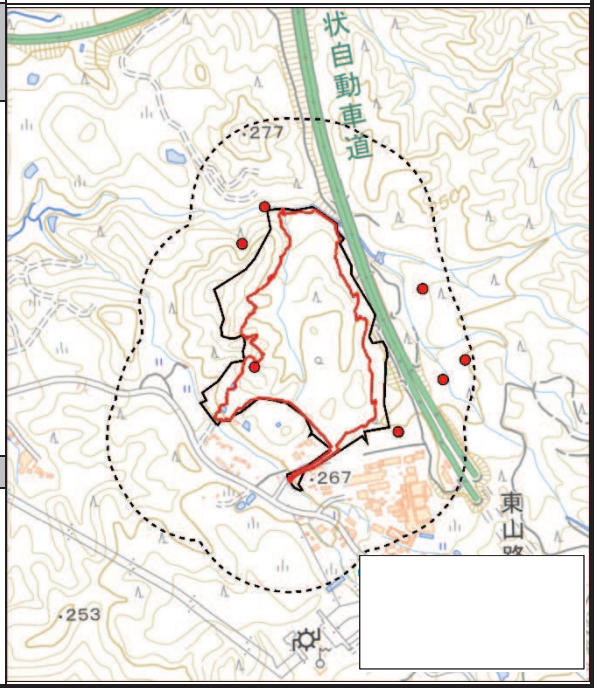
表3.6.2-26(6)　重要な種（予測対象種）の予測結果（哺乳類：カモシカ）

種名	カモシカ			
重要な種の選定基準				
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RL	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
特				

確認状況

	地点数	個体(確認)数
対象事業実施区域内	1（1）	1（1）
対象事業実施区域外	7	8

対象事業実施区域の改変区域内において、春季に糞が 1 地点確認された。また、対象事業実施区域外において春季に糞が 2 地点、秋季に 3 地点、冬季に 1 地点確認されたほか、冬季に死骸の頭骨から脱落したとみられる角が 1 地点確認された。



工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）

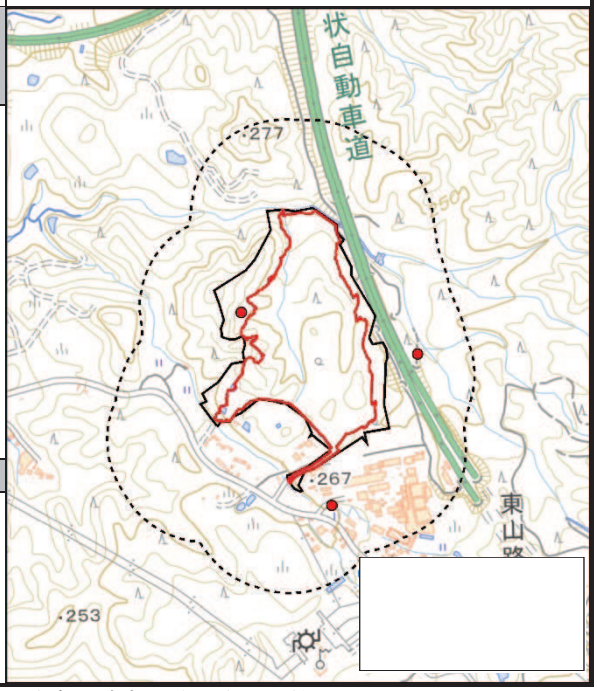
本種は対象事業実施区域及びその周辺を広く生息地として利用していると考えられる。確認地点は対象事業実施区域外に多いが、これは改変区域内において土砂の採掘工事が継続して行われていることから、本種が既に周辺の樹林へ忌避して生息しているためと考えられる。重機の稼働については、本種は移動能力が高いことから、工事の初期段階で対象事業実施区域外へ忌避すると考えられる。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

最終処分場の存在による影響

事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

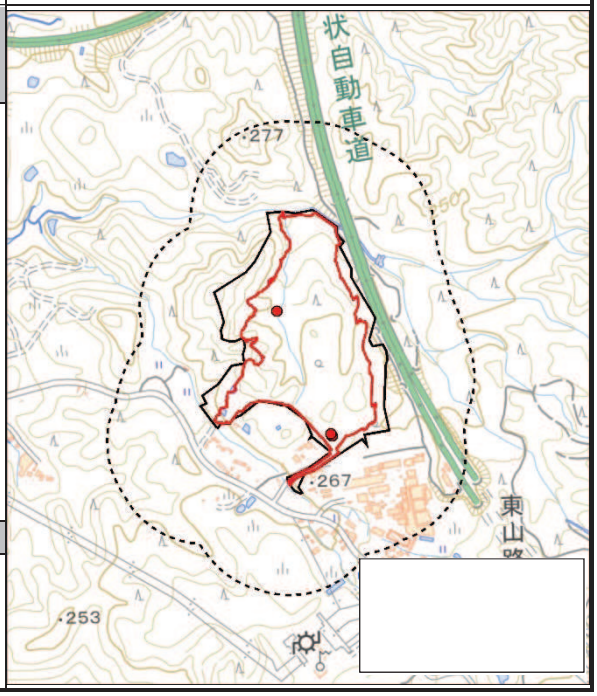
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(7)　重要な種（予測対象種）の予測結果（鳥類：サンショウクイ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="4">サンショウクイ</td></tr>
<tr><td colspan="5">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>VU</td><td>国</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">確認状況</td></tr>
<tr><td colspan="5">
<table>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1 (0)</td><td>2 (0)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>2</td><td>2</td></tr>
</table>
対象事業実施区域の改変区域外において、夏季に2 個体確認された。また、対象事業実施区域外において、繁殖期（春季両爬哺類調査時）に 2 地点合計 2 個体が確認された。
</td></tr>
<tr><td colspan="5">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）</td></tr>
<tr><td colspan="5">本種は対象事業実施区域及びその周辺の樹林を生息地として利用していると考えられる。資材運搬の車両が走行する場所に飛来する可能性があるが、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。また、重機の稼働に伴い、採餌環境の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="5">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="5">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の樹林が改変されることから、本種の餌場の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="5"> 
</td></tr>
</table>

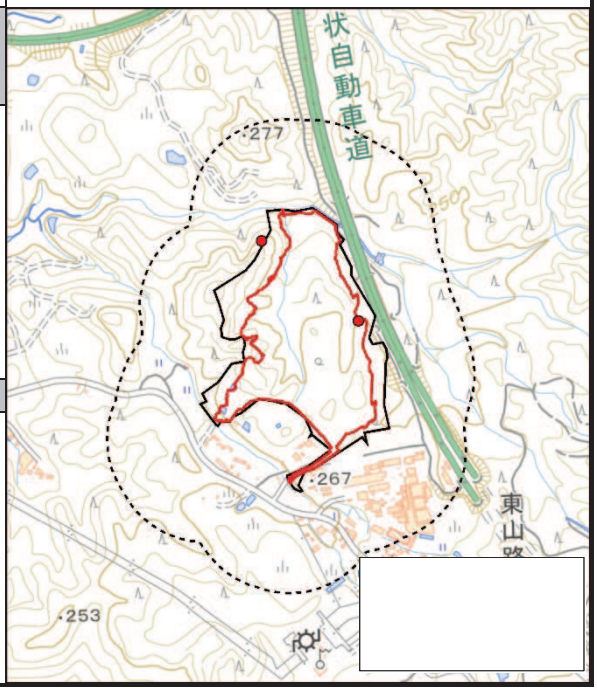
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(8)　重要な種（予測対象種）の予測結果（両生類：トノサマガエル属の一種）

<table>
<tr><td colspan="2">種名</td><td colspan="3">トノサマガエル属の一種（トノサマガエルまたはナゴヤダルマガエル）</td></tr>
<tr><td colspan="5">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>トノサマガエル：NT
ナゴヤダルマガエル：EN</td><td>トノサマガエル：NT
ナゴヤダルマガエル：EN</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="2" rowspan="3">対象事業実施区域の改変区域内において、春季に5個体、夏季に21個体が確認された。</td></tr>
<tr><td>3 (3)</td><td>26 (26)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2" rowspan="2"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)
本種は対象事業実施区域の湿地を繁殖地として利用していると考えられる。本種は移動能力が高くないため、資材運搬の車両によるロードキルや地域個体群の分断が予測されるほか、盛土・採掘等による環境改変においては、本種の生息及び繁殖環境が消失するため、本種における事業の影響は大きいと予測されることから、個体の移殖や代替地の創出が必要である。重機の稼働については、本種は鳴き声により求愛行動を行うため、重機の稼働に伴い発生する騒音が、繁殖を阻害する可能性があるが、本種の繁殖行動は主に夜間に行われるため、重機の稼働する工事の時間帯と、本種の繁殖行動の時間帯は重複しないと考えられ、影響は小さいと予測される。
最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の湿地が改変されることから、本種の生息及び繁殖環境が消失するため、本種における事業の影響は大きいと予測される。</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(9)　重要な種（予測対象種）の予測結果（昆虫類：オオゴキブリ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">オオゴキブリ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>NT</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域内において、早春季調査に 1 地点 2 個体が確認された。また、対象事業実施区域外において、秋季に 1 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td>1（1）</td><td>2（2）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工事)
対象事業実施区域及びその周辺の樹林環境を生息地として利用していると考えられる。本種は樹林環境の朽木内部に生息し、移動能力に乏しいため、盛土・採掘等による環境改変によって、改変区域内の本種の生息環境や個体群は消滅する。しかしながら、周辺には本種の生息環境が存在することから、本種の地域個体群は維持されるものと考えられるため、影響は小さいことが予測される。
最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の樹林等が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(10)　重要な種（予測対象種）の予測結果（昆虫類：オオアメンボ）

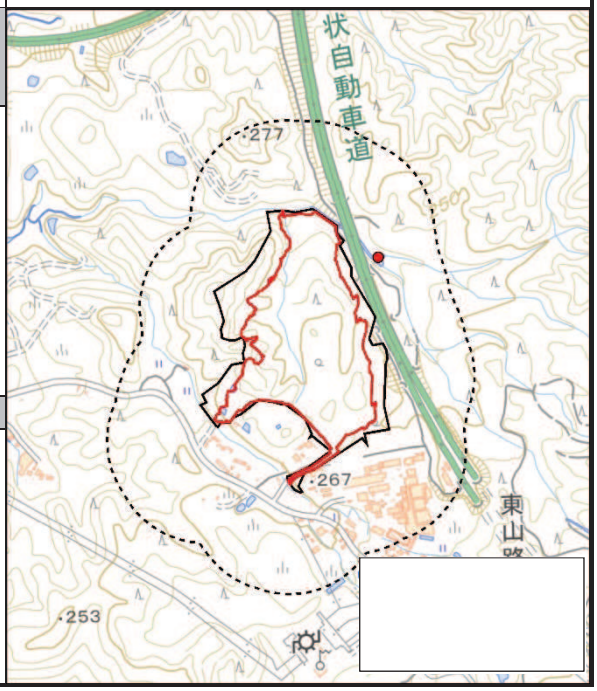
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">オオアメンボ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>NT</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">対象事業実施区域外において、早春季に 1 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)
対象事業実施区域外の湛水域を生息地として利用していると考えられる。本種の確認地点は事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。また、盛土・採掘等による環境改変によって、本種の生息環境が減少することが考えられるが、本種は飛翔するため移動能力は高く、周辺へ逃避すると考えられるため、影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3" rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、本種の確認地点は事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。また、事業計画により整備される防災調整池等の水域を生息環境として利用する可能性がある。</td></tr>
</table>

表3.6.2-26(11)　重要な種（予測対象種）の予測結果（昆虫類：ヒメタイコウチ）

種名	ヒメタイコウチ

重要な種の選定基準				
文化財保護法	種の保存法	環境省 RL	愛知県 RL	自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例
			NT	

確認状況

	地点数	個体(確認)数
対象事業実施区域内	4 (4)	13 (13)
対象事業実施区域外	4	12

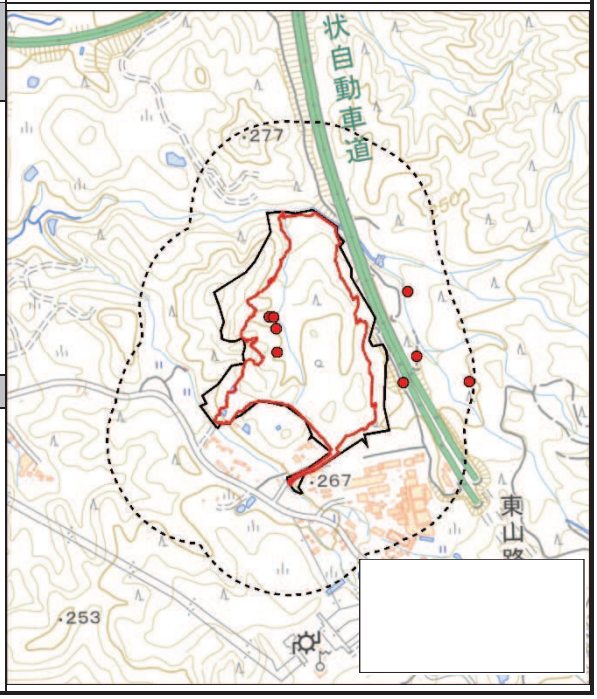
対象事業実施区域の改変区域内において、早春季に 3 地点合計 9 個体、夏季に 1 地点 4 個体が確認された。また、対象事業実施区域外において、早春季に 4 地点合計 12 個体確認された。

工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

本種は対象事業実施区域及びその周辺の湿地環境を生息地として利用していると考えられる。本種は移動能力に乏しいため、盛土・採掘等による環境改変によって、本種の生息環境や個体群は消滅する。しかしながら、周辺には本種の生息環境が存在することから、本種の地域個体群は維持されるものと予測される。

最終処分場の存在による影響

事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の湿地が改変されることから、本種の生息環境や個体群は消滅する。しかしながら、周辺には本種の生息環境が存在することから、本種の地域個体群は維持されるものと予測される。



備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.2-26(12)　重要な種（予測対象種）の予測結果（昆虫類：ギフチョウ）

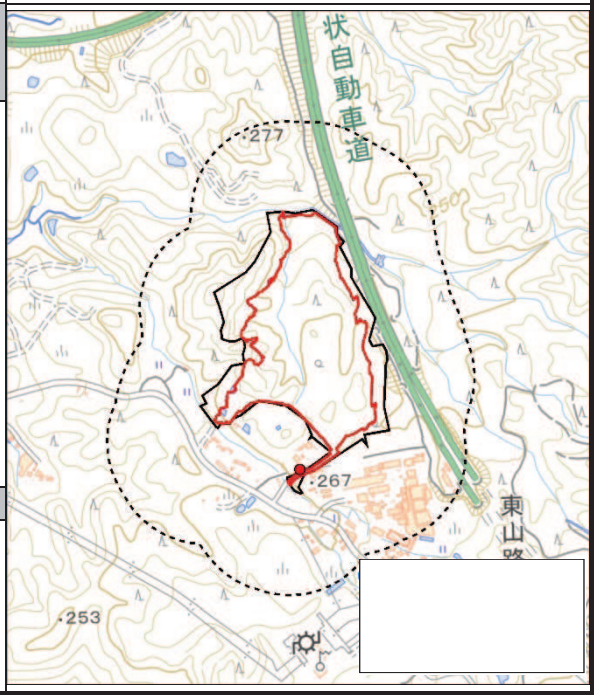
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="4">ギフチョウ</td></tr>
<tr><td colspan="5">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td>自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>VU</td><td>VU</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="2" rowspan="3">対象事業実施区域外において 1 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td colspan="2" rowspan="2"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工事)
対象事業実施区域及びその周辺の樹林環境を主な生息地として利用していると考えられる。確認個体は、周辺から飛来した個体であると考えられる。資材等の運搬については、車両による飛翔個体のロードキルが予測されるが、その恐れがあるのは道路沿いに飛来する一部の個体であり、影響は小さいと予測される。また、重機の稼働に伴う騒音や振動による忌避はないと考えられるが、盛土・採掘等による環境改変によって、生息環境や食草であるカンアオイ類の消失が考えられる。しかし、周辺には同様の樹林環境やカンアオイ類の生育地が広く存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。
最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の樹林環境が改変されることから、本種の生息環境の消失が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
</table>

表3.6.2-26(13)　重要な種（予測対象種）の予測結果（魚類：ドジョウ）

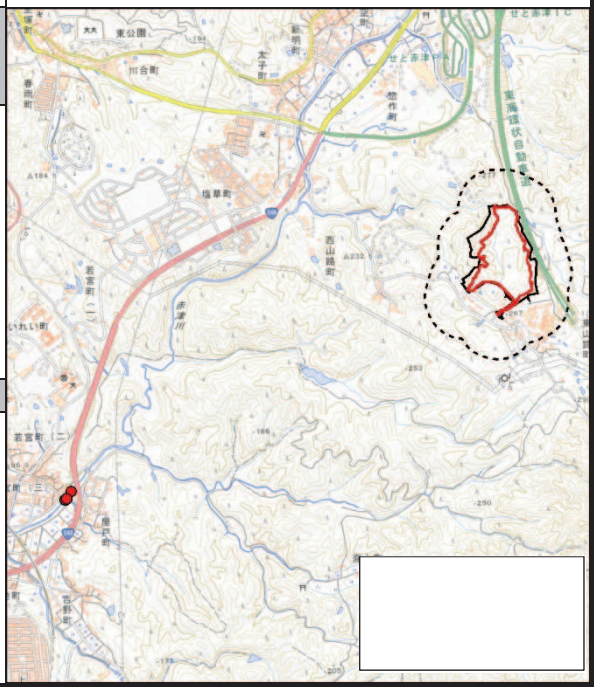
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ドジョウ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>NT</td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において、春季に 2 個体、夏季に 1 個体、春季に 1 個体を確認した。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>3</td><td>4</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）</td><td colspan="3" rowspan="3">  </td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の生息環境である赤津川は、対象事業実施区域から大きく離れており、直接的な改変を受けないこと、また、土地造成等の地形改変に伴う降雨時の濁水については、防災調整池を設けた後に放流されることから、下流域への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の確認地点が事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表3.6.2-26(14)　重要な種（予測対象種）の予測結果（魚類：ミナミメダカ）

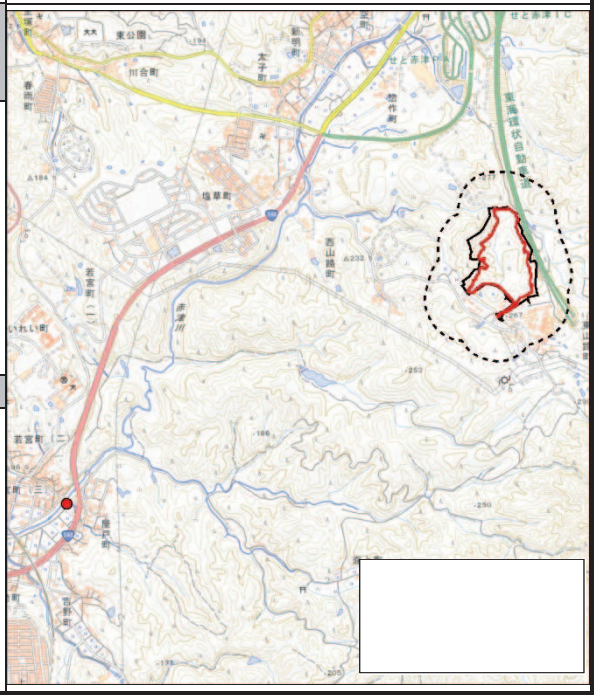
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ミナミメダカ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>VU</td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において夏季に 7 個体を確認した。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>7</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）</td><td colspan="3" rowspan="3">  </td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の生息環境である赤津川は、対象事業実施区域から大きく離れており、直接的な改変を受けないこと、また、土地造成等の地形改変に伴う降雨時の濁水については、防災調整池を設けた後に放流されることから、下流域への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の確認地点が事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表3.6.2-26(15)　重要な種（予測対象種）の予測結果（底生動物：タベサナエ）

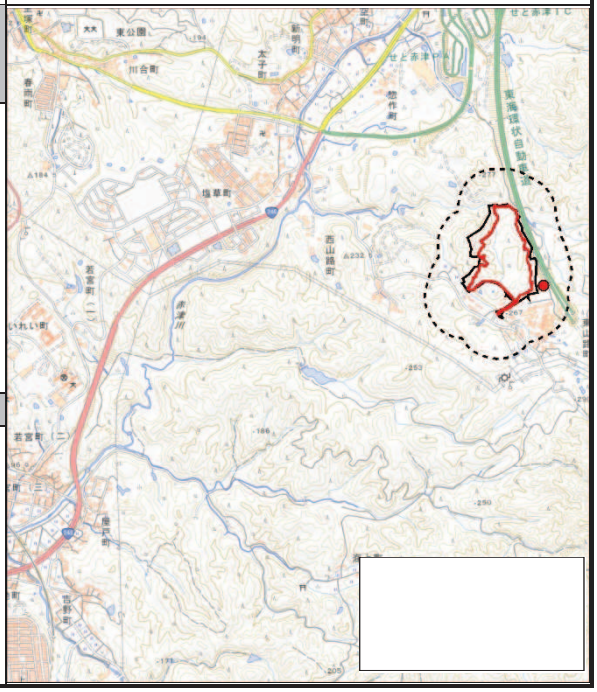
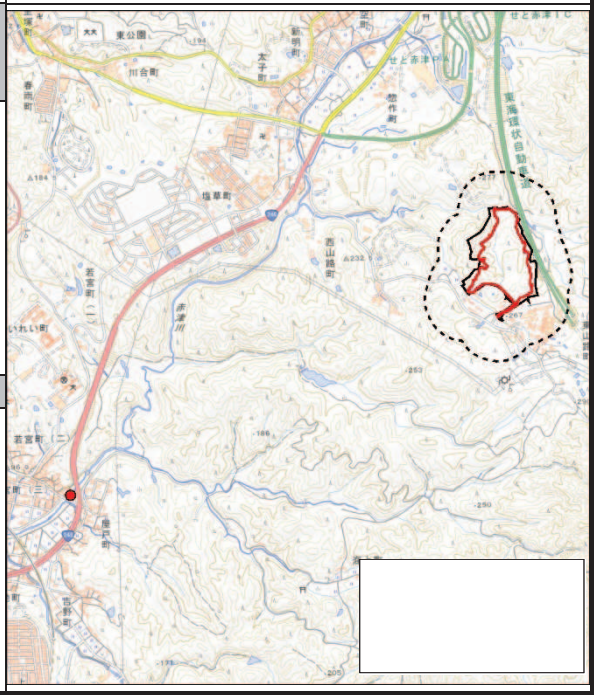
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">タベサナエ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>NT</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td rowspan="4" colspan="3">対象事業実施区域外において、夏季に補足調査を行った湿地で幼虫 1 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)
対象事業実施区域外の湿地を生息地として利用していると考えられる。本種の確認地点は事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。また、盛土・採掘等による環境改変によって、本種の生息環境が減少することが考えられるが、本種の成虫は飛翔するため移動能力は高く、周辺へ逃避すると考えられるため、影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3" rowspan="2">  </td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響
事業の実施に伴い、対象事業実施区域内が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、本種の確認地点は事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。また、事業計画により整備される防災調整池等の水域を生息環境として利用する可能性がある。</td></tr>
</table>

表3.6.2-26(16)　重要な種（予測対象種）の予測結果（ナベブタムシ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="5">ナベブタムシ</td></tr>
<tr><td colspan="6">重要な種の選定基準</td></tr>
<tr><td>文化財保護法</td><td>種の保存法</td><td>環境省 RL</td><td>愛知県 RL</td><td colspan="2">自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>VU</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td colspan="3" rowspan="3">St.3（赤津川、対象事業実施区域外）において、早春季に幼虫 2 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>2</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工）</td><td colspan="3" rowspan="3">  </td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の生息環境である赤津川は、対象事業実施区域から大きく離れており、直接的な改変を受けないこと、また、土地造成等の地形改変に伴う降雨時の濁水については、防災調整池を設けた後に放流されることから、下流域への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種の確認地点が事業による直接的な改変は受けないことから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

イ　重要な種の生息環境

対象事業実施区域のうち、主要な環境である樹林は、カモシカ、サンショウクイ、オオゴキブリが主要な生息場所としている。また、草地環境はカヤネズミやモグラ属の一種、樹林内から湧出する細流や湿地はヒメタイコウチやタベサナエ、抽水植物を伴う湿地はトノサマガエル属が、それぞれ生息場所としている。改変区域内の草のまばらな裸地は、ノウサギが餌場として利用している可能性がある。夜間のバットディテクター調査では、対象事業実施区域及びその周辺において、モモジロコウモリの可能性があるヒナコウモリ科の一種が確認されたが、既存の工事事務所などの外灯近くでも確認されており、外灯に飛来した昆虫類を食べるために広い範囲を移動しているものと考えられる。このほか、周辺環境から飛来したと考えられるギフチョウや、対象事業実施区域から離れた赤津川では、ドジョウ、ミナミメダカ及びナベブタムシが確認された。

対象事業実施区域は、これらの動物が生息環境またはその一部として利用している可能性が考えられる。対象事業実施区域の環境の多くが改変されるものの、周辺には対象事業実施区域の環境と同様の樹林・湿地環境など広がっていることから、多くの重要な種の生息環境及び地域個体群は維持され、影響は小さいものと予測されるが、トノサマガエル属の一種については、個体群の存続に影響を及ぼす可能性がある予測される。

(5) 影響の分析

1)工事による影響(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等による動物相及び注目すべき種ならびに注目すべき種の生息環境への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、表3.6.2-27に示す文献に掲載される保全上重要な動物種に対し、保全が図られているかを判断する。

表3.6.2-27　整合を図る基準（動物）
（工事による影響（資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等の土工））

・「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）掲載種 ・「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省）掲載種 ・「レッドデータブックあいち 2020」（令和 2 年、愛知県）掲載種

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、濁水対策、ロードキル防止対策等により、動物への影響の低減が図られていることから、資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等の土工による動物相及び注目すべき種ならびに注目すべき種の生息環境への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

このほか、盛土・掘削土等による重要な種への予測結果は、トノサマガエル属の一種について影響が大きいと予測したが、環境保全措置として個体の移殖や生息環境の代替地を設けることにより、上記の基準・目標と整合が図られているものと評価する。

2)最終処分場の存在による影響

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による動物相及び注目すべき種ならびに注目すべき種の生息環境への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、表3.6.2-28に示す文献に掲載される保全上重要な動物種に対し、保全が図られているかを判断する。

表3.6.2-28　整合を図る基準（動物）

（最終処分場の存在による影響）

・「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）掲載種 ・「環境省レッドリスト 2020」（令和 2 年、環境省）掲載種 ・「レッドデータブックあいち 2020」（令和 2 年、愛知県）掲載種

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置、在来種の植栽等による緑のネットワークの形成の実施により、動物への影響の低減が図られていることから、最終処分場の存在による動物相及び注目すべき種ならびに注目すべき種の生息環境への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

最終処分場の存在による動物への影響は、表3.6.2-28に示す文献に掲載される保全上重要な動物種の生息環境が保全されることから、影響は小さいと予測され、上記の基準と整合が図られていると評価する。

3.6.3　生態系

(1)　調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

生態系の現地調査は、「植物」、「動物」と同様とした。

(2)　現況把握

1)　現況把握項目

調査内容は、表3.6.3-1に示すとおりである。

表 3.6.3-1　調査内容

項　目	調査すべき情報
生態系の種類、構造、分布状況及び遷移状況	対象事業実施区域及びその周辺における生態系の種類、構造、分布状況及び遷移状況
地域を特徴づける生態系	地域を特徴づける生態系の分布及びそれを構成する複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況

2)　現況把握方法

ア　調査地点

現地調査は、「植物」、「動物」と同様とした。

イ　調査時期

現地調査期間は、「植物」、「動物」と同様とした。

ウ　調査方法

既存資料、「植物」、「動物」の現地調査結果を活用し、地域を特徴づける種について整理・解析を行った。

3)　調査結果

ア　地域を特徴づける生態系の区分

動植物調査結果をもとに、調査地域の植生を大きく樹林と草地に区分し、樹林は落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、常緑針葉樹林に3区分し、草地は乾性草地と湿性草地に2区分した。これに水域及び市街地の区分を加え、合計7区分とした。

対象事業実施区域及びその周辺の環境類型区分及び面積は表3.6.3-2に示すとおりである。

表 3.6.3-2　環境類型区分及び区分毎の面積

地形	環境類型区分		群落名	対象事業実施区域内		対象事業実施区域外		全体	
				面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
中起伏山地・丘陵地	樹林	落葉広葉樹林	コナラ群落	5.29	39.80	24.46	50.91	29.75	48.39
			ハリエンジュ群落						
		常緑広葉樹林	ソヨゴ群落	1.50	11.29	0.42	0.87	1.92	3.12
			伐採跡地群落						
		常緑針葉樹林	アカマツ群落	0.27	2.03	2.99	6.23	3.26	5.30
			スギ・ヒノキ植林						
	草地	湿性草地	水田雑草群落	0.00	0.00	0.48	1.00	0.48	0.78
		乾性草地	ススキ群落	0.68	5.12	3.67	7.62	4.35	7.08
			路傍・空地雑草群落						
			畑雑草群落						
	水域	水域	開放水域	0.40	3.01	0.02	0.04	0.42	0.68
人工改変地	市街地	市街地	市街地	5.15	38.75	16.15	33.33	21.30	34.65
			造成地						
合　計				13.29	100.0	48.19	100.0	61.48	100.0

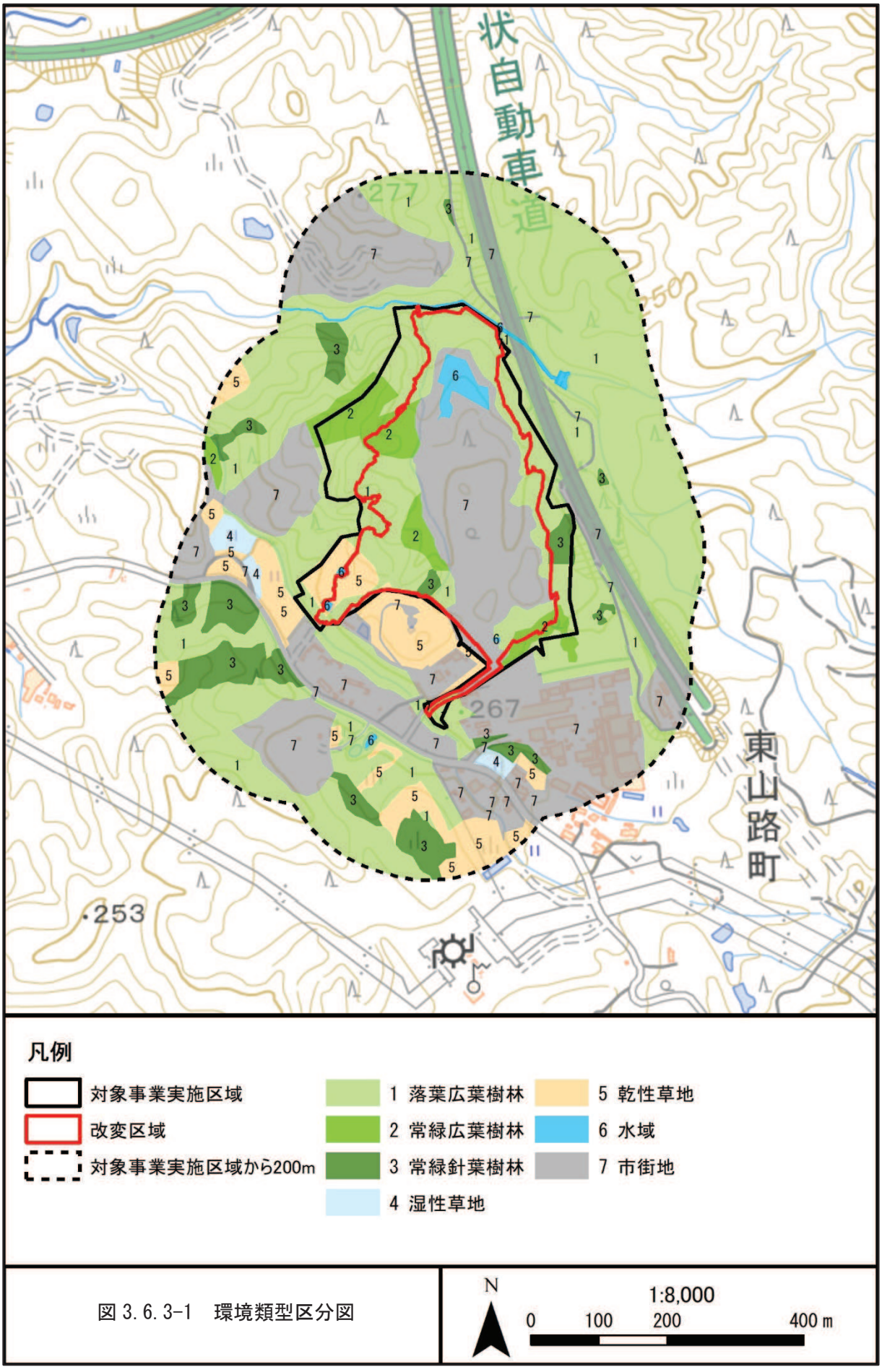


図 3.6.3-1　環境類型区分図

イ　生態系の構造・機能の検討

当該地域に生息・生育している種及び群集の生態的役割や相互関係、生物多様性を把握するため、動植物調査結果を踏まえて作成した各環境類型を構成する主な生物種による相互間の捕食・被食に関する食物連鎖図は図3.6.3-2に示すとおりである。

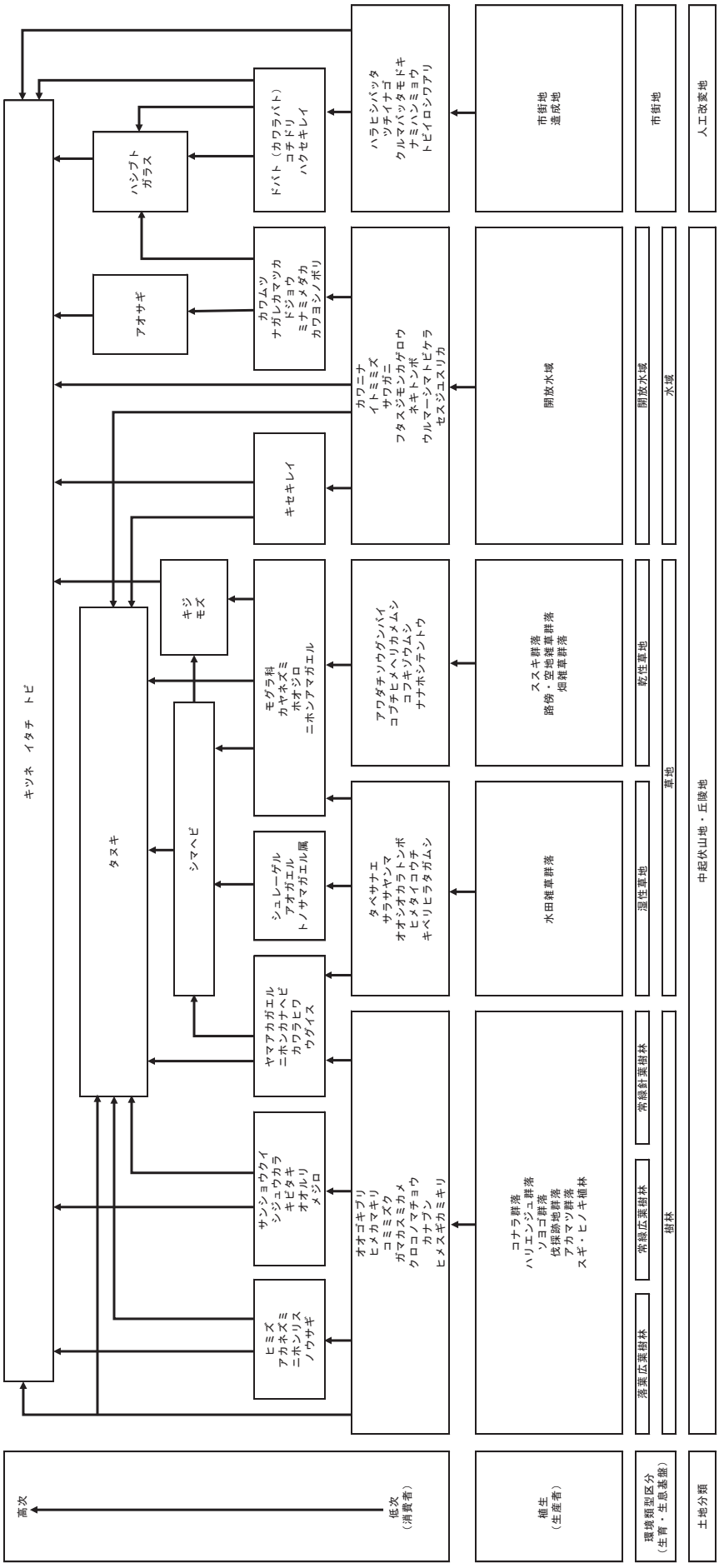

高次
低次
（消費者）
植生
（生産者）
環境類型区分
（生育・生息基盤）
土地分類
落葉広葉樹林
常緑広葉樹林
常緑針葉樹林
樹林
乾性草地
湿性草地
草地
開放水域
水域
市街地
造成地
人工改変地
中起伏山地・丘陵地
コナラ群落
ハリエンジュ群落
ソヨゴ群落
伐採跡地群落
アカマツ群落
スギ・ヒノキ植林
水田雑草群落
ススキ群落
路傍・空地雑草群落
畑雑草群落
開放水域
オオゴキブリ
ヒメカマキリ
コミミズク
ガマカスミカメ
クロコノマチョウ
カナブン
ヒメスギカミキリ
タベササナエ
サラサヤンマ
オオシオカラトンボ
ヒメタイコウチ
キベリヒラタガムシ
アワダチソウグンバイ
コブチヒメヘリカメムシ
コフキゾウムシ
ナナホシテントウ
カワニナ
イトミミズ
サワガニ
フタスジモンカゲロウ
ネキトンボ
ウルマーシマトビケラ
セスジユスリカ
サンショウウオ
シジュウカラ
キビタキ
オオルリ
メジロ
ヤマアカガエル
ニホンカナヘビ
カワラヒワ
ウグイス
シュレーゲル
アオガエル
トノサマガエル属
モグラ科
カヤネズミ
ホオジロ
ニホンアマガエル
キセキレイ
ヒミズ
アカネズミ
ニホンリス
ノウサギ
タヌキ
シマヘビ
キジ
モズ
キツネ　イタチ　トビ
ハシブト
ガラス
アオサギ
ドバト（カワラバト）
コチドリ
ハクセキレイ
カワムツ
ナガレカマツカ
ドジョウ
ミナミメダカ
カワヨシノボリ
ハラヒシバッタ
ツチイナゴ
クルマバッタモドキ
ナミハンミョウ
トビイロシワアリ
市街地
造成地

図 3.6.3-2　食物連鎖図

4)　地域を特徴づける種

ア　注目種の選定

対象事業実施区域及びその周辺における地域の生態系への影響を把握するため、表3.6.3-3に示す「上位性」、「典型性」、「特殊性」の観点から注目種を抽出した。

表 3.6.3-3　注目種抽出の観点

区分	抽出の観点
上位性	食物連鎖の上位に位置する種。 行動範囲が広く、多様な環境を利用する動物の中で、大型でかつ個体数の少ない肉食動物、草食動物でも天敵が存在しないと考えられる種を対象とする。
典型性	生態系の特徴を典型的に表す種。 対象地域において優占する植物種及びそれらを食物とする小型で個体数の多い動物種を対象とする。また、生物間相互作用や生態系の機能に重要な役割をもつ種及び生態遷移を特徴づける種を対象とする。
特殊性	特殊な環境を示す指標となる種。 相対的に分布範囲が狭い環境又は質的に特殊な環境に生息・生育する動植物 種を対象とする。

イ　地域の生態系の上位性を特徴づける種

上位性の注目種は表3.6.3-3に示すとおり、生態系を構成する生物群集において栄養段階の上位に位置する種を対象とした。

現地調査で確認された種のうち対象事業実施区域及びその周辺の生態系の上位性注目種の候補として表3.6.3-4に示すとおり、中型哺乳類であるキツネ及びイタチ、猛禽類であるトビの3種を抽出した。なお、抽出の際には、各種の主な生息環境が各環境類型（樹林・草地・水域）を網羅するように留意した。

表 3.6.3-4　上位性注目種候補の抽出結果

注目種		確認環境類型	抽出の理由
キツネ	哺乳類	草地・樹林	小動物を捕食するほか、果実などを食べる雑食性で、生態系の上位に位置する。対象事業実施区域及びその周辺において確認されている。
イタチ	哺乳類	草地・水域	ネズミ類、小型鳥類、甲殻類等を捕食し、生態系の上位に位置する。対象事業実施区域周辺の河川流域において確認されている。
トビ	鳥類 （猛禽類）	草地・樹林	主に死骸を食べるが、ネズミ類、両生類、爬虫類、小鳥を捕食することもあり、生態系の上位に位置する。対象事業実施区域の周辺において飛翔が確認されている。

これらの種について、表3.6.3-5に示す評価基準により検討し、調査地域に適する上位性注目種を対象とした。

・「行動圏が大きく、比較的広い環境を代表する」の項については、キツネは対象事業実施区域内において1地点、対象事業実施区域の周辺において1地点、それぞれ確認されており、広い範囲で行動している可能性が考えられることから「2」とした。イタチとノスリは対象事業実施区域の周辺においてそれぞれ1地点での確認であることから「1」とした。

・「改変区域を利用する」の項については、キツネは対象事業実施区域内において確認されていることから「3」とした。イタチは、確認地点が対象事業実施区域に隣接することから「2」とした。トビは対象事業実施区域から東に離れた地点で確認されていることから「1」とした。

・「年間を通じて生息が確認可能」の項については、キツネは春季及び秋季に確認されており、基本的には幼獣の分散を除けば大きな移動をしないことから「3」とした。イタチは秋季にのみ確認されているが、基本的には幼獣の分散を除けば大きな移動をしないことから「2」とした。トビは冬季に確認されているが、本種は留鳥であることから「2」とした。

・「繁殖している可能性が高い」の項については、3種ともに営巣・繁殖が可能な環境は対象事業実施区域及びその周辺に存在すると考えられるが、現地調査においていずれも営巣や繁殖は確認されなかったため「2」とした。

以上のとおり、各項目について検討した結果、評点の高かったキツネとイタチを、上位性の視点で当該地域の生態系を代表する種と選定した。

表 3.6.3-5　マトリクス法による上位性注目種の選定結果

評価基準	キツネ	イタチ	トビ
行動圏が大きく、比較的広い環境を代表する	2	1	1
改変区域を利用する	3	2	1
年間を通じて生息が確認可能	3	2	2
繁殖している可能性が高い	2	2	2
選定結果（合計）	10	7	6

※1　3：該当する　2：一部該当する　1：該当しない
※2　評点で高い値を示す種を確定する。

ウ　地域の生態系の典型性を特徴づける種

典型性の注目種は、表3.6.3-3に示すとおり、地域の生態系の中で生物間相互作用や生態系の機能に重要な役割をもつ種及び生態遷移を特徴づける種を対象とした。

現地調査で確認された種・種群のうち対象事業実施区域及びその周辺の生態系の典型性注目種の候補として表3.6.3-6に示すとおり、哺乳類のアカネズミ、タヌキ、鳥類のシジュウカラ、ホオジロ、爬虫類のニホンカナヘビ、魚類のカワムツを抽出した。なお、抽出の際には、各種の主な生息環境が各環境類型（樹林・草地・水域等）を網羅するように留意した。

表 3.6.3-6　典型性注目種候補の抽出結果

注目種		確認環境類型	抽出の理由
アカネズミ	哺乳類	草地・樹林	対象事業実施区域内の樹林及び草地環境で確認されている。上位捕食者の餌資源になる。
タヌキ	哺乳類	草地・樹林	対象事業実施区域及びその周辺の草地から樹林環境にかけて確認されている。雑食性で、種子散布者としての機能性が高い。
シジュウカラ	鳥類	樹林	対象事業実施区域及びその周辺の、主に樹林環境において多数が確認されている。個体数が多く、生態系へのエネルギーフローの寄与が高い。
ホオジロ	鳥類	草地	対象事業実施区域及びその周辺の、主に草地環境において確認されている。個体数が多く、生態系へのエネルギーフローの寄与が高い。
ニホンカナヘビ	両生類	草地・樹林	対象事業実施区域及びその周辺の草地から樹林など幅広い環境において確認されている。個体数が多く、生態系へのエネルギーフローの寄与が高い。
カワムツ	魚類	水域	対象事業実施区域周辺の河川で多数が確認されている。流水環境を代表する種であり、小型で、多様な水域で確認され、生態系へのエネルギーフローの寄与が高い。

これらの種について、表3.6.3-7に示す評価基準により検討し、調査地域に適する典型性注目種を対象とした。

・「生物間相互作用や生態系の機能において重要な役割を持つ」については、タヌキは種子散布者として、樹林や草地環境の植生の更新を担うものと考えられるため「3」とした。また、アカネズミについても主にナラ類の堅果等の種子散布者として機能性を持つと考えられるため「2」とした。その他の動物については、生物相互作用の中で機能的な役割をそれほど担っていないと考えられるため「1」とした。

・「より上位の消費者に捕食される」については、タヌキは哺乳類の中では比較的大型であり、対象事業実施区域及びその周辺ではより上位の消費者に捕食されることは少ないと考えられるため「1」とした。その他の動物については、高次消費者に餌として捕食されやすいため「3」とした。

・「優占するあるいは小型で個体数が多く対象地域を代表する」については、シジュウカラは対象事業実施区域及びその周辺で多数確認されていること、カワムツは確認地点が流水環境に偏るものの確認数が多いことから、それぞれ「3」とした。ホオジロとニホンカナヘビは調査地点の幅広い地点で確認されているものの、個体数はそれほど多くないため「2」とした。アカネズミとタヌキについては、確認数が少ないことから「1」とした。

・「対象地域の多様な環境を指標する」の項については、シジュウカラとニホンカナヘビは、対象事業実施区域及びその周辺において樹林及び草地などで幅広く確認されており、多様な環境を指標すると考えられ「3」とした。アカネズミ、タヌキ及びホオジロは、確認数は多くないものの、樹林や草地環境のほか河川沿いにおいても確認されていることから「2」とした。カワムツは基本的に流水環境に偏って生息していることから「1」とした。
・「改変区域を利用する」については、カワムツは生息環境である流水域は改変区域に隣接するが直接的な改変は受けないため「2」とした。その他の動物については、改変区域内において確認されていることから生息環境の一部として利用している可能性が考えられ、種への影響が大きいことから「3」とした。

以上のとおり、検討した結果、評点の高かったアカネズミ、タヌキ、シジュウカラ、ホオジロ、ニホンカナヘビを、典型性の視点で当該地域の生態系を代表する種と選定した。

表 3.6.3-7　マトリクス法による典型性注目種の選定結果

評価基準	アカネズミ	タヌキ	シジュウカラ	ホオジロ	ニホンカナヘビ	カワムツ
生物間相互作用や生態系の機能において重要な役割を持つ	2	3	1	1	1	1
資源供給種である。より上位の消費者に捕食される種	3	1	3	3	3	3
優占するあるいは小型で個体数が多く対象地域を代表する	1	1	3	2	2	3
対象地域の多様な環境を指標する	2	2	3	2	3	1
改変区域を利用する	3	3	3	3	3	2
選定結果（合計）	11	11	12	11	12	10

※1 3：該当する　2：一部該当する　1：該当しない
※2 評点で高い値を示す種を確定する。

エ　地域の生態系の特殊性を特徴づける種

特殊性の注目種は表3.6.3-3に示すとおり、特殊な環境要素や特異な場の存在に生息・生育が強く規定される種・種群を対象とした。

対象事業実施区域及びその周辺には特殊な環境が存在しないことから、特殊性の注目種は選定しないこととした。

5)　周辺生態系との関連性・連続性

ア　周辺生態系との関連性

対象事業実施区域及びその周辺は猿投山塊の西部に位置している。対象事業実施区域は人工裸地や工場地帯といった人工改変地が広がり、その周辺は主に中起伏山地の樹林環境により囲まれている。対象事業実施区域周辺の西側から北側にかけて流れる河川沿いは丘陵地となっており、河川環境や森林環境を基盤とした生態系が存在する。また、対象事業実施区域周辺の南側にも河川が存在し、周辺は小規模な田園地帯となっている。

イ　周辺生態系との連続性

現地調査では、広い行動圏を持つキツネやタヌキといった哺乳類や、トビやアオサギといった大型の鳥類のほか、季節により広域を移動するベニマシコやカシラダカといった渡り鳥が確認された。また、湿地などで繁殖・変態し、成体は周辺の樹林などへ移動して生活するヤマアカガエルやシュレーゲルアオガエルなどが確認された。

移動力のある中型哺乳類であるキツネやタヌキ、大型の鳥類であるトビは、対象事業実施区域及びその周辺を広く利用しているものと考えられる。対象事業実施区域は広く土砂の採掘による人工裸地となっており、重機の稼働や土砂を搬出する大型車両の通行が見られる。また、対象事業実施区域周辺の東側には東海環状自動車道が、南側には一般道路が存在し、交通量も少なくないことから、動物に対して移動阻害が生じている可能性がある。しかし、対象事業実施区域の工事等による車両等の出入りは日中のみであることから、夜間には対象事業実施区域を移動経路として利用していると考えられる。また、東海環状自動車道については管理用道路や道路の下を通るカルバート、一般道路については排水溝、暗渠が点在し、これらを移動経路として利用することで、活動範囲を広げているものと考えられる。

また、渡り鳥については、春季から夏季にかけてはセンダイムシクイやキビタキ、オオルリなどの夏鳥が確認され、冬季にはジョウビタキやベニマシコ、カシラダカなどの冬鳥が確認された。これらのことより対象事業実施区域及びその周辺は、夏鳥の繁殖及び採餌場所、冬鳥の越冬場所として機能していると考えられる。留鳥であるハシブトガラスやハクセキレイなどについても、家屋や緑地、周辺の樹林で繁殖し、水田や畑地を採餌環境として利用しているものと考えられる。

このほか、シュレーゲルアオガエルは卵および成体が対象事業実施区域及びその周辺の主に湿地においてが確認されたほか、ヤマアカガエルは成体が対象事業実施区域の周辺の樹林部などにおいて確認された。シュレーゲルアカガエルが繁殖場所となる湿地と、成体の生活場所となる樹林の両環境で確認されていることから、草地生態系と樹林生態系が連続的であることを示すものと考えられる。

(3) 環境保全措置

本事業の実施にあたっては、工事(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)及び最終処分場の存在に伴う地域を特徴づける生態系への影響を可能な限り低減するため、以下に示す環境保全措置を講ずることとする。

1) 工事(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。
・改変区域内で確認された重要な動物については、可能な限り移植する。
・対象事業実施区域周辺の動物の生息に配慮して、防災調整池を早期に整備し、周辺排水路への濁水の流出防止を図る。
・ロードキルを防止するため、低速走行、動物注意の警告標識及び侵入防止柵等を工事区域に設置する。

2) 最終処分場の存在

・不要な照明の消灯、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置等により、夜行性動物及び走行性昆虫の行動、生態系の攪乱を防止する。
・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。
・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。

(4) 予測

1) 予測内容

予測内容は、工事(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)及び最終処分場の存在に伴う地域を特徴づける生態系の変化の程度とした。

2) 予測地域等

予測地域は、事業の実施による動物の生息環境への影響が想定される対象事業実施区域より200mの範囲とした。

予測地点は対象事業実施区域及び赤津川下流とした。

3) 予測対象時期

ア 工事による影響(資材等の運搬)

予測対象時期は、資材の運搬車両台数が最大となる時期とした。

イ 工事による影響(重機の稼働)

予測対象時期は、重機の稼働台数が最大となる時期とした。

ウ 工事による影響(盛土・掘削等)

予測対象時期は、盛土・掘削工事の最盛期とした。

エ 最終処分場の存在による影響

予測対象時期は、工事が完了した時点とした。

4) 予測方法

予測方法は、地域の生態系を特徴づける指標種等の生息・生育環境解析結果と土地利用計画及び工事計画との重ね合わせ並びに事例の引用・解析によるものとした。

5)　予測結果

ア　基盤環境（環境類型区分）

調査範囲内における事業による環境類型区分ごとの面積の変化は表3.6.3-8に示すとおりである。

切土や盛土による造成によって主に樹林環境が消失する。その結果、樹林環境に生息・生育する動植物が減少する。地形の改変による樹林環境の消失量は面積比では落葉広葉樹林が約11%（3.21ha/29.75ha）、常緑広葉樹林が約42%（0.8ha/1.92ha）、常緑針葉樹林が約3%（0.09ha/3.26ha）となっている。

一方、造成により市街地が約1.2倍（21.30ha→25.73ha）に増加する。市街地が増えることにより、市街地を積極的に利用する種が増加すると考えられる。

以上のように、事業実施により樹林環境の規模が縮小し、人工地が拡大する。しかし、対象事業実施区域の周辺には落葉広葉樹林が大きく広がっていることから、事業の実施による樹林環境の減少が、地域の生態系に大きな変化を生じさせる可能性は低いと予測される。

表3.6.3-8　調査範囲における事業による環境類型区分ごとの面積の変化

環境類型区分	面積			構成比		
	現況 (ha)	供用後 (ha)	変化 (ha)	現況 (%)	供用後 (%)	変化 (ポイント)
落葉広葉樹林	29.75	26.54	-3.21	48.39	43.17	-5.22
常緑広葉樹林	1.92	1.12	-0.80	3.12	1.82	-1.30
常緑針葉樹林	3.26	3.17	-0.09	5.30	5.16	-0.14
湿性草地	0.48	0.48	0.00	0.78	0.78	0.00
乾性草地	4.35	4.02	-0.33	7.08	6.54	-0.54
水域	0.42	0.42	0.00	0.68	0.68	0.00
市街地	21.30	25.73	4.43	34.65	41.85	7.20
合計	61.48	61.48	-	100.0	100.0	-

イ　周辺生態系との関連性・連続性

a　周辺生態系との関連性

対象事業実施区域の中心部は人工裸地が存在し、その周辺には樹林環境の生態系が形成されているほか、草地や湿地の生態系が点在する。事業の実施により樹林環境が消失しても対象事業実施区域を含む地域一帯の樹林生態系に変化を生じさせる可能性は低いと予測される。また、対象事業実施区域における工事車両搬出入路は、既存の一般道路を利用することから、対象事業実施区域及びその周辺を広く移動する種に対して、新たな移動阻害要因となる可能性は低いと予測される。

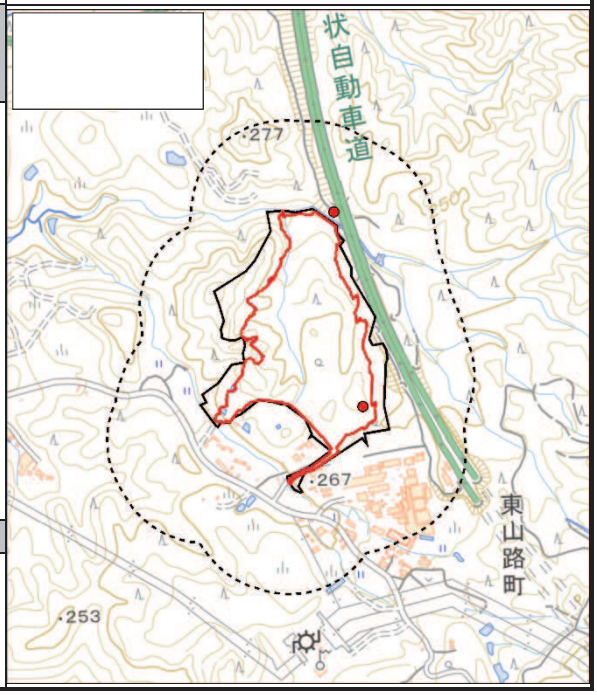
b　周辺生態系との連続性

現地調査では、広い行動圏を持つキツネやタヌキといった哺乳類や、トビやアオサギといった大型の鳥類のほか、季節により広域を移動するジョウビタキやベニマシコ、カシラダカといった渡り鳥や、繁殖場所としての湿地及び成体の生活場所としての樹林を移動・利用するシュレーゲルアオガエルなどが確認された。これらの種について、対象事業実施区域内を走行する工事用車両の走行場所を利用することが考えられ、工事車両との衝突死のおそれが予測される。事業計画では、運搬車両は低速走行を励行すること、運転者へはロードキルへの注意を指導することにより、工事車両との衝突は回避できると考えられる。また、重機の稼働や掘削、盛土による生息場所の改変や消失が考えられるが、対象事業実施区域周辺には同様の樹林や湿地環境が広がっていること、また、対象事業実施区域周辺の樹林部の多くは工事の影響を受けないことから、これらの動物の個体群の存続に及ぼす影響は小さく、環境の連続性も保たれると考えられる。

ウ　注目種に代表される生態系の種構成などの変化

対象事業実施区域の環境改変により、対象事業実施区域及びその周辺に生育・生息する植物・動物の多くが、直接あるいは間接的な影響を受けると考えられる。このうち、生態系の注目種（上位種、典型種）についての予測を表3.6.3-9に示す。

表3.6.3-9(1)　生態系注目種（上位種）の予測結果（哺乳類：キツネ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="3">キツネ</td></tr>
<tr><td colspan="4">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域内において、秋季に足跡が 1 地点確認された。また、対象事業実施区域外において早春季の昆虫類調査時において 1 個体が目撃により確認された。</td></tr>
<tr><td>1 (1)</td><td>1 (1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事)</td><td rowspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺を広く生息地として利用していると考えられる。重機の稼働に伴う騒音や振動の発生は、本種の繁殖に影響を与える可能性が考えられる。しかしながら、本種は移動能力が高いため、工事初期の段階で周辺への忌避行動をとると考えられる。忌避行動の際中に、資材運搬の車両が走行する場所を通過する可能性がある。しかしながら、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息環境及び餌場の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="4">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺に同様の樹林環境等が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.3-9(2)　生態系注目種（上位種）の予測結果（哺乳類：イタチ）

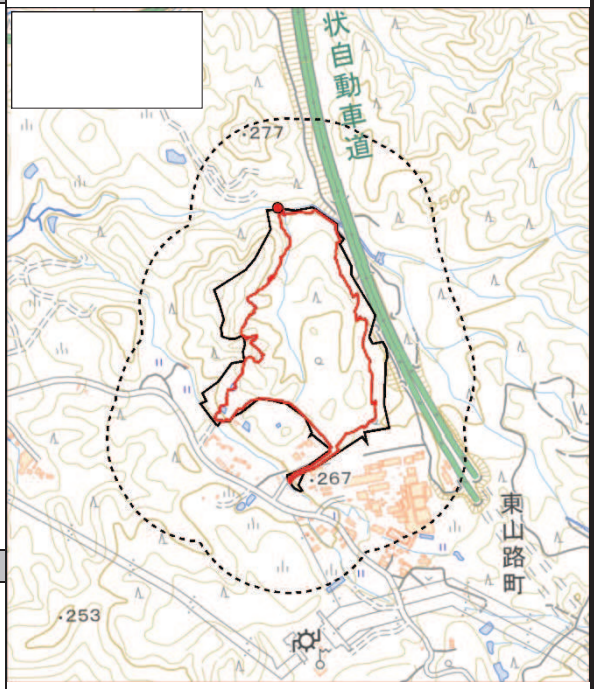
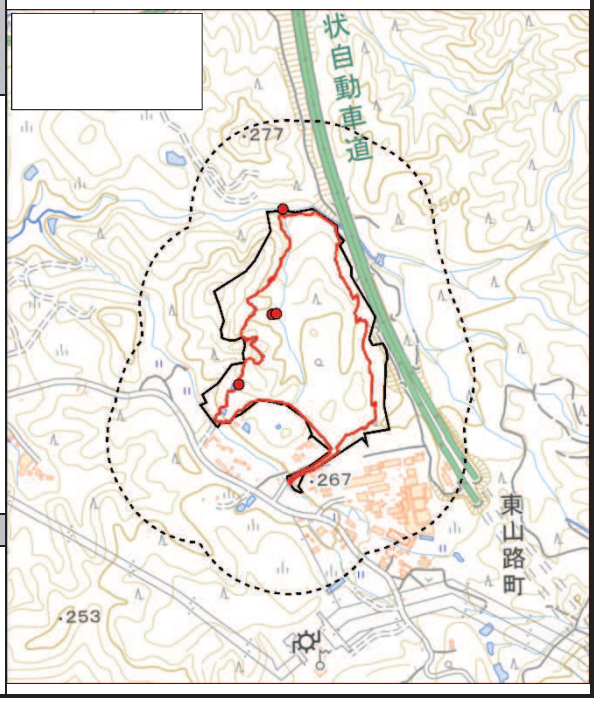
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="3">イタチ</td></tr>
<tr><td colspan="4">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td rowspan="4">対象事業実施区域外において、秋季に糞が 1 地点確認された。</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺の樹林や河川環境を主な生息地として利用していると考えられる。重機の稼働に伴う騒音や振動の発生は本種の繁殖に影響を与える可能性が考えられる。しかしながら、本種は移動能力が高いため、工事初期の段階で周辺への忌避行動をとると考えられる。忌避行動の際中に、資材運搬の車両が走行する場所を通過する可能性がある。しかしながら、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。盛土・採掘等による環境改変においては、本種の生息環境及び餌場の減少が考えられるが、周辺には同様な樹林環境が広く存在することや、本種の採餌環境の一つである河川は、土地造成等の地形改変に伴う降雨時の濁水について、防災調整池を設けた後に放流される対策が取られることから、餌場としての機能が維持されると考えられ、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td rowspan="2"> 
</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが周辺に同様の樹林環境等が存在することや、本種の採餌環境となる河川は事業による直接的な改変は受けないことから、事業による本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td></td></tr>
</table>

表3.6.3-9(3)　生態系注目種（典型性種）の予測結果（哺乳類：アカネズミ）

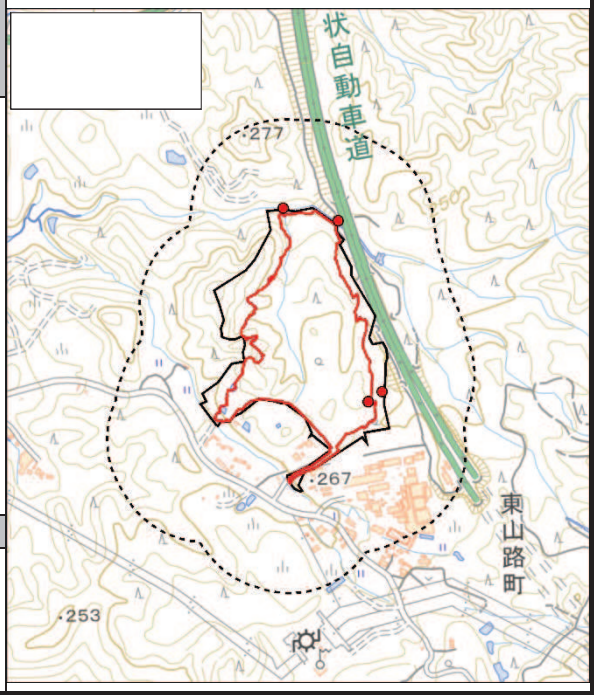
<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="2">アカネズミ</td></tr>
<tr><td colspan="3">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>3 (3)</td><td>3 (3)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象事業実施区域の改変区域内において、春季に1個体、秋季に2個体がそれぞれ捕獲により確認された。また、対象事業実施区域外において、春季に1個体が捕獲により確認された。</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事)</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺を広く生息地として利用していると考えられる。重機の稼働に伴う騒音や振動の発生は本種の繁殖に影響を与える可能性が考えられる。しかしながら、本種は移動能力が比較的高いため、工事初期の段階で周辺への忌避行動をとると考えられる。忌避行動の際中に、資材運搬の車両が走行する場所を通過する可能性がある。しかしながら、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息環境及び餌場の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺に同様の樹林環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.3-9(4)　生態系注目種（典型性種）の予測結果（哺乳類：タヌキ）

種名	タヌキ	
確認状況		
対象事業実施区域内	地点数	個体(確認)数
	1（1）	2（2）
対象事業実施区域外	地点数	個体(確認)数
	5	5

対象事業実施区域の改変区域内において、夏季に足跡が1地点確認された。また、対象事業実施区域外において、冬季にSt.1で1個体、St.4で1個体、春季にSt.1で1個体、St.4で1個体が、それぞれ自動撮影カメラにより確認されたほか、秋季に足跡が1地点確認された。



工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工事）

本種は対象事業実施区域及びその周辺を広く生息地として利用していると考えられる。重機の稼働に伴う騒音や振動の発生は本種の繁殖に影響を与える可能性が考えられる。しかしながら、本種は移動能力が高いため、工事初期の段階で周辺への忌避行動をとると考えられる。忌避行動の際中に、資材運搬の車両が走行する場所を通過する可能性がある。しかしながら、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息環境及び餌場の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

最終処分場の存在による影響

事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の環境が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺に同様の樹林環境等が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

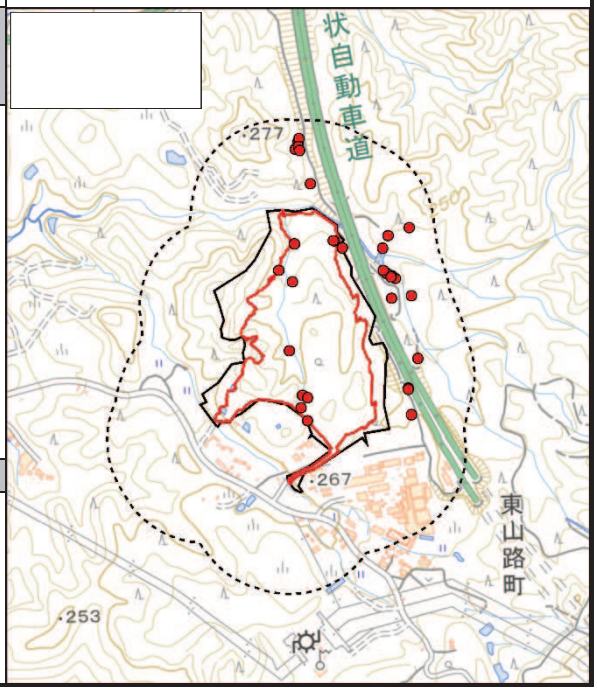
備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.3-9(5)　生態系注目種（典型性種）の予測結果（鳥類：シジュウカラ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="3">シジュウカラ</td></tr>
<tr><td colspan="4">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td><td rowspan="4">対象事業実施区域の改変区域内において、冬季、繁殖期、夏季、秋季に 9 地点合計 17 個体、改変区域外において春季に 1 地点 3 個体がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、5 回の調査時季を通じて 21 地点合計 56 個体が確認された。</td></tr>
<tr><td>10 (9)</td><td>20 (17)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>21</td><td>56</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工)

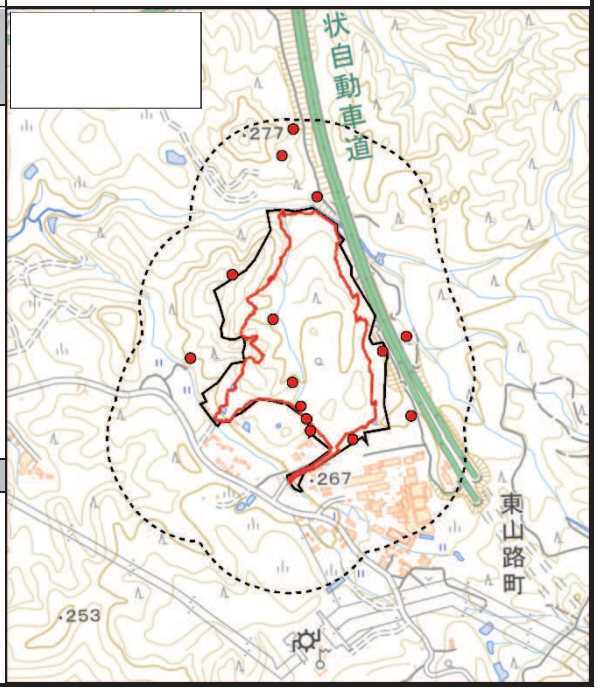
本種は対象事業実施区域及びその周辺の樹林を生息地として利用していると考えられる。資材運搬の車両が走行する場所に飛来する可能性があるが、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。また、重機の稼働に伴い、採餌環境の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。

最終処分場の存在による影響

事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の樹林が改変されることから、本種の餌場の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td><td colspan="2"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

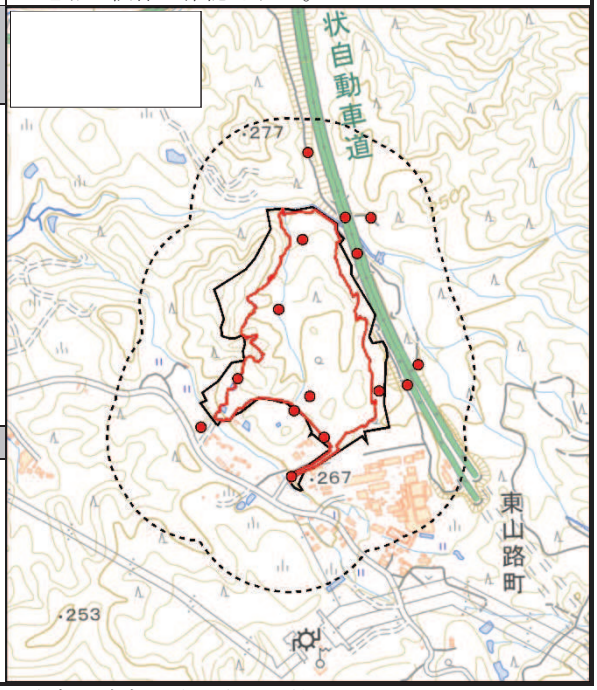
表3.6.3-9(6)　生態系注目種（典型性種）の予測結果（鳥類：ホオジロ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="2">ホオジロ</td></tr>
<tr><td colspan="3">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>6（4）</td><td>8（6）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>8</td><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象事業実施区域の改変区域内において、冬季、春季、繁殖期、夏季に4地点合計6個体、改変区域外において、冬季と繁殖期に2地点合計2個体がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、春季と繁殖期に8地点合計8個体が確認された。</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工）</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺の草地や樹林を生息地として利用していると考えられる。資材運搬の車両が走行する場所に飛来する可能性があるが、車両との衝突を回避する行動をとると考えられることから、影響は小さいと予測される。また、重機の稼働に伴い、採餌環境の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。このほか、盛土・採掘等による環境改変によって、餌場が減少することが考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内の草地や樹林が改変されることから、本種の餌場の減少が予測されるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
</td></tr>
</table>

備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

表3.6.3-9(7)　生態系注目種（典型性種）の予測結果（爬虫類：ニホンカナヘビ）

<table>
<tr><td>種名</td><td colspan="2">ニホンカナヘビ</td></tr>
<tr><td colspan="3">確認状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域内</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>7(5)</td><td>9(7)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">対象事業実施区域外</td><td>地点数</td><td>個体(確認)数</td></tr>
<tr><td>8</td><td>12</td></tr>
<tr><td colspan="3">対象事業実施区域の改変区域内において、春季に2地点合計4個体、夏季に2地点合計2個体、秋季に1地点1個体、改変区域外において、夏季に1地点1個体、秋季に1地点1個体がそれぞれ確認された。また、対象事業実施区域外において、春季に5地点合計9個体、夏季に2地点合計2個体、秋季に1地点2個体が確認された。</td></tr>
<tr><td colspan="3">工事による影響
（資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、
盛土・掘削等の土工事）</td></tr>
<tr><td colspan="3">本種は対象事業実施区域及びその周辺の草地や林縁部の環境を生息地として利用していると考えられる。重機の稼働に伴う騒音や振動の発生により、本種が周辺への忌避行動を行うと考えられるが、本種は移動能力が高くないため、忌避行動の際中に、資材運搬の車両によるロードキルや地域個体群の分断が予測されるほか、盛土・採掘等による環境改変において、本種の生息及び繁殖環境の減少が考えられるが、周辺には同様な環境が存在することから、本種の地域個体群は維持されるものと予測される。</td></tr>
<tr><td colspan="3">最終処分場の存在による影響</td></tr>
<tr><td colspan="3">事業の実施に伴い、対象事業実施区域内が改変されることから、本種の生息環境の減少が予測されるが、周辺には同様環境が存在することから、本種の生息環境への影響は小さいことが予測される。また、事業計画により整備される緑地等を生息環境として利用する可能性がある。</td></tr>
</table>



備考　対象事業実施区域内欄の地点数等に示す(　)内の値は改変区域内で確認された値を示す。

(5) 影響の分析

1) 工事による影響(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等による地域を特徴づける生態系への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

環境保全措置として重要な動物の移植、濁水対策、ロードキル防止対策等により、動物への影響の低減が図られていることから、資材等の運搬、重機の稼働、盛土・掘削等による地域を特徴づける生態系への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

2) 最終処分場の存在による影響

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による地域を特徴づける生態系への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置、在来種の植栽等による緑のネットワークの形成の実施により、動物への影響の低減が図られていることから、最終処分場の存在による地域を特徴づける地域を特徴づける生態系への影響は、実行可能な範囲内で回避・低減が図られていると評価する。

3.7 廃棄物・発生土

廃棄物・発生土については、現地調査は行わず、工事計画から、工事中の対象事業実施区域内から発生する廃棄物とその処理を予測対象とした。

(1) 環境保全措置

1) 廃棄物の発生・処理

・樹木の伐採は最小限にとどめる。

・建設工事用の合板、型枠の再利用を促進する。

・伐採に伴う発生する木材については再利用し、残りは有効利用先への搬出を行い、再資源化する。

・残土は、場外において、適切に処理する。

(2) 予測

1) 廃棄物の発生・処理

ア 予測対象時期

予測対象時期は工事期間全体とした。

イ 予測項目

予測項目は、工事による残土及び伐採樹木の発生量とその処理方法とした。

ウ 予測方法

a 予測地域

予測地域は対象事業実施区域とした。

b 予測方法

予測は、工事計画をもとに、廃棄物の種類ごとの発生量とその処理及び再利用の状況を整理する手法とした。

c 予測条件

① 発生材木量

工事による伐採区域は図3.7-1に示すとおりである。伐採面積は41,351m^2、樹種はほとんどがコナラである。また、胸高直径は20cm、伐採樹木の樹高は16mとした。伐採樹木量の算出は、表3.7-1に示すとおり、樹種を広葉樹として算出した。伐採樹木は一部をチップ化し、場内の緑化基盤材として再利用し、残りは場外へ搬出し、再資源化する計画である。

表 3.7-1 発生木材量

樹種	区分	伐採面積 (m^2)	単位本数 (本/100m^2)	材積 (m^3/本)	単位重量 (m^3/t)	発生木材量 (t)
広葉樹	伐採	41,351	15	0.23	0.55	785
	除根			0.11		380
計						1,165

備考 伐採の単位重量は、「立木幹材積表 西日本編」(1970年 林野庁計画課)による。
単位重量は、「廃棄物処理法に基づく電子マニュフェスト 産業廃棄物の種類ごとの集計単位と重量換算係数 ver.1.5」((公財)日本産業廃棄物処理振興センター)による。
https://www.jwnet.or.jp/jwnet/index.html (2022年1月12日参照)
単位本数は、伐採予定地において方形区(15m×15m)を設定して調査し、想定したものである。

② 残土

造成計画による土工計画は表3.7-2に示すとおりであり、残土が518,000m^{3}発生する。

表 3.7-2 造成計画による土工量

改変面積(ha)		土工量(m^3)		残土量(m^3)
切土面積	盛土面積	切土量	盛土量	
7.08	1.87	572,000	54,000	518,000

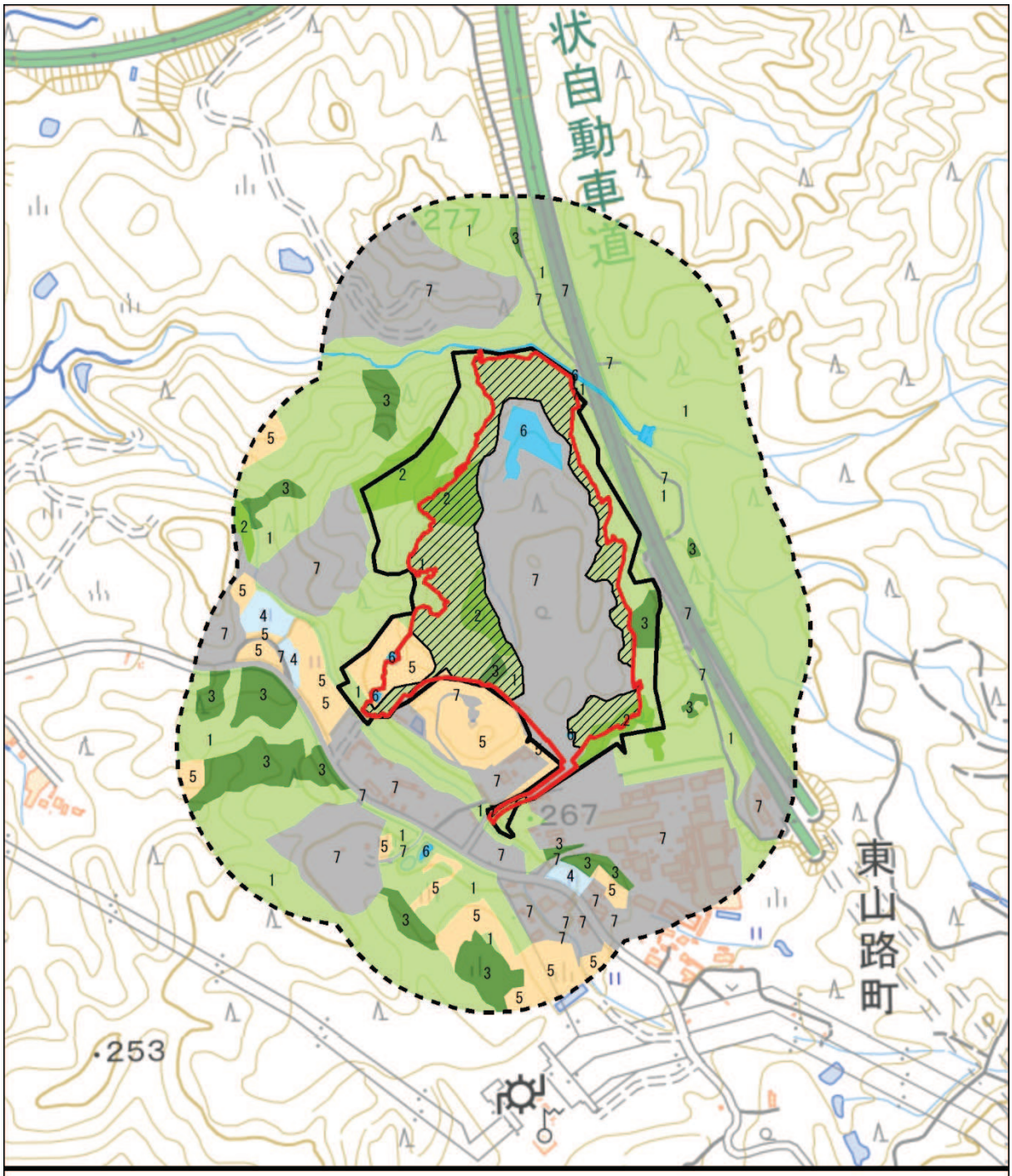

状自動車道
東山路町
277
267
253
凡例
対象事業実施区域
改変区域
対象事業実施区域から200m
伐採区域
1 落葉広葉樹林
2 常緑広葉樹林
3 常緑針葉樹林
4 湿性草地
5 乾性草地
6 水域
7 市街地
N
1:8,000
0
100
200
400 m

図3.7-1　伐採区域図

エ　予測結果

伐採樹木は、伐採面積41,351m^2、発生樹木量1,165tである。伐採樹木は一部をチップ化し、場内の緑化基盤として再利用する。また、残った伐採樹木は場外へ搬出し、再資源化する計画である。

残土は、518,000m^{3}発生するが、場外に搬出し適切に処理する計画である。

(3)　影響の分析

1)　廃棄物の発生・処理

ア　影響の分析方法

予測結果を踏まえ、工事による残土、伐採樹木の処理の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、工事による残土、伐採樹木の処理が、表3.7-3に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.7-3　整合を図る基準（廃棄物の発生・処理）

・「第3次瀬戸市環境基本計画」（令和3年3月　瀬戸市）に基づく“資源循環型まちづくりの推進” 〇3Rの推進 〇ごみの適正処理の推進 〇産業廃棄物、不法投棄対策の推進

イ　影響の分析結果

環境保全措置として、伐採樹木の場内の緑化基盤としての再利用等の再資源化、残土の適切な処理により、工事により発生する廃棄物の処理は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、工事により発生する廃棄物の処理は、伐採樹木の再資源化等により、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.8 景観

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

調査範囲は地域特性を把握すべき範囲として3km程度を目安とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.8-1に示すとおりである。

表 3.8-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
景観資源の状況	・自然景観の特性及び構成要素 ・歴史的・文化的景観の特性及び構成要素の状況等 ・都市景観の特性及び構成要素の状況等
主要な眺望景観の状況	・主要な眺望点の位置及び分布状況 ・主要な眺望点の眺望領域 ・主要な眺望点における眺望景観の状況

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査範囲は、図3.8-1に示すとおり、3km程度を目安とした。

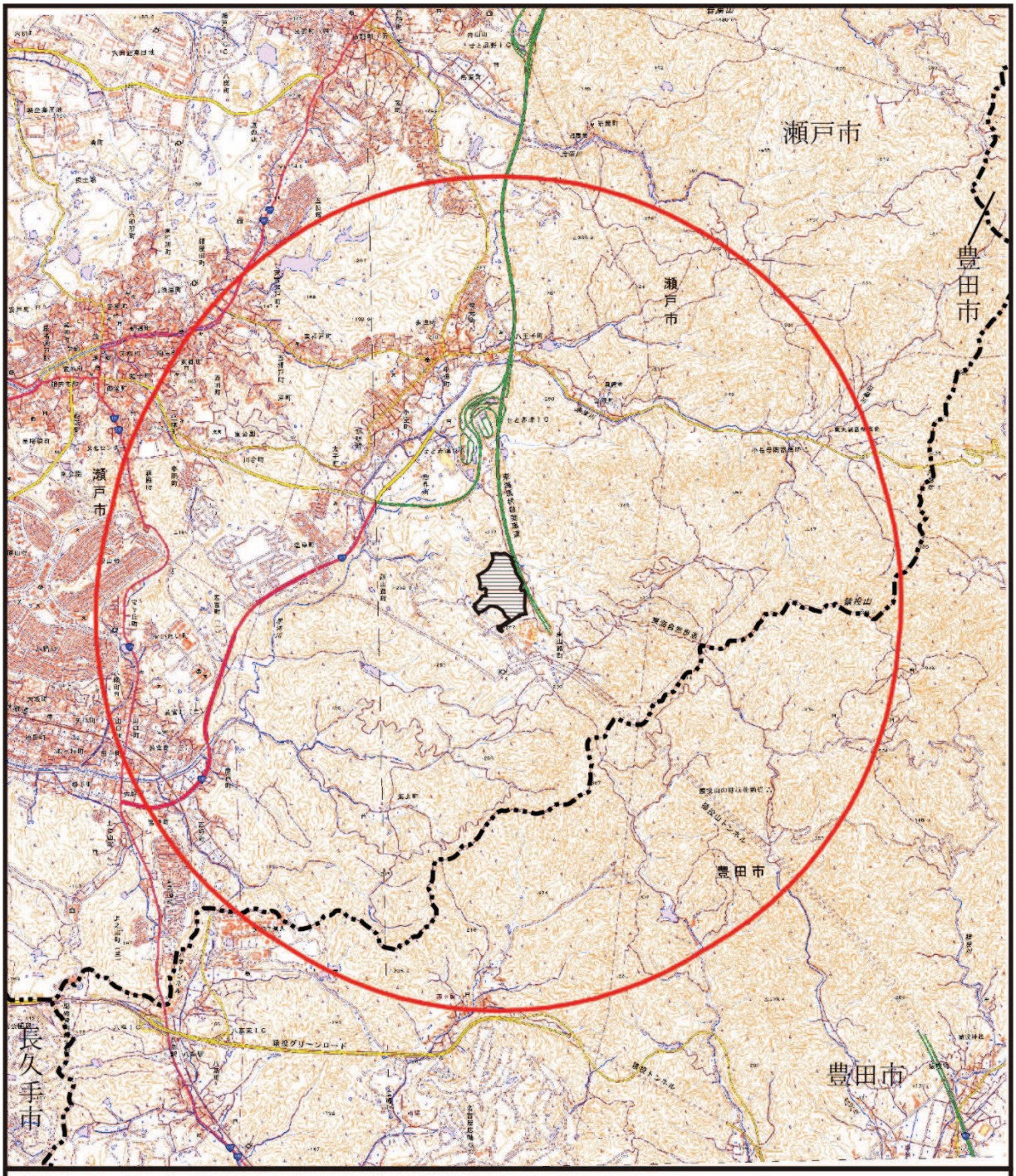
調査地点は、図3.8-1の調査範囲において、不特定多数の人の利用頻度や滞留度が高い場所等の代表的な地点から設定した。

イ 調査時期

現地調査期間は、表3.8-2に示すとおり、2回実施した。

表 3.8-2 調査期間等

調査項目		調査期間等
景観資源の状況	自然景観の特性及び構成要素 歴史的・文化的景観の特性及び構成要素の状況等 都市景観の特性及び構成要素の状況等	現地踏査及び既存資料の整理とした。
主要な眺望景観の状況	主要な眺望点の位置及び分布状況 主要な眺望点の眺望領域 主要な眺望点における眺望景観の状況	
景観資源、眺望点からの景観	対象事業実施区域が視認される可能性のある景観資源、眺望点における景観の状況	2021年2月19日（落葉期） 2021年8月20日（展葉期）



凡　例

：市町村界

：事業実施区域

：景観調査範囲

図3.8-1　景観の調査範囲

ウ　調査方法

調査方法は、表3.8-3に示すとおりである。

表 3.8-3　調査方法

調査項目		調査方法
景観資源の状況	自然景観の特性及び構成要素 歴史的・文化的景観の特性及び構成要素の状況等 都市景観の特性及び構成要素の状況等	現地踏査及び既存資料の整理とした。
主要な眺望景観の状況	主要な眺望点の位置及び分布状況 主要な眺望点の眺望領域 主要な眺望点における眺望景観の状況	
景観資源、眺望点の景観	対象事業実施区域が視認される可能性のある景観資源、眺望点における景観の状況	メッシュ標高データ※を用いた数値地形モデルによるコンピュータ解析を行い、対象事業実施区域が視認される可能性のある領域を可視領域として設定し、可視領域内にある眺望点等において、写真撮影を行った。

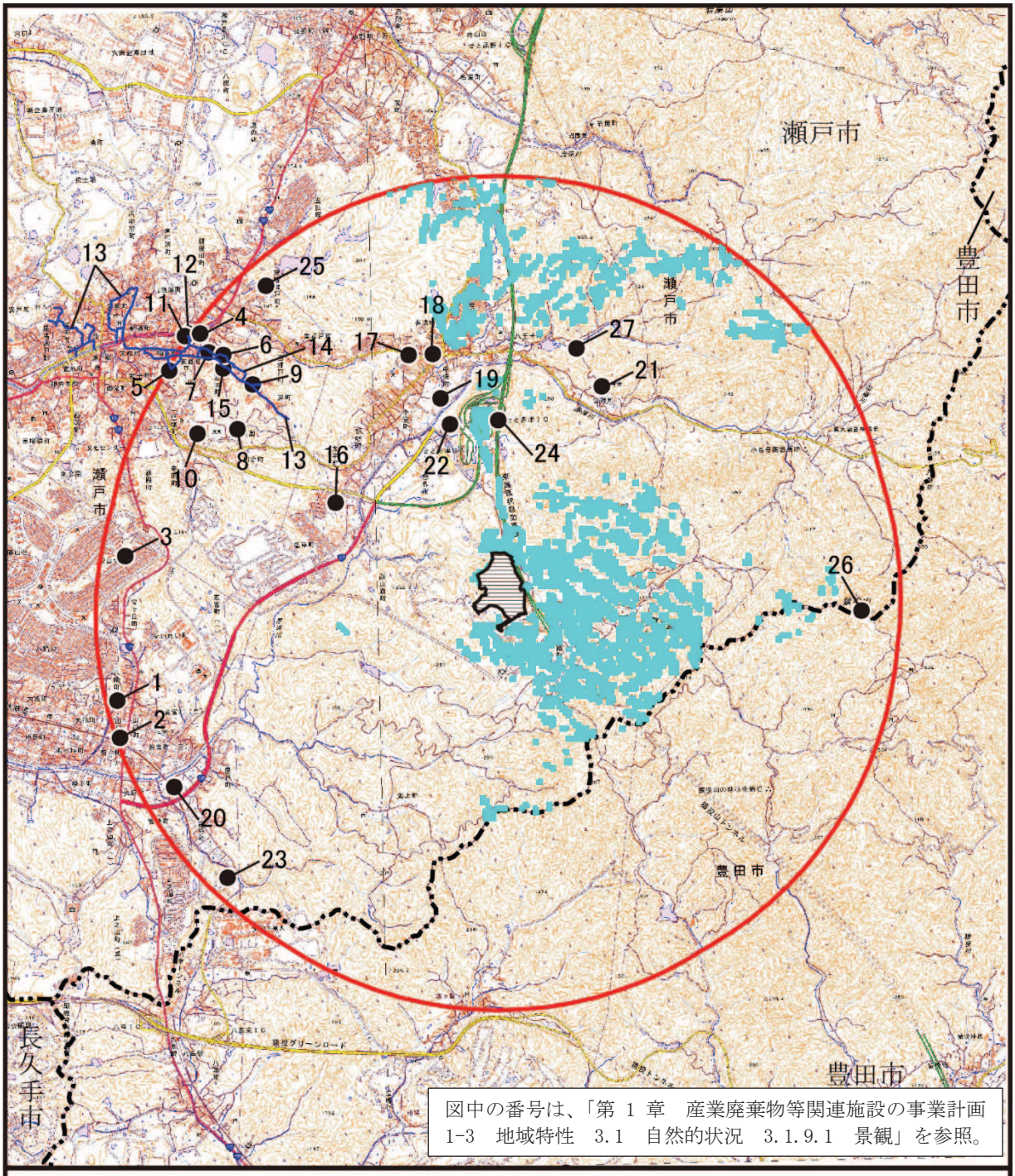
※国土地理院の基盤地図情報（10m標高メッシュ）を用いた。

3)　調査結果

ア　景観資源の状況

対象事業実施区域は、「瀬戸市景観計画」（平成22年、瀬戸市）において、瀬戸市全域を6つのゾーンを設定したうちの“森林里山景観ゾーン”に位置する。対象事業実施区域及びその周辺の景観資源の状況は、「第1章　産業廃棄物等関連施設の事業計画　1-3　地域特性　3.1　自然的状況　3.1.9.1　景観」に示したとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺の景観資源の状況における可視領域は、図3.8-2に示すとおりである。せと赤津IC（図中番号24）から対象事業実施区域を望める可能性があるが、現地踏査では、せと赤津PA（外回り）内の樹木、対象事業実施区域北側の丘陵に遮られ、対象事業実施区域を望むことはできない。



出典：「瀬戸市景観計画　～豊かな自然とやきものの魅力を活かしたまち～」（平成22年10月、瀬戸市）

図3.8-2　景観資源の分布状況（再掲）



落葉期(2021年2月19日撮影)



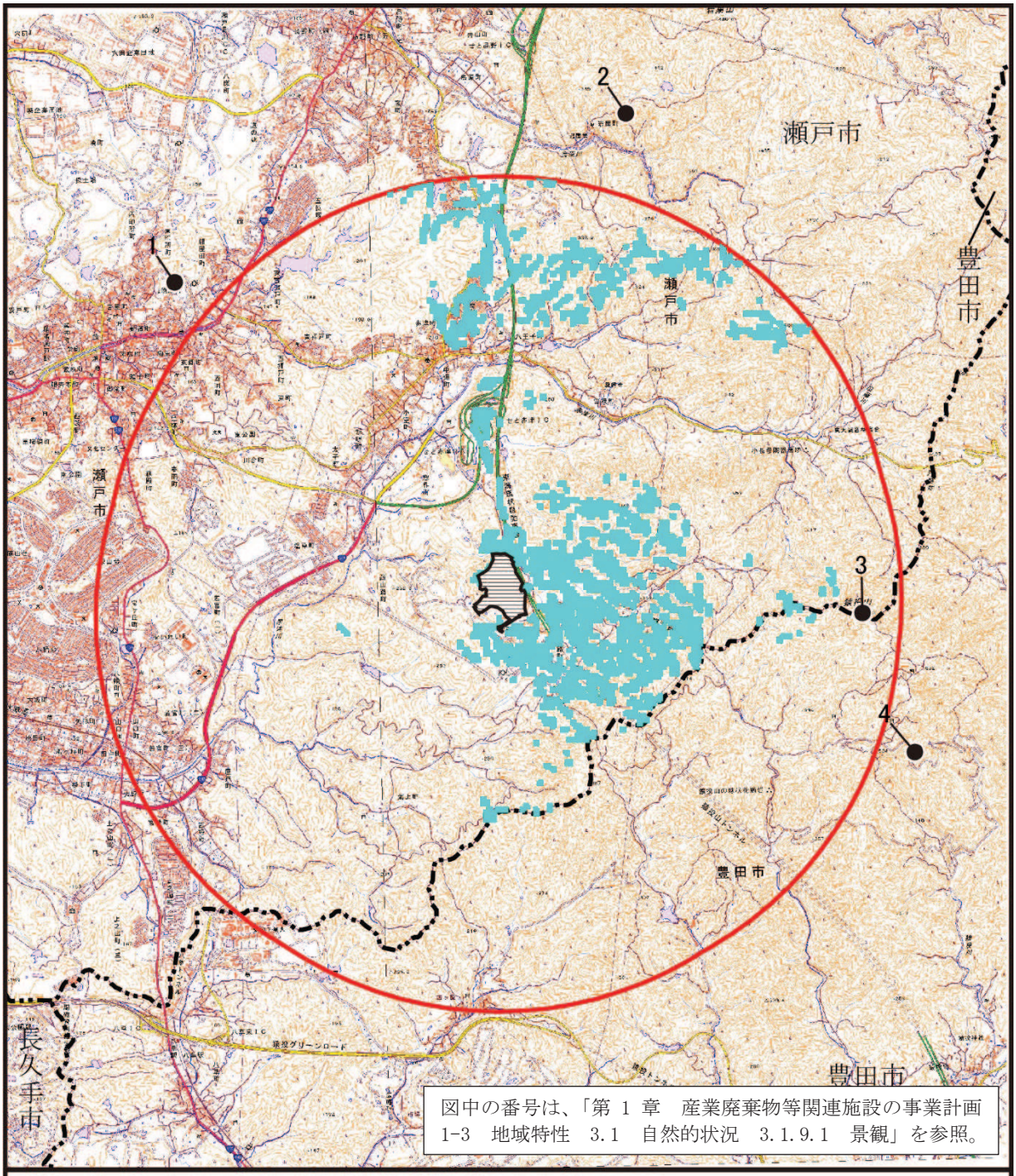
展葉期(2021年8月20日)

写真　せと赤津 IC（せと赤津 PA 外回り）から対象事業実施区域方向を望む

イ　主要な眺望景観の状況

対象事業実施区域及びその周辺の主要な眺望点の状況は、「第1章　産業廃棄物等関連施設の事業計画　1-3　地域特性　3.1　自然的状況　3.1.9.1　景観」に示したとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺の主要な眺望点の状況における可視領域は、図3.8-3に示すとおりであり、対象事業実施区域を望める可能性がある眺望点はない。



凡　例

：市町村界

：可視領域

：事業実施区域

：景観調査範囲

：主要な眺望点

出典1)「せと・まるっとミュージアム」（令和3年6月閲覧、瀬戸市観光情報公式サイト）
2)「AichiNow」（令和3年6月閲覧、愛知県公式観光ガイド）
3)「ツーリズムとよた」（令和3年6月閲覧、豊田市公式観光サイト）

図3.8-3　主要な眺望点の分布状況（再掲）

(3) 環境保全措置

1) 最終処分場の存在

・樹木の伐採は最小限にとどめる。

・浸出水処理施設及びネットフェンスについては周辺との調和した色とする。

・埋立完了面に在来種等による緑化を行い、周辺環境との調和を図る。

(4) 予測

1) 最終処分場の存在

ア 予測対象時期

予測対象時期は、景観への影響が一番大きくなる時期をとらえるため、工事が完了した時期とする。

イ 予測項目

予測項目は、最終処分場の存在による周辺からの眺望の変化とした。

ウ 予測方法

予測は、事業計画より定性的に予測する。

エ 予測結果

対象事業実施区域は、周辺の主要な眺望点から望むことができない。

本事業では、樹林の伐採は最小限にとどめる。また、浸出液水理施設及びネットフェンスについては周辺との調和した色とし、埋立完了面に在来種等による緑化を行い、周辺環境との調和を図る計画であることから、周囲の自然景観と調和したものとなると考えられる。

(5) 影響の分析

1) 最終処分場の存在

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による景観の影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、最終処分場の存在が、表3.7-3に示す基準等と整合が図られているかを判断する。

表3.8-4 整合を図る基準（最終処分場の存在）

・「瀬戸市景観計画」（平成22年10月 瀬戸市）による“森林里山景観ゾーン”の景観形成の基本方針 〇周囲の自然景観と調和した緑を復元する 〇工業系土地利用においては、敷地内緑化や自然景観との調和を図る

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、樹林の伐採は最小限にとどめること等より、最終処分場の存在による景観の影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

また、最終処分場の存在による景観の影響は、緑化計画、埋立完了面の緑化等により、上記の基準と整合が図られているものと評価する。

3.9 防災

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.9-1に示すとおりである。

表 3.9-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
地震災害対策の状況	地域防災計画
風水害対策の状況	地域防災計画
防災施設等の状況	砂防堰堤等、避難場所
施設の計画の状況	工事中及び供用時の災害防止対策

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査範囲は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

施設の計画の状況については、対象事業実施区域内とした。

イ 調査時期

調査時期は表3.9-2に示すとおりである。

既存資料は最新のデータを収集した。

表 3.9-2 調査期間等

調査項目		調査期間等
地震災害対策の状況	地域防災計画	既存資料は最新のデータを収集した。 現地踏査：2020年11月24日～11月25日
風水害対策の状況	地域防災計画	
防災施設等の状況	砂防堰堤等、避難場所	
施設の計画の状況	工事中及び供用時の災害防止対策	

ウ 調査方法

調査方法は、表3.9-3に示すとおりである。

表 3.9-3 調査方法

調査項目		調査方法
地震災害対策の状況	地域防災計画	現地踏査及び既存資料の整理とした。
風水害対策の状況	地域防災計画	
防災施設等の状況	砂防堰堤等、避難場所	
施設の計画の状況	工事中及び供用時の災害防止対策	事業計画を取りまとめた。

3)　調査結果

ア　地震災害対策、風水害対策及び防災施設等の状況

地震災害対策、風水害対策及び防災施設等の状況は、「瀬戸市防災地区カルテ（平成26年度）」（瀬戸市）により整理した。

a　地震災害対策の状況

対象事業実施区域及びその周辺の地震災害の状況は、「第1章　産業廃棄物等関連施設の事業計画　1-3　地域特性　3.2　社会的状況　3.2.8.8　その他の関係法令に基づく指定状況」に示したとおりである。

南海トラフを震源とした巨大地震を想定した地震災害の分析では、対象事業実施区域がある山路町周辺は、液状化危険度が“ほぼない”、建物倒壊危険度が“低い～ほぼない”とされている。緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されているが、距離が離れており、また、土砂災害による道路閉塞の可能性もあるとされている。

b　風水害対策の状況

対象事業実施区域及びその周辺の風水害の状況は、「第1章　産業廃棄物等関連施設の事業計画　1-3　地域特性　3.2　社会的状況　3.2.8.8　その他の関係法令に基づく指定状況」に示したとおりである。

対象事業実施区域及びその周辺は砂防指定地に指定されている。

対象事業実施区域がある山路町周辺は、浸水想定区域は設定されていないが、対象事業実施区域の南に位置する東山路町では東海豪雨時（2000年9月11～12日）に浸水被害が発生している。また、対象事業実施区域周辺には、土砂災害の危険が高い地域である土砂災害特別警戒区域等があり、対象事業実施区域の一部(北側出入口付近)が、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されているが、距離が離れているため、早めの避難を促すなど、風水害時の避難体制の検討が必要であるとされている。

c　防災施設等の状況

対象事業実施区域の雨水等が流入する東山路川及び山路川には、赤津川合流地点まで、砂防堰堤等の防災施設はない。

対象事業実施区域がある山路町周辺の緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されている。

イ　施設の計画の状況

工事にあたっては、防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。防災調整池の規模等は、「林地開発許可申請にあたって」（愛知県森林保全課）に準拠する。

処分場形式は、谷沢型とし、貯留構造物タイプは堰止めタイプの盛土ダム形式に準拠して設計する。処分場内部の法面勾配は「1：2.0」とする。

(3) 環境保全措置

1) 盛土・掘削等の土工

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。

・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。

・雨季は大規模な土工事を回避する。

・地質調査の結果から、適正な造成勾配・支持力を確保する。工事中に基盤支持力の確認を行う。

・切土部の施工時には、地質調査で把握している地質との整合を確認する。

2) 最終処分場の存在

ア 地震に対する災害防止計画

・埋立法面については、処分場外周断面を含めて「道路土工 盛土工指針」に準拠し、大規模地震対応として安定計算を行い、所定の安全率を確保する。

・震度4以上の地震発生後はすべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修，補強等の対応を行う。

イ 洪水に関する災害防止計画

・各基準により、浸出水処理能力及び調整容量については過去15年間の降雨、雨水排水施設については10年確率降雨、洪水調整池については30年確率降雨に対応できる安全な規模の施設を設置する。

・雨水排水は、常に清掃を行い雨水が円滑に流下できるように管理を行う。工事で造成した法面については、即時に緑化を行う。洪水調整池の排砂は、定期的に管理を行い常に充分な調整能力を維持する。

・埋立完了部法面は、随時緑化を行うとともに小段に排水工を設置する。また、埋立完了平面部は、随時排水工を設置して表流水排除を行う事で、浸出水量の削減を図る。

・洪水災害発生後は、すべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修、補強等の対応を行う。

(4) 予測

1) 盛土・掘削等の土工

ア 予測対象時期

予測対象時期は、盛土・掘削等の工事による土工量が多くなる時期とした。

イ 予測項目

予測項目は、盛土・掘削等の工事による土地の安定性とした。

ウ 予測方法

予測方法は、工事計画及び環境保全措置により定性的に予測する。

エ 予測結果

本事業では、工事にあたり、以下のような環境保全措置を実施することから、土地の安定性が損なわれることにより、災害が起きる可能性は小さいものと予測される。

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。
・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。
・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。
・雨季は大規模な土工事を回避する。
・地質調査の結果から、適正な造成勾配・支持力を確保する。工事中に基盤支持力の確認を行う。
・切土部の施工時には、地質調査で把握している地質との整合を確認する。

2)　最終処分場の存在

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が完成直後から埋立終了時とする。

イ　予測項目

最終処分場の存在による土地の安定性について、法面の安定性について予測する。

ウ　予測方法

構造物及び基礎のすべり破壊に対する安定性は、円弧すべり面についてスライス法により予測した。

a　予測地点

予測断面位置は図3.9-1に示すとおりである。

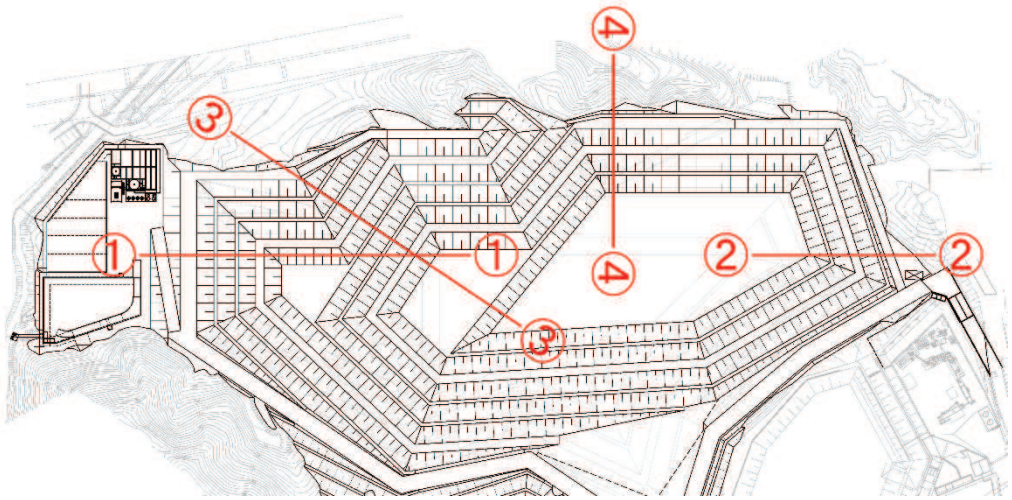


図 3.9-1　予測断面位置

b　予測方法

安定計算式は次に示すとおりである。

$$n = \frac{\Sigma \{cL+(N-U-Ne)\tan\phi\}}{\Sigma(T+Te)}$$

ここに、

N　：各スライスのすべり面上に働く荷重の垂直分力(kN)、N＝Wcos θ

T　：各スライスのすべり面上に働く荷重の接線分力(kN)、T＝Wsin θ

U　：各スライスのすべり面上に働く間隙水圧(kN)、U＝uL

Ne　：各スライスのすべり面上に働く地震時慣性力の垂直分力(kN)、Ne＝kWsin θ

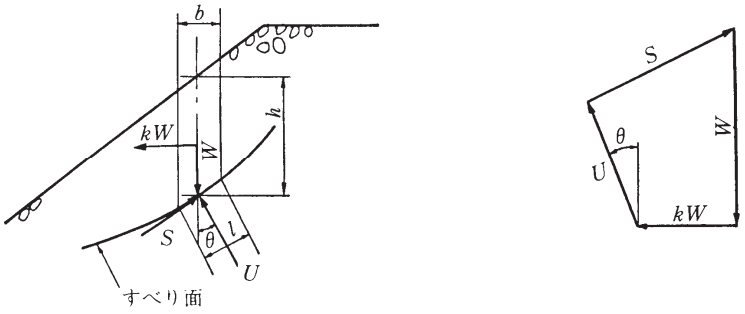
Te　：各スライスのすべり面上に働く地震時慣性力の接線分力(kN)、Te＝kWcos θ

ϕ　：各スライスのすべり面における材料の内部摩擦角(度)

c　：各スライスのすべり面における材料の粘着力(kN/m2)

L　：各スライスのすべり面の長さ(m)

k　：設計震度



（「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」P217-P218 より）

図 3.9-2　スライス法による荷重

c　予測条件

①　造成形状

造成工事完成形状とする。

②　埋立条件

埋立区画について「完成直後・空虚時」と廃棄物の「埋立中」「埋立終了(最終埋立高)」を条件として設定する。

なお、縦断方向(上流側埋立法面)及び埋立法面最大断面のケースについては貯留構造物がないことから埋立終了での検討のみとする。

③　震度

「常時」・「地震時」・「洪水時」について検討する。

設計震度については、「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」より、「強震帯地域の通常の岩盤基礎」とし、その0.15～0.18 の平均である「水平震度：0.165」の値を採用する。

ただし、洪水時においては、埋立終了後は一般に覆土などにより表流水を排除するため埋立終了後の洪水時に地震に遭遇する確率は低いものと考えられることから、設計震度は50%とすることから、洪水時は「水平震度(洪水時)：0.083(=0.165/2)」とする。

④　すべり面

堤体・造成法面を含む埋立面全体の安定性を検討するため、各々に適切な円弧すべり面を設定する。断面モデルは図3.9-3に示すとおりである。

⑤　水位

地下水位は、ボーリングデータより中硬岩と軟岩の境目にあるものとして設定する。

⑥　廃棄物の法面勾配

廃棄物の埋立法面勾配は、「1:2.0」を設定する。

⑦　荷重の組み合わせ

貯留構造物の安定は、表3.9-4に示す4種類とした。

表 3.9-4　荷重の組み合わせ

ケース	設定
ケース 1 完成直後・空虚時	構造物完成直後または埋立中であるが、構造物上流は廃棄物が埋め立てられておらず空虚な状態である。 最終処分場の場合、貯留構造物直上流が空虚な状態が長期間にわたることも想定されるため、設計震度は100%とする。
ケース2 埋立中・洪水時	埋立中であるが、構造物直上流は廃棄物が埋め立てられておらず、洪水(浸出水)が貯水されている。 洪水(浸出水)水位は、内部貯水の水位で見る考え方もできるが、安定計算では安全側をみて物理的に貯水可能な水位(満水位)とする。 洪水時(内部貯水時)に地震に遭遇する確率は低いものと考えられることから、設計震度は 50%とする。
ケース3 埋立終了・洪水時	埋立が終了し、構造物上流側には廃棄物が埋め立てられている。廃棄物は埋立面まで浸出水で満たされている(飽和状態)。 洪水(浸出水)水位は、内部貯水の水位で見る考え方もできるが、安定計算では安全側をみて物理的に貯水可能な水位(満水位)とする。 埋立終了後は、一般に覆土などにより表流水を排除するため、埋立終了後の洪水時に地震に遭遇する確率は低いものと考えられることから、設計震度は 50%とする。
ケース4 埋立終了・地震時	埋立が終了し、構造物上流側には廃棄物が埋め立てられている。 跡地利用計画が定まっており、跡地利用にあたって、盛土などの再造成が計画されている場合は、その形状での確認も必要である。設計震度は 100%とする。

出典：「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」

⑧　必要安全率

盛土および切土の土構造物の斜面安定の考えは、「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」、必要安全率は常時および地震時ともにFa＝1.2とする。

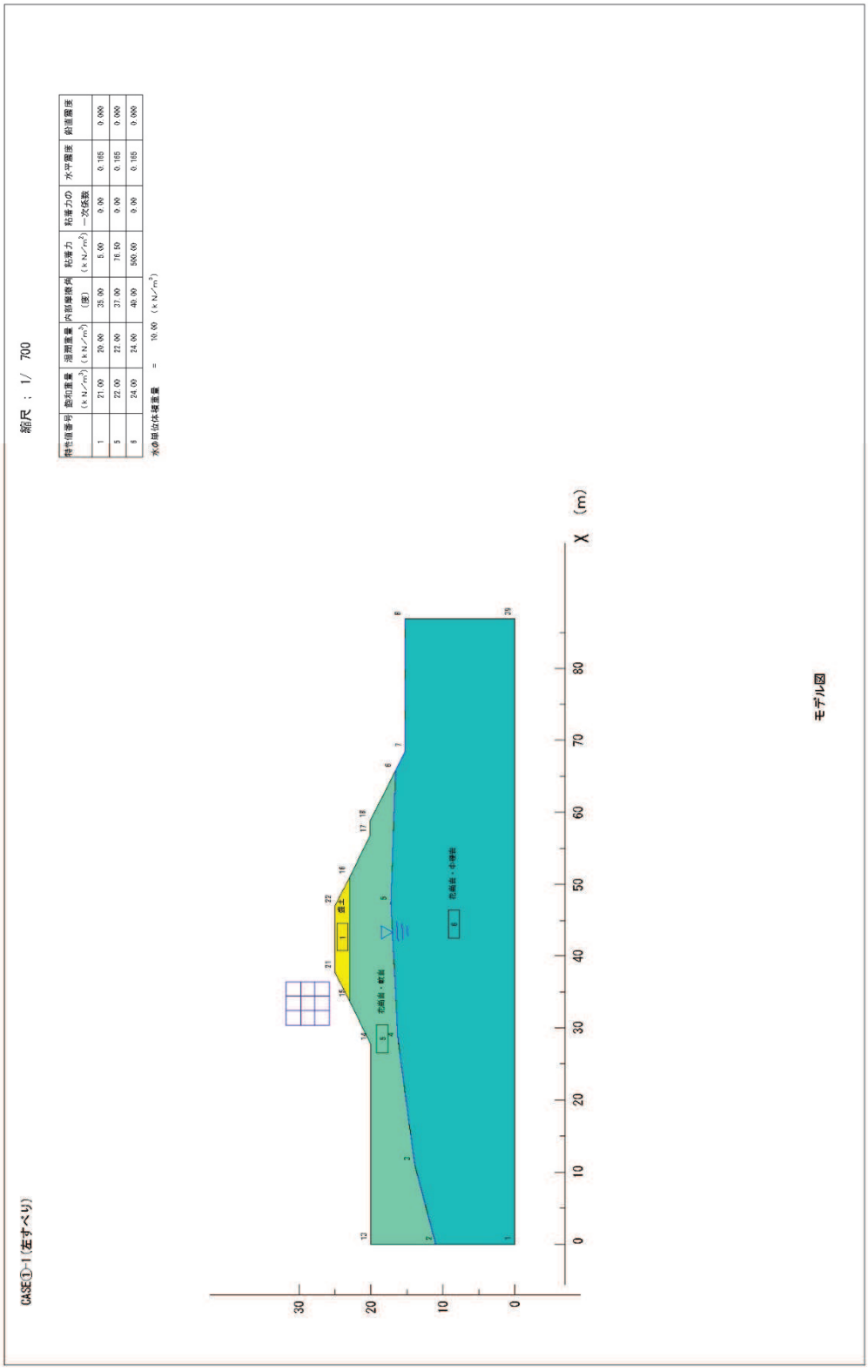

CASE①-1(左すべり)
縮尺 : 1/ 700
特性値番号 飽和重量 (kN/m³) 湿潤重量 (kN/m³) 内部摩擦角 (度) 粘着力 (kN/m²) 粘着力の一次係数 水平震度 鉛直震度
1 21.00 20.00 25.00 5.00 0.00 0.165 0.000
5 22.00 22.00 37.00 78.80 0.00 0.165 0.000
6 24.00 24.00 40.00 500.00 0.00 0.165 0.000
水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)
盛土
花崗岩・軟岩
花崗岩・中硬岩
X (m)
モデル図

図 3.9-3(1)　断面モデル

CASE①-1(右すべり)
縮尺 : 1/ 700
特性値番号 飽和重量 (kN/m³) 湿潤重量 (kN/m³) 内部摩擦角 (度) 粘着力 (kN/m²) 粘着力の一次係数 水平震度 鉛直震度
1 21.00 20.00 35.00 5.00 0.00 0.165 0.000
5 22.00 22.00 37.00 10.50 0.00 0.165 0.000
6 24.00 24.00 40.00 500.00 0.00 0.165 0.000
水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)
盛土
花崗岩・軟岩
花崗岩・中硬岩
X (m)
モデル図

図 3.9-3(2)　断面モデル

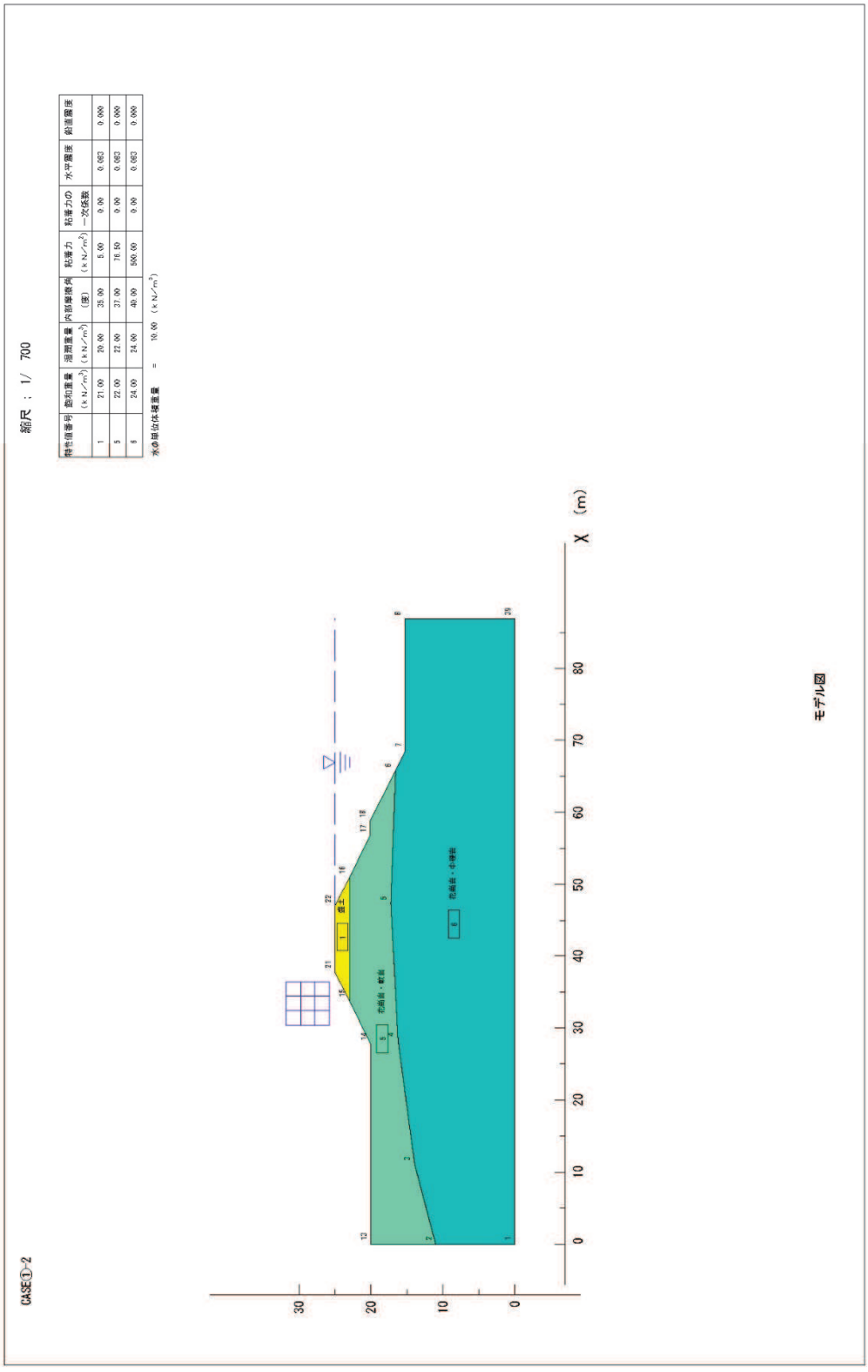

CASE①-2
縮尺 : 1/ 700
特性値番号
飽和重量 (kN/m³)
湿潤重量 (kN/m³)
内部摩擦角 (度)
粘着力 (kN/m²)
粘着力の一次係数
水平震度
鉛直震度
1 21.00 20.00 25.00 5.00 0.00 0.083 0.000
5 22.00 22.00 37.00 10.50 0.00 0.083 0.000
6 24.00 24.00 40.00 500.00 0.00 0.083 0.000
水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)
X (m)
モデル図

図 3.9-3(3)　断面モデル

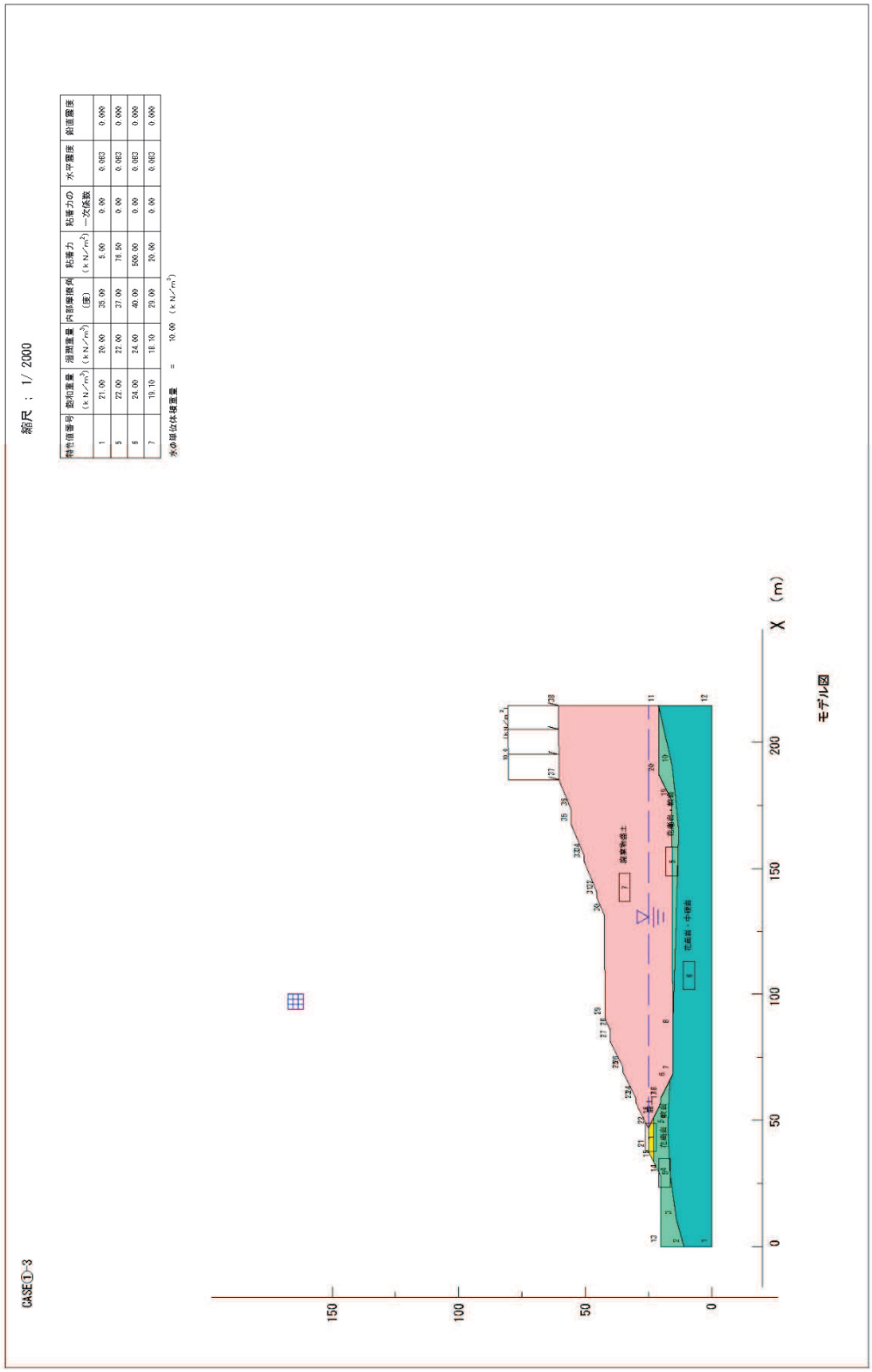


図 3.9-3(4)　断面モデル

特性値番号	飽和重量 (kN/m³)	湿潤重量 (kN/m³)	内部摩擦角 (度)	粘着力 (kN/m²)	粘着力の一次係数	水平震度	鉛直震度
1	21.00	20.00	35.00	5.00	0.00	0.165	0.000
5	22.00	22.00	37.00	10.50	0.00	0.165	0.000
6	24.00	24.00	40.00	500.00	0.00	0.165	0.000
7	19.10	18.10	29.00	20.00	0.00	0.165	0.000

水中単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)

図 3.9-3(5)　断面モデル

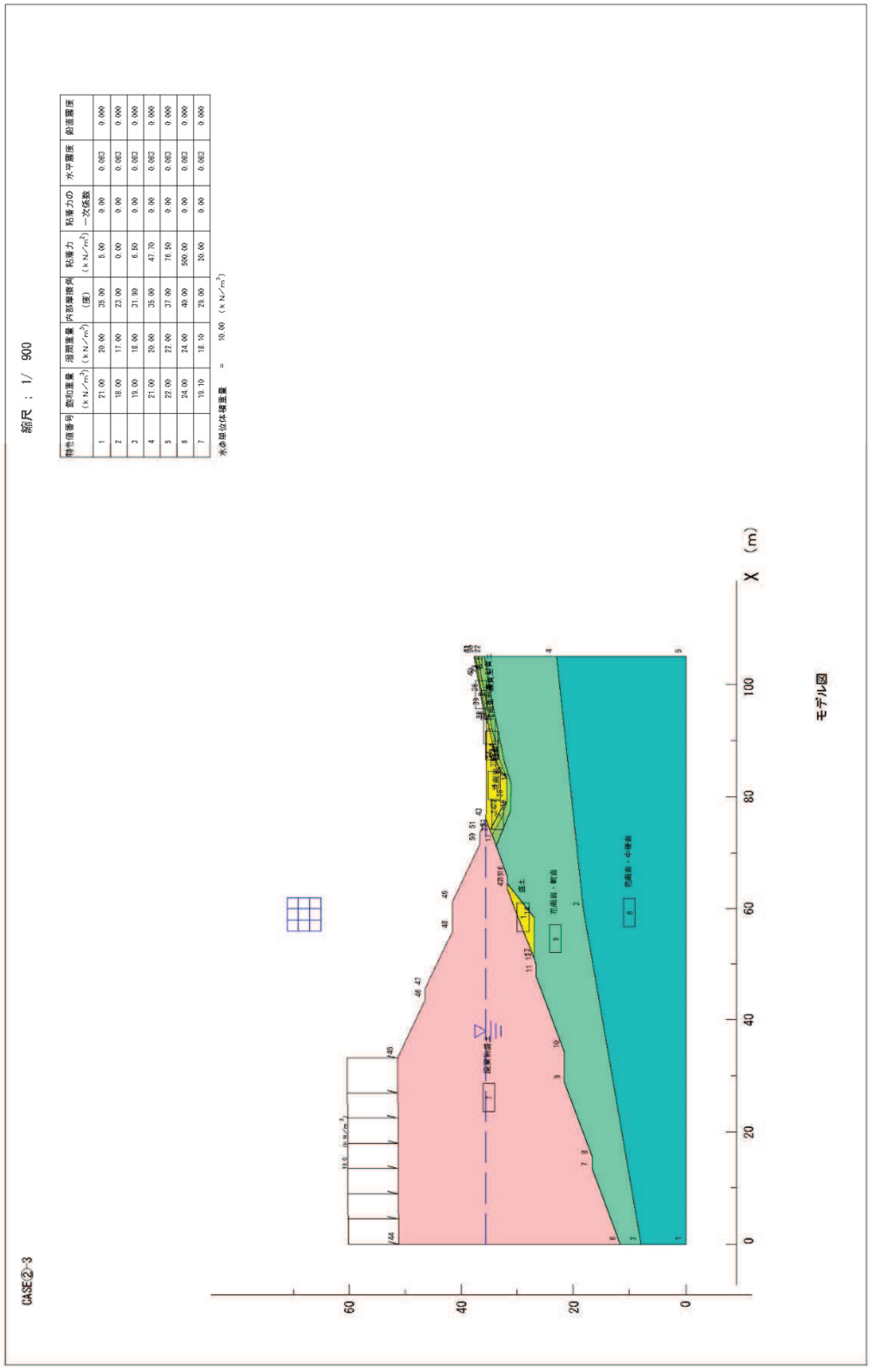
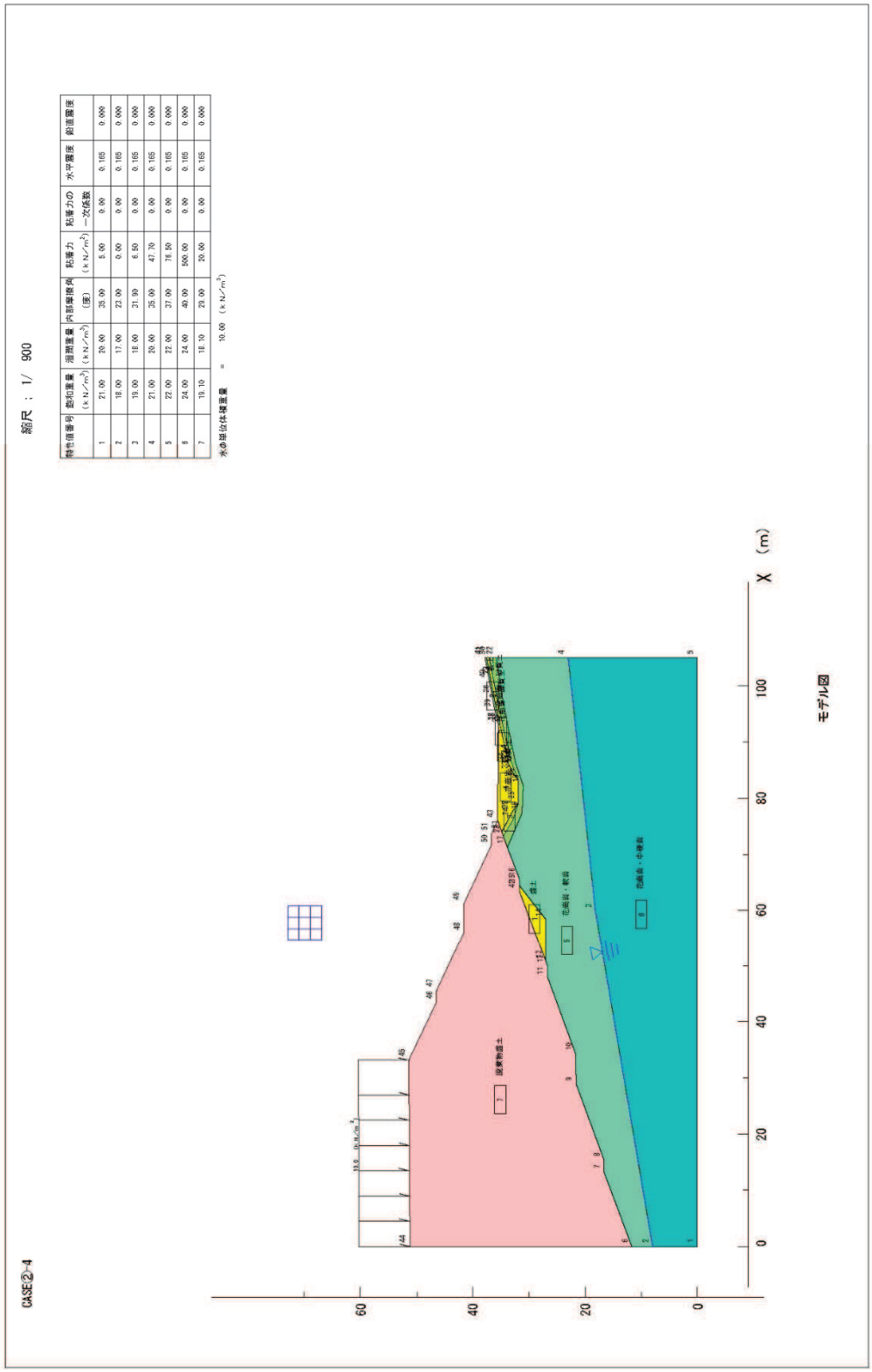

CASE②-3
縮尺 ： 1/ 900
特性値番号 | 飽和重量 (kN/m³) | 湿潤重量 (kN/m³) | 内部摩擦角 (度) | 粘着力 (kN/m²) | 粘着力の一次係数 | 水平震度 | 鉛直震度
1 | 21.00 | 20.00 | 35.00 | 5.00 | 0.00 | 0.063 | 0.000
2 | 18.00 | 17.00 | 23.00 | 0.00 | 0.00 | 0.063 | 0.000
3 | 19.00 | 18.00 | 31.90 | 6.50 | 0.00 | 0.063 | 0.000
4 | 21.00 | 20.00 | 35.00 | 47.70 | 0.00 | 0.063 | 0.000
5 | 22.00 | 22.00 | 37.00 | 76.50 | 0.00 | 0.063 | 0.000
6 | 24.00 | 24.00 | 40.00 | 500.00 | 0.00 | 0.063 | 0.000
7 | 19.10 | 18.10 | 29.00 | 20.00 | 0.00 | 0.063 | 0.000
水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)
X (m)
モデル図

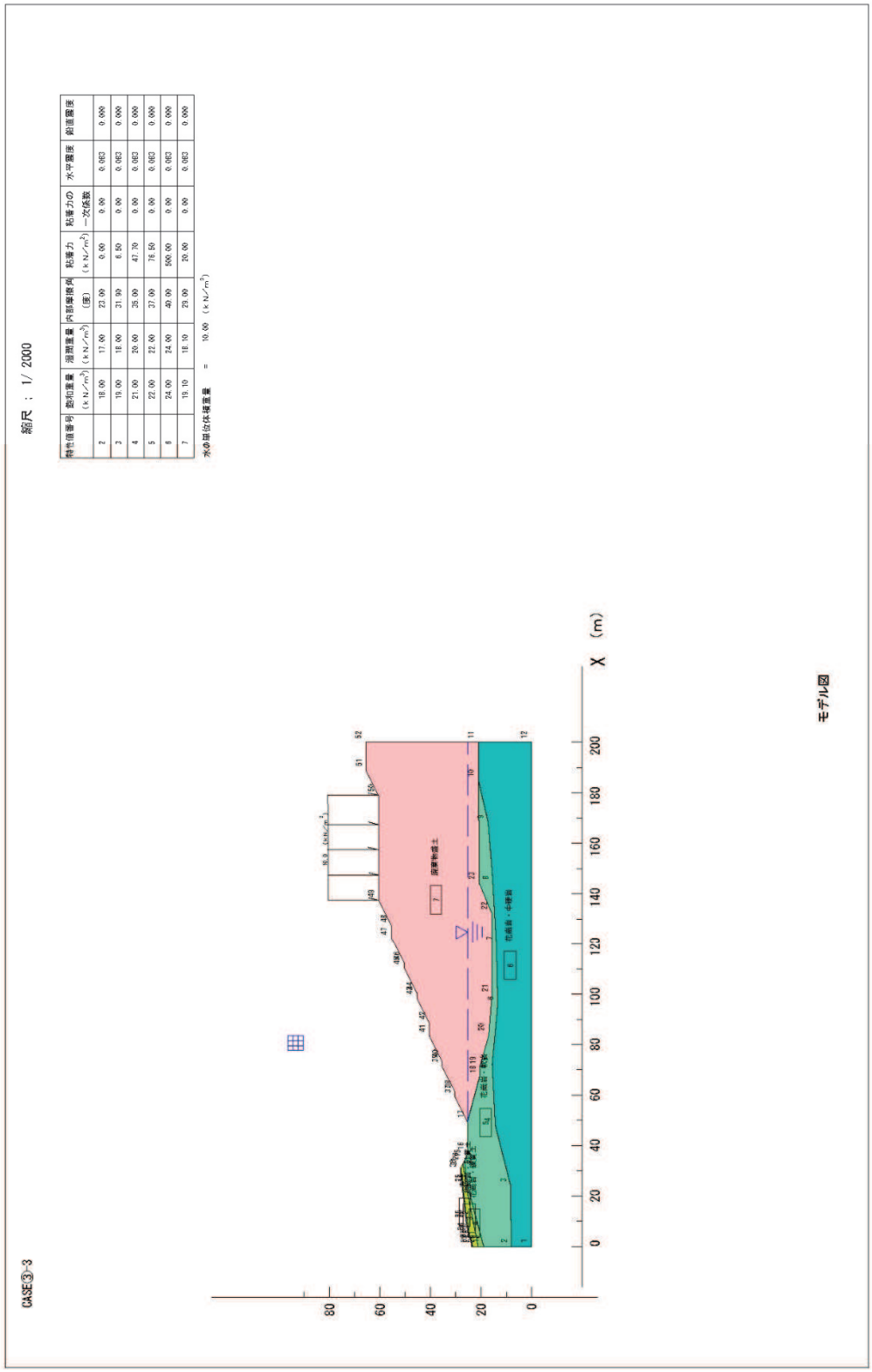
図 3.9-3(6)　断面モデル



特性値番号	飽和重量 (kN/m³)	湿潤重量 (kN/m³)	内部摩擦角 (度)	粘着力 (kN/m²)	粘着力の一次係数	水平震度	鉛直震度
1	21.00	20.00	35.00	5.00	0.00	0.165	0.000
2	18.00	17.00	23.00	0.00	0.00	0.165	0.000
3	19.00	18.00	31.90	6.50	0.00	0.165	0.000
4	21.00	20.00	35.00	47.70	0.00	0.165	0.000
5	22.00	22.00	37.00	76.50	0.00	0.165	0.000
6	24.00	24.00	40.00	500.00	0.00	0.165	0.000
7	19.10	18.10	29.00	20.00	0.00	0.165	0.000

水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)

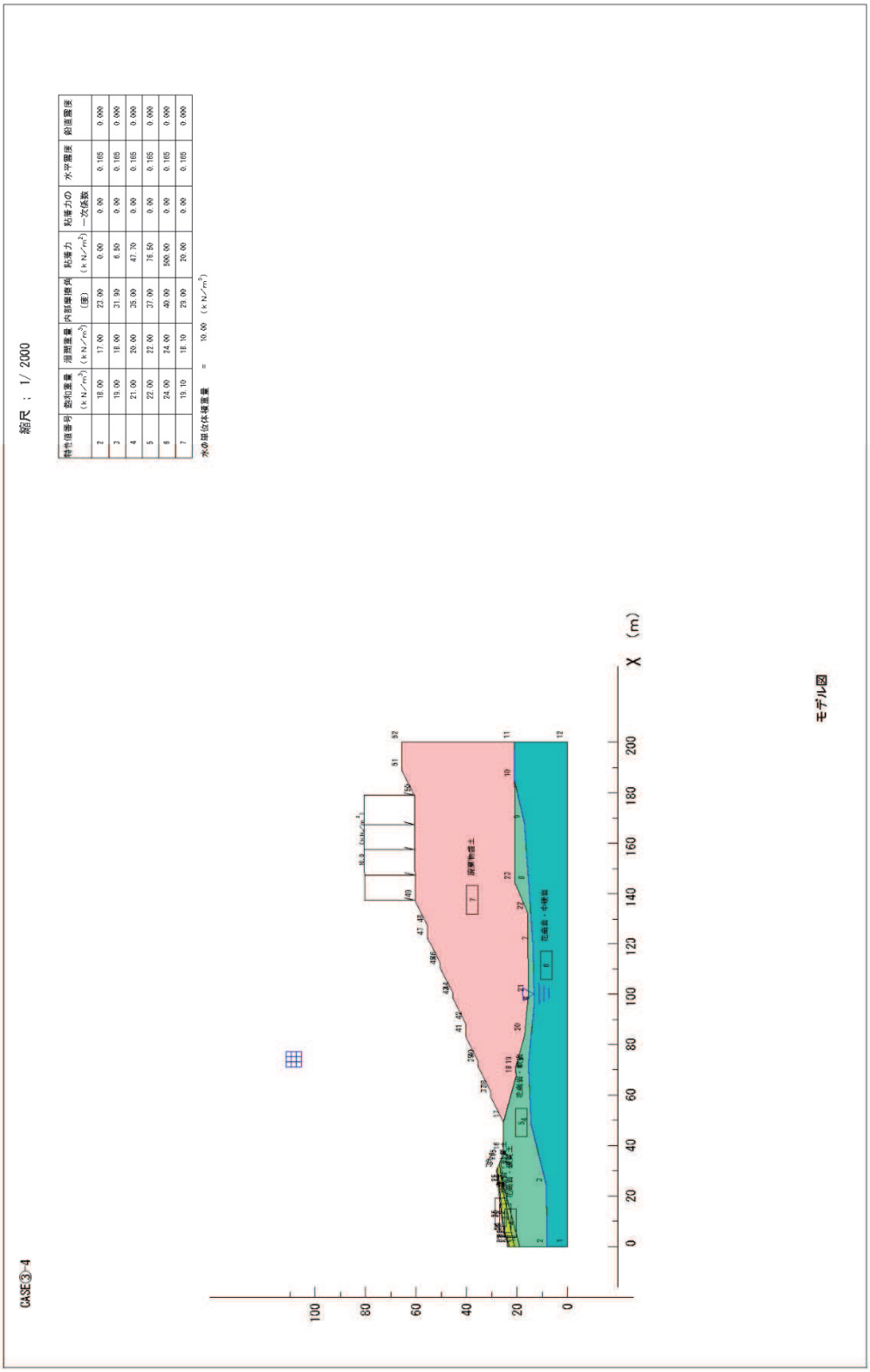
図 3.9-3(7)　断面モデル



特性値番号	飽和重量 (kN/m³)	湿潤重量 (kN/m³)	内部摩擦角 (度)	粘着力 (kN/m²)	粘着力の一次係数	水平震度	鉛直震度
2	18.00	17.00	23.00	0.00	0.00	0.063	0.000
3	19.00	18.00	31.90	6.50	0.00	0.063	0.000
4	21.00	20.00	35.00	47.70	0.00	0.063	0.000
5	22.00	22.00	37.00	76.50	0.00	0.063	0.000
6	24.00	24.00	40.00	500.00	0.00	0.063	0.000
7	19.10	18.10	29.00	20.00	0.00	0.063	0.000

水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)

図 3.9-3(8)　断面モデル



特性値番号	飽和重量 (kN/m³)	湿潤重量 (kN/m³)	内部摩擦角 (度)	粘着力 (kN/m²)	粘着力の一次係数	水平震度	鉛直震度
2	18.00	17.00	23.00	0.00	0.00	0.165	0.000
3	19.00	18.00	31.90	6.50	0.00	0.165	0.000
4	21.00	20.00	35.00	47.70	0.00	0.165	0.000
5	22.00	22.00	37.00	76.50	0.00	0.165	0.000
6	24.00	24.00	40.00	500.00	0.00	0.165	0.000
7	19.10	18.10	29.00	20.00	0.00	0.165	0.000

水の単位体積重量 = 10.00 (kN/m³)

図 3.9-3(9)　断面モデル

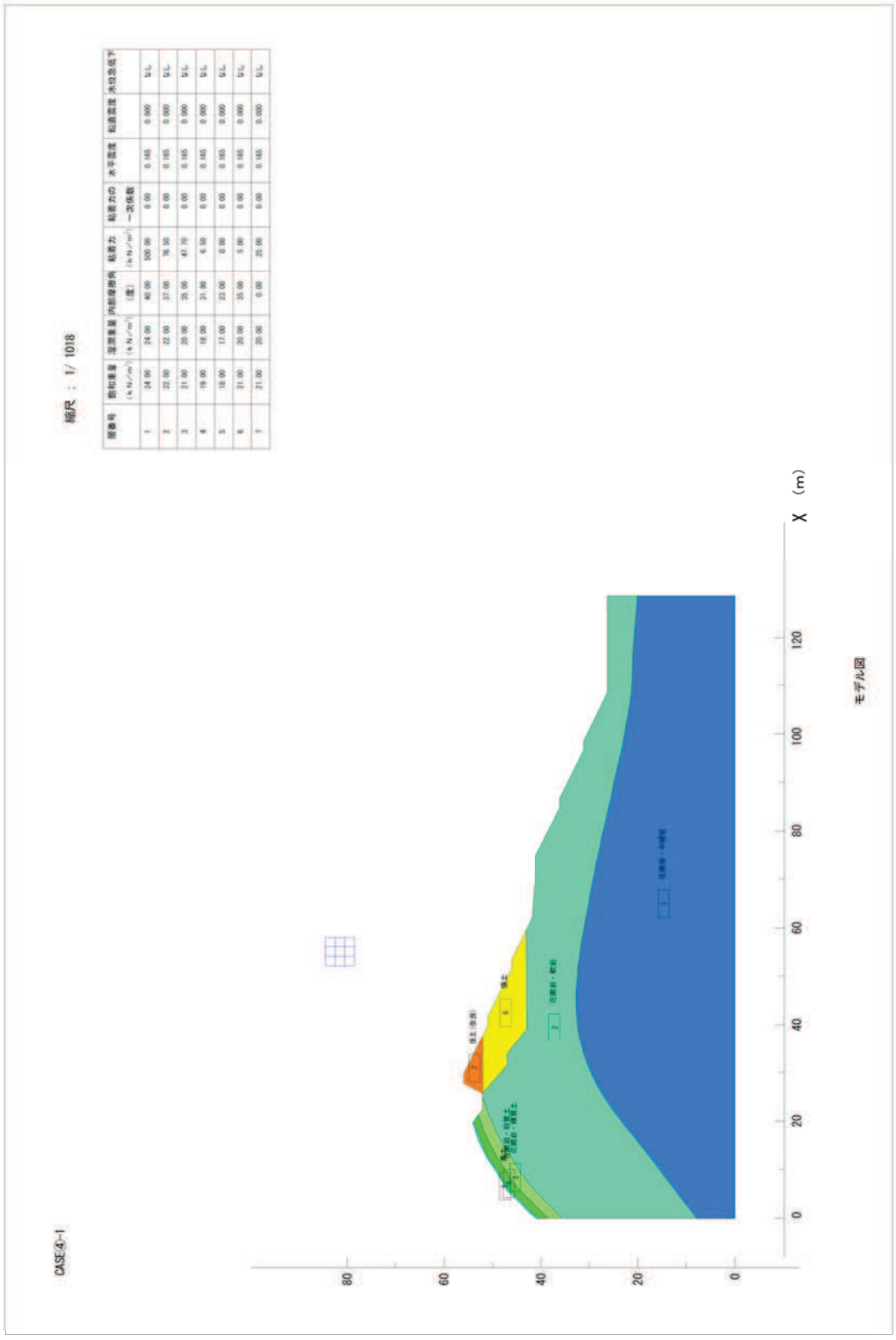


図 3.9-3(10)　断面モデル

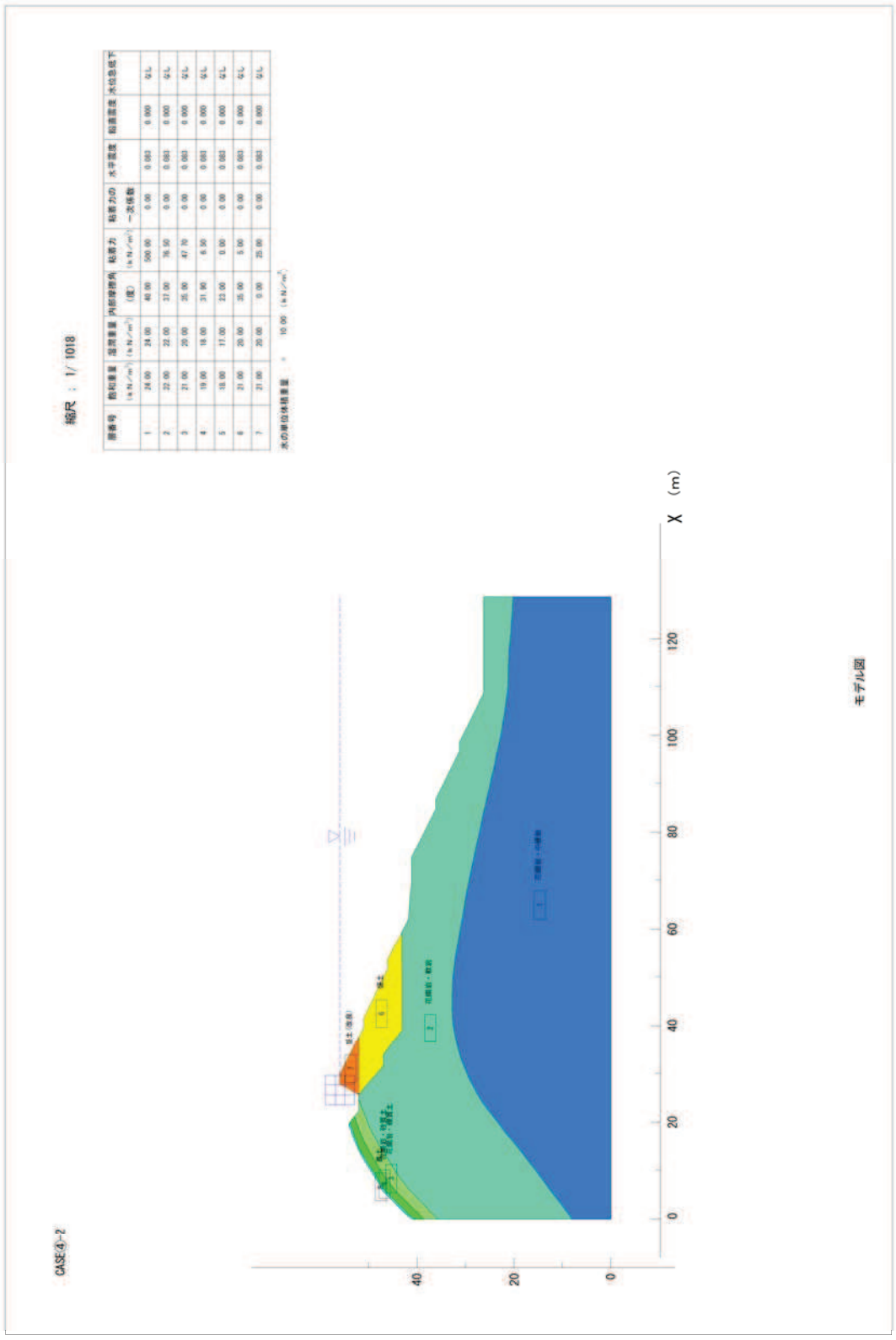


図 3.9-3(11)　断面モデル

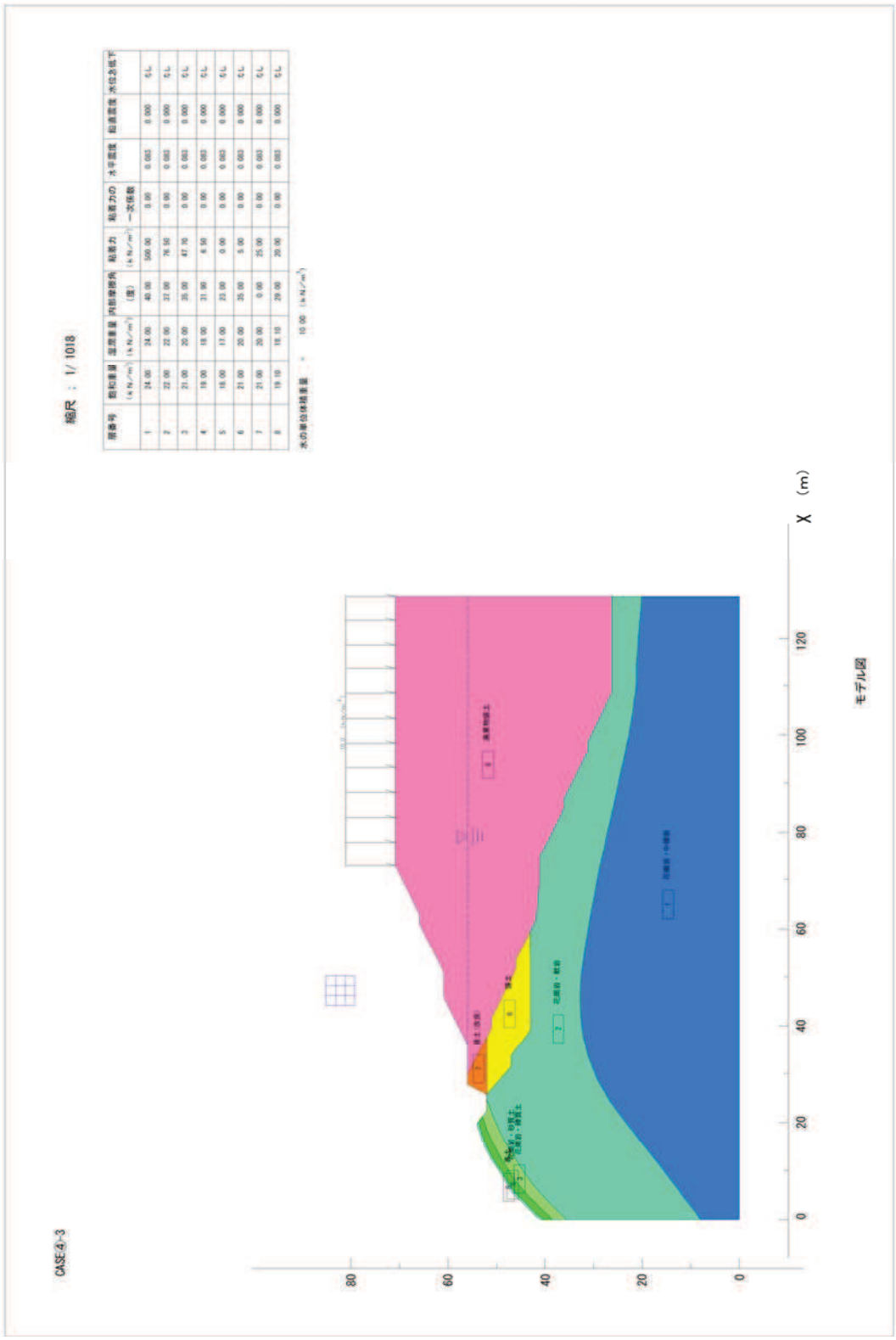


図 3.9-3(12)　断面モデル

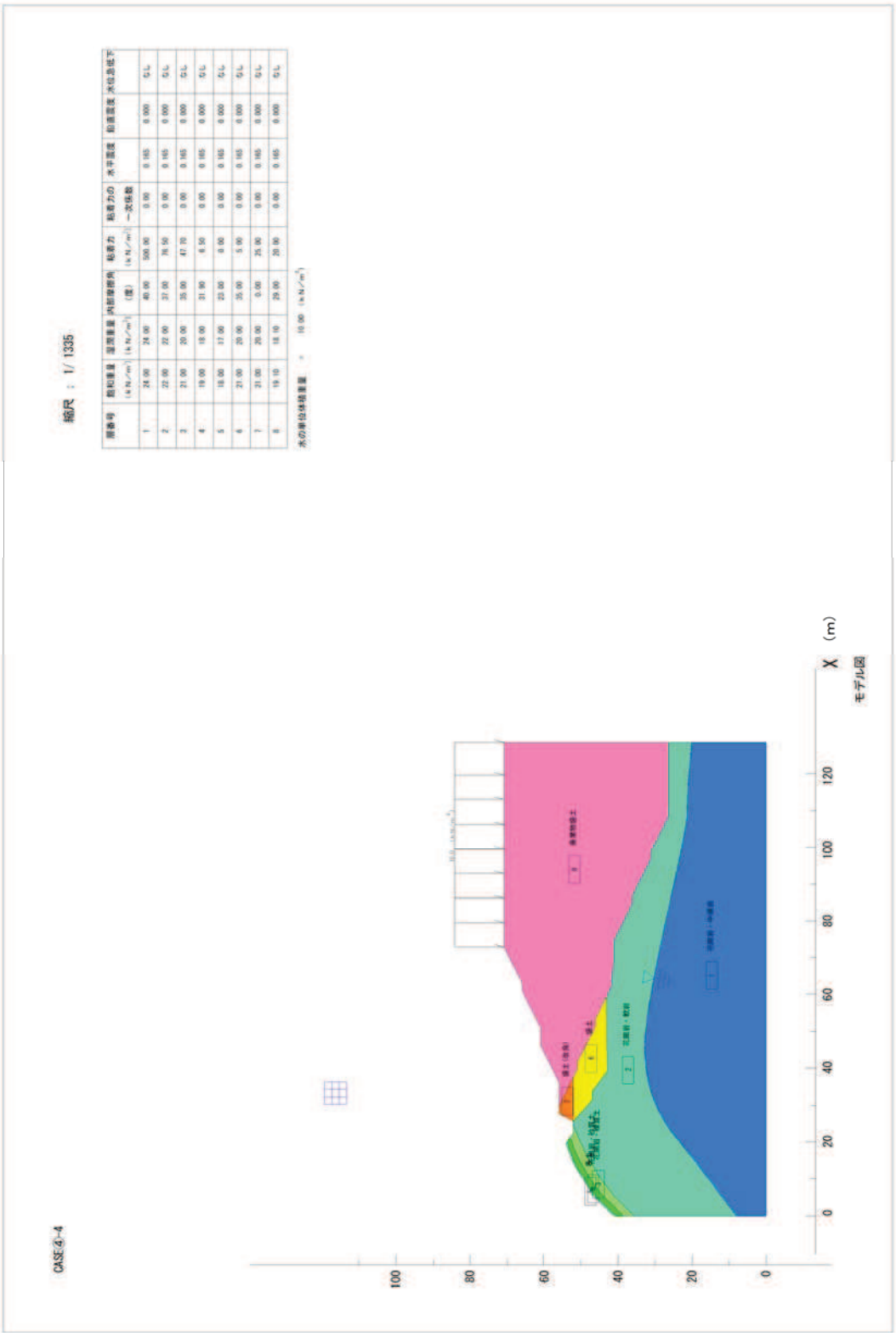


図 3.9-3(13)　断面モデル

⑨　土質定数

安定計算に用いる盛土材料および現況地盤各層の土質定数は、地質調査結果及び「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理要領」より、表3.9-5に示すとおり設定した。

表 3.9-5　荷重の組み合わせ

地層番号	地層名	湿潤単位体積重量 (kN/m^3)	飽和単位体積重量 (kN/m^3)	粘着力 (kN/m^2)	内部摩擦角 (度)
1	盛　　土 B	20.0	21.0	5.0	35.0
2	盛土(改良) B	20.0	21.0	25.0	0.0
3	表　　土 Ss	17.0	18.0	0.0	23.0
4	花崗岩・砂質土 DM	18.0	19.0	6.5	31.9
5	花崗岩・礫質土 DH	20.0	21.0	47.7	35.0
6	花崗岩・軟岩 CL・CM	22.0	22.0	76.5	37.0
7	花崗岩・中硬岩 CH	24.0	24.0	500.0	40.0
8	廃棄物盛土	18.1	19.1	20.0	29.0

エ　予測結果

斜面安定計算結果は表3.9-6に示すとおりである。

検討を行ったケースについては必要安全率(Fa＝1.2)を上回る計算結果が得られた。

表 3.9-6　安定計算結果

検討ケース	状　態		震　度	安全率	判　定
CASE①-1	完成直後・空虚時	左すべり	常　時	6.753	ok
			地震時	4.249	ok
		右すべり	常　時	6.455	ok
			地震時	4.184	ok
CASE①-2	埋 立 中・洪水時		常　時	6.753	ok
			地震時	5.220	ok
CASE①-3	埋立終了・洪水時		常　時	2.853	ok
			地震時	1.968	ok
CASE①-4	埋立終了・地震時		常　時	3.127	ok
			地震時	1.667	ok
CASE②-3	埋立終了・洪水時		常　時	2.212	ok
			地震時	1.702	ok
CASE②-4	埋立終了・地震時		常　時	2.406	ok
			地震時	1.503	ok
CASE③-3	埋立終了・洪水時		常　時	1.847	ok
			地震時	1.435	ok
CASE③-4	埋立終了・地震時		常　時	1.907	ok
			地震時	1.228	ok
CASE④-1	完成直後・空虚時		常　時	2.082	ok
			地震時	1.385	ok
CASE④-2	埋 立 中・洪水時		常　時	1.662	ok
			地震時	1.459	ok
CASE④-3	埋立終了・洪水時		常　時	2.041	ok
			地震時	1.539	ok
CASE④-4	埋立終了・地震時		常　時	2.143	ok
			地震時	1.372	ok

(5) 影響の分析

1) 盛土・掘削等の土工

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、盛土・掘削等の土工による土地の安定性への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

予測結果は、防災調整池による造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制、造成した法面の早期緑化、大雨注意報発令時の工事作業中止、・雨季は大規模な土工事を回避する等の環境保全措置を実施することより、盛土・掘削等の土工による土地の安定性への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

2) 最終処分場の存在

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、最終処分場の存在による土地の安定性への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

また、最終処分場の存在が、表3.9-7に示す基準等と整合が図れているかを判断する。

表 3.9-7 整合を図る基準（最終処分場の存在）

・「瀬戸市地域防災計画」（令和 3 年 1 月改正 瀬戸市）“防災共通計画”より 都市計画は都市改造、土地区画整理、公園・緑地の整備、上下水道の整備等の都市計画事業に基づき、火災、風水害、地震対策等の防災対策にも重点をおいて土地や水の性状等を十分配慮し計画するよう考慮する。

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、埋立法面については、処分場外周断面を含めて「道路土工 盛土工指針」に準拠し、大規模地震対応として安定計算を行い、所定の安全率を確保すること、浸出水処理能力及び調整容量については過去15年間の降雨、雨水排水施設については10年確率降雨、洪水調整池については30年確率降雨に対応できる安全な規模の施設を設置する等から、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているものと評価する。また、上記の基準との整合性も図られているものと評価する。

3.10 交通安全

(1) 調査対象地域

調査対象地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

(2) 現況把握

1) 現況把握項目

調査内容は、表3.10-1に示すとおりである。

表 3.10-1 調査内容

項　目	調査すべき情報
道路等の状況	国道、県道及び市道等の状況 交通計画 交差点位置 通学路の状況及び通学時間帯 バス等の公共交通の状況
交通量の状況	自動車交通及び歩行者の方向、量、渋滞等の状況
交通安全施設、交通安全対策等の状況	歩道、横断歩道、ガードレール、カーブミラー等の交通安全施設の設置状況 通学時間帯における学童の誘導等の状況
施設の計画の状況	工事中及び供用時の発生集中交通量

2) 現況把握方法

ア 調査地点

調査範囲は、対象事業実施区域から主要道路（主要地方道瀬戸設楽線、国道248号）までの道路沿いとした。

イ 調査時期

調査時期は表3.10-2に示すとおりである。

表 3.10-2 調査期間等

調査項目	調査期間等
道路等の状況	2020年12月1日(火)12時～2日(水)12時
交通量の状況	
交通安全施設、交通安全対策等の状況	
施設の計画の状況	事業計画の基づき整理した。

ウ　調査方法

調査方法は、表3.10-3に示すとおりである。

表 3.10-3　調査方法

調査項目	調査方法
道路等の状況	現地踏査及び既存資料の整理とした。
交通量の状況	騒音調査と同時に自動車交通量等をカウントした。
交通安全施設、交通安全対策等の状況	現地踏査とした。
施設の計画の状況	事業計画の基づき整理した。

3)　調査結果

ア　道路等の状況

道路等の状況は、図3.10-1に示すとおりである。工事用車両及び廃棄物運搬車両の走行ルートとして、対象事業実施区域から市道（山路海上線）を通り、248号高架をくぐり、右折して主要地方道瀬戸設楽線に至るルートがある。また、248号高架をくぐり、左折して国道248号に至るルートがある。

主要道路（主要地方道瀬戸設楽線、国道248号）までのルート沿いには、学校等はない。主要地方道瀬戸設楽線につなげる市道（塩塚線）に名鉄バスの東山線（赤津-瀬戸線）のバス停（万徳寺前）がある。

イ　交通量の状況

自動車交通量の状況は「3.3　騒音」に示したとおりである。

自動交通量観測地点(図3.3-1参照。)で歩行者についてもカウントした。歩行者数は、No.4地点（塩草町：国道248号に至る地点）が44人/日、No.5地点（太子町：主要地方道瀬戸設楽線に至る地点）が17人/日であった。また、対象事業実施区域出入口近傍の市道の歩行者数は0人/日であった。

対象事業実施区域から主要道路（主要地方道瀬戸設楽線、国道248号）までの道路で渋滞は確認されなかった。

ウ　交通安全施設、交通安全対策等の状況

工事用車両及び廃棄物運搬車両の走行ルートの交通安全施設、交通安全対策等の状況は、図3.10-2に示すとおりである。対象事業実施区域出入口から248号高架下の丁字交差点（信号なし。一時停止標識あり。）までは、カーブの多い片側1車線の道路であり、カーブミラーが多数設置されている。



凡　例

：市町村界

：対象事業実施区域

：高架（走行ルートは高架下の道路である。）

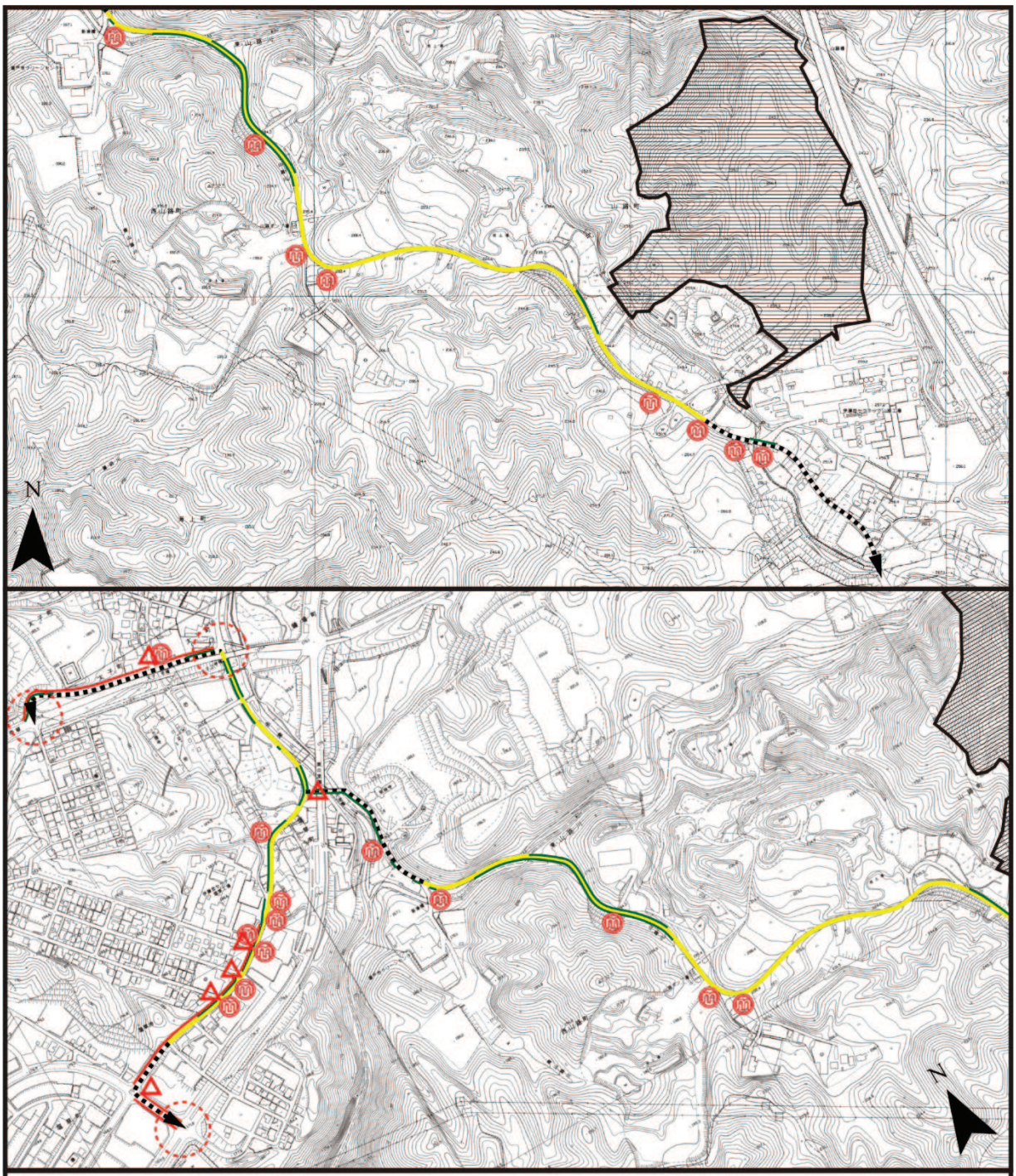
：工事車両及び廃棄物運搬車両の主要走行ルート

図3.10-1　道路等の状況

N

1:25,000

0　250　500　1,000 m



凡　例

：対象事業実施区域

調査範囲

制限速度40km（片側1車線）

制限速度40km、追い越しのための右側はみ出し通行禁止（片側1車線）

歩道

ガードレール

信号のある交差点

一時停止標識

カーブミラー

図3.10-2　交通安全施設、
交通安全対策等の状況

S=1:10,000

0　100　200　400m

エ　施設の計画の状況

工事中の交通量は、表3.10-4に示すとおり、基礎交通量に本事業による工事用車両台数を加えたものとなる。

供用時の交通量は、表3.10-5に示すとおり、基礎交通量に本事業による廃棄物運搬車両台数を加えたものとなる。

車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。工事車両台数が最大となる時期には、太子町（市道塩塚線）において、交通誘導員を配置する。廃棄物搬入車両については、集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

表3.10-4　工事中の交通量

単位：台/日

予測地点		車種分類	現況交通量 ①	工事用 車両台数②	工事中の交通量 ①+②
No.5	太子町(市道塩塚線)	大型車	423	300	723
		小型車	1,510	―	1,510
		自動二輪車	26	―	26

備考　予測地点は、「図3.3-1　騒音・振動調査地点」参照。

表3.10-5　供用時の交通量

単位：台/日

予測地点		車種分類	現況交通量 ①	廃棄物運搬 車両台数②	交通量 ①+②
No.5	太子町(市道塩塚線)	大型車	423	110	533
		小型車	1,510	―	1,510
		自動二輪車	26	―	26

備考　予測地点は、「図3.3-1　騒音・振動調査地点」参照。

(3) 環境保全措置

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。

・工事車両台数が最大となる時期には、太子町（市道塩塚線）において、交通誘導員を配置する。

2) 最終処分場の存在

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。

・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

(4) 予測

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 予測対象時期

予測対象時期は、工事用車両台数が最大となる時期とし、事業計画に示すとおり、残土搬出による「場外搬出日最大のべ300往復」のピーク日とした。

イ 予測項目

予測項目は、工事用車両の走行による交通安全とした。

ウ 予測方法

a 予測地点

予測は、対象事業実施区域から主要道路（主要地方道瀬戸設楽線）までの道路沿いとした。

b 予測方法

予測は、事業計画等から定性的に行った。

c 予測条件

工事中の交通量は、表3.10-4（既出）に示すとおりである。

エ 予測結果

工事計画から、工事車両台数のピーク日には、工事車両により、交通量がNo.5太子町（市道塩塚線）300台増加する。歩行者数は17人/日であった。

No.5太子町（市道塩塚線）周辺は歩道があり、工事車両台数が最大となる時期には、交通誘導員を配置する計画であることから、交通安全には大きな影響はないものと予測される。

2)　最終処分場の存在

ア　予測対象時期

予測対象時期は、施設が定常稼働を行う時期とした。

イ　予測項目

予測項目は、廃棄物運搬車両の走行による交通安全とした。

ウ　予測方法

a　予測地点

予測は、対象事業実施区域から主要道路（主要地方道瀬戸設楽線）までの道路沿いとした。

b　予測方法

予測は、事業計画等から定性的に行った。

c　予測条件

供用時の交通量は、表3.10-5（既出）に示すとおりである。

エ　予測結果

事業計画から、廃棄物運搬車両により、交通量がNo.5太子町（市道塩塚線）110台増加する。歩行者数は17人/日であった。

No.5太子町（市道塩塚線）周辺は歩道があり、廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮することから、交通安全には大きな影響はないものと予測される。

(5) 影響の分析

1) 資材等の搬入及び搬出

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、工事用車両の走行に伴う交通安全への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止等の励行等の指導、また、工事車両台数が最大となる時期には、交通誘導員を配置することから、工事用車両の走行に伴う交通安全への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

2) 最終処分場の存在

ア 影響の分析方法

予測結果を踏まえ、廃棄物運搬車両の走行による交通安全への影響が、環境保全措置等により、実行可能な範囲内で回避・低減が図られているか否かを判断する。

イ 影響の分析結果

環境保全措置として、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止等の励行等の指導、また、廃棄物運搬車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮することから、廃棄物運搬車両の走行に伴う交通安全への影響は、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。

第４章　環境影響の総合的な分析

4.1 現況把握、予測、影響の分析の結果の整理

本事業の選定項目に係る現況把握、予測結果は次頁以降に示すとおりである。

予測結果を踏まえ、環境保全措置として各項目とも、実行可能な範囲で回避・低減が図られているものと評価する。また、基準と整合が図られているものと評価する。

(1)　大気質

二酸化窒素濃度の期間平均値は、冬季が0.013ppm、夏季が0.009ppmであり、日平均値の最高値が0.023ppm（冬季）であり、環境基準値を下回っていた。浮遊粒子状物質濃度の期間平均値は、冬季が0.014mg/m^3、夏季が0.022 mg/ m^3である。日平均値の最高値が0.033 mg/ m^3（夏季）、1時間値の最高値が0.054mg/ m^3（夏季）であり、環境基準値を下回っていた。

調査期間中の風向・風速は、冬季が北北西の風が卓越し、平均風速が1.7m/sであった。夏季が南東の風が卓越し、平均風速が1.3m/sであった。

降下ばいじんの測定結果は参考値10t/km^2/月と比較するといずれもこの値を下回っている。

資材等の搬入及び搬出による工事車両の走行、建設機械の稼働による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果は、環境基準を満足した。盛土・掘削等の土工事による粉じん（降下ばいじん）は参考値10t/km^2/月を下回った。

また、埋立作業、廃棄物運搬車両の走行による二酸化窒素、浮遊粒子状物質の予測結果も環境基準を満足した。

環境影響要因		環境影響要素	予測結果	基準等
盛土・掘削等の土工事	工事	粉じん（降下ばいじん）	7.9 t/km^2/月	10t/km^2/月
資材等の搬入及び搬出	工事	二酸化窒素	0.024 ppm	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
建設機械の稼働	工事	二酸化窒素	0.034 ppm	
埋立作業	供用	二酸化窒素	0.028 ppm	
廃棄物運搬車両の走行	供用	二酸化窒素	0.023 ppm	
資材等の搬入及び搬出	工事	浮遊粒子状物質	0.039 mg/m^3	時間値の1日平均値が0.10mg/m^3以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m^3以下であること。
建設機械の稼働	工事	浮遊粒子状物質	0.042 mg/m^3	
埋立作業	供用	浮遊粒子状物質	0.040 mg/m^3	
廃棄物運搬車両の走行	供用	浮遊粒子状物質	0.039 mg/m^3	

(2) 水質

1) 表流水

放流水合流点である東山路川において、生物化学的酸素要求量が0.1mg/Lから0.2mg/L、浮遊物質量が1未満から2mg/Lであり、いずれもC類型の環境基準値を満足していた。カドミウム等の健康項目もほとんどが定量下限値未満ですべて環境基準値を満足していた。また、ダイオキシン類も0.039pg-TEQ/Lであり、環境基準値を満足していた。

降雨時（23.0mm/日、時間最大降水量5.5mm/時間）における浮遊物質量は、放流水合流点である東山路川が35mg/L、矢田川・屋戸橋が100mg/Lであった。

盛土・掘削等の土工事における降雨時の東山路川の浮遊物質量濃度の予測結果が95mg/L(降水量5.5mm/時間)である。対象事業実施区域からの浮遊物質量（SS）濃度は、矢田川・屋戸橋付近(No.2)では現況の降雨時における浮遊物質量（SS）濃度と同程度となることから、大きな影響はないと考えられる。

浸出水処理施設からの処理水の放流による予測結果は、生物化学的酸素要求量、浮遊物質量及びダイオキシン類で環境基準を下回った。他の項目についても、廃掃法上の基準値を守り、浸出水処理施設により適正に処理されると考えられることから、環境基準を下回るものと考えられる。

環境影響要因		環境影響要素	東山路川　予測結果	基準等
盛土・掘削等の土工事	工事	浮遊物質量	95mg/L	50mg/L
浸出水処理施設からの処理水の放流	供用	生物化学的酸素要求量	1.1～2.4mg/L	5mg/L
		浮遊物質量	2～4mg/L	50mg/L
		ダイオキシン類	0.40～0.91pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

2) 地下水

対象事業実施区域の地下水の流動状況は、表層地形の変化に従い北方向に流れていると推定される。標高の高い尾根部においても比較的高い水位が維持されている。

対象事業実施区域内で湧水は確認されなかった。

地下水の水質の調査結果はすべての項目で環境基準を満足していた。

地下水の流れは、埋立地内の不透水層上部の流れ及びそこからの鉛直方向の浸透は阻害されるものの、埋立地底面（遮水工下部）には、周辺地下水を効率良く集め、速やかに下流域へ排出するため地下水集水管を設置することから、地下水の流れを遮断・阻害することは想定されない。

対象事業実施区域の南東側に位置する民家で生活雑用水として浅層井戸1ヶ所が利用されているが、標高の高い尾根部においても比較的高い水位が維持されている。

以上のことから、対象事業実施区域における地下水の流動に対する影響は小さく、周辺の地下水水位の大きな変化はないと考えられる。

(3) 騒音

昼間の騒音レベル(L_{A5}は、敷地境界54dB、民家53dBであった。特定工場等において発生する騒音の規制に関する規制基準(第3種区域)との比較では、昼間の規制基準値60dBを下回った。

工事車両及び廃棄物運搬車両が通行する道路(太子町：市道塩塚線)の昼間の道路交通騒音レベルL_{Aeq}は63dBであった。道路交通騒音の環境基準値(昼間)65dBを下回った。騒音測定と同時に実施した交通量等調査結果は、自動車類合計1,933台/日(大型車混入率21.9%)であった。

資材等の搬入及び搬出における工事車両の走行による騒音レベル、建設機械の稼働による重機の稼働に伴う建設作業騒音レベル、施設の稼働、埋立作業に伴う騒音レベル、廃棄物運搬車両の走行による騒音レベルは、いずれもそれぞれの基準値等を下回った。

環境影響要因		環境影響要素	予測結果	基準等
資材等の搬入及び搬出	工事	道路交通騒音	64.3dB	環境基準(昼間) 65dB
建設機械の稼働	工事	建設作業騒音	68.5dB	特定建設作業騒音 85dB
施設の稼働、埋立作業	供用	工場騒音	55.9dB	特定工場等において発生する騒音の規制(昼間) 60dB
廃棄物運搬車両の走行	供用	道路交通騒音	63.6dB	環境基準(昼間) 65dB

(4) 振動

昼間の振動レベルL_{10}は、敷地境界37dB、民家27dBであった。特定工場等において発生する振動の規制に関する規制基準(第2種区域)との比較では、昼間の規制基準値65dBを下回った。

工事車両及び廃棄物運搬車両が通行する道路(太子町：市道塩塚線)の昼間の道路交通振動レベルL_{10}は32dBであった。道路交通振動要請限度値(昼間)70dBを下回った。

資材等の搬入及び搬出における工事車両の走行による振動レベル、建設機械の稼働による重機の稼働に伴う建設作業振動レベル、施設の稼働、埋立作業に伴う振動レベル、廃棄物運搬車両の走行による振動レベルは、いずれもそれぞれの基準値等を下回った。

環境影響要因		環境影響要素	予測結果	基準等
資材等の搬入及び搬出	工事	道路交通振動	34.3dB	要請限度(昼間) 70dB
建設機械の稼働	工事	建設作業振動	52.9dB	特定建設作業振動 75dB
施設の稼働、埋立作業	供用	工場振動	47.1dB	特定工場等において発生する振動の規制(昼間) 65dB
廃棄物運搬車両の走行	供用	道路交通振動	33.0dB	要請限度(昼間) 70dB

(5) 悪臭

敷地境界における臭気指数は10未満であった。基準値15を下回った。

本処分場では、受入基準に適合した廃棄物のみを処分し、埋立終了後、即日覆土を施し、踏み固めを行う。また、浸出水処理施設の適切な維持管理を行うこととしていることから、悪臭の発生はほとんどないものと予測された。

(6) 植物

現地調査で確認された植物種は48目120科554種であった。重要な種は、シデコブシ、イトモ、ヘビノボラズ、サクラバハンノキ及びヒメタヌキモの5種であった。

現地調査で確認された植物群落及び土地利用は合計13群落であった。対象事業実施区域内の植生は中央部に広く造成地が分布し、その周辺を囲むようにコナラ群落が分布するほか、一部に、ソヨゴ群落、ススキ群落、伐採跡地群落、スギ・ヒノキ植林が分布する。対象事業実施区域の植生自然度は、自然度7のコナラ群落が最も高いが、中央部には広く自然度1の造成地が分布する。重要な植物群落は確認されなかった。対象事業実施区域の緑被率は57.68%であった。

盛土・掘削土等の土工による重要な種への予測結果から、イトモ及びヒメタヌキモについて影響が大きいと予測したが、可能な限り移植することにより、生育の保全が図られるものと考えられる。

緑被率は現況で57.68%となっており、盛土・掘削土等の土工により一時的に大きく減少（57.68%→22.12%）するが、在来種等による植栽等を行い、供用時には新たに造成緑地が出現することにより緑被率は39.20%に回復する計画であることから最終処分場の存在による影響は小さいと予測される。

(7) 動物

現地調査で確認された哺乳類は、6目12科16種であった。重要な種は、モグラ属の一種（アズマモグラの可能性)、ヒナコウモリ科の一種（モモジロコウモリの可能性)、ノウサギ、ニホンリス、カヤネズミ及びカモシカの6種であった。

現地調査で確認された鳥類は、9目24科43種であった。重要な種は、サンショウクイの1種であった。

現地調査で確認された爬虫類は、1目3科3種であった。重要な種は確認されなかった。

現地調査で確認された両生類は、1目5科7種であった。重要な種は、トノサマガエル属の一種の1種であった。

現地調査で確認された昆虫類は、21目249科786種であった。重要な種は、オオゴキブリ、オオアメンボ、ヒメタイコウチ及びギフチョウの4種であった。

現地調査で確認された魚類は、3目4科6種であった。重要な種は、ドジョウ及びミナミメダカの2種であった。

現地調査で確認された底生動物は、7綱16目51科90種であった。重要な種は、タベサナエ及びナベブタムシの2種であった。

工事の実施により、対象事業実施区域のほぼ全域が改変されることから、現況の樹林や草地等を生息環境とするほとんどの動物は影響を受けると考えられる。

資材等の運搬車両の走行により、動物の移動経路の分断やロードキル等の影響が考えられるほか、重機の稼働による騒音・振動により、移動能力のある動物は周辺地域に存在する樹林及び草地等へ逃避すると考えられる。

重機の稼働や盛土・掘削等により生じる土砂や濁水の影響は、防災調整池が設置されることから、魚類や底生動物等への水域に生息する動物への影響は低減されると考えられる。

盛土・掘削土等による重要な種への予測結果より、トノサマガエル属の一種について影響が大きいと予測したが、環境保全措置として個体の移殖や生息環境の代替地を設けることにより生息環境の保全が図られるものと考えられる。

供用後は、廃棄物処理施設が建設される改変区域については、鳥類のハシブトガラスに代表されるような、都市的環境への適応能力の高い動物相に変化すると考えられる。また、工事の直接の影響を受けない残置部については、哺乳類のタヌキ、鳥類のムクドリ、爬虫類のニホンカナヘビ、両生類のニホンアマガエルといった、公園等の人為的な環境を生息環境の一部とする種が、生息場所の一部として利用する可能性が考えられる。

(8) 生態系

動植物調査結果をもとに、調査地域の植生を大きく樹林と草地に区分し、樹林は落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、常緑針葉樹林に3区分し、草地は乾性草地と湿性草地に2区分した。これに水域及び市街地の区分を加え、合計7区分とした。対象事業実施区域内の面積は、それぞれ落葉広葉樹林5.31ha(39.42%)、常緑広葉樹林1.50ha(11.14%)、常緑針葉樹林0.27ha(2.00%)、乾性草地0.69ha(5.12%)、湿性草地0.00ha(0.00%)、水域0.40ha(2.97%)及び市街地5.30ha(39.35%)である。

地域の生態系の上位性を特徴づける種として、キツネ及びイタチを選定した。地域の生態系の典型性を特徴づける種として、アカネズミ、タヌキ、シジュウカラ、ホオジロ、ニホンカナヘビを選定した。対象事業実施区域及びその周辺には特殊な環境が存在しないことから、特殊性の注目種は選定しないこととした。

対象事業実施区域の中心部は人工裸地が存在し、その周辺には樹林環境の生態系が形成されているほか、草地や湿地の生態系が点在する。事業の実施により樹林環境が消失しても対象事業実施区域を含む地域一帯の樹林生態系に変化を生じさせる可能性は低いと予測される。また、対象事業実施区域における工事車両搬出入路は、既存の一般道路を利用することから、対象事業実施区域及びその周辺を広く移動する種に対して、新たな移動阻害要因となる可能性は低いと予測される。

現地調査では、広い行動圏を持つキツネやタヌキといった哺乳類や、トビやアオサギといった大型の鳥類のほか、季節により広域を移動するジョウビタキやベニマシコ、カシラダカといった渡り鳥や、繁殖場所としての湿地及び成体の生活場所としての樹林を移動・利用するシュレーゲルアオガエルなどが確認された。これらの種について、対象事業実施区域内を走行する工事用車両の走行場所を利用することが考えられ、工事車両との衝突死のおそれが予測される。事業計画では、運搬車両は低速走行を励行すること、運転者へはロードキルへの注意を指導することにより、工事車両との衝突は回避できると考えられる。また、重機の稼働や掘削、盛土による生息場所の改変や消失が考えられるが、対象事業実施区域周辺には同様の樹林や湿地環境が広がっていること、また、対象事業実施区域周辺の樹林部の多くは工事の影響を受けないことから、これらの動物の個体群の存続に及ぼす影響は小さく、環境の連続性も保たれると考えられる。

(9) 廃棄物・発生土

伐採樹木は、伐採面積41,351m^2、発生樹木量1,165tである。伐採樹木は一部をチップ化し、場内の緑化基盤として再利用する。また、残った伐採樹木は場外へ搬出し、再資源化する計画である。

残土は、518,000m^{3}発生するが、場外に搬出し適切に処理する計画である。

(10) 景観

対象事業実施区域は、周辺の主要な眺望点から望むことができない。

本事業では、樹林の伐採は最小限にとどめる。また、浸出水処理施設及びネットフェンスについては周辺との調和した色とし、埋立完了面に在来種による緑化を行い、周辺環境との調和を図る計画であることから、周囲の自然景観と調和したものとなると考えられる。

(11) 防災

南海トラフを震源とした巨大地震を想定した地震災害の分析では、対象事業実施区域がある山路町周辺は、液状化危険度が“ほぼない”、建物倒壊危険度が“低い～ほぼない”とされている。対象事業実施区域及びその周辺は砂防指定地に指定されている。対象事業実施区域の一部(北側出入口付近)が、急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。

対象事業実施区域の雨水等が流入する東山路川及び山路川には、赤津川合流地点まで、砂防堰堤等の防災施設はない。

対象事業実施区域がある山路町周辺の緊急避難場所及び避難所は、東明小学校が指定されている。

本事業では、工事にあたり、防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う等の環境保全措置を実施することから、土地の安定性が損なわれ、災害が起きる可能性は小さいものと予測される。

斜面安定計算結果は必要安全率(Fa＝1.2)を上回る計算結果が得られた。

(12) 交通安全

主要道路（主要地方道瀬戸設楽線、国道248号）までのルート沿いには、学校等はない。

対象事業実施区域出入口から248号高架下の丁字交差点（信号なし。一時停止標識あり。）までは、カーブの多い片側1車線の道路であり、カーブミラーが多数設置されている。

工事車両及び廃棄物運搬車両による交通量は、それぞれ300台/日、110台/日である。工事車両及び廃棄物運搬車両走行ルートの現況交通量は1,933台/日、自動二輪26台/日、歩行者17人/日であった。

工事車両台数が最大となる時期には、交通誘導員を配置する計画であることから、交通安全には大きな影響はないものと予測される。

また、廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮することから、交通安全には大きな影響はないものと予測される。

4.2 環境保全措置の整理

(1) 大気質

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。
・工事用車両の点検・整備を十分に行う。
・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。
・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。
・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。
・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。
・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 盛土・掘削等の土工事

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。
・強風による粉じんの発生を防止するために、晴天が続き乾燥した際には、必要に応じて散水を実施する。
・現場内の車両制限速度を低速に制限し、車両走行による粉塵飛散を抑制する。
・洗車ピットを設置し、場外に出る工事車両の洗車を励行する。
・雨季は大規模な土工事を回避する。

4) 埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。
・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。
・即日覆土、場内及び場内道路の清掃・散水等を実施する。

5)　廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。

・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(2)　水質

1）表流水

ア　　盛土・掘削等の土工事

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。

・濁水防止の環境保全措置として、濁水処理装置を検討する。

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。

・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。

・雨季は大規模な土工事を回避する。

・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流する。

イ　浸出水処理施設からの処理水の放流

・浸出水処理施設からの処理水、河川水、地下水のモニタリングを行う。浸出水処理水については、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和52年総理府・厚生省令第1号)の排水基準のほか、その基準より厳しい自主規制基準値とする。

項目	自主規制基準値(mg/L)
生物化学的酸素要求量	20 mg/L
化学的酸素要求量	25 mg/L
浮遊物質量	30 mg/L
全窒素	15 mg/L
ダイオキシン類	8pg-TEQ/L

2）地下水

・廃棄物の受入にあたっては、厳正な審査を行い、受入基準に適合した廃棄物のみを処分する。

・浸出水処理水、河川水、地下水のモニタリングを行う。

・漏水検知システムを導入し、遮水工の健全性を確認する。

・万一、モニタリング井戸の水質に漏水が疑われる測定値が検出された場合は、即時に廃棄物の搬入を停止し、関係機関に連絡するとともに、地下水集水管により集水された地下水は浸出水処理施設に送水して処理を行うとともに、遮水工の損傷位置の特定と補修を行う。

(3) 騒音

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。
・工事用車両の点検・整備を十分に行う。
・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。
・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。
・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。
・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。
・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 施設の稼働、埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。また、重機が、原則、複数同時に稼働しないように配慮する。
・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。
・埋立作業時には、流出防止のため、あらかじめ各段の外周に高さ2.5mの盛土の小段を設ける。高速道路側については、常に1.0m以上の土堰堤を設置し作業を行う。

4) 廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。
・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。
・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(4) 振動

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。

・工事用車両の点検・整備を十分に行う。

・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。

・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。

2) 建設機械の稼働

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。

・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。

・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。

・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。

・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。

3) 施設の稼働、埋立作業

・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。

・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。また、重機が、原則、複数同時に稼働しないように配慮する。

・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。

4) 廃棄物運搬車両の走行

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。

・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。

(5) 悪臭

・悪臭防止及び飛散防止のために即日覆土を実施する。必要により薬剤の散布を行う。

・浸出水処理施設の適切な維持管理運転管理を徹底する。

・廃棄物の受入にあたっては、厳正な審査を行い、受入基準に適合した廃棄物のみを処分する。

(6) 植物

1) 盛土・掘削土等の土工

・樹木の伐採は最小限にとどめる。

・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。

・改変区域内で確認された重要な植物については、可能な限り移植する。

2) 最終処分場の存在

・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。

・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。

・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。

・イトモ、ヒメタヌキモの生育環境である池が消失するため、代替地として人工池を設ける。

(7) 動物

1) 工事による影響(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

・樹木の伐採は最小限にとどめる。

・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。

・改変区域内で確認された重要な動物のうち、生息環境の消失により影響が大きいと考えられるトノサマガエル属の一種について、可能な限り移殖する。

・対象事業実施区域周辺の動物の生息に配慮して、防災調整池を早期に整備し、周辺排水路への濁水の流出防止を図る。

・ロードキルを防止するため、動物注意の警告標識及び侵入防止柵等を工事区域に設置する。

2) 最終処分場の存在

・不要な照明の消灯、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置等により、夜行性動物及び走行性昆虫の行動、生態系の攪乱を防止する。

・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。

・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。

・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。

・トノサマガエル属などの生息環境である池が消失するため、代替地として湿生草地を伴う人工池を設ける。

(8) 生態系

1) 工事による影響(資材等の搬入及び搬出、建設機械の稼働、盛土・掘削等の土工)

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。
・改変区域内で確認された重要な動物については、可能な限り移植する。
・対象事業実施区域周辺の動物の生息に配慮して、防災調整池を早期に整備し、周辺排水路への濁水の流出防止を図る。
・ロードキルを防止するため、低速走行、動物注意の警告標識及び侵入防止柵等を工事区域に設置する。

2) 最終処分場の存在

・不要な照明の消灯、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置等により、夜行性動物及び走行性昆虫の行動、生態系の攪乱を防止する。
・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。
・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。

(9) 廃棄物・発生土

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・建設工事用の合板、型枠の再利用を促進する。
・伐採に伴う発生する木材については再利用し、残りは有効利用先への搬出を行い、再資源化する。
・残土は、場外において、適切に処理する。

(10) 景観

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・浸出水処理施設及びネットフェンスについては周辺との調和した色とする。
・埋立完了面に在来種等による緑化を行い、周辺環境との調和を図る。

(11) 防災

1) 盛土・掘削等の土工

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。

・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。

・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。

・雨季は大規模な土工事を回避する。

・地質調査の結果から、適正な造成勾配・支持力を確保する。工事中に基盤支持力の確認を行う。

・切土部の施工時には、地質調査で把握している地質との整合を確認する。

2) 最終処分場の存在

ア 地震に対する災害防止計画

・埋立法面については、処分場外周断面を含めて「道路土工 盛土工指針」に準拠し、大規模地震対応として安定計算を行い、所定の安全率を確保する。

・震度4以上の地震発生後はすべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修，補強等の対応を行う。

イ 洪水に関する災害防止計画

・各基準により、浸出水処理能力及び調整容量については過去15年間の降雨、雨水排水施設については10年確率降雨、洪水調整池については30年確率降雨に対応できる安全な規模の施設を設置する。

・雨水排水は、常に清掃を行い雨水が円滑に流下できるように管理を行う。工事で造成した法面については、即時に緑化を行う。洪水調整池の排砂は、定期的に管理を行い常に充分な調整能力を維持する。

・埋立完了部法面は、随時緑化を行うとともに小段に排水工を設置する。また、埋立完了平面部は、随時排水工を設置して表流水排除を行う事で、浸出水量の削減を図る。

・洪水災害発生後は、すべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修，補強等の対応を行う。

(12) 交通安全

1) 資材等の搬入及び搬出

・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。

・工事車両台数が最大となる時期には、太子町（市道塩塚線）において、交通誘導員を配置する。

2) 最終処分場の存在

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。

・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。

4.3 施設の設置に関する計画に反映した事項及びその内容

・工事用車両の点検・整備を十分に行う。
・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。
・濁水防止の環境保全措置として、濁水処理装置を検討する。
・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。
・強風による粉じんの発生を防止するために、晴天が続き乾燥した際には、必要に応じて散水を実施する。
・排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等の励行を指導する。
・工事工程の平準化、建設機械の効率的な稼働に努める。
・工事に使用する生コンクリートは、極力現場に近い生コン工場より搬入し、運搬に伴う環境負荷を極力小さくする。
・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。
・工事を実施する時間帯は、休日を除く8時から17時までとし、不要な騒音、振動、排気ガス、粉じん等の発生を抑制する。
・洗車ピットを設置し、場外に出る工事車両の洗車を励行する。
・建設工事用の合板、型枠の再利用を促進する。
・雨季は大規模な土工事を回避する。
・重機等の使用に際しては点検・整備を十分に行う。
・重機等の運転者へは、不要なアイドリングや空ぶかし、過積載や急加速等の高負荷運転をしないよう、指導・教育を徹底する。
・現場内の車両制限速度を低速に制限し、車両走行による粉塵飛散を抑制する。
・伐採に伴う発生する木材については再利用し、残りは有効利用先への搬出を行い、すべて再資源化する。
・残土は、場外において、適切に処理する。
・地質調査の結果から、適正な造成勾配・支持力を確保する。工事中に基盤支持力の確認を行う。
・切土部の施工時には、地質調査で把握している地質との整合を確認する。
・工事車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。
・工事車両台数が最大となる時期には、太子町（市道塩塚線）において、交通誘導員を配置する。
・工事車両は、住宅地を通らないように配慮する。
・伐採樹木については、一部をチップ化し、場内の緑化基盤として再利用し、残りは場外へ搬出し、再資源化する計画である。

・樹木の伐採は最小限にとどめる。
・周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減化するために、工事関係者に対し、周辺地域等の不要な場所への立ち入りを制限する。
・改変区域内で確認された貴重な植物については、可能な限り移植する。
・対象事業実施区域周辺の動物の生息に配慮して、防災調整池を早期に整備し、周辺排水路への濁水の流出防止を図る。
・ロードキルを防止するため、低速走行、動物注意の警告標識及び侵入防止柵等を工事区域に設置する。

4.4 維持の管理に関する計画に反映した事項及びその内容

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、定常走行、アイドリングストップ等を励行する。
・埋立重機は排出ガス対策型、低騒音型・低振動型の建設機械の採用に努める。
・埋立重機の点検・整備を毎日実施し、運転時はアイドリングストップに努める。また、重機が、原則、複数同時に稼働しないように配慮する。
・敷地境界付近では小型重機を単独で使用する。
・埋立作業時には、流出防止のため、あらかじめ各段の外周に高さ2.5mの盛土の小段を設ける。高速道路側については、常に1.0m以上の土堰堤を設置し作業を行う。
・悪臭防止及び飛散防止のために即日覆土を実施する。必要により薬剤の散布を行う。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流する。
・漏水検知システムを導入し、遮水工の健全性を確認する。
・浸出水については、既存処理施設により排出基準に適合する水質に処理した後、放流する。
・ガス抜管を増設し、効率的に集水する。
・浸出水処理施設からの排水の水質は、排水基準以下とする。
・浸出水処理施設の適切な維持管理運転管理を徹底する。
・浸出水処理水、河川水、地下水のモニタリングを行う。浸出水処理水については、「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」(昭和52年総理府・厚生省令第1号)の排水基準のほか、その基準より厳しい自主規制基準値とする。

項目	自主規制基準値(mg/L)
BOD	20 mg/L
COD	25 mg/L
SS	30 mg/L
T-N	15 mg/L
ダイオキシン類	8pg-TEQ/L

・廃棄物の受入にあたっては、厳正な審査を行い、受入基準に適合した廃棄物のみを処分する。
・万一、モニタリング井戸の水質に漏水が疑われる測定値が検出された場合は、即時に廃棄物の搬入を停止し、関係機関に連絡するとともに、地下水集水管により集水された地下水は浸出水処理施設に送水して処理を行うとともに損傷位置の特定と遮水工の補修を行う。
・振動4以上の地震及び洪水発生後はすべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修，補強等の対応を行う。

・廃棄物搬入車両の走行にあたっては、法定速度の遵守、横断歩道や交差点では歩行者優先、一時停止場所での一時停止等の励行を指導する。
・廃棄物搬入車両が集中しないよう、特に、通勤通学時間帯（8時～9時、16時～17時）には、極力、廃棄物搬入車両が通行しないように配慮する。
・廃棄物運搬車両は、住宅地を通らないように配慮する。
・即日覆土を実施し、カラス等の鳥類、ネズミ類、昆虫類等の誘引を防止する。
・不要な照明の消灯、昆虫類の誘引性が低いナトリウム灯の設置等により、夜行性動物及び走行性昆虫の行動、生態系の攪乱を防止する。
・施設関連者に対する周辺地域への立ち入りを制限し、周辺植生及び動植物個体への影響を極力低減する。
・覆土置場で保管する覆土材は、使用状況を考慮しながら、整地、整形、締固めを行い、降雨時の土砂の流出を防止する。また、周辺の雨水は、防災調整池で沈砂した後に放流することで、下流河川の生態系への影響を極力低減する。
・植物や動物の生育、生息環境の確保の観点から、できる限り在来種による植栽等を行うことで、緑のネットワークを形成することにより、動物種への影響を低減する。
・イトモ、ヒメタヌキの生育環境、トノサマガエル属などの生息環境である池が消失するため、代替地として湿生草地を伴う人工池を設ける。
・浸出水処理施設及びネットフェンスについては周辺との調和した色とする。
・埋立完了面に在来種による緑化を行い、周辺環境との調和を図る。

4.5 災害防止のための計画に反映した事項及びその内容

(1)　盛土・掘削等の土工

・防災調整池を早期に設置し、造成工事中の土砂流出及び流出量の抑制を行う。
・造成した法面は、早期に緑化や遮水工の施工等の保護工を施し、土砂の流出及び粉じんの発生を防ぐ。
・大雨注意報発令時には工事作業を中止し、必要に応じて工事箇所へシート覆い等を行う。
・雨季は大規模な土工事を回避する。
・地質調査の結果から、適正な造成勾配・支持力を確保する。工事中に基盤支持力の確認を行う。
・切土部の施工時には、地質調査で把握している地質との整合を確認する。

(2)　最終処分場の存在

1)　地震に対する災害防止計画

・埋立法面については、処分場外周断面を含めて「道路土工 盛土工指針」に準拠し、大規模地震対応として安定計算を行い、所定の安全率を確保する。
・震度4以上の地震発生後はすべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修、補強等の対応を行う。

2)　洪水に関する災害防止計画

・各基準により、浸出水処理能力及び調整容量については過去15年間の降雨、雨水排水施設については10年確率降雨、洪水調整池については30年確率降雨に対応できる安全な規模の施設を設置する。
・雨水排水は、常に清掃を行い雨水が円滑に流下できるように管理を行う。工事で造成した法面については、即時に緑化を行う。洪水調整池の排砂は、定期的に管理を行い常に充分な調整能力を維持する。
・埋立完了部法面は、随時緑化を行うとともに小段に排水工を設置する。また、埋立完了平面部は、随時排水工を設置して表流水排除を行う事で、浸出水量の削減を図る。
・洪水災害発生後は、すべての施設について状況確認を行い、被害を受けた場合はその内容と程度について記載した被災状況調査書を作成し愛知県に提出する。関係機関と協議し、補修、補強等の対応を行う。

資　料　編

データ集

表 1-1　確認文献一覧（昆虫類、クモ類、底生動物）

番号	文献	分布想定種
①	「自然環境保全基礎調査第2回～第6回」（昭和53年～平成17年、環境省）	調査対象とした（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、陸産貝類、底生動物）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種
②	「レッドデータブックあいち 2020」（令和2年3月、愛知県）	調査対象とした（哺乳類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、陸産貝類、底生動物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種または瀬戸市で分布が確認された種
③	「海上の森 確認種リスト」（令和2年11月閲覧、愛知県）	調査対象とした（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、陸産貝類、底生動物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）のうち、文献に記載されている種
④	「第２次瀬戸市環境基本計画 年次報告書」（平成27年度～令和元年度、瀬戸市）	調査対象とした（底生動物）のうち、調査範囲で確認されている種
⑤	「愛知の野鳥 1995」（平成8年3月、愛知県）	調査対象とした（鳥類）のうち、瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種

表 1-2 (1)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1	トビムシ	ミズトビムシ	ミズトビムシ	*Podura aquatica*			●
2		ヒメトビムシ	ヒメトビムシ科の一種	Hypogastruridae sp.			●
3		イボトビムシ	イボトビムシ科の一種	Neanuridae sp.			●
4		トゲトビムシ	トゲトビムシ科の一種	Tomoceridae sp.			●
5		アヤトビムシ	アヤトビムシ科の一種	Entomobryidae sp.			●
6		マルトビムシ	マルトビムシ科の一種	Sminthuridae sp.			●
7	イシノミ	イシノミ	イシノミ	*Pedetontus nipponicus*			●
－			*Pedetontus* 属の一種	*Pedetontus* sp.			●
8	カゲロウ	トビイロカゲロウ	ナミトビイロカゲロウ	*Paraleptophlebia japonica*			●
9			トゲトビイロカゲロウ	*Paraleptophlebia spinosa*			●
10			ウェストントビイロカゲロウ	*Paraleptophlebia westoni*			●
11		カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	*Potamanthus formosus*			●
12		モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*			●
13			トウヨウモンカゲロウ	*Ephemera orientalis*			●
14			モンカゲロウ	*Ephemera strigata*			●
15		マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ	*Cincticostella nigra*			●
16			オオマダラカゲロウ	*Drunella basalis*			●
17			クシゲマダラカゲロウ	*Ephemerella setigera*			●
18			アカマダラカゲロウ	*Teleganopsis punctisetae*			●
19		コカゲロウ	フタバコカゲロウ	*Baetiella japonica*			●
20			シロハラコカゲロウ	*Baetis thermicus*			●
21			フタバカゲロウ	*Cloeon dipterum*			●
22		チラカゲロウ	チラカゲロウ	*Isonychia valida*			●
23		ヒラタカゲロウ	クロタニガワカゲロウ	*Ecdyonurus tobiironis*			●
24			シロタニガワカゲロウ	*Ecdyonurus yoshidae*			●
25			オナガヒラタカゲロウ	*Epeorus hiemalis*			●
26			ナミヒラタカゲロウ	*Epeorus ikanonis*			●
27			ユミモンヒラタカゲロウ	*Epeorus nipponicus*			●
28			キョウトキハダヒラタカゲロウ	*Heptagenia kyotoensis*			●
29	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	*Indolestes peregrinus*	●		●
30			コバネアオイトトンボ	*Lestes japonicus*		●	●
31			アオイトトンボ	*Lestes sponsa*	●		●
32			オオアオイトトンボ	*Lestes temporalis*	●		●
33			オツネントンボ	*Sympecma paedisca*	●		●
34		イトトンボ	ホソミイトトンボ	*Aciagrion migratum*	●		●
35			キイトトンボ	*Ceriagrion melanurum*	●		●
36			ベニイトトンボ	*Ceriagrion nipponicum*	●	●	
37			アジアイトトンボ	*Ischnura asiatica*	●		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (2)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
38	トンボ	イトトンボ	アオモンイトトンボ	*Ischnura senegalensis*	●		●
39			モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*	●	●	●
40			クロイトトンボ	*Paracercion calamorum calamorum*	●		●
41			セスジイトトンボ	*Paracercion hieroglyphicum*			●
42			ムスジイトトンボ	*Paracercion melanotum*			●
43			オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*	●	●	●
44		モノサシトンボ	モノサシトンボ	*Copera annulata*	●		●
45			グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*	●	●	
46		カワトンボ	ハグロトンボ	*Atrocalopteryx atrata*	●		●
47			ミヤマカワトンボ	*Calopteryx cornelia*	●		
48			アオハダトンボ	*Calopteryx japonica*	●		●
49			ニホンカワトンボ	*Mnais costalis*	●		●
50			アサヒナカワトンボ	*Mnais pruinosa*	●		●
51		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*	●	●	
52			オオルリボシヤンマ	*Aeshna crenata*	●		●
53			ルリボシヤンマ	*Aeshna juncea*	●		●
54			マルタンヤンマ	*Anaciaeschna martini*	●		●
55			オオギンヤンマ	*Anax guttatus*	●		
56			クロスジギンヤンマ	*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*	●		●
57			ギンヤンマ	*Anax parthenope julius*	●		●
58			コシボソヤンマ	*Boyeria maclachlani*	●		●
59			カトリヤンマ	*Gynacantha japonica*	●		●
60			ミルンヤンマ	*Planaeschna milnei milnei*	●		●
61			ヤブヤンマ	*Polycanthagyna melanictera*	●		●
62			サラサヤンマ	*Sarasaeschna pryeri*	●		●
63		サナエトンボ	ミヤマサナエ	*Anisogomphus maacki*	●		●
64			ヤマサナエ	*Asiagomphus melaenops*	●		●
65			キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*	●	●	
66			ダビドサナエ	*Davidius nanus*	●		●
67			ヒメクロサナエ	*Lanthus fujiacus*			●
68			オナガサナエ	*Melligomphus viridicostus*	●		
69			アオサナエ	*Nihonogomphus viridis*	●		
70			ホンサナエ	*Shaogomphus postocularis*	●		
71			コオニヤンマ	*Sieboldius albardae*	●		●
72			ウチワヤンマ	*Sinictinogomphus clavatus*	●		●
73			オジロサナエ	*Stylogomphus suzukii*	●		●
74			ナゴヤサナエ	*Stylurus nagoyanus*		●	
75			メガネサナエ	*Stylurus oculatus*	●	●	

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (3)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
76	トンボ	サナエトンボ	タベサナエ	*Trigomphus citimus tabei*	●		●
77			フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*	●	●	●
78			オグマサナエ	*Trigomphus ogumai*	●	●	●
79		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	*Tanypteryx pryeri*	●		●
80		オニヤンマ	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*	●		●
81		エゾトンボ	トラフトンボ	*Epitheca marginata*	●	●	●
82			オオヤマトンボ	*Epophthalmia elegans*	●		●
83			コヤマトンボ	*Macromia amphigena amphigena*	●		●
84			キイロヤマトンボ	*Macromia daimoji*	●		
85			ハネビロエゾトンボ	*Somatochlora clavata*	●	●	●
86			タカネトンボ	*Somatochlora uchidai*	●		●
87			エゾトンボ	*Somatochlora viridiaenea*	●	●	●
88		トンボ	ショウジョウトンボ	*Crocothemis servilia mariannae*	●		●
89			コフキトンボ	*Deielia phaon*	●		●
90			ヨツボシトンボ	*Libellula quadrimaculata asahinai*	●		●
91			ハラビロトンボ	*Lyriothemis pachygastra*	●		●
92			ハッチョウトンボ	*Nannophya pygmaea*	●		●
93			シオカラトンボ	*Orthetrum albistylum speciosum*	●		●
94			シオヤトンボ	*Orthetrum japonicum*	●		●
95			オオシオカラトンボ	*Orthetrum melania*	●		●
96			ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*	●		●
97			コシアキトンボ	*Pseudothemis zonata*	●		●
98			チョウトンボ	*Rhyothemis fuliginosa*	●		●
99			コノシメトンボ	*Sympetrum baccha matutinum*	●		●
100			キトンボ	*Sympetrum croceolum*	●	●	●
101			ナツアカネ	*Sympetrum darwinianum*	●		●
102			マユタテアカネ	*Sympetrum eroticum eroticum*	●		●
103			アキアカネ	*Sympetrum frequens*	●		●
104			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*	●	●	●
105			マイコアカネ	*Sympetrum kunckeli*	●		●
106			マダラナニワトンボ	*Sympetrum maculatum*	●	●	
107			ヒメアカネ	*Sympetrum parvulum*	●		●
108			ミヤマアカネ	*Sympetrum pedemontanum elatum*	●		●
109			リスアカネ	*Sympetrum risi risi*	●		●
110			ネキトンボ	*Sympetrum speciosum speciosum*	●		●
111			ハネビロトンボ	*Tramea virginia*	●		
112	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ	*Panesthia angustipennis spadica*		●	
113		ゴキブリ	ヤマトゴキブリ	*Periplaneta japonica*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (4)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
114	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	チャバネゴキブリ	*Blattella germanica*			●
115			モリチャバネゴキブリ	*Blattella nipponica*			●
116	カマキリ	ヒメカマキリ	ヒメカマキリ	*Acromantis japonica*			●
117		カマキリ	ハラビロカマキリ	*Hierodula patellifera*			●
118			ムネアカハラビロカマキリ	*Hierodula* sp.			●
119			コカマキリ	*Statilia maculata*			●
120			チョウセンカマキリ	*Tenodera angustipennis*			●
121			オオカマキリ	*Tenodera sinensis*			●
122	シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	*Reticulitermes speratus speratus*			●
123	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ	*Anisolabella marginalis*			●
124			ハマベハサミムシ	*Anisolabis maritima*			●
125		クギヌキハサミムシ	コブハサミムシ	*Anechura harmandi*			●
126			エゾハサミムシ	*Eparchus yezoensis*			●
127		オオハサミムシ	オオハサミムシ	*Labidura riparia*			●
128	カワゲラ	オナシカワゲラ	*Amphinemura* 属の一種	*Amphinemura* sp.			●
129		ミドリカワゲラ	セスジミドリカワゲラ	*Sweltsa abdominalis*			●
130		カワゲラ	クロヒゲカワゲラ	*Kamimuria quadrata*			●
131			カミムラカワゲラ	*Kamimuria tibialis*			●
132			ウエノカワゲラ	*Kamimuria uenoi*			●
133			ナガカワゲラ	*Kiotina pictetii*			●
134			ヤマトフタツメカワゲラ	*Neoperla niponensis*			●
135			ヤマトカワゲラ	*Niponiella limbatella*			●
136			オオヤマカワゲラ	*Oyamia lugubris*			●
137			トウゴウカワゲラ	*Togoperla limbata*			●
138		アミメカワゲラ	*Isoperla* 属の一種	*Isoperla* sp.			●
139	バッタ	コロギス	ハネナシコロギス	*Nippancistroger testaceus*			●
140			コロギス	*Prosopogryllacris japonica*			●
141		カマドウマ	カマドウマ	*Atachycines apicalis apicalis*			●
142			ハヤシウマ	*Diestrammena itodo*			●
143			マダラカマドウマ	*Diestrammena japonica*			●
144			モリズミウマ	*Diestrammena tsushimensis*			●
145		ツユムシ	セスジツユムシ	*Ducetia japonica*			●
146			サトクダマキモドキ	*Holochlora japonica*			●
147			ヤマクダマキモドキ	*Holochlora longifissa*			●
148			エゾツユムシ	*Kuwayamaea sapporensis*			●
149			ツユムシ	*Phaneroptera falcata*			●
150			アシグロツユムシ	*Phaneroptera nigroantennata*			●
151			ホソクビツユムシ	*Shirakisotima japonica*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (5)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
152	バッタ	キリギリス	コバネヒメギス	*Chizuella bonneti*			●
153			ウスイロササキリ	*Conocephalus chinensis*			●
154			オナガササキリ	*Conocephalus exemptus*			●
155			コバネササキリ	*Conocephalus japonicus*			●
156			ホシササキリ	*Conocephalus maculatus*			●
157			ササキリ	*Conocephalus melaenus*			●
158			ヒメギス	*Eobiana engelhardti subtropica*			●
159			クビキリギス	*Euconocephalus varius*			●
160			ヒガシキリギリス	*Gampsocleis mikado*			●
161			*Hexacentrus* 属の一種	*Hexacentrus* sp.			●
162			ササキリモドキ	*Kuzicus suzukii*			●
163			ヒメツユムシ	*Leptoteratura* sp.			●
164			ヒメクサキリ	*Ruspolia dubia*			●
165			クサキリ	*Ruspolia lineosa*			●
166			ヤブキリ	*Tettigonia orientalis*			●
167		ケラ	ケラ	*Gryllotalpa orientalis*			●
168		マツムシ	マツムシモドキ	*Aphonoides japonicus*			●
169			クチキコオロギ	*Duolandrevus ivani*			●
170			カヤコオロギ	*Euscyrtus japonicus*			●
171			スズムシ	*Meloimorpha japonica*			●
172			カンタン	*Oecanthus longicauda*			●
173			アオマツムシ	*Truljalia hibinonis*			●
174			マツムシ	*Xenogryllus marmoratus marmoratus*			●
175		コオロギ	ヒメコオロギ	*Comidoblemmus nipponensis*			●
176			ハラオカメコオロギ	*Loxoblemmus campestris*			●
177			ミツカドコオロギ	*Loxoblemmus doenitzi*			●
178			モリオカメコオロギ	*Loxoblemmus sylvestris*			●
179			クマコオロギ	*Mitius minor*			●
180			タンボコオロギ	*Modicogryllus siamensis*			●
181			クマスズムシ	*Sclerogryllus puctatus*			●
182			エンマコオロギ	*Teleogryllus emma*			●
183			ツヅレサセコオロギ	*Velarifictorus micado*			●
184		カネタタキ	カネタタキ	*Ornebius kanetataki*			●
185		ヒバリモドキ	マダラスズ	*Dianemobius nigrofasciatus*			●
186			ヤマトヒバリ	*Homoeoxipha obliterata*			●
187			ヒゲシロスズ	*Polionemobius flavoantennalis*			●
188			シバスズ	*Polionemobius mikado*			●
189			ヒメスズ	*Pteronemobius nigrescens*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (6)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
190	バッタ	ヒバリモドキ	ヤチスズ	*Pteronemobius ohmachii*			●
191			クサヒバリ	*Svistella bifasciata*			●
192			キアシヒバリモドキ	*Trigonidium japonicum*			●
193		バッタ	ショウリョウバッタ	*Acrida cinerea*			●
194			マダラバッタ	*Aiolopus thalassinus tamulus*			●
195			カワラバッタ	*Eusphingonotus japonicus*			●
196			クルマバッタ	*Gastrimargus marmoratus*			●
197			ヒナバッタ	*Glyptobothrus maritimus maritimus*			●
198			ショウリョウバッタモドキ	*Gonista bicolor*			●
199			トノサマバッタ	*Locusta migratoria*			●
200			イナゴモドキ	*Mecostethus parapleurus*			●
201			ナキイナゴ	*Mongolotettix japonicus*			●
202			クルマバッタモドキ	*Oedaleus infernalis*			●
203			ヒロバネヒナバッタ	*Stenobothrus fumatus*			●
204			ツマグロバッタ	*Stethophyma magister*			●
205			イボバッタ	*Trilophidia japonica*			●
206		イナゴ	ハネナガイナゴ	*Oxya japonica*			●
207			コバネイナゴ	*Oxya yezoensis*			●
208			ダイリフキバッタ	*Parapodisma dairisama*			●
209			ヒメフキバッタ	*Parapodisma etsukoana*			●
210			ヤマトフキバッタ	*Parapodisma setouchiensis*			●
－			*Parapodisma* 属の一種	*Parapodisma* sp.			●
211			ツチイナゴ	*Patanga japonica*			●
－			イナゴ科の一種	Catantopidae sp.			●
212		オンブバッタ	オンブバッタ	*Atractomorpha lata*			●
213		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	*Criotettix japonicus*			●
214			ハネナガヒシバッタ	*Euparatettix insularis*			●
215			コバネヒシバッタ	*Formosatettix larvatus*			●
216			ギフヒシバッタ	*Tetrix gifuensis*		●	
217			ハラヒシバッタ	*Tetrix japonica*			●
218			ヤセヒシバッタ	*Tetrix macilenta*			●
219		ノミバッタ	ノミバッタ	*Xya japonica*			●
220	ガロアムシ	－	ガロアムシ目の一種	NOTOPTERA sp.	●		
221	ナナフシ	ナナフシ	ニホントビナナフシ	*Micadina phluctainoides*			●
222			トゲナナフシ	*Neohirasea japonica*			●
223			エダナナフシ	*Phraortes elongatus*			●
224			ナナフシモドキ	*Ramulus mikado*			●
225	チャタテムシ	ケブカチャタテ	ウスベニチャタテ	*Amphipsocus rubrostigma*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (7)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
226	チャタテムシ	チャタテ	オオチャタテ	*Amphigerontia nubila*			●
227			カバイロチャタテ	*Metylophorus nebulosus*			●
228			オオスジチャタテ	*Pseudocerastis kurokiana*			●
229		ホシチャタテ	ホシチャタテ	*Myopsocus muscosa*			●
－		―	チャタテムシ目の一種	PSPCOPTERA sp.			●
230	カメムシ	コガシラウンカ	ウチワコガシラウンカ	*Catanidia sobrina*			●
231			ナワコガシラウンカ	*Errada nawae*			●
232			スジコガシラウンカ	*Errada vittata*			●
233		ヒシウンカ	オビカワウンカ	*Andes harimaensis*			●
234			ハスオビヒシウンカ	*Betacixius obliquus*			●
235			キガシラヒシウンカ	*Kuvera flaviceps*			●
236			ヨスジヒシウンカ	*Reptalus quadricinctus*			●
237		ウンカ	ゴマフウンカ	*Cemus nigroclyeatus*			●
238			ヨシウンカ	*Chloriona japonica*			●
239			タケウンカ	*Epeurysa nawaii*			●
240			ナガラガワウンカ	*Garaga nagaragawana*			●
241			クワヤマウンカ	*Kakuna kuwayamai*			●
242			ヒメトビウンカ	*Laodelphax stratellus*			●
243			トビイロウンカモドキ	*Nilaparvata bakeri*			●
244			トビイロウンカ	*Nilaparvata lugens*			●
245			サメシマウンカ	*Opiconsiva albicollis*			●
246			ハコネホソウンカ	*Sogata hakonensis*			●
247			セジロウンカ	*Sogatella furcifera*			●
248			ハリマナガウンカ	*Stenocranus harimensis*			●
249			エゾナガウンカ	*Stenocranus matsumurai*			●
250			タマガワナガウンカ	*Stenocranus tamagawanus*			●
251			テラウチウンカ	*Terauchiana singularis*			●
252			セスジウンカ	*Terthron albovittatum*			●
253			コブウンカ	*Tropidocephala brunneipennis*			●
254		ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	*Diostrombus politus*			●
255			クロフハネビロウンカ	*Mysidioides sapporoensis*			●
256			マダラハネナガウンカ	*Pamendanga matsumurae*			●
257			キスジハネビロウンカ	*Rhotana satsumana*			●
258			アカメガシワハネビロウンカ	*Vekunta malloti*			●
－			ハネナガウンカ科の一種	Derbridae sp.			●
259		テングスケバ	ナカノテングスケバ	*Dictyophara nakanonis*			●
260			テングスケバ	*Dictyophara patruelis*			●
261		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	*Geisha distinctissima*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (8)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
262	カメムシ	マルウンカ	キボシマルウンカ	*Gergithus iguchii*			●
263			マルウンカ	*Gergithus variabilis*			●
264		シマウンカ	シマウンカ	*Nisia nervosa*			●
265		ハゴロモ	ベッコウハゴロモ	*Orosanga japonicus*			●
266			アミガサハゴロモ	*Pochazia albomaculata*			●
267		グンバイウンカ	タテスジグンバイウンカ	*Catullia vittata*			●
268			ヒシウンカモドキ	*Cixiopsis punctata*			●
269			ヒラタグンバイウンカ	*Ossoides lineatus*			●
270		アカジマウンカ	ニホンアカジマウンカ	*Ommatidiotus japonicus　Y.Hori*		●	
271		セミ	エゾゼミ	*Auritibicen japonicus*	●		
272			クマゼミ	*Cryptotympana facialis*	●		●
273			ヒメハルゼミ	*Euterpnosia chibensis chibensis*	●		
274			アブラゼミ	*Graptopsaltria nigrofuscata*	●		●
275			ミンミンゼミ	*Hyalessa maculaticollis*	●		●
276			チッチゼミ	*Kosemia radiator*	●		●
277			ツクツクボウシ	*Meimuna opalifera*	●		●
278			ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*	●		●
279			ヒグラシ	*Tanna japonensis*	●		●
280			ハルゼミ	*Terpnosia vacua*	●		●
281		ツノゼミ	オビマルツノゼミ	*Gargara katoi*			●
282			トビイロツノゼミ	*Machaerotypus sibiricus*			●
283		アワフキムシ	シロオビアワフキ	*Aphrophora intermedia*			●
284			イシダアワフキ	*Aphrophora ishidae*			●
285			モンキアワフキ	*Aphrophora major*			●
286			ハマベアワフキ	*Aphrophora maritima*			●
287			ヒメシロオビアワフキ	*Aphrophora obliqua*			●
288			マエキアワフキ	*Aphrophora pectoralis*			●
289			ヒメモンキアワフキ	*Aphrophora rugosa*			●
290			ホシアワフキ	*Aphrophora stictica*			●
291			クロスジアワフキ	*Aphrophora vittata*			●
292			マダラアワフキ	*Awafukia nawae*			●
－		―	アワフキムシ上科の一種	Cercopoidea sp.			●
293		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ	*Eoscarta assimilis*			●
294		トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ	*Hindoloides bipunctata*			●
295		ヨコバイ	トバヨコバイ	*Alobaldia tobae*			●
296			モジヨコバイ	*Amimenus mojiensis*			●
297			フタテンヒメヨコバイ	*Arboridia apicalis*			●
298			モンキズキンヨコバイ	*Balcanocerus mali*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (9)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
299	カメムシ	ヨコバイ	タケナガヨコバイ	*Bambusana bambusae*			●
300			ヒメアオズキンヨコバイ	*Batracomorphus diminutus*			●
301			ホシアオズキンヨコバイ	*Batracomorphus stigmaticus*			●
302			ツマグロオオヨコバイ	*Bothrogonia ferruginea*			●
303			オオヨコバイ	*Cicadella viridis*			●
304			オオオナガトガリヨコバイ	*Doratulina grandis*			●
305			オナガトガリヨコバイ	*Doratulina producta*			●
306			ブチミャクヨコバイ	*Drabescus nigrifemoratus*			●
307			イシダヒメヨコバイ	*Edwardsiana ishidai*			●
308			ヨツモンコヒメヨコバイ	*Empoascanara limbata*			●
309			クロミャクイチモンジヨコバイ	*Exitianus indicus*			●
310			フタスジトガリヨコバイ	*Futasujinus candidus*			●
311			サジヨコバイ	*Hecalus prasinus*			●
312			ヒシモンヨコバイ	*Hishimonus sellatus*			●
313			ヒトツメヒメヨコバイ	*Ishiharella polyphemus*			●
314			マエジロオオヨコバイ	*Kolla atramentaria*			●
315			ミミズク	*Ledra auditura*			●
316			コミミズク	*Ledropsis discolor*			●
317			ホシヒメヨコバイ	*Limassolla multipunctata*			●
318			カシハトムネヨコバイ	*Macropsis quercus*			●
319			ヒメフタテンウスバヨコバイ	*Macrosteles striifrons*			●
320			コチャイロヨコバイ	*Matsumurella kogotensis*			●
321			チャイロヨコバイ	*Matsumurella praesul*			●
322			ツマグロヨコバイ	*Nephotettix cincticeps*			●
323			リンゴマダラヨコバイ	*Orientus ishidae*			●
324			クワキヨコバイ	*Pagaronia guttigera*			●
325			モモグロヨコバイ	*Paralaevicephalus nigrifemoratus*			●
326			クロヒラタヨコバイ	*Penthimia nitida*			●
327			ヒトツメヨコバイ	*Phlogotettix cyclops*			●
328			クロサジヨコバイ	*Planaphrodes nigricans*			●
329			ズキンヨコバイ	*Podulmorinus vitticollis*			●
330			シラホシスカシヨコバイ	*Scaphoideus festivus*			●
331			オサヨコバイ	*Tartessus ferrugineus*			●
332			セグロアオズキンヨコバイ	*Trocnadella suturalis*			●
333			イグチホシヨコバイ	*Xestocephalus iguchii*			●
334			ホシヨコバイ	*Xestocephalus japonicus*			●
335			ニッコウホシヨコバイ	*Xestocephalus nikkoensis*			●
－			ヨコバイ科の一種	Cicadellidae sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（10）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
336	カメムシ	キジラミ	イタドリマダラキジラミ	*Aphalara itadori*			●
337			クワキジラミ	*Anomoneura mori*			●
338		アブラムシ	タイワンヒゲナガアブラムシ	*Uroleucon formosanum*			●
339			セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	*Uroleucon nigrotuberculatum*			●
340			ニレワタムシ	*Eriosoma japonicum*			●
341			ヌルデオオミミフシアブラムシ	*Schlechtendalia chinensis*			●
342			パイクヨスジワタムシ	*Tetraneura paiki*			●
－			アブラムシ科の一種	Aphididae sp.			●
343		カタカイガラムシ	カメノコロウムシ	*Ceroplastes japonicus*			●
344			ルビーロウムシ	*Ceroplastes rubens*			●
345		ムクゲカメムシ	カワラムクゲカメムシ	*Cryptostemma japonicum*			●
346		サシガメ	ハリサシガメ	*Acanthaspis cincticrus*			●
347			ヨコヅナサシガメ	*Agriosphodrus dohrni*			●
348			アカサシガメ	*Cydnocoris russatus*			●
349			オオトビサシガメ	*Isyndus obscurus*			●
350			クロサシガメ	*Peirates cinctiventris*			●
351			クロモンサシガメ	*Peirates turpis*			●
352			ヒゲナガサシガメ	*Serendiba staliana*			●
353			シマサシガメ	*Sphedanolestes impressicollis*			●
354			ヤニサシガメ	*Velinus nodipes*			●
355		グンバイムシ	ウチワグンバイ	*Cantacader lethierryi*			●
356			アワダチソウグンバイ	*Corythucha marmorata*			●
357			ナシグンバイ	*Stephanitis nashi*			●
358			ツツジグンバイ	*Stephanitis pyrioides*			●
359			トサカグンバイ	*Stephanitis takeyai*			●
360		カスミカメムシ	ヒゲナガカスミカメ	*Adelphocorisella lespedezae*			●
361			マツノヒゲボソカスミカメ	*Alloeotomus simplus*			●
362			クロバカスミカメ	*Apolygopsis nigritulus*			●
363			シオジツヤマルカスミカメ	*Apolygus fraxinicola*			●
364			フタモンアカカスミカメ	*Apolygus hilaris*			●
365			ヨツボシカスミカメ	*Bertsa lankana*			●
366			ヒメセダカカスミカメ	*Charagochilus angusticollis*			●
367			ケブカアカツヤカスミカメ	*Cimicicapsus koreanus*			●
368			マダラカスミカメ	*Cyphodemidea saundersi*			●
369			オオクロトビカスミカメ	*Ectometopterus micantulus*			●
370			ウスイロホソカスミカメ	*Europiella miyamotoi*			●
371			メンガタカスミカメ	*Eurystylus coelestialium*			●
372			コブヒゲカスミカメ	*Harpocera orientalis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（11）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
373	カメムシ	カスミカメムシ	マキバカスミカメ	*Lygus rugulipennis*			●
374			クロマルカスミカメ	*Orthocephalus funestus*			●
375			オオマダラカスミカメ	*Phytocoris ohataensis*			●
376			マツヒョウタンカスミカメ	*Pilophorus miyamotoi*			●
377			ヒョウタンカスミカメ	*Pilophorus setulosus*			●
378			ウスモンミドリカスミカメ	*Taylorilygus apicalis*			●
379			イネホソミドリカスミカメ	*Trigonotylus caelestialium*			●
380		マキバサシガメ	ホソマキバサシガメ	*Arbela tabida*			●
381			アカマキバサシガメ	*Gorpis brevilineatus*			●
382			ベニモンマキバサシガメ	*Gorpis japonicus*			●
383			ハネナガマキバサシガメ	*Nabis stenoferus*			●
384			キバネアシブトマキバサシガメ	*Prostemma kiborti*			●
385		ヒラタカメムシ	ノコギリヒラタカメムシ	*Aradus orientalis*			●
386			クロヒラタカメムシ	*Brachyrhynchus taiwanicus*			●
387			オオヒラタカメムシ	*Mezira scabrosa*			●
388			トビイロオオヒラタカメムシ	*Neuroctenus castaneus*			●
389			イボヒラタカメムシ	*Usingerida verrucigera*			●
390		オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	*Physopelta gutta*			●
391			ヒメホシカメムシ	*Physopelta parviceps*			●
392		ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	*Pyrrhocoris sibiricus*			●
393			クロホシカメムシ	*Pyrrhocoris sinuaticollis*			●
394		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	*Leptocorisa chinensis*			●
395			キベリヘリカメムシ	*Megalotomus costalis*			●
396			ヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius unicolor*			●
397			ニセヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius vulgaris*			●
398			ホソヘリカメムシ	*Riptortus pedestris*			●
399		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	*Acanthocoris sordidus*			●
400			ホソハリカメムシ	*Cletus punctiger*			●
401			ハリカメムシ	*Cletus schmidti*			●
402			ヘリカメムシ	*Coreus marginatus orientalis*			●
403			ハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus dilatatus*			●
404			オオクモヘリカメムシ	*Homoeocerus striicornis*			●
405			ホシハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus unipunctatus*			●
406			オオツマキヘリカメムシ	*Hygia lativentris*			●
407			ツマキヘリカメムシ	*Hygia opaca*			●
408			オオヘリカメムシ	*Molipteryx fuliginosa*			●
409		ヒメヘリカメムシ	アカヘリカメムシ	*Leptocoris augur*			●
410			スカシヒメヘリカメムシ	*Liorhyssus hyalinus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（12）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
411	カメムシ	ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ	*Rhopalus maculatus*			●
412			ブチヒメヘリカメムシ	*Stictopleurus punctatonervosus*			●
413		ツノヘリカメムシ	ブチヒゲツノヘリカメムシ	*Dicranocephalus medius*			●
414		イトカメムシ	ヒメイトカメムシ	*Metacanthus pulchellus*			●
415			イトカメムシ	*Yemma exilis*			●
416		ナガカメムシ	セスジナガカメムシ	*Arocatus melanostoma*			●
417			ヒョウタンナガカメムシ	*Caridops albomarginatus*			●
418			ニッポンコバネナガカメムシ	*Dimorphopterus japonicus*			●
419			コバネナガカメムシ	*Dimorphopterus pallipes*			●
420			クロナガカメムシ	*Drymus marginatus*			●
421			ヒメオオメナガカメムシ	*Geocoris proteus*			●
422			オオメナガカメムシ	*Geocoris varius*			●
423			サビヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera inconspicua*			●
424			キベリヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera lateralis*			●
425			ツノコバネナガカメムシ	*Iphicrates spinicaput*			●
426			ホソコバネナガカメムシ	*Macropes obnubilus*			●
427			オオモンシロナガカメムシ	*Metochus abbreviatus*			●
428			チャイロナガカメムシ	*Neolethaeus dallasi*			●
429			ホソメダカナガカメムシ	*Ninomimus flavipes*			●
430			ヒメナガカメムシ	*Nysius plebeius*			●
431			ヒラタヒョウタンナガカメムシ	*Pachybrachius luridus*			●
432			ヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha antennata*			●
433			クロヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha nigrovittata*			●
434			クロスジヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha similis*			●
435			シロヘリナガカメムシ	*Panaorus japonicus*			●
436			クロアシホソナガカメムシ	*Paromius jejunus*			●
437			ムラサキナガカメムシ	*Pylorgus colon*			●
438			コバネヒョウタンナガカメムシ	*Togo hemipterus*			●
439			ジュウジナガカメムシ	*Tropidothorax cruciger*			●
440			ヒメジュウジナガカメムシ	*Tropidothorax sinensis*			●
441		メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	*Chauliops fallax*			●
442		ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	*Acanthosoma denticaudum*			●
443			ハサミツノカメムシ	*Acanthosoma labiduroides*			●
444			アオモンツノカメムシ	*Elasmostethus nubilus*			●
445			ヒメツノカメムシ	*Elasmucha putoni*			●
446			エサキモンキツノカメムシ	*Sastragala esakii*			●
447			モンキツノカメムシ	*Sastragala scutellata*			●
－			ツノカメムシ科の一種	Acanthosomatidae sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（13）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
448	カメムシ	ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ	*Adrisa magna*			●
449			チビツヤツチカメムシ	*Chilocoris confusus*			●
450			ヒメツチカメムシ	*Fromundus pygmaeus*			●
451			ツチカメムシ	*Macroscytus japonensis*			●
452		ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	*Megymenum gracilicorne*			●
453		カメムシ	ウズラカメムシ	*Aelia fieberi*			●
454			シロヘリカメムシ	*Aenaria lewisi*			●
455			ウシカメムシ	*Alcimocoris japonensis*			●
456			チャイロクチブトカメムシ	*Arma custos*			●
457			トゲカメムシ	*Carbula abbreviata*			●
458			ブチヒゲカメムシ	*Dolycoris baccarum*			●
459			ハナダカカメムシ	*Dybowskyia reticulata*			●
460			キマダラカメムシ	*Erthesina fullo*			●
461			ナガメ	*Eurydema rugosa*			●
462			トゲシラホシカメムシ	*Eysarcoris aeneus*			●
463			ムラサキシラホシカメムシ	*Eysarcoris annamita*			●
464			マルシラホシカメムシ	*Eysarcoris guttigerus*			●
465			シラホシカメムシ	*Eysarcoris ventralis*			●
466			ツヤアオカメムシ	*Glaucias subpunctatus*			●
467			エビイロカメムシ	*Gonopsis affinis*			●
468			アカスジカメムシ	*Graphosoma rubrolineatum*			●
469			クサギカメムシ	*Halyomorpha halys*			●
470			ヨツボシカメムシ	*Homalogonia obtusa*			●
471			フタテンカメムシ	*Laprius gastricus*			●
472			トホシカメムシ	*Lelia decempunctata*			●
473			ナカボシカメムシ	*Menida musiva*			●
474			ツマジロカメムシ	*Menida violacea*			●
475			アオクサカメムシ	*Nezara antennata*			●
476			ミナミアオカメムシ	*Nezara viridula*			●
477			イネカメムシ	*Niphe elongata*			●
478			エゾアオカメムシ	*Palomena angulosa*			●
479			クチブトカメムシ	*Picromerus lewisi*			●
480			イチモンジカメムシ	*Piezodorus hybneri*			●
481			チャバネアオカメムシ	*Plautia stali*			●
482			オオクロカメムシ	*Scotinophara horvathi*			●
483			イネクロカメムシ	*Scotinophara lurida*			●
484			ヒメクロカメムシ	*Scotinophara scottii*			●
485			タマカメムシ	*Sepontiella aenea*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（14）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
486	カメムシ	マルカメムシ	ヒメマルカメムシ	*Coptosoma biguttulum*			●
487			キボシマルカメムシ	*Coptosoma japonicum*			●
488			タデマルカメムシ	*Coptosoma parvipictum*			●
489			クズマルカメムシ	*Coptosoma semiflavum*			●
490			マルカメムシ	*Megacopta punctatissima*			●
491		キンカメムシ	チャイロカメムシ	*Eurygaster testudinaria*			●
492			アカスジキンカメムシ	*Poecilocoris lewisi*			●
493		クヌギカメムシ	ナシカメムシ	*Urochela luteovaria*			●
494			ヘラクヌギカメムシ	*Urostylis annulicornis*			●
495			サジクヌギカメムシ	*Urostylis striicornis*			●
496			クヌギカメムシ	*Urostylis westwoodii*			●
497		アメンボ	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*		●	●
498			アメンボ	*Aquarius paludum paludum*			●
499			ヒメアメンボ	*Gerris latiabdominis*			●
500			ハネナシアメンボ	*Gerris nepalensis*			●
501			コセアカアメンボ	*Gerris gracilicornis*	●		●
502			ヤスマツアメンボ	*Gerris insularis*			●
503			シマアメンボ	*Metrocoris histrio*			●
504		イトアメンボ	イトアメンボ	*Hydrometra albolineata*		●	
505		カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ	*Microvelia douglasi*			●
506			ホルバートケシカタビロアメンボ	*Microvelia horvathi*			●
507		ミズムシ	ミゾナシミズムシ	*Cymatia apparens*			●
508			チビミズムシ	*Micronecta sedula*			●
509			エサキコミズムシ	*Sigara septemlineata*			●
510			コミズムシ	*Sigara substriata*			●
511		メミズムシ	メミズムシ	*Ochterus marginatus*			●
512		コオイムシ	コオイムシ	*Appasus japonicus*			●
513			タガメ	*Kirkaldyia deyrolli*		●	●
514		タイコウチ	タイコウチ	*Laccotrephes japonensis*			●
515			ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*	●	●	●
516			ミズカマキリ	*Ranatra chinensis*			●
517			ヒメミズカマキリ	*Ranatra unicolor*			●
518		ナベブタムシ	ナベブタムシ	*Aphelocheirus vittatus*	●		●
519		マツモムシ	コマツモムシ	*Anisops ogasawarensis*			●
520			マツモムシ	*Notonecta triguttata*	●		●
521		コバンムシ	コバンムシ	*Ilyocoris cimicoides exclamationis*		●	
522	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ	*Parachauliodes japonicus*			●
－			*Parachauliodes* 属の一種	*Parachauliodes* sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（15）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
523	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	*Protohermes grandis*			●
524		センブリ	チュウブクロセンブリ	*Sialis melania*			●
525			ヤマトセンブリ	*Sialis yamatoensis*			●
526	アミメカゲロウ	ヒロバカゲロウ	オガタヒロバカゲロウ	*Lysmus ogatai*			●
527			スカシヒロバカゲロウ	*Osmylus hyalinatus*			●
528			カスリヒロバカゲロウ	*Spilosmylus nipponensis*			●
529		カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ	*Mantispa japonica japonica*			●
530		ケカゲロウ	ケカゲロウ	*Acroberotha okamotonis*			●
531		クサカゲロウ	クサカゲロウ	*Chrysopa intima*			●
532			ヨツボシクサカゲロウ	*Chrysopa perla*			●
533			ヤマトクサカゲロウ	*Chrysoperla nipponensis*			●
534			ヨツボシアカマダラクサカゲロウ	*Dichochrysa parabora*			●
535			アミメカゲロウ	*Nacaura matsumurae*			●
536		ヒメカゲロウ	ヤマトヒメカゲロウ	*Hemerobius japonicus*			●
537			チャバネヒメカゲロウ	*Eumicromus numerosus*			●
538			ホソバヒメカゲロウ	*Micromus multipunctatus*			●
539		ツノトンボ	ツノトンボ	*Ascalohybris subjacens*			●
540			オオツノトンボ	*Protidricerus japonicus*			●
541		ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	*Baliga micans*			●
542	シリアゲムシ	シリアゲムシ	オオハサミシリアゲ	*Panorpa bicornuta*			●
543			キシタトゲシリアゲ	*Panorpa fulvicaudaria*			●
544			ヤマトシリアゲ	*Panorpa japonica*			●
545			ホソマダラシリアゲ	*Panorpa multifasciaria*			●
546			プライアシリアゲ	*Panorpa pryeri*			●
547			ミスジシリアゲ	*Panorpa trizonata*			●
－			シリアゲムシ科の一種	Panorpidae sp.			●
548	トビケラ	シマトビケラ	コガタシマトビケラ	*Cheumatopsyche brevilineata*			●
549			ナミコガタシマトビケラ	*Cheumatopsyche infascia*			●
550			ミヤマシマトビケラ	*Diplectrona felix*			●
551			キブネミヤマシマトビケラ	*Diplectrona kibuneana*			●
552			DA ミヤマシマトビケラ	*Diplectrona* sp. DA			●
553			DC ミヤマシマトビケラ	*Diplectrona* sp. DC			●
554			ウルマーシマトビケラ	*Hydropsyche orientalis*			●
555			ナカハラシマトビケラ	*Hydropsyche setensis*			●
－			*Hydropsyche* 属の一種	*Hydropsyche* sp.			●
556			オオシマトビケラ	*Macrostemum radiatum*			●
557			PC シロフツヤトビケラ	*Parapsyche* sp. PC			●
558		カワトビケラ	ツダコタニガワトビケラ	*Chimarra tsudai*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（16）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
559	トビケラ	クダトビケラ	*Psychomyia* 属の一種	*Psychomyia* sp.			●
560			Tinodes 属の一種	*Tinodes* sp.			●
561		ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	*Stenopsyche marmorata*			●
562			チャバネヒゲナガカワトビケラ	*Stenopsyche sauteri*			●
563		ヒメトビケラ	マツイヒメトビケラ	*Hydroptila phenianica*			●
564		カメノコヒメトビケラ	*Palaeagapetus* 属の一種	*Palaeagapetus* sp.			●
565		ナガレトビケラ	クレメンスナガレトビケラ	*Rhyacophila clemens*			●
566			カワムラナガレトビケラ	*Rhyacophila kawamurae*			●
567			ニワナガレトビケラ	*Rhyacophila niwae*			●
568			シコツナガレトビケラ	*Rhyacophila shikotsuensis*			●
569		カクスイトビケラ	*Micrasema* 属の一種	*Micrasema* sp.			●
570		アシエダトビケラ	コバントビケラ	*Anisocentropus kawamurai*			●
571		ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	*Goera japonica*			●
572		カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ	*Helicopsyche yamadai*			●
573		カクツツトビケラ	オオカクツツトビケラ	*Lepidostoma crassicorne*			●
574			コカクツツトビケラ	*Lepidostoma japonicum*			●
575			トウヨウカクツツトビケラ	*Lepidostoma orientale*			●
576			ツダカクツツトビケラ	*Lepidostoma tsudai*			●
577		ヒゲナガトビケラ	ハモチクサツミトビケラ	*Oecetis hamochiensis*			●
578		エグリトビケラ	トビモンエグリトビケラ	*Hydatophylax festivus*			●
579			ウスバキトビケラ	*Limnephilus correptus*			●
580			セグロトビケラ	*Limnephilus fuscovittatus*			●
581			エグリトビケラ	*Nemotaulius admorsus*			●
582			ホタルトビケラ	*Nothopsyche ruficollis*			●
583			ヤマガタトビイロトビケラ	*Nothopsyche yamagataensis*			●
584		ホソバトビケラ	ホソバトビケラ	*Molanna moesta*			●
585			イトウホソバトビケラ	*Molannodes itoae*		●	
586		フトヒゲトビケラ	ヨツメトビケラ	*Perissoneura paradoxa*			●
587			ヒトスジキソトビケラ	*Psilotreta japonica*		●	●
588			フタスジキソトビケラ	*Psilotreta kisoensis*			●
589		トビケラ	ムラサキトビケラ	*Eubasilissa regina*			●
590			アミメトビケラ	*Oligotricha fluvipes*			●
591			ツマグロトビケラ	*Phryganea japonica*			●
592		マルバネトビケラ	シロフマルバネトビケラ	*Phryganopsyche brunnea*			●
593			マルバネトビケラ	*Phryganopsyche latipennis*			●
594		ケトビケラ	グマガトビケラ	*Gumaga okinawaensis*			●
－		―	トビケラ目の一種	TRICHOPTERA sp.			●
595	チョウ	コウモリガ	コウモリガ	*Endoclita excrescens*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（17）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
596	チョウ	コウモリガ	キマダラコウモリ	*Endoclita sinensis*			●
597		ミノガ	チャミノガ	*Eumeta minuscula*			●
598			オオミノガ	*Eumeta variegata*			●
599		スカシバガ	ヒメアトスカシバ	*Nokona pernix*			●
600			ブドウスカシバ	*Nokona regalis*			●
601			セスジスカシバ	*Pennisetia fixseni*			●
602			コスカシバ	*Synanthedon hector*			●
603			フタスジコスカシバ	*Synanthedon pseudoscoliaeforme*			●
604		ボクトウガ	ボクトウガ	*Cossus jezoensis*			●
605			ハイイロボクトウ	*Phragmataecia castaneae*	●		
606			ゴマフボクトウ	*Zeuzera multistrigata leuconota*			●
607		イラガ	ムラサキイラガ	*Austrapoda dentata*			●
608			ウスムラサキイラガ	*Austrapoda hepatica*			●
609			マダライラガ	*Kitanola uncula*			●
610			*Microleon* 属の一種	*Microleon longipalpis*			●
611			イラガ	*Monema flavescens*			●
612			ナシイラガ	*Narosoideus flavidorsalis*			●
613			アカイラガ	*Phrixolepia sericea*			●
614			ヒメクロイラガ	*Scopelodes contracta*			●
615		マダラガ	キスジホソマダラ	*Balataea gracilis*			●
616			ウスバツバメガ	*Elcysma westwoodii*			●
617			シロシタホタルガ	*Neochalcosia remota*			●
618			ホタルガ	*Pidorus atratus*	●		●
619			ミノウスバ	*Pryeria sinica*	●		
620		ヒゲナガガ	ウスキヒゲナガ	*Nematopogon distinctus*			●
621			クロハネシロヒゲナガ	*Nemophora albiantennella*			●
622			ウスベニヒゲナガ	*Nemophora staudingerella*			●
623		ヒロズコガ	ハチノスヒロズコガ	*Cephimallota chasanica*			●
624			クロクモヒロズコガ	*Psecadioides aspersus*			●
625			クシヒゲキヒロズコガ	*Pelecystola strigosa*			●
626		スガ	マルギンバネスガ	*Thecobathra anas*			●
627		クチブサガ	ウスイロクチブサガ	*Ypsolopha parenthesella*			●
628			オオキクチブサガ	*Ypsolopha blandella*			●
629		コナガ	コナガ	*Plutella xylostella*			●
630		ホソハマキモドキガ	ツマキホソハマキモドキ	*Lepidotarphius perornatellus*			●
631		ヒラタマルハキバガ	ヨモギセジロマルハキバガ	*Depressaria leucocephala*			●
632		マルハキバガ	ヤシャブシキホリマルハキバガ	*Casmara agronoma*			●
633			シロスジカバマルハキバガ	*Promalactis suzukiella*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（18）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
634	チョウ	マルハキバガ	ゴマフシロハビロキバガ	*Scythropiodes leucostola*			●
635		ヒゲナガキバガ	オビカクバネヒゲナガキバガ	*Deltoplastis apostatis*			●
636			ヒメフタテンホソバヒゲナガキバガ	*Lecithocera tridentata*			●
637			カキノヘタムシガ	*Stathmopoda masinissa*			●
638		ニセマイコガ	ギンモンマイコモドキ	*Pancalia isshikii*			●
639		カザリバガ	セジロトガリホソガ	*Labdia issikii*			●
640			サクラキバガ	*Anacampsis anisogramma*			●
641		キバガ	フジフサキバガ	*Dichomeris oceanis*			●
642			コフサキバガ	*Dichomeris acuminata*			●
643			カバイロキバガ	*Dichomeris heriguronis*			●
644			チャモンシロキバガ	*Encolapta catarina*			●
645			セミヤドリガ	*Epipomponia nawai*			●
646		セミヤドリガ	ウスアミメキハマキ	*Tortrix sinapina*			●
647		ハマキガ	ギンボシトビハマキ	*Spatalistis christophana*			●
648			プライヤハマキ	*Acleris affinatana*			●
649			ウスグロフユハマキ	*Kawabeia nigricolor*			●
650			アトキハマキ	*Archips audax*			●
651			オオアトキハマキ	*Archips ingentana*			●
652			マツアトキハマキ	*Archips oporana*			●
653			シリグロハマキ	*Archips nigricaudana*			●
654			アトボシハマキ	*Choristoneura longicellana*			●
655			チャハマキ	*Homona magnanima*			●
656			オオギンスジハマキ	*Ptycholoma lecheana circumclusana*			●
657			ウストビハマキ	*Pandemis chlorograpta*			●
658			コホソスジハマキ	*Neocalyptis angustilineata*			●
659			トビモンコハマキ	*Diplocalyptis congruentana*			●
660			ビロードハマキ	*Cerace xanthocosma*			●
661			ヘリオビヒメハマキ	*Cryptaspasma marginifasciata*			●
662			ツママルモンヒメハマキ	*Eudemis brevisetosa*			●
663			ツマベニヒメハマキ	*Phaecasiophora roseana*			●
664			コシロアシヒメハマキ	*Hystrichoscelus spathanum*			●
665			シロモンヒメハマキ	*Hedya dimidiana*			●
666			ニセシロモンヒメハマキ	*Hedya ignara*			●
667			グミツマジロヒメハマキ	*Apotomis geminata*			●
668			コクリオビクロヒメハマキ	*Olethreutes orthocosma*			●
669			キカギヒメハマキ	*Rhopalovalva pulchra*			●
670			ヒロオビヒメハマキ	*Epinotia bicolor*			●
671			ヨモギネムシガ	*Epiblema foenella*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（19）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
672	チョウ	ハマキガ	アシブトヒメハマキ	*Cryptophlebia ombrodelta*			●
673			ヨツメヒメハマキ	*Cydia danilevskyi*			●
674			シロアシヨツメモンヒメハマキ	*Cydia japonensis*			●
675			クリミガ	*Cydia kurokoi*			●
676			アイノトリバ	*Platyptilia ainonis*			●
677		トリバガ	ブドウトリバ	*Nippoptilia vitis*			●
678			オダマキトリバ	*Amblyptilia punctidactyla*			●
679			ヨモギトリバ	*Hellinsia lienigianus*			●
680			ホソオビコマルハキバガ	*Acryptolechia malacobyrsa*			●
681		セセリチョウ	アオバセセリ本土亜種	*Choaspes benjaminii japonicus*	●		●
682			ダイミョウセセリ	*Daimio tethys tethys*	●		●
683			ミヤマセセリ	*Erynnis montana montana*	●		●
684			ホソバセセリ	*Isoteinon lamprospilus lamprospilus*	●	●	●
685			ヒメキマダラセセリ	*Ochlodes ochraceus*	●		●
686			イチモンジセセリ	*Parnara guttata guttata*	●		●
687			ミヤマチャバネセセリ	*Pelopidas jansonis*		●	●
688			チャバネセセリ	*Pelopidas mathias oberthueri*	●		●
689			オオチャバネセセリ	*Polytremis pellucida pellucida*	●		●
690			キマダラセセリ	*Potanthus flavus flavus*	●		●
691			チャマダラセセリ	*Pyrgus maculatus maculatus*			●
692			コチャバネセセリ	*Thoressa varia*	●		●
693		シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ	*Antigius attilia attilia*	●		●
694			ウラゴマダラシジミ	*Artopoetes pryeri pryeri*	●		●
695			ムラサキツバメ	*Arhopala bazalus turbata*			●
696			ムラサキシジミ	*Arhopala japonica*	●		●
697			コツバメ	*Callophrys ferrea ferrea*	●		●
698			ルリシジミ	*Celastrina argiolus ladonides*	●		●
699			ウラギンシジミ	*Curetis acuta paracuta*	●		●
700			ツバメシジミ	*Everes argiades argiades*	●		●
701			オオミドリシジミ	*Favonius orientalis*	●	●	
702			ウラクロシジミ	*Iratsume orsedice orsedice*	●	●	●
703			アカシジミ	*Japonica lutea lutea*	●		●
704			ウラナミアカシジミ	*Japonica saepestriata saepestriata*	●		●
705			ウラナミシジミ	*Lampides boeticus*	●		●
706			ベニシジミ	*Lycaena phlaeas chinensis*	●		●
707			ミドリシジミ	*Neozephyrus japonicus japonicus*	●		●
708			ゴマシジミ本州中部亜種	*Phengaris teleius kazamoto*	●		
709			ヒメシジミ本州・九州亜種	*Plebejus argus micrargus*	●		

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（20）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
710	チョウ	シジミチョウ	ヒメウラナミシジミ	*Prosotas nora kanoi*			●
711			トラフシジミ	*Rapala arata*	●		●
712			ウラミスジシジミ	*Wagimo signatus*	●		●
713			ヤマトシジミ本土亜種	*Zizeeria maha argia*	●		●
－			シジミチョウ科の一種	Lycaenidae sp.			●
714		タテハチョウ	コムラサキ	*Apatura metis substituta*	●		●
715			サカハチチョウ	*Araschnia burejana burejana*	●		●
716			ミドリヒョウモン	*Argynnis paphia tsushimana*	●		●
717			ツマグロヒョウモン	*Argyreus hyperbius hyperbius*	●		●
718			ウラギンスジヒョウモン	*Argyronome laodice japonica*	●	●	●
719			オオウラギンスジヒョウモン	*Argyronome ruslana*	●	●	●
720			ヒメヒカゲ本州中部亜種	*Coenonympha oedippus* ssp.	●	●	
721			メスグロヒョウモン	*Damora sagana liane*	●		●
722			スミナガシ本土亜種	*Dichorragia nesimachus nesiotes*	●		●
723			ウラギンヒョウモン	*Fabriciana adippe pallescens*	●		●
724			ゴマダラチョウ本土亜種	*Hestina persimilis japonica*	●		●
725			ルリタテハ本土亜種	*Kaniska canace nojaponicum*	●		●
726			クロヒカゲ本土亜種	*Lethe diana diana*	●		●
727			ヒカゲチョウ	*Lethe sicelis*	●		●
728			テングチョウ日本本土亜種	*Libythea lepita celtoides*	●		●
729			イチモンジチョウ	*Limenitis camilla japonica*	●		●
730			アサマイチモンジ	*Limenitis glorifica*	●		●
731			ウスイロコノマチョウ	*Melanitis leda leda*			●
732			クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*	●		●
733			ジャノメチョウ	*Minois dryas bipunctata*	●		●
734			コジャノメ	*Mycalesis francisca perdiccas*	●		●
735			ヒメジャノメ	*Mycalesis gotama fulginia*	●		●
736			サトキマダラヒカゲ	*Neope goschkevitschii*	●		●
737			ヤマキマダラヒカゲ本土亜種	*Neope niphonica niphonica*			●
738			クモガタヒョウモン	*Nephargynnis anadyomene ella*	●		●
739			オオミスジ	*Neptis alwina*	●		●
740			ミスジチョウ	*Neptis philyra philyra*	●		●
741			ホシミスジ東北・中部地方亜種	*Neptis pryeri iwasei*	●		
742			コミスジ本州以南亜種	*Neptis sappho intermedia*	●		●
743			オオヒカゲ	*Ninguta schrenckii schrenckii*	●	●	●
744			ヒオドシチョウ	*Nymphalis xanthomelas japonica*	●		●
745			アサギマダラ	*Parantica sita niphonica*	●		●
746			キタテハ	*Polygonia c-aureum c-aureum*	●		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（21）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
747	チョウ	タテハチョウ	オオムラサキ	*Sasakia charonda charonda*	●	●	●
748			ギンボシヒョウモン本州亜種	*Speyeria aglaja fortuna*			●
749			ヒメアカタテハ	*Vanessa cardui*	●		●
750			アカタテハ	*Vanessa indica indica*	●		●
751			ヒメウラナミジャノメ	*Ypthima argus argus*	●		●
752			ウラナミジャノメ本土亜種	*Ypthima multistriata Butler*	●	●	
753		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	*Atrophaneura alcinous alcinous*	●		●
754			アオスジアゲハ	*Graphium sarpedon nipponum*	●		●
755			ギフチョウ	*Luehdorfia japonica*	●	●	●
756			カラスアゲハ本土亜種	*Papilio dehaanii dehaanii*	●		●
757			モンキアゲハ	*Papilio helenus nicconicolens*	●		●
758			ミヤマカラスアゲハ	*Papilio maackii*	●		●
759			キアゲハ	*Papilio machaon hippocrates*	●		●
760			オナガアゲハ	*Papilio macilentus macilentus*	●		●
761			ナガサキアゲハ	*Papilio memnon thunbergii*			●
762			クロアゲハ本土亜種	*Papilio protenor demetrius*	●		●
763			アゲハ	*Papilio xuthus*	●		●
764			ホソオチョウ	*Sericinus montela*			●
765		シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種	*Anthocharis scolymus scolymus*	●		●
766			モンキチョウ	*Colias erate poliographa*	●		●
767			ツマグロキチョウ	*Eurema laeta betheseba*	●	●	●
768			キタキチョウ	*Eurema mandarina*	●		●
769			スジボソヤマキチョウ	*Gonepteryx aspasia niphonica*	●	●	
770			スジグロシロチョウ	*Pieris melete*	●		●
771			モンシロチョウ	*Pieris rapae crucivora*	●		●
772		ツトガ	ウスムラサキノメイガ	*Agrotera nemoralis*			●
773			キボシノメイガ	*Analthes insignis*			●
774			ハラナガキマダラノメイガ	*Analthes maculalis*			●
775			シロヒトモンノメイガ	*Analthes semitritalis orbicularis*			●
776			シロモンクロノメイガ本州亜種	*Anania funebris astrifera*			●
777			ツトガ	*Ancylolomia japonica*			●
778			フチムラサキノメイガ	*Aurorobotys aurorina*			●
779			シロモンノメイガ	*Bocchoris inspersalis*			●
780			オオキノメイガ	*Botyodes principalis*			●
781			アカウスグロノメイガ	*Bradina angustalis pryeri*			●
782			ヒメアカウスグロノメイガ	*Bradina trigonalis*			●
783			ヒメキテンシロツトガ	*Calamotropha fulvifusalis*			●
784			キスジツトガ	*Calamotropha nigripunctella*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（22）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
785	チョウ	ツトガ	シロツトガ	*Calamotropha paludella purella*			●
786			フタオレツトガ	*Calamotropha yamanakai yamanakai*			●
787			ハナダカノメイガ	*Camptomastix hisbonalis*			●
788			オオシロモンノメイガ	*Chabula telphusalis*			●
789			ウスクロスジツトガ	*Chrysoteuchia diplogramma*			●
790			ナカモンツトガ	*Chrysoteuchia porcelanella*			●
791			キベリハネボソノメイガ	*Circobotys aurealis*			●
792			カギバノメイガ	*Circobotys nycterina*			●
793			コブノメイガ	*Cnaphalocrocis medinalis*			●
794			ハカジモドキノメイガ	*Cnaphalocrocis stereogona*			●
795			モモノゴマダラノメイガ	*Conogethes punctiferalis*			●
796			シロスジツトガ	*Crambus argyrophorus*			●
797			シロアヤヒメノメイガ	*Diasemia reticularis*			●
798			マダラミズメイガ	*Elophila interruptalis interruptalis*			●
799			クロスジマダラミズメイガ	*Elophila miurai*			●
800			ヒメマダラミズメイガ	*Elophila turbata*			●
801			クロスジツトガ	*Flavocrambus striatellus*			●
802			シロエグリツトガ	*Glaucocharis exsectella*			●
803			チビスカシノメイガ	*Glyphodes duplicalis*			●
804			クワノメイガ	*Glyphodes pyloalis*			●
805			クロヘリキノメイガ	*Goniorhynchus butyrosus*			●
806			クロズノメイガ	*Goniorhynchus exemplaris*			●
807			ムラサキクルマメイガ	*Hemiscopis purpurea*			●
808			ヘリグロノメイガ	*Herpetogramma cynarale*			●
809			ウスオビクロノメイガ	*Herpetogramma fuscescens*			●
810			モンキクロノメイガ	*Herpetogramma luctuosale zelleri*			●
811			マエキノメイガ	*Herpetogramma rude*			●
812			ミツテンノメイガ	*Mabra charonialis*			●
813			マメノメイガ	*Maruca vitrata*			●
814			シロテンキノメイガ	*Nacoleia commixta*			●
815			サツマキノメイガ	*Nacoleia satsumalis*			●
816			ホシオビホソノメイガ	*Nomis albopedalis*			●
817			ギンモンミズメイガ	*Nymphula corculina*			●
818			ヒメクロミスジノメイガ	*Omiodes miserus*			●
819			キバラノメイガ	*Omiodes noctescens*			●
820			クロミスジノメイガ	*Omiodes similis*			●
821			アズキノメイガ本州・四国・九州亜種	*Ostrinia scapulalis subpacifica*			●
822			ヨスジノメイガ	*Pagyda quadrilineata*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（23）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
823	チョウ	ツトガ	ヘリジロキンノメイガ	*Paliga auratalis*			●
824			マエベニノメイガ	*Paliga minnehaha*			●
825			マエウスモンキノメイガ	*Paliga ochrealis*			●
826			ヒメシロノメイガ	*Palpita inusitata*			●
827			マエアカスカシノメイガ	*Palpita nigropunctalis*			●
828			ゼニガサミズメイガ	*Paracymoriza prodigalis*			●
829			シバツトガ	*Parapediasia teterella*			●
830			フチグロノメイガ	*Paratalanta ussurialis*			●
831			キイロノメイガ	*Perinephela lancealis honshuensis*			●
832			クビシロノメイガ	*Piletocera aegimiusalis*			●
833			コガタシロモンノメイガ	*Piletocera sodalis*			●
834			ナガハマツトガ	*Platytes ornatella*			●
835			クロスジキンノメイガ	*Pleuroptya balteata*			●
836			ホソミスジノメイガ	*Pleuroptya chlorophanta*			●
837			ウコンノメイガ	*Pleuroptya ruralis*			●
838			ツマグロシロノメイガ	*Polythlipta liquidalis*			●
839			キオビミズメイガ	*Potamomusa midas*			●
840			ホソスジツトガ	*Pseudargyria interruptella*			●
841			トモンノメイガ	*Pyrausta limbata*			●
842			シロオビノメイガ	*Spoladea recurvalis*			●
843			シロスジエグリノメイガ	*Sufetula sunidesalis*			●
844			モンシロクロノメイガ	*Syllepte segnalis*			●
845			タイワンモンキノメイガ	*Syllepte taiwanalis*			●
846			ヨツボシノメイガ	*Talanga quadrimaculalis*			●
847			ウンモンシロノメイガ	*Togabotys fuscolineatalis*			●
848			セスジノメイガ	*Torulisquama evenoralis*			●
849			フタオビモンメイガ	*Trichophysetis cretacea*			●
850			トビマダラモンメイガ	*Trichophysetis rufoterminalis*			●
851			クロスジノメイガ	*Tyspanodes striatus striatus*			●
852			モンシロルリノメイガ	*Uresiphita tricolor*			●
853		メイガ	ナシモンクロマダラメイガ	*Acrobasis bellulella*			●
854			ウスアカマダラメイガ	*Acrobasis encaustella*			●
855			ウスアカムラサキマダラメイガ	*Addyme confusalis*			●
856			ツマグロシマメイガ	*Arippara indicator*			●
857			マツノマダラメイガ	*Dioryctria abietella*			●
858			ウスオビトガリメイガ	*Endotricha consocia*			●
859			オオウスベニトガリメイガ	*Endotricha icelusalis*			●
860			キモントガリメイガ	*Endotricha kuznetzovi*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（24）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
861	チョウ	メイガ	キベリトガリメイガ	*Endotricha minialis*			●
862			ウスベニトガリメイガ	*Endotricha olivacealis*			●
863			シロイチモジマダラメイガ	*Etiella zinckenella*			●
864			フタスジツヅリガ	*Eulophopalpia pauperalis*			●
865			アカヘリシマメイガ	*Herculia drabicilialis*			●
866			アカシマメイガ	*Herculia pelasgalis*			●
867			トビイロシマメイガ	*Hypsopygia regina*			●
868			トビマダラメイガ	*Kaurava ardentella*			●
869			ナカムラサキフトメイガ	*Lista ficki*			●
870			クシヒゲマダラメイガ	*Mussidia pectinicornella*			●
871			アカマダラメイガ	*Oncocera semirubella*			●
872			ナカトビフトメイガ	*Orthaga achatina*			●
873			フタスジシマメイガ	*Orthopygia glaucinalis*			●
874			ツマキシマメイガ	*Orthopygia placens*			●
875			マエジロギンマダラメイガ	*Pseudacrobasis nankingella*			●
876			ギンモンシマメイガ	*Pyralis regalis subregalis*			●
877			オオフトメイガ	*Salma amica*			●
878			ミカドマダラメイガ	*Sciota mikadella*			●
879			ナカアカシマメイガ	*Tamraca torridalis*			●
880			マエモンシマメイガ	*Tegulifera bicoloralis*			●
881			フタスジフトメイガ	*Termioptycha bilineata*			●
882			クロフトメイガ	*Termioptycha nigrescens*			●
883		マドガ	ヒメマダラマドガ	*Rhodoneura hyphaema*			●
884			ウスマダラマドガ	*Rhodoneura pallida*			●
885			スギタニマドガ	*Rhodoneura sugitanii*			●
886			マダラマドガ	*Rhodoneura vittula*			●
887			アミメマドガ	*Striglina suzukii*			●
888			マドガ	*Thyris usitata*			●
889		カギバガ	マエキカギバ	*Agnidra scabiosa scabiosa*			●
890			ホシボシトガリバ	*Demopsestis punctigera*			●
891			ニッコウトガリバ	*Epipsestis nikkoensis*			●
892			ムラサキトガリバ	*Epipsestis ornata*			●
893			オオアヤトガリバ	*Habrosyne fraterna japonica*			●
894			アカウラカギバ	*Hypsomadius insignis*			●
895			サカハチトガリバ	*Kurama mirabilis*			●
896			スカシカギバ	*Macrauzata maxima*			●
897			ウスギヌカギバ	*Macrocilix mysticata watsoni*			●
898			ウスベニトガリバ	*Monothyatira pryeri*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（25）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
899	チョウ	カギバガ	ナカジロトガリバ	*Nemacerota suzukiana*			●
900			マユミトガリバ	*Neoploca arctipennis*			●
901			ヤマトカギバ	*Nordstromia japonica*			●
902			アシベニカギバ	*Oreta pulchripes*			●
903			オオマエベニトガリバ	*Tethea consimilis consimilis*			●
904			モントガリバ	*Thyatira batis*			●
905			ウコンカギバ	*Tridrepana crocea*			●
906		アゲハモドキガ	アゲハモドキ	*Epicopeia hainesii hainesii*			●
907			キンモンガ	*Psychostrophia melanargia*			●
908		シャクガ	ユウマダラエダシャク	*Abraxas miranda miranda*			●
909			ヒメマダラエダシャク	*Abraxas niphonibia*			●
910			フタマエホシエダシャク	*Achrosis paupera*			●
911			オオノコメエダシャク	*Acrodontis fumosa*			●
912			ヒメノコメエダシャク	*Acrodontis kotshubeji*			●
913			ハンノトビスジエダシャク	*Aethalura ignobilis*			●
914			エグリイチモジエダシャク	*Agaraeus discolor*			●
915			アシブトチズモンアオシャク	*Agathia visenda curvifiniens*			●
916			シロフフユエダシャク	*Agriopis dira*			●
917			ナカウスエダシャク	*Alcis angulifera*			●
918			ヒメナカウスエダシャク	*Alcis medialbifera*			●
919			ウスイロオオエダシャク	*Amraica superans superans*			●
920			ゴマフキエダシャク	*Angerona nigrisparsa*			●
921			ゴマダラシロエダシャク	*Antipercnia albinigrata albinigrata*			●
922			クロクモエダシャク	*Apocleora rimosa*			●
923			ヒョウモンエダシャク	*Arichanna gaschkevitchii gaschkevitchii*			●
924			キシタエダシャク	*Arichanna melanaria fraterna*			●
925			ヨモギエダシャク本州以南亜種	*Ascotis selenaria cretacea*			●
926			キエダシャク	*Auaxa sulphurea*			●
927			キオビゴマダラエダシャク	*Biston panterinaria sychnospilas*			●
928			ツマトビキエダシャク	*Bizia aexaria*			●
929			キリバネホソナミシャク	*Brabira artemidora artemidora*			●
930			アトグロアミメエダシャク	*Cabera griseolimbata griseolimbata*			●
931			フタモンクロナミシャク	*Catarhoe obscura obscura*			●
932			フタテンオエダシャク	*Chiasmia defixaria*			●
933			ホソバハラアカアオシャク	*Chlorissa anadema*			●
934			クロスジアオナミシャク	*Chloroclystis v-ata*			●
935			シロテンエダシャク	*Cleora leucophaea leucophaea*			●
936			カバエダシャク	*Colotois pennaria ussuriensis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（26）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
937	チョウ	シャクガ	クロモンアオシャク	*Comibaena nigromacularia*			●
938			ヨツモンマエジロアオシャク	*Comibaena procumbaria*			●
939			コヨツメアオシャク	*Comostola subtiliaria nympha*			●
940			ヒゲマダラエダシャク	*Cryptochorina amphidasyaria*			●
941			アカアシアオシャク	*Culpinia diffusa*			●
942			セブトエダシャク本州亜種	*Cusiala stipitaria kariuzawensis*			●
943			ヒロオビトンボエダシャク	*Cystidia truncangulata*			●
944			マツオオエダシャク	*Deileptenia ribeata*			●
945			ハスオビエダシャク	*Descoreba simplex*			●
946			クロフシロエダシャク	*Dilophodes elegans elegans*			●
947			ウスアオシャク	*Dindica virescens*			●
948			オオトビエダシャク	*Duliophyle majuscularia*			●
949			ツマキナカジロナミシャク	*Dysstroma citrata nyiwonis*			●
950			ソトキナミシャク	*Ecliptopera pryeri*			●
951			オオハガタナミシャク	*Ecliptopera umbrosaria umbrosaria*			●
952			フトフタオビエダシャク	*Ectropis crepuscularia*			●
953			オオトビスジエダシャク	*Ectropis excellens*			●
954			ウスジロエダシャク	*Ectropis obliqua*			●
955			ツマキリエダシャク	*Endropiodes abjecta abjecta*			●
956			ツツジツマキリエダシャク	*Endropiodes circumflexa*			●
957			モミジツマキリエダシャク	*Endropiodes indictinaria*			●
958			チャバネフユエダシャク	*Erannis golda*			●
959			ウスベニスジナミシャク	*Esakiopteryx volitans*			●
960			ヘリスジナミシャク	*Eschatarchia lineata lineata*			●
961			ウスオビヒメエダシャク	*Euchristophia cumulata cumulata*			●
962			ヒメシロフアオシャク	*Eucyclodes infracta*			●
963			ウストビモンナミシャク	*Eulithis ledereri*			●
964			ミジンカバナミシャク	*Eupithecia addictata*			●
965			マエナミカバナミシャク	*Eupithecia niphonaria*			●
966			ウスカバナミシャク	*Eupithecia proterva*			●
967			ナカオビカバナミシャク	*Eupithecia subbreviata*			●
968			ミヤマアミメナミシャク	*Eustroma aerosa*			●
969			セスジナミシャク	*Evecliptopera illitata illitata*			●
970			キガシラオオナミシャク	*Gandaritis agnes agnes*			●
971			マルモンシロナミシャク	*Gandaritis evanescens*			●
972			キマダラオオナミシャク	*Gandaritis fixseni*			●
973			ツマキシロナミシャク	*Gandaritis whitelyi whitelyi*			●
974			キバラエダシャク	*Garaeus specularis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（27）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
975	チョウ	シャクガ	クロスジアオシャク	*Geometra valida*			●
976			コシロスジアオシャク	*Hemistola veneta*			●
977			アオスジアオシャク	*Hemithea marina*			●
978			ヘリグロヒメアオシャク	*Hemithea tritonaria*			●
979			ナミガタエダシャク	*Heterarmia charon charon*			●
980			ウラベニエダシャク	*Heterolocha aristonaria*			●
981			コウスグモナミシャク	*Heterophleps confusa confusa*			●
982			シロシタトビイロナミシャク	*Heterothera postalbida*			●
983			クロスジハイイロエダシャク	*Hirasa paupera*			●
984			ウラキトガリエダシャク	*Hypephyra terrosa pryeraria*			●
985			オオバナミガタエダシャク	*Hypomecis lunifera*			●
986			ウスバミスジエダシャク	*Hypomecis punctinalis conferenda*			●
987			ヨスジキヒメシャク	*Idaea auricruda*			●
988			オオウスモンキヒメシャク	*Idaea imbecilla*			●
989			キオビベニヒメシャク	*Idaea impexa*			●
990			オイワケヒメシャク	*Idaea invalida invalida*			●
991			ベニヒメシャク	*Idaea muricata minor*			●
992			ホソスジキヒメシャク	*Idaea remissa*			●
993			ウスクロテンヒメシャク	*Idaea salutaria*			●
994			ミジンキヒメシャク	*Idaea trisetata*			●
995			ナミスジコアオシャク	*Idiochlora ussuriaria*			●
996			モンキキナミシャク	*Idiotephria amelia*			●
997			ギフウスキナミシャク	*Idiotephria debilitata*			●
998			ウスバフユシャク	*Inurois fletcheri*			●
999			クロテンフユシャク	*Inurois membranaria*			●
1000			チャノウンモンエダシャク	*Jankowskia fuscaria fuscaria*			●
1001			ナミガタウスキアオシャク	*Jodis lactearia*			●
1002			ヒメウスアオシャク	*Jodis putata*			●
1003			スカシエダシャク	*Krananda semihyalina*			●
1004			アトクロナミシャク	*Lampropteryx minna*			●
1005			ニッコウエダシャク	*Lassaba nikkonis*			●
1006			シロスジヒメエダシャク	*Ligdia japonaria*			●
1007			シロホソスジナミシャク	*Lobogonodes multistriata*			●
1008			フタホシシロエダシャク	*Lomographa bimaculata subnotata*			●
1009			クロズウスキエダシャク	*Lomographa simplicior simplicior*			●
1010			バラシロエダシャク	*Lomographa temerata*			●
1011			ヒメツバメアオシャク	*Maxates protrusa*			●
1012			ウスクモエダシャク	*Menophra senilis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（28）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1013	チョウ	シャクガ	チビトビスジエダシャク	*Myrioblephara nanaria*			●
1014			クロミスジシロエダシャク	*Myrteta angelica angelica*			●
1015			キマエアオシャク	*Neohipparchus vallata*			●
1016			ウチムラサキヒメエダシャク	*Ninodes splendens*			●
1017			マエキトビエダシャク	*Nothomiza formosa*			●
1018			オオマエキトビエダシャク	*Nothomiza oxygoniodes*			●
1019			ナカオビアキナミシャク	*Nothoporinia mediolineata*			●
1020			エグリヅマエダシャク	*Odontopera arida arida*			●
1021			ナミスジフユナミシャク	*Operophtera brunnea*			●
1022			クロオビフユナミシャク	*Operophtera relegata*			●
1023			コヨツメエダシャク	*Ophthalmitis irrorataria*			●
1024			ナミスジシロエダシャク	*Orthocabera tinagmaria tinagmaria*			●
1025			トビスジヒメナミシャク	*Orthonama obstipata*			●
1026			シロツバメエダシャク	*Ourapteryx maculicaudaria*			●
1027			ウスキツバメエダシャク	*Ourapteryx nivea*			●
1028			コガタツバメエダシャク	*Ourapteryx obtusicauda*			●
1029			オオアヤシャク	*Pachista superans*			●
1030			クロスジフユエダシャク	*Pachyerannis obliquaria*			●
1031			アトジロエダシャク	*Pachyligia dolosa*			●
1032			ウスアオエダシャク	*Parabapta clarissa*			●
1033			ヒロバウスアオエダシャク	*Paradarisa chloauges kurosawai*			●
1034			オオゴマダラエダシャク	*Parapercnia giraffata*			●
1035			ツマキリウスキエダシャク	*Pareclipsis gracilis*			●
1036			ウラモンアカエダシャク	*Parepione grata*			●
1037			クスアオシャク	*Pelagodes subquadraria*			●
1038			クロフヒメエダシャク	*Peratophyga grata grata*			●
1039			ヤマトエダシャク	*Peratostega deletaria hypotaenia*			●
1040			シモフリトゲエダシャク	*Phigalia sinuosaria*			●
1041			シロトゲエダシャク	*Phigalia verecundaria*			●
1042			チャオビフユエダシャク	*Phigaliohybernia fulvinfula*			●
1043			ネグロウスベニナミシャク	*Photoscotosia atrostrigata*			●
1044			トビネオオエダシャク	*Phthonosema invenustaria invenustaria*			●
1045			リンゴツノエダシャク	*Phthonosema tendinosaria*			●
1046			ウスアオアヤシャク	*Pingasa aigneri aigneri*			●
1047			ナカキエダシャク	*Plagodis dolabraria*			●
1048			ホソバトガリエダシャク	*Planociampa modesta*			●
1049			ツマキエダシャク	*Platycerota incertaria*			●
1050			マエキオエダシャク	*Plesiomorpha flaviceps*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（29）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1051	チョウ	シャクガ	モンオビオエダシャク	*Plesiomorpha punctilinearia*			●
1052			クロスジオオシロヒメシャク	*Problepsis diazoma*			●
1053			ヒトツメオオシロヒメシャク	*Problepsis superans superans*			●
1054			オレクギエダシャク	*Protoboarmia simpliciaria*			●
1055			ウスバキエダシャク	*Pseuderannis lomozemia*			●
1056			サビイロナミシャク	*Pseudocollix hyperythra catalalia*			●
1057			フタナミトビヒメシャク	*Pylargosceles steganioides steganioides*			●
1058			ホシミスジエダシャク	*Racotis boarmiaria*	●		●
1059			ナミスジエダシャク	*Racotis petrosa*			●
1060			フタスジオエダシャク	*Rhynchobapta cervinaria bilineata*			●
1061			フタヤマエダシャク	*Rikiosatoa grisea*			●
1062			ハラゲチビエダシャク	*Satoblephara parvularia*			●
1063			キトガリヒメシャク	*Scopula emissaria lactea*			●
1064			ギンバネヒメシャク	*Scopula epiorrhoe*			●
1065			ウスキクロテンヒメシャク	*Scopula ignobilis*			●
1066			ナミスジチビヒメシャク	*Scopula personata*			●
1067			クロスジシロヒメシャク	*Scopula pudicaria*			●
1068			キナミシロヒメシャク	*Scopula superior*			●
1069			タカオシロヒメシャク	*Scopula takao*			●
1070			アメイロヒメシャク	*Scopula tenuisocius*			●
1071			ビロードナミシャク	*Sibatania mactata*			●
1072			ウンモンオオシロヒメシャク	*Somatina indicataria morata*			●
1073			クロハグルマエダシャク	*Synegia esther*			●
1074			ハグルマエダシャク	*Synegia hadassa hadassa*			●
1075			マルハグルマエダシャク	*Synegia ichinosawana*			●
1076			スジハグルマエダシャク	*Synegia limitatoides*			●
1077			カギバアオシャク	*Tanaorhinus reciprocata confuciaria*			●
1078			テンヅマナミシャク	*Telenomeuta punctimarginaria punctimarginaria*			●
1079			ハガタアオシャク	*Thalera rubrifimbria*			●
1080			キマダラツバメエダシャク	*Thinopteryx crocoptera striolata*			●
1081			ミヤマツバメエダシャク	*Thinopteryx delectans*			●
1082			コベニスジヒメシャク	*Timandra comptaria*			●
1083			ベニスジヒメシャク	*Timandra recompta prouti*			●
1084			シロシタコバネナミシャク	*Trichopteryx fastuosa*			●
1085			ウスミドリコバネナミシャク	*Trichopteryx miracula*			●
1086			クロシタコバネナミシャク	*Trichopteryx misera*			●
1087			ホソバナミシャク	*Tyloptera bella bella*			●
1088			モンシロツマキリエダシャク	*Xerodes albonotaria albonotaria*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（30）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1089	チョウ	シャクガ	ミスジツマキリエダシャク	*Xerodes rufescentaria*			●
－			シャクガ科の一種	Geometridae sp.			●
1090			ギンツバメ	*Acropteris iphiata*			●
1091			クロホシフタオ	*Dysaethria moza*			●
1092			クロオビシロフタオ	*Oroplema plagifera*			●
1093		イカリモンガ	イカリモンガ	*Pterodecta felderi*			●
1094		カイコガ	クワコ	*Bombyx mandarina*			●
1095		イボタガ	イボタガ	*Brahmaea japonica*	●		●
1096		オビガ	オビガ	*Apha aequalis*			●
1097		カレハガ	マツカレハ	*Dendrolimus spectabilis*			●
1098			ツガカレハ	*Dendrolimus superans*			●
1099			タケカレハ	*Euthrix albomaculata directa*			●
1100			オビカレハ	*Malacosoma neustrium testacea*			●
1101			リンゴカレハ	*Odonestis pruni japonensis*			●
1102			ウスズミカレハ	*Poecilocampa tamanukii*			●
1103		ヤママユガ	オオミズアオ本土亜種	*Actias aliena aliena*	●		●
1104			オナガミズアオ本土亜種	*Actias gnoma gnoma*	●		●
1105			エゾヨツメ	*Aglia japonica*	●		●
1106			ヤママユ本土亜種	*Antheraea yamamai yamamai*	●		●
1107			ウスタビガ本土亜種	*Rhodinia fugax fugax*	●		●
1108			シンジュサン本州以西亜種	*Samia cynthia pryeri*	●		
1109			クスサン本土亜種	*Saturnia japonica japonica*	●		●
1110			ヒメヤママユ	*Saturnia jonasii*	●		●
1111		スズメガ	ブドウスズメ	*Acosmeryx castanea*	●		
1112			ハネナガブドウスズメ	*Acosmeryx naga*	●		
1113			エビガラスズメ	*Agrius convolvuli*	●		●
1114			ホソバスズメ	*Ambulyx ochracea*	●		
1115			モンホソバスズメ	*Ambulyx schauffelbergeri*	●		
1116			クルマスズメ本土亜種	*Ampelophaga rubiginosa rubiginosa*	●		●
1117			ウンモンスズメ	*Callambulyx tatarinovii gabyae*	●		●
1118			オオスカシバ	*Cephonodes hylas hylas*	●		●
1119			トビイロスズメ	*Clanis bilineata tsingtauica*	●		●
1120			ベニスズメ	*Deilephila elpenor lewisii*	●		●
1121			サザナミスズメ	*Dolbina tancrei*	●		●
1122			クロスキバホウジャク	*Hemaris affinis*	●		
1123			オオシモフリスズメ	*Langia zenzeroides nawai*	●		
1124			ヒメクロホウジャク	*Macroglossum bombylans*			●
1125			ホシホウジャク	*Macroglossum pyrrhosticta*	●		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（31）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1126	チョウ	スズメガ	クロホウジャク	*Macroglossum saga*	●		
1127			ホウジャク	*Macroglossum stellatarum*	●		●
1128			モモスズメ	*Marumba gaschkewitschii echephron*	●		●
1129			クチバスズメ	*Marumba sperchius sperchius*	●		●
1130			エゾシモフリスズメ	*Meganoton analis scribae*	●		
1131			ヒサゴスズメ	*Mimas christophi*			●
1132			ホシヒメホウジャク	*Neogurelca himachala sangaica*	●		●
1133			シモフリスズメ	*Psilogramma increta*	●		
1134			ビロードスズメ	*Rhagastis mongoliana*	●		
1135			ミスジビロードスズメ	*Rhagastis trilineata*	●		●
1136			コウチスズメ	*Smerinthus tokyonis*	●		
1137			コエビガラスズメ	*Sphinx constricta*	●		
1138			コスズメ	*Theretra japonica*	●		●
1139			キイロスズメ	*Theretra nessus nessus*	●		●
1140			セスジスズメ	*Theretra oldenlandiae oldenlandiae*	●		●
1141		シャチホコガ	ツマアカシャチホコ	*Clostera anachoreta anachoreta*			●
1142			セグロシャチホコ	*Clostera anastomosis*	●		●
1143			バイバラシロシャチホコ	*Cnethodonta grisescens grisescens*			●
1144			シロシャチホコ	*Cnethodonta japonica*	●		
1145			キシャチホコ	*Cutuza straminea*			●
1146			ホソバネグロシャチホコ	*Disparia diluta variegata*			●
1147			ノヒラトビモンシャチホコ	*Drymonia basalis*	●		●
1148			セダカシャチホコ	*Euhampsonia cristata*	●		●
1149			ホソバシャチホコ	*Fentonia ocypete ocypete*	●		●
1150			ネスジシャチホコ	*Fusadonta basilinea*			●
1151			クワゴモドキシャチホコ	*Gonoclostera timoniorum*	●		
1152			ハガタエグリシャチホコ	*Hagapteryx admirabilis*			●
1153			ツマジロシャチホコ	*Hexafrenum leucodera leucodera*			●
1154			カバイロモクメシャチホコ	*Hupodonta corticalis*	●		●
1155			クロスジシャチホコ	*Lophocosma sarantuja*	●		
1156			クロシタシャチホコ	*Mesophalera sigmata*	●		●
1157			ヒナシャチホコ	*Micromelalopha troglodyta*	●		
1158			ウスキシャチホコ	*Mimopydna pallida*			●
1159			フタジマネグロシャチホコ	*Neodrymonia delia*	●		
1160			ヘリスジシャチホコ	*Neopheosia fasciata*			●
1161			ナカキシャチホコ	*Peridea gigantea*	●		●
1162			ルリモンシャチホコ	*Peridea oberthueri oberthueri*			●
1163			ムクツマキシャチホコ	*Phalera angustipennis*	●		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（32）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1164	チョウ	シャチホコガ	ツマキシャチホコ	*Phalera assimilis assimilis*			●
1165			モンクロシャチホコ	*Phalera flavescens*	●		●
1166			オオトビモンシャチホコ	*Phalerodonta manleyi manleyi*	●		●
1167			スズキシャチホコ	*Pheosiopsis cinerea cinerea*			●
1168			オオエグリシャチホコ	*Pterostoma gigantinum*	●		●
1169			クロエグリシャチホコ	*Ptilodon okanoi*			●
1170			クシヒゲシャチホコ	*Ptilophora nohirae*			●
1171			ギンボシシャチホコ	*Rosama cinnamomea*	●		
1172			トビギンボシシャチホコ	*Rosama ornata*			●
1173			クビワシャチホコ	*Shaka atrovittatus atrovittatus*	●		
1174			ウスイロギンモンシャチホコ	*Spatalia doerriesi*			●
1175			シャチホコガ	*Stauropus fagi persimilis*	●		●
1176			アオシャチホコ	*Syntypistis japonica*	●		●
1177			モンクロギンシャチホコ	*Wilemanus bidentatus*	●		
1178			アオバシャチホコ	*Zaranga permagna*	●		●
1179		ヒトリガ	カノコガ	*Amata fortunei fortunei*			●
1180			ハガタベニコケガ	*Barsine aberrans aberrans*			●
1181			ゴマダラベニコケガ	*Barsine pulchra*			●
1182			スジベニコケガ	*Barsine striata striata*			●
1183			シロヒトリ	*Chionarctia nivea*			●
1184			マエグロホソバ	*Conilepia nigricosta nigricosta*			●
1185			アカスジシロコケガ	*Cyana hamata hamata*			●
1186			ヒメキホソバ	*Dolgoma cribrata*			●
1187			ムジホソバ	*Eilema deplana pavescens*			●
1188			キマエホソバ	*Eilema japonica japonica*			●
1189			ツマキホソバ	*Eilema laevis*			●
1190			ヒメツマキホソバ	*Eilema minor*			●
1191			ニセキマエホソバ	*Eilema nankingica*			●
1192			キシタホソバ	*Eilema vetusta aegrota*			●
1193			クロフシロヒトリ	*Eospilarctia lewisii*			●
1194			クロテンハイイロコケガ	*Eugoa grisea grisea*			●
1195			キベリネズミホソバ	*Ghoria gigantea gigantea*			●
1196			アメリカシロヒトリ	*Hyphantria cunea*			●
1197			アカヒトリ	*Lemyra flammeola flammeola*			●
1198			クワゴマダラヒトリ	*Lemyra imparilis*			●
1199			カクモンヒトリ	*Lemyra inaequalis inaequalis*			●
1200			ヨツボシホソバ	*Lithosia quadra*			●
1201			ヒメホシキコケガ本土亜種	*Lyclene dharma butleri*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（33）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1202	チョウ	ヒトリガ	クビワウスグロホソバ	*Macrobrochis staudingeri staudingeri*			●
1203			オオベニヘリコケガ	*Melanaema venata*			●
1204			ハガタキコケガ	*Miltochrista calamina*			●
1205			ベニヘリコケガ	*Miltochrista miniata rosaria*			●
1206			スカシコケガ	*Nudaria ranruna*			●
1207			ホシホソバ	*Pelosia muscerda tetrasticta*			●
1208			クロミャクホソバ	*Pelosia ramosula jezoensis*			●
1209			チャオビチビコケガ	*Philenora latifasciata*			●
1210			ベニシタヒトリ	*Rhyparioides nebulosa*			●
1211			ウスバフタホシコケガ	*Schistophleps bipuncta*			●
1212			フタスジヒトリ	*Spilarctia bifasciata*			●
1213			スジモンヒトリ	*Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata*			●
1214			キハラゴマダラヒトリ	*Spilosoma lubricipedum*			●
1215			クロスジチビコケガ	*Stictane rectilinea chinesica*			●
1216			モンクロベニコケガ	*Stigmatophora rhodophila*			●
1217		ドクガ	チャドクガ	*Arna pseudoconspersa*			●
1218			ドクガ	*Artaxa subflava*			●
1219			スギドクガ	*Calliteara argentata*			●
1220			リンゴドクガ	*Calliteara pseudabietis pseudabietis*			●
1221			マメドクガ	*Cifuna locuples confusa*			●
1222			ブドウドクガ	*Ilema eurydice*			●
1223			クロモンドクガ	*Kuromondokuga niphonis*			●
1224			スゲオオドクガ	*Laelia gigantea*			●
1225			マイマイガ	*Lymantria dispar japonica*			●
1226			ハラアカマイマイ	*Lymantria fumida*			●
1227			オオヤママイマイ	*Lymantria lucescens*			●
1228			カシワマイマイ本土亜種	*Lymantria mathura aurora*			●
1229			ノンネマイマイ	*Lymantria monacha*			●
1230			シロオビドクガ本土亜種	*Numenes albofascia albofascia*			●
1231			ヒメシロモンドクガ	*Orgyia thyellina*			●
1232			ヤクシマドクガ	*Orgyia triangularis*			●
1233			ゴマフリドクガ日本本土・奄美亜種	*Somena pulverea pulverea*			●
1234			モンシロドクガ	*Sphrageidus similis*			●
1235			ニワトコドクガ	*Topomesoides jonasii*			●
1236		ヤガ	フタテンヒメヨトウ	*Acosmetia biguttula*			●
1237			シロシタケンモン	*Acronicta hercules*			●
1238			リンゴケンモン	*Acronicta intermedia*			●
1239			ナシケンモン	*Acronicta rumicis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（34）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1240	チョウ	ヤガ	ヒメモクメヨトウ	*Actinotia polyodon*			●
1241			フジロアツバ	*Adrapsa notigera*			●
1242			シラナミクロアツバ	*Adrapsa simplex*			●
1243			フサヒゲオビキリガ	*Agrochola evelina*			●
1244			コキマエヤガ	*Albocosta triangularis*			●
1245			オオウスヅマカラスヨトウ	*Amphipyra erebina*			●
1246			カラスヨトウ	*Amphipyra livida corvina*			●
1247			オオシマカラスヨトウ	*Amphipyra monolitha surnia*			●
1248			シマカラスヨトウ	*Amphipyra pyramidea yama*			●
1249			シロスジカラスヨトウ	*Amphipyra tripartita*			●
1250			サビイロヤガ	*Amyna stellata*			●
1251			クロテンカバアツバ	*Anachrostis nigripunctalis*			●
1252			ウスベリケンモン	*Anacronicta nitida*			●
1253			カバマダラヨトウ	*Anapamea cuneatoides*			●
1254			オオアオバヤガ	*Anaplectoides virens*			●
1255			ヒメナミグルマアツバ	*Anatatha misae*			●
1256			クロオビアツバ	*Anatatha wilemani*			●
1257			スモモキリガ	*Anorthoa munda*			●
1258			アオバハガタヨトウ	*Antivaleria viridimacula*			●
1259			ギンボシキンウワバ	*Antoculeora locuples*			●
1260			チャイロカドモンヨトウ	*Apamea sodalis*			●
1261			アヤホソコヤガ	*Araeopteron amoenum*			●
1262			マダラホソコヤガ	*Araeopteron fragmentum*			●
1263			フクラスズメ	*Arcte coerula*			●
1264			ソトジロツマキリクチバ	*Arytrura musculus*			●
1265			シロテンウスグロヨトウ	*Athetis albisignata*			●
1266			クロテンヨトウ	*Athetis cinerascens*			●
1267			テンウスイロヨトウ	*Athetis dissimilis*			●
1268			ヒメウスグロヨトウ	*Athetis lapidea*			●
1269			ヒメサビスジヨトウ	*Athetis stellata*			●
1270			ツマトビコヤガ	*Autoba tristalis*			●
1271			クロハナコヤガ	*Aventiola pusilla*			●
1272			モクメヤガ	*Axylia putris*			●
1273			フタスジアツバ	*Bertula bistrigata*			●
1274			コウンモンクチバ	*Blasticorhinus ussuriensis*			●
1275			ハングロアツバ	*Bomolocha squalida*			●
1276			ヤマガタアツバ	*Bomolocha stygiana*			●
1277			イチモジキノコヨトウ	*Bryophila granitalis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（35）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1278	チョウ	ヤガ	ウスアオモンコヤガ	*Bryophilina mollicula*			●
1279			キスジツマキリヨトウ	*Callopistria japonibia*			●
1280			オオエグリバ	*Calyptra gruesa*			●
1281			キタエグリバ	*Calyptra hokkaida*			●
1282			キスジウスキヨトウ	*Capsula sparganii*		●	
1283			コシロシタバ	*Catocala actaea*			●
1284			オニベニシタバ	*Catocala dula*	●		●
1285			マメキシタバ	*Catocala duplicata*	●		●
1286			ハイモンキシタバ	*Catocala mabella kobayashii*	●		
1287			アミメキシタバ	*Catocala hyperconnexa*	●		●
1288			カバフキシタバ	*Catocala mirifica*	●		
1289			シロシタバ	*Catocala nivea nivea*			●
1290			ゴマシオキシタバ	*Catocala nubila*			●
1291			キシタバ	*Catocala patala*	●		●
1292			コガタキシタバ	*Catocala praegnax olbiterata*	●		●
1293			アサマキシタバ	*Catocala streckeri*	●		●
1294			カギモンヤガ	*Cerastis pallescens*			●
1295			ウチジロコヤガ	*Chorsia albicincta*			●
1296			カクモンキシタバ	*Chrysorithrum amatum*			●
1297			ハナオイアツバ	*Cidariplura gladiata*			●
1298			ホシオビキリガ	*Conistra albipuncta*			●
1299			カシワオビキリガ	*Conistra ardescens*			●
1300			テンスジキリガ	*Conistra fletcheri*			●
1301			ナワキリガ	*Conistra nawae*			●
1302			カバイロシマコヤガ	*Corgatha argillacea*			●
1303			ベニシマコヤガ	*Corgatha pygmaea*			●
1304			シラオビキリガ	*Cosmia camptostigma*			●
1305			ヒイロキリガ	*Cosmia sanguinea*			●
1306			イタヤキリガ	*Cosmia trapezina exigua*			●
1307			ミツモンキンウワバ	*Ctenoplusia agnata*			●
1308			エゾギクキンウワバ	*Ctenoplusia albostriata*			●
1309			リョクモンオオキンウワバ	*Diachrysia pales*			●
1310			オオバコヤガ	*Diarsia canescens*			●
1311			コウスチャヤガ	*Diarsia deparca*			●
1312			アカフヤガ	*Diarsia pacifica*			●
1313			ムラサキアツバ	*Diomea cremata*			●
1314			ヨツモンムラサキアツバ	*Diomea discisigna*			●
1315			エゾスジヨトウ	*Doerriesa striata*		●	●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（36）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1316	チョウ	ヤガ	ナカオビキリガ	*Dryobotodes intermissa*			●
1317			プライヤオビキリガ	*Dryobotodes pryeri*			●
1318			シロズアツバ	*Ectogonia butleri*			●
1319			マルシラホシアツバ	*Edessena gentiusalis*			●
1320			オオシラホシアツバ	*Edessena hamada*			●
1321			ケンモンキリガ	*Egira saxea*			●
1322			キスジコヤガ	*Enispa lutefascialis*			●
1323			シロモンコヤガ	*Erastroides fentoni*			●
1324			モンシロムラサキクチバ	*Ercheia niveostrigata*			●
1325			モンムラサキクチバ	*Ercheia umbrosa*			●
1326			オオトモエ	*Erebus ephesperis*			●
1327			ウスムラサキクチバ	*Ericeia pertendens*			●
1328			アカテンクチバ	*Erygia apicalis*			●
1329			ギンスジキンウワバ	*Erythroplusia rutilifrons*			●
1330			ホソバミドリヨトウ	*Euplexidia angusta*			●
1331			ウスミミモンキリガ	*Eupsilia contracta*			●
1332			ヨスジノコメキリガ	*Eupsilia quadrilinea*			●
1333			ヨスジキリガ	*Eupsilia strigifera*	●		
1334			ミツボシキリガ	*Eupsilia tripunctata*			●
1335			コフサヤガ	*Eutelia adulatricoides*			●
1336			フサヤガ	*Eutelia geyeri*			●
1337			ヒメケンモン	*Gerbathodes angusta*			●
1338			フタスジエグリアツバ	*Gonepatica opalina*			●
1339			プライヤキリバ	*Goniocraspidum pryeri*			●
1340			ゴボウトガリヨトウ	*Gortyna fortis*			●
1341			ハナマガリアツバ	*Hadennia incongruens*			●
1342			ヒメハナマガリアツバ	*Hadennia nakatanii*			●
1343			ソトウスアツバ	*Hadennia obliqua*			●
1344			ナカジロアツバ	*Harita belinda tetrasticta*			●
1345			ナンキシマアツバ	*Hepatica nakatanii*			●
1346			フシキアツバ	*Herminia dolosa*			●
1347			シラナミアツバ	*Herminia innocens*			●
1348			トビスジアツバ	*Herminia tarsicrinalis*			●
1349			クロクモヤガ	*Hermonassa cecilia*			●
1350			オオシラナミアツバ	*Hipoepa fractalis*			●
1351			ソトウスグロアツバ	*Hydrillodes lentalis*			●
1352			ヒロオビウスグロアツバ	*Hydrillodes morosa*			●
1353			クロキシタアツバ	*Hypena amica*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（37）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1354	チョウ	ヤガ	コテングアツバ	*Hypena pulverulenta*			●
1355			タイワンキシタアツバ	*Hypena trigonalis*			●
1356			ヒロバチビトガリアツバ	*Hypenomorpha calamina*			●
1357			モンキコヤガ	*Hyperstrotia flavipuncta*			●
1358			カキバトモエ	*Hypopyra vespertilio*			●
1359			マエジロアツバ	*Hypostrotia cinerea*			●
1360			シロホシクロアツバ	*Idia curvipalpis*			●
1361			キモンコヤガ	*Koyaga numisma*			●
1362			トビフタスジアツバ	*Leiostola mollis*			●
1363			カシワキボシキリガ	*Lithophane pruinosa*			●
1364			ハンノキリガ	*Lithophane ustulata*			●
1365			セアカヨトウ	*Litoligia fodinae*			●
1366			ニセミカドアツバ	*Lophomilia takao*			●
1367			アミメケンモン	*Lophonycta confusa*			●
1368			チビアツバ	*Luceria fletcheri*			●
1369			ヒメクビグロクチバ	*Lygephila recta*			●
1370			ギンモンシロウワバ	*Macdunnoughia purissima*			●
1371			ネジロコヤガ	*Maliattha chalcogramma*			●
1372			ヒメネジロコヤガ	*Maliattha signifera*			●
1373			ヨトウガ	*Mamestra brassicae*			●
1374			シャクドウクチバ	*Mecodina nubiferalis*			●
1375			ツマオビアツバ	*Mesoplectra griselda*			●
1376			シロスジトモエ	*Metopta rectifasciata*			●
1377			シロヒシモンコヤガ	*Micardia argentata*			●
1378			フタホシコヤガ	*Micardia pulchra*			●
1379			スジモンコヤガ	*Microxyla confusa*			●
1380			ニセウンモンクチバ	*Mocis ancilla*			●
1381			ウンモンクチバ	*Mocis annetta*			●
1382			オオウンモンクチバ	*Mocis undata*			●
1383			アオバセダカヨトウ	*Mormo muscivirens*			●
1384			フサキバアツバ	*Mosopia sordidum*			●
1385			アトジロキヨトウ	*Mythimna compta*			●
1386			マダラキヨトウ	*Mythimna flavostigma*			●
1387			クロシタキヨトウ	*Mythimna placida*			●
1388			マメチャイロキヨトウ	*Mythimna stolida*			●
1389			フタオビキヨトウ	*Mythimna turca*			●
1390			フタオビコヤガ	*Naranga aenescens*			●
1391			ヒゲブトクロアツバ	*Nodaria tristis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（38）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1392	チョウ	ヤガ	ヘーネアオハガタヨトウ	*Nyctycia hoenei*			●
1393			ヒマラヤハガタヨトウ	*Nyctycia strigidisca owadai*			●
1394			ヒメエグリバ	*Oraesia emarginata*			●
1395			アカエグリバ	*Oraesia excavata*			●
1396			ノコメセダカヨトウ	*Orthogonia sera*			●
1397			アカバキリガ	*Orthosia carnipennis*			●
1398			カバキリガ	*Orthosia evanida*			●
1399			ミヤマカバキリガ	*Orthosia incerta incognita*			●
1400			シロヘリキリガ	*Orthosia limbata*			●
1401			チャイロキリガ	*Orthosia odiosa*			●
1402			ブナキリガ	*Orthosia paromoea*			●
1403			ウスキコヤガ	*Oruza brunnea*			●
1404			ヒメクルマコヤガ	*Oruza divisa*			●
1405			モンシロクルマコヤガ	*Oruza glaucotorna*			●
1406			アトテンクルマコヤガ	*Oruza submira*			●
1407			ホシコヤガ	*Ozarba punctigera*			●
1408			ツマジロツマキリアツバ	*Pangrapta lunulata*			●
1409			リンゴツマキリアツバ	*Pangrapta obscurata*			●
1410			ウンモンツマキリアツバ	*Pangrapta perturbans*			●
1411			シロモンツマキリアツバ	*Pangrapta umbrosa*			●
1412			オオトウアツバ	*Panilla petrina*			●
1413			マツキリガ	*Panolis japonica*			●
1414			ニセミスジアツバ	*Paracolax bilineata*			●
1415			ホソナミアツバ	*Paracolax fentoni*			●
1416			シロテンムラサキアツバ	*Paracolax pryeri*			●
1417			ミスジアツバ	*Paracolax trilinealis*			●
1418			キボシアツバ	*Paragabara flavomacula*			●
1419			アシブトクチバ	*Parallelia stuposa*			●
1420			ニセタマナヤガ	*Peridroma saucia*	●		
1421			スギタニキリガ	*Perigrapha hoenei*			●
1422			マダラエグリバ	*Plusiodonta casta*			●
1423			ウスアオヨトウ	*Polyphaenis subviridis*			●
1424			シロマダラコヤガ	*Protodeltote distinguenda*			●
1425			シロフコヤガ	*Protodeltote pygarga*			●
1426			フタスジヨトウ	*Protomiselia bilinea*			●
1427			クロチャマダラキリガ	*Rhynchaglaea fuscipennis*			●
1428			チャマダラキリガ	*Rhynchaglaea scitula*			●
1429			マエシロモンアツバ	*Rivula curvifera*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（39）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1430	チョウ	ヤガ	クリイロアツバ	*Rivula plumipes*			●
1431			サッポロチャイロヨトウ	*Sapporia repetita*			●
1432			シロシタヨトウ	*Sarcopolia illoba*			●
1433			キヅマアツバ	*Scedopla regalis*			●
1434			クロスジヒメアツバ	*Schrankia costaestrigalis*			●
1435			ハスオビヒメアツバ	*Schrankia separatalis*			●
1436			オオアカマエアツバ	*Simplicia niphona*			●
1437			ニセアカマエアツバ	*Simplicia xanthoma*			●
1438			カバスジヤガ	*Sineugraphe exusta*			●
1439			オオカバスジヤガ	*Sineugraphe oceanica*			●
1440			テンモンシマコヤガ	*Sophta ruficeps*			●
1441			ウスベニコヤガ	*Sophta subrosea*			●
1442			ハグルマトモエ	*Spirama helicina*			●
1443			オスグロトモエ	*Spirama retorta*			●
1444			スジキリヨトウ	*Spodoptera depravata*			●
1445			ハスモンヨトウ	*Spodoptera litura*			●
1446			ムモンキイロアツバ	*Stenhypena nigripuncta*			●
1447			ウスアオキノコヨトウ	*Stenoloba clara*			●
1448			シロスジキノコヨトウ	*Stenoloba jankowskii*			●
1449			ニセシロフコヤガ	*Sugia erastroides*			●
1450			ウスシロフコヤガ	*Sugia stygia*			●
1451			スギタニモンキリガ	*Sugitania lepida*			●
1452			クロシラフクチバ	*Sypnoides fumosus*			●
1453			アヤシラフクチバ	*Sypnoides hercules*			●
1454			シラフクチバ	*Sypnoides picta*			●
1455			チョウセンツマキリアツバ	*Tamba corealis*			●
1456			カザリツマキリアツバ	*Tamba igniflua*			●
1457			トウカイツマキリアツバ	*Tamba roseopurpurea*			●
1458			ウスキトガリキリガ	*Telorta acuminata*			●
1459			ノコメトガリキリガ	*Telorta divergens*			●
1460			キトガリキリガ	*Telorta edentata*			●
1461			ムクゲコノハ	*Thyas juno*			●
1462			キイロアツバ	*Treitschkendia helva*			●
1463			ヒメコブヒゲアツバ	*Treitschkendia tarsipennalis*			●
1464			マダラヨトウ	*Xenapamea pacifica*			●
1465			シロモンヤガ	*Xestia c-nigrum c-nigrum*			●
1466			キシタミドリヤガ	*Xestia efflorescens*			●
1467			ハイイロキシタヤガ	*Xestia semiherbida decorata*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（40）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1468	チョウ	ヤガ	キバラモクメキリガ	*Xylena formosa*			●
1469			ハネナガモクメキリガ	*Xylena nihonica*			●
1470			クロスジキリガ	*Xylopolia bella bella*			●
－			ヤガ科の一種	Noctuidae sp.			●
1471	チョウ	コブガ	ギンボシリンガ	*Ariolica argentea*			●
1472			キノカワガ	*Blenina senex*			●
1473			ツマモンコブガ	*Casminola pulchella*			●
1474			ミドリリンガ	*Clethrophora distincta*	●		●
1475			クロオビリンガ	*Gelastocera kotschubeji*			●
1476			ソトジロコブガ	*Manoba fasciatus*			●
1477			クロスジコブガ	*Meganola fumosa*			●
1478			ネジロキノカワガ	*Negritothripa hampsoni*			●
1479			クロスジシロコブガ	*Nola taeniata*			●
1480			アカスジアオリンガ	*Pseudoips sylpha*			●
1481	ハエ	オビヒメガガンボ	マダラオトヒメガガンボ	*Dicranota sibirica nebulipennis*			●
1482		ヒメガガンボ	*Antocha bifida*	*Antocha bifida*			●
－			*Antocha* 属の一種	*Antocha* sp.			●
1483			ホソバネヒメガガンボ	*Dicranomyia longipennis*			●
1484			ヒメクチナガガガンボ	*Elephantomyia dietziana dietziana*			●
1485			クチナガガガンボ	*Elephantomyia hokkaidensis*			●
－			*Elephantomyia* 属の一種	*Elephantomyia* sp.			●
1486			ミスジガガンボ	*Gymnastes flavitibia flavitibia*			●
1487			*Molophilus* 属の一種	*Molophilus* sp.			●
1488			*Styringomyia* 属の一種	*Styringomyia* sp.			●
1489		シリブトガガンボ	シリブトガガンボ	*Cylindrotoma japonica*			●
1490		ガガンボ	ベッコウガガンボ	*Dictenidia pictipennis pictipennis*			●
1491			ユウレイガガンボ	*Dolichopeza albitibia*			●
1492			オオユウレイガガンボ	*Dolichopeza candidipes*			●
1493			ミカドガガンボ	*Holorusia mikado*			●
1494			マエキガガンボ	*Indotipula yamata yamata*			●
1495			キゴシガガンボ	*Leptotarsus pulverosus*			●
1496			キイロホソガガンボ	*Nephrotoma virgata*			●
1497			キリウジガガンボ	*Tipula aino*			●
1498			マダラガガンボ	*Tipula coquilletti*			●
1499			マドガガンボ	*Tipula nova*			●
1500			クロキリウジガガンボ	*Tipula patagiata*			●
－			ガガンボ科の一種	Tipulidae sp.			●
1501		チョウバエ	チョウバエ科の一種	Psychodidae sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（41）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1502	ハエ	コシボソガガンボ	エサキヒメコシボソガガンボ	*Bittacomorphella esakii*			●
1503			ニッポンヒメコシボソガガンボ	*Bittacomorphella nipponensis*			●
1504		ヌカカ	ニワトリヌカカ	*Culicoides (Beltranmyia) arakawae*			●
－			ヌカカ科の一種	Ceratopogonidae sp.			●
1505		ユスリカ	ダンダラヒメユスリカ	*Ablabesmyia monilis*			●
1506			ハダカユスリカ	*Cardiocladius capucinus*			●
1507			ヒシモンユスリカ	*Chironomus flaviplumus*			●
1508			ウスイロユスリカ	*Chironomus kiiensis*			●
1509			ホンセスジユスリカ	*Chironomus nippodorsalis*			●
1510			ヤマトユスリカ	*Chironomus nipponensis*			●
1511			オオユスリカ	*Chironomus plumosus*			●
1512			セスジユスリカ	*Chironomus yoshimatsui*			●
1513			クロイロコナユスリカ	*Corynoneura cuspis*			●
1514			フタスジツヤユスリカ	*Cricotopus bicinctus*			●
1515			ヨドミツヤユスリカ	*Cricotopus sylvestris*			●
1516			ミツオビツヤユスリカ	*Cricotopus trifasciatus*			●
1517			マルミコブナシユスリカ	*Harnischia curtilamellata*			●
1518			コガタエリユスリカ	*Nanocladius tamabicolor*			●
1519			モンヌマユスリカ	*Natarsia tokunagai*			●
1520			ヤマトハモンユスリカ	*Polypedilum japonicum*			●
1521			ミヤコムモンユスリカ	*Polypedilum kyotoense*			●
1522			ウスモンユスリカ	*Polypedilum nubeculosum*			●
1523			オオケバネユスリカ	*Polypedilum sordens*			●
1524			ニセヒロオビハモンユスリカ	*Polypedilum tamahinoense*			●
1525			ホソオケバネユスリカ	*Polypedilum tritum*			●
－			*Polypedilum* 属の一種	*Polypedilum* sp.			●
1526			ウスイロカユスリカ	*Procladius choreus*			●
1527			ヤハズカユスリカ	*Procladius sagittalis*			●
1528			ウスギヌヒメユスリカ	*Rheopelopia joganflava*			●
1529			ビロウドエリユスリカ	*Smittia aterrima*			●
1530			フタオビユスリカ	*Stenochironomus satorui*			●
1531			アキヅキユスリカ	*Stictochironomus akizukii*			●
1532			オオヤマヒゲユスリカ	*Tanytarsus oyamai*			●
－			*Tanytarsus* 属の一種	*Tanytarsus* sp.			●
－			ユスリカ科の一種	Chironomidae sp.			●
1533		カ	ヒトスジシマカ	*Aedes (Stegomyia) albopictus*			●
1534		ブユ	ブユ科の一種	Simuliidae sp.			●
1535		ハルカ	ハマダラハルカ	*Haruka elegans*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（42）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1536	ハエ	ケバエ	キスネアシボソケバエ	*Bibio aneuretus*			●
1537			クロアシボソケバエ	*Bibio holomaurus*			●
1538			ハグロケバエ	*Bibio tenebrosus*			●
1539		タマバエ	ヤナギシントメタマバエ	*Dasineura rosaria*			●
－			タマバエ科の一種	Cecidomyiidae sp.			●
1540		キノコバエ	キノコバエ科の一種	Mycetophilidae sp.			●
1541		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一種	Sciaridae sp.			●
1542		ナガレアブ	クロモンナガレアブ	*Asuragina caerulescens*			●
1543			サツマモンナガレアブ	*Suragina satsumana*			●
1544		ミズアブ	エゾホソルリミズアブ	*Actina jezoensis*			●
1545			ハラビロミズアブ	*Clitellaria obtusa*			●
1546			ネグロミズアブ	*Craspedometopon frontale*			●
1547			アメリカミズアブ	*Hermetia illucens*			●
1548			ハラキンミズアブ	*Microchrysa flaviventris*			●
1549			コウカアブ	*Ptecticus tenebrifer*			●
1550			ルリミズアブ	*Sargus niphonensis*			●
1551			ミズアブ	*Stratiomys japonica*			●
1552		アブ	イヨシロオビアブ	*Tabanus iyoensis*			●
1553			アカウシアブ	*Tabanus chrysurus*			●
1554			ヤマトアブ	*Tabanus rufidens*			●
1555			シロフアブ	*Tabanus trigeminus*			●
1556			ウシアブ	*Tabanus trigonus*			●
1557		キアブモドキ	ミツボシキアブモドキ	*Xylomya moiwana*			●
1558		ムシヒキアブ	トラフムシヒキ	*Astochia virgatipes*			●
1559			カワムラヒゲボソムシヒキ	*Ceraturgus kawamurae*			●
1560			イッシキイシアブ	*Choerades isshikii*			●
1561			コムライシアブ	*Choerades komurae*			●
1562			アオメアブ	*Cophinopoda chinensis*			●
1563			ツマグロヒゲボソムシヒキ	*Cyrtopogon pictipennis*			●
1564			オオイシアブ	*Laphria mitsukurii*			●
1565			チャイロオオイシアブ	*Laphria rufa*			●
1566			サキグロムシヒキ	*Machimus scutellaris*			●
1567			アシナガムシヒキ	*Molobratia japonica*			●
1568			ナミマガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*			●
1569			シロズヒメムシヒキ	*Philonicus albiceps*			●
1570			シオヤアブ	*Promachus yesonicus*			●
1571			ヒサマツムシヒキ	*Tolmerus hisamatsui*			●
1572		ツリアブ	コウヤツリアブ	*Anthrax aygulus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（43）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1573	ハエ	ツリアブ	ビロウドツリアブ	*Bombylius major*			●
1574			ニトベハラボソツリアブ	*Systropus nitobei*			●
1575			スキバツリアブ	*Villa limbata*			●
1576		アシナガバエ	アシナガキンバエ	*Dolichopus nitidus*			●
－			*Dolichopus* 属の一種	*Dolichopus* sp.			●
1577			マダラアシナガバエ	*Mesorhaga nebulosus*			●
－			アシナガバエ科の一種	Dolichopodidae sp.			●
1578		オドリバエ	ネウスオドリバエ	*Empis* (*Euempis*) *flavobasalis*			●
1579			アカメセダカオドリバエ	*Syneches grandis*			●
－			オドリバエ科の一種	Empididae sp.			●
1580		ハナアブ	ツマグロコシボソハナアブ	*Allobaccha apicalis*			●
1581			オオヒメヒラタアブ	*Allograpta iavana*			●
1582			ナガヒラタアブ	*Asarkina porcina*			●
1583			マダラコシボソハナアブ	*Baccha maculata*			●
1584			クロヒラタアブ	*Betasyrphus serarius*			●
1585			キガオハラナガハナアブ	*Brachypalpoides flavifacies*			●
1586			ハラアカハラナガハナアブ	*Chalcosyrphus frontalis*			●
1587			ヨツモンハラナガハナアブ	*Chalcosyrphus nemorum*			●
1588			オカザキタマヒラタアブ	*Chrysogaster okazakii*			●
1589			オオヒゲナガハナアブ	*Chrysotoxum grande*			●
－			*Chrysotoxum* 属の一種	*Chrysotoxum* sp.			●
1590			ヒロオビヒラタアブ	*Dasysyrphus tricinctus*			●
1591			ヘリヒラタアブ	*Didea alneti*			●
1592			ヨコジマオオヒラタアブ	*Dideoides latus*			●
－			ヒラタアブ亜科の一種	Syrphinae sp.			●
1593			ホソヒラタアブ	*Episyrphus balteatus*			●
1594			キゴシハナアブ	*Eristalinus quinquestriatus*			●
1595			シマハナアブ	*Eristalis cerealis*			●
1596			キョウコシマハナアブ	*Eristalis kyokoae*			●
1597			ナミハナアブ	*Eristalis tenax*			●
1598			マドヒラタアブ	*Eumerus japonicus*			●
－			*Eumerus* 属の一種	*Eumerus* sp.			●
1599			ナミホシヒラタアブ	*Eupeodes bucculatus*			●
1600			フタホシヒラタアブ	*Eupeodes corollae*			●
1601			スズキフタモンハナアブ	*Ferdinandea cuprea*			●
1602			アシブトハナアブ	*Helophilus eristaloideus*			●
1603			ルリハナアブ	*Kertesziomyia viridis*			●
1604			カクモンハラブトハナアブ	*Mallota abdominalis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（44）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1605	ハエ	ハナアブ	フタガタハラブトハナアブ	*Mallota dimorpha*			●
1606			タカサゴハラブトハナアブ	*Mallota takasagensis*			●
1607			ナガツヤヒラタアブ	*Melanostoma interruptum*			●
1608			ホシツヤヒラタアブ	*Melanostoma scalare*			●
1609			カオグロオビホソヒラタアブ	*Meliscaeva omogensis*			●
1610			シマアシブトハナアブ	*Mesembrius peregrinus*			●
1611			フタオビアリノスアブ	*Metadon bifasciatus*			●
1612			アリノスアブ	*Microdon japonicus*			●
1613			トゲアリノスアブ	*Microdon oitanus*			●
1614			マドホソアリノスアブ	*Microdon* sp.			●
1615			シロスジナガハナアブ	*Milesia undulata*			●
1616			キアシマメヒラタアブ	*Paragus haemorrhous*			●
1617			クチグロヒラタアブ	*Parasyrphus punctulatus*			●
1618			オオハナアブ	*Phytomia zonata*			●
1619			コマバムツホシヒラタアブ	*Scaeva komabensis*			●
1620			オオシマハナアブ	*Sericomyia sachalinica*			●
1621			ミナミヒメヒラタアブ	*Sphaerophoria indiana*			●
1622			ホソヒメヒラタアブ	*Sphaerophoria macrogaster*			●
1623			コハナダカチビハナアブ	*Sphegina nitidiforns*			●
1624			モモブトチビハナアブ	*Syritta pipiens*			●
1625			マガイヒラタアブ	*Syrphus dubius*			●
1626			オオフタホシヒラタアブ	*Syrphus ribesii*			●
1627			ケヒラタアブ	*Syrphus torvus*			●
1628			キイロナミホシヒラタアブ	*Syrphus vitripennis*			●
1629			ムツボシハチモドキハナアブ	*Takaomyia sexmaculata*			●
1630			ベッコウハナアブ	*Volucella jeddona*			●
1631			シロスジベッコウハナアブ	*Volucella pellucens tabanoides*			●
1632			ヨツボシヒラタアブ	*Xanthandrus comtus*			●
1633			キベリヒラタアブ	*Xanthogramma sapporense*			●
1634			ルリイロハラナガハナアブ	*Xylota abiens*			●
1635			ナミルリイロハラナガハナアブ	*Xylota amamiensis*			●
1636		ノミバエ	ノミバエ科の一種	Phoridae sp.			●
1637		ハモグリバエ	イネハモグリバエ	*Agromyza oryzae*			●
1638			ナモグリバエ	*Phytomyza horticola*			●
－			ハモグリバエ科の一種	Agromyzidae sp.			●
1639		ニセミギワバエ	*Procanace* 属の一種	*Procanace* sp.			●
1640		キモグリバエ	イネキモグリバエ	*Chlorops* (*Chlorops*) *oryzae*			●
－			キモグリバエ科の一種	Chloropidae sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（45）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1641	ハエ	メバエ	マダラメバエ	*Myopa buccata*			●
1642			チャイロフタオレメバエ	*Sicus abdominalis*			●
1643		ショウジョウバエ	カオジロショウジョウバエ	*Drosophila auraria*			●
1644			ナガレボシショウジョウバエ	*Drosophila brachynephros*			●
1645			キハダショウジョウバエ	*Drosophila lutescens*			●
1646			ムナスジショウジョウバエ	*Drosophila rufa*			●
1647			オウトウショウジョウバエ	*Drosophila suzukii*			●
－			*Drosophila* 属の一種	*Drosophila* sp.			●
1648			アリガタショウジョウバエ	*Hypselothyrea breviscutellata*			●
1649			ナミヒメショウジョウバエ	*Scaptomyza graminum*			●
－			ショウジョウバエ科の一種	Drosophilidae sp.			●
1650		ベッコウバエ	ベッコウバエ	*Dryomyza formosa*			●
1651		ミギワバエ	ニノミヤトビクチミギワバエ	*Brachydeutera ibari*			●
1652			ミナミカマバエ	*Ochthera circularis*			●
1653			シキシマカマバエ	*Ochthera japonica*			●
1654		トゲハネバエ	ミヤマキイロトゲハネバエ	*Suillia brunneipennis*			●
1655		シマバエ	シモフリシマバエ	*Homoneura euaresta*			●
1656			ヒラヤマシマバエ	*Homoneura hirayamae*			●
－			*Homoneura* 属の一種	*Homoneura* sp.			●
1657			ヤブクロシマバエ	*Minettia* (*Frendelia*) *longipennis*			●
1658		マルズヤセバエ	マエジロアシナガヤセバエ	*Rainieria latifrons*			●
1659		ヒロクチバエ	マツダマダラバエ	*Euprosopia matsudai*			●
1660			ヒゲナガヒロクチバエ	*Lamprophthalma japonica*			●
1661		デガシラバエ	フトハチモドキバエ	*Eupyrgota fusca*			●
1662		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	*Sepedon aenescens*			●
1663			ヒガシヒゲナガヤチバエ	*Sepedon noteoi*			●
1664		ツヤホソバエ	キアシツヤホソバエ	*Dicranosepsis unipilosa*			●
1665			ヒトテンツヤホソバエ	*Sepsis monostigma*			●
1666		ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科の一種	Sphaeroceridae sp.			●
1667		ヒゲブトコバエ	クロメマトイ	*Cryptochetum nipponense*			●
1668		ミバエ	タテジマハマダラミバエ	*Achanthonevra formosana*			●
1669			イヌビワハマダラミバエ	*Acidiella diversa*			●
1670			ナツササハマダラミバエ	*Acrotaeniostola scutellaris*			●
1671			クロハスジハマダラミバエ	*Anomoia permunda*			●
1672			チャイロハススジハマダラミバエ	*Anomoia vulgaris*			●
1673			カボチャミバエ	*Bactrocera depressus*			●
1674			ヒラヤマアミメケブカミバエ	*Campiglossa hirayamae*			●
1675			タラノキハマダラミバエ	*Pseudhemilea longistigma*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（46）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1676	ハエ	ハナバエ	ハナバエ科の一種	Anthomyiidae sp.			●
1677		クロバエ	ケブカクロバエ	*Aldrichina grahami*			●
1678			オオクロバエ	*Calliphora nigribarbis*			●
1679			ホホグロオビキンバエ	*Chrysomya pinguis*			●
1680			コシアキツマグロキンバエ	*Idiella tripartita*			●
1681			キンバエ	*Lucilia caesar*			●
1682			ミドリキンバエ	*Lucilia illustris*			●
1683			ミヤマキンバエ	*Lucilia papuensis*			●
1684			コチビクロバエ	*Onesia nartshukae*			●
1685			キンパツヒメクロバエ	*Pollenia japonica*			●
1686			ツマグロキンバエ	*Stomorhina obsoleta*			●
1687			フタオクロバエ	*Triceratopyga calliphoroides*			●
1688		ヒメイエバエ	ヒメイエバエ	*Fannia canicularis*			●
1689		イエバエ	ヤマハナレメイエバエ	*Coenosia montana*			●
1690			アシマダラハナレメイエバエ	*Coenosia variegata*			●
－			*Coenosia* 属の一種	*Coenosia* sp.			●
1691			カガハナゲバエ	*Dichaetomyia bibax*			●
1692			ヤマトハナゲバエ	*Dichaetomyia japonica*			●
1693			セマダライエバエ	*Graphomya maculata*			●
1694			ヨスジホソイエバエ	*Helina evecta*			●
1695			ハイイロミズギワイエバエ	*Limnophora orbitalis*			●
1696			イエバエ	*Musca domestica*			●
1697			モモグロオオイエバエ	*Muscina angustifrons*			●
1698			オオイエバエ	*Muscina stabulans*			●
1699			オオセアカクロバエ	*Muscina pascuorum*			●
1700			ミドリイエバエ	*Neomyia timorensis*			●
1701			ヘリグロハナレメイエバエ	*Orchisia costata*			●
1702			ヤマトトゲアシイエバエ	*Phaonia japonica*			●
1703			シリモチハナレメイエバエ	*Pygophora confusa*			●
1704		ニクバエ	ホンシュウホソニクバエ	*Goniophyto honshuensis*			●
1705			ギンガクヤドリニクバエ	*Metopia argyrocephala*			●
1706			ヨコジマコバネヤドリニクバエ	*Miltogramma angustifrons*			●
1707			ゲンロクニクバエ	*Sarcophaga albiceps*			●
1708			ホリニクバエ	*Sarcophaga horii*			●
1709			シリグロニクバエ	*Sarcophaga melanura*			●
1710			センチニクバエ	*Sarcophaga peregrina*			●
1711			ナミニクバエ	*Sarcophaga similis*			●
1712			ツシマニクバエ	*Sarcophaga tsushimae*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（47）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1713	ハエ	フンバエ	キアシフンバエ	*Scathophaga mellipes*			●
1714			ヒメフンバエ	*Scathophaga stercoraria*			●
1715			キバネフンバエ	*Scathophaga scybalaria*			●
1716		ヤドリバエ	シロオビハリバエ	*Trigonospila transvittata*			●
1717			キナコハリバエ	*Senometopia excisa*			●
1718			トガリハリバエ	*Thecocarcelia thrix*			●
1719			カイコノウジバエ	*Blepharipa zebina*			●
1720			セスジハリバエ	*Tachina (Eudoromyia) nupta*			●
1721			コガネオオハリバエ	*Tachina (Servillia) luteola*			●
1722			ビロウドハリバエ	*Tachina (Servillia) politula*			●
1723			ヨコジマハリバエ	*Ernestia puparum*			●
1724			クチナガハリバエ	*Prosena siberita*			●
1725			アシナガハリバエ	*Thelaira nigripes*			●
1726			コンボウナガハリバエ	*Torocca munda*			●
1727			マルボシヒラタハナバエ	*Gymnosoma rotundata*			●
1728			アカヒョウタンハリバエ	*Cylindromyia (Cylindromyia) brassicaria*			●
－			ヤドリバエ科の一種	Tachinidae sp.			●
1729	コウチュウ	ホソクビゴミムシ	オオホソクビゴミムシ	*Brachinus scotomedes*			●
1730			ミイデラゴミムシ	*Pheropsophus jessoensis*			●
1731		オサムシ	キイロチビゴモクムシ	*Acupalpus inornatus*			●
1732			ニッポンヨツボシゴミムシ	*Adischissus japonicus*			●
1733			アオグロヒラタゴミムシ	*Agonum chalcomum*			●
1734			タンゴヒラタゴミムシ	*Agonum leucopus*			●
1735			キアシマルガタゴミムシ	*Amara ampliata*			●
1736			マルガタゴミムシ	*Amara chalcites*			●
1737			コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea*			●
1738			ニセマルガタゴミムシ	*Amara congrua*			●
1739			ナガマルガタゴミムシ	*Amara macronota ovalipennis*			●
1740			ツヤマルガタゴミムシ	*Amara obscuripes*			●
1741			コマルガタゴミムシ	*Amara simplicidens*			●
1742			ホシボシゴミムシ	*Anisodactylus punctatipennis*			●
1743			オオホシボシゴミムシ	*Anisodactylus sadoensis*			●
1744			ゴミムシ	*Anisodactylus signatus*			●
1745			ヒメゴミムシ	*Anisodactylus tricuspidatus tricuspidatus*			●
1746			キベリゴモクムシ	*Anoplogenius cyanescens*			●
1747			オオフタモンミズギワゴミムシ	*Bembidion bandotaro*			●
1748			ウスモンミズギワゴミムシ	*Bembidion cnemidotum*			●
1749			ヨツボシミズギワゴミムシ	*Bembidion morawitzi*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（48）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1750	コウチュウ	オサムシ	アトモンミズギワゴミムシ	*Bembidion niloticum batesi*			●
1751			キモンナガミズギワゴミムシ	*Bembidion scopulinum*			●
1752			オオズヒメゴモクムシ	*Bradycellus grandiceps*			●
1753			アカクビヒメゴモクムシ	*Bradycellus laeticolor*			●
1754			チビヒメゴモクムシ	*Bradycellus subditus*			●
1755			キガシラアオアトキリゴミムシ	*Calleida lepida*			●
1756			アオアトキリゴミムシ	*Calleida onoha*			●
1757			クロカタビロオサムシ	*Calosoma maximowiczi*			●
1758			エゾカタビロオサムシ	*Campalita chinense*			●
1759			ミカワオサムシ	*Carabus arrowianus arrowianus*			●
1760			マイマイカブリ関東・中部地方亜種	*Carabus blaptoides oxuroides*			●
1761			オオオサムシ	*Carabus dehaanii dehaanii*			●
1762			アキタクロナガオサムシ	*Carabus porrecticollis porrecticollis*			●
1763			クロナガオサムシ	*Carabus procerulus procerulus*			●
1764			セアカオサムシ	*Carabus tuberculosus*		●	
1765			ヤマトオサムシ三河亜種	*Carabus yamato ojikai*			●
1766			ヒトツメアオゴミムシ	*Chlaenius deliciolus*		●	●
1767			オオアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius micans*			●
1768			アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius naeviger*			●
1769			アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes*			●
1770			キボシアオゴミムシ	*Chlaenius posticalis*			●
1771			クビナガキベリアオゴミムシ	*Chlaenius prostenus*		●	
1772			ムナビロアトボシアオゴミムシ	*Chlaenius tetragonoderus*			●
1773			コガシラアオゴミムシ	*Chlaenius variicornis*			●
1774			アトワアオゴミムシ	*Chlaenius virgulifer*			●
1775			ヒメヒョウタンゴミムシ	*Clivina niponensis*			●
1776			コモリヒラタゴミムシ	*Colpodes amphinomus*			●
1777			クロモリヒラタゴミムシ	*Colpodes atricomes*			●
1778			チビモリヒラタゴミムシ	*Colpodes aurelius*			●
1779			オオアオモリヒラタゴミムシ	*Colpodes buchanani*			●
1780			ヤセモリヒラタゴミムシ	*Colpodes elainus elainus*			●
1781			ハラアカモリヒラタゴミムシ	*Colpodes japonicus*			●
1782			サドモリヒラタゴミムシ	*Colpodes limodromoides*			●
1783			イクビモリヒラタゴミムシ	*Colpodes modestior*			●
1784			コキノコゴミムシ	*Coptodera japonica*			●
1785			ルリヒラタゴミムシ	*Dicranoncus femoralis*			●
1786			ヤセアトキリゴミムシ	*Dolichoctis luctuosus*			●
1787			コヨツボシアトキリゴミムシ	*Dolichoctis striatus striatus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（49）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1788	コウチュウ	オサムシ	セアカヒラタゴミムシ	*Dolichus halensis*			●
1789			ベーツホソアトキリゴミムシ	*Dromius batesi*			●
1790			フトヒゲホソアトキリゴミムシ	*Dromius crassipalpis*			●
1791			ホソアトキリゴミムシ	*Dromius prolixus*			●
1792			イクビホソアトキリゴミムシ	*Dromius quadraticollis*			●
1793			キイロマルコミズギワゴミムシ	*Elaphropus latissimus*			●
1794			コハンミョウモドキ	*Elaphrus punctatus*		●	
1795			オオキベリアオゴミムシ	*Epomis nigricans*			●
1796			クビボソゴミムシ	*Galerita orientalis*			●
1797			スジアオゴミムシ	*Haplochlaenius costiger*			●
1798			オオゴモクムシ	*Harpalus capito*			●
1799			オオズケゴモクムシ	*Harpalus eous*			●
1800			ケウスゴモクムシ	*Harpalus griseus*			●
1801			クロゴモクムシ	*Harpalus niigatanus*			●
1802			ニセケゴモクムシ	*Harpalus pseudophonoides*			●
1803			ウスアカクロゴモクムシ	*Harpalus sinicus*			●
1804			アカアシマルガタゴモクムシ	*Harpalus tinctulus*			●
1805			コゴモクムシ	*Harpalus tridens*			●
1806			フタホシアトキリゴミムシ	*Lebia bifenestrata*			●
1807			ホシハネビロアトキリゴミムシ	*Lebia calycophora*			●
1808			ハネビロアトキリゴミムシ	*Lebia duplex*			●
1809			ジュウジアトキリゴミムシ	*Lebia retrofasciata*			●
1810			ヤホシゴミムシ	*Lebidia octoguttata*			●
1811			オオゴミムシ	*Lesticus magnus*			●
1812			キベリマルクビゴミムシ	*Nebria livida angulata*		●	
1813			チャバネクビナガゴミムシ	*Odacantha aegrota*			●
1814			オオトックリゴミムシ	*Oodes vicarius*		●	
1815			クビナガゴモクムシ	*Oxycentrus argutoroides*			●
1816			クロツブゴミムシ	*Pentagonica subcordicollis*			●
1817			クロズホナシゴミムシ	*Perigona nigriceps*			●
1818			ツヤホソチビゴミムシ	*Perileptus naraensis*			●
1819			フタホシスジバネゴミムシ	*Planetes puncticeps*			●
1820			オオヒラタゴミムシ	*Platynus magnus*			●
1821			ホソヒラタゴミムシ	*Pristosia aeneola*			●
1822			ムナビロナガゴミムシ	*Pterostichus abaciformis*			●
1823			マルムネヒメナガゴミムシ	*Pterostichus latemarginatus*			●
1824			コガシラナガゴミムシ	*Pterostichus microcephalus*			●
1825			アトマルナガゴミムシ	*Pterostichus orientalis jessoensis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（50）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1826	コウチュウ	オサムシ	アシミゾナガゴミムシ	*Pterostichus sulcitarsis*			●
1827			タカオヒメナガゴミムシ	*Pterostichus takaosanus*			●
1828			ヨリトモナガゴミムシ	*Pterostichus yoritomus*			●
1829			ホソヒョウタンゴミムシ	*Scarites acutidens*			●
1830			ナガヒョウタンゴミムシ	*Scarites terricola pacificus*			●
1831			マメゴモクムシ	*Stenolophus fulvicornis*			●
1832			ツヤマメゴモクムシ	*Stenolophus iridicolor*			●
1833			ムネアカマメゴモクムシ	*Stenolophus propinquus*			●
1834			マルガタツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus arcuaticollis*			●
1835			ホソツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus atricolor*			●
1836			キアシツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus callitheres callitheres*			●
1837			ヒメクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus congruus*			●
1838			クロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus cycloderus*			●
1839			ヒメツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus dulcigradus*			●
1840			コクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus melantho*			●
1841			オオクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus nitidus*			●
1842			ナガクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus silvester*			●
1843			ヨツモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura laetifica*			●
1844			シロウマホソヒラタゴミムシ	*Trephionus kinoshitai*			●
1845			クビアカツヤゴモクムシ	*Trichotichnus longitarsis*			●
1846			ルイスオオゴミムシ	*Trigonotoma lewisii*			●
－			オサムシ科の一種	Carabidae sp.			●
1847		ハンミョウ	ニワハンミョウ	*Cicindela japana*	●		●
1848			コニワハンミョウ	*Cicindela transbaicalica japanensis*			●
1849			エリザハンミョウ	*Cylindera elisae elisae*	●		
1850			ホソハンミョウ	*Cylindera gracilis*	●	●	
1851			コハンミョウ	*Myriochile specularis*	●		
1852			ナミハンミョウ	*Sophiodela japonica*	●		●
1853		ゲンゴロウ	クロズマメゲンゴロウ	*Agabus conspicuus*	●		●
1854			マメゲンゴロウ	*Agabus japonicus*			●
1855			チャイロマメゲンゴロウ	*Agabus reginbarti*	●		●
1856			トダセスジゲンゴロウ	*Copelatus nakamurai*		●	
1857			ホソセスジゲンゴロウ	*Copelatus weymarni*			●
1858			クロゲンゴロウ	*Cybister brevis*	●		
1859			ゲンゴロウ	*Cybister chinensis*		●	
1860			コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus lateralis*		●	
1861			シャープゲンゴロウモドキ	*Dytiscus sharpi*		●	
1862			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*		●	

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (51)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1863	コウチュウ	ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*		●	
1864			コシマゲンゴロウ	*Hydaticus grammicus*			●
1865			スジゲンゴロウ	*Hydaticus satoi*		●	
1866			マダラシマゲンゴロウ	*Hydaticus thermonectoides*		●	
1867			チビゲンゴロウ	*Hydroglyphus japonicus*	●		●
1868			ツブゲンゴロウ	*Laccophilus difficilis*			●
1869			コウベツブゲンゴロウ	*Laccophilus kobensis*	●		
1870			シャープツブゲンゴロウ	*Laccophilus sharpi*			●
1871			マルチビゲンゴロウ	*Leiodytes frontalis*	●	●	
1872			モンキマメゲンゴロウ	*Platambus pictipennis*			●
1873			クロマメゲンゴロウ	*Platambus stygius*			●
1874			ヒメゲンゴロウ	*Rhantus suturalis*			●
1875		ミズスマシ	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*		●	●
1876			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*		●	●
1877			ヒメミズスマシ	*Gyrinus gestroi*			●
1878			ミズスマシ	*Gyrinus japonicus*			●
1879			コオナガミズスマシ	*Orectochilus punctipennis*		●	
1880		コガシラミズムシ	コガシラミズムシ	*Peltodytes intermedius*			●
1881		コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	*Canthydrus politus*		●	
1882			コツブゲンゴロウ	*Noterus japonicus*			●
1883		カワラゴミムシ	カワラゴミムシ	*Omophron aequalis*		●	
1884		ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	*Tenomerga mucida*			●
1885		ダルマガムシ	ミヤタケダルマガムシ	*Hydraena miyatakei*			●
1886		ホソガムシ	ヤマトホソガムシ	*Hydrochus japonicus*		●	
1887		ガムシ	ヤマトゴマフガムシ	*Berosus japonicus*			●
1888			トゲバゴマフガムシ	*Berosus lewisius*			●
1889			*Cercyon* 属の一種	*Cercyon*　sp.			●
1890			セマルガムシ	*Coelostoma stultum*			●
1891			セマルケシガムシ	*Cryptopleurum subtile*			●
1892			チビヒラタガムシ	*Enochrus esuriens*			●
1893			キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus*			●
1894			キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans*			●
1895			スジヒラタガムシ	*Helochares nipponicus*			●
1896			ルイスヒラタガムシ	*Helochares pallens*			●
1897			マルガムシ	*Hydrocassis lacustris*			●
1898			コガムシ	*Hydrochara affinis*			●
1899			ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*		●	
1900			シジミガムシ	*Laccobius bedeli*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (52)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1901	コウチュウ	ガムシ	マグソガムシ	*Pachysternum haemorrhoum*			●
1902			ホソケシガムシ	*Paroosternum sorex*			●
1903			コウセンマルケシガムシ	*Peratogonus reversus*			●
1904			マメガムシ	*Regimbartia attenuata*			●
1905			ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes*			●
1906		エンマムシ	コエンマムシ	*Margarinotus niponicus*			●
1907			エンマムシ	*Merohister jekeli*			●
1908			フシツノホソエンマムシ	*Niponius furcatus*			●
1909			ヒメホソエンマムシ	*Niponius osorioceps*			●
1910			キノコアカマルエンマムシ	*Notodoma fungorum*			●
1911			ヒメナガエンマムシ	*Platysoma celatum*			●
1912			ナガエンマムシ	*Platysoma lineicollis*			●
1913			ニセヒメナガエンマムシ	*Platysoma rasile*			●
1914			アラメエンマムシ	*Zabromorphus salebrosus subsolanus*		●	
1915		タマキノコムシ	ヒレルチビシデムシ	*Catops hilleri*			●
1916			オチバヒメタマキノコムシ	*Dermatohomoeus terrena*			●
1917			ウスイロヒメタマキノコムシ	*Pseudcolenis hilleri*			●
1918			チビタマキノコムシ	*Zeadolopus japonicus*			●
1919		ムクゲキノコムシ	ムクゲキノコムシ科の一種	Ptiliidae sp.			●
1920		シデムシ	ヨツボシヒラタシデムシ	*Dendroxena sexcarinata*			●
1921			ベッコウヒラタシデムシ	*Eusilpha brunneicollis*			●
1922			オオヒラタシデムシ	*Eusilpha japonica*			●
1923			オオモモブトシデムシ	*Necrodes asiaticus*			●
1924			モモブトシデムシ	*Necrodes nigricornis*			●
1925			クロシデムシ	*Nicrophorus concolor*			●
1926			ヤマトモンシデムシ	*Nicrophorus japonicus*		●	
1927			マエモンシデムシ	*Nicrophorus maculifrons*			●
1928			ヨツボシモンシデムシ	*Nicrophorus quadripunctatus*			●
1929			コクロシデムシ	*Ptomascopus morio*			●
1930		ハネカクシ	アカバハバビロオオハネカクシ北海道・本州亜種	*Agelosus carinatus carinatus*			●
1931			ナカアカヒゲブトハネカクシ	*Aleochara curtula*			●
1932			ヒゲブトハネカクシ	*Aleochara lata*			●
1933			コクロヒゲブトハネカクシ	*Aleochara parens*			●
1934			ムネビロハネカクシ	*Algon grandicollis*			●
1935			セスジハネカクシ	*Anotylus cognatus*			●
1936			ホソヒメアリヅカムシ	*Aphilia longicollis*			●
1937			ズグロアカヒメハネカクシ	*Atheta weisei*			●
－			*Atheta* 属の一種	*Atheta* sp.			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（53）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1938	コウチュウ	ハネカクシ	アカイクビキノコハネカクシ	*Bryoporus gracilis*			●
1939			ニセヒメユミセミゾハネカクシ	*Carpelimus vagus*			●
1940			ハネスジキノコハネカクシ	*Carphacis striatus*			●
1941			ヤマトムナビロコケムシ	*Cephennodes japonicus*			●
1942			カメノコデオキノコムシ	*Cyparium mikado*			●
1943			コヤマトヒゲブトアリヅカムシ	*Diartiger fossulatus fossulatus*			●
1944			マルズハネカクシ	*Domene crassicornis*			●
1945			シリブトヒメコケムシ	*Euconnus fustiger*			●
1946			キイロハナムグリヨツメハネカクシ	*Eusphalerum parallelum*			●
1947			クロハナムグリヨツメハネカクシ	*Eusphalerum pollens*			●
1948			ツマグロムネスジハネカクシ	*Hesperus tiro*			●
1949			ヤマトオオメツヤムネハネカクシ	*Indoquedius juno*			●
1950			ヤマトイクビハネカクシ	*Ischnosoma discoidale*			●
1951			クロズトガリハネカクシ	*Lithocharis nigriceps*			●
1952			オオアリガタハネカクシ	*Megalopaederus poweri*			●
1953			マメアリヅカムシ	*Morana discedens*			●
1954			ツマアカカワベナガエハネカクシ	*Ochthephilum kurosai*			●
1955			クロサビイロマルズオオハネカクシ	*Ocypus lewisius*			●
1956			アロウハネナガヨツメハネカクシ	*Olophrum arrowi*			●
1957			ウスアカバホソハネカクシ	*Othius medius*			●
1958			オオズオオキバハネカクシ	*Oxyporus parcus*			●
1959			アオバアリガタハネカクシ	*Paederus fuscipes*			●
1960			エゾアリガタハネカクシ	*Paederus parallelus*			●
1961			シュモクアリヅカムシ	*Parapyxidicerus carinatus*			●
1962			キアシチビコガシラハネカクシ	*Philonthus numata*			●
1963			オオアカバコガシラハネカクシ	*Philonthus spinipes*			●
1964			ニセヒゲナガコガシラハネカクシ	*Philonthus wuesthoffi*			●
1965			アカバトガリオオズハネカクシ	*Platydracus brevicornis*			●
1966			クロガネトガリオオズハネカクシ	*Platydracus inornatus*			●
1967			チビハバビロハネカクシ	*Proteinus crassicornis*			●
1968			ツブデオキノコムシ	*Pseudobironium lewisi*			●
1969			ナミツヤムネハネカクシ	*Quedius simulans*			●
1970			エグリデオキノコムシ	*Scaphidium emarginatum*			●
1971			ヤマトデオキノコムシ	*Scaphidium japonum*			●
1972			クリイロケシデオキノコムシ	*Scaphisoma castaneipenne*			●
1973			ササゴケシデオキノコムシ	*Scaphisoma sasagoense*			●
1974			ヒメキノコハネカクシ	*Sepedophilus tibialis*			●
1975			クロヒメキノコハネカクシ	*Sepedophilus varicornis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（54）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
1976	コウチュウ	ハネカクシ	ダイミョウハネカクシ	*Staphylinus daimio*			●
1977			ホソフタホシメダカハネカクシ	*Stenus alienus*			●
1978			アシマダラカワベメダカハネカクシ	*Stenus cicindeloides*			●
1979			トビイロオチバメダカハネカクシ	*Stenus rufescens*			●
1980			クロツヤアリノスハネカクシ	*Zyras comes*			●
－			アリヅカムシ亜科の一種	Pselaphinae sp.			●
1981		マルハナノミ	ヒメチビマルハナノミ	*Contacyphon puncticeps puncticeps*			●
1982			トビイロマルハナノミ	*Scirtes japonicus*			●
1983			ヒメマルハナノミ	*Scirtes sobrinus*			●
1984		センチコガネ	センチコガネ	*Phelotrupes laevistriatus*			●
1985		クワガタムシ	ネブトクワガタ本土亜種	*Aegus laevicollis subnitidus*	●		●
1986			マダラクワガタ	*Aesalus asiaticus asiaticus*	●		
1987			オオクワガタ	*Dorcus hopei binodulosus*	●	●	●
1988			コクワガタ	*Dorcus rectus rectus*	●		●
1989			スジクワガタ	*Dorcus striatipennis striatipennis*	●		●
1990			ヒラタクワガタ本土亜種	*Dorcus titanus pilifer*	●		●
1991			ミヤマクワガタ	*Lucanus maculifemoratus maculifemoratus*	●		●
1992			ノコギリクワガタ	*Prosopocoilus inclinatus inclinatus*	●		●
1993		コガネムシ	コイチャコガネ	*Adoretus tenuimaculatus*			●
1994			ヒゲブトハナムグリ	*Amphicoma pectinata*			●
1995			アオドウガネ	*Anomala albopilosa albopilosa*			●
1996			ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea*			●
1997			サクラコガネ	*Anomala daimiana*			●
1998			ヒメサクラコガネ	*Anomala geniculata*			●
1999			ツヤコガネ	*Anomala lucens*			●
2000			ハンノヒメコガネ	*Anomala multistriata*			●
2001			ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea*			●
2002			アカマダラハナムグリ	*Anthracophora rusticola*		●	
2003			カタモンコガネ	*Blitopertha conspurcata*			●
2004			ナミハナムグリ	*Cetonia pilifera*			●
2005			アオハナムグリ	*Cetonia roelofsi roelofsi*			●
2006			トゲヒラタハナムグリ	*Dasyvalgus tuberculatus*			●
2007			ヒメアシナガコガネ	*Ectinohoplia obducta*			●
2008			セマダラコガネ	*Exomala orientalis*			●
2009			コアオハナムグリ	*Gametis jucunda*			●
2010			クロハナムグリ	*Glycyphana fulvistemma*			●
2011			ナガチャコガネ	*Heptophylla picea*			●
2012			クロコガネ	*Holotrichia kiotonensis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（55）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2013	コウチュウ	コガネムシ	オオクロコガネ	*Holotrichia parallela*			●
2014			コクロコガネ	*Holotrichia picea*			●
2015			アシナガコガネ	*Hoplia communis*			●
2016			ヒメトラハナムグリ本土亜種	*Lasiotrichius succinctus tokushimus*			●
2017			アカビロウドコガネ	*Maladera castanea*			●
2018			ビロウドコガネ	*Maladera japonica*			●
2019			ヒメビロウドコガネ	*Maladera orientalis*			●
2020			マルガタビロウドコガネ	*Maladera secreta*			●
2021			オオスジコガネ	*Mimela costata*			●
2022			コガネムシ	*Mimela splendens*			●
2023			スジコガネ	*Mimela testaceipes*			●
2024			ハラゲビロウドコガネ	*Nipponoserica pubiventris*			●
2025			カバイロビロウドコガネ	*Nipponoserica similis*			●
2026			ヒラタハナムグリ	*Nipponovalgus angusticollis angusticollis*			●
2027			クロマルエンマコガネ	*Onthophagus ater*			●
2028			コブマルエンマコガネ	*Onthophagus atripennis*			●
2029			カドマルエンマコガネ	*Onthophagus lenzii*			●
2030			マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus*			●
2031			マメダルマコガネ	*Panelus parvulus*			●
2032			ツヤエンマコガネ	*Parascatonomus nitidus*			●
2033			ウスチャコガネ	*Phyllopertha diversa*			●
2034			オオキイロコガネ	*Pollaplonyx flavidus*			●
2035			マメコガネ	*Popillia japonica*			●
2036			ナラノチャイロコガネ	*Proagopertha pubicollis*			●
2037			シロテンハナムグリ	*Protaetia orientalis submarmorea*			●
2038			カナブン	*Pseudotrynorrhina japonica*			●
2039			クロカナブン	*Rhomborhina polita*		●	●
2040			アオカナブン	*Rhomborhina unicolor unicolor*			●
2041			セスジカクマグソコガネ	*Rhyparus azumai*			●
2042			クロツツマグソコガネ	*Saprosites japonicus*			●
2043			クロスジチャイロコガネ	*Sericania fuscolineata fulgida*			●
2044			キラチャイロコガネ	*Sericania kirai*			●
2045			ナエドコチャイロコガネ	*Sericania mimica*			●
2046			オオタケチャイロコガネ	*Sericania ohtakei*			●
2047			カブトムシ	*Trypoxylus dichotomus septentrionalis*			●
2048		ヒメドロムシ	クロサワドロムシ	*Neoriohelmis kurosawai*		●	
2049			ツヤドロムシ	*Zaitzevia nitida*			●
2050			チビドロムシ	*Limnichus lewisi*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（56）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2051	コウチュウ	ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナノミ	*Ectopria opaca opaca*			●
2052			チビマルヒゲナガハナノミ	*Macroeubria lewisi*			●
2053			マスダチビヒラタドロムシ	*Malacopsephenoides japonicus*			●
2054		ナガハナノミ	エダヒゲナガハナノミ	*Epilichas flabellatus flabellatus*			●
2055			ヒゲナガハナノミ	*Paralichas pectinatus*			●
2056		タマムシ	クロナガタマムシ	*Agrilus cyaneoniger*			●
2057			ホソアシナガタマムシ	*Agrilus ribbei*			●
2058			ミドリツヤナガタマムシ	*Agrilus sibiricus fukushimensis*			●
2059			ケヤキナガタマムシ	*Agrilus spinipennis*			●
2060			フチトリヒメヒラタタマムシ	*Anthaxia primorjensis*			●
2061			ヒメヒラタタマムシ	*Anthaxia proteus*			●
2062			クロタマムシ	*Buprestis haemorrhoidalis japanensis*			●
2063			ウバタマムシ	*Chalcophora japonica japonica*			●
2064			ムツボシタマムシ	*Chrysobothris succedanea*			●
2065			タマムシ	*Chrysochroa fulgidissima fulgidissima*			●
2066			シロオビナカボソタマムシ	*Coraebus quadriundulatus*			●
2067			ハイイロヒラタチビタマムシ	*Habroloma griseonigrum*			●
2068			クロホシタマムシ	*Lamprodila virgata*			●
2069			マスダクロホシタマムシ	*Lamprodila vivata*			●
2070			アオマダラタマムシ	*Nipponobuprestis amabilis*			●
2071			クズノチビタマムシ	*Trachys auricollis*			●
2072			コウゾチビタマムシ	*Trachys broussonetiae*			●
2073			ウメチビタマムシ	*Trachys inconspicuus*			●
2074			ヤナギチビタマムシ	*Trachys minutus salicis*			●
2075			マメチビタマムシ	*Trachys reitteri*			●
2076			ソーンダーズチビタマムシ	*Trachys saundersi*			●
2077			アカガネチビタマムシ	*Trachys tsushimae*			●
2078			ダンダラチビタマムシ	*Trachys variolaris*			●
2079		コメツキムシ	オオシモフリコメツキ	*Actenicerus orientalis*			●
2080			シモフリコメツキ	*Actenicerus pruinosus*			●
2081			ツヤヒラタコメツキ	*Aganohypoganus mirabilis*		●	
2082			ヒメホソキコメツキ	*Agaripenthes helvolus*			●
2083			ヒメカバイロコメツキ	*Agriotes elegantulus*			●
2084			サビキコリ	*Agrypnus binodulus binodulus*			●
2085			ムナビロサビキコリ	*Agrypnus cordicollis*			●
2086			ホソサビキコリ	*Agrypnus fuliginosus*			●
2087			コガタヒメサビキコリ	*Agrypnus hypnicola*			●
2088			ヒメサビキコリ	*Agrypnus scrofa scrofa*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2 (57)　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2089	コウチュウ	コメツキムシ	ヒメクロコメツキ	*Ampedus carbunculus*			●
2090			アカハラクロコメツキ	*Ampedus hypogastricus hypogastricus*			●
2091			オオアカコメツキ	*Ampedus optabilis optabilis*			●
2092			アカコメツキ	*Ampedus orientalis*			●
2093			ケブカクロコメツキ	*Ampedus vestitus vestitus*			●
2094			ドウガネヒラタコメツキ	*Corymbitodes gratus*			●
2095			ウバタマコメツキ	*Cryptalaus berus*			●
2096			オオフタモンウバタマコメツキ	*Cryptalaus larvatus larvatus*			●
2097			フタモンウバタマコメツキ	*Cryptalaus larvatus pini*			●
2098			*Dalopius*属の一種	*Dalopius* sp.			●
2099			ベニコメツキ	*Denticollis nipponensis nipponensis*			●
2100			オオハナコメツキ	*Dicronychus nothus*			●
2101			キバネホソコメツキ	*Dolerosomus gracilis*			●
2102			ミズギワコメツキ	*Fleutiauxellus curatus curatus*			●
2103			チャイロコメツキ	*Haterumelater bicarinatus bicarinatus*			●
2104			ホソキコメツキ	*Hayekpenthes pallidus pallidus*			●
2105			ルリツヤハダコメツキ	*Hemicrepidius subcyaneus*			●
2106			ムラサキヒメカネコメツキ	*Kibunea eximia*			●
2107			キンムネヒメカネコメツキ	*Kibunea ignicollis*			●
2108			タテスジカネコメツキ	*Limoniscus vittatus*			●
2109			メダカツヤハダコメツキ	*Medakathous jactatus jactatus*			●
2110			クロツヤクシコメツキ	*Melanotus annosus*			●
2111			ハネナガクシコメツキ	*Melanotus castanipes matsumurai*			●
2112			クシコメツキ	*Melanotus legatus legatus*			●
2113			チャバネクシコメツキ	*Melanotus seniculus*			●
2114			クロクシコメツキ	*Melanotus senilis senilis*			●
2115			オオナガコメツキ	*Nipponoelater sieboldi sieboldi*			●
2116			ウスチャイロカネコメツキ	*Nothodes marginicollis*			●
2117			コガネホソコメツキ	*Sericus bifoveolatus*			●
2118			クチブトコメツキ	*Silesis musculus musculus*			●
2119			アカアシオオクシコメツキ	*Spheniscosomus cete cete*			●
2120			ヒラタクシコメツキ	*Spheniscosomus koikei*			●
2121			オオツヤハダコメツキ	*Stenagostus umbratilis*			●
2122			オオクシヒゲコメツキ	*Tetrigus lewisi*			●
2123			ミドリヒメコメツキ	*Vuilletus viridis*			●
2124			ホソマメコメツキ	*Yukoana terukoe*			●
2125		ヒゲブトコメツキ	チャイロヒゲブトコメツキ	*Trixagus turgidus*			●
2126		ジョウカイボン	ミヤマクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus lictorius*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（58）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2127	コウチュウ	ジョウカイボン	クロヒメクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus malthinoides malthinoides*			●
2128			ウスイロクビボソジョウカイ	*Asiopodabrus temporalis*			●
2129			クロヒゲナガジョウカイ	*Habronychus providus*			●
2130			クビボソジョウカイ	*Hatchiana heydeni*			●
2131			ムネアカクロジョウカイ	*Lycocerus adusticollis*			●
2132			クロジョウカイ	*Lycocerus attristatus*			●
2133			ウスチャジョウカイ	*Lycocerus insulsus insulsus*			●
2134			ヒメジョウカイ	*Lycocerus japonicus*			●
2135			セスジジョウカイ	*Lycocerus magnius*			●
2136			ミヤマクビアカジョウカイ	*Lycocerus nakanei*			●
2137			クビアカジョウカイ	*Lycocerus oedemeroides*			●
2138			ジョウカイボン	*Lycocerus suturellus suturellus*			●
2139			セボシジョウカイ	*Lycocerus vitellinus*			●
2140			クロツマキジョウカイ	*Malthinus japonicus*			●
2141			クロスジツマキジョウカイ	*Malthinus mucoreus*			●
2142			マルムネジョウカイ	*Prothemus ciusianus*			●
2143			クリイロジョウカイ	*Stenothemus badius*			●
2144			アオジョウカイ	*Themus cyanipennis*			●
2145			キンイロジョウカイ	*Themus episcopalis purpureoaeneus*			●
2146			ヒメキンイロジョウカイ	*Themus midas*			●
2147			カタキンイロジョウカイ	*Themus ohkawai*			●
2148		ホタル	ムネクリイロボタル	*Cyphonocerus ruficollis*			●
2149			カタモンミナミボタル	*Drilaster axillaris*			●
2150			オバボタル	*Lucidina biplagiata*			●
2151			ゲンジボタル	*Luciola cruciata*	●		●
2152			ヘイケボタル	*Luciola lateralis*			●
2153			クロマドボタル	*Pyrocoelia fumosa*			●
－			ホタル科の一種	Lampyridae sp.			●
2154		ベニボタル	ミスジヒシベニボタル	*Benibotarus spinicoxis*			●
2155			カクムネクロベニボタル	*Cautires nakanei nakanei*			●
2156			ユアサクロベニボタル	*Cautires yuasai*			●
2157			カタアカベニボタル	*Conderis rufohumeralis*			●
2158			メダカヒシベニボタル	*Dictyoptera oculata*			●
2159			ムネアカテングベニボタル	*Konoplatycis otome*			●
2160			アカミスジヒシベニボタル	*Laterialis oculata*			●
2161			コクロハナボタル	*Libnetis granicollis*			●
2162			ベニボタル	*Lycostomus modestus*			●
2163			フトベニボタル	*Lycostomus semiellipticus semiellipticus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（59）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2164	コウチュウ	ベニボタル	ヒメベニボタル	*Lyponia delicatula*			●
2165			カクムネベニボタル	*Lyponia quadricollis*			●
2166			コクシヒゲベニボタル	*Macrolycus aemulus*			●
2167			クシヒゲベニボタル	*Macrolycus flabellatus*			●
2168			ホソベニボタル	*Mesolycus atrorufus*			●
2169			クロハナボタル	*Plateros coracinus*			●
2170			ヒメクロハナボタル	*Plateros japonicus*			●
2171		ホタルモドキ	ムネアカホソホタルモドキ	*Drilonius osawai*			●
2172		カツオブシムシ	シロオビマルカツオブシムシ	*Anthrenus nipponensis*			●
2173			ヒメマルカツオブシムシ	*Anthrenus verbasci*			●
2174			ベニモンチビカツオブシムシ	*Orphinus japonicus*			●
2175		シバンムシ	マツザイシバンムシ	*Ernobius mollis*			●
2176		ヒョウホンムシ	ナガヒョウホンムシ	*Ptinus japonicus*			●
2177		カッコウムシ	ホソカッコウムシ	*Cladiscus obeliscus*			●
2178			キオビナガカッコウムシ	*Opilo carinatus*			●
2179			ムナグロナガカッコウムシ	*Opilo niponicus*			●
2180			クロダンダラカッコウムシ	*Stigmatium nakanei*			●
2181			ダンダラカッコウムシ	*Stigmatium pilosellum*			●
2182			アリモドキカッコウムシ	*Thanasimus lewisi*			●
2183		ジョウカイモドキ	クロアオケシジョウカイモドキ	*Dasytes japonicus*			●
2184			ケシジョウカイモドキ	*Dasytes vulgaris*			●
2185			ヒロオビジョウカイモドキ	*Intybia historio*			●
2186			ツマキアオジョウカイモドキ	*Malachius prolongatus*			●
2187			ヒメジョウカイモドキ	*Nepachys japonicus*			●
2188		コクヌスト	オオマダラコクヌスト	*Kolibacia tibialis*			●
2189			オオコクヌスト	*Trogossita japonica*			●
2190		ムクゲキスイムシ	ハスモンムクゲキスイ	*Biphyllus rufopictus*			●
2191		キスイモドキ	ズグロキスイモドキ	*Byturus atricollis*			●
2192		テントウムシ	カメノコテントウ	*Aiolocaria hexaspilota*			●
2193			シロトホシテントウ	*Calvia decemguttata*			●
2194			ムーアシロホシテントウ	*Calvia muiri*			●
2195			シロジュウゴホシテントウ	*Calvia quindecimguttata*			●
2196			ヒメアカホシテントウ	*Chilocorus kuwanae*			●
2197			アカホシテントウ	*Chilocorus rubidus*			●
2198			ナナホシテントウ	*Coccinella septempunctata*			●
2199			フタモンクロテントウ	*Cryptogonus orbiculus*			●
2200			ナミテントウ	*Harmonia axyridis*			●
2201			オオニジュウヤホシテントウ	*Henosepilachna vigintioctomaculata*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（60）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2202	コウチュウ	テントウムシ	ニジュウヤホシテントウ	*Henosepilachna vigintioctopunctata*			●
2203			ジュウサンホシテントウ	*Hippodamia tredecimpunctata*			●
2204			フタホシテントウ	*Hyperaspis japonica*			●
2205			キイロテントウ	*Kiiro koebelei koebelei*			●
2206			ウスキホシテントウ	*Oenopia hirayamai*			●
2207			ヨツボシテントウ	*Phymatosternus lewisii*			●
2208			ヒメカメノコテントウ	*Propylea japonica*			●
2209			コカメノコテントウ	*Propylea quatuordecimpunctata*			●
2210			ベダリアテントウ	*Rodolia cardinalis*			●
2211			アカイロテントウ	*Rodolia concolor*			●
2212			ベニヘリテントウ	*Rodolia limbata*			●
2213			ハレヤヒメテントウ	*Sasajiscymnus hareja*			●
2214			クビアカヒメテントウ	*Sasajiscymnus sylvaticus*			●
2215			ババヒメテントウ	*Scymnus babai*			●
2216			バイゼヒメテントウ	*Scymnus contemtus*			●
2217			ツマアカヒメテントウ	*Scymnus dorcatomoides*			●
2218			オニヒメテントウ	*Scymnus giganteus*			●
2219			クロヘリヒメテントウ	*Scymnus hoffmanni*			●
2220			クロヒメテントウ	*Scymnus japonicus*			●
2221			カワムラヒメテントウ	*Scymnus kawamurai*			●
2222			コクロヒメテントウ	*Scymnus posticalis*			●
2223			ナガヒメテントウ	*Scymnus ruficeps*			●
2224			ヤマトヒメテントウ	*Scymnus yamato*			●
2225			シロホシテントウ	*Vibidia duodecimguttata*			●
－			テントウムシ科の一種	Coccinellidae sp.			●
2226		ミジンムシ	チャイロミジンムシ	*Alloparmulus rugosus*			●
2227		キスイムシ	ケナガセマルキスイ	*Atomaria horridula*			●
2228			ウスバキスイ	*Cryptophagus cellaris*			●
2229			クロモンキスイ	*Cryptophagus decoratus*			●
2230			ニホンヒゲブトキスイ	*Cryptophagus japonicus*			●
2231			マルガタキスイ	*Curelius japonicus*			●
2232		ヒラタムシ	ベニヒラタムシ	*Cucujus coccinatus*			●
2233		ミジンムシダマシ	クロミジンムシダマシ	*Aphanocephalus hemisphericus*			●
2234		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	*Ancylopus pictus asiaticus*			●
2235			クロモンケブカテントウダマシ	*Ectomychus musculus*			●
2236			ルリテントウダマシ	*Endomychus gorhami gorhami*			●
2237			キボシテントウダマシ	*Mycetina amabilis*			●
2238			イカリモンテントウダマシ	*Mycetina ancoriger*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（61）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2239	コウチュウ	テントウムシダマシ	キイロテントウダマシ	*Saula japonica*			●
2240		オオキノコムシ	カタモンオオキノコムシ	*Aulacochilus japonicus*			●
2241			ルリオオキノコムシ	*Aulacochilus sibiricus*			●
2242			ミヤマオビオオキノコムシ	*Episcapha gorhami*			●
2243			クロハバビロオオキノコムシ	*Neotriplax atrata*			●
2244			アカハバビロオオキノコムシ	*Neotriplax lewisii*			●
2245			ホソチビオオキノコムシ	*Triplax japonica*			●
2246			フタモンハバビロオオキノコムシ	*Tritoma biplagiata*			●
2247			クロチビオオキノコムシ	*Tritoma niponensis*			●
2248			キベリハバビロオオキノコムシ	*Tritoma pallidicincta*			●
2249		オオキスイムシ	ヨツボシオオキスイ	*Helota gemmata*			●
2250		コメツキモドキ	キムネヒメコメツキモドキ	*Anadastus atriceps*			●
2251			ツマグロヒメコメツキモドキ	*Anadastus praeustus*			●
2252			アカアシヒメコメツキモドキ	*Anadastus ruficeps*			●
2253			アカスジナガムクゲキスイ	*Cryptophilus hiranoi*			●
2254			ルイスコメツキモドキ	*Languriomorpha lewisi*			●
2255		ヒメマキムシ	ウスチャケシマキムシ	*Cortinicara gibbosa*			●
2256			ヒメマキムシ	*Stephostethus chinensis*			●
2257		ネスイムシ	ニセケブカネスイ	*Rhizophagoides kojimai*			●
2258		ケシキスイ	クロモンムクゲケシキスイ	*Aethina flavicollis*			●
2259			コゲチャセマルケシキスイ	*Amphicrossus japonicus*			●
2260			ナガコゲチャケシキスイ	*Amphicrossus lewisi*			●
2261			ケモンケシキスイ	*Atarphia fasciculata*			●
2262			クロハナケシキスイ	*Carpophilus chalybeus*			●
2263			ルイスコオニケシキスイ	*Cryptarcha lewisi*			●
2264			ナミモンコケシキスイ	*Cryptarcha strigata*			●
2265			モンチビヒラタケシキスイ	*Epuraea ocularis*			●
2266			ナミヒラタケシキスイ	*Epuraea pellax*			●
2267			コヨツボシケシキスイ	*Glischrochilus ipsoides*			●
2268			ヨツボシケシキスイ	*Glischrochilus japonicus*			●
2269			アカハラケシキスイ	*Glischrochilus rufiventris*			●
2270			コクロヒラタケシキスイ	*Ipidia sibirica*			●
2271			キベリチビケシキスイ	*Meligethes violaceus*			●
2272			ネアカマルケシキスイ	*Neopallodes inermis*			●
2273			ツヤマルケシキスイ	*Neopallodes vicinus*			●
2274			キボシヒラタケシキスイ	*Omosita colon*			●
2275			アカマダラケシキスイ	*Phenolia picta*			●
2276			キノコヒラタケシキスイ	*Physoronia explanata*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（62）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2277	コウチュウ	ケシキスイ	アミモンヒラタケシキスイ	*Physoronia hilleri*			●
2278			セダカカクケシキスイ	*Pocadites corpulentus*			●
2279			ウスオビカクケシキスイ	*Pocadites dilatimanus*			●
2280			オオキマダラケシキスイ	*Soronia fracta*			●
2281			クロキマダラケシキスイ	*Soronia lewisi*			●
2282			マルキマダラケシキスイ	*Stelidota multiguttata*			●
2283		ヒメハナムシ	チビヒメハナムシ	*Stilbus pumilus*			●
2284		ホソヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	*Psammoecus trimaculatus*			●
2285		ヒメキノコムシ	マルヒメキノコムシ	*Aspidiphorus japonicus*			●
2286		アリモドキ	ケオビアリモドキ	*Anthelephila cribriceps*			●
2287			モモキアリモドキ	*Anthicomorphus cruralis*			●
2288			クロチビアリモドキ	*Anthicomorphus niponicus niponicus*			●
2289			コクビボソムシ	*Macratria fluviatilis*			●
2290			キアシクビボソムシ	*Macratria japonica*			●
2291			アカホソアリモドキ	*Stricticomus fugiens*			●
2292			ヨツボシホソアリモドキ	*Stricticomus valgipes*			●
2293		クビナガムシ	クビナガムシ	*Cephaloon pallens*			●
2294		ホソカタムシ	マメヒラタホソカタムシ	*Acolophus debilis*			●
2295			ノコギリホソカタムシ	*Endophloeus serratus*			●
2296			ヒサゴホソカタムシ	*Glyphocryptus brevicollis*			●
2297			ホソマダラホソカタムシ	*Namunaria picta*			●
2298			ツヤナガヒラタホソカタムシ	*Pycnomerus vilis*			●
2299		ニセクビボソムシ	マダラニセクビボソムシ	*Phytobaenus amabilis scapularis*			●
2300			アシマガリニセクビボソムシ	*Pseudolotelus distortus*			●
2301			オビモンニセクビボソムシ	*Syzeton quadrimaculatus*			●
2302		ナガクチキムシ	ヨツボシヒメナガクチキ	*Holostrophus lewisi*			●
2303			アカオビニセハナノミ	*Orchesia imitans*			●
2304			コイチャニセハナノミ	*Orchesia marseuli*			●
2305			カバイロニセハナノミ	*Orchesia ocularis*			●
2306			オオクロホソナガクチキ	*Phloeotrya bellicosa*			●
2307			ビロウドホソナガクチキ	*Phloeotrya obscura*			●
2308		ツチハンミョウ	ヒメツチハンミョウ	*Meloe coarctatus*			●
2309			キイロゲンセイ	*Zonitis japonica*			●
2310		ハナノミ	タカオヒメハナノミ	*Falsomordellina takaosana*			●
2311			シロウズクロヒメハナノミ	*Mordellistena shirozui*			●
2312		コキノコムシ	マダラヒメコキノコムシ	*Litargops maculosus*			●
2313			フタオビヒメコキノコムシ	*Litargus antennatus*			●
2314		カミキリモドキ	ルリカミキリモドキ	*Anogcodes coarctata coarctata*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（63）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2315	コウチュウ	カミキリモドキ	アオグロカミキリモドキ	*Ischnomera nigrocyanea nigrocyanea*			●
2316			キイロカミキリモドキ	*Nacerdes hilleri*			●
2317			キバネカミキリモドキ	*Nacerdes luteipennis*			●
2318			ツマグロカミキリモドキ	*Nacerdes melanura*			●
2319			アオカミキリモドキ	*Nacerdes waterhousei*			●
2320			モモブトカミキリモドキ	*Oedemera lucidicollis*			●
2321			キアシカミキリモドキ	*Oedemera manicata*			●
2322		アカハネムシ	アカハネムシ	*Pseudopyrochroa vestiflua*			●
2323		チビキカワムシ	ツヤチビキカワムシ	*Lissodema laevipenne*			●
2324		ゴミムシダマシ	クロテントウゴミムシダマシ	*Ades convexus*			●
2325			クリノウスイロクチキムシ	*Allecula simiola*			●
2326			ホンドホソアカクチキムシ	*Allecula tenuis*			●
2327			ガイマイゴミムシダマシ	*Alphitobius diaperinus*			●
2328			コマルキマワリ	*Amarygmus curvus*			●
2329			ナミアオハムシダマシ	*Arthromacra viridissima*			●
2330			ヨツボシゴミムシダマシ	*Basanus erotyloides*			●
2331			クリイロクチキムシ	*Borboresthes acicularis*			●
2332			ヒメナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria induta*			●
2333			ホソナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria striata*			●
2334			ルリゴミムシダマシ	*Derosphaerus subviolaceus*			●
2335			コスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum coriaceum*			●
2336			ムネビロスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum japanum japanum*			●
2337			ヒメスナゴミムシダマシ	*Gonocephalum persimile*			●
2338			クロツヤバネクチキムシ	*Hymenalia unicolor*			●
2339			ヒラツノキノコゴミムシダマシ	*Ischnodactylus parallelicornis*			●
2340			ホンドチビヒサゴゴミムシダマシ	*Laena rotundicollis*			●
2341			オオメキバネハムシダマシ	*Lagria rufipennis*			●
2342			ヒゲブトゴミムシダマシ	*Luprops orientalis*			●
2343			フジナガハムシダマシ	*Macrolagria rufobrunnea*			●
2344			ヒメオビキノコゴミムシダマシ	*Platydema nigropicta*			●
2345			ツノボソキノコゴミムシダマシ	*Platydema recticornis*			●
2346			ベニモンキノコゴミムシダマシ	*Platydema subfascia subfascia*			●
2347			ニホンキマワリ本土亜種	*Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus*			●
2348			サトユミアシゴミムシダマシ	*Promethis valgipes*			●
2349			ハコネマルムネゴミムシダマシ	*Tarpela elegantula*			●
2350			ホンドニジゴミムシダマシ	*Tetraphyllus paykullii*			●
2351			ミツノゴミムシダマシ	*Toxicum tricornutum*			●
2352			モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma bonzica*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（64）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2353	コウチュウ	ゴミムシダマシ	コルベヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma latimanus*			●
2354			ヤマトエグリゴミムシダマシ	*Uloma lewisi*			●
2355			マルセルエグリゴミムシダマシ本土亜種	*Uloma marseuli marseuli*			●
2356			ホンドクロオオクチキムシ	*Upinella fuliginosa*			●
2357			ナミクチキムシ	*Upinella melanaria*			●
2358		キノコムシダマシ	アカバコキノコムシダマシ	*Pisenus insignis*			●
2359		カミキリムシ	ビロウドカミキリ	*Acalolepta fraudatrix fraudatrix*			●
2360			ウスバカミキリ	*Aegosoma sinicum sinicum*			●
2361			キマダラミヤマカミキリ	*Aeolesthes chrysothrix chrysothrix*			●
2362			ツヤケシハナカミキリ	*Anastrangalia scotodes*	●		●
2363			ルリハナカミキリ	*Anoplodera cyanea*			●
2364			ゴマダラカミキリ	*Anoplophora malasiaca*			●
2365			クワカミキリ	*Apriona japonica*			●
2366			サビカミキリ	*Arhopalus coreanus*			●
2367			キクスイモドキカミキリ	*Asaperda rufipes*			●
2368			シロスジカミキリ	*Batocera lineolata*			●
2369			ハンノキカミキリ	*Cagosima sanguinolenta*			●
2370			ヒメスギカミキリ	*Callidiellum rufipenne*			●
2371			タケトラカミキリ	*Chlorophorus annularis*			●
2372			エグリトラカミキリ	*Chlorophorus japonicus*			●
2373			シラケトラカミキリ	*Clytus melaenus*			●
2374			キスジトラカミキリ	*Cyrtoclytus caproides caproides*			●
2375			トゲヒゲトラカミキリ	*Demonax transilis*			●
2376			ヒナルリハナカミキリ	*Dinoptera minuta*	●		●
2377			ホソカミキリ	*Distenia gracilis gracilis*			●
2378			ニイジマチビカミキリ	*Egesina bifasciana bifasciana*			●
2379			ヨコヤマトラカミキリ	*Epiclytus yokoyamai*			●
2380			ヨツキボシカミキリ	*Epiglenea comes comes*			●
2381			クモガタケシカミキリ	*Exocentrus fasciolatus*			●
2382			ガロアケシカミキリ	*Exocentrus galloisi*			●
2383			シラオビゴマフケシカミキリ	*Exocentrus guttulatus*			●
2384			アトモンマルケシカミキリ	*Exocentrus lineatus*			●
2385			キッコウモンケシカミキリ	*Exocentrus testudineus*			●
2386			シロオビゴマフカミキリ	*Falsomesosella gracilior*			●
2387			コジマヒゲナガコバネカミキリ	*Glaphyra kojimai*			●
2388			シラホシカミキリ	*Glenea relicta relicta*			●
2389			ミヤマルリハナカミキリ	*Kanekoa azumensis*	●		
2390			キバネニセハムシハナカミキリ	*Lemula decipiens*	●		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（65）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2391	コウチュウ	カミキリムシ	クロハナカミキリ	*Leptura aethiops*			●
2392			ヤツボシハナカミキリ	*Leptura annularis mimica*			●
2393			ムネアカクロハナカミキリ	*Leptura dimorpha*	●		
2394			ツマグロハナカミキリ	*Leptura modicenotata*	●		●
2395			ヨツスジハナカミキリ	*Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata*	●		●
2396			オオヨツスジハナカミキリ	*Macroleptura regalis*			●
2397			カタシロゴマフカミキリ	*Mesosa hirsuta hirsuta*			●
2398			ゴマフカミキリ	*Mesosa japonica*			●
2399			ナガゴマフカミキリ	*Mesosa longipennis*			●
2400			ヒシカミキリ	*Microlera ptinoides*			●
2401			マツノマダラカミキリ	*Monochamus alternatus endai*			●
2402			ヒメヒゲナガカミキリ	*Monochamus subfasciatus subfasciatus*			●
2403			ミヤマカミキリ	*Neocerambyx raddei*			●
2404			ハイイロヤハズカミキリ	*Niphona furcata*			●
2405			ヘリグロリンゴカミキリ	*Nupserha marginella*			●
2406			リンゴカミキリ	*Oberea japonica*			●
2407			ニセリンゴカミキリ	*Oberea mixta*			●
2408			シロトラカミキリ	*Paraclytus excultus*			●
2409			ラミーカミキリ	*Paraglenea fortunei*			●
2410			ニンフホソハナカミキリ	*Parastrangalis nymphula*	●		●
2411			ニセシラホシカミキリ	*Pareutetrapha simulans*			●
2412			カタキハナカミキリ	*Pedostrangalia femoralis*	●		
2413			キクスイカミキリ	*Phytoecia rufiventris*			●
2414			チャイロヒメハナカミキリ	*Pidonia aegrota aegrota*	●		●
2415			セスジヒメハナカミキリ	*Pidonia amentata amentata*	●		
2416			オオヒメハナカミキリ	*Pidonia grallatrix*	●		
2417			フタオビヒメハナカミキリ	*Pidonia puziloi*	●		●
2418			ナガバヒメハナカミキリ	*Pidonia signifera*	●		
2419			ニセフタオビヒメハナカミキリ	*Pidonia testacea*			●
2420			ネジロカミキリ	*Pogonocherus seminiveus*			●
2421			ノコギリカミキリ	*Prionus insularis insularis*			●
2422			ニセノコギリカミキリ	*Prionus sejunctus*			●
2423			キボシカミキリ	*Psacothea hilaris hilaris*			●
2424			ワモンサビカミキリ	*Pterolophia annulata*			●
2425			トガリシロオビサビカミキリ	*Pterolophia caudata caudata*			●
2426			アトモンサビカミキリ	*Pterolophia granulata*			●
2427			ナカジロサビカミキリ	*Pterolophia jugosa jugosa*			●
2428			ヒメナガサビカミキリ	*Pterolophia leiopodina*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（66）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2429	コウチュウ	カミキリムシ	エゾサビカミキリ	*Pterolophia tsurugiana*			●
2430			アトジロサビカミキリ	*Pterolophia zonata*			●
2431			ベニカミキリ	*Purpuricenus temminckii*			●
2432			ハイイロハナカミキリ	*Rhagium japonicum*			●
2433			ニセハイイロハナカミキリ	*Rhagium pseudojaponicum*	●		
2434			ヒメクロトラカミキリ	*Rhaphuma diminuta diminuta*			●
2435			ホソトラカミキリ	*Rhaphuma xenisca*			●
2436			セミスジコブヒゲカミキリ	*Rhodopina lewisii lewisii*			●
2437			ヒトオビアラゲカミキリ	*Rhopaloscelis unifasciatus*			●
2438			アオカミキリ	*Schwarzerium quadricollis*			●
2439			ケシカミキリ	*Sciades tonsus*			●
2440			スギカミキリ	*Semanotus japonicus*			●
2441			クロカミキリ	*Spondylis buprestoides*			●
2442			ヨツボシカミキリ	*Stenygrinum quadrinotatum*		●	●
2443			アカハナカミキリ	*Stictoleptura succedanea*	●		●
2444			コウヤホソハナカミキリ	*Strangalia koyaensis*			●
2445			ヤハズカミキリ	*Uraecha bimaculata bimaculata*			●
2446			アオスジカミキリ	*Xystrocera globosa*			●
2447		ハムシ	アカガネサルハムシ	*Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii*			●
2448			キクビアオハムシ	*Agelasa nigriceps*			●
2449			ハンノキハムシ	*Agelastica coerulea*			●
2450			カミナリハムシ	*Altica aenea*			●
2451			ニホンカミナリハムシ	*Altica nipponica*			●
2452			コカミナリハムシ	*Altica viridicyanea*			●
2453			ツブノミハムシ	*Aphthona perminuta*			●
2454			サメハダツブノミハムシ	*Aphthona strigosa*			●
2455			オオキイロマルノミハムシ	*Argopus balyi*			●
2456			オオアカマルノミハムシ	*Argopus clypeatus*			●
2457			アカイロマルノミハムシ	*Argopus punctipennis*			●
2458			ムナグロツヤハムシ	*Arthrotus niger*			●
2459			ジンガサハムシ	*Aspidimorpha indica*			●
2460			ウリハムシモドキ	*Atrachya menetriesi*			●
2461			ウリハムシ	*Aulacophora indica*			●
2462			クロウリハムシ	*Aulacophora nigripennis nigripennis*			●
2463			ハンノキサルハムシ	*Basilepta balyi*			●
2464			クロムナゲサルハムシ	*Basilepta hirticollis*			●
2465			ウスイロサルハムシ	*Basilepta pallidula*			●
2466			アズキマメゾウムシ	*Callosobruchus chinensis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（67）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2467	コウチュウ	ハムシ	セモンジンガサハムシ	*Cassida crucifera*			●
2468			ヒメジンガサハムシ	*Cassida fuscorufa*			●
2469			ヒメカメノコハムシ	*Cassida piperata*			●
2470			アオカメノコハムシ	*Cassida rubiginosa*			●
2471			ヒメドウガネトビハムシ	*Chaetocnema concinnicollis*			●
2472			ハラグロヒメハムシ	*Charaea cyaneus*			●
2473			キバラヒメハムシ	*Charaea flaviventre*			●
2474			ツツジムシクソハムシ	*Chlamisus laticollis*			●
2475			ムシクソハムシ	*Chlamisus spilotus*			●
2476			ヨモギハムシ	*Chrysolina aurichalcea*			●
2477			ヤナギハムシ	*Chrysomela vigintipunctata*			●
2478			ヒトミヒメサルハムシ	*Cleoporus variabilis*			●
2479			キアシアオハムシ	*Clerotilia flavomarginata*			●
2480			ミドリトビハムシ	*Crepidodera japonica*			●
2481			バラルリツツハムシ	*Cryptocephalus approximatus*			●
2482			キアシルリツツハムシ	*Cryptocephalus fortunatus*			●
2483			ヤツボシツツハムシ	*Cryptocephalus japanus*			●
2484			ヨツモンクロツツハムシ	*Cryptocephalus nobilis*			●
2485			セスジツツハムシ	*Cryptocephalus parvulus*			●
2486			カシワツツハムシ	*Cryptocephalus scitulus*			●
2487			クロボシツツハムシ	*Cryptocephalus signaticeps*			●
2488			カタビロトゲハムシ	*Dactylispa subquadrata*			●
2489			チビカサハラハムシ	*Demotina decorata*			●
2490			マダラカサハラハムシ	*Demotina fasciculata*			●
2491			カサハラハムシ	*Demotina modesta*			●
2492			イネネクイハムシ	*Donacia provostii*			●
2493			ヒウラヒラタネクイハムシ	*Donacia splendens hiurai*			●
2494			クワハムシ	*Fleutiauxia armata*			●
2495			ジュンサイハムシ	*Galerucella nipponensis*			●
2496			イチゴハムシ	*Galerucella vittaticollis*			●
2497			イタドリハムシ	*Gallerucida bifasciata*			●
2498			コガタルリハムシ	*Gastrophysa atrocyanea*			●
2499			フジハムシ	*Gonioctena rubripennis*			●
2500			ヨツキボシハムシ	*Hamushia eburata*			●
2501			キバネマルノミハムシ	*Hemipyxis flavipennis*			●
2502			ヒゲナガルリマルノミハムシ	*Hemipyxis plagioderoides*			●
2503			ケブカクロナガハムシ	*Hesperomorpha hirsuta*			●
2504			ドウガネサルハムシ	*Heteraspis lewisii*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（68）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2505	コウチュウ	ハムシ	クロオビカサハラハムシ	*Hyperaxis fasciata*			●
2506			ルリクビボソハムシ	*Lema cirsicola*			●
2507			キバラルリクビボソハムシ	*Lema concinnipennis*			●
2508			アカクビボソハムシ	*Lema diversa*			●
2509			ヤマイモハムシ	*Lema honorata*			●
2510			ホソクビナガハムシ	*Lilioceris parvicollis*			●
2511			キイロクビナガハムシ	*Lilioceris rugata*			●
2512			アカクビナガハムシ	*Lilioceris subpolita*			●
2513			イヌノフグリトビハムシ	*Longitarsus holsaticus*			●
2514			オオバコトビハムシ	*Longitarsus scutellaris*			●
2515			ヨモギアシナガトビハムシ	*Longitarsus succineus*			●
2516			クワノミハムシ	*Luperomorpha funesta*			●
2517			キアシノミハムシ	*Luperomorpha tenebrosa*			●
2518			コフキケブカサルハムシ	*Lypesthes ater*			●
2519			ルイスケブカサルハムシ	*Lypesthes lewisi*			●
2520			フタスジヒメハムシ	*Medythia nigrobilineata*			●
2521			ホタルハムシ	*Monolepta dichroa*			●
2522			キイロクワハムシ	*Monolepta pallidula*			●
2523			オオキイロノミハムシ	*Neocrepidodera obscuritarsis*			●
2524			カクムネチビトビハムシ	*Neocrepidodera recticollis*			●
2525			ルリマルノミハムシ	*Nonarthra cyanea*			●
2526			コマルノミハムシ	*Nonarthra tibialis*			●
2527			ドウガネツヤハムシ	*Oomorphoides cupreatus*			●
2528			ブタクサハムシ	*Ophraella communa*			●
2529			ハギツツハムシ	*Pachybrachis eruditus*			●
2530			ムネアカキバネサルハムシ	*Pagria consimile*			●
2531			アトボシハムシ	*Paridea angulicollis*			●
2532			ヨツボシハムシ	*Paridea quadriplagiata*			●
2533			チャバネツヤハムシ	*Phygasia fulvipennis*			●
2534			ヤナギルリハムシ	*Plagiodera versicolora*			●
2535			キヌツヤミズクサハムシ	*Plateumaris sericea*			●
2536			ルリナガスネトビハムシ	*Psylliodes brettinghami*			●
2537			ナトビハムシ	*Psylliodes punctifrons*			●
2538			ナスナガスネトビハムシ	*Psylliodes viridana*			●
2539			サンゴジュハムシ	*Pyrrhalta humeralis*			●
2540			アカタデハムシ	*Pyrrhalta semifulva*			●
2541			エノキハムシ	*Pyrrhalta tibialis*			●
2542			キイロナガツツハムシ	*Smaragdina nipponensis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（69）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2543	コウチュウ	ハムシ	ムナキルリハムシ	*Smaragdina semiaurantiaca*			●
2544			アケビタマノミハムシ	*Sphaeroderma akebia*			●
2545			ツマキタマノミハムシ	*Sphaeroderma apicale*			●
2546			アカバネタマノミハムシ	*Sphaeroderma nigricolle*			●
2547			キイロタマノミハムシ	*Sphaeroderma unicolor*			●
2548			ルリウスバハムシ	*Stenoluperus cyaneus*			●
2549			ヒゲナガウスバハムシ	*Stenoluperus nipponensis*			●
2550			イチモンジカメノコハムシ	*Thlaspida biramosa*			●
2551			ルイスジンガサハムシ	*Thlaspida lewisii*			●
2552			アラハダトビハムシ	*Trachyaphthona lewisi*			●
2553			キカサハラハムシ	*Xanthonia placida*			●
－			ハムシ科の一種	Chrysomelidae sp.			●
2554		ヒゲナガゾウムシ	シリジロヒゲナガゾウムシ	*Androceras flavellicorne*			●
2555			アカアシヒゲナガゾウムシ	*Araecerus tarsalis*			●
2556			スネアカヒゲナガゾウムシ	*Autotropis distinguenda*			●
2557			キノコヒゲナガゾウムシ	*Euparius oculatus oculatus*			●
2558			エゴヒゲナガゾウムシ	*Exechesops leucopis*			●
2559			ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	*Ozotomerus japonicus japonicus*			●
2560			シリジロメナガヒゲナガゾウムシ	*Phaulimia confinis*			●
2561			シロヒゲナガゾウムシ	*Platystomos sellatus sellatus*			●
2562			カオジロヒゲナガゾウムシ	*Sphinctotropis laxa*			●
2563			キマダラヒゲナガゾウムシ	*Tropideres naevulus*			●
2564			ナガフトヒゲナガゾウムシ	*Xylinada striatifrons*			●
2565			ギシギシホソクチゾウムシ	*Perapion violaceum*			●
2566			ヒゲナガホソクチゾウムシ	*Pseudopirapion placidum*			●
2567			マメホソクチゾウムシ	*Pseudopiezotrachelus collaris*			●
2568			ヒレルホソクチゾウムシ	*Sergiola hilleri*			●
2569			ヒメケブカホソクチゾウムシ	*Sergiola praecaria*			●
2570		オトシブミ	ウスモンオトシブミ	*Apoderus balteatus*			●
2571			ヒメクロオトシブミ	*Apoderus erythrogaster*			●
2572			オトシブミ	*Apoderus jekelii*			●
2573			クロケシツブチョッキリ	*Auletobius uniformis*			●
2574			ファウストハマキチョッキリ	*Byctiscus fausti*			●
2575			イタヤハマキチョッキリ	*Byctiscus venustus*			●
2576			アカクビナガオトシブミ	*Centrocorynus nigricollis*			●
2577			マルムネチョッキリ	*Chonostropheus chujoi*			●
2578			エゴツルクビオトシブミ	*Cycnotrachelus roelofsi*			●
2579			ハイイロチョッキリ	*Cyllorhynchites ursulus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（70）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2580	コウチュウ	オトシブミ	コナライクビチョッキリ	*Deporaus unicolor*			●
2581			ルリホソチョッキリ	*Eugnamptus amurensis*			●
2582			ナラルリオトシブミ	*Euops konoi*			●
2583			ケシルリオトシブミ	*Euops politus*			●
2584			ルリオトシブミ	*Euops punctatostriatus*			●
2585			カシルリオトシブミ	*Euops splendidus*			●
2586			ヒメケブカチョッキリ	*Involvulus pilosus*			●
2587			クチブトチョッキリ	*Lasiorhynchites brevirostris*			●
2588			ヒゲナガオトシブミ	*Paratrachelophorus longicornis*			●
2589			ゴマダラオトシブミ	*Paroplapoderus pardalis*			●
2590			アシナガオトシブミ	*Phialodes rufipennis*			●
2591			カシルリチョッキリ	*Rhodocyrtus assimilis*			●
2592		ゾウムシ	ウスモンカレキゾウムシ	*Acicnemis palliata*			●
2593			ナカスジカレキゾウムシ	*Acicnemis suturalis*			●
2594			トゲアシクチブトゾウムシ	*Anosimus decoratus*			●
2595			イチゴハナゾウムシ	*Anthonomus bisignifer*			●
2596			ナシハナゾウムシ	*Anthonomus pomorum*			●
2597			レロフチビシギゾウムシ	*Archarius roelofsi*			●
2598			ツヤツチゾウムシ	*Asphalmus japonicus*			●
2599			ツツゾウムシ	*Carcilia strigicollis*			●
2600			クロクチカクシゾウムシ	*Catagmatus japonicus*			●
2601			ツヤチビヒメゾウムシ	*Centrinopsis nitens*			●
2602			ダイコンサルゾウムシ	*Ceutorhynchus albosuturalis*			●
2603			アオバネサルゾウムシ	*Ceutorhynchus ibukianus*			●
2604			クロタマゾウムシ	*Cionus helleri*			●
2605			オビアカサルゾウムシ	*Coeliodes nakanoensis*			●
2606			ワシバナヒラタキクイゾウムシ	*Cossonus gibbirostris*			●
2607			ツバキシギゾウムシ	*Curculio camelliae*			●
2608			セダカシギゾウムシ	*Curculio convexus*			●
2609			コナラシギゾウムシ	*Curculio dentipes*			●
2610			チャバネセダカシギゾウムシ	*Curculio fulvipennis*			●
2611			イヌビワシギゾウムシ	*Curculio funebris*			●
2612			クリシギゾウムシ	*Curculio sikkimensis*			●
2613			エゴシギゾウムシ	*Curculio styracis*			●
2614			クリイロクチブトゾウムシ	*Cyrtepistomus castaneus*			●
2615			タバゲササラゾウムシ	*Demimaea fascicularis*			●
2616			ヒメシロコブゾウムシ	*Dermatoxenus caesicollis*			●
2617			マダラアシゾウムシ	*Ectatorhinus adamsii*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（71）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2618	コウチュウ	ゾウムシ	シロコブゾウムシ	*Episomus turritus turritus*			●
2619			コフキゾウムシ	*Eugnathus distinctus*			●
2620			タデトゲサルゾウムシ	*Homorosoma asperum*			●
2621			カナムグラトゲサルゾウムシ	*Homorosoma chinense*			●
2622			マツアナアキゾウムシ	*Hylobius haroldi*			●
2623			アカコブコブゾウムシ	*Kobuzo rectirostris*			●
2624			チャバネキクイゾウムシ	*Kojimazo lewisi*			●
2625			ゴボウゾウムシ	*Larinus latissimus latissimus*			●
2626			ケブカクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes fumosus*			●
2627			クロホシクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes nigromaculatus*			●
2628			ババスゲヒメゾウムシ	*Limnobaris babai*			●
2629			ハスジカツオゾウムシ	*Lixus acutipennis*			●
2630			カツオゾウムシ	*Lixus impressiventris*			●
2631			タキザワツツキクイゾウムシ	*Magdalis phlegmatica*			●
2632			ネジキトゲムネサルゾウムシ	*Mecysmoderes brevicarinatus*			●
2633			ツツジトゲムネサルゾウムシ	*Mecysmoderes fulvus*			●
2634			ホホジロアシナガゾウムシ	*Merus erro*			●
2635			カシアシナガゾウムシ	*Merus piceus*			●
2636			クワヒメゾウムシ	*Moreobaris deplanata*			●
2637			カシワクチブトゾウムシ	*Nothomyllocerus griseus*			●
2638			ムネスジノミゾウムシ	*Orchestes amurensis*			●
2639			ヒラセノミゾウムシ	*Orchestes dorsoplanatus*			●
2640			ガロアノミゾウムシ	*Orchestes galloisi*			●
2641			ヤドリノミゾウムシ	*Orchestes hustachei*			●
2642			カシワノミゾウムシ	*Orchestes japonicus*			●
2643			ウスモンノミゾウムシ	*Orchestes variegatus*			●
2644			オジロアシナガゾウムシ	*Ornatalcides trifidus*			●
2645			マツトビゾウムシ	*Pachyrhinus scutellaris*			●
2646			ツノクモゾウムシ	*Phylaitis maculiventris*			●
2647			ケブカトゲアシヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius armatus*			●
2648			ツノヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius incomptus*			●
2649			ヒラズネヒゲボソゾウムシ	*Phyllobius intrusus*			●
2650			オオクチブトゾウムシ	*Phyllolytus variabilis*			●
2651			ホソアナアキゾウムシ	*Pimelocerus elongatus*			●
2652			マツキボシゾウムシ	*Pissodes nitidus*			●
2653			マエバラナガクチカクシゾウムシ	*Rhadinomerus maebarai*			●
2654			コブナシクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus nigrotibialis*			●
2655			タデノクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus sibiricus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（72）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2656	コウチュウ	ゾウムシ	キイチゴトゲサルゾウムシ	*Scleropteroides hypocrita*			●
2657			チュウジョウアナアキゾウムシ	*Seleuca chujoi chujoi*			●
2658			マツノシラホシゾウムシ	*Shirahoshizo insidiosus*			●
2659			ニセマツノシラホシゾウムシ	*Shirahoshizo rufescens*			●
2660			チビコフキゾウムシ	*Sitona japonicus*			●
2661			アカタマゾウムシ	*Stereonychus thoracicus*			●
2662			ホソゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma advena*			●
2663		オサゾウムシ	トホシオサゾウムシ	*Aplotes roelofsi*			●
2664			ササコクゾウムシ	*Diocalandra sasa*			●
2665			オオゾウムシ	*Sipalinus gigas gigas*			●
2666		イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	*Lissorhoptrus oryzophilus*			●
2667		チビゾウムシ	モンチビゾウムシ	*Nanophyes pallipes*			●
2668		キクイムシ	ミカドキクイムシ	*Scolytoplatypus mikado*			●
2669			マツノキクイムシ	*Tomicus piniperda*			●
2670			ニレザイノキクイムシ	*Xyleborus apicalis*			●
2671			ハギキクイムシ	*Xyleborus glabratus*			●
2672			ルイスザイノキクイムシ	*Xyleborus lewisi*			●
2673			ハンノキキクイムシ	*Xylosandrus germanus*			●
2674	ハチ	ヒラタハバチ	ニホンアカズヒラタハバチ	*Acantholyda nipponica*			●
2675			ツヤヒラタハバチ	*Onycholyda lucida*			●
2676		ナギナタハバチ	マダラナギナタハバチ	*Xyela variegata*			●
2677		ミフシハバチ	ウンモンチュウレンジ	*Arge jonasi*			●
2678			アカスジチュウレンジ	*Arge nigronodosa*			●
2679			ニホンチュウレンジ	*Arge nipponensis*			●
2680			チュウレンジバチ	*Arge pagana*			●
2681			ルリチュウレンジ	*Arge similis*			●
2682		ハバチ	ハグロハバチ	*Allantus luctifer*			●
2683			ヒゲナガホソハバチ	*Ametastegia longicornis*			●
2684			ワラビハバチ	*Aneugmenus kiotonis*			●
2685			ツマジロウツギハバチ	*Asiemphytus albilabris*			●
2686			ツノジロホソハバチ	*Asiemphytus vexator*			●
2687			セグロカブラハバチ	*Athalia infumata*			●
2688			ニホンカブラハバチ	*Athalia japonica*			●
2689			カブラハバチ	*Athalia rosae ruficornis*			●
2690			フジコシジロハバチ	*Corymbas fujisana*			●
2691			オスグロハバチ	*Dolerus japonicus*			●
2692			スギナハバチ	*Dolerus subfasciatus*			●
2693			ヒゲナガハバチ	*Lagidina platycerus*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（73）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2694	ハチ	ハバチ	カタアカスギナハバチ	*Loderus genucinctus insulicola*			●
2695			オオクロハバチ	*Macrophya carbonaria*			●
2696			クロハバチ	*Macrophya coxalis*			●
2697			マルクロハバチ	*Macrophya falsifica*			●
2698			マライセクロハバチ	*Macrophya malaisei malaisei*			●
2699			チャイロハバチ	*Nesotaxonus flavescens*			●
2700			コシマキモンハバチ	*Pachyprotasis pallidiventris*			●
2701			セリシマキモンハバチ	*Pachyprotasis serii*			●
2702			オオコシアカハバチ	*Siobla ferox*			●
2703			モイワハバチ	*Strongylogaster moiwana*			●
2704			タケウチクロハバチ	*Taxonus agrorum*			●
2705			ツノキクロハバチ	*Taxonus fluvicornis*			●
2706			ハラナガハバチ	*Tenthredo hilaris*			●
2707			ハチガタハバチ	*Tenthredo matsumurai*			●
2708			キコシホソハバチ	*Tenthredo mortivaga*			●
2709			クロムネアオハバチ	*Tenthredo nigropicta*			●
2710			オオツマグロハバチ	*Tenthredo providens*			●
2711			トゲムネアオハバチ	*Tenthredo viridatrix nippon*			●
2712			ヤチダモハバチ	*Tomostethus nigritus*			●
2713		キバチ	ニトベキバチ	*Sirex nitobei*			●
2714			ニホンキバチ	*Urocerus japonicus*			●
2715		コマユバチ	ウマノオバチ	*Euurobracon yokahamae*		●	●
2716			ハネグロアカコマユバチ	*Iphiaulax impostor*			●
2717			マツムラベッコウコマユバチ	*Braunsia matsumurai*			●
－			コマユバチ科の一種	Braconidae sp.			●
2718		ヒメバチ	クロヒゲフシオナガヒメバチ	*Acropimpla persimilis*			●
2719			チビフシオナガヒメバチ	*Acropimpla pictipes*			●
2720			クロコブフシヒメバチ	*Dolichomitus macropunctatus macropunctatus*			●
2721			ハコネフシオナガヒメバチ	*Gregopimpla himalayensis*			●
2722			カレハヤドリフシオナガヒメバチ	*Iseropus orientalis*			●
2723			*Zatypota* 属の一種	*Zatypota* sp.			●
2724			シロモンヒラタヒメバチ	*Coccygomimus alboannulatus*			●
2725			チビキアシヒラタヒメバチ	*Coccygomimus nipponicus*			●
2726			マツケムシヒラタヒメバチ	*Itoplectis alternans spectabilis*			●
2727			アオムシヒラタヒメバチ	*Itoplectis naranyae*			●
2728			ミノオキイロヒラタヒメバチ	*Xanthopimpla clavata*			●
2729			オオホシオナガバチ	*Megarhyssa praecellens*			●
2730			ジョウザンオナガバチ	*Rhyssa jozana*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（74）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2731	ハチ	ヒメバチ	アシグロトガリヒメバチ	*Echthrus reluctator sibiricus*			●
2732			キアシオナガトガリヒメバチ	*Acroricnus ambulator ambulator*			●
2733			オオアメバチ	*Ophion luteus*			●
2734			*Colpotrochia (Colpotrochia) jozankeana*	*Colpotrochia (Colpotrochia) jozankeana*			●
2735			カラフトコンボウアメバチ	*Heteropelma amictum*			●
－			アメバチ亜科の一種	Ophioninae sp.			●
2736			*Jezarotes tamanukii*	*Jezarotes tamanukii*			●
2737			シロスジヒメバチ	*Achaius oratorius albizonellus*			●
2738			ヤマガタヒメバチ	*Chasmias major*			●
2739			ニイクニヒメバチ	*Diphyus niikunii*			●
2740			マダラヒメバチ	*Pterocormus generosus*			●
2741			トゲクロヒメバチ	*Stenichneumon posticalis*			●
2742			イヨヒメバチ	*Amblyjoppa proteus satanas*			●
2743			クロハラヒメバチ	*Callajoppa pepsoides*			●
－			ヒメバチ科の一種	Ichneumonidae sp.			●
2744		カギバラバチ	キスジセアカカギバラバチ	*Taeniogonalos fasciata*			●
2745		ハエヤドリクロバチ	ハエヤドリクロバチ科の一種	Diapridae sp.			●
2746		ハラビロクロバチ	ハラビロクロバチ科の一種	Platygastridae sp.			●
2747		アシブトコバチ	キアシブトコバチ	*Brachymeria lasus*			●
2748		トビコバチ	トビコバチ科の一種	Encyrtidae sp.			●
2749		アリヤドリコバチ	アリヤドリコバチ科の一種	Eucharitidae sp.			●
2750		ナガコバチ	ナガコバチ科の一種	Eupelmidae sp.			●
2751		カタビロコバチ	カタビロコバチ科の一種	Eurytomidae sp.			●
2752		シリアゲコバチ	シリアゲコバチ	*Leucospis japonica*			●
2753		タマバチ	タマバチ科の一種	Cynipidae sp.			●
2754		アリガタバチ	ハマキアリガタバチ	*Goniozus japonicus*			●
2755		セイボウ	オオセイボウ	*Stilbum cyanurum*			●
2756		アリ	アシナガアリ	*Aphaenogaster famelica*			●
2757			ヤマトアシナガアリ	*Aphaenogaster japonica*			●
2758			オオハリアリ	*Brachyponera chinensis*			●
2759			クロオオアリ	*Camponotus japonicus*			●
2760			ミカドオオアリ	*Camponotus kiusiuensis*			●
2761			ナワヨツボシオオアリ	*Camponotus nawai*			●
2762			ムネアカオオアリ	*Camponotus obscuripes*			●
2763			ヨツボシオオアリ	*Camponotus quadrinotatus*			●
2764			ウメマツオオアリ	*Camponotus vitiosus*			●
2765			コツノアリ	*Carebara yamatonis*			●
2766			ハリブトシリアゲアリ	*Crematogaster matsumurai*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（75）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2767	ハチ	アリ	ツヤシリアゲアリ	*Crematogaster nawai*			●
2768			キイロシリアゲアリ	*Crematogaster osakensis*			●
2769			テラニシシリアゲアリ	*Crematogaster teranishii*			●
2770			クボミシリアゲアリ	*Crematogaster vagula*			●
2771			トゲズネハリアリ	*Cryptopone sauteri*			●
2772			ダルマアリ	*Discothyrea sauteri*			●
2773			シベリアカタアリ	*Dolichoderus sibiricus*			●
2774			ハヤシクロヤマアリ	*Formica hayashi*			●
2775			クロヤマアリ	*Formica japonica* (s. l.)			●
2776			ニセハリアリ	*Hypoponera sauteri*			●
2777			キイロケアリ	*Lasius flavus*			●
2778			クロクサアリ	*Lasius fuji* (s. l.)			●
2779			トビイロケアリ	*Lasius japonicus*			●
2780			ヒラアシクサアリ	*Lasius spathepus*			●
2781			アメイロケアリ	*Lasius umbratus*			●
2782			クロナガアリ	*Messor aciculatus*			●
2783			キイロカドフシアリ	*Myrmecina flava*			●
2784			カドフシアリ	*Myrmecina nipponica*			●
2785			アメイロアリ	*Nylanderia flavipes*			●
2786			ルリアリ	*Ochetellus glaber*			●
2787			サクラアリ	*Paraparatrechina sakurae*			●
2788			アズマオオズアリ	*Pheidole fervida*			●
2789			オオズアリ	*Pheidole noda*			●
2790			チクシトゲアリ	*Polyrhachis phalerata*			●
2791			ヒメハリアリ	*Ponera japonica*			●
2792			アミメアリ	*Pristomyrmex punctatus*			●
2793			ワタセカギバラアリ	*Proceratium watasei*			●
2794			トフシアリ	*Solenopsis japonica*			●
2795			ノコギリハリアリ	*Stigmatomma silvestrii*			●
2796			ウロコアリ	*Strumigenys lewisi*			●
2797			ヒラフシアリ	*Technomyrmex gibbosus*			●
2798			ヒメムネボソアリ	*Temnothorax arimensis*			●
2799			ムネボソアリ	*Temnothorax congruus*			●
2800			ハヤシムネボソアリ	*Temnothorax makora*			●
2801			ハリナガムネボソアリ	*Temnothorax spinosior*			●
2802			トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae*			●
2803			ウメマツアリ	*Vollenhovia emeryi*			●
2804		スズメバチ	オオフタオビドロバチ本土亜種	*Anterhynchium flavomarginatum micado*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（76）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2805	ハチ	スズメバチ	ハグロフタオビドロバチ	*Anterhynchium melanopterum*			●
2806			キボシトックリバチ	*Eumenes fraterculus*			●
2807			ミカドトックリバチ	*Eumenes micado*			●
2808			ムモントックリバチ	*Eumenes rubronotatus*			●
－			*Eumenes* 属の一種	*Eumenes* sp.			●
2809			ミカドドロバチ本土亜種	*Euodynerus nipanicus nipanicus*			●
2810			エントツドロバチ	*Orancistrocerus drewseni*			●
2811			スズバチ	*Oreumenes decoratus*			●
2812			ムモンホソアシナガバチ	*Parapolybia crocea*			●
2813			ヒメホソアシナガバチ	*Parapolybia varia*			●
－			*Parapolybia* 属の一種	*Parapolybia* sp.			●
2814			フタモンアシナガバチ本土亜種	*Polistes chinensis antennalis*			●
2815			ヤマトアシナガバチ	*Polistes japonicus*			●
2816			セグロアシナガバチ本土亜種	*Polistes jokahamae jokahamae*			●
2817			キボシアシナガバチ	*Polistes nipponensis*			●
2818			キアシナガバチ本土亜種	*Polistes rothneyi iwatai*			●
2819			コアシナガバチ	*Polistes snelleni*			●
－			アシナガバチ亜科の一種	Polistinae sp.			●
2820			カタグロチビドロバチ	*Stenodynerus chinensis kalinowskii*			●
2821			キオビチビドロバチ	*Stenodynerus frauenfeldi*			●
2822			コガタスズメバチ	*Vespa analis*			●
2823			モンスズメバチ	*Vespa crabro*			●
2824			ヒメスズメバチ	*Vespa ducalis*			●
2825			オオスズメバチ	*Vespa mandarinia*			●
2826			キイロスズメバチ	*Vespa simillima*			●
－			*Vespa* 属の一種	*Vespa* sp.			●
2827			クロスズメバチ	*Vespula flaviceps*			●
2828			シダクロスズメバチ	*Vespula shidai*			●
2829		クモバチ	イシカワクモバチ	*Agenioideus ishikawai*			●
2830			オオモンクロクモバチ	*Anoplius samariensis*			●
2831			ヒラカタクモバチ	*Aporus japonicus*			●
2832			キオビクモバチ	*Batozonellus annulatus*			●
2833			ベッコウクモバチ	*Cyphononyx fulvognathus*			●
2834			フタスジクモバチ	*Eopompilus internalis*			●
2835			オオシロフクモバチ	*Episyron arrogans*			●
2836			フタモンクモバチ	*Parabatozonus jankowskii*			●
2837			アオスジクモバチ	*Paracyphononyx alienus*			●
2838			トゲアシオオクモバチ	*Priocnemis irritabilis*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（77）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2839	ハチ	アリバチ	トゲムネアリバチ	*Bischoffitilla ardescens*			●
2840			ヤマトアリバチモドキ	*Taimyrmosa nigrofasciata*			●
2841		コツチバチ	マメコガネコツチバチ	*Tiphia popilliavora*			●
2842			ニカコツチバチ	*Tiphia sternata*			●
2843			ハルコツチバチ	*Tiphia vernalis*			●
2844		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ本土亜種	*Campsomeriella annulata annulata*			●
2845			オオハラナガツチバチ	*Megacampsomeris grossa matsumurai*			●
2846			キンケハラナガツチバチ	*Megacampsomeris prismatica*			●
2847			シロオビハラナガツチバチ	*Megacampsomeris schulthessi*			●
2848			オオモンツチバチ	*Scolia histrionica japonica*			●
2849			オキナワルリツチバチ	*Scolia melanosoma*			●
2850			キオビツチバチ	*Scolia oculata*			●
2851		ギングチバチ	シロスジギングチ	*Ectemnius iridifrons*			●
2852			ヒメコオロギバチ本土亜種	*Liris festinans japonicus*			●
2853			オオハヤバチ本土亜種	*Tachytes sinensis sinensis*			●
2854			ササキリギングチ	*Ectemnius furuichii*		●	
2855			ヒメジガバチモドキ	*Trypoxylon fronticorne japonense*			●
－			ギングチバチ科の一種	Crabronidae sp.			●
2856		ドロバチモドキ	オオトゲアワフキバチ	*Argogorytes mystaceus grandis*			●
2857		アリマキバチ	アバタアリマキバチ	*Pemphredon diervillae*			●
2858			カオキンヨコバイバチ	*Psen aurifrons*			●
2859		フシダカバチ	アカアシツチスガリ	*Cerceris albofasciata*			●
2860			ヒメツチスガリ	*Cerceris carinalis*			●
2861			マルモンツチスガリ	*Cerceris japonica*			●
－			*Cerceris* 属の一種	*Cerceris* sp.			●
2862		アナバチ	ヤマジガバチ	*Ammophila infesta*			●
2863			サトジガバチ	*Ammophila vagabunda*			●
2864			ヤマトルリジガバチ	*Chalybion japonicum*			●
2865			ミカドジガバチ	*Hoplammophila aemulans*			●
2866			コクロアナバチ	*Isodontia nigella*			●
2867			モンキジガバチ本土亜種	*Sceliphron deforme nipponicum*			●
2868			クロアナバチ本土亜種	*Sphex argentatus fumosus*			●
－			アナバチ科の一種	Sphecidae sp.			●
2869		ヒメハナバチ	ミカドヒメハナバチ	*Andrena mikado*			●
2870			ヤヨイヒメハナバチモドキ	*Andrena stellaria*			●
2871			コガタウツギヒメハナバチ	*Andrena tsukubana*			●
2872		ミツバチ	スジボソフトハナバチ	*Amegilla florea*			●
2873			ニホンミツバチ	*Apis cerana japonica*			●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-2（78）　確認種一覧（昆虫類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号		
					①	②	③
2874	ハチ	ミツバチ	セイヨウミツバチ	*Apis mellifera*			●
－			*Apis* 属の一種	*Apis* sp.			●
2875			コマルハナバチ本土亜種	*Bombus ardens ardens*			●
2876			トラマルハナバチ本土亜種	*Bombus diversus diversus*			●
2877			クロマルハナバチ	*Bombus ignitus*			●
－			*Bombus* 属の一種	*Bombus* sp.			●
2878			キオビツヤハナバチ	*Ceratina flavipes*			●
2879			ヤマトツヤハナバチ	*Ceratina japonica*			●
2880			ニッポンヒゲナガハナバチ	*Eucera nipponensis*			●
2881			シロスジヒゲナガハナバチ	*Eucera spurcatipes*			●
2882			キムネクマバチ	*Xylocopa appendiculata circumvolans*			●
2883			タイワンタケクマバチ	*Xylocopa tranquebarorum*			●
2884		ムカシハナバチ	アシブトムカシハナバチ	*Colletes patellatus*			●
2885		コハナバチ	アカガネコハナバチ	*Halictus aerarius*			●
2886			ウマヅラチビハナバチ	*Lasioglossum hirashimae*			●
2887			サビイロカタコハナバチ	*Lasioglossum mutilum*			●
2888			ニッポンカタコハナバチ	*Lasioglossum nipponicola*			●
2889			シロスジカタコハナバチ	*Lasioglossum occidens*			●
2890			オオエチビコハナバチ	*Lasioglossum ohei*			●
2891			オバケチビコハナバチ	*Lasioglossum pallilomum*			●
2892			フタモンカタコハナバチ	*Lasioglossum scitulum*			●
2893			エサキヤドリコハナバチ	*Sphecodes simillimus*			●
2894		ハキリバチ	ホソバトガリハナバチ	*Coelioxys hosoba*			●
2895			ヤノトガリハナバチ	*Coelioxys yanonis*			●
2896			キョウトキヌゲハキリバチ	*Megachile kyotensis*			●
2897			バラハキリバチ本土亜種	*Megachile nipponica nipponica*			●
2898			サカガミハキリバチ	*Megachile remota sakagamii*			●
2899			オオハキリバチ	*Megachile sculpturalis*			●
2900			ヒメハキリバチ	*Megachile spissula*			●
2901			ツルガハキリバチ	*Megachile tsurugensis*			●
2902			ツツハナバチ	*Osmia taurus*			●
計	22 目	347 科	2902 種		285 種	75 種	2861 種

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3（1）　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ	*Atypus karschii*		●
2			ワスレナグモ	*Calommata signata*	●	
3		カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ	*Antrodiaetus roretzi*	●	●
4		トタテグモ科	キノボリトタテグモ	*Conothele fragaria*	●	
5			キシノウエトタテグモ	*Latouchia typica*	●	
6		マシラグモ科	ヨコフマシラグモ	*Falcileptoneta striata striata*		●
7		ユウレイグモ科	ユウレイグモ	*Pholcus zichyi*		●
8		エンマグモ科	ミヤグモ	*Ariadna lateralis*		●
9		タマゴグモ科	ダニグモ	*Gamasomorpha cataphracta*		●
10			シャラクダニグモ	*Opopaea syarakui*		●
11		センショウグモ科	センショウグモ	*Ero japonica*		●
12			ハラビロセンショウグモ	*Mimetus japonicus*		●
13			オオセンショウグモ	*Mimetus testaceus*		●
14		ウズグモ科	オウギグモ	*Hyptiotes affinis*		●
15			マネキグモ	*Miagrammopes orientalis*		●
16			カタハリウズグモ	*Octonoba sybotides*		●
17			ヤマウズグモ	*Octonoba varians*		●
18		ヒメグモ科	アシブトヒメグモ	*Anelosimus crassipes*		●
19			シロカネイソウロウグモ	*Argyrodes bonadea*		●
20			トビジロイソウロウグモ	*Argyrodes cylindratus*		●
21			チリイソウロウグモ	*Argyrodes kumadai*		●
22			オナガグモ	*Ariamnes cylindrogaster*		●
23			ギボシヒメグモ	*Chikunia albipes*		●
24			ホシミドリヒメグモ	*Chrysso foliata*		●
25			コガネヒメグモ	*Chrysso scintillans*		●
26			シラホシオオノヒメグモ	*Crustulina guttata*		●
27			シモフリミジングモ	*Dipoena punctisparsa*		●
28			ヒシガタグモ	*Episinus affinis*		●
29			ムラクモヒシガタグモ	*Episinus nubilus*		●
30			ムナボシヒメグモ	*Keijia sterninotata*		●
31			ハラナガヒシガタグモ	*Moneta caudifer*		●
32			フタオイソウロウグモ	*Neospintharus fur*		●
33			ハイイロヒメグモ	*Paidiscura subpallens*		●
34			ツリガネヒメグモ	*Parasteatoda angulithorax*		●
35			カグヤヒメグモ	*Parasteatoda culicivola*		●
36			ニホンヒメグモ	*Parasteatoda japonica*		●
37			コンピラヒメグモ	*Parasteatoda kompirensis*		●
38			オオヒメグモ	*Parasteatoda tepidariorum*		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3（2）　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
39	クモ目	ヒメグモ科	キベリミジングモ	*Phycosoma flavomarginatum*		●
40			カニミジングモ	*Phycosoma mustelinum*		●
41			ヤリグモ	*Rhomphaea sagana*		●
42			ハンゲツオスナキグモ	*Steatoda cingulata*		●
43			バラギヒメグモ	*Takayus chikunii*		●
44			ヒロハヒメグモ	*Takayus latifolius*		●
45			ボカシミジングモ	*Yaginumena castrata*		●
46			コアカクロミジングモ	*Yaginumena mutilata*		●
47			コケヒメグモ	*Yunohamella subadulta*		●
48		カラカラグモ科	ヤマジグモ	*Ogulnius pullus*		●
49		ヨリメグモ科	ヨロイヒメグモ	*Comaroma maculosa*		●
50		コツブグモ科	ナンブコツブグモ	*Mysmenella pseudojobi*		●
51		サラグモ科	ザラアカムネグモ	*Asperthorax communis*		●
52			ヤマトテナガグモ	*Bathylinyphia major*		●
53			チビクロマルハラカタグモ	*Ceratinella brevipes*		●
54			デーニッツサラグモ	*Doenitzius peniculus*		●
55			コデーニッツサラグモ	*Doenitzius pruvus*		●
56			ノコギリヒザグモ	*Erigone prominens*		●
57			ハナサラグモ	*Floronia exornata*		●
58			クロナンキングモ	*Hylyphantes graminicola*		●
59			タテヤマテナガグモ	*Microbathyphantes tateyamaensis*		●
60			チビアカサラグモ	*Nematogmus sanguinolentus*		●
61			クスミサラグモ	*Neolinyphia fusca*		●
62			ムネグロサラグモ	*Neolinyphia nigripectoris*		●
63			ハシグロナンキングモ	*Neserigone nigriterminorum*		●
64			アシナガサラグモ	*Prolinyphia longipedella*		●
65			シロブチサラグモ	*Prolinyphia radiata*		●
66			ホソテゴマグモ	*Pseudomicrargus acuitegulatus*		●
67			アサカワゴマグモ	*Pseudomicrargus asakawaensis*		●
68			ズブトヌカグモ	*Saitonia orientalis*		●
69			アリマネグモ	*Solenysa mellottei*		●
70			ユノハマサラグモ	*Turinyphia yunohamensis*		●
71			アトグロアカムネグモ	*Ummeliata feminea*		●
72			セスジアカムネグモ	*Ummeliata insecticeps*		●
73			アシヨレグモ	*Weintrauboa contortipes*		●
74		アシナガグモ科	オオシロカネグモ	*Leucauge magnifica*		●
75			コシロカネグモ	*Leucauge subblanda*		●
76			キララシロカネグモ	*Leucauge subgemmea*		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3（3）　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
77	クモ目	アシナガグモ科	タニマノドヨウグモ	*Metleucauge kompirensis*		●
78			メガネドヨウグモ	*Metleucauge yunohamensis*		●
79			ジョロウグモ	*Nephila clavata*		●
80			ヤサガタアシナガグモ	*Tetragnatha maxillosa*		●
81			アシナガグモ	*Tetragnatha praedonia*		●
82			ウロコアシナガグモ	*Tetragnatha squamata*		●
83		コガネグモ科	ハツリグモ	*Acusilas coccineus*		●
84			ヤミイロオニグモ	*Alenatea fuscocoloratus*		●
85			キジロオヒキグモ	*Arachnura logio*	●	
86			ヌサオニグモ	*Araneus ejusmodi*		●
87			アオオニグモ	*Araneus pentagrammicus*		●
88			マルコブオニグモ	*Araneus rotundicornis*		●
89			マルヅメオニグモ	*Araneus semilunaris*		●
90			カラオニグモ	*Araneus tsurusakii*		●
91			ハラビロミドリオニグモ	*Araneus viridiventris*		●
92			ムツボシオニグモ	*Araniella yaginumai*		●
93			コガネグモ	*Argiope amoena*	●	
94			チュウガタコガネグモ	*Argiope boesenbergi*		●
95			ナガコガネグモ	*Argiope bruennichi*		●
96			コガタコガネグモ	*Argiope minuta*		●
97			ヤマトカナエグモ	*Chorizopes nipponicus*		●
98			ギンメッキゴミグモ	*Cyclosa argenteoalba*		●
99			ゴミグモ	*Cyclosa octotuberculata*		●
100			ヨツデゴミグモ	*Cyclosa sedeculata*		●
101			トリノフンダマシ	*Cyrtarachne bufo*	●	●
102			オオトリノフンダマシ	*Cyrtarachne inaequalis*	●	●
103			シロオビトリノフンダマシ	*Cyrtarachne nagasakiensis*	●	●
104			アカイロトリノフンダマシ	*Cyrtarachne yunoharuensis*	●	●
105			スズミグモ	*Cyrtophora ikomosanensis*		●
106			サガオニグモ	*Eriophora astridae*		●
107			カラフトオニグモ	*Eriophora sachalinensis*		●
108			トガリオニグモ	*Eriovixia pseudocentrodes*		●
109			コガネグモダマシ	*Larinia argiopiformis*		●
110			ナカムラオニグモ	*Larinioides cornutus*		●
111			ドヨウオニグモ	*Neoscona adianta*		●
112			ワキグロサツマノミダマシ	*Neoscona mellotteei*		●
113			イエオニグモ	*Neoscona nautica*		●
114			コゲチャオニグモ	*Neoscona punctigera*		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3（4）　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
115	クモ目	コガネグモ科	ヤマシロオニグモ	*Neoscona scylla*		●
116			サツマノミダマシ	*Neoscona scylloides*		●
117			ヘリジロオニグモ	*Neoscona subpullata*		●
118			ムツトゲイセキグモ	*Ordgarius sexspinosus*	●	
119			ゲホウグモ	*Poltys illepidus*	●	
120			ナガテオニグモ	*Singa hamata*		●
121		コモリグモ科	スジコモリグモ	*Alopecosa virgata*		●
122			フジイコモリグモ	*Arctosa fujiii*		●
123			クロココモリグモ	*Arctosa subamylacea*		●
124			イナダハリゲコモリグモ	*Pardosa agraria*		●
125			ウヅキコモリグモ	*Pardosa astrigera*		●
126			ヤマハリゲコモリグモ	*Pardosa brevivulva*		●
127			ハリゲコモリグモ	*Pardosa laura*		●
128			キクヅキコモリグモ	*Pardosa pseudoannulata*		●
129			テジロハリゲコモリグモ	*Pardosa yamanoi*	●	
130			クラークコモリグモ	*Pirata clercki*		●
131			ミナミコモリグモ	*Pirata meridionalis*	●	
132			イモコモリグモ	*Pirata piratoides*		●
133			チビコモリグモ	*Pirata procurvus*		●
134			キバラコモリグモ	*Pirata subpiraticus*		●
135			ヒノマルコモリグモ	*Tricca japonica*		●
136		キシダグモ科	アオグロハシリグモ	*Dolomedes raptor*		●
137			イオウイロハシリグモ	*Dolomedes sulfureus*		●
138			アズマキシダグモ	*Pisaura lama*		●
139		ササグモ科	クリチャササグモ	*Oxyopes licenti*		●
140			ササグモ	*Oxyopes sertatus*		●
141		シボグモ科	シボグモ	*Anahita fauna*		●
142		タナグモ科	クサグモ	*Agelena silvatica*		●
143			コクサグモ	*Allagelena opulenta*		●
144		ナミハグモ科	カチドキナミハグモ	*Cybaeus nipponicus*		●
145		ハグモ科	ネコハグモ	*Dictyna felis*		●
146		ガケジグモ科	ホラズミヤチグモ	*Coelotes antri*		●
147			アズマヤチグモ	*Coelotes kitazawai*		●
148			カミガタヤチグモ	*Coelotes yaginumai*		●
149			ヨドヤチグモ	*Coelotes yodoensis*		●
150			デベソヤチグモ	*Hypocoelotes tumidivulva*		●
151			ヤマヤチグモ	*Tegecoelotes corasides*		●
152		イヅツグモ科	イヅツグモ	*Anyphaena pugil*		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3 (5)　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
153	クモ目	ウエムラグモ科	イタチグモ	*Itatsina praticola*		●
154			オトヒメグモ	*Orthobula crucifera*		●
155			コムラウラシマグモ	*Otacilia komurai*		●
156		フクログモ科	アシナガコマチグモ	*Chiracanthium eutittha*		●
157			ヤマトコマチグモ	*Chiracanthium lascivum*		●
158			ヤサコマチグモ	*Chiracanthium unicum*		●
159			イナフクログモ	*Clubiona inaensis*		●
160			ヤハズフクログモ	*Clubiona jucunda*		●
161			トビイロフクログモ	*Clubiona lena*		●
162			マイコフクログモ	*Clubiona rostrata*		●
163			ムナアカフクログモ	*Clubiona vigil*		●
164		ネコグモ科	ネコグモ	*Trachelas japonicus*		●
165		ワシグモ科	フタホシテオノグモ	*Callilepis schuszteri*		●
166			エビチャヨリメケムリグモ	*Drassyllus sanmenensis*		●
167			メキリグモ	*Gnaphosa kompirensis*		●
168			マエトビケムリグモ	*Sernokorba pallidipatellis*		●
169			クロチャケムリグモ	*Zelotes asiaticus*		●
170		アワセグモ科	アワセグモ	*Selenops bursarius*	●	
171		アシダカグモ科	コアシダカグモ	*Sinopoda forcipata*		●
172		エビグモ科	キタエビグモ	*Philodromus rufus*		●
173			アサヒエビグモ	*Philodromus subaureolus*		●
174			ヤドカリグモ	*Thanatus miniaceus*		●
175			シャコグモ	*Tibellus japonicus*		●
176		カニグモ科	コハナグモ	*Diaea subdola*		●
177			ハナグモ	*Ebrechtella tricuspidata*		●
178			アマギエビスグモ	*Lysiteles coronatus*		●
179			ワカバグモ	*Oxytate striatipes*		●
180			カトウツケオグモ	*Phrynarachne katoi*	●	●
181			ガザミグモ	*Pistius undulatus*		●
182			アズチグモ	*Thomisus labefactus*		●
183			トラフカニグモ	*Tmarus piger*		●
184			セマルトラフカニグモ	*Tmarus rimosus*		●
185			ヤミイロカニグモ	*Xysticus croceus*		●
186			チュウカカニグモ	*Xysticus ephippiatus*		●
187			ゾウシキカニグモ	*Xysticus saganus*		●
188			オビボソカニグモ	*Xysticus trizonatus*	●	
189		ハエトリグモ科	ヤマジハエトリ	*Asianellus festivus*		●
190			ネコハエトリ	*Carrhotus xanthogramma*		●

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-3（6）　確認種一覧（クモ類）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
					②	③
191	クモ目	ハエトリグモ科	マミジロハエトリ	*Evarcha albaria*		●
192			ウデブトハエトリ	*Harmochirus insulanus*		●
193			ヨダンハエトリ	*Marpissa pulla*		●
194			オスクロハエトリ	*Mendoza canestrinii*		●
195			ヤハズハエトリ	*Mendoza elongata*		●
196			アリグモ	*Myrmarachne japonica*		●
197			チャイロアサヒハエトリ	*Phintella abnormis*		●
198			マガネアサヒハエトリ	*Phintella arenicolor*		●
199			メガネアサヒハエトリ	*Phintella linea*		●
200			デーニッツハエトリ	*Plexippoides doenitzi*		●
201			カラスハエトリ	*Rhene atrata*		●
202			アオオビハエトリ	*Siler vittatus*		●
203		チリグモ科	ヒラタグモ	*Uroctea compactilis*		●
計	1 目	35 科	203 種		17 種	192 種

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-4（1）　確認種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号			
					①	②	③	④
1	原始紐舌目	タニシ科	マルタニシ	*Cipangopaludina chinensis laeta*	●		●	
2			オオタニシ	*Cipangopaludina japonica*	●		●	
3	盤足目	カワニナ科	クロダカワニナ	*Semisulcospira kurodai*	●		●	
4			カワニナ	*Semisulcospira libertina*	●		●	
5			チリメンカワニナ	*Semisulcospira reiniana*	●			
6	基眼目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	*Fossaria ollula*			●	
7			モノアラガイ	*Radix auricularia japonica*	●		●	
8			イグチモノアラガイ	*Radix auricularia*	●			
9		サカマキガイ科	サカマキガイ	*Physa acuta*	●		●	
10		ヒラマキガイ科	ヒラマキガイモドキ	*Polypylis hemisphaerula*	●		●	
11	イシガイ目	イシガイ科	イシガイ	*Nodularia douglasiae nipponensis*	●			
12			ドブガイ	*Anodonta woodiana*	●			
13			Sinanodonta 属	*Sinanodonta* sp.			●	
14	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ	*Corbicula leana*	●		●	
15	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科	*Lumbriculidae* sp.			●	
16	イトミミズ目	ミズミミズ科	イトミミズ亜科	*Tubificinae* sp.			●	
17	無吻蛭目	ナガレビル科	キバビル	*Odontobdella blanchardi*			●	
－	－	－	ヒル綱	*Hirudinea* sp.			●	
18	ヨコエビ目	－	ヨコエビ目	*Amphipoda* sp.			●	
19	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ（甲）	*Asellus hilgendorfi hilgendorfi*			●	
20	エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	*Neocaridina denticulata*			●	
－			ヌマエビ科	*Atyidae* sp.			●	
21		テナガエビ科	スジエビ	*Palaemon paucidens*			●	
22		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	*Procambarus clarkii*			●	
23		サワガニ科	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*			●	
24		モクズガニ科	モクズガニ	*Eriocheir japonica*			●	
25	カゲロウ目	コカゲロウ科	Centroptilum 属	*Centroptilum* sp.			●	
26		トビイロカゲロウ科	Paraleptophlebia 属	*Paraleptophlebia* sp.			●	
27		ヒラタカゲロウ科	キハダヒラタカゲロウ	*Kageronia kihada*			●	
28			Ecdyonurus 属	*Ecdyonurus* sp.			●	
29		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*			●	
30			モンカゲロウ	*Ephemera strigata*			●	
31	トンボ目	アオイトトンボ科	コバネアオイトトンボ	*Lestes japonicus*		●		
32		イトトンボ科	ベニイトトンボ	*Ceriagrion nipponicum*		●		
33			モートンイトトンボ	*Mortonagrion selenion*		●		
34			オオイトトンボ	*Paracercion sieboldii*		●		
35		モノサシトンボ科	グンバイトンボ	*Platycnemis foliacea sasakii*		●		
36		カワトンボ科	アサヒナカワトンボ	*Mnais pruinosa*			●	

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-4 (2)　確認種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号			
					①	②	③	④
37	トンボ目	ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	*Aeschnophlebia anisoptera*		●		
38			ミルンヤンマ	*Planaeschna milnei milnei*			●	
39		サナエトンボ科	ヤマサナエ	*Asiagomphus melaenops*			●	
40			キイロサナエ	*Asiagomphus pryeri*		●		
41			オジロサナエ	*Stylogomphus suzukii*			●	
42			ナゴヤサナエ	*Stylurus nagoyanus*		●		
43			メガネサナエ	*Stylurus oculatus*		●		
44			フタスジサナエ	*Trigomphus interruptus*		●		
45			オグマサナエ	*Trigomphus ogumai*		●		
46		オニヤンマ科	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*			●	
47		エゾトンボ科	トラフトンボ	*Epitheca marginata*		●		
48			ハネビロエゾトンボ	*Somatochlora clavata*		●		
49			エゾトンボ	*Somatochlora viridiaenea*		●		
50		トンボ科	シオヤトンボ	*Orthetrum japonicum*			●	
51			キトンボ	*Sympetrum croceolum*		●		
52			ノシメトンボ	*Sympetrum infuscatum*		●		
53			マダラナニワトンボ	*Sympetrum maculatum*		●		
54	カワゲラ目	オナシカワゲラ科	Amphinemura 属	*Amphinemura* sp.			●	
55			Nemoura 属	*Nemoura* sp.			●	
56		カワゲラ科	Calineuria 属	*Calineuria* sp.			●	
57			Neoperla 属	*Neoperla* sp.			●	
58	カメムシ目	アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*		●		
59			コセアカアメンボ	*Gerris gracilicornis*			●	
60			シマアメンボ	*Metrocoris histrio*			●	
61		イトアメンボ科	イトアメンボ	*Hydrometra albolineata*		●		
62		カタビロアメンボ科	Microvelia 属	*Microvelia* sp.			●	
63		コオイムシ科	タガメ	*Kirkaldyia deyrolli*		●		
64		タイコウチ科	ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*		●	●	
65		ナベブタムシ科	ナベブタムシ	*Aphelocheirus vittatus*				
66		コバンムシ科	コバンムシ	*Ilyocoris cimicoides exclamationis*		●		
67		アカジマウンカ科	ニホンアカジマウンカ	*Ommatidiotus japonicus* Y.Hori		●		
68		マツモムシ科	マツモムシ	*Notonecta triguttata*				●
69	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	*Parachauliodes japonicus*			●	
70		センブリ科	Sialis 属	*Sialis* sp.			●	
－			センブリ科	*Sialidae* sp.			●	
71	トビケラ目	シマトビケラ科	ギフシマトビケラ	*Hydropsyche gifuana*			●	
72			ウルマーシマトビケラ	*Hydropsyche orientalis*			●	
73		カワトビケラ科	Dolophilodes 属	*Dolophilodes* sp.			●	

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-4 (3)　確認種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号			
					①	②	③	④
74	トビケラ目	ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ	*Rhyacophila brevicephala*			●	
75		コエグリトビケラ科	Apatania 属	*Apatania* sp.			●	
76		カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ	*Lepidostoma japonicum*			●	
－			Lepidostoma 属	*Lepidostoma* sp.			●	
77		カクスイトビケラ科	Micrasema 属	*Micrasema* sp.			●	
78		ヒゲナガトビケラ科	Oecetis 属	*Oecetis* sp.			●	
79		ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ	*Molannodes itoae*		●		
80		フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ	*Perissoneura paradoxa*			●	
81			ヒトスジキソトビケラ	*Psilotreta japonica*		●		
82		マルバネトビケラ科	Phryganopsyche 属	*Phryganopsyche* sp.			●	
83	ハエ目	ヒメガガンボ科	Hexatoma 属	*Hexatoma* sp.			●	
84		ガガンボ科	Tipula 属	*Tipula* sp.			●	
－			ガガンボ亜科	*Tipulinae* sp.			●	
85		ヌカカ科	ヌカカ科	*Ceratopogonidae* sp.			●	
86		ユスリカ科	Stictochironomus 属	*Stictochironomus* sp.			●	
－			ユスリカ科	*Chironomidae* sp.			●	
87		ホソカ科	Dixa 属	*Dixa* sp.			●	
88		アブ科	Tabanus 属	*Tabanus* sp.			●	
89		イエバエ科	イエバエ科	*Muscidae* sp.			●	
90	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ	*Agabus japonicus*			●	
91			トダセスジゲンゴロウ	*Copelatus nakamurai*		●		
92			ゲンゴロウ	*Cybister chinensis*		●		
93			コガタノゲンゴロウ	*Cybister tripunctatus lateralis*		●		
94			シャープゲンゴロウモドキ	*Dytiscus sharpi*		●		
95			マルガタゲンゴロウ	*Graphoderus adamsii*		●		
96			シマゲンゴロウ	*Hydaticus bowringii*		●		
97			スジゲンゴロウ	*Hydaticus satoi*		●		
98			マダラシマゲンゴロウ	*Hydaticus thermonectoides*		●		
99			マルチビゲンゴロウ	*Leiodytes frontalis*		●		
100		ミズスマシ科	オオミズスマシ	*Dineutus orientalis*		●		
101			コミズスマシ	*Gyrinus curtus*		●		
102			コオナガミズスマシ	*Orectochilus punctipennis*		●		
103		コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	*Canthydrus politus*		●		
104		ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	*Hydrochus japonicus*		●		
105		ガムシ科	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus*			●	
106			マルガムシ	*Hydrocassis lacustris*			●	
107			ガムシ	*Hydrophilus acuminatus*		●		
108		ヒメドロムシ科	クロサワドロムシ	*Neoriohelmis kurosawai*		●		

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 1-4（4）　確認種一覧（底生動物）

番号	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号			
					①	②	③	④
109	コウチュウ目	ナガハナノミ科	ナガハナノミ科	*Ptilodactylidae* sp.			●	
計	19 目	66 科	109 種		12 種	41 種	69 種	1 種

注）文献番号は、表1-1の番号と対応する。

表 2-1　確認文献一覧（維管束植物、蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	文献	分布想定種
①	「レッドデータブックあいち 2020」（令和2年3月、愛知県）	瀬戸市を含むメッシュ内で確認されている種
②	「海上の森 確認種リスト」（令和2年11月閲覧、愛知県）	文献に記載されている種

表 2-2 (1)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ（広義）	*Huperzia serrata*		●
2		ホソバトウゲシバ	*Huperzia serrata* var. *serrata*		●
3		ミズスギ	*Lycopodiella cernua*		●
4		ヤチスギラン	*Lycopodiella inundata*	●	●
5		ヒカゲノカズラ	*Lycopodium clavatum* var. *nipponicum*		●
6		アスヒカズラ	*Lycopodium complanatum*	●	
7		マンネンスギ	*Lycopodium obscurum*		●
8	イワヒバ科	クラマゴケ	*Selaginella remotifolia*		●
9	ミズニラ科	ミズニラ	*Isoetes japonica*	●	●
10	トクサ科	スギナ	*Equisetum arvense*		●
11		トクサ	*Equisetum hyemale*		●
12	ハナヤスリ科	シチトウハナワラビ	*Botrychium atrovirens*	●	
13		オオハナワラビ	*Botrychium japonicum*		●
14		フユノハナワラビ	*Botrychium ternatum*		●
15		コヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum petiolatum*		●
16		ヒロハハナヤスリ	*Ophioglossum vulgatum*	●	
17	マツバラン科	マツバラン	*Psilotum nudum*	●	
18	ゼンマイ科	オオバヤシャゼンマイ	*Osmunda* x *intermedia*		●
19		ゼンマイ	*Osmunda japonica*		●
20		ヤシャゼンマイ	*Osmunda lancea*		●
21		ヤマドリゼンマイ	*Osmundastrum cinnamomeum* var. *fokiense*		●
22	コケシノブ科	ウチワゴケ	*Crepidomanes minutum*		●
23		コウヤコケシノブ	*Hymenophyllum barbatum*		●
24	ウラジロ科	コシダ	*Dicranopteris linearis*		●
25		ウラジロ	*Diplopterygium glaucum*		●
26	カニクサ科	カニクサ	*Lygodium japonicum* var. *japonicum*		●
27	デンジソウ科	デンジソウ	*Marsilea quadrifolia*	●	
28	サンショウモ科	オオアカウキクサ	*Azolla japonica*	●	
29	キジノオシダ科	オオキジノオ	*Plagiogyria euphlebia*		●
30		キジノオシダ	*Plagiogyria japonica*		●
31		ヤマソテツ	*Plagiogyria matsumureana*	●	●
32	ホングウシダ科	ホラシノブ	*Odontosoria chinensis*		●
33	コバノイシカグマ科	イヌシダ	*Dennstaedtia hirsuta*		●
34		コバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra*		●
35		ウスゲコバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra* f. *glabrescens*		●
36		イワヒメワラビ	*Hypolepis punctata*		●
37		フモトシダ	*Microlepia marginata*		●
38		ワラビ	*Pteridium aquilinum* ssp. *japonicum*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (2)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
39	イノモトソウ科	ヒメミズワラビ	*Ceratopteris gaudichaudii* var. *vulgaris*		●
40		イヌイワガネソウ	*Coniogramme* x *fauriei*		●
41		イワガネゼンマイ	*Coniogramme intermedia*		●
42		イワガネソウ	*Coniogramme japonica*		●
43		タチシノブ	*Onychium japonicum*		●
44		オオバノイノモトソウ	*Pteris cretica*		●
45		イノモトソウ	*Pteris multifida*		●
46		オオバノハチジョウシダ	*Pteris terminalis* var. *terminalis*		●
47	ナヨシダ科	ウスヒメワラビ	*Acystopteris japonica*		●
48	チャセンシダ科	コバノヒノキシダ	*Asplenium anogrammoides*		●
49		トラノオシダ	*Asplenium incisum*		●
50		オクタマシダ	*Asplenium pseudowilfordii*	●	
51	ヒメシダ科	アイヒメワラビ	*Thelypteris x subviridifrons*		●
52		ヒメワラビ	*Macrothelypteris torresiana* var. *calvata*		●
53		ミドリヒメワラビ	*Macrothelypteris viridifrons*		●
54		ゲジゲジシダ	*Phegopteris decursivepinnata*		●
55		ホシダ	*Thelypteris acuminata* var. *acuminata*		●
56		コハシゴシダ	*Thelypteris angustifrons*		●
57		ハシゴシダ	*Thelypteris glanduligera*		●
58		ツクシヤワラシダ	*Thelypteris hattorii* var. *nemoralis*	●	
59		ハリガネワラビ	*Thelypteris japonica*		●
60		ヤワラシダ	*Thelypteris laxa*		●
61		ヒメシダ	*Thelypteris palustris*		●
62		ミゾシダ	*Thelypteris pozoi* ssp. *mollissima*		●
63	コウヤワラビ科	イヌガンソク	*Onoclea orientalis*		●
64		コウヤワラビ	*Onoclea sensibilis* var. *interrupta*		●
65		クサソテツ	*Onoclea struthiopteris*		●
66	シシガシラ科	シシガシラ	*Blechnum niponicum*		●
67		コモチシダ	*Woodwardia orientalis*		●
68	メシダ科	イヌワラビ	*Anisocampium niponicum*		●
69		カラクサイヌワラビ	*Athyrium clivicola*		●
70		シケチシダ	*Athyrium decurrentialatum*		●
71		サトメシダ	*Athyrium deltoidofrons*		●
72		トガリバイヌワラビ	*Athyrium iseanum* var. *angustisectum*		●
73		ホソバイヌワラビ	*Athyrium iseanum* var. *iseanum*		●
74		タニイヌワラビ	*Athyrium otophorum*		●
75		ヤマイヌワラビ	*Athyrium vidalii*		●
76		ヒロハイヌワラビ	*Athyrium wardii*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (3)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
77	メシダ科	ヘビノネゴザ	*Athyrium yokoscense*		●
78		ホソバシケシダ	*Deparia conilii*		●
79		オオホソバシケシダ	*Deparia conilii* x D. *japonica*		●
80		セイタカシケシダ	*Deparia dimorphophylla*		●
81		アサマシケシダ	*Deparia magufukui*	●	
82		シケシダ	*Deparia japonica*		●
83		タマシケシダ	*Deparia japonica x D.pseudoconilii*		●
84		オオヒメワラビ	*Deparia okuboana*		●
85		フモトシケシダ	*Deparia pseudoconilii*		●
86		コヒロハシケシダ	*Deparia pseudo-conilii var.subdeltoidofrons*	●	
87		ミヤマシケシダ	*Deparia pycnosora*	●	
88		ハクモウイノデ	*Deparia pycnosora* var.*albosquamata*		●
89		ウスバシケシダ	*Deparia sp.*	●	●
90		ヒカゲワラビ	*Diplazium chinense*		●
91		ウスバミヤマノコギリシダ	*Diplazium deciduum*	●	●
92		シロヤマシダ	*Diplazium hachijoense*		●
93		ミヤマノコギリシダ	*Diplazium mettenianum*		●
94		キヨタキシダ	*Diplazium squamigerum*		●
95	オシダ科	オオカナワラビ	*Arachniodes amabilis* var.*fimbriata*		●
96		ホソバナライシダ	*Arachniodes borealis*		●
97		オニカナワラビ	*Arachniodes chinensis*		●
98		ナンゴクナライシダ	*Arachniodes fargesii*		●
99		タカヤマナライシダ	*Arachniodes* x *miqueliana*		●
100		ハカタシダ	*Arachniodes simplicior*		●
101		リョウメンシダ	*Arachniodes standishii*		●
102		ナガバヤブソテツ	*Cyrtomium devexiscapulae*		●
103		オニヤブソテツ	*Cyrtomium falcatum*		●
104		ヤマヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var.*clivicola*		●
105		ヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var.*fortunei*		●
106		テリハヤブソテツ	*Cyrtomium laetevirens*		●
107		イワヘゴ	*Dryopteris atrata*		●
108		ヤマイタチシダ	*Dryopteris bissetiana*		●
109		サイゴクベニシダ	*Dryopteris championii*		●
110		ミサキカグマ	*Dryopteris chinensis*		●
111		ツクシイワヘゴ	*Dryopteris commixta*	●	
112		オシダ	*Dryopteris crassirhizoma*		●
113		ナチクジャク	*Dryopteris decipiens*		●
114		イヌナチクジャク	*Dryopteris decipiens* var.*diplazioides*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (4)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
115	オシダ科	オオクジャクシダ	*Dryopteris dickinsii*		●
116		ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*		●
117		マルバベニシダ	*Dryopteris fuscipes*		●
118		ハコネオオクジャク	*Dryopteris* x *hakonecola*		●
119		オオイタチシダ	*Dryopteris hikonensis*		●
120		オオベニシダ	*Dryopteris hondoensis*		●
121		ヌカイタチシダモドキ	*Dryopteris indusiata*		●
122		ギフベニシダ	*Dryopteris kinkiensis*		●
123		ワカナシダ	*Dryopteris kuratae*	●	
124		クマワラビ	*Dryopteris lacera*		●
125		キヨスミヒメワラビ	*Dryopteris maximowicziana*		●
126		エンシュウベニシダ	*Dryopteris medioxima*		●
127		アイノコクマワラビ	*Dryopteris* x *mituii*		●
128		トウゴクシダ	*Dryopteris nipponensis*		●
129		オワセベニシダ	*Dryopteris ryo-itoana*	●	●
130		ミヤマイタチシダ	*Dryopteris sabaei*		●
131		ヒメイタチシダ	*Dryopteris sacrosancta*		●
132		ヌカイタチシダマガイ	*Dryopteris simasakii*		●
133		ナガバノイタチシダ	*Dryopteris sparsa* var. *sparsa*		●
134		タニヘゴ	*Dryopteris tokyoensis*		●
135		オクマワラビ	*Dryopteris uniformis*		●
136		フジオシダ	*Dryopteris* x *watanabei*		●
137		ドウリョウイノデ	*Polystichum* x *anceps*		●
138		ツルデンダ	*Polystichum craspedosorum*		●
139		アスカイノデ	*Polystichum fibrillosopaleaceum*		●
140		ホクリクイノデ	*Polystichum* x *hokurikuense*		●
141		フナコシイノデ	*Polystichum* x *inadae*		●
142		アイアスカイノデ	*Polystichum longifrons*		●
143		カタイノデ	*Polystichum makinoi*		●
144		ツヤナシイノデ	*Polystichum ovatopaleaceum* var. *ovatopaleaceum*		●
145		イノデ	*Polystichum polyblepharon*		●
146		サイゴクイノデ	*Polystichum pseudomakinoi*		●
147		サカゲイノデ	*Polystichum retrosopaleaceum*		●
148		イノデモドキ	*Polystichum tagawanum*		●
149		ジュウモンジシダ	*Polystichum tripteron*		●
150	ウラボシ科	マメヅタ	*Lemmaphyllum microphyllum* var. *microphyllum*		●
151		ヒメノキシノブ	*Lepisorus onoei*		●
152		ノキシノブ（広義）	*Lepisorus thunbergianus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (5)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
153	ウラボシ科	オオクボシダ	*Micropolypodium okuboi*	●	
154		イワオモダカ	*Pyrrosia hastata*	●	
155		ヒトツバ	*Pyrrosia lingua*		●
156		ミツデウラボシ	*Selliguea hastata*		●
157	マツ科	モミ	*Abies firma*		●
158		ヒマラヤスギ	*Cedrus deodara*		●
159		アカマツ	*Pinus densiflora*		●
160		アイグロマツ	*Pinus* x *densithunbergii*		●
161		クロマツ	*Pinus thunbergii*		●
162		ツガ	*Tsuga sieboldii*		●
163	マキ科	イヌマキ	*Podocarpus macrophyllus*		●
164	ヒノキ科	ヒノキ	*Chamaecyparis obtusa*		●
165		スギ	*Cryptomeria japonica* var. *japonica*		●
166		オキアガリネズ	*Juniperus conferta* x *Juniperus rigida*		●
167		ヌマスギ	*Taxodium distichum*		●
168	イチイ科	イヌガヤ	*Cephalotaxus harringtonia*		●
169		カヤ	*Torreya nucifera* var. *nucifera*		●
170	ジュンサイ科	ジュンサイ	*Brasenia schreberi*		●
171	スイレン科	オニバス	*Euryale ferox*	●	
172		ヒメコウホネ	*Nuphar subintegerrima*	●	
173		ヒツジグサ	*Nymphaea tetragona* var. *angusia*		●
－		スイレン属の一種	*Nymphaea* sp.		●
174	マツブサ科	シキミ	*Illicium anisatum*		●
175		サネカズラ	*Kadsura japonica*		●
176		マツブサ	*Schisandra repanda*		●
177	センリョウ科	フタリシズカ	*Chloranthus serratus*		●
178		センリョウ	*Sarcandra glabra*		●
179	ドクダミ科	ドクダミ	*Houttuynia cordata*		●
180		ハンゲショウ	*Saururus chinensis*		●
181	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	*Aristolochia debilis*		●
182		オオバウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi*		●
183		オオバウマノスズクサ×タンザワウマノスズクサ	*Aristolochia kaempferi* x *tanzawana*		●
－		オオバウマノスズクサ群	*Aristolochia kaempferigroup*		●
184		タンザワウマノスズクサ	*Aristolochia tanzawana*		●
185		ヒメカンアオイ	*Asarum fauriei* var. *takaoi*		●
186		スズカカンアオイ	*Asarum rigescens* var. *brachypodion*		●
－		カンアオイ属の一種	*Asarum* sp.		●
187	モクレン科	コブシ	*Magnolia kobus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (6)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
188	モクレン科	ホオノキ	*Magnolia obovata*		●
189		タムシバ	*Magnolia salicifolia*		●
190		タムシバ×シデコブシ	*Magnolia salicifolia* x *M. stellata*		●
191		シデコブシ	*Magnolia stellata*	●	●
192	クスノキ科	クスノキ	*Cinnamomum camphora*		●
193		ニッケイ	*Cinnamomum sieboldii*	●	
194		ヤブニッケイ	*Cinnamomum yabunikkei*		●
195		カナクギノキ	*Lindera erythrocarpa*		●
196		ヤマコウバシ	*Lindera glauca*		●
197		ヒメクロモジ	*Lindera lancea*		●
198		ダンコウバイ	*Lindera obtusiloba*		●
199		アブラチャン	*Lindera praecox* var.*praecox*		●
200		シロモジ	*Lindera triloba*		●
201		クロモジ	*Lindera umbellata* var.*umbellata*		●
202		タブノキ	*Machilus thunbergii*		●
203		シロダモ	*Neolitsea sericea* var.*sericea*		●
204	ショウブ科	ショウブ	*Acorus calamus*		●
205		セキショウ	*Acorus gramineus* var.*gramineus*		●
206	サトイモ科	マムシグサ	*Arisaema japonicum*		●
207		ムロウマムシグサ	*Arisaema kishidae*	●	
208		ウラシマソウ	*Arisaema thunbergii* ssp.*urashima*		●
209		スルガテンナンショウ	*Arisaema yamatense* ssp.*sugimotoi*		●
－		テンナンショウ属の一種	*Arisaema* sp.		●
210		アオウキクサ	*Lemna aoukikusa* ssp.*aoukikusa*		●
211		カラスビシャク	*Pinellia ternata*		●
212		ウキクサ	*Spirodela polyrhiza*		●
213	チシマゼキショウ科	イワショウブ	*Triantha japonica*	●	
214	オモダカ科	マルバオモダカ	*Caldesia parnassiifolia*	●	
215		アギナシ	*Sagittaria aginashi*	●	●
216		ウリカワ	*Sagittaria pygmaea*		●
217		オモダカ	*Sagittaria trifolia*		●
218	トチカガミ科	マルミスブタ	*Blyxa aubertii*	●	
219		セトヤナギスブタ	*Blyxa alternifolia*	●	
220		スブタ	*Blyxa echinosperma*	●	
221		ヤナギスブタ	*Blyxa japonica*	●	
222		トチカガミ	*Hydrocharis dubia*	●	
223		ヒロハトリゲモ	*Najas chinensis*		●
224		ヒロハトリゲモ	*Najas chinensis*	●	

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (7)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
225	トチカガミ科	イトトリゲモ	*Najas gracillima*	●	●
226		ホッスモ	*Najas graminea*		●
227		トリゲモ	*Najas minor*		●
228		オオトリゲモ	*Najas oguraensis*	●	
229		ミズオオバコ	*Ottelia alismoides*	●	●
230	ヒルムシロ科	イトモ	*Potamogeton berchtoldii*	●	●
231		ヒルムシロ	*Potamogeton distinctus*	●	●
232		フトヒルムシロ	*Potamogeton fryeri*		●
233		オヒルムシロ	*Potamogeton natans*	●	
234		ホソバミズヒキモ	*Potamogeton octandrus* var. *octandrus*		●
235		ツツイトモ	*Potamogeton pusillus*	●	
236	キンコウカ科	ソクシンラン	*Aletris spicata*		●
237		ノギラン	*Metanarthecium luteoviride*		●
238	ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	*Burmannia championii*	●	●
239	ヤマノイモ科	タチドコロ	*Dioscorea gracillima*		●
240		ヤマノイモ	*Dioscorea japonica*		●
241		ヒメドコロ	*Dioscorea tenuipes*		●
242		オニドコロ	*Dioscorea tokoro*		●
243	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	*Sciaphila nana*	●	●
244	シュロソウ科	シライトソウ	*Chionographis japonica*		●
245		シロバナショウジョウバカマ	*Heloniopsis orientalis* var. *flavida*		●
246		ショウジョウバカマ	*Heloniopsis orientalis* var. *orientalis*		●
247		ホソバシュロソウ	*Veratrum maackii* var. *maackioides*		●
248		ミカワバイケイソウ	*Veratrum stamineum* var. *micranthum*	●	●
249	イヌサフラン科	チゴユリ	*Disporum smilacinum*		●
250	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	*Smilax china* var. *china*		●
251		タチシオデ	*Smilax nipponica*		●
252		シオデ	*Smilax riparia*		●
253		サルマメ	*Smilax trinervula*		●
254	ユリ科	ウバユリ	*Cardiocrinum cordatum* var. *cordatum*		●
255		タカサゴユリ	*Lilium formosanum*		●
256		ササユリ	*Lilium japonicum*		●
257		オニユリ	*Lilium lancifolium*		●
258		コオニユリ	*Lilium leichtlinii* var. *leichtlinii* f. *pseudotigrinum*		●
259		ヤマジノホトトギス	*Tricyrtis affinis*		●
260		ホトトギス	*Tricyrtis hirta*		●
261	ラン科	ヒナラン	*Amitostigma gracile*	●	
262		イワチドリ	*Amitostigma keiskei*	●	●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (8)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
263	ラン科	シラン	*Bletilla striata*		●
264		マメヅタラン	*Bulbophyllum drymoglossum*	●	
265		ムギラン	*Bulbophyllum inconspicuum*	●	
266		エビネ	*Calanthe discolor*	●	●
267		ナツエビネ	*Calanthe puberula*	●	
－		エビネ属の一種	*Calanthe* sp.		●
268		ギンラン	*Cephalanthera erecta*		●
269		ユウシュンラン	*Cephalanthera erecta* var. *subaphylla*	●	
270		キンラン	*Cephalanthera falcata*	●	●
271		サイハイラン	*Cremastra variabilis*		●
272		シュンラン	*Cymbidium goeringii*		●
273		クマガイソウ	*Cypripedium japonicum*	●	
274		ツチアケビ	*Cyrtosia septentrionalis*		●
275		カキラン	*Epipactis thunbergii*		●
276		アキザキヤツシロラン	*Gastrodia confusa*	●	
277		オニノヤガラ	*Gastrodia elata*		●
278		シロテンマ	*Gastrodia elata* var. *pallens*		●
279		クロヤツシロラン	*Gastrodia pubilabiata*		●
280		アケボノシュスラン	*Goodyera foliosa* var. *laevis*		●
281		ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtendaliana*		●
282		オオミヤマウズラ	*Goodyera tsukamotoi*	●	
283		シュスラン	*Goodyera velutina*	●	●
284		ミズトンボ	*Habenaria sagittifera*	●	●
285		ムヨウラン	*Lecanorchis japonica*		●
286		ホクリクムヨウラン	*Lecanorchis japonica* var. *hokurikuensis*	●	
287		エンシュウムヨウラン	*Lecanorchis japonica* var. *suginoana*		●
288		キイムヨウラン	*Lecanorchis kiiensis*		●
289		ウスギムヨウラン	*Lecanorchis kiusiana*	●	
－		ムヨウラン属の一種	*Lecanorchis*sp.		●
290		ジガバチソウ	*Liparis krameri*		●
291		クモキリソウ	*Liparis kumokiri*		●
292		コクラン	*Liparis nervosa*		●
293		アオフタバラン	*Neottia makinoana*		●
294		コケイラン	*Oreorchis patens*		●
295		サギソウ	*Pecteilis radiata*	●	●
296		オオバノトンボソウ	*Platanthera minor*		●
297		コバノトンボソウ	*Platanthera nipponica*		●
298		トンボソウ	*Platanthera ussuriensis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (9)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
299	ラン科	トキソウ	*Pogonia japonica*	●	●
300		ヤマトキソウ	*Pogonia minor*	●	●
301		ネジバナ	*Spiranthes sinensis* var. *amoena*		●
302		カヤラン	*Thrixspermum japonicum*		●
303		ヒトツボクロ	*Tipularia japonica*		●
304	アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	*Crocosmia* x c*rocosmiiflora*		●
305		ハナショウブ	*Iris ensata* var. *ensata*		●
306		ノハナショウブ	*Iris ensata* var. *spontanea*		●
307		シャガ	*Iris japonica*		●
308		キショウブ	*Iris pseudacorus*		●
309		アヤメ	*Iris sanguinea*		●
310		ルリニワゼキショウ	*Sisyrinchium angustifolium*		●
311		ニワゼキショウ	*Sisyrinchium rosulatum*		●
312		オオニワゼキショウ	*Sisyrinchium* sp.		●
313	ススキノキ科	ノカンゾウ	*Hemerocallis fulva* var. *disticha*		●
314		ヤブカンゾウ	*Hemerocallis fulva* var. *kwanso*		●
315	ヒガンバナ科	ノビル	*Allium macrostemon*		●
316		ヤマラッキョウ	*Allium thunbergii*		●
317		ニラ	*Allium tuberosum*		●
318		ヒガンバナ	*Lycoris radiata*		●
319		キツネノカミソリ	*Lycoris sanguinea*		●
320	クサスギカズラ科	ツルボ	*Barnardia japonica*		●
321		キヨスミギボウシ	*Hosta kiyosumiensis*		●
322		ミズギボウシ	*Hosta longissima* var. *brevifolia*		●
323		オオバギボウシ	*Hosta sieboldiana*		●
324		コバギボウシ	*Hosta sieboldii*		●
325		ヒメヤブラン	*Liriope minor*		●
326		ヤブラン	*Liriope muscari*		●
327		コヤブラン	*Liriope spicata*		●
328		ジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus*		●
329		ナガバジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus* var. *umbrosus*		●
330		ナルコユリ	*Polygonatum falcatum*		●
331		ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum*		●
332		アマドコロ	*Polygonatum odoratum* var. *pluriflorum*		●
333		キチジョウソウ	*Reineckea carnea*		●
334		オモト	*Rohdea japonica*		●
335	ヤシ科	シュロ	*Trachycarpus fortunei*		●
336	ツユクサ科	ツユクサ	*Commelina communis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（10）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
337	ツユクサ科	イボクサ	*Murdannia keisak*		●
338		ヤブミョウガ	*Pollia japonica*		●
339	ミズアオイ科	コナギ	*Monochoria vaginalis*		●
340	ショウガ科	ミョウガ	*Zingiber mioga*		●
341		ショウガ	*Zingiber officinale*		●
342	ガマ科	ミクリ	*Sparganium erectum*	●	
343		ヤマトミクリ	*Sparganium fallax*	●	●
344		ナガエミクリ	*Sparganium japonicum*	●	
345		ヒメガマ	*Typha domingensis*		●
346		ガマ	*Typha latifolia*		●
347		コガマ	*Typha orientalis*		●
348	ホシクサ科	ヒロハノイヌノヒゲ	*Eriocaulon alpestre*		●
349		オオホシクサ	*Eriocaulon buergerianum*	●	
350		コイヌノヒゲ	*Eriocaulon decemflorum*		●
351		ツクシクロイヌノヒゲ	*Eriocaulon kiusianum*	●	
352		ミカワイヌノヒゲ	*Eriocaulon mikawanum*		●
353		イヌノヒゲ	*Eriocaulon miquelianum*		●
354		シラタマホシクサ	*Eriocaulon nudicuspe*	●	●
355		クロホシクサ	*Eriocaulon parvum*	●	
356		ニッポンイヌノヒゲ	*Eriocaulon taquetii*		●
357	イグサ科	ハナビゼキショウ	*Juncus alatus*		●
358		ヒメコウガイゼキショウ	*Juncus bufonius*		●
359		イグサ	*Juncus decipiens*		●
360		アオコウガイゼキショウ	*Juncus papillosus*		●
361		コウガイゼキショウ	*Juncus prismatocarpus* ssp. *leschenaultii*		●
362		ホソイ	*Juncus setchuensis*		●
363		クサイ	*Juncus tenuis*		●
364		ハリコウガイゼキショウ	*Juncus wallichianus*		●
365		スズメノヤリ	*Luzula capitata*		●
366		ヌカボシソウ	*Luzula plumosa*		●
367	カヤツリグサ科	イトテンツキ	*Bulbostylis densa* var. *capitata*	●	
368		ミノボロスゲ	*Carex albata*	●	
369		シラスゲ	*Carex alopecuroides* var. *chlorostachya*		●
370		シロイトスゲ	*Carex alterniflora*		●
371		クロカワズスゲ	*Carex arenicola*		●
372		マツバスゲ	*Carex biwensis*		●
373		ハリガネスゲ	*Carex capillacea*		●
374		ミヤマシラスゲ	*Carex confertiflora*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（11）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
375	カヤツリグサ科	ヒメカンスゲ	*Carex conica*		●
376		ナルコスゲ	*Carex curvicollis*		●
377		オニスゲ	*Carex dickinsii*		●
378		アゼナルコ	*Carex dimorpholepis*		●
379		カサスゲ	*Carex dispalata*		●
380		タマツリスゲ	*Carex filipes*		●
381		オオタマツリスゲ	*Carex filipes*var. *rouyana*	●	●
382		タニガワスゲ	*Carex forficula*		●
383		マスクサ	*Carex gibba*		●
384		コハリスゲ	*Carex hakonensis*		●
385		ホソバヒカゲスゲ	*Carex humilis* var. *nana*		●
386		ウマスゲ	*Carex idzuroei*		●
387		カワラスゲ	*Carex incisa*		●
388		ジュズスゲ	*Carex ischnostachya*		●
389		ヒゴクサ	*Carex japonica*		●
390		テキリスゲ	*Carex kiotensis*		●
391		ヒカゲスゲ	*Carex lanceolata*		●
392		アズマスゲ	*Carex lasiolepis*		●
393		ナキリスゲ	*Carex lenta*		●
394		アオスゲ	*Carex leucochlora*		●
395		コジュズスゲ	*Carex macroglossa*		●
396		タチスゲ	*Carex maculata*		●
397		ゴウソ	*Carex maximowiczii*		●
398		ホシナシゴウソ	*Carex maximowiczii* var. *levisaccus*		●
399		ヒメシラスゲ	*Carex mollicula*		●
400		カンスゲ	*Carex morrowii*		●
401		ヤチカワズスゲ	*Carex omiana*		●
402		オタルスゲ	*Carex otaruensis*		●
403		ヒメゴウソ	*Carex phacota*		●
404		タカネマスクサ	*Carex planata*	●	
405		マメスゲ	*Carex pudica*		●
406		コカンスゲ	*Carex reinii*		●
407		シラコスゲ	*Carex rhizopoda*		●
408		クサスゲ	*Carex rugata*		●
409		ジングウスゲ	*Carex sacrosancta*	●	
410		センダイスゲ	*Carex sendaica*	●	
411		タガネソウ	*Carex siderosticta*		●
412		ニシノホンモンジスゲ	*Carex stenostachys*	●	●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2 (12)　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
413	カヤツリグサ科	アゼスゲ	*Carex thunbergii*		●
414		ヤワラスゲ	*Carex transversa*		●
415		モエギスゲ	*Carex tristachya*		●
－		スゲ属の一種	*Carex* sp.		●
416		ヒメクグ	*Cyperus brevifolius* var. *leiolepis*		●
417		クグガヤツリ	*Cyperus compressus*		●
418		タマガヤツリ	*Cyperus difformis*		●
419		メリケンガヤツリ	*Cyperus eragrostis*		●
420		ヒメアオガヤツリ	*Cyperus extremiorientalis*	●	
421		ヒナガヤツリ	*Cyperus flaccidus*		●
422		アゼガヤツリ	*Cyperus flavidus*		●
423		ヌマガヤツリ	*Cyperus glomeratus*	●	
424		コアゼガヤツリ	*Cyperus haspan* var. *tuberiferus*		●
425		コゴメガヤツリ	*Cyperus iria*		●
426		カヤツリグサ	*Cyperus microiria*		●
427		アオガヤツリ	*Cyperus nipponicus*		●
428		オオシロガヤツリ	*Cyperus nipponicus* var. *spiralis*	●	
429		ウシクグ	*Cyperus orthostachyus*		●
430		オニガヤツリ	*Cyperus pilosus*		●
431		イガガヤツリ	*Cyperus polystachyos*		●
432		ハマスゲ	*Cyperus rotundus*		●
433		カワラスガナ	*Cyperus sanguinolentus*		●
434		ミズガヤツリ	*Cyperus serotinus*		●
435		ヒメガヤツリ	*Cyperus tenuispica*	●	●
436		マツバイ	*Eleocharis acicularis* var. *longiseta*		●
437		セイタカハリイ	*Eleocharis attenuata*	●	
438		オオハリイ	*Eleocharis congesta* var. *congesta*		●
439		ハリイ	*Eleocharis congesta* var. *japonica*		●
440		クログワイ	*Eleocharis kuroguwai*		●
441		マシカクイ	*Eleocharis tetraquetra*		●
442		シカクイ	*Eleocharis wichurae*		●
443		コアゼテンツキ	*Fimbristylis aestivalis*		●
444		ヒメヒラテンツキ	*Fimbristylis autumnalis*		●
445		ノテンツキ	*Fimbristylis complanata*		●
446		テンツキ	*Fimbristylis dichotoma* var. *tentsuki*		●
447		クロテンツキ	*Fimbristylis diphylloides*		●
448		アオテンツキ	*Fimbristylis dipsacea*		●
449		ヒデリコ	*Fimbristylis littoralis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（13）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
450	カヤツリグサ科	アゼテンツキ	*Fimbristylis squarrosa*		●
451		トネテンツキ	*Fimbristylis stauntonii* var. *tonensis*	●	
452		ヤマイ	*Fimbristylis subbispicata*		●
453		メアゼテンツキ	*Fimbristylis velata*		●
454		ヒンジガヤツリ	*Lipocarpha microcephala*		●
455		ミカヅキグサ	*Rhynchospora alba*		●
456		トラノハナヒゲ	*Rhynchospora brownii*	●	
457		イトイヌノハナヒゲ	*Rhynchospora faberi*		●
458		オオイヌノハナヒゲ	*Rhynchospora fauriei*	●	●
459		コイヌノハナヒゲ	*Rhynchospora fujiiana*		●
460		イヌノハナヒゲ	*Rhynchospora japonica*		●
461		イガクサ	*Rhynchospora rubra*		●
462		ホタルイ	*Schoenoplectiella hotarui*		●
463		イヌホタルイ	*Schoenoplectiella juncoides*		●
464		シカクホタルイ	*Schoenoplectiella* x *trapezoidea*		●
465		カンガレイ	*Schoenoplectiella triangulata*		●
466		シズイ	*Schoenoplectus nipponicus*	●	
467		サンカクイ	*Schoenoplectus triqueter*		●
468		コマツカサススキ	*Scirpus fuirenoides*		●
469		マツカサススキ	*Scirpus mitsukurianus*		●
470		アブラガヤ	*Scirpus wichurae*		●
471		コシンジュガヤ	*Scleria parvula*	●	
472		ミカワシンジュガヤ	*Scleria mikawana*	●	
473		ケシンジュガヤ	*Scleria rugosa*		●
474		マネキシンジュガヤ	*Scleria rugosa* var. *glabrescens*		●
475	イネ科	ハネガヤ	*Achnatherum pekinense*	●	
476		ヤマヌカボ	*Agrostis clavata*		●
477		ヌカボ	*Agrostis clavata* var. *nukabo*		●
478		コヌカグサ	*Agrostis gigantea*		●
479		ハイコヌカグサ	*Agrostis stolonifera*		●
480		ヒメコヌカグサ	*Agrostis valvata*	●	●
481		スズメノテッポウ	*Alopecurus aequalis* var. *amurensis*		●
482		セトガヤ	*Alopecurus japonicus*		●
483		メリケンカルカヤ	*Andropogon virginicus*		●
484		ハルガヤ	*Anthoxanthum odoratum*		●
485		コブナグサ	*Arthraxon hispidus*		●
486		トダシバ	*Arundinella hirta*		●
487		カラスムギ	*Avena fatua*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（14）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
488	イネ科	カズノコグサ	*Beckmannia syzigachne*		●
489		コウヤザサ	*Brachyelytrum japonicum*		●
490		ヤマカモジグサ	*Brachypodium sylvaticum*		●
491		コバンソウ	*Briza maxima*		●
492		ヒメコバンソウ	*Briza minor*		●
493		イヌムギ	*Bromus catharticus*		●
494		キツネガヤ	*Bromus remotiflorus*		●
495		ノガリヤス	*Calamagrostis brachytricha* var. *brachytricha*		●
496		ヤマアワ	*Calamagrostis epigeios*		●
497		ヒメノガリヤス	*Calamagrostis hakonensis*		●
498		ヒナザサ	*Coelachne japonica*	●	
499		ジュズダマ	*Coix lacryma-jobi*		●
500		ギョウギシバ	*Cynodon dactylon*		●
501		カモガヤ	*Dactylis glomerata*		●
502		メヒシバ	*Digitaria ciliaris*		●
503		コメヒシバ	*Digitaria radicosa*		●
504		アキメヒシバ	*Digitaria violascens*		●
505		カリマタガヤ	*Dimeria ornithopoda* var. *tenera*		●
506		イヌビエ	*Echinochloa crus-galli*		●
507		ヒメイヌビエ	*Echinochloa crus-galli* var. *praticola*		●
508		タイヌビエ	*Echinochloa oryzicola*		●
509		オヒシバ	*Eleusine indica*		●
510		アオカモジグサ	*Elymus racemifer*		●
511		カモジグサ	*Elymus tsukushiensis* var. *transiens*		●
512		スズメガヤ	*Eragrostis cilianensis*		●
513		シナダレスズメガヤ	*Eragrostis curvula*		●
514		カゼクサ	*Eragrostis ferruginea*		●
515		コスズメガヤ	*Eragrostis minor*		●
516		ニワホコリ	*Eragrostis multicaulis*		●
517		オオニワホコリ	*Eragrostis pilosa*		●
518		ナルコビエ	*Eriochloa villosa*		●
519		ウンヌケモドキ	*Eulalia quadrinervis*	●	
520		ウンヌケ	*Eulalia speciosa*	●	●
521		ハガワリトボシガラ	*Festuca heterophylla*		●
522		ウシノケグサ	*Festuca ovina*		●
523		トボシガラ	*Festuca parvigluma*		●
524		オオウシノケグサ	*Festuca rubra*		●
525		ムツオレグサ	*Glyceria acutiflora* ssp. *japonica*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（15）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
526	イネ科	ドジョウツナギ	*Glyceria ischyroneura*		●
527		ヒロハノドジョウツナギ	*Glyceria leptolepis*		●
528		ウシノシッペイ	*Hemarthria sibirica*		●
529		シラゲガヤ	*Holcus lanatus*		●
530		チガヤ	*Imperata cylindrica* var. *koenigii*		●
531		チゴザサ	*Isachne globosa*		●
532		ハイチゴザサ	*Isachne nipponensis*		●
533		ケカモノハシ	*Ischaemum anthephoroides*		●
534		タイワンカモノハシ	*Ischaemum aristatum*		●
535		ミノボロ	*Koeleria macrantha*		●
536		アシカキ	*Leersia japonica*		●
537		エゾノサヤヌカグサ	*Leersia oryzoides*		●
538		サヤヌカグサ	*Leersia sayanuka*		●
539		ササガヤ	*Leptatherum japonicum*		●
540		アゼガヤ	*Leptochloa chinensis*		●
541		ネズミホソムギ	*Lolium* x h*ybridum*		●
542		ネズミムギ	*Lolium multiflorum*		●
543		ホソムギ	*Lolium perenne*		●
544		ササクサ	*Lophatherum gracile*		●
545		トウササクサ	*Lophatherum sinense*	●	
546		コメガヤ	*Melica nutans*		●
547		アシボソ	*Microstegium vimineum*		●
548		カリヤスモドキ	*Miscanthus oligostachyus*		●
549		オギ	*Miscanthus sacchariflorus*		●
550		ススキ	*Miscanthus sinensis*		●
551		カリヤス	*Miscanthus tinctorius*		●
552		ヌマガヤ	*Moliniopsis japonica*		●
553		ネズミガヤ	*Muhlenbergia japonica*		●
554		コチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *japonicus*		●
555		ケチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var. *undulatifolius*		●
556		ヌカキビ	*Panicum bisulcatum*		●
557		オオクサキビ	*Panicum dichotomiflorum*		●
558		ニコゲヌカキビ	*Panicum lanuginosum*		●
559		シマスズメノヒエ	*Paspalum dilatatum*		●
560		アメリカスズメノヒエ	*Paspalum notatum*		●
561		スズメノヒエ	*Paspalum thunbergii*		●
562		タチスズメノヒエ	*Paspalum urvillei*		●
563		チカラシバ	*Pennisetum alopecuroides*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（16）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
564	イネ科	クサヨシ	*Phalaris arundinacea*		●
565		オオアワガエリ	*Phleum pratense*		●
566		ヨシ	*Phragmites australis*		●
567		ツルヨシ	*Phragmites japonica*		●
568		モウソウチク	*Phyllostachys edulis*		●
569		ハチク	*Phyllostachys nigra* var. *henonis*		●
570		マダケ	*Phyllostachys reticulata*		●
571		ネザサ	*Pleioblastus argenteostriatus*		●
572		アズマネザサ	*Pleioblastus chino*		●
573		ケネザサ	*Pleioblastus fortunei* f. *pubescens*		●
574		コンゴウタケ	*Pleioblastus kongosanensis*		●
575		アキバザサ	*Pleioblastus kongosanensis* f. *akibensis*		●
576		ヒロウザサ	*Pleioblastus nagashima* var. *nagashima*		●
577		シブヤザサ	*Pleioblastus shibuyanus* var. *shibuyanus*		●
578		メダケ	*Pleioblastus simonii*		●
579		ミゾイチゴツナギ	*Poa acroleuca*		●
580		スズメノカタビラ	*Poa annua*		●
581		ヤマミゾイチゴツナギ	*Poa hisauchii*		●
582		オオイチゴツナギ	*Poa nipponica*		●
583		ナガハグサ	*Poa pratensis*		●
584		イチゴツナギ	*Poa sphondylodes*		●
585		オオスズメノカタビラ	*Poa trivialis*		●
586		ヒエガエリ	*Polypogon fugax*		●
587		ウキシバ	*Pseudoraphis sordida*	●	
588		ヤダケ	*Pseudosasa japonica*		●
589		ハイヌメリグサ	*Sacciolepis spicata*		●
590		ヌメリグサ	*Sacciolepis spicata* var. *oryzetorum*		●
591		スズタケ	*Sasa borealis*		●
592		ミヤコザサ	*Sasa nipponica*		●
593		シダミコザサ	*Sasa samanian* var. *yoshino* f. *hidejiroana*	●	
594		クリオザサ	*Sasaella masamuneana*		●
595		アズマザサ	*Sasaella ramosa*		●
596		オニウシノケグサ	*Schedonorus phoenix*		●
597		ヒロハノウシノケグサ	*Schedonorus pratensis*		●
598		ナリヒラダケ	*Semiarundinaria fastuosa*	●	
599		アキノエノコログサ	*Setaria faberi*		●
600		コツブキンエノコロ	*Setaria pallidefusca*		●
601		キンエノコロ	*Setaria pumilla*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（17）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
602	イネ科	エノコログサ	*Setaria viridis* var. *minor*		●
603		ムラサキエノコロ	*Setaria viridis* var. *minor* f. *misera*		●
604		オカメザサ	*Shibataea kumasasa*		●
605		セイバンモロコシ	*Sorghum propinquum*		●
606		ネズミノオ	*Sporobolus fertilis*		●
607		カニツリグサ	*Trisetum bifidum*		●
608		ナギナタガヤ	*Vulpia myuros* var. *myuros*		●
609		マコモ	*Zizania latifolia*		●
610		シバ	*Zoysia japonica*		●
－		イネ科の一種	*Poaceae* sp.		●
611	マツモ科	マツモ	*Ceratophyllum demersum*		●
612	フサザクラ科	フサザクラ	*Euptelea polyandra*		●
613	ケシ科	クサノオウ	*Chelidonium majus* ssp. *asiaticum*		●
614		ムラサキケマン	*Corydalis incisa*		●
615		ミヤマキケマン	*Corydalis pallida* var. *tenuis*		●
616		タケニグサ	*Macleaya cordata*		●
617		ナガミヒナゲシ	*Papaver dubium*		●
618	アケビ科	アケビ	*Akebia quinata*		●
619		ミツバアケビ	*Akebia trifoliata* ssp. *trifoliata*		●
620		ムベ	*Stauntonia hexaphylla*		●
621	ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	*Cocculus trilobus*		●
622		ツヅラフジ	*Sinomenium acutum*		●
623	メギ科	ヒロハヘビノボラズ	*Berberis amurensis*		●
624		ヒイラギナンテン	*Berberis japonica*		●
625		ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii*	●	●
626		メギ	*Berberis thunbergii*		●
627		イカリソウ	*Epimedium grandiflorum* var. *thunbergianum*		●
628		ホソバヒイラギナンテン	*Mahonia fortunei*		●
629		ナンテン	*Nandina domestica*		●
630	キンポウゲ科	ボタンヅル	*Clematis apiifolia*		●
631		ハンショウヅル	*Clematis japonica*		●
632		カザグルマ	*Clematis patens*	●	●
633		センニンソウ	*Clematis terniflora*		●
634		スハマソウ	*Hepatica nobilis* var. *japonica* f. *variegata*	●	
635		ケキツネノボタン	*Ranunculus cantoniensis*		●
636		ウマノアシガタ	*Ranunculus japonicus*		●
637		タガラシ	*Ranunculus sceleratus*		●
638		キツネノボタン	*Ranunculus silerifolius*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（18）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
639	キンポウゲ科	アキカラマツ	*Thalictrum minus* var. *hypoleucum*		●
640	アワブキ科	アワブキ	*Meliosma myriantha*		●
641		ミヤマハハソ	*Meliosma tenuis*		●
642	ハス科	ハス	*Nelumbo nucifera*		●
643	マンサク科	マルバノキ	*Disanthus cercidifolius* var. *cercidifolius*		●
644		マンサク	*Hamamelis japonica* var. *japonica*		●
645	ユズリハ科	ユズリハ	*Daphniphyllum macropodum* var. *macropodum*		●
646	スグリ科	ヤブサンザシ	*Ribes fasciculatum*	●	
647	ユキノシタ科	チダケサシ	*Astilbe microphylla*		●
648		ミカワショウマ	*Astilbe thunbergii* var. *okuyamae*	●	●
649		アカショウマ	*Astilbe thunbergii* var. *thunbergii*		●
650		ネコノメソウ	*Chrysosplenium grayanum*		●
651		ミカワチャルメルソウ	*Mitella furusei* var. *furusei*		●
652		チャルメルソウ	*Mitella furusei* var. *subramosa*		●
653		コチャルメルソウ	*Mitella pauciflora*		●
654		ナメラダイモンジソウ	*Saxifraga fortunei* var. *suwoensis*	●	
655		ユキノシタ	*Saxifraga stolonifera*		●
656	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	*Orostachys japonica*	●	
657		コモチマンネングサ	*Sedum bulbiferum*		●
658		メキシコマンネングサ	*Sedum mexicanum*		●
659	タコノアシ科	タコノアシ	*Penthorum chinense*	●	
660	アリノトウグサ科	アリノトウグサ	*Gonocarpus micranthus*		●
661		オオフサモ	*Myriophyllum aquaticum*		●
662		タチモ	*Myriophyllum ussuriense*	●	
663		フサモ	*Myriophyllum verticillatum*		●
664	ブドウ科	ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*		●
665		ヤブカラシ	*Cayratia japonica*		●
666		ツタ	*Parthenocissus tricuspidata*		●
667		エビヅル	*Vitis ficifolia*		●
668		サンカクヅル	*Vitis flexuosa*		●
669		アマヅル	*Vitis saccharifera* var. *saccharifera*		●
670	マメ科	クサネム	*Aeschynomene indica*		●
671		ネムノキ	*Albizia julibrissin* var. *julibrissin*		●
672		イタチハギ	*Amorpha fruticosa*		●
673		ヤブマメ	*Amphicarpaea edgeworthii*		●
674		ホドイモ	*Apios fortunei*		●
675		ゲンゲ	*Astragalus sinicus*		●
676		ジャケツイバラ	*Caesalpinia decapetala*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（19）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
677	マメ科	アレチケツメイ	*Chamaecrista nicticans*		●
678		カワラケツメイ	*Chamaecrista nomame*		●
679		ユクノキ	*Cladrastis sikokiana*		●
680		ケブカアレチヌスビトハギ	*Desmodium dilleniii*		●
681		アレチヌスビトハギ	*Desmodium paniculatum*		●
682		ノササゲ	*Dumasia truncata*		●
683		ノアズキ	*Dunbaria villosa*		●
684		ツルマメ	*Glycine max* ssp. *soja*		●
685		ヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *japonicum*		●
686		ヤブハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *mandshuricum*		●
687		コマツナギ	*Indigofera pseudotinctoria*		●
688		マルバヤハズソウ	*Kummerowia stipulacea*		●
689		ヤハズソウ	*Kummerowia striata*		●
690		ヤマハギ	*Lespedeza bicolor* var. *bicolor*		●
691		キハギ	*Lespedeza buergeri*		●
692		メドハギ	*Lespedeza cuneata*		●
693		ハイメドハギ	*Lespedeza cuneata* var. *serpens*		●
694		マルバハギ	*Lespedeza cyrtobotrya*		●
695		ツクシハギ	*Lespedeza homoloba*		●
696		ネコハギ	*Lespedeza pilosa* var. *pilosa*		●
697		ビッチュウヤマハギ	*Lespedeza thunbergii* f. *angustifolia*		●
698		イヌハギ	*Lespedeza tomentosa*	●	
－		ハギ属の一種	*Lespedeza* sp.		●
699		イヌエンジュ	*Maackia amurensis*		●
700		ミソナオシ	*Ohwia caudata*	●	
701		クズ	*Pueraria lobata* ssp. *lobata*		●
702		オオバタンキリマメ	*Rhynchosia acuminatifolia*		●
703		ハリエンジュ	*Robinia pseudoacacia*		●
704		クララ	*Sophora flavescens*		●
705		コメツブツメクサ	*Trifolium dubium*		●
706		ムラサキツメクサ	*Trifolium pratense*		●
707		シロツメクサ	*Trifolium repens*		●
708		スズメノエンドウ	*Vicia hirsuta*		●
709		ヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *nigra*		●
710		カスマグサ	*Vicia tetrasperma*		●
711		ナンテンハギ	*Vicia unijuga*		●
712		ビワコエビラフジ	*Vicia venosa* ssp. *stolonifera*	●	●
713		ヤブツルアズキ	*Vigna angularis* var. *nipponensis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（20）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
714	マメ科	フジ	*Wisteria floribunda*		●
715		ナツフジ	*Wisteria japonica*		●
716	ヒメハギ科	ヒメハギ	*Polygala japonica*		●
717		カキノハグサ	*Polygala reinii*		●
718		ヒナノカンザシ	*Salomonia ciliata*		●
719	グミ科	ツルグミ	*Elaeagnus glabra*		●
720		ナツグミ	*Elaeagnus multiflora*		●
721		トウグミ	*Elaeagnus multiflora* var. *hortensis*		●
722		アリマグミ	*Elaeagnus murakamiana*	●	●
723		アキグミ	*Elaeagnus umbellata* var. *umbellata*		●
724	クロウメモドキ科	クマヤナギ	*Berchemia racemosa*		●
725		イソノキ	*Frangula crenata* var. *crenata*		●
726		ケンポナシ	*Hovenia dulcis*		●
727		ケケンポナシ	*Hovenia trichocarpa* var. *robusta*		●
728	ニレ科	アキニレ	*Ulmus parvifolia*		●
729		ケヤキ	*Zelkova serrata*		●
730	アサ科	ムクノキ	*Aphananthe aspera*		●
731		エノキ	*Celtis sinensis*		●
732		カナムグラ	*Humulus scandens*		●
733	クワ科	コウゾ	*Broussonetia* x *kazinoki*		●
734		ヒメコウゾ	*Broussonetia monoica*		●
735		クワクサ	*Fatoua villosa*		●
736		イタビカズラ	*Ficus sarmentosa* ssp. *nipponica*		●
737		マグワ	*Morus alba*		●
738		ヤマグワ	*Morus australis*		●
739	イラクサ科	クサコアカソ	*Boehmeria gracilis*		●
740		ヤブマオ	*Boehmeria japonica* var. *longispica*		●
741		カラムシ	*Boehmeria nivea* var. *concolor*		●
742		メヤブマオ	*Boehmeria platanifolia*		●
743		ナガバヤブマオ	*Boehmeria sieboldiana*		●
744		アカソ	*Boehmeria silvestrii*		●
745		コアカソ	*Boehmeria spicata*		●
746		ウワバミソウ	*Elatostema involucratum*		●
747		サンショウソウ	*Pellionia radicans* var. *minima*		●
748		ミズ	*Pilea hamaoi*		●
749		ヤマミズ	*Pilea japonica*		●
750		ミヤコミズ	*Pilea kiotensis*	●	
751		アオミズ	*Pilea pumila*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（21）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
752	バラ科	ヒメキンミズヒキ	*Agrimonia nipponica*		●
753		キンミズヒキ	*Agrimonia pilosa* var. *japonica*		●
754		ザイフリボク	*Amelanchier asiatica*		●
755		アズキナシ	*Aria alnifolia*		●
756		ウラジロノキ	*Aria japonica*		●
757		ヤマザクラ	*Cerasus jamasakura* var. *jamasakura*		●
758		カスミザクラ	*Cerasus leveilleana*		●
759		オオシマザクラ	*Cerasus speciosa*		●
760		ソメイヨシノ	*Cerasus* x *yedoensis*		●
761		ビワ	*Eriobotrya japonica*		●
762		ダイコンソウ	*Geum japonicum*		●
763		ヤマブキ	*Kerria japonica*		●
764		リンボク	*Laurocerasus spinulosa*		●
765		ズミ	*Malus toringo* var. *toringo*		●
766		オオウラジロノキ	*Malus tschonoskii*		●
767		コゴメウツギ	*Neillia incisa*		●
768		ウワミズザクラ	*Padus grayana*		●
769		カナメモチ	*Photinia glabra*		●
770		オヘビイチゴ	*Potentilla anemonifolia*		●
771		カワラサイコ	*Potentilla chinensis*	●	
772		キジムシロ	*Potentilla fragarioides*		●
773		ミツバツチグリ	*Potentilla freyniana*		●
774		ヘビイチゴ	*Potentilla hebiichigo*		●
775		ヤブヘビイチゴ	*Potentilla indica*		●
776		カマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *laevis*		●
777		ケカマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *zollingeri*		●
778		ウメ	*Prunus mume*		●
779		マメナシ	*Pyrus calleryana*	●	
780		ヤマナシ	*Pyrus pyrifolia*		●
781		ナシ	*Pyrus pyrifolia* var. *culta*		●
782		シャリンバイ	*Rhaphiolepis indica* var. *umbellata*		●
783		テリハノイバラ	*Rosa luciae*		●
784		ノイバラ	*Rosa multiflora* var. *multiflora*		●
785		ミヤコイバラ	*Rosa paniculigera*		●
786		ヤマイバラ	*Rosa sambucina*		●
787		フユイチゴ	*Rubus buergeri*		●
788		クマイチゴ	*Rubus crataegifolius*		●
789		クサイチゴ	*Rubus hirsutus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（22）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
790	バラ科	ニガイチゴ	*Rubus microphyllus*		●
791		ニガクマイチゴ	*Rubus* x *nigakuma*		●
792		モミジイチゴ	*Rubus palmatus*		●
793		ナワシロイチゴ	*Rubus parvifolius*		●
794		エビガライチゴ	*Rubus phoenicolasius*		●
795		コジキイチゴ	*Rubus sumatranus*		●
796		ワレモコウ	*Sanguisorba officinalis*		●
797		ミヤマワレモコウ	*Sanguisorba longifolia*	●	
798		ナンキンナナカマド	*Sorbus gracilis*		●
799	ブナ科	クリ	*Castanea crenata*		●
800		ツブラジイ	*Castanopsis cuspidata*		●
801		スダジイ	*Castanopsis sieboldii* ssp. *sieboldii*		●
802		アカガシ	*Quercus acuta*		●
803		クヌギ	*Quercus acutissima*		●
804		アラカシ	*Quercus glauca*		●
805		シラカシ	*Quercus myrsinifolia*		●
806		ウバメガシ	*Quercus phillyreoides*		●
807		ウラジロガシ	*Quercus salicina*		●
808		フモトミズナラ	*Quercus serrata* ssp. *mongolicoides*	●	●
809		コナラ	*Quercus serrata* ssp. *serrata* var. *serrata*		●
810		ツクバネガシ	*Quercus sessilifolia*		●
811		アベマキ	*Quercus variabilis*		●
812	ヤマモモ科	ヤマモモ	*Morella rubra*		●
813	カバノキ科	ヤシャブシ	*Alnus firma*		●
814		ケヤマハンノキ	*Alnus hirsuta*		●
815		ヤマハンノキ	*Alnus hirsuta* f. *sibirica*		●
816		ハンノキ	*Alnus japonica*		●
817		ヒメヤシャブシ	*Alnus pendula*		●
818		カワラハンノキ	*Alnus serrulatoides*		●
819		オオバヤシャブシ	*Alnus sieboldiana*		●
820		サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa*	●	●
821		ミズメ	*Betula grossa*		●
822		クマシデ	*Carpinus japonica*		●
823		アカシデ	*Carpinus laxiflora*		●
824		イヌシデ	*Carpinus tschonoskii*		●
825	ウリ科	アマチャヅル	*Gynostemma pentaphyllum* var. *pentaphyllum*		●
826		アレチウリ	*Sicyos angulatus*		●
827		カラスウリ	*Trichosanthes cucumeroides*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（23）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
828	ウリ科	キカラスウリ	*Trichosanthes kirilowii* var. *japonica*		●
829		スズメウリ	*Zehneria japonica*		●
830	シュウカイドウ科	シュウカイドウ	*Begonia grandis*		●
831	ニシキギ科	ツルウメモドキ	*Celastrus orbiculatus* var. *orbiculatus*		●
832		オオツルウメモドキ	*Celastrus stephanotidifolius*		●
833		ニシキギ	*Euonymus alatus*		●
834		コマユミ	*Euonymus alatus* f. *ciliatodentatus*		●
835		ツルマサキ	*Euonymus fortunei* var. *fortunei*		●
836		マサキ	*Euonymus japonicus*		●
837		サワダツ	*Euonymus melananthus*		●
838		ツリバナ	*Euonymus oxyphyllus*		●
839		マユミ	*Euonymus sieboldianus*		●
840		シラヒゲソウ	*Parnassia foliosa* var. *foliosa*	●	
841		ウメバチソウ	*Parnassia palustris* var. *palustris*		●
842	カタバミ科	イモカタバミ	*Oxalis articulata*		●
843		カタバミ	*Oxalis corniculata*		●
844		ムラサキカタバミ	*Oxalis corymbosa*		●
845		オッタチカタバミ	*Oxalis dillenii*		●
846		ミヤマカタバミ	*Oxalis griffithii* var. *griffithii*	●	
847	トウダイグサ科	エノキグサ	*Acalypha australis*		●
848		コニシキソウ	*Euphorbia maculata*		●
849		オオニシキソウ	*Euphorbia nutans*		●
850		アカメガシワ	*Mallotus japonicus*		●
851		ヤマアイ	*Mercurialis leiocarpa*		●
852		シラキ	*Neoshirakia japonica*		●
853		ナンキンハゼ	*Triadica sebifera*		●
854	コミカンソウ科	コミカンソウ	*Phyllanthus lepidocarpus*		●
855		ヒメミカンソウ	*Phyllanthus ussuriensis*		●
856	ミゾハコベ科	ミゾハコベ	*Elatine triandra*		●
857	ヤナギ科	イイギリ	*Idesia polycarpa*		●
858		ヤマナラシ	*Populus tremula* var. *sieboldii*		●
859		シダレヤナギ	*Salix babylonica*		●
860		バッコヤナギ	*Salix caprea*		●
861		マルバヤナギ	*Salix chaenomeloides*		●
862		ネコヤナギ	*Salix gracilistyla*		●
863		イヌコリヤナギ	*Salix integra*		●
864		カワヤナギ	*Salix miyabeana* ssp. *gymnolepis*		●
865		キヌヤナギ	*Salix schwerinii* ‘Kinuyanagi‘	●	

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（24）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
866	ヤナギ科	タチヤナギ	*Salix triandra*		●
867		オノエヤナギ	*Salix udensis*		●
868		サイコクキツネヤナギ	*Salix vulpina* ssp. *alopochroa*		●
869	スミレ科	コタチツボスミレ	*Viola grypoceras* var. *exilis*	●	●
870		タチツボスミレ	*Viola grypoceras* var. *grypoceras*		●
871		アオイスミレ	*Viola hondoensis*		●
872		ヒメスミレ	*Viola inconspicua* ssp. *nagasakiensis*		●
873		オオタチツボスミレ	*Viola kusanoana*	●	
874		スミレ	*Viola mandshurica* var. *mandsurica*		●
875		ニオイタチツボスミレ	*Viola obtusa*		●
876		ナガバタチツボスミレ	*Viola ovato-oblonga*		●
877		フモトスミレ	*Viola sieboldii* ssp. *sieboldii*		●
878		ヒナスミレ	*Viola tokubuchiana* var. *takedana*		●
879		スミレサイシン	*Viola vaginata*	●	●
880		アギスミレ	*Viola verecunda* var. *semilunaris*		●
881		ヒメアギスミレ	*Viola verecunda* var. *subaequiloba*		●
882		ツボスミレ	*Viola verecunda* var. *verecunda*		●
883		マキノスミレ	*Viola violacea* var. *makinoi*		●
884		シハイスミレ	*Viola violacea* var. *violacea*		●
885		ノジスミレ	*Viola yedoensis* var. *yedoensis*		●
－		スミレ属の一種	*Viola* sp.		●
886	オトギリソウ科	トモエソウ	*Hypericum ascyron*		●
887		オトギリソウ	*Hypericum erectum*		●
888		ヒメオトギリ	*Hypericum japonicum*		●
889		コケオトギリ	*Hypericum laxum*		●
890		アゼオトギリ	*Hypericum oliganthum*		●
891		キンシバイ	*Hypericum patulum*		●
892		サワオトギリ	*Hypericum pseudopetiolatum*		●
893		トサオトギリ	*Hypericum tosaense*	●	
894		ミズオトギリ	*Triadenum japonicum*		●
895	フウロソウ科	アメリカフウロ	*Geranium carolinianum*		●
896		ゲンノショウコ	*Geranium thunbergii*		●
897	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	*Ammannia coccinea*		●
898		ヒメミソハギ	*Ammannia multiflora*	●	
899		ミソハギ	*Lythrum anceps*		●
900		キカシグサ	*Rotala indica*		●
901		ミズマツバ	*Rotala mexicana*	●	
902		ミズキカシグサ	*Rotala rosea*	●	

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（25）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
903	ミソハギ科	ヒメビシ	*Trapa incisa*	●	
904		ヒシ	*Trapa jeholensis*		●
905		オニビシ	*Trapa natans* var. *quadrispinosa*	●	
906	アカバナ科	ミズタマソウ	*Circaea mollis*		●
907		アカバナ	*Epilobium pyrricholophum*		●
908		ヒレタゴボウ	*Ludwigia decurrens*		●
909		チョウジタデ	*Ludwigia epilobioides* ssp. *epilobioides*		●
910		ウスゲチョウジタデ	*Ludwigia epilobioides* ssp. *greatrexii*	●	
911		ミズユキノシタ	*Ludwigia ovalis*		●
912		メマツヨイグサ	*Oenothera biennis*		●
913		オオマツヨイグサ	*Oenothera glazioviana*		●
914		コマツヨイグサ	*Oenothera laciniata*		●
915		アレチマツヨイグサ	*Oenothera parviflora*		●
916		ヒルザキツキミソウ	*Oenothera speciosa* var. *speciosa*		●
917		マツヨイグサ	*Oenothera stricta*		●
918	ミツバウツギ科	ゴンズイ	*Euscaphis japonica*		●
919		ミツバウツギ	*Staphylea bumalda*		●
920	キブシ科	キブシ	*Stachyurus praecox*		●
921	ウルシ科	ヌルデ	*Rhus javanica* var. *chinensis*		●
922		ツタウルシ	*Toxicodendron orientale* ssp. *orientale*		●
923		ハゼノキ	*Toxicodendron succedaneum*		●
924		ヤマハゼ	*Toxicodendron sylvestre*		●
925		ヤマウルシ	*Toxicodendron trichocarpum*		●
926	ムクロジ科	オオモミジ	*Acer amoenum* var. *amoenum*		●
927		ウリカエデ	*Acer crataegifolium*		●
928		コミネカエデ	*Acer micranthum*		●
929		イロハモミジ	*Acer palmatum*		●
930		イタヤカエデ（広義）	*Acer pictum*		●
931		エンコウカエデ	*Acer pictum* ssp. *dissectum*		●
932		ウラゲエンコウカエデ	*Acer pictum* ssp. *dissectum* f. *connivens*		●
933		ハナノキ	*Acer pycnanthum*		●
934		ウリハダカエデ	*Acer rufinerve*		●
935		コハウチワカエデ	*Acer sieboldianum*		●
936		カラコギカエデ	*Acer tataricum* ssp. *aidzuense*	●	
937		ムクロジ	*Sapindus mukorossi*		●
938	ミカン科	マツカゼソウ	*Boenninghausenia albiflora* var. *japonica*		●
939		コクサギ	*Orixa japonica*		●
940		ツルシキミ	*Skimmia japonica* var. *intermedia*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（26）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
941	ミカン科	ミヤマシキミ	*Skimmia japonica* var. *japonica*		●
942		カラスザンショウ	*Zanthoxylum ailanthoides* var. *ailanthoides*		●
943		サンショウ	*Zanthoxylum piperitum*		●
944		イヌザンショウ	*Zanthoxylum schinifolium* var. *schinifolium*		●
945	ニガキ科	ニワウルシ	*Ailanthus altissima*		●
946		ニガキ	*Picrasma quassioides*		●
947	センダン科	センダン	*Melia azedarach*		●
948	アオイ科	アオギリ	*Firmiana simplex*		●
949		ムクゲ	*Hibiscus syriacus*		●
950		アメリカキンゴジカ	*Sida spinosa*		●
951	ジンチョウゲ科	サクラガンピ	*Diplomorpha pauciflora*	●	
952		ガンピ	*Diplomorpha sikokiana*		●
953	アブラナ科	ヤマハタザオ	*Arabis hirsuta*		●
954		セイヨウアブラナ	*Brassica napus*		●
955		ナズナ	*Capsella bursa-pastoris*		●
956		ミチタネツケバナ	*Cardamine hirsuta*		●
957		ミズタガラシ	*Cardamine lyrata*	●	
958		タネツケバナ	*Cardamine occulta*		●
959		オオバタネツケバナ	*Cardamine scutata*		●
960		マメグンバイナズナ	*Lepidium virginicum*		●
961		ゴウダソウ	*Lunaria annua*		●
962		オランダガラシ	*Nasturtium officinale*		●
963		ショカツサイ	*Orychophragmus violaceus* var. *violaceus*		●
964		コイヌガラシ	*Rorippa cantoniensis*	●	
965		イヌガラシ	*Rorippa indica*		●
966		スカシタゴボウ	*Rorippa palustris*		●
967		ハタザオ	*Turritis glabra*		●
968	ビャクダン科	ツクバネ	*Buckleya lanceolata*		●
969		ヒノキバヤドリギ	*Korthalsella japonica*		●
970		カナビキソウ	*Thesium chinense*		●
971	オオバヤドリギ科	マツグミ	*Taxillus kaempferi* var. *kaempferi*		●
972	タデ科	ソバ	*Fagopyrum esculentum*		●
973		イタドリ	*Fallopia japonica* var. *japonica*		●
974		サトヤマタデ	*Persicaria clivorum*	●	
975		ミズヒキ	*Persicaria filiformis*		●
976		サイコクヌカボ	*Persicaria foliosa* var. *nikaii*	●	
977		ナガバノウナギツカミ	*Persicaria hastatosagittata*	●	●
978		ヤナギタデ	*Persicaria hydropiper*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（27）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
979	タデ科	シロバナサクラタデ	*Persicaria japonica* var. *japonica*		●
980		サナエタデ	*Persicaria lapathifolia* var. *incana*		●
981		オオイヌタデ	*Persicaria lapathifolia* var. *lapathifolia*		●
982		イヌタデ	*Persicaria longiseta*		●
983		サデクサ	*Persicaria maackiana*		●
984		ハルタデ	*Persicaria maculosa* ssp. *hirticaulis* var. *pubescens*		●
985		コミゾソバ	*Persicaria mikawana*	●	●
986		ヤノネグサ	*Persicaria muricata*		●
987		シンミズヒキ	*Persicaria neofiliformis*		●
988		タニソバ	*Persicaria nepalensis*		●
989		サクラタデ	*Persicaria odorata* ssp. *conspicua*		●
990		オオベニタデ	*Persicaria orientalis*		●
991		イシミカワ	*Persicaria perfoliata*		●
992		ハナタデ	*Persicaria posumbu*		●
993		ボントクタデ	*Persicaria pubescens*		●
994		アキノウナギツカミ	*Persicaria sagittata* var. *sibirica*		●
995		ウナギツカミ	*Persicaria sagittata* var. *sibirica* f. *aestiva*		●
996		ママコノシリヌグイ	*Persicaria senticosa*		●
997		ヌカボタデ	*Persicaria taquetii*	●	
998		ミゾソバ	*Persicaria thunbergii* var. *thunbergii*		●
999		オオネバリタデ	*Persicaria viscofera* var. *robusta*		●
1000		ミチヤナギ	*Polygonum aviculare* ssp. *aviculare*		●
1001		スイバ	*Rumex acetosa*		●
1002		ヒメスイバ	*Rumex acetosella* ssp. *pyrenaicus*		●
1003		アレチギシギシ	*Rumex conglomeratus*		●
1004		ナガバギシギシ	*Rumex crispus*		●
1005		ギシギシ	*Rumex japonicus*		●
1006		マダイオウ	*Rumex madaio*		●
1007		エゾノギシギシ	*Rumex obtusifolius*		●
1008	モウセンゴケ科	イシモチソウ	*Drosera peltata* var. *nipponica*	●	●
1009		モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia*		●
1010		コモウセンゴケ	*Drosera spatulata*		●
1011		トウカイコモウセンゴケ	*Drosera tokaiensis*		●
1012	ナデシコ科	ノミノツヅリ	*Arenaria serpyllifolia* var. *serpyllifolia*		●
1013		ミミナグサ	*Cerastium fontanum* ssp. *vulgare* var. *angustifolium*		●
1014		オランダミミナグサ	*Cerastium glomeratum*		●
1015		ツメクサ	*Sagina japonica*		●
1016		ムシトリナデシコ	*Silene armeria*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（28）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1017	ナデシコ科	ナンバンハコベ	*Silene baccifera* var. *japonica*		●
1018		フシグロセンノウ	*Silene miqueliana*		●
1019		ウシハコベ	*Stellaria aquatica*		●
1020		コハコベ	*Stellaria media*		●
1021		ミドリハコベ	*Stellaria neglecta*		●
1022		ノミノフスマ	*Stellaria uliginosa* var. *undulata*		●
1023		ドウカンソウ	*Vaccaria hispanica*		●
1024	ヒユ科	イノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *japonica*		●
1025		ヒナタイノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *tomentosa*		●
1026		イヌビユ	*Amaranthus blitum*		●
1027		ホソアオゲイトウ	*Amaranthus hybridus*		●
1028		シロザ	*Chenopodium album* var. *album*		●
1029		アカザ	*Chenopodium album* var. *centrorubrum*		●
1030		アリタソウ	*Dysphania ambrosioides*		●
1031	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	*Phytolacca americana*		●
1032	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ	*Mollugo verticillata*		●
1033		ザクロソウ	*Trigastrotheca stricta*		●
1034	ハゼラン科	ハゼラン	*Talinum paniculatum*		●
1035	スベリヒユ科	スベリヒユ	*Portulaca oleracea*		●
1036	ミズキ科	ウリノキ	*Alangium platanifolium* f. *macrophyllum*		●
1037		ミズキ	*Cornus controversa* var. *controversa*		●
1038		ヤマボウシ	*Cornus kousa* ssp. *kousa*		●
1039		クマノミズキ	*Cornus macrophylla*		●
1040	アジサイ科	ツルアジサイ	*Calyptranthe petiolaris*		●
1041		ウツギ	*Deutzia crenata* var. *crenata*		●
1042		ノリウツギ	*Heteromalla paniculata*		●
1043		コアジサイ	*Hortensia hirta*		●
1044		コガクウツギ	*Hortensia luteovenosa* var. *luteovenosa*	●	
1045		ヤマアジサイ	*Hortensia serrata* var. *serrata*		●
1046		タマアジサイ	*Platycrater involucrata* var. *involucrata*		●
1047		イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides*		●
1048	ツリフネソウ科	ツリフネソウ	*Impatiens textorii*		●
1049	サカキ科	サカキ	*Cleyera japonica*		●
1050		ヒサカキ	*Eurya japonica*		●
1051		モッコク	*Ternstroemia gymnanthera*		●
1052	カキノキ科	リュウキュウマメガキ	*Diospyros japonica*		●
1053		カキノキ	*Diospyros kaki* var. *kaki*		●
1054		ヤマガキ	*Diospyros kaki* var. *sylvestris*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（29）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1055	サクラソウ科	マンリョウ	*Ardisia crenata*		●
1056		ヤブコウジ	*Ardisia japonica* var. *japonica*		●
1057		ノジトラノオ	*Lysimachia barystachys*	●	
1058		オカトラノオ	*Lysimachia clethroides*		●
1059		ヌマトラノオ	*Lysimachia fortunei*		●
1060		コナスビ	*Lysimachia japonica*		●
1061		イヌヌマトラノオ	*Lysimachia* x *pilophora*		●
1062	ツバキ科	ヤブツバキ	*Camellia japonica*		●
1063		チャノキ	*Camellia sinensis* var. *sinensis*		●
1064	ハイノキ科	タンナサワフタギ	*Symplocos coreana*		●
1065		クロミノニシゴリ	*Symplocos paniculata*		●
1066		クロバイ	*Symplocos prunifolia* var. *prunifolia*		●
1067		サワフタギ	*Symplocos sawafutagi*		●
1068	イワウメ科	ヤマイワカガミ	*Schizocodon ilicifolius* var. *intercedens*		●
1069		オオイワカガミ	*Schizocodon soldanelloides* var. *magnus*	●	●
1070	エゴノキ科	エゴノキ	*Styrax japonicus*		●
1071		ハクウンボク	*Styrax obassia*		●
1072		コハクウンボク	*Styrax shiraianus*		●
1073	マタタビ科	サルナシ	*Actinidia arguta* var. *arguta*		●
1074		ウラジロマタタビ	*Actinidia arguta* var. *hypoleuca*		●
1075		キウイフルーツ	*Actinidia deliciosa*		●
1076		マタタビ	*Actinidia polygama*		●
1077	リョウブ科	リョウブ	*Clethra barbinervis*		●
1078	ツツジ科	ウメガサソウ	*Chimaphila japonica*		●
1079		ホツツジ	*Elliottia paniculata*		●
1080		カイナンサラサドウダン	*Enkianthus sikokianus*		●
1081		イワナシ	*Epigaea asiatica*	●	
1082		シャクジョウソウ	*Hypopitys monotropa*	●	
1083		ネジキ	*Lyonia ovalifolia* var. *elliptica*		●
1084		ギンリョウソウモドキ	*Monotropa uniflora*		●
1085		ギンリョウソウ	*Monotropastrum humile*		●
1086		アセビ	*Pieris japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*		●
1087		イチヤクソウ	*Pyrola japonica* var. *japonica*		●
1088		ミツバツツジ	*Rhododendron dilatatum* var. *dilatatum*		●
1089		ヤマツツジ	*Rhododendron kaempferi* var. *kaempferi*		●
1090		ミカワツツジ	*Rhododendron kaempferi* var. *mikawanum*		●
1091		ダイセンミツバツツジ	*Rhododendron lagopus* var. *lagopus*		●
1092		モチツツジ	*Rhododendron macrosepalum*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（30）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1093	ツツジ科	レンゲツツジ	*Rhododendron molle* ssp. *japonicum*		●
1094		コバノミツバツツジ	*Rhododendron reticulatum*		●
1095		バイカツツジ	*Rhododendron semibarbatum*		●
1096		ミヤコツツジ	*Rhododendron* x *tectum*		●
1097		シャシャンボ	*Vaccinium bracteatum*		●
1098		ウスノキ	*Vaccinium hirtum* var. *pubescens*		●
1099		アクシバ	*Vaccinium japonicum* var. *japonicum*		●
1100		ナツハゼ	*Vaccinium oldhamii*		●
1101		スノキ	*Vaccinium smallii* var. *glabrum*		●
1102	アオキ科	アオキ	*Aucuba japonica* var. *japonica*		●
1103	アカネ科	ナガバジュズネノキ	*Damnacanthus giganteus*	●	●
1104		アリドオシ	*Damnacanthus indicus*		●
1105		ヒメヨツバムグラ	*Galium gracilens*		●
1106		キクムグラ	*Galium kikumugura*	●	
1107		ヤマムグラ	*Galium pogonanthum*		●
1108		ヤエムグラ	*Galium spurium* var. *echinospermon*		●
1109		ヨツバムグラ	*Galium trachyspermum*		●
1110		ホソバノヨツバムグラ	*Galium trifidum* ssp. *columbianum*		●
1111		クチナシ	*Gardenia jasminoides*		●
1112		ツルアリドオシ	*Mitchella undulata*		●
1113		ハシカグサ	*Neanotis hirsuta*		●
1114		フタバムグラ	*Oldenlandia brachypoda*		●
1115		ヘクソカズラ	*Paederia foetida*		●
1116		アカネ	*Rubia argyi*		●
1117		カギカズラ	*Uncaria rhynchophylla*		●
1118	リンドウ科	ベニバナセンブリ	*Centaurium erythraea*		●
1119		ハナハマセンブリ	*Centaurium tenuiflorum*		●
1120		リンドウ	*Gentiana scabra* var. *buergeri*		●
1121		ホソバリンドウ	*Gentiana scabra* var. *buergeri* f. *stenophylla*		●
1122		コケリンドウ	*Gentiana squarrosa*	●	
1123		ハルリンドウ	*Gentiana thunbergii*		●
1124		フデリンドウ	*Gentiana zollingeri*		●
1125		アケボノソウ	*Swertia bimaculata*		●
1126		センブリ	*Swertia japonica*		●
1127		イヌセンブリ	*Swertia tosaensis*	●	
1128		ツルリンドウ	*Tripterospermum japonicum*		●
1129	キョウチクトウ科	イケマ	*Cynanchum caudatum*		●
1130		ガガイモ	*Metaplexis japonica*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（31）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1131	キョウチクトウ科	テイカカズラ	*Trachelospermum asiaticum*		●
1132		ツルニチニチソウ	*Vinca major*		●
1133		オオカモメヅル	*Vincetoxicum aristolochioides*		●
1134		コカモメヅル	*Vincetoxicum floribundum*		●
1135		タチカモメヅル	*Vincetoxicum glabrum*		●
1136		クサナギオゴケ	*Vincetoxicum katoi*	●	●
1137		スズサイコ	*Vincetoxicum pycnostelma*	●	
1138		コバノカモメヅル	*Vincetoxicum sublanceolatum*		●
1139	ヒルガオ科	コヒルガオ	*Calystegia hederacea*		●
1140		ヒルガオ	*Calystegia pubescens*		●
1141		マメダオシ	*Cuscuta australis*		●
1142		アメリカネナシカズラ	*Cuscuta campestris*		●
1143		ネナシカズラ	*Cuscuta japonica*		●
1144		マルバルコウ	*Ipomoea coccinea*		●
1145	ナス科	ヤマホオズキ	*Archiphysalis chamaesarachoides*	●	
1146		クコ	*Lycium chinense*		●
1147		ヒロハフウリンホオズキ	*Physalis angulata*		●
1148		ワルナスビ	*Solanum carolinense*		●
1149		ヤマホロシ	*Solanum japonense*		●
1150		ヒヨドリジョウゴ	*Solanum lyratum*		●
1151		マルバノホロシ	*Solanum maximowiczii*		●
1152		オオイヌホオズキ	*Solanum nigrescens*		●
1153		イヌホオズキ	*Solanum nigrum*		●
1154		アメリカイヌホオズキ	*Solanum ptychanthum*		●
1155		ハダカホオズキ	*Tubocapsicum anomalum*		●
1156	ムラサキ科	ハナイバナ	*Bothriospermum zeylanicum*		●
1157		ハイルリソウ	*Nihon proliferum*	●	
1158		キュウリグサ	*Trigonotis peduncularis*		●
1159	モクセイ科	ヒトツバタゴ	*Chionanthus retusus*	●	
1160		アオダモ	*Fraxinus lanuginosa* f. *serrata*		●
1161		マルバアオダモ	*Fraxinus sieboldiana*		●
1162		ネズミモチ	*Ligustrum japonicum* var. *japonicum*		●
1163		イボタノキ	*Ligustrum obtusifolium* ssp. *obtusifolium*		●
1164		ヒイラギ	*Osmanthus heterophyllus*		●
1165	オオバコ科	ミズハコベ	*Callitriche palustris*		●
1166		サワトウガラシ	*Deinostema violaceum*		●
1167		アブノメ	*Dopatrium junceum*		●
1168		オオアブノメ	*Gratiola japonica*	●	●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（32）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1169	オオバコ科	シソクサ	*Limnophila aromatica*		●
1170		キクモ	*Limnophila sessiliflora*		●
1171		マツバウンラン	*Nuttallanthus canadensis*		●
1172		オオマツバウンラン	*Nuttallanthus texanus*		●
1173		オオバコ	*Plantago asiatica* var. *asiatica*		●
1174		ヘラオオバコ	*Plantago lanceolata*		●
1175		ツボミオオバコ	*Plantago virginica*		●
1176		タチイヌノフグリ	*Veronica arvensis*		●
1177		ムシクサ	*Veronica peregrina*		●
1178		オオイヌノフグリ	*Veronica persica*		●
1179		イヌノフグリ	*Veronica polita*	●	●
1180		カワヂシャ	*Veronica undulata*		●
1181	アゼナ科	スズメノトウガラシ（広義）	*Bonnaya antipoda*		●
1182		アメリカアゼナ	*Lindernia dubia* ssp. *major*		●
1183		アゼナ	*Lindernia procumbens*		●
1184		ウリクサ	*Torenia crustacea*		●
1185		アゼトウガラシ	*Vandellia micrantha*		●
1186		シソバウリクサ	*Vandellia setulosa*		●
1187	シソ科	キランソウ	*Ajuga decumbens*		●
1188		タチキランソウ	*Ajuga makinoi*	●	●
1189		ジュウニヒトエ	*Ajuga nipponensis*		●
1190		セイヨウジュウニヒトエ	*Ajuga reptans*		●
1191		ケブカツルカコソウ	*Ajuga shikotanensis* f. *hirsuta*	●	
1192		ニシキゴロモ	*Ajuga yesoensis* var. *yesoensis*		●
1193		コムラサキ	*Callicarpa dichotoma*		●
1194		ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var. *japonica*		●
1195		ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis*		●
1196		ジャコウソウ	*Chelonopsis moschata*	●	
1197		クサギ	*Clerodendrum trichotomum*		●
1198		クルマバナ	*Clinopodium coreanum* ssp. *coreanum*		●
1199		トウバナ	*Clinopodium gracile*		●
1200		イヌトウバナ	*Clinopodium micranthum* var. *micranthum*		●
1201		ヤマトウバナ	*Clinopodium multicaule* var. *multicaule*		●
1202		ナギナタコウジュ	*Elsholtzia ciliata*		●
1203		フトボナギナタコウジュ	*Elsholtzia nipponica*		●
1204		カキドオシ	*Glechoma hederacea* ssp. *grandis*		●
1205		ヤマハッカ	*Isodon inflexus*		●
1206		アキチョウジ	*Isodon longitubus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（33）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1207	シソ科	オドリコソウ	*Lamium album* var. *barbatum*		●
1208		ホトケノザ	*Lamium amplexicaule*		●
1209		ヒメオドリコソウ	*Lamium purpureum*		●
1210		コシロネ	*Lycopus cavaleriei*		●
1211		ヒメシロネ	*Lycopus maackianus*		●
1212		エゾシロネ	*Lycopus uniflorus*		●
1213		ハッカ	*Mentha canadensis*		●
1214		マルバハッカ	*Mentha suaveolens*		●
1215		ヒメジソ	*Mosla dianthera*		●
1216		シラゲヒメジソ	*Mosla hirta*		●
1217		イヌコウジュ	*Mosla scabra*		●
1218		イヌハッカ	*Nepeta cataria*		●
1219		レモンエゴマ	*Perilla citriodora*		●
1220		ミズネコノオ	*Pogostemon stellatus*	●	
1221		ミズトラノオ	*Pogostemon yatabeanus*	●	
1222		ウツボグサ	*Prunella vulgaris* ssp. *asiatica*		●
1223		シマジタムラソウ	*Salvia isensis*	●	●
1224		アキノタムラソウ	*Salvia japonica*		●
1225		ナツノタムラソウ	*Salvia lutescens* var. *intermedia*		●
1226		ミゾコウジュ	*Salvia plebeia*	●	
1227		オカタツナミソウ	*Scutellaria brachyspica*		●
1228		タツナミソウ	*Scutellaria indica* var. *indica*		●
1229		シソバタツナミ	*Scutellaria laeteviolacea*		●
－		タツナミソウ属の一種	*Scutellaria* sp.		●
1230		イヌゴマ	*Stachys aspera* var. *hispidula*		●
1231		ツルニガクサ	*Teucrium viscidum* var. *miquelianum*		●
1232	サギゴケ科	ムラサキサギゴケ	*Mazus miquelii*		●
1233		トキワハゼ	*Mazus pumilus*		●
1234	オオバコ科	スズメノハコベ	*Microcarpaea minima*	●	
1235	ハエドクソウ科	ハエドクソウ	*Phryma nana*		●
1236	キリ科	キリ	*Paulownia tomentosa*		●
1237	ハマウツボ科	ゴマクサ	*Centranthera cochinchinensis* var. *lutea*	●	
1238		ママコナ	*Melampyrum roseum* var. *japonicum*		●
1239		クチナシグサ	*Monochasma sheareri*		●
1240		ミカワシオガマ	*Pedicularis resupinata* ssp. *oppositifolia* var. *microphylla*	●	●
1241		キヨスミウツボ	*Phacellanthus tubiflorus*	●	
1242		オオヒキヨモギ	*Siphonostegia laeta*	●	●
1243	タヌキモ科	ノタヌキモ	*Utricularia aurea*	●	●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（34）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1244	タヌキモ科	イヌタヌキモ	*Utricularia australis*	●	
1245		ミミカキグサ	*Utricularia bifida*		●
1246		ホザキノミミカキグサ	*Utricularia caerulea*		●
1247		フサタヌキモ	*Utricularia dimorphantha*	●	
1248		ミカワタヌキモ	*Utricularia exoleta*	●	
1249		コタヌキモ	*Utricularia intermedia*	●	
1250		ヒメタヌキモ	*Utricularia minor*	●	●
1251		ムラサキミミカキグサ	*Utricularia uliginosa*	●	●
1252		ヒメミミカキグサ	*Utricularia minutissima*	●	●
1253	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	*Justicia procumbens* var. *procumbens*		●
1254		ハグロソウ	*Peristrophe japonica*		●
1255	クマツヅラ科	ヤナギハナガサ	*Verbena bonariensis*		●
1256		アレチハナガサ	*Verbena brasiliensis*		●
1257	ハナイカダ科	ハナイカダ	*Helwingia japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*		●
1258	モチノキ科	イヌツゲ	*Ilex crenata* var. *crenata*		●
1259		モチノキ	*Ilex integra*		●
1260		アオハダ	*Ilex macropoda*		●
1261		ミヤマウメモドキ	*Ilex nipponica*	●	
1262		ソヨゴ	*Ilex pedunculosa*		●
1263		クロガネモチ	*Ilex rotunda*		●
1264		ウメモドキ	*Ilex serrata*		●
1265	キキョウ科	ツリガネニンジン	*Adenophora triphylla* var. *japonica*		●
1266		ヤマホタルブクロ	*Campanula punctata* var. *hondoensis*		●
1267		ホタルブクロ	*Campanula punctata* var. *punctata*		●
1268		ツルニンジン	*Codonopsis lanceolata*		●
1269		シブカワニンジン	*Codonopsis lanceolata*var. *omurae*		●
1270		ミゾカクシ	*Lobelia chinensis*		●
1271		サワギキョウ	*Lobelia sessilifolia*		●
1272		タニギキョウ	*Peracarpa carnosa* var. *carnosa*		●
1273		キキョウ	*Platycodon grandiflorus*	●	●
1274		キキョウソウ	*Triodanis perfoliata*		●
1275		ヒナギキョウ	*Wahlenbergia marginata*		●
1276	ミツガシワ科	ミツガシワ	*Menyanthes trifoliata*	●	
1277		ヒメシロアサザ	*Nymphoides coreana*	●	
1278		ガガブタ	*Nymphoides indica*	●	
1279	キク科	セイヨウノコギリソウ	*Achillea millefolium*		●
1280		ノブキ	*Adenocaulon himalaicum*		●
1281		ヌマダイコン	*Adenostemma lavenia*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（35）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1282	キク科	キッコウハグマ	*Ainsliaea apiculata*		●
1283		ブタクサ	*Ambrosia artemisiifolia*		●
1284		オオブタクサ	*Ambrosia trifida*		●
1285		カワラハハコ	*Anaphalis margaritacea* ssp. *margaritacea* var. *yedoensis*		●
1286		カワラヨモギ	*Artemisia capillaris*		●
1287		ヨモギ	*Artemisia indica* var. *maximowiczii*		●
1288		オトコヨモギ	*Artemisia japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*		●
1289		イヌヨモギ	*Artemisia keiskeana*		●
1290		シロヨメナ	*Aster leiophyllus* var. *leiophyllus*		●
1291		ノコンギク	*Aster microcephalus* var. *ovatus*		●
1292		サワシロギク	*Aster rugulosus*		●
1293		ミヤマヨメナ	*Aster savatieri* var. *savatieri*		●
1294		シラヤマギク	*Aster scaber*		●
1295		イナカギク	*Aster semiamplexicaulis*		●
1296		シュウブンソウ	*Aster verticillatus*		●
1297		ヨメナ	*Aster yomena* var. *yomena*		●
1298		オケラ	*Atractylodes ovata*		●
1299		センダングサ	*Bidens biternata*		●
1300		アメリカセンダングサ	*Bidens frondosa*		●
1301		コシロノセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *minor*		●
1302		コセンダングサ	*Bidens pilosa* var. *pilosa*		●
1303		ヒレアザミ	*Carduus crispus*		●
1304		ヤブタバコ	*Carpesium abrotanoides*		●
1305		コヤブタバコ	*Carpesium cernuum*		●
1306		ホソバガンクビソウ	*Carpesium divaricatum* var. *abrotanoides*		●
1307		ガンクビソウ	*Carpesium divaricatum* var. *divaricatum*		●
1308		サジガンクビソウ	*Carpesium glossophyllum*		●
1309		トキンソウ	*Centipeda minima*		●
1310		ムラサキトキンソウ	*Centipeda* sp.	●	
1311		リュウノウギク	*Chrysanthemum makinoi*		●
1312		ノアザミ	*Cirsium japonicum* var. *japonicum*		●
1313		シロバナタカアザミ	*Cirsium pendulum* var. *albiflorum*	●	
1314		キセルアザミ	*Cirsium sieboldii*		●
1315		スズカアザミ	*Cirsium suzukaense*		●
1316		ヒダアザミ	*Cirsium tashiroi* var. *hidaense*	●	
1317		アメリカオニアザミ	*Cirsium vulgare*		●
1318		サワアザミ	*Cirsium yezoense*		●
1319		キンケイギク	*Coreopsis basalis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（36）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1320	キク科	オオキンケイギク	*Coreopsis lanceolata*		●
1321		ハルシャギク	*Coreopsis tinctoria*		●
1322		コスモス	*Cosmos bipinnatus*		●
1323		キバナコスモス	*Cosmos sulphureus*		●
1324		ベニバナボロギク	*Crassocephalum crepidioides*		●
1325		ヤクシソウ	*Crepidiastrum denticulatum*		●
1326		アメリカタカサブロウ	*Eclipta alba*		●
1327		タカサブロウ	*Eclipta thermalis*		●
1328		ダンドボロギク	*Erechtites hieraciifolius* var. *hieraciifolius*		●
1329		ヒメジョオン	*Erigeron annuus*		●
1330		アレチノギク	*Erigeron bonariensis*		●
1331		ヒメムカシヨモギ	*Erigeron canadensis*		●
1332		ハルジオン	*Erigeron philadelphicus*		●
1333		ケナシヒメムカシヨモギ	*Erigeron pusillus*		●
1334		オオアレチノギク	*Erigeron sumatrensis*		●
1335		サワヒヨドリ	*Eupatorium lindleyanum*		●
1336		ヒヨドリバナ（広義）	*Eupatorium makinoi*		●
1337		ツワブキ	*Farfugium japonicum* var. *japonicum*		●
1338		ハキダメギク	*Galinsoga quadriradiata*		●
1339		ホソバノチチコグサモドキ	*Gamochaeta calviceps*		●
1340		ウラジロチチコグサ	*Gamochaeta coarctata*		●
1341		チチコグサモドキ	*Gamochaeta pensylvanica*		●
1342		ウスベニチチコグサ	*Gamochaeta purpurea*		●
1343		チチコグサ	*Gnaphalium japonicum*		●
1344		キツネアザミ	*Hemisteptia lyrata*		●
1345		スイラン	*Hololeion krameri*		●
1346		ヒメブタナ	*Hypochaeris glabra*		●
1347		ブタナ	*Hypochaeris radicata*		●
1348		オグルマ	*Inula britannica* ssp. *japonica*		●
1349		ミズギク	*Inula ciliaris* var. *ciliaris*	●	●
1350		カセンソウ	*Inula salicina* var. *asiatica*	●	
1351		ニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *dentatum*		●
1352		ハナニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *nipponicum* var. *albiflorum*		●
1353		オオジシバリ	*Ixeris japonica*		●
1354		イワニガナ	*Ixeris stolonifera*		●
1355		アキノノゲシ	*Lactuca indica* var. *indica*		●
1356		ヤマニガナ	*Lactuca raddeana* var. *elata*		●
1357		コオニタビラコ	*Lapsanastrum apogonoides*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（37）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1358	キク科	ヤブタビラコ	*Lapsanastrum humile*		●
1359		センボンヤリ	*Leibnitzia anandria*		●
1360		メタカラコウ	*Ligularia stenocephala*		●
1361		サワギク	*Nemosenecio nikoensis*		●
1362		ムラサキニガナ	*Paraprenanthes sororia*		●
1363		モミジガサ	*Parasenecio delphiniifolius*		●
1364		ナガバノコウヤボウキ	*Pertya glabrescens*		●
1365		クルマバハグマ	*Pertya rigidula*		●
1366		カシワバハグマ	*Pertya robusta*		●
1367		コウヤボウキ	*Pertya scandens*		●
1368		フキ	*Petasites japonicus* var. *japonicus*		●
1369		コウゾリナ	*Picris hieracioides* ssp. *japonica* var. *japonica*		●
1370		ハハコグサ	*Pseudognaphalium affine*		●
1371		ミヤコアザミ	*Saussurea maximowiczii*	●	
1372		ノボロギク	*Senecio vulgaris*		●
1373		コメナモミ	*Sigesbeckia glabrescens*		●
1374		メナモミ	*Sigesbeckia pubescens*		●
1375		セイタカアワダチソウ	*Solidago altissima*		●
1376		アキノキリンソウ	*Solidago virgaurea* ssp. *asiatica* var. *asiatica*		●
1377		オニノゲシ	*Sonchus asper*		●
1378		ノゲシ	*Sonchus oleraceus*		●
1379		キダチコンギク	*Symphyotrichum pilosum*		●
1380		オオホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *elongatum*		●
1381		ヒロハホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *squamatum*		●
1382		ホウキギク	*Symphyotrichum subulatum* var. *subulatum*		●
1383		ヤブレガサ	*Syneilesis palmata*		●
1384		ヤマボクチ	*Synurus palmatopinnatifidus* var. *indivisus*		●
1385		オヤマボクチ	*Synurus pungens*		●
1386		シロバナタンポポ	*Taraxacum albidum*		●
1387		アカミタンポポ	*Taraxacum laevigatum*		●
1388		セイヨウタンポポ	*Taraxacum officinale*		●
1389		トウカイタンポポ	*Taraxacum platycarpum* var. *longeappendiculatum*		●
1390		オオオナモミ	*Xanthium occidentale*		●
1391		オナモミ	*Xanthium strumarium* ssp. *sibiricum*		●
1392		オニタビラコ（広義）	*Youngia japonica*		●
1393	トベラ科	トベラ	*Pittosporum tobira*		●
1394	ウコギ科	ウド	*Aralia cordata*		●
1395		タラノキ	*Aralia elata*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（38）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1396	ウコギ科	コシアブラ	*Chengiopanax sciadophylloides*		●
1397		カクレミノ	*Dendropanax trifidus*		●
1398		ケヤマウコギ	*Eleutherococcus divaricatus*		●
1399		オカウコギ	*Eleutherococcus spinosus* var. *japonicus*		●
1400		ヤマウコギ	*Eleutherococcus spinosus* var. *spinosus*		●
1401		ヤツデ	*Fatsia japonica* var. *japonica*		●
1402		タカノツメ	*Gamblea innovans*		●
1403		セイヨウキヅタ	*Hedera helix*		●
1404		キヅタ	*Hedera rhombea*		●
1405		オオバチドメ	*Hydrocotyle javanica*		●
1406		ノチドメ	*Hydrocotyle maritima*		●
1407		オオチドメ	*Hydrocotyle ramiflora*		●
1408		チドメグサ	*Hydrocotyle sibthorpioides*		●
1409		ヒメチドメ	*Hydrocotyle yabei*		●
1410		ハリギリ	*Kalopanax septemlobus* ssp. *septemlobus*		●
1411	セリ科	ノダケ	*Angelica decursiva*		●
1412		シシウド	*Angelica pubescens* var. *pubescens*		●
1413		ツボクサ	*Centella asiatica*		●
1414		ドクゼリ	*Cicuta virosa*		●
1415		ミツバ	*Cryptotaenia japonica*		●
1416		マツバゼリ	*Cyclospermum leptophyllum*		●
1417		セリ	*Oenanthe javanica* ssp. *javanica*		●
1418		ヤブニンジン	*Osmorhiza aristata* var. *aristata*		●
1419		ウマノミツバ	*Sanicula chinensis*		●
1420		ムカゴニンジン	*Sium ninsi*		●
1421		ヤブジラミ	*Torilis japonica*		●
1422		オヤブジラミ	*Torilis scabra*		●
1423	ガマズミ科	ソクズ	*Sambucus chinensis* var. *chinensis*		●
1424		ニワトコ	*Sambucus racemosa* ssp. *sieboldiana* var. *sieboldiana*		●
1425		ガマズミ	*Viburnum dilatatum*		●
1426		コバノガマズミ	*Viburnum erosum*		●
1427		オオカメノキ	*Viburnum furcatum*		●
1428		サンゴジュ	*Viburnum odoratissimum* var. *awabuki*		●
1429		オトコヨウゾメ	*Viburnum phlebotrichum*		●
1430		ヤブデマリ	*Viburnum plicatum* var. *tomentosum*		●
1431		ゴマキ	*Viburnum sieboldii* var. *sieboldii*		●
1432		ミヤマガマズミ	*Viburnum wrightii* var. *wrightii*		●
1433	スイカズラ科	コツクバネウツギ	*Abelia serrata* var. *serrata*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-2（39）　確認種一覧（維管束植物）

番号	科和名	種和名	学名	文献番号	
				①	②
1434	スイカズラ科	ツクバネウツギ	*Abelia spathulata* var. *spathulata*		●
1435		ウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glabra*		●
1436		ミヤマウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glandulosa*		●
1437		ヤマウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *gracilipes*		●
1438		スイカズラ	*Lonicera japonica*		●
1439		ヤマヒョウタンボク	*Lonicera mochidzukiana* var. *nomurana*		●
1440		オミナエシ	*Patrinia scabiosifolia*		●
1441		オトコエシ	*Patrinia villosa*		●
1442		ニシキウツギ	*Weigela decora*		●
1443		タニウツギ	*Weigela hortensis*		●
計	167 科	1442 種		186 種	1326 種

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3 (1)　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
1	蘚苔類	ミズゴケ目	ミズゴケ科	ハリミズゴケ	*Sphagnum cuspidatum Ehrh. ex Hoffm.*	●	
2				オオミズゴケ	*Sphagnum palustre*	●	●
3				イボミズゴケ	*Sphagnum papillosum Lindb.*	●	
4				ミズゴケ属	*Sphagnum* sp.		●
5		キセルゴケ目	キセルゴケ科	イクビゴケ	*Diphyscium fulvifolium*		●
6				クマノゴケ	*Diphyscium lorifolium (Cardot) Magonbo (Syn. Theriotia lorifolia Cardot)*	●	
7		スギゴケ目	スギゴケ科	ヒメタチゴケ	*Atrichum rhystophyllum*		●
8				ナミガタタチゴケ	*Atrichum undulatum*		●
9				ホウライスギゴケ	*Pogonatum cirratum*		●
10				コスギゴケ	*Pogonatum inflexum*		●
11				ウマスギゴケ	*Polytrichum commune*		●
12		ホウオウゴケ目	ホウオウゴケ科	コホウオウゴケ	*Fissidens adelphinus*		●
13				トサカホウオウゴケ	*Fissidens dubius*		●
14				ガーベルホウオウゴケ	*Fissidens gardneri*		●
15				ナガサキホウオウゴケ	*Fissidens geminiflorus*		●
16				ヒメホウオウゴケ	*Fissidens gymnogynus*		●
17				ホウオウゴケ	*Fissidens nobilis*		●
18				キャラボクゴケ	*Fissidens taxifolius*		●
19				チャボホウオウゴケ	*Fissidens tosaensis*		●
20		シッポゴケ目	キンシゴケ科	ヤノウエノアカゴケ	*Ceratodon purpureus*		●
21				キンシゴケ	*Ditrichum pallidum*		●
22			シッポゴケ科	シシゴケ	*Brothera leana*		●
23				ヤマトフデゴケ	*Campylopus japonicus*		●
24				フデゴケ	*Campylopus umbellatus*		●
25				ホウライオバナゴケ	*Dicranella coarctata*		●
26				ススキゴケ	*Dicranella heteromalla*		●
27				ヒロハススキゴケ	*Dicranella palustris*		●
28				カギカモジゴケ	*Dicranum hamulosum*		●
29				シッポゴケ	*Dicranum japonicum*		●
30				カモジゴケ	*Dicranum scoparium*		●
31				チヂミバコブゴケ	*Oncophorus crispifolius*		●
32				ユミダイゴケ	*Trematodon longicollis*		●
33				アラハシラガゴケ	*Leucobryum bowringii*		●
34				ホソバオキナゴケ	*Leucobryum juniperoideum*		●
35				オオシラガゴケ	*Leucobryum scabrum*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（2）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
36	蘚苔類	センボンゴケ目	センボンゴケ科	ネジクチゴケ	*Barbula unguiculata*		●
37				ハマキゴケ	*Hyophila propagulifera*		●
38				ツチノウエノコゴケ	*Weissia controversa*		●
39				ツチノウエノタマゴケ	*Weissia crispa*		●
40				ホソコゴケモドキ	*Weisiopsis anomala*		●
41		ギボウシゴケ目	ギボウシゴケ科	ケギボウシゴケ	*Grimmia pilifera*		●
42				ハチヂレゴケ	*Ptychomitrium dentatum*		●
43				ナガバチヂレゴケ	*Ptychomitrium linearifolium*		●
44				シナチヂレゴケ	*Ptychomitrium gardneri*		●
45				コバノスナゴケ	*Racomitrium barbuloides*		●
46				スナゴケ	*Racomitrium canescens ssp. latifolium*		●
47				ナガエノスナゴケ	*Racomitrium fasciculare var. atroviride*		●
48				エゾスナゴケ	*Racomitrium japonicum*		●
49				トカチスナゴケ	*Racomitrium laetum*		●
50				ホソバギボウシゴケ	*Schistidium strictum*		●
51			ヒナノハイゴケ科	サヤゴケ	*Glyphomitrium humillimum*		●
52				クチベニゴケ	*Venturiella sinensis*		●
53		ヒョウタンゴケ目	ヒョウタンゴケ科	ヒョウタンゴケ	*Funaria hygrometrica*		●
54				ヒロクチゴケ	*Physcomitrium eurystomum*		●
55				アゼゴケ	*Physcomitrium sphaericum*		●
56		ホンマゴケ目	ハリガネゴケ科	ホソウリゴケ	*Brachymenium exile*		●
57				エゾハリガネゴケ	*Bryum arcticum*		●
58				ギンゴケ	*Bryum argenteum*		●
59				ハリガネゴケ	*Bryum capillare*		●
60				オオハリガネゴケ	*Bryum pseudotriquetrum*		●
61				ケヘチマゴケ	*Pohlia flexuosa*		●
62				オオカサゴケ	*Rhodobryum giganteum*		●
63			チョウチンゴケ科	ナメリチョウチンゴケ	*Mnium laevinerve*		●
64				コツボゴケ	*Plagiomnium acutum*		●
65				ツボゴケ	*Plagiomnium cuspidatum*		●
66				ツルチョウチンゴケ	*Plagiomnium maximoviczii*		●
67				ケチョウチンゴケ	*Rhizomnium tuomikoskii*		●
68				コバノチョウチンゴケ	*Trachycystis microphylla*		●
69			ヒノキゴケ科	ヒノキゴケ	*Pyrrhobryum dozyanum*		●
70				ヒロハヒノキゴケ	*Pyrrhobryum latifolium*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3 (3)　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
71	蘚苔類	ホンマゴケ目	タマゴケ科	オオタマゴケ	*Bartramia pomiformis*		●
72				カマサワゴケ	*Philonotis falcata*		●
73				オオサワゴケ	*Philonotis turneriana*		●
74				エゾサワゴケ	*Philonotis yezoana*		●
75		タチヒダゴケ目	タチヒダゴケ科	キブネゴケ	*Rachithecium nipponicum (Toyama) Wijk et Margad.*	●	
76				ミノゴケ属	*Macromitrium sp.*		●
77				タチヒダゴケ	*Orthotrichum consobrinum*		●
78				コゴメタチヒダゴケ	*Orthotrichum fortunatii*		●
79		イヌマゴケ目	カワゴケ科	コシノヤバネゴケ	*Dichelyma japonicum*		●
80			イトヒバゴケ科	ヒメスズゴケ	*Forsstroemia cryphaeoides*		●
81			ヒムロゴケ科	オオキヌタゴケ	*Oedicladium serricuspe*		●
82			ハイヒモゴケ科	キヌヒバゴケ	*Barbella cubensis*		●
83				キヨスミイトゴケ	*Barbella flagellifera*		●
84				イトゴケ	*Barbella pendula*		●
85				ヒロハシノブイトゴケ	*Floribundaria aurea ssp. nipponica*		●
86				コハイヒモゴケ	*Meteorium buchananii ssp. helminthocladulum*		●
87			ヒラゴケ科	チャボヒラゴケ	*Neckera humilis*		●
88				リボンゴケ	*Neckeropsis nitidula*		●
89			オオトラノオゴケ科	オオトラノオゴケ	*Thamnobryum subseriatum*		●
90		アブラゴケ目	アブラゴケ科	イバラゴケ	*Calyptrochaeta japonica*		●
91				リュウキュウアブラゴケ	*Hookeria acutifolia*		●
92			クジャクゴケ科	コキジノオゴケ	*Cyathophorum hookerianum (Griff.) Mitt. (Syn. Cyathophorella hookeriana (Griff.) M.Fleisch.*	●	
93				クジャクゴケ	*Hypopterygium fauriei*		●
94		シトネゴケ目	コゴメゴケ科	コゴメゴケ	*Fabronia matsumurae*		●
95				キノウエノケゴケ	*Schwetschkea matsumurae*		●
96			シノブゴケ科	チャボスズゴケ	*Boulaya mittenii*		●
97				コメバキヌゴケ	*Haplocladium microphyllum*		●
98				イワイトゴケモドキ	*Haplohymenium sieboldii*		●
99				イワイトゴケ	*Haplohymenium triste*		●
100				ラセンゴケ	*Herpetineuron toccoae*		●
101				ヒメシノブゴケ	*Thuidium cymbifolium*		●
102				トヤマシノブゴケ	*Thuidium kanedae Sak.*		●
103				コバノエゾシノブゴケ	*Thuidium recognitum var. delicatulum*		●
104				オオシノブゴケ	*Thuidium tamariscinum*		●
105			アオギヌゴケ科	ナガヒツジゴケ	*Brachythecium buchananii*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（4）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
106	蘚苔類	シトネゴケ目	アオギヌゴケ科	ヒツジゴケ	*Brachythecium moriense*		●
107				ハネヒツジゴケ	*Brachythecium plumosum*		●
108				アオギヌゴケ属	*Brachythecium sp.*		●
109				ヤノネゴケ	*Bryhnia novae-angliae*		●
110				ツクシナギゴケモドキ	*Eurhynchium hians*		●
111				コカヤゴケ	*Rhynchostegium pallidifolium*		●
112			ツヤゴケ科	ヒロツヤゴケ	*Entodon challengeri*		●
113				エダツヤゴケ	*Entodon rubicundus*		●
114			サナダゴケ科	ジョウロウイチイゴケ	*Plagiothecium euryphyllum*		●
115				ミヤマサナダゴケ	*Plagiothecium nemorale*		●
116			ナガハシゴケ科	カガミゴケ	*Brotherella henonii*		●
117				コモチイトゴケ	*Pylaisiadelpha tenuirostris*		●
118				ナガハシゴケ	*Sematophyllum subhumile ssp. japonicum*		●
119			ハイゴケ科	クサゴケ	*Callicladium haldanianum*		●
120				ミヤマハイゴケ	*Eurohypnum leptothallum*		●
121				ヒメハイゴケ	*Hypnum oldhamii*		●
122				ハイゴケ	*Hypnum plumaeforme*		●
123				アカイチイゴケ	*Pseudotaxiphyllum pohliaecarpum*		●
124				コウライイチイゴケ	*Taxiphyllum alternans*		●
125				キャラハゴケ	*Taxiphyllum taxirameum*		●
126			イワダレゴケ科	フトリュウビゴケ	*Loeskeobryum cavifolium*		●
127		ウスバゼニゴケ目	フトゴケ科	ウスバゼニゴケ	*Kurzia makinoana*		●
128		ゼニゴケ目	ムチゴケ科	トサノゼニゴケ	*Bazzania pompeana*		●
129				ヤワラゼニゴケ	*Lepidozia vitrea*		●
130			ゼニゴケ科	ゼニゴケ	*Marchantia polymorpha subsp. ruderalis*		●
131			ジンガサゴケ科	ジンガサゴケ	*Reboulia hemisphaerica subsp. orientalis*		●
132			ジャゴケ科	ジャゴケ	*Conocephalum conicum*		●
133				ヒメジャゴケ	*Conocephalum japonicum*		●
134			ウキゴケ科	ハタケゴケ	*Riccia bifurca*		●
135				ウキゴケ	*Riccia fluitans L.*	●	
136				コハタケゴケ	*Riccia huebeneriana*		●
137				ミヤケハタケゴケ	*Riccia miyakeana*		●
138			ミゾゴケ科	イチョウウキゴケ	*Nardia assamica*	●	●
139			ケゼニゴケ科	ケゼニゴケ	*Dumortiera hirsuta subsp. hirsuta*		●
140		ミズゼニゴケ目	ムチゴケ科	ホソバミズゼニゴケ	*Bazzania pompeana*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3 (5)　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
141	蘚苔類	ウロコゼニゴケ目	ムチゴケ科	ミヤマミズゼニゴケ	*Bazzania tridens*		●
142		クモノスゴケ目		クモノスゴケ	*Lepidozia vitrea*		●
143		フタマタゴケ目	ヒシャクゴケ科	ヤマトフタマタゴケ	*Diplophyllum serrulatum*		●
144			ミゾゴケ科	コモチフタマタゴケ	*Nardia assamica*		●
145			スジゴケ科	ミズゼニゴケモドキ	*Aneura maxima*		●
146		ツボミゴケ目	クラマゴケモドキ科	チヂミカヤゴケ	*Porella ulophylla*		●
147			ヤスデゴケ科	カギヤスデゴケ	*Frullania hamatiloba*		●
148				カラヤスデゴケ	*Frullania muscicola*		●
149				サカワヤスデゴケ	*Frullania sackawana Steph.*	●	
150				シダレヤスデゴケ	*Frullania moniliata*		●
151			ヒメウルシゴケ科	ヒメウルシゴケ	*Jubula hutchinsiae*		●
152			クサリゴケ科	ヒメミノリゴケ	*Acrolejeunea pusilla*		●
153				ヤマトヨウジョウゴケ	*Cololejeunea japonica*		●
154				マルバヒメクサリゴケ	*Myriocoleopsis minutissima (Sm.) R.L. Zhu, Y.Yu et Pócs*	●	
155				ナガシタバヨウジョウゴケ	*Cololejeunea raduliloba*		●
156				ウニバヨウジョウゴケ	*Cololejeunea spinosa (Horik.) Pande et Misra*	●	
157				ヨウジョウゴケ	*Cololejeunea trichomanis*		●
158				ヤマトコミミゴケ	*Lejeunea japonica*		●
159				カビゴケ	*Leptolejeunea elliptica*	●	●
160				フルノコゴケ	*Acrolejeunea sandvicensis*		●
161			ムチゴケ科	ヤマトムチゴケ	*Bazzania japonica*		●
162				ムチゴケ	*Bazzania pompeana*		●
163				コムチゴケ	*Bazzania tridens*		●
164				コスギバゴケ	*Kurzia makinoana*		●
165				スギバゴケ	*Lepidozia vitrea*		●
166			ウロコゴケ科	ヒメトサカゴケ	*Lophocolea minor*		●
167				トサカゴケ	*Lophocolea heterophylla*		●
168				オオウロコゴケ	*Heteroscyphus coalitus*		●
169				ツクシウロコゴケ	*Heteroscyphus planus*		●
170			ハネゴケ科	コハネゴケ	*Plagiochila sciophila*		●
171			ヒシャクゴケ科	ノコギリコオイゴケ	*Diplophyllum serrulatum*		●
172				チャボヒシャクゴケ	*Scapania stephanii*		●
173				チャボホラゴケモドキ	*Diplophyllum serrulatum*		●
174			ミゾゴケ科	トサホラゴケモドキ	*Nardia assamica*		●
175				アカウロコゴケ	*Nardia assamica*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（6）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
176	地衣類	レカノラ目	ウメノキゴケ科	ウメノキゴケ	*Parmotrema tinctorum*		●
177			チャシブゴケ科	チャシブゴケ属	*Lecanora sp.*		●
178				チャザクロゴケ	*Loxospora ochrophaea*		●
179			ハナゴケ科	ハナゴケ	*Cladonia rangiferina*		●
180				ワラハナゴケ	*Cladonia arbuscula subsp. beringiana*		●
181				トゲシバリ	*Cladia aggregata*		●
182	キノコ類	ハラタケ目	ハラタケ科	ウスキモリノカサ	*Agaricus abruptibulbus*		●
183				シロオオハラタケ	*Agaricus arvensis*		●
184				ナカグロモリノカサ	*Agaricus moelleri*		●
185				ハラタケモドキ	*Agaricus placomyces*		●
186				ザラエノハラタケ	*Agaricus subrutilescens*		●
187				ノウタケ	*Calvatia craniiformis*		●
188				ササクレヒトヨタケ	*Coprinus comatus*		●
189				シワカラカサモドキ	*Cystoderma neoamianthinum*		●
190				チャヒメオニタケ	*Cystodermella cinnabarina*		●
191				ヒメオニタケ	*Cystodermella granulosa*		●
192				オニタケ（川村）	*Echinoderma asperum*		●
193				ナカグロキツネノカラカサ	*Lepiota atrosquamulosa*		●
194				クリイロカラカサタケ	*Lepiota castanea*		●
195				ワタカラカサタケ	*Lepiota magnispora*		●
196				ナカグロヒメカラカサタケ	*Lepiota praetervisa*		●
197				キヒダカラカサモドキ	*Lepiota xanthophylla*		●
198				アカキツネガサ	*Leucoagaricus rubrotinctus*		●
199				シロヒメカラカサタケ	*Leucocoprinus cygneus*		●
200				キツネノハナガサ	*Leucocoprinus fragilissimus*		●
201				ホコリタケ	*Lycoperdon perlatum*		●
202				コガネタケ	*Phaeolepiota aurea*		●
203			テングタケ科	キウロコテングタケ	*Amanita alboflavescens*		●
204				アケボノドクツルタケ（Amanita atkinsoniana）	*Amanita atkinsoniana*		●
205				アクイロウロコツルタケ	*Amanita avellaneosquamosa*		●
206				タマゴタケ	*Amanita caesareoides*		●
207				コシロオニタケ	*Amanita castanopsidis*		●
208				テングツルタケ	*Amanita ceciliae*		●
209				コタマゴテングタケ	*Amanita citrina*		●
210				クロコタマゴテングタケ	*Amanita citrina var. grisea*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（7）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
211	キノコ類	ハラタケ目	テングタケ科	シロウロコツルタケ	*Amanita clarisquamosa*		●
212				ササクレシロオニタケ	*Amanita eijii*		●
213				ドウシンタケ	*Amanita esculenta*		●
214				キリンタケ	*Amanita excelsa*		●
215				ヒメコナカブリツルタケ	*Amanita farinosa*		●
216				コガネテングタケ	*Amanita flavipes*		●
217				クロタマゴテングタケ	*Amanita fuliginea*		●
218				カバイロツルタケ	*Amanita fulva*		●
219				コナカブリテングタケ	*Amanita griseofarinosa*		●
220				シロオニタケモドキ	*Amanita hongoi*		●
221				イボテングタケ	*Amanita ibotengutake*		●
222				ハイイロオニタケ	*Amanita japonica*		●
223				タマゴテングタケモドキ	*Amanita longistriata*		●
224				ヒメコガネツルタケ	*Amanita melleiceps*		●
225				シロテングタケ	*Amanita neoovoidea*		●
226				ニオイドクツルタケ	*Amanita oberwinklerana*		●
227				テングタケ	*Amanita pantherina*		●
228				オニテングタケ	*Amanita perpasta*		●
229				コテングタケ	*Amanita porphyria*		●
230				コテングタケモドキ	*Amanita pseudoporphyria*		●
231				ガンタケ	*Amanita rubescens*		●
232				カバイロコナテングタケ	*Amanita rufoferruginea*		●
233				タマシロオニタケ	*Amanita sphaerobulbosa*		●
234				ヘビキノコモドキ	*Amanita spissacea*		●
235				ツルタケダマシ	*Amanita spreta*		●
236				テングタケダマシ	*Amanita sychnopyramis*		●
237				スオウシロオニタケ	*Amanita timida*		●
238				シロツルタケ	*Amanita vaginata*		●
239				シロタマゴテングタケ	*Amanita verna*		●
240				シロオニタケ	*Amanita virgineoides*		●
241				ドクツルタケ（川村）	*Amanita virosa*		●
242				フクロツルタケ	*Amanita volvata*		●
243				シロテングタケモドキ	*Amanita ZZZ*		●
244				タンチョウツルタケダマシ	*Amanita ZZZ*		●
245				ティラミステングタケ	*Amanita sp.*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（8）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
246	キノコ類	ハラタケ目	オキナタケ科	クロシワオキナタケ	*Bolbitius reticulatus*		●
247				コガサタケ	*Conocybe tenera*		●
248			シロソウメンタケ科	シロヤリタケ	*Clavaria acuta*		●
249				シロソウメンタケ	*Clavaria fragilis*		●
250				サヤナギナタタケ	*Clavaria fumosa*		●
251				ムラサキホウキタケ	*Clavaria zollingeri*		●
252				ナギナタタケ	*Clavulinopsis fusiformis*		●
253				ベニナギナタタケ	*Clavulinopsis miyabeana*		●
254			フウセンタケ科	ウスフジフウセンタケ	*Cortinarius alboviolaceus*		●
255				キンチャフウセンタケ	*Cortinarius aureobrunneus*		●
256				アカツブフウセンタケ	*Cortinarius bolaris*		●
257				サザナミツバフウセンタケ	*Cortinarius bovinus*		●
258				オニフウセンタケ	*Cortinarius nigrosquamosus*		●
259				サザナミニセフウセンタケ	*Cortinarius obtusus*		●
260				アカササタケ	*Cortinarius phoeniceus*		●
261				フウセンタケモドキ	*Cortinarius pseudopurpurascens*		●
262				ヌメリササタケ	*Cortinarius pseudosalor*		●
263				カワムラフウセンタケ	*Cortinarius purpurascens*		●
264				イロガワリフウセンタケ	*Cortinarius rubicundulus*		●
265				ムラサキアブラシメジモドキ	*Cortinarius salor*		●
266				クリフウセンタケ	*Cortinarius tenuipes*		●
267				ムラサキフウセンタケ	*Cortinarius violaceus*		●
268			イッポンシメジ科	ムツノウラベニタケ	*Clitocella popinalis*		●
269				ヒカゲウラベニタケ	*Clitopilus prunulus*		●
270				トガリウラベニタケ	*Entoloma acutoconicum*		●
271				シロイボカサタケ	*Entoloma album*		●
272				コキイロウラベニタケ	*Entoloma atrum*		●
273				ミイノモミウラモドキ	*Entoloma conferendum*		●
274				コンイロイッポンシメジ	*Entoloma cyanonigrum*		●
275				アオエノモミウラタケ	*Entoloma lampropus*		●
276				キイボカサタケ	*Entoloma murrayi*		●
277				ウスキモミウラモドキ	*Entoloma omiense*		●
278				アカイボカサタケ	*Entoloma quadratum*		●
279				クサウラベニタケ	*Entoloma rhodopolium*		●
280				ウラベニホテイシメジ	*Entoloma sarcopus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3 (9)　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
281	キノコ類	ハラタケ目	イッポンシメジ科	キヌモミウラタケ	*Entoloma sericellum*		●
282				イッポンシメジ	*Entoloma sinuatum*		●
283				コムラサキイッポンシメジ	*Entoloma violaceum*		●
284				ソライロタケ	*Entoloma virescens*		●
285				ナガエノウラベニタケ	*Entoloma ZZZ*		●
286			ヒドナンギウム科	ウラムラサキ	*Laccaria amethystina*		●
287				オオキツネタケ	*Laccaria bicolor*		●
288				キツネタケ	*Laccaria laccata*		●
289				カレバキツネタケ	*Laccaria vinaceoavellanea*		●
290			ヌメリガサ科	コオトメノカサ	*Hygrocybe virginea*		●
291				ハダイロガサ	*Cuphophyllus pratensis*		●
292				ナナイロヌメリタケ	*Gliophorus laetus*		●
293				ベニヒガサ	*Hygrocybe cantharellus*		●
294				アカヤマタケ	*Hygrocybe conica*		●
295				アキヤマタケ	*Hygrocybe flavescens*		●
296				ヒイロガサ	*Hygrocybe punicea*		●
297				ヤギタケ	*Hygrophorus camarophyllus*		●
298			ヒメノガステル科	ナガエノスギタケダマシ	*Hebeloma radicosoides*		●
299				ヒメワカフサタケ	*Hebeloma sacchariolens*		●
300			アセタケ科	クリゲノチャヒラタケ	*Crepidotus badiofloccosus*		●
301				チャヒラタケ	*Crepidotus mollis*		●
302				ニセコナカブリ	*Crepidotus cesatii var. subsphaerosporus*		●
303				カブラアセタケ	*Inocybe asterospora*		●
304				キヌハダトマヤタケ	*Inocybe cookei*		●
305				シロトマヤタケ	*Inocybe geophylla*		●
306				カスガトマヤタケ	*Inocybe kasugayamensis*		●
307				キイロアセタケ	*Inocybe lutea*		●
308				シラゲアセタケ	*Inocybe maculata*		●
309				コブアセタケ	*Inocybe nodulosospora*		●
310				キヌハダニセトマヤタケ	*Inocybe trechispora*		●
311				シロニセトマヤタケ＝シロアセタケ	*Inocybe umbratica*		●
312			シメジ科	スミゾメシメジ	*Lyophyllum semitale*		●
313			ホウライタケ科	ニセホウライタケ	*Crinipellis scabella*		●
314				オリーブサカズキタケ	*Gerronema nemorale*		●
315				ヒロヒダタケモドキ	*Hydropus atrialbus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（10）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
316	キノコ類	ハラタケ目	ホウライタケ科	ミヤマオチバタケ	*Marasmius cohaerens*		●
317				ウマノケタケ	*Marasmius crinisequi*		●
318				オオホウライタケ	*Marasmius maximus*		●
319				ハナオチバタケ	*Marasmius pulcherripes*		●
320				スジオチバタケ	*Marasmius purpureostriatus*		●
321				ヒロヒダタケ	*Megacollybia clitocyboidea*		●
322				スギヒラタケ	*Pleurocybella porrigens*		●
323			クヌギタケ科	アカチシオタケ	*Mycena crocata*		●
324				クヌギタケ	*Mycena galericulata*		●
325				チシオタケ	*Mycena haematopus*		●
326				センボンクヌギタケ	*Mycena laevigata*		●
327				アシナガタケ	*Mycena polygramma*		●
328				サクラタケ	*Mycena pura*		●
329				ワサビタケ	*Panellus stipticus*		●
330				ヒメヒカリタケ	*ZZZ*		●
331			ツキヨタケ科	アマタケ	*Gymnopus confluens*		●
332				モリノカレバタケ	*Gymnopus dryophilus*		●
333				ニオイカレバタケ	*Gymnopus iocephalus*		●
334				サカズキホウライタケ	*Gymnopus pacificum*		●
335				ワサビカレバタケ	*Gymnopus peronatus*		●
336				シイタケ	*Lentinula edodes*		●
337				シロホウライタケ	*Marasmiellus candidus*		●
338				ヒノキオチバタケ	*Marasmiellus chamaecyparidis*		●
339				エセオリミキ	*Rhodocollybia butyracea*		●
340				アカチャツエタケ	*Rhodocollybia neofusipes*		●
341				アシグロホウライタケ	*Tetrapyrgos nigripes*		●
342			タマバリタケ科	ナラタケ	*Armillaria mellea subsp. nipponica*		●
343				ナラタケモドキ	*Armillaria tabescens*		●
344				ダイダイガサ	*Cyptotrama asprata*		●
345				エノキタケ	*Flammulina velutipes*		●
346				ツエタケ	*Hymenopellis radicata*		●
347				スギエダタケ	*Strobilurus ohshimae*		●
348				マツカサキノコモドキ	*Strobilurus stephanocystis*		●
349				ビロードツエタケ	*Xerula pudens*		●
350			ヒラタケ科	トキイロヒラタケ	*Pleurotus djamor*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（11）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
351	キノコ類	ハラタケ目	ヒラタケ科	ヒラタケ	*Pleurotus ostreatus*		●
352				ウスヒラタケ	*Pleurotus pulmonarius*		●
353			ウラベニガサ科	クロベニヒダタケ	*Pluteus atrofuscus*		●
354				ウラベニガサ	*Pluteus cervinus*		●
355				ベニヒダタケ（竹橋・糟谷）	*Pluteus leoninus*		●
356				ヒョウモンウラベニガサ	*Pluteus pantherinus*		●
357				キアシベニヒダタケ	*Pluteus romellii*		●
358				ビロードベニヒダタケ	*Pluteus salicinus*		●
359				カサヒダタケ	*Pluteus thomsonii*		●
360				フチドリベニヒダタケ	*Pluteus umbrosus*		●
361				ウラベニガサ属（仮：スジガサベニヒダタケ）	*Pluteus　sp.*		●
362			ナヨタケ科	イヌセンボンタケ	*Coprinellus disseminatus*		●
363				ヒトヨタケ	*Coprinopsis atramentaria*		●
364				ザラミノヒトヨタケモドキ	*Coprinopsis echinospora*		●
365				クロヒメオニタケ	*Cystoagaricus strobilomyces*		●
366				ヒメヒガサヒトヨタケ	*Parasola plicatilis*		●
367				イタチタケ	*Psathyrella candolleana*		●
368				ナヨタケ	*Psathyrella corrugis*		●
369				ハゴロモイタチタケ	*Psathyrella delineata*		●
370				ムササビタケ	*Psathyrella piluliformis*		●
371				ムジナタケ	*Psathyrella velutina*		●
372			フサタケ科	シダレハナビタケ	*Deflexula fascicularis*		●
373				キヒラタケ	*Phyllotopsis nidulans*		●
374				フサタケ	*Pterula subulata*		●
375				サガリハリタケ	*Radulomyces copelandii*		●
376			シジミタケ科	クロゲシジミタケ	*Resupinatus trichotis*		●
377			スエヒロタケ科	スエヒロタケ	*Schizophyllum commune*		●
378			モエギタケ科	ツチナメコ	*Agrocybe erebia*		●
379				ハタケキノコ	*Agrocybe pediades*		●
380				フミヅキタケ	*Agrocybe praecox*		●
381				ミドリスギタケ	*Gymnopilus aeruginosus*		●
382				オオワライタケ	*Gymnopilus junonius*		●
383				チャツムタケ	*Gymnopilus picreus*		●
384				ハグロチャツムタケ	*Gymnopilus　ZZZ*		●
385				ニガクリタケ	*Hypholoma fasciculare*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（12）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
386	キノコ類	ハラタケ目	モエギタケ科	クリタケ	*Hypholoma lateritium*		●
387				ヌメリスギタケ	*Pholiota adiposa*		●
388				ヌメリスギタケモドキ	*Pholiota cerifera*		●
389				センボンイチメガサ	*Pholiota mutabilis*		●
390				スギタケ	*Pholiota squarrosa*		●
391				ヒメスギタケ（川村）	*Pholiota squarrosa var. verruculosa*		●
392				ツチスギタケモドキ	*Pholiota ZZZ*		●
393				ヒカゲシビレタケ	*Psilocybe argentipes*		●
394				モエギタケ	*Stropharia aeruginosa*		●
395			キシメジ科	ヒメキシメジ	*Callistosporium luteoolivaceum*		●
396				コカブイヌシメジ	*Clitocybe fragrans*		●
397				ハイイロシメジ	*Clitocybe nebularis*		●
398				アオイヌシメジ	*Clitocybe odora*		●
399				ムラサキシメジ	*Lepista nuda*		●
400				コムラサキシメジ	*Lepista sordida*		●
401				シロヒメカヤタケ	*Leucocybe candicans*		●
402				オオイチョウタケ	*Leucopaxillus giganteus*		●
403				カブラマツタケ	*Squamanita umbonata*		●
404				シモコシ	*Tricholoma auratum*		●
405				キシメジ	*Tricholoma flavovirens*		●
406				キヒダマツシメジ	*Tricholoma fulvum*		●
407				シロシメジ	*Tricholoma japonicum*		●
408				マツタケ	*Tricholoma matsutake*		●
409				ハエトリシメジ	*Tricholoma muscarium*		●
410				ミドリシメジ	*Tricholoma saponaceum*		●
411				ミネシメジ	*Tricholoma saponaceum var. squamosum*		●
412				ニオイキシメジ	*Tricholoma sulphureum*		●
413				カキシメジ	*Tricholoma ustale*		●
414				キヒダシメジ	*Tricholoma ZZZ*		●
415				サマツモドキ	*Tricholomopsis rutilans*		●
416			ガマノホタケ科	クロサカズキシメジ	*Pseudoclitocybe cyathiformis*		●
417				ヒメカバイロタケ	*Xeromphalina campanella*		●
418				キチャホウライタケ	*Xeromphalina cauticinalis*		●
419		イグチ目	イグチ科	ヌメリコウジタケ	*Aureoboletus auriporus*		●
420				ヤシャイグチ	*Austroboletus fusisporus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（13）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
421	キノコ類	イグチ目	イグチ科	クリカワヤシャイグチ	*Austroboletus gracilis*		●
422				アヤメイグチ	*Boletellus chrysenteroides*		●
423				アシナガイグチ	*Boletellus elatus*		●
424				キクバナイグチ	*Boletellus floriformis*		●
425				ミヤマベニイグチ	*Boletellus obscurococcineus*		●
426				セイタカイグチ	*Boletellus russellii*		●
427				ヒメコウジタケ	*Boletus aokii*		●
428				コガネヤマドリ	*Boletus aurantiosplendens*		●
429				ヤマドリタケ	*Boletus edulis*		●
430				コウジタケ（川村）	*Boletus fraternus*		●
431				クロアザアワタケ	*Boletus nigromaculatus*		●
432				ミヤマアワタケ	*Boletus obscurebrunneus*		●
433				オオコゲチャイグチ	*Boletus obscureumbrinus*		●
434				ニセアシベニイグチ	*Boletus pseudocalopus*		●
435				イロガワリ	*Cyanoboletus pulverulentus*		●
436				ナガエノウラベニイグチ	*Boletus quercinus*		●
437				ヤマドリタケモドキ	*Boletus reticulatus*		●
438				サザナミイグチ	*Boletus subcinnamomeus*		●
439				アワタケ	*Boletus subtomentosus*		●
440				アメリカウラベニイロガワリ	*Boletus subvelutipes*		●
441				ムラサキヤマドリタケ	*Boletus violaceofuscus*		●
442				ニッケイアミアシイグチ	*Boletus ZZZ*		●
443				フリルイグチ	*Boletus ZZZ*		●
444				コショウイグチ	*Chalciporus piperatus*		●
445				ダイダイイグチ	*Crocinoboletus laetissimus*		●
446				アケボノアワタケ	*Harrya chromapes*		●
447				ベニイグチ	*Heimioporus japonicus*		●
448				ジャガイモタケ	*Heliogaster columellifer*		●
449				シワチャヤマイグチ	*Hemileccinum hortonii*		●
450				アカヤマドリ	*Leccinum extremiorientale*		●
451				イロガワリヤマイグチ	*Leccinum intusrubens*		●
452				シロヤマイグチ	*Leccinum niveum*		●
453				スミゾメヤマイグチ	*Leccinum pseudoscabrum*		●
454				ヤマイグチ	*Leccinum scabrum*		●
455				キンチャヤマイグチ	*Leccinum versipelle*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（14）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
456	キノコ類	イグチ目	イグチ科	コゲチャヤマイグチ	*Leccinum ZZZ*		●
457				Octaviania sp. = Orihara&al2012:104	*Octaviania ZZZ*		●
458				キヒダタケ（今関・本郷）	*Phylloporus bellus*		●
459				イロガワリキヒダタケ	*Phylloporus bellus var. cyanescens*		●
460				ホオベニシロアシイグチ	*Pseudoaustroboletus valens*		●
461				ハナガサイグチ	*Pulveroboletus auriflammeus*		●
462				キイロイグチ	*Pulveroboletus ravenelii*		●
463				ヒメウグイスイグチ	*Pulveroboletus viridis*		●
464				クロアワタケ	*Retiboletus griseus*		●
465				オオミノクロアワタケ	*Retiboletus griseus var. fuscus*		●
466				モエギアミアシイグチ	*Retiboletus nigerrimus*		●
467				キアミアシイグチ	*Retiboletus ornatipes*		●
468				アオゾメクロツブタケ	*Rossbeevera eucyanea*		●
469				ネズミツチダマタケ	*Rossbeevera griseovelutina*		●
470				オニイグチモドキ	*Strobilomyces confusus*		●
471				オニイグチ	*Strobilomyces strobilaceus*		●
472				ウラグロニガイグチ	*Sutorius eximius*		●
473				ヒメアワタケ	*Xerocomus parvulus*		●
474				ウスベニタマタケ	*Turmalinea castanopsis*		●
475				ウスキニガイグチ	*Tylopilus alkalixanthus*		●
476				フモトニガイグチ	*Tylopilus alutaceoumbrinus*		●
477				アシボソニガイグチ	*Tylopilus argillaceus*		●
478				キニガイグチ	*Tylopilus balloui*		●
479				ヌメリニガイグチ	*Tylopilus castaneiceps*		●
480				クリイロニガイグチ（高橋）	*Tylopilus castanoides*		●
481				チャニガイグチ	*Tylopilus ferrugineus*		●
482				ニガイグチモドキ	*Tylopilus neofelleus*		●
483				コビチャニガイグチ	*Tylopilus otsuensis*		●
484				オクヤマニガイグチ	*Tylopilus rigens*		●
485				ブドウニガイグチ	*Tylopilus vinosobrunneus*		●
486				ミドリニガイグチ	*Tylopilus virens*		●
487				ミカワクロアミアシイグチ	*Tylopilus ZZZ*		●
488				ウツロイイグチ	*Xanthoconium affine*		●
489				キッコウアワタケ	*Xerocomellus chrysenteron*		●
490			クチベニタケ科	クチベニタケ	*Calostoma japonica*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（15）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
491	キノコ類	イグチ目	ディプロシスティス科	ツチグリ	*Astraeus hygrometricus*		●
492				コツチグリ	*Astraeus koreanus*		●
493			オウギタケ科	クギタケ	*Chroogomphus rutilus*		●
494				オウギタケ	*Gomphidius roseus*		●
495			クリイロイグチ科	クリイロイグチ	*Gyroporus castaneus*		●
496				クリイロイグチモドキ	*Gyroporus longicystidiatus*		●
497				ビロードクリイロイグチ	*Gyroporus punctatus*		●
498			ヒダハタケ科	ヒダハタケ	*Paxillus involutus*		●
499			ショウロ科	オオショウロ	*Rhizopogon nigrescens*		●
500				アカショウロ	*Rhizopogon succosus*		●
501			ニセショウロ科	ヒメカタショウロ	*Scleroderma areolatum*		●
502				ニセショウロ	*Scleroderma citrinum*		●
503				ウスキニセショウロ	*Scleroderma flavidum*		●
504			ヌメリイグチ科	アミタケ	*Suillus bovinus*		●
505				チチアワタケ	*Suillus granulatus*		●
506				ヌメリイグチ	*Suillus luteus*		●
507			イチョウタケ科	サケバタケ	*Pseudomerulius curtisii*		●
508				ニワタケ	*Tapinella atrotomentosa*		●
509		ヒメツチグリ目	ヒメツチグリ科	シロツチガキ	*Geastrum fimbriatum*		●
510				ヒナツチガキ	*Geastrum mirabile*		●
511				フクロツチガキ	*Geastrum saccatum*		●
512				エリマキツチグリ	*Geastrum triplex*		●
513		ラッパタケ目	ラッパタケ科	キホウキタケ	*Ramaria flava*		●
514		ヒステランギウム目	ファルロガステル科	シラタマタケ	*Protubera nipponica*		●
515		スッポンタケ目	アカカゴタケ科	カゴタケ	*Ileodictyon gracile*		●
516			スッポンタケ科	キツネノエフデ	*Mutinus bambusinus*		●
517				スッポンタケ	*Phallus impudicus*		●
518		キクラゲ目	キクラゲ科	キクラゲ	*Auricularia auricula-judae*		●
519				シロキクラゲ（小林）	*Auricularia auricula*		●
520				アラゲキクラゲ	*Auricularia polytricha*		●
521				ヒメキクラゲ	*Exidia glandulosa*		●
522				タマキクラゲ	*Exidia uvapassa*		●
523		アンズタケ目	アンズタケ科	アンズタケ	*Cantharellus cibarius*		●
524				ベニウスタケ	*Cantharellus cinnabarinus*		●
525				トキイロラッパタケ	*Cantharellus luteocomus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（16）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
526	キノコ類	アンズタケ目	アンズタケ科	ヒナアンズタケ	*Cantharellus minor*		●
527				クロラッパタケ	*Craterellus cornucopioides*		●
528				ミキイロウスタケ	*Craterellus tubaeformis*		●
529			カレエダタケ科	カレエダタケ	*Clavulina coralloides*		●
530				カレエダタケモドキ	*Clavulina rugosa*		●
531			カノシタ科	ヒメハリタケ（安田）	*Hydnum albidum*		●
532				カノシタ	*Hydnum repandum*		●
533				シロカノシタ	*Hydnum repandum var. album*		●
534		コウヤクタケ目	コウヤクタケ科	スミレウロコタケ	*Corticium roseocarneum*		●
535				ケシワウロコタケ	*Punctularia strigosozonata*		●
536		キカイガラタケ目	キカイガラタケ科	キカイガラタケ	*Gloeophyllum sepiarium*		●
537				マツオウジ	*Neolentinus lepideus*		●
538		タバコウロコタケ目	タバコウロコタケ科	ニッケイタケ	*Coltricia cinnamomea*		●
539				ヒメオツネンタケ	*Coltriciella pusilla*		●
540				ネンドタケ	*Fuscoporia gilva*		●
541				ネンドタケモドキ	*Fuscoporia setifera*		●
542				ダイダイタケ	*Hymenochaete xerantica*		●
543				カワウソタケ	*Inonotus mikadoi*		●
544				アズマタケ	*Onnia vallata*		●
545			ヒナノヒガサ科	ヒナノヒガサ	*Rickenella fibula*		●
546			アナタケ科	アナタケ	*Schizopora flavipora*		●
547		タマチョレイタケ目	ツガサルノコシカケ科	ヒメシロアミタケ	*Antrodia albida*		●
548				ホウロクタケ	*Daedalea dickinsii*		●
549				マルミノホウロクタケ	*Daedalea ZZZ*		●
550				ツガサルノコシカケ	*Fomitopsis pinicola*		●
551				アオゾメタケ	*Postia caesia*		●
552				シミタケ	*Postia fragilis*		●
553				ブクリョウ	*Wolfiporia extensa*		●
554			シワタケ科	ヤケイロタケ	*Bjerkandera adusta*		●
555				マイタケ	*Grifola frondosa*		●
556				シワタケ	*Phlebia tremellosa*		●
557				アラゲニクハリタケ	*Steccherinum rhois*		●
558				ハナウロコタケ	*Stereopsis burtiana*		●
559			マクカワタケ科	シックイタケ	*Antrodiella gypsea*		●
560				アセハリタケ	*Climacodon pulcherrimus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（17）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
561	キノコ類	タマチョレイタケ目	マクカワタケ科	ヒイロハリタケ	*Hydnophlebia chrysorhiza*		●
562				オリーブウロコタケ	*Porostereum spadiceum*		●
563			タマチョレイタケ科	ホウネンタケ	*Abundisporus pubertatis*		●
564				ニクウスバタケ	*Cerrena consors*		●
565				ミダレアミタケ	*Cerrena unicolor*		●
566				ヒトクチタケ	*Cryptoporus volvatus*		●
567				ミイロアミタケ	*Daedaleopsis purpurea*		●
568				エゴノキタケ	*Daedaleopsis styracina*		●
569				チャカイガラタケ	*Daedaleopsis tricolor*		●
570				コフキサルノコシカケ	*Ganoderma applanatum*		●
571				オオミノコフキタケ	*Ganoderma australe*		●
572				マンネンタケ	*Ganoderma sichuanense*		●
573				カイガラタケ	*Lenzites betulinus*		●
574				ウチワタケ	*Microporus affinis*		●
575				ツヤウチワタケ	*Microporus vernicipes*		●
576				ハチノスタケ	*Neofavolus alveolaris*		●
577				ブドウタケ	*Nigroporus vinosus*		●
578				ベッコウタケ	*Perenniporia fraxinea*		●
579				サワフタギタケ	*Perenniporia minutissima*		●
580				ウズラタケ	*Perenniporia ochroleuca*		●
581				アミスギタケ	*Polyporus arcularius*		●
582				アシグロタケ	*Polyporus badius*		●
583				キアシグロタケ	*Polyporus varius*		●
584				ヒイロタケ	*Pycnoporus coccineus*		●
585				アラゲカワラタケ	*Trametes hirsuta*		●
586				クジラタケ	*Trametes orientalis*		●
587				カワラタケ	*Trametes versicolor*		●
588				ハカワラタケ	*Trichaptum biforme*		●
589				ウスバシハイタケ	*Trichaptum fuscoviolaceum*		●
590				オシロイタケ	*Tyromyces chioneus*		●
591		ベニタケ目	マツカサタケ科	フサヒメホウキタケ	*Artomyces pyxidatus*		●
592			ベニタケ科	アカハツ	*Lactarius akahatsu*		●
593				モチゲチチタケ	*Lactarius brunnescnes*		●
594				ニセヒメチチタケ	*Lactarius camphoratus*		●
595				キチチタケ	*Lactarius chrysorrheus*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（18）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
596	キノコ類	ベニタケ目	ベニタケ科	ケショウシロハツ	*Lactarius controversus*		●
597				アシボソチチタケ	*Lactarius gracilis*		●
598				ヌメリアカチチタケ	*Lactarius hysginus*		●
599				フチドリクロチチタケ	*Lactarius lignyotus var. marginatus*		●
600				ハツタケ	*Lactarius lividatus*		●
601				チョウジチチタケ	*Lactarius quietus*		●
602				キカラハツタケ	*Lactarius scrobiculatus*		●
603				ヒロハウスズミチチタケ	*Lactarius subplinthogalus*		●
604				ニオイワチチタケ	*Lactarius subzonarius*		●
605				アカアシボソチチタケ	*Lactarius ZZZ*		●
606				トガリヒメチチタケ	*Lactarius ZZZ*		●
607				ヌメリヒメチチタケ	*Lactarius ZZZ*		●
608				ミヤマヒメチチタケ	*Lactarius ZZZ*		●
609				チリメンチチタケ	*Lactifluus corrugis*		●
610				クロチチダマシ	*Lactifluus gerardii*		●
611				ヒロハチチタケ	*Lactifluus hygrophoroides*		●
612				ツチカブリ	*Lactifluus piperatus*		●
613				ツチカブリモドキ	*Lactifluus subpiperatus*		●
614				ケシロハツモドキ	*Lactifluus subvellereus*		●
615				ケシロハツ	*Lactifluus vellereus*		●
616				チチタケ	*Lactifluus volemus*		●
617				トラシマチチタケ	*Multifurca ZZZ*		●
618				クサイロハツ	*Russula aeruginea*		●
619				ヒビワレシロハツ	*Russula alboareolata*		●
620				ニシキタケ	*Russula aurea*		●
621				ニオイコベニタケ	*Russula bella*		●
622				カレバハツ	*Russula castanopsidis*		●
623				アカカバイロタケ	*Russula compacta*		●
624				ヤブレキチャハツ	*Russula crustosa*		●
625				カワリハツ	*Russula cyanoxantha*		●
626				シロハツ	*Russula delica*		●
627				クロハツモドキ	*Russula densifolia*		●
628				ツギハギハツ	*Russula eburneoareolata*		●
629				ドクベニタケ	*Russula emetica*		●
630				ウコンハツ	*Russula flavida*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（19）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
631	キノコ類	ベニタケ目	ベニタケ科	クサハツ	*Russula foetens*		●
632				クサハツモドキ	*Russula grata*		●
633				シロハツモドキ	*Russula japonica*		●
634				ヒナベニタケ	*Russula kansaiensis*		●
635				ヤブレベニタケ	*Russula lepida*		●
636				ウスムラサキハツ	*Russula lilacea*		●
637				イロガワリシロハツ	*Russula metachroa*		●
638				クロハツ	*Russula nigricans*		●
639				カラムラサキハツ	*Russula omiensis*		●
640				ニセクサハツ	*Russula pectinatoides*		●
641				シュイロハツ	*Russula pseudointegra*		●
642				イロガワリベニタケ	*Russula rubescens*		●
643				チシオハツ	*Russula sanguinaria*		●
644				オキナクサハツ	*Russula senis*		●
645				キチャハツ	*Russula sororia*		●
646				ニセクロハツ	*Russula subnigricans*		●
647				チギレハツタケ	*Russula vesca*		●
648				ケショウハツ	*Russula violeipes*		●
649				アイタケ（川村）	*Russula virescens*		●
650				アカハニセクロハツ	*Russula　ZZZ*		●
651				コイシタケ	*Russula　ZZZ*		●
652				チチショウロ	*Zelleromyces scissilis*		●
653		ベニタケ目	ウロコタケ科	チウロコタケ	*Stereum gausapatum*		●
654				キウロコタケ	*Stereum hirsutum*		●
655				チャウロコタケ	*Stereum ostrea*		●
656				モミジウロコタケ	*Stereum spectabile*		●
657		イボタケ目	マツバハリタケ科	チャハリタケ	*Hydnellum concrescens*		●
658				クロハリタケ	*Phellodon niger*		●
659				コウタケ	*Sarcodon aspratus*		●
660				ケロウジ	*Sarcodon scabrosus*		●
661			イボタケ科	ボタンイボタケ	*Thelephora aurantiotincta*		●
662				キブリイボタケ	*Thelephora multipartita*		●
663				モミジタケ	*Thelephora palmata*		●
664				ツブイボタケ	*Thelephora vialis*		●
665		アカキクラゲ目	アカキクラゲ科	ツノフノリタケ	*Calocera cornea*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（20）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
666	キノコ類	アカキクラゲ目	アカキクラゲ科	ハナビラダクリオキン	*Dacrymyces chrysospermus*		●
667				ツノマタタケ	*Dacryopinax spathularia*		●
668		シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	クロハナビラニカワタケ	*Tremella fimbriata*		●
669				ハナビラニカワタケ	*Tremella foliacea*		●
670		ユーロチウム目	ツチダンゴキン科	アミメツチダンゴ	*Melanogaster variegatus*		●
671				Elaphomyces citrinus	*Elaphomyces citrinus*		●
672				Elaphomyces sp.	*Elaphomyces sp.*		●
673		テングノメシガイ目	テングノメシガイ科	カバイロテングノメシガイ	*Geoglossum fallax*		●
674				テングノメシガイ	*Trichoglossum hirsutum*		●
675		ビョウタケ目	ゴムタケ科	ゴムタケ	*Bulgaria inquinans*		●
676			ビョウタケ科	ビョウタケ	*Bisporella citrina*		●
677				モエギビョウタケ	*Bisporella sulfurina*		●
678				ロクショウグサレキンモドキ	*Chlorociboria aeruginascens*		●
679				ロクショウグサレキン	*Chlorociboria aeruginosa*		●
680				ヒメロクショウグサレキン	*Chlorociboria omnivirens*		●
681				ミズベノニセズキンタケ	*Cudoniella clavus*		●
682				クロハナビラタケ	*Ionomidotis frondosa*		●
683				クロムラサキハナビラタケ	*Ionomidotis irregularis*		●
684			ヘミファキディウム科	コケイロサラタケ	*Chlorencoelia versiformis*		●
685			ズキンタケ科	アオズキンタケ	*Leotia chlorocephala*		●
686			キンカクキン科	ツバキキンカクチャワンタケ	*Ciborinia camelliae*		●
687		チャワンタケ目	キチャワンタケ科	キチャワンタケ	*Caloscypha fulgens*		●
688			フクロシトネタケ科	オオシトネタケ	*Discina parma*		●
689				フクロシトネタケ	*Discina perlata*		●
690			ノボリリュウ科	ウラスジチャワンタケ	*Helvella acetabulum*		●
691				クロアシボソノボリリュウ	*Helvella atra*		●
692				アシボソノボリリュウ	*Helvella elastica*		●
693				クラガタノボリリュウ	*Helvella ephippium*		●
694				クロノボリリュウ	*Helvella lacunosa*		●
695				ナガエノチャワンタケ	*Helvella macropus*		●
696			アミガサタケ科	アミガサタケ	*Morchella esculenta*		●
697			ピロネマキン科	ヒイロチャワンタケ	*Aleuria aurantia*		●
698				アラゲコベニチャワンタケ	*Scutellinia scutellata*		●
699				オオゴムタケ	*Trichaleurina tenuispora*		●
700		ニクザキン目	バッカクキン科	Akanthomyces novoguineensis	*Akanthomyces novoguineensis*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（21）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
701	キノコ類	ニクザキン目	バッカクキン科	Aschersonia 属	*Aschersonia sp.*		●
702				クチキムシツブタケ	*Polycephalomyces cuboideus*		●
703				ツブノセミタケ	*Polycephalomyces prolificus*		●
704				マユダマタケ	*Polycephalomyces ZZZ*		●
705			ノムシタケ科	サナギタケ	*Cordyceps militaris*		●
706				ガヤドリナガミノツブタケ	*Cordyceps tuberculata*		●
707				イトヒキミジンアリタケ	*Cordyceps unilateralis*		●
708				Gibellula leiopus	*Gibellula leiopus*		●
709				ギベルラタケ	*Gibellula pulchra*		●
710				コナサナギタケ	*Isaria farinosa*		●
711				ハナサナギタケ	*Isaria japonica*		●
712				クモノエツキツブタケ	*Torrubiella globosostipitata*		●
713			ニクザキン科	オオボタンタケ（今井）	*Hypocrea cerebriformis*		●
714				カエンタケ	*Podostroma cornu-damae*		●
715			オフィオコルディセプス科	オオセミタケ	*Ophiocordyceps heteropoda*		●
716				カメムシタケ	*Ophiocordyceps nutans*		●
717				トガリスズメバチタケ	*Ophiocordyceps oxycephala*		●
718				オイラセクチキムシタケ	*Ophiocordyceps rubiginosoperitheciata*		●
719				キマワリアラゲツトノミタケ	*Ophiocordyceps ZZZ*		●
720				ミヤマタンポタケ	*Tolypocladium intermedium f. michinokuense*		●
721				ヌメリタンポタケ	*Tolypocladium longisegmentum*		●
722				ハナヤスリタケ	*Tolypocladium ophioglossoides*		●
723		クロサイワイタケ目	クロサイワイタケ科	クロコブタケ	*Annulohypoxylon truncatum*		●
724				クロサイワイタケ	*Xylaria hypoxylon*		●
725				マメザヤタケ	*Xylaria polymorpha*		●
726		ヒメカンムリタケ目	ヒメカンムリタケ科	ヒメカンムリタケ	*Neolecta vitellina*		●
727	変形菌類	ツノホコリ目	ツノホコリ科	ツノホコリ	*Ceratiomyxa fruticulosa*		●
728				エダナシツノホコリ	*Ceratiomyxa fruticulosa var. descenfens*		●
729				ナミウチツノホコリ	*Ceratiomyxa fruticulosa var. flexuosa*		●
730				タマツノホコリ	*Ceratiomyxa fruticulosa var. porioides*		●
731			クビナガホコリ科	ダイダイアミホコリ	*Clastoderma aurantiaca*		●
732				クビナガホコリ	*Clastoderma debaryanum*		●
733		コホコリ目	アミホコリ科	フシアミホコリ	*Cribraria intricata*		●
734				サラナシアミホコリ	*Cribraria intricata var. dictydioides*		●
735				アシナガアミホコリ	*Cribraria microcarpa*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（22）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
736	変形菌類	コホコリ目	アミホコリ科	オジギアミホコリ	*Cribraria languescens*		●
737				ヒメアミホコリ	*Cribraria minutissima*		●
738				スミレアミホコリ	*Cribraria violacea*		●
739				クモノスホコリ	*Cribraria cancellata*		●
740				サラクモノスホコリ	*Cribraria cancellata var. fusca*		●
741				フンホコリ	*Lindbladia tubulina*		●
742			ハシラホコリ科	アカハシラホコリ	*Dictydiaethalium plumbeum var. cinnabarinum*		●
743			ドロホコリ科	イクビマメホコリ	*Lycogala conicum*		●
744				マメホコリ	*Lycogala epidendrum*		●
745				コマメホコリ	*Lycogala exiguum*		●
746				コモチクダホコリ	*Tubifera dimorphotheca*		●
747		ケホコリ目	ウツボホコリ科	シロウツボホコリ	*Arcyria cinerea*		●
748				ウツボホコリ	*Arcyria denudata*		●
749				エナガウツボホコリ	*Arcyria margino-undulata*		●
750				キウツボホコリ	*Arcyria obvelata*		●
751				ミドリウツボホコリ	*Arcyria virescens*		●
752				ヨリソイヒモホコリ	*Perichaena depressa*		●
753			ケホコリ科	ホソエノヌカホコリ	*Hemitrichia clavata var. calyculata*		●
754				コヌカホコリ	*Hemitrichia minor*		●
755				ヘビヌカホコリ	*Hemitrichia serpula*		●
756				ヒョウタンケホコリ	*Trichia favoginea*		●
757				トゲケホコリ	*Trichia persimilis*		●
758				キンチャケホコリ	*Trichia scabra*		●
759				フタナワケホコリ	*Trichia varia*		●
760		モジホコリ目	カタホコリ科	タマジクホコリ	*Diachea bulbillosa*		●
761				ジクホコリ	*Diachea leucopodia*		●
762				イボミジクホコリ	*Diachea verrucospora*		●
763				キノウエホネホコリ	*Diderma chondrioderema*		●
764				ホネホコリ	*Diderma effusum*		●
765				バークレイホネホコリ	*Diderma platycarpum*		●
766				アワホネホコリ	*Diderma spumarioides*		●
767				シワホネホコリ	*Diderma rugosum*		●
768				ナバカタホコリ	*Didymium clavus*		●
769				ゴマシオカタホコリ	*Didymium iridis*		●
770				ヒメカタホコリ	*Didymium nigripes*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（23）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
771	変形菌類	モジホコリ目	カタホコリ科	ヘビカタホコリ	*Didymium serpula*		●
772				シロエノカタホコリ	*Didymium squamulosum*		●
773				キラボシカタホコリ	*Didymium leoninum*		●
774				ハイキラボシカタホコリ	*Didymium leoninum var. effusum*		●
775			モジホコリ科	イトミフウセンホコリ	*Badhamia gracilis*		●
776				キサカズキホコリ	*Craterium aureum*		●
777				ツツサカズキホコリ	*Craterium leucocephalum var. cylindricum*		●
778				マルサカズキホコリ	*Craterium leucocephalum var. scyphoides*		●
779				サカズキホコリ	*Craterium minutum*		●
780				ムシホコリ	*Erionema aureum*		●
781				シロススホコリ	*Fuligo candida*		●
782				キフシススホコリ	*Fuligo septica var. flava*		●
783				ガマグチフクロホコリ	*Physarum bivalve*		●
784				ボゴールフクロホコリ	*Physarum bogoriense*		●
785				ハイイロフクロホコリ	*Physarum cinereum*		●
786				キノウエモジホコリ	*Physarum crateriforme*		●
787				キカミモジホコリ	*Physarum flavicomum*		●
788				シロジクモジホコリ	*Physarum globulife*		●
789				シロアシモジホコリ	*Physarum leucopus*		●
790				シロジクキモジホコリ	*Physarum melleum*		●
791				タマモチモジホコリ	*Physarum nucleayum*		●
792				シロモジホコリ	*Physarum nutans*		●
793				コシアカモジホコリ	*Physarum pusillum*		●
794				イタモジホコリ	*Physarum rigidum*		●
795				アカモジホコリ	*Physarum roseum*		●
796				キミミズフクロホコリ	*Physarum superbum*		●
797				アオモジホコリ	*Physarum viride*		●
798				ダイダイモジホコリ	*Physarum viride var. aurantium*		●
799		ムラサキホコリ目	ムラサキホコリ科	ツヤエリホコリ	*Collaria arcyrionema*		●
800				エダウチエリホコリ	*Comatricha lurida*		●
801				アカカミノケホコリ	*Comatricha pulchella*		●
802				フサホコリ	*Enerthenema papillatum*		●
803				ツツスワリホコリ	*Paradiachea cylindrica*		●
804				ヤリミダレホコリ	*Stemonaria longa*		●
805				サビムラサキホコリ	*Stemonitis axifera*		●

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

表 2-3（24）　確認種一覧（蘚苔類・地衣類・キノコ類・変形菌類）

番号	分類	目和名	科和名	種和名	学名	文献番号	
						①	②
806	変形菌類	ムラサキホコリ目	ムラサキホコリ科	スミスムラサキホコリ	*Stemonitis axifera var. smithii*		●
807				ムラサキホコリ	*Stemonitis fusca*		●
808				ホソミムラサキホコリ	*Stemonitis fusca var. rufescens*		●
809				クサムラサキホコリ	*Stemonitis herbatica*		●
810				オオムラサキホコリ	*Stemonitis splendens*		●
811				ハダカコムラサキホコリ	*Stemonitopsis typhina*		●
計	－	50 目	139 科	811 種		12 種	802 種

注）文献番号は、表2-1の番号と対応する。

大気質　冬季　風速・風速測定結果

測定期間　21/01/17（日） ～ 01/23（土）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　地上風速（WS）

単位　m/s

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/01/17（日）	0.6	1.3	0.5	0.8	0.8	0.9	1.5	1.2	3.5	1.7	1.2	1.5	2.1	2.1	2.6	2.3	3.0	1.9	2.5	1.8	1.0	1.1	1.3	1.5	24	1.6	3.5	0.5
21/01/18（月）	0.6	0.8	0.6	0.9	1.6	1.4	1.5	1.5	2.7	2.3	2.3	3.4	2.8	2.2	3.1	1.9	0.5	0.3	1.2	1.0	1.1	2.0	0.6	1.5	24	1.6	3.4	0.3
21/01/19（火）	1.7	2.1	2.3	1.6	1.5	1.8	3.8	3.3	2.9	6.9	5.9	4.1	3.9	5.3	7.0	3.4	2.6	2.2	3.2	2.0	4.0	1.0	3.8	2.4	24	3.3	7.0	1.0
21/01/20（水）	1.4	4.7	4.6	3.5	2.2	3.2	3.9	2.8	5.8	4.5	4.3	2.9	2.4	1.2	1.4	0.7	0.3	1.1	0.7	1.0	0.8	1.0	0.7	0.8	24	2.3	5.8	0.3
21/01/21（木）	0.8	0.9	0.6	0.4	0.5	1.1	0.6	1.1	0.9	0.7	2.6	1.6	2.4	1.2	1.1	1.1	0.2	1.4	1.5	0.6	0.8	1.3	1.4	0.9	24	1.1	2.6	0.2
21/01/22（金）	1.0	1.2	1.8	0.9	0.4	0.5	1.6	0.3	0.3	0.9	1.2	1.4	1.9	1.4	0.9	1.2	1.3	1.2	0.6	2.2	0.5	0.4	1.0	0.9	24	1.0	2.2	0.3
21/01/23（土）	0.0	0.5	0.4	0.7	0.4	0.1	0.7	0.8	0.0	0.0	0.4	1.1	1.6	1.7	0.4	1.0	2.0	2.4	1.4	0.7	0.8	0.2	0.2	0.3	24	0.7	2.4	0.0
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168			
平均値	0.9	1.6	1.5	1.3	1.1	1.3	1.9	1.6	2.3	2.4	2.6	2.3	2.4	2.2	2.4	1.7	1.4	1.5	1.6	1.3	1.3	1.0	1.3	1.2		1.7		
最大値	1.7	4.7	4.6	3.5	2.2	3.2	3.9	3.3	5.8	6.9	5.9	4.1	3.9	5.3	7.0	3.4	3.0	2.4	3.2	2.2	4.0	2.0	3.8	2.4			7.0	
最小値	0.0	0.5	0.4	0.4	0.1	0.6	0.3	0.0	0.0	0.4	1.1	1.6	1.2	0.4	0.7	0.2	0.3	0.6	0.6	0.5	0.2	0.2	0.3					0.0

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。
※上記の測定値には未確定データが含まれる。

測定期間　21/01/17（日） ～ 01/23（土）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　地上風向（WD）

単位　16方位

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	最多風向
21/01/17（日）	NNE	N	NNE	NNE	NE	E	ENE	N	NNW	WNW	WNW	NNW	NW	NW	WNW	NW	NW	WNW	W	WNW	WNW	WSW	NW	NNE	24	WNW
21/01/18（月）	NNW	N	ESE	N	N	N	NNE	N	N	NW	WNW	NNW	WNW	NW	W	WNW	WNW	C	SSE	SSE	S	W	SSW	W	24	N
21/01/19（火）	NW	NNW	W	NW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	WNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNE	NNW	N	24	NNW
21/01/20（水）	NNW	NNW	NNW	N	N	NNW	N	N	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	WNW	NNW	C	E	NNE	E	E	ENE	E	E	24	NNW
21/01/21（木）	E	E	E	C	ESE	ENE	SE	E	SW	W	NNW	NNW	W	NW	NW	NNW	C	E	E	ESE	E	E	E	SE	24	E
21/01/22（金）	E	ENE	NNE	NE	C	NE	NNE	C	C	N	NNW	SW	SSW	WSW	NNW	NNW	NNW	NE	NE	N	ENE	C	SSW	S	24	NE
21/01/23（土）	C	NE	C	NE	C	C	SW	NNE	C	C	C	WSW	NNW	NNW	C	WNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	C	C	C	24	NNW
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168	
最多風向	NNW	N NNW	NNE	N NE	N	NNW	NNE	N	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW	NNW NW	WNW	NNW	NNW WNW	NNW E	NNW	NNW	E	W WSW E ENE	SSW E	N NNE		NNW
風向			N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW		C					合計	
出現回数			15	10	7	5	16	3	2	2	2	3	3	3	7	13	11	47		19					168	
出現率（%）			8.9	6.0	4.2	3.0	9.5	1.8	1.2	1.2	1.2	1.8	1.8	1.8	4.2	7.7	6.5	28.0		11.3					100.0	

※日測定数が20未満の日は、日最多風向を表示しない。
※最多風向は、気象観測統計指針に従う。ただし、複数出現した場合、Nから反時計周りで列内に表示可能な風向を表示する。
※C:静穏(風速0.4m/s以下)
※上記の測定値には未確定データが含まれる。

大気質　夏季　風速・風速測定結果

測定期間　21/08/21（土）～ 08/27（金）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　地上風速（WS）

単位　m/s

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/08/21（土）	0.4	0.4	0.6	0.1	0.7	0.7	0.4	1.3	1.1	1.2	2.0	1.9	2.5	0.9	2.7	1.5	1.0	1.5	1.6	1.5	1.8	1.7	2.2	1.4	24	1.3	2.7	0.1
21/08/22（日）	1.4	1.9	1.8	1.8	1.5	1.3	2.1	2.6	2.9	2.5	3.3	3.7	3.0	2.9	2.1	2.1	1.0	0.5	0.5	0.8	0.7	0.5	0.8	0.9	24	1.8	3.7	0.5
21/08/23（月）	0.8	0.8	0.7	0.4	0.7	0.7	0.3	1.3	0.5	1.3	1.2	1.2	2.4	1.1	2.3	2.2	1.5	0.6	0.4	1.5	0.5	2.0	1.0	0.9	24	1.1	2.4	0.3
21/08/24（火）	0.8	0.0	0.8	0.6	0.9	0.3	0.1	0.6	1.2	2.6	3.4	2.6	3.1	4.2	2.9	3.9	4.0	3.0	2.5	2.9	1.9	2.0	2.0	2.3	24	2.0	4.2	0.0
21/08/25（水）	2.6	1.9	1.1	1.0	1.5	0.8	0.3	0.8	0.5	0.5	1.2	1.1	1.1	1.2	0.2	0.6	0.7	1.2	0.6	1.2	0.7	0.6	0.6	0.0	24	0.9	2.6	0.0
21/08/26（木）	0.1	0.4	0.4	1.0	0.9	0.4	0.8	0.7	1.6	1.3	1.5	2.0	1.1	0.7	0.7	1.3	0.8	0.5	0.2	0.2	1.2	0.1	0.6	1.1	24	0.8	2.0	0.1
21/08/27（金）	1.0	0.5	0.3	0.6	1.2	0.8	1.3	1.9	1.1	3.3	1.8	1.5	2.6	2.0	1.4	1.1	0.8	0.5	0.4	0.6	0.4	0.2	0.2	0.2	24	1.1	3.3	0.2
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168			
平均値	1.0	0.8	0.8	0.8	1.1	0.7	0.8	1.3	1.3	1.8	2.1	2.0	2.3	1.9	1.8	1.8	1.4	1.1	0.9	1.2	1.0	1.0	1.1	1.0		1.3		
最大値	2.6	1.9	1.8	1.8	1.5	1.3	2.1	2.6	2.9	3.3	3.4	3.7	3.1	4.2	2.9	3.9	4.0	3.0	2.5	2.9	1.9	2.0	2.2	2.3			4.2	
最小値	0.1	0.0	0.3	0.1	0.7	0.3	0.1	0.6	0.5	0.5	1.2	1.1	1.1	0.7	0.2	0.6	0.7	0.5	0.2	0.2	0.4	0.1	0.2	0.0				0.0

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。

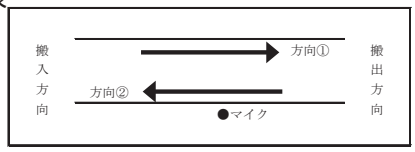
測定期間　21/08/21（土）～ 08/27（金）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　地上風向（WD）

単位　16方位

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	最多風向
21/08/21（土）	C	C	E	C	E	ESE	C	N	NNW	WNW	SW	SSW	SSW	SSW	SSW	SSW	S	SSE	SE	SE	SSE	SE	SE	SE	24	SE
21/08/22（日）	SE	SE	SE	SSE	SSE	SE	SSE	SSE	S	SSW	S	S	SSW	SSW	SSW	S	S	E	E	E	SSE	NE	E	ENE	24	S SSE
21/08/23（月）	ENE	ENE	NE	C	ESE	S	C	NNW	NNE	NNW	NW	N	N	NNW	N	N	N	ENE	C	E	SE	E	SSE	ESE	24	N
21/08/24（火）	ESE	C	ESE	E	SE	C	C	WSW	S	S	S	S	S	S	SSE	S	SSE	SSE	SE	SE	SSE	SSE	SE	SE	24	S
21/08/25（水）	SE	SSE	SSE	SE	SSE	N	C	NNW	NW	NNW	W	SW	WSW	SW	C	W	NNE	E	SE	ESE	SE	E	ENE	C	24	SE
21/08/26（木）	C	C	C	E	E	C	ENE	NNW	NNW	NW	NNW	N	NW	WNW	N	W	WSW	SW	C	C	E	C	N	NNE	24	NNW
21/08/27（金）	NE	ENE	C	NE	NE	NE	N	N	NNW	N	N	NW	N	WNW	WNW	WNW	WNW	W	C	ESE	C	C	C	C	24	N
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168	
最多風向	SE	ENE	SE ESE	E	SSE E	SE ESE	N SSE ENE	NNW	NNW	NNW	S	S	SSW	SSW	N SSW	W S	S	E	SE	ESE	SSE	E	SE	SE		SE
風向			N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW		C					合計	
出現回数			15	3	6	7	14	7	19	16	14	9	4	3	4	6	5	10		26					168	
出現率（%）			8.9	1.8	3.6	4.2	8.3	4.2	11.3	9.5	8.3	5.4	2.4	1.8	2.4	3.6	3.0	6.0		15.5					100.0	

※日測定数が20未満の日は、日最多風向を表示しない。
※最多風向は、気象観測統計指針に従う。ただし、複数出現した場合、Nから反時計周りで列内に表示可能な風向を表示する。
※C:静穏(風速0.4m/s以下)

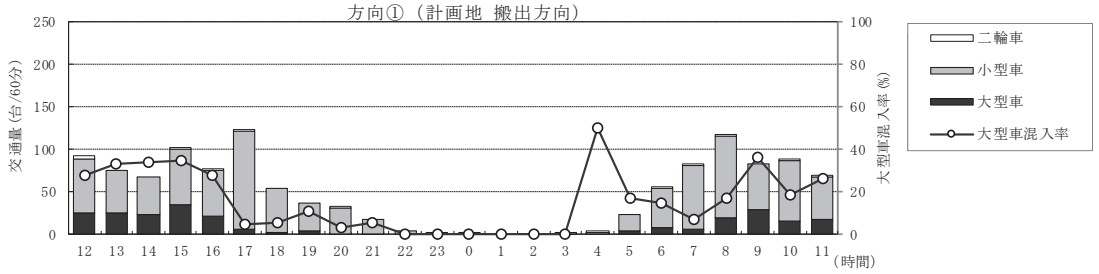
表　　交通量調査結果表

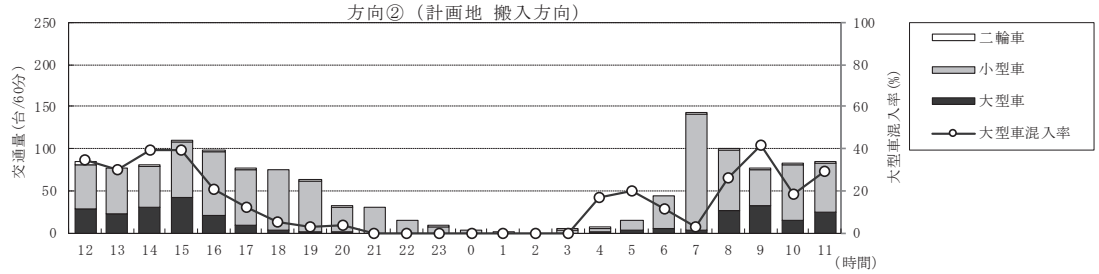


調査日　：　2020年12月1日（火）～ 12月2日（水）
調査地点：　Ｎｏ．４

時間＼車種	方向①（計画地 搬出方向）					方向②（計画地 搬入方向）					断面合計				
	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車
12:00～13:00	25	64	89	28.1	3	28	53	81	34.6	3	53	117	170	31.2	6
13:00～14:00	25	50	75	33.3	0	23	54	77	29.9	0	48	104	152	31.6	0
14:00～15:00	23	44	67	34.3	0	31	48	79	39.2	1	54	92	146	37.0	1
15:00～16:00	35	65	100	35.0	1	43	66	109	39.4	2	78	131	209	37.3	3
16:00～17:00	21	55	76	27.6	2	20	77	97	20.6	1	41	132	173	23.7	3
17:00～18:00	6	115	121	5.0	3	9	66	75	12.0	3	15	181	196	7.7	6
18:00～19:00	3	51	54	5.6	0	4	71	75	5.3	0	7	122	129	5.4	0
19:00～20:00	4	33	37	10.8	0	2	60	62	3.2	1	6	93	99	6.1	1
20:00～21:00	1	30	31	3.2	1	1	29	30	3.3	1	2	59	61	3.3	2
21:00～22:00	1	17	18	5.6	0	0	30	30	0.0	0	1	47	48	2.1	0
22:00～23:00	0	5	5	0.0	0	0	15	15	0.0	0	0	20	20	0.0	0
23:00～ 0:00	0	1	1	0.0	0	0	7	7	0.0	1	0	8	8	0.0	1
0:00～ 1:00	0	1	1	0.0	0	0	3	3	0.0	0	0	4	4	0.0	0
1:00～ 2:00	0	0	0	－	0	0	1	1	0.0	0	0	1	1	0.0	0
2:00～ 3:00	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0	0	0	0	－	0
3:00～ 4:00	0	3	3	0.0	0	0	4	4	0.0	2	0	7	7	0.0	2
4:00～ 5:00	1	1	2	50.0	1	1	5	6	16.7	1	2	6	8	25.0	2
5:00～ 6:00	4	19	23	17.4	0	3	12	15	20.0	0	7	31	38	18.4	0
6:00～ 7:00	8	47	55	14.5	1	5	39	44	11.4	0	13	86	99	13.1	1
7:00～ 8:00	6	75	81	7.4	2	4	137	141	2.8	2	10	212	222	4.5	4
8:00～ 9:00	20	95	115	17.4	1	26	73	99	26.3	1	46	168	214	21.5	2
9:00～10:00	30	53	83	36.1	0	32	44	76	42.1	1	62	97	159	39.0	1
10:00～11:00	16	71	87	18.4	1	15	66	81	18.5	1	31	137	168	18.5	2
11:00～12:00	18	50	68	26.5	2	24	58	82	29.3	2	42	108	150	28.0	4
昼間	242	915	1,157	20.9	17	267	971	1238	21.6	19	509	1886	2395	21.3	36
夜間	5	30	35	14.3	1	4	47	51	7.8	4	9	77	86	10.5	5
合計	247	945	1,192	20.7	18	271	1,018	1,289	21.0	23	518	1,963	2,481	20.9	41

昼間：6：00～22：00　夜間：22：00～6：00





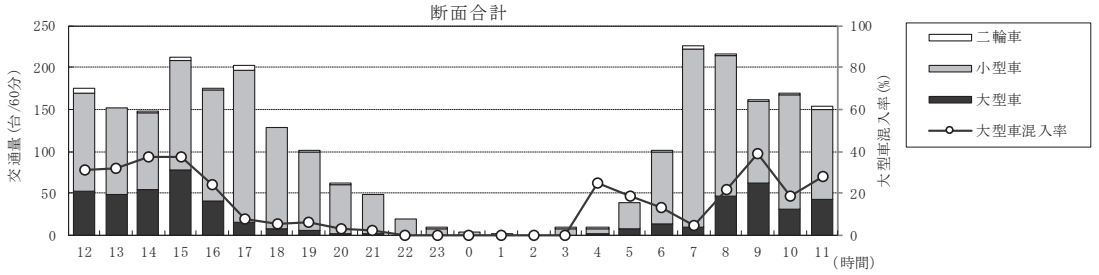
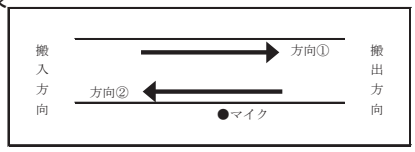


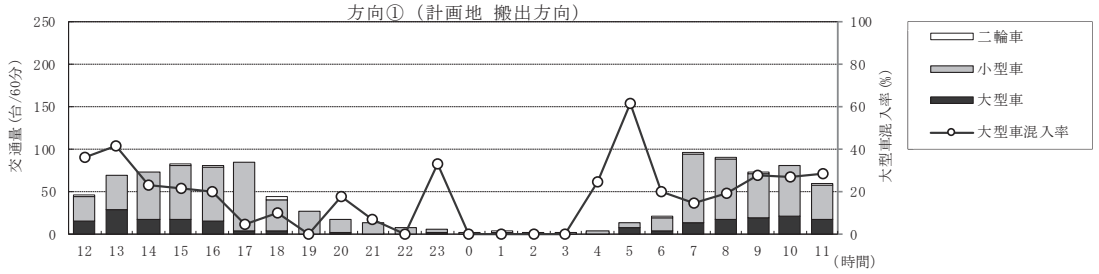
表　　交通量調査結果表

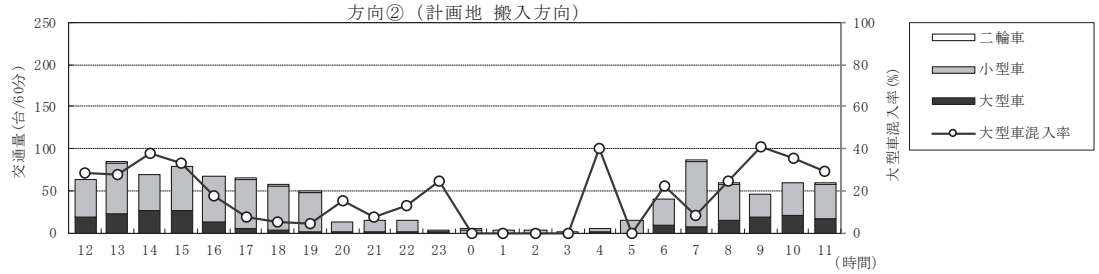


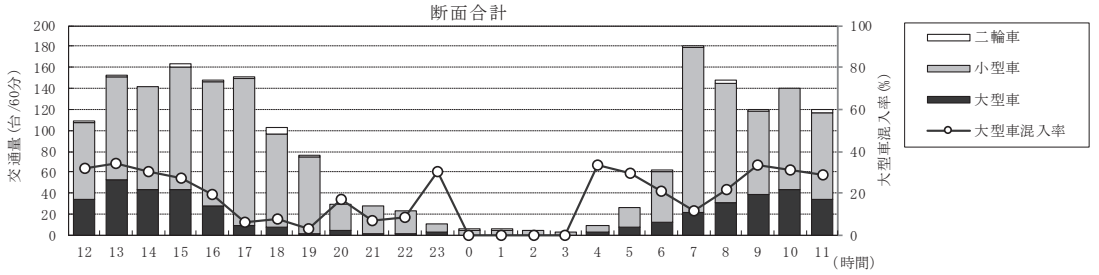
調査日　：　2020年12月1日（火）～ 12月2日（水）
調査地点：　Ｎｏ．５

時間＼車種	方向①（計画地 搬出方向）					方向②（計画地 搬入方向）					断面合計				
	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車	大型車	小型車	自動車類合計	大型車混入率	二輪車
12:00～13:00	16	28	44	36.4	1	18	46	64	28.1	0	34	74	108	31.5	1
13:00～14:00	29	40	69	42.0	0	23	59	82	28.0	1	52	99	151	34.4	1
14:00～15:00	17	56	73	23.3	0	26	43	69	37.7	0	43	99	142	30.3	0
15:00～16:00	18	64	82	22.0	2	26	53	79	32.9	0	44	117	161	27.3	2
16:00～17:00	16	63	79	20.3	1	12	55	67	17.9	0	28	118	146	19.2	1
17:00～18:00	4	81	85	4.7	0	5	59	64	7.8	2	9	140	149	6.0	2
18:00～19:00	4	36	40	10.0	5	3	53	56	5.4	1	7	89	96	7.3	6
19:00～20:00	0	28	28	0.0	0	2	45	47	4.3	1	2	73	75	2.7	1
20:00～21:00	3	14	17	17.6	0	2	11	13	15.4	0	5	25	30	16.7	0
21:00～22:00	1	13	14	7.1	0	1	13	14	7.1	0	2	26	28	7.1	0
22:00～23:00	0	8	8	0.0	0	2	13	15	13.3	0	2	21	23	8.7	0
23:00～ 0:00	2	4	6	33.3	0	1	3	4	25.0	0	3	7	10	30.0	0
0:00～ 1:00	0	1	1	0.0	0	0	4	4	0.0	1	0	5	5	0.0	1
1:00～ 2:00	0	2	2	0.0	1	0	3	3	0.0	0	0	5	5	0.0	1
2:00～ 3:00	0	2	2	0.0	0	0	3	3	0.0	0	0	5	5	0.0	0
3:00～ 4:00	0	2	2	0.0	0	0	1	1	0.0	0	0	3	3	0.0	0
4:00～ 5:00	1	3	4	25.0	0	2	3	5	40.0	0	3	6	9	33.3	0
5:00～ 6:00	8	5	13	61.5	0	0	14	14	0.0	0	8	19	27	29.6	0
6:00～ 7:00	4	16	20	20.0	1	9	32	41	22.0	0	13	48	61	21.3	1
7:00～ 8:00	14	81	95	14.7	1	7	77	84	8.3	1	21	158	179	11.7	2
8:00～ 9:00	17	71	88	19.3	1	14	43	57	24.6	2	31	114	145	21.4	3
9:00～10:00	20	52	72	27.8	1	19	27	46	41.3	0	39	79	118	33.1	1
10:00～11:00	22	59	81	27.2	0	21	38	59	35.6	0	43	97	140	30.7	0
11:00～12:00	17	42	59	28.8	2	17	41	58	29.3	1	34	83	117	29.1	3
昼間	202	744	946	21.4	15	205	695	900	22.8	9	407	1439	1846	22.0	24
夜間	11	27	38	28.9	1	5	44	49	10.2	1	16	71	87	18.4	2
合計	213	771	984	21.6	16	210	739	949	22.1	10	423	1,510	1,933	21.9	26

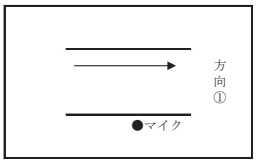
昼間：6：00～22：00　夜間：22：00～6：00







走行速度測定結果表

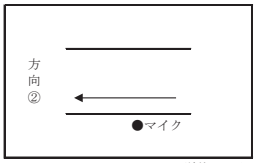


測 定 地 点 ： Ｎｏ．４
測 定 方 向 ： 方向①（搬出方向）
測　定　日 ： 2020年12月1日（火）～12月2日（水）

単位：km/h

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
12:00～13:00	38.0	37.9	37.0	51.9	46.7	42.0	46.3	42.9	42.0	42.5	42.7
13:00～14:00	43.3	44.0	37.2	49.8	38.0	37.8	48.7	51.3	45.3	42.0	43.8
14:00～15:00	38.0	35.9	39.0	35.5	35.7	49.7	46.8	37.3	38.4	37.3	39.4
15:00～16:00	41.8	46.7	38.2	44.8	51.9	45.0	37.7	43.6	47.8	39.2	43.7
16:00～17:00	40.3	40.1	33.5	39.0	41.1	40.6	47.0	46.2	47.9	34.9	41.1
17:00～18:00	36.7	38.4	42.1	35.9	45.8	42.0	45.3	40.5	44.0	43.0	41.4
18:00～19:00	38.3	54.8	42.0	35.4	37.2	38.9	37.2	47.5	54.4	52.0	43.8
19:00～20:00	45.6	46.2	52.2	44.8	47.9	51.6	55.0	50.7	45.9	55.0	49.5
20:00～21:00	48.7	40.6	47.8	38.7	35.9	36.9	42.0	36.1	40.4	49.4	41.7
21:00～22:00	56.7	43.6	38.2	39.1	49.6	40.0	31.5	51.7	47.0	43.9	44.1
22:00～23:00	43.0	51.6	40.9								45.2
23:00～24:00	36.2	39.4									37.8
0:00～ 1:00	36.4										36.4
1:00～ 2:00											
2:00～ 3:00											
3:00～ 4:00	42.8	57.1	56.0								52.0
4:00～ 5:00	32.4	46.4									39.4
5:00～ 6:00	39.5	41.2	42.1	37.1	34.1	45.3	50.5	41.6	40.1	37.0	40.8
6:00～ 7:00	34.1	47.5	42.5	48.9	37.9	38.0	30.4	34.3	37.2	49.4	40.0
7:00～ 8:00	42.6	43.3	46.4	42.2	40.7	51.7	44.8	49.7	47.0	46.7	45.5
8:00～ 9:00	42.3	42.1	43.1	42.0	43.3	40.5	45.2	55.5	47.5	43.7	44.5
9:00～10:00	43.6	38.2	37.8	43.9	48.5	47.2	52.8	43.8	41.1	45.8	44.3
10:00～11:00	39.7	42.5	39.6	37.8	38.7	38.4	38.9	47.0	44.2	43.4	41.0
11:00～12:00	51.7	37.7	41.2	47.2	42.0	42.3	46.2	49.4	41.4	48.3	44.7
									全時間平均		43.1

走行速度測定結果表

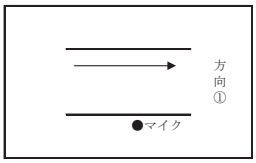


測 定 地 点 ： Ｎｏ．４
測 定 方 向 ： 方向②（搬入方向）
測　定　日 ： 2020年12月1日（火）～12月2日（水）

単位：km/h

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
12:00～13:00	37.0	44.7	42.9	42.4	47.2	41.3	44.9	40.0	43.8	37.0	42.1
13:00～14:00	40.9	41.1	37.7	42.8	43.0	41.6	42.2	42.6	44.8	44.8	42.2
14:00～15:00	37.8	45.9	42.8	37.5	41.7	36.7	41.4	38.3	37.5	36.9	39.7
15:00～16:00	38.7	36.9	41.8	36.9	43.7	45.2	40.8	36.1	41.8	42.8	40.5
16:00～17:00	43.7	41.7	37.9	34.3	43.9	42.6	40.4	38.3	45.6	44.8	41.3
17:00～18:00	41.3	42.0	37.0	42.0	41.4	40.1	34.1	38.5	42.9	36.4	39.6
18:00～19:00	36.8	39.0	39.1	51.4	40.0	38.3	42.2	36.6	54.8	50.1	42.8
19:00～20:00	41.6	44.4	45.8	39.4	39.6	43.8	42.9	40.4	44.8	52.2	43.5
20:00～21:00	41.6	32.8	46.2	47.3	34.9	43.1	31.2	45.2	34.5	39.6	39.6
21:00～22:00	47.0	43.4	47.2	44.5	47.7	52.8	47.7	40.8	44.4	54.3	47.0
22:00～23:00	43.8	46.8	41.4	41.4	45.3	40.3	49.4	42.3	44.5	45.8	44.1
23:00～24:00	35.2	40.0	43.4	34.7	33.7						37.4
0:00～ 1:00	57.6	37.3	50.3								48.4
1:00～ 2:00	46.5										46.5
2:00～ 3:00											
3:00～ 4:00	41.3	55.1	52.5	56.0	39.5						48.9
4:00～ 5:00	51.1	52.0	56.2	57.8	48.7						53.2
5:00～ 6:00	36.4	50.4	45.5	47.2	54.8	43.8	49.6	45.1	51.3	55.1	47.9
6:00～ 7:00	37.2	33.3	44.8	36.4	32.3	41.3	39.2	30.4	36.4	32.5	36.4
7:00～ 8:00	42.9	44.3	46.3	45.9	45.3	43.0	47.8	42.8	43.9	44.5	44.7
8:00～ 9:00	40.3	45.6	40.6	45.9	44.2	39.2	42.6	41.9	45.9	43.6	43.0
9:00～10:00	41.1	40.4	39.4	39.6	40.6	38.7	42.1	43.7	44.7	39.0	40.9
10:00～11:00	36.8	39.5	39.3	46.5	40.3	54.1	37.5	42.5	49.1	46.2	43.2
11:00～12:00	39.8	41.8	46.8	45.8	41.3	33.9	40.9	45.8	44.4	41.2	42.2
									全時間平均		42.7
									両方向平均		42.9

走行速度測定結果表

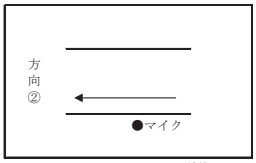


測 定 地 点 ： Ｎｏ．４
測 定 方 向 ： 方向①（搬出方向）
測　定　日 ： 2020年12月1日（火）～12月2日（水）

単位：km/h

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
12:00～13:00	38.0	37.9	37.0	51.9	46.7	42.0	46.3	42.9	42.0	42.5	42.7
13:00～14:00	43.3	44.0	37.2	49.8	38.0	37.8	48.7	51.3	45.3	42.0	43.8
14:00～15:00	38.0	35.9	39.0	35.5	35.7	49.7	46.8	37.3	38.4	37.3	39.4
15:00～16:00	41.8	46.7	38.2	44.8	51.9	45.0	37.7	43.6	47.8	39.2	43.7
16:00～17:00	40.3	40.1	33.5	39.0	41.1	40.6	47.0	46.2	47.9	34.9	41.1
17:00～18:00	36.7	38.4	42.1	35.9	45.8	42.0	45.3	40.5	44.0	43.0	41.4
18:00～19:00	38.3	54.8	42.0	35.4	37.2	38.9	37.2	47.5	54.4	52.0	43.8
19:00～20:00	45.6	46.2	52.2	44.8	47.9	51.6	55.0	50.7	45.9	55.0	49.5
20:00～21:00	48.7	40.6	47.8	38.7	35.9	36.9	42.0	36.1	40.4	49.4	41.7
21:00～22:00	56.7	43.6	38.2	39.1	49.6	40.0	31.5	51.7	47.0	43.9	44.1
22:00～23:00	43.0	51.6	40.9								45.2
23:00～24:00	36.2	39.4									37.8
0:00～ 1:00	36.4										36.4
1:00～ 2:00											
2:00～ 3:00											
3:00～ 4:00	42.8	57.1	56.0								52.0
4:00～ 5:00	32.4	46.4									39.4
5:00～ 6:00	39.5	41.2	42.1	37.1	34.1	45.3	50.5	41.6	40.1	37.0	40.8
6:00～ 7:00	34.1	47.5	42.5	48.9	37.9	38.0	30.4	34.3	37.2	49.4	40.0
7:00～ 8:00	42.6	43.3	46.4	42.2	40.7	51.7	44.8	49.7	47.0	46.7	45.5
8:00～ 9:00	42.3	42.1	43.1	42.0	43.3	40.5	45.2	55.5	47.5	43.7	44.5
9:00～10:00	43.6	38.2	37.8	43.9	48.5	47.2	52.8	43.8	41.1	45.8	44.3
10:00～11:00	39.7	42.5	39.6	37.8	38.7	38.4	38.9	47.0	44.2	43.4	41.0
11:00～12:00	51.7	37.7	41.2	47.2	42.0	42.3	46.2	49.4	41.4	48.3	44.7
									全時間平均		43.1

走行速度測定結果表



測 定 地 点 ： Ｎｏ．４
測 定 方 向 ： 方向②（搬入方向）
測　定　日 ： 2020年12月1日（火）～12月2日（水）

単位：km/h

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
12:00～13:00	37.0	44.7	42.9	42.4	47.2	41.3	44.9	40.0	43.8	37.0	42.1
13:00～14:00	40.9	41.1	37.7	42.8	43.0	41.6	42.2	42.6	44.8	44.8	42.2
14:00～15:00	37.8	45.9	42.8	37.5	41.7	36.7	41.4	38.3	37.5	36.9	39.7
15:00～16:00	38.7	36.9	41.8	36.9	43.7	45.2	40.8	36.1	41.8	42.8	40.5
16:00～17:00	43.7	41.7	37.9	34.3	43.9	42.6	40.4	38.3	45.6	44.8	41.3
17:00～18:00	41.3	42.0	37.0	42.0	41.4	40.1	34.1	38.5	42.9	36.4	39.6
18:00～19:00	36.8	39.0	39.1	51.4	40.0	38.3	42.2	36.6	54.8	50.1	42.8
19:00～20:00	41.6	44.4	45.8	39.4	39.6	43.8	42.9	40.4	44.8	52.2	43.5
20:00～21:00	41.6	32.8	46.2	47.3	34.9	43.1	31.2	45.2	34.5	39.6	39.6
21:00～22:00	47.0	43.4	47.2	44.5	47.7	52.8	47.7	40.8	44.4	54.3	47.0
22:00～23:00	43.8	46.8	41.4	41.4	45.3	40.3	49.4	42.3	44.5	45.8	44.1
23:00～24:00	35.2	40.0	43.4	34.7	33.7						37.4
0:00～ 1:00	57.6	37.3	50.3								48.4
1:00～ 2:00	46.5										46.5
2:00～ 3:00											
3:00～ 4:00	41.3	55.1	52.5	56.0	39.5						48.9
4:00～ 5:00	51.1	52.0	56.2	57.8	48.7						53.2
5:00～ 6:00	36.4	50.4	45.5	47.2	54.8	43.8	49.6	45.1	51.3	55.1	47.9
6:00～ 7:00	37.2	33.3	44.8	36.4	32.3	41.3	39.2	30.4	36.4	32.5	36.4
7:00～ 8:00	42.9	44.3	46.3	45.9	45.3	43.0	47.8	42.8	43.9	44.5	44.7
8:00～ 9:00	40.3	45.6	40.6	45.9	44.2	39.2	42.6	41.9	45.9	43.6	43.0
9:00～10:00	41.1	40.4	39.4	39.6	40.6	38.7	42.1	43.7	44.7	39.0	40.9
10:00～11:00	36.8	39.5	39.3	46.5	40.3	54.1	37.5	42.5	49.1	46.2	43.2
11:00～12:00	39.8	41.8	46.8	45.8	41.3	33.9	40.9	45.8	44.4	41.2	42.2
									全時間平均		42.7
									両方向平均		42.9

表　地盤卓越振動数測定結果

測定地点:　No.4

測定期日:　2021/4/26(月)　9時

中心周波数 (Hz)	振動加速度レベル(dB)										最大値の個数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
OverAll値	55.6	53.9	52.6	52.3	52.3	50.2	49.9	49.5	48.6	48.6	
1											
1.25											
1.6											
2											
2.5											
3.15											
4											
5											
6.3											
8											
10	30.4										
12.5	33.9		33.3		30.3	38.4					
16	42.6	32.3	37.4	36.4	37.6	35.9	34.5	34.0	32.2	35.3	
20	40.2	41.2	43.4	38.7	41.5	41.7	38.2	35.4	36.2	39.3	
25	52.2	50.0	48.7	47.9	49.1	44.7	45.5	43.1	44.8	43.7	9
31.5	50.2	49.0	45.2	45.8	46.0	44.1	43.8	44.0	40.7	42.5	1
40	46.0	44.8	42.6	45.2	42.2	40.0	43.6	43.4	40.7	40.0	
50	42.0	40.5	38.5	40.5	37.0	38.4	34.0	39.1	38.9	35.6	
63	38.7	38.0	41.7	36.0	36.2	35.8	32.4	35.1	34.4	35.1	
80	30.4	34.5	34.7	39.1	32.5	31.8	33.1	35.3	32.3		
地盤卓越振動数 (Hz)	最大値が最も多い中心周波数					25　Hz					
	最大値を示す中心周波数の平均値					25.7　Hz					

注) ▭ は最大値、30dB未満は空白

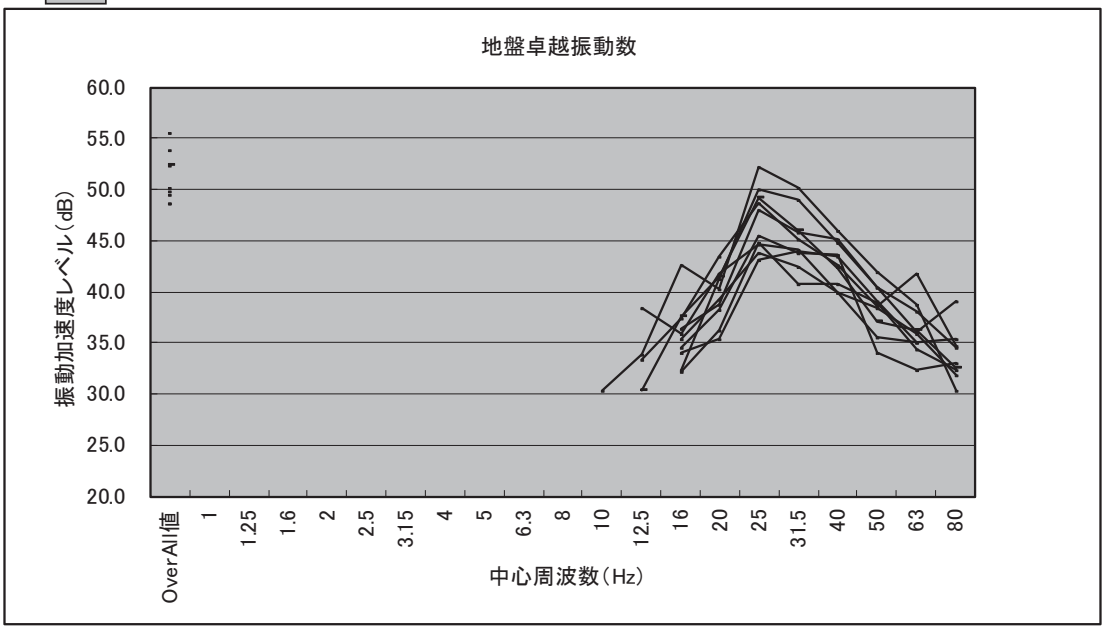


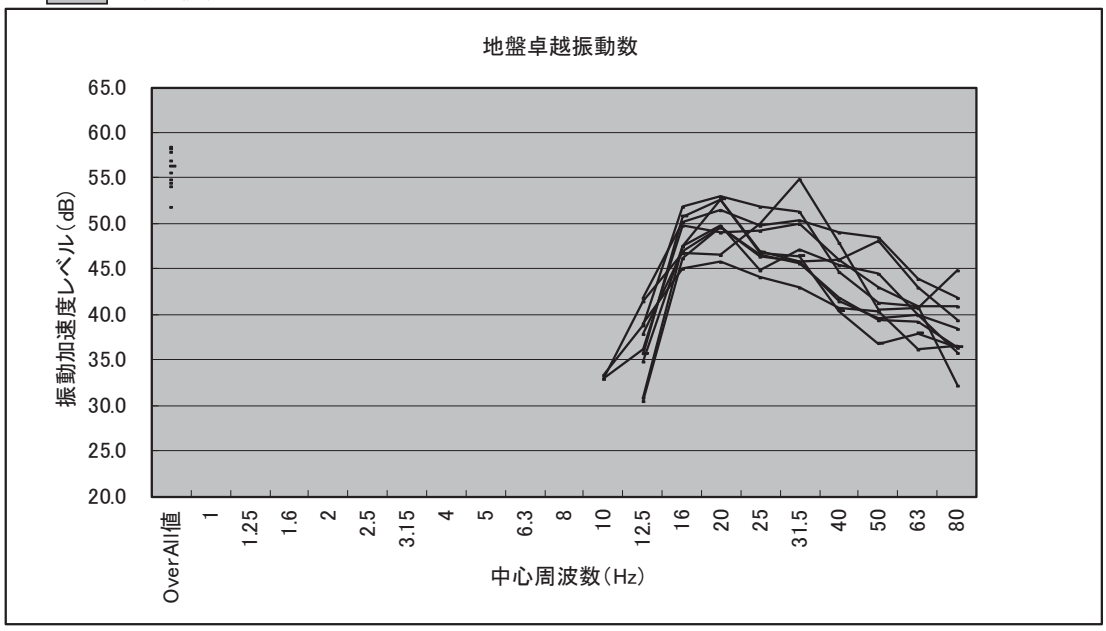
表　地盤卓越振動数測定結果

測定地点:　No.5

測定期日:　2021/4/26(月)　9時

中心周波数 (Hz)	振動加速度レベル(dB)										最大値の個数
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
OverAll値	58.5	58.2	58.0	57.0	56.3	55.7	54.9	54.6	54.2	51.9	
1											
1.25											
1.6											
2											
2.5											
3.15											
4											
5											
6.3											
8											
10	33.3		32.9	33.0							
12.5	38.9	41.9	41.5	36.2	35.6	34.8	30.9	30.5	37.9	39.0	
16	51.9	50.1	46.8	49.7	50.8	47.6	47.5	46.1	46.9	45.0	
20	52.9	51.5	46.6	49.1	52.7	52.6	49.7	49.5	49.6	45.9	8
25	51.9	49.7	50.0	49.3	46.7	47.0	44.8	46.4	46.5	44.1	
31.5	51.2	50.4	54.9	49.9	46.4	45.8	47.1	45.8	45.7	43.0	2
40	44.7	49.1	47.8	46.0	40.4	41.4	45.4	46.0	41.8	40.7	
50	41.3	48.4	40.6	48.1	36.8	39.5	44.4	43.0	39.4	40.3	
63	40.8	43.9	40.7	43.0	37.9	40.0	40.0	40.8	39.1	36.1	
80	40.9	41.9	44.8	39.3	36.3	38.4	35.7	32.2	36.4	36.6	
地盤卓越振動数 (Hz)	最大値が最も多い中心周波数					20　Hz					
	最大値を示す中心周波数の平均値					22.3　Hz					

注) ▭ は最大値、30dB未満は空白



証明書番号: 第 E 21120002 号

計 量 証 明 書

2021年12月23日 発行

株式会社 東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]式会社
横浜市戸[redacted]丁 15 番
[redacted]12)6411
計量証明事[redacted]事登録
濃[redacted]度　第 11 号
音圧レベル　第 3 号
振動加速度レベル　第 1 号
環境計量士　(第 環 6 0 7 9 号)[redacted]

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

試料の種類　　大気

測 定 地 点　　愛知県瀬戸市山路町134地先　　計1地点

測定年月日　　2021年1月17日　0時　～　2021年1月23日　24時
2021年8月21日　0時　～　2021年8月27日　24時

計量の対象および計量の方法

計量の対象	計量の方法
一酸化窒素及び二酸化窒素	昭和53年環境庁告示第38号(JIS B 7953:2004-6.2.1 オゾンを用いる化学発光法)
浮遊粒子状物質	昭和48年環境庁告示第25号(JIS B 7954:2001-5.2.1 ベータ線吸収法)

計量の結果　　「大気測定結果　証明書番号:第E21120002号(1/6)～(6/6)」による

備　　考: —

外注に関する事項: —

大気測定結果

測定期間　21/01/17（日）～ 01/23（土）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　一酸化窒素（NO）

単位　ppm

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/01/17（日）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.003	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.003	0.003	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.001	0.003	0.000
21/01/18（月）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.002	0.003	0.007	0.004	0.005	0.002	0.003	0.004	0.003	0.004	0.001	0.001	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.002	0.007	0.000
21/01/19（火）	0.001	0.000	0.001	0.002	0.000	0.000	0.005	0.002	0.007	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.001	0.007	0.000
21/01/20（水）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.007	0.009	0.005	0.002	0.004	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.001	0.013	0.003	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.002	0.013	0.000
21/01/21（木）	0.000	0.000	0.001	0.002	0.002	0.000	0.020	0.013	0.037	0.014	0.014	0.003	0.004	0.005	0.004	0.003	0.001	0.032	0.010	0.006	0.019	0.004	0.002	0.011	24	0.009	0.037	0.000
21/01/22（金）	0.002	0.004	0.001	0.000	0.001	0.030	0.027	0.008	0.031	0.027	0.018	0.009	0.011	0.007	0.007	0.004	0.003	0.002	0.004	0.005	0.001	0.002	0.004	0.004	24	0.009	0.031	0.000
21/01/23（土）	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.003	0.006	0.011	0.006	0.005	0.019	0.012	0.006	0.005	0.004	0.005	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.004	0.019	0.000
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168			
平均値	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.005	0.010	0.007	0.013	0.008	0.009	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.001	0.007	0.003	0.002	0.003	0.001	0.001	0.002		0.004		
最大値	0.002	0.004	0.001	0.002	0.002	0.030	0.027	0.013	0.037	0.027	0.019	0.012	0.011	0.007	0.007	0.005	0.003	0.032	0.010	0.006	0.019	0.004	0.004	0.011			0.037	
最小値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000				0.000

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。

大気測定結果

測定期間　21/01/17（日）～ 01/23（土）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　二酸化窒素（NO2）

単位　ppm

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/01/17（日）	0.007	0.006	0.003	0.004	0.004	0.004	0.004	0.005	0.005	0.004	0.009	0.006	0.006	0.006	0.006	0.007	0.007	0.015	0.015	0.010	0.004	0.010	0.007	0.009	24	0.007	0.015	0.003
21/01/18（月）	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.007	0.007	0.014	0.014	0.010	0.010	0.007	0.008	0.008	0.008	0.012	0.011	0.021	0.023	0.015	0.013	0.011	0.007	0.007	24	0.010	0.023	0.005
21/01/19（火）	0.014	0.005	0.010	0.016	0.006	0.006	0.011	0.011	0.012	0.006	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003	0.006	0.008	0.007	0.008	24	0.007	0.016	0.003
21/01/20（水）	0.006	0.003	0.004	0.006	0.007	0.005	0.011	0.018	0.009	0.004	0.005	0.006	0.005	0.005	0.008	0.010	0.011	0.034	0.025	0.012	0.010	0.012	0.011	0.013	24	0.010	0.034	0.003
21/01/21（木）	0.010	0.008	0.012	0.010	0.015	0.010	0.020	0.025	0.034	0.019	0.019	0.009	0.011	0.012	0.013	0.016	0.014	0.048	0.038	0.031	0.041	0.031	0.020	0.031	24	0.021	0.048	0.008
21/01/22（金）	0.020	0.030	0.013	0.006	0.012	0.041	0.035	0.025	0.029	0.027	0.026	0.022	0.024	0.023	0.023	0.023	0.028	0.029	0.027	0.024	0.013	0.011	0.018	0.016	24	0.023	0.041	0.006
21/01/23（土）	0.012	0.014	0.011	0.009	0.011	0.016	0.014	0.017	0.018	0.017	0.020	0.018	0.018	0.018	0.018	0.019	0.016	0.016	0.015	0.013	0.013	0.012	0.014	0.016	24	0.015	0.020	0.009
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168			
平均値	0.011	0.010	0.008	0.008	0.009	0.013	0.015	0.016	0.017	0.012	0.013	0.010	0.011	0.011	0.011	0.013	0.013	0.024	0.021	0.015	0.014	0.014	0.012	0.014		0.013		
最大値	0.020	0.030	0.013	0.016	0.015	0.041	0.035	0.025	0.034	0.027	0.026	0.022	0.024	0.023	0.023	0.023	0.028	0.048	0.038	0.031	0.041	0.031	0.020	0.031			0.048	
最小値	0.006	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004	0.004	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003	0.004	0.008	0.007	0.007				0.003

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。

大気測定結果

測定期間　21/01/17（日）～ 01/23（土）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　浮遊粒子状物質（SPM）

単位　mg/m3

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/01/17（日）	0.013	0.009	0.007	0.008	0.006	0.003	0.014	0.008	0.015	0.010	0.018	0.006	0.006	0.010	0.009	0.012	0.013	0.011	0.003	0.007	0.006	0.006	0.009	0.007	24	0.009	0.018	0.003
21/01/18（月）	0.008	0.013	0.004	0.009	0.007	0.012	0.005	0.003	0.006	0.010	0.022	0.005	0.010	0.013	0.008	0.016	0.019	0.010	0.025	0.020	0.022	0.015	0.018	0.012	24	0.012	0.025	0.003
21/01/19（火）	0.018	0.018	0.012	0.007	0.008	0.004	0.012	0.021	0.012	0.006	0.010	0.010	0.009	0.013	0.005	0.004	0.007	0.007	0.010	0.002	0.008	0.010	0.010	0.009	24	0.010	0.021	0.002
21/01/20（水）	0.006	0.005	0.005	0.013	0.011	0.007	0.009	0.014	0.015	0.008	0.012	0.010	0.016	0.008	0.011	0.014	0.013	0.017	0.014	0.014	0.010	0.005	0.022	0.034	24	0.012	0.034	0.005
21/01/21（木）	0.043	0.026	0.033	0.031	0.035	0.041	0.019	0.034	0.028	0.022	0.016	0.025	0.022	0.016	0.018	0.017	0.017	0.008	0.011	0.026	0.025	0.022	0.038	0.038	24	0.025	0.043	0.008
21/01/22（金）	0.042	0.041	0.023	0.019	0.013	0.024	0.016	0.015	0.016	0.023	0.019	0.017	0.023	0.019	0.018	0.024	0.021	0.014	0.019	0.020	0.016	0.008	0.014	0.014	24	0.020	0.042	0.008
21/01/23（土）	0.009	0.013	0.007	0.010	0.010	0.008	0.007	0.017	0.010	0.011	0.010	0.010	0.017	0.015	0.007	0.017	0.006	0.007	0.007	0.011	0.007	0.012	0.019	0.009	24	0.011	0.019	0.006
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	168			
平均値	0.020	0.018	0.013	0.014	0.013	0.014	0.012	0.016	0.015	0.013	0.015	0.012	0.015	0.013	0.011	0.015	0.014	0.011	0.013	0.014	0.013	0.011	0.019	0.018		0.014		
最大値	0.043	0.041	0.033	0.031	0.035	0.041	0.019	0.034	0.028	0.023	0.022	0.025	0.023	0.019	0.018	0.024	0.021	0.017	0.025	0.026	0.025	0.022	0.038	0.038			0.043	
最小値	0.006	0.005	0.004	0.007	0.006	0.003	0.005	0.003	0.006	0.006	0.010	0.005	0.006	0.008	0.005	0.004	0.006	0.007	0.003	0.002	0.006	0.005	0.009	0.007				0.002

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。

大気測定結果

測定期間　21/08/21（土）～ 08/27（金）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　一酸化窒素（NO）

単位　ppm

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/08/21（土）	0.001	0.000	0.000	0.001	0.002	0.006	0.009	0.006	0.004	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.002	0.009	0.000
21/08/22（日）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.002	0.001	0.001	0.001	0.007	0.006	24	0.001	0.007	0.000
21/08/23（月）	0.004	0.003	0.005	0.030	0.023	0.037	0.015	0.013	0.007	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.007	0.020	0.042	0.045	0.043	0.020	0.021	24	0.014	0.045	0.001
21/08/24（火）	0.010	0.016	0.023	0.010	0.038	0.027	0.068	0.007	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	24	0.009	0.068	0.000
21/08/25（水）	0.000	0.000	0.000	0.000	0.003	0.002	0.025	0.019	0.007	0.009	0.004	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.005	0.011	0.023	0.015	0.018	0.036	0.020	24	0.009	0.036	0.000
21/08/26（木）	0.039	0.023	0.033	0.009	0.045	0.023	0.037	0.024	0.003	0.002	0.001	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.028	0.066	0.067	0.043	0.020	0.015	0.001	24	0.020	0.067	0.001
21/08/27（金）	0.002	0.001	0.004	0.000	0.000	0.001	0.003	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	－	－	0.001	0.001	0.000	0.013	0.043	0.010	0.007	0.010	0.003	22	0.005	0.043	0.000
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	166			
平均値	0.008	0.006	0.009	0.007	0.016	0.014	0.022	0.010	0.004	0.003	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.006	0.016	0.025	0.016	0.013	0.013	0.007		0.009		
最大値	0.039	0.023	0.033	0.030	0.045	0.037	0.068	0.024	0.007	0.009	0.004	0.002	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.028	0.066	0.067	0.045	0.043	0.036	0.021			0.068	
最小値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000				0.000

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。
※8/27 14時15時 瞬時停電による欠測あり。

大気測定結果

測定期間　21/08/21（土）～ 08/27（金）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　二酸化窒素（NO2）

単位　ppm

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/08/21（土）	0.005	0.003	0.004	0.004	0.004	0.007	0.006	0.005	0.004	0.004	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	24	0.003	0.007	0.001
21/08/22（日）	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.003	0.008	0.005	0.006	0.006	0.008	0.008	24	0.002	0.008	0.000
21/08/23（月）	0.006	0.004	0.005	0.007	0.008	0.012	0.005	0.005	0.006	0.004	0.003	0.004	0.005	0.004	0.005	0.005	0.003	0.012	0.030	0.033	0.033	0.035	0.021	0.022	24	0.012	0.035	0.003
21/08/24（火）	0.016	0.022	0.026	0.019	0.028	0.022	0.028	0.010	0.006	0.004	0.004	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.001	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002	24	0.009	0.028	0.001
21/08/25（水）	0.001	0.001	0.001	0.001	0.004	0.002	0.010	0.007	0.004	0.007	0.005	0.003	0.002	0.005	0.007	0.008	0.010	0.025	0.037	0.042	0.033	0.032	0.032	0.024	24	0.013	0.042	0.001
21/08/26（木）	0.023	0.020	0.023	0.010	0.018	0.011	0.016	0.015	0.006	0.005	0.005	0.006	0.004	0.005	0.007	0.006	0.005	0.019	0.035	0.033	0.028	0.025	0.017	0.009	24	0.015	0.035	0.004
21/08/27（金）	0.008	0.006	0.007	0.003	0.005	0.006	0.009	0.006	0.005	0.006	0.006	0.004	0.004	－	－	0.006	0.005	0.005	0.027	0.051	0.038	0.033	0.032	0.013	22	0.013	0.051	0.003
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	166			
平均値	0.008	0.008	0.009	0.006	0.010	0.009	0.011	0.007	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004	0.010	0.020	0.024	0.020	0.019	0.016	0.011		0.009		
最大値	0.023	0.022	0.026	0.019	0.028	0.022	0.028	0.015	0.006	0.007	0.006	0.006	0.005	0.005	0.007	0.008	0.010	0.025	0.037	0.051	0.038	0.035	0.032	0.024			0.051	
最小値	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001				0.000

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。
※8/27 14時15時 瞬時停電による欠測あり。

大気測定結果

測定期間　21/08/21（土）～ 08/27（金）
測定地点　瀬戸処分場（seto1）
測定項目　浮遊粒子状物質（SPM）

単位　mg/m3

測定日時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	数	平均値	最大値	最小値
21/08/21（土）	0.008	0.016	0.019	0.020	0.020	0.013	0.011	0.014	0.023	0.015	0.016	0.010	0.018	0.013	0.012	0.015	0.015	0.013	0.010	0.013	0.007	0.011	0.014	0.007	24	0.014	0.023	0.007
21/08/22（日）	0.013	0.008	0.009	0.011	0.012	0.008	0.009	0.008	0.017	0.013	0.014	0.015	0.014	0.013	0.011	0.016	0.013	0.015	0.015	0.013	0.015	0.018	0.024	0.021	24	0.014	0.024	0.008
21/08/23（月）	0.023	0.017	0.020	0.018	0.017	0.017	0.017	0.016	0.012	0.015	0.018	0.019	0.020	0.017	0.014	0.020	0.018	0.018	0.028	0.025	0.026	0.031	0.029	0.054	24	0.021	0.054	0.012
21/08/24（火）	0.021	0.027	0.022	0.021	0.023	0.016	0.036	0.034	0.022	0.022	0.022	0.024	0.012	0.020	0.020	0.014	0.021	0.014	0.020	0.022	0.016	0.022	0.029	0.020	24	0.022	0.036	0.012
21/08/25（水）	0.017	0.020	0.023	0.023	0.019	0.021	0.015	0.025	0.021	0.026	0.031	0.022	0.017	0.030	0.024	0.027	0.029	0.026	0.035	0.041	0.044	0.035	0.029	0.033	24	0.026	0.044	0.015
21/08/26（木）	0.043	0.031	0.036	0.034	0.032	0.028	0.034	0.032	0.035	0.020	0.035	0.029	0.043	0.053	0.008	0.028	0.026	0.030	0.033	0.034	0.034	0.046	0.044	0.034	24	0.033	0.053	0.008
21/08/27（金）	0.028	0.031	0.028	0.025	0.022	0.022	0.028	0.030	0.030	0.024	0.028	0.022	0.029	－	－	0.040	0.018	0.005	0.021	0.026	0.028	0.021	0.026	0.025	22	0.025	0.040	0.005
測定数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	166			
平均値	0.022	0.021	0.022	0.022	0.021	0.018	0.021	0.023	0.023	0.019	0.023	0.020	0.022	0.024	0.015	0.023	0.020	0.017	0.023	0.025	0.024	0.026	0.028	0.028		0.022		
最大値	0.043	0.031	0.036	0.034	0.032	0.028	0.036	0.034	0.035	0.026	0.035	0.029	0.043	0.053	0.024	0.040	0.029	0.030	0.035	0.041	0.044	0.046	0.044	0.054			0.054	
最小値	0.008	0.008	0.009	0.011	0.012	0.008	0.009	0.008	0.012	0.013	0.014	0.010	0.012	0.013	0.008	0.014	0.013	0.005	0.010	0.013	0.007	0.011	0.014	0.007				0.005

※日測定数が20未満の日は、日平均値を表示しない。

証明書番号：第T21030039号-1

分 析 結 果 証 明 書

2021年3月18日 発行

株式会社 東立テクノクラシー 様

ムラタ計[redacted]株式会社
横浜市[redacted]町15番
[redacted]12）1870
計量証明[redacted]知事登録
[redacted]第11号
音圧レベル 第3号
振動加速度レベル 第1号
環境計量士（第環6[redacted]号）
[redacted]

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町134番地 地先
採 取 日：2021年1月16日～2月15日

ご依頼の試料の分析結果は下記のとおりであることを証明いたします。

分析の対象	単位	分析の結果				分析の方法
		No.1	No.2	No.3	No.4	
降下ばいじん量	$t \cdot km^{-2} \cdot 30日^{-1}$	5.5	1.6	7.9	7.1	衛生試験法・注解(2020) 4.4.1.2 2) (1) ダストジャーによる採取 (降下ばいじん量の結果は、降下ばいじん溶解成分量と降下ばいじん不溶解成分量の分析値を合計し丸めた値)
降下ばいじん溶解成分量		1.4	0.6	2.4	1.2	
降下ばいじん不溶解成分量		4.1	1.0	5.5	5.9	

証明書番号：第T21060037号-1

分 析 結 果 証 明 書

2021年6月21日 発行

株式会社 東立テクノクラシー 様

ムラタ計[redacted]株式会社
横浜市[redacted]町15番
[redacted]312）1870
計量証明[redacted]知事登録
[redacted]第11号
音圧レベル 第3号
振動加速度レベル 第1号
環境計量士（第環6495[redacted]号）

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町134番地 地先
採 取 日：2021年4月26日～5月26日

ご依頼の試料の分析結果は下記のとおりであることを証明いたします。

分析の対象	単位	分析の結果				分析の方法
		No.1	No.2	No.3	No.4	
降下ばいじん量	$t \cdot km^{-2} \cdot 30日^{-1}$	8.3	3.5	5.0	5.5	衛生試験法・注解(2020) 4.4.1.2 2) (1) ダストジャーによる採取 (降下ばいじん量の結果は、降下ばいじん溶解成分量と降下ばいじん不溶解成分量の分析値を合計し丸めた値)
降下ばいじん溶解成分量		1.8	1.9	2.0	1.7	
降下ばいじん不溶解成分量		6.4	1.7	3.1	3.8	

COPY

証明書番号：第T21090023号-1

分 析 結 果 証 明 書

2021年9月27日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計[redacted]株式会社
横浜市[redacted]町15番
[redacted]312）1870
計量証明[redacted]知事登録
[redacted]第11号
音圧レベル　第3号
振動加速度レベル　第1号
環境計量士（第環6495[redacted]号）
[redacted]

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採 取 場 所：愛知県瀬戸市山路町134番地　地先
採　取　日：2021年7月31日～8月30日

ご依頼の試料の分析結果は下記のとおりであることを証明いたします。

分析の対象	単位	分析の結果				分析の方法
		No.1	No.2	No.3	No.4	
降下ばいじん量	$t \cdot km^{-2} \cdot 30日^{-1}$	3.9	2.4	4.7	3.9	衛生試験法・注解(2020) 4.4.1.2 2) (1) ダストジャーによる採取 (降下ばいじん量の結果は、降下ばいじん溶解成分量と降下ばいじん不溶解成分量の分析値を合計し丸めた値)
降下ばいじん溶解成分量		1.6	1.8	2.8	1.9	
降下ばいじん不溶解成分量		2.4	0.6	1.9	2.1	

COPY

証明書番号：第T21110023号

分 析 結 果 証 明 書

2021年11月26日 発行

株式会社 東立テクノクラシー 様

ムラタ計[redacted]株式会社
横浜市[redacted]町15番
[redacted]312）1870
計量証明[redacted]知事登録
[redacted]第11号
音圧レベル 第3号
振動加速度レベル 第1号
環境計量士（第環6[redacted]号）
[redacted]

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町134番地 地先
採 取 日：2021年10月5日～11月4日

ご依頼の試料の分析結果は下記のとおりであることを証明いたします。

分析の対象	単位	分析の結果				分析の方法
		No.1	No.2	No.3	No.4	
降下ばいじん量	$t \cdot km^{-2} \cdot 30日^{-1}$	3.4	2.1	5.8	6.2	衛生試験法・注解(2020) 4.4.1.2 2)(1) ダストジャーによる採取 (降下ばいじん量の結果は、降下ばいじん溶解成分量と降下ばいじん不溶解成分量の分析値を合計し丸めた値)
降下ばいじん溶解成分量		0.9	0.9	1.4	1.3	
降下ばいじん不溶解成分量		2.6	1.1	4.4	4.8	

計　量　証　明　書

2021年9月28日 発行

株式会社 東立テクノクラシー 様

ムラタ計測[redacted]式会社
横浜市戸[redacted]15番
[redacted])1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]11 号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：河川水
採取の区分：自社採取
採取場所：No.1 愛知県瀬戸市山路町地先
No.2 愛知県瀬戸市屋戸町
採　取　日：2021年8月31日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	計量の結果	計量の方法
気温※	別添に示すとおり	JIS K 0102(2019) 7.1　温度計による測定
水温※		JIS K 0102(2019) 7.2　温度計による測定
透視度※		JIS K 0102(2019) 9　透視度計による測定
外観※		JIS K 0102(2019) 8　目視
水素イオン濃度(pH)		JIS K 0102(2019) 12.1　ガラス電極法
生物化学的酸素要求量(BOD)		JIS K 0102(2019) 21 及び 32.3　隔膜電極法
化学的酸素要求量(COD)		JIS K 0102(2019) 17　100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量
浮遊物質量(SS)		昭和46年環境庁告示第59号 付表9　ろ過重量法
溶存酸素量(DO)		JIS K 0102(2019) 32.1　よう素滴定法
大腸菌群数※		昭和46年環境庁告示第59号 別表2 1(1)ア 備考4　最確数による定量法
全窒素		JIS K 0102(2019) 45.2　紫外線吸光光度法
全燐		JIS K 0102(2019) 46.3.1　ペルオキソ二硫酸カリウム分解法
全亜鉛		JIS K 0102(2019) 53.4　ICP質量分析法
ノニルフェノール		昭和46年環境庁告示第59号 付表11　固相抽出によるガスクロマトグラフ質量分析法
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)		昭和46年環境庁告示第59号 付表12　固相抽出による液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析法
電気伝導率※		JIS K 0102(2019) 13　電気伝導率
塩化物イオン		JIS K 0101(2017)32.5　イオンクロマトグラフ法
カドミウム		JIS K 0102(2019) 55.4　ICP質量分析法
全シアン		JIS K 0102(2019) 38.1.2 及び 38.3　4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法
鉛		JIS K 0102(2019) 54.4　ICP質量分析法
六価クロム		JIS K 0102(2019) 65.2.5　ICP質量分析法
砒素		JIS K 0102(2019) 61.4　ICP質量分析法
総水銀		昭和46年環境庁告示第59号 付表2　還元気化原子吸光法
アルキル水銀		昭和46年環境庁告示第59号 付表3　ガスクロマトグラフ法
PCB		昭和46年環境庁告示第59号 付表4　ガスクロマトグラフ法
ジクロロメタン		JIS K 0125(2016) 5.2.1　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
四塩化炭素		
1,2-ジクロロエタン		
1,1-ジクロロエチレン		
シス-1,2-ジクロロエチレン		
1,1,1-トリクロロエタン		
1,1,2-トリクロロエタン		
トリクロロエチレン		
テトラクロロエチレン		
1,3-ジクロロプロペン		
チウラム		昭和46年環境庁告示第59号 付表5　固相抽出による高速液体クロマトグラフ法
シマジン		昭和46年環境庁告示第59号 付表6 第1　固相抽出によるガスクロマトグラフ質量分析法
チオベンカルブ		
ベンゼン		JIS K 0125(2016) 5.2.1　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
セレン		JIS K 0102(2019) 67.4　ICP質量分析法
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		計算値（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5　亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.1
ふっ素		JIS K 0102(2019) 34.1　ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法
ほう素		JIS K 0102(2019) 47.3　ICP発光分光分析法
1,4-ジオキサン		昭和46年環境庁告示第59号 付表8 第3　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
有機燐化合物		昭和49年環境庁告示第64号 付表1　ガスクロマトグラフ法
フェノール類含有量		JIS K 0102(2019) 28.1.1 及び 28.1.2.1　4-アミノアンチピリン吸光光度法　直接法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）		昭和49年環境庁告示第64号 付表4 抽出・重量法 及び JIS K 0102(2019) 附属書1(参考) 補足Ⅱ.1 重量法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量）		昭和49年環境庁告示第64号 付表4 抽出・重量法 及び JIS K 0102(2019) 附属書1(参考) 補足Ⅱ.2 計算
銅含有量		JIS K 0102(2019) 52.5　ICP質量分析法
溶解性鉄含有量		JIS K 0102(2019) 57.4　ICP発光分光分析法
溶解性マンガン含有量		JIS K 0102(2019) 56.4　ICP発光分光分析法
クロム含有量		JIS K 0102(2019) 65.1.5　ICP質量分析法
アンモニア、アンモニウム化合物、 亜硝酸化合物及び硝酸化合物		計算値（アンモニア性窒素の分析値に0.4を乗じたものと硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） アンモニア性窒素 JIS K 0102(2019) 42.1 及び 42.2 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5　亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.1
外注に関する事項　なし		

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外

別添

証明書番号：第C21095044号-1(2/2)

2021年9月28日 発行

ムラタ計測器サービス株式会社

採　取　日：2021年8月31日

計量の対象	単位	計量の結果	
		No.1 東山路川(処理水合流点)	No.2 矢田川・屋戸橋付近
気温※	℃	25.1	28.0
水温※	℃	21.5	23.8
透視度※	度	50以上	50以上
外観※	-	無色透明	無色透明
水素イオン濃度(pH)	pH*	8.1(22.5℃)	7.4(25.1℃)
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	0.2	0.3
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	2.1	2.7
浮遊物質量(SS)	mg/L	2	3
溶存酸素量(DO)	mg/L	9.2	9.0
大腸菌群数※	MPN/100mL	4900	13000
全窒素	mg/L	0.30	0.60
全燐	mg/L	0.003未満	0.036
全亜鉛	mg/L	0.004	0.006
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)	mg/L	0.0001	0.0085
電気伝導率※	mS/m	5	13
塩化物イオン	mg/L	3.3	8.0
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満
全シアン	mg/L	不検出(0.01未満)	不検出(0.01未満)
鉛	mg/L	0.001未満	0.001未満
六価クロム	mg/L	0.005未満	0.005未満
砒素	mg/L	0.001未満	0.001
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	mg/L	不検出(0.0005未満)	不検出(0.0005未満)
PCB	mg/L	不検出(0.0005未満)	不検出(0.0005未満)
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	0.01未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満
セレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.2	0.4
ふっ素	mg/L	0.08未満	0.10
ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満
有機燐化合物	mg/L	0.1未満	0.1未満
フェノール類含有量	mg/L	0.5未満	0.5未満
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)	mg/L	3未満	3未満
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)	mg/L	3未満	3未満
銅含有量	mg/L	0.3未満	0.3未満
溶解性鉄含有量	mg/L	1未満	1未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	1未満	1未満
クロム含有量	mg/L	0.2未満	0.2未満
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg/L	0.5未満	0.5
外注に関する事項　なし			

〈備考〉

※印の項目は、計量証明の対象外

*印は、計量法で定めた表示

計 量 証 明 書

2021年9月24日発行

株式会社スカイ環境研究所　様

ムラタ計[redacted]株式会社
〒245-005[redacted]秋葉町15番
[redacted](812)6411
[redacted](812)6410
特定計量証[redacted]:N-0044-01
計量証明事業所神奈川県知事登録
特定濃度：第１号
環境計量士(第２７５４[redacted]

ご依頼の試料の計量結果は下記のとおりであることを証明いたします。

試料の種類	河川水質
採取区分	自社採取
採取場所	愛知県瀬戸市内
採取年月日	2021年8月31日
計量年月日	2021年8月31日～2021年9月24日

計量の対象、計量の結果及び計量の方法

計量の対象	試料名	単位	計量の結果		計量の方法
ダイオキシン類濃度	No.1 東山路川 (試料番号:DX2108015)	pg/L	実測濃度	3.1	JIS K 0312 :2020
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.039	
	No.2 矢田川・屋戸橋付近 (試料番号:DX2108016)	pg/L	実測濃度	30	
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.074	

(備考)
1. ＊印は、計量証明の対象外である。
2. 毒性等量は、実測濃度が定量下限以上の数値と定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.1 東山路川　　試料番号： DX2108015

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.11	0.09	0.02	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.09	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.04	0.01	1	0.005
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	(0.01)	0.04	0.01	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.14	0.04	0.01	0.0002
	OCDD	0.46	0.20	0.06	0.0003	0.000138
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.3	0.009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.01)	0.05	0.01	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.01)	0.04	0.01	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.06)	0.18	0.06	0.01	0.0006
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0.000015
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.15	0.05	0.0003	0.0000075
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.22	0.07	0.02	0.0001	0.000022
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	(0.03)	0.06	0.02	0.1	0.003
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	Total non-*ortho* PCBs	0.25	—	—	—	0.0039295
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.23	0.07	0.00003	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	1.1	0.3	0.1	0.00003	0.000033
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.45	0.23	0.07	0.00003	0.0000135
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.26	0.08	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	(0.09)	0.10	0.03	0.00003	0.0000027
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.04)	0.05	0.01	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
	Total mono-*ortho* PCBs	1.7	—	—	—	0.00005490
PCDD	TeCDDs	0.16	—	—	—	—
	PeCDDs	0.06	—	—	—	—
	HxCDDs	0.13	—	—	—	—
	HpCDDs	0.09	—	—	—	—
	OCDD	0.46	—	—	—	—
	Total PCDDs	0.90	—	—	—	0.018838
PCDF	TeCDFs	0.10	—	—	—	—
	PeCDFs	0.05	—	—	—	—
	HxCDFs	0.03	—	—	—	—
	HpCDFs	0.06	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.24	—	—	—	0.016315
Total (PCDDs+PCDFs)		1.1	—	—	—	0.035153
Total Co-PCBs		1.9	—	—	—	0.00398440
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		3.1	—	—	—	0.039

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.2 矢田川・屋戸橋付近　　試料番号： DX2108016

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	1.1	0.09	0.02	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	0.38	0.09	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
	1,2,3,7,8-PeCDD	(0.02)	0.04	0.01	1	0.02
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	(0.03)	0.06	0.02	0.1	0.003
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.54	0.14	0.04	0.01	0.0054
	OCDD	6.7	0.20	0.06	0.0003	0.00201
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	(0.05)	0.06	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	(0.04)	0.06	0.02	0.1	0.004
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.3	0.009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	(0.03)	0.06	0.02	0.1	0.003
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	(0.02)	0.05	0.01	0.1	0.002
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.02)	0.04	0.01	0.1	0.002
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	(0.12)	0.18	0.06	0.01	0.0012
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	OCDF	(0.2)	0.4	0.1	0.0003	0.00006
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	0.21	0.15	0.05	0.0003	0.000063
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	3.6	0.07	0.02	0.0001	0.00036
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	0.06	0.06	0.02	0.1	0.006
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	Total non-*ortho* PCBs	3.9	—	—	—	0.007323
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	0.25	0.23	0.07	0.00003	0.0000075
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	7.4	0.3	0.1	0.00003	0.000222
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	4.2	0.23	0.07	0.00003	0.000126
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	0.26	0.18	0.06	0.00003	0.0000078
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	0.31	0.26	0.08	0.00003	0.0000093
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.71	0.10	0.03	0.00003	0.0000213
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	0.21	0.05	0.01	0.00003	0.0000063
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
	Total mono-*ortho* PCBs	13	—	—	—	0.00040155
PCDD	TeCDDs	1.7	—	—	—	—
	PeCDDs	0.25	—	—	—	—
	HxCDDs	0.29	—	—	—	—
	HpCDDs	1.2	—	—	—	—
	OCDD	6.7	—	—	—	—
	Total PCDDs	10	—	—	—	0.04241
PCDF	TeCDFs	1.9	—	—	—	—
	PeCDFs	0.41	—	—	—	—
	HxCDFs	0.15	—	—	—	—
	HpCDFs	0.24	—	—	—	—
	OCDF	0.2	—	—	—	—
	Total PCDFs	2.9	—	—	—	0.02396
Total (PCDDs+PCDFs)		13	—	—	—	0.06637
Total Co-PCBs		17	—	—	—	0.00772455
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		30	—	—	—	0.074

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

証明書番号：第C21105023号-1

計　量　証　明　書

2021年10月26日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]式会社
横浜市戸[redacted]15番
[redacted])1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]濃度[redacted]第11号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：河川水
採取の区分：自社採取
採取場所：No.1 愛知県瀬戸市山路町地先
　　No.2 愛知県瀬戸市屋戸町
採　取　日：2021年10月6日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	単位	計量の結果		計量の方法
		No.1 東山路川 （処理水合流点）	No.2 矢田川・屋戸橋 付近	
気温※	℃	20.1	25.8	JIS K 0102(2019) 7.1 温度計による測定
水温※	℃	17.2	19.0	JIS K 0102(2019) 7.2 温度計による測定
透視度※	度	50以上	50以上	JIS K 0102(2019) 9 透視度計による測定
外観※	-	無色透明	無色透明	JIS K 0102(2019) 8 目視
水素イオン濃度(pH)	pH*	7.1 (19.3℃)	6.9 (21.2℃)	JIS K 0102(2019) 12.1 ガラス電極法
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/L	0.2	0.1	JIS K 0102(2019) 21 及び 32.3 隔膜電極法
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	1.5	2.6	JIS K 0102(2019) 17 100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量
浮遊物質量(SS)	mg/L	1	2	昭和46年環境庁告示第59号 付表9 ろ過重量法
溶存酸素量(DO)	mg/L	9.3	9.4	JIS K 0102(2019) 32.1 よう素滴定法
大腸菌群数※	MPN/100mL	1300	1300	昭和46年環境庁告示第59号 別表2 1(1)ア 備考4 最確数による定量法
全窒素	mg/L	0.26	0.54	JIS K 0102(2019) 45.2 紫外線吸光光度法
全燐	mg/L	0.003未満	0.022	JIS K 0102(2019) 46.3.1 ペルオキソ二硫酸カリウム分解法
電気伝導率※	mS/m	5	12	JIS K 0102(2019) 13 電気伝導率
塩化物イオン	mg/L	3.5	7.7	JIS K 0102(2019) 35.3 イオンクロマトグラフ法
外注に関する事項　なし				

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外
*印は、計量法で定めた表示

計　量　証　明　書

2022年1月11日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]式会社
横浜市戸[redacted]15番
[redacted])1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]11　号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：河川水
採取の区分：自社採取
採 取 場 所：No.1 愛知県瀬戸市山路町地先
　　No.2 愛知県瀬戸市屋戸町
採　取　日：2021年12月16日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	計量の結果	計量の方法
気温※	別添に示すとおり	JIS K 0102(2019) 7.1　温度計による測定
水温※		JIS K 0102(2019) 7.2　温度計による測定
透視度※		JIS K 0102(2019) 9　透視度計による測定
外観※		JIS K 0102(2019) 8　目視
水素イオン濃度(pH)		JIS K 0102(2019) 12.1　ガラス電極法
生物化学的酸素要求量(BOD)		JIS K 0102(2019) 21 及び 32.3　隔膜電極法
化学的酸素要求量(COD)		JIS K 0102(2019) 17　100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量
浮遊物質量(SS)		昭和46年環境庁告示第59号 付表9　ろ過重量法
溶存酸素量(DO)		JIS K 0102(2019) 32.1　よう素滴定法
大腸菌群数※		昭和46年環境庁告示第59号 別表2 1(1)ア 備考4　最確数による定量法
全窒素		JIS K 0102(2019) 45.2　紫外線吸光光度法
全燐		JIS K 0102(2019) 46.3.1　ペルオキソ二硫酸カリウム分解法
全亜鉛		JIS K 0102(2019) 53.4　ICP質量分析法
ノニルフェノール		昭和46年環境庁告示第59号 付表11　固相抽出によるガスクロマトグラフ質量分析法
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)		昭和46年環境庁告示第59号 付表12　固相抽出による液体クロマトグラフ-タンデム型質量分析法
電気伝導率※		JIS K 0102(2019) 13　電気伝導率
塩化物イオン		JIS K 0101(2017)32.5　イオンクロマトグラフ法
カドミウム		JIS K 0102(2019) 55.4　ICP質量分析法
全シアン		JIS K 0102(2019) 38.1.2 及び 38.3　4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法
鉛		JIS K 0102(2019) 54.4　ICP質量分析法
六価クロム		JIS K 0102(2019) 65.2.5　ICP質量分析法
砒素		JIS K 0102(2019) 61.4　ICP質量分析法
総水銀		昭和46年環境庁告示第59号 付表2　還元気化原子吸光法
アルキル水銀		昭和46年環境庁告示第59号 付表3　ガスクロマトグラフ法
PCB		昭和46年環境庁告示第59号 付表4　ガスクロマトグラフ法
ジクロロメタン		JIS K 0125(2016) 5.2.1　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
四塩化炭素		
1,2-ジクロロエタン		
1,1-ジクロロエチレン		
シス-1,2-ジクロロエチレン		
1,1,1-トリクロロエタン		
1,1,2-トリクロロエタン		
トリクロロエチレン		
テトラクロロエチレン		
1,3-ジクロロプロペン		
チウラム		昭和46年環境庁告示第59号 付表5　固相抽出による高速液体クロマトグラフ法
シマジン		昭和46年環境庁告示第59号 付表6 第1　固相抽出によるガスクロマトグラフ質量分析法
チオベンカルブ		
ベンゼン		JIS K 0125(2016) 5.2.1　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
セレン		JIS K 0102(2019) 67.4　ICP質量分析法
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		計算値（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5 亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.2
ふっ素		JIS K 0102(2019) 34.1　ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法
ほう素		JIS K 0102(2019) 47.3　ICP発光分光分析法
1,4-ジオキサン		昭和46年環境庁告示第59号 付表8 第3　ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
有機燐化合物		昭和49年環境庁告示第64号 付表1　ガスクロマトグラフ法
フェノール類含有量		JIS K 0102(2019) 28.1.1 及び 28.1.2.1　4-アミノアンチピリン吸光光度法　直接法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）		昭和49年環境庁告示第64号 付表4 抽出・重量法 及び JIS K 0102(2019) 附属書1(参考) 補足Ⅱ.1 重量法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量）		昭和49年環境庁告示第64号 付表4 抽出・重量法 及び JIS K 0102(2019) 附属書1(参考) 補足Ⅱ.2 計算
銅含有量		JIS K 0102(2019) 52.5　ICP質量分析法
溶解性鉄含有量		JIS K 0102(2019) 57.4　ICP発光分光分析法
溶解性マンガン含有量		JIS K 0102(2019) 56.4　ICP発光分光分析法
クロム含有量		JIS K 0102(2019) 65.1.5　ICP質量分析法
アンモニア、アンモニウム化合物、 亜硝酸化合物及び硝酸化合物		計算値（アンモニア性窒素の分析値に0.4を乗じたものと 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） アンモニア性窒素　JIS K 0102(2019) 42.1 及び 42.2 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5 亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.2

外注に関する事項　なし

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外

別添

証明書番号：第C22015006号(2/2)

2022年1月11日 発行

ムラタ計測器サービス株式会社

採　取　日：2021年12月16日

計量の対象	単位	計量の結果	
		No.1 東山路川(処理水合流点)	No.2 矢田川・屋戸橋付近
気温※	℃	7.3	9.8
水温※	℃	7.5	7.5
透視度※	度	50以上	50以上
外観※	-	無色透明	無色透明
水素イオン濃度(pH)	pH*	7.1(8.1℃)	7.1(8.1℃)
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	0.2	0.3
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	1.1	1.8
浮遊物質量(SS)	mg/L	1未満	1未満
溶存酸素量(DO)	mg/L	11.5	12.0
大腸菌群数※	MPN/100mL	79	220
全窒素	mg/L	0.20	0.63
全燐	mg/L	0.003未満	0.018
全亜鉛	mg/L	0.001	0.003
ノニルフェノール	mg/L	0.00006未満	0.00006未満
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)	mg/L	0.0001未満	0.0014
電気伝導率※	mS/m	6	16
塩化物イオン	mg/L	3.3	9.4
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満
全シアン	mg/L	不検出(0.01未満)	不検出(0.01未満)
鉛	mg/L	0.001未満	0.001未満
六価クロム	mg/L	0.005未満	0.005未満
砒素	mg/L	0.001未満	0.001未満
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	mg/L	不検出(0.0005未満)	不検出(0.0005未満)
PCB	mg/L	不検出(0.0005未満)	不検出(0.0005未満)
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	0.01未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満
セレン	mg/L	0.001未満	0.001未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.1	0.5
ふっ素	mg/L	0.08未満	0.10
ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満
有機燐化合物	mg/L	0.1未満	0.1未満
フェノール類含有量	mg/L	0.5未満	0.5未満
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)	mg/L	3未満	3未満
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)	mg/L	3未満	3未満
銅含有量	mg/L	0.3未満	0.3未満
溶解性鉄含有量	mg/L	1未満	1未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	1未満	1未満
クロム含有量	mg/L	0.2未満	0.2未満
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	mg/L	0.5未満	0.5
外注に関する事項　なし			

〈備考〉

※印の項目は、計量証明の対象外　　*印は、計量法で定めた表示

計 量 証 明 書

2022年3月28日発行

株式会社スカイ環境研究所　様

ムラタ計[redacted]株式会社
〒245-005[redacted]秋葉町15番
[redacted](812)6411
[redacted](812)6410
特定計量証明事業認定番号:N-0044-01
計量証明事業所神奈川県知事登録
特定濃度：第1号
環境計量士(第2754[redacted]

ご依頼の試料の計量結果は下記のとおりであることを証明いたします。

試料の種類	河川水質
採取区分	自社採取
採取場所	愛知県瀬戸市内
採取年月日	2021年12月16日
計量年月日	2021年12月16日～2022年3月28日

計量の対象、計量の結果及び計量の方法

計量の対象	試料名	単位	計量の結果		計量の方法
ダイオキシン類濃度	No.1 東山路川 (試料番号:DX2112003)	pg/L	実測濃度	7.8	JIS K 0312 :2020
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.039	
	No.2 矢田川・屋戸橋付近 (試料番号:DX2112004)	pg/L	実測濃度	5.7	
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.037	

(備考)
1. ＊印は、計量証明の対象外である。
2. 毒性等量は、実測濃度が定量下限以上の数値と定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.1 東山路川　　試料番号： DX2112003

化合物の名称等			実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD		1,3,6,8-TeCDD	(0.06)	0.09	0.02	—	—
		1,3,7,9-TeCDD	(0.02)	0.09	0.02	—	—
		2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
		1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.04	0.01	1	0.005
		1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
		1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
		1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
		1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	0.26	0.15	0.04	0.01	0.0026
		OCDD	6.3	0.21	0.06	0.0003	0.0019
PCDF		1,2,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	—	—
		2,3,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
		1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.03	0.0009
		2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.21	0.06	0.3	0.009
		1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
		1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.05	0.01	0.1	0.0005
		1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
		2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
		1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
		1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.20	0.06	0.01	0.0003
		OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0.000015
コプラナーPCB	ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.16	0.05	0.0003	0.0000075
		3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.08	0.07	0.02	0.0001	0.000008
		3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
		3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.20	0.06	0.03	0.0009
		Total non-*ortho* PCBs	0.08	—	—	—	0.0019155
	モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.23	0.07	0.00003	0.00000105
		2,3',4,4',5-PeCB (#118)	0.4	0.3	0.1	0.00003	0.000012
		2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	(0.18)	0.23	0.07	0.00003	0.0000054
		2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.19	0.06	0.00003	0.0000009
		2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.26	0.08	0.00003	0.0000012
		2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	(0.03)	0.10	0.03	0.00003	0.0000009
		2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	ND	0.05	0.01	0.00003	0.00000015
		2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
		Total mono-*ortho* PCBs	0.7	—	—	—	0.00002295
PCDD		TeCDDs	0.08	—	—	—	—
		PeCDDs	ND	—	—	—	—
		HxCDDs	ND	—	—	—	—
		HpCDDs	0.55	—	—	—	—
		OCDD	6.3	—	—	—	—
		Total PCDDs	6.9	—	—	—	0.0225
PCDF		TeCDFs	ND	—	—	—	—
		PeCDFs	ND	—	—	—	—
		HxCDFs	ND	—	—	—	—
		HpCDFs	0.08	—	—	—	—
		OCDF	ND	—	—	—	—
		Total PCDFs	0.08	—	—	—	0.015015
Total (PCDDs+PCDFs)			7.0	—	—	—	0.037505
Total Co-PCBs			0.7	—	—	—	0.00193845
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)			7.8	—	—	—	0.039

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.2 矢田川・屋戸橋付近　　試料番号： DX2112004

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.17	0.09	0.02	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.06)	0.09	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.04	0.01	1	0.005
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	(0.12)	0.15	0.04	0.01	0.0012
	OCDD	1.4	0.20	0.06	0.0003	0.00042
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.3	0.009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.05	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0.000015
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.16	0.05	0.0003	0.0000075
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.68	0.07	0.02	0.0001	0.000068
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	Total non-*ortho* PCBs	0.68	—	—	—	0.0019755
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	(0.09)	0.23	0.07	0.00003	0.0000027
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	1.6	0.3	0.1	0.00003	0.000048
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.85	0.23	0.07	0.00003	0.0000255
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.19	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.26	0.08	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.13	0.10	0.03	0.00003	0.0000039
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.05)	0.05	0.01	0.00003	0.0000015
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
	Total mono-*ortho* PCBs	2.7	—	—	—	0.00008505
PCDD	TeCDDs	0.30	—	—	—	—
	PeCDDs	0.03	—	—	—	—
	HxCDDs	0.03	—	—	—	—
	HpCDDs	0.22	—	—	—	—
	OCDD	1.4	—	—	—	—
	Total PCDDs	2.0	—	—	—	0.01962
PCDF	TeCDFs	0.30	—	—	—	—
	PeCDFs	ND	—	—	—	—
	HxCDFs	ND	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.30	—	—	—	0.015015
Total (PCDDs+PCDFs)		2.3	—	—	—	0.034635
Total Co-PCBs		3.4	—	—	—	0.00206055
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		5.7	—	—	—	0.037

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs, PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

証明書番号：第C22055011号

計　量　証　明　書

2022年5月10日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計[redacted]式会社
横浜市[redacted]丁15番
[redacted]2）1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]11　号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：河川水
採取の区分：自社採取
採 取 場 所：No.1 愛知県瀬戸市山路町地先
　　No.2 愛知県瀬戸市屋戸町
採　取　日：2022年4月20日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	単位	計量の結果		計量の方法
		No.1 東山路川 （処理水合流点）	No.2 矢田川・屋戸橋 付近	
気温※	℃	20.4	22.7	JIS K 0102(2019) 7.1 温度計による測定
水温※	℃	15.0	17.0	JIS K 0102(2019) 7.2 温度計による測定
透視度※	度	50以上	50以上	JIS K 0102(2019) 9 透視度計による測定
外観※	–	無色透明	無色透明	JIS K 0102(2019) 8 目視
水素イオン濃度(pH)	pH*	7.2 (15.7℃)	7.1 (18.5℃)	JIS K 0102(2019) 12.1 ガラス電極法
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	0.1	1.0	JIS K 0102(2019) 21 及び 32.3 隔膜電極法
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	2.1	3.1	JIS K 0102(2019) 17 100℃における過マンガン酸カリウムによる酸素消費量
浮遊物質量(SS)	mg/L	2	8	昭和46年環境庁告示第59号 付表9 ろ過重量法
溶存酸素量(DO)	mg/L	10.1	9.8	JIS K 0102(2019) 32.1 よう素滴定法
大腸菌群数※	MPN/100mL	130	2800	JIS K 0350-20-10(2001) 6.2 液体培地による試験(最確数試験)
全窒素	mg/L	0.19	0.81	JIS K 0102(2019) 45.2 紫外線吸光光度法
全燐	mg/L	0.003未満	0.068	JIS K 0102(2019) 46.3.1 ペルオキソ二硫酸カリウム分解法
電気伝導率※	mS/m	5	18	JIS K 0102(2019) 13 電気伝導率
塩化物イオン	mg/L	4.3	20	JIS K 0101(2017) 32.5 イオンクロマトグラフ法
大腸菌数※	CFU/100mL	12	160	昭和46年環境庁告示第59号 付表10 特定酵素基質培地によるメンブランフィルター法
外注に関する事項　なし				

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外
*印は、計量法で定めた表示

証明書番号：第C21075034号-1

計　量　証　明　書

2021年7月27日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]会社
横浜市[redacted]15番
[redacted]1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]1　号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：河川水(降雨時)
採取の区分：自社採取
採取場所：No.1 愛知県瀬戸市山路町地先
　　No.2 愛知県瀬戸市屋戸町
採　取　日：2021年6月4日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	単位	計量の結果		計量の方法
		No.1 東山路川 (処理水合流点)	No.2 矢田川・屋戸橋 付近	
水温※	℃	17.0	18.0	JIS K 0102(2019) 7.2 温度計による測定
透視度※	度	33	6	JIS K 0102(2019) 9 透視度計による測定
外観※	-	濁水	濁水	JIS K 0102(2019) 8 目視
浮遊物質量(SS)	mg/L	35	100	昭和46年環境庁告示第59号 付表9 ろ過重量法
外注に関する事項　なし				

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外

COPY

山分セ第 250759 号
2021 年 10 月 20 日

分 析 結 果 報 告 書

株式会社 東立テクノクラシー　　様

一般財団法人 山形[redacted]ンター
理事長　大泉[redacted]
〒990-2473 山形[redacted]68号
TEL　023-64[redacted]

2021 年 08 月 25 日にご依頼ありました分析の結果は、別紙の通りであることを報告します。

この分析結果書は、3部作成したうちの1部である。（250759-1）

土 壌 沈 降 試 験

試料名称	愛知県瀬戸市山路町地先
試料採取年月日	2021年8月23日

試験の結果を表-1、図-1及び図-2に示す。

表-1　経過時間－懸濁物質・水温一覧表

経過時間（分）	懸濁物質（mg/L）	残留率（%）	沈降速度（cm/min）
0	2100.	100.0	—
1	1100.	52.4	10.0
2	900.	42.9	5.0
5	560.	26.7	2.0
10	380.	18.1	1.0
30	250.	11.9	0.33
60	160.	7.6	0.17
120	130.	6.2	0.083
240	90.	4.3	0.042
480	60.	2.9	0.021
1440	50.	2.4	0.0069
2880	26.	1.2	0.0035
分析の方法	JIS M 0201 8.	—	—
備考　：　試験方法は、JIS M 0201 12. に準拠する。			

図-1　経過時間－懸濁物質曲線

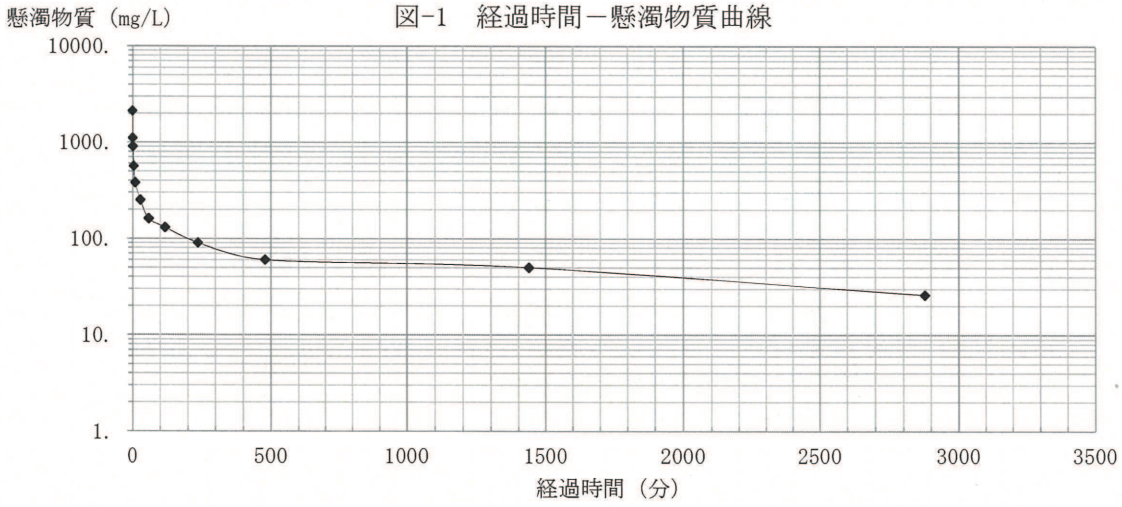
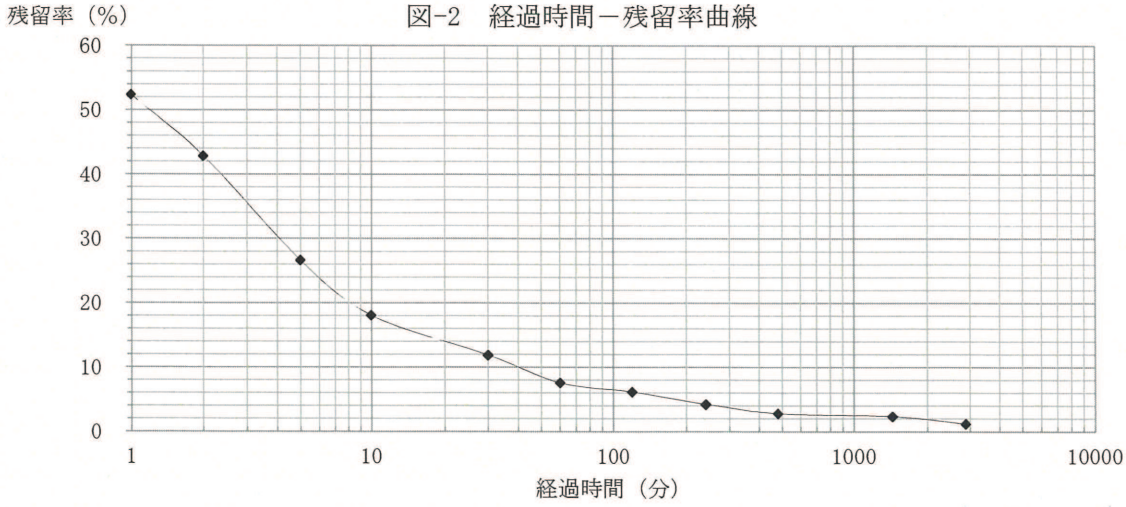


図-2　経過時間－残留率曲線



証明書番号：第C21025054号-1

計　量　証　明　書

2021年2月18日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]会社
横浜市戸[redacted]15番
[redacted]1870
計量証明事[redacted]事登録
[redacted]1　号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：地下水
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町地先
採　取　日：2021年1月16日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	単位	計量の結果		計量の方法
		No.1 上流地点	No.2 下流地点	
水素イオン濃度(pH)	pH*	6.4(13.5℃)	6.9(14.4℃)	JIS K 0102(2019) 12.1　ガラス電極法
電気伝導率※	mS/m	6.3	8.4	JIS K 0102(2019) 13　電気伝導率
塩化物イオン	mg/L	3.9	2.5	JIS K 0101(2017)32.5　イオンクロマトグラフ法
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	JIS K 0102(2019) 55.4　ICP質量分析法
全シアン	mg/L	不検出 (0.01未満)	不検出 (0.01未満)	JIS K 0102(2019) 38.1.2 及び 38.3 4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法
鉛	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0102(2019) 54.4　ICP質量分析法
六価クロム	mg/L	0.005未満	0.005未満	JIS K 0102(2019) 65.2.5　ICP質量分析法
砒素	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0102(2019) 61.4　ICP質量分析法
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表2 還元気化原子吸光法
アルキル水銀	mg/L	不検出 (0.0005未満)	不検出 (0.0005未満)	昭和46年環境庁告示第59号 付表3 ガスクロマトグラフ法
PCB	mg/L	不検出 (0.0005未満)	不検出 (0.0005未満)	昭和46年環境庁告示第59号 付表4 ガスクロマトグラフ法
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	
クロロエチレン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	平成9年環境庁告示第10号 付表 第2 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	0.01未満	
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表5 固相抽出による高速液体クロマトグラフ法
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表6 第1 固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満	
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
セレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0102(2019) 67.4　ICP質量分析法
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.1	0.1	計算値（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5 亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.1
ふっ素	mg/L	0.09	0.08	JIS K 0102(2019) 34.1 ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法
ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満	JIS K 0102(2019) 47.3　ICP発光分光分析法
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表8 第3 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
外注に関する事項　なし				

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外
*印は、計量法で定めた表示

計 量 証 明 書

令和3年3月8日発行

株式会社スカイ環境研究所　様

ムラタ[redacted]ス株式会社
〒245-0[redacted]区秋葉町15番
[redacted]045(812)6411
[redacted]045(812)6410
特定計量[redacted]号:N-0044-01
計量証明事業所神奈川県知事登録
特定濃度：第1号
環境計量士(第2754[redacted]

ご依頼の試料の計量結果は下記のとおりであることを証明いたします。

試料の種類	地下水質
採取区分	自社採取
採取場所	愛知県瀬戸市山路町地先
採取年月日	令和3年1月16日
計量年月日	令和3年1月16日～令和3年2月5日

計量の対象、計量の結果及び計量の方法

計量の対象	試料名	単位	計量の結果		計量の方法
ダイオキシン類濃度	No.1 上流地点 (試料番号:DX2101001)	pg/L	実測濃度	4.3	JIS K 0312 :2008
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.035	
	No.2 下流地点 (試料番号:DX2101002)	pg/L	実測濃度	1.8	
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.035	

(備考)
1. ＊印は、計量証明の対象外である。
2. 毒性等量は、実測濃度が定量下限以上の数値と定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.1 上流地点　　試料番号： DX2101001

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.12	0.06	0.01	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.06	0.01	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.06	0.01	1	0.005
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.07	0.02	1	0.01
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.30	0.09	0.01	0.00045
	OCDD	0.8	0.8	0.2	0.0003	0.00024
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.04	0.01	0.03	0.00015
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.08	0.02	0.3	0.003
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.12	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.22	0.07	0.1	0.0035
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.21	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.4	0.1	0.01	0.0005
	OCDF	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.20	0.11	0.03	0.0001	0.000020
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.08	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.27	0.08	0.03	0.0012
	Total non-*ortho* PCBs	0.20	—	—	—	0.002232
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	(0.04)	0.12	0.04	0.00003	0.0000012
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	1.8	0.22	0.07	0.00003	0.000054
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.67	0.10	0.03	0.00003	0.0000201
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	(0.04)	0.14	0.04	0.00003	0.0000012
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.15	0.08	0.02	0.00003	0.0000045
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.04)	0.10	0.03	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.4	0.1	0.00003	0.0000015
	Total mono-*ortho* PCBs	2.8	—	—	—	0.0000846
PCDD	TeCDDs	0.17	—	—	—	—
	PeCDDs	ND	—	—	—	—
	HxCDDs	0.10	—	—	—	—
	HpCDDs	ND	—	—	—	—
	OCDD	0.8	—	—	—	—
	Total PCDDs	1.1	—	—	—	0.02019
PCDF	TeCDFs	0.10	—	—	—	—
	PeCDFs	0.06	—	—	—	—
	HxCDFs	0.06	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.23	—	—	—	0.012462
Total (PCDDs+PCDFs)		1.3	—	—	—	0.032652
Total Co-PCBs		3.0	—	—	—	0.0023166
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		4.3	—	—	—	0.035

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.2 下流地点　　試料番号： DX2101002

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.13	0.06	0.01	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.06	0.01	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.06	0.01	1	0.005
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.07	0.02	1	0.01
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.30	0.09	0.01	0.00045
	OCDD	(0.5)	0.8	0.2	0.0003	0.00015
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.04	0.01	0.03	0.00015
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.08	0.02	0.3	0.003
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.12	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.22	0.07	0.1	0.0035
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.21	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.4	0.1	0.01	0.0005
	OCDF	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.11	0.11	0.03	0.0001	0.000011
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.08	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.27	0.08	0.03	0.0012
	Total non-*ortho* PCBs	0.11	—	—	—	0.002223
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.12	0.04	0.00003	0.0000006
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	0.56	0.22	0.07	0.00003	0.0000168
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.23	0.10	0.03	0.00003	0.0000069
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.14	0.04	0.00003	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	(0.04)	0.08	0.02	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	ND	0.10	0.03	0.00003	0.00000045
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.4	0.1	0.00003	0.0000015
	Total mono-*ortho* PCBs	0.83	—	—	—	0.00002895
PCDD	TeCDDs	0.16	—	—	—	—
	PeCDDs	ND	—	—	—	—
	HxCDDs	0.04	—	—	—	—
	HpCDDs	0.09	—	—	—	—
	OCDD	0.5	—	—	—	—
	Total PCDDs	0.79	—	—	—	0.02010
PCDF	TeCDFs	0.04	—	—	—	—
	PeCDFs	0.03	—	—	—	—
	HxCDFs	ND	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.06	—	—	—	0.012462
Total (PCDDs+PCDFs)		0.86	—	—	—	0.032562
Total Co-PCBs		0.94	—	—	—	0.00225195
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		1.8	—	—	—	0.035

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.1 上流地点　　試料番号： DX2101001

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.12	0.06	0.01	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.06	0.01	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.06	0.01	1	0.005
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.07	0.02	1	0.01
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.30	0.09	0.01	0.00045
	OCDD	0.8	0.8	0.2	0.0003	0.00024
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.04	0.01	0.03	0.00015
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.08	0.02	0.3	0.003
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.12	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.22	0.07	0.1	0.0035
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.21	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.4	0.1	0.01	0.0005
	OCDF	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.20	0.11	0.03	0.0001	0.000020
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.08	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.27	0.08	0.03	0.0012
	Total non-*ortho* PCBs	0.20	—	—	—	0.002232
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	(0.04)	0.12	0.04	0.00003	0.0000012
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	1.8	0.22	0.07	0.00003	0.000054
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.67	0.10	0.03	0.00003	0.0000201
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	(0.04)	0.14	0.04	0.00003	0.0000012
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.15	0.08	0.02	0.00003	0.0000045
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.04)	0.10	0.03	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.4	0.1	0.00003	0.0000015
	Total mono-*ortho* PCBs	2.8	—	—	—	0.0000846
PCDD	TeCDDs	0.17	—	—	—	—
	PeCDDs	ND	—	—	—	—
	HxCDDs	0.10	—	—	—	—
	HpCDDs	ND	—	—	—	—
	OCDD	0.8	—	—	—	—
	Total PCDDs	1.1	—	—	—	0.02019
PCDF	TeCDFs	0.10	—	—	—	—
	PeCDFs	0.06	—	—	—	—
	HxCDFs	0.06	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.23	—	—	—	0.012462
Total (PCDDs+PCDFs)		1.3	—	—	—	0.032652
Total Co-PCBs		3.0	—	—	—	0.0023166
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		4.3	—	—	—	0.035

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.2 下流地点　　試料番号： DX2101002

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.13	0.06	0.01	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.06	0.01	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.06	0.01	1	0.005
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.07	0.02	1	0.01
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	ND	0.30	0.09	0.01	0.00045
	OCDD	(0.5)	0.8	0.2	0.0003	0.00015
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.09	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.04	0.01	0.03	0.00015
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.08	0.02	0.3	0.003
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.12	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.22	0.07	0.1	0.0035
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.21	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.4	0.1	0.01	0.0005
	OCDF	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.26	0.08	0.0003	0.000012
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.11	0.11	0.03	0.0001	0.000011
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.08	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.27	0.08	0.03	0.0012
	Total non-*ortho* PCBs	0.11	—	—	—	0.002223
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.12	0.04	0.00003	0.0000006
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	0.56	0.22	0.07	0.00003	0.0000168
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.23	0.10	0.03	0.00003	0.0000069
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.14	0.04	0.00003	0.0000006
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	(0.04)	0.08	0.02	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	ND	0.10	0.03	0.00003	0.00000045
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.4	0.1	0.00003	0.0000015
	Total mono-*ortho* PCBs	0.83	—	—	—	0.00002895
PCDD	TeCDDs	0.16	—	—	—	—
	PeCDDs	ND	—	—	—	—
	HxCDDs	0.04	—	—	—	—
	HpCDDs	0.09	—	—	—	—
	OCDD	0.5	—	—	—	—
	Total PCDDs	0.79	—	—	—	0.02010
PCDF	TeCDFs	0.04	—	—	—	—
	PeCDFs	0.03	—	—	—	—
	HxCDFs	ND	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.06	—	—	—	0.012462
Total (PCDDs+PCDFs)		0.86	—	—	—	0.032562
Total Co-PCBs		0.94	—	—	—	0.00225195
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		1.8	—	—	—	0.035

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

証明書番号：第C21095036号-1

計　量　証　明　書

2021年9月27日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計測[redacted]株式会社
横浜市戸[redacted]15番
[redacted]1870
計量証明事[redacted]事業登録
[redacted]11号
環境計量士（濃度）第9660号
[redacted]

試料の種類：地下水
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町地先
採　取　日：2021年8月20日

計量法第107条2号に基づく、濃度に係る計量の証明をいたします。

計量の対象	単位	計量の結果		計量の方法
		No.1 上流地点	No.2 下流地点	
水素イオン濃度(pH)	pH*	4.8(18.2℃)	5.9(19.4℃)	JIS K 0102(2019) 12.1　ガラス電極法
電気伝導率※	mS/m	3.9	5.2	JIS K 0102(2019) 13　電気伝導率
塩化物イオン	mg/L	2.4	2.6	JIS K 0102(2019) 35.3　イオンクロマトグラフ法
カドミウム	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	JIS K 0102(2019) 55.4　ICP質量分析法
全シアン	mg/L	不検出 (0.01未満)	不検出 (0.01未満)	JIS K 0102(2019) 38.1.2 及び 38.3 4-ピリジンカルボン酸-ピラゾロン吸光光度法
鉛	mg/L	0.002	0.001未満	JIS K 0102(2019) 54.4　ICP質量分析法
六価クロム	mg/L	0.005未満	0.005未満	JIS K 0102(2019) 65.2.5　ICP質量分析法
砒素	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0102(2019) 61.4　ICP質量分析法
総水銀	mg/L	0.0005未満	0.0005未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表2 還元気化原子吸光法
アルキル水銀	mg/L	不検出 (0.0005未満)	不検出 (0.0005未満)	昭和46年環境庁告示第59号 付表3 ガスクロマトグラフ法
PCB	mg/L	不検出 (0.0005未満)	不検出 (0.0005未満)	昭和46年環境庁告示第59号 付表4 ガスクロマトグラフ法
ジクロロメタン	mg/L	0.002未満	0.002未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
四塩化炭素	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	
クロロエチレン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	平成9年環境庁告示第10号 付表 第2 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.0004未満	0.0004未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.01未満	0.01未満	
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.004未満	0.004未満	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	0.1未満	0.1未満	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	
トリクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	
テトラクロロエチレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.0002未満	0.0002未満	
チウラム	mg/L	0.0006未満	0.0006未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表5 固相抽出による高速液体クロマトグラフ法
シマジン	mg/L	0.0003未満	0.0003未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表6 第1 固相抽出ガスクロマトグラフ質量分析法
チオベンカルブ	mg/L	0.002未満	0.002未満	
ベンゼン	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0125(2016) 5.2.1 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法
セレン	mg/L	0.001未満	0.001未満	JIS K 0102(2019) 67.4　ICP質量分析法
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.7	0.1未満	計算値（硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析値を合計し丸めた値） 硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.2.5 亜硝酸性窒素 JIS K 0102(2019) 43.1.1
ふっ素	mg/L	0.15	0.08未満	JIS K 0102(2019) 34.1 ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法
ほう素	mg/L	0.1未満	0.1未満	JIS K 0102(2019) 47.3　ICP発光分光分析法
1,4-ジオキサン	mg/L	0.005未満	0.005未満	昭和46年環境庁告示第59号 付表8 第3 ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析法

外注に関する事項　なし

〈備考〉
※印の項目は、計量証明の対象外
*印は、計量法で定めた表示

計 量 証 明 書

2021年9月17日発行

株式会社スカイ環境研究所　様

ムラタ計[redacted]株式会社
〒245-005[redacted]秋葉町15番
(812)6411
(812)6410
特定計量証[redacted]:N-0044-01
計量証明事業所神奈川県知事登録
特定濃度：第1号
環境計量士(第2754号)[redacted]

ご依頼の試料の計量結果は下記のとおりであることを証明いたします。

試料の種類	地下水質
採取区分	自社採取
採取場所	愛知県瀬戸市山路町地先
採取年月日	2021年8月20日
計量年月日	2021年8月20日～2021年9月17日

計量の対象、計量の結果及び計量の方法

計量の対象	試料名	単位	計量の結果		計量の方法
ダイオキシン類濃度	No.1 上流地点 (試料番号:DX2108001)	pg/L	実測濃度	5.1	JIS K 0312 :2020
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.037	
	No.2 下流地点 (試料番号:DX2108002)	pg/L	実測濃度	3.3	
		pg-TEQ/L*	毒性等量*	0.037	

(備考)
1. ＊印は、計量証明の対象外である。
2. 毒性等量は、実測濃度が定量下限以上の数値と定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.1 上流地点　　試料番号： DX2108001

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	0.13	0.09	0.02	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.05)	0.09	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.04	0.01	1	0.005
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	(0.09)	0.14	0.04	0.01	0.0009
	OCDD	0.71	0.20	0.06	0.0003	0.000213
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.3	0.009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.05	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	(0.01)	0.04	0.01	0.1	0.001
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.18	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0.000015
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.15	0.05	0.0003	0.0000075
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.25	0.07	0.02	0.0001	0.000025
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	Total non-*ortho* PCBs	0.25	—	—	—	0.0019325
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.23	0.07	0.00003	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	2.3	0.3	0.1	0.00003	0.000069
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.91	0.23	0.07	0.00003	0.0000273
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	(0.09)	0.18	0.06	0.00003	0.0000027
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	(0.09)	0.26	0.08	0.00003	0.0000027
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.15	0.10	0.03	0.00003	0.0000045
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.05)	0.05	0.01	0.00003	0.0000015
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
	Total mono-*ortho* PCBs	3.6	—	—	—	0.00011010
PCDD	TeCDDs	0.18	—	—	—	—
	PeCDDs	0.09	—	—	—	—
	HxCDDs	0.05	—	—	—	—
	HpCDDs	0.18	—	—	—	—
	OCDD	0.71	—	—	—	—
	Total PCDDs	1.2	—	—	—	0.019113
PCDF	TeCDFs	0.03	—	—	—	—
	PeCDFs	ND	—	—	—	—
	HxCDFs	0.01	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	0.04	—	—	—	0.015515
Total (PCDDs+PCDFs)		1.2	—	—	—	0.034628
Total Co-PCBs		3.9	—	—	—	0.00204260
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		5.1	—	—	—	0.037

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

試料名： No.2 下流地点　　試料番号： DX2108002

化合物の名称等		実測濃度 (pg/L)	試料における定量下限 (pg/L)	試料における検出下限 (pg/L)	毒性等価係数 TEF	毒性等量 (pg-TEQ/L)
PCDD	1,3,6,8-TeCDD	(0.08)	0.09	0.02	—	—
	1,3,7,9-TeCDD	(0.04)	0.09	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDD	ND	0.09	0.02	1	0.01
	1,2,3,7,8-PeCDD	ND	0.04	0.01	1	0.005
	1,2,3,4,7,8-HxCDD	ND	0.11	0.03	0.1	0.0015
	1,2,3,6,7,8-HxCDD	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8,9-HxCDD	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDD	(0.06)	0.14	0.04	0.01	0.0006
	OCDD	0.64	0.20	0.06	0.0003	0.000192
PCDF	1,2,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	—	—
	2,3,7,8-TeCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,7,8-PeCDF	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	2,3,4,7,8-PeCDF	ND	0.20	0.06	0.3	0.009
	1,2,3,4,7,8-HxCDF	ND	0.06	0.02	0.1	0.001
	1,2,3,6,7,8-HxCDF	ND	0.05	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,7,8,9-HxCDF	ND	0.10	0.03	0.1	0.0015
	2,3,4,6,7,8-HxCDF	ND	0.04	0.01	0.1	0.0005
	1,2,3,4,6,7,8-HpCDF	ND	0.18	0.06	0.01	0.0003
	1,2,3,4,7,8,9-HpCDF	ND	0.19	0.06	0.01	0.0003
	OCDF	ND	0.4	0.1	0.0003	0.000015
コプラナーPCB ノンオルト	3,4,4',5-TeCB (#81)	ND	0.15	0.05	0.0003	0.0000075
	3,3',4,4'-TeCB (#77)	0.30	0.07	0.02	0.0001	0.000030
	3,3'4,4',5-PeCB (#126)	(0.02)	0.06	0.02	0.1	0.002
	3,3',4,4',5,5'-HxCB (#169)	ND	0.19	0.06	0.03	0.0009
	Total non-*ortho* PCBs	0.32	—	—	—	0.0029375
コプラナーPCB モノオルト	2',3,4,4',5-PeCB (#123)	ND	0.23	0.07	0.00003	0.00000105
	2,3',4,4',5-PeCB (#118)	1.3	0.3	0.1	0.00003	0.000039
	2,3,3',4,4'-PeCB (#105)	0.59	0.23	0.07	0.00003	0.0000177
	2,3,4,4',5-PeCB (#114)	ND	0.18	0.06	0.00003	0.0000009
	2,3',4,4',5,5'-HxCB (#167)	ND	0.26	0.08	0.00003	0.0000012
	2,3,3',4,4',5-HxCB (#156)	0.10	0.10	0.03	0.00003	0.0000030
	2,3,3',4,4',5'-HxCB (#157)	(0.03)	0.05	0.01	0.00003	0.0000009
	2,3,3',4,4',5,5'-HpCB (#189)	ND	0.29	0.09	0.00003	0.00000135
	Total mono-*ortho* PCBs	2.0	—	—	—	0.00006510
PCDD	TeCDDs	0.12	—	—	—	—
	PeCDDs	0.03	—	—	—	—
	HxCDDs	ND	—	—	—	—
	HpCDDs	0.13	—	—	—	—
	OCDD	0.64	—	—	—	—
	Total PCDDs	0.91	—	—	—	0.018792
PCDF	TeCDFs	ND	—	—	—	—
	PeCDFs	ND	—	—	—	—
	HxCDFs	ND	—	—	—	—
	HpCDFs	ND	—	—	—	—
	OCDF	ND	—	—	—	—
	Total PCDFs	ND	—	—	—	0.015015
Total (PCDDs+PCDFs)		0.91	—	—	—	0.033807
Total Co-PCBs		2.4	—	—	—	0.00300260
Total (PCDDs+PCDFs+Co-PCBs)		3.3	—	—	—	0.037

1. 実測濃度中の括弧付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度中の“ND”は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等量は、2,3,7,8-TeCDD毒性等量を示す。毒性等価係数（TEF)は、以下の係数を適用した。
   PCDDs,PCDFs：WHO-TEF(2006)
   Co-PCBs：WHO-TEF(2006)
4. 毒性等量は、実測濃度が定量下限未満、検出下限以上の数値はそのままその値を用い、
   検出下限未満の数値は、試料における検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

証明書番号: 第 S 21120001 号

計 量 証 明 書

2021年12月23日 発行

株式会社 東立テクノクラシー 様

ムラタ計[redacted]株式会社
横 浜 市[redacted]町 15 番
[redacted]312)6411
計量証明[redacted]知事登録
濃[redacted]第 11 号
音 圧 レ ベ ル 第 3 号
振動加速度レベル 第 1 号
環境計量士 (第 環 6 0 7 9 号)[redacted]

計量法第107条2号に基づく、音圧レベルに係る計量の証明をいたします。

測 定 地 点　愛知県瀬戸市山路町地先 3地点、瀬戸市塩原町地先 1地点、
瀬戸市太子町地先 1地点、 計5地点

測定年月日　2020年12月1日 12時 ～ 2020年12月2日 12時 (No.1、No.2、No.4、No.5)
2021年1月20日 12時 ～ 2021年1月21日 12時 (No.3のみ)

計量の対象および計量の方法

計量の対象	計量の方法
騒音レベル	平成10年環境庁告示第64号(騒音に係る環境基準について)

測定機器　リオン(株) 積分形普通騒音計 NL-42

測定条件　地上高1.2m、周波数重み特性A特性、時間重み特性F特性とした。

計量の結果　「騒音測定結果 証明書番号:第S21120001号(1/5)～(5/5)」による

備　　考: —

外注に関する事項: —

表　騒音測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 1

観測時間	dB						
	等価騒音レベル	時間率騒音レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
01 12～13	48.8	51.9	50.1	46.9	45.3	44.9	67.8
01 13～14	52.2	55.9	54.3	50.5	48.5	48.2	69.4
01 14～15	51.7	55.4	53.5	49.9	48.0	47.6	67.9
01 15～16	51.3	54.5	53.1	50.3	48.5	48.1	65.8
01 16～17	50.3	53.2	51.3	48.8	47.8	47.6	70.7
01 17～18	49.5	51.5	49.8	48.6	47.9	47.7	64.9
01 18～19	50.1	51.5	51.2	50.0	49.0	48.8	60.8
01 19～20	50.6	52.1	51.3	49.8	48.9	48.7	78.3
01 20～21	49.7	50.7	50.4	49.6	48.8	48.7	54.7
01 21～22	49.7	50.7	50.5	49.7	48.9	48.6	54.9
01 22～23	49.6	50.6	50.4	49.6	48.8	48.6	54.2
01 23～00	49.6	50.8	50.5	49.6	48.7	48.5	53.3
02 00～01	49.9	51.0	50.7	49.8	48.8	48.7	53.7
02 01～02	50.1	51.0	50.8	50.0	49.2	49.1	53.0
02 02～03	49.7	50.7	50.5	49.6	48.9	48.7	53.2
02 03～04	49.5	50.4	50.2	49.4	48.7	48.5	52.8
02 04～05	49.8	50.8	50.5	49.6	48.9	48.7	52.4
02 05～06	49.7	51.0	50.7	49.6	48.8	48.6	55.7
02 06～07	52.6	54.4	53.3	51.2	49.9	49.6	78.8
02 07～08	52.8	54.6	53.7	52.1	50.8	50.6	74.4
02 08～09	51.7	54.6	53.3	50.5	49.2	48.9	74.3
02 09～10	51.1	55.3	52.9	48.7	47.6	47.4	74.6
02 10～11	51.5	56.0	53.6	48.6	47.2	46.9	70.2
02 11～12	51.1	55.6	53.1	48.7	46.7	46.4	71.2
全日	51	53	52	50	48	48	79
朝	53	55	54	52	50	50	79
昼間	51	54	52	49	48	48	75
夕	50	51	51	50	49	49	78
夜間	50	51	51	50	49	49	56

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価騒音レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率騒音レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　朝:6～8時　昼間:8～19時　夕:19～22時　夜間:22～6時

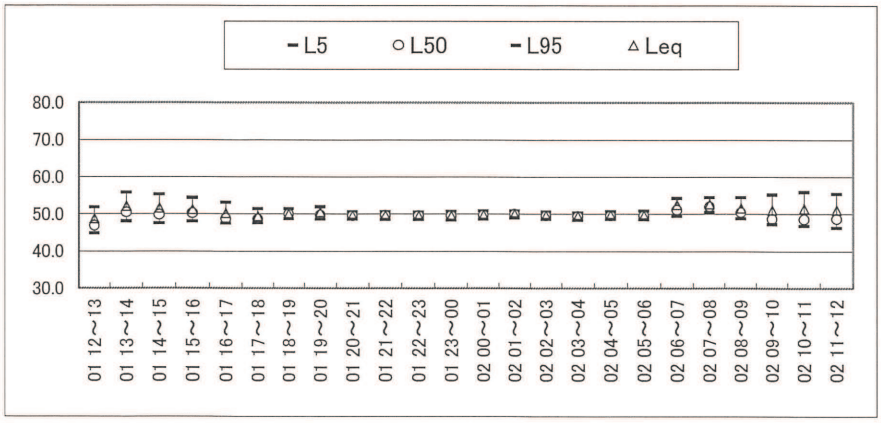


表　騒音測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 2

観測時間	dB						
	等価騒音レベル	時間率騒音レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
01 12～13	51.0	53.3	52.2	50.1	48.9	48.6	70.3
01 13～14	50.5	52.6	51.7	49.9	48.7	48.4	67.5
01 14～15	50.3	52.3	51.4	49.8	48.8	48.6	66.5
01 15～16	51.0	53.1	52.0	50.2	49.0	48.7	73.8
01 16～17	50.6	52.7	51.7	49.9	49.0	48.8	68.7
01 17～18	51.2	53.0	52.0	50.6	49.8	49.6	66.0
01 18～19	51.5	52.3	52.1	51.4	50.8	50.6	61.4
01 19～20	51.5	52.5	52.0	51.1	50.4	50.2	78.5
01 20～21	50.1	51.0	50.7	50.0	49.4	49.3	58.1
01 21～22	50.2	51.0	50.8	50.1	49.5	49.4	54.9
01 22～23	50.3	51.1	50.9	50.3	49.8	49.6	56.9
01 23～00	50.3	51.1	50.9	50.3	49.7	49.5	59.4
02 00～01	50.3	51.0	50.9	50.3	49.7	49.6	52.5
02 01～02	50.5	51.3	51.1	50.4	49.8	49.6	60.4
02 02～03	50.4	51.1	51.0	50.4	49.8	49.7	62.0
02 03～04	50.3	51.0	50.9	50.2	49.6	49.5	52.9
02 04～05	50.6	51.3	51.2	50.6	50.0	49.9	56.8
02 05～06	51.4	52.3	52.0	51.3	50.7	50.6	58.5
02 06～07	51.9	53.0	52.6	51.8	51.1	51.0	63.2
02 07～08	51.8	52.7	52.3	51.4	50.8	50.7	79.4
02 08～09	53.3	54.4	54.0	53.0	51.6	51.3	70.7
02 09～10	53.7	55.9	55.0	52.8	51.2	51.0	71.7
02 10～11	50.8	51.9	51.4	50.4	49.7	49.5	67.4
02 11～12	49.7	51.7	50.5	49.0	48.2	48.0	73.1
全日	51	52	52	51	50	50	79
朝	52	53	52	52	51	51	79
昼間	51	53	52	51	50	49	74
夕	51	52	51	50	50	50	79
夜間	51	51	51	50	50	50	62

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価騒音レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率騒音レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
朝:6～8時 昼間:8～19時 夕:19～22時 夜間:22～6時

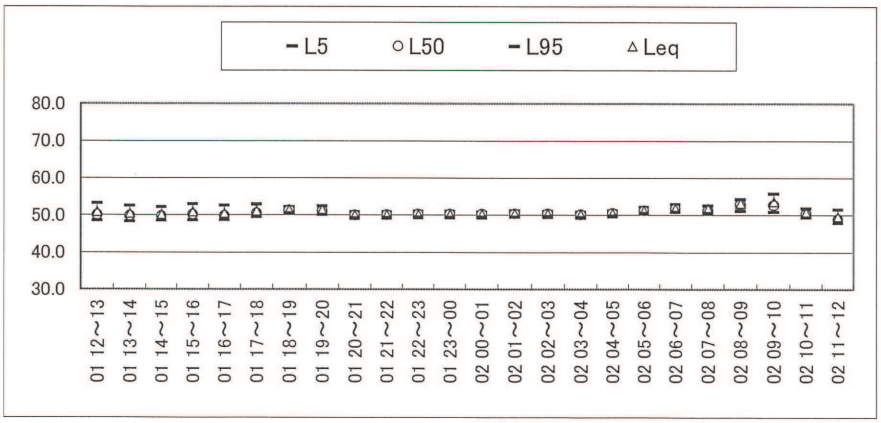


表　騒音測定結果

測定日：　2021年01月20日(水) ～ 2021年01月21日(木)
測定地点：No. 3

観測時間	dB						
	等価騒音レベル	時間率騒音レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
20 12～13	53.8	58.4	55.5	49.7	47.7	47.3	72.6
20 13～14	56.5	62.7	59.6	51.5	48.0	47.5	77.0
20 14～15	58.3	63.2	60.7	53.6	49.9	49.3	80.6
20 15～16	58.5	63.6	61.5	54.4	50.1	49.4	74.9
20 16～17	56.0	60.2	57.9	51.2	48.2	47.7	75.8
20 17～18	49.6	52.4	50.1	46.7	45.8	45.6	69.1
20 18～19	47.3	48.5	47.5	46.3	45.6	45.4	64.8
20 19～20	46.7	47.6	46.9	46.1	45.5	45.4	64.1
20 20～21	48.5	49.2	48.8	48.1	47.2	47.0	62.5
20 21～22	50.6	51.5	51.3	50.5	49.8	49.6	56.2
20 22～23	51.9	52.9	52.6	51.8	51.1	50.8	54.8
20 23～00	52.0	53.0	52.7	52.0	51.2	51.0	55.9
21 00～01	51.6	52.6	52.4	51.5	50.8	50.6	55.7
21 01～02	51.5	52.4	52.2	51.5	50.9	50.7	54.1
21 02～03	51.9	52.8	52.6	51.9	51.3	51.1	60.8
21 03～04	52.1	52.8	52.5	51.8	51.1	51.0	68.7
21 04～05	51.6	52.7	52.5	51.6	50.7	50.5	54.3
21 05～06	53.5	55.2	54.3	52.2	51.1	50.9	71.7
21 06～07	57.0	59.0	56.3	54.3	53.2	53.1	75.7
21 07～08	57.7	60.8	56.9	52.9	51.9	51.7	77.6
21 08～09	59.3	62.5	59.1	54.5	52.7	52.3	82.0
21 09～10	61.8	67.9	63.3	53.5	49.8	49.2	84.3
21 10～11	58.3	63.8	61.2	54.5	51.2	50.7	75.6
21 11～12	58.1	63.4	61.1	54.3	50.3	49.7	73.0
全日	56	57	55	52	50	49	84
朝	57	60	57	54	53	52	78
昼間	58	61	58	52	49	49	84
夕	49	49	49	48	48	47	64
夜間	52	53	53	52	51	51	72

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価騒音レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率騒音レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
朝:6～8時 昼間:8～19時 夕:19～22時 夜間:22～6時

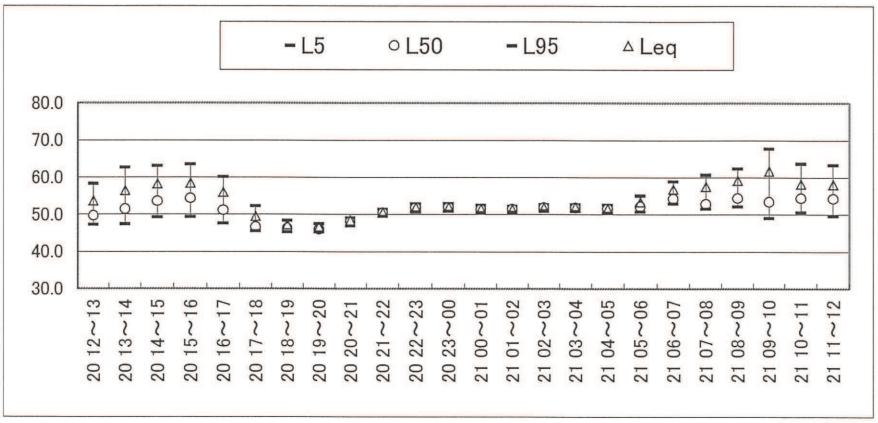


表　騒音測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No.4

観測時間	dB						
	等価騒音レベル	時間率騒音レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
01 12～13	66.1	71.6	67.5	49.1	39.4	38.7	89.4
01 13～14	65.6	71.2	66.8	49.1	40.9	40.0	90.1
01 14～15	65.7	71.2	66.8	47.8	38.8	37.8	87.7
01 15～16	66.3	72.4	68.7	53.2	41.5	40.1	87.9
01 16～17	65.1	70.8	66.6	50.0	40.0	39.1	88.1
01 17～18	63.5	69.8	66.3	50.1	39.8	38.6	88.4
01 18～19	61.8	68.0	63.3	44.0	36.9	36.1	84.2
01 19～20	60.8	65.8	60.4	42.8	36.4	35.6	86.4
01 20～21	58.3	62.8	55.5	40.0	34.6	33.5	80.8
01 21～22	57.9	60.5	54.0	37.2	33.2	32.6	81.3
01 22～23	54.1	53.0	46.6	36.0	32.9	32.4	79.9
01 23～00	51.7	47.2	41.5	33.9	31.7	31.4	80.0
02 00～01	47.7	41.7	37.1	32.1	30.7	30.5	80.3
02 01～02	40.5	38.6	36.5	32.6	31.4	31.2	72.7
02 02～03	43.8	41.3	38.9	34.1	32.4	32.2	80.1
02 03～04	52.1	45.4	40.3	33.9	32.0	31.8	82.2
02 04～05	56.8	48.1	43.4	35.2	32.8	32.5	89.9
02 05～06	60.0	62.4	55.1	38.5	35.0	34.6	85.2
02 06～07	62.3	67.7	62.7	44.4	39.2	38.7	82.8
02 07～08	65.5	72.2	69.0	52.1	41.1	40.2	92.4
02 08～09	66.9	72.5	69.2	52.7	40.1	39.1	88.5
02 09～10	66.8	72.5	68.1	49.6	38.3	37.6	91.4
02 10～11	65.0	70.5	66.0	50.4	38.6	37.6	88.4
02 11～12	65.7	71.1	66.6	49.4	38.4	37.5	88.0
全日	63	62	57	43	37	36	92
昼間	65	69	65	48	39	38	92
夜間	54	47	42	35	32	32	90

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価騒音レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率騒音レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　昼間:6～22時 夜間:22～6時

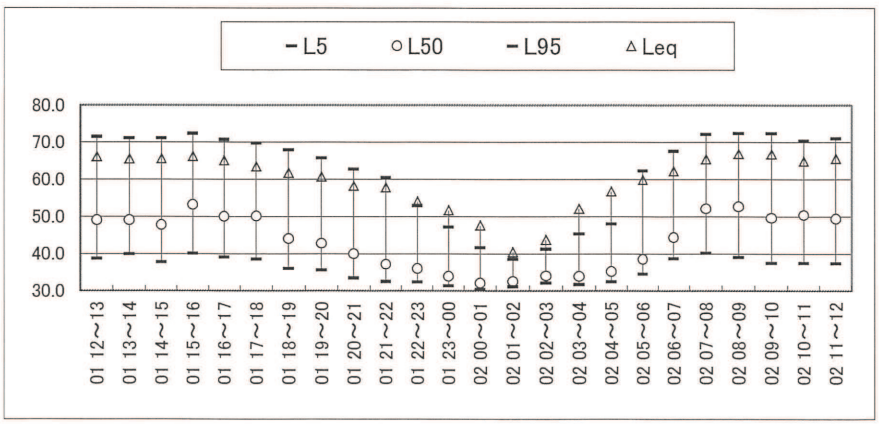
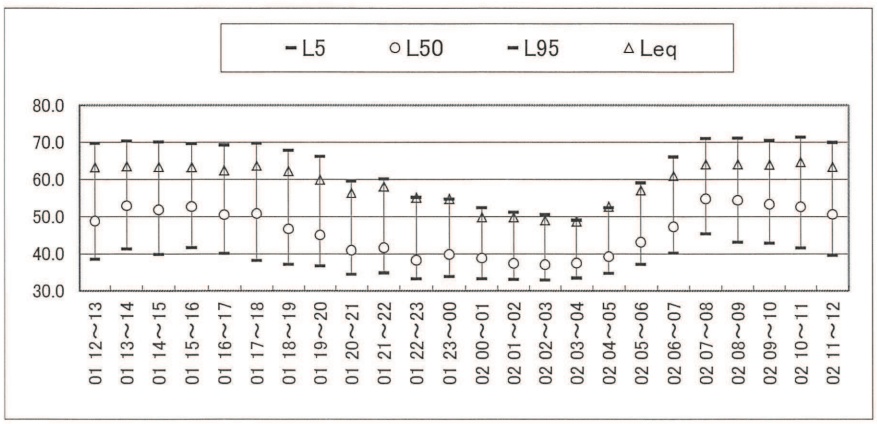


表　騒音測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No.5

観測時間	dB						
	等価騒音レベル	時間率騒音レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
01 12～13	63.3	69.8	65.8	48.8	40.1	38.6	86.4
01 13～14	63.6	70.4	67.3	52.9	43.4	41.4	81.2
01 14～15	63.4	70.2	66.9	51.8	41.5	39.9	81.3
01 15～16	63.3	69.7	66.6	52.7	43.4	41.7	83.2
01 16～17	62.5	69.3	66.0	50.5	41.6	40.1	80.7
01 17～18	63.7	69.8	66.9	50.8	40.0	38.3	91.1
01 18～19	62.3	67.9	63.6	46.7	38.3	37.2	87.5
01 19～20	60.0	66.3	60.9	45.0	37.8	36.8	84.9
01 20～21	56.4	59.6	54.3	40.9	35.3	34.5	80.2
01 21～22	58.1	60.2	54.1	41.6	35.7	34.9	87.4
01 22～23	55.1	55.2	50.2	38.3	33.9	33.3	81.2
01 23～00	54.8	54.8	49.8	39.8	34.7	33.9	82.7
02 00～01	49.9	52.4	49.3	38.8	34.0	33.3	75.9
02 01～02	49.9	51.2	47.8	37.4	33.7	33.1	76.6
02 02～03	49.0	50.6	46.9	37.0	33.5	33.0	76.6
02 03～04	48.7	49.1	46.0	37.5	34.0	33.5	79.7
02 04～05	52.7	52.4	48.2	39.2	35.6	34.8	79.4
02 05～06	57.1	59.1	53.9	43.1	38.1	37.2	79.3
02 06～07	61.0	66.1	61.0	47.2	41.1	40.2	81.9
02 07～08	64.1	71.1	68.3	54.8	46.7	45.4	82.0
02 08～09	64.1	71.2	67.8	54.4	45.2	43.2	81.2
02 09～10	64.0	70.6	67.2	53.3	44.7	42.9	83.6
02 10～11	64.7	71.4	67.6	52.6	43.2	41.6	87.4
02 11～12	63.4	70.0	66.3	50.6	41.3	39.7	83.7
全日	61	63	59	46	39	38	91
昼間	63	68	64	50	41	40	91
夜間	53	53	49	39	35	34	83

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価騒音レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率騒音レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　昼間:6～22時　夜間:22～6時



証明書番号：第Ｖ21120001 号

計 量 証 明 書

2021年12月23日 発行

株式会社 東立テクノクラシー　様

ムラタ計[redacted]式会社
横浜市[redacted]町 15 番
[redacted]312)6411
計量証明[redacted]知事登録
濃[redacted]第 11 号
音 圧 レ ベ ル　第 3 号
振動加速度レベル　第 1 号
環境計量士 （第 環 6 0 7 9 号）[redacted]

計量法第107条2号に基づく、振動加速度レベルに係る計量の証明をいたします。

測 定 地 点　　愛知県瀬戸市山路町地先 3地点、瀬戸市塩原町地先 1地点、
瀬戸市太子町地先 1地点、　計5地点

測定年月日　　2020年12月1日　12時　～　2020年12月2日　12時 (No.1、No.2、No.4、No.5)
2021年1月20日　12時　～　2021年1月21日　12時 (No.3のみ)

計量の対象および計量の方法

計量の対象	計量の方法
振動レベル	JIS Z 8735:1981（振動レベル測定方法）

測定機器　　リオン（株） 振動レベル計 VM-55

測定条件　　振動感覚補正回路は鉛直振動特性とした。

計量の結果　　「振動測定結果 証明書番号：第V21120001号(1/5)～(5/5)」による

備　　考：—

外注に関する事項：—

表　振動測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 1

観測時間	dB						
	等価振動レベル	時間率振動レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
12～13	30.7	32.8	31.1	28.0	27.8	27.7	47.9
13～14	32.9	35.6	34.0	29.6	28.8	28.6	55.3
14～15	31.9	35.1	32.1	29.7	29.1	28.8	49.2
15～16	31.4	33.1	31.3	29.7	29.0	28.7	51.9
16～17	30.0	31.7	29.7	28.7	28.5	28.4	47.0
17～18	28.6	28.8	28.8	28.5	28.4	28.3	32.8
18～19	28.6	28.9	28.8	28.6	28.4	28.4	29.3
19～20	28.7	28.9	28.8	28.6	28.4	28.4	31.1
20～21	28.6	28.9	28.8	28.6	28.4	28.4	29.2
21～22	28.6	28.9	28.8	28.6	28.4	28.4	29.2
22～23	28.6	28.9	28.8	28.6	28.4	28.4	29.2
23～00	28.6	28.9	28.8	28.6	28.4	28.3	29.2
00～01	28.6	28.8	28.8	28.6	28.4	28.3	29.3
01～02	28.6	28.8	28.7	28.6	28.4	28.3	29.2
02～03	28.5	28.8	28.7	28.5	28.4	28.3	29.1
03～04	28.5	28.8	28.7	28.5	28.3	28.2	29.4
04～05	28.5	28.8	28.7	28.5	28.3	28.3	30.1
05～06	28.5	28.8	28.7	28.5	28.3	28.2	33.0
06～07	31.2	34.4	32.0	28.9	28.5	28.4	46.2
07～08	30.6	32.4	30.7	30.0	29.2	28.9	42.5
08～09	31.6	34.0	31.7	30.6	29.7	29.2	46.9
09～10	32.3	35.4	33.2	29.3	28.7	28.5	50.6
10～11	34.1	39.2	36.9	30.0	29.0	28.7	49.7
11～12	32.4	36.1	33.4	29.6	28.7	28.4	46.5
全日	30	31	30	29	29	28	55
昼間	31	33	32	29	29	29	55
夜間	29	29	29	29	28	28	46

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価振動レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率振動レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　時間の区分 昼間:7～20時 夜間:20～7時
4. 25db未満は検出下限以下。

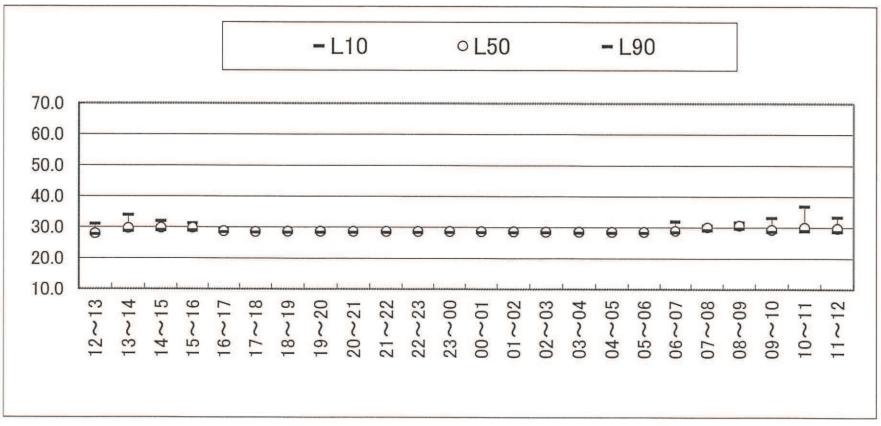


表　振動測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 2

観測時間	dB						
	等価振動レベル	時間率振動レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
12～13	16.2	18.5	17.6	15.4	14.1	13.9	35.5
13～14	16.3	18.0	17.3	15.7	14.7	14.4	32.8
14～15	17.4	19.6	18.1	15.6	14.7	14.4	36.9
15～16	15.7	17.5	16.5	14.9	14.0	13.7	30.7
16～17	15.1	16.9	15.9	14.3	13.4	13.2	31.2
17～18	15.3	16.1	15.3	14.2	13.2	12.9	40.0
18～19	14.6	15.8	15.1	14.1	13.1	12.8	33.3
19～20	14.8	16.2	15.2	13.9	12.9	12.6	33.0
20～21	13.9	15.0	14.7	13.7	12.6	12.3	32.5
21～22	14.9	15.1	14.8	13.9	12.9	12.6	42.7
22～23	13.9	15.0	14.8	13.8	12.9	12.7	18.4
23～00	13.1	14.2	13.9	13.0	12.1	11.8	16.2
00～01	12.3	13.3	13.0	12.3	11.5	11.3	14.7
01～02	15.5	15.7	15.5	14.9	14.3	14.1	36.8
02～03	16.5	17.2	17.0	16.5	15.9	15.7	18.6
03～04	16.6	17.3	17.1	16.5	16.0	15.8	26.0
04～05	16.3	17.0	16.8	16.2	15.6	15.5	26.0
05～06	16.8	18.1	17.2	16.4	15.7	15.6	31.7
06～07	16.8	17.5	17.2	16.5	15.9	15.8	33.1
07～08	17.2	18.5	17.8	16.8	16.1	16.0	31.6
08～09	25.5	26.6	26.3	24.4	23.6	23.4	36.6
09～10	26.1	27.2	26.9	25.9	25.0	24.8	36.4
10～11	22.8	21.0	20.1	18.6	15.7	15.4	35.6
11～12	15.8	17.9	16.5	14.5	13.6	13.3	32.6
全日	19	18	17	16	15	15	43
昼間	20	19	18	17	16	15	40
夜間	15	16	16	15	14	14	43

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価振動レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率振動レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　時間の区分 昼間:7～20時 夜間:20～7時
4. 25db未満は検出下限以下。

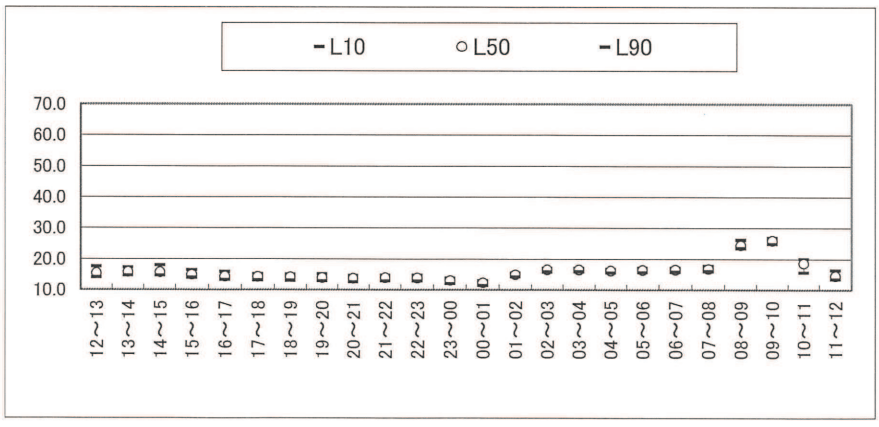


表　振動測定結果

測定日：　2021年01月20日(水) ～ 2021年01月21日(木)
測定地点：No. 3

観測時間	dB						
	等価振動レベル	時間率振動レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
12～13	36.2	39.1	35.3	28.0	22.4	20.8	58.7
13～14	37.8	43.6	39.5	31.7	28.7	28.1	58.6
14～15	37.8	43.2	40.2	30.1	23.7	22.4	54.8
15～16	37.1	42.5	38.8	29.6	22.5	20.9	59.7
16～17	35.4	38.9	35.3	25.4	20.1	18.8	58.8
17～18	29.5	26.7	22.0	12.1	9.4	9.0	56.3
18～19	21.6	13.9	11.4	9.1	7.9	7.6	52.0
19～20	14.0	13.9	11.1	9.2	8.0	7.7	37.7
20～21	13.0	14.0	12.2	10.8	9.7	9.4	32.4
21～22	12.0	13.0	12.7	11.6	10.3	10.0	25.6
22～23	17.8	19.2	18.7	16.9	14.7	14.3	23.0
23～00	18.6	20.7	20.2	18.3	16.6	16.1	29.5
00～01	18.4	20.5	19.9	18.1	16.3	15.9	23.3
01～02	18.2	20.3	19.7	17.9	16.1	15.7	22.8
02～03	18.2	20.2	19.7	17.9	16.2	15.7	30.9
03～04	21.0	20.5	20.0	18.0	16.3	15.8	45.7
04～05	18.3	20.4	19.8	18.0	16.5	16.0	22.8
05～06	27.0	27.1	23.9	18.6	16.7	16.2	48.9
06～07	33.1	36.7	29.5	20.6	16.6	16.2	51.8
07～08	33.8	35.9	31.4	21.9	18.8	18.2	55.2
08～09	36.9	41.8	38.0	29.0	24.7	23.8	54.7
09～10	39.1	45.2	41.8	32.2	28.3	27.4	57.1
10～11	38.7	44.0	40.4	33.3	28.7	27.5	57.4
11～12	40.4	46.7	43.2	33.3	26.4	24.8	58.6
全日	34	30	27	21	18	17	60
昼間	37	37	33	25	21	20	60
夜間	25	21	20	17	15	15	52

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価振動レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率振動レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　時間の区分　昼間:7～20時　夜間:20～7時
4. 25db未満は検出下限以下。

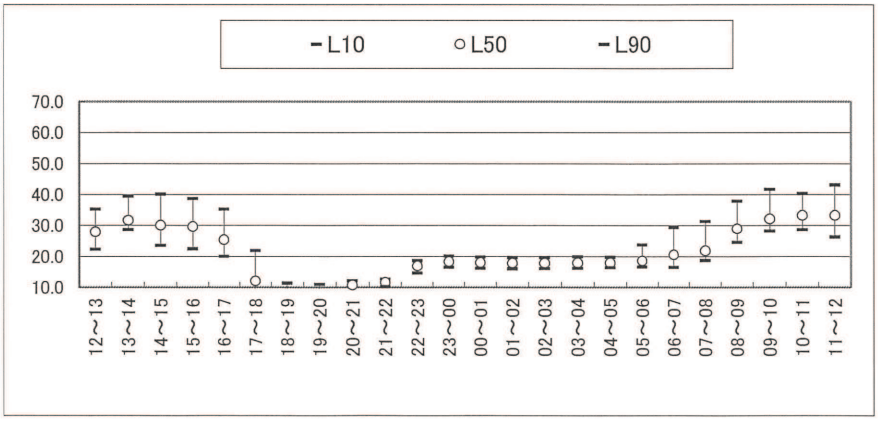


表　振動測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 4

観測時間	dB						
	等価振動レベル	時間率振動レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
12～13	25.7	30.1	25.4	18.3	16.5	15.9	45.8
13～14	25.1	29.1	24.7	18.1	16.4	15.9	46.1
14～15	24.5	29.7	24.5	12.7	10.6	10.3	45.8
15～16	25.6	31.9	27.2	12.2	9.9	9.6	46.1
16～17	23.4	29.3	24.8	11.8	10.4	10.1	41.8
17～18	21.7	27.0	23.1	11.8	10.3	10.0	44.7
18～19	20.3	25.7	20.4	11.2	9.9	9.6	44.7
19～20	19.0	23.4	17.8	10.8	9.6	9.3	41.9
20～21	16.4	19.5	14.0	11.1	10.0	9.7	40.0
21～22	16.1	17.4	13.0	11.0	10.1	9.8	36.5
22～23	13.8	15.2	12.9	11.2	10.3	10.1	33.7
23～00	12.3	12.8	12.3	11.3	10.4	10.2	31.0
00～01	13.6	12.8	12.3	11.4	10.5	10.3	42.2
01～02	11.6	12.7	12.3	11.3	10.5	10.3	24.9
02～03	12.2	14.1	13.0	11.5	10.6	10.4	27.3
03～04	13.1	13.0	12.6	11.6	10.8	10.5	36.1
04～05	16.2	13.6	12.2	10.8	9.8	9.6	45.3
05～06	18.9	17.5	12.8	10.8	9.8	9.6	43.5
06～07	21.9	26.2	21.1	11.1	9.6	9.2	43.5
07～08	24.8	30.2	27.0	10.7	8.8	8.4	51.4
08～09	25.8	31.4	27.1	11.1	8.7	8.3	44.6
09～10	27.0	32.6	26.8	11.4	9.7	9.3	52.2
10～11	25.5	29.5	24.3	13.0	11.5	11.2	46.3
11～12	25.6	30.2	24.9	12.9	11.2	10.9	48.7
全日	23	23	19	12	11	10	52
昼間	25	29	24	13	11	11	52
夜間	16	16	14	11	10	10	45

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価振動レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率振動レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
   時間の区分 昼間:7～20時 夜間:20～7時
4. 25db未満は検出下限以下。

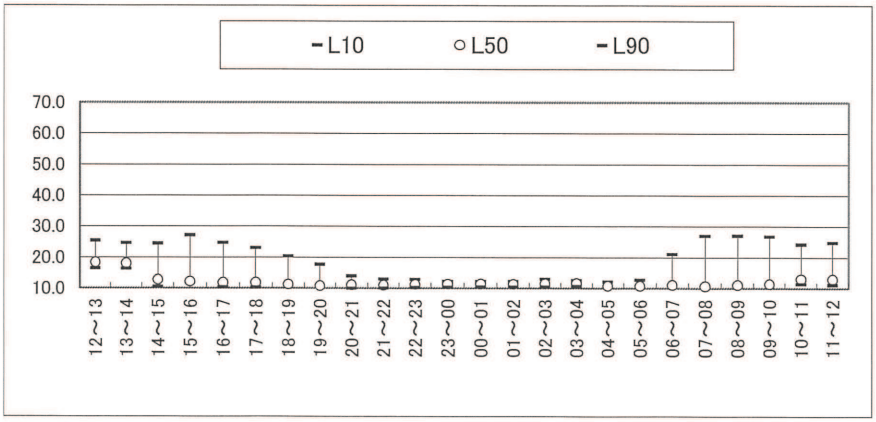
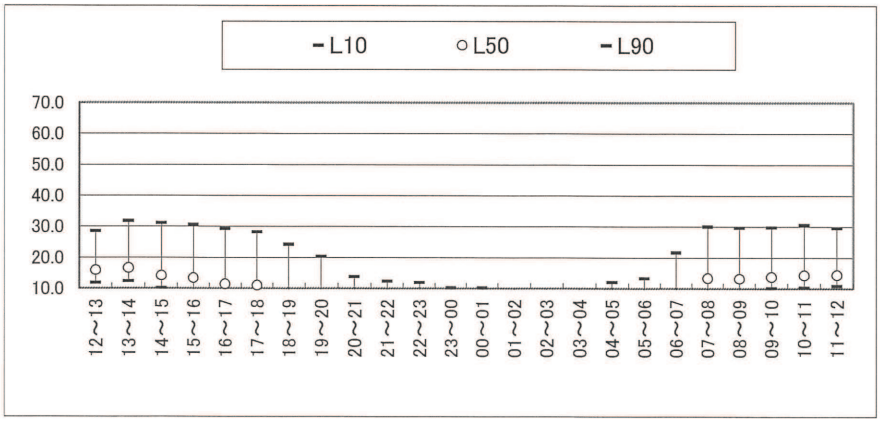


表　振動測定結果

測定日：　2020年12月01日(火) ～ 2020年12月02日(水)
測定地点：No. 5

観測時間	dB						
	等価振動レベル	時間率振動レベル					
	L_{eq}	L_5	L_{10}	L_{50}	L_{90}	L_{95}	L_{max}
12～13	31.0	34.4	28.6	15.9	11.9	11.1	52.5
13～14	31.3	37.2	31.9	16.6	12.5	11.6	50.0
14～15	31.4	36.3	31.2	14.1	10.2	9.5	50.0
15～16	31.1	35.5	30.7	13.4	9.0	8.4	49.8
16～17	29.9	33.8	29.4	11.4	8.3	7.9	49.9
17～18	26.2	31.6	28.3	11.0	7.9	7.4	45.6
18～19	24.0	29.3	24.3	9.6	7.5	7.0	46.2
19～20	22.3	28.1	20.4	9.1	7.2	6.8	46.9
20～21	21.3	19.9	13.9	8.6	7.0	6.6	45.5
21～22	21.1	19.0	12.5	8.6	7.1	6.7	51.0
22～23	19.6	15.9	12.0	8.6	7.1	6.7	46.0
23～00	22.9	13.5	10.3	8.4	7.0	6.6	55.2
00～01	20.6	12.7	10.3	8.3	6.9	6.6	52.6
01～02	10.8	10.6	9.9	8.3	6.9	6.5	34.4
02～03	12.0	10.9	9.9	8.3	6.9	6.5	36.2
03～04	14.1	10.6	9.8	8.3	6.9	6.6	44.8
04～05	19.8	15.9	12.1	8.4	6.9	6.6	46.3
05～06	24.0	19.1	13.4	8.6	7.1	6.7	48.8
06～07	26.8	27.6	21.7	9.4	7.2	6.8	48.4
07～08	28.8	33.2	30.1	13.4	8.3	7.7	49.9
08～09	29.6	33.6	29.7	13.2	9.2	8.6	49.5
09～10	31.7	35.6	29.8	13.8	10.2	9.6	53.0
10～11	32.3	36.4	30.7	14.3	10.4	9.7	52.9
11～12	31.0	35.3	29.6	14.4	11.0	10.2	51.2
全日	28	26	21	11	8	8	55
昼間	30	34	29	13	10	9	53
夜間	21	16	12	9	7	7	55

(注)
1. 各時間値及び基準時間帯平均等価振動レベルは、有効データのエネルギー平均値である。
2. 各時間値及び基準時間帯平均時間率振動レベルは、有効データの算術平均値である。
3. 時間区分は以下のとおりである。
　時間の区分　昼間:7～20時　夜間:20～7時
4. 25db未満は検出下限以下。



証明書番号：第F21090003号

臭気試験結果証明書

2021年9月9日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ[redacted]株式会社
横浜市[redacted]奥町15番
[redacted](812)1870
臭気[redacted])

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町134番地地先
採　取　日：2021年8月24日
試　験　日：2021年8月24日

ご依頼の臭気の判定試験結果は下記のとおりであることを証明いたします。

項目		単位	試験の結果			方法
			No.1　敷地境界	No.2　民家	No.3　類似施設	
採取状況	採取時刻	－	10:20	11:20	10:50	－
	天候	－	曇	曇	曇	－
	気温	℃	27.3	29.1	28.0	アスマン通風乾湿計による
	湿度	%	76	69	74	
	風向※1	－	S	S	Calm	携帯用風向風速計による
	風速	m/s	1.5	1.2	1.0以下	
試験の結果	臭気指数	－	10未満	10未満	10未満	平成7年環境庁告示第63号 別表 三点比較式臭袋法
	臭質※2	－	－	－	－	官能法

〈備考〉
※1 風向は、風速が1.0m/s以下の場合Calmと記載する
※2 臭質は、臭気指数が10以上の場合に記載する

証明書番号：第F21100001号

臭気試験結果証明書

2021年10月19日 発行

株式会社　東立テクノクラシー　様

ムラタ計[redacted]式会社
横浜市[redacted]町15番
[redacted]2）1870
臭気判[redacted]）

試料の種類：大気
採取の区分：自社採取
採取場所：愛知県瀬戸市山路町134番地地先
採　取　日：2021年9月21日
試　験　日：2021年9月22日

ご依頼の臭気の判定試験結果は下記のとおりであることを証明いたします。

項目		単位	試験の結果			方法
			No.1　敷地境界	No.2　民家	No.3　類似施設	
採取状況	採取時刻	－	10:31	11:49	11:24	－
	天候	－	曇	曇	曇	－
	気温	℃	24.6	27.4	25.3	アスマン通風乾湿計による
	湿度	%	69	55	64	
	風向※1	－	NE	Calm	Calm	携帯用風向風速計による
	風速	m/s	1.2	1.0以下	1.0以下	
試験の結果	臭気指数	－	10未満	12	10未満	平成7年環境庁告示第63号 別表 三点比較式臭袋法
	臭質※2	－	－	草臭	－	官能法

〈備考〉
※1 風向は、風速が1.0m/s以下の場合Calmと記載する
※2 臭質は、臭気指数が10以上の場合に記載する

copy

表　植物確認種一覧（1/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
シダ植物門									
1	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ（広義）	*Huperzia serrata*	●	●	●	●	
2			ヒカゲノカズラ	*Lycopodium clavatum* var.*nipponicum*				●	
3	イワヒバ目	イワヒバ科	クラマゴケ	*Selaginella remotifolia*				●	
4	トクサ目	トクサ科	スギナ	*Equisetum arvense*	●	●	●	●	
5	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	オオハナワラビ	*Botrychium japonicum*	●				
6			フユノハナワラビ	*Botrychium ternatum*				●	
7	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ	*Osmunda japonica*	●	●	●	●	
8			ヤシャゼンマイ	*Osmunda lancea*				●	
9	ウラジロ目	ウラジロ科	コシダ	*Dicranopteris linearis*	●	●	●	●	
10			ウラジロ	*Diplopterygium glaucum*	●	●	●	●	
11	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	*Lygodium japonicum* var.*japonicum*		●		●	
12	ヘゴ目	キジノオシダ科	キジノオシダ	*Plagiogyria japonica*	●	●	●	●	
13	ウラボシ目	ホングウシダ科	ホラシノブ	*Odontosoria chinensis*		●	●	●	
14		コバノイシカグマ科	イヌシダ	*Dennstaedtia hirsuta*				●	
15			コバノイシカグマ	*Dennstaedtia scabra*			●		
16			イワヒメワラビ	*Hypolepis punctata*		●	●	●	
17			フモトシダ	*Microlepia marginata*	●	●	●	●	
18			ワラビ	*Pteridium aquilinum* ssp.*japonicum*	●	●	●	●	
19		イノモトソウ科	イワガネゼンマイ	*Coniogramme intermedia*	●				
20			オオバノイノモトソウ	*Pteris cretica*	●				
21			イノモトソウ	*Pteris multifida*	●			●	
22		チャセンシダ科	トラノオシダ	*Asplenium incisum*	●	●	●	●	
23		ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ	*Macrothelypteris viridifrons*		●	●	●	
24			ホシダ	*Thelypteris acuminata* var.*acuminata*				●	
25			コハシゴシダ	*Thelypteris angustifrons*			●	●	
26			ハシゴシダ	*Thelypteris glanduligera*		●			
27			ハリガネワラビ	*Thelypteris japonica*		●	●	●	
28			ヤワラシダ	*Thelypteris laxa*				●	
29			ヒメシダ	*Thelypteris palustris*				●	
30			ミゾシダ	*Thelypteris pozoi* ssp.*mollissima*		●	●	●	
31		コウヤワラビ科	コウヤワラビ	*Onoclea sensibilis* var.*interrupta*			●		
32		シシガシラ科	シシガシラ	*Blechnum niponicum*	●	●	●	●	
33		メシダ科	イヌワラビ	*Anisocampium niponicum*				●	
34			カラクサイヌワラビ	*Athyrium clivicola*				●	
35			ヒロハイヌワラビ	*Athyrium wardii*		●			
36			シケシダ	*Deparia japonica*			●		
37		オシダ科	ナンゴクナライシダ	*Arachniodes fargesii*	●	●	●	●	
38			リョウメンシダ	*Arachniodes standishii*	●	●	●	●	
39			ナガバヤブソテツ	*Cyrtomium devexiscapulae*	●				
40			ヤマヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var.*clivicola*	●	●		●	
41			ヤブソテツ	*Cyrtomium fortunei* var.*fortunei*	●	●	●	●	
42			テリハヤブソテツ	*Cyrtomium laetevirens*				●	
43			ベニシダ	*Dryopteris erythrosora*	●	●	●	●	
44			マルバベニシダ	*Dryopteris fuscipes*			●		
45			オオイタチシダ	*Dryopteris hikonensis*				●	
46			オオベニシダ	*Dryopteris hondoensis*	●			●	
47			クマワラビ	*Dryopteris lacera*	●		●	●	
48			トウゴクシダ	*Dryopteris nipponensis*	●				
49			オクマワラビ	*Dryopteris uniformis*	●	●			
50			イノデ	*Polystichum polyblepharon*	●		●		
51			イノデモドキ	*Polystichum tagawanum*		●		●	
52			ジュウモンジシダ	*Polystichum tripteron*	●	●	●	●	
53		ウラボシ科	ノキシノブ	*Lepisorus thunbergianus*	●	●	●	●	
54			ミツデウラボシ	*Selliguea hastata*		●		●	
種子植物門・裸子植物亜門									
55	マツ目	マツ科	モミ	*Abies firma*	●		●		
56			アカマツ	*Pinus densiflora*	●	●	●	●	
57			アイグロマツ	*Pinus* x *densithunbergii*	●	●			
58			クロマツ	*Pinus thunbergii*	●				
59	ヒノキ目	ヒノキ科	ヒノキ	*Chamaecyparis obtusa*	●	●	●	●	植栽・逸出
60			スギ	*Cryptomeria japonica* var.*japonica*	●	●	●	●	植栽・逸出
61			オキアガリネズ	*Juniperus conferta* x *Juniperus rigida*	●	●	●	●	
種子植物門・基部被子植物群									
62	シキミ目	マツブサ科	シキミ	*Illicium anisatum*	●	●	●	●	
63	コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ	*Houttuynia cordata*		●	●	●	
64		ウマノスズクサ科	タンザワウマノスズクサ	*Aristolochia tanzawana*		●	●		
65			スズカカンアオイ	*Asarum rigescens* var.*brachypodion*	●	●	●	●	
66	モクレン目	モクレン科	コブシ	*Magnolia kobus*	●	●	●	●	
67			ホオノキ	*Magnolia obovata*	●	●	●	●	
68			タムシバ	*Magnolia salicifolia*	●		●		
69			シデコブシ	*Magnolia stellata*	●	●		●	重要種

表　植物確認種一覧（2/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
70	クスノキ目	クスノキ科	ヤブニッケイ	*Cinnamomum yabunikkei*			●	●	
71			カナクギノキ	*Lindera erythrocarpa*		●	●	●	
72			ヤマコウバシ	*Lindera glauca*				●	
73			ダンコウバイ	*Lindera obtusiloba*	●	●		●	
74			シロモジ	*Lindera triloba*	●	●	●	●	
75			クロモジ	*Lindera umbellata* var. *umbellata*	●	●	●	●	
76			シロダモ	*Neolitsea sericea* var. *sericea*	●	●	●	●	
種子植物門・被子植物亜門・単子葉類									
77	オモダカ目	サトイモ科	スルガテンナンショウ	*Arisaema yamatense* ssp. *sugimotoi*		●	●	●	
78		ヒルムシロ科	イトモ	*Potamogeton berchtoldii*			●		重要種
79	ヤマノイモ目	キンコウカ科	ノギラン	*Metanarthecium luteoviride*		●	●		
80		ヤマノイモ科	タチドコロ	*Dioscorea gracillima*		●	●	●	
81			ヤマノイモ	*Dioscorea japonica*		●	●	●	
82			オニドコロ	*Dioscorea tokoro*	●	●	●	●	
83	ユリ目	シュロソウ科	ショウジョウバカマ	*Heloniopsis orientalis* var. *orientalis*	●	●	●	●	
84		イヌサフラン科	チゴユリ	*Disporum smilacinum*		●	●	●	
85		サルトリイバラ科	サルトリイバラ	*Smilax china* var. *china*	●	●	●	●	
86			タチシオデ	*Smilax nipponica*				●	
87			シオデ	*Smilax riparia*		●	●	●	
88			サルマメ	*Smilax trinervula*		●	●		
89		ユリ科	シンテッポウユリ	*Lilium* x *formolongo*				●	
90			ヤマジノホトトギス	*Tricyrtis affinis*		●	●	●	
91	クサスギカズラ目	ラン科	シュンラン	*Cymbidium goeringii*	●	●			
92			アケボノシュスラン	*Goodyera foliosa* var. *laevis*	●				
93			ミヤマウズラ	*Goodyera schlechtendaliana*				●	
94			ジガバチソウ	*Liparis krameri*		●			
95			オオバノトンボソウ	*Platanthera minor*		●			
96		アヤメ科	ニワゼキショウ	*Sisyrinchium rosulatum*		●			帰化植物
97		ヒガンバナ科	ヒガンバナ	*Lycoris radiata*				●	
98			スイセン	*Narcissus tazetta* var. *chinensis*	●				植栽・逸出
99		クサスギカズラ科	ヤブラン	*Liriope muscari*				●	
100			ジャノヒゲ	*Ophiopogon japonicus*			●		
101			ミヤマナルコユリ	*Polygonatum lasianthum*		●	●		
102	ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ	*Commelina communis*		●	●	●	
103			イボクサ	*Murdannia keisak*				●	
104			ヤブミョウガ	*Pollia japonica*			●		
105	イネ目	ガマ科	ヒメガマ	*Typha domingensis*			●	●	
106			ガマ	*Typha latifolia*		●	●	●	
107		ホシクサ科	イヌノヒゲ	*Eriocaulon miquelianum*				●	
108			ニッポンイヌノヒゲ	*Eriocaulon taquetii*				●	
109		イグサ科	イグサ	*Juncus decipiens*	●	●	●	●	
110			アオコウガイゼキショウ	*Juncus papillosus*				●	
111			クサイ	*Juncus tenuis*	●	●	●	●	
112			スズメノヤリ	*Luzula capitata*	●	●			
113		カヤツリグサ科	チャイトスゲ	*Carex alterniflora* var. *aureobrunnea*		●			
114			クロカワズスゲ	*Carex arenicola*		●			
115			ミヤマシラスゲ	*Carex confertiflora*		●	●	●	
116			ヒメカンスゲ	*Carex conica*	●	●			
117			コハリスゲ	*Carex hakonensis*		●			
118			ジュズスゲ	*Carex ischnostachya*		●	●		
119			ナキリスゲ	*Carex lenta*	●				
120			コジュズスゲ	*Carex macroglossa*		●			
121			ミヤマカンスゲ	*Carex multifolia*		●			
122			オタルスゲ	*Carex otaruensis*		●			
123			イトアオスゲ	*Carex puberula*		●			
124			クサスゲ	*Carex rugata*		●			
125			タガネソウ	*Carex siderosticta*		●	●	●	
126			アゼスゲ	*Carex thunbergii*		●			
127			ヤワラスゲ	*Carex transversa*		●			
128			ヒメクグ	*Cyperus brevifolius* var. *leiolepis*				●	
129			メリケンガヤツリ	*Cyperus eragrostis*			●	●	帰化植物
130			アゼガヤツリ	*Cyperus flavidus*				●	
131			コアゼガヤツリ	*Cyperus haspan* var. *tuberiferus*				●	
132			コゴメガヤツリ	*Cyperus iria*			●	●	
133			カヤツリグサ	*Cyperus microiria*				●	
134			シカクイ	*Eleocharis wichurae*			●		
135			イヌホタルイ	*Schoenoplectiella juncoides*				●	
136			カンガレイ	*Schoenoplectiella triangulata*				●	
137			コマツカサススキ	*Scirpus fuirenoides*			●	●	
138			アブラガヤ	*Scirpus wichurae*			●	●	
139		イネ科	ヤマヌカボ	*Agrostis clavata*		●			
140			コヌカグサ	*Agrostis gigantea*		●	●		帰化植物

表　植物確認種一覧（3/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
141	イネ目	イネ科	スズメノテッポウ	*Alopecurus aequalis* var.*amurensis*	●	●			
142			メリケンカルカヤ	*Andropogon virginicus*	●	●		●	帰化植物
143			コブナグサ	*Arthraxon hispidus*			●	●	
144			ケトダシバ	*Arundinella hirta* var.*hirta*				●	
145			ヤマカモジグサ	*Brachypodium sylvaticum*			●	●	
146			ヒメコバンソウ	*Briza minor*		●			帰化植物
147			スズメノチャヒキ	*Bromus japonicus*		●			
148			ノガリヤス	*Calamagrostis brachytricha* var.*brachytricha*				●	
149			ヤマアワ	*Calamagrostis epigeios*			●		
150			ギョウギシバ	*Cynodon dactylon*				●	帰化植物
151			カモガヤ	*Dactylis glomerata*		●	●		帰化植物
152			メヒシバ	*Digitaria ciliaris*			●	●	
153			アキメヒシバ	*Digitaria violascens*				●	
154			イヌビエ	*Echinochloa crus-galli*				●	
155			オヒシバ	*Eleusine indica*				●	
156			アオカモジグサ	*Elymus racemifer*		●			
157			カモジグサ	*Elymus tsukushiensis* var.*transiens*		●	●		
158			シナダレスズメガヤ	*Eragrostis curvula*	●	●	●	●	帰化植物
159			カゼクサ	*Eragrostis ferruginea*				●	
160			ニワホコリ	*Eragrostis multicaulis*				●	
161			トボシガラ	*Festuca parvigluma*		●	●		
162			チガヤ	*Imperata cylindrica* var.*koenigii*	●	●	●	●	
163			チゴザサ	*Isachne globosa*				●	
164			ハイチゴザサ	*Isachne nipponensis*			●	●	
165			タイワンカモノハシ	*Ischaemum aristatum*			●		
166			サヤヌカグサ	*Leersia sayanuka*				●	
167			ササガヤ	*Leptatherum japonicum*				●	
168			ササクサ	*Lophatherum gracile*				●	
169			コメガヤ	*Melica nutans*		●			
170			アシボソ	*Microstegium vimineum*				●	
171			カリヤスモドキ	*Miscanthus oligostachyus*				●	
172			オギ	*Miscanthus sacchariflorus*				●	
173			ススキ	*Miscanthus sinensis*	●	●	●	●	
174			ヌマガヤ	*Moliniopsis japonica*			●	●	
175			コチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var.*japonicus*		●	●	●	
176			ケチヂミザサ	*Oplismenus undulatifolius* var.*undulatifolius*				●	
177			ニコゲヌカキビ	*Panicum acuminatum*			●	●	帰化植物
178			ヌカキビ	*Panicum bisulcatum*				●	
179			オオクサキビ	*Panicum dichotomiflorum*				●	帰化植物
180			ギネアキビ	*Panicum maximum*			●		帰化植物
181			シマスズメノヒエ	*Paspalum dilatatum*			●	●	帰化植物
182			スズメノヒエ	*Paspalum thunbergii*			●	●	
183			タチスズメノヒエ	*Paspalum urvillei*			●	●	帰化植物
184			チカラシバ	*Pennisetum alopecuroides*				●	
185			クサヨシ	*Phalaris arundinacea*		●	●	●	
186			ヨシ	*Phragmites australis*		●	●	●	
187			ツルヨシ	*Phragmites japonicus*			●		
188			モウソウチク	*Phyllostachys edulis*			●		
189			ハチク	*Phyllostachys nigra* var.*henonis*	●	●	●	●	
190			ネザサ	*Pleioblastus argenteostriatus*	●		●	●	
191			ケネザサ	*Pleioblastus fortunei* f.*pubescens*	●	●	●	●	
192			ミゾイチゴツナギ	*Poa acroleuca*		●			
193			スズメノカタビラ	*Poa annua*	●				
194			アオスズメノカタビラ	*Poa annua* ssp.*annuabr*	●	●			
195			ナガハグサ	*Poa pratensis*		●			帰化植物
196			イチゴツナギ	*Poa sphondylodes*		●			
197			ヒエガエリ	*Polypogon fugax*		●			
198			ヌメリグサ	*Sacciolepis spicata* var.*oryzetorum*				●	
199			ミカワザサ	*Sasa pubiculmis* subsp. *sugimotoi*			●	●	
200			オニウシノケグサ	*Schedonorus phoenix*	●	●	●	●	帰化植物
201			アキノエノコログサ	*Setaria faberi*			●	●	
202			キンエノコロ	*Setaria pumila*			●	●	
203			エノコログサ	*Setaria viridis* var.*minor*			●	●	
204			ムラサキエノコロ	*Setaria viridis* var.*minor* f.*misera*			●	●	
205			セイバンモロコシ	*Sorghum propinquum*				●	帰化植物
206			カニツリグサ	*Trisetum bifidum*		●			
種子植物門・被子植物亜門・真正双子葉類									
207	キンポウゲ目	ケシ科	ムラサキケマン	*Corydalis incisa*	●				
208			タケニグサ	*Macleaya cordata*		●	●	●	
209		アケビ科	アケビ	*Akebia quinata*	●	●	●	●	
210			ミツバアケビ	*Akebia trifoliata* ssp.*trifoliata*	●	●	●	●	
211			ムベ	*Stauntonia hexaphylla*	●	●	●	●	

表　植物確認種一覧（4/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
212	キンポウゲ目	ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	*Cocculus trilobus*		●	●	●	
213		メギ科	ヘビノボラズ	*Berberis sieboldii*				●	重要種
214			ナンテン	*Nandina domestica*	●		●	●	植栽・逸出
215		キンポウゲ科	センニンソウ	*Clematis terniflora*		●			
216			ケキツネノボタン	*Ranunculus cantoniensis*		●			
217			キツネノボタン	*Ranunculus silerifolius*		●	●	●	
218			アキカラマツ	*Thalictrum minus* var. *hypoleucum*		●	●	●	
219	ユキノシタ目	マンサク科	マンサク	*Hamamelis japonica* var. *japonica*				●	
220		ユキノシタ科	ヤマネコノメソウ	*Chrysosplenium japonicum*	●				
221			ミカワチャルメルソウ	*Mitella furusei* var. *furusei*		●			
222		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	*Sedum bulbiferum*		●			
223			ツルマンネングサ	*Sedum sarmentosum*				●	帰化植物
224		アリノトウグサ科	アリノトウグサ	*Gonocarpus micranthus*		●	●		
225	ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ	*Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*		●	●	●	
226			ヤブカラシ	*Cayratia japonica*		●	●	●	
227			ツタ	*Parthenocissus tricuspidata*		●	●		
228			エビヅル	*Vitis ficifolia*				●	
229			サンカクヅル	*Vitis flexuosa*		●			
230			アマヅル	*Vitis saccharifera* var. *saccharifera*		●		●	
231	マメ目	マメ科	ネムノキ	*Albizia julibrissin* var. *julibrissin*			●	●	
232			イタチハギ	*Amorpha fruticosa*		●	●	●	帰化植物
233			ヤブマメ	*Amphicarpaea edgeworthii*		●	●	●	
234			アレチケツメイ	*Chamaecrista nicticans*				●	帰化植物
235			エニシダ	*Cytisus scoparius*				●	帰化植物
236			アレチヌスビトハギ	*Desmodium paniculatum*			●	●	帰化植物
237			ヌスビトハギ	*Hylodesmum podocarpum* ssp. *oxyphyllum* var. *japonicum*				●	
238			トウコマツナギ	*Indigofera bungeana* var. *bungeana*		●	●	●	帰化植物
239			コマツナギ	*Indigofera pseudotinctoria*		●	●	●	
240			ヤマハギ	*Lespedeza bicolor* var. *bicolor*		●	●	●	
241			キハギ	*Lespedeza buergeri*			●	●	
242			メドハギ	*Lespedeza cuneata* var. *cuneata*	●	●	●	●	
243			コメツブウマゴヤシ	*Medicago lupulina*		●			帰化植物
244			クズ	*Pueraria lobata* ssp. *lobata*		●	●	●	
245			ハリエンジュ	*Robinia pseudoacacia*		●	●	●	帰化植物
246			コメツブツメクサ	*Trifolium dubium*		●	●		帰化植物
247			ムラサキツメクサ	*Trifolium pratense*	●	●			帰化植物
248			シロツメクサ	*Trifolium repens*	●	●	●	●	帰化植物
249			スズメノエンドウ	*Vicia hirsuta*	●	●			
250			ヤハズエンドウ	*Vicia sativa* ssp. *nigra*	●	●			
251			カスマグサ	*Vicia tetrasperma*		●			
252			フジ	*Wisteria floribunda*		●	●	●	
253			ナツフジ	*Wisteria japonica*		●	●	●	
254	バラ目	グミ科	ナワシログミ	*Elaeagnus pungens*			●		
255		クロウメモドキ科	クマヤナギ	*Berchemia racemosa*				●	
256			イソノキ	*Frangula crenata* var. *crenata*				●	
257		アサ科	ムクノキ	*Aphananthe aspera*			●		
258			エノキ	*Celtis sinensis*			●		
259			カナムグラ	*Humulus scandens*		●	●	●	
260		クワ科	ヒメコウゾ	*Broussonetia monoica*		●	●	●	
261			クワクサ	*Fatoua villosa*				●	
262			イヌビワ	*Ficus erecta* var. *erecta*			●		
263			ヤマグワ	*Morus australis*			●		
264		イラクサ科	ヤブマオ	*Boehmeria japonica* var. *longispica*			●	●	
265			カラムシ	*Boehmeria nivea* var. *concolor*		●	●	●	
266			メヤブマオ	*Boehmeria platanifolia*		●	●	●	
267			ナガバヤブマオ	*Boehmeria sieboldiana*		●	●	●	
268			アカソ	*Boehmeria silvestrii*			●	●	
269			コアカソ	*Boehmeria spicata*		●	●	●	
270			ムカゴイラクサ	*Laportea bulbifera*			●		
271			ミズ	*Pilea hamaoi*				●	
272			アオミズ	*Pilea pumila*			●	●	
273		バラ科	ヒメキンミズヒキ	*Agrimonia nipponica*		●	●	●	
274			キンミズヒキ	*Agrimonia pilosa* var. *japonica*	●	●	●	●	
275			アズキナシ	*Aria alnifolia*			●	●	
276			ウラジロノキ	*Aria japonica*		●	●	●	
277			ヤマザクラ	*Cerasus jamasakura* var. *jamasakura*	●	●		●	
278			カスミザクラ	*Cerasus leveilleana*	●	●	●	●	
279			ダイコンソウ	*Geum japonicum*	●	●	●	●	
280			ヤマブキ	*Kerria japonica*	●	●			
281			ウワミズザクラ	*Padus grayana*	●	●	●	●	
282			オヘビイチゴ	*Potentilla anemonifolia*		●			
283			ヒメヘビイチゴ	*Potentilla centigrana*			●		

表　植物確認種一覧（5/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
284	バラ目	バラ科	キジムシロ	*Potentilla fragarioides*		●			
285			ヘビイチゴ	*Potentilla hebiichigo*	●	●	●	●	
286			ヤブヘビイチゴ	*Potentilla indica*		●	●	●	
287			カマツカ	*Pourthiaea villosa* var. *laevis*		●	●	●	
288			ウメ	*Prunus mume*			●		植栽・逸出
289			テリハノイバラ	*Rosa luciae*			●	●	
290			ノイバラ	*Rosa multiflora* var. *multiflora*	●	●	●	●	
291			ミヤコイバラ	*Rosa paniculigera*	●	●	●	●	
292			フユイチゴ	*Rubus buergeri*	●	●	●	●	
293			クマイチゴ	*Rubus crataegifolius*		●	●	●	
294			ニガイチゴ	*Rubus microphyllus*	●	●	●	●	
295			モミジイチゴ	*Rubus palmatus*			●		
296			ナワシロイチゴ	*Rubus parvifolius*				●	
297	ブナ目	ブナ科	クリ	*Castanea crenata*	●	●	●	●	
298			ツブラジイ	*Castanopsis cuspidata*	●	●	●	●	
299			スダジイ	*Castanopsis sieboldii* ssp. *sieboldii*		●			
300			イヌブナ	*Fagus japonica*				●	
301			アラカシ	*Quercus glauca*	●	●	●	●	
302			シラカシ	*Quercus myrsinifolia*	●	●		●	
303			ウラジロガシ	*Quercus salicina*		●		●	
304			コナラ	*Quercus serrata* ssp. *serrata* var. *serrata*	●	●	●	●	
305			アベマキ	*Quercus variabilis*	●	●	●	●	
306		ヤマモモ科	ヤマモモ	*Morella rubra*				●	
307		カバノキ科	ヤマハンノキ	*Alnus hirsuta* f. *sibirica*				●	
308			ハンノキ	*Alnus japonica*				●	
309			ヒメヤシャブシ	*Alnus pendula*		●	●	●	
310			オオバヤシャブシ	*Alnus sieboldiana*	●	●	●	●	
311			サクラバハンノキ	*Alnus trabeculosa*				●	重要種
312			アカシデ	*Carpinus laxiflora*		●	●	●	
313			イヌシデ	*Carpinus tschonoskii*			●		
314			ツノハシバミ	*Corylus sieboldiana* var. *sieboldiana*			●		
315	ウリ目	ウリ科	アマチャヅル	*Gynostemma pentaphyllum* var. *pentaphyllum*			●		
316			カラスウリ	*Trichosanthes cucumeroides*			●	●	
317			スズメウリ	*Zehneria japonica*			●	●	
318	ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ	*Celastrus orbiculatus* var. *orbiculatus*		●	●	●	
319			コマユミ	*Euonymus alatus* f. *ciliatodentatus*			●	●	
320			ツルマサキ	*Euonymus fortunei* var. *fortunei*			●		
321	カタバミ目	カタバミ科	カタバミ	*Oxalis corniculata*	●	●	●	●	
322			オッタチカタバミ	*Oxalis dillenii*		●	●	●	帰化植物
323	キントラノオ目	トウダイグサ科	コニシキソウ	*Euphorbia maculata*		●	●	●	帰化植物
324			オオニシキソウ	*Euphorbia nutans*			●		帰化植物
325			アカメガシワ	*Mallotus japonicus*	●	●	●	●	
326			シラキ	*Neoshirakia japonica*		●	●	●	
327			ナンキンハゼ	*Triadica sebifera*				●	植栽・逸出
328		ヤナギ科	イヌコリヤナギ	*Salix integra*			●	●	
329			タチヤナギ	*Salix triandra*			●	●	
330		スミレ科	タチツボスミレ	*Viola grypoceras* var. *grypoceras*	●	●	●	●	
331			スミレ	*Viola mandshurica* var. *mandshurica*	●	●	●		
332			ニオイタチツボスミレ	*Viola obtusa*	●	●			
333			フモトスミレ	*Viola sieboldii* ssp. *sieboldii*		●			
334			ツボスミレ	*Viola verecunda* var. *verecunda*	●	●	●	●	
335			マキノスミレ	*Viola violacea* var. *makinoi*	●	●	●	●	
336			ノジスミレ	*Viola yedoensis* var. *yedoensis*	●	●	●	●	
337		オトギリソウ科	コケオトギリ	*Hypericum laxum*			●		
338	フウロソウ目	フウロソウ科	アメリカフウロ	*Geranium carolinianum*	●				帰化植物
339			ゲンノショウコ	*Geranium thunbergii*				●	
340	フトモモ目	アカバナ科	メマツヨイグサ	*Oenothera biennis*		●	●	●	帰化植物
341			コマツヨイグサ	*Oenothera laciniata*			●	●	帰化植物
342	ミツバウツギ目	キブシ科	キブシ	*Stachyurus praecox*	●		●	●	
343	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ	*Rhus javanica* var. *chinensis*		●	●	●	
344			ヤマハゼ	*Toxicodendron sylvestre*		●	●	●	
345			ヤマウルシ	*Toxicodendron trichocarpum*		●	●	●	
346		ムクロジ科	ウリカエデ	*Acer crataegifolium*	●	●	●	●	
347			イロハモミジ	*Acer palmatum*		●	●	●	
348			ウリハダカエデ	*Acer rufinerve*	●				
349			コハウチワカエデ	*Acer sieboldianum*		●	●		
350		ミカン科	マツカゼソウ	*Boenninghausenia albiflora* var. *japonica*			●	●	
351			ミヤマシキミ	*Skimmia japonica* var. *japonica*			●	●	
352			カラスザンショウ	*Zanthoxylum ailanthoides* var. *ailanthoides*		●	●	●	
353			サンショウ	*Zanthoxylum piperitum*		●	●	●	
354			イヌザンショウ	*Zanthoxylum schinifolium* var. *schinifolium*		●	●	●	
355		ニガキ科	ニワウルシ	*Ailanthus altissima*				●	帰化植物

表　植物確認種一覧（6/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
356	アオイ目	アオイ科	イチビ	*Abutilon theophrasti*			●		帰化植物
357			アオギリ	*Firmiana simplex*				●	
358		ジンチョウゲ科	ガンピ	*Diplomorpha sikokiana*			●	●	
359	アブラナ目	アブラナ科	ヤマハタザオ	*Arabis hirsuta*			●		
360			ハルザキヤマガラシ	*Barbarea vulgaris*	●	●	●		帰化植物
361			カラシナ	*Brassica juncea*	●				帰化植物
362			セイヨウアブラナ	*Brassica napus*	●				帰化植物
363			ナズナ	*Capsella bursa-pastoris*	●				
364			ミチタネツケバナ	*Cardamine hirsuta*	●				帰化植物
365			タネツケバナ	*Cardamine occulta*	●				
366			オオバタネツケバナ	*Cardamine scutata*	●				
367			マメグンバイナズナ	*Lepidium virginicum*			●		帰化植物
368			ショカツサイ	*Orychophragmus violaceus* var. *violaceus*	●				帰化植物
369			イヌガラシ	*Rorippa indica*				●	
370			スカシタゴボウ	*Rorippa palustris*		●			
371	ナデシコ目	タデ科	イタドリ	*Fallopia japonica* var. *japonica*	●	●	●	●	
372			ミズヒキ	*Persicaria filiformis*		●	●	●	
373			オオイヌタデ	*Persicaria lapathifolia* var. *lapathifolia*			●	●	
374			イヌタデ	*Persicaria longiseta*			●	●	
375			ヤノネグサ	*Persicaria muricata*			●		
376			タニソバ	*Persicaria nepalensis*				●	
377			イシミカワ	*Persicaria perfoliata*			●		
378			ハナタデ	*Persicaria posumbu*				●	
379			ポントクタデ	*Persicaria pubescens*				●	
380			ウナギツカミ	*Persicaria sagittata* var. *sibirica* f. *aestiva*			●	●	
381			ママコノシリヌグイ	*Persicaria senticosa*				●	
382			ミゾソバ	*Persicaria thunbergii* var. *thunbergii*		●	●	●	
383			スイバ	*Rumex acetosa*	●	●		●	
384			ナガバギシギシ	*Rumex crispus*			●		帰化植物
385			エゾノギシギシ	*Rumex obtusifolius*			●	●	帰化植物
386		モウセンゴケ科	モウセンゴケ	*Drosera rotundifolia*		●	●	●	
387			トウカイコモウセンゴケ	*Drosera tokaiensis*				●	
388		ナデシコ科	ミミナグサ	*Cerastium fontanum* ssp. *vulgare* var. *angustifolium*	●	●			
389			オランダミミナグサ	*Cerastium glomeratum*	●	●			帰化植物
390			ツメクサ	*Sagina japonica*				●	
391			ウシハコベ	*Stellaria aquatica*	●	●	●	●	
392			コハコベ	*Stellaria media*	●	●	●	●	帰化植物
393			ミドリハコベ	*Stellaria neglecta*		●			
394		ヒユ科	イノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *japonica*		●	●	●	
395			ヒナタイノコヅチ	*Achyranthes bidentata* var. *tomentosa*			●	●	
396			イヌビユ	*Amaranthus blitum*				●	
397			ホソアオゲイトウ	*Amaranthus hybridus*				●	帰化植物
398			シロザ	*Chenopodium album* var. *album*				●	
399			アリタソウ	*Dysphania ambrosioides*				●	帰化植物
400			ゴウシュウアリタソウ	*Dysphania pumilio*				●	帰化植物
401		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	*Phytolacca americana*		●	●	●	帰化植物
402		ハゼラン科	ハゼラン	*Talinum paniculatum*				●	帰化植物
403	ミズキ目	ミズキ科	ウリノキ	*Alangium platanifolium* f. *macrophyllum*				●	
404			ミズキ	*Cornus controversa* var. *controversa*		●	●	●	
405			ヤマボウシ	*Cornus kousa* ssp. *kousa*		●	●	●	
406		アジサイ科	ウツギ	*Deutzia crenata* var. *crenata*		●	●	●	
407			ノリウツギ	*Heteromalla paniculata*		●	●	●	
408			コアジサイ	*Hortensia hirta*		●	●	●	
409			ヤマアジサイ	*Hortensia serrata* var. *serrata*			●		
410			イワガラミ	*Schizophragma hydrangeoides*		●			
411	ツツジ目	サカキ科	サカキ	*Cleyera japonica*	●	●	●	●	
412			ヒサカキ	*Eurya japonica*	●	●	●	●	
413		カキノキ科	カキノキ	*Diospyros kaki* var. *kaki*			●	●	植栽・逸出
414			ヤマガキ	*Diospyros kaki* var. *sylvestris*				●	
415		サクラソウ科	マンリョウ	*Ardisia crenata*	●			●	
416			ヤブコウジ	*Ardisia japonica* var. *japonica*	●	●	●	●	
417			オカトラノオ	*Lysimachia clethroides*		●	●	●	
418			コナスビ	*Lysimachia japonica*		●		●	
419		ツバキ科	ヤブツバキ	*Camellia japonica*	●	●	●	●	
420		ハイノキ科	サワフタギ	*Symplocos sawafutagi*		●	●	●	
421		エゴノキ科	エゴノキ	*Styrax japonicus*		●	●	●	
422		マタタビ科	サルナシ	*Actinidia arguta* var. *arguta*		●			
423			キウイフルーツ	*Actinidia deliciosa*			●		植栽・逸出
424		リョウブ科	リョウブ	*Clethra barbinervis*		●	●	●	
425		ツツジ科	ネジキ	*Lyonia ovalifolia* var. *elliptica*	●	●	●	●	
426			アセビ	*Pieris japonica* ssp. *japonica* var. *japonica*	●	●	●	●	
427			イチヤクソウ	*Pyrola japonica* var. *japonica*		●			

表　植物確認種一覧（7/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
428	ツツジ目	ツツジ科	ヤマツツジ	*Rhododendron kaempferi* var.*kaempferi*	●	●	●	●	
429			モチツツジ	*Rhododendron macrosepalum*		●	●	●	
430			コバノミツバツツジ	*Rhododendron reticulatum*	●	●	●	●	
431			バイカツツジ	*Rhododendron semibarbatum*			●	●	
432			シャシャンボ	*Vaccinium bracteatum*	●				
433			ウスノキ	*Vaccinium hirtum* var.*pubescens*			●		
434			ナツハゼ	*Vaccinium oldhamii*				●	
435			スノキ	*Vaccinium smallii* var.*glabrum*		●		●	
436	アオキ目	アオキ科	アオキ	*Aucuba japonica* var.*japonica*	●	●	●	●	
437	リンドウ目	アカネ科	ヤエムグラ	*Galium spurium* var.*echinospermon*	●	●	●	●	
438			ツルアリドオシ	*Mitchella undulata*	●	●	●	●	
439			ヘクソカズラ	*Paederia foetida*		●	●	●	
440		リンドウ科	アケボノソウ	*Swertia bimaculata*				●	
441			ツルリンドウ	*Tripterospermum japonicum*	●	●	●	●	
442		キョウチクトウ科	ガガイモ	*Metaplexis japonica*			●	●	
443			テイカカズラ	*Trachelospermum asiaticum*	●			●	
444	ナス目	ヒルガオ科	ヒルガオ	*Calystegia pubescens*				●	
445		ナス科	クコ	*Lycium chinense*	●			●	
446			ヒヨドリジョウゴ	*Solanum lyratum*		●	●	●	
447			イヌホオズキ	*Solanum nigrum*				●	
448			アメリカイヌホオズキ	*Solanum ptychanthum*			●	●	帰化植物
449	シソ目	モクセイ科	マルバアオダモ	*Fraxinus sieboldiana*		●	●	●	
450			ネズミモチ	*Ligustrum japonicum* var.*japonicum*	●	●	●	●	
451			イボタノキ	*Ligustrum obtusifolium* ssp.*obtusifolium*	●	●	●	●	
452			ヒイラギ	*Osmanthus heterophyllus*	●	●	●	●	
453		オオバコ科	オオバコ	*Plantago asiatica* var.*asiatica*		●	●	●	
454			タチイヌノフグリ	*Veronica arvensis*		●			帰化植物
455			フラサバソウ	*Veronica hederifolia*	●				帰化植物
456			オオイヌノフグリ	*Veronica persica*	●	●		●	帰化植物
457		シソ科	ムラサキシキブ	*Callicarpa japonica* var.*japonica*		●	●	●	
458			ヤブムラサキ	*Callicarpa mollis*		●	●	●	
459			クサギ	*Clerodendrum trichotomum*		●	●	●	
460			クルマバナ	*Clinopodium coreanum* ssp.*coreanum*		●			
461			トウバナ	*Clinopodium gracile*		●	●	●	
462			イヌトウバナ	*Clinopodium micranthum* var.*micranthum*				●	
463			カキドオシ	*Glechoma hederacea* ssp.*grandis*	●	●	●	●	
464			ホトケノザ	*Lamium amplexicaule*	●				
465			ヒメオドリコソウ	*Lamium purpureum*	●	●		●	帰化植物
466			ヒメジソ	*Mosla dianthera*				●	
467			イヌコウジュ	*Mosla scabra*				●	
468			アキノタムラソウ	*Salvia japonica*				●	
469			ミヤマタムラソウ	*Salvia lutescens* var.*crenata*			●		
470			シソバタツナミ	*Scutellaria laeteviolacea*			●	●	
471		サギゴケ科	トキワハゼ	*Mazus pumilus*		●	●	●	
472		ハエドクソウ科	ハエドクソウ	*Phryma nana*				●	
473		キリ科	キリ	*Paulownia tomentosa*			●		
474		ハマウツボ科	ナンバンギセル	*Aeginetia indica*				●	
475		タヌキモ科	ホザキノミミカキグサ	*Utricularia caerulea*				●	
476			ヒメタヌキモ	*Utricularia minor*			●	●	重要種
477		キツネノマゴ科	キツネノマゴ	*Justicia procumbens* var.*procumbens*				●	
478		クマツヅラ科	ヤナギハナガサ	*Verbena bonariensis*			●		帰化植物
479			アレチハナガサ	*Verbena brasiliensis*		●		●	帰化植物
480			クマツヅラ	*Verbena officinalis*			●		
481	モチノキ目	モチノキ科	イヌツゲ	*Ilex crenata* var.*crenata*	●	●	●	●	
482			モチノキ	*Ilex integra*		●		●	
483			アオハダ	*Ilex macropoda*		●	●	●	
484			ソヨゴ	*Ilex pedunculosa*	●	●	●	●	
485			ウメモドキ	*Ilex serrata*		●	●	●	
486	キク目	キキョウ科	サワギキョウ	*Lobelia sessilifolia*		●		●	
487		キク科	オオブタクサ	*Ambrosia trifida*				●	帰化植物
488			ヨモギ	*Artemisia indica* var.*maximowiczii*	●	●	●	●	
489			イヌヨモギ	*Artemisia keiskeana*				●	
490			ノコンギク	*Aster microcephalus* var.*ovatus*			●	●	
491			ミヤマヨメナ	*Aster savatieri* var.*savatieri*		●		●	
492			シラヤマギク	*Aster scaber*			●	●	
493			イナカギク	*Aster semiamplexicaulis*				●	
494			シュウブンソウ	*Aster verticillatus*				●	
495			アメリカセンダングサ	*Bidens frondosa*			●	●	帰化植物
496			コセンダングサ	*Bidens pilosa* var.*pilosa*			●	●	帰化植物
497			ヤブタバコ	*Carpesium abrotanoides*				●	
498			ガンクビソウ	*Carpesium divaricatum* var.*divaricatum*			●	●	
499			スズカアザミ	*Cirsium suzukaense*			●	●	

表　植物確認種一覧（8/8）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				備考
					早春季	春季	夏季	秋季	
500	キク目	キク科	アメリカオニアザミ	*Cirsium vulgare*			●	●	帰化植物
501			ヤクシソウ	*Crepidiastrum denticulatum*			●	●	
502			ヒメジョオン	*Erigeron annuus*		●	●	●	帰化植物
503			ヒメムカシヨモギ	*Erigeron canadensis*		●	●	●	帰化植物
504			ハルジオン	*Erigeron philadelphicus*	●	●		●	帰化植物
505			オオアレチノギク	*Erigeron sumatrensis*			●	●	帰化植物
506			オオヒヨドリバナ	*Eupatorium makinoi* var. *oppositifolium*		●	●	●	
507			ハキダメギク	*Galinsoga quadriradiata*	●		●	●	帰化植物
508			ウラジロチチコグサ	*Gamochaeta coarctata*		●	●		帰化植物
509			チチコグサモドキ	*Gamochaeta pensylvanica*		●			帰化植物
510			キツネアザミ	*Hemisteptia lyrata*		●			
511			ブタナ	*Hypochaeris radicata*		●	●	●	帰化植物
512			ニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *dentatum*		●	●		
513			ハナニガナ	*Ixeridium dentatum* ssp. *nipponicum* var. *albiflorum*		●			
514			オオジシバリ	*Ixeris japonica*	●	●			
515			アキノノゲシ	*Lactuca indica* var. *indica*		●	●	●	
516			トゲチシャ	*Lactuca serriola*			●		帰化植物
517			ヤブタビラコ	*Lapsanastrum humile*		●			
518			コウヤボウキ	*Pertya scandens*		●	●	●	
519			フキ	*Petasites japonicus* var. *japonicus*		●			
520			コウゾリナ	*Picris hieracioides* ssp. *japonica* var. *japonica*	●	●	●	●	
521			ハハコグサ	*Pseudognaphalium affine*		●	●		
522			ノボロギク	*Senecio vulgaris*	●				帰化植物
523			コメナモミ	*Sigesbeckia glabrescens*				●	
524			セイタカアワダチソウ	*Solidago altissima*	●	●	●	●	帰化植物
525			アキノキリンソウ	*Solidago virgaurea* ssp. *asiatica* var. *asiatica*		●		●	
526			オニノゲシ	*Sonchus asper*	●	●	●	●	帰化植物
527			ノゲシ	*Sonchus oleraceus*	●	●		●	
528			キダチコンギク	*Symphyotrichum pilosum*				●	帰化植物
529			ヤブレガサ	*Syneilesis palmata*		●			
530			セイヨウタンポポ	*Taraxacum officinale*	●	●	●	●	帰化植物
531			トウカイタンポポ	*Taraxacum platycarpum* var. *longeappendiculatum*	●	●			
532			オニタビラコ（広義）	*Youngia japonica*	●	●		●	
533	セリ目	ウコギ科	タラノキ	*Aralia elata*		●	●	●	
534			コシアブラ	*Chengiopanax sciadophylloides*		●	●	●	
535			ヤマウコギ	*Eleutherococcus spinosus* var. *spinosus*				●	
536			タカノツメ	*Gamblea innovans*	●	●	●	●	
537			キヅタ	*Hedera rhombea*	●	●	●	●	
538		セリ科	ヤブジラミ	*Torilis japonica*		●			
539			オヤブジラミ	*Torilis scabra*		●			
540	マツムシソウ目	ガマズミ科	ニワトコ	*Sambucus racemosa* ssp. *sieboldiana* var. *sieboldiana*			●	●	
541			ガマズミ	*Viburnum dilatatum*	●	●	●	●	
542			コバノガマズミ	*Viburnum erosum*		●	●	●	
543			オオカメノキ	*Viburnum furcatum*	●	●	●	●	
544			オトコヨウゾメ	*Viburnum phlebotrichum*				●	
545			ヤブデマリ	*Viburnum plicatum* var. *tomentosum*		●	●	●	
546			ミヤマガマズミ	*Viburnum wrightii* var. *wrightii*	●	●	●	●	
547		スイカズラ科	コツクバネウツギ	*Abelia serrata* var. *serrata*		●			
548			ツクバネウツギ	*Abelia spathulata* var. *spathulata*	●	●	●	●	
549			ウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *glabra*				●	
550			ヤマウグイスカグラ	*Lonicera gracilipes* var. *gracilipes*	●	●		●	
551			スイカズラ	*Lonicera japonica*	●	●	●	●	
552			ヤマヒョウタンボク	*Lonicera mochidzukiana* var. *nomurana*				●	
553			オトコエシ	*Patrinia villosa*				●	
554			タニウツギ	*Weigela hortensis*		●	●	●	
－	48目	120科		554種	167種	306	322種	398種	

表　植生調査票（1/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	253	m
1	愛知県瀬戸市		（方位）	S45E	
（地形）	山頂・尾根・斜面(上)中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	(強)中・弱	（傾斜）	28	°
（土壌）	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	15	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）（備考）
		m	%	cm
Ⅰ 高木層	コナラ	16～18	80	20-35
Ⅱ 亜高木層	サカキ	6～11	50	
Ⅲ 低木層	ヒサカキ	1～4	40	
Ⅳ 草本層	ミカワザサ	～0.3	3	
Ⅴ コケ層				

（群落名）　コナラ群落　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	3・4	コナラ	Ⅳ	+・2	ミカワザサ			
2		3・3	アベマキ		+・2	ヤブツバキ			
3		1・1	アラカシ		+	シキミ			
4					+	ヒイラギ			
5					+	サルトリイバラ			
6	Ⅱ	2・3	サカキ		+	ヒサカキ			
7		2・2	ソヨゴ		+	アセビ			
8		1・2	ヤブツバキ		+	イヌツゲ			
9		1・1	リョウブ						
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16	Ⅲ	2・2	ヒサカキ						
17		1・2	ヤブツバキ						
18		1・2	サカキ						
19		1・1	シキミ						
20		+	シロモジ						
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（2/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	272	m
2	愛知県瀬戸市			（方位）	N30E	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・(中)・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	27	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	陽・(中)・陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	21	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	ヒノキ	20～22	90	10-20	
Ⅱ 亜高木層	サカキ	5～10	20		
Ⅲ 低木層	サカキ	1～3	40		
Ⅳ 草本層	優占種なし	0.05～0.6	5		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　スギ・ヒノキ植林（ヒノキ植林）　　調査日:2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	ヒノキ	Ⅳ	+	ベニシダ			
2		1・1	スギ		+	コチヂミザサ			
3		1・1	ホオノキ		+	ハリガネワラビ			
4					+	チゴユリ			
5					+	ウラジロ			
6	Ⅱ	2・2	サカキ		+	アセビ			
7		1・1	ヤブツバキ		+	スズカカンアオイ			
8					+	ムラサキシキブ			
9					+	ヤマノイモ			
10					+	コアジサイ			
11	Ⅲ	2・2	ヒサカキ		+	シシガシラ			
12		2・2	サカキ		+	サルトリイバラ			
13		1・1	シキミ						
14		1・1	ヒイラギ						
15		+	イヌツゲ						
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（3/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	283	m
3	愛知県瀬戸市			（方位）	N50E	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・(中)・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	15	°
（土壌）	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・グライ・凝グライ	（日当）	陽・(中)・陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	17	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	ソヨゴ	13～15	70	10-15	
Ⅱ 亜高木層	優占種なし	5～10	10		
Ⅲ 低木層	優占種なし	1～3	15		
Ⅳ 草本層	ケネザサ	1	80		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　ソヨゴ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	4・4	ソヨゴ						
2		1・1	コナラ						
3									
4									
5									
6	Ⅱ	1・1	ソヨゴ						
7		+	ネジキ						
8									
9									
10									
11	Ⅲ	1・1	ヒイラギ						
12		1・1	ソヨゴ						
13		1・1	イヌツゲ						
14		1・1	リョウブ						
15		1・1	シキミ						
16		+	アセビ						
17									
18									
19									
20									
21	Ⅳ	5・5	ケネザサ						
22		+	シロモジ						
23		+	ツクバネウツギ						
24		+	ゼンマイ						
25		+	ヤブツバキ						
26		+	サルトリイバラ						
27		+	ウリカエデ						
28		+	ヒサカキ						
29		+	コチヂミザサ						
30									

表　植生調査票（4/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	265	m
4	愛知県瀬戸市		（方位）	W	
（地形）	山頂・(尾根)・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	5	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	20	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	コナラ	16～18	90	20-30	
Ⅱ 亜高木層	ソヨゴ	7～11	50		
Ⅲ 低木層	ヒサカキ	1～3	30		
Ⅳ 草本層	ケネザサ	0.05～1	30		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　コナラ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	コナラ	Ⅳ	3・3	ケネザサ			
2		1・1	クリ		+	イヌツゲ			
3		1・1	アカマツ		+	シロモジ			
4					+	ツクバネウツギ			
5					+	ヒサカキ			
6	Ⅱ	3・3	ソヨゴ		+	ウリカエデ			
7		1・1	タカノツメ		+	コウヤボウキ			
8		1・1	マルバアオダモ		+	ヤブコウジ			
9		1・1	ヒサカキ		+	ヤマウルシ			
10		1・1	ヤマボウシ						
11									
12									
13									
14									
15									
16	Ⅲ	2・2	ヒサカキ						
17		1・2	ソヨゴ						
18		1・2	ヒイラギ						
19		1・1	シロモジ						
20		1・1	アセビ						
21		+	ネズミモチ						
22		+	ツクバネウツギ						
23		+	ヤブツバキ						
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（5/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	246	m
5	愛知県瀬戸市			（方位）	－	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・(平)地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	－	°
（土壌）	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	7×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適)湿・過湿	（出現種数）	14	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	ハリエンジュ	10～16	40	10-15	
Ⅱ 亜高木層	優占種なし	7	10		
Ⅲ 低木層					
Ⅳ 草本層	ススキ	1.4～1.7	30		
	ヒメジョオン	0.1～0.4	80		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　ハリエンジュ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	3・3	ハリエンジュ						
2									
3									
4									
5									
6	Ⅱ	1・1	ヌルデ						
7									
8									
9									
10									
11	Ⅳ-1	3・3	ススキ						
12		1・1	セイタカアワダチソウ						
13		+・2	ケネザサ						
14									
15									
16	Ⅳ-2	4・4	ヒメジョオン						
17		1・1	ハルジオン						
18		+・2	コチヂミザサ						
19		+	ヨモギ						
20		+	ハリエンジュ						
21		+	アメリカイヌホオズキ						
22		+	イヌタデ						
23		+	ヒメオドリコソウ						
24		+	ヤマノイモ						
25		+	アキノエノコログサ						
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（6/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	266	m
6	愛知県瀬戸市		（方位）	－	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・中・弱	（傾斜）	－	°
（土壌）	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・グライ・凝グライ	（日当）	陽・中・陰	（面積）	2×2	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・適湿・過湿	（出現種数）	6	種

（階層）	（優占種）	（高さ） m	（植被率） %	（胸高直径） cm	（備考）
Ⅰ 高木層					
Ⅱ 亜高木層					
Ⅲ 低木層					
Ⅳ 草本層	ススキ	0.4～2	90		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　ススキ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅳ	5・5	ススキ						
2		1・1	アレチヌスビトハギ						
3		1・1	ヨモギ						
4		+・2	セイタカアワダチソウ						
5		+	メドハギ						
6		+	ガガイモ						
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（7/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	263	m
7	愛知県瀬戸市			（方位）	N15W	
（地形）	山頂・尾根・斜面(上)中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強(中)弱	（傾斜）	33	°
（土壌）	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	5×4	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	24	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）（備考）
		m	%	cm
Ⅰ 高木層				
Ⅱ 亜高木層				
Ⅲ 低木層	ソヨゴ	1.3～2.5	30	
Ⅳ 草本層	ケネザサ	～0.7	80	
Ⅴ コケ層				

（群落名）　伐採跡地群落　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅲ	2・2	ソヨゴ						
2		1・2	シロモジ						
3		+	クサギ						
4									
5									
6	Ⅳ	5・4	ケネザサ						
7		1・2	メリケンカルカヤ						
8		1・2	ニガイチゴ						
9		1・2	ヒサカキ						
10		1・2	コシダ						
11		+・2	シロモジ						
12		+・2	エゴノキ						
13		+・2	ヤブツバキ						
14		+・2	ソヨゴ						
15		+	ホオノキ						
16		+	アカメガシワ						
17		+	アラカシ						
18		+	クリ						
19		+	アベマキ						
20		+	サルトリイバラ						
21		+	アオツヅラフジ						
22		+	ススキ						
23		+	ヌルデ						
24		+	クサギ						
25		+	カラスザンショウ						
26		+	ヒイラギ						
27		+	シキミ						
28		+	ムラサキシキブ						
29		+	コナラ						
30									

表　植生調査票（8/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	260	m
8	愛知県瀬戸市			（方位）	N80E	
（地形）	山頂・尾根・斜面(上)中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強(中)弱	（傾斜）	35	°
（土壌）	ポド性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	24	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	コナラ	14～16	60	15～20	
Ⅱ 亜高木層	リョウブ	7～12	50		
Ⅲ 低木層	ヒサカキ	2～4	30		
Ⅳ 草本層	ヤブツバキ	～0.3	2		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　コナラ群落　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	4・4	コナラ	Ⅳ	+・2	ヤブツバキ			
2					+・2	シキミ			
3					+	ソヨゴ			
4					+	コチヂミザサ			
5					+	コナラ			
6	Ⅱ	2・3	リョウブ		+	イヌツゲ			
7		2・2	ソヨゴ		+	アセビ			
8		1・2	タカノツメ		+	ツクバネウツギ			
9		1・1	マルバアオダモ		+	アラカシ			
10		1・1	ホオノキ		+	サルトリイバラ			
11					+	ヒイラギ			
12					+	シラカシ			
13					+	イヌザンショウ			
14					+	ウラジロノキ			
15					+	クサギ			
16	Ⅲ	2・3	ヒサカキ		+	ヘクソカズラ			
17		1・2	ヤブツバキ		+	ヤブムラサキ			
18		1・2	アセビ						
19		1・1	アラカシ						
20		1・1	ネジキ						
21		+	ソヨゴ						
22		+	ムラサキシキブ						
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（9/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	261	m
9	愛知県瀬戸市			（方位）	N80E	
（地形）	山頂・(尾根)・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	20	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	4×5	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	33	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層					
Ⅱ 亜高木層					
Ⅲ 低木層	ソヨゴ	1.5～1.8	30		
Ⅳ 草本層	ニガイチゴ	～0.8	80		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　伐採跡地群落　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅲ	1・2	ソヨゴ		+	カラスザンショウ			
2		1・1	クリ		+	ヤブツバキ			
3		1・1	エゴノキ		+	リョウブ			
4		1・1	コナラ		+	アセビ			
5		1・1	アオハダ		+	ヒイラギ			
6		+	アラカシ		+	ホオノキ			
7		+	ニガイチゴ		+	コバノガマズミ			
8					+	アカマツ			
9					+	ヤマハゼ			
10					+	フジ			
11	Ⅳ	2・3	ニガイチゴ						
12		2・2	イヌザンショウ						
13		2・2	コナラ						
14		1・2	イヌツゲ						
15		1・2	ススキ						
16		1・2	メリケンカルカヤ						
17		1・2	ケネザサ						
18		1・2	サルトリイバラ						
19		1・2	エゴノキ						
20		1・1	シロモジ						
21		+・2	マルバアオダモ						
22		+・2	ツクバネウツギ						
23		+・2	ササクサ						
24		+	アカメガシワ						
25		+	ムラサキシキブ						
26		+	ヤマツツジ						
27		+	シキミ						
28		+	クリ						
29		+	ヤマノイモ						
30		+	ノイバラ						

表　植生調査票（10/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	260	m
10	愛知県瀬戸市			（方位）	E	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・(下)・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強(中)弱	（傾斜）	15	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	陽(中)陰	（面積）	15×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	15	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	ヒノキ	15～21	80	20-40	
Ⅱ 亜高木層	ソヨゴ	5～10	40		
Ⅲ 低木層	ヒサカキ	1～3	40		
Ⅳ 草本層	優占種なし	0.3～1	2		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　スギ・ヒノキ植林（ヒノキ植林）　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	ヒノキ						
2		1・1	コナラ						
3		1・1	ソヨゴ						
4									
5									
6	Ⅱ	2・2	ソヨゴ						
7		2・2	サカキ						
8		1・1	ヒサカキ						
9		+	ヒノキ						
10									
11	Ⅲ	2・2	サカキ						
12		2・2	ヒサカキ						
13		1・1	ヒイラギ						
14		+・2	シキミ						
15		+	ソヨゴ						
16		+	サルトリイバラ						
17									
18									
19									
20									
21	Ⅳ	+	ベニシダ						
22		+	シシガシラ						
23		+	フジ						
24		+	フモトシダ						
25		+	シロモジ						
26		+	ヘクソカズラ						
27		+	ヤブツバキ						
28		+	ヒイラギ						
29		+	ソヨゴ						
30									

表　植生調査票（11/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	270	m
11	愛知県瀬戸市		（方位）	－	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・中・弱	（傾斜）	－	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・褐森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	陽・中・陰	（面積）	2×2	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・適湿・過湿	（出現種数）	7	種

（階層）	（優占種）	（高さ） m	（植被率） %	（胸高直径） cm	（備考）
Ⅰ 高木層					
Ⅱ 亜高木層					
Ⅲ 低木層					
Ⅳ 草本層	アキノエノコログサ	0.3～0.7	90		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　路傍・空地雑草群落（アキノエノコログサ優占）　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅳ	5・5	アキノエノコログサ						
2		1・2	ヨモギ						
3		1・2	セイタカアワダチソウ						
4		1・1	コウゾリナ						
5		1・1	ヒメジョオン						
6		+	アリタソウ						
7		+	オオアレチノギク						
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（12/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	265	m
12	愛知県瀬戸市			（方位）	N10W	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・中・弱	（傾斜）	3	°
（土壌）	ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・＆・グライ・凝グライ	（日当）	陽・中・陰	（面積）	5×15	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・適湿・過湿	（出現種数）	35	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	スギ	15～17	90	15-30	
Ⅱ 亜高木層	サカキ	5～7	20		
Ⅲ 低木層	サカキ	1～3	30		
Ⅳ 草本層	スゲ属の一種	0.05～1	60		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　スギ・ヒノキ植林（スギ植林）　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	スギ	Ⅳ	3・3	スゲ属の一種			
2		+	フジ		2・2	ケネザサ			
3					1・1	シシガシラ			
4					+	ノイバラ			
5					+	フジ			
6	Ⅱ	1・2	サカキ		+	ハリガネワラビ			
7		1・1	ヒサカキ		+	ベニシダ			
8		1・1	ヤブツバキ		+	コチヂミザサ			
9		1・1	タカノツメ		+	ツボスミレ			
10		1・1	ウラジロガシ		+	ツルアリドオシ			
11		+	スギ		+	ヒイラギ			
12					+	イヌツゲ			
13					+	ヘクソカズラ			
14					+	ドクダミ			
15					+	ヤマウルシ			
16	Ⅲ	1・2	サカキ		+	アオキ			
17		1・1	ケネザサ		+	キジノオシダ			
18		1・1	ネズミモチ		+	サルトリイバラ			
19		1・1	ヒサカキ		+	クサギ			
20		1・1	シキミ		+	ゼンマイ			
21		1・1	エゴノキ		+	リョウブ			
22		1・1	ヤブツバキ		+	クリ			
23		+	ヒイラギ		+	シロモジ			
24		+	フジ		+	アカメガシワ			
25		+	コアジサイ		+	フユイチゴ			
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（13/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	249	m
13	愛知県瀬戸市		（方位）	N75E	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・(中)・下・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・中・(弱)	（傾斜）	20	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	8×13	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	16	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	ヒノキ	15～17	90	15-20	
Ⅱ 亜高木層	ヒノキ	6～12	10		
Ⅲ 低木層	シロモジ	1～2	5		
Ⅳ 草本層	シキミ	～0.3	2		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　スギ・ヒノキ植林（ヒノキ植林）　　調査日:2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	ヒノキ	Ⅳ	+・2	シキミ			
2		1・1	ソヨゴ		+	イヌツゲ			
3					+	アラカシ			
4					+	ヒイラギ			
5					+	ツルアリドオシ			
6	Ⅱ	1・2	ヒノキ		+	タカノツメ			
7		1・2	スギ		+	ヒサカキ			
8		1・1	リョウブ		+	クリ			
9					+	シロモジ			
10					+	コナラ			
11					+	ヤブツバキ			
12					+	クロモジ			
13									
14									
15									
16	Ⅲ	1・2	シロモジ						
17		+・2	ヒイラギ						
18		+・2	ヒサカキ						
19		+	シキミ						
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（14/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	255	m
14	愛知県瀬戸市			（方位）	N80W	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・(下)・凸・凹）台地・谷・平地	（風当）	強・中・(弱)	（傾斜）	3	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	陽・(中)・陰	（面積）	15×20	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適湿)・過湿	（出現種数）	35	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	コナラ	16～19	80	20-35	
Ⅱ 亜高木層	シロモジ	5～10	60		
Ⅲ 低木層	アセビ	1～4	40		
Ⅳ 草本層	アセビ	～0.3	10		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　コナラ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	4・4	コナラ	Ⅳ	1・2	アセビ			
2		2・2	アベマキ		1・2	ケネザサ			
3		1・1	タカノツメ		1・2	ヤマツツジ			
4		1・1	アズキナシ		+・2	イヌツゲ			
5					+・2	コチヂミザサ			
6	Ⅱ	3・3	シロモジ		+	ツクバネウツギ			
7		1・1	ウリノキ		+	サルトリイバラ			
8		1・1	イヌツゲ		+	ヤブツバキ			
9		1・1	リョウブ		+	コナラ			
10		+	コナラ		+	ウリカエデ			
11		+	マルバアオダモ		+	スズカカンアオイ			
12					+	スノキ			
13					+	タカノツメ			
14					+	エゴノキ			
15					+	ムベ			
16	Ⅲ	3・3	アセビ		+	ミツバアケビ			
17		3・3	シロモジ		+	サワフタギ			
18		1・2	ヒイラギ		+	チゴユリ			
19		1・1	オオカメノキ		+	ヒノキ			
20		1・1	ネジキ		+	オニドコロ			
21		1・1	ヤブツバキ		+	フジ			
22		+	イヌツゲ		+	ガマズミ			
23		+	ノキシノブ						
24		+	ヤマガキ						
25		+	ノブドウ						
26		+	コバノミツバツツジ						
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（15/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	261	m
15	愛知県瀬戸市			（方位）	－	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・(平)地	（風当）	強・中・(弱)	（傾斜）	－	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	3×3	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適)湿・過湿	（出現種数）	38	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）	（備考）
		m	%	cm	
Ⅰ 高木層	コナラ	14～17	90	15-30	
Ⅱ 亜高木層	イヌツゲ	5～9	40		
Ⅲ 低木層	シロモジ	1～3	50		
Ⅳ 草本層	ヤマツツジ	～0.4	20		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　コナラ群落　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅰ	5・5	コナラ	Ⅳ	1・2	ヤマツツジ			
2		1・1	アカマツ		1・2	イヌツゲ			
3					1・2	ツクバネウツギ			
4					1・2	コバノミツバツツジ			
5					+・2	ササクサ			
6	Ⅱ	2・2	イヌツゲ		+・2	コチヂミザサ			
7		2・2	シロモジ		+	コナラ			
8		1・2	ウリカエデ		+	サワフタギ			
9		1・1	ソヨゴ		+	アオキ			
10		1・1	アセビ		+	エゴノキ			
11					+	フジ			
12					+	ウリカエデ			
13					+	シロダモ			
14					+	スズカカンアオイ			
15					+	サルトリイバラ			
16	Ⅲ	2・3	シロモジ		+	ヒノキ			
17		1・2	ヤマツツジ		+	ヒサカキ			
18		1・2	ケネザサ		+	ネジキ			
19		1・1	オオカメノキ		+	ヤマハンノキ			
20		1・1	タカノツメ		+	ソヨゴ			
21		1・1	アセビ		+	シロモジ			
22		1・1	ヒサカキ		+	タチドコロ			
23		+	ヒイラギ		+	オトコヨウゾメ			
24		+	ミヤマガマズミ		+	ミヤマシキミ			
25		+	マンサク		+	ネズミモチ			
26		+	クリ		+	ベニシダ			
27		+	コバノミツバツツジ		+	ツルリンドウ			
28		+	ウメモドキ		+	ウグイスカグラ			
29		+	エゴノキ						
30									

表　植生調査票（16/17）

植　生　調　査　票

No.	調査地			（海抜）	252	m
16	愛知県瀬戸市			（方位）	N50W	
（地形）	山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・(平)地	（風当）	強・(中)・弱	（傾斜）	2	°
（土壌）	ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ	（日当）	(陽)・中・陰	（面積）	15×7	m^2
	・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土	（土湿）	乾・(適潤)・過湿	（出現種数）	23	種

（階層）	（優占種）	（高さ）	（植被率）	（胸高直径）（備考）
		m	%	cm
Ⅰ 高木層				
Ⅱ 亜高木層	アカマツ	5～11	20	
Ⅲ 低木層	アカマツ	3～5	40	
Ⅳ 草本層	スゲ属の一種	0.05～2	80	
Ⅴ コケ層				

（群落名）　アカマツ群落　　調査日：2021年10月20日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅱ	2・2	アカマツ	Ⅳ	5・5	ケネザサ			
2		1・2	リョウブ		+	ヤマノイモ			
3		1・1	ウリカエデ		+	ソヨゴ			
4		+	サルトリイバラ		+	ヒカゲノカズラ			
5					+	ミツバアケビ			
6					+	ヒサカキ			
7					+	イヌツゲ			
8					+	シロモジ			
9					+	コチヂミザサ			
10					+	ワラビ			
11	Ⅲ	2・2	アカマツ		+	ヒノキ			
12		1・1	ウリカエデ		+	サルトリイバラ			
13		1・1	コバノミツバツツジ		+	コナラ			
14		1・1	ヒサカキ		+	ムベ			
15		1・1	サカキ		+	ハンノキ			
16		+・2	ミヤマガマズミ						
17		+	ノイバラ						
18		+	マルバアオダモ						
19		+	コナラ						
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

表　植生調査票（17/17）

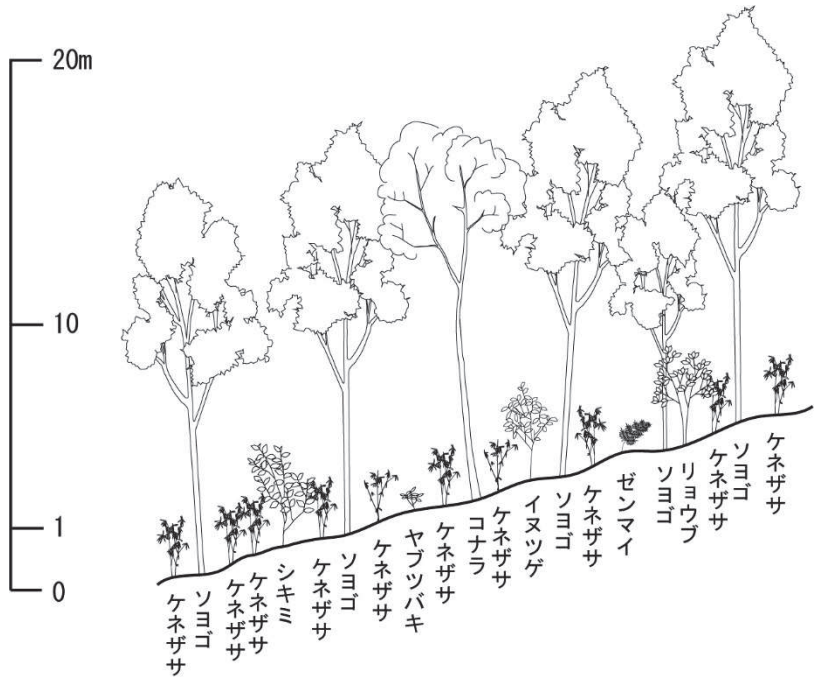
植　生　調　査　票

No.	調査地		（海抜）	255	m
17	愛知県瀬戸市		（方位）	－	
（地形） 山頂・尾根・斜面（上・中・下・凸・凹）台地・谷・(平)地		（風当） 強・中・(弱)	（傾斜）	－	°
（土壌） ﾎﾟﾄﾞ性・(褐)森・赤・黄・黄褐森・黒ボク・&・ｸﾞﾗｲ・凝ｸﾞﾗｲ		（日当） (陽)・中・陰	（面積）	3×3	m^2
・沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・造成土		（土湿） 乾・(適)湿・過湿	（出現種数）	8	種

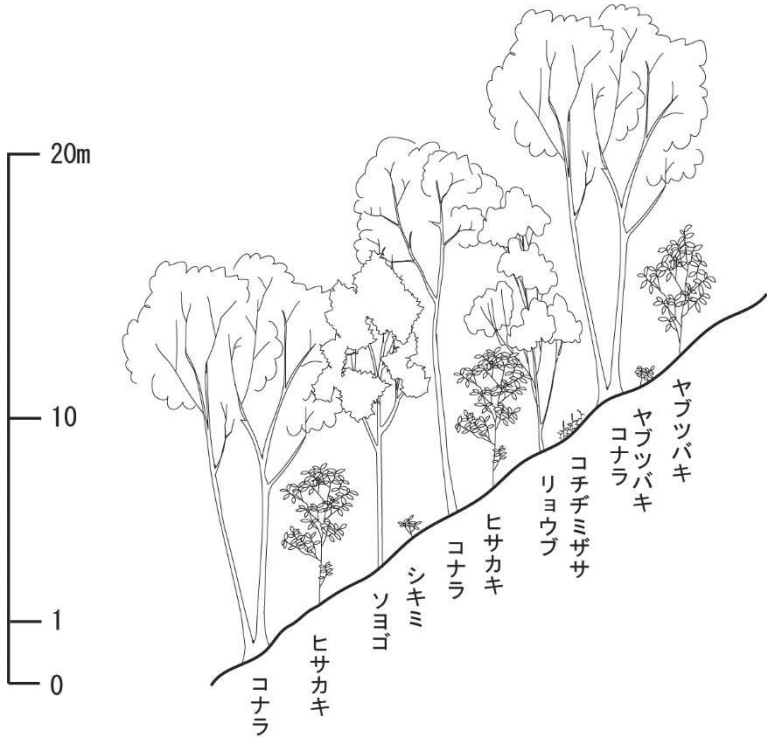
（階層）	（優占種）	（高さ） m	（植被率） %	（胸高直径） cm	（備考）
Ⅰ 高木層					
Ⅱ 亜高木層					
Ⅲ 低木層					
Ⅳ 草本層	セイタカアワダチソウ	1～1.6	40		
	チガヤ	～0.6	60		
Ⅴ コケ層					

（群落名）　路傍・空地雑草群落（セイタカアワダチソウ優占）　　調査日：2021年10月19日

	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.	S	D・S	SPP.
1	Ⅳ-1	3・3	セイタカアワダチソウ						
2									
3									
4									
5									
6	Ⅳ-2	3・3	チガヤ						
7		2・2	セイタカアワダチソウ						
8		1・2	ヤブカラシ						
9		1・1	アメリカセンダングサ						
10		+・2	クワクサ						
11		+・2	オッタチカタバミ						
12		+	ウシハコベ						
13		+	エノコログサ						
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

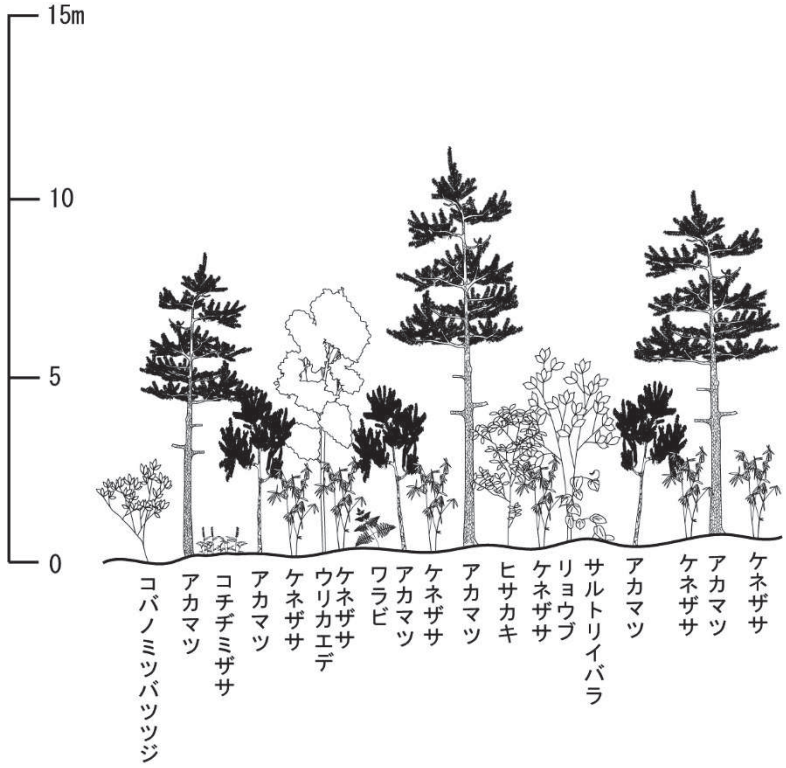


ソヨゴ群落　-植生調査地点 No. 3-



コナラ群落　-植生調査地点 No. 8-

植生断面図（1/5）

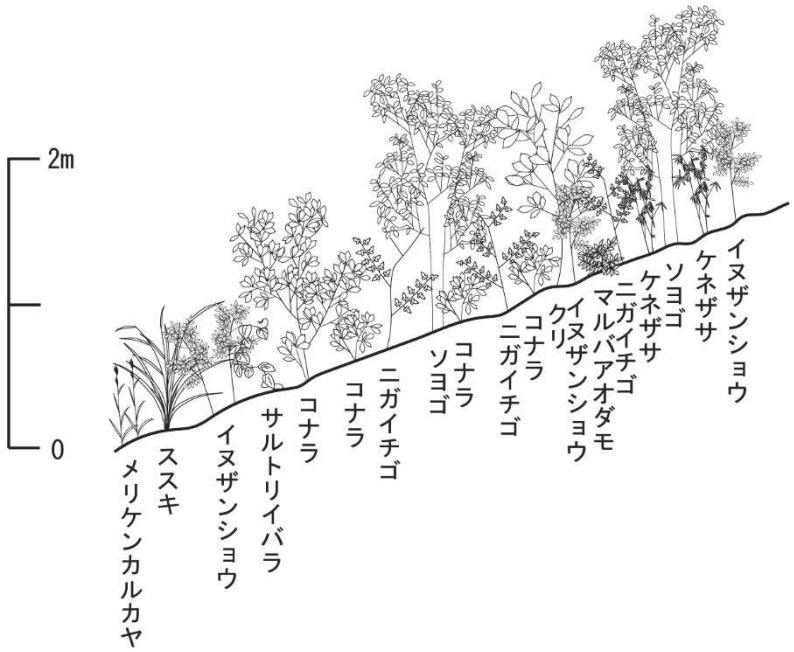


アカマツ群落　-植生調査地点 No. 16-

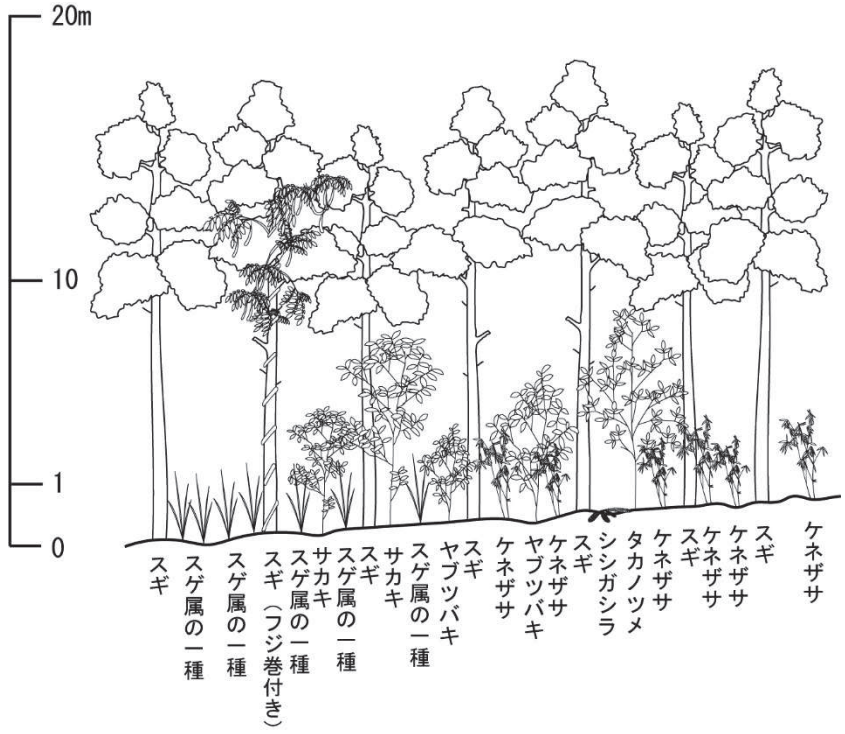


ススキ群落　-植生調査地点 No. 6-

植生断面図（2/5）

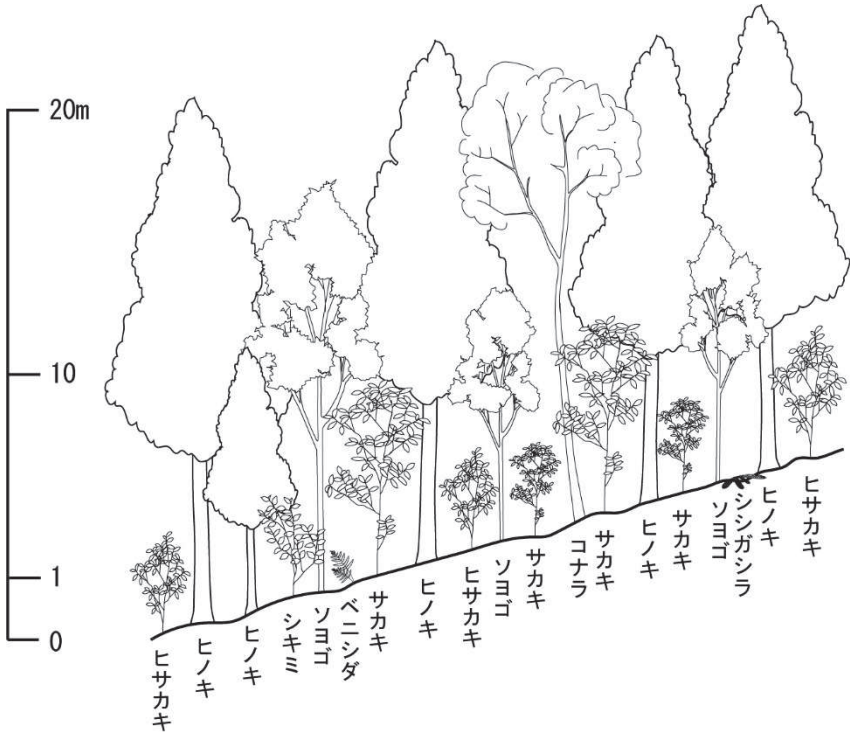


伐採跡地群落　-植生調査地点 No. 9-

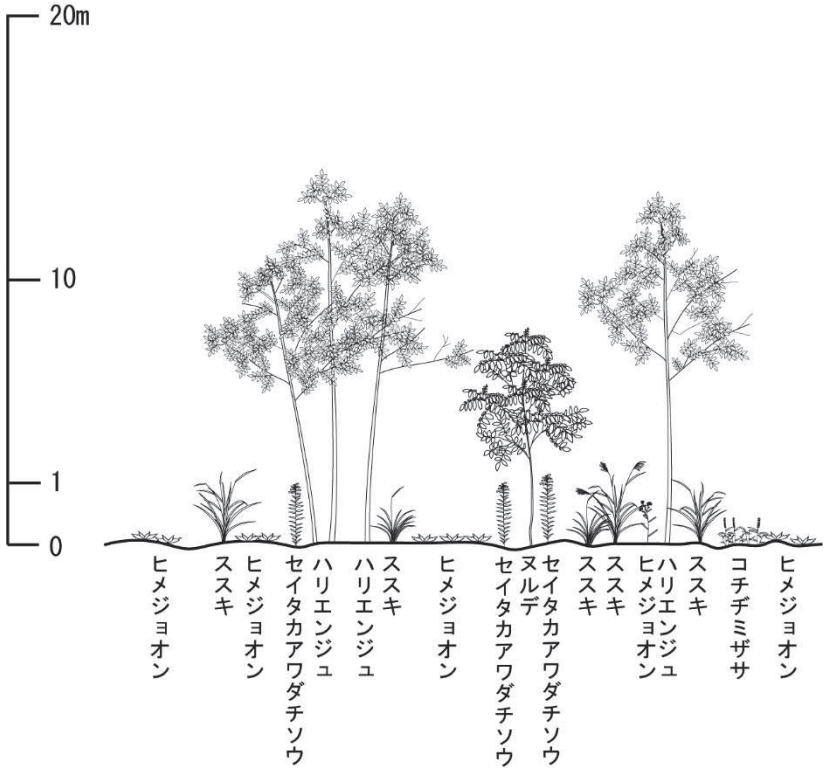


スギ植林　-植生調査地点 No. 12-

植生断面図（3/5）



ヒノキ植林　-植生調査地点 No. 10-



ハリエンジュ群落　-植生調査地点 No. 5-

植生断面図（4/5）



路傍・空地雑草群落　-植生調査地点 No. 11-

植生断面図（5/5）

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（1/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　□捕獲法　□トラップ法		
調査時期	冬	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.1.21	調査時間	8:30～14:00
天候	晴	気温	-1～12℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
001	8:52	ノウサギ	D	1	Ad	乾性草地　埋立地
002	9:15	イノシシ	Tu,T	1	-	湿地
003	9:45	ノウサギ	D	1	Ad	落葉林
004	9:51	ニホンイノシシ	Hr,Cw	1	-	ヒノキ植
005	10:36	ニホンジカ	D	1	-	落葉林　尾根上
006	10:53	ニホンジカ	W	3	Ad	落葉林
007	10:58	ニホンジカ	D	1	-	落葉林　尾根上に散乱
008	11:15	カモシカ	De	1	Ad	調査範囲北側の沢沿い　片角
009	11:56	ウシ目	T	3	-	裸地　砂泥上　流木の中
010	12:13	ウシ目	T	4	-	砂泥上 009から続いている
011	12:57	ウシ目	T	4	-	裸地　事業地も横断
012	13:16	カモシカ	D	2	Ad	落葉林　粒数400以上
013	13:41	ノウサギ	D	1	Ad	乾性草地

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（2/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	夜間調査		
調査方法	□フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　□捕獲法　□トラップ法		
調査時期	冬	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.1.21	調査時間	17:30～20:00
天候	晴	気温	6～3℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
		確認なし				

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（3/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☐捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	冬	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.1.22	調査時間	8:30～14:00
天候	曇時々雨	気温	5～10℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
017	8:48	ノウサギ	D	1	Ad	落葉林
020	9:37	ニホンジカ	D	1	Ad	針・広混合林　多数広く散乱
021	9:58	ニホンジカ	Vo	1	Ad	落照混合林
022	10:27	ニホンイノシシ	P,Fo,T	1	-	沢　落葉林定位置に泥の後続く
023	10:31	ニホンジカ	D	1	Ad	落葉林　少数散乱
024	11:20	モグラ属の一種	Tu	1	Ad	塚8　造成裸地　坑道径50mm

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（4/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☑捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	春	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.5.10	調査時間	8:30～16:00
天候	晴	気温	24℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
025	8:56	ウシ目	T	1	-	造成裸地
026	9:10	ニホンイノシシ	D	1	-	樹林内
028	9:50	シュレーゲルアオガエル	Vo	5	Ad	池
029	9:56	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	草地
030	10:06	イノシシ	Fo,T	1	-	樹林内ぬた場
031	10:34	ヒガシニホントカゲ	C,W	1	Yg	造成裸地
032	11:14	カモシカ	D	1	Ad	樹林内
033	11:25	ウシ目	T	2	Ad	樹林内沢沿い
034	11:41	シュレーゲルアオガエル	Vo	10	Ad	場内北側の池岸際
035	11:50	ウシ目	T	1	Ad	場内北側の池岸際
036	11:58	アカガエル科の一種	W	1	Eg	場内北側の池岸際　発生していない
037	12:03	アライグマ	T	1	Ad	場内北側の池岸際

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（5/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☑捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	春	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.5.10	調査時間	8:30～16:00
天候	晴	気温	24℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
038	8:43	シュレーゲルアオガエル	W	2	Eg	場内の池
039	8:43	トノサマガエル属の一種	W	5	Ad,Yg	場内の池
040	9:03	ニホンジカ	T,D	11	-	造成裸地
041	9:15	カモシカ	D	1	Ad	樹林内
042	9:20	シュレーゲルアオガエル	Vo	10	Ad	湿地
043	9:37	ニホンカナヘビ	W	2	Ad	日当たり良いコンクリート擁壁
044	9:54	ニホンイノシシ	Tu	1	Ad	樹林内　林道沿いに長く続く
045	10:52	ニホンカナヘビ	W	1	Yg	樹林内林道
046	11:00	ウシ目	T	1	Ad	樹林内林道
047	11:12	ニホンカナヘビ	W	1	Yg	高速道路管理用道　U字溝
048	11:44	ニホンジカ	T,D	3	Ad	造成裸地
049	14:13	カモシカ	D	1	Ad	尾根付近　樹林内

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（6/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	夜間調査		
調査方法	☐フィールドサイン法　☑目撃法　☑バットディテクター　☐捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	春	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.5.10	調査時間	18:00～20:30
天候	晴	気温	20℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
050	19:02	ヒナコウモリ科の一種	Vo	1	Ad	45kHz前後
051	19:11	ヒナコウモリ科の一種	Vo	1	Ad	45kHz前後
052	19:28	ヒナコウモリ科の一種	Vo	1	Ad	45kHz前後

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（7/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☑捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	春	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.5.11	調査時間	9:30～14:00
天候	晴	気温	24℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
053	9:40	ニホンカナヘビ	W	3	Ad	高速道路管理用道
054	11:39	ニホンカナヘビ	W	4	Ad	高速道路管理用道
055	11:51	ニホンカナヘビ	De	1	Ad	高速道路管理用道

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（8/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意（補足）		
調査方法	□フィールドサイン法　□目撃法　□バットディテクター　□捕獲法　□トラップ法		
調査時期	春	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.4.1	調査時間	9:00～15:00
天候	晴	気温	15～22℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
-	9:25	キツネ	W	1	Ad	早春季昆虫類調査時　高速道路管理用道路

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（9/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　☑捕獲法　□トラップ法		
調査時期	夏	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.7.23	調査時間	8:30～16:30
天候	晴	気温	24～32℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
063	8:48	トノサマガエル属の一種	C,W	20	Ju	場内の池
064	8:55	ウシ目	T	1	-	場内の池岸
065	9:07	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	場内道路脇　低木・草地
066	9:17	カヤネズミ	Nst	1	-	ススキ草地
067	9:49	ウシ目	T	4	-	伐採跡地の裸地
068	10:11	トノサマガエル属の一種	C	1	Ad	湿地
069	10:21	ニホンジカ	T,D	2	-	場内北側の池岸　糞多数
070	10:27	ヒガシニホントカゲ	W	3	Ju	沈砂池下流の水路沿い
071	10:48	アライグマ	T	1	-	東山路川　砂地
072	11:55	ウシ目	T	8	-	場内の造成裸地　大小混在
073	11:59	タヌキ	T	2	-	場内の造成裸地
074	12:13	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	場内脇　林縁部
075	12:16	ノウサギ	D	1	-	場内の造成裸地
076	12:20	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	場内脇　林縁部
077	14:02	ウシ目	T	1	-	樹林
078	14:35	ニホンジカ	D	1	-	樹林
079	14:40	ヒガシニホントカゲ	W	1	Ju	コンクリート法面
080	14:44	ウシ目	T	2	-	樹林
081	15:20	ニホンイノシシ	W	3	Ad	高速道路管理用道から法面へ移動
082	15:23	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	高速道路管理用道
083	16:14	アズマヒキガエル	W	1	Ad	事務所脇の集水桝

確認方法　凡例

C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階

Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（10/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	夜間調査		
調査方法	□フィールドサイン法　☑目撃法　☑バットディテクター　□捕獲法　□トラップ法		
調査時期	夏	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.7.23	調査時間	18:30～20:00
天候	曇後雨	気温	22～24℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
084	19:43	ヒナコウモリ科の一種	Vo	2	Ad	40kHz前後

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（11/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☑捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	夏	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.7.24	調査時間	9:30～12:00
天候	晴	気温	24～32℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
086	9:45	ヤマアカガエル	C	1	Yg	樹林内
087	10:05	ヤマアカガエル	W	1	Ad	樹林内
088	10:18	ニホンジカ	D	1	-	造成裸地
089	10:37	シマヘビ	Ex	1	Ad	乾性草地　体鱗列数19　縞は不明瞭
090	10:52	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	場内搬出入路周辺

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（12/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　☑捕獲法　□トラップ法		
調査時期	秋	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.10.26	調査時間	10:30～17:00
天候	晴	気温	15～23℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
244	10:38	アズマヒキガエル	W	1	Ad	林縁部　沈砂池下流の斜面
245	11:08	ニホンジカ	W	1	Ad	落葉・照葉樹林内
246	11:45	ウシガエル	W	6	Yg	場内の池
247	11:53	カヤネズミ	Nst	1	-	ススキ草地
248	12:03	ニホンアマガエル	Vo	1	Ad	草地
249	12:04	ニホンカナヘビ	W	2	Ad	草地
250	12:15	モグラ属の一種	Tu	3	-	道路沿い草地1地点　坑道径50㎜前後
251	15:02	カモシカ	D	1	-	落葉・照葉樹林内
252	15:22	カモシカ	D	1	-	落葉・照葉樹林内
253	15:29	カモシカ	D	1	-	落葉・照葉樹林内
254	15:47	ヒミズ	De	1	Ad	道路上
255	16:16	ヤマアカガエル	W	1	Ad	水路内
256	16:28	タヌキ	T	1	-	高速道路管理用道沿い　砂地
257	16:42	ウシ目	T	2	-	対象事業実施区域内　造成裸地

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（13/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　☐バットディテクター　☑捕獲法　☐トラップ法		
調査時期	秋	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.10.26	調査時間	10:30～17:00
天候	晴	気温	13～23℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
001	10:44	ニホンカナヘビ	W	1	Yg	林縁部
002	11:54	ウシガエル	W,C	1	Yg	場内南の池
003	12:18	ニホンカナヘビ	W	1	Ad	場内搬出入路脇　草地
004	14:24	ウシガエル	W,C	1	Yg	調査範囲南側の川沿い
005	14:35	ヌマガエル	W,C	1	Yg	乾性草地（耕作放棄地）
006	14:54	カヤネズミ	Nst	1	Ad	乾性草地（耕作放棄地）
007	15:47	ウシ目	T	1	-	造成裸地
008	15:52	ウシガエル	W	1	Ad	場内北側の池
009	16:12	ウシ目	T	1	-	造成裸地
010	16:14	モグラ属の一種	Tu	1	-	樹林内
011	16:15	ニホンジカ	D	1	-	樹林内
012	16:18	ノウサギ	D	1	-	樹林内

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（14/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類		
調査地点	夜間調査		
調査方法	□フィールドサイン法　☑目撃法　☑バットディテクター　□捕獲法　□トラップ法		
調査時期	秋	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.10.26	調査時間	17:00～19:30
天候	晴	気温	16～19℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
258	17:43	ヒナコウモリ科の一種	Vo	2	Ad	40kHz前後
259	18:01	ニホンジカ	Vo	1	Ad	調査範囲西側の林内

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（15/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　☑捕獲法　□トラップ法		
調査時期	秋	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.10.27	調査時間	8:15～14:00
天候	晴	気温	13～23℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
260	8:27	キツネ	T	1	-	造成地
261	8:30	ノウサギ	D	1	-	造成地　糞塊10
262	10:36	ニホンリス	F	1	-	尾根部　アカマツ球果食痕2
263	10:40	ニホンイノシシ	W,Fo	1	Ad	落葉樹・照葉樹林内
264	11:35	ニホンイノシシ	W,Fo	1	Ad	スギ・ヒノキ植林内

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　両生類・爬虫類・哺乳類調査票（16/16）

両生類･爬虫類･哺乳類　現地調査票

業務名	瀬戸産廃		
調査項目	哺乳類･爬虫類･両生類		
調査地点	任意		
調査方法	☑フィールドサイン法　☑目撃法　□バットディテクター　☑捕獲法　□トラップ法		
調査時期	秋	調査者	[redacted]
調査年月日	2021.10.27	調査時間	8:15～14:00
天候	晴	気温	13～23℃

現地調査結果

No.	確認日時	確認種名	確認方法	確認数	成長段階/サイズ等	確認環境・行動・所感等
013	10:10	ウシ目	T	1	-	泥上
014	10:26	ウシ目	T	1	-	泥上
015	10:43	イタチ	D	1	Ad	東山路川沿い

確認方法　凡例								
C	Catch	捕獲	Tu	Tunnel	土耕跡	P	Path	けもの道
W	Watch	目撃	F	Feeding	食痕	Fo	Foraging	掘り返し
Vo	Vocal	鳴き声	Nst	Nest	巣	Cw	Claw	爪痕・皮はぎ
T	Truck	足跡	De	Dead	死体	Sc	Sac	卵嚢のみ
D	Dung	糞	Hr	Hair	抜毛	Ex	Exuviae	脱皮殻

成長段階		
Eg	Egg	卵
La	Larva	幼生
Ju	Juvenile	幼体
Yg	Young	亜成体
Ad	Adult	成体

表　哺乳類トラップ調査票（1/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.5.10-11	1		

調査区No.	St.1	月日	5/10	5/11							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	13:15	8:40							
植生	落葉・照葉混交樹林	天候	晴	晴							
草密度	無・極疎・疎・中・密	気温	24	17							
備考	サクラ・コナラ・ツバキ等	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
		確認なし								

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
0	0	20	0	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（2/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.5.10-11	2		

調査区No.	St.2	月日	5/10	5/11							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	13:50	9:05							
植生	乾性草地	天候	晴	晴							
草密度	無・極疎・疎・中・(密)	気温	24	18							
備考	ススキ	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
		確認なし								

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
0	0	20	0	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（3/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.5.10-11	3		

調査区No.	St.3	月日	5/10	5/11							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	14:20	9:25							
植生	湿性草地	天候	晴	晴							
草密度	無・極疎・疎・(中)・密	気温	24	18							
備考	スゲ・照葉樹	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
5/11	1	アカネズミ	38					雄	有	睾丸肥大

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
1	1	20	0.05	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（4/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.5.10-11	4		

調査区No.	St.4	月日	5/10	5/11							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	14:50	9:45							
植生	落葉・照葉混交樹林	天候	晴	晴							
草密度	無・極疎・疎・(中)・密	気温	24	19							
備考	河川沿い	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
5/11	1	ヒメネズミ	7	19				雌	無	
5/11	2	アカネズミ	30					雄	有	睾丸肥大
5/11	3	ヒメネズミ	7	19				雌	無	

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
2	3	20	0.15	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（5/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.10.26-27	5		

調査区No.	St.1	月日	10/26	10/27							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	8:15	8:15							
植生	落葉・照葉混交樹林	天候	晴れ	晴れ							
草密度	無・極疎・(疎)・中・密	気温	14	16							
備考	サクラ・コナラ・ツバキ等	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
		確認なし								

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
0	0	20	0	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（6/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.10.26-27	6		

調査区No.	St.2	月日	10/26	10/27							
業務名	瀬戸	調査時刻	9:00	8:30							
植生	瀬戸産廃	天候	晴れ	晴れ							
草密度	無・極疎・疎・中・(密)	気温	15	16							
備考	ススキ	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
10/27	1	アカネズミ	14					不明	無	幼獣

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
0	0	20	0	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（7/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.10.26-27	7		

調査区No.	St.3	月日	10/26	10/27							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	9:40	9:00							
植生	湿性草地	天候	晴れ	晴れ							
草密度	無・極疎・疎・(中)・密	気温	15	16							
備考	スゲ・照葉樹	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
10/27	1	アカネズミ	28					雄	無	

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
1	1	20	0.05	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類トラップ調査票（8/8）

哺乳類相調査　トラップ調査票

調査区分	哺乳T

地整名	事務所名	調査地区名	調査年月日	整理番号		
		瀬戸	2021.10.26-27	8		

調査区No.	St.4	月日	10/26	10/27							
業務名	瀬戸産廃	調査時刻	10:20	9:30							
植生	落葉・照葉混交樹林	天候	晴れ	晴れ							
草密度	無・極疎・疎・(中)・密	気温	15	17							
備考	河川沿い	備考									

月日	個体No.	種名	体重(g)	後趾長(mm)	尾長(mm)	頭胴長(mm)	耳長(mm)	性別	繁殖有無	備考
		確認なし								

A. 捕獲種数	B. 捕獲個体数	C.延べトラップ数=トラップ数×晩数	D. B/C	E. 餌種類
0	0	20	0	ピーナッツ

調査者氏名：[redacted]

同定者氏名：[redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（1/16）

哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	冬季

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.1			

調査年月日・時刻	2021.1.21 9:45	～	2021.1.22 8:20	天候	晴～曇 一時雨	気温	3～12℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam		撒餌	なし			
設置環境 （植生、地形等）	落葉・照葉混交樹林　ソヨゴ・ツバキ・サクラ・クヌギ・ササ						

確認種	ニホンジカ、タヌキ



1/21　11:45　　ニホンジカ



1/22　3:51　　タヌキ

調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（2/16）

哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	冬季

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.2	2		

調査年月日・時刻	2021.1.21 10:24	～	2021.1.22 8:35	天候	晴～曇 一時雨	気温	3～12℃
使用機材	Bushnell Essential E3		撒餌	なし			
設置環境 （植生、地形等）	乾性草地、ススキ						

確認種	ニホンイノシシ



1/21　20:20　　ニホンイノシシ

調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（3/16）

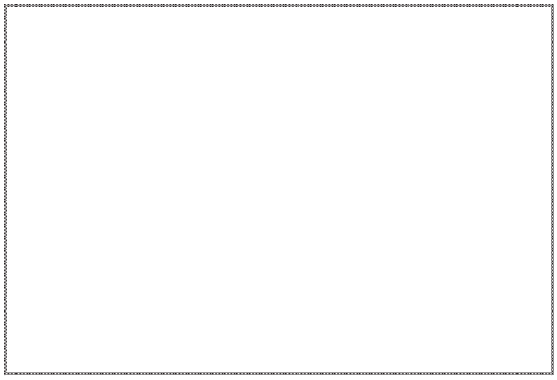
哺乳類　無人撮影調査票

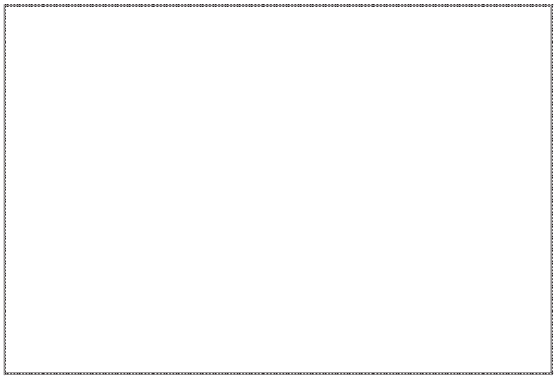
調査区分		時季	冬季

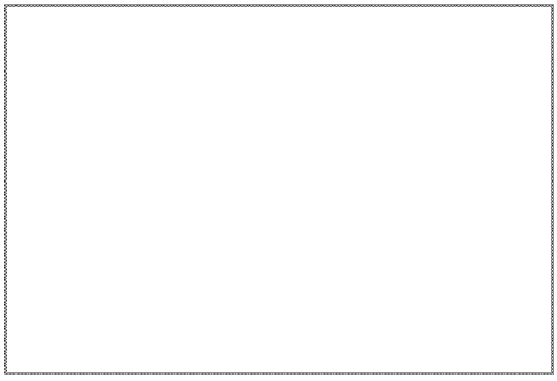
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.3	3		

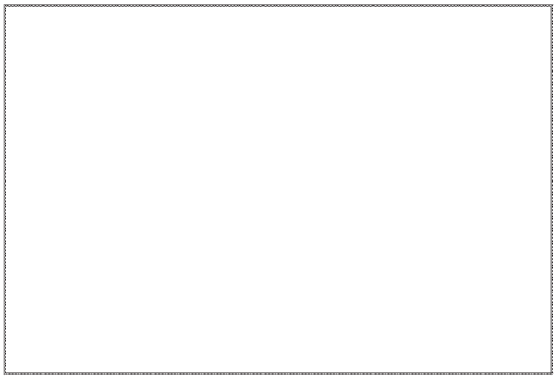
調査年月日・時刻	2021.1.21 12:40 ～ 2021.1.22 8:52		天候	晴～曇 一時雨	気温	3～12℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし			
設置環境（植生、地形等）	湿地					

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（4/16）

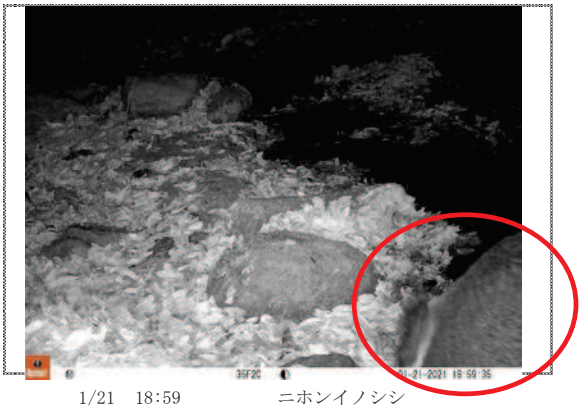
哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	冬季

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.4	4		

調査年月日・時刻	2021.1.21 11:40	～	2021.1.22 9:00	天候	晴～曇 一時雨	気温	3～12℃
使用機材	Bushnell Essential E3		撒餌	なし			
設置環境 （植生、地形等）	河川沿い						

確認種	ニホンイノシシ、タヌキ



1/21　18:59　　ニホンイノシシ



1/21　20:07　　タヌキ

調査者　[redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（5/16）

哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	春

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.1	5		

調査年月日・時刻	2021.5.10 13:30 ～ 2021.5.11 8:45	天候	晴時々曇	気温	15～25℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	落葉・照葉混交樹林　ソヨゴ・ツバキ・サクラ・クヌギ・ササ				

確認種	タヌキ



5/11　5:17　　タヌキ

調査者　[redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（6/16）

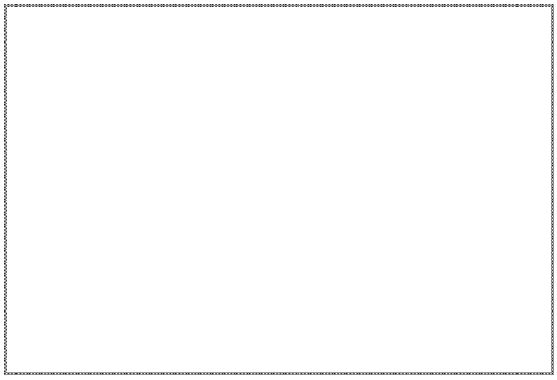
哺乳類　無人撮影調査票

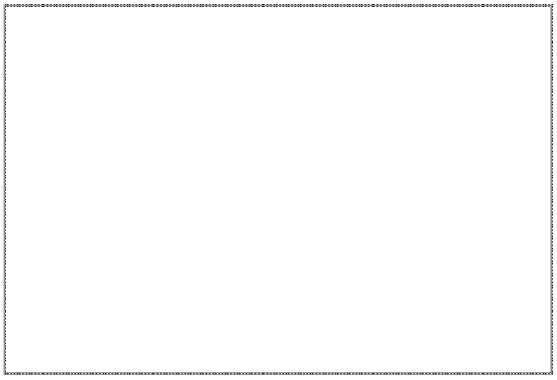
調査区分		時季	春

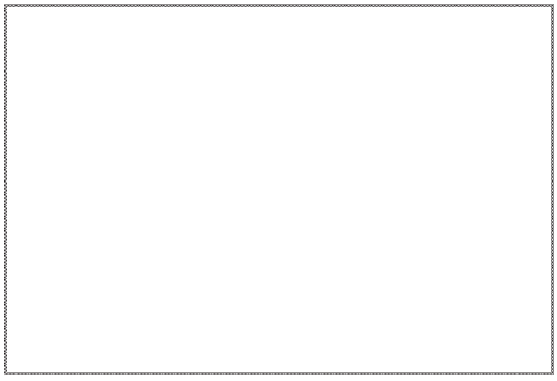
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.2	6		

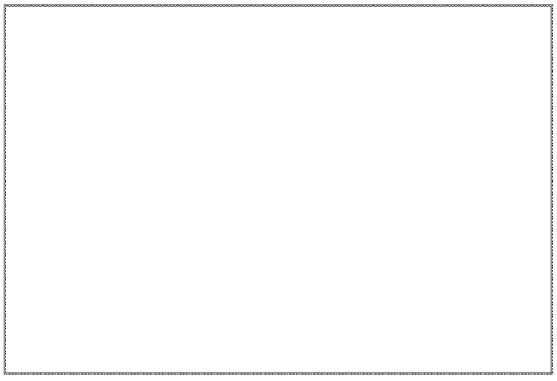
調査年月日・時刻	2021.5.10 14:15 ～ 2021.5.11 9:15	天候	晴時々曇	気温	15～25℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	乾性草地、ススキ				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（7/16）

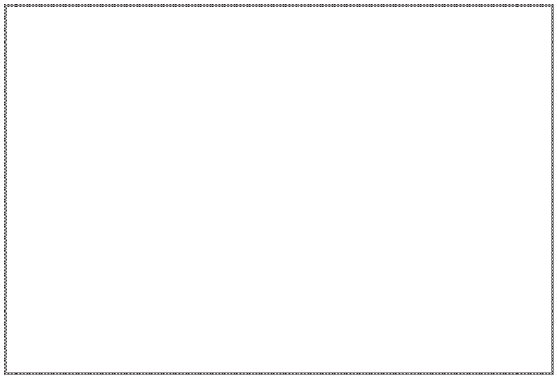
哺乳類　無人撮影調査票

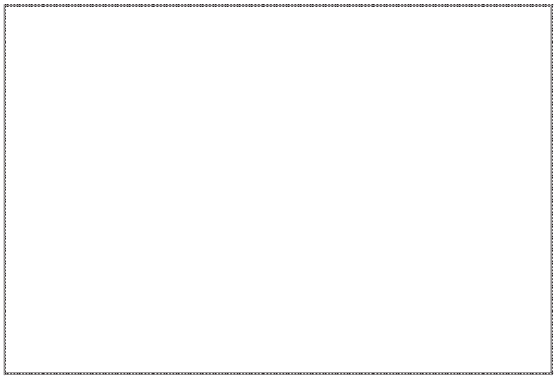
調査区分		時季	春

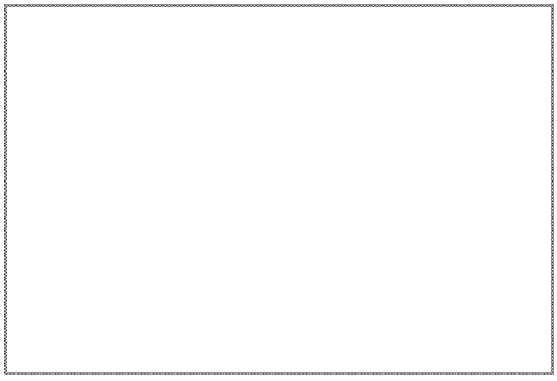
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.3	7		

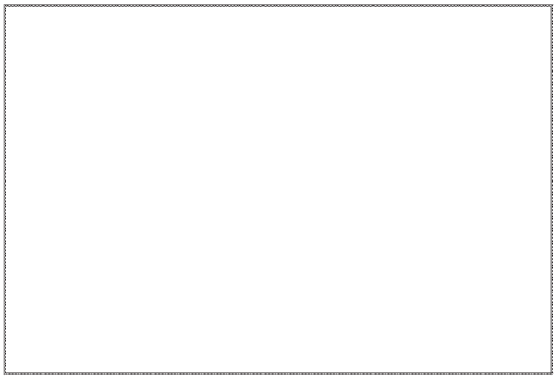
調査年月日・時刻	2021.5.10 14:45 ～ 2021.5.11 9:30	天候	晴時々曇	気温	15～25℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	湿地				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（8/16）

哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	春

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.4	8		

調査年月日・時刻	2021.5.10 15:15 ～ 2021.5.11 9:45	天候	晴時々曇	気温	15～24℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	河川沿い				

確認種	ニホンイノシシ、タヌキ



5/11　0:20　ニホンイノシシ



5/11　5:53　タヌキ

[redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（9/16）

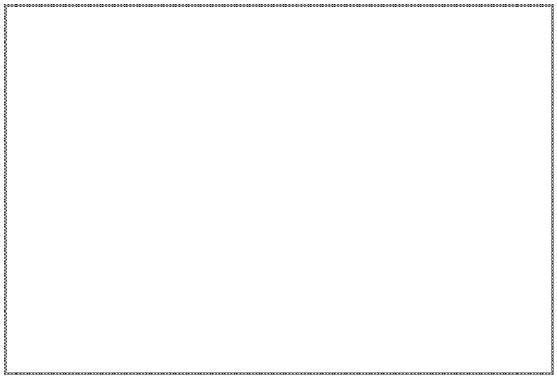
哺乳類　無人撮影調査票

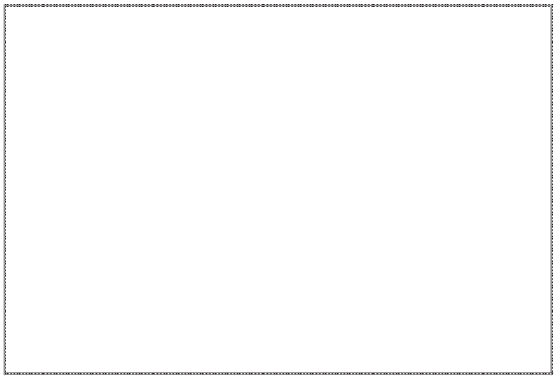
調査区分		時季	夏

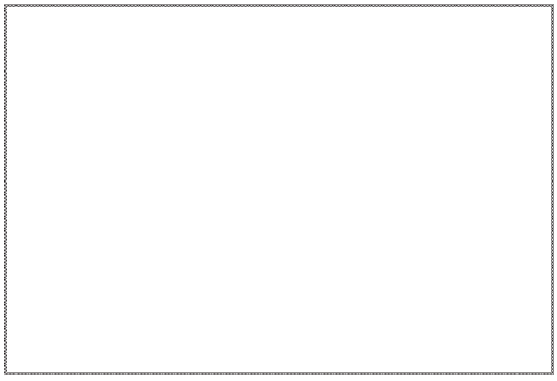
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.1	9		

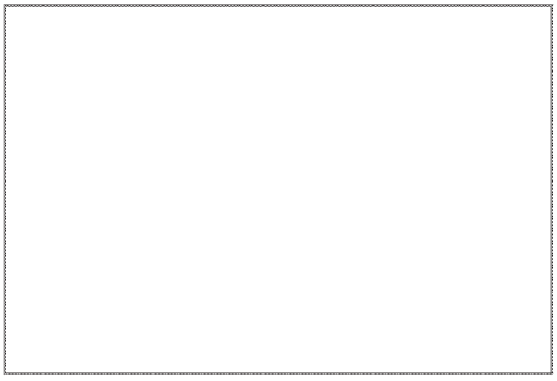
調査年月日・時刻	2021.7.23 12:15 ～ 2021.7.24 10:15	天候	晴時々曇 一時雨	気温	23～32℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	落葉・照葉混交樹林　ソヨゴ・ツバキ・サクラ・クヌギ・ササ				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（10/16）

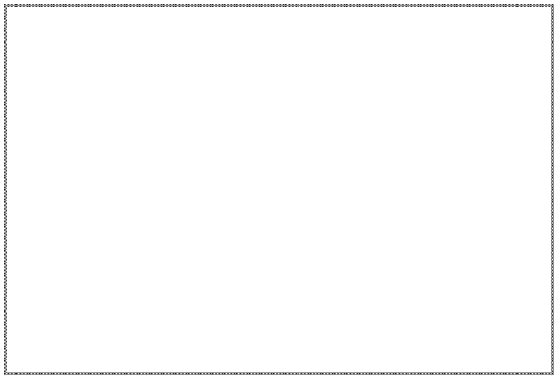
哺乳類　無人撮影調査票

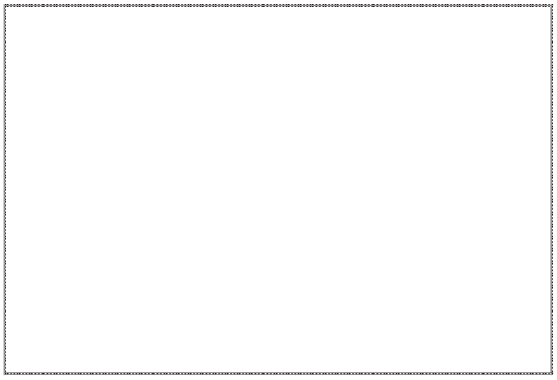
調査区分		時季	夏

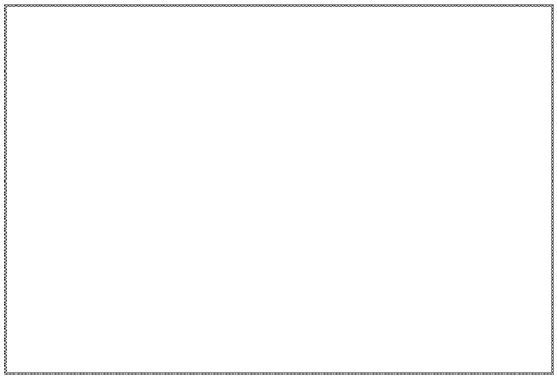
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.2	10		

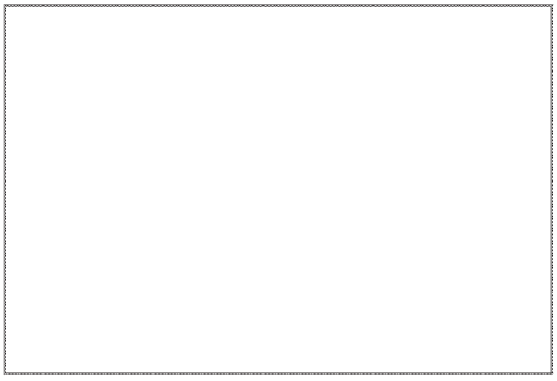
調査年月日・時刻	2021.7.23 9:45 ～ 2021.7.24 8:30	天候	晴時々曇一時雨	気温	23～32℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	乾性草地、ススキ				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（11/16）

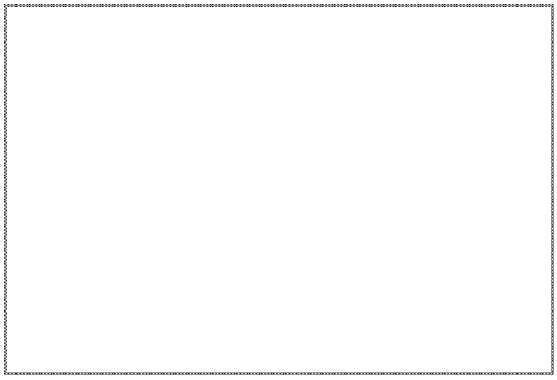
哺乳類　無人撮影調査票

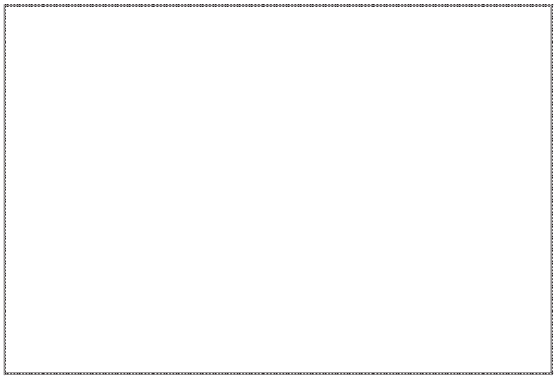
調査区分		時季	夏

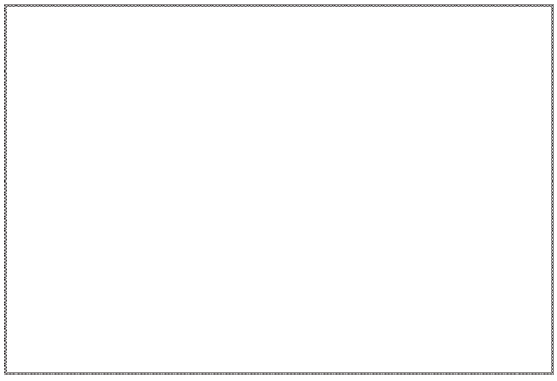
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.3	11		

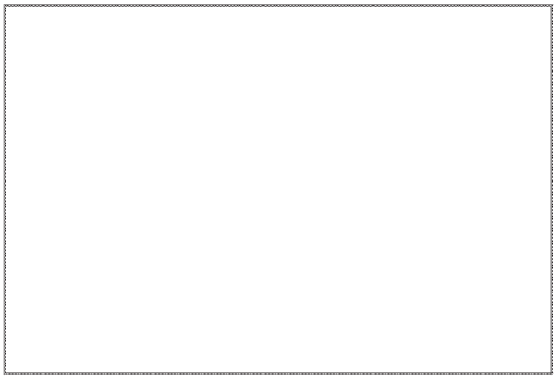
調査年月日・時刻	2021.7.23 10:15 ～ 2021.7.24 9:15	天候	晴時々曇 一時雨	気温	23～32℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	湿地				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（12/16）

哺乳類　無人撮影調査票

調査区分		時季	夏

地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.4	12		

調査年月日・時刻	2021.7.23 10:45 ～ 2021.7.24 9:30	天候	晴時々曇一時雨	気温	23～32℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	河川沿い				

確認種	ハクビシン



7/23　11:13　　ハクビシン

調査者　[redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（13/16）

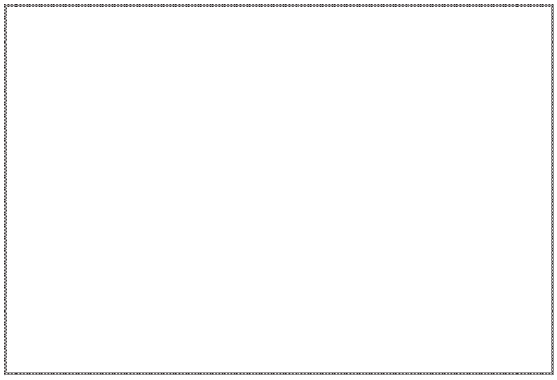
哺乳類　無人撮影調査票

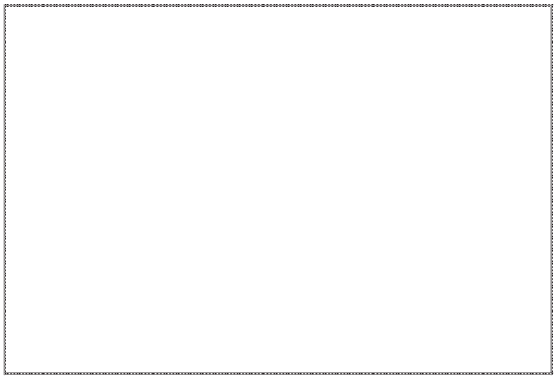
調査区分		時季	秋

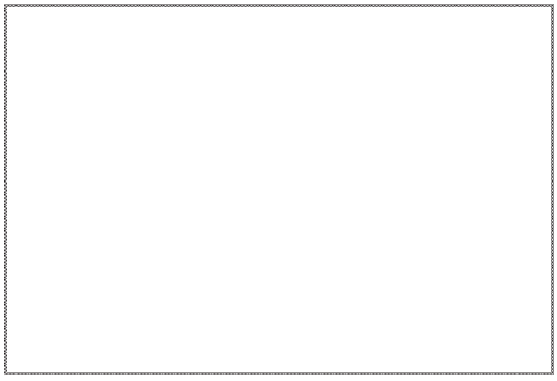
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.1	13		

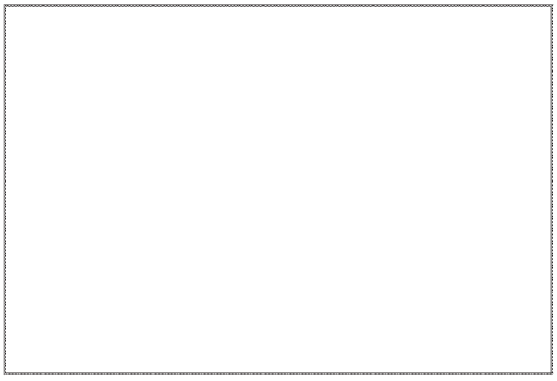
調査年月日・時刻	2021.10.26 8:30 ～ 2021.10.27 8:15	天候	晴れ	気温	13～26℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	落葉・照葉混交樹林　ソヨゴ・ツバキ・サクラ・クヌギ・ササ				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（14/16）

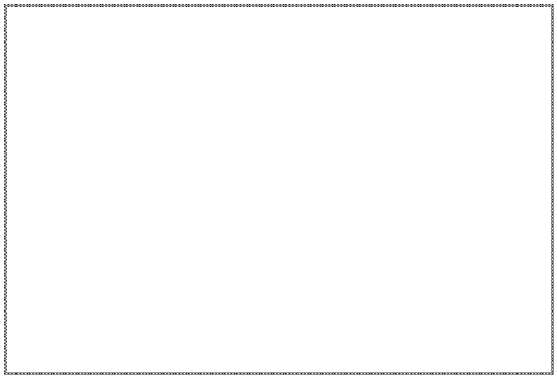
哺乳類　無人撮影調査票

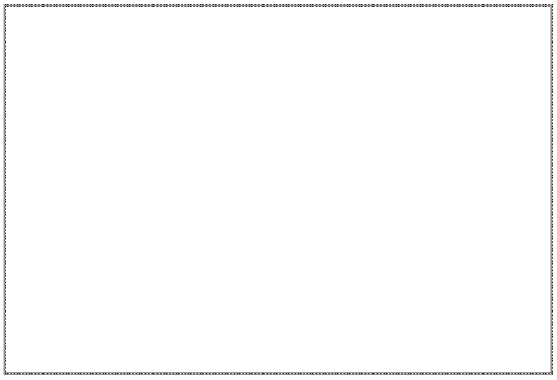
調査区分		時季	秋

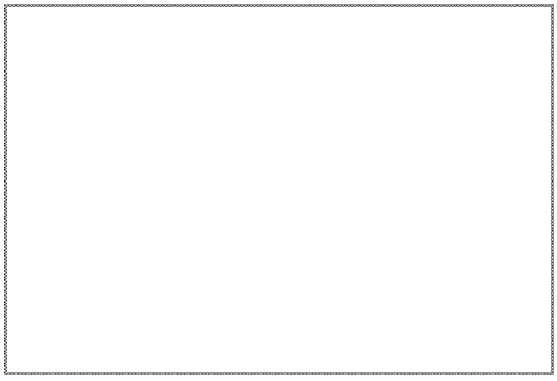
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.2	14		

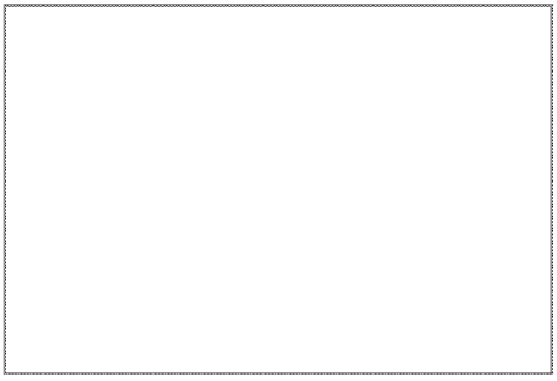
調査年月日・時刻	2021.10.26 9:20 ～ 2021.10.27 8:30	天候	晴れ	気温	13～26℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	乾性草地、ススキ				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（15/16）

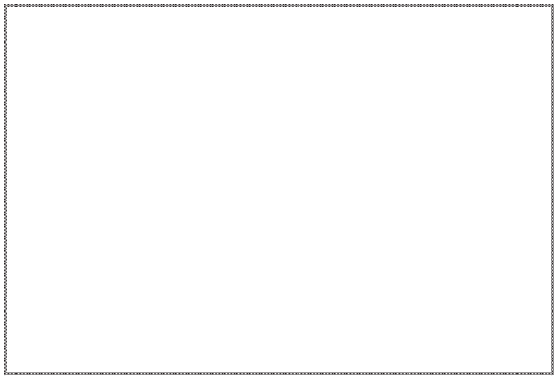
哺乳類　無人撮影調査票

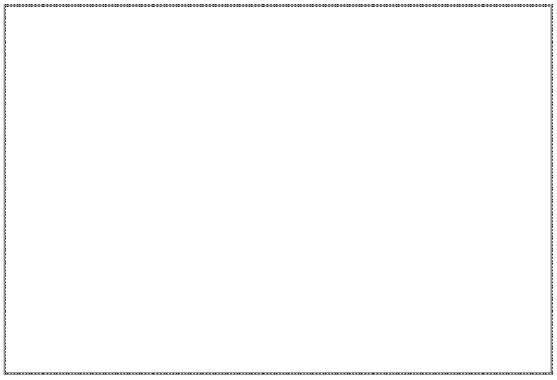
調査区分		時季	秋

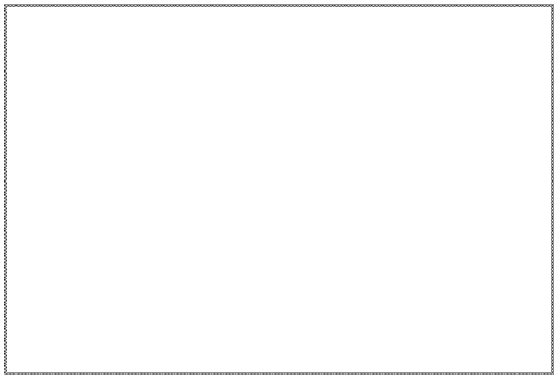
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.3	15		

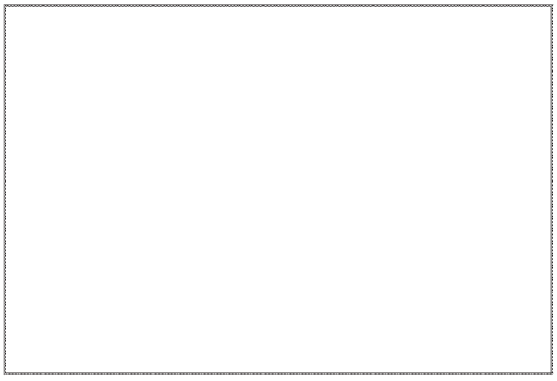
調査年月日・時刻	2021.10.26 10:00 ～ 2021.10.27 9:00		天候	晴れ	気温	13～26℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし			
設置環境（植生、地形等）	湿地					

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　哺乳類自動撮影カメラ調査票（16/16）

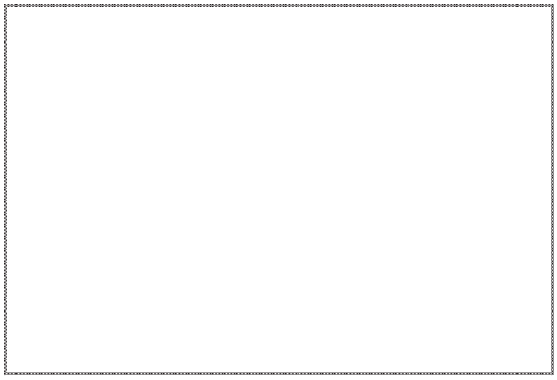
哺乳類　無人撮影調査票

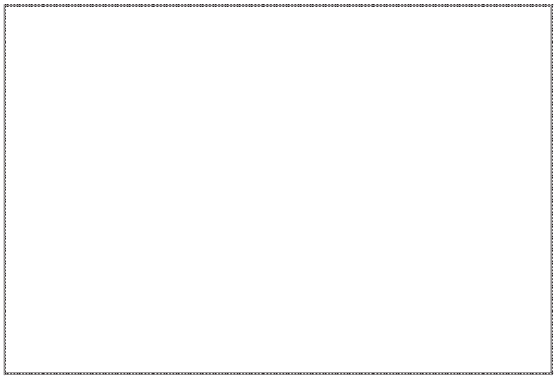
調査区分		時季	秋

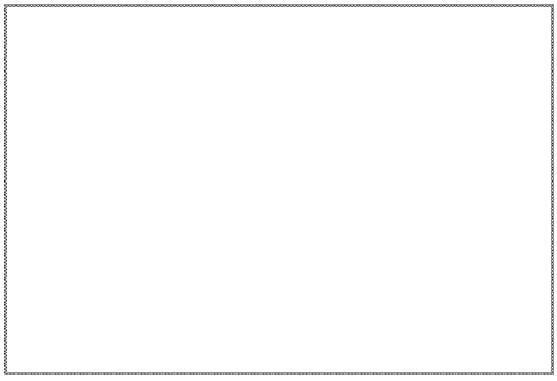
地整名	事務所名	調査地点	整理番号		
		St.4	16		

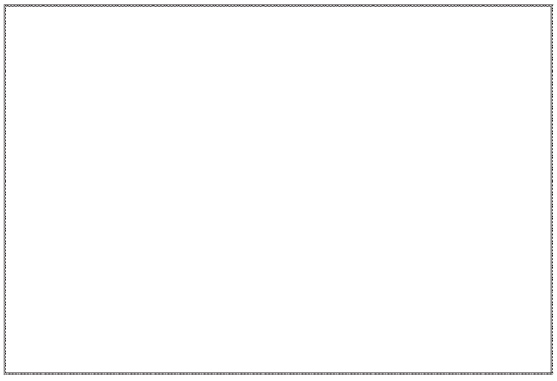
調査年月日・時刻	2021.10.26 11:00 ～ 2021.10.27 9:30	天候	晴れ	気温	13～26℃
使用機材	Bushnell Torophy Cam	撒餌	なし		
設置環境（植生、地形等）	河川沿い				

確認種	なし









調査者 [redacted]

表　一般鳥類調査票（1/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	定点1				
調査方法	□ラインセンサス法　☑定点観察法　□夜間調査　□直接観察				
調査時期	越冬期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/1/21	調査時間	9:25	～	10:30
天候	晴	気温	6℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ジョウビタキ	V	M	1	17	
2	カワラヒワ	V	M	2	17	
3	スズメ	V	M・R	2	15	
4	ヒヨドリ	V	M	1	1	
5	モズ	V	M・E	1	8	柵にとまり探餌
6	ハシブトガラス	V	M	1	1	
7	カワラバト（ドバト）	V	M・R	1	5	
8	ジョウビタキ	V	M	1	8	
9	ヒヨドリ	V	M	1	1	
10	トビ	V	M	1	1	
11	アオバト	V	M	1	1	
12	ヒヨドリ	V	M	2	1	
13	モズ	V	R・E	1	8	鉄柱にとまり探餌
14	ジョウビタキ	V	R	1	8	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（2/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン1		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	越冬期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/1/21	調査時間	8:28　～　9:16
天候	晴	気温	5℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ヒヨドリ	V	M	1	15	
2	カシラダカ	V	M・E	20	2	林縁を移動しながら採餌
3	ジョウビタキ	V	M	1	2	
4	シジュウカラ	V	M	2	8	
5	ヒヨドリ	V	M	1	5	
6	アオジ	V	M・R	4	5	
7	コゲラ	C	M	1	2	
8	アオジ	V	M・R	4	8	
9	ホオジロ	V	M	2	5	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（3/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	ライン2				
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察				
調査時期	越冬期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/1/21	調査時間	7:00	～	7:40
天候	晴	気温	−1℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ヒヨドリ	V	M	2	8	
2	シジュウカラ	V	M	3	5	
3	セグロセキレイ	V	E	1	11	水路で採餌
4	シロハラ	V	E	1	11	水路で採餌
5	シジュウカラ	V	M	1	5	
6	ヒヨドリ	V・C	M	1	5	
7	シジュウカラ	V	M	2	5	
8	ヤマガラ	V	M	1	5	
9	ハシブトガラス	V	M	1	1	
10	ホオジロ	V	R	1	5	
11	ヒヨドリ	V	M	1	1	
12	カケス	V・C	M	1	2	
13	ルリビタキ	V	M	1	8	
14	ジョウビタキ	V	M	1	8	
15	シロハラ	V	E	1	8	高速法面の草地で採餌

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷﾂﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（4/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	任意観察		
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　☑直接観察		
調査時期	越冬期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/1/21	調査時間	10:45　～　13:45
天候	晴	気温	10℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	メジロ	V	E	2	8	車道脇の草地で探餌
2	アオジ	V	M	1	8	
3	ヒヨドリ	C	R	2	2	
4	コゲラ	C	M	1	2	
5	ヤマガラ	V・C	M	1	2	
6	ヒヨドリ	V	M	1	15	
7	マヒワ	V	R	8	5	
8	ハシブトガラス	V	M	1	1	
9	キセキレイ	V	E	1	11	水路で探餌
10	シロハラ	V	E	2	8	高速法面の草地で探餌
11	エナガ	V	M・E	7	2	林内で移動しながら探餌
12	ソウシチョウ	V	E	3	2	イノシシ罠内の餌を採餌
13	シジュウカラ	V	ME	4	2	林内で移動しながら探餌
14	アカゲラ	V	E	1	2	林内で採餌
15	コゲラ	V・C	M・E	2	2	林内で移動しながら探餌
16	ヒヨドリ	V	M	2	3	
17	ベニマシコ	V	E	2	5	林縁の低木で採餌
18	カワラヒワ	V	M・R	2	8	
19	シジュウカラ	V	M	3	5	
20	シロハラ	V	E	1	5	林内で探餌
21	シロハラ	V	E	1	8	高速法面の草地で探餌
22	ルリビタキ	V	E	1	11	水路で探餌
23	カケス	V・C	M	1	3	
24	アオサギ	V	M	1	1	
25	カワウ	V	M	1	1	
26	キジ	V	M	1	8	
27	セグロセキレイ	V	M	1	17	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（5/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　☑夜間調査　□直接観察				
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/1/21	調査時間	17:30　～　20:30		
天候	晴	気温	3～7℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
	確認種なし					

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（6/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	定点1		
調査方法	□ラインセンサス法　☑定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/4/20	調査時間	8:15　～　9:15
天候	晴	気温	16℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ツバメ	V	M	1	1	
2	ウグイス	S	B	2	3	さえずり
3	ハシブトガラス	V	M	1	1	
4	ウグイス	S	B	1	2	さえずり
5	セグロセキレイ	V	M	1	17	採石場内
6	ヒヨドリ	V	M	1	1	
7	コジュケイ	S	B	1	3	さえずり
8	ハクセキレイ	V	M	1	1	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（7/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン1		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/4/20	調査時間	7:20　～　8:10
天候	晴	気温	12℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	カワラヒワ	V	E	2	17	砂利道脇で採餌
2	キセキレイ	V	R	1	8	
3	コチドリ	V	M	2	17	採石場内
4	オオルリ	S	B	1	3	さえずり
5	ホオジロ	S	B	2	2	さえずり
6	ヒヨドリ	V	M	1	1	
7	センダイムシクイ	S	B	1	2	さえずり
8	ウグイス	S	B	1	2	さえずり
9	ヒヨドリ	V	R	1	2	
10	ヤマガラ	V	E	1	2	
11	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
12	メジロ	V	M	1	2	
13	ハシブトガラス	V	E	1	2	林縁で採餌
14	コゲラ	C	M	1	2	
15	ヒヨドリ	V	M	1	1	
16	セグロセキレイ	V	M	2	17	
17	ホオジロ	S	B	1	3	さえずり

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（8/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン2		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/4/20	調査時間	5:45　～　6:48
天候	晴	気温	8℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ヤブサメ	S	B	1	8	さえずり
2	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
3	ホオジロ	V	M	1	2	
4	オオルリ	S	B	1	3	さえずり
5	ソウシチョウ	S	B	1	5	さえずり
6	ホオジロ	V	M	1	5	
7	コゲラ	V	M	1	5	
8	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
9	シジュウカラ	S	B	1	2	さえずり
10	ヒヨドリ	S	B	1	3	さえずり
11	ヒヨドリ	V	M	1	1	
12	ウグイス	S	B	1	5	さえずり
13	ヒヨドリ	V	M	1	5	
14	ウグイス	S	B	1	5	さえずり
15	シジュウカラ	V	M	1	5	
16	エナガ	V	M	1	5	
17	メジロ	V	M	1	5	
18	ホオジロ	V	M	1	5	
19	キジバト	V	M	1	1	
20	アオジ	V	M	1	8	
21	ヤマガラ	V	M・E	2	2	
22	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
23	ヤブサメ	S	B	1	5	さえずり
24	アオゲラ	S	B	1	2	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（9/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	任意観察		
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　☑直接観察		
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/4/20	調査時間	9:30　～　13:20
天候	晴	気温	21℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
2	コチドリ	V	M	2	17	採石場内
3	ウグイス	S	B	1	8	さえずり
4	キビタキ	S	B	1	2	さえずり
5	ウグイス	S	B	1	8	さえずり
6	セグロセキレイ	V	M・E	1	16	水路内で採餌
7	オオルリ	S	B	1	3	さえずり
8	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
9	ホオジロ	V	M	1	2	
10	オオルリ	S	B	1	2	さえずり
11	ハシボソガラス	V	M	1	1	
12	キジ	S	B	1	2	さえずり
13	ツバメ	V	M	1	1	
14	カワラヒワ	V	M	1	8	
15	ヒヨドリ	V	M	3	2	
16	ツバメ	V	M	2	1	
17	キジバト	V	M	1	1	
18	ホオジロ	S	B	1	2	さえずり
19	シジュウカラ	V	M・E	2	2	
20	ヒヨドリ	V	M	1	2	
21	センダイムシクイ	V	M	2	2	
22	コゲラ	V	M・E	1	1	
23	センダイムシクイ	S・V	M	1	2	さえずり
24	ウグイス	S	B	2	2	さえずり
25	ホオジロ	S	B	1	2	さえずり
26	キビタキ	S	B	1	2	さえずり

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（10/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　☑夜間調査　□直接観察				
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/4/19	調査時間	18:30 ～ 20:04		
天候	晴	気温	15℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
	確認種なし					

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（11/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	定点1		
調査方法	□ラインセンサス法　☑定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	繁殖期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/6/22	調査時間	7:30　～　8:30
天候	曇	気温	23℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ホオジロ	V	R	1	3	
2	ウグイス	S	B	1	3	さえずり
3	ハシブトガラス	V	M	1	1	
4	ツバメ	V	M	1	1	
5	ヒヨドリ	V	M	2	8	
6	メジロ	V	M	1	2	
7	ヒヨドリ	V	M	2	2	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（12/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン1		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	繁殖期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/6/22	調査時間	6:35　～　7:20
天候	晴	気温	21℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	コチドリ	V	M	3	17	採石場内
2	ホオジロ	S	M	1	2	さえずり
3	シジュウカラ	V	M	3	2	
4	コチドリ	V	M・E	1	17	採石場内で採餌
5	ウグイス	S	B・M	1	2	さえずり
6	メジロ	V	M	4	2	
7	シジュウカラ	V	M	1	5	
8	キビタキ	S	B	1	2	さえずり
9	ウグイス	S	M	1	2	さえずり
10	ハシボソガラス	V	M	2	1	
11	キセキレイ	V	M	1	1	
12	コチドリ	V	M	1	17	採石場内
13	キセキレイ	V	M	1	17	採石場内
14	コゲラ	V	M・E	1	3	林縁で採餌

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】V：目視　S：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　C：地鳴き

【確認行動】B：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　M：移動（飛翔、泳ぐ等）　R：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　O：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（13/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン2		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	春渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/6/22	調査時間	5:00　～　6:00
天候	晴	気温	19℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ヒヨドリ	V	M	1	2	
2	ハシブトガラス	V	M	1	1	
3	ヒヨドリ	V	M	1	2	
4	ウグイス	S	B・M	1	2	さえずり
5	ソウシチョウ	S	B	1	2	さえずり
6	キビタキ	S	B	1	2	さえずり
7	シジュウカラ	V	M	4	2	
8	ヒヨドリ	V	M	1	5	
9	ハクセキレイ	V	M	1	1	
10	ヒヨドリ	C	M	1	2	
11	ウグイス	S	B	1	8	さえずり
12	スズメ	V	M	2	1	
13	ウグイス	S	B	1	2	さえずり
14	メジロ	V	M	1	2	
15	センダイムシクイ	S	B・M	1	5	さえずり
16	メジロ	V	M・E	2	5	
17	ヤブサメ	S	M	1	5	
18	シジュウカラ	S	B・M	1	2	さえずり
19	エナガ	V	M	4	1	
20	コゲラ	V	M	1	2	
21	ツバメ	V	M	1	1	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（14/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	任意観察		
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　☑直接観察		
調査時期	繁殖期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/6/22	調査時間	8:55　～　12:30
天候	晴	気温	26℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	コチドリ	V	M	2	17	採石場内
2	ヒヨドリ	S	M	1	2	
3	コチドリ	V	M	1	17	採石場内
4	キセキレイ	V	R	1	15	電線にとまる
5	キビタキ	V	M	1	2	
6	シジュウカラ	S	M	2	2	
7	シジュウカラ	S	M	2	2	
8	ソウシチョウ	V	M	2	5	笹藪内
9	ヤブサメ	S	M	1	2	
10	キビタキ	S	M	1	2	
11	ソウシチョウ	V	M	2	2	
12	キビタキ	S	M	1	2	
13	アオサギ	V	M	1	1	
14	ホトトギス	S	M	1	2	
15	ソウシチョウ	S	M	1	2	
16	ウグイス	S	B・M	1	2	
17	スズメ	S	M	2	2	
18	ホオジロ	S・V	M	1	5	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｾｷﾚｲ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（15/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　☑夜間調査　□直接観察				
調査時期	繁殖期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2022/6/21	調査時間	19:20	～	20:30
天候	晴	気温	23℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
	確認種なし					

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（16/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	定点1		
調査方法	□ラインセンサス法　☑定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	夏期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/8/27	調査時間	7:30　～　8:30
天候	晴	気温	30℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	キジバト	V	M	1	1	
2	ハシブトガラス	V	R	1	15	電線にとまる
3	ツバメ	V	M	1	1	
4	メジロ	V	M	2	3	
5	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
6	ヒヨドリ	C	M	1	3	
7	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
8	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
9	スズメ	V	M	1	15	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（17/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	ライン1				
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察				
調査時期	夏期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/8/27	調査時間	6:35	～	7:20
天候	晴	気温	28℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	シジュウカラ	V	M	3	3	
2	ホオジロ	V	M	1	2	
3	ヒヨドリ	C	M	1	2	
4	ヤマガラ	V	M	1	2	
5	カワラヒワ	V	M	2	2	
6	ヒヨドリ	V	M	2	2	
7	シジュウカラ	V	M	2	2	
8	サンショウクイ	V	M	2	2	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（18/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	ライン2				
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察				
調査時期	夏期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/8/27	調査時間	5:20	～	6:10
天候	晴	気温	26℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	メジロ	V	M	3	5	
2	シジュウカラ	V	M	3	5	
3	メジロ	V	M	3	5	2と同一の場所で確認（小群）
4	ソウシチョウ	S	B	1	2	さえずり
5	ヒヨドリ	V	M	1	2	
6	ハシボソガラス	V	M	2	1	
7	シジュウカラ	V	M	5	2	
8	コゲラ	V	M	1	2	
9	シジュウカラ	V	M	2	8	
10	ヒヨドリ	V	M	1	2	
11	メジロ	V	M	7	5	
12	ソウシチョウ	S	M	1	2	さえずり
13	ヒヨドリ	C	M	1	2	
14	シジュウカラ	V	M	4	2	
15	ツバメ	V	R	3	15	電線にとまる

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（19/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	任意観察		
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　☑直接観察		
調査時期	夏期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/8/27	調査時間	9:00　～　13:00
天候	晴	気温	36℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	メジロ	V	M	3	2	
2	メジロ	V	M	2	2	
3	シジュウカラ	V	M	3	2	2と同一の場所で確認（小群）
4	コゲラ	V	M	1	2	
5	セグロセキレイ	V	R	2	11	
6	キセキレイ	V	R	1	11	
7	ヤマガラ	V	M	2	2	
8	セグロセキレイ	V	M	1	15	
9	メジロ	V	M	1	5	
10	シジュウカラ	V	M	2	5	9と同一の場所で確認（小群）
11	ヒヨドリ	V	M	2	5	
12	ヒヨドリ	V	M	2	2	
13	メジロ	C	M	2	2	
14	シジュウカラ	C	M	3	2	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（20/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　☑夜間調査　□直接観察				
調査時期	夏期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2022/8/26	調査時間	18:50 ～ 20:30		
天候	晴	気温	27℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
	確認種なし					

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（21/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	定点1		
調査方法	□ラインセンサス法　☑定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	秋渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/9/22	調査時間	8:00　～　9:00
天候	曇	気温	30℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	コゲラ	V	M	1	1	
2	メジロ	V	M	5	1	
3	キジバト	V	R	2	17	電線にとまる
4	シジュウカラ	V	M	2	2	
5	メジロ	V	M	2	1	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（22/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン1		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	秋渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/9/22	調査時間	7:00　～　7:50
天候	晴	気温	26℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	スズメ	V	M	2	15	
2	ヤマガラ	V	M	1	2	
3	シジュウカラ	V	M	1	1	
4	ヒヨドリ	V	M	2	1	
5	キジバト	V	R	1	2	
6	ヤマガラ	V	M	2	2	
7	ウグイス	V	M	1	5	
8	メジロ	V	M・E	2	2	移動しながら探餌
9	ヤマガラ	V	M	1	2	
10	アオゲラ	V	M	1	2	
11	キジバト	V	M	1	2	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（23/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査		
調査項目	一般鳥類		
調査地点	ライン2		
調査方法	☑ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　□直接観察		
調査時期	秋渡り期	調査者	[redacted]
調査年月日	2021/9/22	調査時間	5:40　～　6:40
天候	曇時々晴	気温	23℃

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	ヒヨドリ	V	M	1	5	
2	メジロ	V	M	2	2	
3	シジュウカラ	V	M	1	2	2と同一の場所で確認
4	ヒヨドリ	C	M	1	2	
5	ハシブトガラス	V	M	3	1	
6	ソウシチョウ	V	M	1	2	
7	シジュウカラ	V	M	1	8	
8	ヒヨドリ	V	R	2	5	
9	コゲラ	C	M	1	5	
10	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
11	ヒヨドリ	C	M	1	2	
12	シジュウカラ	V	M	2	5	
13	ハシブトガラス	V	M	1	1	
14	シジュウカラ	C	M	2	2	
15	メジロ	V	M	2	5	
16	メジロ	V	M	5	2	
17	シジュウカラ	V	M	8	2	16と同一の場所で確認
18	コゲラ	V	M	1	2	16と同一の場所で確認

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（24/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　□夜間調査　☑直接観察				
調査時期	秋渡り期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/9/22	調査時間	9:30 ～ 14:00		
天候	曇時々晴	気温	30℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
1	メジロ	V	M	6	5	
2	メジロ	V	M	2	2	
3	アオゲラ	V	M・E	1	2	移動しながら探餌
4	ヤマガラ	V	M・E	2	5	移動しながら探餌
5	ヒヨドリ	V	M	1	5	4と同一の場所で確認
6	ハシブトガラス	V	M	1	1	
7	ヒヨドリ	V	M	2	8	
8	ハクセキレイ	V	M	1	1	
9	ヒヨドリ	V	M	1	2	
10	オオルリ	V	M	1	2	
11	メジロ	V	M	4	2	
12	コジュケイ	S	B	1	2	さえずり
13	ハシブトガラス	V	M	2	1	

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】V：目視　S：さえずり（ｷｯﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　C：地鳴き

【確認行動】B：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　M：移動（飛翔、泳ぐ等）　R：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　O：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　一般鳥類調査票（25/25）

一般鳥類　現地調査票

業務名	瀬戸市山路町廃棄物処分場　動物調査				
調査項目	一般鳥類				
調査地点	任意観察				
調査方法	□ラインセンサス法　□定点観察法　☑夜間調査　□直接観察				
調査時期	秋渡り期	調査者	[redacted]		
調査年月日	2021/9/21	調査時間	17:45	～	19:30
天候	曇	気温	23℃		

現地調査結果

No.	種名	確認状況	確認行動	個体数	確認環境	備考（特記事項・写真番号等）
	確認種なし					

記録上の注意点：①ライン、定点調査は出現した鳥類全てを記入。
②任意調査では、重要種・指定外来種が出現した場合、全項目必ず記入し、図面に位置を記入。

【確認状況】**V**：目視　**S**：さえずり（ｷﾂﾂｷ類のﾄﾞﾗﾐﾝｸﾞを含む）　**C**：地鳴き

【確認行動】**B**：繁殖（備考欄に、さえずり、巣の確認、雛の確認等を記入）　**M**：移動（飛翔、泳ぐ等）　**R**：休息
E：採餌（備考欄に、採餌環境、行動を記入）　**O**：その他（備考欄に、確認行動を記入）

【個 体 数】確認個体数を記入。個体数が分からない場合は「不明」とする。

【確認環境】以下の区分から選択。「⑲：その他」の場合は備考へ記入。
①：上空通過　②：広葉樹林　③：針広混交林　④：竹林　⑤：低木林　⑥：水田　⑦：畑地　⑧：乾性草地
⑨：集落・屋敷林　⑩：湿生植物　⑪：水面　⑫：干潟　⑬：砂浜　⑭：河原等水辺　⑮：人工地・市街地
⑯：水路　⑰：道路・裸地　⑱：その他構造物　⑲その他

表　昆虫類確認種一覧（1/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
1	トビムシ目（粘管目）	ムラサキトビムシ科	ムラサキトビムシ科	Hypogastruridae sp.			●	●			●
2		イボトビムシ科	イボトビムシ科	Neanuridae sp.			●				●
3		アヤトビムシ科	シマツノトビムシ	*Entomobrya japonica*		●					●
4			ザウテルアヤトビムシ	*Homidia sauteri*		●	●	●		●	●
5			タテジマアヤトビムシ	*Homidia socia*		●	●				●
－			アヤトビムシ科	Entomobryidae sp.		●					●
6		ツチトビムシ科	ツチトビムシ科	Isotomidae sp.		●	●	●			●
7		オウギトビムシ科	アヤヒゲナガトビムシ	*Salina speciosa*		●				●	
－			オウギトビムシ科	Paronellidae sp.			●			●	
8		トゲトビムシ科	Tomocerus属	*Tomocerus* sp.		●	●	●		●	●
9		マルトビムシ科	シママルトビムシ	*Ptenothrix denticulata*			●	●			●
－			マルトビムシ科	Sminthuridae sp.		●	●	●	●	●	●
10	イシノミ目	イシノミ科	Pedetontus属	*Pedetontus* sp.			●	●	●		●
－			イシノミ科	Machilidae sp.		●					●
11	カゲロウ目（蜉蝣目）	トビイロカゲロウ科	トビイロカゲロウ科	Leptophlebiidae sp.			●			●	
12		モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*			●			●	
13		ヒメフタオカゲロウ科	Ameletus属	*Ameletus* sp.	●				●		
14	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	*Indolestes peregrinus*	●	●			●		
15			アオイトトンボ	*Lestes sponsa*			●	●	●		
16			オオアオイトトンボ	*Lestes temporalis*				●	●		
17			オツネントンボ	*Sympecma paedisca*	●			●	●		
18		イトトンボ科	キイトトンボ	*Ceriagrion melanurum*			●		●		
19			アジアイトトンボ	*Ischnura asiatica*				●	●		
20			アオモンイトトンボ	*Ischnura senegalensis*			●		●		
21		カワトンボ科	アサヒナカワトンボ	*Mnais pruinosa*		●			●		
22		ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	*Anax nigrofasciatus nigrofasciatus*		●			●		
23			ギンヤンマ	*Anax parthenope julius*			●		●		
24			サラサヤンマ	*Sarasaeschna pryeri*	●				●		
25		サナエトンボ科	ヤマサナエ	*Asiagomphus melaenops*		●			●		
26		オニヤンマ科	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*			●		●		
27		トンボ科	ショウジョウトンボ	*Crocothemis servilia mariannae*			●	●	●		
28			ハラビロトンボ	*Lyriothemis pachygastra*			●		●		
29			シオカラトンボ	*Orthetrum albistylum speciosum*			●		●		
30			シオヤトンボ	*Orthetrum japonicum*	●	●			●		
31			オオシオカラトンボ	*Orthetrum melania*			●		●		
32			ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*				●	●		
33			コシアキトンボ	*Pseudothemis zonata*			●		●		
34			コノシメトンボ	*Sympetrum baccha matutinum*				●	●		
35			マユタテアカネ	*Sympetrum eroticum eroticum*			●	●	●		
36			アキアカネ	*Sympetrum frequens*			●	●	●		
37			マイコアカネ	*Sympetrum kunckeli*				●	●	●	
38			リスアカネ	*Sympetrum risi risi*				●	●		
39			ネキトンボ	*Sympetrum speciosum speciosum*				●	●		
40	ゴキブリ目（網翅目）	オオゴキブリ科	オオゴキブリ	*Panesthia angustipennis spadica*	●			●	●		

表　昆虫類確認種一覧（2/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
41	ゴキブリ目（網翅目）	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	*Blattella nipponica*	●	●		●	●		●
42	カマキリ目（蟷螂目）	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ	*Acromantis japonica*				●	●		
43		カマキリ科	ハラビロカマキリ	*Hierodula patellifera*				●	●		
44			ムネアカハラビロカマキリ	*Hierodula sp.*			●	●	●		
45			オオカマキリ	*Tenodera sinensis*		●	●	●	●		
46	シロアリ目（等翅目）	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ	*Reticulitermes speratus*	●	●		●	●		
47	ハサミムシ目（革翅目）	マルムネハサミムシ科	コバネハサミムシ	*Euborellia annulata*		●		●			●
48	カワゲラ目（セキ翅目）	ホソカワゲラ科	Perlomyia属	*Perlomyia* sp.	●		●		●	●	
49		オナシカワゲラ科	Amphinemura属	*Amphinemura* sp.	●				●		
50			クロオナシカワゲラ	*Indonemoura nohirae*	●			●	●		
51			Nemoura属	*Nemoura* sp.	●	●			●		
–			オナシカワゲラ科	Nemouridae sp.				●	●	●	
52		ミドリカワゲラ科	Suwallia属	*Suwallia* sp.		●			●	●	
53		カワゲラ科	Neoperla属	*Neoperla* sp.		●			●		
54			ヤマトカワゲラ	*Niponiella limbatella*		●			●		
55	バッタ目（直翅目）	コロギス科	ハネナシコロギス	*Nippancistroger testaceus*		●			●		
56			コロギス	*Prosopogryllacris japonica*		●			●		
57		カマドウマ科	ハヤシウマ	*Diestrammena itodo*			●				●
58			マダラカマドウマ	*Diestrammena japonica*				●	●		
–			カマドウマ科	Rhaphidophoridae sp.			●				●
59		ツユムシ科	セスジツユムシ	*Ducetia japonica*				●	●		
60			ヤマクダマキモドキ	*Holochlora longifissa*				●	●		
61			ツユムシ	*Phaneroptera falcata*				●	●		
62			アシグロツユムシ	*Phaneroptera nigroantennata*				●	●		
63		キリギリス科	コバネササキリ	*Conocephalus japonicus*				●	●		
64			ホシササキリ	*Conocephalus maculatus*				●	●		
65			クビキリギス	*Euconocephalus varius*				●	●		
66			Tettigonia属	*Tettigonia* sp.			●	●	●	●	
67		マツムシ科	マツムシモドキ	*Aphonoides japonicus*				●	●		
68			カンタン	*Oecanthus longicauda*				●	●		
69			アオマツムシ	*Truljalia hibinonis*			●	●	●		
70		コオロギ科	ヒメコオロギ	*Comidoblemmus nipponensis*				●			●
71			モリオカメコオロギ	*Loxoblemmus sylvestris*				●			●
72			クマスズムシ	*Sclerogryllus puctatus*				●			●
–			コオロギ科	Gryllidae sp.			●	●			●
74		カネタタキ科	カネタタキ	*Ornebius kanetataki*				●	●		
–			Ornebius属	*Ornebius* sp.			●			●	
74		ヒバリモドキ科	ウスグモスズ	*Amusurgus genji*				●	●		
75			マダラスズ	*Dianemobius nigrofasciatus*			●		●		
76			Natula属	*Natula* sp.		●			●		
77			ヒゲシロスズ	*Polionemobius flavoantennalis*				●			●
78			キアシヒバリモドキ	*Trigonidium japonicum*			●				●
79		バッタ科	ショウリョウバッタ	*Acrida cinerea*			●	●	●		
80			ショウリョウバッタモドキ	*Gonista bicolor*				●	●		

表　昆虫類確認種一覧（3/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
81	バッタ目（直翅目）	バッタ科	トノサマバッタ	*Locusta migratoria*			●	●	●		
82			イボバッタ	*Trilophidia japonica*				●	●		
–			バッタ科	Acrididae sp.			●		●		
83		イナゴ科	コバネイナゴ	*Oxya yezoensis*				●	●		
84			ヤマトフキバッタ	*Parapodisma setouchiensis*			●		●		
85			ツチイナゴ	*Patanga japonica*	●	●	●	●	●		
86		オンブバッタ科	オンブバッタ	*Atractomorpha lata*			●	●	●		
87		ヒシバッタ科	コバネヒシバッタ	*Formosatettix larvatus*	●	●		●	●		●
88			ハラヒシバッタ	*Tetrix japonica*	●	●			●		●
89		ノミバッタ科	ノミバッタ	*Xya japonica*		●	●		●		
90	チャタテムシ目（噛虫目）	ウロコチャタテ科	ウロコチャタテ	*Paramphientomum yumyum*				●		●	
91			オオウロコチャタテ	*Stimulopalpus japonicus*				●	●		
92		ケブカチャタテ科	ウスベニチャタテ	*Amphipsocus rubrostigma*				●	●		
93		ケチャタテ科	トビモンケチャタテ	*Caecilius badiostigma*		●			●		
–			Caecilius属	*Caecilius* sp.	●	●	●		●	●	
94			ヨツモンホソチャタテ	*Graphopsocus cruciatus*		●			●		
95		ホソチャタテ科	ハグルマチャタテ	*Matsumuraiella rapiopicta*				●	●		
96	カメムシ目（半翅目）	コガシラウンカ科	ナワコガシラウンカ	*Errada nawae*			●			●	
97		ヒシウンカ科	ヨスジヒシウンカ	*Reptalus quadricinctus*			●		●		
98		ウンカ科	ゴマフウンカ	*Cemus nigroclyeatus*				●	●		
99			タケウンカ	*Epeurysa nawaii*	●		●	●	●		
100			ヒメトビウンカ	*Laodelphax stratellus*	●		●		●		
101			トビイロウンカ	*Nilaparvata lugens*				●	●		
102			セジロウンカモドキ	*Sogatella kolophon*				●	●		
103			ハリマナガウンカ	*Stenocranus harimensis*				●	●		
104			タマガワナガウンカ	*Stenocranus tamagawanus*			●		●		
105			テラウチウンカ	*Terauchiana singularis*		●		●	●		
106			コブウンカ	*Tropidocephala brunneipennis*		●	●		●		
107		ハネナガウンカ科	アヤヘリハネナガウンカ	*Losbanosia hibarensis*			●		●		
108			アカメガシワハネビロウンカ	*Vekunta malloti*				●		●	
109		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ	*Geisha distinctissima*				●	●		
110			トビイロハゴロモ	*Mimophantia maritima*				●	●		
111		マルウンカ科	マルウンカ	*Gergithus variabilis*			●	●	●		
112		ハゴロモ科	アミガサハゴロモ	*Pochazia albomaculata*				●	●		
113		グンバイウンカ科	タテスジグンバイウンカ	*Catullia vittata*				●	●		
114			ヒラタグンバイウンカ	*Ossoides lineatus*				●	●		
115		セミ科	ツクツクボウシ	*Meimuna opalifera*				●	●		
116			ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*			●		●		
117		アワフキムシ科	イシダアワフキ	*Aphrophora ishidae*				●	●		
118		コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	*Eoscarta assimilis*			●		●	●	
119		ヨコバイ科	キウィヒメヨコバイ	*Alebrasca actinidiae*			●			●	
120			ミドリカスリヨコバイ	*Balclutha incisa*			●	●	●		
121			カスリヨコバイ	*Balclutha punctata*				●	●		
122			ツマグロオオヨコバイ	*Bothrogonia ferruginea*	●	●		●	●		

表　昆虫類確認種一覧（4/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
123	カメムシ目（半翅目）	ヨコバイ科	オオヨコバイ	*Cicadella viridis*			●	●	●		
124			オオオナガトガリヨコバイ	*Doratulina grandis*			●		●		
125			ヨツモンコヒメヨコバイ	*Empoascanara limbata*	●		●	●	●		
126			ヨモギヒメヨコバイ	*Eupteryx minuscula*		●			●		
127			マエジロオオヨコバイ	*Kolla atramentaria*		●			●		
128			ミミズク	*Ledra auditura*				●		●	
129			コミミズク	*Ledropsis discolor*	●				●		
130			ホシヒメヨコバイ	*Limassolla multipunctata*	●		●		●	●	
131			Macropsis属	*Macropsis* sp.			●		●		
132			ヨツテンウスバヨコバイ	*Macrosteles quadrimaculatus*				●	●		
133			イネマダラヨコバイ	*Maiestas oryzae*		●	●		●		
134			Pagaronia属	*Pagaronia* sp.		●			●		
135			クロヒラタヨコバイ	*Penthimia nitida*				●	●		
136			マダラヨコバイ	*Psammotettix striatus*		●		●	●		
137			クロスジホソサジヨコバイ	*Sophonia orientalis*				●	●		
138			ヤマトヨコバイ	*Yamatotettix flavovittatus*			●			●	
–			ヨコバイ科	Cicadellidae sp.		●	●	●	●	●	
139		サシガメ科	アカサシガメ	*Cydnocoris russatus*		●			●		
140			クロトビイロサシガメ	*Oncocephalus breviscutum*				●			●
141			クロモンサシガメ	*Peirates turpis*	●	●			●		
142			シマサシガメ	*Sphedanolestes impressicollis*		●	●	●	●		
143			ウスイロカモドキサシガメ	*Tridemula ishiharai*		●			●		
144			ヤニサシガメ	*Velinus nodipes*				●	●		
145		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	*Corythucha marmorata*	●	●	●	●	●	●	●
146			ヘクソカズラグンイ	*Dulinius conchatus*				●	●		
147			トサカグンバイ	*Stephanitis takeyai*			●	●	●	●	
148		ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ	*Amphiareus obscuriceps*				●	●		
149			コヒメハナカメムシ	*Orius minutus*				●	●		
150		カスミカメムシ科	Adelphocoris属	*Adelphocoris* sp.			●	●	●		
151			Apolygus属	*Apolygus* sp.			●	●	●		
152			Campylomma属	*Campylomma* sp.				●	●		
153			カシワカスミカメ	*Castanopsides potanini*				●	●		
154			ヒメセダカカスミカメ	*Charagochilus angusticollis*				●	●		
155			ガマカスミカメ	*Coridromius chinensis*	●				●		
156			マダラカスミカメ	*Cyphodemidea saundersi*	●	●			●		
157			シラゲヨモギカスミカメ	*Europiella artemisiae*		●			●		
158			ムツボシカスミカメ	*Loristes paveli*		●			●		
159			Lygocoris属	*Lygocoris* sp.			●	●	●	●	
160			ヒメヨモギカスミカメ	*Plagiognathus yomogi*			●		●		
161			Pseudophylu属	*Pseudophylus* sp.		●			●		
162			アカスジカスミカメ	*Stenotus rubrovittatus*			●	●	●		
163			グンバイカスミカメ	*Stethoconus japonicus*			●			●	
164			ツヤキノコカスミカメ	*Yamatofulvius miyamotoi*			●		●		
165		マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ	*Gorpis brevilineatus*		●			●		

表　昆虫類確認種一覧（5/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
166	カメムシ目（半翅目）	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	*Nabis stenoferus*				●	●		
167			キバネアシブトマキバサシガメ	*Prostemma kiborti*	●				●		
168		ヒラタカメムシ科	ツヤヒメヒラタカメムシ	*Paraneurus nitidulus*		●			●	●	
169		オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	*Physopelta gutta*				●	●		
170		ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ	*Leptocorisa chinensis*				●	●		
171			ニセヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius vulgaris*				●	●		
172			ホソヘリカメムシ	*Riptortus pedestris*				●	●		
173		ヘリカメムシ科	ハリカメムシ	*Cletus schmidti*		●	●	●	●		
174			ハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus dilatatus*			●	●	●		
175			オオクモヘリカメムシ	*Homoeocerus striicornis*				●	●		
176			ホシハラビロヘリカメムシ	*Homoeocerus unipunctatus*		●			●		
177			オオツマキヘリカメムシ	*Hygia lativentris*		●			●		
178			ツマキヘリカメムシ	*Hygia opaca*			●	●	●		
179		ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ	*Liorhyssus hyalinus*			●		●		
180			アカヒメヘリカメムシ	*Rhopalus maculatus*		●			●		
181			ケブカヒメヘリカメムシ	*Rhopalus sapporensis*	●				●		
182			コブチヒメヘリカメムシ	*Stictopleurus minutus*			●		●		
183			ブチヒメヘリカメムシ	*Stictopleurus punctatonervosus*		●		●	●		
184		イトカメムシ科	イトカメムシ	*Yemma exilis*	●	●			●		
185		ナガカメムシ科	ウスイロナガカメムシ	*Bryanellocoris orientalis*				●	●		
186			ウスイロヒメヒラタナガカメムシ	*Cymus elegans*			●		●		
187			ヒメオオメナガカメムシ	*Geocoris proteus*			●		●		
188			オオメナガカメムシ	*Geocoris varius*	●				●		
189			サビヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera inconspicua*			●		●		
190			キベリヒョウタンナガカメムシ	*Horridipamera lateralis*	●				●		
191			ヒナナガカメムシ	*Iodinus ferrugineus*				●	●		
192			クロツヤナガカメムシ	*Lamproplax membranea*		●		●	●		
193			ホソコバネナガカメムシ	*Macropes obnubilus*	●	●	●	●	●		
194			オオモンシロナガカメムシ	*Metochus abbreviatus*			●				●
195			チャイロナガカメムシ	*Neolethaeus dallasi*			●		●		
196			ホソメダカナガカメムシ	*Ninomimus flavipes*		●	●	●	●		
197			ヒメナガカメムシ	*Nysius plebeius*	●	●	●	●	●		
198			ヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha antennata*				●	●		
199			クロスジヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha similis*			●		●		
200			ムラサキナガカメムシ	*Pylorgus colon*	●		●		●		
201			チビナガカメムシ	*Stigmatonotum rufipes*				●	●		
202			コバネヒョウタンナガカメムシ	*Togo hemipterus*			●		●		
203			ヒメジュウジナガカメムシ	*Tropidothorax sinensis*		●			●		
–			ナガカメムシ科	Lygaeidae sp.		●	●				●
204		ツノカメムシ科	ベニモンツノカメムシ	*Elasmostethus humeralis*				●	●		
205			モンキツノカメムシ	*Sastragala scutellata*			●		●		
206		ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ	*Adomerus triguttulus*	●	●			●		
207			ヒメツチカメムシ	*Fromundus pygmaeus*	●				●		
208			ツチカメムシ	*Macroscytus japonensis*	●		●		●		●

表　昆虫類確認種一覧（6/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ライトトラップ	ベイトトラップ
209	カメムシ目（半翅目）	カメムシ科	シロヘリカメムシ	*Aenaria lewisi*				●	●		
210			トゲカメムシ	*Carbula abbreviata*			●		●		
211			ブチヒゲカメムシ	*Dolycoris baccarum*			●		●		
212			ナガメ	*Eurydema rugosa*			●		●		
213			ムラサキシラホシカメムシ	*Eysarcoris annamita*				●	●		
214			マルシラホシカメムシ	*Eysarcoris guttigerus*	●				●		
215			ツヤアオカメムシ	*Glaucias subpunctatus*				●	●		
216			エビイロカメムシ	*Gonopsis affinis*			●	●	●		
217			クサギカメムシ	*Halyomorpha halys*	●			●	●		
218			ミナミアオカメムシ	*Nezara viridula*				●	●		
219			チャバネアオカメムシ	*Plautia stali*				●	●		
220			オオクロカメムシ	*Scotinophara horvathi*		●					●
221		マルカメムシ科	マルカメムシ	*Megacopta punctatissima*				●	●		
222		クヌギカメムシ科	ヘラクヌギカメムシ	*Urostylis annulicornis*			●	●	●	●	
223		アメンボ科	オオアメンボ	*Aquarius elongatus*	●				●		
224			アメンボ	*Aquarius paludum paludum*	●	●	●	●	●		
225			ヒメアメンボ	*Gerris latiabdominis*	●	●	●		●		
226			コセアカアメンボ	*Gerris gracilicornis*	●		●		●		
227			ヤスマツアメンボ	*Gerris insularis*	●	●	●		●		●
228		ミズギワカメムシ科	ウスイロミズギワカメムシ	*Saldula pallipes*				●	●		
229		ミズムシ科（昆）	Sigara属	*Sigara* sp.	●		●		●	●	
230		メミズムシ科	メミズムシ	*Ochterus marginatus*	●		●		●		●
231		タイコウチ科	ヒメタイコウチ	*Nepa hoffmanni*	●		●		●		●
232		マツモムシ科	コマツモムシ	*Anisops ogasawarensis*	●				●		
233			マツモムシ	*Notonecta triguttata*	●		●		●		
234		マルミズムシ科	マルミズムシ	*Paraplea japonica*	●				●		
235		キジラミ科	イタドリマダラキジラミ	*Aphalara itadori*		●	●	●	●		
236			セグロヒメキジラミ	*Calophya nigridorsalis*			●			●	
237			ハコネキジラミ	*Psylla hakonensis*		●			●		
–			Psylla属	*Psylla* sp.	●				●		
238		アブラムシ科	アブラムシ科	Aphididae sp.	●	●	●	●	●	●	●
239		コナジラミ科	コナジラミ科	Aleyrodidae sp.		●					●
240	アザミウマ目（総翅目）	アザミウマ科	アザミウマ科	Thripidae sp.	●		●	●	●	●	
241		クダアザミウマ科	クダアザミウマ科	Phlaeothripidae sp.		●				●	
242	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヤマトクロスジヘビトンボ	*Parachauliodes japonicus*	●				●		
243		センブリ科	Sialis属	*Sialis* sp.		●			●		
244	アミメカゲロウ目（脈翅目）	ヒロバカゲロウ科	ヤマトヒロバカゲロウ	*Spilosmylus tuberculatus*			●		●		
245		カマキリモドキ科	ヒメカマキリモドキ	*Mantispa japonica japonica*			●		●		
246		ツノトンボ	ツノトンボ	*Ascalohybris subjacens*			●		●		
247		ウスバカゲロウ科	ウスバカゲロウ科	Myrmeleontidae sp.	●				●		
248		コナカゲロウ科	シロコナカゲロウ	*Semidalis albata*		●			●		
249		クサカゲロウ科	クモンクサカゲロウ	*Chrysopa formosa*			●		●		
250			アミメカゲロウ	*Nacaura matsumurae*				●	●		
251		ヒメカゲロウ科	Hemerobius属	*Hemerobius* sp.	●	●			●		

表　昆虫類確認種一覧（7/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
252	アミメカゲロウ目（脈翅目）	ヒメカゲロウ科	Micromus maculatipes	*Micromus maculatipes*		●			●		
253			ホソバヒメカゲロウ	*Micromus multipunctatus*	●	●			●		
254			チャバネヒメカゲロウ	*Micromus numerosus*	●		●		●		
255			ニセヒメカゲロウ	*Paramicromus dissimilis*		●				●	
256	シリアゲムシ目（長翅目）	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	*Panorpa japonica*		●			●		
257	トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	Cheumatopsyche属	*Cheumatopsyche* sp.		●	●	●	●	●	
258			Hydropsyche属	*Hydropsyche* sp.		●	●			●	
259		ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	*Stenopsyche marmorata*		●				●	
260		ヤマトビケラ科	Glossosoma属	*Glossosoma* sp.		●	●	●	●	●	
261		ヒメトビケラ科	Hydroptila属	*Hydroptila* sp.		●	●	●		●	
262		ナガレトビケラ科	Rhyacophila属	*Rhyacophila* sp.			●			●	
263		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	*Goera japonica*			●			●	
–			Goera属	*Goera* sp.	●				●		
264		カクツツトビケラ科	オオカクツツトビケラ	*Lepidostoma crassicorne*	●				●		
265			コカクツツトビケラ	*Lepidostoma japonicum*			●			●	
–			Lepidostoma属	*Lepidostoma* sp.	●			●	●	●	
266		ヒゲナガトビケラ科	Mystacides属	*Mystacides* sp.		●				●	
267			トウヨウクサツミトビケラ	*Oecetis tsudai*			●			●	
268		エグリトビケラ科	ヤマガタトビイロトビケラ	*Nothopsyche yamagataensis*	●				●		
269		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ	*Molanna moesta*		●				●	
270		マルバネトビケラ科	シロフマルバネトビケラ	*Phryganopsyche brunnea*				●		●	
271			マルバネトビケラ	*Phryganopsyche latipennis*		●				●	
–			Phryganopsyche属	*Phryganopsyche* sp.	●				●		
272	チョウ目（鱗翅目）	ミノガ科	Canephora属	*Canephora* sp.	●				●		
273			シバミノガ	*Nipponopsyche fuscescens*				●	●		
274		マダラガ科	ブドウスカシクロバ	*Hedina tenuis*	●				●		
275		セセリチョウ科	チャバネセセリ	*Pelopidas mathias oberthueri*				●	●		
276			キマダラセセリ	*Potanthus flavus flavus*				●	●		
277		シジミチョウ科	コツバメ	*Callophrys ferrea ferrea*	●				●		
278			ルリシジミ	*Celastrina argiolus ladonides*				●	●		
279			スギタニルリシジミ本州亜種	*Celastrina sugitanii sugitanii*	●				●		
280			ウラギンシジミ	*Curetis acuta paracuta*			●	●	●		
281			ツバメシジミ	*Everes argiades argiades*	●				●		
282			ウラナミシジミ	*Lampides boeticus*				●	●		
283			ベニシジミ	*Lycaena phlaeas chinensis*	●			●	●		
284			ヤマトシジミ本土亜種	*Zizeeria maha argia*		●			●		
285		タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	*Argynnis paphia tsushimana*				●	●		
286			ツマグロヒョウモン	*Argyreus hyperbius hyperbius*				●	●		
287			ルリタテハ本土亜種	*Kaniska canace nojaponicum*	●			●	●		
288			クロヒカゲ本土亜種	*Lethe diana diana*		●		●	●		
289			テングチョウ日本本土亜種	*Libythea lepita celtoides*	●		●		●		
290			クロコノマチョウ	*Melanitis phedima oitensis*	●	●		●	●		
291			ジャノメチョウ	*Minois dryas bipunctata*			●		●		
292			ヒメジャノメ	*Mycalesis gotama fulginia*		●			●		

表　昆虫類確認種一覧（8/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
293	チョウ目（鱗翅目）	タテハチョウ科	サトキマダラヒカゲ	*Neope goschkevitschii*			●		●		
294			コミスジ本州以南亜種	*Neptis sappho intermedia*		●			●		
295			アサギマダラ	*Parantica sita niphonica*		●			●		
296			キタテハ	*Polygonia c-aureum c-aureum*				●	●		
297			アカタテハ	*Vanessa indica indica*				●	●		
298			ヒメウラナミジャノメ	*Ypthima argus argus*		●	●		●		
299		アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	*Graphium sarpedon nipponum*			●		●		
300			ギフチョウ	*Luehdorfia japonica*		●			●		
301			オナガアゲハ	*Papilio macilentus macilentus*		●			●		
302			アゲハ	*Papilio xuthus*	●		●		●		
303		シロチョウ科	モンキチョウ	*Colias erate poliographa*	●	●		●	●		
304			キタキチョウ	*Eurema mandarina*	●	●		●	●		
305			モンシロチョウ	*Pieris rapae crucivora*	●		●	●	●		
306		ツトガ科	ツトガ	*Ancylolomia japonica*			●			●	
307			アカウスグロノメイガ	*Bradina angustalis pryeri*			●			●	
308			サツマキノメイガ	*Nacoleia satsumalis*			●			●	
309			クビシロノメイガ	*Piletocera aegimiusalis*			●			●	
310			モンシロルリノメイガ	*Uresiphita tricolor*			●			●	
–			ツトガ科	Crambidae sp.			●			●	
311		メイガ科	リンゴハマキマダラメイガ	*Acrobasis malifoliella*			●			●	
–			メイガ科	Pyralidae sp.				●		●	
312		マドガ科	スギタニマドガ	*Rhodoneura sugitanii*			●			●	
313			アミメマドガ	*Striglina suzukii*		●			●		
314		カギバガ科	マエキカギバ	*Agnidra scabiosa scabiosa*		●				●	
315		アゲハモドキガ科	キンモンガ	*Psychostrophia melanargia*		●				●	
316		シャクガ科	フタマエホシエダシャク	*Achrosis paupera*			●			●	
317			Alcis属	*Alcis* sp.				●		●	
318			ウスアオシャク	*Dindica virescens*			●			●	
319			モンキキナミシャク	*Idiotephria amelia*	●				●		
320			ナカキエダシャク	*Plagodis dolabraria*			●			●	
–			Plagodis属	*Plagodis* sp.	●				●		
–			シャクガ科	Geometridae sp.		●	●			●	
321		ヤママユガ科	オオミズアオ本土亜種	*Actias aliena aliena*		●				●	
322			ウスタビガ本土亜種	*Rhodinia fugax fugax*	●				●		
323		スズメガ科	モモスズメ	*Marumba gaschkewitschii echephron*			●			●	
324			ホシヒメホウジャク	*Neogurelca himachala sangaica*				●	●		
325		シャチホコガ科	ナカキシャチホコ	*Peridea gigantea*			●			●	
326			スズキシャチホコ	*Pheosiopsis cinerea cinerea*		●				●	
327		ヒトリガ科	クロテンシロコケガ	*Aemene fukudai*			●			●	
328		ドクガ科	リンゴドクガ	*Calliteara pseudabietis pseudabietis*		●				●	
329			マイマイガ	*Lymantria dispar japonica*			●			●	
330		ヤガ科	ハガタウスキヨトウ	*Archanara resoluta*		●			●		
331			フクラスズメ	*Arcte coerula*		●			●		
332			Autographa属	*Autographa* sp.				●	●		

表　昆虫類確認種一覧（8/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
333	チョウ目（鱗翅目）	ヤガ科	ウスキミスジアツバ	*Herminia arenosa*		●				●	
334			トビスジアツバ	*Herminia tarsicrinalis*		●				●	
335			ヒロオビウスグロアツバ	*Hydrillodes morosa*		●				●	
336			クロキシタアツバ	*Hypena amica*		●			●		
337			ヒメクビグロクチバ	*Lygephila recta*		●				●	
338			シロスジトモエ	*Metopta rectifasciata*			●		●		
339			ヒゲブトクロアツバ	*Nodaria tristis*		●				●	
340			トガリアツバ	*Rhynchina cramboides*		●				●	
341			ムモンキイロアツバ	*Stenhypena nigripuncta*		●				●	
–			ヤガ科	Noctuidae sp.		●	●	●	●	●	●
342		ホソガ科	Phyllonorycter属	*Phyllonorycter* sp.		●				●	
343		キバガ科	キバガ科	Gelechiidae sp.			●			●	
344		ヒゲナガキバガ科	Nemophora属	*Nemophora* sp.		●			●	●	
345		マルハキバガ科	カノコマルハキバガ	*Schiffermuelleria zelleri*		●			●	●	
–			マルハキバガ科	Oecophoridae sp.			●			●	
346		ニセマイコガ科	ヒメムラサキシキブマイコガ	*Stathmopoda gemmiconsuta*			●			●	
347		ハマキガ科	フタボシヒメハマキ	*Ancylis selenana*		●				●	
348			トビモンコハマキ	*Diplocalyptis congruentana*		●				●	
–			ハマキガ科	Tortricidae sp.		●	●	●	●	●	
–		–	チョウ目（鱗翅目）	LEPIDOPTERA sp.		●	●	●	●	●	●
349	ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	Antocha属	*Antocha* sp.				●		●	
350			キバラガガンボ	*Eutonia satsuma*			●		●		
351			ミスジガガンボ	*Gymnastes flavitibia flavitibia*			●		●		
352			Rhipidia属	*Rhipidia* sp.	●				●		
353			Ulomorpha属	*Ulomorpha* sp.	●				●		
–			ヒメガガンボ科	Limoniidae sp.		●	●	●	●	●	
354		ガガンボ科	Dolichopeza属	*Dolichopeza* sp.			●		●		
355			マドガガンボ	*Tipula nova*				●	●		
–			Tipula属	*Tipula* sp.	●	●			●	●	
–			ガガンボ科	Tipulidae sp.			●				●
356		ユスリカ科	Ablabesmyia属	*Ablabesmyia* sp.		●				●	
357			Chironomus属	*Chironomus* sp.		●	●			●	
358			Cricotopus属	*Cricotopus* sp.		●		●	●	●	
359			Polypedilum属	*Polypedilum* sp.		●				●	
–			ユスリカ科	Chironomidae sp.	●	●	●	●	●	●	●
360		ブユ科	Simulium属	*Simulium* sp.		●		●		●	
361		コガシラアブ科	セダカコガシラアブ	*Oligoneura nigroaenea*		●			●		
362		ミズアブ科	Allognosta属	*Allognosta* sp.		●			●		
363			Beris属	*Beris* sp.		●			●		
364		ムシヒキアブ科	アオメアブ	*Cophinopoda chinensis*			●		●		
365			チャイロムシヒキ	*Eutolmus brevistylus*			●		●		
366			Leptogaster属	*Leptogaster* sp.			●	●	●		
367			ナミマガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*		●			●		
–			Neoitamus属	*Neoitamus* sp.		●			●		

表　昆虫類確認種一覧（9/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
368	ハエ目（双翅目）	ムシヒキアブ科	ヒサマツムシヒキ	*Tolmerus hisamatsui*				●	●		
369		ツリアブ科	ビロウドツリアブ	*Bombylius major*	●				●		
370		ハナアブ科	マダラコシボソハナアブ	*Baccha maculata*		●			●		
371			ホソヒラタアブ	*Episyrphus balteatus*				●	●		
372			キゴシハナアブ	*Eristalinus quinquestriatus*				●	●		
373			シマハナアブ	*Eristalis cerealis*	●			●	●		
374			キョウコシマハナアブ	*Eristalis kyokoae*	●				●		
375			Eumerus属	*Eumerus* sp.		●			●		
376			フタホシヒラタアブ	*Eupeodes corollae*		●			●		
377			アシブトハナアブ	*Helophilus eristaloideus*	●	●		●	●		
378			Melanostoma属	*Melanostoma* sp.	●	●			●		
379			キアシマメヒラタアブ	*Paragus haemorrhous*			●	●	●		
380			オオハナアブ	*Phytomia zonata*				●	●		
381			ミナミヒメヒラタアブ	*Sphaerophoria indiana*	●		●		●		
382			ホソヒメヒラタアブ	*Sphaerophoria macrogaster*			●	●	●		
383			ナミルリイロハラナガハナアブ	*Xylota amamiensis*				●	●		
384		ショウジョウバエ科	Amiota属	*Amiota* sp.				●		●	
385			ダンダラショウジョウバエ	*Drosophila annulipes*		●	●			●	●
386			ヒョウモンショウジョウバエ	*Drosophila busckii*		●			●		
–			Drosophila属	*Drosophila* sp.		●	●	●	●		●
387			Leucophenga属	*Leucophenga* sp.				●	●		●
388			クロツヤショウジョウバエ	*Scaptodrosophila coracina*				●			●
389		ミギワバエ科	ニノミヤトビクチミギワバエ	*Brachydeutera ibari*				●		●	
390			Hecamedoides属	*Hecamedoides* sp.				●	●		
391			Nostima属	*Nostima* sp.			●		●		
392			キヒゲクロツヤミギワバエ	*Psilopa flaviantennalis*				●	●		
393			Scatella属	*Scatella* sp.		●		●	●		
394		ヤチバエ科	ヤマトヤチバエ	*Limnia japonica*			●		●		
395			ヒゲナガヤチバエ	*Sepedon aenescens*		●		●	●		
396			ヒガシヒゲナガヤチバエ	*Sepedon noteoi*				●	●		
397		ツヤホソバエ科	ナミヒトテンツヤホソバエ	*Sepsis latiforceps*			●		●		
398		ミバエ科	ミズタマケブカミバエ	*Aliniana longipennis*			●		●		
399			ノゲシケブカミバエ	*Ensina sonchi*			●		●		
400		クロバエ科	オオクロバエ	*Calliphora nigribarbis*	●				●		
401			ミドリキンバエ	*Lucilia illustris*		●			●		
402			ミヤマキンバエ	*Lucilia papuensis*				●	●		
403			ツマグロキンバエ	*Stomorhina obsoleta*			●	●	●	●	
404			シリブトミドリバエ	*Strongyloneura prasina*		●			●		
405			フタオクロバエ	*Triceratopyga calliphoroides*		●			●		
406		イエバエ科	イネクキイエバエ	*Atherigona oryzae*			●		●		
407			コシアキハナレメイエバエ	*Coenosia akasakensis*				●	●		
408			Helina属	*Helina* sp.	●			●	●		
409			Hydrotaea属	*Hydrotaea* sp.		●			●		
410			トウヨウカトリバエ	*Lispe orientalis*				●	●		

表　昆虫類確認種一覧（10/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
411	ハエ目（双翅目）	イエバエ科	チビハナレメイエバエ	*Lispocephala erythrocea*			●	●	●		
412			Musca属	*Musca* sp.		●			●		
413			オオセアカクロバエ	*Muscina pascuorum*				●	●		
414			オオイエバエ	*Muscina stabulans*		●			●		
415			Myospila属	*Myospila* sp.			●		●		
416			ヘリグロハナレメイエバエ	*Orchisia costata*			●	●	●		
417			Phaonia属	*Phaonia* sp.	●	●			●		●
418			シリモチハナレメイエバエ	*Pygophora confusa*	●				●		
419		ニクバエ科	フィールドニクバエ	*Sarcophaga uniseta*		●			●		
420		チョウバエ科	チョウバエ科	Psychodidae sp.		●	●	●		●	
421		ヌカカ科	ヌカカ科	Ceratopogonidae sp.	●	●	●	●	●	●	
422		タマバエ科	タマバエ科	Cecidomyiidae sp.	●	●		●	●	●	●
423		キノコバエ科	キノコバエ科	Mycetophilidae sp.	●	●	●	●	●	●	
424		クロバネキノコバエ科	クロバネキノコバエ科	Sciaridae sp.	●	●	●	●	●	●	●
425		シギアブ科	Chrysopilus属	*Chrysopilus* sp.			●		●		
426			Rhagio属	*Rhagio* sp.		●			●		
427		アシナガバエ科	Amblypsilopus属	*Amblypsilopus* sp.				●	●		
428			Condylostylus属	*Condylostylus* sp.			●		●		
–			アシナガバエ科	Dolichopodidae sp.		●	●	●	●		
429		オドリバエ科	Empis属	*Empis* sp.		●				●	
430			Hilara属	*Hilara* sp.		●	●		●		
431			Hybos属	*Hybos* sp.			●	●	●		
432			Leptodromiella属	*Leptodromiella* sp.	●				●		
433			Platypalpus属	*Platypalpus* sp.	●				●		
434			Synech es属	*Synech es* sp.	●	●			●		
–			オドリバエ科	Empididae sp.	●				●		
435		ヤリバエ科	ウスグロヤリバエ	*Lonchoptera sapporensis*	●			●	●		
436		アタマアブ科	Eudorylas属	*Eudorylas* sp.				●	●		
437		ノミバエ科	ノミバエ科	Phoridae sp.	●	●	●	●	●	●	●
438		ハモグリバエ科	ハモグリバエ科	Agromyzidae sp.	●		●		●		
439		アブラコバエ科	アブラコバエ科	Chamaemyiidae sp.		●	●		●		
440		キモグリバエ科	Steleocerellus属	*Steleocerellus* sp.			●		●		
441			カトウトゲムネキモグリバエ	*Togeciphus katoi*		●			●		
–			キモグリバエ科	Chloropidae sp.	●	●	●	●	●	●	
442		メバエ科	マダラメバエ	*Myopa buccata*	●				●		
443		ホソショウジョウバエ科	Diastata属	*Diastata* sp.			●		●		
444		トゲハネバエ科	Suillia属	*Suillia* sp.		●			●		
445		シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	*Homoneura hirayamae*				●	●		
–			Homoneura属	*Homoneura* sp.			●	●	●		
446			Minettia属	*Minettia* sp.		●	●		●		
447			Sapromyza属	*Sapromyza* sp.		●	●		●		
448			Steganopsis属	*Steganopsis* sp.		●	●	●	●		
449		クロツヤバエ科	クロツヤバエ科	Lonchaeidae sp.			●	●	●	●	
450		ヒロクチバエ科	ヒゲナガヒロクチバエ	*Lamprophthalma japonica*			●			●	

表　昆虫類確認種一覧（11/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
451	ハエ目（双翅目）	ヒロクチバエ科	Rivellia属	*Rivellia* sp.			●		●		
452		デガシラバエ科	Adapsila属	*Adapsila* sp.			●			●	
453		フンコバエ科	フンコバエ科	Sphaeroceridae sp.		●	●	●	●		●
454		ハナバエ科	タネバエ	*Delia platura*	●	●			●		
–			ハナバエ科	Anthomyiidae sp.	●	●		●	●	●	
455		ヤドリバエ科	Gonia属	*Gonia* sp.	●				●		
456			Tachina属	*Tachina* sp.		●			●		
–			ヤドリバエ科	Tachinidae sp.	●	●	●	●	●	●	
457		シラミバエ科	シカシラミバエ	*Lipoptena fortisetosa*			●		●		
458	コウチュウ目（鞘翅目）	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ	*Pheropsophus jessoensis*			●				●
459		オサムシ科	コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea*			●				●
–			Amara属	*Amara* sp.	●				●		
460			フタモンミズギワゴミムシ	*Bembidion semilunium*		●					●
461			ミカワオサムシ	*Carabus arrowianus arrowianus*		●	●	●	●		●
462			クロナガオサムシ	*Carabus procerulus procerulus*			●	●	●		●
463			アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius naeviger*		●					●
464			オオアオモリヒラタゴミムシ	*Colpodes buchanani*			●			●	
465			ミズギワアトキリゴミムシ	*Demetrias marginicollis*		●			●		
466			コヨツボシアトキリゴミムシ	*Dolichoctis striatus striatus*			●			●	
467			セアカヒラタゴミムシ	*Dolichus halensis*				●			●
468			ホソアトキリゴミムシ	*Dromius prolixus*				●	●		
469			キイロマルコミズギワゴミムシ	*Elaphropus latissimus*				●	●		
470			クビボソゴミムシ	*Galerita orientalis*			●	●			●
471			スジアオゴミムシ	*Haplochlaenius costiger*			●				●
472			オオズケゴモクムシ	*Harpalus eous*				●	●		
473			フタホシアトキリゴミムシ	*Lebia bifenestrata*		●	●		●	●	
474			オオゴミムシ	*Lesticus magnus*			●				●
475			クビナガゴミムシ	*Ophionea indica*			●				●
476			ヒトツメアトキリゴミムシ	*Parena monostigma*		●			●		
477			カドツブゴミムシ	*Pentagonica angulosa*			●		●		
478			オオホソチビゴミムシ	*Perileptus laticeps laticeps*			●			●	
479			Polyderis属	*Polyderis* sp.			●			●	
480			コガシラナガゴミムシ	*Pterostichus microcephalus*	●	●	●	●	●		●
481			ヨリトモナガゴミムシ	*Pterostichus yoritomus*	●		●		●		●
482			ミドリマメゴモクムシ	*Stenolophus difficilis*		●			●		●
483			マルガタツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus arcuaticollis*		●		●			●
484			クロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus cycloderus*		●	●	●			●
485			ヒメツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus dulcigradus*				●			●
486			オオクロツヤヒラタゴミムシ	*Synuchus nitidus*			●	●	●		●
487			ウスモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura fuscicauda*		●	●		●	●	
488			ヨツモンコミズギワゴミムシ	*Tachyura laetifica*		●			●		
–			オサムシ科	Carabidae sp.			●				●
489		ハンミョウ科	ニワハンミョウ	*Cicindela japana*	●	●			●		
490			ナミハンミョウ	*Sophiodela japonica*	●				●		

表　昆虫類確認種一覧（12/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
491	コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	ホソセスジゲンゴロウ	*Copelatus weymarni*			●			●	
492			ハイイロゲンゴロウ	*Eretes griseus*			●			●	●
493		ガムシ科	トゲバゴマフガムシ	*Berosus lewisius*		●				●	
494			セスジケシガムシ	*Cercyon aequalis*			●				●
495			キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus*	●		●		●	●	
496			Laccobius属	*Laccobius* sp.	●		●	●	●	●	
497			Oosternum属	*Oosternum* sp.			●			●	
498			マグソガムシ	*Pachysternum haemorrhoum*			●			●	
499		タマキノコムシ科	Pseudcolenis属	*Pseudcolenis* sp.		●	●	●	●		●
500			チビタマキノコムシ	*Zeadolopus japonicus*			●				●
501		ムクゲキノコムシ科	Acrotrichis属	*Acrotrichis* sp.		●					●
502		シデムシ科	オオヒラタシデムシ	*Eusilpha japonica*			●				●
503			クロシデムシ	*Nicrophorus concolor*		●	●			●	
504		ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ	*Algon grandicollis*	●				●		
505			Anotylus属	*Anotylus* sp.	●	●	●	●	●		●
506			ホソスジデオキノコムシ	*Ascaphium tibiale*				●	●		
507			Atheta属	*Atheta* sp.		●	●				●
508			Baeocera属	*Baeocera* sp.			●	●	●		●
509			Batrisodes属	*Batrisodes* sp.				●	●		
510			Bledius属	*Bledius* sp.			●			●	
511			Carpelimus属	*Carpelimus* sp.	●			●	●	●	●
512			Cephennodes属	*Cephennodes* sp.		●		●	●		●
513			アカバデオキノコムシ	*Episcaphium semirufum*				●	●		
514			Euconnus属	*Euconnus* sp.			●				●
515			Eusphalerum属	*Eusphalerum* sp.	●	●			●	●	
516			Lordithon属	*Lordithon* sp.	●				●		
517			クロサビイロマルズオオハネカクシ	*Ocypus lewisius*		●					●
518			アカバトガリオオズハネカクシ	*Platydracus brevicornis*		●			●		
519			ヒメデオキノコムシ	*Scaphidium femorale*		●			●		
520			コヒメデオキノコムシ	*Scaphidium montivagum*				●	●		
521			Scaphisoma属	*Scaphisoma* sp.			●	●	●		
522			Sepedophilus属	*Sepedophilus* sp.	●	●	●	●	●	●	
523			Stenus属	*Stenus* sp.	●	●		●	●		●
524			タチゲクビボソハネカクシ	*Sunesta setigera*				●	●		
525			Tachinus属	*Tachinus* sp.				●	●		
526			Tachyporus属	*Tachyporus* sp.		●					●
–			ハネカクシ科	Staphylinidae sp.	●			●	●		●
527		マルハナノミ科	Contacyphon属	*Contacyphon* sp.		●	●		●		
528			Nyholmia属	*Nyholmia* sp.		●			●		
529			トビイロマルハナノミ	*Scirtes japonicus*			●	●	●		
530		センチコガネ科	センチコガネ	*Phelotrupes laevistriatus*	●		●	●	●		●
531		クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	*Lucanus maculifemoratus maculifemoratus*			●			●	
532			ノコギリクワガタ	*Prosopocoilus inclinatus inclinatus*			●			●	
533		コガネムシ科	コイチャコガネ	*Adoretus tenuimaculatus*				●	●		

表　昆虫類確認種一覧（13/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
534	コウチュウ目（鞘翅目）	コガネムシ科	ツヤコガネ	*Anomala lucens*			●			●	
535			ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea*			●			●	
536			トゲクロツヤマグソコガネ	*Aphodius superatratus*	●				●		
537			カタモンコガネ	*Blitopertha conspurcata*		●			●		
538			セマダラコガネ	*Exomala orientalis*			●		●		
539			コアオハナムグリ	*Gametis jucunda*		●		●	●		
540			ナガチャコガネ	*Heptophylla picea*			●			●	●
541			アカビロウドコガネ	*Maladera castanea*		●	●		●	●	
542			ビロウドコガネ	*Maladera japonica*			●				●
543			カミヤビロウドコガネ	*Maladera kamiyai*		●	●			●	●
544			オオビロウドコガネ	*Maladera renardi*		●					●
545			コフキコガネ	*Melolontha japonica*			●			●	
546			ヒラタハナムグリ	*Nipponovalgus angusticollis angusticollis*		●			●		
547			カドマルエンマコガネ	*Onthophagus lenzii*			●			●	
548			マメダルマコガネ	*Panelus parvulus*			●				●
549			ツヤエンマコガネ	*Parascatonomus nitidus*			●	●			●
550			カナブン	*Pseudotrynorrhina japonica*			●		●		
551			ナエドコチャイロコガネ	*Sericania mimica*		●				●	
552		ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ	*Ordobrevia foveicollis*			●			●	
553		ヒラタドロムシ科	チビマルヒゲナガハナノミ	*Macroeubria lewisi*			●		●		
554		タマムシ科	コウヅチビタマムシ	*Trachys broussonetiae*			●		●		
555		コメツキムシ科	ヒメホソキコメツキ	*Agaripenthes helvolus*			●			●	
556			Ampedus属	*Ampedus* sp.	●	●			●		●
557			キバネホソコメツキ	*Dolerosomus gracilis*	●	●			●		
558			ホソキコメツキ	*Hayekpenthes pallidus pallidus*			●			●	
559			メダカツヤハダコメツキ	*Medakathous jactatus jactatus*			●				●
560			Melanotus属	*Melanotus* sp.		●	●		●	●	
561			ヒゲナガコメツキ	*Mulsanteus junior junior*			●			●	
562			クチブトコメツキ	*Silesis musculus musculus*			●		●		
–			Silesis属	*Silesis* sp.			●			●	
563			オオクシヒゲコメツキ	*Tetrigus lewisi*			●			●	
564		コメツキダマシ科	コチャイロコメツキダマシ	*Fornax nipponicus*			●		●		
565			スジヒゲコメツキダマシ	*Proxylobius helleri*			●		●		
566		ジョウカイボン科	Asiopodabrus属	*Asiopodabrus sp.*		●			●	●	
567			ジョウカイボン	*Lycocerus suturellus suturellus*		●			●	●	
568			セボシジョウカイ	*Lycocerus vitellinus*		●			●		
569			Malthodes属	*Malthodes* sp.		●			●		
570			ヒガシマルムネジョウカイ	*Prothemus reini*		●			●		
–			ジョウカイボン科	Cantharidae sp.				●			●
571		ホタル科	オバボタル	*Lucidina biplagiata*			●		●		
–			ホタル科	Lampyridae sp.		●					●
572		ベニボタル科	ムネアカテングベニボタル	*Konoplatycis otome*	●				●		
573			カクムネベニボタル	*Lyponia quadricollis*		●			●		
574			クロハナボタル	*Plateros coracinus*			●		●	●	

表　昆虫類確認種一覧（14/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
575	コウチュウ目（鞘翅目）	シバンムシ科	ヒメホコリタケシバンムシ	*Caenocara rufitarse*			●			●	
576		ジョウカイモドキ科	ヒロオビジョウカイモドキ	*Intybia historio*			●		●		
577			ルリキオビジョウカイモドキ	*Intybia takaraensis*			●		●		
578			ツマキアオジョウカイモドキ	*Malachius prolongatus*		●			●		
–			ジョウカイモドキ科	Melyridae sp.		●					●
579		ムクゲキスイムシ科	ハスモンムクゲキスイ	*Biphyllus rufopictus*		●					●
580		ツツキノコムシ科	Cis属	*Cis* sp.				●	●		
581			カタキバツツキノコムシ	*Octotemnus japonicus*		●				●	
582			ツヤクロホソツツキノコムシ	*Orthocis nigrosplendidus*			●			●	
583		テントウムシ科	シロトホシテントウ	*Calvia decemguttata*	●				●		
584			ナナホシテントウ	*Coccinella septempunctata*	●	●		●	●		
585			マクガタテントウ	*Coccinula crotchi*				●	●		
586			ナミテントウ	*Harmonia axyridis*			●	●	●		
587			ヒメカメノコテントウ	*Propylea japonica*		●		●	●		
588			オニヒメテントウ	*Scymnus giganteus*		●			●		
589			クロヘリヒメテントウ	*Scymnus hoffmanni*				●	●		
590			カワムラヒメテントウ	*Scymnus kawamurai*			●		●		
591			コクロヒメテントウ	*Scymnus posticalis*			●		●		
592			クロツヤテントウ	*Serangium japonicum japonicum*				●	●		
593		ミジンムシ科	Sericoderus属	*Sericoderus* sp.		●				●	
594		キスイムシ科	Atomaria属	*Atomaria* sp.		●					●
595			ウスイロキスイ	*Cryptophagus dilutus*		●			●		
596		ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ	*Aphanocephalus hemisphericus*				●	●		
597		オオキノコムシ科	ミヤマオビオオキノコムシ	*Episcapha gorhami*		●	●	●	●	●	
598			クロハバビロオオキノコムシ	*Neotriplax atrata*		●			●		
599			ホソチビオオキノコムシ	*Triplax japonica*				●	●		
600			クロチビオオキノコムシ	*Tritoma niponensis*			●	●	●		
601		コメツキモドキ科	ケシコメツキモドキ	*Microlanguria jansoni*				●	●		
602		ネスイムシ科	オバケデオネスイ	*Mimemodes monstrosus*		●				●	
603		ケシキスイ科	Carpophilus属	*Carpophilus* sp.		●					●
604			Epuraea属	*Epuraea* sp.			●	●	●		●
605			ツヤマルケシキスイ	*Neopallodes vicinus*			●				●
606			マルキマダラケシキスイ	*Stelidota multiguttata*			●	●		●	●
607		ヒメハナムシ科	フタホシヒメハナムシ	*Litochrus bimaculatus*	●				●		
608			Olibrus属	*Olibrus* sp.			●	●	●		●
609		アリモドキ科	クロチビアリモドキ	*Anthicomorphus niponicus niponicus*		●	●		●		
610			アカクビボソムシ	*Macratria serialis*			●		●	●	
611			アカホソアリモドキ	*Stricticomus fugiens*	●	●			●	●	
612		ニセクビボソムシ科	マダラニセクビボソムシ	*Phytobaenus amabilis scapularis*	●	●			●		
613		ナガクチキムシ科	カバイロニセハナノミ	*Orchesia ocularis*				●	●		
614		ハナノミ科	Glipostenoda属	*Glipostenoda* sp.			●		●		
615			Mordella属	*Mordella* sp.		●			●		
616			Mordellina属	*Mordellina* sp.			●			●	
617			Mordellistena属	*Mordellistena* sp.			●		●		

表　昆虫類確認種一覧（15/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
618	コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリモドキ科	ハラグロカミキリモドキ	*Nacerdes deformis*			●		●		
619			キイロカミキリモドキ	*Nacerdes hilleri*			●			●	
620			アオカミキリモドキ	*Nacerdes waterhousei*			●		●		
621			モモブトカミキリモドキ	*Oedemera lucidicollis*	●	●			●		
622		アカハネムシ科	ムナビロアカハネムシ	*Pseudopyrochroa laticollis*	●				●		
623			アカハネムシ	*Pseudopyrochroa vestiflua*		●			●		
624		ハナノミダマシ科	クロフナガタハナノミ	*Anaspis marseuli*	●	●			●	●	
625		ゴミムシダマシ科	ナミウスイロクチキムシ	*Allecula bilamellata*			●		●		
626			ナミアオハムシダマシ	*Arthromacra viridissima*		●			●		
627			クリイロクチキムシ	*Borboresthes acicularis*			●		●		
628			ホンドトビイロクチキムシ	*Borboresthes cruralis*			●		●		
629			ヒメナガニジゴミムシダマシ	*Ceropria induta*		●		●	●		
630			ルリゴミムシダマシ	*Derosphaerus subviolaceus*				●	●		
631			オオメキバネハムシダマシ	*Lagria rufipennis*			●		●		
632			フジナガハムシダマシ	*Macrolagria rufobrunnea*		●				●	
633			コツヤホソゴミムシダマシ	*Menephilus lucens*	●				●		
634			ホンドカタモンヒメクチキムシ	*Mycetochara mimica*			●			●	
635			サトユミアシゴミムシダマシ	*Promethis valgipes*		●		●	●		
636			ヒコサンエグリゴミムシダマシ	*Uloma hikosana*	●				●		
637			コルベヨツコブエグリゴミムシダマシ	*Uloma latimanus*		●			●		
638			マルセルエグリゴミムシダマシ本土亜種	*Uloma marseuli marseuli*	●	●		●	●		
639			ナミクチキムシ	*Upinella melanaria*	●		●	●	●	●	
640		カミキリムシ科	ニセビロウドカミキリ	*Acalolepta sejuncta sejuncta*			●		●		
641			キマダラミヤマカミキリ	*Aeolesthes chrysothrix chrysothrix*		●			●		
642			サビカミキリ	*Arhopalus coreanus*			●			●	
643			キクスイモドキカミキリ	*Asaperda rufipes*		●			●		
644			ヒメスギカミキリ	*Callidiellum rufipenne*	●				●		
645			ヨツキボシカミキリ	*Epiglenea comes comes*			●		●		
646			アトモンマルケシカミキリ	*Exocentrus lineatus*			●		●	●	
647			フタオビヒメハナカミキリ	*Pidonia puziloi*		●			●		
648			ノコギリカミキリ	*Prionus insularis insularis*			●			●	
649		ハムシ科	カミナリハムシ	*Altica aenea*				●	●		
650			ツブノミハムシ	*Aphthona perminuta*	●	●	●	●	●	●	
651			サメハダツブノミハムシ	*Aphthona strigosa*	●	●	●		●		
652			ムナグロツヤハムシ	*Arthrotus niger*	●	●	●	●	●		
653			クロウリハムシ	*Aulacophora nigripennis nigripennis*				●	●		
654			アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes*			●		●		
655			クロムナゲサルハムシ	*Basilepta hirticollis*			●		●		
656			ヒメドウガネトビハムシ	*Chaetocnema concinnicollis*				●	●		
657			ヒサゴトビハムシ	*Chaetocnema ingenua*			●		●		
658			オオルリヒメハムシ	*Charaea nobyi*		●			●		
659			ツバキムシクソハムシ	*Chlamisus lewisii*				●	●		
660			カタビロトゲハムシ	*Dactylispa subquadrata*			●		●		
661			チビカサハラハムシ	*Demotina decorata*			●	●	●		

表　昆虫類確認種一覧（16/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
662			マダラカサハラハムシ	*Demotina fasciculata*	●	●		●	●		
663			カサハラハムシ	*Demotina modesta*			●		●		
664	コウチュウ目（鞘翅目）	ハムシ科	イタドリハムシ	*Gallerucida bifasciata*	●	●	●		●		
665			コガタルリハムシ	*Gastrophysa atrocyanea*	●				●		
666			ケブカクロナガハムシ	*Hesperomorpha hirsuta*		●			●		
667			ホタルハムシ	*Monolepta dichroa*			●		●		
668			キイロクワハムシ	*Monolepta pallidula*				●	●		
669			ルリマルノミハムシ	*Nonarthra cyanea*	●			●	●		
670			ドウガネツヤハムシ	*Oomorphoides cupreatus*	●	●			●		
671			マルキバネサルハムシ	*Pagria ussuriensis*		●		●	●		●
672			ムナキルリハムシ	*Smaragdina semiaurantiaca*		●			●		
673			ツマキタマノミハムシ	*Sphaeroderma apicale*		●			●		
674			ヒロアシタマノミハムシ	*Sphaeroderma tarsatum*			●		●		
675			ルリウスバハムシ	*Stenoluperus cyaneus*		●			●		
676		ホソクチゾウムシ科	アカクチホソクチゾウムシ	*Microconapion pallidirostre*	●	●			●		
677			ケブカホソクチゾウムシ	*Sergiola griseopubescens*				●	●		
678		オトシブミ科	ヒメクロオトシブミ	*Apoderus erythrogaster*			●		●		
679			アカクビナガオトシブミ	*Centrocorynus nigricollis*				●	●		
680			ハギルリオトシブミ	*Euops lespedezae lespedezae*		●			●		
681			カシルリオトシブミ	*Euops splendidus*	●		●		●		
682		ゾウムシ科	ジュウジチビシギゾウムシ	*Archarius pictus*		●			●		
683			シロコブゾウムシ	*Episomus turritus turritus*		●			●		
684			コフキゾウムシ	*Eugnathus distinctus*			●		●		
685			ケブカクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes fumosus*		●			●		
686			クロホシクチブトゾウムシ	*Lepidepistomodes nigromaculatus*			●		●		
687			マツオオキクイゾウムシ	*Macrorhyncolus crassiusculus*	●				●		
688			ホホジロアシナガゾウムシ	*Merus erro*			●		●		
689			カシワクチブトゾウムシ	*Nothomyllocerus griseus*	●	●	●	●	●		
690			ムネスジノミゾウムシ	*Orchestes amurensis*			●		●		
691			カシワノミゾウムシ	*Orchestes japonicus*	●				●		
692			ホソアナアキゾウムシ	*Pimelocerus elongatus*				●	●		
693			ハチジョウノミゾウムシ	*Rhamphus hisamatsui*			●		●		
694			アカアシクチブトサルゾウムシ	*Rhinoncus cribricollis*			●		●		
695			サビヒョウタンゾウムシ	*Scepticus insularis*		●			●		
696			ホソゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma advena*		●					●
697			フトゲチビツチゾウムシ	*Trachyphloeosoma roelofsi*			●	●	●		●
698			ツメクサタネコバンゾウムシ	*Tychius picirostris*		●	●		●		
–			ゾウムシ科	Curculionidae sp.			●		●		
699		キクイムシ科	キクイムシ科	Scolytidae sp.		●				●	
700	ハチ目（膜翅目）	ヒラタハバチ科	ツヤクロヒラタハバチ	*Pamphilius ishikawai*	●				●		
701		ミフシハバチ科	ルリチュウレンジ	*Arge similis*		●			●		
702		コンボウハバチ科	ヒメコンボウハバチ	*Abia lewisii*	●				●		
703		ハバチ科	Allantus属	*Allantus* sp.		●	●		●		
704			セグロカブラハバチ	*Athalia infumata*				●	●		

表　昆虫類確認種一覧（17/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
705	ハチ目（膜翅目）	ハバチ科	ニホンカブラハバチ	*Athalia japonica*	●				●		
706			イヌノフグリハバチ	*Athalia kashmirensis*				●	●		
707			Dolerus属	*Dolerus* sp.	●				●		
708			Eutomostethus属	*Eutomostethus* sp.		●			●		
709			クロムネハバチ	*Lagidina irritans*		●			●		
710			カタアカスギナハバチ	*Loderus genucinctus insulicola*	●				●		
–			ハバチ科	Tenthredinidae sp.	●				●		
711		アシブトコバチ科	ハネマダラアシブトコバチ	*Hockeria bifasciata*	●	●			●		
712		アリガタバチ科	クシヒゲアリガタバチ	*Epyris formosus*				●	●		
–			Epyris属	*Epyris* sp.			●		●		
713			ムカシアリガタバチ	*Pristepyris japonicus*				●	●		
714		アリ科	ヤマトアシナガアリ	*Aphaenogaster japonica*		●	●	●	●		●
715			オオハリアリ	*Brachyponera chinensis*		●			●		
716			ナカスジハリアリ	*Brachyponera nakasujii*	●		●	●	●		●
717			イトウオオアリ	*Camponotus itoi*	●				●		
718			ミカドオオアリ	*Camponotus kiusiuensis*				●	●		
719			ムネアカオオアリ	*Camponotus obscuripes*	●	●		●	●		
720			ヨツボシオオアリ	*Camponotus quadrinotatus*			●		●		
721			ウメマツオオアリ	*Camponotus vitiosus*			●	●	●		
722			ハリブトシリアゲアリ	*Crematogaster matsumurai*				●	●		
723			キイロシリアゲアリ	*Crematogaster osakensis*		●		●	●		●
724			テラニシシリアゲアリ	*Crematogaster teranishii*	●	●	●	●	●		
725			ハヤシクロヤマアリ	*Formica hayashi*	●	●		●	●		●
–			Formica属	*Formica* sp.	●	●	●	●	●	●	●
726			ニセハリアリ	*Hypoponera sauteri*				●			●
727			トビイロケアリ	*Lasius japonicus*	●	●	●		●	●	●
728			ヒラアシクサアリ	*Lasius spathepus*		●			●		
729			ヒメアリ	*Monomorium intrudens*				●			●
730			カドフシアリ	*Myrmecina nipponica*				●			●
731			アメイロアリ	*Nylanderia flavipes*	●	●	●	●	●		●
732			ヒゲナガアメイロアリ	*Paratrechina longicornis*				●			●
733			アズマオオズアリ	*Pheidole fervida*		●		●			●
734			チクシトゲアリ	*Polyrhachis phalerata*			●	●	●		
735			テラニシハリアリ	*Ponera scabra*			●		●		
736			アミメアリ	*Pristomyrmex punctatus*	●	●	●	●	●		●
737			イガウロコアリ	*Strumigenys benten*				●			●
738			ヒラセムネボソアリ	*Temnothorax anira*	●				●		
739			ハヤシムネボソアリ	*Temnothorax makora*				●	●		
740			トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae*	●	●	●	●	●		●
–			アリ科	Formicidae sp.			●	●	●	●	
741		スズメバチ科	ムモンホソアシナガバチ	*Parapolybia crocea*			●		●		
742			キボシアシナガバチ	*Polistes nipponensis*			●		●		
743			カタグロチビドロバチ	*Stenodynerus chinensis kalinowskii*			●		●		
744			キオビチビドロバチ	*Stenodynerus frauenfeldi*		●	●		●		

表　昆虫類確認種一覧（18/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
745	ハチ目（膜翅目）	スズメバチ科	オオスズメバチ	*Vespa mandarinia*				●	●		
746		クモバチ科	オオモンクロクモバチ	*Anoplius samariensis*			●		●		
–			Anoplius属	*Anoplius* sp.	●				●		
747			ベッコウクモバチ	*Cyphononyx fulvognathus*			●		●		
748			オオシロフクモバチ	*Episyron arrogans*		●			●		
749		コツチバチ科	Tiphia属	*Tiphia* sp.	●			●	●		
750		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ本土亜種	*Campsomeriella annulata annulata*		●		●	●		
751			オオハラナガツチバチ	*Megacampsomeris grossa matsumurai*				●	●		
752			キンケハラナガツチバチ	*Megacampsomeris prismatica*				●	●		
753		ギングチバチ科	ヒメコオロギバチ本土亜種	*Liris festinans japonicus*				●	●		
754			ヤマトトゲアナバチ	*Oxybelus strandi*				●	●		
755		アリマキバチ科	オオエンモンバチ	*Carinostigmus filippovi*	●				●		
756			ヒメエンモンバチ	*Stigmus convergens convergens*	●				●		
757		ヒメハナバチ科	Andrena属	*Andrena* sp.	●	●			●		
758		ミツバチ科	ニホンミツバチ	*Apis cerana japonica*				●	●		
759			コマルハナバチ本土亜種	*Bombus ardens ardens*	●	●			●		
760			エサキツヤハナバチ	*Ceratina esakii*				●	●		
761			キオビツヤハナバチ	*Ceratina flavipes*	●	●			●		
762			ニッポンヒゲナガハナバチ	*Eucera nipponensis*	●	●			●		
763			シロスジヒゲナガハナバチ	*Eucera spurcatipes*		●			●		
764			アスワキマダラハナバチ	*Nomada aswensis*		●			●		
765			ウシヅノキマダラハナバチ	*Nomada comparata*		●			●		
766			ヒメキマダラハナバチ	*Nomada flavoguttata*	●				●		
767			フクイキマダラハナバチ	*Nomada fukuiana*	●				●		
768			ニッポンキマダラハナバチ	*Nomada nipponica*	●				●		
769			コキマダラハナバチ	*Nomada okubira*	●				●		
770			キムネクマバチ	*Xylocopa appendiculata circumvolans*	●	●			●		
771			タイワンタケクマバチ	*Xylocopa tranquebarorum*		●			●		
772		コハナバチ科	アカガネコハナバチ	*Halictus aerarius*		●	●	●	●		
773			Lasioglossum属	*Lasioglossum* sp.	●	●	●	●	●		
774			エサキヤドリコハナバチ	*Sphecodes simillimus*	●				●		
–			Sphecodes属	*Sphecodes* sp.		●			●		
775		ハキリバチ科	ムナカタハキリバチ本土亜種	*Megachile willughbiella sumizome*	●				●		
776		コマユバチ科	Ascogaster属	*Ascogaster* sp.				●	●		
777			Phanerotoma属	*Phanerotoma* sp.			●		●		
–			コマユバチ科	Braconidae sp.	●	●	●	●	●	●	
778		ヒメバチ科	Ophion属	*Ophion* sp.		●				●	
–			ヒメバチ科	Ichneumonidae sp.	●	●	●	●	●	●	
779		ハエヤドリクロバチ科	ハエヤドリクロバチ科	Diapriidae sp.		●	●	●	●	●	●
780		シリボソクロバチ科	シリボソクロバチ科	Proctotrupidae sp.			●	●	●		
781		タマゴクロバチ科	タマゴクロバチ科	Scelionidae sp.		●		●			●
782		トビコバチ科	トビコバチ科	Encyrtidae sp.		●	●	●	●	●	
783		カタビロコバチ科	カタビロコバチ科	Eurytomidae sp.				●	●		
784		コガネコバチ科	コガネコバチ科	Pteromalidae sp.	●	●	●	●	●		

表　昆虫類確認種一覧（19/19）

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				確認方法		
					早春	春季	夏季	秋季	任意	ﾗｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ	ﾍﾞｲﾄﾄﾗｯﾌﾟ
785	ハチ目（膜翅目）	オナガコバチ科	オナガコバチ科	Torymidae sp.				●	●		
786		タマバチ科	タマバチ科	Cynipidae sp.	●	●			●		
－	21目	249科	786種		187種	302種	340種	322種	629種	169種	113種

目名、科名、種名、学名及び配列は、主に「河川水辺の国税調査生物リスト」（河川環境データベース　2021）に準拠した.

表　魚類調査結果詳細（1/3）

調査地点	調査年月日	調査時間	天候	水質			採集環境				調査努力量
				水温（℃）	pH	電気伝導度（μS/cm）	水深（cm）	流速（cm/S）	河床材料	河床材の状況	
St.1	2021年5月31日	9:35～10:20	晴	15.7	6.71	55	19	37	LG/S	沈石	タモ網　3人×30分
St.2	2021年5月31日	10:44～11:25	晴	17.4	7.33	187	15	30.5	MG/S	浮石	タモ網　2人×30分
St.3	2021年5月31日	13:20～14:10	晴	19.1	7.43	118	43	35	LG/R/S	浮石	タモ網　3人×30分

※河床材料の区分は「平成28年度河川水辺の国勢調査マニュアル、下表」に準拠した。

河床材料	サイズ（mm）	略号
岩盤	岩盤またはコンクリート	R
泥	0.074mm以下	M
砂	0.074～2mm	S
細礫	2～20mm	SG
中礫	20～50mm	MG
粗礫	50～100mm	LG
小石	100～200mm	SB
中石	200～500mm	MB
大石	500mm以上	LB

○St.1

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	67	5.4	1.9
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	39	4.3	1.8

○St.2

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	39	8.7	2
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	10	3.1	2.6

○St.3

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	84	10.6	2.1
2			アブラハヤ	3	6.4	6.2
3			ナガレカマツカ	1	3.6	
4		ドジョウ科	ドジョウ	2	8.6	7.3

表　魚類調査結果詳細（2/3）

調査地点	調査年月日	調査時間	天候	水質			採集環境				調査努力量
				水温（℃）	pH	電気伝導度（μS/cm）	水深（cm）	流速（cm/S）	河床材料	河床材の状況	
St.1	2021年8月26日	9:30～10:20	晴	21.3	6.75	36	15	53.2	LG/SG	沈石	タモ網　3人×30分
St.2	2021年8月26日	10:57～11:40	晴	22.4	7.09	79	24	52.3	MG/SG	沈石	タモ網　2人×30分
St.3	2021年8月26日	13:35～14:35	晴	24.7	7.42	116	44	58.1	MB/R	沈石	タモ網　3人×30分

※河床材料の区分は「平成28年度河川水辺の国勢調査マニュアル、下表」に準拠した。

河床材料	サイズ（mm）	略号
岩盤	岩盤またはコンクリート	R
泥	0.074mm以下	M
砂	0.074～2mm	S
細礫	2～20mm	SG
中礫	20～50mm	MG
粗礫	50～100mm	LG
小石	100～200mm	SB
中石	200～500mm	MB
大石	500mm以上	LB

○St.1

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	31	8.6	1.4
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	18	3.9	2.4

○St.2

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	11	6.2	1.5
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	2	3.0	2.9

○St.3

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	36	5.3	1.6
2			アブラハヤ	1	5.8	
3		ドジョウ科	ドジョウ	1	9.4	
4	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	7	3.0	1.9
5	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	6	2.5	2.3

表　魚類調査結果詳細（3/3）

調査地点	調査年月日	調査時間	天候	水質			採集環境				調査努力量
				水温（℃）	pH	電気伝導度（μS/cm）	水深（cm）	流速（cm/S）	河床材料	河床材の状況	
St.1	2021年11月2日	8:50～9:30	晴	13.7	7.21	106	11	27.9	LG/SG/S	沈石	タモ網　3人×30分
St.2	2021年11月2日	10:00～10:40	晴	13.7	7.3	127	10	33.9	MG/S/LG	沈石	タモ網　2人×30分
St.3	2021年11月2日	11:00～11:50	晴	14.3	7.36	108	30	25.6	S/MB/R	沈石	タモ網　3人×30分

※河床材料の区分は「平成28年度河川水辺の国勢調査マニュアル、下表」に準拠した。

河床材料	サイズ（mm）	略号
岩盤	岩盤またはコンクリート	R
泥	0.074mm以下	M
砂	0.074～2mm	S
細礫	2～20mm	SG
中礫	20～50mm	MG
粗礫	50～100mm	LG
小石	100～200mm	SB
中石	200～500mm	MB
大石	500mm以上	LB

○St.1

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	36	7.8	1.4
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	15	5.4	2.2

○St.2

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	18	4.2	1.6
2	スズキ目	ハゼ科	カワヨシノボリ	3	3.8	2.7

○St.3

No.	目名	科名	種名	個体数	体長（cm）	
					最大	最小
1	コイ目	コイ科	カワムツ	36	7.7	1.6
2			アブラハヤ	3	6.4	3.7
3		ドジョウ科	ドジョウ	1	5.9	

表　底生動物調査結果詳細（1/3）

No.	綱名	目名	科名	和名	St.1		St.2		St.3		合計
					定量	定性	定量	定性	定量	定性	
1	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	1		3		13		17
2	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	カワニナ		1					1
3				チリメンカワニナ						2	2
4		汎有肺目	サカマキガイ科	サカマキガイ					1		1
5	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ					2	1	3
6	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	イトミミズ	3		1		1	1	6
7	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科（甲）	ミズムシ（甲）		24		3		1	28
8		エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ					1	47	48
9			サワガニ科	サワガニ		7	1	17			25
10	昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	トビイロカゲロウ科	トビイロカゲロウ属	4	13					17
11			モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ				1			1
12				モンカゲロウ		24		1		2	27
13			マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ	4	18	2	10	8	4	46
14				オオマダラカゲロウ			1	1	5	1	8
15				ホソバマダラカゲロウ			5	7		6	18
16				アカマダラカゲロウ					3	1	4
17			ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ		6		9		30	45
18			コカゲロウ科	フタバコカゲロウ					12	7	19
19				シロハラコカゲロウ	26	2	51	4	45	49	177
20			フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ属						23	23
21			ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ	1					2	3
22		トンボ目（蜻蛉目）	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ		1		4		2	7
23			ヤンマ科	コシボソヤンマ		1		3		5	9
24			サナエトンボ科	ヤマサナエ		1				12	13
25				ダビドサナエ属				2			2
26				オナガサナエ				1	4	3	8
27				コオニヤンマ				2			2
28				オジロサナエ		3					3
29			オニヤンマ科	オニヤンマ		2				1	3
30			エゾトンボ科	コヤマトンボ						9	9
31		カワゲラ目（セキ翅目）	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属	8	2	2	5			17
32				オナシカワゲラ属					1		1
33			ヒロムネカワゲラ科	ノギカワゲラ				1			1
34			ミドリカワゲラ科	セスジミドリカワゲラ属	33	2	19	2	15	9	80
35			カワゲラ科	カミムラカワゲラ		4	1	15	2	1	23
36				フタツメカワゲラ属		48	1	44	2	17	112
37				ヤマトカワゲラ		3					3
38			アミメカワゲラ科	クサカワゲラ属	2	1	1	1			5
39				ヒロバネアミメカワゲラ		1					1
40				コウノアミメカワゲラ属				1			1
41		カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	アメンボ						2	2
42			ナベブタムシ科	ナベブタムシ						2	2
43			マツモムシ科	マツモムシ		1					1
44		ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ	1		1	1			3
45		トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	2		76	18	3	3	102
46				ウルマーシマトビケラ	6		12		26	1	45
47			ナガレトビケラ科	タシタナガレトビケラ			1				1
48				ムナグロナガレトビケラ					7	2	9
49				ウルマーナガレトビケラ				1			1
50			カクスイトビケラ科	ウエノマルツツトビケラ						1	1
51			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ					1		1
52			マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ		1					1
53			ケトビケラ科	グマガトビケラ属					1		1
54		ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ヒゲナガガガンボ属	1	2	2	1	4		10
55				ホソヒメガガンボ属		2				1	3
56			ガガンボ科	ガガンボ属	2		1	9		2	14
57			ユスリカ科	ツヤユスリカ属					3		3
58				カマガタユスリカ属	1						1
59				ニセケバネエリユスリカ属	1						1
60				ハモンユスリカ属	1						1
61				ハヤセヒメユスリカ属	1	1			2	1	5
62			ブユ科	アシマダラブユ	2						2
63			ナガレアブ科	コモンナガレアブ		1					1
64			アブ科	キンメアブ				1			1
65		コウチュウ目（鞘翅目）	ヒメドロムシ科	ミゾツヤドロムシ			1				1
				ヒメドロムシ科					10		10
種数					19	26	19	27	24	33	66
個体数					100	172	182	165	172	251	1042
湿重量(g)					1.957	－	2.324	－	3.45	－	

※定量採集の個体数・湿重量は、25cm×25cm×3回採集の実数。定性採集は調査範囲内採集での実数。

表　底生動物調査結果詳細（2/3）

No.	綱名	目名	科名	和名	湿地	St.1		St.2		St.3		合計
					定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	
1	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ				1				1
2			カワニナ科	チリメンカワニナ							1	1
3	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ							1	1
4	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	イトミミズ				1				1
5	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ							5	5
6			サワガニ科	サワガニ		1	1	1	3		1	7
7			モクズガニ科	モクズガニ							1	1
8	昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ		2						2
9			マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ						1		1
10			コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ						9	1	10
11			ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ					1			1
12				ウエノヒラタカゲロウ		1						1
13		トンボ目（蜻蛉目）	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ			1		1			2
14			ヤンマ科	ギンヤンマ	2							2
15				コシボソヤンマ							5	5
16			サナエトンボ科	ヤマサナエ					1		4	5
17				ヒメクロサナエ							2	2
18				オナガサナエ							2	2
19				コオニヤンマ						1		1
20				タベサナエ	1							1
21			エゾトンボ科	コヤマトンボ							2	2
22			トンボ科	シオカラトンボ	1							1
23				オオシオカラトンボ	11							11
24				マイコアカネ	1							1
25		カワゲラ目（セキ翅目）	カワゲラ科	カミムラカワゲラ			1	2	1			4
26				フタツメカワゲラ属						1	1	2
27		カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	アメンボ	3							3
28			マツモムシ科	マツモムシ	5							5
29		ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ					1			1
30		トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ				5		4	1	10
31				ウルマーシマトビケラ		3	1	3	2	3	1	13
32			カワトビケラ科	タニガワトビケラ属		1						1
33			ナガレトビケラ科	ムナグロナガレトビケラ							1	1
34		ハエ目（双翅目）	ヒメガガンボ科	ヒゲナガガガンボ属		3	1	4		2		10
35			ガガンボ科	ガガンボ属					1			1
36			ユスリカ科	ハダカユスリカ属						23		23
37				セスジユスリカ	3							3
38				ハモンユスリカ属				1				1
39				ハヤセヒメユスリカ属						1		1
40				ニセテンマクエリユスリカ属						4		4
41			ブユ科	アシマダラブユ		3						3
42		コウチュウ目（鞘翅目）	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ科						2		2
種数					8	7	5	8	8	11	15	42
個体数					27	14	5	18	11	51	29	155
湿重量(g)					－	2.407	－	0.442	－	0.665	－	

※定量採集の個体数・湿重量は、25cm×25cm×3回採集の実数。定性採集は調査範囲内採集での実数。

表　底生動物調査結果詳細（3/3）

No.	綱名	目名	科名	和名	St.1		St.2		St.3		合計
					定量	定性	定量	定性	定量	定性	
1	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	2		1				3
2	腹足綱	新生腹足目	カワニナ科	チリメンカワニナ						2	2
3		汎有肺目	サカマキガイ科	サカマキガイ						3	3
4	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ						1	1
5	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	イトミミズ		1			15	2	18
6	ヒル綱	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル						1	1
7	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科（甲）	ミズムシ（甲）		1				7	8
8		エビ目	ヌマエビ科	ミナミヌマエビ						34	34
9			サワガニ科	サワガニ	1	4	1	3		1	10
10	昆虫綱	カゲロウ目（蜉蝣目）	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ				1		1	2
11			マダラカゲロウ科	ヨシノマダラカゲロウ					1	1	2
12				アカマダラカゲロウ			6	1	4	7	18
13			コカゲロウ科	シロハラコカゲロウ			11	2	14	11	38
14			ヒラタカゲロウ科	エルモンヒラタカゲロウ					1		1
15		トンボ目（蜻蛉目）	カワトンボ科	ニホンカワトンボ						1	1
16			ヤンマ科	コシボソヤンマ		1				7	8
17			サナエトンボ科	ヤマサナエ		1				6	7
18				ダビドサナエ属						7	7
19				オナガサナエ					3	7	10
20				コオニヤンマ						2	2
21			エゾトンボ科	コヤマトンボ						3	3
22		カワゲラ目（セキ翅目）	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属			4				4
23			ミドリカワゲラ科	セスジミドリカワゲラ属	3		7				10
24			カワゲラ科	カミムラカワゲラ	1		8	6		2	17
25				フタツメカワゲラ属		1	1	2		22	26
26		ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ	1	3	1			3	8
27		トビケラ目（毛翅目）	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	2		17	4	9	1	33
28				ウルマーシマトビケラ	1	1	6		24	9	41
29			クダトビケラ科	キタクダトビケラ属					2		2
30			ナガレトビケラ科	タシタナガレトビケラ					1		1
31				ムナグロナガレトビケラ					3	1	4
32			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ					2		2
33			カクツツトビケラ科	オオカクツツトビケラ				1			1
34				コカクツツトビケラ			2			1	3
35		ハエ目（双翅目）	オビヒメガガンボ科	ホソオビヒメガガンボ属	1		1				2
36			ヒメガガンボ科	ウスバガガンボ属	1				4		5
37				ヒゲナガガガンボ属	1	1					2
38			ガガンボ科	ガガンボ属			1	2			3
39			ヌカカ科	ヌカカ科	4						4
40			ユスリカ科	ハダカユスリカ属					1		1
41				セスジユスリカ						2	2
42				ツヤユスリカ属					18		18
43				カマガタユスリカ属						1	1
44				エリユスリカ属	1						1
45				ヌカユスリカ属			2				2
46				ハヤセヒメユスリカ属	1						1
47			カ科	カ科	1						1
48			ブユ科	アシマダラブユ					1		1
49		コウチュウ目（鞘翅目）	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ科			1				1
種数					14	9	16	9	16	28	49
個体数					21	14	70	22	103	146	376
湿重量(g)					0.901	－	1.22	－	1.001	－	

※定量採集の個体数・湿重量は、25cm×25cm×3回採集の実数。定性採集は調査範囲内採集での実数。

写　真　集



撮影日
2021年1月17日（日）

測定期間
2021年1月17日（日）
～1月23日（土）

項目
窒素酸化物
・浮遊粒子状物質

地点
Ｎｏ．１



撮影日
2021年1月15日（金）

測定期間
2021年1月17日（日）
～1月23日（土）

項目
窒素酸化物
・浮遊粒子状物質

地点
Ｎｏ．１

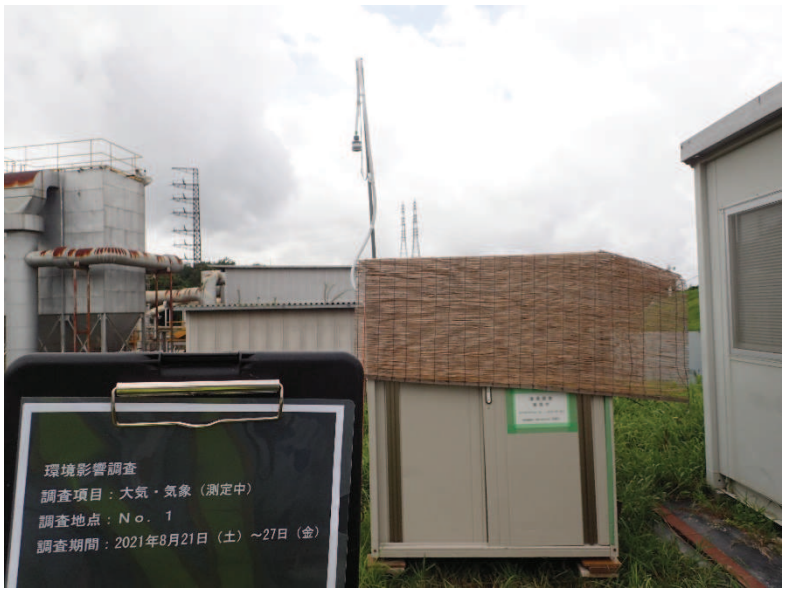


撮影日
2021年1月22日（金）

測定期間
2021年1月17日（日）
～1月23日（土）

項目
地上気象

地点
Ｎｏ．１



撮影日
2021年8月22日（日）

測定期間
2021年8月21日（土）
～8月27日（金）

項目
窒素酸化物
・浮遊粒子状物質

地点
Ｎｏ．１



撮影日
2021年8月22日（日）

測定期間
2021年8月21日（土）
～8月27日（金）

項目
地上気象

地点
Ｎｏ．１



撮影日
2021年1月29日（金）

測定期間
2021年1月16日（土）
～2月15日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．１　敷地境界



撮影日
2021年1月29日（金）

測定期間
2021年1月16日（土）
～2月15日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．２　民家



撮影日
2021年1月16日（土）

測定期間
2021年1月16日（土）
～2月15日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．３　類似施設



撮影日
2021年1月29日（金）

測定期間
2021年1月16日（土）
～2月15日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．４　道路沿道



撮影日
2021年5月12日（水）

測定期間
2021年4月26日（月）
～5月26日（水）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ.１　敷地境界



撮影日
2021年5月12日（水）

測定期間
2021年4月26日（月）
～5月26日（水）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．２　民家



影日
2021年5月12日（水）

測定期間
2021年4月26日（月）
～5月26日（水）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ.３　類似施設



撮影日
2021年5月12日（水）

測定期間
2021年4月26日（月）
～5月26日（水）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．４　道路沿道



撮影日
2021年8月23日（月）

測定期間
2021年7月31日（土）
～8月30日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ.１　敷地境界



撮影日
2021年8月26日（木）

測定期間
2021年7月31日（土）
～8月30日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．２　民家



2021年8月26日（木）

測定期間
2021年7月31日（土）
～8月30日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．３　類似施設



2021年8月27日（金）

測定期間
2021年7月31日（土）
～8月30日（月）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．４　道路沿道



撮影日
2021年10月22日（金）

測定期間
2021年10月5日（火）
～11月4日（木）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ.１　敷地境界



撮影日
2021年10月22日（金）

測定期間
2021年10月5日（火）
～11月4日（木）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．２　民家



撮影日
2021年10月22日（金）

測定期間
2021年10月5日（火）
～11月4日（木）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．３　類似施設



撮影日
2021年10月22日（金）

測定期間
2021年10月5日（火）
～11月4日（木）

項目
降下ばいじん

地点
Ｎｏ．４　道路沿道

	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１

	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ.2
	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ.2
	採水日 2021年8月31日（火） 項目 河川水 地点 Ｎｏ.2

	採水日 2021年10月6日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年10月6日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年10月6日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１



採水日
2021年10月6日（水）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.2



採水日
2021年10月6日（水）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.2



採水日
2021年10月6日（水）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.2

	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１

	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 No.2
	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 No.2
	採水日 2021年12月16日（木） 項目 河川水 地点 No.2

	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 Ｎｏ．１

	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 No.2
	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 No.2
	採水日 2022年4月20日（水） 項目 河川水 地点 No.2

	採水日 2021年6月4日（金） 項目 河川水（降雨時） 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年6月4日（金） 項目 河川水（降雨時） 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年6月4日（金） 項目 河川水（降雨時） 地点 Ｎｏ．１



採水日
2021年6月4日（金）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.２（降雨時）



採水日
2021年6月4日（金）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.２（降雨時）



採水日
2021年6月4日（金）

項目
河川水

地点
Ｎｏ.２（降雨時）

	採取日 2021年8月23日（月） 項目 土壌採取
	採取日 2021年8月23日（月） 項目 土壌採取
	採水日 2021年1月16日（土） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．１



採水日
2021年1月16日（土）

項目
地下水

地点
Ｎｏ．１



採水日
2021年1月16日（土）

項目
地下水

地点
Ｎｏ．１



採水日
2021年1月16日（土）

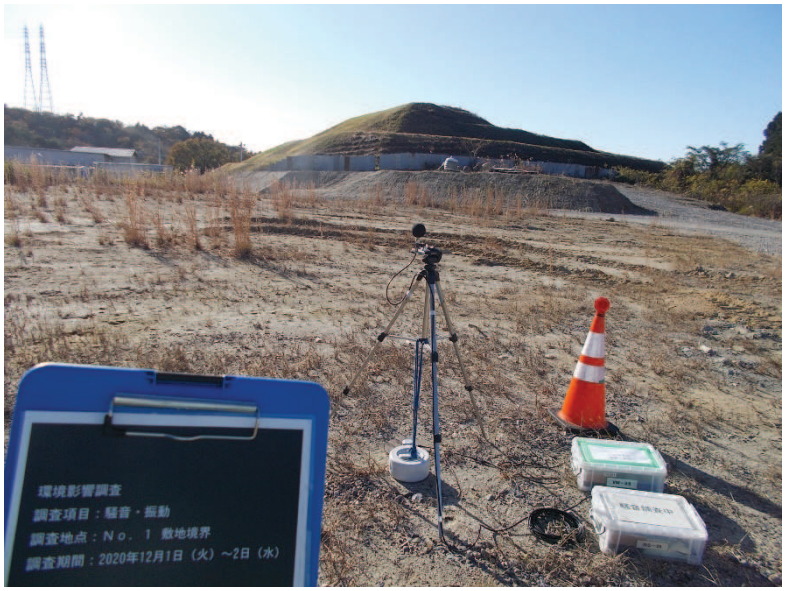
項目
地下水

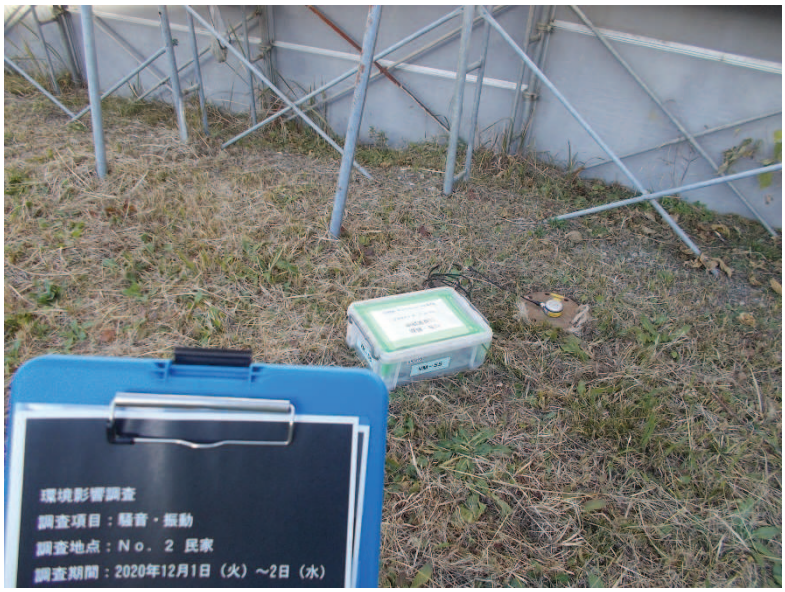
地点
Ｎｏ．２

	採水日 2021年1月16日（土） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．２
	採水日 2021年1月16日（土） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．２
	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．１

	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．１
	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．２

	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．２
	採水日 2021年8月20日（金） 項目 地下水 地点 Ｎｏ．２

	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 騒音・振動（環境） 地点 Ｎｏ．１　敷地境界
	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 騒音・振動（環境） 地点 Ｎｏ．１　敷地境界

	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 振動（環境） 地点 Ｎｏ．２　民家（直近）
	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 騒音（環境） 地点 Ｎｏ．２　民家（壁上）

	撮影日 2021年1月20日（水） 測定期間 2021年1月20日（水） ～1月21日（木） 項目 騒音・振動（環境） 地点 Ｎｏ．３　類似施設
	撮影日 2021年1月20日（水） 測定期間 2021年1月20日（水） ～1月21日（木） 項目 騒音・振動（環境） 地点 Ｎｏ．３　類似施設

※この地点のみ測定日が異なる理由

調査をした結果、代表性を損ねる状況が確認されたため、再度、地点選定をしなおして、後日、再測定を実施。

環境の地点として選定したが、思いのほか道路の車両走行の影響を受けた結果となった。よって、道路の車両走行の影響を受けにくい代表性のある場所に変更し、再測定を行った。

	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 騒音・振動（道路） 地点 Ｎｏ．４
	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 交通量・走行速度 （道路） 地点 Ｎｏ．４

	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 騒音・振動（道路） 地点 Ｎｏ．５
	撮影日 2020年12月1日（火） 測定期間 2020年12月1日（火） ～12月2日（水） 項目 交通量・走行速度 （道路） 地点 Ｎｏ．５



採取日
2021年8月24日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ.１　敷地境界



採取日
2021年8月24日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ.２　敷地境界



採取日
2021年8月24日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ.３　類似施設



採取日
2021年9月21日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ．１　敷地境界



採取日
2021年9月21日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ．２　民家



採取日
2021年9月21日（火）

項目
悪臭

地点
Ｎｏ．３　類似施設



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
植物調査状況



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
一般種
シキミ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
一般種
クロモジ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
一般種
マキノスミレ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
一般種
コバノミツバツツジ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
一般種
オオカメノキ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
重要種
シデコブシ



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
植物

内容
重要種
シデコブシ生育地の状況



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
植物調査状況



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
一般種
ニワゼキショウ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
一般種
モウセンゴケ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
一般種
ミヤマヨメナ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
一般種
ツクバネウツギ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
一般種
タニウツギ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
重要種
シデコブシ



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
植物

内容
重要種
シデコブシ生育地の状況



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
植物調査状況



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
一般種
コシダ



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
一般種
ノギラン



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
一般種
ネジキ



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
一般種
クサギ



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
一般種
ノウゼンカズラ



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
重要種
イトモ



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
重要種
イトモ生育地の状況



撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
重要種
ヒメタヌキモ



撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
重要種
ヒメタヌキモ
生育地の状況
（改変区域内）



撮影日
2021年8月30日（月）

調査時期
夏季

項目
植物

内容
重要種
ヒメタヌキモ
生育地の状況
（事業実施区域外）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植物調査状況



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
一般種
キジノオシダ



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
一般種
マツカゼソウ



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
一般種
ナンバンギセル



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
一般種
ホザキノミミカキグサ



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
一般種
サワギキョウ



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
サクラバハンノキ



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
サクラバハンノキ
生育地の状況



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
シデコブシ



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
ヘビノボラズ

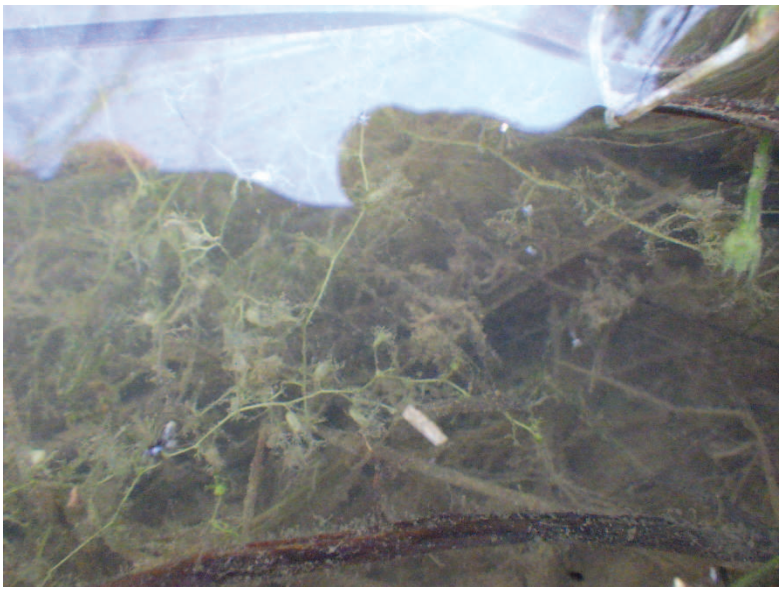


撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
ヘビノボラズ
生育地の状況



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
ヒメタヌキモ



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
重要種
ヒメタヌキモ
生育地の状況
（改変区域内）



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.1コナラ群落（1）



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.1コナラ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.2ヒノキ植林（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.2ヒノキ植林（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.3ソヨゴ群落（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.3ソヨゴ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.4コナラ群落（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.4コナラ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.5
ハリエンジュ群落（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.5
ハリエンジュ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.6ススキ群落（1）

	撮影日 2021年10月19日（火） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.6ススキ群落（2）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.7伐採跡地群落（1）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.7伐採跡地群落（2）

	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.8コナラ群落（1）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.8コナラ群落（2）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.9伐採跡地群落（1）



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.9伐採跡地群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.10ヒノキ植林（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.10ヒノキ植林（2）

	撮影日 2021年10月19日（火） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.11 路傍・空地雑草群落（1）
	撮影日 2021年10月19日（火） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.11 路傍・空地雑草群落（2）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.12スギ植林（1）



撮影日
2021年10月20日（水）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.12スギ植林（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.13ヒノキ植林（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.13ヒノキ植林（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.14コナラ群落（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.14コナラ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.15コナラ群落（1）

	撮影日 2021年10月19日（火） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.15コナラ群落（2）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.16アカマツ群落（1）
	撮影日 2021年10月20日（水） 調査時期 秋季 項目 植物 内容 植生調査地点 No.16アカマツ群落（2）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.17
路傍・空地雑草群落（1）



撮影日
2021年10月19日（火）

調査時期
秋季

項目
植物

内容
植生調査地点
No.17
路傍・空地雑草群落（2）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年1月22日（金）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況

	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.1
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.1
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.1



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.3



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.3



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.3



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.4



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.4



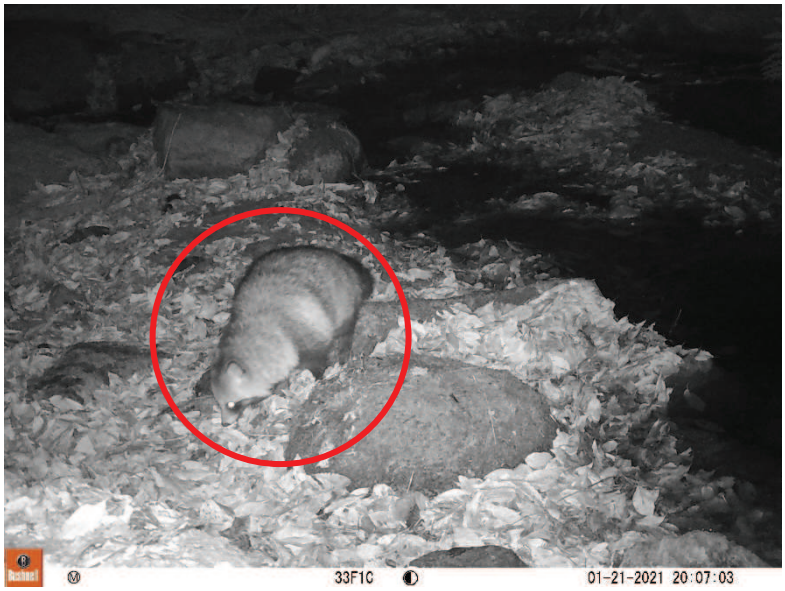
撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.4



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
タヌキ

地点
St.1、St.4
（自動撮影カメラ）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンイノシシ

地点
St.2、St.4
（自動撮影カメラ）



撮影日
2021年1月22日（金）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンイノシシ（泥痕）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンジカ

地点
St.1（自動撮影カメラ）



撮影日
2021年1月22日（金）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンジカ（糞）

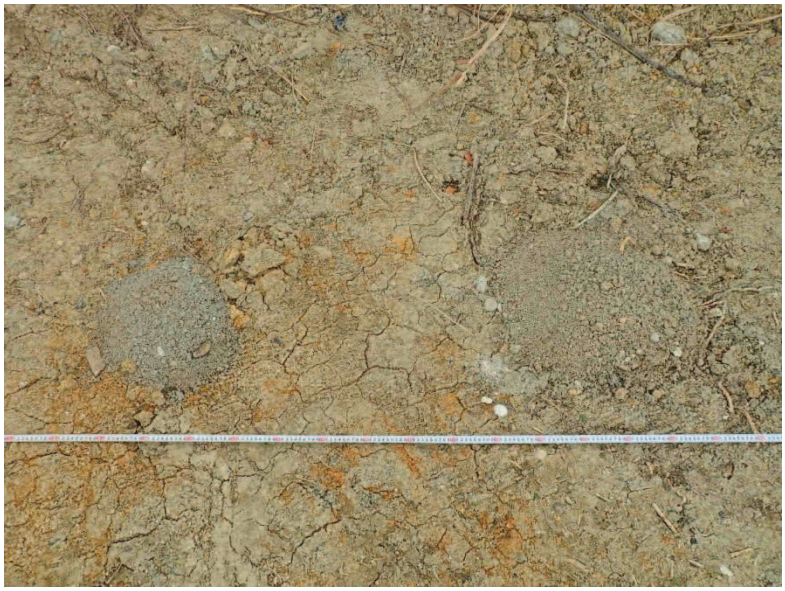


撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
一般種
ウシ目（足跡）



撮影日
2021年1月22日（金）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
重要種
モグラ属の一種（塚、アズマモグラの可能性）



撮影日
2021年1月22日（金）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
重要種
モグラ属の一種（塚の下に見られた坑道、アズマモグラの可能性



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
重要種
ノウサギ（糞）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
重要種
カモシカ（角）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
哺乳類

内容
重要種
カモシカ（糞）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況

	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 任意調査状況（夜間）
	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 任意調査状況（夜間）
	撮影日 2021年5月11日（火） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 任意調査状況

	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 トラップ・ 自動撮影カメラ調査 地点 St.1
	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 トラップ調査状況 地点 St.1
	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 哺乳類 内容 トラップ調査状況 地点 St.1



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.3



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.4



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
アカネズミ

地点
St.3、St.4
（トラップ調査）



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
ヒメネズミ

地点
St.4
（トラップ調査）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
アライグマ（足跡）



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
タヌキ

地点
St.1、St.4
（自動撮影カメラ）



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンイノシシ(2個体)

地点
St.4（自動撮影カメラ）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンジカ（糞）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
一般種
ウシ目（足跡）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
重要種
カモシカ（糞）



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.1



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.1



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.1



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.2

	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.2
	撮影日 2021年7月24日（土） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.3
	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.3

	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.3
	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.4
	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 自動撮影カメラ調査 地点 St.4



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査

地点
St.4

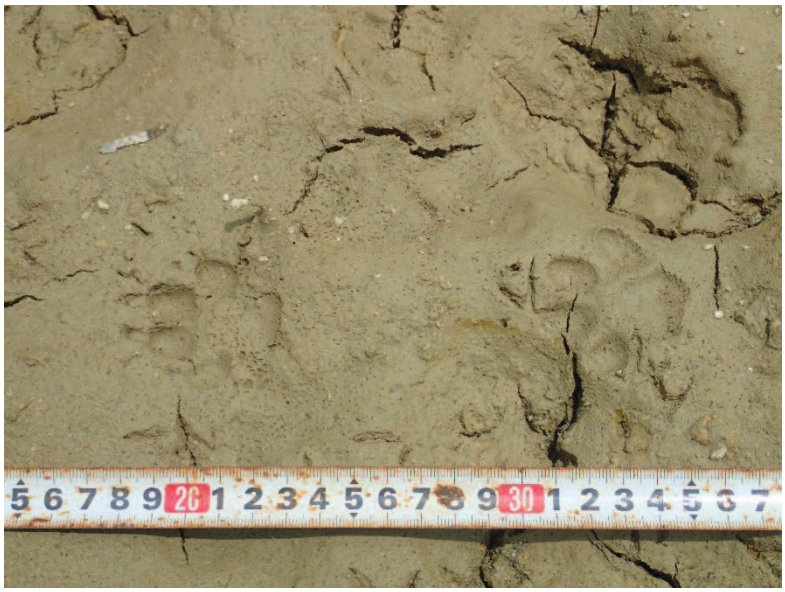


撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
一般種
アライグマ（足跡）



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
一般種
タヌキ（足跡）



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
重要種
ハクビシン

地点
St.（4自動撮影カメラ）



撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンジカ（糞）



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
哺乳類

内容
一般種
ウシ目（足跡）

	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 重要種 ノウサギ（糞）
	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 哺乳類 内容 重要種 カヤネズミ（巣）
	撮影日 2021年10月26日（火） 調査時期 秋季 項目 哺乳類 内容 任意調査状況



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.1



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.2



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St. 2



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St. 2



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St. 2



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
春季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.3



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ・
自動撮影カメラ調査

地点
St.4



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.4



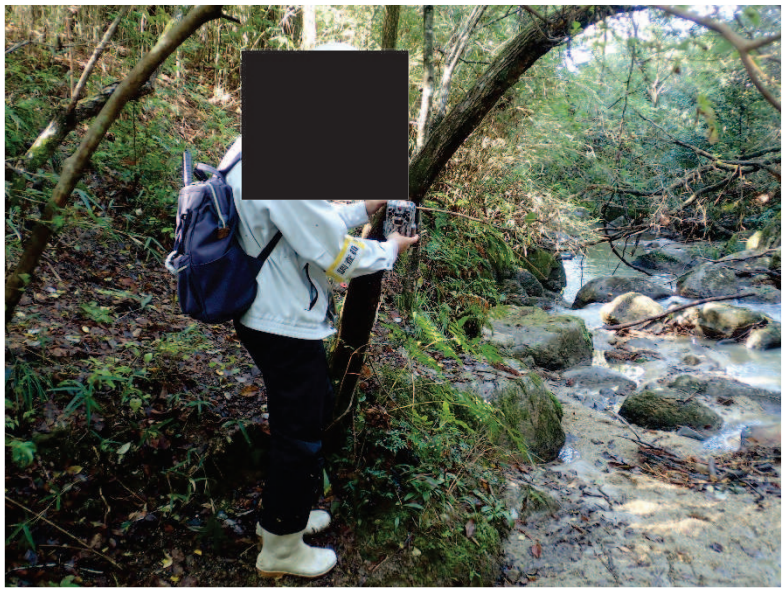
撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
トラップ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
自動撮影カメラ調査状況

地点
St.4



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
ヒミズ（死体）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
アカネズミ

地点
St.2、St.3
（トラップ調査）

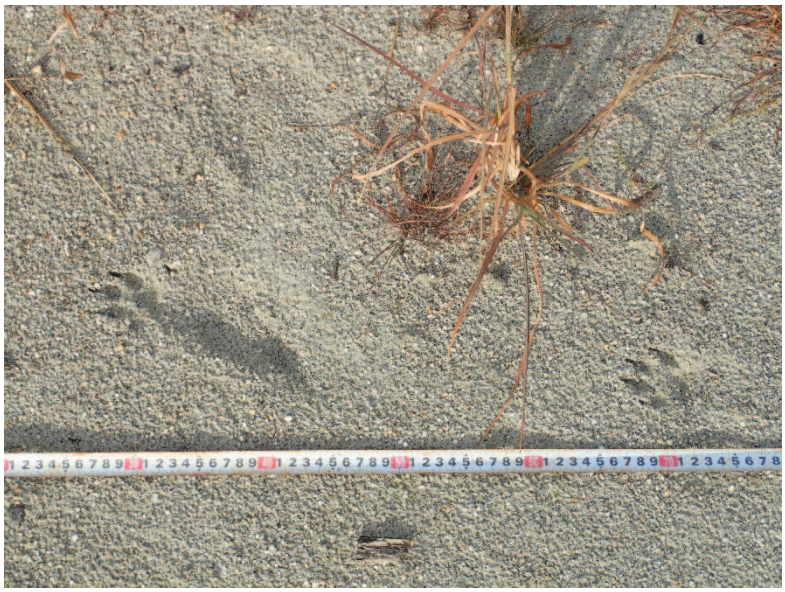


撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
タヌキ（足跡）

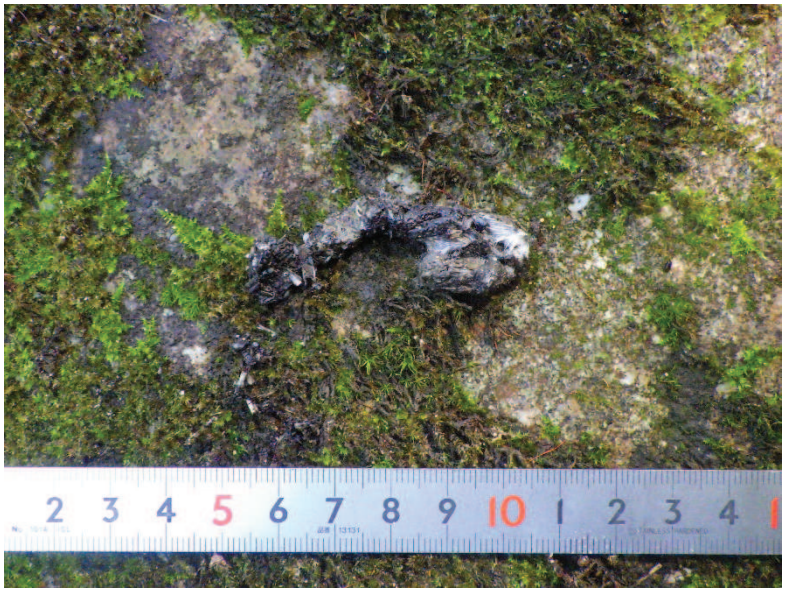


撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
キツネ（足跡）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
イタチ（糞）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
ニホンイノシシ（泥痕）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
一般種
ウシ目（足跡）



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
重要種
モグラ属の一種（塚、
アズマモグラの可能性）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
重要種
ノウサギ（糞）



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
重要種
ニホンリス（食痕）



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
重要種
カヤネズミ（巣）



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
哺乳類

内容
重要種
カモシカ（糞）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況

	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 任意調査状況（夜間）
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン1
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン1（始点）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（終点）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



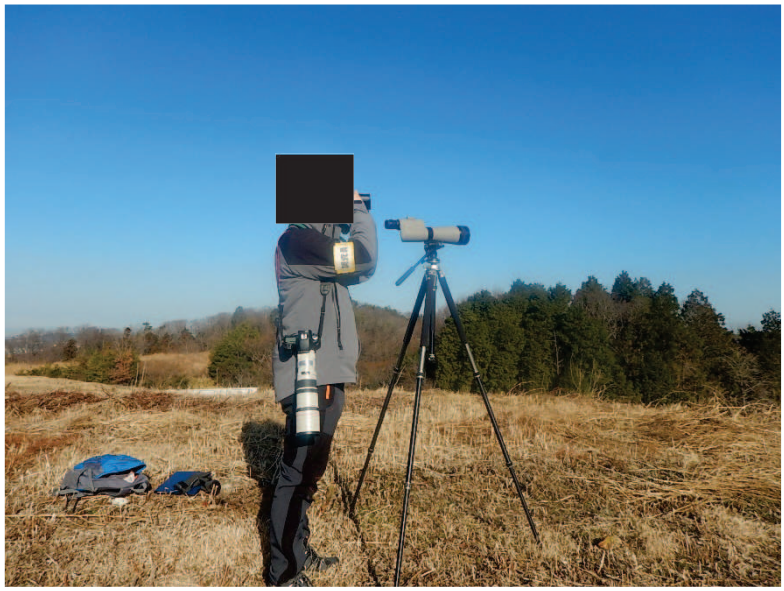
撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2（終点）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（北）

	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（東）
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（南）
	撮影日 2021年1月21日（木） 調査時期 冬季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（西）



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
アオバト



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
アカゲラ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
モズ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
シジュウカラ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ソウシチョウ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
メジロ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
カワラヒワ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ルリビタキ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ベニマシコ



撮影日
2021年1月21日（木）

調査時期
冬季

項目
一般鳥類

内容
一般種
カシラダカ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年4月19日（月）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（終点）

	撮影日 2021年4月20日（火） 調査時期 春季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン2
	撮影日 2021年4月20日（火） 調査時期 春季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン1（始点）
	撮影日 2021年4月20日（火） 調査時期 春季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン2（終点）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（北）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（東北東）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（南南西）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（西）



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
コチドリ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ハシブトガラス



撮影日
2021年4月19日（月）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ヤマガラ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
シジュウカラ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
エナガ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
キセキレイ



撮影日
2021年4月20日（火）

調査時期
春季

項目
一般鳥類

内容
一般種
カワラヒワ



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年6月21日（月）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1

	撮影日 2021年6月22日（火） 調査時期 繁殖季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン1（始点）
	撮影日 2021年6月22日（火） 調査時期 繁殖季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン1（終点）
	撮影日 2021年6月22日（火） 調査時期 繁殖季 項目 一般鳥類 内容 ラインセンサス調査 地点 ライン2



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2（終点）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（北）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（東）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（南）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（西）



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
一般種
アオサギ



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
一般種
コチドリ



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
一般種
エナガ



撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ソウシチョウ

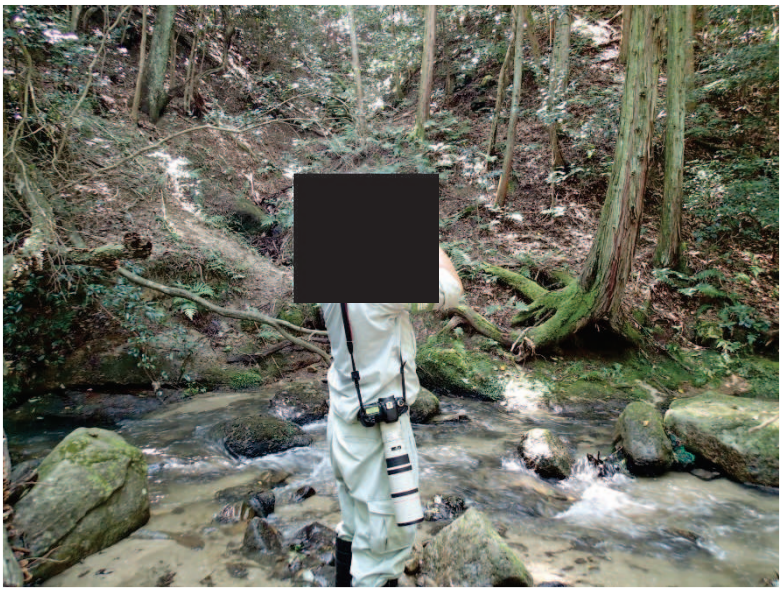


撮影日
2021年6月22日（火）

調査時期
繁殖季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ホオジロ



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（終点）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2（終点）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1

	撮影日 2021年8月27日（金） 調査時期 夏季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（北）
	撮影日 2021年8月27日（金） 調査時期 夏季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（東）
	撮影日 2021年8月27日（金） 調査時期 夏季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（南）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（西）



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ツバメ



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ヒヨドリ

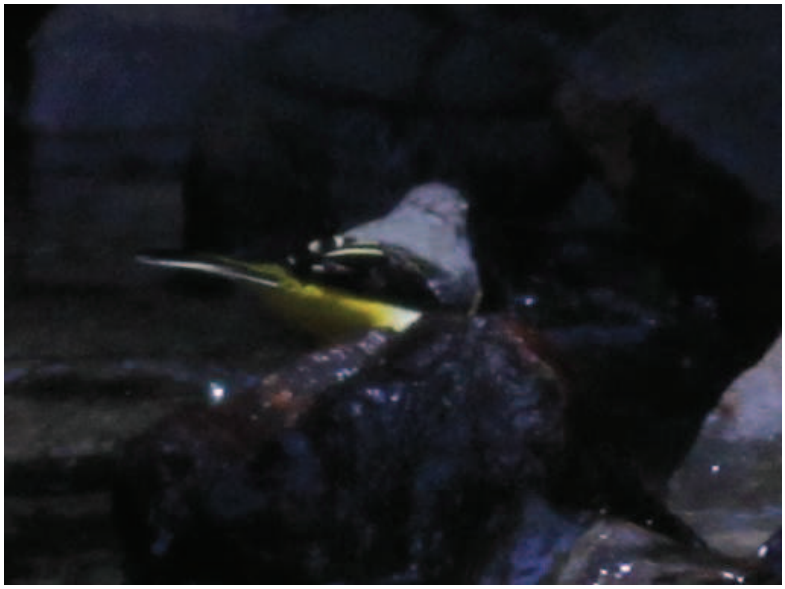


撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
一般種
メジロ



撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
一般種
キセキレイ

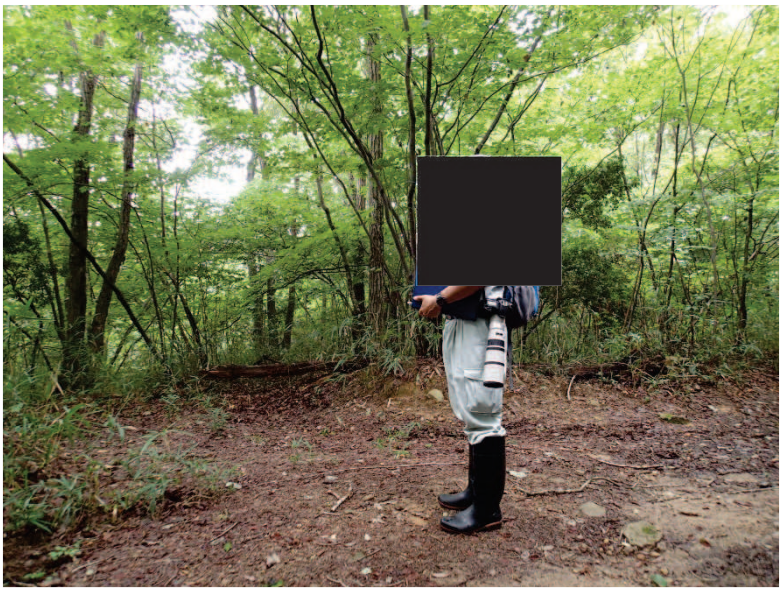


撮影日
2021年8月27日（金）

調査時期
夏季

項目
一般鳥類

内容
一般種
セグロセキレイ



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年9月21日（火）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
任意調査状況（夜間）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（終点）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン1（始点）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
ラインセンサス調査

地点
ライン2（終点）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1

	撮影日 2021年9月22日（水） 調査時期 秋季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（北）
	撮影日 2021年9月22日（水） 調査時期 秋季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（東）
	撮影日 2021年9月22日（水） 調査時期 秋季 項目 一般鳥類 内容 定点調査 地点 定点1（南）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
定点調査

地点
定点1（西）



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
一般種
キジバト



撮影日
2021年9月22日（水）

調査時期
秋季

項目
一般鳥類

内容
一般種
ハシブトガラス

	撮影日 2021年9月22日（水） 調査時期 秋季 項目 一般鳥類 内容 一般種 シジュウカラ
	撮影日 2021年9月22日（水） 調査時期 秋季 項目 一般鳥類 内容 一般種 メジロ
	撮影日 2021年4月1日（木） 調査時期 早春季 項目 両生類 内容 任意調査状況 （確認種無し）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
爬虫類及び両生類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
爬虫類及び両生類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月11日（火）

調査時期
春季

項目
爬虫類

内容
一般種
ヒガシニホントカゲ



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
爬虫類

内容
一般種
ニホンカナヘビ



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
両生類

内容
一般種
アカガエル科
（卵塊、発生なし）



撮影日
2021年5月10日（月）

調査時期
春季

項目
両生類

内容
一般種
シュレーゲルアオガエル
（卵塊）

	撮影日 2021年5月10日（月） 調査時期 春季 項目 両生類 内容 重要種 トノサマガエル属の一種 （トノサマガエルまたは ナゴヤダルマガエル）
	撮影日 2021年7月23日（金） 調査時期 夏季 項目 爬虫類及び両生類 内容 任意調査状況
	撮影日 2021年7月24日（土） 調査時期 夏季 項目 爬虫類及び両生類 内容 任意調査状況



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
爬虫類

内容
一般種
ニホンカナヘビ

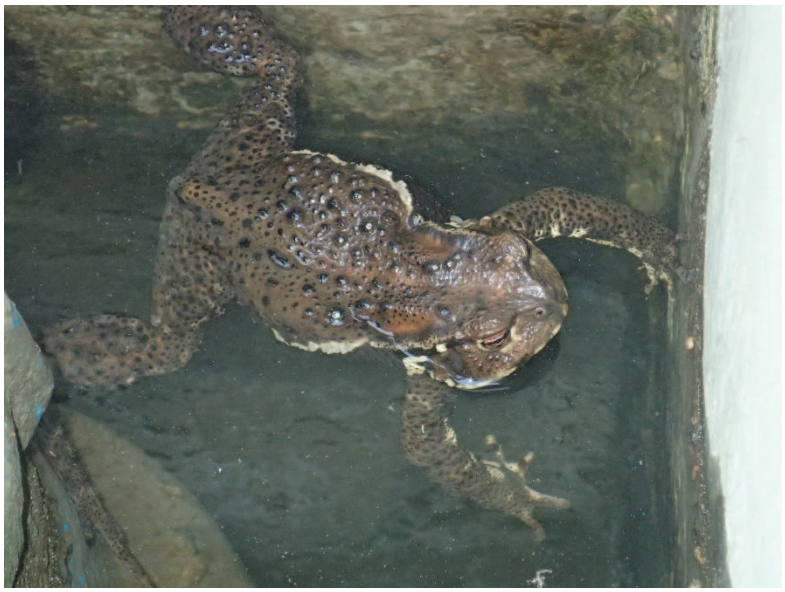


撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
爬虫類

内容
一般種
シマヘビ（脱皮殻）



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
一般種
アズマヒキガエル



撮影日
2021年7月24日（土）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
一般種
ヤマアカガエル



撮影日
2021年7月23日（金）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
重要種
トノサマガエル属の一種
（トノサマガエルまたは
ナゴヤダルマガエル）



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
爬虫類及び両生類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
秋季

項目
爬虫類及び両生類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
夏季

項目
爬虫類

内容
一般種
ニホンカナヘビ



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
一般種
アズマヒキガエル



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
一般種
ウシガエル



撮影日
2021年10月26日（火）

調査時期
夏季

項目
両生類

内容
一般種
ヌマガエル



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年4月2日（金）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年4月2日（金）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
一般種
ホソミオツネントンボ



撮影日
2021年4月2日（金）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
一般種
ニワハンミョウ



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
一般種
ナミハンミョウ



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
一般種
ヒメスギカミキリ



撮影日
2021年4月1日（木）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
重要種
ヒメタイコウチ



撮影日
2021年4月2日（金）

調査時期
早春季

項目
昆虫類

内容
重要種
オオゴキブリ（幼虫）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年5月6日（木）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
一般種
イタドリハムシ



撮影日
2021年5月7日（金）

調査時期
春季

項目
昆虫類

内容
一般種
セダカコガシラアブ



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



撮影日
2021年7月8日（木）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



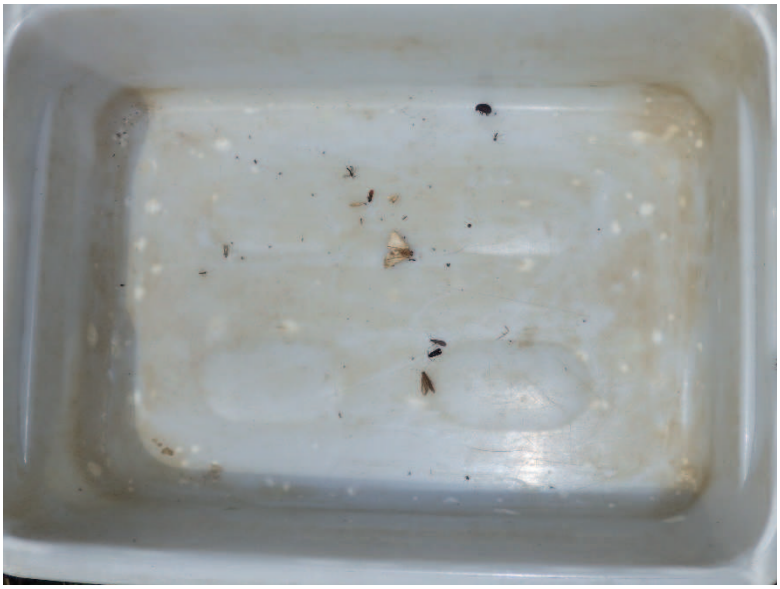
撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
一般種
キイトトンボ



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
一般種
ウラギンシジミ



撮影日
2021年7月9日（金）

調査時期
夏季

項目
昆虫類

内容
重要種
ヒメタイコウチ（幼虫）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
任意調査状況



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ・
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査状況



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査状況



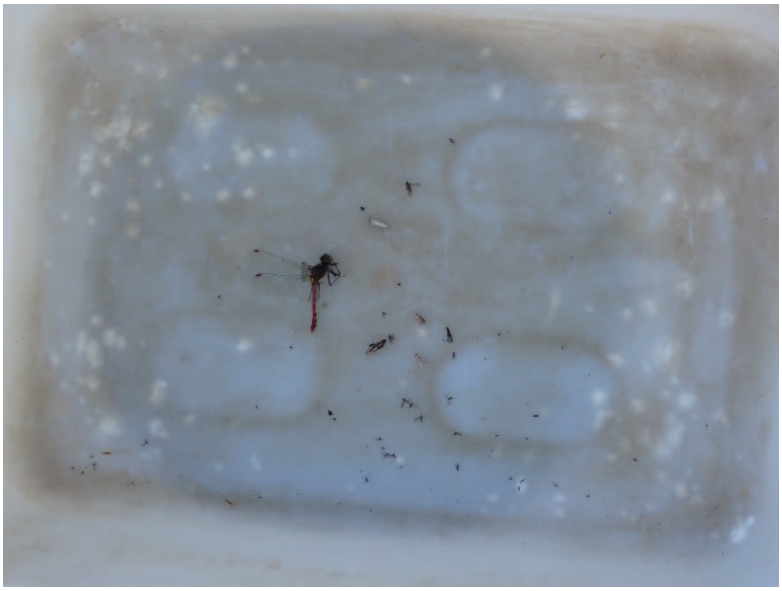
撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.1（樹林）



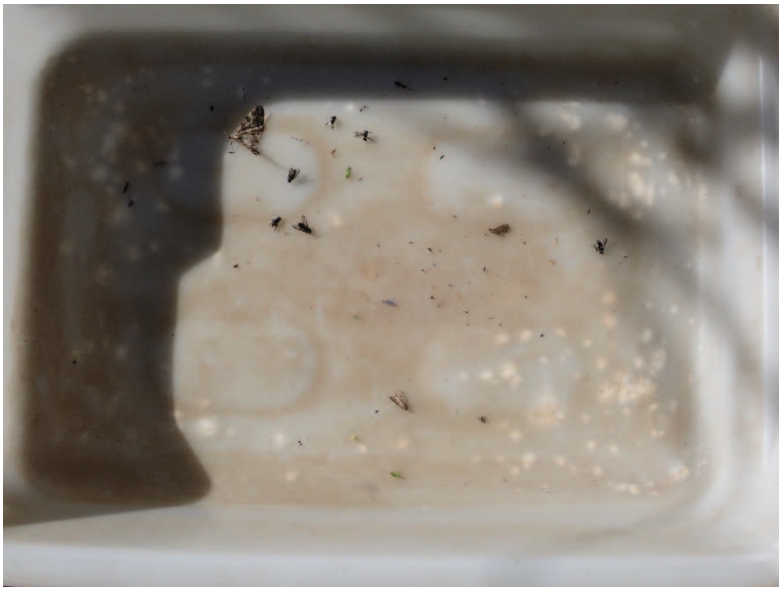
撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.2（草地）



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.2（草地）



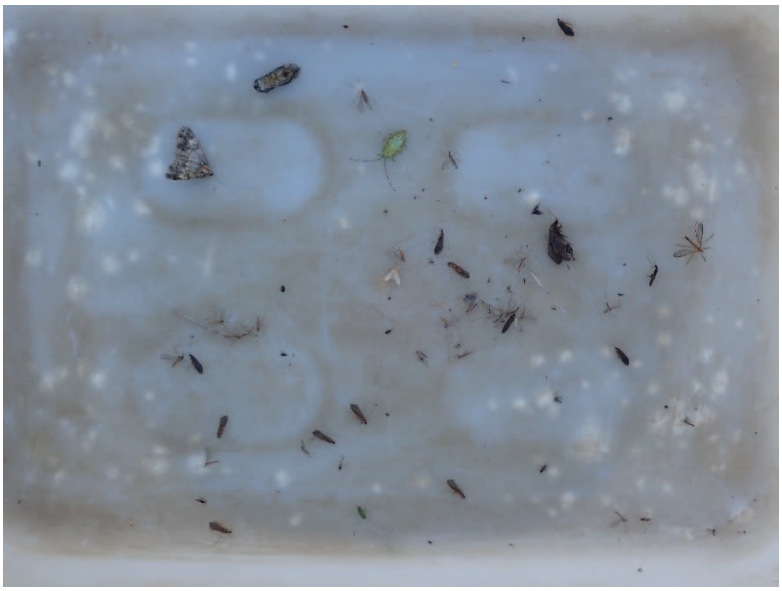
撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.3（湿地）



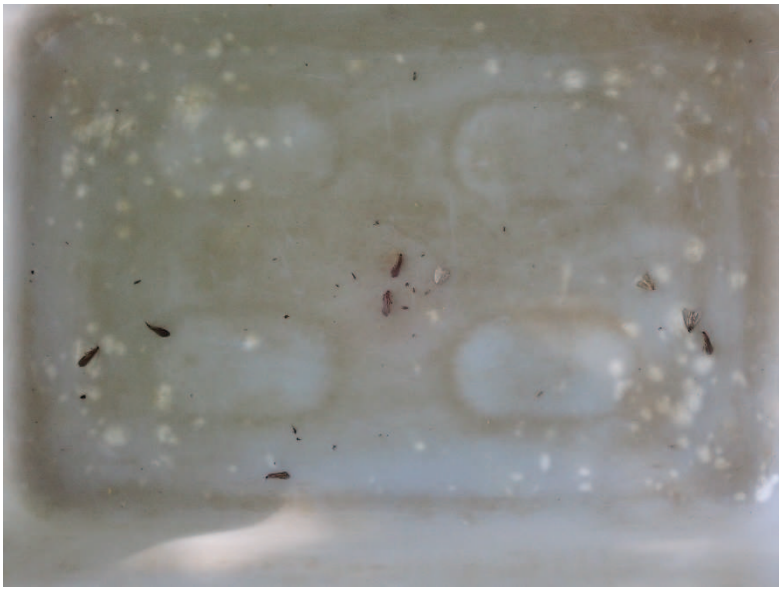
撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ベイトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年10月15日（金）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
ライトトラップ調査

地点
St.4（河川沿い）



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
一般種
マイコアカネ



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
一般種
コノシメトンボ



撮影日
2021年10月14日（木）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
一般種
オオカマキリ



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
一般種
ムネアカハラビロカマキリ



撮影日
2021年10月27日（水）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
一般種
クロコノマチョウ



撮影日
2021年10月16日（日）

調査時期
秋季

項目
昆虫類

内容
重要種
オオゴキブリ



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

地点
St.1



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

地点
St.2



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

地点
St.3



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



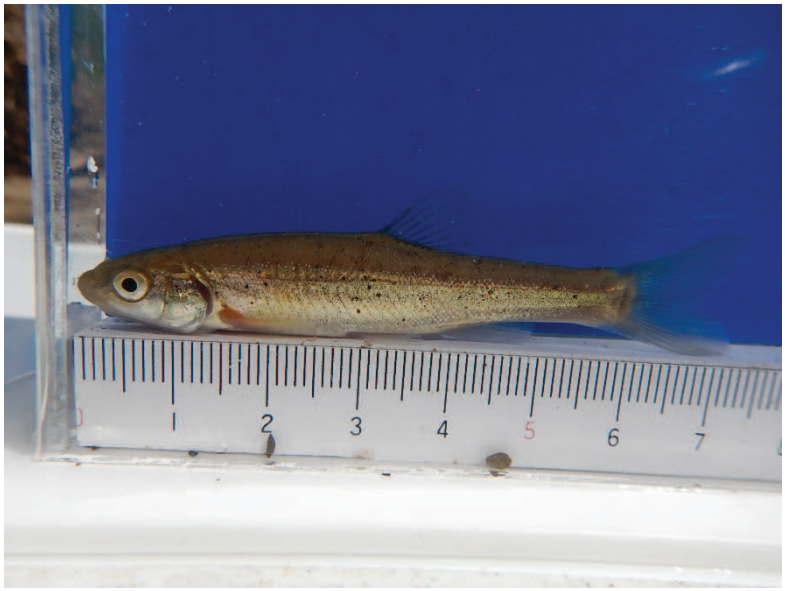
撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
一般種
カワムツ

地点
St.1、St.2、St.3



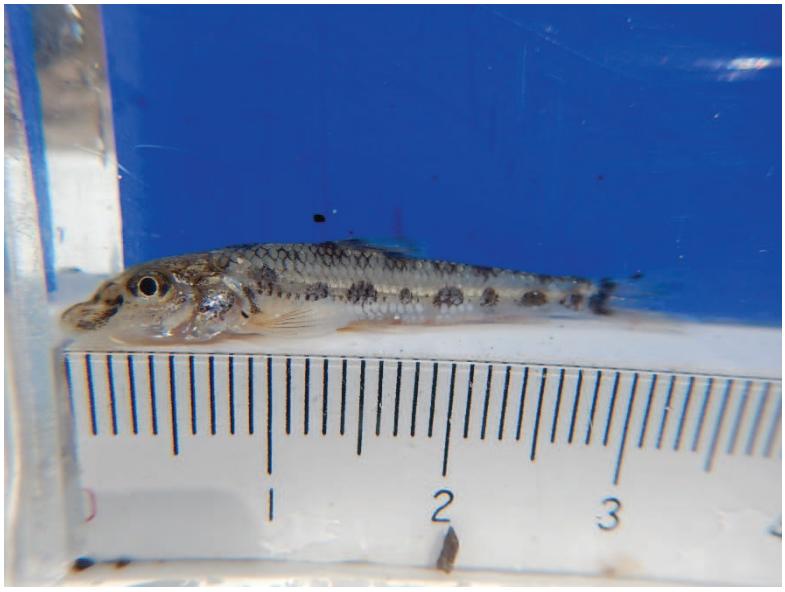
撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
一般種
アブラハヤ

地点
St.3



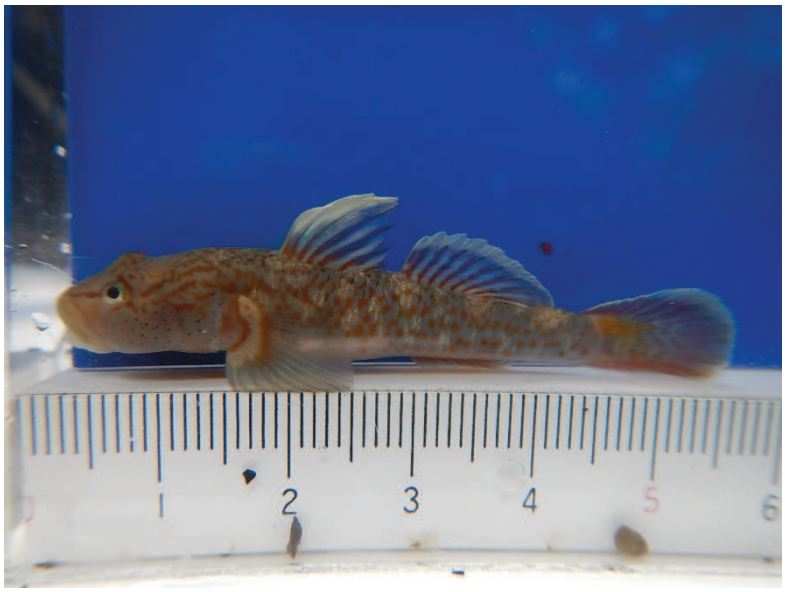
撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
一般種
ナガレカマツカ

地点
St.3



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
一般種
カワヨシノボリ

地点
St.1、St.2、St.3



撮影日
2021年5月31日（月）

調査時期
春季

項目
魚類

内容
重要種
ドジョウ

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

地点
St.1



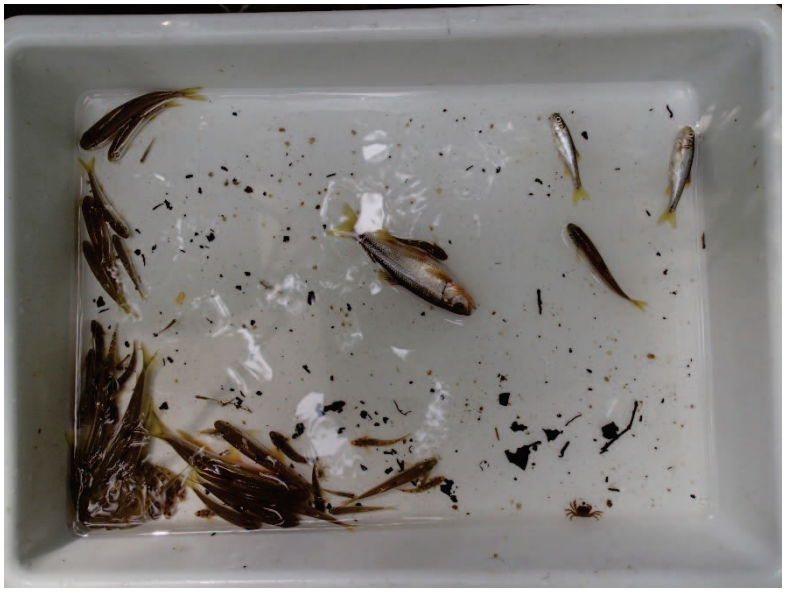
撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

地点
St.2



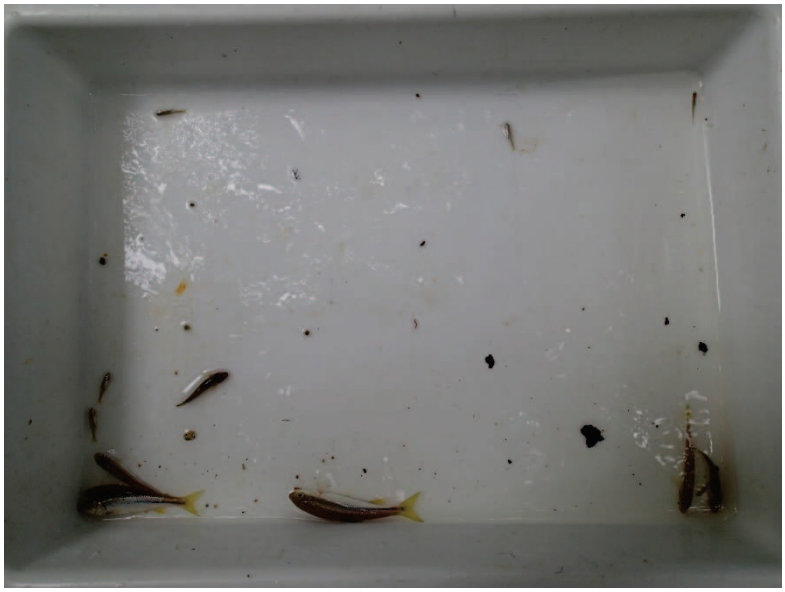
撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
一般種
カワムツ

地点
St.1、St.2、St.3



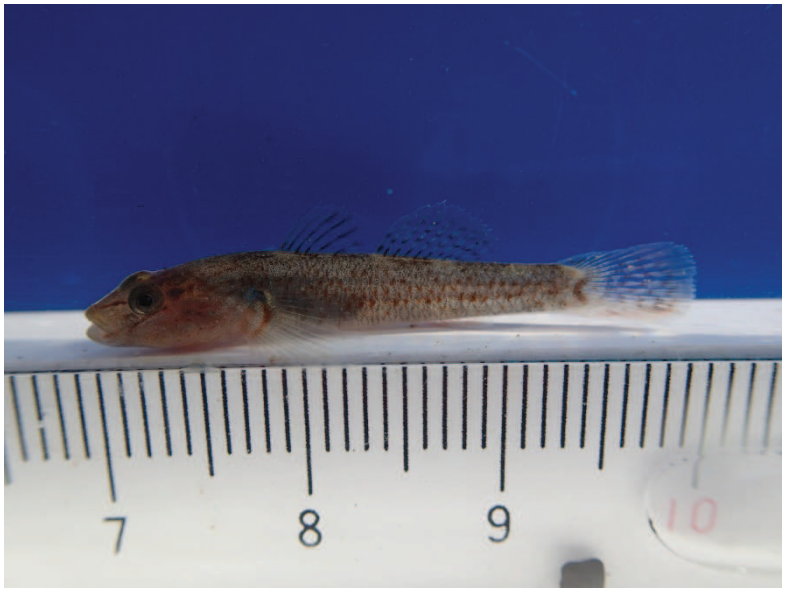
撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
一般種
アブラハヤ

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
一般種
カワヨシノボリ

地点
St.1、St.2、St.3



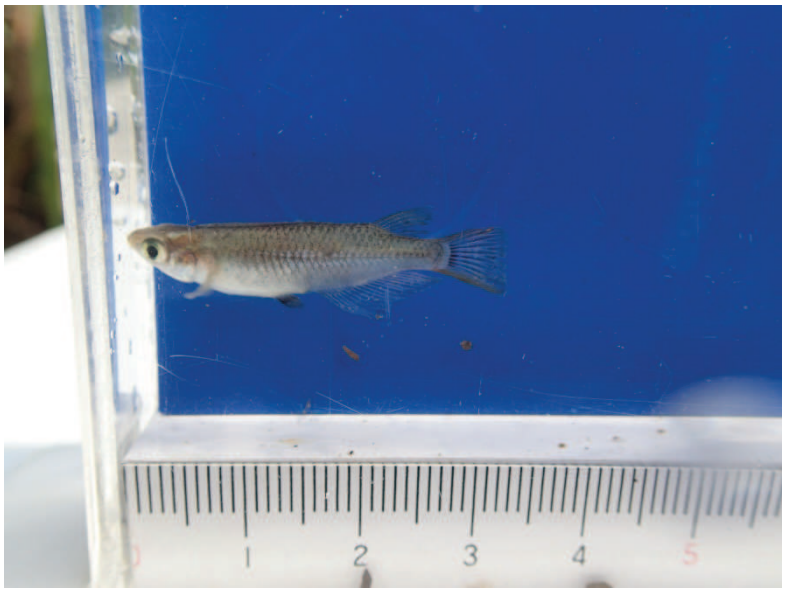
撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
重要種
ドジョウ

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（木）

調査時期
夏季

項目
魚類

内容
重要種
ミナミメダカ

地点
St.3



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

地点
St.1



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.1



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

地点
St.2



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.2



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

地点
St.3



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



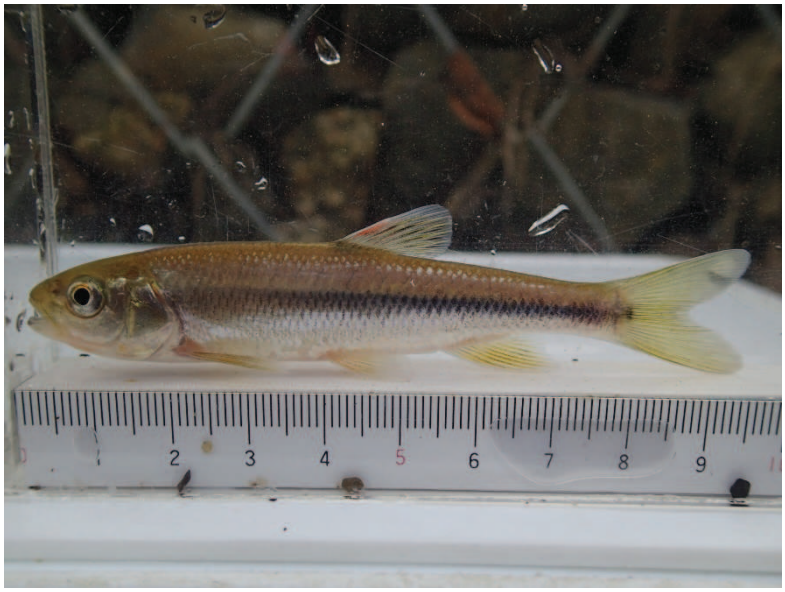
撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
任意調査状況

地点
St.3



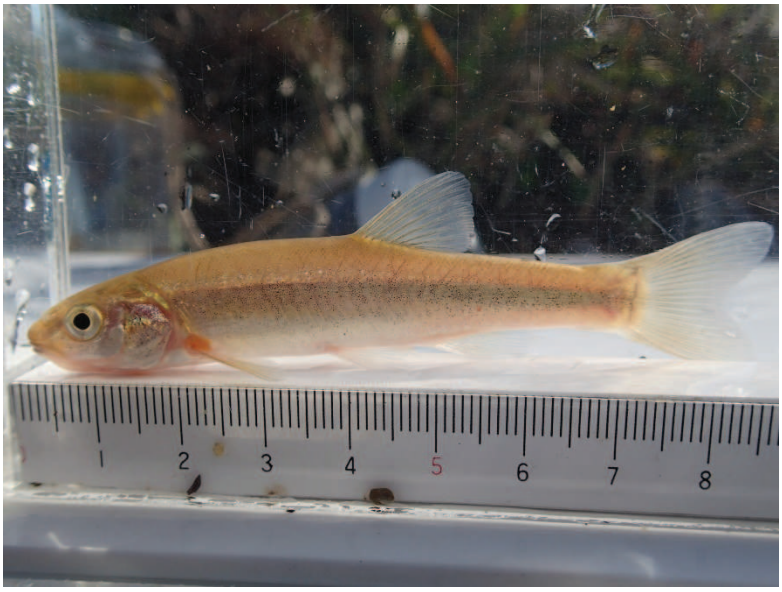
撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
一般種
カワムツ

地点
St.1、St.2、St.3



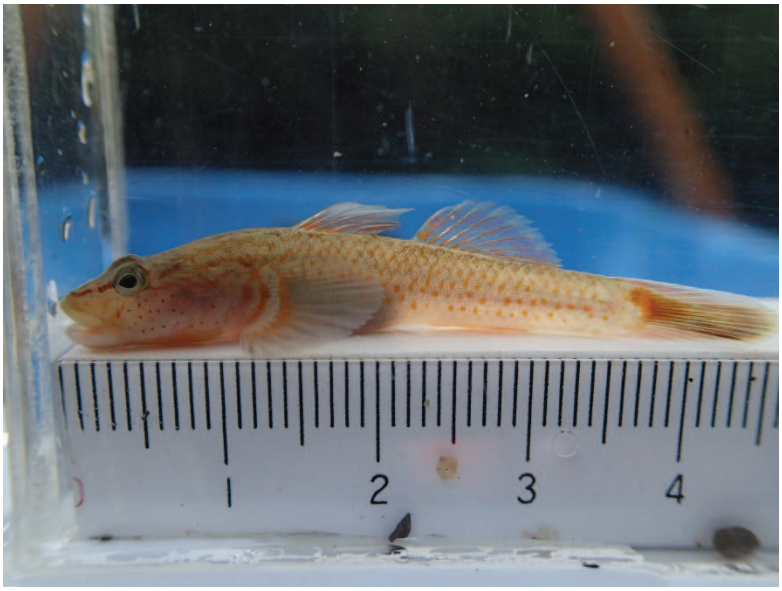
撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
一般種
アブラハヤ

地点
St.3



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
一般種
カワヨシノボリ

地点
St.1、St.2、St.3



撮影日
2021年11月2日（火）

調査時期
秋季

項目
魚類

内容
重要種
ドジョウ

地点
St.3



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

地点
St.1



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.1



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St. 1



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

地点
St. 2



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St. 2



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St. 2



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

地点
St. 3



撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St. 3



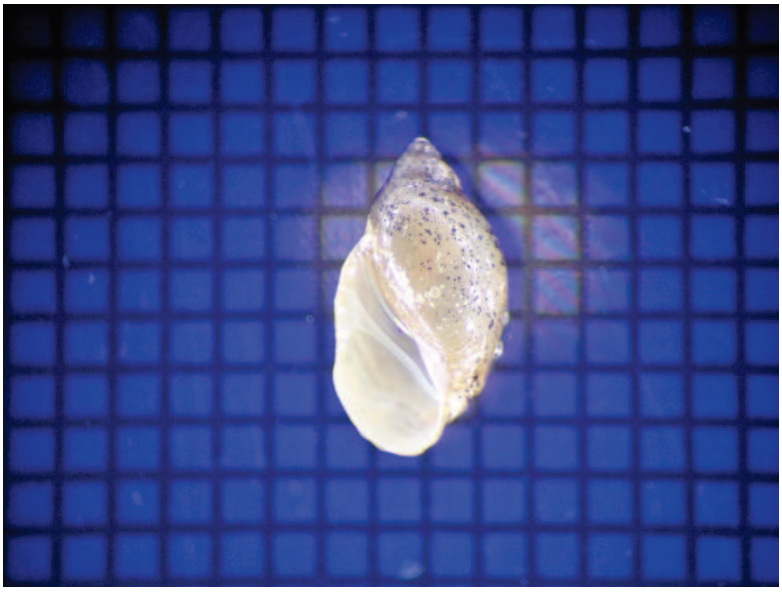
撮影日
2021年3月26日（金）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.3



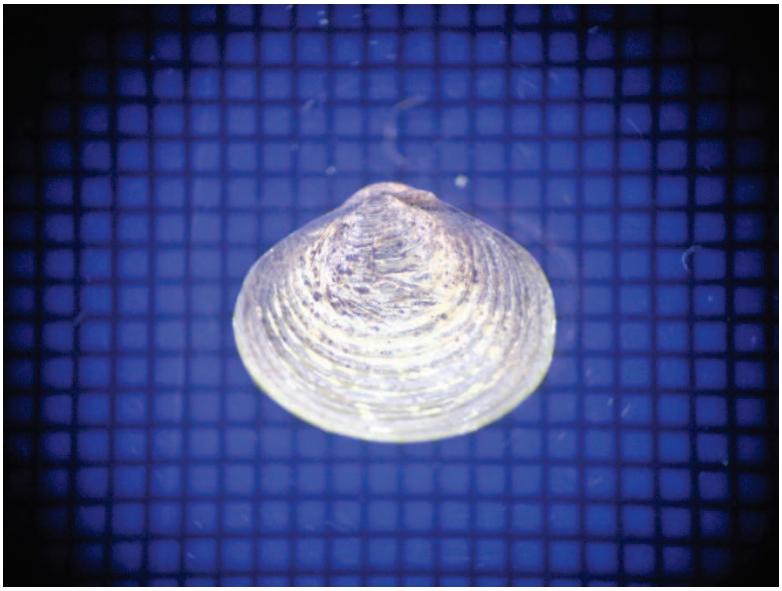
撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
一般種
サカマキガイ

地点
St.3



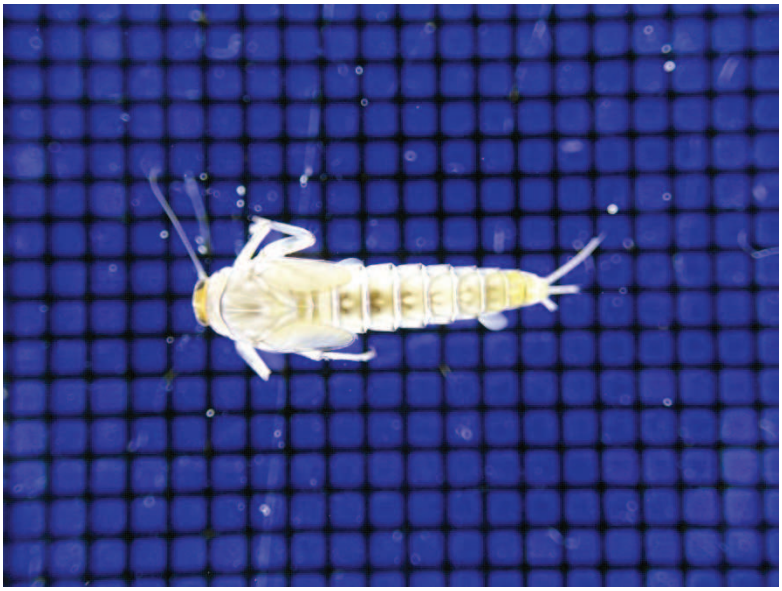
撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
一般種
タイワンシジミ

地点
St.3



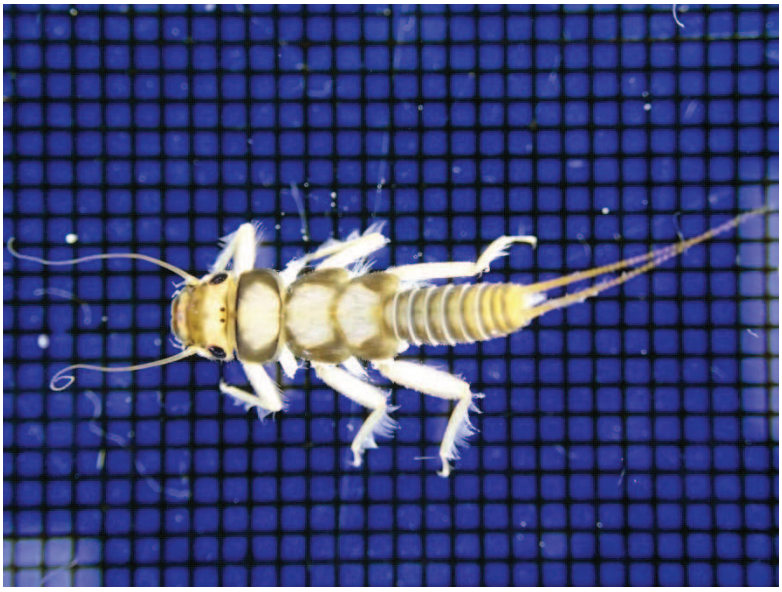
撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
一般種
シロハラコカゲロウ

地点
St.1、St.2、St.3



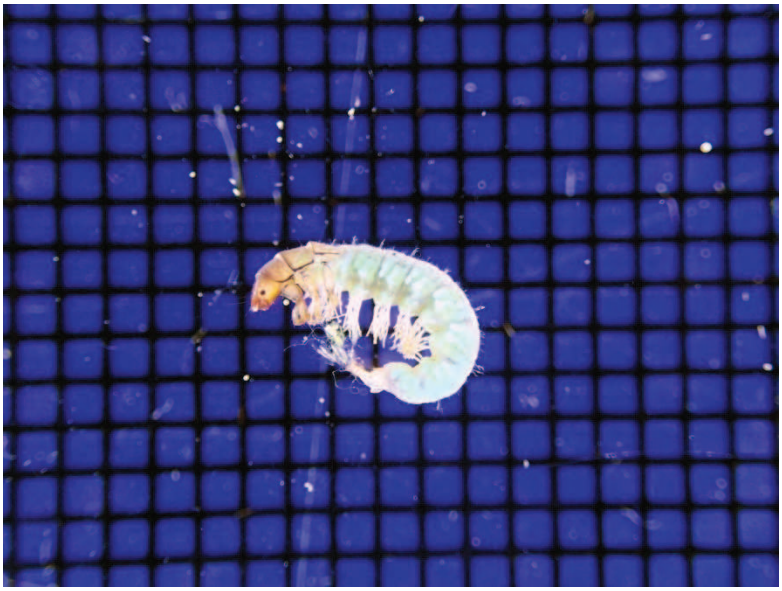
撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
一般種
フタツメカワゲラ属

地点
St.1、St.2、St.3



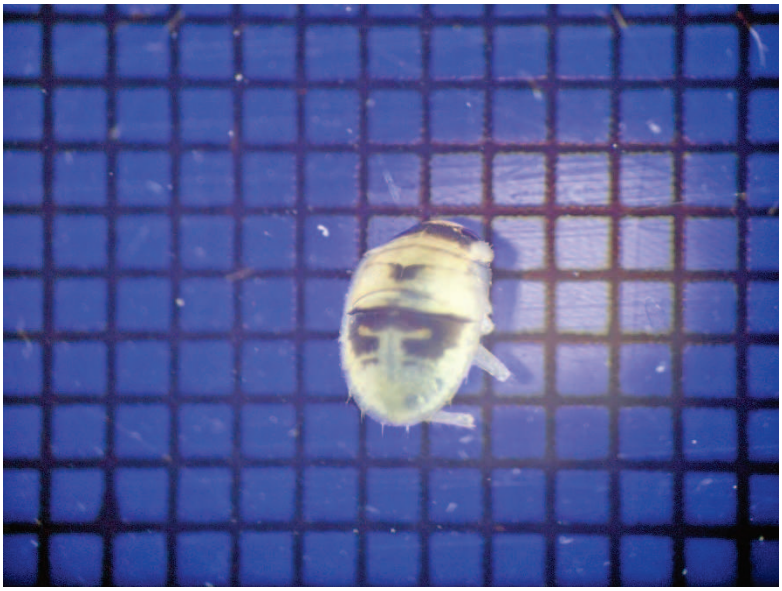
撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
一般種
コガタシマトビケラ

地点
St.1、St.2、St.3



撮影日
2021年4月6日（火）

調査時期
早春季

項目
底生動物

内容
重要種
ナベブタムシ

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

地点
St.1



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.1



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.1



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

地点
St.2



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.2



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St. 2



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

地点
St. 3



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St. 3



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.3



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

地点
湿地（補足調査地点）



撮影日
2021年8月26日（金）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
湿地（補足調査地点）



撮影日
2021年9月1日（水）

調査時期
夏季

項目
底生動物

内容
重要種
タベサナエ

地点
湿地（補足調査地点）



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

地点
St.1



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.1



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.1



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

地点
St.2



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.2



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.2



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

地点
St.3



撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定量調査）

地点
St.3



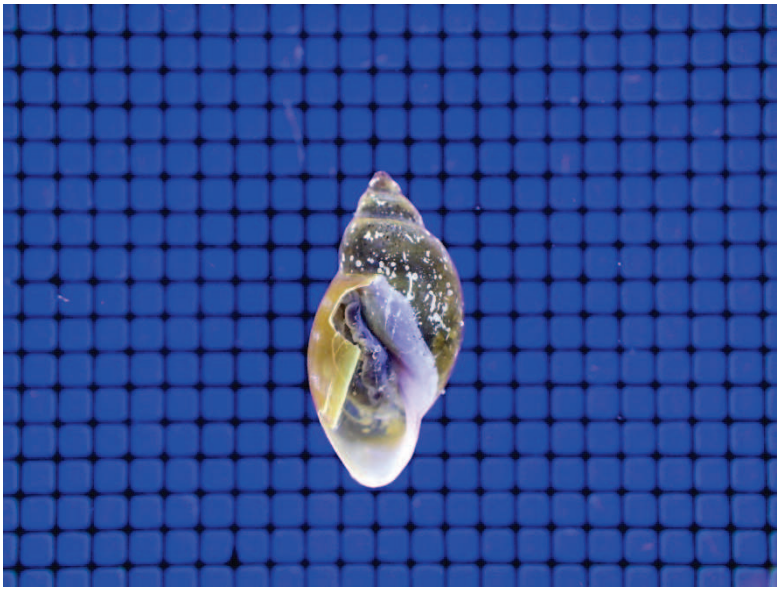
撮影日
2021年12月6日（月）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
調査状況（定性調査）

地点
St.3



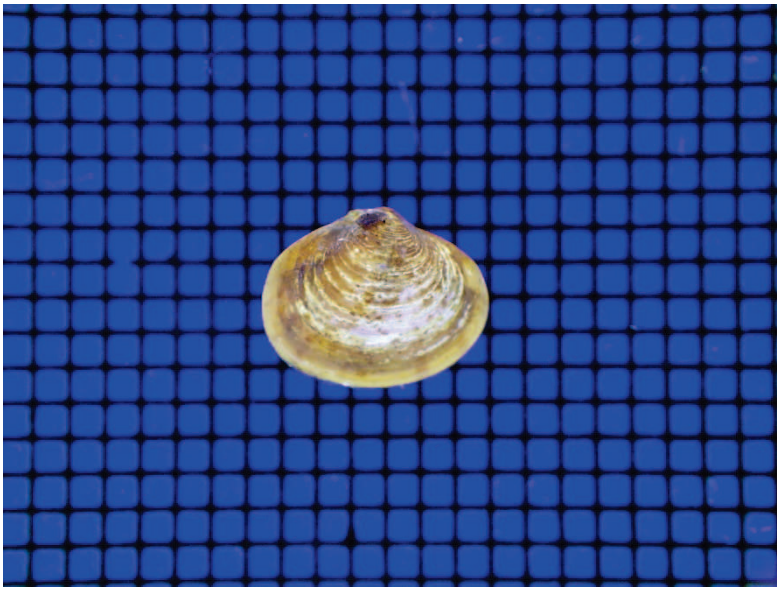
撮影日
2021年12月21日（火）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
一般種
サカマキガイ

地点
St.3



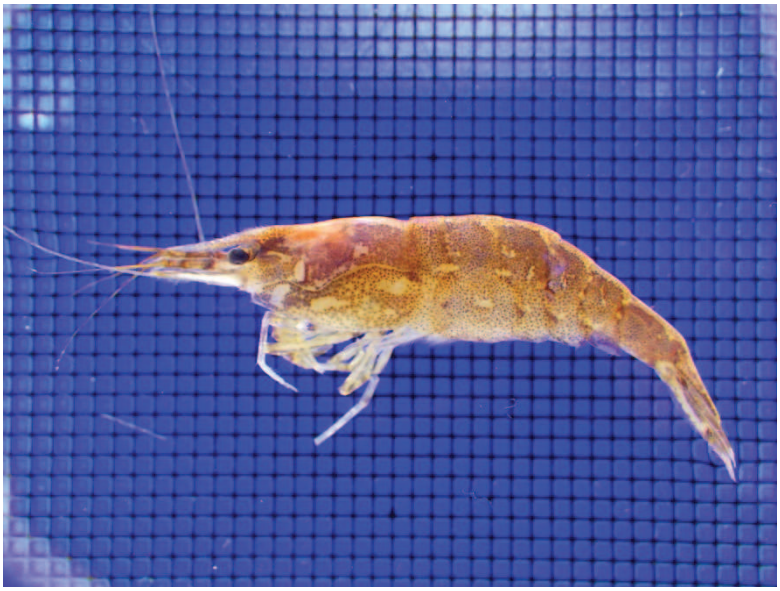
撮影日
2021年12月21日（火）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
一般種
タイワンシジミ

地点
St.3



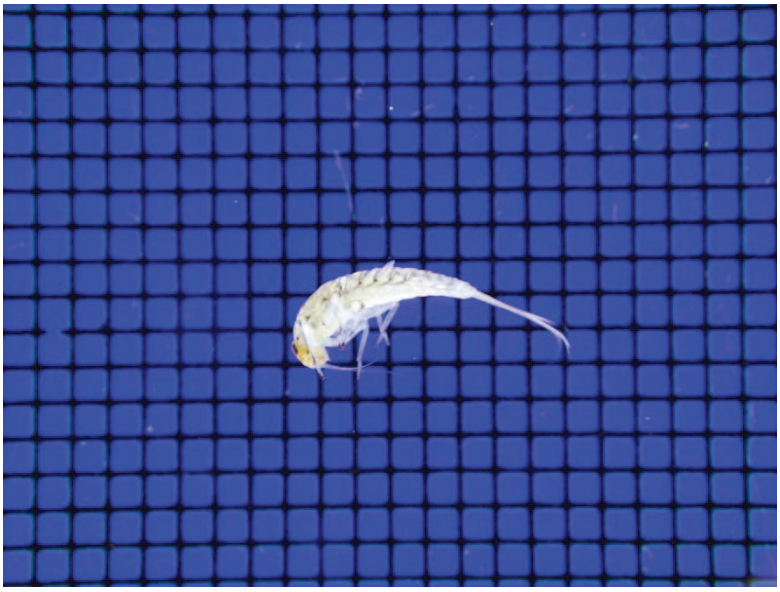
撮影日
2021年12月21日（火）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
一般種
ミナミヌマエビ

地点
St.3



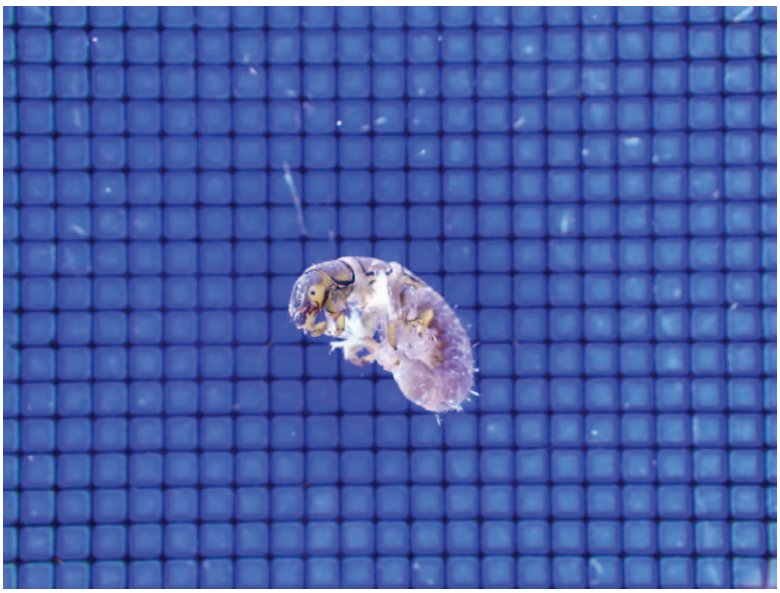
撮影日
2021年12月21日（火）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
一般種
シロハラコカゲロウ

地点
St.2、St.3



撮影日
2021年12月21日（火）

調査時期
冬季

項目
底生動物

内容
一般種
コガタシマトビケラ

地点
St.1、St.2、St.3